

令和3年度
自己点検・評価報告書



名古屋市立大学
医薬学総合研究院
大学院医学研究科・医学部

－令和3年度 自己点検・評価報告書－

目次

はじめに.....	1
第1章 分野・部門別研究活動実績	
統合解剖学.....	3
機能組織学.....	5
神経生化学.....	7
細胞生化学.....	11
細胞生理学.....	13
脳神経生理学.....	15
消化器外科学.....	17
呼吸器・小児外科学.....	29
腎・泌尿器科学.....	35
心臓血管外科学.....	52
乳腺外科学.....	55
小児泌尿器科学.....	59
視覚科学.....	64
耳鼻咽喉・頭頸部外科学.....	69
加齢・環境皮膚科学.....	79
口腔外科学.....	88
形成外科学.....	96
実験病態病理学.....	97
臨床病態病理学.....	101
薬理学分野.....	104
細菌学.....	107
免疫学.....	109
ウイルス学.....	113
病態モデル医学.....	117
整形外科学.....	118
精神・認知・行動医学.....	141
脳神経外科学.....	146
産科婦人科学.....	150
新生児・小児医学.....	156
認知症科学.....	164
グリア細胞生物学分野.....	169
神経発達症遺伝学.....	171
神経毒性学.....	174
神経発達・再生医学.....	176

認知機能病態学	181	先進急性期医療学	272
消化器・代謝内科学	183	環境労働衛生学	276
呼吸器・免疫アレルギー内科学	198	公衆衛生学	287
循環器内科学	205	法医学	292
腎臓内科学	218	医学・医療情報管理学	294
神経内科学	228	医学・医療教育学	296
血液・腫瘍内科学	232	次世代医療開発学	298
麻酔科学・集中治療医学	240	医療安全管理学	304
放射線医学	248	臨床感染制御学	306
地域医療教育学	257	医療人育成学	310
地域医療学	263	中央臨床検査部	312
地域包括医療学	266	緩和ケアセンター	316
臨床薬剤学	267	医療デザイン研究センター	318
第2章 教育活動実績	319		

令和4年度自己点検・評価委員会名簿

医学研究科 自己点検・評価書の公表について

この度、令和 3 年度における名古屋市立大学大学院医学研究科における自己点検・評価書を作成しましたので、ここに公表いたします。

大学における自己点検・評価とは、「大学が教育研究水準の向上や活性化につとめるとともに、その社会的責任を果たしていくため、その理念・目標に照らして自らの教育研究活動等の状況について自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己評価を行うこと」とされており、平成 11 年に改正された大学設置基準により、自己点検・評価の実施と結果の公表を義務化するとともに、その結果の学外者による検証を努力義務化されています。教育基本法（平成 18 年 12 月 22 日法律第 120 号）に明記されている大学に求められる役割は、「学術を中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するもの」とされており、「教育」と「研究」は大学教員が果たすべき本分となっています。本来であれば、学外専門員からの外部評価を受けた上で評価書を公表すべきではありますが、この数年間、研究論文のみを記載したものを評価書として作成してきたため、今年度から「教育」「研究」に関わる内容についての自己点検・評価書を復刻させることに致しました。

名古屋市立大学医学部は、令和 5 年に開校から数えて 80 周年を迎え、これまでに約 5,200 名の卒業生を輩出してきました。令和 3 年 4 月に名古屋市立東部・西部医療センターの 2 病院が、令和 5 年 4 月に名古屋市立緑市民病院（みどり市民病院）、名古屋市厚生院附属病院（みらい光生病院）が医学部附属病院に加わったことで、全国医学部の中でも最大規模の附属病院群を擁することになりました。「教育」「研究」に加え「診療」も医学研究科教員にとっての本分であり、名古屋市および名古屋市民から期待される①地域に根ざした手厚い医療の提供、②大規模な附属病院群が形成されたことによる臨床研究推進、③研究成果の社会への還元、に応えるべく各病院の特徴・専門性を生かし連携体制を強化して地域医療に貢献していく必要があります。

令和 6 年度からは新たに第四期中期目標・計画が始まります。その中には第三期中期計画以上に研究推進、研究力強化が謳われることとなります。今回の自己点検・評価書作成を各教員あるいは各講座における教育、研究成果について見返す機会としていただき、医学研究科における教育カリキュラム、研究力の改善、強化に真摯に取り組んで参りたいと考えています。

最後に、本評価書の作成にご協力を頂きました教職員の皆様に対し、心から感謝の意を表します。

令和 5 年 5 月

名古屋市立大学大学院医学研究科長 高橋 智

第 1 章

分野・部門別研究活動実績

—統合解剖学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Inoue K, Morimoto H, Ohgidani M, Ueki T. **Modulation of inflammatory responses by fractalkine signaling in microglia.** PLoS ONE. **16(5)**: e0252118, 2021.

Monai H, Koketsu S, Shinohara Y, Ueki T, Kush P, Hauglund NL, SamsonAJ, Nedergaard M, Hirase H. **Adrenergic inhibition facilitates normalization of extracellular potassium after cortical spreading depolarization.** Sci Rep. **11(1)**: 8150, 2021.

Mamun MA, Islam A, Hasan MM, Waliullah ASM, Tamannaa Z, Huu Chi D, Sato T, Kahyo T, Kikushima K, Takahashi Y, Naru E, Sakata O, Yamanoi M, Kobayashi E, Izumi K, Honda T, Tokura Y, Setou M. **The human vermilion surface contains a rich amount of cholesterol sulfate than the skin.** J Dermatol Sci. **103(3)**: 143-150, 2021.

Kikushima K, Terao Y, Miyazaki H, Nagae M, Ohnuki K, Satou D, Shimizu K, Ohnuki K. **Improvement of Cognitive Functions by Taking Supplement Containing Panax ginseng: A Randomized, Placebo-controlled, Double-blind, Clinical Study.** Japanese Pharmacology & Therapeutics. **49(7)**: 1149-1156, 2021.

【和文業績】

菊島健児, 中嶋勇治朗, 寺尾祐毅, 西出朱美, 大貫啓子, 清水邦義, 大貫宏一郎. **大豆由来フォスファチジルセリン含有サプリメント飲用による健常高齢者の認知機能改善-ランダム化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験-**. 薬理と治療. **49(2)**: 675-684, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	植木 孝俊	2 (1)	2 (1)	0
准教授	井上 浩一	1 (1)	1 (1)	0
講師	佐久間 英輔	0	0	0
講師	扇谷 昌宏	1	1	0
講師	菊島 健児	3 (2)	2 (1)	1 (1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

井上 浩一. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-令和 5 年度、3,300 千円

井上 浩一. 研究助成金（公益財団法人 三島海雲記念財団）. 令和 3 年 7 月、1,000 千円

井上 浩一. 研究助成金（公益財団法人 痛風・尿酸財団）. 令和 3 年 1 月、400 千円

扇谷 昌宏. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和 1 年度-令和 4 年度、4,160 千円

扇谷 昌宏. 厚生労働省科学研究費（代表）. 令和 2 年度-令和 4 年度、8,536 千円

菊島 健児. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 2 年度-令和 4 年度、4,030 千円

【その他】

なし

—機能組織学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Mizuta H, Kumamoto N, Ugawa S, Yamamoto T. **Additive Effects of L-Ornithine on Preferences to Basic Taste Solutions in Mice.** *Nutrients*. **13(11)**: 3749, 2021.
2. Yap JMG, Ueda T, Kanemitsu Y, Takeda N, Fukumitsu K, Fukuda S, Uemura T, Tajiri T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Ugawa S, Niimi A. **AITC inhibits fibroblast-myofibroblast transition via TRPA1-independent MAPK and NRF2/HO-1 pathways and reverses corticosteroids insensitivity in human lung fibroblasts.** *Respir Res*. **22(1)**: 51, 2021.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	鵜川眞也	2 (0)	2 (0)	0
准教授(講師級)	植田高史	1 (0)	1 (0)	0
講師	熊本奈都子	1 (0)	1 (0)	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

鵜川眞也. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 平成29年度-令和3年度、1,000千円（直接経費）

鵜川眞也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和2年度-令和4年度、100千円（直接経費）

鵜川眞也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和元年度-令和4年度、100千円（直接経費）

鵜川眞也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和元年度-令和4年度、200千円（直接経費）

鵜川眞也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和元年度-令和4年度、200千円（直接経費）

熊本奈都子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 2 年度-令和 4 年度、900 千円 (直接経費)

柴田泰宏. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和元年度-令和 4 年度、1,100 千円 (直接経費)

【その他】

なし

—神経生化学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Park SJ, Lee YJ, Park JH, Jin HT, Choi MJ, Jung CG, Akatsu H, Choi EK, Kim YS. **Establishment of Method for the Determination of Aggregated α -Synuclein in DLB Patient Using RT-QuIC Assay.** *Protein Pept Lett.* **28(1)**: 115-120, 2021.

Nakamura T, Zou K, Shibuya Y, Michikawa M. **Oral dysfunctions and cognitive impairment/dementia.** *J Neurosci Res.* **99(2)**: 518-528, 2021.

Tsujita M, Vaisman B, Chengyu L, Vickers KC, Okuhira KI, Braesch-Andersen S, Remaley AT. **Apolipoprotein A-I in mouse cerebrospinal fluid derives from the liver and intestine via plasma high-density lipoproteins assembled by ABCA1 and LCAT.** *FEBS Lett.* **595(6)**: 773-788, 2021.

Taslina F, Jung CG, Zhou C, Abdelhamid M, Abdullah M, Goto T, Saito T, Saido TC, Michikawa M. **Tooth Loss Induces Memory Impairment and Gliosis in App Knock-In Mouse Models of Alzheimer's Disease.** *J Alzheimers Dis.* **80(4)**: 1687-1704, 2021.

Fujita Y, Kano K, Kishino S, Nagao T, Shen X, Sato C, Hatakeyama H, Ota Y, Niibori S, Nomura A, Kikuchi K, Yasuno W, Takatori S, Kikuchi K, Sano Y, Tomita T, Suzuki T, Aoki J, Zou K, Natori S, Komano H. **Dietary cis-9, trans-11-conjugated linoleic acid reduces amyloid β -protein accumulation and upregulates anti-inflammatory cytokines in an Alzheimer's disease mouse model.** *Sci Rep.* **11(1)**: 9749, 2021.

Sugimoto T, Sakurai T, Akatsu H, Doi T, Fujiwara Y, Hirakawa A, Kinoshita F, Kuzuya M, Lee S, Matsuo K, Michikawa M, Ogawa S, Otsuka R, Sato K, Shimada H, Suzuki H, Suzuki H, Takechi H, Takeda S, Umegaki H, Wakayama S, Arai H. **The Japan-Multimodal Intervention Trial for Prevention of Dementia (J-MINT): The Study Protocol for an 18-Month, Multicenter, Randomized, Controlled Trial.** *J Prev Alzheimers Dis.* **8(4)**: 465-476, 2021.

Abdullah M, Nakamura T, Ferdous T, Gao Y, Chen Y, Zou K, Michikawa M. **Cholesterol Regulates Exosome Release in Cultured Astrocytes.** *Front Immunol.* **12**: 722581, 2021.

Tsushima H, Yamada K, Miyazawa D, Ohkubo T, Michikawa M, Abe-Dohmae S. **Comparison of the Physical Characteristics and Behavior in ABC Transporter A1, A7 or Apolipoprotein E Knockout Mice with Lipid Transport Dysfunction.** *Biol Pharm Bull.* **44(12)**: 1851-1859, 2021.

Azad AK, Sheikh AM, Haque MA, Osago H, Sakai H, Shibly AZ, Yano S, Michikawa M, Hossain S, Tabassum S, A G, Zhou X, Zhang Y, Nagai A. **Time-Dependent Analysis of Plasmalogens in the Hippocampus of an Alzheimer's Disease Mouse Model: A Role of Ethanolamine Plasmalogen.** *Brain Sci.* **11(12)**: 1603, 2021.

【和文業績】

辻田 麻紀, 松下 佐知, 高瀬 弘嗣. マウスを用いた和温療法に対するリポタンパク質代謝の影響. *日本健康開発雑誌.* **42 (0)**: 69-76, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	道川 誠	6 (3)	6 (3)	0
准教授	鄭 且均	2 (1)	2 (1)	0
准教授	鄒 鶴	3(0)	3(0)	0
講師	辻田 麻紀	2 (2)	1 (1)	1 (1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

辻田 麻紀. 米国心臓協会. Paul Dudley White International Scholar Award. 令和3年9月

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

- 道川 誠. 受託研究費（AMED・代表）. 令和2年度-令和4年度、11,000千円
- 道川 誠. 受託研究費（AMED・分担）. 令和1年7月-令和4年度、5,000千円
- 道川 誠. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和2年度-令和4年度、50千円
- 道川 誠. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和2年度-令和4年度、200千円
- 道川 誠. 研究助成金（第一三共株式会社）. 令和3年度-令和10年度、588千円
- 鄭 且均. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度、800千円
- 鄒 鶴. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 平成31年度-令和4年度、900千円
- 鄒 鶴. 第24回日本医学会総会記念医学振興基金. 令和2年度-令和3年度、1000千円
- 鄒 鶴. 堀科学芸術振興財団 研究助成. 令和3年度-令和4年度、1000千円

【その他】

《内部資金獲得実績》

- 道川 誠. 特別研究奨励費. 令和3年度、400千円
- 道川 誠. インセンティブ研究費. 令和3年度、416千円
- 辻田 麻紀. 特別研究奨励費(科学研究費獲得活性化事業). 令和3年度、250千円
- 辻田 麻紀. 特別研究奨励費(教員の国際的教育研究活動支援). 令和3年度、255千円

《招待講演》

道川 誠. 認知症と口腔機能研究会 JRSDOF 第2回学術集会. 認知症（特に Alzheimer 型認知症）と歯科疾患（歯周病ならびに咀嚼機能障害を含めて）. 2021年8月8日

道川 誠. 日本老年歯科医学会 高齢者医療研修会講演. 歯科口腔と認知症. 2021年9月10日

《国際学会発表（口頭）》

Maki Tsujita, Juniki Yamamoto, Rinka Maehashi, Alan T Remaley, Chieko Mineo, Philip W Shaul, Shinji Yokoyama, and Keiichiro Okuhira. 19th International Symposium on Atherosclerosis (ISA2021). Symposium 24, Atherosclerosis as a Chronic Inflammation. **SAA and conditional SR-BI null mice plasma**. 2021年10月27日

《国際学会発表（ポスター）》

Cha-Gyun Jung, Mona Abdelhamid, Chunyu Zhou, Kazuya Ohno, Tetsuya Kuhara, Ferdous Taslima, Mohammad Abdullah, Makoto Michikawa. Alzheimer's Association International Conference (AAIC) 2021. **Probiotic *Bifidobacterium breve* decreases A β production via the upregulation of ADAM10 level and attenuates microglia activation in APP knock-in mouse model of Alzheimer's disease**. 2021年7月21日

Maki Tsujita, Hiroshi Takase, Natsuko Kumamoto, Shinya Ugawa, Yoshito Furuie, and Motonari Tsubaki. AHA-Vascular Discovery 2021. **Effects of magnetic field on ABCA1-mediated cellular lipid release and adult brain cell generation in mice**. 2021年9月22-24日
Conference proceedings
https://www.ahajournals.org/doi/10.1161/atvb.41.suppl_1.P111

《国内学会発表（口頭）》

Makoto Michikawa, Sadequl Islam, Kun Zou. 第94回日本生化学会大会. **Presenilin is essential for ApoE secretion**. 2021年11月3日

《国内学会発表（ポスター）》

Mona Abdelhamid, Cha-Gyun Jung, Chunyu Zhou, Ferdous Taslima, Mohammad Abdullah, Makoto Michikawa. 第25回腸内細菌学会. **Probiotic *Bifidobacterium breve* improves cognitive function and decreases A β production via the upregulation of ADAM10 level in APP knock-in mouse model of Alzheimer's disease**. 2021年6月1日

Kun Zou, Sadequl Islam, Yang Sun, Yuan Gao, Tomohisa Nakamura, Noriyuki Kimura, Etsuro Matsubara, Kensaku Kasuga, Takeshi Ikeuchi, Taisuke Tomita, Makoto Michikawa. 第64回神経化学会大会. **Presenilin is essential for ApoE secretion**. 2021年9月30日-10月1日

辻田麻紀、松下佐知、高瀬弘嗣. 第53回日本動脈硬化学会. **和温療法によるマウス血中リポタンパク質代謝平衡の改変**. 2021年10月23日-10月24日

辻田麻紀、高瀬弘嗣、奥平桂一郎、鏑木基成. 第1回トランスポーター研究会関西部会. **磁場照射による ABCA1 トランスポーター機能とマウス成体脳細胞新生への影響**. 2021年10月30日

辻田麻紀、高瀬弘嗣、熊本奈都子、鶴川眞也、古家佳人、鏑木基成. 第94回日本生化学会. **マウスにおける ABCA1 を介した細胞コレステロール搬出および成体脳細胞新生に対する磁場の影響 (Effects of magnetic field on ABCA1-mediated cellular lipid release and adult brain cell generation)**. 2021年11月2日-11月5日

Cha-Gyun Jung, Chunyu Zhou, Mona Abdelhamid, Ferdous Taslima, Esraa Ibrahim A Shaaban, Makoto Michikawa. 第40回日本認知症学会. **Effect of Tid1 on the mitochondrial accumulation of APP**. 2021年11月26日

Chunyu Zhou, Cha-Gyun Jung, Mona Abdelhamid, Ferdous Taslima, Esraa Ibrahim A Shaaban, Makoto Michikawa. 第40回日本認知症学会. **Effect of ATBF1 on tau phosphorylation**. 2021

年 11 月 26 日

Mona Abdelhamid, Chunyu Zhou, Kazuya Ohno, Tetsuya Kuhara, Ferdous Taslima, Mohammad Abdullah, Cha-Gyun Jung, Makoto Michikawa. 第 40 回日本認知症学会. **Effect of *Bifidobacterium breve* MCC1274 on the pathogenesis of Alzheimer's disease.** 2021 年 11 月 26 日

Islam Sadequl, 孫 陽、高 原、中村知寿、木村成志、松原悦郎、春日健作、池内健、富田泰輔、鄒 鶴、道川 誠. 第 40 回日本認知症学会. **ApoE 分泌におけるプレセニリンの制御作用.** 2021 年 11 月 26 日

—細胞生化学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

該当無し

【和文業績】

該当無し

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	加藤 洋一	0	0	0
講師	嶋田 逸誠	0	0	0
講師	二宮 裕将	0	0	0
助教	橋本 寛	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当無し

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

嶋田 逸誠. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度～令和6年度、1,240千円

嶋田 逸誠. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度～令和6年度、100千円

加藤 洋一. 文部科学省科学研究費（挑戦的研究(萌芽)・代表）. 令和2年度-令和4年度、3,628千円

橋本 寛. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和2年度-令和4年度、1,508千円

加藤 洋一. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和2年度-令和5年度、100千円

二宮 裕将. 文部科学省科学研究費（挑戦的萌芽・分担）. 令和2年度-令和4年度、257千円

嶋田 逸誠. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和2年度-令和5年度、300千円

二宮 裕将. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和元年度-令和3年度、2,725千円

千円

嶋田 逸誠. 研究助成金（堀科学芸術振興財団）. 令和 2 年度-令和 3 年度、1,000 千円

嶋田 逸誠. 研究助成金（公益財団法人 武田科学振興財団）. 令和 2 年度-期限無し、1,680 千円

嶋田 逸誠. 研究助成金（株式会社リバネス）. 令和元年度-期限無し、300 千円

加藤 洋一. 研究助成金（公益財団法人 武田科学振興財団）. 平成 30 年度-期限無し、3,819 千円

【その他】

加藤 洋一. 第 11 回繊毛研究会. RNA 結合タンパクによる繊毛形成の調節機序. 2021 年 11 月 22 日

—細胞生理学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Horii K, Ehara Y, Shiina T, Naitou K, Nakamori H, Horii Y, Shimaoka H, Saito S, Shimizu Y. **Sexually dimorphic response of colorectal motility to noxious stimuli in the colorectum in rats.** *J Physiol.* **599(5)**: 1421-1437, 2021.

Nakamori H, Iida K, Hashitani H. **Mechanisms underlying the prokinetic effects of endogenous glucagon-like peptide-1 in the rat proximal colon.** *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.* **321(6)**: G617-G627, 2021.

Mitsui R, Chikada Y, Arai K, Hashitani H. **Functional nitrergic innervation of smooth muscle structures in the mucosa of pig lower urinary tract.** *Cell & Tissue Research.* **386(3)**: 513-531, 2021.

Mitsui R, Hashitani H, Lang RJ, van Helden DF. **Mechanisms underlying spontaneous phasic contractions and neural control of smooth muscle in the rat caudal epididymis.** *Pflügers Archiv-European Journal of Physiology.* **473(12)**: 1925-1938, 2021.

Nakamori H, Noda K, Mitsui R, Hashitani H. **Role of enteric dopaminergic neurons in regulating peristalsis of rat proximal colon.** *Neurogastroenterology & Motility.* **33(9)**: e14127, 2021.

Tanaka H, Mitsui R, Oishi M, Passlick S, Jabs R, Steinhäuser C, Tanaka KF, Hashitani H. **NO-mediated signal transmission in bladder vasculature as a therapeutic target of PDE5 inhibitors: Rodent model studies.** *British Journal of Pharmacology.* **178(5)**: 1073-1094, 2021.

Ueda HH, Naitou K, Nakamori H, Horii K, Shiina T, Masatani T, Shiraishi M, Shimizu Y. **α -MSH-induced activation of spinal MC1R but not MC4R enhances colorectal motility in anaesthetised rats.** *Sci Rep.* **11(1)**: 487, 2021.

Lim I, Mitsui R, Kameda M, Sellers DJ, Chess-Williams R, Hashitani H. **Comparative effects of angiotensin II on the contractility of muscularis mucosae and detrusor in the pig urinary bladder.** *Neurourology and Urodynamics.* **40(1)**: 102-111, 2021.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	橋谷 光	6 (5)	6 (5)	0
講師	三井 烈	5 (5)	5 (5)	0
助教	高野 博充	0	0	0
助教	中森 裕之	4 (5)	4 (5)	0

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

橋谷 光. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度、1,651千円

橋谷 光. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和2年度-令和2年度、200千円

三井 烈. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和1年度-令和4年度、2,511千円

高野博充. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和7年度、900千円

中森裕之. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和2年度-令和4年度、1,766千円

中森裕之. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和2年度-令和4年度、200千円

中森裕之. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和2年度-令和4年度、198千円

【その他】

橋谷 光. Smooth muscle-afferent nerve axis ‘Beyond Contractile Machinery’（求心性神経シグナルの起点としての平滑筋収縮の役割）、第99回日本生理学会大会（オーガナイザー兼シンポジスト）. ‘Non-locomotive roles of smooth muscle as a trigger of afferent signals’. 2022年3月17日

橋谷 光. Round Table ‘Drug Targets for Superior Male Pelvic Health Beyond 2021’ in ICS(International Continence Society) 2021 Melbourne Online. ‘Mucosal microvasculature in the lower urinary tract: A therapeutic target for LUTS’ (2021年10月14日).

—脳神経生理学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Suzuki T, Sato Y, Kushida Y, Tsuji M, Wakao S, Ueda K, Imai K, Iitani Y, Shimizu S, Hida H, Tenma T, Saito S, Iida H, Mizuno M, Takahashi Y, Dezawa M, Borlongan C, Hayakawa M. **Intravenously delivered Multilineage-differentiating stress enduring cells dampen excessive glutamate metabolism and microglial activation in experimental perinatal hypoxic ischemic encephalopathy.** J Cereb Blood Flow Metab. **41(7)**: 1707-20, 2021.

Shimizu T, Murakoshi H, Matsumoto H, Ichino K, Hattori A, Ueno S, Ishida A, Tajiri N, Hida H. **Tension sensor based on fluorescence resonance energy transfer reveals fiber diameter-dependent mechanical factors during myelination.** Front Cell Neurosci. **15**: 685044, 2021.

Kondo-Takuma Y, Mizuno M, Tsuda Y, Madokoro Y, Suzuki K, Sato T, Takase H, Uchida Y, Adachi KI, Hida H, Borlongan CV, Matsukawa N. **Reduction of acetylcholine ion the hippocampus of hippocampus cholinergic neurostimulating peptide precursor protein knockout mice.** Sci Rep. **11(1)**: 22072, 2021.

Mizutani Y, Kinoshita M, Lin YC, Fukaya S, Kato S, Hisano T, Hida H, Iwata S, Saitoh S, Iwata O. **Temporal inversion of the acid-base equilibrium in newborns: an observational study.** Peer J. **9**: e11240, 2021.

Kin I, Sasaki T, Yasuhara T, Kameda M, Agari T, Okazaki M, Hosomoto K, Okazaki Y, Yabuno S, Kawachi S, Kuwahara K, Morimoto J, Kin K, Umakoshi M, Tomita Y, Tajiri N, Borlongan CV, Date I. **Vagus nerve stimulation with mild stimulation intensity exerts anti-inflammatory and neuroprotective effects in Parkinson's disease model rats.** Biomedicines. **9(7)**: 789, 2021.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	飛田 秀樹	4(1)	4(1)	
准教授	田尻 直輝	2(0)	2(0)	
講師	清水 健史	1(1)	1(1)	
助教	上野 新也	1(0)	1(0)	

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

飛田 秀樹. 文部科学省科学研究費（補助金・代表）. 令和2年度-令和3年度、2,400千円

飛田 秀樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

飛田 秀樹. 共同研究費（第一三共株式会社）. 令和2年度-令和4年度、500千円

飛田 秀樹. 受託研究費（株式会社ツムラ）. 令和1年9月-令和5年9月、1,600千円

田尻 直輝. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和5年度、800千円

清水 健史. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和5年度、1,000千円

【その他】

《学会発表》

田尻 直輝, 小川 紫野, 服部 篤紀, 大谷 綾乃, 上野 新也, 清水 健史, 飛田 秀樹. 第26回日本基礎理学療法学会学術大会. 新生仔低酸素虚血性白質障害に対する細胞移植療法と豊かな環境飼育による損傷脳再生機構の解明. 2021.10. Web 開催.

清水 健史, 村越 秀治, 松本 英俊, 石田 章真, 上野 新也, 田尻 直輝, 飛田 秀樹. 第64回日本神経化学会. Tension sensor based on fluorescence resonance energy transfer reveals fiber diameter-dependent mechanical factors during myelination. 2021.10.

清水 健史, 村越 秀治, 松本 英俊, 上野 新也, 石田 章真, 田尻 直輝, 飛田 秀樹. 第68回中部日本生理学会. 神経軸索の直径に依存したミエリン形成: ミエリン化オリゴデンドロサイトが産生する物理的な力を可視化する張力センサーの解析. 2021.10.

上野 新也, 清水 健史, 小林 憲太, 田尻 直輝, 飛田 秀樹. 第68回中部日本生理学会大会. 脳出血後の麻痺側集中使用による機能回復における小脳赤核路の関与. 2021.10.

田尻 直輝, 上野 新也, 清水 健史, 羽田 栄輔, 水野 景太, 飛田 秀樹. 第99回日本生理学会大会. 人参養菜湯と麻痺側集中使用の併用は内包出血後の運動機能障害を回復する. 2022.3

清水 健史, 佐藤 碧惟, 國料 美月, 上野 新也, 小林 憲太, 飛田 秀樹. 第99回日本生理学会大会. Forelimb reaching exercise causes better motor function recovery with adaptive cerebellar oligodendrogenesis after intracerebral hemorrhage in rats. 2022.3.

上野 新也, 清水 健史, 小林 憲太, 田尻 直輝, 飛田 秀樹. 第99回日本生理学会大会. 脳出血後の麻痺側集中使用による機能回復における小脳赤核路の関与. 2022.3.

<研究活動実績>

【欧文学績】

Aoyama Y, Naiki-Ito A, Xiaochen K, Komura M, Kato H, Nagayasu Y, Inaguma S, Tsuda H, Tomita M, Matsuo Y, Takiguchi S, Takahashi S. **Lactoferrin Prevents Hepatic Injury and Fibrosis via the Inhibition of NF- κ B Signaling in a Rat Non-Alcoholic Steatohepatitis Model.** *Nutrients*. **14(1)**: 42, 2021.

Miyabe K, Notohara K, Asano G, Kato A, Jinno N, Natsume M, Hori Y, Yoshida M, Naitoh I, Tsuboi K, Matsuo Y, Ohara H, Hayashi K, Kataoka H. **Early Detection of High-grade Biliary Intraepithelial Neoplasia (BillN-3) in the Cystic Duct Visualized by SpyGlass DS Cholangioscopy.** *Internal Medicine*, **60(1)**: 47-52, 2021.

Ohta K, Shimohira M, Shoji J, Yoshida S, Takaishi T, Morimoto M, Matsuo Y, Ogawa T, Suda H, Shibamoto Y. **Multiple large pancreaticoduodenal artery aneurysms due to celiac artery occlusion: Combination of the aorto-hepatic bypass and coil embolization with a dual approach through both the superior mesenteric artery and bypass.** *Radiology Case Reports*, **16(1)**: 1-4, 2021.

Kimura M, Eguchi Y, Kuwabara Y, Mitsui A, Nagasaki T, Nakaya S, Sugita S, Sawai S. **A simple and reliable procedure for laparoscopic port-site closure.** *Langenbeck Arch Surg* **406(4)**: 1233-37, 2021.

Kimura M, Kuwabara Y, Mitsui A, Katada T, Nagasaki T, Imagami T, Eguchi Y. **A new approach to the laparoscopic double stapling technique: exploration and reinforcement of weak points.** *J Adv Med Res* **33(5)**: 1-7, 2021.

Fujihata S, Kitagami H, Kitayama Y, Suzuki A, Tanaka M, Nakaya S, Hayakawa S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Takahashi H, Matsuo Y, Ogawa R, Takiguchi S. **The feasibility of interval laparoscopic appendectomy and appropriate patient selection: A retrospective study of adult appendiceal masses.** *Asian Journal of Endoscopic Surgery*, **14(2)**: 184-192, 2021.

Fujihata S, Ogawa R, Nakaya S, Hayakawa S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Takahashi H, Matsuo Y, Takiguchi S. **The impact of skeletal muscle wasting during neoadjuvant chemotherapy on postoperative anastomotic leakage in patients with esophageal cancer.** *Esophagus*, **18(2)**: 258-266, 2021.

Kimura M, Kuwabara Y, Mitsui A, Katada T, Nagasaki T, Imagami T, Eguchi Y. **Reduction in anastomotic leakage using bioabsorbable material with a circular stapler in a porcine model.** *Ind J Surg* **83**: 667-71, 2021.

Yanagita T, Hara M, Osaga S, Nakai N, Maeda Y, Shiga K, Hirokawa T, Matsuo Y, Takahashi H, Takiguchi S. **Efficacy of intraoperative ICG fluorescence imaging evaluation for preventing anastomotic leakage after left-sided colon or rectal cancer surgery: a propensity score-matched analysis.** *Surgical Endoscopy*, **35(5)**: 2373-2385, 2021.

Fujihata S, Ogawa R, Ito S, Hayakawa S, Nakaya S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Takahashi H, Matsuo Y, Takiguchi S. **Diagnosis of recurrent laryngeal nerve paralysis following esophagectomy by evaluating movement of the vocal cords and arytenoid cartilages using ultrasonography.** *Esophagus*, **18(3)**: 704-709, 2021.

Nakaya S, Ogawa R, Hayakawa S, Fujihata S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Takahashi H, Matsuo Y, Takiguchi S. **Serum IgG level is a predicting factor for the response to neoadjuvant chemotherapy in patients with esophageal squamous cell carcinoma.** *World Journal of Surgical Oncology*, **19(1)**: 217, 2021.

Omi K, Matsuo Y, Ueda G, Aoyama Y, Kato T, Hayashi Y, Imafuji H, Saito K, Tsuboi K, Morimoto M, Ogawa R, Takahashi H, Takiguchi S. **Escin inhibits angiogenesis by suppressing interleukin-8 and vascular endothelial growth factor production by blocking nuclear factor- κ B activation in pancreatic cancer cell lines.** *Oncology Reports*, **45(5)**: 55, 2021.

Saito K, Matsuo Y, Ueda G, Omi K, Hayashi Y, Imafuji H, Tsuboi K, Morimoto M, Ogawa R, Takahashi H, Naitoh I, Hayashi K, Kataoka H, Takiguchi S. **A hybrid approach for chronic pancreatitis: combination of laparoscopic assisted distal pancreatectomy and open Frey procedure.** *BMC Surgery*, **21(1)**: 91, 2021.

Hayakawa S, Ogawa R, Ito S, Nakaya S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Takahashi H, Matsuo Y, Takiguchi S. **Suitable Diagnosis and Treatment of Esophageal Ruptures in Cases of Non-Boerhaave Syndrome: A Comparison With Boerhaave Syndrome.** *Journal of Investigative Medicine High Impact Case Reports*, **9**: 1-6, 2021.

Hayakawa S, Hayakawa T, Uehara S, Miyai H, Ogawa R, Yamamoto M, Tanaka M, Takiguchi S. **Age, blood urea nitrogen, and lactate: Preoperative risk factors of laparotomy for strangulated small bowel obstruction.** *Asian Journal of Endoscopic Surgery*, **14(4)**: 732-738, 2021.

Ogawa M, Urano M, Takaishi T, Kan H, Arai N, Takahashi H, Hara M, Saito M, Shibamoto Y. **T-staging of rectal cancer: Utility of single-shot turbo spin-echo diffusion-weighted imaging with T2-weighted images and fusion images.** *PLOS ONE*, **16(4)**: e0249433, 2021.

Kato H, Ito A, Suzuki S, Inaguma S, Komura M, Nakao K, Naik T, Kachi K, Kato A, Matsuo Y, Takahashi S. **DPYD, down-regulated by the potentially chemopreventive agent luteolin, interacts with STAT3 in pancreatic cancer.** *Carcinogenesis*, **42(7)**: 940-950, 2021.

【和文業績】

瀧口 修司. **消化管ロボット支援手術の現状とこれから.** *日本内視鏡外科学会雑誌*. **25(7)**: 教育セミナー I, 2021.

青山 佳永, 松尾 洋一, 上田 悟郎, 加藤 知克, 大見 関, 林 祐一, 今藤 裕之, 齊藤 健太, 坪井 謙, 森本 守, 小川 了, 高橋 広城, 瀧口 修司. **肝細胞癌との鑑別に苦慮し腹腔鏡下切除を行った腎細胞癌術後孤立性肝転移の1例.** *癌と化学療法*. **48(13)**: 1795-1797, 2021.

佐川 弘之, 伊藤 直, 早川 俊輔, 上野 修平, 大久保 友貴, 田中 達也, 小川 了, 瀧口 修司. **ロボット支援下胃癌手術 その特性を活かしたロボット支援下胃悪性腫瘍手術.** *消化器外科*. **44(12)**: 1771-1779, 2021.

伊藤 直, 小川 了, 澤井 美里, 上野 修平, 早川 俊輔, 大久保 友貴, 佐川 弘之, 田中 達也, 高橋 広城, 松尾 洋一, 瀧口 修司. **胃・十二指腸 食道胃接合部癌に対する腹腔鏡下胃全摘術.** *臨床外科*. **76(11)**: 34-38, 2021.

松尾 洋一, 林 香月, 上田 悟郎, 加藤 知克, 青山 佳永, 大見 関, 林 祐一, 今藤 裕之, 齊藤 健太, 坪井 謙, 森本 守, 小川 了, 高橋 広城, 吉田 道弘, 近藤 啓, 宮部 勝之, 内藤 格, 瀧口 修司. **術前診断に難渋した脾海綿状血管腫の1例.** *脾臓*. **36(4)**: 266-273, 2021.

加藤 潤紀, 早川 俊輔, 柳田 剛, 藤幡 士郎, 中屋 誠一, 佐川 弘之, 田中 達也, 小川 了, 高橋 広城, 松尾 洋一, 瀧口 修司. **腸閉塞を契機に発見された真性腸石を伴う Meckel 憩室の1例.** *腹部救急医学会雑誌*. **41(5)**: 367-370, 2021.

早川俊輔, 小川 了, 田中 達也, 佐川 弘之, 大久保 友貴, 瀧口 修司. **高齢者に対する胃癌手術の工夫と留意点.** *手術*, **75(10)**: 1533-1540, 2021.

田中達也, 小川了, 瀧口修司. 肥満症の外科治療. 日本消化器病学会雑誌. 118(6): 532-540, 2021.

上田悟郎, 松尾洋一, 大見関, 林祐一, 齊藤健太, 坪井謙, 森本守, 小川了, 高橋広城, 瀧口修司. 審査腹腔鏡を併用し治療した鼠径部子宮内膜症の1例. 日本消化器外科学会雑誌. 54(4): 285-292, 2021.

松尾洋一, 林祐一, 瀧口修司. 慢性膵炎からの発癌メカニズム. 胆と膵. 42(8): 763-769, 2021.

瀧口修司, 佐川弘之, 伊藤直, 早川俊輔, 上野修平, 大久保友貴, 田中達也, 小川了. 胃癌大動脈周囲リンパ節転移の手術. 消化器外科, 44(8): 1323-1331, 2021.

田中達也, 小川了, 瀧口修司. 人工知能を用いた食道癌化学療法の効果予測. 消化器外科. 44(7): 1183-1192, 2021.

佐川弘之, 伊藤直, 大久保友貴, 田中達也, 小川了, 瀧口修司. 胃癌手術における術中膵実質損傷に対する術中・術後の対処. 手術. 75(7): 1181-1187, 2021.

高橋広城, 前田杏梨, 渡部かをり, 牛込創, 鈴木卓弥, 瀧口修司. 腹腔鏡下大腸癌手術における後腹膜(腹腔外)経路ストーマ造設術. 手術, 75(5): 833-838, 2021.

森本守, 上田悟郎, 加藤知克, 青山佳永, 大見関, 林祐一, 今藤裕之, 齊藤健太, 坪井謙, 小川了, 高橋広城, 松尾洋一, 瀧口修司. 助手の心得. 消化器外科. 44(4): 425-434, 2021.

木村昌弘, 江口祐輝, 杉田三郎, 澤井美里, 羽喰英美, 今神透. VersaOne™ Fascial Closure システムを使用したポートサイトの閉鎖-簡便かつ確実な閉鎖法. 臨床外科. 76(8): 1033-1037, 2021.

伊藤直, 佐川弘之, 瀧口修司. 術後ドレーンのきほん 留置部位・術式・ケア 胃術後のドレーンとケア 胃術後に注意すべきドレーン排液. 消化器ナーシング. 2021 春季増刊: 74-75, 2021.

伊藤直, 佐川弘之, 瀧口修司. 術後ドレーンのきほん 留置部位・術式・ケア 胃術後のドレーンとケア 胃術後ドレーンの役割と留置期間. 消化器ナーシング. 2021 春季増刊: 72-73, 2021.

伊藤直, 佐川弘之, 瀧口修司. 術後ドレーンのきほん 留置部位・術式・ケア 胃術後のドレーンとケア 腹腔鏡下胃切除とドレーン. 消化器ナーシング. 2021 春季増刊: 70-71, 2021.

伊藤直, 佐川弘之, 瀧口修司. 術後ドレーンのきほん 留置部位・術式・ケア 胃術後のドレーンとケア 胃全摘とドレーン. 消化器ナーシング. 2021 春季増刊: 68-69, 2021.

伊藤直, 佐川弘之, 瀧口修司. 術後ドレーンのきほん 留置部位・術式・ケア 胃術後のドレーンとケア 幽門側胃切除とドレーン. 消化器ナーシング. 2021 春季増刊: 64-65, 2021.

瀧口修司. ロボット支援腹腔鏡下幽門側胃切除術: ロールインからその手術手技. 消化器ダヴィンチ手術のすべて 改訂第2版. :181-198, 2021.

瀧口修司. ロボット支援下手術による「教育」. 新DS NOW, 11: 27-32, 2021.

佐川弘之. ロボット支援下腓上縁リンパ節 (No. 8a, 11p, 7, 9) 郭清. 新DS NOW, 12: 161-182, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	瀧口修司	35(32)	12(10)	23(22)
教授	松尾洋一	18(5)	11(2)	7(3)
准教授	高橋広城	14(1)	8	6(1)
講師	小川了	19	8	11
講師	森本守	6(1)	2	4(1)
助教	田中達也	14(2)	6	8(2)
助教	佐川弘之	17(3)	5	12(3)
助教	志賀一慶	1	1	0
助教	大久保友貴	10	5	5
助教	齊藤健太	6(1)	2(1)	4
助教	今藤裕之	5	2	3
助教	鈴木卓弥	1	0	1
助教	牛込創	1	0	1
助教	柳田剛	2(1)	1(1)	1

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授（診療担当）	木村昌弘	4(3)	3(2)	1(1)
准教授（診療担当）	原田幸志朗	2	1	1
講師	坪井謙	7	3	4
助教	前田祐三	4	4	0
助教	中屋誠一	6(1)	5(1)	1

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授（診療担当）	三井章	3	3	0

担当)				
教授(診療 担当)	栞原義之	3	3	0
准教授	原賢康	2	2	0
助教	安藤菜奈子	0	0	0
助教	社本智也	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

齊藤健太. 第14回日本ロボット外科学会学術集会. 優秀演題賞. 腓体尾部癌に対するロボット支援下腓体尾部切除術の手術手技と短期成績, 2022年2月26日

佐川弘之. 第14回日本ロボット外科学会学術集会. 優秀演題賞. エネルギーデバイスの特性をいかしたロボット支援下胃悪性腫瘍手術とその手技, 2022年2月26日

【外部資金獲得実績】(科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載)

瀧口 修司. 共同研究費(シスネックス株式会社). 令和4年1月-令和6年12月、21800千円

瀧口 修司. 研究助成金(持田製薬株式会社). 令和4年1月-令和4年6月、168千円

瀧口 修司. 研究助成金(テルモ). 令和4年1月、420千円

瀧口 修司. 研究助成金(科研製薬株式会社). 令和3年11月、168千円

瀧口 修司. 研究助成金(中外製薬株式会社). 令和3年11月、672千円

高橋 広城. 受託研究費(日本ストライカー株式会社). 令和3年10月-令和4年11月、144千円

瀧口 修司. 研究助成金(コヴィディエンジャパン株式会社). 令和3年9月、840千円

鈴木 卓弥. 研究助成金(ジョンソン・エンド・ジョンソン). 令和3年8月-令和6年7月、336千円

松尾 洋一. 研究助成金(東洋医学研究財団). 令和3年7月-令和4年6月、500千円

瀧口 修司. 研究助成金(大塚製薬株式会社). 令和3年7月、420千円

瀧口 修司. 研究助成金(武田薬品工業). 令和3年4月、252千円

瀧口 修司. 研究助成金(第一三共株式会社). 令和3年4月、252千円

瀧口 修司. 研究助成金(帝人ファーマ株式会社). 令和3年4月、126千円

瀧口 修司. 研究助成金(EAファーマ株式会社). 令和3年4月、336千円

瀧口 修司. 研究助成金(塩野義製薬). 令和3年4月、252千円

瀧口 修司. 研究助成金(大鵬薬品工業株式会社). 令和3年4月、1260千円

小川 了. 受託研究費 (株式会社クリニコ). 令和3年4月-令和4年8月、300千円

志賀 一慶. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和3年度-令和6年度、300千円

高橋 広城. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和3年度-令和6年度、300千円

牛込 創. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和3年度-令和6年度、600千円

今藤 裕之. 文部科学省科学研究費 (基盤B・分担). 令和3年度-令和6年度、500千円

松尾 洋一. 文部科学省科学研究費 (基盤B・代表). 令和3年度-令和6年度、2500千円

坪井 謙. 文部科学省科学研究費 (若手). 令和2年度-令和4年度、1200千円

小川 了. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和2年度-令和5年度、100千円

瀧口 修司. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和2年度-令和5年度、100千円

田中 達也. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和2年度-令和5年度、200千円

瀧口 修司. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和2年度-令和5年度、20千円

小川 了. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和2年度-令和5年度、20千円

瀧口 修司. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和2年度-令和5年度、60千円

高橋 広城. 受託研究費 (サノフィ). 令和2年10月-令和3年11月、15千円

松尾 洋一. 受託研究費 (アストラゼネカ株式会社). 令和2年5月-令和5年6月、328千円

小川 了. 受託研究費 (秋田大学). 令和2年4月-令和4年3月、93千円

大久保 友貴. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和1年度-令和4年度、1100千円

佐川 弘之. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和1年度-令和4年度、800千円

小川 了. 受託研究費 (塩野義製薬). 平成27年6月-令和4年3月、244千円

【その他】

田中達也. 第42回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会. 術前血中アミノ酸濃度と肥満手術の短期成績の検討. 2022年3月26日-27日

Shuji Takiguchi. 第94回日本胃癌学会総会. Surgery for cancer in upper part of stomach, focusing on lymphnodes dissection and reconstruction -field of view and technique-. 2022年3月2日-4日

Hiroyuki Sagawa. 第94回日本胃癌学会総会. Smart robotic gastrectomy with features of energy device. 2022年3月2日-4日

Shuji Takiguchi. 第94回日本胃癌学会総会. Pros and cons of robotic surgery for gastric cancer. 2022年3月2日-4日

大久保友貴. 第94回日本胃癌学会総会. 当院における十二指腸腺腫に対する治療戦略“ESD-aid surgery”. 2022年3月2日-4日

森本 守. 第14回日本ロボット外科学会学術集会. 高難度肝切除におけるロボット手術の有用性. 2022年2月26日-27日

齊藤健太. 第14回日本ロボット外科学会学術集会. 膵体尾部癌に対するロボット支援下膵体尾部切除術の手術手技と短期成績. 2022年2月26日-27日

佐川弘之. 第14回日本ロボット外科学会学術集会. エネルギーデバイスの特性をいかしたロボット支援下胃悪性腫瘍手術とその手技. 2022年2月26日-27日

大久保友貴. 第54回制癌剤適応研究会. 当科における食道癌治療に対するNivolumab療法の治療成績. 2022年2月18日

瀧口修司. 第54回制癌剤適応研究会. “腹腔鏡下胃癌手術の最前線—ロボット支援手術～大動脈周囲郭清まで”. 2022年2月18日

齊藤健太. 第135回日本消化器病学会東海支部第135回例会. ロボット支援下膵切除術の経験～導入から短期成績まで～. 2021年12月11日

佐川弘之. 第135回日本消化器病学会東海支部第135回例会. Stage4胃癌に対する治療戦略：ロボット手術+化学療法. 2021年12月11日

高橋広城. 第135回日本消化器病学会東海支部第135回例会. 大腸がん治療の最前線：高度進行直腸がんと結腸がんに対するロボット支援手術の導入から見据える今と未来. 2021年12月11日

柳田 剛. 第34回日本内視鏡外科学会総会. COVID-19 術前・内視鏡治療前スクリーニングシステム ～3577 症例の検討～. 2021年12月2日-4日

田中達也. 第34回日本内視鏡外科学会総会. スリーブ胃切除術における周術期経口摂取不良の評価と対策. 2021年12月2日-4日

瀧口修司. 第34回日本内視鏡外科学会総会. 司会 1. 食道切除. 2021年12月2日-4日

瀧口修司. 第34回日本内視鏡外科学会総会. 進行胃癌に対する低侵襲手術：手術手技の確立を目指して. 2021年12月2日-4日

志賀一慶. 第34回日本内視鏡外科学会総会. ロボット支援下直腸癌手術における遊離癌細胞と局所再発. 2021年12月2日-4日

佐川弘之. 第34回日本内視鏡外科学会総会. エネルギーデバイスの特性を最大限いかしたロボット支援下胃悪性腫瘍手術～進行胃癌をターゲットに～. 2021年12月2日-4日

齊藤健太. 第34回日本内視鏡外科学会総会. TAPP vs TEP-TAPP は導入に適したオールマイティな術式である. 2021年12月2日-4日

齊藤健太. 第34回日本内視鏡外科学会総会. 二つのロボット支援下膵切除術の導入経験から学んだロボット手術時代のあらたな教育概念. 2021年12月2日-4日

牛込 創. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. 腹腔鏡下大腸切除術がフレイルに及ぼす経時的变化～前向き検討から見据える治療戦略. 2021 年 12 月 2 日-4 日

齊藤健太. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. 急いては事を仕損じる. 2021 年 12 月 2 日-4 日

瀧口修司. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. 胃癌手術における腹腔鏡手術からロボット手術へのパラダイムシフト. 2021 年 12 月 2 日-4 日

瀧口修司. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. ロボット手術時代の教育の取組み. 2021 年 12 月 2 日-4 日

大見 関. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. 腹腔鏡下肝 S7/8 亜区域切除術の標準化に向けた問題点とその対策. 2021 年 12 月 2 日-4 日

大久保友貴. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. 当院における十二指腸非乳頭部腫瘍に対する治療戦略 ESD-aid surgery. 2021 年 12 月 2 日-4 日

森本 守. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. より精緻な肝切除の追求～高難度肝切除におけるロボット手術の有用性～. 2021 年 12 月 2 日-4 日

高橋広城. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. シームレスに行うロボット手術教育～医学生から専門医まで～. 2021 年 12 月 2 日-4 日

前田 祐三. 虫垂粘液産生腫瘍に対して断端陰性を確保するための工夫. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. 2021 年 12 月 3 日

松尾洋一. 第 32 回日本消化器癌発生学会総会. 臨床応用を目指した消化器癌における Protein Kinase D (PKD) の機能解析. 2021 年 11 月 26 日-27 日

瀧口修司. 第 32 回日本消化器癌発生学会総会. 座長:「基礎研究 6」. 2021 年 11 月 26 日-27 日

小川 了. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 高齢者食道癌患者における術前化学療法時の集中的栄養療法と電気刺激装置での筋肉トレーニングの有用性. 2021 年 11 月 18 日-20 日

前田 祐三. outlet obstruction を予防する当科で施行している人工肛門造設術の工夫. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 2021 年 11 月 19 日

中屋 誠一. VersaOne™ Fascial Closure System を利用して腹壁ヘルニア修復術を施行した 3 例. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 2021 年 11 月 19 日

森本 守. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 腹腔鏡下 S7 亜区域切除を安全かつ確実に行うための術野展開. 2021 年 11 月 18 日-20 日

柳田 剛. 第 83 回日本臨床外科学会総会. COVID-19 術前・内視鏡治療前スクリーニングシステム ～3577 症例の検討～. 2021 年 11 月 18 日-20 日

高橋広城. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 当院におけるロボット支援腹腔鏡下直腸切除術の導入から見据えるロボット支援手術の未来. 2021 年 11 月 18 日-20 日

齊藤健太. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 膣体尾部癌に対する Robotic RAMPS の手術手技. 2021 年 11 月 18 日-20 日

瀧口修司. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 座長：胃癌に対するロボット支援下手術の現状. 2021 年 11 月 18 日-20 日

佐川弘之. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 高難度症例に対するロボット支援下胃癌手術の有効性とその手技. 2021 年 11 月 18 日-20 日

田中達也. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 血中アミノ酸濃度の人工知能解析による食道癌術後縫合不全の予測. 2021 年 11 月 18 日-20 日

坪井 謙. 人工尿道括約筋埋込み術後に発症した鼠径ヘルニアの治療経験. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 2021 年 11 月 18 日

志賀一慶. 第 83 回日本臨床外科学会総会. 遊離癌細胞の観点からみた直腸癌手術と局所再発. 2021 年 11 月 18 日-20 日

森本 守. 第 15 回肝臓内視鏡外科研究会. 高難度肝切除におけるロボット手術の有用性. 2021 年 11 月 17 日

森本 守. 第 15 回肝臓内視鏡外科研究会. 肝外グリソン先行一括処理の手術手技と定型化. 2021 年 11 月 17 日

森本 守. 第 15 回肝臓内視鏡外科研究会. Cadaver を用いた肝門部グリソン鞘周囲の層構造の解明. 2021 年 11 月 17 日

高橋広城. 第 76 回日本大腸肛門病学会学術集会. ロボット支援腹腔鏡下側方郭清の短期成績～263/283 一括郭清の経験～. 2021 年 11 月 12 日-13 日

牛込 創. 第 76 回日本大腸肛門病学会学術集会. 大腸 T1 癌における内視鏡不完全切除後の外科的追加切除. 2021 年 11 月 12 日-13 日

瀧口修司. 第 51 回胃外科・術後障害研究会. 司会：ロボット支援下手術. 2021 年 11 月 11 日-12 日

佐川弘之. 第 51 回胃外科・術後障害研究会. エネルギーデバイスの特徴を最大限いかした高難度症例に対するロボット支援下胃癌手術. 2021 年 11 月 11 日-12 日

高橋広城. 第 29 回日本消化器関連学会週間. ロボット支援下腹腔鏡下側方郭清術の手技・短期成績と同部位に対する癒着予防対策. 2021 年 11 月 4 日-7 日

高橋広城. 第 44 回東海大腸外科治療研究会. T4b（前立腺）直腸がんに対するロボット支援手術の経験. 2021 年 10 月 29 日

瀧口修司. 第 59 回日本癌治療学会学術集会. 座長：周術期管理における多職種チーム医療. 2021 年 10 月 21 日-23 日

松尾洋一. 第 59 回日本癌治療学会学術集会. 膵疾患の周術期サポータティブケア ～栄養療法に期待するもの. 2021 年 10 月 21 日-23 日

今藤裕之. 第 59 回日本癌治療学会学術集会. 高齢患者に対する膵頭十二指腸切除術の妥当性. 2021 年 10 月 21 日-23 日

大見 関. 第 59 回日本癌治療学会学術集会. 天然化合物エスシンの NF- κ B 阻害を介した膵癌の抗血管新生についての検討. 2021 年 10 月 21 日-23 日

瀧口修司. 第 58 回日本外科代謝栄養学会学術集会. がん患者に対する周術期管理法とそのアウトカム. 2021 年 10 月 7 日-9 日

瀧口修司. 第 58 回日本外科代謝栄養学会学術集会. 座長：肝臓外科における周術期栄養療法 -食事制限基礎研究からシンバイオティクス療法まで-. 2021 年 10 月 7 日-9 日

大見 関. 第 58 回日本外科代謝栄養学会学術集会天然化合物エスシンの膵癌に対する抗血管新生作用の検討. 2021 年 10 月 7 日-9 日

小川 了. 第 58 回日本外科代謝栄養学会学術集会. 術前化学療法を施行した食道癌患者における血中アミノ酸濃度の変化の検討. 2021 年 10 月 7 日-9 日

瀧口修司. 第 27 回外科侵襲とサイトカイン研究会. Society 5.0 時代の外科診療. 2021 年 10 月 7 日

瀧口修司. 第 27 回外科侵襲とサイトカイン研究会. 座長：会長賞口演. 2021 年 10 月 7 日

大久保友貴. 第 75 回日本食道学会学術集会. 食道癌術後再発症例に対する免疫チェックポイント阻害薬の可能性. 2021 年 9 月 23 日-24 日

小川 了. 第 75 回日本食道学会学術集会. 食道癌周術期におけるチーム医療の構築とその効果. 2021 年 9 月 23 日-24 日

小川 了. 第 75 回日本食道学会学術集会. 座長：リハビリテーション. 2021 年 9 月 23 日-24 日

田中達也. 第 75 回日本食道学会学術集会. 低肺機能の胸部食道癌に対する縦隔鏡手術の適応. 2021 年 9 月 23 日-24 日

松尾洋一. 第 52 回日本膵臓学会大会. 微小環境との相互作用からみた肺癌の進展メカニズムの解明と新規治療薬の開発. 2021 年 9 月 22 日-23 日

大見 関. 第 44 回日本膵・胆管合流異常研究会. 膵頭十二指腸切除術を施行した先天性胆道拡張症症例の検討. 2021 年 9 月 11 日

齊藤健太. 第 48 回日本膵切研究会. 膵頭十二指腸切除術術後の腹腔内液体貯留に対する治療戦略. 2021 年 8 月 27 日-28 日

瀧口修司. 第 30 回第 30 回日本がん転移学会学術集会・総会. 座長：ポスターセッション9 [興味ある転移症例]. 2021 年 7 月 29 日-30 日

松尾洋一. 第 30 回日本がん転移学会学術集会・総会. 膵癌の転移メカニズムを血管新生から考える. 2021 年 7 月 29 日-30 日

大見 関. 第 30 回日本がん転移学会学術集会・総会. 低血糖を契機に発見され再肝切除によって長期生存が可能であった十二指腸 GIST の 1 例. 2021 年 7 月 29 日-30 日

瀧口修司. 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会. これからの胃癌集学的治療 ～ロボット手術から漢方まで～. 2021 年 7 月 21 日-22 日

今藤裕之. 第 76 回日本消化器外科学会総会. 高齢者に対する膵頭十二指腸切除術の検討. 2021 年 7 月 7 日-9 日

大久保友貴. 第 76 回日本消化器外科学会総会. 食道癌における周術期アルブミン/グロブリン比は予後因子となりうる. 2021 年 7 月 7 日-9 日

高橋広城. 第 76 回日本消化器外科学会総会. Techniques to overcome the painful section of robot-assisted rectal resection. 2021 年 7 月 7 日-9 日

志賀一慶. 第 76 回日本消化器外科学会総会. 炎症性サイトカイン IL-6 は大腸癌の予後予測因子となり得るか?. 2021 年 7 月 7 日-9 日

木村昌弘. 第 76 回日本消化器外科学会総会. 腹腔鏡手術におけるトローカー孔の形状

観察. 2021年7月7-9日

Hiroyuki Sagawa. 第76回日本消化器外科学会総会 Safer and smoother robotic gastrectomy with awareness of the characteristics of robotic surgery. 2021年7月8日.

鈴木 卓弥. 第76回日本消化器外科学会総会. p53 変異大腸癌細胞株に対する, G2/M期チェックポイント阻害剤併用した5-FUの増強効果. 2021年7月8日.

柳田 剛. 第76回日本消化器外科学会総会. COVID-19 術前・内視鏡治療前スクリーニングシステム~1761 症例の検討~. 2021年7月8日.

渡部 かをり. 第76回日本消化器外科学会総会. CAF由来 Chitinase 3-like 1が大腸癌の血管新生に及ぼす影響. 2021年7月8日.

田中 達也. 第76回日本消化器外科学会総会. コラード変法における吻合ステープラー選択の工夫. 2021年7月8日.

小川 了. 第76回日本消化器外科学会総会. 食道癌におけるサルコペニアに対する集中的栄養療法と電気刺激装置での筋肉トレーニングの有用性. 2021年7月8日.

齊藤 健太. 第76回日本消化器外科学会総会. 膵癌に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術-後方剥離を先行したLaparoscopic RAMPS-の検討. 2021年7月7日.

森本 守. 第76回日本消化器外科学会総会. 膵癌に対するロボット支援腹腔鏡下膵体尾部切除術の導入. 2021年7月7日.

牛込 創. 第76回日本消化器外科学会総会. 大腸癌内視鏡不完全切除が長期予後に与える影響. 2021年7月7日.

高橋 広城. 第95回大腸癌研究会. 他臓器合併切除を伴うロボット支援腹腔鏡下直腸切除術の短期成績. 2021年7月2日.

牛込 創. 第95回大腸癌研究会. 大腸癌内視鏡不完全切除がもたらす腫瘍学的な影響について. 2021年7月2日.

大久保 友貴. 第134回日本消化器病学会東海支部第134回例会. 当院における十二指腸腺腫に対する治療戦略 ESD-aid surgery. 2021年6月12日.

大見 関. 第42回癌免疫外科研究会. 臨床応用を目指した天然化合物エスシンの膵癌に対する抗腫瘍効果の検討. 2021年5月27日.

松尾 洋一. 第42回癌免疫外科研究会. 新規治療薬の開発を目指した消化器癌におけるProtein Kinase Dの機能解析. 2021年5月27日.

高橋 広城. 第42回癌免疫外科研究会. 大腸癌微小環境における癌関連線維芽細胞(CAF)が抗アポトーシス蛋白に及ぼす影響. 2021年5月27日.

佐川 弘之. 第43回日本癌局所療法研究会. ロボット手術の特徴を最大限生かした低侵襲・高難度手術. 2021年5月21日.

田中 達也. 第75回手術手技研究会. スリーブ状胃切除術の断端補強の検討. 2021年5月14日.

大久保 友貴. 第75回手術手技研究会. 当院の十二指腸腺腫に対する治療戦略 ESD-aid surgery. 2021年5月14日.

佐川 弘之. 第75回手術手技研究会. Double bipolar methodとVessel sealerを最大限生かしたロボット支援胃悪性腫瘍手術. 2021年5月14日.

木村昌弘. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. 簡便確実な腹腔鏡手術におけるポート孔の閉鎖法. 2021 年 4 月 8-10 日

柳田 剛. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. COVID-19 感染症の流行がもたらした外科病棟の変化～手指衛生と MRSA 水平伝播の観点から～. 2021 年 4 月 10 日.

田中 達也. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. 当院肥満症治療センターにおけるメタボリックシンドロームの外科治療の現状と今後の展開. 2021 年 4 月 10 日.

志賀 一慶. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. 遊離癌細胞の観点からみたロボット直腸癌手術と局所再発. 2021 年 4 月 10 日

佐川 弘之. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. 高度進行胃癌に対するロボット支援下胃癌手術の有効性とその手技からみる課題. 2021 年 4 月 10 日

大久保 友貴. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. daVinci Xi Firefly 機能と術中内視鏡を用いた Near-infrared ray guided surgery による適正切離ラインの設定. 2021 年 4 月 9 日

森本 守. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. 腹腔鏡の特性を最大限に活用した高難度腹腔鏡下肝切除の手術手技～ロボット支援肝切除の導入とその展望～. 2021 年 4 月 8 日

鈴木 卓弥. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. G2/M 期チェックポイント阻害剤併用による大腸癌細胞株に対する 5-FU の効果. 2021 年 4 月 8 日

小川 了. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. 食道癌患者への術前体重減少に対する集中的栄養療法と電気刺激装置での筋肉トレーニングの有用性. 2021 年 4 月 8 日

高橋広城. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. ロボット支援手術時代の到来を見据えたロボット支援腹腔鏡下直腸切除術の導入. 2021 年 4 月 8 日

牛込 創. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. 大腸癌内視鏡不完全切除に対する外科的追加切除. 2021 年 4 月 8 日

Tsuboi K. Port placement and the role of assistant in robot-assisted laparoscopic liver resection. 第 33 回日本内視鏡外科学会. 2021 年 3 月 10 日

Tsuboi K. Ingenuity of treatment strategies and techniques for Mirizzi's syndrome. 第 32 回日本肝胆膵外科学会学術集会. 2021 年 2 月 23 日

坪井 謙. 肝切除におけるロボット支援手術と腹腔鏡手術の違い. 第 13 回日本ロボット外科学会学術集会. 2021 年 1 月 23 日

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1) Mizuno K, Muto M. **Preoperative evaluation of pleural adhesion in patients with lung tumors using four-dimensional computed tomography performed during natural breathing.** *Medicine*. **100(47)**: e27800, 2021.
- 2) Nakamura T, Asanuma K, Takao M, Yamanaka T, Koike H, Yoshikawa TFC, Tsukushi S, Kuroda H, Kozawa E, Sano M, Aiba H, Nakanishi R, Nagano A, Yamada K, Shido Y, Kawanami K, Izubuchi Y, Sudo A, Nishida Y. **Clinical outcome in soft tissue sarcoma patients with lung metastasis who received metastasectomy and/or radiofrequency ablation: Tokai Musculoskeletal Oncology Consortium study.** *Cancer Manag Res*. **13**: 8473-80, 2021.
- 3) Okuda K, Hattori H, Yokota K, Tatematsu T, Sakane T, Oda R, Matsui T, Nakanishi R. **Examination on the necessity of pericardial fat tissue resection in extended thymectomy for myasthenia gravis.** *Grand Surg*. **10(8)**: 2438-2444, 2021.
- 4) Yuan Z, Niu XM, Liu XM, Fu HC, Xue TJ, Koo CW, Okuda K, Yao F, Ye XD. **Use of diffusion-weighted magnetic resonance imaging (DW-MRI) to predict early response to anti-tumor therapy in advanced non-small cell lung cancer (NSCLC): a comparison of intravoxel incoherent motion-derived parameters and apparent diffusion coefficient.** *Transl Lung Cancer Res*. **10(8)**: 3671-3681, 2021.
- 5) Sakane T, Murase T, Okuda K, Masaki A, Nakanishi R, Inagaki H. **Expression of cancer testis antigens in thymic epithelial tumors.** *Pathol Int*. **71(7)**: 471-479, 2021.
- 6) Aiba H, Kimura H, Yamada S, Okamoto H, Hayashi K, Miwa S, Kawaguchi Y, Saito S, Sakai T, Tatematsu T, Nakanishi R, Murakami H. **Different patterns of pneumothorax in patients with soft tissue tumors treated with pazopanib: A case series analysis.** *PLOS ONE*. **16(7)**: e0254866, 2021.
- 7) Tatematsu T, Okuda K, Endo K, Hattori H, Matsui T, Oda R, Sakane T, Yokota K, Nakanishi R. **Type A thymoma with simultaneous solitary intrapulmonary metastasis: A case report.** *Thorac cancer*. **12(12)**: 1923-1926, 2021.
- 8) Shintani Y, Okami J, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Asamura H, Chida M, Date H, Endo S, Nagayasu T, Nakanishi R, Miyaoka E, Okumura M, Yoshino I; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. **Clinical features and outcomes of patients with stage I multiple primary lung cancers.** *Cancer Sci*. **112(5)**: 1924-1935, 2021.
- 9) Matsui T, Takahashi Y, Shirai S, Nakanishi K, Nakada T, Sakakura N, Haneda H, Okuda K, Nakanishi R, Kuroda H. **Comparison of surgical outcomes between thoracoscopic anatomical sublobar resection including and excluding subsegmentectomy.** *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. **69(5)**: 850-858, 2021.
- 10) Tatematsu T, Okuda K, Saito Y, Oda R, Sakane T, Yokota K, Endo K, Nakanishi R. **The usefulness of fluorodeoxyglucose-positron emission tomography as a preoperative diagnostic tool for thymic epithelial tumors.** *Gland Surg*. **10(2)**: 690-696, 2021.
- 11) Ma Q, Chen Y, Xiao F, Hao Y, Song Z, Zhang J, Okuda K, Um SW, Silva M, Shimada Y, Si C, Liang C. **A signature of estimate-stromal-immune score-based genes associated with the prognosis of lung adenocarcinoma.** *Transl Lung Cancer Res*. **10(3)**: 1484-

1500, 2021.

- 12) Takagi D, Morikawa Y, Kamei M, Ogino H, Iwata H, Maeda N, Akita N, Fukumoto T, Sasaki R, Kondo S. **The first pediatric case of sacral Ewing sarcoma treated with space-making particle therapy.** *Pediatr Blood Cancer.* **68(5)**: e28842, 2021.
- 13) Sakane T, Sakamoto Y, Masaki A, Murase T, Okuda K, Nakanishi R, Inagaki H. **Mutation Profile of Thymic Carcinoma and Thymic Neuroendocrine Tumor by Targeted Next-generation Sequencing.** *Clin Lung Cancer.* **22(2)**: 92-99, 2021.
- 14) Tomita N, Okuda K, Osaga S, Miyakawa A, Nakanishi R, Shibamoto Y. **Surgery versus stereotactic body radiotherapy for clinical stage I non-small-cell lung cancer: propensity score-matching analysis including the ratio of ground glass nodules.** *Clin Transl Oncol.* **23(3)**: 638-647, 2021.
- 15) Zhang J, Zhang L, Luo J, Ge T, Fan P, Sun L, Hou L, Li J, Yu H, Wu C, Zhu Y, Wu C, Jiang G, Tronccone G, Malhotra J, Okuda K, Santarpia M, Zamarchi R, Goto T, Cardona AF, Xu J, Chen Q, Zhang Z, Zhang P; written on behalf of the AME Lung Cancer Collaborative Group. **Comprehensive genomic profiling of combined small cell lung cancer.** *Transl Lung Cancer Res.* **10(2)**: 636-650, 2021.
- 16) Suda K, Mitsudomi T, Shintani Y, Okami J, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Asamura H, Chida M, Date H, Endo S, Nagayasu T, Nakanishi R, Miyaoka E, Okumura M, Yoshino I; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. **Clinical impacts of EGFR mutation status: Analysis of 5780 surgically resected lung cancer cases.** *Ann Thorac Surg.* **111(1)**: 269-76, 2021.

【和文業績】

- 1) 奥田 勝裕, 中西 良一, 横田 圭右, 立松 勉, 小田 梨紗, 松井 琢哉, 千馬 謙亮, 中村 龍二. **再発悪性胸膜中皮腫に対する治療.** *呼吸器内科.* **40(5)**: 501-207, 2021.
- 2) 中西 良一, 奥田 勝裕. **悪性胸膜中皮腫診療ガイドライン 2020～改訂のポイントと解説～.** *呼吸器内科.* **40(7)**: 84-88, 2021.
- 3) 中西 良一, 長谷川 誠紀, 浦本 秀隆, 奥田 勝裕, 岡部 和倫, 瀬戸 貴司, 青江 啓介, 岡本 浩明, 栗林 康造, 津端 由佳里, 藤本 伸一, 加藤 勝也, 木村 智樹, 澁谷 景子, 関戸 好孝, 武島 幸男, 鍋島 一樹, 芦澤 和人, 右田 孝雄, 渡邊 益孝. **第2部悪性胸膜中皮腫診療ガイドライン 2020年版 日本肺癌学会編「肺癌診療ガイドライン」2020年版.** 金原出版株式会社. 東京. 311-366, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	中西 良一	14(5)	11(3)	3(2)
准教授	奥田 勝裕	13(4)	10(3)	3(1)
講師	近藤 知史	1	1	0
講師	横田 圭右	4	3	1
講師	立松 勉	5(2)	4(2)	1

助教	高木 大輔	1(1)	1(1)	0
助教	小田 梨紗	4	3	1

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	水野 幸太郎	1(1)	1	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授(診療担当)	佐藤 陽子	0	0	0
教授(診療担当)	羽田 裕司	1	1	0
講師	坂根 理司	5(2)	5(2)	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

小田 梨紗. 名古屋市立大学病院. 2021年度優秀指導医賞. 令和4年3月25日

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

- 1: 高木 大輔. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和2年度-令和4年度、1,200千円
- 2: 立松 勉. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和2年度-令和4年度、1,100千円
- 3: 坂根 理司. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和2年度-令和4年度、1,300千円
- 4: 中西 良一. 治験研究費（小野薬品工業株式会社）. 令和3年度、22千円
- 5: 奥田 勝裕. 治験研究費（一般社団法人日本血液製剤機構）. 令和3年度、165千円
- 6: 奥田 勝裕. 研究助成金（コヴィディエンジャパン株式会社）. 令和3年度、420千円
- 7: 奥田 勝裕. 研究助成金（中外製薬株式会社）. 令和3年度、252千円

- 8: 中西 良一. 研究助成金 (第一三共株式会社). 令和 3 年度、840 千円
- 9: 奥田 勝裕. 研究助成金 (イーライリリー株式会社). 令和 3 年度、1,000 千円

【その他】

1) 学術集会開催

会長 中西 良一
第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
2021 年 6 月 24-25 日(名古屋国際会議場/WEB) ハイブリッド形式
参加者 会員 3,368 名、コメディカル・学生 19 名、気管支鏡セミナー1,523 名
(公益財団法人 大幸財団 第 38 回学会等開催助成より助成金 30 万円獲得)

2) 国内学会発表 (上級演題等)

1. 奥田勝裕, 横田圭右, 立松 勉, 坂根理司, 小田梨紗, 中西良一. 第 33 回日本内視鏡外科学会総会. ワークショップ 7「胸腔鏡下肺癌手術におけるリスクマネージメント」Techniques for encircling the left and right pulmonary artery trunk under VATS. 2021 年 3 月 10-13 日(横浜/WEB)
2. 中西良一, 奥田勝裕, 横田圭右, 立松 勉, 坂根理司, 小田梨紗. 第 33 回日本内視鏡外科学会総会. シンポジウム 14「呼吸器外科領域における胸腔鏡手術の進歩」(基調講演)肺癌・縦隔腫瘍に対する胸腔鏡手術の進歩. 2021 年 3 月 10-13 日(横浜/WEB)
3. 奥田勝裕, 小田梨紗, 坂根理司, 立松 勉, 横田圭右, 中西良一. 第 121 回日本外科学会定期学術集会. パネルディスカッション 08「III 期胸腺腫に対する私の手術法」III 期胸腺腫に対する剣状突起下アプローチ胸腔鏡下手術の有用性. 2021 年 4 月 8-10 日 (WEB 開催)
4. 奥田勝裕, 横田圭右, 立松 勉, 坂根理司, 小田梨紗, 中西良一. 第 299 回東海外科学会. 特別シンポジウム「ロボット手術の最前線」. 2021 年 4 月 18 日(名古屋)
5. 中西良一. 第 61 回日本呼吸器学会学術集会. 肺癌登録事業の年次報告: 新たな事業に向けて(肺癌登録合同委員会). 2021 年 4 月 23-25 日(東京/WEB)
6. 中西良一. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会. パネルディスカッション 1「呼吸器外科におけるトランスレーショナルリサーチの最前線」肺悪性腫瘍の HLA 遺伝子多型による疾患感受性と免疫応答の個体差形成メカニズムの解明. 2021 年 5 月 20-21 日 (WEB 開催)
7. 中西良一. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会. ビデオワークショップ 特別発言 (気管・気管支再建術). 2021 年 5 月 20-21 日 (WEB 開催)
8. 中西良一. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会. 肺癌登録事業の年次報告: 新たな研究の展開(肺癌登録合同委員会). 2021 年 5 月 20-21 日 (WEB 開催)
9. 中西良一. 第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. <会長講演>恩師の教育から学んだこと. 2021 年 6 月 24-25 日(名古屋/WEB)
10. 小田梨紗, 奥田勝裕, 横田圭右, 立松 勉, 坂根理司, 中西良一. 第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. ワークショップ 3「リンパ節郭清(選択郭清と標準郭清)」当科における臨床病期 I 期肺癌の縦隔リンパ節郭清範囲による成績. 2021 年 6 月 24-25 日(名古屋/WEB)
11. 中西良一. 第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 肺癌登録合同委員会報告.

2021年6月24-25日(名古屋/WEB)

12. 奥田勝裕, 松井琢哉, 小田梨紗, 坂根理司, 立松 勉, 横田圭右, 中西良一. 第44回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. ワークショップ 7「低侵襲手術の適応と限界: VATS vs RATS」進行肺がんにおける VATS と RATS の適応と限界. 2021年6月24-25日(名古屋/WEB)
13. 奥田勝裕, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 中西良一. 第74回日本胸部外科学会定期学術集会. パネルディスカッション呼吸器 1「胸腺上皮性腫瘍に対する手術アプローチ」胸腺上皮性腫瘍に対する安全な低侵襲手術アプローチ. 2021年10月31-11月3日(東京/WEB)
14. 奥田勝裕, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 中西良一. 第74回日本胸部外科学会定期学術集会. Debate 呼吸器 1「小型肺癌に対する治療 手術 vs 定位放射線治療 (SBRT)」臨床病期 IA 期肺腺癌に対する外科切除治療と体幹部定位放射線治療の予後に関する傾向スコアマッチングを用いた比較検討. 2021年10月31-11月3日(東京/WEB)
15. 中西良一. 第62回日本肺癌学会学術集会. 教育講演 6 悪性胸膜中皮腫の治療. 2021年11月26-28日(横浜/WEB)
16. 中西良一. 第62回日本肺癌学会学術集会. 学術委員会企画シンポジウム 1「小型肺癌の標準治療はどう変わる?」臨床病期 IA 期の画像的浸潤型肺癌に対する縮小切除の意義: 肺癌登録合同委員会データベース研究. 2021年11月26-28日(横浜/WEB)
17. 中西良一. 第62回日本肺癌学会学術集会. 肺癌登録合同委員会報告 肺癌登録事業報告: 新たな研究の展開. 2021年11月26-28日(横浜/WEB)
18. 横田圭右, 奥田勝裕, 立松 勉, 小田梨紗, 中西良一. 第62回日本肺癌学会学術集会. シンポジウム 7「開胸手術を学び直そう」中堅呼吸器外科医が考える開胸手術の手技とその継承. 2021年11月26-28日(横浜/WEB)
19. 中西良一, 奥田勝裕, 横田圭右, 立松 勉, 小田梨紗. 第34回日本内視鏡外科学会総会. パネルディスカッション 12「胸腔鏡手術の教育と技術評価」本学における胸腔鏡手術の教育と技術評価. 2021年12月2-4日(神戸/オンデマンド)
20. 横田圭右, 奥田勝裕, 立松 勉, 小田梨紗, 中西良一. 第34回日本内視鏡外科学会総会. 領域横断シンポジウム 8「ロボット支援手術の教育をどうするか? 施設での工夫」当科におけるロボット支援下胸腔鏡手術 (RATS) に対する教育の現状. 2021年12月2-4日(神戸/オンデマンド)
21. 立松 勉, 奥田勝裕, 横田圭右, 小田梨紗, 中西良一. 第34回日本内視鏡外科学会総会. ワークショップ 16「縦隔腫瘍に対するロボット支援手術のコツとピットフォール」当院におけるロボット支援胸腔鏡下前縦隔腫瘍手術の工夫. 2021年12月2-4日(神戸/オンデマンド)
22. 奥田勝裕, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 中西良一. 第34回日本内視鏡外科学会総会. 領域横断シンポジウム 21「ロボット支援手術における team building (医師・メディカルスタッフそれぞれの立場から)」当院呼吸器外科でのロボット支援手術に対するチームビルディングの取り組み. 2021年12月2-4日(神戸/オンデマンド)

3) 主要な国内学会活動の参加状況

- 1: 中西 良一.
日本外科学会. 代議員, CaseReport 誌編集委員会委員
日本呼吸器外科学会. 評議員, 総合教育委員会手術教育部会部員, 東海・北陸相互支援ブロック責任者, 愛知県責任者, 日本医療安全調査機構東海・北陸ブロック推薦担当者
日本肺癌学会. 理事, 評議員, データベース委員, 肺癌登録合同委員会委員, ガイド

ライン統括検討委員会委員、ガイドライン/胸膜中皮腫小委員会委員長
日本胸部外科学会. 評議員、2021年度会誌編集委員会委員
日本呼吸器内視鏡学会. 理事、監事、第44回学術集会会長、評議員資格審査委員会委員長、総務委員
日本内視鏡外科学会. 評議員
関西胸部外科学会学会. 理事、評議員

2：奥田 勝裕.
日本呼吸器外科学会学会. 評議員
日本肺癌学会. 胸膜中皮腫小委員会委員
日本呼吸器内視鏡学会. 評議員、評議員資格審査委員会委員
関西胸部外科学会学会. 評議員

3：近藤 知史.
日本小児外科学会. 評議員

4：横田 圭右.
日本呼吸器外科学会学会. 評議員
関西胸部外科学会学会. 評議員

5：立松 勉.
日本呼吸器外科学会学会. 評議員
関西胸部外科学会学会. 評議員

6：高木 大輔.
日本小児外科学会. 評議員

7：小田 梨紗.
日本呼吸器内視鏡学会. 評議員

8：水野 幸太郎.
日本呼吸器外科学会学会. 評議員
日本呼吸器内視鏡学会. 評議員

9：佐藤 陽子.
日本小児外科学会. 評議員

10：羽田 裕司.
日本呼吸器外科学会学会. 評議員
日本呼吸器内視鏡学会. 評議員
日本内視鏡外科学会. 評議員
関西胸部外科学会学会. 評議員

<研究活動実績>

【欧文業績】

Ando R, Nagaya T, Suzuki S, Takahashi H, Kawai M, Taguchi K, Hamamoto S, Okada A, Yasui T. **Independent and interactive effects of kidney stone formation and conventional risk factors for chronic kidney disease: a follow-up study of Japanese men.** *Int Urol Nephrol.* **53(6):** 1081-1087, 2021.

Inoue T, Okada S, Hamamoto S, Miura H, Matsuzaki J, Tambo M, Fukuhara H, Fujisawa M, Matsuda T, Nutahara K. **Evaluation of flexible ureteroscope with an omni-directional bending tip, using a JOYSTICK unit (URF-Y0016): an ex-vivo study.** *World J Urol.* **39(1):** 209-215, 2021.

Klionsky DJ, Abdel-Aziz AK, Abdelfatah S, Unno R, Yasui T, et.al. **Guidelines for the Use and Interpretation of Assays for Monitoring Autophagy (4th edition).** *Autophagy.* **17(1):** 1-382, 2021.

Suzuki S, Cohen SM, Arnold LL, Pennington KL, Gi M, Kato H, Naiki T, Naiki-Ito A, Wanibuchi H, Takahashi S. **Cell proliferation of rat bladder urothelium induced by nicotine is suppressed by the NADPH oxidase inhibitor, apocynin.** *Toxicol Lett.* **336:** 32-38, 2021.

Naiki T, Nagai T, Sugiyama Y, Etani T, Nozaki S, Iida K, Noda Y, Shimizu N, Isobe T, Matsumoto D, Kubota H, Hamamoto S, Ando R, Kawai N, Yasui T. **First Report of Oncological Outcome and Prognostic Analysis in a First-Line Setting of Short Hydration Gemcitabine and Cisplatin Chemotherapy for Patients with Metastatic Urothelial Carcinoma.** *Oncology.* **99(10):** 622-631, 2021.

Tamura K, Ando R, Takahara K, Ito T, Kanao K, Yasui T, Shiroki R, Miyake H. **Development of novel ACN (albumin, C-reactive protein and neutrophil-to-lymphocyte ratio) prognostication model for patients with metastatic renal cell carcinoma receiving first-line molecular-targeted therapy.** *Urol Oncol.* **39(1):** 78.e1-78.e8, 2021.

Kato T, Mizuno K, Nishio H, Yasui T, Hayashi Y. **Urodynamic effectiveness of a beta-3 adrenoreceptor agonist (vibegron) for a pediatric patient with anticholinergic-resistant neurogenic detrusor overactivity: a case report.** *J Med Case Rep.* **15(1):** 86, 2021.

Inoue T, Okada S, Hamamoto S, Fujisawa M. **Retrograde intrarenal surgery: Past, present, and future.** *Investig Clin Urol.* **62:** 121-135, 2021.

Taguchi K, Hamamoto S, Kato T, Iwatsuki S, Etani T, Okada A, Yasui T. **Robot-assisted fluoroscopy-guided renal puncture for endoscopic combined intrarenal surgery: a pilot single-centre clinical trial.** *BJU Int.* **127(3):** 307-310, 2021.

Taguchi K. **Editorial Comment from Dr Taguchi to Endoscopic lithotripsy with a SuperPulsed thulium-fiber laser for ureteral stones: A single-center experience.** *Int J Urol.* **28(3):** 266-267, 2021.

Ota Y, Hamamoto S, Matsuyama N, Hamakawa T, Iwatsuki S, Etani T, Taguchi K, Naiki T, Ando R, Nakane A, Okada A, Kawai N, Kubota Y, Yasui T. **Pelvic Anatomical Features After Retzius-Sparing Robot-Assisted Radical Prostatectomy Intended for Early Recovery of Urinary Symptoms.** *J Endourol.* **35(3):** 296-304, 2021.

Taguchi K, Hamamoto S, Osaga S, Sugino T, Unno R, Ando R, Okada A, Yasui T. **Comparison of antegrade and retrograde ureterolithotripsy for proximal ureteral stones: a systematic review and meta-analysis.** *Transl Androl Urol.* **10(3):** 1179-1191, 2021.

Isobe T, Naiki T, Naiki-Ito A, Kawai T, Etani T, Nagai T, Nozaki S, Kobayakawa Y, Iwatsuki S, Matsuyama N, Kato H, Kawai N, Yasui T. **Rare case of immunoglobulin G4-related disease arising in gonadal glands with long-term remission without steroid treatment: Discussion and literature review.** *IJU Case Reports.* **4(3)**: 188-191, 2021.

Iwatsuki S, Hamamoto S, Shimizu N, Naiki T, Okada A, Kawai N, Tozawa K, Yasui T. **Trocar site hernia resulting in intestinal necrosis 48 hours after robot-assisted radical prostatectomy.** *IJU Case Reports.* **4(3)**: 180-183, 2021.

Morino T, Kawai N, Yasui T. **Significance of Category Classification of Novel Medical Products Originated from Japanese Academic Researches with Regards to Its Industrialization.** *Thermal Med.* **37(1)**: 25-29, 2021.

Nagai T, Naiki T, Etani T, Iida K, Noda Y, Shimizu N, Isobe T, Nozaki S, Okamura T, Ando R, Kawai N, Yasui T. **UroVysion fluorescence in situ hybridization in urothelial carcinoma: a narrative review and future perspectives.** *Transl Androl Urol.* **10(4)**: 1908-1917, 2021.

Etani T, Asaoka M, Kondo S, Wachino C, Hori K, Shimizu N, Noda Y, Nagai T, Nozaki S, Iida K, Naiki T, Ando R, Kawai N, Yanagita T, Nakamura A, Yasui T. **Efficacy of fosfomycin in the prevention of postoperative infection following transurethral resection of bladder tumor during periods of limited cefazolin, cefotiam, and cefmetazole supply.** *J Infect Chemother.* **27(4)**: 625-631, 2021.

Mizutani K, Ito T, Takahara K, Ando R, Ishihara T, Yasui T, Shiroki R, Miyake H, Koie T. **Frequency of pre-treatment may not increase the immune-related adverse events of RCC patients treated with nivolumab.** *Medicine (Baltimore).* **100(13)**: e25402, 2021.

Shimohira M, Nagai K, Ohta K, Sawada Y, Naiki T, Nagai T, Yasui T, Shibamoto Y. **Use of microspheres in embolization for unruptured renal angiomyolipomas.** *Open Med (Wars).* **16(1)**: 655-659, 2021.

Maruyama T, Mizuno K, Nishio H, Kato T, Hamakawa T, Ikegami Y, Yasui T, Hayashi Y. **Antireflux endoscopic injection therapy in post-pubertal patients via techniques adopted for the dilated ureteral orifice: a retrospective single-center study.** *BMC Urol.* **21(1)**: 70, 2021.

Taguchi K, Okada A, Unno R, Hamamoto S, Yasui T. **Macrophage Function in Calcium Oxalate Kidney Stone Formation: A Systematic Review of Literature.** *Front Immunol.* **12**: 673690, 2021.

Okada S, Hamamoto S, Inoue T, Minagawa S, Morikawa H, Matsuda T, Miura H. **One-versus two-surgeon active stone retrieval procedures for flexible ureteroscopy: An off-site simulator comparative study.** *Int J Urol.* **28(6)**: 665-671, 2021.

Subhawat S, Naiki-Ito A, Kato H, Naiki T, Komura M, Nagano-Matsuo A, Ranchana Y, Inaguma S, Teera C, Ratana B, Takahashi S. **Suppressive Effect and Molecular Mechanism of *Houttuynia cordata* Thunb. Extract against Prostate Carcinogenesis and Castration-Resistant Prostate Cancer.** *cancers.* **13(14)**: 3403, 2021.

Nagai T, Mogami T, Takeda T, Tomiyama N, Yasui T. **A case of secondary adrenocortical insufficiency due to isolated adrenocorticotrophic hormone deficiency with empty sella syndrome after pembrolizumab treatment in a patient with metastatic renal pelvic cancer.** *Urol Case Rep.* **39**: 101766, 2021.

Zhu D, Zhang L, Shi X, Gao S, Yue C, Zhang L, Bai Y, Wang Q, Okada A, Yasui T, Wang C, Cui X, Zuo L. **RNF43 is a Novel Tumor Suppressor and Prognostic Indicator in Clear Cell Renal Cell Carcinoma.** *Oncol Res.* **29(3)**: 159-174, 2021.

Isobe T, Matsui K, Ishioka K, Mochida Y, Moriya H, Hidaka S, Ohtake T, Etani T, Yasui T,

Kobayashi S. **Recurrent hemorrhagic shock from hemorrhagic cystitis due to neurogenic bladder.** *IJU Case Rep.* **4(6)**: 379-381, 2021.

Sugino T, Taguchi K, Hamamoto S, Okada T, Isogai M, Tanaka Y, Unno R, Fujii Y, Hamakawa T, Ando R, Okada A, Yasui T. **Risk Factors for Failure of Endoscopic Management of Stone-related Ureteral Strictures.** *Urol J.* **19(2)**: 95-100, 2021.

Tanaka Y, Maruyama M, Okada A, Furukawa Y, Momma K, Sugiura Y, Tajiri R, Sawada KP, Tanaka S, Takano K, Taguchi K, Hamamoto S, Ando R, Tsukamoto K, Yoshimura M, Mori Y, Yasui T. **Multicolor imaging of calcium-binding proteins in human kidney stones for elucidating the effects of proteins on crystal growth.** *Sci Rep.* **11(1)**: 16841, 2021.

Taguchi K, Yamashita S, Hamamoto S, Deguchi R, Kawase K, Okada T, Kato T, Ando R, Okada A, Kohjimoto Y, Hara I, Yasui T. **Ureteroscopy-assisted puncture for ultrasonography-guided renal access significantly improves overall treatment outcomes in endoscopic combined intrarenal surgery.** *Int J Urol.* **28(9)**: 913-919, 2021.

Nagai T, Naiki T, Isobe T, Sugiyama Y, Etani T, Iida K, Nozaki S, Noda Y, Shimizu N, Tasaki Y, Mimura Y, Banno R, Kubota H, Hamamoto S, Kawai N, Yasui T. **Modified Glasgow Prognostic Score 2 as a Prognostic Marker in Patients With Metastatic Urothelial Carcinoma.** *In Vivo.* **35(5)**: 2793-2800, 2021.

Unno R, Taguchi K. **Family History Influences Kidney Stone Risk.** *Renal & Urology News.* PD14-11, 2021.

Okada A, Matsumoto T, Ohshima H, Isomura T, Koga T, Yasui T, Kohri K, LeBlanc A, Spector E, Jones J, Shackelford L, Sibonga J. **Bisphosphonate Use May Reduce the Risk of Urolithiasis in Astronauts on Long-Term Spaceflights.** *JBMR Plus.* **6(1)**: e10550, 2021.

Taguchi K. **Editorial Comment to Impact of differential ureteral stent diameters on clinical outcomes after ureteroscopy intracorporeal lithotripsy: A systematic review and meta-analysis.** *Int J Urol.* **28(10)**: 1000, 2021.

Nishio H, Mizuno K, Kato T, Maruyama T, Yasui T, Hayashi Y. **A case of posterior urethral valve identified in an older child by straining to void.** *Urol Case Rep.* **40**: 101886, 2021.

Shimizu N, Naiki T, Kobayashi D, Naiki-Ito A, Kawai T, Xiaochen K, Etani T, Nozaki S, Tomiyama N, Aoki M, Matsuyama N, Iwatsuki S, Umemoto Y, Yasui T. **Testicular seminoma arising from infertile testes 6 years after microdissection testicular sperm extraction.** *IJU Case Reports.* **5(1)**: 53-56, 2021.

Hamamoto S, Okada S, Inoue T, Taguchi K, Kawase K, Okada T, Chaya R, Hattori T, Okada A, Matsuda T, Yasui T. **Comparison of the safety and efficacy between the prone split-leg and Galdakao-modified supine Valdivia positions during endoscopic combined intrarenal surgery: A multi-institutional analysis.** *Int J Urol.* **28(11)**: 1129-1135, 2021.

Thongboonkerd V, Yasui T, Khan SR. **Editorial: Immunity and Inflammatory Response in Kidney Stone Disease.** *Front Immunol.* **12**: 795559, 2021.

Unno R, Taguchi K, Hamamoto S, Hattori T, Kawase K, Okada T, Chaya R, Tanaka Y, Sugino T, Kato T, Etani T, Ando R, Okada A, Yasui T. **A novel approach in creating nephrostomy using a double-lumen access sheath during endoscopic combined intrarenal surgery.** *Transl Androl Urol.* **10(11)**: 4181-4191, 2021.

Ota Y, Kubota Y, Hotta Y, Matsumoto M, Matsuyama N, Kato T, Hamakawa T, Kataoka T, Kimura K, Sawamoto K, Yasui T. **Change in the central control of the bladder function of rats with focal cerebral infarction induced by photochemically-induced thrombosis.** *PLoS One.* **16(11)**: e0255200, 2021.

Nishio H, Mizuno K, Matsumoto D, Kato T, Kamisawa H, Kurokawa S, Nakane A, Maruyama T, Yasui T, Hayashi Y. **A novel method of transvesicoscopic ureteral reimplantation of an ectopic ureter with a mate ureter in a duplex kidney.** IJU Case Reports. **5(2)**: 132-135, 2021.

Hamamoto S, AbdelRazek M, Naiki T, Taguchi K, Etani T, Iwatsuki S, Ando R, Okada A, Kawai N, Yasui T. **LigaSure versus the standard technique (Hem-o-lok clips) for robot-assisted radical prostatectomy: a propensity score-matched study.** J Robot Surg. **15(6)**: 869-875, 2021.

Okada T, Hamamoto S, Taguchi K, Okada S, Inoue T, Fukuta H, Chew BH, Penniston K, Okada A, Yasui T. **Validation of the Japanese Version of The Wisconsin Stone Quality of Life Questionnaire: Results from SMART Study Group.** J Endourol. **35(12)**: 1852-1856, 2021.

Kato R, Kojima T, Sazuka T, Yamamoto H, Fukuda S, Yamana K, Sugino Y, Hamamoto S, Nakagawa N, Kabu K, Murakami H, Obara W. **A Multicentre Retrospective Study of Nivolumab Plus Ipilimumab for Untreated Metastatic Renal Cell Carcinoma.** Anticancer Res. **41(12)**: 6199-6209, 2021.

Torii K, Ikegami Y, Aoki M, Kato T, Hamakawa T, Maruyama T, Yasui T. **Status epilepticus in a patient with intractable epilepsy caused by renal colic due to a ureter stone.** IJU Case Rep. **5(2)**: 85-87, 2021.

【和文業績】

安井 孝周. **男性不妊.** 今日の治療指針 2021. **63**: 1250-1251, 2021.

賀本 敏行、安井 孝周、武中 篤、大家 基嗣. **【National Clinical Database の現状】泌尿器科での NCD について(解説).** 泌尿器外科. **34(1)**: 16-20, 2021.

戸澤 啓一、水野 健太郎、林 祐太郎、安井 孝周. **腎盂尿管移行部通過障害に対するロボット支援腎盂形成術.** Urology Today. **28(1)**: 27-31, 2021.

水野 健太郎、西尾 英紀、林 祐太郎、松本 大輔、中根 明宏、神沢 英幸、黒川 覚史、加藤 大貴、丸山 哲史. **(特集 小児泌尿器診療のトレンド) Key point lecture) 急性陰嚢症の診療.** 泌尿器科. **13(2)**: 135-148, 2021.

林 祐太郎、西尾 英紀、水野 健太郎、松本 大輔、中根 明宏、神沢 英幸、黒川 覚史、加藤 大貴、丸山 哲史. **(特集 小児泌尿器診療のトレンド) Key point lecture 5) 小児泌尿器科腫瘍の診療.** 泌尿器科. **13(2)**: 165-178, 2021.

戸澤 啓一、水野 健太郎、林 祐太郎、安井 孝周. **腎盂尿管移行部通過障害に対するロボット支援腎盂形成術.** Urology Today. **28(1)**: 27-31, 2021.

水野 健太郎、西尾 英紀、黒川 覚史、加藤 大貴、神沢 英幸、中根 明宏、丸山 哲史、戸澤 啓一、岡田 淳志、瀧本 周造、安井 孝周、林 祐太郎. **【泌尿器科領域のロボット手術の新しい展開】RALPY ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術の現状と今後の展開(解説).** 泌尿器科. **13(3)**: 305-310, 2021.

田口 和己、安井 孝周. **【病気とくすり 2021 基礎と実践 Expert's Guide】泌尿器系・生殖器系の病気とくすり 尿路結石(解説).** 病気とくすり 2021 基礎と実践. **72(4)**: 1181-1185, 2021.

安井 孝周. **尿路結石症 (第Ⅱ編 尿路・性器の主要疾患 第13章).** 標準泌尿器科学. **10**: 189-204, 2021.

安井 孝周. **尿路内視鏡手術と体外手術 (第Ⅲ編 泌尿器科の主な手術 第18章).** 標準泌

尿器科学. 10: 288-292, 2021.

濱本 周造、河瀬 健吾、安井 孝周. 【斜に構えて尿路結石を切る!-必ず遭遇するイレギュラーケースにどう対処するか?】疾患に応じた対処 尿路奇形に合併した尿路結石(解説). 臨床泌尿器科. 75(3): 206-211, 2021.

杉野 輝明、濱本 周造、海野 怜、田口 和己、安藤 亮介、岡田 淳志、安井 孝周. 尿管狭窄に対するレーザー切開術およびバルーン拡張術後に 2 本の尿管ステントを留置する術式の有用性. Japanese Journal of Endourology. 34(1): 112-117, 2021.

黒川 覚史、水野 健太郎、野崎 哲史、西尾 英紀、戸澤 啓一、安井 孝周、林 祐太郎. 【腹腔鏡下腎盂形成術:適応の拡大と将来展望】ロボット支援腎盂形成術 市中病院における導入の経験(解説). Japanese Journal of Endourology. 34(1): 49-54, 2021.

岩月 正一郎、武田 知樹、野崎 哲史、梅本 幸裕、安井 孝周. テストステロン補充療法は生活習慣病のアウトカムを改善するか?. 泌尿器科. 13(4): 442-446, 2021.

濱川 隆、梅本 幸裕、安井 孝周. 【泌尿器科当直医マニュアル】入院編 術後合併症 TUR 症候群(解説). 臨床泌尿器科. 75(4): 203-206, 2021.

濱本 周造、安井 孝周. 【経尿道的手術と術前術後管理-心構えから手技まで-】(chapter 2)経尿道的手術の実際 経尿道的上部尿路腫瘍生検術(解説). 泌尿器 Care&Cure Uro-Lo. 26(2): 249-256, 2021.

海野 怜、安井 孝周. 尿路結石. 最新ガイドラインに基づく 腎・透析診療指針 2021-22. 259-264, 2021.

安井 孝周. 解説 第 7 章 国際交流・貢献. 令和 2 年度 (2020 年) 我が国の医学部・医科 天学白書 2020. 618, 2021.

岡田 淳志、大橋 一也、杉本 真樹、谷口 直嗣、林 知樹、野田 祐介、岡田 朋記、茶谷 亮輔、河瀬 健吾、永井 隆、加藤 大貴、田口 和己、濱本 周造、安藤 亮介、戸澤 啓一、安井 孝周. 腎結石手術における virtual reality 穿刺シミュレーション. 泌尿器科. 14(2): 221-225, 2021.

恵谷 俊紀. 泌尿器科専門医のための模擬テスト 20. 泌尿器科. 14(2): 276, 2021.

安藤 亮介、安井 孝周. 肥満と尿路結石. 肥満研究(総説企画). 27(2): 79-83, 2021.

水野 健太郎、西尾 英紀、林 祐太郎、黒川 覚史、中根 明宏、丸山 哲史、戸澤 啓一、安井 孝周. 【これから始めるロボット支援下腎盂形成術】ロボット支援下腎盂形成術 小児例のテクニカルポイント(解説). J Urol. 34(2): 246-251, 2021.

恵谷 俊紀. 泌尿器科専門医のための模擬テスト 20-回答と解説-. 泌尿器科. 14(3): 385-387, 2021.

恵谷 俊紀、安井 孝周. 【尿路性器感染症 治療・管理・再発防止のトピックス】(chapter 2)尿路性器感染症 腎膿瘍. 泌尿器 Care&Cure Uro-Lo. 26(5): 658-662, 2021.

濱本 周造、河瀬 健吾、田口 和己、岡田 淳志、安井 孝周. 小児腎結石への適応と実践. 泌尿器外科. 34(臨時増刊): 720-721, 2021.

河合 憲康. 「ハイパーサーミア」の可能性-東海からの挑戦-. 「がん難民」をつくらないために標準治療+統合医療でがんを克つ(特集). 163: 24-27, 2021.

岡田 淳志、磯谷 正彦、茶谷 亮輔、岡田 朋記、服部 竜也、河瀬 健吾、田中 勇太郎、杉野 輝明、海野 怜、加藤 大貴、藤井 泰普、田口 和己、新美 和寛、廣瀬 泰彦、小林 隆宏、濱本 周造、宇佐美 雅之、広瀬 真仁、安藤 亮介、伊藤 靖彦、戸澤 啓一、郡 健二郎、安井 孝周. 尿路結石を科学する-未来の結石治療に向かって- 「基礎研究」から科学する.

日本尿路結石症学会誌. 20(2): 27-36, 2021.

安藤 亮介、杉野 輝明、海野 怜、藤井 泰普、田口 和己、濱本 周造、岡田 淳志、安井 孝周. 生活習慣と尿路結石. 泌尿器科. 14(6): 657-665, 2021.

杉野 輝明、海野 怜、田口 和己、濱本 周造、安藤 亮介、岡田 淳志、安井 孝周. 褐色脂肪細胞と尿路結石. 泌尿器科. 14(6): 718-724, 2021.

中根 明宏. 泌尿器科専門医のための模擬テスト 24. 泌尿器科. 14(6): 771-772, 2021.

野崎 哲史、安井 孝周. 11 処置（上部：腎瘻，尿管ステント）. 泌尿器外科 後期研修医がおさえておきたい泌尿器疾患 TOP30 2021. 34(特別号): 102-105, 2021.

田中 勇太郎、安井 孝周. 10 尿路結石症. 泌尿器外科 後期研修医がおさえておきたい泌尿器疾患 TOP30 2021. 34(特別号): 211-221, 2021.

濱本 周造. 腎盂・尿管疾患の超音波画像診断. 泌尿器 Care&Cure Uro-Lo. 26(6): 72-77, 2021.

大平 伸、清水 真次郎、福元 和彦、永井 敦、小谷 俊一、川西 泰夫、天野 俊康、内田 洋介、岩佐 厚、木村 将貴、小林 皇、小堀 善友、松下一仁、市川 考治、今井 伸、梅本 幸裕、黒部 匡広. 勃起障害に対する Prostaglandin E 陰茎海綿体自己注射の他施設共同臨床試験. 日本性機能学会雑誌. 36(3): 131-141, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	安井 孝周	61(48)	35(25)	26(23)
准教授	河合 憲康	10(1)	9	1(1)
准教授	岡田 淳志	22(3)	15(1)	7(2)
講師	濱本 周造	28(6)	19(2)	9(4)
講師	内木 拓	12(1)	12(1)	0
講師	田口 和己	22(7)	15(6)	7(1)
講師	恵谷 俊紀	14(4)	11(1)	3(3)
助教	岩月 正一郎	7(2)	6(1)	1(1)
教授(地域医療教育研究センター)	安藤 亮介	19(3)	13(1)	6(2)
准教授(地域医療教育研究センター)	中根 明宏	7(1)	2	5(1)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
部長	丸山 哲司	8(3)	4(1)	4(2)
講師	池上 要介	2	2	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
部長	梅本 幸裕	4	1	3
講師	濱川 隆	6(1)	5	1(1)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

岩月 正一郎. 日本小児泌尿器科学会. 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 会長奨励賞. 『小児期の精索静脈瘤の手術は妊孕性を改善するか?～キャッチ・アップ・グロースの縦断的解析～』, 令和3年7月

濱本 周造. 日本尿路結石症学会. 日本尿路結石症学会第31回学術集会. 日本尿路結石症学会第24回奨励賞臨床研究部門. 日本語版-尿路結石特異的 QOL アンケート (J-WISQOL) 確立と尿路結石患者における周術期 QOL の解析, 令和3年8月

田口 和己. 公益社団法人日本医師会. 日本医師会医学研究奨励賞. ナノ粒子誘導マクロファージによる結晶貪食能を利用した尿路結石の溶解治療の開発, 令和3年11月

田口 和己. 日本泌尿器内視鏡学会. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会. 第22回総会賞ビデオ部門. AI搭載ロボット支援透視下腎穿刺の開発と ECIRS における超音波ガイドとの比較, 令和3年11月

濱本 周造. 日本泌尿器内視鏡学会. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会. 第12回日本泌尿器内視鏡学会賞. Prospective evaluation and classification of endoscopic findings for ureteral calculi (尿管結石介在部における尿管内視鏡所見の分類法の確立), 令和3年11月

【外部資金獲得実績】 (科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載)

安井 孝周. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 B・分担). 令和3年度-令和6年度、400千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和3年度-令和5年度、300千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和3年度-令和7年度、195千円

河合 憲康. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和3年度-令和5年度、300千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和3年度-令和5年度、300千円

千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 7 年度、195 千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、300 千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 7 年度、195 千円

内木 拓. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、1,350 千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、300 千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 7 年度、195 千円

惠谷 俊紀. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、300 千円

岩月 正一郎. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、300 千円

中根 明宏. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、300 千円

中根 明宏. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、300 千円

丸山 哲史. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、2000 千円

丸山 哲史. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、300 千円

梅本 幸裕. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、300 千円

濱川 隆. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、2,300 千円

岩月 正一郎. 研究助成金 (公益財団法人 大幸財団 2021 年度(第 36 回)海外学術交流研究助成). 令和 3 年度、150 千円

安井 孝周. 研究助成金 (公益財団法人 大幸財団 2021 年度(第 38 回)学会等開催助成). 令和 3 年度、130 千円

岡田 淳志. 研究助成金 (一般社団法人 日本泌尿器内視鏡学会 ロボット支援手術研究助成 A). 令和 3 年度、1,000 千円

濱本 周造. 研究助成金 (一般社団法人 日本泌尿器内視鏡学会 ロボット支援手術研究助成 B). 令和 3 年度、500 千円

内木 拓. 研究助成金 (公益財団法人 武田科学振興財団 研究助成). 令和 3 年度、2,000 千円

岩月 正一郎. 研究助成金 (公益財団法人 大幸財団 令和 3 年度研究助成). 令和 3 年度、78 千円

田口 和己. 研究助成金 (公益財団法人 堀科学芸術振興財団 研究助成). 令和 3 年度、1,000 千円

濱本 周造. 研究助成金 (公益財団法人 豊秋奨学会 2021 年度海外渡航旅費助成). 令和 3 年度、200 千円

田口 和己. 研究助成金 (公益財団法人 日東学術振興財団 研究助成). 令和 3 年度、1,000 千円

内木 拓. 研究助成金 (公益財団法人 堀科学芸術振興財団 研究助成). 令和 3 年度、1,000 千円

【その他】

・その他研究費

安井 孝周. 令和 2 年度特別研究奨励費 (国際的教育研究活動支援). 令和 3 年度、500 千円

濱本 周造. 令和 3 年度特別研究奨励費 (科学研究費獲得活性化事業). 令和 3 年度、600 千円

田口 和己. 令和 3 年度特別研究奨励費 (科学研究費獲得活性化事業). 令和 3 年度、825 千円

池上 要介. 令和 3 年度特別研究奨励費 (科学研究費獲得活性化事業). 令和 3 年度、248 千円

・新聞・広報誌等の掲載

安井 孝周. ご存知ですか? 「前立腺がん」のこと～知っておきたい正しい知識と最新の診断と治療～. 朝日新聞. 日刊(2021. 1. 13)49953(13):11, 2021.

安藤 亮介. 尿失禁 ためらわずに受診を. 日本農業新聞. 日刊(2021. 2. 4):6, 2021.

田口 和己、安井 孝周、郡 健二郎. 新常态で光る技術・知恵、病院でロボット活躍—素早く PCR 検査、遠隔手術も—. 日経新聞. 2021. 6. 25:11, 2021.

恵谷 俊紀. 前立腺がん 最新の診断と治療法. ローズ(中日新聞). 256(7月号):3, 2021.

梅本 幸裕、濱川 隆. 西部医療センター「泌尿器科」特集. 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(地域医療連携 NEWS). 8月号:1-3, 2021.

安井 孝周. 尿路結石の溶解療法を目指して. 内藤財団時報. 108:68, 2021.

梅本 幸裕、濱川 隆、磯谷 正彦. 西部医療センター 地域医療連携 NEWS. 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(地域医療連携 NEWS). 10月号:2, 2021.

岡田 淳志. 尿路結石予防に骨粗しょう症薬 —一般向けに応用も 名市大など、ISS で究明—. 中日新聞. 日刊(2021. 11. 24):23, 2021.

安井 孝周. ダヴィンチ手術～前立腺がん手術でのメリット. 蒲郡市民病院広報誌 海風. 10:5, 2021.

岡田 淳志. 宇宙飛行士への実験で発見 尿路結石の新予防法. 朝日新聞. 夕刊 (2021. 12. 7):6, 2021.

・学会発表等 (筆頭のみ)

恵谷 俊紀. 名古屋市立大学病院診連携システム運営協議会. 前立腺がん地域連携パスについて. 2021年1月13日

岩月 正一郎. 日本アンドロロジー学会第39回学術大会. 加齢が無精子症患者の精巣機能に及ぼす影響. 2021年1月15-16日

濱本 周造. 第13回日本ロボット外科学会学術集会. レチウ腔温存ロボット支援前立腺全摘術における早期尿禁制に関わる因子の解析. 2021年1月23日

安井 孝周. 第5回日本泌尿器科学会ウィンターセミナー. 尿路結石診療の基本と未来～泌尿器科医になる先生方へ～. 2021年1月24日

安藤 亮介. 第67回三重泌尿器科医会. 免疫チェックポイント阻害剤中止後に長期間の腫瘍縮小効果が維持されている右腎盂癌多発肺転移の1例. 2021年1月24日

岡田 淳志. 日本尿路結石症学会第30回学術集会. (座長). 2021年1月26-27日

安井 孝周. 日本尿路結石症学会第30回学術集会. 尿流動態からみた腎結石の形成機序の解明. 2021年1月26-27日

安井 孝周. 第29回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会. (シンポジウム座長)VURの腎機能温存における予防的治療戦略. 2021年1月28-29日

中根 明宏. 第29回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. Pre-stentingを行い経尿道的尿管碎石術で上部尿路結石症を治療した1例. 2021年1月31日-2月1日

濱本 周造. 第33回日本内視鏡外学会. (シンポジウム)Retzius sparing RARPによる尿失禁ゼロを目指した取り組み. 2021年3月10-13日

濱本 周造. 第50回泌尿器科紀の国フォーラム. (シンポジウム)「尿路結石・前立腺肥大症治療の進歩」: ECIRS スピードラーニング. 2021年3月20日

安井 孝周. The 1st NCU-TMA Urology Online Seminar(ウズベキスタン Tashkent Medical Academy と NCU との国際交流セミナー). About NCU. 2021年3月29日

田口 和己. The 1st NCU-TMA Urology Online Seminar(ウズベキスタン Tashkent Medical Academy と NCU との国際交流セミナー). Paradigm shift of kidney stone research "Basic to Practice". 2021年3月29日

安井 孝周. 七隈泌尿器疾患フォーラム. 泌尿器科診療のベストマネジメントを目指して～前立腺がんとう路結石を中心に～. 2021年4月9日

恵谷 俊紀. 第69回日本化学療法学会総会. セファゾリン供給困難に対する当科での対応と泌尿器科手術における臨床アウトカム. 2021年5月7-9日

安井 孝周. わかしち泌尿器科セミナー. (座長). 2021年5月26日

安井 孝周. TOURS2021 Branch Meeting. (座長). 2021年5月28日

内木 拓. TOURS2021 Branch Meeting. (Case Presentation)up front AR 標的薬の至適治療を考察する. 2021年5月28日

内木 拓. TOURS2021 Branch Meeting. (Discussion)up front AR 標的薬にて再燃を来した

1 症例. 2021 年 5 月 28 日

安井 孝周. 第 33 回日本内分泌外科学会学術総会. (一般ポスター座長). 2021 年 6 月 3-4 日

岩月 正一郎. 日本アンドロロジー学会第 40 回学術大会. 無精子症患者における年齢または血清テストステロン値と男性更年期症状の関連. 2021 年 6 月 12-13 日

梅本 幸裕. 第 42 回中部生殖医学会学術集会. (座長). 2021 年 6 月 19 日

中根 明宏. 第 30 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. (ワークショップ)軽症の先天性水腎症の管理 Pros and Cons : grade2 をフォローしない. 2021 年 7 月 2-4 日

中根 明宏. 第 30 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 先天性水腎症の自然経過と grade に応じた適切なフォローの検討. 2021 年 7 月 2-4 日

丸山 哲史. 第 30 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. (座長)停留精巣・急性陰嚢症. 2021 年 7 月 2-4 日

岩月 正一郎. 第 30 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. (学会賞(候補)臨床部門)小児期の精索静脈瘤の手術は妊孕性を改善するか? ~キャッチ・アップ・グロースの縦断敵解析~. 2021 年 7 月 2-4 日

安藤 亮介. 第 68 回三重泌尿器科医会. 全身拡散強調 MRI が骨梁間型骨転移の診断に有用であった. 2021 年 7 月 3 日

Taguchi Kazumi. The 36th Annual European Association of Urology Congress. Ureteroscopy-assisted versus conventional ultrasound-guided renal access for miniaturised endoscopic combined intrarenal surgery: a multicentre comparative study. 2021 年 7 月 8-12 日

Taguchi Kazumi. The 36th Annual European Association of Urology Congress. Fatty acid binding protein 4 drives renal calcium oxalate stone development by attenuating macrophage and tubular cells crystal phagocytosis. 2021 年 7 月 8-12 日

河合 憲康. 第 34 回東海ハイパーサーミア研究会. 放射線温熱治療が奏功した前立腺小細胞癌の一例. 2021 年 7 月 10 日

安井 孝周. 第 15 回加齢と下部尿路疾患を考える会. (座長)講演 2. 2021 年 7 月 14 日

安井 孝周. The 12th Tokai Robotic Urology Symposium. (座長)セッション II 工夫、トラブル. 2021 年 7 月 16 日

内木 拓. The 12th Tokai Robotic Urology Symposium. ウェアラブルデバイスを用いた、術者モニタリングへの取り組み. 2021 年 7 月 16 日

安井 孝周. The 12th Tokai Robotic Urology Symposium. (クロージングリマークス). 2021 年 7 月 16 日

中根 明宏. The 12th Tokai Robotic Urology Symposium. 当院の RARP における術後尿禁制とランニングコストの改善を目指した術式の工夫. 2021 年 7 月 16 日

安井 孝周. 千葉泌尿器学術講演会. 泌尿器科学と診療の前進を目指して~尿路結石と前立腺癌を中心に~. 2021 年 7 月 17 日

丸山 哲史. 第 32 回日本夜尿症学会学術集会. (夜尿症入門セミナー)夜尿症診療の留意点. 2021 年 7 月 23-24 日

丸山 哲史. 第 32 回日本夜尿症学会学術集会. 夜尿症に対する二次治療としての抗コリン

薬の使用経験. 2021年7月23-24日

Yasui Takahiro. STUA 2021 Virtual Conference (International Session of Taiwan Urological Association) . Welcome Speech. 2021年8月22日

Yasui Takahiro. The 10th IAU (International Alliance of Urolithiasis) Annual Conference. (Lecture) Pathophysiology - based treatment of urolithiasis. 2021年8月27-29日

田口 和己. 日本尿路結石症学会第31回学術集会. (ハンズオンセミナー1) Single-Use デジタル軟性尿管腎盂鏡(WiScope)によるストレスフリー抽石法の習得～軟性尿管鏡のハンドリングの基本、実戦に基づくデバイスの使用法～. 2021年8月27-28日

濱本 周造. 日本尿路結石症学会第31回学術集会. (ハンズオンセミナー3) 「OLYMPUS Stone Management Seminar～エキスパートに学ぶURS～」. 2021年8月27-28日

田口 和己. 日本尿路結石症学会第31回学術集会. (モーニングセミナー1) 骨代謝の改善からみた尿路結石症の治療戦略. 2021年8月27-28日

岡田 淳志. 日本尿路結石症学会第31回学術集会. (シンポジウム) 「基礎研究」から科学する. 2021年8月27-28日

安井 孝周. 日本尿路結石症学会第31回学術集会. (座長) イブニングセミナー：碎石装置の未来を科学する. 2021年8月27-28日

田口 和己. 日本尿路結石症学会第31回学術集会. (座長) TUL②. 2021年8月27-28日

濱本 周造. 日本尿路結石症学会第31回学術集会. 日本語版-尿路結石特異的QOLアンケート(J-WISQOL)確立と尿路結石患者における周術期QOLの解析. 2021年8月27-28日

岡田 淳志. わかしゃち泌尿器科セミナー. (座長). 2021年9月1日

内木 拓. わかしゃち泌尿器科セミナー. 当院におけるがんゲノム外来の運用と連携. 2021年9月1日

安井 孝周. 令和3年前期講座. 知っておきたい尿の問題～基礎知識と予防方法～. 2021年9月10日

Taguchi Kazumi. American Urological Association Annual Meeting 2021. FATTY ACID BINDING PROTEIN 4 ATTENUATES MACROPHAGE AND TUBULAR CELLS CRYSTAL PHAGOCYTOSIS TO DRIVE RENAL CALCIUM OXALATE STONE DEVELOPMENT. 2021年9月10-13日

Okada Atsushi. American Urological Association Annual Meeting 2021. USEFULNESS OF RESECTION PROCESS MAP IN RAPN FOR ENDOPHYTIC RENAL TUMORS AND DEVELOPMENT OF VIRTUAL REALITY SIMULATION. 2021年9月10-13日

Hamamoto Shuzo. American Urological Association Annual Meeting 2021. COMPARISON OF SAFETY AND EFFICACY BETWEEN PRONE SPLIT-LEG AND MODIFIED SUPINE VALDIVIA POSITIONS IN ENDOSCOPIC COMBINED INTRARENAL SURGERY (ECIRS): A MULTI-INSTITUTIONAL ANALYSIS. 2021年9月10-13日

Taguchi Kazumi. American Urological Association Annual Meeting 2021. URETEROSCOPY-ASSISTED VERSUS CONVENTIONAL ULTRASOUND-GUIDED RENAL ACCESS FOR MINIATURIZED ENDOSCOPIC COMBINED INTRARENAL SURGERY: A MULTICENTER COMPARATIVE STUDY. 2021年9月10-13日

Hamamoto Shuzo. American Urological Association Annual Meeting 2021. A PROSPECTIVE, RANDOMIZED, SINGLE-BLIND COMPARISON OF URETERAL STENT BIOMATERIAL ENCRUSTATION. 2021年9月10-13日

Iwatsuki Shoichiro. American Urological Association Annual Meeting 2021. AGE-RELATED CHANGES IN REPRODUCTIVE FUNCTION OF MEN WITH AZOOSPERMIA SUGGEST NONOBSTRUCTIVE AZOOSPERMIA IS A PROGRESSIVE DISEASE. 2021 年 9 月 10-13 日

Taguchi Kazumi. American Urological Association Annual Meeting 2021. ROBOTIC-ASSISTED FLUOROSCOPIC-GUIDED RENAL PUNCTURE HAS COMPARABLE SURGICAL OUTCOMES WITH ULTRASOUND-GUIDED IN ENDOSCOPIC COMBINED INTRARENAL SURGERY: A RANDOMIZED CONTROLLED TRIAL. 2021 年 9 月 10-13 日

Etani Toshiki. American Urological Association Annual Meeting 2021. NOVEL SELECTIVE LYSINE-SPECIFIC DEMETHYLASE 1 INHIBITORS, NCL1 AND NCD38, SUPPRESS TESTICULAR TUMOR CELL PROLIFERATION. 2021 年 9 月 10-13 日

安井 孝周. 第 21 回日本メンズヘルス医学会. (座長). 2021 年 9 月 18 日

濱本 周造. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (シンポジウム)Retzius-sparing RARP の現状と課題 . 2021 年 10 月 7-9 日

恵谷 俊紀. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (シンポジウム)尿道炎診療アップ・デート . 2021 年 10 月 7-9 日

安藤 亮介. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)一般ポスター腎腫瘍 1. 2021 年 10 月 7-9 日

河合 憲康. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)尿路上皮腫瘍 1. 2021 年 10 月 7-9 日

内木 拓. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)尿路上皮腫瘍 1 . 2021 年 10 月 7-9 日

安井 孝周. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (司会 シンポジウム)f-TUL の上達とヒットフォール . 2021 年 10 月 7-9 日

田口 和巳. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (シンポジウム)f-TUL における適切な軟性尿管鏡の選択 . 2021 年 10 月 7-9 日

岡田 淳志. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)尿路結石症. 2021 年 10 月 7-9 日

梅本 幸裕. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)症例. 2021 年 10 月 7-9 日

Kawai Noriyasu. 国際ハイパーサーミア学会. Thermotherapy for prostate cancer cell line is enhanced by silencing HIKESHI. 2021 年 10 月 21 日

恵谷 俊紀. 第 59 回日本癌治療学会学術集会. 泌尿器癌の管理に侵襲性 Klebsiella pneumoniae 感染症が与える影響. 2021 年 10 月 21-23 日

内木 拓. 第 59 回日本癌治療学会学術集会. 栄養関連マーカーに着目した LATITUDE ハイリスク前立腺癌に対する予後解析. 2021 年 10 月 21-23 日

河合 憲康. 日本泌尿器腫瘍学会第 7 回学術集会. 短期間で作成可能なマウス非筋層浸潤性膀胱癌モデルの確立と磁気温熱治療法の効果の検証. 2021 年 10 月 23-24 日

Yasui Takahiro. THE 37th KOREA-JAPAN UROLOGICAL CONGRESS. Robotic pyeloplasty in Japan. 2021 年 10 月 29-30 日

Okada Atsushi. THE 37th KOREA-JAPAN UROLOGICAL CONGRESS. Basic research

toward dissolution therapy for calcium oxalate stones. 2021 年 10 月 29-30 日

Hamamoto Shuzo. 41th Congress of the Societe Internationale d'Urologie. (UAA Lecture) Technological Evaluation of Renal Puncture for Endoscopic Surgery. 2021 年 11 月 10-14 日

田口 和己. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (指定教育プログラム) ECIRS/PNL における腎盂腎杯損傷トラブルシューティング. 2021 年 11 月 11-13 日

安井 孝周. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (シンポジウム) ビッグデータから見える腎盂形成術に対する腹腔鏡手術の現状と課題. 2021 年 11 月 11-13 日

田口 和己. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (総会賞ビデオ) AI 搭載ロボット支援透視下腎穿刺の開発と ECIRS における超音波ガイドとの比較. 2021 年 11 月 11-13 日

濱本 周造. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (総会賞ポスター) 尿路結石患者に対する日本語版 QOL アンケート (J-WISQOL) 確立と周術期 QOL の解析. 2021 年 11 月 11-13 日

内木 拓. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (第 1 回ロボット支援手術研究助成金) ウェアラブルデバイスを用いた術者ストレスのリアルタイムモニタリング法の樹立と新たな術者教育プログラムの開発に向けた臨床研究. 2021 年 11 月 11-13 日

濱本 周造. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (ランチョンセミナー) ECIRS を安全に行うための工夫. 2021 年 11 月 11-13 日

濱本 周造. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (シンポジウム) 経腹膜後方アプローチ: Retzius-sparing RARP. 2021 年 11 月 11-13 日

安井 孝周. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (座長) スポンサーセミナー, 尿路結石治療戦略～f-TUL、PNL、ECIRS へのアプローチ～. 2021 年 11 月 11-13 日

内木 拓. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. Retzius-sparing RARP における術後 OAB 発症に関する検討. 2021 年 11 月 11-13 日

中根 明宏. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. ロボット支援下前立腺全摘除術の術後尿禁制改善をめざした膜様部尿道温存の工夫. 2021 年 11 月 11-13 日

岡田 淳志. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (一般ポスター) 腎結石手術における VR 穿刺シミュレーションの有効性. 2021 年 11 月 11-13 日

梅本 幸裕. 第 66 回日本生殖医学会学術講演会・総会. 精索静脈瘤における初診時主訴の違いによる臨床検査値の検討. 2021 年 11 月 11-13 日

梅本 幸裕. 第 66 回日本生殖医学会学術講演会・総会. (座長) 不妊症(男性). 2021 年 11 月 11-13 日

岩月 正一郎. 第 66 回日本生殖医学会学術講演会・総会. (一般ポスター) 無精子症患者の妻年齢からみた無精子症の早期診断の重要性. 2021 年 11 月 11-13 日

安井 孝周. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. (司会) ミニオーラル: 尿管・その他. 2021 年 12 月 2-4 日

濱本 周造. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. (ミニオーラル) 当院におけるロボット支援下前立腺全摘除術 (RARP) 成績の年次推移. 2021 年 12 月 2-4 日

濱本 周造. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会. 当院におけるロボット支援下前立腺全摘除術 (RARP) 成績の年次推移. 2021 年 12 月 2-4 日

安藤 亮介. 第 72 回名古屋市立大学医学会総会. (特別講演) 尿路結石とメタボリックシンドローム

ドロームの関連. 2021年12月5日

河合 憲康. 特別市民公開講座(名市大ブックス創刊 1周年記念事業). 不治の病は過去のこと?がん治療の新時代. 2021年12月5日

岡田 淳志. 第109回日本泌尿器科学会総会. (ワークショップ座長)テクノロジーが変える尿路結石除去術. 2021年12月7-9日

濱本 周造. 第109回日本泌尿器科学会総会. (ワークショップ)腎瘻穿刺におけるテクニックの進化と新たなテクノロジーの開発. 2021年12月7-9日

安井 孝周. 第109回日本泌尿器科学会総会. (ワークショップ座長)分野別基礎・臨床研究の魅力を語る. 2021年12月7-9日

田口 和己. 第109回日本泌尿器科学会総会. (ワークショップ)結石を溶かす:尿路結石診療のイノベーションを目指して. 2021年12月7-9日

田口 和己. 第109回日本泌尿器科学会総会. (総会賞ビデオ)人工知能を用いたロボット支援透視ガイド ECIRS の開発と従来の超音波ガイドとの治療成績の比較:国際共同-特定臨床研究. 2021年12月7-9日

岡田 淳志. 第109回日本泌尿器科学会総会. (International Session Award)Usefulness of virtual reality simulation of renal puncture for endoscopic-combined intrarenal surgery. 2021年12月7-9日

田口 和己. 第109回日本泌尿器科学会総会. (International Session Award)Ureteroscopy-assisted puncture for ultrasound-guided renal access significantly improves overall treatment outcomes in endoscopic combined intrarenal surgery. 2021年12月7-9日

岡田 淳志. 第109回日本泌尿器科学会総会. (総会賞ポスター)埋没型腎腫瘍に対するRAPNにおける Resection process map の有用性と、その技術を応用したVRシミュレーションの開発. 2021年12月7-9日

濱本 周造. 第109回日本泌尿器科学会総会. (総会賞ポスター)Retzius 腔温存ロボット支援前立腺全摘術はなぜ早期尿禁制が良好か?. 2021年12月7-9日

内木 拓. 第109回日本泌尿器科学会総会. (一般口演座長)前立腺腫瘍/薬物療法 1. 2021年12月7-9日

河合 憲康. 第109回日本泌尿器科学会総会. (総会賞ポスター)マクロファージに対する標的指向性を付与した磁性ナノ粒子による泌尿器系癌に対する新規癌治療法の開発に向けた基礎研究. 2021年12月7-9日

濱川 隆. 第109回日本泌尿器科学会総会. (一般ポスター)CTによる骨格筋面積測定を用いた骨盤臓器脱術後の腹圧性尿失禁の予測. 2021年12月7-9日

安藤 亮介. 第109回日本泌尿器科学会総会. (一般ポスター)インスリン抵抗性に着目した尿路結石の発症リスクと身体活動がおよぼす影響. 2021年12月7-9日

岩月 正一郎. 第109回日本泌尿器科学会総会. 非閉塞性無精子症(NOA)患者における血清抗ミューラー管ホルモン(AMH)値の検討. 2021年12月7-9日

梅本 幸裕. 第109回日本泌尿器科学会総会. 再発予防に有効な精索静脈瘤手術への取り組み—思春期症例を中心に—. 2021年12月7-9日

河合 憲康. 第109回日本泌尿器科学会総会. (座長)ロボット支援手術/腎腫瘍 2. 2021年12月7-9日

内木 拓. 第109回日本泌尿器科学会総会. 転移性尿路上皮癌に対する short hydration 法の抗腫瘍効果と予後予測血清マーカーの探索. 2021年12月7-9日

濱本 周造. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. ECIRS における術中体位についての比較試験:開脚腹臥位 vs 修正 Valdivia 体位. 2021 年 12 月 7-9 日

恵谷 俊紀. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. (一般ポスター)セファゾ`リン供給困難に対する当科で`の対応と ECIRS(Endoscopic combined intrarenal surgery)における臨床アウトカム. 2021 年 12 月 7-9 日

丸山 哲史. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. 成人の内視鏡的逆流防止術における手技選択の工夫. 2021 年 12 月 7-9 日

濱本 周造. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. (一般ポスター座長)結石/外科的治療 1. 2021 年 12 月 7-9 日

中根 明宏. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. (一般ポスター)先天性水腎症における軽度水腎症 grade1 と grade2 の自然史とフォローの仕方に対する検討. 2021 年 12 月 7-9 日

濱本 周造. 第 109 回日本泌尿器科学会総会 Biojet システムによる 3D-Real time mpMRI-TRUS Fusion Biopsy ハンズオンセミナー. (エキスパートインストラクター)Biojet システムによる前立腺癌局在診断に基づくロボット支援下手術. 2021 年 12 月 7 日

濱川 隆. 第 288 回日本泌尿器科学会東海地方会. (優秀発表賞審査員)優秀発表賞. 2021 年 12 月 19 日

恵谷 俊記. 第 1 階名古屋市立大学病院 緩和ケア研修会. (メインファシリテーター)全人的苦痛に対する緩和ケア-グループ演習-. 2021 年 12 月 24 日

Yasui Takahiro. 2021 International Session of TUA Virtual Conference. (Opening speech). 2021 年 12 月 25 日

Kawai Noriyasu. 2021 International Session of TUA Virtual Conference. (Special Lecture)A report of basic and clinical researches of hyperthermia for urological cancer. 2021 年 12 月 25 日

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

【ガイドライン作成】

安井 孝周、岩月 正一郎:男性の性腺機能低下症ガイドライン作成委員会(日本内分泌学会・日本メンズヘルス医学会)

安井 孝周、水野 健太郎:泌尿器腹腔鏡手術ガイドライン作成委員会(日本泌尿器・ロボティクス学会)「腎盂形成」小委員長

安井 孝周、岡田 淳志、安藤 亮介、濱本 周造、海野 怜、杉野 輝明、宇佐美 雅之、藤井 泰普:尿路結石症診療ガイドライン作成委員会(日本泌尿器科学会)

安井 孝周、田口 和己:「副腎腫瘍取扱い規約」改訂委員会 委員(日本泌尿器科学会)8「副腎腫瘍取扱い規約 第 4 版」作成委員会)

【医師国家試験】

安井 孝周:医師試験委員(厚生労働省)

安井 孝周:医師国家試験予備試験委員(厚生労働省). 2018 年 4 月～主担当

【学会委員等】

・安井 孝周

日本泌尿器科学会：

国際委員会, 委員(TUA 台湾担当), 専門領域委員会, 尿路結石部会長, ICD11 和訳に関するワーキンググループ, メンバー, COVID-19 対策委員会, 委員, 専門医制度審議会, 委員, NCD 運営委員会, 委員, 選挙管理委員会, 委員, 学会賞・坂口賞選考委員会 委員, 用語委員会 委員

日本泌尿器内視鏡学会：

理事, Web ビデオ検討委員会, 委員長, 教育委員会, 委員, 総務委員会, 委員, 将来検討委員会, 委員, 広報委員会, 委員, 保険委員会, 委員, ガイドライン委員会, 副委員長, ロボット支援手術委員会, 委員, インテュイティブ賞選考委員会, 委員, 国際委員会, 委員

日本内分泌学会, 理事, 専門医委員会, 委員, 関連領域連携委員会, 委員, 臨床重要課題委員会, 医療事故調査制度委員会, 医療事故調査制度委員会委員, 教育育成(専門医)部会 専門医委員会, 委員(泌尿器系理事), 教育育成(育成)部会 臨床重要課題委員会, 委員(副腎外科), 広報連携部会 カナン連携領域連携委員会, 委員(泌尿器科), 広報教育育成(専門医)役職別理事会

日本尿路結石症学会, 理事, 保険委員会 委員, ガイドライン委員会 委員, 将来構想委員会 委員

泌尿器科紀要, 編集委員会委員(Editorial Board)

日本泌尿器科学会雑誌(Editorial Board)

International Journal of Urology(Editorial Board)

—心臓血管外科学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Hagiwara H, Moritani S, Nakayama T, Ichihara S, Kitagawa C, Suda H. **Myoepithelial Carcinoma Occurring on the Ascending Aorta**. Ann Thorac Surg. **112(1)**: e1-e4. 2021.

Sakakura N, Nakai A, Suda H, Nakada T, Matsui T, Nakanishi K, Shirai S, Nakada J, Horio Y, Oya Y, Takahashi Y, Kuroda H. **Life-threatening massive bleeding in the pulmonary trunk adjacent to the right ventricular outflow tract during the resection of a large mediastinal germ cell tumor: proposed safety measures in the absence of cardiovascular surgeons: a case report**. Mediastinum. **5**: 19, 2021

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	須田久雄	2(1)	2(1)	0
講師	五味聖吾	0	0	0
講師	齋藤雄平	0	0	0
助教	山田敏之	0	0	0
助教	小川真司	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	浅野実樹	0	0	0
准教授	水野明宏	0	0	0
准教授	神谷信次	0	0	0
助教	沼田幸英	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

齊藤慈円. 第64回関西胸部外科学会学術集会. Case presentation Award 優秀賞. 術中に過剰透析シャントによる盗血現象を生じバイパスプランを変更した冠動脈バイパス術の一例, 令和3年6月

齊藤慈円. 第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会. JATS Case Presentation Awards 優秀演題. A case of coronary steal: Coronary artery bypass grafting with a modified bypass plan caused by an excessive AV fistula for hemodialysis, 令和 3 年.10 月

【外部資金獲得実績】科学研究費金額は令和 3 年度配分額のみ記載)

山田敏之. 研究助成金 (ジョンソンエンドジョンソン株式会社). 令和 3 年 8 月-令和 4 年 7 月、400 千円

山田敏之. 研究助成金 (センチュリーメディカル株式会社). 令和 3 年 12 月-令和 4 年 12 月、300 千円

須田久雄. 研究助成金 (大塚製薬株式会社). 令和 3 年 7 月-終期なし、200 千円

【その他】

(国内学会発表)

水野明宏、曾根良晃、齋藤慈円、神谷信次、武藤昌弘、橋爪卓也、浅野實樹. 第 74 回日本胸部外科学会学術集会. 慢性解離性大動脈瘤破裂に対する TEVAR 時の偽腔血流の制御. 2021 年 10 月 31 日~11 月 3 日

水野明宏、曾根良晃、齋藤慈円、神谷信次、橋爪卓也、武藤昌裕、浅野實樹. 第 62 回日本脈管学会総会. 当院における弓部大動脈瘤に対するステントグラフト治療成績. 2021 年 10 月 14 日~16 日

曾根良晃、中井洋佑、榎本啓行、小川辰士、山田敏之、小川真司、須田久雄. 第 299 回東海外科学会マムシ咬傷後に感染性総腸骨動脈瘤破裂を来たし、究明し得た 1 例. 2021 年 4 月 18 日

曾根良晃、中井洋佑、榎本啓行、小川辰士、山田敏之、小川真司、須田久雄. 第 64 回関西胸部外科学会学術集会. ペースメーカーリードに起因する三尖弁閉鎖不全症に対する 1 手術例. 2021 年 6 月 17 日-19 日

曾根良晃、水野明宏、齋藤慈円、神谷信次、浅野実樹. 第 62 回日本脈管学会総会. 急性 A 型逆行性大動脈解離に対する当院における TEVAR の成績から検討する適切な手術適応. 2021 年 10 月 14 日-16 日

齊藤慈円. 第 64 回 関西胸部外科学会学術集会. 術中に過剰透析シャントによる盗血現象を生じバイパスプランを変更した冠動脈バイパス術の一例. 2021 年 6 月 17-19 日

齊藤慈円. A case of coronary steal: Coronary artery bypass grafting with a modified bypass plan caused by an excessive AV fistula for hemodialysis. 第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会. 2021 年 10 月 31 日

中井洋佑、曾根良晃、榎本啓行、小川辰士、山田敏之、小川真司、須田久雄. 第 64 回関西胸部外科学会学術総会. 心室中隔穿孔閉鎖術後に非細菌性血栓性心内膜炎を来した 1 例. 2021 年 6 月 17 日-6 月 18 日

中井洋佑、榎本啓行、小川辰士、山田敏之、小川真司、齋藤雄平、五味聖吾、須田久

雄. 第74回日本胸部外科学会学術集会. 高安動脈炎による右総頸動脈狭窄、左総頸動脈閉塞、左鎖骨下動脈狭窄を合併した胸部大動脈瘤に対して弓部大動脈人工血管置換術、右内頸動脈バイパス術を施行した一例. 2021年10月31日-11月3日

山田敏之. 第51回日本心臓血管外科学会学術総会. スマートフォンを用いた運針トレーニング自動評価アプリの開発. 2021年2月19日-2月21日

山田敏之. 第74回日本胸部外科学会定期学術集会. 胸部外科医の教育・トレーニング法のアップデート～最新のテクノロジーの活用～. 2021年10月31日-11月3日

<研究活動実績>

【欧文業績】

Yamamoto Y, Yamashiro H, Toh U, Kondo N, Nakamura R, Kashiwaba M, Takahashi M, Tsugawa K, Ishikawa T, Nakayama T, Ohtani S, Takano T, Fujisawa T, Toyama T, Kawaguchi H, Mashino K, Tanino Y, Morita S, Toi M, Ohno S. **Prospective observational study of bevacizumab combined with paclitaxel as first- or second-line chemotherapy for locally advanced or metastatic breast cancer: the JBCRG-C05 (B-SHARE) study.** Breast Cancer. **28(1)**: 145-160, 2021.

Kurebayashi J, Shiba E, Toyama T, Matsumoto H, Okazaki M, Nomizu T, Ohtake T, Fujii T, Ohashi Y. **A follow-up study of a randomized controlled study evaluating safety and efficacy of leuprorelin acetate every-3-month depot for 2 versus 3 or more years with tamoxifen for 5 years as adjuvant treatment in premenopausal patients with endocrine-responsive breast cancer.** Breast Cancer. **28(3)**: 684-697, 2021.

Adachi Y, Oze I, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Ozaki Y, Endo Y, Nozawa K, Takatsuka D, Iwata H. **Impact of adjuvant endocrine therapy on prognosis in small hormone receptor positive, HER2 negative early breast cancer.** Breast Cancer. **28(5)**: 1087-1095, 2021.

Uemoto Y, Uchida M, Kondo N, Wanifuchi-Endo Y, Fujita T, Asano T, Hisada T, Nishikawa S, Katagiri Y, Terada M, Kato A, Okuda K, Sugiura H, Osaga S, Akechi T, Toyama T. **Predictive factors for patients who need treatment for chronic post-surgical pain (CPSP) after breast cancer surgery.** Breast Cancer. **28(6)**: 1346-1357, 2021.

Nishikawa S, Uemoto Y, Kim TS, Hisada T, Kondo N, Wanifuchi-Endo Y, Fujita T, Asano T, Katagiri Y, Terada M, Kato A, Dong Y, Sugiura H, Okuda K, Kato H, Osaga S, Takahashi S, Toyama T. **Low RAI2 expression is a marker of poor prognosis in breast cancer.** Breast Cancer Res Treat. **187(1)**: 81-93, 2021.

Takashima T, Hara F, Iwamoto T, Uemura Y, Ohsumi S, Yotsumoto D, Hozumi Y, Watanabe T, Saito T, Watanabe KI, Tsurutani J, Toyama T, Akabane H, Nishimura R, Taira N, Ohashi Y, Mukai H. **A Correlation Analysis Between Metabolism-related Genes and Treatment Response to S-1 as First-line Chemotherapy for Metastatic Breast Cancer: The SELECT BC-EURECA Study.** Clin Breast Cancer. **21(5)**: 450-457, 2021.

Akechi T, Momino K, Katsuki F, Yamashita H, Sugiura H, Yoshimoto N, Wanifuchi-Endo Y, Toyama T. **Brief collaborative care intervention to reduce perceived unmet needs in highly distressed breast cancer patients: randomized controlled trial.** Jpn J Clin Oncol. **51(2)**: 244-251, 2021.

Ozaki Y, Yoshimura A, Sawaki M, Hattori M, Kotani H, Adachi Y, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Endo Y, Nozawa K, Sakamoto S, Takatsuka D, Okumura S, Maruyama Y, Iwata H. **The significance of biopsy scar excision at the time of skin- or nipple-sparing mastectomy with immediate breast reconstruction.** Jpn J Clin Oncol. **51(8)**: 1212-1218, 2021.

Gondo N, Sakai Y, Zhang Z, Hato Y, Kuzushima K, Phimsen S, Kawashima Y, Kuroda M, Suzuki M, Okada S, Iwata H, Toyama T, Rezano A, Kuwahara K. **Increased chemosensitivity via BRCA2-independent DNA damage in DSS1- and PCID2-depleted breast carcinomas.** Lab Invest. **101(8)**: 1048-1059, 2021.

【和文業績】

西川さや香, 近藤直人, 藤田崇史, 鰐淵友美, 浅野倫子, 久田知可, 上本康明, 加藤明子, 寺田満雄, 山中菜摘, 磯谷彩夏, 遠山竜也. **乳癌肺転移とメトトレキサート関連リンパ増殖性肺疾患の鑑別を要した1例.** 乳癌の臨床. **36(4)**: 71-76, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	遠山 竜也	8 (4)	7 (3)	1(1)
講師	鰐淵 (遠藤) 友美	6(0)	5(0)	1(0)
講師	近藤 直人	4(0)	3(0)	1(0)
講師	藤田 崇史	2(0)	2(0)	0
助教	浅野 倫子	3(0)	2(0)	1(0)
助教	上本 康明	2(1)	2(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	杉浦 博士	3(0)	3(0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

遠山竜也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 平成31年度-令和3年度、100千円

遠山竜也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

遠山竜也. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度、200千円

近藤直人. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 平成31年度-令和3年度、100千円

近藤直人. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

近藤直人. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度、300千円

鰐淵（遠藤）友美. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

鰐淵（遠藤）友美. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 平成31年度-令和3年度、900千円

浅野 倫子. 文部科学省科学研究費（若手）. 平成31年度-令和3年度、1,100千円

杉浦博士. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、300千円

【その他】

【国内学会発表（口頭）】

Toyama T, Yamamoto Y, Iwata H, Takahashi M, Yoshinami T, Ueno T, Yamanaka T, Takano T, Kashiwaba M, Masuda N, Tsugawa K, Hasegawa Y, Tamura K, Tada H, Taira N, Hara F, Saji S, Morita S, Toi M, Ohno S, on behalf of the PRECIOUS Study Group. PRECIOUS : Pertuzumab re-treatment for HER2-positive locally advanced/metastatic breast cancer (JBCRG-M05). JSMO 2021 Virtual congress, Feb18-21, 2021

【国際学会発表（ポスター）】

Kato A, Kondo N, Wanifuchi-Endo Y, Fujita T, Asano T, Hisada T, Uemoto Y, Terada M, Toyama T. High Tinagl1 expression is a marker of good prognosis in breast cancer. 2021 San Antonio Breast Cancer Symposium (SABCS), Dec7-10, 2021 (San Antonio/Virtual)

Uemoto Y, Kondo N, Wanifuchi-Endo Y, Asano T, Hisada T, Nishikawa S, Katagiri Y, Kato A, Terada M, Toyama T. Sentinel lymph node biopsy may be unnecessary for ductal carcinoma in situ of the breast that is small and diagnosed by preoperative biopsy. 10th Global Breast Cancer Conference (GBCC10) Apr8-10, 2021(Seoul/Virtual)

【国内学会発表（ポスター）】

鰐淵-遠藤友美, 近藤 直人, 藤田 崇史, 浅野 倫子, 久田 知可, 上本 康明, 加藤 明

子, 寺田 満雄, 磯谷 彩夏, 遠山 竜也. 乳癌における miR-1290 の臨床的意義についての検討. 第 29 回日本乳癌学会学術総会. 2021 年 7 月 1-3 日(横浜)

浅野 倫子, 近藤 直人, 鰐淵-遠藤友美, 久田 知可, 上本 康明, 加藤 明子, 寺田 満雄, 山中 菜摘, 遠山 竜也. dose dense AC 療法の有害事象としてのニューモシスチス肺炎対策. 第 29 回日本乳癌学会学術総会. 2021 年 7 月 1-3 日(横浜)

【主な国内学会参加状況】

遠山 達也. 日本乳癌学会. 乳癌診療ガイドライン委員会 薬物療法小委員会委員

遠山 竜也. 日本乳癌学会. 乳腺専門医筆記試験問題作成委員会 副委員長

遠山 竜也. 日本癌治療学会. 編集委員会 IJCO 編集部会 Associate Editor

—小児泌尿器科学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Kato T, Mizuno K, Nishio H, Yasui T, Hayashi Y. **Urodynamic effectiveness of a beta-3 adrenoceptor agonist (vibegron) for a pediatric patient with anticholinergic-resistant neurogenic detrusor overactivity: a case report.** J Med Case Rep. 15(1):86, 2021.

Maruyama T, Mizuno K, Nishio H, Kato T, Hamakawa T, Ikegami Y, Yasui T, Hayashi Y. **Antireflux endoscopic injection therapy in post-pubertal patients via techniques adopted for the dilated ureteral orifice: a retrospective single-center study.** BMC Urol. 21(1):70, 2021.

Nishio H, Mizuno K, Kato T, Maruyama T, Yasui T, Hayashi Y. **A case of posterior urethral valve identified in an older child by straining to void.** Urol Case Rep. 40:101886, 2021.

Nishio H, Mizuno K, Matsumoto D, Kato T, Kamisawa H, Kurokawa S, Nakane A, Maruyama T, Yasui T, Hayashi Y. **A novel method of transvesicoscopic ureteral reimplantation of an ectopic ureter with a mate ureter in a duplex kidney.** IJU Case Reports. 5(2):132-135, 2021.

【和文業績】

林 祐太郎. **性分化疾患.** 今日の治療指針 2021. 63:1243-1244, 2021.

戸澤 啓一、水野 健太郎、林 祐太郎、安井 孝周. **腎盂尿管移行部通過障害に対するロボット支援腎盂形成術.** Urology Today. 28(1):27-31, 2021.

水野 健太郎、西尾 英紀、林 祐太郎、松本 大輔、中根 明宏、神沢 英幸、黒川 覚史、加藤 大貴、丸山 哲史. **(特集 小児泌尿器診療のトレンド) Key point lecture)急性陰嚢症の診療.** 泌尿器科. 13(2):135-148, 2021.

林 祐太郎、西尾 英紀、水野 健太郎、松本 大輔、中根 明宏、神沢 英幸、黒川 覚史、加藤 大貴、丸山 哲史. **(特集 小児泌尿器診療のトレンド) Key point lecture 5)小児泌尿器科腫瘍の診療.** 泌尿器科. 13(2):165-178, 2021.

水野 健太郎、西尾 英紀、黒川 覚史、加藤 大貴、神沢 英幸、中根 明宏、丸山 哲史、戸澤 啓一、岡田 淳志、瀨本 周造、安井 孝周、林 祐太郎. **【泌尿器科領域のロボット手術の新しい展開】RALPY ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術の現状と今後の展開(解説).** 泌尿器科. 13(3):305-310, 2021.

黒川 覚史、水野 健太郎、野崎 哲史、西尾 英紀、戸澤 啓一、安井 孝周、林 祐太郎. **【腹腔鏡下腎盂形成術:適応の拡大と将来展望】ロボット支援腎盂形成術 市中病院における導入の経験(解説).** Japanese Journal of Endourology. 34(1):49-54, 2021.

林 祐太郎、西尾 英紀、水野 健太郎. **二分陰嚢, 陰茎前置陰嚢.** 小児外科. 53(6):652-657, 2021.

水野 健太郎、西尾 英紀、林 祐太郎、黒川 覚史、中根 明宏、丸山 哲史、戸澤 啓一、安井 孝周. **【これから始めるロボット支援下腎盂形成術】ロボット支援下腎盂形成術 小児例のテクニカルポイント(解説).** J Urol. 34(2):246-251, 2021.

西尾 英紀、水野 健太郎、林 祐太郎. **小児泌尿器科領域における腹腔鏡手術のトレーニング法①ロボット支援手術への移行期における心構えと技術習得.** 臨床泌尿器科. 75(10):736-743, 2021.

林 祐太郎、西尾 英紀、水野 健太郎. 21 尿道下裂・停留精巣・陰嚢水腫・後部尿道弁. 泌尿器外科 後期研修医がおさえておきたい泌尿器疾患 TOP30 2021. 34(特別号):339-351, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職 名	氏 名	論文数	内 訳	
			欧 文	和 文
教授	林 祐太郎	14(10)	4(4)	10(6)
准教授	水野 健太郎	13(3)	4	9(3)
助教	西尾 英紀	12(3)	4(2)	8(1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

西尾 英紀. 日本小児泌尿器科学会. 第9回日本小児泌尿器科学会優秀論文賞（症例部門）. Robot-Assisted Radical Cystectomy for Pediatric Bladder Rhabdomyosarcoma(Journal of Endourology Case Reports, Dec 2020), 令和3年7月

西尾 英紀. 日本小児泌尿器科学会. 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 学会賞(症例部門). 気膀胱下手術で根治し得た単一腎盂尿管に伴う異所性尿管の1例, 令和3年7月

西尾 英紀. 日本小児泌尿器科学会. 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 会長奨励賞. 『テストステロン投与は陰茎包皮組織において慢性炎症・線維化を引き起こす』, 令和3年7月

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

林 祐太郎. 文部科学省科学研究費補助金（基盤C・代表）「精子幹細胞の分化・増殖にかかわる甲状腺機能の役割に関する包括的研究」. 令和3年度-令和5年度、1,500千円

林 祐太郎. 文部科学省科学研究費補助金（基盤C・分担）「機能改変した平滑筋細胞等の作製と精緻で3D的な細胞移植の試み」. 令和3年度-令和5年度、300千円

林 祐太郎. 文部科学省科学研究費補助金（基盤C・分担）「腎前駆細胞の選択的抽出により機能的な構造を有する腎を再生するための基礎研究」. 令和1年度-令和3年度、600千円

水野 健太郎. 文部科学省科学研究費補助金（基盤C・分担）「伸長精子細胞-Sertoli細胞間接着因子に着目した精巣内精子同定法の開発」. 令和3年度-令和5年度、300千円

水野 健太郎. 文部科学省科学研究費補助金（挑戦的研究(萌芽)・分担）「XX性分化疾患モデルマウスの確立とその薬物治療開発に関する総合研究」. 令和3年度-令和5年度、450千円

水野 健太郎. 文部科学省科学研究費補助金（基盤B・代表）「時期特異的な精子幹細胞の分化過程の包括的解析と生殖医療への新規治療戦略」. 令和2年度-令和5年度、2,800千円

水野 健太郎. 文部科学省科学研究費補助金（基盤C・分担）「非閉塞性無精子症における再生医療への取り組み」. 令和1年度-令和3年度、600千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費補助金（基盤C・分担）「精子幹細胞の分化・増殖にか

かわる甲状腺機能の役割に関する包括的研究」. 令和3年度-令和5年度、300千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤C・分担)「精巣形成不全症候群における精子幹細胞の機能異常の同定と分化機構の解明」. 平成30年度-令和3年度、300千円

加藤 大貴. 横山臨床薬理研究基金 令和3年度研究助成 (代表)「新規男性不妊治療法を目指した1細胞RNA-sequenceによる血液精巣関門の成立の解明」 令和3年度、1,000千円

【その他】

林 祐太郎. 陰嚢水腫-出生時の比較的良好に見られる-. 聖教新聞. (2021. 11. 29)5版, 2021.

林 祐太郎. 第29回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. (総合司会)一般演題総括 第二部. 2021年1月31日-2月1日

水野 健太郎. 第29回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. CAKUTに対する私たちの取り組み:手術治療と基礎研究. 2021年1月31日-2月1日

西尾 英紀. 第29回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 遺伝子解析に基づいた小児腎腫瘍の治療戦略. 2021年1月31日-2月1日

水野 健太郎. 第33回日本内視鏡外学会. (シンポジウム)(ロボット腎盂形成術 - 温故創新)二次治療としてのロボット腎盂形成術」. 2021年3月10-13日

水野 健太郎. 第287回日本泌尿器科学会東海地方会. (審査員)優秀発表賞. 2021年6月12日

林 祐太郎. 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. (教育セミナー)急性陰嚢症. 2021年7月2-4日

林 祐太郎. 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. (座長)(会長特別企画)小児泌尿器科疾患の基礎研究～集えリサーチマインドを持った若手医師たちよ!～. 2021年7月2-4日

西尾 英紀. 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 医師としてのキャリアにおける研究の意義:停留精巣の研究から得たもの. 2021年7月2-4日

水野 健太郎. 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. (教育講演)論文の書き方～奨励報告から始めよう、はじめの一步～. 2021年7月2-4日

西尾 英紀. 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. (学会賞(候補)基礎部門)テストステロン投与は陰茎包皮組織において慢性炎症・線維化を引き起こす. 2021年7月2-4日

西尾 英紀. 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. (学会賞(候補)奨励報告部門)気膀胱下手術で根治し得た単一腎盂尿管に伴う異所性尿管の1例. 2021年7月2-4日

水野 健太郎. 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 腹腔鏡・ロボット支援下膀胱尿管逆流防止術における逆流消失に寄与する要因の検討. 2021年7月2-4日

林 祐太郎. 第28回日本排尿機能学会. (座長)小児の尿失禁治療を網羅する;内科的管理から外科的療法まで. 2021年9月9-11日

西尾 英紀. 第28回日本排尿機能学会. (シンポジウム)尿失禁を伴う間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術. 2021年9月9-11日

西尾 英紀. 第 28 回日本排尿機能学会. 二段排尿を契機に診断し得た先天性膀胱憩室の 1 例. 2021 年 9 月 9-11 日

Mizuno Kentaro. American Urological Association Annual Meeting 2021. CLINICAL ANALYSIS OF THE ROLE OF THYROID FUNCTION IN THE DIFFERENTIATION PROCESS OF SPERMATOGONIAL STEM CELLS IN CRYPTORCHID TESTES. 2021 年 9 月 10-13 日

Hayashi Yutaro. HIS Webinar-Hypo-Debate II (国際尿道下裂学会ウェビナー). (Expert presentation(エキスパートレクチャー))Chordee- from Basic to Surgical correction(コルデー;基礎から手術まで). 2021 年 10 月 9 日

水野 健太郎. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)小児泌尿器科疾患 2. 2021 年 10 月 7-9 日

林 祐太郎. 第 71 回日本泌尿器科学会中部総会. (司会 シンポジウム)小児泌尿器科における Challenges and Innovations. 2021 年 10 月 7-9 日

水野 健太郎. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (シンポジウム)ロボット腎盂形成術の普及のために:「腹腔鏡手術の経験は必要」の立場から. 2021 年 11 月 11-13 日

林 祐太郎. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (シンポジウム)Lich-Gregoir 法による腹腔鏡手術の長期成績. 2021 年 11 月 11-13 日

西尾 英紀. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (シンポジウム)単一腎盂尿管の腹腔鏡下尿管膀胱新吻合術:尿管の同定の工夫. 2021 年 11 月 11-13 日

西尾 英紀. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. 先天性膀胱憩室に伴う膀胱尿管逆流に対し腹腔鏡下憩室切除・逆流防止術を施行した 1 例. 2021 年 11 月 11-13 日

水野 健太郎. 第 35 回日本泌尿器内視鏡学会総会. (一般ビデオ)ロボット腎盂形成術における Firefly の使用経験. 2021 年 11 月 11-13 日

林 祐太郎. 第 83 回日本臨床外科学会総会. (パネルディスカッション)小児膀胱尿管逆流に対するロボット支援手術. 2021 年 11 月 18-20 日

林 祐太郎. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. (教育講演)陰囊・陰茎疾患. 2021 年 12 月 7-9 日

水野 健太郎. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. (シンポジウム座長)精巣發育不全症候群(testicular dysgenesis syndrome)に対する泌尿器科医の役割. 2021 年 12 月 7-9 日

西尾 英紀. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. (シンポジウム)精巣發育不全症候群における妊孕性に対する泌尿器科医の役割. 2021 年 12 月 7-9 日

西尾 英紀. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. (総会賞ポスター)停留精巣における造精機能障害・悪性化の原因遺伝子の探索~ヒト停留精巣組織を用いた Ingenuity Pathway Analysis による解析~. 2021 年 12 月 7-9 日

水野 健太郎. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. (International Session Award) Clinical analysis of the role of thyroid function in the differentiation process of spermatogonial stem cells in cryptorchid testis. 2021 年 12 月 7-9 日

Hayashi Yutaro. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. (Panel Discussion)Presentation theme : My experience with hypospadias surgery Hypospadias in Tsugaru region. 2021 年 12 月 7-9 日

水野 健太郎. 第 109 回日本泌尿器科学会総会. (ワークショップ)ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術の新たな展開. 2021 年 12 月 7-9 日

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

2021年1-12月

入院患者数：230名

手術件数：170件（うち緊急手術7件）

厚生労働省 先進医療技術A（腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術）：11件

他施設からのロボット手術見学受け入れ：3件（名古屋大学病院、佐賀大学病院、中京病院）

豊田工業大学との連携に伴う活動（病院見学対応）

関連施設における小児泌尿器科外来（蒲郡市民病院、東部・西部医療センター）

シニアレジデント小児泌尿器科ローテーション：2名

<研究活動実績>

【欧文業績】

Kurobe R, [Hirano Y](#), [Ogura S](#), [Yasukawa T](#), Ogura Y. **Ultra-widefield swept-source optical coherence tomography findings of peripheral retinal degenerations and breaks.** Clin Ophthalmol. **15**: 4739-4745, 2021.

Kondo M, Noma H, Shimura M, Sugimoto M, Matsui Y, Kato K, Saishin Y, Ohji M, Ishikawa H, Gomi F, Iwata K, Yoshida S, Kusuhara S, Hirai H, Ogata N, Hirano T, Murata T, Tsuboi K, Kamei M, Kinoshita T, [Kuwayama S](#), [Hirano Y](#), Ohta M, Kimura K, Takayama K, Takeuchi M, Takamura Y, Okamoto F, Mitamura Y, Terasaki H, Sakamoto T, Group OBOJCRSJ.

Background Factors Affecting Visual Acuity at Initial Visit in Eyes with Central Retinal Vein Occlusion: Multicenter Study in Japan. J Clin Med. **10(23)**: 5619, 2021.

Funatsu R, Terasaki H, Sakamoto T: Japan Retinal Detachment Registry study group. Yamamoto S, Baba T, Sato E, Kitahashi M, Tatsumi T, Miura G, Niizawa T, Sakamoto T, Yamakira K, Yamashita T, Otsuka H, Sameshima S, Yoshinaga N, Sonoda S, Hirakata A, Koto T, Inoue M, Hirota K, Itoh Y, Orihira T, Emoto Y, Sano M, Takahashi H, Tokizawa R, Yamashita H, Nishitsuka K, Kaneko Y, Nishi K, Yoshida A, Ono S, Hirokawa H, Sogawa K, Omae T, Ishibazawa A, Kishi S, Akiyama H, Matsumoto H, Mukai R, Morimoto M, Nakazawa M, Suzuki Y, Kudo T, Adachi K, Ishida S, Noda K, Kase S, Mori S, Ando R, Saito M, Suzuki T, Takahashi K, Nagai Y, Nakauchi T, Yamada H, Kusaka S, Tsujioka D, Tsujikawa A, Suzuma K, Ishibashi T, Sonoda KH, Ikeda Y, Kohno R, Ishikawa K, Kondo M, Kozawa M, Kitaoka T, Tsuiki E, Ogura Y, Yoshida M, [Morita H](#), [Kato A](#), [Hirano Y](#), Sugitani K, Terasaki H, Iwase T, Ito Y, Ueno S, Kaneko H, Nonobe N, Kominami T, Azuma N, Yokoi T, Shimada H, Nakashizuka H, Hattori T, Shinojima A, Kitazawa Y, Shiraga F, Morizane Y, Kimura S, Ikeda T, Kida T, Sato T, Fukumoto M, Emi K, Nakashima H, Ohji M, Kakinoki M, Sawada O, Takeuchi S, Tanaka S, Iida T, Koizumi H, Maruko I, Hasegawa T, Kogure A, Iijima H, Oshiro T, Tateno Y, Kikushima W, Sugiyama A, Yoneyama S, Kadonosono K, Sato S, Yamane S. **Regional and sex differences in retinal detachment surgery: Japan-retinal detachment registry report.** Sci Rep. **11(1)**: 20611, 2021.

Inagaki M, [Hirano Y](#), [Yasuda Y](#), Kawamura M, [Suzuki N](#), [Yasukawa T](#), Yoshida M, Ogura Y. **Twenty-four month results of intravitreal ranibizumab for macular edema after branch retinal vein occlusion: visual outcomes and resolution of macular edema.** Semin Ophthalmol. **36(7)**: 482-489, 2021.

[Kato A](#), Fujishima K, Takami K, Inoue N, Takase N, [Suzuki N](#), Suzuki K, [Kuwayama S](#), Yamada A, Sakai K, Horita R, [Nozaki M](#), Yoshida M, [Hirano Y](#), [Yasukawa T](#), Ogura Y. **Remote screening of diabetic retinopathy using ultra-widefield retinal imaging.** Diabetes Res Clin Pract. **177**: 108902, 2021.

Kawano S, Imai T, Sakamoto T; Japan-Retinal Detachment Registry Group. Yamamoto S, Baba T, Sato E, Kitahashi M, Tatsumi T, Miura G, Niizawa T, Sakamoto T, Yamakira K, Yamashita T, Otsuka H, Sameshima S, Yoshinaga N, Sonoda S, Hirakata A, Koto T, Inoue M, Hirota K, Itoh Y, Orihira T, Emoto Y, Sano M, Takahashi H, Tokizawa R, Yamashita H, Nishitsuka K, Kaneko Y, Nishi K, Yoshida A, Ono S, Hirokawa H, Sogawa K, Omae T, Ishibazawa A, Kishi S, Akiyama H, Matsumoto H, Mukai R, Morimoto M, Nakazawa M, Suzuki Y, Kudo T, Adachi K, Ishida S, Noda K, Kase S, Mori S, Ando R, Saito M, Suzuki T, Takahashi K, Nagai Y, Nakauchi T, Yamada H, Kusaka S, Tsujioka D, Suzuma K, Tsujikawa A, Ishibashi T, Sonoda KH, Ikeda Y, Kohno R, Ishikawa K, Kondo M, Kozawa M, Kitaoka T, Tsuiki E, Ogura Y, Yoshida M, [Morita H](#), [Kato A](#), [Hirano Y](#), Sugitani K, Terasaki H, Iwase T, Ito Y, Ueno S, Kaneko H, Nonobe N, Kominami T, Azuma N, Yokoi T, Shimada H, Nakashizuka H, Hattori T, Shinojima A, Kitagawa Y, Shiraga F, Morizane Y, Kimura S, Ikeda T, Kida T, Sato T, Fukumoto M, Emi K, Nakashima

H, Ohji M, Kakinoki M, Sawada O, Takeuchi S, Tanaka S, Iida T, Koizumi H, Maruko I, Hasegawa T, Kogure A, Iijima H, Oshiro T, Tateno Y, Kikushima W, Sugiyama A, Yoneyama S, Kadonosono K, Sato S. **Scleral buckling versus pars plana vitrectomy in simple phakic macula-on retinal detachment: a propensity score-matched, registry-based study.** Br J Ophthalmol. **106(6)**: 857-862, 2021.

Hirano Y, Suzuki N, Tomiyasu T, Kurobe R, Yasuda Y, Esaki Y, Yasukawa T, Yoshida M, Ogura Y. **Multimodal Imaging of Microvascular Abnormalities in Retinal Vein Occlusion.** J Clin Med. **10(3)**: 405, 2021.

Yuguchi T, Ogura S, Hirano Y, Suzuki N, Yasukawa T, Ogura Y. **Autologous posterior capsule flap transplantation in the management of refractory macular hole in a pseudophakic eye.** Retin Cases Brief Rep. **18**: 2021.

Yoshida S, Murakami T, Nozaki M, Suzuma K, Baba T, Hirano T, Sawada O, Sugimoto M, Takamura Y, Tsuiki E. **Review of clinical studies and recommendation for a therapeutic flow chart for diabetic macular edema.** Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. **259(4)**:815-836, 2021.

Obayashi T, Kato A, Suzuki H, Ohashi K, Yoshida M, Shibata Y, Ogura Y, Yasukawa T. **A case series from a single family of familial retinal arteriolar tortuosity with common history of sudden visual loss.** Am J Ophthalmol Case Rep. **24**: 101230, 2021.

【和文業績】

加藤亜紀. **超高齢者への眼科診療-傾向と対策-高齢者の糖尿病網膜症マネージメント.** Monthly Book OCULISTA. **101**: 41-48, 2021.

吉田直子, 小坂拓也, 柴田優, 玉井一司. **トリアムシノロンテノン嚢下投与が有効であったと考えられた IRVAN 症候群の 1 例.** 臨眼. **75**: 615-622, 2021

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	安川 力	10 (3)	6 (2)	1 (1)
准教授	野崎実穂	2 (0)	2 (0)	0 (0)
准教授(講師)	平野佳男	8 (4)	8 (4)	0 (0)
学内講師 助教	桑山創一郎	2 (0)	2 (0)	0 (0)
学内講師 助教	鈴木識裕	4 (0)	4 (0)	0 (0)
講師 (助教)	加藤亜紀	5 (2)	4 (1)	1 (1)
講師 (助教)	木村雅代	0 (0)	0 (0)	0(0)
学内講師	森田 裕	2	2	0

助教				
学内講師 助教	小椋俊太郎	2	2	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	玉井一司	0	0	0
講師	加藤房枝	0	0	0
助教(診療 担当)	小坂拓也	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授(診 療担当)	中沢陽子	0	0	0
助教	安田優介	2	2	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

平野 佳男. 公益財団法人 堀科学芸術振興財団. 研究助成. 網膜静脈閉塞症における網膜虚血の黄斑浮腫への関与解明と臨床への応用, (令和3年度)

【外部資金獲得実績】 (科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載)

平野 佳男. IQVIA サービスーズ・ジャパン. 受託研究費. (責任医師). 令和3年度-令和5年度、1,921千円

平野 佳男. 中外製薬株式会社. 治験 (CK11200010). (責任医師). 令和2年度-令和5年度、1,830千円

平野 佳男. 中外製薬株式会社. 治験 (CK11200011). (責任医師). 令和2年度-令

和 5 年度、2,439 千円

平野 佳男. バイエル薬品株式会社. 治験 (CK12200004). (責任医師). 令和 2 年度-令和 5 年度、1,995 千円

平野 佳男. ファーマバイオ株式会社. 治験 (CK13200002). (責任医師). 令和 2 年度-令和 5 年度、374 千円

平野 佳男. ファーマバイオ株式会社. 受託研究費. (責任医師). 令和 3 年度、1,650 千円

平野 佳男. ノバルティス株式会社. 治験 (CK12190003). (責任医師). 令和元年度-令和 4 年度、653 千円

平野 佳男. 日本アルコン株式会社. 研究助成. (分担). 令和 3 年度-令和 4 年度、200 千円

平野 佳男. 公益財団法人 堀科学芸術振興財団. 研究助成. (代表). 令和 3 年度-令和 4 年度、800 千円

平野 佳男. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、4,160 千円

平野 佳男. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 1 年度-令和 3 年度、200 千円

平野 佳男. ジョンソン・エンド・ジョンソン サージカルビジョン エイムオー・ジャパン. 契約研究助成. (代表). 令和 2 年度-令和 3 年度、2,000 千円

野崎 実穂. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 2 年度-令和 4 年度、4,290 千円

野崎 実穂. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 平成 30 年度-令和 3 年度、150 千円

桑山 創一郎. 文部科学省科学研究費 (若手研究・分担). 令和 1 年度-令和 3 年度、3,300 千円

小椋 俊太郎. 文部科学省科学研究費 (研究活動スタート支援・代表). 令和 2 年度-令和 4 年度、2,860 千円

小椋 俊太郎. 文部科学省科学研究費 (若手研究・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度、3,380 千円

加藤 房枝. 文部科学省科学研究費 (研究活動スタート支援) 令和 3 年度-令和 4 年度、1,560 千円

中沢 陽子. 文部科学省科学研究費 (研究活動スタート支援). 令和 3 年度-令和 5 年度、2,400 千円

【その他】

Hirano Y. Zeiss Multi Modal Fundus Imaging. The 2nd International Ocular Circulation Society. Luncheon Seminar. Sep 24-26, 2021.

Yasukawa T, Hirano Y, Kato A, Ogura Y. Autologous iris pigment epithelial cell sheet implants for chorioretinal diseases with retinal pigment epithelial atrophy. ARVO 2021. April 27-May 2, 2021.

Yasukawa T, Hirano Y, Kato A, Ohashi Y, Ogura Y. Experimental transplantation of autologous iris pigment epithelial cell sheets to treat chorioretinal atrophy and tests for its clinical applications. ISCT2021. September 3-4, 2021.

Yasukawa T, Kusano H, Hirano Y, Kato A, Ogura Y. Autologous iris pigment epithelial cell sheet transplantation for myopic chorioretinal atrophy-A preclinical study for a first-in-human clinical trial. The 36th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress. September 5-11, 2021.

平野 佳男. 網膜静脈閉塞症診療における光干渉断層計. 第 125 回日本眼科学会総会. 教育セミナー. 4月8日-4月11日, 2021.

平野 佳男. 網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫治療における治療抵抗因子. 第 125 回日本眼科学会総会. ランチョンセミナー. 4月8日-4月11日, 2021.

Nozaki M. 8th International Symposium Asia Pacific Retinal Imaging Society (APRIS). Less expansion of short-pulse laser scars in panretinal photocoagulation for diabetic retinopathy - long term comparison using FAF-. July 1-3, 2021

Nozaki M, Ogura Y. The 2nd International Ocular Circulation Society. Comparison of detecting microaneurysms using fluorescein angiography, indocyanine green angiography and OCT angiography in diabetic macular edema. Sep 24-26, 2021.

野崎実穂. 第 36 回日本糖尿病合併症学会・第 27 回日本糖尿病眼学会. 教育セミナー. ～症例から学ぶ～治療の基本とリスクファクターを理解しよう! 「網膜光凝固」. 2021 年 10 月 8 日

小坂拓也 第 75 回日本臨床眼科学会 片眼発症の滲出型加齢黄斑変性治療中に僚眼にも発症した患者の臨床的特徴 2021 年 10 月 28 日～31 日

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

野崎実穂. 医師国家試験委員、医師国家試験予備試験委員

野崎実穂. 若手 DR 研究会世話人

野崎実穂. 低侵襲レーザーの会 世話人

小椋俊太郎 名古屋市中央看護専門学校 学外講師

玉井一司 愛知県眼科医会代議員

玉井一司 愛知県社会保険診療報酬審査委員

<研究活動実績>

【欧文業績】

Magara T, Nakamura M, Kano S, Kato H, Oshima R, Kawakita D, Morita A. **Dynamic changes in tumor immunity in a case of cutaneous angiosarcoma with recurrent lesions.** J Dermatol. **48(11)**: e564-e565, 2021.

Suzuki H, Sasaki E, Takano G, Goto S, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N. **Lymph node ratio as a predictor for minor salivary gland cancer in head and neck.** BMC Cancer. **21(1)**: 1186, 2021.

Takabayashi T, Asaka D, Okamoto Y, Himi T, Haruna S, Yoshida N, Kondo K, Yoshikawa M, Sakuma Y, Shibata K, Suzuki M, Kobayashi M, Kawata R, Tsuzuki K, Okano M, Higaki T, Takeno S, Kodama S, Yonekura S, Saito H, Nozaki A, Otori N, Fujieda S. **A Phase II, Multicenter, Randomized, Placebo-Controlled Study of Benralizumab, a Humanized Anti-IL-5R Alpha Monoclonal Antibody, in Patients With Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis.** Am J Rhinol Allergy. **35(6)**: 861-870, 2021.

Kurokawa R, Kanemitsu Y, Fukumitsu K, Takeda N, Yap JM, Suzuki M, Mori Y, Fukuda S, Uemura T, Tajiri T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Niimi A. **The diagnostic utility of the frequency scale for the symptoms of gastroesophageal reflux disease questionnaire (FSSG) for patients with subacute/chronic cough.** J Asthma. **58(11)**: 1502-1511, 2021.

Minohara K, Matoba T, Kawakita D, Takano G, Oguri K, Murashima A, Nakai K, Iwaki S, Hojo W, Matsumura A, Ozaki S, Ozawa T, Harata I, Tanaka N, Maseki S, Tsuge H, Imaizumi S, Mitsuya S, Moribe K, Esaki S, Iwasaki S. **Novel Prognostic Score for recurrent or metastatic head and neck cancer patients treated with Nivolumab.** Sci Rep. **11(1)**: 16992, 2021.

Esaki S, Nakayama M, Arima S, Sato S. **Use of Actigraphy for a Rat Behavioural Sleep Study.** Clocks Sleep. **3(3)**: 409-414, 2021.

Koyama H, Kashio A, Fujimoto C, Uranaka T, Matsumoto Y, Kamogashira T, Kinoshita M, Iwasaki S, Yamasoba T. **Alteration of Vestibular Function in Pediatric Cochlear Implant Recipients.** Front Neurol. **12**: 661302, 2021.

Hyodo M, Nagao A, Asano K, Sakaguchi M, Mizoguchi K, Omori K, Tada Y, Hatakeyama H, Oridate N, Naito K, Iwata Y, Shinomiya H, Hara H, Sanuki T, Yumoto E. **Botulinum toxin injection into the intrinsic laryngeal muscles to treat spasmodic dysphonia: A multicenter, placebo-controlled, randomized, double-blinded, parallel-group comparison / open-label clinical trial.** Eur J Neurol. **28(5)**: 1548-1556, 2021.

Kabaya K, Takahashi M, Sato Y, Sekiya K, Ito S, Iwasaki S. **Relationship between cognition and the severity of chronic tinnitus: Validation of the Japanese version of the Tinnitus Cognitions Questionnaire.** Int Tinnitus J. **25(1)**: 112-117, 2021.

Tomita N, Tamechika S, Kawakita D, Saito K. **Marked Improvement of Anti-TIF1- γ Antibody-Positive Dermatomyositis After Chemoradiotherapy to Relevant Nasopharyngeal Cancer.** Advances in radiation oncology. **6(4)**: 100695, 2021.

Hyodo M, Hisa Y, Nishizawa N, Omori K, Shiromoto O, Yumoto E, Sanuki T, Nagao A, Hirose K, Kobayashi T, Asano K, Sakaguchi M. **The prevalence and clinical features of spasmodic dysphonia: A review of epidemiological surveys conducted in Japan.** Auris Nasus Larynx. **48(2)**: 179-184, 2021.

Fujimoto C, Kawahara T, Kinoshita M, Ichijo K, Oka M, Kamogashira T, Sugasawa K, Yamasoba T, Iwasaki S. **Minimally important differences for subjective improvement in postural stability in patients with bilateral vestibulopathy.** *Neurosci Lett.* **747**: 135706, 2021.

Morita N, Murase T, Ueda K, Nagao T, Kusafuka K, Nakaguro M, Urano M, Taguchi KI, Yamamoto H, Kano S, Tada Y, Tsukahara K, Okami K, Onitsuka T, Fujimoto Y, Kawakita D, Sakurai K, Nagao T, Hanai N, Kawata R, Hato N, Otsuki N, Nibu KI, Inagaki H. **Pathological evaluation of tumor grade for salivary adenoid cystic carcinoma: A proposal of an objective grading system.** *Cancer Science.* **112(3)**: 1184-1195, 2021.

Inagaki A, Minakata T, Katsumi S, Murakami S. **RESPONSE TO LETTER TO THE EDITOR: "EFFECT OF INTRATYMPANIC DEXAMETHASONE ON BELL'S PALSY: LETTER TO THE EDITOR".** *Otol Neurotol.* **42(3)**: 483-484, 2021.

Ogawa M, Osaga S, Shiraki N, Kawakita D, Hanai N, Tamaki T, Tsukahara S, Kawaguchi T, Urano M, Shibamoto Y. **Utility of CT texture analysis to differentiate olfactory neuroblastoma from sinonasal squamous cell carcinoma.** *Sci Rep* **11(1)**: 4679, 2021.

Inagaki A, Kojima A, Ogawa M, Sakata T, Iwasaki S. **Imaging manifestations on sequential magnetic resonance imaging in pharyngolaryngeal involvement by varicella zoster virus.** *J Neurovirol.* **27(1)**: 186-190, 2021.

Iwasaki S, Shojaku H, Murofushi T, Seo T, Kitahara T, Origasa H, Watanabe Y, Suzuki M, Takeda N. **Diagnostic and therapeutic strategies for Meniere's disease of the Japan Society of Equilibrium Research.** *Auris Nasus Larynx.* **48(1)**: 15-22, 2021.

Inoue Y, Matsumoto Y, Toh K, Miyano K, Cabral H, Igarashi K, Iwasaki S, Kataoka K, Yamasoba T. **Manipulating dynamic tumor vessel permeability to enhance polymeric micelle accumulation.** *J Control Release.* **329**: 63-75, 2021.

Shime H, Odanaka M, Tsuiji M, Matoba T, Imai M, Yasumizu Y, Uraki R, Minohara K, Watanabe M, Bonito AJ, Fukuyama H, Ohkura N, Sakaguchi S, Morita A, Yamazaki S. **Reply to Slominski et al.: UVB irradiation induces proenkephalin+ regulatory T cells with a wound-healing function.** *Proc Natl Acad Sci U S A.* **118(3)**: e2021919118, 2021.

Nakayama M, Nakano N, Mihara T, Arima S, Sato S, Kabaya K, Suzuki M, Kitahara T. **Two cases of exploding head syndrome documented by polysomnography that improved after treatment.** *J Clin Sleep Med.* **17(1)**: 103-106, 2021.

【和文業績】

柘植博之、澤部倫、川北大介. **頭頸部癌の一次予防.** *耳鼻咽喉科臨床.* **114(12)**: 968-969, 2021

金沢佑治、岸本曜、讃岐徹治、廣芝新也、大森孝一、楯谷一郎. **内転型痙攣性発声障害患者における音声知覚時の感覚運動皮質活動.** *音声言語医学.* **62(4)**: 287-293, 2021.

川口加那、川北大介、的場拓磨、尾崎慎哉、三矢昭治、森部一穂、岩崎真一. **降下性壊死性縦隔炎 22 症例の検討.** *日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌.* **1(1)**: 35-41, 2021.

有馬菜千枝、中山明峰、佐藤慎太郎、江崎伸一、岩崎真一. **小建中湯による夜驚症と睡眠時遊行症の改善を終夜睡眠ポリグラフ検査にて確認できた 1 症例.** *日本東洋医学会雑誌.* **72(3)**: 248-253, 2021.

小島綾乃、川北大介、的場拓磨、高野学、小栗恵介、蓑原潔、村嶋明大、岩城翔、柘植博之、田中伸和、今泉冴恵、松村綾乃、岩崎真一. **レンバチニア投与中に未分化転化を来した甲状腺乳頭癌例.** *耳鼻と臨床.* **67(4)**: 263-268, 2021.

兒玉成博、讚岐徹治. 音声治療におけるドロップアウトの影響因子. 音声言語医学. 62(3): 239-245, 2021.

今泉冴恵、川北大介、的場拓磨、高野学、小栗恵介、蓑原潔、岩城翔、柘植博之、松村綾乃、岩崎真一. 陽子線治療後に仮性動脈瘤破裂に伴う耳出血を繰り返した外耳道癌例. 耳鼻咽喉科臨床. 114(6): 451-456, 2021

名倉しず香、讚岐徹治、江崎伸一、岩崎真一. 輪状軟骨骨折と声門下異物との鑑別に苦慮した小児声門下狭窄の1例. 喉頭. 33(1): 46-49, 2021.

竹内絵里香、尾崎慎哉、横田誠、中村善久、可児里美、小西あおい、神田理絵、浜島正人、岡本典子、大橋美、松本珠美、岩崎真一、鈴木元彦. 名古屋市立大学における2020年のスギ・ヒノキ科花粉飛散結果と2021年の花粉飛散予想について. 東海花粉症研究会誌. 32: 15-20, 2021

小池毬子、樫尾明憲、尾形エリカ、赤松裕介、小山一、浦中司、星雄二郎、岩崎真一、山唄達也. 就学前に人工内耳手術を施行した内耳奇形例の就学期状況について. Audiology Japan. 64(2): 195-203, 2021.

中山明峰、蒲谷嘉代子. めまい・ふらつきに対するリハビリテーション治療. ENTONI. 256: 57-61, 2021.

蒲谷嘉代子、中山明峰. 外来診療における私の処置 耳の処置 16 めまいの救急対応. JOHNS. 37(3): 315-318, 2021.

竹内絵里香、欄真一郎、岩崎真一. ニボルマブを投与した耳下腺低分化癌の一例. 口腔・咽頭科. 34(1): 115-121, 2021.

丹羽正樹、江崎伸一、佐藤慎太郎、濱島有喜、村上信五、岩崎真一. 唾液瘻を伴った耳下腺唾石症の一例. 口腔・咽頭科. 34(1): 67-71, 2021.

今泉冴恵、川北大介、的場拓磨、高野学、小栗恵介、蓑原潔、岩城翔、柘植博之、岩崎真一. 手術治療を行った耳下腺癌 72 症例の臨床的検討. 頭頸部外科. 30(3): 297-302, 2021.

井上亜希、藤本千里、中屋宗雄、岩崎真一. 浮動性めまいと両側進行性感音難聴を呈した傍腫瘍性神経症候群の1例. Equilibrium Research. 80(1): 41-49, 2021.

玉井ひとみ、蒲谷嘉代子、小澤泰次郎、山口慎人、福島諒奈、朝岡龍博、岩崎真一. 当初耳鼻咽喉科疾患が疑われ受診した Fisher 症候群の2例. 耳鼻咽喉科臨床. 114(1): 71-76, 2021.

兒玉成博、讚岐徹治、宮本卓海、田代丈二. Muscle tension dysphonia (MTD) に対する音声治療の効果. 音声言語医学. 62(1): 46-52, 2021.

兒玉成博、讚岐徹治. 変声障害に対して音声治療を施行した4症例. 音声言語医学. 62(1): 53-58, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	岩崎 真一	19(16)	7(5)	12(11)
准教授	讚岐 徹治	7 (1)	2	5 (1)
准教授	川北 大介	10 (6)	5 (1)	5 (5)

講師	佐藤 慎太郎	4	2	2
講師	江崎 伸一	5(2)	2(1)	3 (1)
講師	蒲谷 嘉代子	5(3)	2(1)	3(2)
助教	的場 拓磨	6	2	4
助教	南方 寿哉	1	1	0
助教	村嶋 明大	2	1	1

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
教授（診療担当）	鈴木 元彦	5(1)	4	1(1)
助教	杉山 喜一	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
講師（診療担当）	高野 学	5	2	3
助教	篠塚 憲一	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

鈴木 元彦. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和7年度、1,150千円

岩崎 真一. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和3年度-令和6年度、4,800千円

岩崎 真一. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和3年度-令和6年度、200千円

江崎 伸一. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、500 千円

蒲谷 嘉代子. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、300 千円

南方 寿哉. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 6 年度、1,700 千円

南方 寿哉. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、300 千円

川北 大介. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、100 千円

川北 大介. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、50 千円

江崎 伸一. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、100 千円

江崎 伸一. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、100 千円

岩崎 真一. 受託研究費 (AMED・代表). 令和 3 年度、1,088 千円

讃岐 徹治. 受託研究費 (AMED・代表). 令和 3 年度、10,071 千円

岩崎 真一. 受託研究費 (国立大学法人 東京大学). 令和 3 年度、307 千円

岩崎 真一. 研究助成金 (公益財団法人 国際耳鼻咽喉科学振興会). 令和 3 年 10 月-令和 4 年 9 月、1,000 千円

鈴木 元彦. 治験研究費 (グラコ・ミスクリン株式会社). 令和 3 年 4 月-令和 5 年 4 月、971 千円

岩崎 真一. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担). 令和 2 年度-令和 5 年度、300 千円

江崎 伸一. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・代表). 令和 2 年度-令和 5 年度、3,500 千円

高野 学. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 2 年度-令和 5 年度、100 千円

川北 大介. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 2 年度-令和 4 年度、700 千円

蒲谷 嘉代子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 2 年度-令和 4 年度、700 千円

讃岐 徹治. 厚生労働科学研究費 (代表). 令和 2 年度-令和 3 年度、2,270 千円

讃岐 徹治. 受託研究費 (AMED・代表). 令和 2 年度-令和 3 年度、2,538 千円

讃岐 徹治. 受託研究費 (AMED・代表). 令和 2 年度-令和 3 年度、1,750 千円

蒲谷 嘉代子. 治験研究費 (ファイバー R&D 合同会社). 令和 1 年 12 月-令和 5 年 8 月、311 千円

鈴木 元彦. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 平成 31 年度-令和 5 年度、100 千円

江崎 伸一. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 平成 31 年度-令和 5 年度、100 千円

讃岐 徹治. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 平成 31 年度-令和 4 年度、900 千円

蒲谷 嘉代子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 平成 31 年度-令和 4 年度、100 千円

蒲谷 嘉代子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 平成 31 年度-令和 4 年度、50 千円

的場 拓磨. 文部科学省科学研究費 (国際共同 B・分担). 平成 31 年度-令和 4 年度、200 千円

高野 学. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 平成 31 年度-令和 3 年度、600 千円

川北 大介. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 平成 30 年度-令和 4 年度、10 千円

佐藤 慎太郎. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 平成 30 年度-令和 4 年度、380 千円

【その他】

主要な国内学会・国際学会における発表

<国際学会>

Tetsuji Sanuki, Shinichi Iwasaki. 13th Congress of the European Laryngological Society 2021. Treatment for adductor spasmodic dysphonia – botulinum toxin injections vs Type 2 thyroplasty with TITANBRIDGE®. 2021.5.28

<国内学会>

川北大介. 第 65 回日本唾液腺学会学術集会. 唾液腺導管癌における PTEN 欠損とその臨床病理学的意義・多施設共同研究. 2021 年 11 月 27 日

川北大介. 第 65 回日本唾液腺学会学術集会. 唾液腺導管癌において EZH2 高発現は複合アンドロゲン遮断療法の効果不良予測因子になりうる. 2021 年 11 月 27 日

川北大介. 第 65 回日本唾液腺学会学術集会. 再発・転移唾液腺導管癌に対する抗 HER2・抗 AR 療法の生存への寄与—大規模個別データを用いた後ろ向きコホート研究—. 2021 年 11 月 27 日

江崎伸一. 第 26 回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会. Hunt 症候群の診断と治療. 2021 年 11 月 20 日～21 日

讃岐徹治. 第 72 回日本気管食道科学会総会・学術講演会. 発声障害用医療機器及び医療技術の開発. 2021 年 11 月 11 日～12 日

讃岐徹治、江崎伸一、岩崎真一. 第 72 回日本気管食道科学会総会・学術講演会. 過回転発声障害ウサギモデルの開発. 2021 年 11 月 11 日～12 日

岩崎真一. 第 80 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会. 目で見る眼球運動異常と病態生理. 2021 年 11 月 10 日～12 日

蒲谷嘉代子、佐藤慎太郎、岩崎真一. 第80回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会. 良性発作性頭位めまい症における video Head Impulse Test の検討. 2021年11月10日～12日

蒲谷嘉代子. 第80回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会. 救急担当医が適用可能なめまい経過観察クリニカルパス導入の試み. 2021年11月10日～12日

蒲谷嘉代子、岩崎真一. 第80回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会. 末梢前庭機能低下が持続性知覚性姿勢誘発めまいの重症度に及ぼす影響についての検討. 2021年11月10日～12日

蒲谷嘉代子、岩崎真一. 第80回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会. うつや不安をもつ持続性知覚性姿勢誘発めまい症例において心因要素が及ぼす影響の検討. 2021年11月10日～12日

南方寿哉、江崎伸一、岩崎真一. 第44回日本顔面神経学会. 外傷性顔面神経麻痺の予後因子についての検討. 2021年11月6日～7日

江崎伸一、南方寿哉、岩崎真一. 第44回日本顔面神経学会. 自動予後診断システムによる急性片側性顔面神経麻痺の予後予測 第二弾. 2021年11月6日～7日

江崎伸一、南方寿哉、岩崎真一. 第44回日本顔面神経学会. 機械学習を用いた顔面神経麻痺の評価の試み. 2021年11月6日～7日

岩崎真一. 第44回日本顔面神経学会. 顔面神経麻痺を伴った顔面神経管内コレステリン肉芽腫の一例. 2021年11月6日～7日

蒲谷嘉代子、岩崎真一. 第66回日本聴覚医学会総会・学術講演会. 耳鳴り患者における頭痛の併存とその影響. 2021年10月20日～22日

蒲谷嘉代子、岩崎真一. 第66回日本聴覚医学会総会・学術講演会. 耳鳴患者に対する自覚的難聴の検討. 2021年10月20日～22日

蒲谷嘉代子、岩崎真一. 第66回日本聴覚医学会総会・学術講演会. 急性難聴を反復し一側聾となったベーチェット病の1例. 2021年10月20日～22日

岩崎真一. 第66回日本聴覚医学会総会・学術講演会. 本邦における一側性聴覚障害の実態調査結果 (20歳未満症例) について. 2021年10月20日～22日

岩崎真一. 第66回日本聴覚医学会総会・学術講演会. 本邦における成人一側性聴覚障害の実態調査結果について. 2021年10月20日～22日

岩崎真一. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会. 顎関節手術に中外耳合併症を来した1例. 2021年10月13日～16日

南方寿哉、江崎伸一、岩崎真一. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会. 遅発性外傷性顔面神経麻痺の臨床的特徴と予後. 2021年10月13日～16日

岩崎真一. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会. マウス騒音性難聴モデルにおけるピロロキノリンキノン (PQQ) の保護効果. 2021年10月13日～16日

岩崎真一. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会. 両側前庭障害患者における重心動揺検査の最小重要差について. 2021年10月13日～16日

鈴木元彦. 第70回日本アレルギー学会学術大会. 生活環境汚染と鼻副鼻腔炎. 2021年10月8日～10日

讃岐徹治. 第66回日本音声言語医学会総会・学術講演会. 痙攣性発声障害疾患レジストリ開発と運用に関する研究. 2021年10月7日～8日

佐藤慎太郎、蒲谷嘉代子、江崎伸一. 第46回日本睡眠学会定期学術集会. 当院における肥満減量手術症例に対する睡眠時無呼吸の取り扱い. 2021年9月23日～24日

江崎伸一、佐藤慎太郎. 第46回日本睡眠学会定期学術集会. OSA患者のスクリーニング— 歯科の役割—. 2021年9月23日～24日

江崎伸一、佐藤慎太郎. 第46回日本睡眠学会定期学術集会. 睡眠障害を訴えた食道裂孔ヘルニア患者の一例. 2021年9月23日～24日

鈴木元彦、蒲谷嘉代子、江崎伸一、佐藤慎太郎. 第46回日本睡眠学会定期学術集会. コロナ禍がCPAP治療に与えた影響. 2021年9月23日～24日

江崎伸一、佐藤慎太郎. 第46回日本睡眠学会定期学術集会. Chiaril型奇形に対する天後頭孔部減圧術前後のPSG検査の一例. 2021年9月23日～24日

江崎伸一、佐藤慎太郎. 第46回日本睡眠学会定期学術集会. 2018年にCPAP導入した患者において、仰臥位の鼻腔通気度と治療継続状況からの検討. 2021年9月23日～24日

江崎伸一、佐藤慎太郎. 第46回日本睡眠学会定期学術集会. 睡眠検査で睡眠麻痺を計3回とらえたナルコレプシー症例. 2021年9月23日～24日

江崎伸一、佐藤慎太郎. 第46回日本睡眠学会定期学術集会. 新型コロナウイルスが睡眠外来に及ぼす影響. 2021年9月23日～24日

讃岐徹治. 第60回日本鼻科学会総会・学術講演会. 血管損傷モデルを使用した凝固止血操作と内頸動脈損傷を想定した実技講習. 2021年9月23日～25日

讃岐徹治、岩崎真一. 第60回日本鼻科学会総会・学術講演会. 当科における鼻副鼻腔乳頭腫27例の検討. 2021年9月23日～25日

讃岐徹治. 第60回日本鼻科学会総会・学術講演会. 翼突管動脈に再発をきたした若年性血管線維腫の1例. 2021年9月23日～25日

讃岐徹治. 第60回日本鼻科学会総会・学術講演会. 内視鏡を用いて摘出した鼻副鼻腔悪性腫瘍症例の検討. 2021年9月23日～25日

鈴木元彦、岩崎真一. 第60回日本鼻科学会総会・学術講演会. COVID-19における臨床的特徴 症状、既往歴、薬歴との関係を中心に. 2021年9月23日～25日

鈴木元彦. 第60回日本鼻科学会総会・学術講演会. 感冒後嗅覚障害に対する当帰芍薬散の治療成績 多施設共同研究結果. 2021年9月23日～25日

江崎伸一. 第34回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会. 唾液腺管内視鏡手術ハンズオンセミナー. 2021年9月2日～3日

江崎伸一. 第34回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会. 唾液腺管内視鏡を併用した顎下腺唾石摘出術. 2021年9月2日～3日

江崎伸一、佐藤慎太郎、岩崎真一. 第34回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会. 唾液腺内視鏡に外観鏡を併用した顎下腺唾石摘出術. 2021年9月2日～3日

江崎伸一、佐藤慎太郎、岩崎真一. 第34回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会. 耳下腺唾石症の自然排石例の臨床像. 2021年9月2日～3日

佐藤慎太郎、江崎伸一. 第34回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会. 睡眠時無呼吸用口腔内装置における鼻腔通気度の検討. 2021年9月2日～3日

江崎伸一、佐藤慎太郎、岩崎真一. 第34回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会. 睡眠障害を訴えた食道裂孔ヘルニア患者の一例. 2021年9月2日～3日

佐藤慎太郎、江崎伸一. 第34回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会. コロナ禍における睡眠検査—小児検査の動向—. 2021年9月2日～3日

鈴木元彦、岩崎真一. 第1回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) における血液検査の所見. 2021年6月30日～7月2日

江崎伸一、高野学、岩崎真一. 第1回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会. CDK9 選択阻害薬の単純ヘルペスウイルスへの抗ウイルス効果. 2021年6月30日～7月2日

蒲谷嘉代子. 第83回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会. 耳鳴のリハビリテーション. 2021年6月26日～27日

蒲谷嘉代子、岩崎真一. 第83回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会. 難治性の反復性めまいに対してカルバマセピンが奏功した3症例の検討. 2021年6月26日～27日

岩崎真一. 第83回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会. 当科における鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対する dupilumab の使用経験. 2021年6月26日～27日

村嶋明大. 第83回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会. 免疫関連有害事象の発症予測バイオマーカーの検討. 2021年6月26日～27日

川北大介. 第45回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会. 頭頸部癌のリアルワールドデータから見えてくるもの. 2021年6月17日～18日

川北大介. 第45回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会. 唾液腺導管癌—診断と治療のパラダイムシフト. 2021年6月17日～18日

的場拓磨、川北大介、高野学、岩崎真一. 第45回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会. 化学放射線療法により腫瘍随伴症候群である皮膚筋炎の改善を認めた上咽頭癌例. 2021年6月17日～18日

川北大介、的場拓磨、高野学、岩崎真一. 第45回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会. 慢性 GVHD 関連舌癌の2例. 2021年6月17日～18日

高野学、川北大介、的場拓磨、岩崎真一. 第45回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会. 名古屋市立大学関連施設におけるレンバチニブ療法の臨床的検討. 2021年6月17日～18日

川北大介、高野学、的場拓磨、岩崎真一. 第45回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会. irAE の診断に苦慮した上咽頭癌症例. 2021年6月17日～18日

讃岐徹治. AMED 難治性疾患実用化研究事業 2020年度成果報告会. 痙攣性発声障害レジストリを活用した診断基準及び重症度分類のバリデーション評価研究. 2021年6月7日～21日

讃岐徹治. 第41回日本脳神経外科コンgres総会. 経鼻手術に必要な鼻腔・頭蓋底の微小解剖. 2021年5月13日～5月16日

讃岐徹治. 第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会. チタンブリッジの開発の経験から. 2021年5月12日～5月15日

岩崎真一. 第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会. Auris Nasus Larynx 編集者として. 2021年5月12～5月15日

江崎伸一、佐藤慎太郎、岩崎真一. 第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会. 顎

下腺唾石手術におけるオルソパントモ撮影の有用性の検討. 2021年5月12日～5月15日

岩崎真一. 第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会. モルモットを用いたTNF α 蝸牛内投与による感音性難聴の検討. 2021年5月12日～5月15日

讃岐徹治、岩崎真一. 第33回日本喉頭科学会総会・学術講演会. 喉頭良性病変に対してコブレーターを用いて手術を施行した2症例. 2021年3月5日～6日

讃岐徹治、江崎伸一、岩崎真一. 第33回日本喉頭科学会総会・学術講演会. 声帯萎縮に対する補中益気湯の有効性の検討. 2021年3月5日～6日

讃岐徹治、岩崎真一. 第33回日本喉頭科学会総会・学術講演会. 当院におけるVITOM®3D systemを用いた喉頭枠組み手術. 2021年3月5日～6日

讃岐徹治. AMED 革新的医療技術創出拠点令和二年度成果報告会. 次世代AI技術を用いたリアルタイム音声障害診断システムに関する研究開発. 2021年3月4日～15日

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1) Bachelez H, Choon SE, Marrakchi S, Burden AD, Tsai TF, Morita A, Navarini AA, Zheng M, Xu J, Turki H, Anadkat MJ, Rajeswari S, Hua H, Vulcu SD, Hall D, Tetzlaff K, Thoma C, Lebwohl MG; Effisayil 1 Trial Investigators. **Trial of Spesolimab for Generalized Pustular Psoriasis**. *N Engl J Med*. **385(26)**: 2431-2440, 2021.
- 2) Krutmann J, Schalka S, Watson REB, Wei L, Morita A. **Daily photoprotection to prevent photoaging**. *Photodermatol Photoimmunol Photomed*.**37(6)**: 482-489, 2021.
- 3) Krutmann J, Schikowski T, Morita A, Berneburg M.J *Invest Dermatol*. **Environmentally-Induced (Extrinsic) Skin Aging: Exposomal Factors and Underlying Mechanisms**. **141(4S)**: 1096-1103, 2021.
- 4) Choon SE, Lebwohl MG, Marrakchi S, Burden AD, Tsai TF, Morita A, Navarini AA, Zheng M, Xu J, Turki H, Rajeswari S, Deng H, Tetzlaff K, Thoma C, Bachelez H. **Study protocol of the global Effisayil 1 Phase II, multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled trial of spesolimab in patients with generalized pustular psoriasis presenting with an acute flare**. *BMJ Open*. **11(3)**: e043666, 2021.
- 5) Komine M, Morita A. **Generalized pustular psoriasis: current management status and unmet medical needs in Japan**. *Expert Rev Clin Immunol*. **17(9)**: 1015-1027, 2021.
- 6) Magara T, Nakamura M, Nojiri Y, Yoshimitsu M, Kano S, Matsubara A, Kato H, Morita A **Tertiary lymphoid structures correlate with better prognosis in cutaneous angiosarcoma**. *J Dermatol Sci*. **103(1)**: 57-59, 2021.
- 7) Oda T, Kato H, Nakamura M, Morita A. **Analysis of biomonitoring data after full-thickness skin grafting**. *J Dermatol*. **48(7)**: 1035-1043, 2021.
- 8) Masuda H, Morita A. **Ultraviolet A1 phototherapy utilizing ultraviolet light-emitting diodes and a short wavelength cutoff filter**. *J Dermatol Sci*. **101(2)**: 138-140, 2021.
- 9) Rizaldy D, Toriyama M, Kato H, Fukui R, Fujita F, Nakamura M, Okada F, Morita A, Ishii K. **Increase in primary cilia in the epidermis of patients with atopic dermatitis and psoriasis**. *J.Exp Dermatol*. **30(6)**: 792-803, 2021.
- 10) Kawabe S, Iwata N, Nishida E, Kohagura T, Abe N, Nakaseko H, Morita A. **Combination immunosuppressant therapy for rapidly progressive pyoderma gangrenosum in a child**. *Mod Rheumatol Case Rep*. **5(1)**: 137-140, 2021.

- 11) Furuhashi T, Oda T, Torii K, Nishida E, Morita A. **Dupilumab probably reduces transepidermal water loss but does not increase stratum corneum hydration in atopic dermatitis.** *J Dermatol.* **48(2)**: e74-e75, 2021.
- 12) Shime H, Odanaka M, Tsuiji M, Matoba T, Imai M, Yasumizu Y, Uraki R, Minohara K, Watanabe M, Bonito AJ, Fukuyama H, Ohkura N, Sakaguchi S, Morita A, Yamazaki S. **Reply to Slominski et al.: UVB irradiation induces proenkephalin⁺ regulatory T cells with a wound-healing function.** *Proc Natl Acad Sci U S A.* **118(3)**: e2021919118, 2021.
- 14) Kanayama Y, Torii K, Ikumi K, Morita A. **Bath Psoralen Plus UVA Therapy Suppresses Keratinocyte-Derived Chemokines in Pathogenetically Relevant Cells.** *JID Innov.* **1(3)**: 10002, 2021.
- 15) Toriyama E, Masuda H, Torii K, Ikumi K, Morita A. **Time kinetics of cyclobutane pyrimidine dimer formation by narrowband and broadband UVB irradiation.** *J Dermatol Sci.* **103(3)**: 151-155. 2021.
- 16) Sakurai M, Nakamura M, Ikumi K, Kato H, Morita A. **Dermoscopic findings of psoralen and ultraviolet A therapy lentigines resembling melanoma in a patient with mycosis fungoides.** *J Dermatol.* **48(11)**: e526-e527, 2021.
- 17) Magara T, Nakamura M, Kano S, Kato H, Oshima R, Kawakita D, Morita A. **Dynamic changes in tumor immunity in a case of cutaneous angiosarcoma with recurrent lesions.** *J Dermatol.* **48(11)**: e564-e565, 2021.
- 18) Fujita H, Ohtsuki M, Morita A, Nagao R, Seko N, Matsumoto K, Tani Y, Terui T. **Safety and effectiveness of secukinumab in psoriasis vulgaris and psoriatic arthritis: Real-world evidence in Japan.** *J Dermatol.* **48(2)**: 175-183
- 19) Torii K, Okada Y, Morita A. **Determining the immune environment of cutaneous T-cell lymphoma lesions through the assessment of lesional blood drops.** *Sci Rep.* **11(1)**: 19629, 2021.
- 20) Toriyama K, Kato H, Sato H, Tanaka T, Inoie M, Morita A. **Cultured epidermal autografts for treatment of stable vitiligo: Quantitative analysis of color matching with surrounding normally pigmented skin.** *J Dermatol.* **48(9)**: 1405-1408. 2021.
- 21) Kato A, Kato H, Komori S, Nakano S, Murase T, Nakamura M, Morita A. **Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy Secondary to Extramammary Paget's Disease: An Autopsy Case Report and Literature Review.** *Case Rep Oncol.* **14(3)**: 1328-1332, 2021.
- 22) Umezawa Y, Asahina A, Imafuku S, Tada Y, Sano S, Morita A, Sakurai S, Hoshii N, Tilt N, Nakagawa H. *Dermatol Ther (Heidelb)*. **Efficacy and Safety of Certolizumab Pegol in Japanese Patients with Moderate to Severe Plaque Psoriasis: 52-Week Results.** *Dermatol Ther.* **11(3)**: 943-960, 2021.

- 23) Makino T, Ihn H, Nakagawa M, Urano M, Okuyama R, Katoh N, Tateishi C, Masuda K, Ogawa E, Nishida E, Nishimoto S, Muramoto K, Tsuruta D, Morita A. **Effect of adalimumab on axial manifestations in Japanese patients with psoriatic arthritis: a 24 week prospective, observational study.** *Rheumatology (Oxford)*. **60(8)**: 3669-3678, 2021.
- 24) Morita A, Takahashi H, Ozawa K, Imafuku S, Takekuni N, Takahashi K, Matsuyama T, Okubo Y, Zhao Y, Kitamura S, Takei K, Yokoyama M, Hayashi N, Terui T. **Long-term analysis of adalimumab in Japanese patients with moderate to severe hidradenitis suppurativa: Open-label phase 3 results.** *J Dermatol*. **48(1)**: 3-13, 2021.
- 25) Flament F, Velleman D, Yamashita E, Nicolas A, Yokoyama E, Itaya A, Zhang Y, Jiang R, Aarabi P, Abric A, Nakada A, Sagawa Y, Nishihara H, Morita A, Cassier M, Delaunay C. **Japanese experiment of a complete and objective automatic grading system of facial signs from selfie pictures: Validation with dermatologists and characterization of changes due to age and sun exposures.** *Skin Res Technol*. **27(4)**: 544-553, 2021.
- 26) Okubo Y, Kotowsky N, Gao R, Saito K, Morita A. **Clinical characteristics and health-care resource utilization in patients with generalized pustular psoriasis using real-world evidence from the Japanese Medical Data Center database.** *J Dermatol*. **48(11)**: 1675-1687, 2021.
- 27) Morita A, Kotowsky N, Gao R, Shimizu R, Okubo Y. **Patient characteristics and burden of disease in Japanese patients with generalized pustular psoriasis: Results from the Medical Data Vision claims database.** *J Dermatol*. **48(10)**: 1463-1473, 2021.
- 28) Igarashi A, Nakagawa H, Morita A, Okubo Y, Sano S, Imafuku S, Tada Y, Honma M, Mendelsohn AM, Kawamura M, Ohtsuki M. **Efficacy and safety of tildrakizumab in Japanese patients with moderate to severe plaque psoriasis: Results from a 64-week phase 3 study (reSURFACE 1).** *J Dermatol*. **48(6)**: 853-863, 2021.
- 29) Imafuku S, Nakagawa H, Igarashi A, Morita A, Okubo Y, Sano S, Tada Y, Nemoto O, Rozzo SJ, Kawamura M, Ohtsuki M. **Long-term efficacy and safety of tildrakizumab in Japanese patients with moderate to severe plaque psoriasis: Results from a 5-year extension of a phase 3 study (reSURFACE 1).** *J Dermatol*. **48(6)**: 844-852, 2021.
- 30) Rolfes KM, Sondermann NC, Vogeley C, Dairou J, Gilardino V, Wirth R, Meller S, Homey B, Krutmann J, Lang D, Nakamura M, Haarmann-Stemmann T. **Inhibition of 6-formylindolo[3,2-b]carbazole metabolism sensitizes keratinocytes to UVA-induced apoptosis: Implications for vemurafenib-induced phototoxicity.** *Redox Biol*. **46**: 102110, 2021.
- 31) Nakamura M, Obayashi M, Yoshimitsu M, Kato H, Morita A. **Comparative whole-exome sequencing of an ultra-late recurrent malignant melanoma.** *Br J Dermatol*. **184(4)**: 762-763, 2021.

- 32) Nakamura Y, Namikawa K, Yoshikawa S, Kiniwa Y, Maekawa T, Yamasaki O, Isei T, Matsushita S, Nomura M, Nakai Y, Fukushima S, Saito S, Takenouchi T, Tanaka R, Kato H, Otsuka A, Matsuya T, Baba N, Nagase K, Inozume T, Fujimoto N, Kuwatsuka Y, Onishi M, Kaneko T, Onuma T, Umeda Y, Ogata D, Takahashi A, Otsuka M, Teramoto Y, Yamazaki N. **Anti-PD-1 antibody monotherapy versus anti-PD-1 plus anti-CTLA-4 combination therapy as first-line immunotherapy in unresectable or metastatic mucosal melanoma: a retrospective, multicenter study of 329 Japanese cases (JMAC study)**. *ESMO Open*. **6(6)**: 100325, 2021.
- 33) Umeda Y, Yoshikawa S, Kiniwa Y, Maekawa T, Yamasaki O, Isei T, Matsushita S, Nomura M, Nakai Y, Fukushima S, Saito S, Takenouchi T, Tanaka R, Kato H, Otsuka A, Matsuya T, Baba N, Nagase K, Inozume T, Onuma T, Kuwatsuka Y, Fujimoto N, Kaneko T, Onishi M, Namikawa K, Yamazaki N, Nakamura Y. **Real-world efficacy of anti-PD-1 antibody or combined anti-PD-1 plus anti-CTLA-4 antibodies, with or without radiotherapy, in advanced mucosal melanoma patients: A retrospective, multicenter study**. *Eur J Cancer*. **157**: 361-372, 2021.
- 34) Amagai R, Muto Y, Kato H, Matsushita S, Maekawa T, Fukushima S, Yoshino K, Uchi H, Fujisawa Y, Yamamoto Y, Ohuchi K, Kambayashi Y, Fujimura T. **Retrospective analysis of adjuvant therapy using dabrafenib plus trametinib in Japanese patients with advanced melanoma: analysis of 36 cases**. *Melanoma Res*. **31(6)**: 575-578, 2021.
- 35) Sakurai M, Nakamura M, Ikumi K, Kato H, Morita A. **Dermoscopic findings of psoralen and ultraviolet A therapy lentigines resembling melanoma in a patient with mycosis fungoides**. *J Dermatol*. **48(11)**: e526-e527, 2021.
- 36) Ansai SI, Umebayashi Y, Katsumata N, Kato H, Kadono T, Takai T, Namiki T, Nakagawa M, Soejima T, Koga H, Sugaya M; Squamous Cell Carcinoma Guidelines Committee of the Japanese Skin Cancer Society. **Japanese Dermatological Association Guidelines: Outlines of Guidelines for Cutaneous Squamous Cell Carcinoma 2020**. *J Dermatol*. **248(7)**: e288-e311, 2021.
- 37) Fujisawa Y, Ito T, Kato H, Irie H, Kaji T, Maekawa T, Asai J, Yamamoto Y, Fujimura T, Nakai Y, Yasuda M, Matsuyama K, Muto I, Matsushita S, Uchi H, Nakamura Y, Uehara J, Yoshino K. **Outcome of combination therapy using BRAF and MEK inhibitors among Asian patients with advanced melanoma: An analysis of 112 cases**. *Eur J Cancer*. **145**: 210-220, 2021.

【和文業績】

- 1) 岸本 暢将, Mcinnes Iain, 加藤 弘士, Magrey Marina, Merola Joseph F. 森田明理, Tena Cesar Francisco Pacheco, Haaland Derek, Chen Liang, Duan Yuanyuan, Zueger Patrick, Liu Jianzhong, Lippe Ralph, Pangan Aileen, Behrens Frank. **関節症性乾癬患者対象ウパダシチニブ第3相試験での全体及び日本集団の56週有効性と安全性データ**. *日本脊椎性関節炎学会誌*. **8(suppl)**: S-57, 2021.
- 2) 森田明理. **IL-23 阻害薬と体軸関節炎 強直性脊椎炎と乾癬性関節炎の有効性の差**

- 異. 日本脊椎関節炎学会誌. 8(suppl): S-28, 2021
- 3) 森田明理. 乾癬皮疹の診断へのアプローチ. 日本脊椎関節炎学会誌. 8(suppl): S-22, 2021.
 - 4) 岩田 奈子, 中田 礼, 井汲 今日子, 吉満 眞紀, 櫻井 麻衣, 真柄 徹也, 中村 元樹, 森田 明理. 再発性多発軟骨炎の1例. 皮膚科の臨床. 63(13): 2053-2056, 2021.
 - 5) 服部由季, 中村元樹, 真柄梓, 小田隆夫, 加藤裕史, 森田明理. 大腿に生じた皮膚原発腺様嚢胞癌の1例. 皮膚科の臨床. 63(10): 1577-1580, 2021.
 - 6) 山崎 小百合, 森田 明理. 【乾癬および類縁疾患】乾癬とアトピー性皮膚炎の病態と免疫制御. 皮膚病診療. 43(9): 794-800, 2021.
 - 7) 森田 明理. 【皮膚悪性腫瘍(第2版)下-基礎と臨床の最新研究動向-】有棘細胞癌(日光角化症・Bowen病) 表皮内病変 日光角化症 日光角化症-その原因・検査・診断・概論. 日本臨床. 79(3)皮膚悪性腫瘍(下): 116-120, 2021.
 - 8) 野尻 由佳, 加藤 裕史, 石田 高司, 森田 明理. 【間葉系腫瘍】自然消退を認めた原発性皮膚びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫・下肢型の1例. 皮膚科の臨床. 63(8): 1229-1233, 2021.
 - 9) 森田 明理. 【診察室での患者さんの質問に答えます】掌蹠膿疱症 関節炎がおきると聞きましたが, どのような症状がでたら要注意なのでしょうか. 皮膚科の臨床. 63(6): 850-853, 2021.
 - 10) 櫻井麻衣, 中村元樹, 小田隆夫, 加藤裕史, 森田明理. 右頬部に生じた神経内分泌分化を伴う皮膚粘液癌の1例. 皮膚科の臨床. 63(7): 1157-1160, 2021.
 - 11) 山崎 小百合, 森田 明理. 皮膚の恒常性維持と制御性 T 細胞. 臨床免疫・アレルギー科. 75(5): 584-589, 2021.
 - 12) 森田 明理. 【脊椎関節炎の診療の進歩】脊椎関節炎に対する IL-23 阻害薬. リウマチ科. 65(2): 198-205, 2021.
 - 13) 安井 由希子, 加藤 裕史, 小田 隆夫, 中村 元樹, 内堀 貴文, 鳥山 和宏, 森田 明理. 眼窩内浸潤を来した左下眼瞼基底細胞癌の1例. 西日本皮膚科. 83(2): 125-128, 2021.
 - 14) 加古 志織, 加藤 裕史, 中村 元樹, 村井 太郎, 芝本 雄太, 森田 明理. 放射線療法が奏効した高齢者顔面基底細胞癌の1例. 西日本皮膚科. 83(1): 34-37. 2021.
 - 15) 森田明理. 【乾癬性関節炎-診断と治療における最新知見-】臨床症状と診断 皮

膚・爪病変. 日本臨床. 79(4): 500-506, 2021.

- 16) 森田明理. 【乾癬性関節炎-診断と治療における最新知見-】臨床症状と診断 皮膚・爪病変. 化膿性汗腺炎診療の手引き 2020. 日本皮膚科学会雑誌. 131(1): 1-28, 2021.
- 17) 森田 明理. 井汲 今日子. 【糖尿病患者の併発症の診かた】皮膚病変. 日本内科学会雑誌. 110(4): 746-752, 2021.
- 18) 葉山 惟大, 井上 里佳, 大槻 マミ太郎, 大嶺 卓也, 門野 岳史, 黒川 一郎, 佐藤 伸一, 清水 宏, 高橋 健造, 鳥居 秀嗣, 乃村 俊史, 林 健太郎, 林 伸和, 藤田 英樹, 前川 武雄, 森田 明理, 吉崎 歩, 照井 正, 化膿性汗腺炎診療の手引き 策定委員会. 化膿性汗腺炎診療の手引き 2020. 日本皮膚科学会雑誌. 131(1): 1-28, 2021.
- 19) 甚目 航太, 加藤 裕史, 加藤 香澄, 春原 晶代, 西田 絵美, 森田 明理. 【最近の水疱症】免疫チェックポイント阻害薬投与中に生じた水疱性類天疱瘡. 皮膚病診療. 43(2): 162-166, 2021.
- 20) 服部由季, 中村元樹, 真柄梓, 小田隆夫, 加藤裕史, 森田明理. 大腿に生じた皮膚原発腺様嚢胞癌の1例. 皮膚科の臨床. 63(10): 1577-1580, 2021
- 21) 櫻井麻衣, 中村元樹, 小田隆夫, 加藤裕史, 森田明理. 右頬部に生じた神経内分泌分化を伴う皮膚粘液癌の1例. 皮膚科の臨床. 63(7): 1157-1160, 2021
- 22) 中村元樹. 【皮膚悪性腫瘍(第2版)下-基礎と臨床の最新研究動向-】メルケル細胞癌 治療 外科的治療. 日本臨床. 79(増刊3 皮膚悪性腫瘍(下)): 330-334, 2021
- 23) 中村元樹. 【皮膚悪性腫瘍(第2版)下-基礎と臨床の最新研究動向-】メルケル細胞癌 治療 薬物療法 免疫チェックポイント阻害薬(解説). 日本臨床. 79(増刊3 皮膚悪性腫瘍(下)): 342-347, 2021
- 24) 服部 由季, 中村 元樹, 真柄 梓, 小田 隆夫, 加藤 裕史, 森田 明理. 大腿に生じた皮膚原発腺様嚢胞癌の1例. 皮膚臨床. 63(10): 1577-1580, 2021
- 25) 加藤裕史. 【皮膚悪性腫瘍(第2版)下-基礎と臨床の最新研究動向-】基底細胞癌 基底細胞癌の検査・診断 診断 病理組織学的病型と鑑別診断(解説). 日本臨床. 79(増刊号3): 208-213, 2021
- 26) 加藤裕史. 【皮膚悪性腫瘍(第2版)下-基礎と臨床の最新研究動向-】有棘細胞癌(日光角化症・Bowen病) 有棘細胞癌の治療 外科的治療 手術適応、切除マージン(解説). 日本臨床. 79(増刊号3): 74-78, 2021

- 27) 野尻 由佳, 加藤 裕史, 石田 高司, 森田 明理. 【間葉系腫瘍】自然消退を認めた原発性皮膚びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫・下肢型の 1 例. 皮膚科の臨床. 63(8); 1229-1233, 2021
- 28) 加古 志織, 加藤 裕史, 中村 元樹, 村井 太郎, 芝本 雄太, 森田 明理. 放射線療法が奏効した高齢者顔面基底細胞癌の 1 例. 西日本皮膚科 83(1); 34-37, 2021
- 29) 鷺尾 健, 峠岡 理沙, 加藤 裕史, 宇都宮 夏子, 西部 明子, 丸山 彩乃, 蓮沼 直子, 野崎 正嗣, 多田 弥生 第 71 回皮膚科学会中部支部学術大会 日本皮膚科学会キャリア支援委員会主催キャリアデザイン講座 皮膚科医のサブスペシャリティ Design your future、得意分野を究める(解説). 日本皮膚科学会雑誌. 131(2); 279-287, 2021

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	森田 明理	54 (46)	30 (25)	24 (21)
准教授	加藤 裕史	29 (4)	14(2)	15 (2)
講師	中村 元樹	20 (6)	9 (4)	11 (2)
助教	井汲 今日子	6 (0)	4 (0)	2(0)
助教	山本(中田) 礼	1(0)	0(0)	1(0)
助教	佐川 容子	1 (0)	1 (0)	0(0)
助教	高木 佐千代	0(0)	0(0)	0(0)
助教	中村 令子	0(0)	0(0)	0(0)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

准教授(診療担当)	岩井 敦子	0(0)	0(0)	0(0)
-----------	-------	------	------	------

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

教授(診療担当)	澤田 啓生	0(0)	0(0)	0(0)
----------	-------	------	------	------

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

- 1) 森田明理 令和3年9月 鳥居帝国乾癬研究奨励賞 学会発表賞
- 2) 森田明理 令和3年11月 名古屋市立大学トップ1%論文表彰
- 3) 中村元樹 2021年12月第22回マルホ研究賞 基礎研究論文賞
- 4) 中村元樹 加齢皮膚医学研究会 第15回加齢皮膚医学研究基金ロート賞 2021年8月
- 5) 中村元樹. 日本皮膚悪性腫瘍学会 第9回日本皮膚悪性腫瘍学会賞(石原・池田賞) 2021年7月
- 6) 中村元樹. マルホ・高木皮膚科学振興財団 第5回高木賞 2021年4月
- 7) 井汲今日子 日本女医会愛知県支部、若手女性医師奨励賞, 2021年6月

【外部資金獲得実績】 (科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載)

- 1) 森田明理 令和3年度 AMED 次世代がん医療創生研究事業、がん細胞および免疫応答解析に基づくがん免疫療法効果予測診断法の確立、分担70万円(直接経費・全体91万円)
- 2) 森田明理 強直性脊椎炎に代表される脊椎関節炎及び類縁疾患の医療水準ならびに患QOL向上に資する大規模多施設研究、分担(代表研究者一括計上)
- 3) 森田明理 令和3年度科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)(代表) フォトフォレーシスによる制御性T細胞の誘導 125万
- 4) 森田明理 令和3年度科学研究費 基盤B(代表)、紫外線照射による制御性T細胞誘導と解析—皮膚病変のリキッドバイオプシーの開発、200万(200万—200万)
- 5) 森田明理 日本医療研究開発機構 令和3年度ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業
「先端ゲノム研究開発」次世代ゲノミクス研究による乾癬の疾患病態解明・個別化医療・創薬 分担250万(令和2年~6年・5年間)
- 6) 中村元樹. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤C・代表 (20K08676) 2020年-2022年、4160千円
- 7) 中村元樹. 堀科学芸術振興財団 研究助成 2021年、800千円
- 8) 藤 裕史. 文部科学研究費(若干研究・代表). 令和3年度—令和5年度、4,160千円
- 9) 加藤 裕史. 受託研究費(AMED・分担). 令和3年度—令和4年度、2,000千円
- 10) 加藤 裕史, 受託研究費(株式会社MTG・代表). 令和3年度—令和4年度、966.47千円
- 11) 中村 令子 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究・代表(19K17782) 2019年-2022年、4160千円

12) 井汲 今日子 日本学術振興会 科学研究費助成事業
若手研究・代表 (20K17355) 2020年—2022年、4160千円

13) 山本 礼 日本学術振興会 科学研究費助成事業
若手研究・代表(20K17356) 2020年—2022年、4290千円

【その他】

≪国際学会発表≫

中村元樹. The 46th annual meeting of JSID“Blockade of glucose-6-phosphate dehydrogenase induces immunogenic cell death in malignant melanoma and Merkel cell carcinoma”2021年12月5日 口演

中村元樹. The 50th annual ESDR meeting “Glucose-6-Phosphate Dehydrogenase is a Promising Biomarker for Prognosis and Immune Activity Prediction in Merkel Cell Carcinoma” 2021年9月22-25日 ポスター

中村元樹. SID Virtual meeting 2021 “Glucose-6-phosphate dehydrogenase is a promising predictor of immunotherapy response for Merkel cell carcinoma” 2021年5月3-8日、ポスター

Hiroshi Kato Complication and Risk factors in punch biopsy – A retrospectivelarge-scale study, Asian Congress of Dermatologic Surgery, Kagoshima, 2021

(Plenary session)

Yasuhiro Nakamura, Yukiko Kiniwa, Hiroshi Kato, Osamu Yamasaki, Takeo Maekawa, ShigetoMatsushita, Tatsuya Takenouchi, Takashi Inozume, Yasuo Nakai, Satoshi Fukushima Comparing the clinical efficacies of anti-PD-1 antibody monotherapy and anti-PD-1 and anti-CTLA-4 combination therapyas first-line immunotherapy in Japanese advanced acral melanoma: A retrospective, multicenter study (JAMP-neo study) ASCO Annual meeting, 2021

Kyoko Ikumi. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. **UVA1-LED phototherapy rapidly fixed pustule in patients with palmoplantar pustulosis.** Dec,2021

≪主要な国内学会の参加状況≫

中村元樹. 日本研究皮膚科学会. 評議員

加藤裕史. 日本皮膚科学会 (創傷・熱傷・褥瘡ガイドライン策定委員会メンバー、皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン策定委員会メンバー、サマースクール運営委員、中部支部キャリア支援委員)、日本皮膚悪性腫瘍学会 評議員、日本皮膚外科学会 評議員、日本フットケア・足病医学会 評議員、日本感染症学会 男女共同参画委員会副委員長 (中日本支部代表)

井汲今日子. 日本光医学・光生物学会. 事務局長

<研究活動実績>

【欧文業績】

Kato S, Takashima H, Furuno S, Kako M, Maeda M, Hishida S, Miyamoto H, Shibuya Y. **A retrospective study on the incidence and risk factor of ARONJ**. Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. **33(5)**: 489-493, 2021.

Takashima H, Sato A, Miyamoto H, Kato S, Furuno S, Shibuya Y. **Perioperative management of von Willebrand patients at the time of implant placement: Case report**. Clinical Case Reports. **9(9)**: e04755, 2021.

Kojima Y, Otsuru M, Hasegawa T, Ueda N, Kirita T, Yamada S, Kurita H, Shibuya Y, Funahara M, Umeda M. **Risk factors for osteoradionecrosis of the jaw in patients with oral or oropharyngeal cancer: Verification of the effect of tooth extraction before radiotherapy using propensity score matching analysis**. Journal of Dental Sciences. **17(2)**: 1024-1029, 2021.

Umeda M, Ota Y, Kashiwabara K, Hayashi N, Naito M, Yamashita T, Mukai H, Nakatsukasa K, Amemiya T, Watanabe K, Hata H, Kikawa Y, Taniike N, Yamanaka T, Mitsunaga S, Nakagami K, Adachi M, Kondo N, Shibuya Y, Niikura N. **Oral care and oral assessment guide in breast cancer patients receiving everolimus and exemestane: subanalysis of a randomized controlled trial (Oral Care-BC)**. Annals of Translational Medicine. **9(7)**: 535, 2021.

Hasegawa T, Ueda N, Yamada S, Kato S, Iwata E, Hayashida S, Kojima Y, Shinohara M, Tojo I, Nakahara H, Yamaguchi T, Kirita T, Kurita H, Shibuya Y, Soutome S, Akashi M. **Denosumab-related osteonecrosis of the jaw after tooth extraction and the effects of a short drug holiday in cancer patients: a multicenter retrospective study**. Osteoporosis International. **32(11)**: 2323-2333, 2021.

Nakamura T, Zou K, Shibuya Y, Michikawa M. **Oral dysfunctions and cognitive impairment/dementia**. Journal of Neuroscience Research. **99(2)**: 518-528, 2021.

Hirose M, Yoshida Y, Horii K, Hasegawa Y, Shibuya Y. **Efficacy of antimicrobial photodynamic therapy with Rose Bengal and blue light against cariogenic bacteria**. Archives of Oral Biology. **122**: 105024, 2021.

Sato A, Kako E, Okuni N, Kusama N, Kamimura Y, Sento Y, So M, Tanaka M, Miyamoto H, Kato S, Kobayashi M, Shibuya Y, Sobue K. **Perioperative management of thyroglossal duct cystectomy in a pediatric patient: A case report**. Clinical Case Reports. **9(2)**: 673-676, 2021.

Nakatsukasa K, Niikura N, Kashiwabara K, Amemiya T, Watanabe K, Hata H, Kikawa Y, Taniike N, Yamanaka T, Mitsunaga S, Nakagami K, Adachi M, Kondo N, Shibuya Y, Hayashi N, Naito M, Yamashita T, Umeda M, Mukai H, Ota Y. **Secondary endpoints analysis in patients with estrogen receptor-positive metastatic breast cancer treated with everolimus and exemestane enrolled in Oral Care-BC**. BMC Cancer. **21(1)**: 34, 2021

Hirose M, Yoshida Y, Horii K, Hasegawa Y, Shibuya Y. **Effect of antimicrobial photodynamic therapy on periodontopathogenic bacteria: Evaluation of Rose Bengal and riboflavin as photosensitizers**. JOID. **28(2)**: 69-77, 2021.

【和文業績】

小林正樹, 森田麻希, 安永奈津子, 平井辰宜, 明石昌也, 渋谷恭之. 嚢胞壁に呼吸器上皮と胃粘膜上皮の両者を認めた舌前腸嚢胞の 1 例. 日本口腔外科学会雑誌. 67(5): 315-318, 2021.

高島裕之, 大原賢治, 福島麻子, 中村知寿, 高井美玲, 渋谷恭之. 口腔粘膜炎の悪化から頬部皮膚に至る穿孔を認めた壊疽性膿皮症の 1 例. 日本口腔外科学会雑誌. 67(8): 473-478, 2021.

栗田浩, 梅田正博, 植野高章, 鶴沢成一, 渋谷恭之, 中村典史, 長塚仁, 林孝文, 溝口到, 富原圭, 池上由美子, 野口一馬, 滝口裕一, 山本信之. がん治療患者の口腔機能管理における歯性感染病巣(歯のう蝕, 歯周病, 歯性感染症)管理: システマティックレビューに基づいた指針. 日本口腔科学会雑誌. 70(4): 279-289, 2021.

渋谷恭之. COVID-19 High Volume Center での歯科口腔外科診療～わたしたちの対応～1. 名古屋市立大学での取り組み. 日本口腔感染症学会雑誌. 28(2): 49-54, 2021.

【各教員の論文数 (桜山)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	渋谷恭之	12(8)	10(4)	4(4)
助教	加藤伸一郎	4(1)	4(1)	0
助教	青木尚史	0	0	0
助教	菱田純代	1(0)	1(0)	0
助教	土屋周平	0	0	0

注: () 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数 (西部)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	深野英夫	0	0	0
准教授	土持師	0	0	0
助教	宮本大模	3(0)	3(0)	0

注: () 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

宮本 大模. 文部科学省科学研究費(若手・代表)2020年度-2022年度、1,100千円

加藤 伸一郎. 文部科学省科学研究費(基盤C・代表). 2021年度-2023年度、1,200千円

土屋 周平. テルモ生命科学振興財団 2020年度Ⅲ研究助成金. 2021年度、2,000千円

土屋 周平. 文部科学省科学研究費(基盤C・代表). 2021年度-2023年度、1,000千円

【その他】

●国内主要学会発表

土屋周平, 水谷友美, 福島麻子, 高島裕之, 青木尚史, 渋谷恭之. 第25回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会. Xylosyltransferase-1,2は二酸化チタン上の骨髄間葉系幹細胞の動態に影響を与える. 2021年12月11日-12日.

青木尚史, 福島麻子, 中根昇吾, 平井辰宜, 高島裕之, 水谷友美, 土屋周平, 渋谷恭之. 第25回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会. 当科における上顎洞挙上術(ラテラルアプローチ)の臨床的検討. 2021年12月11日-12日.

福島麻子, 青木尚史, 中根昇吾, 平井辰宜, 高島裕之, 水谷友美, 土屋周平, 渋谷恭之. 第25回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会. 当科における抜歯即時埋入インプラントの臨床的検討. 2021年12月11日-12日.

水谷友美, 土屋周平, 中根昇吾, 平井辰宜, 福島麻子, 高島裕之, 青木尚史, 渋谷恭之. 第25回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会. アルカリ処理した2酸化チタン上の骨髄由来間葉系幹細胞は免疫寛容能を向上する. 2021年12月11日-12日

小澤月詩, 菱田純代, 小林寛子, 古野翔大, 中根昇吾, 水谷友美, 鈴木貴大, 中村知寿, 加藤伸一郎, 渋谷恭之. 第46回公益社団法人日本口腔外科学会中部支部学術大会. 第二大臼歯の萌出遅延を引き起こした石灰化上皮性歯原性腫瘍. 2021年11月30日.

渋谷恭之. 第7回桜山・口腔疾患地域連携勉強会. 名市大3病院(西部・東部・本学)のご紹介. 2021年11月18日.

小林寛子, 加藤伸一郎, 松本有美, 青木俊太, 鈴木貴大, 森田麻希, 福島麻子, 古野翔大, 土屋周平, 渋谷恭之. 第66回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会. 顎骨嚢胞摘出術を施行したFreeman-Sheldon症候群の1例. 2021年11月12日~11月14日.

渡邊裕之, 深野英夫, 宮本大模, 鍋田剛志, 大久保智史, 水野佑耶, 富松舞, 加藤伸一郎, 土持師, 渋谷恭之. 第66回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会. 舌癌術後の非制御頸部再発から髄膜癌腫症を来たし緩和医療に苦慮した1例. 2021年11月12日-14日.

山田慎一, 長谷川巧実, 新田哲也, 渋谷恭之, 宮本洋二, 中原寛和, 吉村仁志, 桐田

忠昭, 近藤誠二, 栗田浩. 第 66 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会. 下顎埋伏智歯の管理基準の均一化を目的とする包括的他施設共同前向き観察研究. 2021 年 11 月 12 日-14 日.

鍋田剛志, 菱田純代, 小澤月詩, 安永奈津子, 中村知寿, 高島裕之, 高井美玲, 加古まり, 青木尚史, 渋谷恭之. 第 66 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会. 当科で経験した皮下気腫 10 例の検討. 2021 年 11 月 12 日-14 日.

中村健人, 土屋周平, 林恒希, 鹿間優子, 中根昇吾, 水谷友美, 大原賢治, 廣瀬満理奈, 菱田純代, 渋谷恭之. 第 66 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会. 下顎智歯抜歯症例における臼後管の同定. 2021 年 11 月 12 日-14 日.

林恒希, 加藤伸一郎, 青木俊太, 中村健人, 大原賢治, 福島麻子, 高島裕之, 土屋周平, 菱田純代, 渋谷恭之. 第 64 回 NPO 法人日本口腔科学会中部地方会. 自殺企図による飛び降りにおける顎顔面外傷. 2021 年 10 月 31 日-11 月 14 日.

渋谷恭之. 一般社団法人日本口腔感染症学会第 30 回記念学術大会・総会. COVID-19 High Volume Center での歯科口腔外科診療～わたしたちの対応～. 2021 年 10 月 30 日-31 日.

山内千佳, 廣瀬満理奈, 渋谷恭之. 一般社団法人日本口腔感染症学会第 30 回記念学術大会・総会. 当科における口腔カンジダ症の臨床的検討. 2021 年 10 月 30 日-31 日.

宮本大模, 渡邊裕之, 水野佑耶, 富松舞, 大久保智史, 鍋田剛志, 土持師, 深野英夫, 渋谷恭之. 第 46 回公益社団法人日本口腔外科学会中部支部学術大会. 口底部に生じた孤立性神経線維腫の 1 例. 2021 年 10 月 30 日.

池森宇泰, 鈴木貴大, 岡崎涼, 河合晴世, 塚本佳世, 江崎伸一, 有馬菜千枝, 渋谷恭之, 中山明峰, 佐藤慎太郎. 日本睡眠学会第 46 回定期学術集会. OSA 患者のスクリーニング - 歯科の役割 -. 2021 年 9 月 23 日.

土持師. 第 21 回一般社団法人日本外傷歯学会総会・学術大会. シンポジウムⅣ (歯科の)一次救急医療機関における外傷歯治療の応急的初期対応と経過観察について. 2021 年 9 月 18 日-19 日

林恒希, 菱田純代, 小林寛子, 中村健人, 古野翔大, 渋谷恭之. 第 22 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会. 自殺企図による飛び降りにおける顎顔面外傷. 2021 年 8 月 2 日-15 日.

三浦真香, 真保亜衣, 楠本理沙子, 渡邊美仁, 渋谷恭之. 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会. 回復期リハビリテーション患者における歯科治療の必要性について. 2021 年 7 月 21 日-22 日.

森田麻希, 中村知寿, 宮本大模, 加藤伸一郎, 稲垣宏, 渋谷恭之. 第 45 回日本頭頸部癌学会. 歯根嚢胞の臨床像を呈した顎骨中心性粘表皮癌の一例. 2021 年 6 月 16 日.

大久保智史, 渡邊裕之, 大野麻里子, 中村健人, 鍋田剛志, 村橋璃香, 土持師, 深野英夫. 第75回NPO法人日本口腔科学会学術集会. 下唇に生じた皮膚混合腫瘍の1例. 2021年5月12日-14日.

鈴木貴大, 青木俊太, 堤康輔, 安永奈津子, 高島裕之, 水谷友美, 加古まり, 青木尚史, 加藤伸一郎, 渋谷恭之. 第75回NPO法人日本口腔科学会学術集会. 重症OSAを伴う小顎症患者に対してMMAを行うことでCPAPを離脱した1例. 2021年5月12日-14日.

大原賢治, 加藤伸一郎, 姜錫周, 中根昇吾, 高井美鈴, 中村知寿, 宮本大模, 菱田純代, 青木尚史, 渋谷恭之. 第75回NPO法人日本口腔科学会学術集会. 当科における転移性口腔腫瘍3例. 2021年5月12日-14日.

鹿間優子, 小林寛子, 堀部桃子, 平井宜辰, 福島麻子, 森田麻希, 廣瀬満里奈, 宮本大模, 菱田純代, 高岡素子, 渋谷恭之. 第75回NPO法人日本口腔科学会学術集会. 咀嚼機能評価に用いられる食品の特性測定と難易度判定基準の妥当性の検討. 2021年5月12日-14日.

廣瀬満理奈, 吉田康夫, 福島麻子, 高島裕之, 水谷友美, 宮本大模, 長谷川義明, 渋谷恭之. 第18回日本口腔ケア学会総会・学術大会. 口腔内細菌に対するRose Bengalと青色LEDを用いたa-PDTの効能. 2021年4月17日-18日.

山内千佳, 廣瀬満理奈, 江坂亜紀, 大坪由利子, 古峪恭子, 高井美玲, 加古まり, 宮本大模, 渋谷恭之. 第18回日本口腔ケア学会総会・学術大会. 当科における口腔カンジダ症の臨床的検討. 2021年4月17日-18日.

渋谷恭之, 栗田浩, 梅田正博, 片倉朗, 北川善政, 小林正治, 佐々木朗, 近津大地, 宮崎晃亘, 依田哲也, 桐田忠昭. 第126回日本解剖学会総会・全国学術集会/第98回日本生理学会大会合同大会. 日本口腔外科学会が取り組むCSTの現状と課題. 2021年3月28日-30日.

加藤伸一郎, 宮本大模, 堀部桃子, 福島麻子, 高島裕之, 森田麻希, 菱田純代, 青木尚史, 渋谷恭之. 第39回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会. Noonan症候群患者に発生したエナメル上皮線維歯牙腫の一例. 2021年1月28日-2月21日.

福島麻子, 堀部桃子, 中根昇吾, 中村知寿, 高島裕之, 森田麻希, 菱田純代, 宮本大模, 青木尚史, 加藤伸一郎, 渋谷恭之. 第39回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会. 口内法による下顎辺縁切除術を施行した13例の臨床的検討. 2021年1月28日-2月21日.

●学会活動の参加状況

渋谷恭之

- ・日本口腔外科学会 代議員
- ・日本口腔科学会 評議員
- ・日本口腔腫瘍学会 評議員

- ・日本顎顔面インプラント学会 運営審議委員
- ・日本顎顔面補綴学会 代議員
- ・日本頭頸部癌学会 代議員
- ・日本口腔感染症学会 代議員・理事
- ・日本口腔ケア学会 評議員

深野英夫

- ・日本口腔外科学会 代議員
- ・日本口腔科学会 評議員
- ・日本口腔内科学会 代議員
- ・愛知県病院歯科医会 理事

土持師

- ・日本法医歯科医学会 評議員
- ・愛知県保険医協会 勤務医会 評議員

●学会等資格

渋谷恭之

- ・日本口腔外科学会 専門医，指導医
- ・日本顎顔面インプラント学会 指導医
- ・日本がん治療認定医機構 認定医（歯科口腔外科）
- ・日本口腔腫瘍学会 暫定口腔がん指導医
- ・日本障害者歯科学会 指導医
- ・日本口腔科学会 認定医，指導医
- ・日本口腔感染症学会 院内感染予防対策認定医
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医
- ・神戸大学非常勤講師
- ・愛知学院大学講師（非常勤）

加藤伸一郎

- ・日本口腔外科学会 専門医
- ・日本口腔科学会 認定医
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

菱田純代

- ・日本口腔科学会 認定医
- ・日本有病者歯科医療学会 専門医
- ・日本外傷歯学会 認定医
- ・インфекションコントロールドクター
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

土屋周平

- ・日本口腔外科学会 専門医
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・愛知学院大学歯学部非常勤講師

深野英夫

- ・日本口腔外科学会 専門医, 指導医
- ・日本口腔科学会 認定医, 指導医
- ・日本口腔内科学会 専門医, 指導医
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・愛知学院大学歯学部非常勤講師

土持師

- ・日本口腔科学会 認定医, 指導医
- ・日本外傷歯学会 認定医, 指導医
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

宮本大模

- ・日本口腔外科学会 認定医
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

●臨床業務（桜山）

【外来診療】

外来診療：外来新患 2,297 名であった。

院内 NST チームのメンバーとして歯科医師 1 名, AST, ICT ラウンドチームメンバーとして歯科医師 1 名が活動した。

【入院診療】

当科入院患者総数は 476 件, 全身麻酔下での手術 91 件であった。

●教育活動・地域貢献

渋谷恭之

- ・CBC ラジオ「気分爽快！多田しげおの朝から PON」
「情報サプリメント～加藤愛の知っているつもり」
「なぜレモンや梅干しのことを考えると口の中に唾が溜まるの？」
2021 年 4 月 22 日 7:37～7:45
- ・CBC ラジオ「多田しげおの気分爽快！」
「舌～ベロについて」
2021 年 2 月 5 日 7:45-8:45
- ・コラム よくかんで未来の人類の健康を守ろう。名市大ブックス
- ・愛知学院大学歯学部 3 年 口腔外科学.
A. 菌性全身感染症（菌血症および菌性感染症の病態につき説明できる）
菌性感染症の成立機序、症状、検査法、治療法について説明できる

B. 手術侵襲と全身反応を説明できる

2021年12月2日 愛知学院大学 楠元校舎 第3講義室

土持師

- 講演「歯援診, 院内感染防止対策及び外来環の施設基準に係る研修会」
愛知県保険医協会主催. 2021年2月.
- 2021年7月西部医療センターにおける病診連携講演会座長
- 2021年2月 愛知県保険医協会講演座長
- 診療業務以外に剖検事例において口腔鑑定を行っている。

—形成外科学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Toriyama K, Kato H, Sato H, Tanaka T, Inoie M, Morita A. **Cultured epidermal autografts for treatment of stable vitiligo: Quantitative analysis of color matching with surrounding normally pigmented skin.** J Dermatol. **48(9)**: 1405-1408, 2021

Okabe YT, Shimizu S, Suetake Y, Matsui-Hirai H, Hasegawa S, Takanari K, Toriyama K, Kamei Y, Yamamoto T, Mizuno M, Gotoh M. **Biological characterization of adipose-derived regenerative cells used for the treatment of stress urinary incontinence.** Int J Urol. **28(1)**: 115-124, 2021

【和文業績】

佐藤 秀吉, 鳥山 和宏. 【レベルアップした再建手術を行うためにマスターする遊離皮弁】腹直筋皮弁・深下腹壁動脈穿通枝皮弁. PEPARS. **178(10)**: 34-39, 2021

鳥山 和宏, 佐藤 秀吉, 恒川 幸代, 小山 千里. 【ペット咬創への初期治療と機能・整容の改善[2]-顔面の組織欠損を伴うイヌ咬創(1)口唇-】下口唇の赤唇に生じたイヌ咬創の3例. 形成外科. **64(3)**: 290-295, 2021

安井 由希子, 加藤 裕史, 小田 隆夫, 中村 元樹, 内堀 貴文, 鳥山 和宏, 森田 明理. 眼窩内浸潤を来した左下眼瞼基底細胞癌の1例. 西日本皮膚科. **83(2)**: 125-128, 2021

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	鳥山 和宏	5 (3)	2 (1)	3 (2)
助教	佐藤 秀吉	3 (1)	1 (0)	2 (1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

なし

【その他】

なし

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Shimizu N, Naiki T, Kobayashi D, Naiki-Ito A, Kawai T, Xiaochen K, Etani T, Nozaki S, Tomiyama N, Aoki M, Matsuyama N, Iwatsuki S, Umemoto Y, Yasui T. **Testicular seminoma arising from infertile testes 6 years after microdissection testicular sperm extraction.** IJU Case Rep. **5**: 53-56, 2021.
2. Nagano-Matsuo A, Inoue S, Koshino A, Ota A, Nakao K, Komura M, Kato H, Naiki-Ito A, Watanabe K, Nagayasu Y, Hosokawa Y, Takiguchi S, Kasugai K, Kasai K, Inaguma S, Takahashi S. **PBK expression predicts favorable survival in colorectal cancer patients.** Virchows Arch. **479**: 277-284, 2021.
3. Kachi K, Kato H, Naiki-Ito A, Komura M, Nagano-Matsuo A, Naitoh I, Hayashi K, Kataoka H, Inaguma S, Takahashi S. **Anti-allergic drug suppressed pancreatic carcinogenesis via down-regulation of cellular proliferation.** Int J Mol Sci. **22**: 7444, 2021.
4. Subhawa S, Naiki-Ito A, Kato H, Naiki T, Komura M, Nagano-Matsuo A, Yeewa R, Inaguma S, Chewonarin T, Banjerdpongchai R, Takahashi S. **Suppressive effect and molecular mechanism of *Houttuynia cordata* Thunb. Extract against prostate carcinogenesis and castration-resistant prostate cancer.** Cancers. **13**: 3403, 2021.
5. Kato H, Naiki-Ito A, Suzuki S, Inaguma S, Komura M, Nakao K, Naiki T, Kachi K, Kato A, Matsuo Y, Takahashi S. **DPYD, down-regulated by the potentially chemopreventive agent luteolin, interacts with STAT3 in pancreatic cancer.** Carcinogenesis. **42**: 940-950, 2021.
6. Isobe T, Naiki T, Naiki-Ito A, Kawai T, Etani T, Nagai T, Nozaki S, Kobayakawa Y, Iwatsuki S, Matsuyama N, Kato H, Kawai N, Yasui T. **Rare case of immunoglobulin G4-related disease arising in gonadal glands with long-term remission without steroid treatment: Discussion and literature review.** IJU Case Rep. **4**: 188-191, 2021.
7. Koshino A, Inoue S, Sugimura-Nagata A, Nishiyama T, Murakami H, Ito H, Riku M, Inoko A, Ebi M, Ogasawara N, Tsuzuki T, Kasugai K, Kasai K, Inaguma S. **High phospho-histone H3 expression uniquely predicts favorable survival among four markers of cellular proliferation in colorectal cancer.** Pathol Int. **71**: 316-324, 2021.
8. Tasaki Y, Suzuki M, Katsushima K, Shinjo K, Iijima K, Murofushi Y, Naiki-Ito A, Hayashi K, Qui C, Takahashi A, Tanaka Y, Kawaguchi T, Sugawara M, Kataoka T, Naito M, Miyata K, Kataoka K, Noda T, Gao W, Kataoka H, Takahashi S, Kimura K, Kondo Y. **Enhanced effect of chemotherapy by cancer-specific targeting of taurine upregulated gene 1 in pancreatic cancer.** Cancer Res. **81**: 1654-1666, 2021.
9. Araki Y, Aiba H, Yoshida T, Yamamoto N, Hayashi K, Takeuchi A, Miwa S, Igarashi K, Nguyen TD, Ishii K, Nojima T, Takahashi S, Murakami H, Tsuchiya H, Hanayama R. **Osteosarcoma-derived small extracellular vesicles enhance tumor metastasis and suppress osteoclastogenesis by miR-146a-5p.** Front Oncol. **11**: 667109, 2021.
10. Tsuda H, Yoshida M, Akiyama F, Ohi Y, Kinowaki K, Kumaki N, Kondo Y, Saito A, Sasaki E, Nishimura R, Fujii S, Homma K, Horii R, Murata Y, Itami M, Kajita S, Kato H, Kurosumi M, Sakatani T, Shimizu S, Taniguchi K, Tamiya S, Nakamura H, Kanbayashi C, Shien T, Iwata H. **Nuclear grade and comedo necrosis of ductal carcinoma in situ as histopathological eligible criteria for the Japan Clinical Oncology Group 1505 trial: an interobserver agreement study.** Jpn J Clin Oncol. **51**: 434-443, 2021.
11. Nishikawa S, Uemoto Y, Kim TS, Hisada T, Kondo N, Wanifuchi-Endo Y, Fujita T, Asano T, Katagiri Y, Terada M, Kato A, Dong Y, Sugiura H, Okuda K, Kato H, Osaga S, Takahashi S, Toyama T. **Low RAI2 expression is a marker of poor prognosis in breast cancer.** Breast Cancer Res Treat. **187**: 81-93, 2021.
12. Sugimura-Nagata A, Koshino A, Inoue S, Matsuo-Nagano A, Komura M, Riku M, Ito H, Inoko A, Murakami H, Ebi M, Ogasawara N, Tsuzuki T, Takahashi S, Kasugai K, Kasai K, Inaguma S. **Expression and prognostic significance of CD47-SIPRA macrophage checkpoint molecules in colorectal cancer.** Int J Mol Sci. **22**: 2690, 2021.
13. Suzuki S, Cohen SM, Arnold LL, Pennington KL, Gi M, Kato H, Naiki T, Naiki-Ito A, Wanibuchi H, Takahashi S. **Cell proliferation of rat bladder urothelium induced by**

nicotine is suppressed by the NADPH oxidase inhibitor, apocynin. Toxicol Lett. 336: 32-38, 2021.

【和文業績】

1. 粟生 晃司, 中元 永理, 加藤 尚希, 川村 祐司, 野々部 恵, 早川 明子, 田尻 佐和子, 青山 和史, 西川 尚実, 尾崎 康彦, 小林 瑞穂, 高橋 智, 荒川 敦志. **診断に難渋した肉腫成分の過剰増殖を伴う腺肉腫の1例**. 東海産科婦人科学会雑誌. 57: 259-264, 2021.
2. 内木 綾. **脂肪肝は怖い? ~肝炎や肝がんの発症を予防する**. 地域に根ざし、寄り添う医療 名市大ブックス. 10: 86-95, 2021.
3. 稲熊 真悟. **病理診断科のお仕事、ご存じでしょうか? . いのちを守る高度・専門医療** 名市大ブックス. 9巻: 140-149, 2021.
4. 高橋 智. **食生活から前立腺がんの予防を考える**. 医療の知識で自分を守る 名市大ブックス. 5: 92-101, 2021.
5. 内木 綾. **非アルコール性脂肪肝炎・肝線維症に対する細胞間コミュニケーションの役割と予防剤の探索**. 日本薬理学雑誌. 156: 152-156, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	高橋 智	11 (6)	9(5)	2(1)
准教授	内木 綾	10 (4)	8(2)	2(2)
講師	加藤 寛之	8 (2)	8(2)	0
助教	小村 理行	5 (0)	5(0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	稲熊 真悟	7 (5)	6(4)	1(1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

加藤 寛之. 日本食品化学学会. 若手優秀発表賞 口頭部門. STAT3-DPYD 経路を介した Luteolin の膀胱癌化学予防効果の検討, 令和3年6月

【外部資金獲得実績】

内木 綾. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

加藤 寛之. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

稲熊 真悟. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度、1,000千円

内木 綾. 厚生労働科学研究費 (代表). 令和2年度-令和4年度、12,397千円
内木 綾. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和2年度-令和4年度、100千円
加藤 寛之. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和2年度-令和4年度、1,300千円
加藤 寛之. 厚生労働科学研究費 (分担). 令和2年度-令和4年度、22,000千円
高橋 智. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和元年度-令和3年度、900千円
高橋 智. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和元年度-令和3年度、50千円
内木 綾. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和元年度-令和3年度、850千円
内木 綾. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和元年度-令和3年度、50千円
加藤 寛之. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和元年度-令和3年度、50千円
加藤 寛之. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和元年度-令和3年度、50千円

【その他】

1-1) 主要な国内・国際学会活動の参加状況 (口頭)

稲熊 真悟. 第80回日本癌学会学術総会. PBK enhances cellular proliferation but suppresses migration and invasion via CDH1 stabilization in colorectal cancer. 2021年9月30日-10月2日

加藤寛之. 日本食品化学学会第27回総会・学術大会. STAT3-DPYD 経路を介したLuteolinの膵癌化学予防効果の検討. 2021年6月10日-11日

稲熊 真悟. 第110回日本病理学会総会. CD70およびPD-L1は協調して悪性胸膜中皮腫細胞の免疫逃避を亢進させ、その予後を悪化させる. 2021年4月22日-24日

内木 綾. 第110回日本病理学会総会. LuteolinはmTORシグナルとp21発現の制御により膀胱癌を抑制する. 2021年4月22日-24日

1-2) 主要な国内・国際学会活動の参加状況 (ポスター)

内木 綾. 第38回日本毒性病理学会総会及び学術集会. ラット非アルコール性脂肪肝炎に対する紫米抽出物の化学予防効果. 2022年1月27日-28日

加藤 寛之. 第38回日本毒性病理学会総会及び学術集会. 膵癌におけるDPYD発現の寄与と発現抑制機序の検討. 2022年1月27日-28日

内木 綾. 第80回日本癌学会学術総会. Chemopreventive effect of purple rice extract on rat non-alcoholic steatohepatitis and hepatocarcinogenesis. 2021年9月30日-10月2日

加藤 寛之. 第80回日本癌学会学術総会. DPYD regulation in pancreatic cancer cell. 2021年9月30日-10月2日

加藤 寛之. 第110回日本病理学会総会. エラグ酸の膵発癌抑制効果の検討. 2021年4月22日-24日

2) 主要な国内学会活動の参加状況

高橋 智. 日本癌学会. 評議員、Cancer Science 編集委員

高橋 智. 日本病理学会. 評議員、Pathology International 編集委員

高橋 智. 日本毒性病理学会. 理事、評議員、J Toxicol Pathol 編集委員

高橋 智. 日本がん予防学会. 評議員

稲熊 真悟. 日本病理学会. 評議員

内木 綾. 日本病理学会. 評議員

内木 綾. 日本癌学会. 評議員

内木 綾. 日本毒性病理学会. 評議員

内木 綾. 日本がん予防学会. 評議員

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

高橋 智. 内閣府食品安全委員会. 添加物専門調査会専門参考人

高橋 智. 内閣府食品安全委員会. 汚染物質等専門調査会専門参考人

高橋 智. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA). GLP 評価委員会委員

内木 綾. 内閣府食品安全委員会. 動物医薬品専門調査会専門委員

<研究活動実績>

【欧文業績】

Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Murase T, Takeshita M, Muto R, Iwasaki H, Ito A, Kusumoto S, Nakano N, Tokunaga M, Yonekura K, Tashiro Y, Iida S, Utsunomiya A, Ueda R, Inagaki H. **Clinical significance of TP53 mutations in adult T-cell leukemia/lymphoma.** *Br J Haematol.* **195(4)**: 571-584, 2021.

Ohkubo H, Nakano A, Fujita K, Ozawa Y, Murase T, Niimi A. **Spontaneous improvement of interstitial pneumonia with autoimmune features: A case report.** *Respirol Case Rep.* **9(11)**: e0867. 2021.

Kato A, Kato H, Komori S, Nakano S, Murase T, Nakamura M, Morita A. **Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy Secondary to Extramammary Paget's Disease: An Autopsy Case Report and Literature Review.** *Case Rep Oncol.* **14(3)**: 1328-1332, 2021.

Kusafuka K, Ito I, Hirata K, Miyamoto K, Shimizu T, Satomi H, Inagaki H, Suzuki M. **A rare case of high-grade intraductal carcinoma of the upper lip: immunohistochemical and genetic analyses.** *Med Mol Morphol.* **54(3)**: 281-288, 2021.

Marumo Y, Kusumoto S, Masaki A, Nakashima T, Kikuchi T, Mori F, Komatsu H, Inagaki H, Iida S, Inagaki A. **Newly diagnosed follicular lymphoma during pembrolizumab treatment for lung cancer.** *Int J Hematol.* **114(2)**: 280-285, 2021.

Sakane T, Murase T, Okuda K, Masaki A, Nakanishi R, Inagaki H. **Expression of cancer testis antigens in thymic epithelial tumors.** *Pathol Int.* **71(7)**: 471-479, 2021.

Bishop JA, Rooper LM, Sangoi AR, Gagan J, Thompson LDR, Inagaki H. **The Myoepithelial Cells of Salivary Intercalated Duct-type Intraductal Carcinoma Are Neoplastic: A Study Using Combined Whole-slide Imaging, Immunofluorescence, and RET Fluorescence In Situ Hybridization.** *Am J Surg Pathol.* **45(4)**: 507-515, 2021.

Kusafuka K, Yamada H, Ishino K, Maeda M, Yamanegi K, Baba S, Ohuchi T, Inagaki H, Yamamoto H, Iwasaki T, Tsuchiya C, Sugimura H, Suzuki M. **Salivary Duct Carcinoma With Rhabdoid Features-No or Aberrant Expression of E-cadherin and Genetic Changes in CDH1: Immunohistochemical and Genetic Analyses of 17 Cases.** *Am J Surg Pathol.* **45(4)**: 439-449, 2021.

Sakane T, Sakamoto Y, Masaki A, Murase T, Okuda K, Nakanishi R, Inagaki H. **Mutation Profile of Thymic Carcinoma and Thymic Neuroendocrine Tumor by Targeted Next-generation Sequencing.** *Clin Lung Cancer.* **22(2)**: 92-99, 2021.

Morita N, Murase T, Ueda K, Nagao T, Kusafuka K, Nakaguro M, Urano M, Taguchi KI, Yamamoto H, Kano S, Tada Y, Tsukahara K, Okami K, Onitsuka T, Fujimoto Y, Kawakita D, Sakurai K, Nagao T, Hanai N, Kawata R, Hato N, Otsuki N, Nibu KI, Inagaki H. **Pathological evaluation of tumor grade for salivary adenoid cystic carcinoma: A proposal of an objective grading system.** *Cancer Sci.* **112(3)**: 1184-1195, 2021.

Hagiwara S, Kusumoto S, Ito A, Masaki A, Shiraga K, Tachita T, Hirade K, Oiwa K, Suzuki T, Kinoshita S, Ri M, Ito Y, Komatsu H, Inagaki H, Iida S. **Volunteer unrelated donor cell-derived acute myeloid leukemia with RUNX1-RUNX1T1.** *EJHaem.* **2(2)**: 285-290, 2021.

Horimoto Y, Sato C, Inagaki A, Tajima T, Hibino H, Kabasawa H, Inagaki H. **Prion diseases reported in the "Annual of the Pathological Autopsy Cases in Japan".** *J Neurol Sci.* **420**: 117215, 2021.

Fujii K, Sakamoto Y, Masaki A, Murase T, Tashiro Y, Yonekura K, Utsunomiya A, Ito A, Kusumoto S, Iida S, Ueda R, Ishida T, Inagaki H. **Immunohistochemistry for CCR4 C-terminus predicts CCR4 mutations and mogamulizumab efficacy in adult T-cell leukemia/lymphoma.** J Pathol Clin Res. **7(1):** 52-60, 2021.

Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Takeshita M, Iwasaki H, Yonekura K, Tashiro Y, Ito A, Kusumoto S, Utsunomiya A, Iida S, Ueda R, Inagaki H. **Clinical significance of CD28 gene-related activating alterations in adult T-cell leukaemia/lymphoma.** Br J Haematol. **192(2):** 281-291, 2021.

Cook JR, Cooper WA, Inagaki H. **MALT lymphoma in Tumours of the lung, Thoracic Tumours, WHO Classification of Tumours 5th edition.** IARC. 565, 2021.

Inagaki H, Roden AC. **Mucoepidermoid carcinoma in Tumours of the thymus, Thoracic Tumours, WHO Classification of Tumours 5th edition.** IARC. 565, 2021.

Inagaki H, Cook JR, Cooper WA. **MALT lymphoma in Haematolymphoid tumours of the mediastinum, Thoracic Tumours, WHO Classification of Tumours 5th edition.** IARC. 555, 2021.

【和文業績】

稲垣 宏, 特集 カラーアトラス 基本から学ぶ病理組織の見方 病理診断の基本の「き」
日常診療に必要な分子病理診断 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 医学書院. **93:** 210-215, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	稲垣 宏	16 (12)	15	1
准教授	村瀬 貴幸	7	7	0
准教授	正木 彩子	7	7	0
助教	津田 香那	0	0	0
助教	藤井 慶一郎	1	1	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

稲垣 宏. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和3年度-令和5年度、5,700千円

稲垣 宏. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

村瀬 貴幸. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

正木 彩子. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

藤井 慶一郎. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和3年度-令和4年度、

800 千円

稲垣 宏. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 2 年度-令和 4 年度、100 千円

正木 彩子. 文部科学省科学研究費 (若手研究・代表). 平成 30 年度-令和 5 年度、842 千円

【その他】

稲垣 宏. 第 61 回リンパ網内系学会学術集会. Clinical significance of TP53 mutations in adult T-cell leukemia/lymphoma. 2021 年 6 月 24 日

稲垣 宏. 第 61 回リンパ網内系学会学術集会. 腎占拠性病変を伴った BRAF V600E 変異陽性 Rosai-Dorfman 病 (RDD) の一例. 2021 年 6 月 24 日

—薬理学分野—

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1] Ohya S, Kajikuri J, Endo K, Kito H, Matsui M. **K_{Ca}1.1 K⁺ channel inhibition overcomes resistance to antiandrogens and doxorubicin in a human prostate cancer LNCaP spheroid model.** *Int J Mol Sci.* **22(24):** 13553, 2021.
- 2] Kito H, Ohya S. **Role of K⁺ and Ca²⁺-permeable channels in osteoblast functions.** *Int J Mol Sci.* **22(19):** 10459, 2021.
- 3] Ohya S, Kajikuri J, Endo K, Kito H, Elboray EE, Suzuki T. **Ca²⁺-activated K⁺ channel K_{Ca}1.1 as a therapeutic target to overcome chemoresistance in three-dimensional sarcoma spheroid models.** *Cancer Sci.* **112(9):** 3769-3783, 2021.
- 4] Ohya S, Matsui M, Kajikuri J, Endo K, Kito H. **Increased interleukin-10 expression by the inhibition of Ca²⁺-activated K⁺ channel K_{Ca}3.1 in CD4⁺CD25⁺ regulatory T cells in the recovery phase in an inflammatory bowel disease mouse model.** *J Pharmacol Exp Ther.* **377(1):** 75-85, 2021.

【和文業績】

該当無し

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	大矢 進	4 (4)	4 (4)	0
助教	鬼頭 宏彰	4 (1)	4 (1)	0
助教	遠藤 京子	3 (0)	3 (0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【外部資金獲得実績】

大矢 進. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 2 年度-令和 5 年度、907 千円

鬼頭 宏彰. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-令和 5 年度、1100 千円

鬼頭 宏彰. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 2 年度-令和 5 年度、116 千円

鬼頭 宏彰. 文部科学省科学研究費（国際共同 B・分担）. 平成 30 年度-令和 3 年度、231 千円

遠藤 京子. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和 3 年度-令和 6 年度、900 千円

【その他】

1) 国際学会発表

Hiroaki Kito, Kyoko Endo, Junko Kajikuri, Susumu Ohya. Experimental Biology 2021 (Indianapolis, USA, Virtual). **Down-regulation of Ca²⁺-Activated K⁺ Channel K_{Ca}3.1 in mouse pre-osteoblast cells treated with vitamin D receptor agonists.** 2021.4.27-30 [ポスター]

2) 国内学会発表

大矢 進, 梶栗 潤子, 鬼頭 宏彰, 遠藤京子, 松井 未来. 日本薬学会第 142 年会 (名古屋). **前立腺がんにおける Ca²⁺活性化 K⁺チャンネル阻害薬による抗がん剤耐性獲得の克服.** 2022 年 3 月 27 日 [ポスター]

松井 未来, 梶栗 潤子, 遠藤 京子, 鬼頭 宏彰, 大矢 進. 日本薬学会第 142 年会 (名古屋). **末梢誘導性制御性 T 細胞における K_{Ca}3.1 K⁺チャンネルを介した IL-10 発現調節.** 2022 年 3 月 27 日 [ポスター]

大矢 進, 梶栗 潤子, 鬼頭 宏彰, 遠藤 京子, 松井 未来. 第 95 回日本薬理学会年会 (福岡). **前立腺癌 LNCaP 細胞スフェロイドにおける Ca²⁺活性化 K⁺チャンネル阻害による抗アンドロゲン剤耐性の克服.** 第 95 回日本薬理学会年会. 2022 年 3 月 8 日 [口頭]

鬼頭 宏彰, 遠藤 京子, 梶栗 潤子, 大矢 進. 第 95 回日本薬理学会年会 (福岡). **microRNA を介した内向き整流性 K⁺チャンネル Kir2.1 発現亢進は骨芽細胞分化を促進する.** 2022 年 3 月 8 日 [口頭]

松井 未来, 梶栗 潤子, 遠藤 京子, 鬼頭 宏彰, 大矢 進. 第 95 回日本薬理学会年会 (福岡). **末梢誘導性制御性 T 細胞における Ca²⁺活性化 K⁺チャンネル阻害誘発性 IL-10 発現増加は JNK/c-Jun シグナルを介している.** 2022 年 3 月 8 日 [ポスター]

遠藤 京子. 第 95 回日本薬理学会年会 (福岡). **【ダイバーシティ推進セミナー】私たちのアンコンシャスバイアス.** 2022 年 3 月 8 日 (福岡) [口頭]

Susumu Ohya, Miki Matsui, Kyoto Endo. 第 50 回日本免疫学会学術集会 (奈良). **Ca²⁺-activated K⁺ channel inhibition-induced activation of the JNK/c-Jun signaling pathway enhances IL-10 expression in *in vitro*-induced regulatory T cells.** 2021 年 12 月 8 日 [ポスター]

大矢 進, 梶栗 潤子, 鬼頭 宏彰. 第 80 回日本癌学会学術総会 (横浜). **ヒト骨肉腫スフェロイドモデルにおけるカルシウム活性化カリウムチャンネル阻害による抗がん剤耐性克服.** 2021 年 10 月 1 日 [口頭]

鬼頭 宏彰, 遠藤 京子, 梶栗 潤子, 大矢 進. 第 139 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋). **microRNA を介した内向き整流性カリウムチャンネル Kir2.1 発現亢進による骨芽細胞分化機構制御.** 2021 年 6 月 26 日 [口頭]

3) 主要な国内学会活動の参加状況

大矢 進

- 日本薬理学会 学術評議員、代議員、広報委員、日本薬理学雑誌編集委員
- International Journal of Molecular Sciences, Biochemistry Section, Editorial Board Member
- Frontiers in Physiology, Cell physiology section, Associate Editor
- 一般演題座長. 日本薬学会第 142 年会 (名古屋). 2022 年 3 月 26 日

- ・年会優秀発表賞・審査委員. 日本薬学会第 142 年会 (名古屋). 2022 年 3 月 26 日
- ・年会優秀発表賞・審査委員. 第 95 回日本薬理学会年会 (福岡). 2022 年 3 月 7 日
- ・コメンテーター・学生セッション審査委員. 第 140 回日本薬理学会近畿部会 (奈良). 2021 年 11 月 13 日

鬼頭 宏彰

- ・日本薬理学会 学術評議員

遠藤 京子

- ・日本薬理学会 学術評議員

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

大矢 進

- ・著書「既存のくすりですべての病気を治す！～ドラッグ・リポジショニング～」名市大ブックス. 第 8 巻, 46-56 (2021)
- ・薬理学エデュケーター (日本薬理学会)
- ・大学丸ごと研究室体験「筋肉に対する薬の作用を見て、薬物治療を考える」(受入れ人数 4 名). 2021 年 8 月 5 日

鬼頭 宏彰

- ・薬理学エデュケーター (日本薬理学会)
- ・大学丸ごと研究室体験「筋肉に対する薬の作用を見て、薬物治療を考える」(受入れ人数 4 名). 2021 年 8 月 5 日
- ・名古屋市立大学・医療系学部・研究科連携教育委員会 (AMEC) 協力委員
インタープロフェッショナル・ヘルスケア論 医薬看連携地域参加型学習
2021

遠藤京子

- ・大学丸ごと研究室体験「筋肉に対する薬の作用を見て、薬物治療を考える」(受入れ人数 4 名). 2021 年 8 月 5 日

—細菌学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Isaka M, Okamoto A, Miura Y, Tatsuno I, Maeyama JI, Hasegawa T. *Streptococcus pyogenes* TrxSR two-component system regulates biofilm production in acidic environments. *Infect Immun.* **89**(11): e0036021, 2021.

Yamaba Y, Takakuwa O, Ida C, Saito M, Kawae D, Yoshihara M, Kunii E, Imaeda K, Tatsuno I, Hasegawa T, Akita K. A case of streptococcal toxic shock syndrome induced by group A streptococcus with the *emm28* genotype that developed after a uterine cancer test. *Intern Med.* **60**(21): 3481-3483, 2021.

Tatsuno I, Niimi Y, Tomita M, Terashima H, Hasegawa T, Matsumoto T. Mechanism of transient photothermal inactivation of bacteria using a wavelength-tunable nanosecond pulsed laser. *Sci Rep.* **11**(1): 22310, 2021.

【和文業績】

南正明. 排膿散の病原細菌に対する抗感染症効果. *アグリバイオ.* **5**(9): 770-772, 2021.

南正明. ハスカップの病原細菌に対する抗感染症効果. *アグリバイオ.* **5**(11): 987-990, 2021.

南正明. 中村峰夫. ハスカップの老化関連因子に対する効果. *アグリバイオ.* **5**(14): 1260-1262, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	長谷川 忠男	3(1)	3(1)	0
講師	立野 一郎	3(1)	3(1)	0
講師	南 正明	3(3)	0(0)	3(3)
助教	井坂 雅徳	1(1)	1(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

長谷川 忠男. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度—令和5年度、4,290千円

長谷川 忠男. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 平成30年度—令和4年度、

150 千円

長谷川 忠男. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 1 年度—令和 3 年度、
150 千円

立野 一郎. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 平成 30 年度—令和 4 年度、
150 千円

立野 一郎. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度—令和 5 年度、
150 千円

井坂 雅徳. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 平成 30 年度—令和 4 年度、
4,420 千円

井坂 雅徳. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度—令和 5 年度、
150 千円

南正明. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 1 年度—令和 5 年度、2,267 千円

南正明. 受託研究費 (ジェーピーエス製薬). 令和 3 年度、1,100 千円

南正明. 受託研究費 (有限会社中村薬局). 令和 3 年度、400 千円

【その他】

なし

—免疫学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Uraki R, Imai M, Ito M, Shime H, Odanaka M, Okuda M, Kawaoka Y, Yamazaki S. **Foxp3⁺ CD4⁺ regulatory T cells control dendritic cells in inducing antigen-specific immunity to emerging SARS-CoV-2 antigens.** PLoS Pathogens. **7(12)**: e1010085, 2021.

Nagano F, Mizuno T, Imai M, Takahashi K, Tsuboi N, Maruyama S, Mizuno M. **Expression of a Crry/p65 is reduced in acute lung injury induced by extracellular histones.** FEBS Open Bio. **12(1)**: 192-202, 2021.

Shintani Y, Nishida E, Furuhashi T, Muramatsu S, Kubo R, Nakamura M, Watanabe S, Masuda H, Ikumi K, Matsumoto K, Yamazaki S, Morita A. **Efficacy of bath-psoralen and ultraviolet A therapy for mycosis fungoides-retrospective analysis of 62 cases.** J Dermatol. **49(2)**: 239-245, 2021.

Cols M, Bigas A, Zanoni I, Hepworth M, Eisenbarth S, Masters S, Kipnis J, Vinuesa C, Good-Jacobson K, Tangye S, Yamazaki S, Hivroz C, Wojno ET, Shulman Z, and Colonna M. **JEM career launchpad.** J. Exp. Med. **218 (2)**: e20202509, 2021.

Shime H, Odanaka M, Tsuiji M, Matoba T, Imai M, Yasumizu Y, Uraki R, Minohara K, Watanabe M, Bonito AJ, Fukuyama H, Ohkura N, Sakaguchi S, Morita A, Yamazaki S. **Reply to Slominski et al.: UVB irradiation induces proenkephalin + regulatory T cells with a wound-healing function.** Proc Natl Acad Sci USA. **118(3)**: e2021919118, 2021.

【和文業績】

山崎 小百合, 森田 明理. **乾癬とアトピー性皮膚炎の病態と免疫制御.** 皮膚病診療. **43(9)**: 794-800, 2021.

山崎 小百合, 森田 明理. **皮膚の恒常性維持と制御性 T 細胞.** 臨床免疫・アレルギー科. **75(5)**: 584-589, 2021.

【各教員の論文数 (桜山)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	山崎小百合	4(2)	4(2)	2(2)
講師	今井優樹	3(0)	3(0)	0(0)
講師	志馬寛明	2(1)	2(1)	0(0)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【表彰・受賞】

志馬 寛明. **特定非営利活動法人日本免疫学会. 第 50 回日本免疫学会学術集会ベストプレゼンテーション賞.** Proenkephalin+ regulatory T cells expanded by ultraviolet-B exposure maintain skin homeostasis with a healing function. 令和 3 年 12 月

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

山崎 小百合. 文部科学省科学研究費（挑戦的研究（開拓）・代表）. 令和3年度-令和6年度、5,300千円

山崎 小百合. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和2年度-令和4年度、6,200千円

山崎 小百合. 文部科学省国際共同研究加速基金（国際共同研究強化B・代表）. 平成31年度-令和3年度、6,500千円

山崎 小百合. 文部科学省科学研究費（新学術領域研究（研究領域提案型）・代表）. 令和元年度-令和3年度、3,770千円

山崎 小百合. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和2年度-令和5年度、50千円

今井 優樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度、1,100千円

今井 優樹. 文部科学省国際共同研究加速基金（国際共同研究強化B・分担）. 平成31年度-令和3年度、400千円

今井 優樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 平成31年度-令和3年度、50千円

今井 優樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 平成30年度-令和3年度、50千円

志馬 寛明. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和2年度-令和4年度、50千円

志馬 寛明. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 平成31年度-令和3年度、1,000千円

志馬 寛明. 文部科学省国際共同研究加速基金（国際共同研究強化B・分担）. 平成31年度-令和3年度、400千円

山崎 小百合. 研究助成金（公益財団法人武田科学振興財団）. 令和3年、10,000千円

山崎 小百合. 研究助成金（公益財団法人 テルモ生命科学振興財団 2021年度助成金）. 令和4年-令和5年、2,000千円

志馬 寛明. 研究助成金（公益財団法人 コーサーコスメトロジー研究財団）. 令和3年度-令和4年度、1,000千円

志馬 寛明. 研究助成金（公益財団法人 堀科学芸術振興財団）. 令和3年度-令和5年度、800千円

【その他】

1) -1 国内学会発表（招待講演）

山崎 小百合. 第50回日本免疫学会 Clinical Seminar. The roles of IL-17 and regulatory T cells in the pathophysiology of psoriasis. 2021年12月8日

1) -2 国内学会発表（口頭&ポスター）

志馬寛明, 小田中瑞夕, 築地信, 今井優樹, 安水良明, 浦木隆太, Anthony Bonito,

福山英啓, 大倉永也, 坂口志文, 森田明理, 山崎小百合. 第 50 回日本免疫学会. Proenkephalin⁺ regulatory T cells expanded by ultraviolet-B exposure maintain skin homeostasis with a healing function. 2021 年 12 月 8 日

浦木隆太, 今井優樹, 志馬寛明, 河岡義裕, 山崎小百合. 第 50 回日本免疫学会. Transient depletion of Treg cells induces adaptive immunity to SARS-CoV-2 antigens. 2021 年 12 月 8 日

山崎小百合, 志馬寛明, 小田中瑞夕, 築地信, 的場琢磨, 今井優樹, 安水良明, 浦木隆太, 蓑原潔, 渡辺舞子, Anthony Bonito, 福山英啓, 大倉永也, 坂口志文, 森田明理. 第 46 回日本研究皮膚科学会. Skin regulatory T cells producing proenkephalin expand upon ultraviolet B exposure without ST2-IL33 axis and promote keratinocyte outgrowth. 2021 年 12 月 3 日

浦木隆太, 今井優樹, 伊藤睦美, 志馬寛明, 小田中瑞夕, 奥田萌, 河岡義裕, 山崎小百合. 第 68 回日本ウイルス学会. 制御性 T 細胞を標的とした SARS-CoV-2 に対する新規予防法の開発. 2021 年 11 月 13 日

今井優樹, 山崎小百合. 第 57 回日本補体学会. シングルセル RNA シークエンスデータを用いたヒト腫瘍微小環境下の補体活性化及び制御メカニズムの解析. 2021 年 9 月 11 日

1)-3 国内学会発表 (ポスター)

小田中瑞夕, 志馬寛明, 築地信, 今井優樹, 安水良明, 浦木隆太, Anthony Bonito, 福山英啓, 大倉永也, 坂口志文, 森田明理, 山崎小百合. 第 50 回日本免疫学会. Skin regulatory T cells expanded by ultraviolet B exposure have a unique gene expression profile compared to other tissue Treg cells. 2021 年 12 月 8 日

2) 主要な国内学会活動の参加状況

山崎小百合. 第 81 回日本癌学会学術総会. プログラム委員
山崎小百合. 公益財団法人 国際医学研究振興財団. 学術委員
山崎小百合. Journal of Experimental Medicine. Advisory Editorial Board
山崎小百合. 日本研究皮膚科学会. ダイバーシティ委員
山崎小百合. 日本免疫学会. 評議員
山崎小百合. 日本研究皮膚科学会. 理事
今井 優樹. 日本補体学会. 理事
今井 優樹. 日本免疫学会. 評議員
今井 優樹. 日本免疫学会. 高校生物教育・教科書検討実行委員会委員

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

<<招待講演>>

山崎 小百合. 「乾癬の病態における制御性 T 細胞の役割」 TAIHO Web Lecture on Immunology, 2021 年 12 月 (オンライン)

<<アウトリーチ・社会貢献>>

山崎 小百合. 名古屋大学医学部招聘教員 医学部学生への講義 2021 年 5 月

山崎 小百合. 「免疫制御の研究を利用して病気に立ち向かう」令和 3 年度市民公開講座 第 7 回講師 2021 年 11 月

山崎 小百合. 「免疫のコントロールでさまざまな病気に立ち向かう」名市大ブックス 第 7 巻 中日新聞社, 2021 年 8 月

<<テレビ・新聞・雑誌・インターネットメディア・会誌・広報誌掲載>>

名古屋市立大学プレスリリース 2021 年 12 月 10 日掲載 「新型コロナウイルス抗原へのユニークな獲得免疫誘導法～制御性 T 細胞による樹状細胞のコントロールを利用～」

AAAS EurekAlert! 2021 年 12 月 10 日掲載 「Foxp3+ CD4+ regulatory T cells control dendritic cells in inducing antigen-specific immunity to emerging SARS-CoV-2 antigens」

新学術領域研究ネオ・セルフのニューズレター第 4 号に掲載「紫外線により誘導されるネオ・セルフ特異的制御性 T 細胞の新しい機能と治療戦略」2021 年 7 月

《著書》

山崎 小百合, 森田 明理 「制御性 T 細胞と膠原病」皮膚科膠原病を極める 中山書店
2021 年 4 月

—ウイルス学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Yanagi Y, Okuno Y, Narita Y, Masud H, Watanabe T, Sato Y, Kanda T, Kimura H, Murata T. **RNAseq analysis identifies involvement of EBNA2 in PD-L1 induction during Epstein-Barr virus infection of primary B cells.** *Virology*. **557**: 44-54, 2021.

Yamamoto H, Hayano S, Okuno Y, Onoda A, Kato K, Nagai N, Fukasawa Y, Saitoh S, Takahashi Y, Kato T. **Phosphorylated proteome analysis of a novel germline ABL1 mutation causing an autosomal dominant syndrome with ventricular septal defect.** *Int J Cardiol*. **326**: 81-87, 2021.

Wakamatsu M, Okuno Y, Murakami N, Miwata S, Kitazawa H, Narita K, Kataoka S, Ichikawa D, Hamada M, Taniguchi R, Suzuki K, Kawashima N, Nishikawa E, Narita A, Nishio N, Kojima S, Muramatsu H, Takahashi Y. **Detection of subclonal SETBP1 and JAK3 mutations in juvenile myelomonocytic leukemia using droplet digital PCR.** *Leukemia*. **35(1)**: 259-263, 2021.

Takeichi T, Lee JYW, Okuno Y, Miyasaka Y, Murase Y, Yoshikawa T, Tanahashi K, Nishida E, Okamoto T, Ito K, Muro Y, Sugiura K, Ohno T, McGrath JA, Akiyama M. **Autoinflammatory Keratinization Disease With Hepatitis and Autism Reveals Roles for JAK1 Kinase Hyperactivity in Autoinflammation.** *Front Immunol*. **12**: 737747, 2021.

Sugaya M, Funamizu K, Kono M, Okuno Y, Kondo T, Ono R, Akiyama M, Nishigori C, Sato S. **Whole-exome sequencing and host cell reactivation assay lead to a diagnosis of xeroderma pigmentosum group D with mild ultraviolet radiation sensitivity.** *J Dermatol*. **48(1)**: 96-100, 2021.

Schönung M, Meyer J, Nöllke P, Olshen AB, Hartmann M, Murakami N, Wakamatsu M, Okuno Y, Plass C, Loh ML, Niemeyer CM, Muramatsu H, Flotho C, Stieglitz E, Lipka DB. **International Consensus Definition of DNA Methylation Subgroups in Juvenile Myelomonocytic Leukemia.** *Clin Cancer Res*. **27(1)**: 158-168, 2021.

Pongphitcha P, Okuno Y, Vilaiyuk S, Tunlayadechanont P, Sasanakul W, Kadegasem P, Songdej D, Sirachainan N. **Report on effective treatment and genetic predisposition in two children with refractory probable catastrophic antiphospholipid syndrome.** *Thromb Res*. **208**: 117-120, 2021.

Narita A, Muramatsu H, Ichikawa D, Hamada M, Nishikawa E, Suzuki K, Kawashima N, Okuno Y, Nishio N, Hama A, Yamazaki H, Nakao S, Kojima S, Takahashi Y. **Relationship between plasma rabbit anti-thymocyte globulin concentration and immunosuppressive therapy response in patients with severe aplastic anemia.** *Eur J Haematol*. **107(2)**: 255-264, 2021.

Miwata S, Narita A, Okuno Y, Suzuki K, Hamada M, Yoshida T, Imaya M, Yamamori A, Wakamatsu M, Narita K, Kitazawa H, Ichikawa D, Taniguchi R, Kawashima N, Nishikawa E, Nishio N, Kojima S, Muramatsu H, Takahashi Y. **Clinical diagnostic value of telomere length measurement in inherited bone marrow failure syndromes.** *Haematologica*. **106(9)**: 2511-2515, 2021.

Mabuchi S, Hijioka F, Watanabe T, Yanagi Y, Okuno Y, Masud H, Sato Y, Murata T, Kimura H. **Role of Epstein-Barr Virus C Promoter Deletion in Diffuse Large B Cell Lymphoma.** *Cancers (Basel)*. **13(3)**, 2021.

Kitazawa H, Okuno Y, Muramatsu H, Aoki K, Murakami N, Wakamatsu M, Suzuki K, Narita K, Kataoka S, Ichikawa D, Hamada M, Taniguchi R, Kawashima N, Nishikawa E, Narita A, Nishio N, Hama A, Loh ML, Stieglitz E, Kojima S, Takahashi Y. **Simple and robust methylation test for risk stratification of patients with juvenile myelomonocytic leukemia.** *Blood Adv*. **5(24)**: 5507-5518, 2021.

Kimura H, Okuno Y, Sato Y, Watanabe T, Murata T. **Deletion of Viral microRNAs in the Oncogenesis of Epstein-Barr Virus-Associated Lymphoma.** *Front Microbiol*. **12**: 667968, 2021.

Kawashima N, Nishikawa E, Tsuchisaka A, Hashimoto T, Okuno Y, Hamada M, Ichikawa D, Narita A, Muramatsu H, Nishio N, Kojima S, Muro Y, Takahashi Y. **Autoantibodies against the plakins family proteins as a novel marker for chronic graft-versus-host disease of the lung.** *Bone Marrow Transplant*. **56(9)**: 2291-2294, 2021.

Kawashima N, Fukasawa Y, Nishikawa E, Ohta-Ogo K, Ishibashi-Ueda H, Hamada M, Ichikawa D, Narita A, Okuno Y, Muramatsu H, Nishio N, Kojima S, Kato T, Takahashi Y. **Echocardiography Monitoring of Pulmonary Hypertension after Pediatric Hematopoietic Stem Cell Transplantation: Pediatric Pulmonary Arterial Hypertension and Pulmonary Veno-Occlusive Disease after Hematopoietic Stem Cell Transplantation.** *Transplant Cell Ther*. **27(9)**: 786.e781-786.e788, 2021.

Kataoka S, Kawashima N, Okuno Y, Muramatsu H, Miwata S, Narita K, Hamada M, Murakami N, Taniguchi R, Ichikawa D, Kitazawa H, Suzuki K, Nishikawa E, Narita A, Nishio N, Yamamoto H, Fukasawa Y, Kato T, Yamamoto H, Natsume J, Kojima S, Nishino I, Taketani T, Ohnishi H, Takahashi Y. **Successful treatment of a novel type I interferonopathy due to a de novo PSMB9 gene mutation with a Janus kinase inhibitor.** *J Allergy Clin Immunol*. **148(2)**: 639-644, 2021.

Ichikawa D, Yamashita K, Okuno Y, Muramatsu H, Murakami N, Suzuki K, Kojima D, Kataoka S, Hamada M, Taniguchi R, Nishikawa E, Kawashima N, Narita A, Nishio N, Hama A, Kasai K, Mizuno S, Shimoyama Y, Nakaguro M, Okita H, Kojima S, Nakazawa A, Takahashi Y. **Integrated diagnosis based on transcriptome analysis in suspected pediatric sarcomas.** *NPJ Genom Med*. **6(1)**: 49, 2021.

Aoki K, Suzuki H, Yamamoto T, Yamamoto KN, Maeda S, Okuno Y, Ranjit M, Motomura K, Ohka F, Tanahashi K, Hirano M, Nishikawa T, Shimizu H, Kitano Y, Yamaguchi J, Yamazaki S, Nakamura H, Takahashi M, Narita Y, Nakada M, Deguchi S, Mizoguchi M, Momii Y, Muragaki Y, Abe T, Akimoto J, Wakabayashi T, Saito R, Ogawa S, Haeno H, Natsume A. **Mathematical Modeling and Mutational Analysis Reveal Optimal Therapy to Prevent Malignant Transformation in Grade II IDH-Mutant Gliomas.** *Cancer Res.* **81(18):** 4861-4873, 2021.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	奥野 友介	17(1)	17(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

奥野 友介. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和元年度-令和3年度、200千円

奥野 友介. 受託研究費（AMED・代表）. 令和元年度-令和3年度、10,500千円

奥野 友介. 厚生労働省科学研究費（分担）. 令和元年度-令和3年度、80千円

奥野 友介. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和2年度-令和4年度、1,000千円

奥野 友介. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和2年度-令和4年度、100千円

奥野 友介. 受託研究費（AMED・分担）. 令和2年度-令和4年度、2,000千円

奥野 友介. 受託研究費（AMED・分担）. 令和2年度-令和4年度、2,000千円

奥野 友介. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、500千円

円

奥野 友介. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-令和 5 年度、100 千円

奥野 友介. 受託研究費（AMED・代表）. 令和 3 年度、2,310 千円

奥野 友介. 受託研究費（AMED・代表）. 令和 3 年度-令和 5 年度、4,000 千円

奥野 友介. 受託研究費（AMED・分担）. 令和 3 年度-令和 4 年度、1,000 千円

【その他】

なし

—病態モデル医学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Yousef AI, Shawki HH, El-Shahawy AA, El-Twab SMA, Abdel-Moneim A, Oishi H. **Polydatin mitigates pancreatic β -cell damage through its antioxidant activity.** Biomed Pharmacother. **133:** 111027, 2021. (Online Only. Pepar No.111027)

Alegiry MH, Hajrah NH, Alzahrani NAY, Shawki HH, Khan M, Zrelli H, Atef A, Kim Y, Alsafari IA, Arfaoui L, Alharby HF, Hajar AS, El-Seedi H, Juneja LR, Sabir JSM, El Omri A. **Attitudes Toward Psychological Disorders and Alternative Medicine in Saudi Participants.** Front Psychiatry. **12:** 577103, 2021. (Online Only. Pepar No.577103)

【和文業績】

和文業績：なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	大石久史	1 (1)	1 (1)	0
助教	Hossam Shawki	2 (1)	2 (1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

Hossam Shawki. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和3年度、1,600千円

【その他】

該当なし

<研究活動実績>

【欧文業績】

Yoshida M, Takenaga T, Chan CK, Musahl V, Debski RE, Lin A. **Location and magnitude of capsular injuries varies following multiple anterior dislocations of the shoulder: Implications for surgical repair.** J Orthop Res. **39(3)**: 648-656, 2021.

Kimura H, Yamamoto N, Hayashi K, Higuchi T, Tsuchiya H. **Multifocal Epithelioid Hemangioendothelioma Complicated with Disseminated Intravascular Coagulation.** Case Rep Oncol. **14(3)**: 1490-1496, 2021.

Kato K, Akeda K, Miyazaki S, Yamada J, Muehleman C, Miyamoto K, Asanuma YA, Asanuma K, Fujiwara T, Lenz ME, Nakazawa T, An H, Masuda K. **NF- κ B decoy oligodeoxynucleotide preserves disc height in a rabbit anular-puncture model and reduces pain induction in a rat xenograft-radiculopathy model.** Eur Cell Mater. **20**: 90-109, 2021.

Kuroyanagi G, Sakai G, Otsuka T, Yamamoto N, Fujita K, Kawabata T, Matsushima-Nishiwaki R, Kozawa O, Tokuda H. **HSP22 (HSPB8) positively regulates PGF2 α -induced synthesis of interleukin-6 and vascular endothelial growth factor in osteoblast.** J Orthop Surg Res. **16(1)**: 72, 2021.

Sakai H, Takada N, Kuroyanagi G, Usami T, Ueki Y, Murakami H. **Biomechanical comparison of bioresorbable F-u-HA/PLLA screw and tension band wire fixation in medial malleolar fractures.** World Academy of Sciences Journal. **3**: 26, 2021.

Yagi K, Goto Y, Kato K, Suzuki N, Kondo A, Waseda Y, Mizutani J, Kawaguchi Y, Joyo Y, Waguri-Nagaya Y, Murakami H. **p38 Mitogen-Activated Protein Kinase Is Involved in Interleukin-6 Secretion from Human Ligamentum Flavum-Derived Cells Stimulated by Tumor Necrosis Factor- α .** Asian Spine J. **15(6)**: 713- 720, 2021.

Aiba H, Ikuta K, Asanuma K, Kawanami K, Tsukushi S, Matsumine A, Ishimura D, Nagano A, Shido Y, Kozawa E, Yamada K, Wasa J, Kimura H, Sakai T, Murakami H, Sakai T, Nakamura T, Nishida Y. **Effect of Neoadjuvant Therapies on Soft Tissue Sarcomas with Tail-like Lesions: A Multicenter Retrospective Study.** Cancers (Basel). **13(15)**: 3901, 2021.

Aiba H, Kimura H, Yamada S, Okamoto H, Hayashi K, Miwa S, Kawaguchi Y, Saito S, Sakai T, Tatematsu T, Nakanishi R, Murakami H. **Different patterns of pneumothorax in patients with soft tissue tumors treated with pazopanib: A case series analysis.** PLoS One. **16(7)**: e0254866, 2021.

Inoue J, Tawada K, Sugimoto K, Goto H, Tsuchiya A, Takenaga T, Takeuchi S, Takaba K, Murakami H, Yoshida M. **Bilateral suprascapular notches are asymmetrically shaped in a third of the Asian population.** Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. **29(12)**: 3989-3996, 2021.

Uehara M, Ikegami S, Takizawa T, Oba H, Yokogawa N, Sasagawa T, Ando K, Nakashima H, Segi N, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Watanabe K, Nori S, Takeda K, Furuya T, Orita S, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada Kiyas H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Shirasawa E, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, u K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Aoki Y, Harimaya K, Murakami H, Ishii K, Ohtori S, Imagama S, Kato S. **Is Blood Loss Greater in Elderly Patients under Antiplatelet or Anticoagulant Medication for Cervical Spine Injury Surgery? A Japanese Multicenter Survey.** Spine Surg Relat Res. **6(4)**: 366-372, 2021

Iwata H, Okamoto H, Kawaguchi Y, Endo K, Joyo Y, Aiba H, Murakami S, Murakami H. **Insidious Onset Compartment Syndrome of the Forearm in a Teenager: A Case Report and Review of the Literature.** *J Hand Surg Asian Pac.* **26(3)**: 481-484, 2021.

Kawanishi Y, Kobayashi M, Yasuma S, Fukushima H, Kato J, Murase A, Takenaga T, Yoshida M, Kuroyanagi G, Kawaguchi Y, Nagaya Y, Murakami H, Nozaki M. **Anterolateral ligament reconstruction in addition to primary double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction for grade 3 pivot shift improves residual knee instability during surgery.** *J Exp Orthop.* **8(1)**: 51, 2021.

Usami T, Takada N, Sakai H, Endo S, Sekiya I, Ueki Y, Murakami H, Kuroyanagi G. **Treatment of patellar fractures using bioresorbable forged composites of raw particulate unsintered hydroxyapatite/poly-L-lactide cannulated screws and nonabsorbable sutures.** *Injury.* **52(6)**: 1587-1591, 2021.

Usami T, Takada N, Nishida K, Sakai H, Iwata H, Sekiya I, Ueki Y, Murakami H, Kuroyanagi G. **Banding with lesser trochanter fragment using nonabsorbable tape in trochanteric femoral fractures.** *SICOT J.* **7**: 33, 2021.

Usami T, Takada N, Sakai H, Iwata H, Yonezu H, Sekiya I, Ueki Y, Nagaya Y, Murakami H, Kuroyanagi G. **Preoperative “software-based reduction and fixation” using a 3D workstation software for posterior malleolus intra-articular fracture: A case report.** *FASTRAC.* **1(3)**: 100047, 2021.

Sakai T, Aiba H, Nakagawa M, Hattori H, Murakami H, Kimura H. **Myelolipoma mimicking osteosarcoma in the distal femur.** *Int J Surg Case Rep.* **83**: 105997, 2021.

Imagama S, Murakami H, Kaito T, Matsuyama Y, Yamashita T, Kawakami M, Takahashi K, Yoshida M, Ohtori S, Taguchi T, Haro H, Taneichi H, Yamazaki M, Inoue G, Nishida K, Yamada H, Kabata D, Shintani A, Iwasaki M, Ito M, Miyakoshi N, Yonenobu K, Takura T, Mochida J; Project Committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research (JSSR). **Impact of background factors on outcomes of pharmacological therapy for chronic low back pain: A nationwide multicenter prospective study.** *J Orthop Sci.* **26(1)**: 92-102, 2021.

Shimizu T, Kato S, Demura S, Shinmura K, Yokogawa N, Kurokawa Y, Yonezawa N, Oku N, Kitagawa R, Handa M, Annen R, Okamoto Y, Murakami H, Tsuchiya H. **The efficacy of surgical treatment on locomotive syndrome and physical function in patients with lumbar spinal canal stenosis.** *J Orthop Sci.* **26(3)**: 327-331, 2021.

Shimizu T, Demura S, Kato S, Shinmura K, Yokogawa N, Yonezawa N, Oku N, Kitagawa R, Handa M, Annen R, Nojima T, Murakami H, Tsuchiya H. **Radiation Disrupts the Protective Function of the Spinal Meninges in a Mouse Model of Tumor-induced Spinal Cord Compression.** *Clin Orthop Relat Res.* **479(1)**: 163-176, 2021.

Hikata T, Ishii K, Matsumoto M, Kobayashi K, Imagama S, Ando K, Ishiguro N, Yamashita M, Seki S, Terai H, Suzuki A, Tamai K, Aramomi M, Ishikawa T, Kimura A, Inoue H, Inoue G, Miyagi M, Saito W, Yamada K, Hongo M, Endo K, Suzuki H, Nakano A, Watanabe K, Ohya J, Chikuda H, Aoki Y, Shimizu M, Futatsugi T, Mukaiyama K, Hasegawa M, Kiyasu K, Iizuka H, Kobayashi R, Iizuka Y, Nishida K, Kakutani K, Nakajima H, Murakami H, Demura S, Kato S, Yoshioka K, Namikawa T, Watanabe K, Nakanishi K, Nakagawa Y, Yoshimoto M, Fujiwara H, Nishida N, Imajo Y, Yamazaki M, Abe T, Fujii K, Kaito T, Eguchi Y, Furuya T, Orita S, Ohtori S. **Risk Factor for Poor Patient Satisfaction After Lumbar Spine Surgery in Elderly Patients Aged Over 80 years.** *Clin Spine Surg.* **34(4)**: E223-E228, 2021.

Yonezawa N, Murakami H, Demura S, Kato S, Miwa S, Yoshioka K, Shinmura K, Yokogawa N, Shimizu T, Oku N, Kitagawa R, Handa M, Annen R, Kurokawa Y, Fushimi K, Mizukoshi E, Tsuchiya H. **Abscopal Effect of Frozen Autograft Reconstruction Combined with an**

Immune Checkpoint Inhibitor Analyzed Using a Metastatic Bone Tumor Model. *Int J Mol Sci.* **22(4)**: 1973, 2021.

Paholpak P, Sirichativapee W, Wisanuyotin T, Kosuwon W, Kasai Y, Murakami H. **The most appropriate titanium mesh cage size for anterior spinal reconstruction after single-level lumbar total en bloc spondylectomy: a finite element analysis and cadaveric validation study.** *J Orthop Surg Res.* **16(1)**: 178, 2021.

Kato S, Demura S, Murakami H, Yoshioka K, Shinmura K, Yokogawa N, Shimizu T, Kawahara N, Tsuchiya H. **Clinical outcomes and prognostic factors following the surgical resection of renal cell carcinoma spinal metastases.** *Cancer Sci.* **112(6)**: 2416-2425, 2021.

Demura S, Kato S, Shinmura K, Yokogawa N, Shimizu T, Handa M, Annen R, Kobayashi M, Yamada Y, Murakami H, Kawahara N, Tomita K, Tsuchiya H. **Perioperative complications of total en bloc spondylectomy for spinal tumours.** *Bone Joint J.* **103-B(5)**: 976-983, 2021.

Paholpak P, Sangsin A, Sirichativapee W, Wisanuyotin T, Kosuwon W, Sumnannont C, Thammaroj P, Ungarreevittaya P, Kasai Y, Murakami H, Tsuchiya H. **Total en bloc spondylectomy is worth doing in complete paralysis spinal giant cell tumor, a minimum 1-year follow-up.** *J Orthop Surg (Hong Kong).* **29(1)**: 2309499021, 2021.

Kato S, Demura S, Shinmura K, Yokogawa N, Shimizu T, Murakami H, Kawahara N, Tomita K, Tsuchiya H. **Surgical Metastasectomy in the Spine: A Review Article.** *Oncologist.* **26(10)**: e1833-e1843, 2021.

Paholpak P, Sangsin A, Sirichativapee W, Wisanuyotin T, Kosuwon W, Kasai Y, Murakami H, Tsuchiya H. **Safety and Neurologic Recovery of L2 Nerve Root Sacrificed in Total En Bloc Spondylectomy Involving the L2 Vertebra.** *Int J Spine Surg.* **15(6)**: 1217-1222, 2021.

Higuchi T, Igarashi K, Yamamoto N, Hayashi K, Kimura H, Miwa S, Bouvet M, Tsuchiya H, Hoffman RM. **Multikinase-Inhibitor Screening in Drug-resistant Osteosarcoma Patient-derived Orthotopic Xenograft Mouse Models Identifies the Clinical Potential of Regorafenib.** *Cancer Genomics Proteomics* **18**: 637-643, 2021

Higuchi T, Han Q, Sugisawa N, Yamamoto J, Yamamoto N, Hayashi K, Kimura H, Miwa S, Igarashi K, Bouvet M, Singh SR, Tsuchiya H, Hoffman RM. **Combination Methionine-methylation-axis Blockade: A Novel Approach to Target the Methionine Addiction of Cancer** *Cancer Genomics Proteomics.* **18(6)**: 113-120, 2021.

Higuchi T, Igarashi K, Yamamoto N, Hayashi K, Kimura H, Miwa S, Bouvet M, Tsuchiya H, Hoffman RM. **Osteosarcoma Patient-derived Orthotopic Xenograft (PDOX) Models Used to Identify Novel and Effective Therapeutics: A Review.** *Anticancer Res.* **41(12)**: 5865-5871, 2021.

Yonezawa H, Hayashi K, Yamamoto N, Takeuchi A, Tada K, Miwa S, Igarashi K, Kimura H, Aoki Y, Morinaga S, Araki Y, Asano Y, Sakurakichi K, Ikeda H, Nojima T, Tsuchiya H. **Significant Improvement After Surgery for a Symptomatic Osteoblastoma in a Patient with Camurati-Engelmann Disease: Case Report and Literature Review.** *Calcif Tissue Int.* **108(6)**: 819-824, 2021.

Hioki T, Tokuda H, Kuroyanagi G, Kim W, Tachi J, Matsushima-Nishiwaki R, Iida H, Kozawa O. **Olive polyphenols attenuate TNF- α -stimulated M-CSF and IL-6 synthesis in osteoblasts: Suppression of Akt and p44/p42 MAP kinase signaling pathways.** *Biomed Pharmacother.* **141**: 111816, 2021.

Yamaguchi R, Kamiya N, Kuroyanagi G, Ren Y, Kim HKW. **Development of a murine model of ischemic osteonecrosis to study the effects of aging on bone repair.** *J Orthop Res.* **39(12)**: 2663-2670, 2021.

Kojima M, Kojima T, Waguri-Nagaya Y, Takahashi N, Asai S, Sobue Y, Nishiume T, Suzuki M, Mitsui H, Kawaguchi Y, Kuroyanagi G, Yasuoka M, Watanabe M, Suzuki S, Arai H.

Depression, physical function, and disease activity associated with frailty in patients with rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol.* **31(5)**: 979-986, 2021.

Mizuguchi K, Aoki H, Aoyama M, Kawaguchi Y, Waguri-Nagaya Y, Ohte N, Asai K. **Three-dimensional spheroid culture induces apical-basal polarity and the original characteristics of immortalized human renal proximal tubule epithelial cells.** *Exp Cell Res.* **404(1)**: 112630, 2021.

Kondo T, Otsuka Y, Aoki H, Goto Y, Kawaguchi Y, Waguri-Nagaya Y, Miyazawa K, Goto S, Aoyama M. **The Inducible Nitric Oxide Synthase Pathway Promotes Osteoclastogenesis under Hypoxic Culture Conditions.** *Am J Pathol.* **191(12)**: 2072-2079, 2021.

Nakamura T, Asanuma K, Takao M, Yamanaka T, Koike H, Chen-Yoshikawa TF, Tsukushi S, Kuroda H, Kozawa E, Sano M, Aiba H, Nakanishi R, Nagano A, Yamada K, Shido Y, Kawanami K, Izubuchi Y, Sudo A, Nishida Y. **Clinical Outcome in Soft Tissue Sarcoma Patients with Lung Metastasis Who Received Metastectomy and/or Radiofrequency Ablation: Tokai Musculoskeletal Oncology Consortium Study.** *Cancer Manag Res.* **13**: 8473-8480, 2021.

Xu G, Aiba H, Yamamoto N, Hayashi K, Takeuchi A, Miwa S, Higuchi T, Abe K, Taniguchi Y, Araki Y, Saito S, Yoshimura K, Murakami H, Tsuchiya H, Kawai A. **Efficacy of perioperative chemotherapy for synovial sarcoma: a retrospective analysis of a Nationwide database in Japan.** *BMC Cancer.* **21(1)**: 773, 2021.

Araki Y, Aiba H, Yoshida T, Yamamoto N, Hayashi K, Takeuchi A, Miwa S, Igarashi K, Nguyen TD, Ishii KA, Nojima T, Takahashi S, Murakami H, Tsuchiya H, Hanayama R. **Osteosarcoma-Derived Small Extracellular Vesicles Enhance Tumor Metastasis and Suppress Osteoclastogenesis by miR-146a-5p.** *Front Oncol.* **11**: 667109, 2021.

Ozeki S, Takeuchi K, Yasuoka M, Kamiji K, Kojima T, Waguri-Nagaya Y, Ojima T, Kondo K, Wakai K, Kojima M. **Comparison of frailty associated factors between older adult patients with rheumatoid arthritis and community dwellers.** *Arch Gerontol Geriatr.* **96**: 104455, 2021.

Iwata H, Takada N, Kuroyanagi G, Ikuta K, Usami T, Sekiya I, Murakami H. **Effect of hydroxyapatite tubes on the lag screw intraoperative insertion torque for the treatment of intertrochanteric femoral fractures.** *Injury.* **52**: 3377-3381, 2021.

《東部医療センター》

Ozeki S, Takeuchi K, Yasuoka M, Kamiji K, Kojima T, Waguri-Nagaya Y, Ojima T, Kondo K, Wakai K, Kojima M. **Comparison of frailty associated factors between older adult patients with rheumatoid arthritis and community dwellers.** *Arch Gerontol Geriatr.* **96** : 104455, 2021

【和文業績】

村上 英樹. 脊椎悪性腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術 (TES). 金沢大学十全医学会雑誌. **130(1)**: 21-24, 2021.

村上 英樹. 緒言 特集『脊椎転移の治療 最前線』. 臨床整形外科. **56(10)**: 1216, 2021.

村上 英樹. 脊椎悪性腫瘍に対する根治的手術 (腫瘍脊椎骨全摘術: TES). 現代医学 **68(2)**: 55-60, 2021.

若林 健二郎, 河 命守. 専門医試験をめざす症例問題トレーニング 小児整形外科疾患. 整形外科. **72(11)**: 1201-1207, 2021.

野崎 正浩. 整形外科手術 名人の know-how 膝前外側靭帯再建. 整形・災害外科 64(7): 830-833, 2021.

野崎 正浩. ACL 再断裂に対する治療戦略 関節外靭帯(ALL)再建. 臨床整形外科. 56(6): 795-797, 2021.

八木 清. 【発育期遺残障害-遺残させない、見逃さない-】腰部障害 腰椎分離症 成
大期終末期の対応. 臨床スポーツ医学. 38(10): 1092-1095, 2021.

八木 清. 【治療に難渋するスポーツ障害-病態と治療法 UPDATE-】アスリートの腰痛
成人期アスリートの非特異的腰痛の病態と対処法. 臨床スポーツ医学. 38(7): 770-774,
2021

福島 裕晃, 野崎 正浩. 「SYNAPSE VINCENT」を用いた 3D-MRI による半月板形態の
評価. インナービジョン. 36(7): 35-37, 2021.

岡本 秀貴, 川口 洋平, 上用 祐土, 村上 英樹. 本邦における人工神経開発の歴史と使
用可能な人工神経. 人工臓器. 50(1): 67-71, 2021.

岡本 秀貴, 川口 洋平, 上用 祐土, 服部 勇介, 村上 英樹, 千田 博也. 人工神経の現
状. 臨床整形外科. 56(11): 1335-1341, 2021.

武長 徹也, 後藤 英之, 吉田 雅人, 多和田 兼章, 野崎 正浩, 小林 真, 村上 英樹. 当
科における腱板断裂の保存治療成績. 日整会誌. 95: 388-395, 2021.

武長 徹也, 古島 弘三, 山本 敦史, 大槻 宏芳, 阪長 友仁, 伊藤 恵康. ドミニカ共和国
の青少年野球選手に対するエコーを用いた野球肘検診. 整スポ会誌. 41(1): 31-33, 2021.

齋藤 志朗, 相羽 久輝, 山田 聡, 岡本 秀貴, 村上 英樹. パゾパニブによる間質性肺
炎の 1 例. 整形・災害外科. 64(6): 819-822, 2021.

加藤 仁志, 出村 諭, 村上 英樹, 土屋 弘行. 転移性脊椎腫瘍に対する根治的手術の意
義と適応. 臨床整形外科. 56: 1277-1282, 2021.

横川 文彬, 加藤 仁志, 村上 英樹. 転移性脊椎腫瘍の治療戦略. MB Orthop. 34: 169-
175, 2021.

《東部医療センター》

永谷裕子. 特集 骨粗鬆症予防と理学療法との取り組み 骨粗鬆症に対する薬物治療の理解の
ポイント. 理学療法 38: 684-691, 201

水野祐一郎, 永谷裕子, 千田博也, 白神宗男, 福田俊嗣, 野田陽平. TKA 後に生じた踵骨ス
トレス骨折の 1 例. 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 64: 669-670, 2021

《西部医療センター》

内山田修一, 稲田 充, 早川高志, 山中真徳

脊椎センターでの画像検査 5,149 例における他科疾患の検討 読影レポート未読問題に対
する当院の対策 (第 49 回日本脊椎脊髄病学会優秀論文). Journal of Spine Research .
12: 709-713, 2021

【各教員の論文数 (桜山)】

			内訳	
職名	氏名	論文数	欧文	和文
教授	村上英樹	35	26	9
准教授	岡本秀貴	5	2	3
講師	若林健二郎	1	0	1
講師	野崎正浩	5	1	4
助教	小林 真	2	1	1
講師	木村浩明	8	8	0
助教	加藤賢治	3	3	0
助教	武長徹也	5	3	2
講師	黒柳 元	10	10	0
講師	鈴木 伸幸	0	0	0
助教	河 命守	1	0	1
助教	相羽 久輝	8	7	1
寄附講座 講師	吉田雅人	4	3	1
寄附講座 助教	八木 清	3	1	2

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

			内訳	
職名	氏名	論文数	欧文	和文
教授	永谷祐子	10	8	2
准教授	千田博也	2	0	2
准教授	南谷千帆	0	0	0
講師	安間三四郎	0	0	0
講師	上用祐土	0	0	0
助教	宇佐美琢也	5	5	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

			内訳	
職名	氏名	論文数	欧文	和文
教授	稲田 充	1	0	1
准教授	早川高志	1	0	1

講師	坪井義晃	0	0	0
助教	山中真徳	0	0	0
助教	内山田修一	1	0	1

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

【名古屋市立大学】

岡本 秀樹. 公益財団法人日本テニス協会. 令和3年度「功労賞」, 令和3年

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

≪名古屋市立大学≫

村上 英樹, 鈴木 伸幸, 加藤 賢治, 近藤 章, 水谷 潤, 相羽 久輝. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和6年度、910千円

岡本 秀貴, 川口 洋平, 永谷 祐子, 浅井 清文. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和元年度-令和3年度、1560千円

小林 真. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和元年度-令和4年度、780千円

加藤 賢治. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和元年度-令和4年度、1,040千円

武長 徹也. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和2年度-令和4年度、1,170千円

黒柳 元. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 平成31年度-令和4年度、1,300千円

神谷 宣広, 黒柳 元. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 平成31年度-令和3年度、1,040千円

竹内 聡志. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和2年度-令和5年度、780千円

相羽 久輝. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和2年度-令和6年度、1,040千円

亀井 美智（代表）, 相羽 久輝. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和6年度、1,430千円

≪東部医療センター≫

永谷 祐子, 川口 洋平, 野崎 正浩, 浅井 清文. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度 基盤研究(C)、1,560千円

宇佐美 琢也. 独立行政法人日本学術振興会（第2回 若手研究者海外挑戦プログラム）. 令和3年度、1,100千円

宇佐美 琢也. 公益財団法人日本股関節研究振興財団・令和3年度～令和4年度（令和3年度研究助成）、700千円

【その他】

<国際学会>

《名古屋市立大学》

Yagi K, Kato K, Suzuki N, Kondo A, Waseda Y, Goto Y, Murakami H. Orthopaedic Research Society 2021 Annual Meeting (ORS). p38 Mitogen-Activated Protein Kinase is Involved in Interleukin-6 Secretion from Human Ligamentum Flavum-Derived Cells Stimulated by Tumor Necrosis Factor- α . 2021/2/12-2/16

Yagi K. Korea-Japan-Taiwan (KJT) 1st Endoscopic Spinal Surgery (ESS) 2021. 1. Transforaminal decompression as the revisional surgery for failed back syndrome. 2021/3/28

Aiba H, Kobayashi M, Yamada S, Okamoto H, Nozaki M, Miwa S, Murakami H. Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society. Treatment for the benign bone tumors with endoscopic curettage. 2021/4/21-4/23

Okamoto H, Sekiya I, Kawaguchi Y, Endo K, Joyo y, Murakami H. 2020+1 World Congress of Society for Tennis Medicine and Science. Ulnar shortening osteotomy using distal ulna locking plate. 2021/4/30-5/7

Inoue J, Tawada K, Yamada K, Nozaki M, Kobayashi M, Yoshida M, Takenaga T, Fukushima H, Kato J, Murakami H. 19th European Society for Sports Traumatology, Knee Surgery and Arthroscopy Congress (ESSKA). Positional relationship between the lateral meniscus and popliteal artery viewed from the transpatellar portal in all-inside lateral meniscal repair. 2021/5/11-5/15

Yagi K, Kishima K, Yamashita K, Tezuka F, Morimoto M, Takata Y, Sakai T, Maeda T, Sairyō K. The International Society for the Study of the Lumbar Spine (ISSLS) 2021. The advantages of revisional transforaminal full-endoscopic spine surgery for patients underwent posterior spine surgery. 2021/5/31-6/4

Yagi K, Kishima K, Yamashita K, Tezuka F, Morimoto M, Takata Y, Sakai T, Maeda T, Sairyō K. The International Society for the Study of the Lumbar Spine (ISSLS) 2021. Risk assessment of abdominal and retroperitoneal organ injuries performing transforaminal full-endoscopic spine surgery (TF-FES). 2021/5/31-6/4

Murakami H. 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Paediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS 2021). 「Video on Key Surgical Techniques 1」 Surgical techniques of total en bloc spondylectomy (TES). 2021/6/9-6/12

Ha M, Wakabayashi K, Tsuboi Y, Fukuta T, Wada I, Murakami H. 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Paediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS 2021). A case report of bilateral slipped capital femoral epiphysis occurred in 3 years old boy. 2021/6/9-6/12

Yagi K, Kishima K, Yamashita K, Tezuka F, Morimoto M, Takata Y, Sakai T, Maeda T, Sairyo K. 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Paediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS 2021). The advantages of revisional transforaminal full-endoscopic spine surgery for patients underwent posterior spine surgery. 2021/6/9-6/12

Yagi K, Kishima K, Yamashita K, Tezuka F, Morimoto M, Takata Y, Sakai T, Maeda T, Sairyo K. 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Paediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS 2021). Risk assessment of abdominal and retroperitoneal organ injuries performing transforaminal full-endoscopic spine surgery (TF-FES). 2021/6/9-6/12

Yoshida M, Takenaga T, Inoue H, Nozaki M, Kobayashi M, Fukushima H, Kato J, Sakai H, Murakami H. American Orthopaedic Society for Sports Medicine (AOSSM)- The Arthroscopy Association of North America (AANA) Combined Annual Meeting 2021. Hypermobility of ulnar nerve does not affect throwing performance. 2021/7/7-7/11

Yagi K. Korea-Japan-Taiwan (KJT) 2nd Endoscopic Spinal Surgery (ESS) 2021. Transforaminal decompression as the revisional surgery for failed back syndrome. 2021/11/13

Yagi K. 18th Korea-Japan combined meeting of orthopaedic sports medicine(KOSSM) 2021. The advantages of transforaminal full-endoscopic spine surgery under local anaesthesia. 2021/11/19-11/20

Yagi K. 7th World Congress of Minimally Invasive Spine Surgery & Techniques (WCMISSST). Educational training using a fellowship program. 2021/11/24-11/25

Yoshida M, Takenaga T, Inoue, H, Nozaki M, Kobayashi M, Fukushima H, Kato J, Sakai H, Murakami H. International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine (ISAKOS) 2021. Frozen shoulder: manipulation. 2021/11/27-11/28

《東部医療センター》

Usami T, Takada N, Sakai H, Iwata H, Murakami H, Kuroyanagi G. 41st SICOT Orthopaedic World Congress. Banding with lesser trochanter fragment using nonabsorbable tape in trochanteric femoral fractures. 2021/9/15-18

<国内学会：シンポジウムなど>

《名古屋市立大学》

野崎正浩, 小林 真, 川西佑典, 福島裕晃, 加藤治朗, 吉田雅人, 武長徹也, 村上英樹. 第13回日本整形外科・膝・スポーツ・関節鏡学会(JOSKAS). 特発性??続発性??大腿骨内顆骨壊死 シンポジウム「Breakthrough の為の ACL 損傷の治療戦略」. 2021/6/17-6/19

村上英樹, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 八木 清, 後藤祐太, 相羽久輝. 第137回中部日本整形外科災害外科学会学術集会. 転移性脊椎腫瘍の根治的手術 シンポジウム「転移性脊椎腫瘍の治療戦略」. 2021/10/8-10/9

八木 清. 第 24 回日本低侵襲脊椎外科学会 (JASMISS). HIZ に対する内視鏡下 Thermal annuloplasty. シンポジウム「スポーツ選手における内視鏡手術」. 2021/11/25-11/26

黒柳 元, 松井宣夫, 坂井宏章, 宇佐美琢也, 永谷祐子, 川口洋平, 植木美乃, 村上英樹. 第 36 回日本臨床リウマチ学会. 関節リウマチの過去と未来 関節リウマチに関する鏡視下滑膜切除術の意義 シンポジウム「特別企画」. 2021/12/18-12/19

小林 真, 野崎正浩, 川西佑典, 福島裕晃, 加藤治朗, 長谷川一行. 第 21 回クラブニー. OA を除く軟骨損傷 パネルディスカッション. 2021/6/24

武長徹也, 吉田雅人, 土屋篤志, 後藤英之, 井上淳平, 山内 翔, 福吉正樹, 松本裕司, 齊藤正佳, 中川宏樹, 二村英憲, 二村 涼, 村上英樹, 杉本勝正. 第 32 回日本整形外科超音波学会学術集会. 大学野球選手の上腕骨滑車部骨軟骨病変の有病率 パネルディスカッション「US を用いたアスリートサポート① メディカルチェック」. 2021/7/17-7/18

《東部医療センター》

千田博也, 立松尚衛. 第 38 回中部日本手外科研究会. シンポジウム「一筋縄ではいかないばね指治療. 浅指屈筋腱の部分切除を行ったばね指症例の検討」. 2021/1/30

立松尚衛, 千田博也. 第 38 回中部日本手外科研究会. 橈骨遠位端骨折後に骨幹部スクリューホール周囲に確認された骨の縦割れに関する検討. 2021/1/30

白神宗男, 加藤桜子, 村上純香, 野田陽平, 宇佐美琢也, 福田俊嗣, 上用祐士, 安間三四郎, 南谷千帆, 千田博也, 永谷祐子. 第 136 回中部整形外科災害外科学会・学術集会. Interventional radiology による治療が難渋した腸腰筋血腫の 2 例. 2021/4/9-10

白神宗男, 加藤桜子, 村上純香, 野田陽平, 宇佐美琢也, 福田俊嗣, 立松尚衛, 小栗雄介, 南谷千帆, 千田博也, 永谷祐子. 第 94 回日本整形外科学会学術集会. 水晶体被ばくに対する当院医師の認識と防護状況. 2021/5/20-23

白神宗男, 加藤桜子, 村上純香, 野田陽平, 福田俊嗣, 立松尚衛, 小栗雄介, 南谷千帆, 千田博也, 永谷祐子, 山田宏毅. 第 47 回日本骨折治療学会学術集会. 広範囲骨欠損を伴う大腿骨開放骨折に対して、自家腸骨、RIA による大腿骨、人工骨および同種骨を用いて Masquelet 法を施行した 1 例. 2021/7/2-3

加藤桜子, 千田博也, 白神宗男, 野田陽平. 第 47 回日本骨折治療学会学術集会. 正中神経が骨折部に埋入した小児上腕骨顆上骨折の 1 例. 2021/7/2-3

野田陽平, 千田博也. 第 47 回日本骨折治療学会学術集会. 間欠的整復を要した上腕骨顆上骨折についての検討. 2021/7/2-3

上用祐士, 村上純香, 永谷祐子. 第 50 回日本リウマチの外科学会. 前足部術後に趾

尖部壊死をきたした症例の治療経験. 2021/9/3-4

村上純香, 上用祐土, 永谷祐子. 第 50 回日本リウマチの外科学会. WoCBA における RA 治療継続の重要性 高度膝外反変形を呈したムチランス型 RA の一例.

白神宗男, 村上純香, 加藤桜子, 野田陽平, 宇佐美琢也, 福田俊嗣, 上用祐土, 安間三四郎, 南谷千帆, 千田博也, 永谷祐子. 第 137 回中部整形外科災害外科学会・学術集会. 単純 MRI の全身性背景抑制拡散強調画像 (DWIBS) を利用した全身膿瘍の早期検索が有効であった脊椎感染症. 2021/10/8-9

白神宗男, 南谷千帆, 永谷祐子. 第 11 回最小侵襲脊椎治療学会 MIST 学会. L4 破裂骨折に対し経皮的椎弓根スクリューによる後方固定術 6 カ月後に化膿性脊椎炎を発症した 1 例. 2021/10/29-30

白神宗男, 南谷千帆, 永谷祐子. 第 95 回東海脊椎脊髄病研究会. 脊椎硬膜外膿瘍に合併した全身性多発膿瘍の単純 MRI 拡散強調像 (whole body DWI 法) による早期発見の工夫. 2021/11/27

福田俊嗣, 永谷祐子. 第 49 回日本関節病学会. 外側進入型人工足関節置換術の使用経験. 2021/11/5-6

<国内学会：一般演題>

《名古屋市立大学》

岡本秀貴, 川口洋平, 上用祐土, 平田 仁, 村上英樹, 関谷勇人. 第 38 回中部日本手外科研究会. コラーゲン製人工神経を用いた末梢神経再生と神経再生の未来. 2021/1/30

川口洋平, 武長徹也, 上用祐土, 関谷勇人, 村上英樹, 岡本秀貴. 第 38 回中部日本手外科研究会. 高校球児に生じた手指血行障害の 1 例. 2021/1/30

八木 清, 杉浦宏祐, 竹内 誠, 木島和也, 森本雅俊, 手束文威, 山下一太, 高田洋一郎, 酒井紀典, 前田 徹, 西良浩一. 第 136 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会. 正中型腰部脊柱管狭窄症に対する局所麻酔下 Transforaminal full-Endoscopic Lumbar Undercutting Laminectomy の有用性. 2021/4/9-10

八木 清, 杉浦宏祐, 竹内 誠, 木島和也, 森本雅俊, 手束文威, 山下一太, 高田洋一郎, 酒井紀典, 前田 徹, 西良浩一. 第 136 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会. 腰椎分離症に対する smiley-face rod 法のピットフォール. 2021/4/9-10

八木 清, 杉浦宏祐, 竹内 誠, 木島和也, 森本雅俊, 手束文威, 山下一太, 高田洋一郎, 酒井紀典, 前田 徹, 西良浩一. 第 136 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会. 経椎間孔的全内視鏡下脊椎手術アプローチと臓器損傷. 2021/4/9-10

木村浩明, 相羽久輝, 酒井貴央, 村上英樹. 第 92 回東海骨軟部腫瘍研究会. 左脛骨骨腫瘍の 1 例. 2021/4/17

岡本秀貴, 川口洋平, 上用祐士, 木村浩明, 相羽久輝, 村上英樹, 関谷勇人. 第 64 回日本手外科学会学術集会. 手指末節骨内軟骨腫に対する鏡視下搔爬術. 2021/4/22-4/23

川口洋平, 上用祐士, 村上英樹, 岡本秀貴. 第 64 回日本手外科学会学術集会. 上肢の A 群 β 溶血性連鎖球菌感染症の 4 例. 2021/4/22-4/23

上用祐士, 川口洋平, 岡本秀貴, 村上英樹. 第 64 回日本手外科学会学術集会. Hypothenar Hammer Syndrome に対し血行再建術を施行した 1 例. 2021/4/22-4/23

加藤賢治, 鈴木伸幸, 近藤 章, 八木 清, 早稲田祐也, 後藤祐太, 村上英樹. 第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. ヒト黄色靭帯細胞において主要 MAPK は TGF- β 刺激による IL-6 の分泌に関与する. 2021/4/22-4/24

八木 清, 杉浦宏祐, 竹内 誠, 木島和也, 森本雅俊, 手束文威, 山下一太, 高田洋一郎, 酒 紀典, 前田 徹, 西良浩一. 第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 経椎間孔的全内視鏡下脊椎手術アプローチにおける臓器損傷のリスクの検討. 2021/4/22-4/24

八木 清, 杉浦宏祐, 竹内 誠, 木島和也, 森本雅俊, 手束文威, 山下一太, 高田洋一郎, 酒 紀典, 前田 徹, 西良浩一. 第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 腰椎再手術症例に対する経椎間孔的全内視鏡手術の有用性. 2021/4/22-4/24

米津大貴, 川口洋平, 上用祐士, 浅井清文, 永谷祐子. 第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会. IL-6 は RA 由来線維芽細胞様滑膜細胞においてグリオスタチンを誘導する. 2021/4/26-4/28

鈴木伸幸, 加藤賢治, 近藤 章, 早稲田祐也, 後藤祐太, 村上英樹. 第 94 回日本整形外科学会学術総会. 骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折における受傷後早期 MRI 像と CT 像による骨癒合時の椎体圧潰進行程度の予後予測. 2021/5/20-5/21

小林 真, 野崎正浩, 川西佑典, 福島裕晃, 吉田雅人, 武長徹也, 鷹羽慶之, 村上英樹. 第 94 回日本整形外科学会学術総会. 内側半月板後角損傷に対する pull out 修復と, pull out に centralization を併用した治療の比較検討 -半月板の逸脱は修復されたか-. 2021/5/20-5/21

加藤賢治, 鈴木伸幸, 近藤 章, 早稲田祐也, 八木 清, 後藤祐太, 村上英樹. 第 94 回日本整形外科学会学術総会. ヒト黄色靭帯細胞において p38MPAK は TNF- α 刺激による IL-6 の遺伝子発現, および分泌に関与する. 2021/5/20-5/21

八木 清, 杉浦宏祐, 竹内 誠, 木島和也, 森本雅俊, 手束文威, 山下一太, 高田洋一郎, 酒井紀典, 前田 徹, 西良浩一. 第 94 回日本整形外科学会学術総会. 経椎間孔的全内視鏡下脊椎手術アプローチと臓器損傷. 2021/5/20-5/21

福島裕晃, 野崎正浩, 小林 真, 安間三四郎, 川西佑典, 村上英樹. 第 94 回日本整形外科学会学術総会. Ramp lesion が ACL 損傷膝の不安定性にもたらす影響 -前方・

回旋不安定性の定量評価-。 2021/5/20-5/21

福島裕晃, 野崎正浩, 小林 真, 安間三四郎, 川西佑典, 村上英樹. 第 94 回日本整形外科学会学術総会. Grade3 pivot shift ACL 損傷膝に対する ACL・ALL 同時再建術の有用性. 2021/5/20-5/21

福島裕晃, 野崎正浩, 小林 真, 安間三四郎, 川西佑典, 村上英樹. 第 94 回日本整形外科学会学術総会. ACL 損傷膝に対する ACL・ALL 同時再建術後の膝不安定性の経時的変化. 2021/5/20-5/21

小林 真, 野崎正浩, 川西佑典, 福島裕晃, 加藤治朗, 村上英樹. 第 14 回東海関節研究会. 人工膝関節置換術の機種による動態, 患者満足度の比較. 2021/6/12

黒柳 元, 神谷宣広, 山口亮介, Harry K, W. Kim. 第 14 回東海関節研究会. 虚血性骨壊死におけるインターロイキン 6 の役割の検討. 2021/5/20-5/21

小林 真, 野崎正浩, 川西佑典, 福島裕晃, 加藤治朗, 吉田雅人, 武長徹也, 村上英樹. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). 内側開大式高位脛骨骨切り術と内側開大式粗面下骨切り術の膝蓋大腿関節の術前後変化比較. 2021/6/17-6/19

小林 真, 野崎正浩, 川西佑典, 福島裕晃, 加藤治朗, 吉田雅人, 武長徹也, 渡邊宣之, 村上英樹. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). 膝周囲骨切り術における荷重時 CT を用いた 3 次元的荷重軸評価. 2021/6/17-6/19

吉田雅人, 武長徹也, 井上淳平, 野崎正浩, 小林 真, 福島裕晃, 加藤治朗, 黒柳元, 坂井宏章, 宇佐美琢也, 村上英樹. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). 2020 年愛知県高校野球大会全試合のメディカルサポートについて. 2021/6/17-6/19

武長徹也, 吉田雅人, 土屋篤志, 多和田兼章, 井上淳平, 山内 翔, 野崎正浩, 小林真, 後藤英之, 村上英樹, 杉本勝正. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). Sonographic diagnosis for osteochondral lesion of humeral trochlea in baseball players. 2021/6/17-6/19

八木 清, 杉浦宏祐, 竹内 誠, 木島和也, 森本雅俊, 手束文威, 山下一太, 高田洋一郎, 酒井紀典, 前田 徹, 西良浩一. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). プロ野球選手に対する全内視鏡手術と復帰状況. 2021/6/17-6/19

八木 清, 杉浦宏祐, 竹内 誠, 木島和也, 森本雅俊, 手束文威, 山下一太, 高田洋一郎, 酒井紀典, 前田 徹, 西良浩一. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). 経椎間孔全内視鏡手術の MOB に対する効果. 2021/6/17-6/19

八木 清, 杉浦宏祐, 竹内 誠, 木島和也, 森本雅俊, 手束文威, 山下一太, 高田洋一郎, 酒井紀典, 前田 徹, 西良浩一. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). 正中型腰部脊柱管狭窄症に対する局所麻酔下 Transforaminal full-Endoscopic Lumbar Undercutting Laminectomy の治療成績とその有用性. 2021/6/17-6/19

Takeuchi S, Sugimoto K, Goto H, Tsuchiya A, Takenaga T, Takaba K, Fukuyoshi M, Saito M, Futamura R, Matsumoto Y, Futamura H, Murakami H, Yoshida M. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). Characteristics of Femoral Torsion Angle and Hip Rotational Motion in Adult Baseball Players. 2021/6/17-6/19

福島裕晃, 野崎正浩, 小林 真, 安間三四郎, 川西佑典, 加藤治朗, 村上英樹. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). ACL 再建術後の膝不安定性の経時変化 -ALL 同時再建術の有用性の検討-. 2021/6/17-6/19

加藤治朗, 野崎正浩, 小林 真, 川西佑典, 福島裕晃, 村上英樹. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). 外側円板状半月板に対する形成的切除術後の半月板形態の経時変化 Pivot shift grade 3 ACL 損傷膝に対する ACL・ALL 同時再建術の臨床成績—ACL 単独再建術との比較—. 2021/6/17-6/19

加藤治朗, 野崎正浩, 小林 真, 川西佑典, 福島裕晃, 村上英樹. 第 13 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSKAS/JOSSM meeting 2021). double-bundle ACL 再建術における脛骨 tunnel coalition が膝不安定性に及ぼす影響. 2021/6/17-6/19

相羽久輝, 木村浩明, 酒井貴央, 大塚隆信, 村上英樹. 第 35 回東海ハイパーサーミア研究会. 再発性・遺残性悪性軟部肉腫に対する温熱併用放射線化学療法の治療成績. 2021/7/10

木村浩明, 相羽久輝, 酒井貴央, 岡本秀貴, 村上英樹. 第 54 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 骨腫瘍術後に慢性骨髄炎となった症例の長期経過. 2021/7/15-7/16

相羽久輝, 亀井美智, 木村浩明, 岡本秀貴, 川口洋平, 武田理沙, 酒井貴史, 村上英樹. 第 54 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 小児の骨肉腫に対するイホスファミド・カルボプラチン先行周術期化学療法の検討. 2021/7/15-7/16

酒井貴央, 相羽久輝, 岡本秀貴, 木村浩明, 村上英樹. 第 54 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 骨肉腫と類似画像を呈する大腿骨遠位骨幹端部骨髄脂肪腫の 1 例. 2021/7/15-7/16

齋藤志朗, 山本憲男, 林 克洋, 武内章彦, 三輪真嗣, 五十嵐健太郎, 米澤宏隆, 森永 整, 浅野陽平, 村上英樹, 土屋弘行. 第 54 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学

術集会. 悪性骨・軟部腫瘍症例の肺病変検出における FDG-PET の有用性の検討.
2021/7/15-7/16

吉田雅人, 武長徹也, 井上淳平, 野崎正浩, 小林 真, 福島裕晃, 加藤治朗, 黒柳元, 坂井宏章, 宇佐美琢也, 村上英樹. 第 32 回日本整形外科超音波学会. 大学野球選手における内側上顆における尺骨神経不安定性の評価. 2021/7/17

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 相羽久輝, 村上英樹. 第 9 回 Japan Association of Spine Surgeons with Ambition (JASA). 軟骨肉腫の胸椎多発転移に対して 2-location TES (Total en bloc spondylectomy) を施行した 1 例. 2021/8/22

鈴木伸幸, 加藤賢治, 八木 清, 後藤祐太, 村上英樹. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 頰椎後方手術における予防的, 追加椎間孔拡大術の C5 麻痺に対する効果の検証. 2021/10/8-10/9

木村浩明, 相羽久輝, 酒井貴央, 岡本秀貴, 村上英樹. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 大腿骨転移性骨腫瘍に対する整形外科介入の有効性. 2021/10/8-10/9

加藤賢治, 鈴木伸幸, 八木 清, 後藤祐太, 村上英樹. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. ヒト黄色靭帯細胞では TGF- β 刺激により IL-6 が分泌される: 黄色靭帯肥厚での炎症反応の関与について. 2021/10/8-10/9

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 村上英樹. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 分節動脈損傷予防のための横隔膜内側脚と分節動脈の解剖学的位置関係の検討. 2021/10/8-10/9

相羽久輝, 木村浩明, 酒井貴央, 村上英樹. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. パゾパニブ投与中の気胸の検討. 2021/10/8-10/9

井上淳平, 武長徹也, 土屋篤志, 大久保徳雄, 杉本勝正, 後藤英之, 村上英樹, 吉田雅人. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 肩関節前方不安定症での肩甲窩に対する骨頭位置と移動量の検討. 2021/10/8-10/9

酒井貴央, 相羽久輝, 岡本秀貴, 木村浩明, 村上英樹. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 骨肉腫に類似した画像所見を示した骨髄脂肪腫の 1 例. 2021/10/8-10/9

齋藤志朗, 山本憲男, 林 克洋, 武内章彦, 三輪真嗣, 五十嵐健太郎, 米澤宏隆, 森永 整, 浅野陽平, 村上英樹, 土屋弘行. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 腫瘍用人工膝関節置換術後患者における下肢回旋アライメントの解析. 2021/10/8-10/9

清水祐輔, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 八木 清, 後藤祐太, 村上英樹. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 黄色靭帯血腫の 1 例. 2021/10/8-10/9

後藤祐太, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 八木 清, 村上英樹. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 当院での脊椎手術における術前深部静脈血栓症の有無と D-dimer, その他危険因子との関連の検討. 2021/10/8-10/9

太田恭平, 木村浩明, 相羽久輝, 酒井貴央, 岡本秀貴, 村上英樹. 第 137 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 仙骨骨巨細胞腫に対しデノスマブで長期に局所制御を行っている 2 例. 2021/10/8-10/9

河 命守, 若林健二郎, 坪井義晃, 福田俊嗣, 村上英樹. 第 24 回東海足と靴研究会. Bassett 靭帯障害の 1 例. 2021/10/9

米津大貴, 川口洋平, 上用祐土, 野崎正浩, 小林 真, 浅井清文, 村上英樹, 永谷祐子. 第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会. 関節リウマチ線維芽細胞様滑膜細胞において IL-6 によるグリオスタチン発現はトシリズマブにより抑制される. 2021/10/14-15

竹内聡志, 後藤英之, 井口普敬, 渡辺宣之, 野崎正浩, 小林 真, 武長徹也, 黒柳元, 坂井宏章, 福島裕晃, 村上英樹, 吉田雅人. 第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会. 超音波診断装置を用いた大腿骨頸部前捻角評価. 2021/10/14-15

福島裕晃, 野崎正浩, 小林 真, 川西佑典, 加藤治朗, 村上英樹. 第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会. 形成的切除術による外側円板状半月板の形態変化. 2021/10/14-15

井上淳平, 武長徹也, 土屋篤志, 大久保徳雄, 杉本勝正, 後藤英之, 村上英樹, 吉田雅人. 第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会. 超音波を用いた肩関節前方不安定性評価の検討. 2021/10/14-15

加藤治朗, 野崎正浩, 小林 真, 川西佑典, 福島裕晃, 村上英樹. 第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会. ACL 損傷膝における ramp lesion の診断—屈曲 MRI での評価—. 2021/10/14-15

吉田雅人, 武長徹也, 井上淳平, 鷹羽慶之, 竹内聡志, 土屋篤志, 後藤英之, 杉本勝正, 村上英樹. 第 48 回日本肩関節学会学術集会. 僧帽筋下部筋腱移行術に対する解剖研究. 2021/10/29-10/30

武長徹也, 吉田雅人, 土屋篤志, 多和田兼章, 竹内聡志, 鷹羽慶之, 井上淳平, 後藤英之, 村上英樹, 杉本勝正. 第 48 回日本肩関節学会学術集会. 大学野球選手における TOS 有病率と発症への斜角筋間距離の関与. 2021/10/29-10/30

竹内聡志, 杉本勝正, 後藤英之, 土屋篤志, 吉田雅人, 武長徹也, 村上英樹, 大西賢太郎, Lin A, Debski RE. 第 48 回日本肩関節学会学術集会. 超音波診断装置を用いた肩関節前方不安定性の定量評価. 2021/10/29-10/30

井上淳平, 武長徹也, 土屋篤志, 大久保徳雄, 杉本勝正, 後藤英之, 村上英樹, 吉田雅人. 第 48 回日本肩関節学会学術集会. 超音波を用いた肩甲骨関節窩に対する上腕骨頭位置と移動量の定量評価の検討. 2021/10/29-10/30

坪内希親, 松嶋麻子, 松居亮平, 後藤祐太, 村上英樹. 第 49 回日本救急医学会総会. 自殺企図による後頸部の刺創で左上肢の単麻痺のみを呈した頸髄損傷の 1 例. 2021/11/21

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 清水祐輔, 水野祐一郎, 村上英樹. 第 95 回東海脊髄病研究会学術集会. 全身麻酔ハイリスク患者に対する局所麻酔下全内視鏡下脊椎手術の有用性. 2021/11/27

後藤祐太, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 早稲田祐也, 八木 清, 村上英樹. 第 95 回東海脊髄病研究会学術集会. 腫瘍脊椎骨全摘術(TES)術前分節動脈塞栓術により, 術後肝部分壊死を来した 1 例. 2021/11/27

河 命守, 若林健二郎, 坪井義晃, 佐久間英輔, 和田郁雄, 村上英樹. 第 32 回日本小児整形外科学会. 発育性股関節形成不全における MRI を用いた股関節不安定性の定量的評価. 2021/12/3-12/4

福島裕晃, 野崎正浩, 小林 真, 安間三四郎, 川西佑典, 加藤治朗, 村上英樹. 第 22 回クラブ・ニー. ACL 再建に加えて行った追加手術. 2021/12/9

小林 真, 野崎正浩, 川西佑典, 福島裕晃, 加藤治朗, 村上英樹. 第 9 回日本 Knee Osteotomy フォーラム. 内側開大式骨切り術前後の 3 次元下肢荷重軸の変化. 2021/12/17

加藤治朗, 野崎正浩, 小林 真, 川西佑典, 福島裕晃, 村上英樹. 第 9 回日本 Knee Osteotomy フォーラム. 内反膝に対する脛骨粗面下骨切り術 (OWDTO) と高位脛骨骨切り術 (OWHTO) の術後関節軟骨変化の比較. 2021/12/17

坂井宏章, 渡邊宣之, 宇佐美琢也, 黒柳 元, 村上英樹. 第 257 回整形外科集談会東海地方会. 大腿骨頸部の孤発性外骨腫を鏡視下に切除した 1 例. 2021/12/18

加藤治朗, 野崎正浩, 小林 真, 川西佑典, 福島裕晃, 村上英樹. 第 1 回日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会. 内反膝に対する OWDTO と OWHTO の術後関節軟骨変化の比較. 2021/12/18

武長徹也, 吉田雅人, 土屋篤志, 後藤英之, 井上淳平, 岡本秀貴, 川口洋平, 野崎正浩, 村上英樹, 杉本勝正. 第 34 回日本肘関節学会学術集会. 野球選手に対するエコーを用いた上腕骨滑車部評価. 2022/2/11

《東部医療センター》

立松尚衛, 千田博也. 第 38 回中部日本手外科学研究会. 橈骨遠位端骨折後に骨幹部スクリューホール周囲に確認された骨の縦割れに関する検討. 2021/1/30

白神宗男, 加藤桜子, 村上純香, 野田陽平, 宇佐美琢也, 福田俊嗣, 上用祐土, 安間三四郎, 南谷千帆, 千田博也, 永谷祐子. 第 136 回中部整形外科災害外科学会・学術

集会. Interventional radiology による治療が難渋した腸腰筋血腫の2例. 2021/4/9-10

白神宗男, 加藤桜子, 村上純香, 野田陽平, 宇佐美琢也, 福田俊嗣, 立松尚衛, 小栗雄介, 南谷千帆, 千田博也, 永谷祐子. 第94回日本整形外科学会学術集会. 水晶体被ばくに対する当院医師の認識と防護状況. 2021/5/20-23

白神宗男, 加藤桜子, 村上純香, 野田陽平, 福田俊嗣, 立松尚衛, 小栗雄介, 南谷千帆, 千田博也, 永谷祐子, 山田宏毅. 第47回日本骨折治療学会学術集会. 広範囲骨欠損を伴う大腿骨開放骨折に対して、自家腸骨、RIAによる大腿骨、人工骨および同種骨を用いてMasquelet法を施行した1例. 2021/7/2-3

加藤桜子, 千田博也, 白神宗男, 野田陽平. 第47回日本骨折治療学会学術集会. 正中神経が骨折部に埋入した小児上腕骨顆上骨折の1例. 2021/7/2-3

野田陽平, 千田博也. 第47回日本骨折治療学会学術集会. 間欠的整復を要した上腕骨顆上骨折についての検討. 2021/7/2-3

上用祐土, 村上純香, 永谷祐子. 第50回日本リウマチの外科学会. 前足部術後に趾尖部壊死をきたした症例の治療経験. 2021/9/3-4

村上純香, 上用祐土, 永谷祐子. 第50回日本リウマチの外科学会. WoCBAにおけるRA治療継続の重要性 高度膝外反変形を呈したムチランス型RAの一例. 2021/9/3-4

白神宗男, 村上純香, 加藤桜子, 野田陽平, 宇佐美琢也, 福田俊嗣, 上用祐土, 安間三四郎, 南谷千帆, 千田博也, 永谷祐子. 第137回中部整形外科災害外科学会・学術集会. 単純MRIの全身性背景抑制拡散強調画像(DWIBS)を利用した全身膿瘍の早期検索が有効であった脊椎感染症. 2021/10/8-9

白神宗男, 南谷千帆, 永谷祐子. 第11回最小侵襲脊椎治療学会MIST学会. L4破裂骨折に対し経皮的椎弓根スクリューによる後方固定術6カ月後に化膿性脊椎炎を発症した1例. 2021/10/29-30

白神宗男, 南谷千帆, 永谷祐子. 第95回東海脊椎脊髄病研究会. 脊椎硬膜外膿瘍に合併した全身性多発膿瘍の単純MRI拡散強調像(whole body DWI法)による早期発見の工夫. 2021/11/27

福田俊嗣, 永谷祐子. 第49回日本関節病学会. 外側進入型人工足関節置換術の使用経験. 2021/11/5-6

《西部医療センター》

内山田修一, 稲田 充, 早川高志, 山中真徳, 村上英樹. 第50回日本脊椎脊髄病学会. 脊椎センターにおける神経内科疾患の検討(ポスターアワードセッション選出). 2021/4/22-24

内山田修一, 稲田 充, 早川高志, 山中真徳, 浅井隆之, 村上英樹. 第94回東海脊

椎髄病研究会. 慢性脊椎硬膜外血腫の1例. 2021/6/5

<内部資金獲得実績>

《東部医療センター》

千田 博也, 上用 祐土, 永谷 祐子. 名古屋市立大学 (特別研究奨励費・代表). 令和3年度、372千円

南谷千帆, 永谷祐子, 宇佐美 琢也. 名古屋市立大学 (特別研究奨励費・代表). 令和3年度、372千円

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

<著書>

《名古屋市立大学》

Sekiya I, Okamoto H, Kobayashi M. Arthroscopy and Endoscopy of the Elbow, Wrist and Hand Surgical Anatomy and Techniques. Arthroscopy of Proximal and Distal Interphalangeal Joints. D.N.Bhatia et al Switzerlammd : Springer ; 2021. pp.1135-1141.

Sekiya I, Okamoto H, Kobayashi M. Arthroscopy and Endoscopy of the Hand, Wrist and Elbow.

Principle and Practice. Interphalangeal Arthroscopy. T.H.Lui 編集. Singapore : Springer ; 2021. pp.467-475

岡本 秀貴, 猪田 邦雄, 和田 郁雄, 藤田 ひとみ. III リハビリテーション医学疾患各論 H. 外傷 6 手の外傷. リハビリテーション医学テキスト (改訂第5版). 出江紳一・加賀谷斉 編集. 東京 : 南江堂 ; 2021. pp.262-266

野崎 正浩. 半月板損傷に対する手術 半月板縫合術 バケツ柄状断裂に対する縫合術. ビジュアル・サージカルテクニック膝関節鏡視下手術. 出家正隆 編集. 東京 : 分光堂 ; 2021. pp.118-124

吉田 雅人. 子供から大人までの肩の痛み. 名市大ブックス7. 名古屋市立大学 編集. 名古屋 : 中日新聞 ; 2021. pp. 44-53.

《東部医療センター》

永谷 裕子. 関節の痛みを乗り越えて元気に生活するために. いのちを守る高度・専門医療～東部医療センターの挑戦～. 名市大ブックス第9巻. 名古屋 : 中日新聞 ; 2021. pp.56-66

千田 博也. この骨折、手術した方がいいですか?いのちを守る高度・専門医療～東部医療センターの挑戦～. 名市大ブックス第9巻. 名古屋 : 中日新聞 ; 2021. pp.46-55

<社会貢献・その他>

《名古屋市立大学》

岡本 秀貴. 日本手外科学会. Hand Now Junior Editor

岡本 秀貴. 日本テニス協会. 医事委員
岡本 秀貴. 東海テニス協会. 理事
岡本 秀貴. 愛知県テニス協会. 理事
岡本 秀貴. 東海学生テニス連盟. 会長
岡本 秀貴. 日本テニス協会アスリート委員. 副委員長

野崎 正浩. トヨタ自動車女子バスケットボール部アンテロープス. チームドクター
野崎 正浩. 男子プロゴルフ東建ホームメイトカップ. トーナメントドクター

吉田 雅人. 名古屋オーシャンズ. 帯同ドクター
吉田 雅人. 名古屋市ジュニアアスリートメディカルチェック

武長 徹也. 名古屋オーシャンズ (フットサル). チームドクター

八木 清. 名古屋市ジュニアアスリートメディカルチェック

《東部医療センター》

上用祐士. ダンロップロードツアー ザ オーストラリアンオープン ジュニアシリーズ
イン 四日市: 帯同ドクター

上用祐士. 2021 年度全日本学生テニス選手権大会男子第 89 回/女子第 65 回トーナメント
ドクター

《西部医療センター》

稲田 充. テーマ 『腰部脊柱管狭窄症』. 多田しげおの気分爽快!! 教えて先生!
背骨のお悩み相談. CBC ラジオ. 2021/11/29 **—リハビリテーション**

医学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Kawashima S, Shimizu Y, Ueki Y, Matsukawa N. **Impairment of the visuospatial working memory in the patients with Parkinson's Disease: an fMRI study.** BMC Neurol. **21(1)**: 335, 2021.

Uchida Y, Horimoto Y, Shibata H, Kuno T, Usami T, Takada K, Iida A, Ueki Y, Okamura N, Matsukawa N. **Occipital Tau Deposition and Astrogliosis After Traumatic Brain Injuries in a Kendo Player.** Neurol Clin Pract. **11(4)**: e579-e581, 2021.

Kuroyanagi G, Sakai G, Otsuka T, Yamamoto N, Fujita K, Kawabata T, Matsushima-Nishiwaki R, Kozawa O, Tokuda H. **HSP22 (HSPB8) positively regulates PGF2 α -induced synthesis of interleukin-6 and vascular endothelial growth factor in osteoblasts.** J Orthop Surg Res. **16(1)**: 72, 2021.

Yamaguchi R, Kamiya N, Kuroyanagi G, Ren Y, Kim HKW. **Development of a murine model of ischemic osteonecrosis to study the effects of aging on bone repair.** J Orthop Res. **39(12)**:

2663-2670, 2021.

Hioki T, Tokuda H, Kuroyanagi G, Kim W, Tachi J, Matsushima-Nishiwaki R, Iida H, Kozawa O. **Olive polyphenols attenuate TNF- α -stimulated M-CSF and IL-6 synthesis in osteoblasts: Suppression of Akt and p44/p42 MAP kinase signaling pathways.** Biomed Pharmacother. **141**: 111816, 2021.

Iwata H, Takada N, Kuroyanagi G, Ikuta K, Usami T, Sekiya I, Murakami H. **Effect of hydroxyapatite tubes on the lag screw intraoperative insertion torque for the treatment of intertrochanteric femoral fractures.** Injury. **52(11)**: 3377-3381, 2021.

Usami T, Takada N, Nishida K, Sakai H, Iwata H, Sekiya I, Ueki Y, Murakami H, Kuroyanagi G. **Banding with lesser trochanter fragment using nonabsorbable tape in trochanteric femoral fractures.** SICOT J. **7**: 33, 2021.

Usami T, Takada N, Sakai H, Endo S, Sekiya I, Ueki Y, Murakami H, Kuroyanagi G. **Treatment of patellar fractures using bioresorbable forged composites of raw particulate unsintered hydroxyapatite/poly-L-lactide cannulated screws and nonabsorbable sutures.** Injury. **52(6)**: 1587-1591, 2021.

Usami T, Takada N, Sakai H, Iwata H, Yonezu H, Sekiya I, Ueki Y, Nagaya Y, Murakami H, Kuroyanagi G. **Preoperative “software-based reduction and fixation” using a 3D workstation software for posterior malleolus intra-articular fracture: A case report.** Foot & Ankle Surgery: Techniques, Reports & Cases. **1(3)**: 100047, 2021.

Sakai H, Takada N, Kuroyanagi G, Usami T, Ueki Y, Murakami H. **Biomechanical comparison of bioresorbable F-u-HA/PLLA screw and tension band wire fixation in medial malleolar fractures.** World Academy of Sciences Journal. **3(3)**, 2021.

Kawanishi Y, Kobayashi M, Yasuma S, Fukushima H, Kato J, Murase A, Takenaga T, Yoshida M, Kuroyanagi G, Kawaguchi Y, Nagaya Y, Murakami H, Nozaki M. **Anterolateral ligament reconstruction in addition to primary double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction for grade 3 pivot shift improves residual knee instability during surgery.** J Exp Orthop. **8(1)**: 51, 2021.

Kojima M, Kojima T, Waguri-Nagaya Y, Takahashi N, Asai S, Sobue Y, Nishiume T, Suzuki M, Mitsui H, Kawaguchi Y, Kuroyanagi G, Yasuoka M, Watanabe M, Suzuki S, Arai H. **Depression, physical function, and disease activity associated with frailty in patients with rheumatoid arthritis.** Mod Rheumatol. **31(5)**: 979-986, 2021.

Oguri Y, Kawaguchi Y, Tatematsu N, Joyo Y, Mizuguchi K, Yonezu H, Okamoto H, Nozaki M, Kobayashi M, Kuroyanagi G, Aiba H, Asai K, Inoue K, Murakami H, Waguri-Nagaya Y. **N-acetyl-seryl-aspartyl-lysyl-proline: A new potential serum biomarker of rheumatoid arthritis.** Medical Mass Spectrometry. **5(1)**: 28-37, 2021.

【和文業績】

黒柳 元. パーキンソン病患者の急速破壊型股関節症に対する多角的アプローチの1例、
こころとからだにチームでのぞむ 慢性疼痛ケースブック 116-121, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	植木 美乃	6(0)	6(0)	0
助教	村上 里奈	0	0	0
講師	黒柳 元	12(7)	11(6)	1(1)

注：()内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

植木美乃 2022年度愛知県医師会難病研究者表彰

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

植木美乃 厚生労働行政推進調査事業補助金・難治性疾患政策研究事業（分担）、令和3年度-令和5年度、分担 1,000千円
 植木美乃 文部科学省科学研究費（基盤A・分担）、令和2年度-令和4年度、103千円
 植木美乃 脳科学研究戦略推進プログラム(AMED・分担)、令和2年度-令和5年度、500千円
 植木美乃 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）、令和3年度-令和6年度、300千円
 植木美乃 共同研究費（住友ファーマ）R4年 2,000千円
 村上里奈 中外製薬 研究活動支援 2021年度 300千円
 村上里奈 （分担）基盤研究（B）2020-2023 400千円
 村上里奈 （分担）AMED 医療機器開発推進研究事業 2019-2024 1,500千円

黒柳 元. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）、平成31年-令和4年度、4,160千円
 黒柳 元. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）、平成31年-令和3年度、3,300千円
 黒柳 元. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）、平成30年-令和3年度、3,400千円
 黒柳 元. 受託研究費（Kisco株式会社・代表）、令和3年度、230万円
 黒柳 元. 受託研究費（帝人メディカルテクノロジー社・代表）、令和3年度、1,700千円

【その他】

黒柳 元、松井宣夫、坂井宏章、宇佐美琢也、永谷祐子、川口洋平、植木美乃、村上英樹. 第36回日本臨床リウマチ学会（特別講演）. 関節リウマチの過去と未来 関節リウマチに関する鏡視下滑膜切除術の意義. 2021年12月18日

植木美乃 名古屋市立大学特別研究奨励費（R4）代表 1,000千円

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

黒柳 元. 褥瘡対策委員会のメンバーとして、毎週火曜日のカンファランスに参加し、

年間 600 症例の褥瘡評価をチェックしている。

黒柳 元. いたみセンターの副センター長として、毎週木曜日のカンファランスに参加し、年間 90 症例の治療方針について多職種でカンファランスを行っている。

<研究活動実績>

【欧文業績】

Uchida M, Akechi T, Morita T, Shima Y, Igarashi N, Miyashita M, and J-HOPE group. **Development and Validation of the Terminal Delirium-Related Distress Scale to Assess Irreversible Terminal Delirium.** *Palliative & Supportive Care.* **19 (3):** 287–93. 2021.

Yamada, A, Katsuki F, Kondo M, Sawada H, Watanabe N, and Akechi T. **Association between the Social Support for Mothers of Patients with Eating Disorders, Maternal Mental Health, and Patient Symptomatic Severity: A Cross-Sectional Study.** *Journal of Eating Disorders.* **9 (1):** 8. 2021.

Aoyama M, Miyashita M, Masukawa K, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, and Akechi T. **Predicting Models of Depression or Complicated Grief among Bereaved Family Members of Patients with Cancer.** *Psycho-Oncology.* **30 (7):** 1151–59. 2021.

Harashima S, Fujimori M, Akechi T, Matsuda T, Saika K, Hasegawa T, Inoue K, Yoshiuchi K, Miyashiro I, Uchitomi Y, Matsuoka Y. **Death by Suicide, Other Externally Caused Injuries and Cardiovascular Diseases within 6 Months of Cancer Diagnosis (J-SUPPORT 1902).** *Japanese Journal of Clinical Oncology.* **51 (5):** 744–52. 2021.

Kumagai N, Tajika A, Hasegawa A, Kawanishi N, Fujita H, Tsujino N, Jinnin R, Uchida M, Okumoto Y, Akechi T, Furukawa TA. **Assessing Recurrence of Depression Using a Zero-Inflated Negative Binomial Model: A Secondary Analysis of Lifelog Data.** *Psychiatry Research.* **300 (June):** 113919.

Carey ML, Uchida M, Zucca AC, Okuyama T, Akechi T, Sanson-Fisher RW. 2021. **Experiences of Patient-Centered Care Among Japanese and Australian Cancer Outpatients: Results of a Cross-Sectional Study.** *Journal of Patient Experience.* **8 (April):** 23743735211007690. 2021.

Maeda I, Inoue S, Uemura K, Tanimukai H, Hatano Y, Yokomichi N, Amano K, Tagami K, Yoshiuchi K, Ogawa A, Iwase S; Phase-R Delirium Study Group (Achatz E, Abo H, Akechi T, Akizuki N, Fujisawa D, Hagiwara S, Hirohashi T, Hisanaga T, Imai K, Inada S, Inoue S, Iwata A, Kaneishi K, Kumano A, Matsuda Y, Matsui T, Matsumoto Y, Matsuo N, Miyajima K, Mori I, Morita S, Nakahara R, Nakajima N, Nobata H, Odagiri T, Okuyama T, Sakashita A, Shimizu K, Sumazaki Y, Watanabe, Takeuchi E, Takeuchi M, Tatara R, Tokoro A, Uchida M, Watanabe H, Yabuki R, Yamauchi T). **Low-Dose Trazodone for Delirium in Patients with Cancer Who Received Specialist Palliative Care: A Multicenter Prospective Study.** *J Palliat Med.* **24(6):** 914-918. 2021.

Arakawa S, Amano K, Oyamada S, Maeda I, Ishiki H, Miura T, Hatano Y, Naito AS, Sato M, Ito T, Kosugi K, Miyake S, Morita T, Mori M, East-Asian Collaborative Cross-Cultural Study To Elucidate the Dying Process (EASED) Investigators (Inoue S, Yokomichi N, Imai K, Tsukuura H, Yamauchi T, Uneno Y, Yoshioka A, Hiramoto S, Kikuchi A, Hori T, Matsuda Y, Kohara H, Funaki H, Tanaka K, Suzuki K, Kamei T, Azuma Y, Uno T, Miyamoto J, Katayama H, Kashiwagi H, Matsumoto E, Oya K, Yamaguchi T, Okamura T, Hashimoto H, Kosugi S, Ikuta N, Matsumoto Y, Ohmori T, Nakai T, Ikee T, Unoki Y, Kitade K, Koito S, Ishibashi N, Ehara M, Kuwahara K, Ueno S, Nakashima S, Ishiyama Y, Sakashita A, Matsunuma R, Takatsu H, Yamaguchi T, Ito S, Terabayashi T, Nakagawa J, Yamagiwa T, Inoue A, Yamaguchi T, Miyashita M, Yoshida S, Hiratsuka Y, Tagami K, Watanabe H, Odagiri T, Ikenaga M, Shimizu K, Hayakawa A, Kamura R, Okoshi T, Nishi T, Shibata Y, Hisanaga T, Higashibata T, Yabuki R, Hagiwara S, Shimokawa M, Nozato J, Iriyama T, Kaneishi K, Baba M, Matsumoto Y, Okizaki A, Sumazaki WY, Uehara Y, Satomi E, Nishijima K, Shimoinaba J, Nakahori R, Hirohashi T, Hamano J, Kawashima N, Kawaguchi T, Uchida M, Sato K, Matsuda Y, Tsuneto S, Maeda S, Kizawa Y, Otani H). **Effects of Parenteral Nutrition and Hydration on Survival in Advanced Cancer Patients with Malignant Bowel Obstruction:**

Secondary Analysis of a Multicenter Prospective Cohort Study. Supportive Care in Cancer: Official Journal of the Multinational Association of Supportive Care in Cancer. **29 (12):** 7541–49. 2021.

Hasegawa T, Akechi T, Osaga S, Tsuji T, Okuyama T, Sakurai H, Masukawa K, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. **Unmet Need for Palliative Rehabilitation in Inpatient Hospices/palliative Care Units: A Nationwide Post-Bereavement Survey.** Japanese Journal of Clinical Oncology. **51 (8):** 1334–38. 2021.

Sato H, Nakaaki S, Sato J, Shikimoto R, Furukawa TA, Mimura M, Akechi T. **Caregiver Self-Efficacy and Associated Factors among Caregivers of Patients with Dementia with Lewy Bodies and Caregivers of Patients with Alzheimer’s Disease.** Psychogeriatrics: The Official Journal of the Japanese Psychogeriatric Society. **21 (5):** 783–94. 2021.

Uemoto Y, Uchida M, Kondo N, Wanifuchi-Endo Y, Fujita T, Asano T, Hisada T, Nishikawa S, Katagiri Y, Terada M, Kato A, Okuda K, Sugiura H, Osaga S, Akechi T, Toyama T. **Predictive Factors for Patients Who Need Treatment for Chronic Post-Surgical Pain (CPSP) after Breast Cancer Surgery.** Breast Cancer. **28 (6):** 1346–57. 2021.

Akechi T, Ito Y, Ogawa A, Kizawa Y. **Essential Competences for Psychologists in Palliative Cancer Care Teams.** Japanese Journal of Clinical Oncology **51 (10):** 1587–94. 2021.

Inoue K, Kawashima Y, Noguchi H, Fujimori M, Akechi T, Kawanishi C, Uchitomi Y, Matsuoka YJ. **Attitude to Suicide Prevention and Suicide Intervention Skills among Oncology Professionals: An Online Cross-Sectional Survey in Japan.** Psychiatry and Clinical Neurosciences. **75 (12):** 401–2. 2021.

Kurisu K, Inada S, Maeda I, Ogawa A, Iwase S, Akechi T, Morita T, Oyamada S, Yamaguchi T, Imai K, Nakahara R, Kaneishi K, Nakajima N, Sumitani M, Yoshiuchi K; Phase-R Delirium Study Group. **A Decision Tree Prediction Model for a Short-Term Outcome of Delirium in Patients with Advanced Cancer Receiving Pharmacological Interventions: A Secondary Analysis of a Multicenter and Prospective Observational Study (Phase-R).** Palliative & Supportive Care. **20 (2):** 153–58. Epub 2021.

Toshishige Y, Kondo M, Akechi T. **Interpersonal Psychotherapy for Complex Posttraumatic Stress Disorder Related to Childhood Physical and Emotional Abuse with Great Severity of Depression: A Case Report.** Asia-Pacific Psychiatry: Official Journal of the Pacific Rim College of Psychiatrists. **14 (3):** e12504. Epub 2021.

Watanabe T, Kondo M, Sakai M, Takabatake S, Furukawa TA, Akechi T. **Association of Autism Spectrum Disorder and Attention Deficit Hyperactivity Disorder Traits with Depression and Empathy Among Medical Students.** Advances in Medical Education and Practice. **12 (October):** 1259–65. 2021.

Suzuki N, Okuyama T, Akechi T, Kusumoto S, Ri M, Inagaki A, Kayukawa S, Yano H, Yoshida T, Shiraga K, Hashimoto H, Aiki S, Iida S. **Symptoms and Health-Related Quality of Life in Patients with Newly Diagnosed Multiple Myeloma: A Multicenter Prospective Cohort Study.** Japanese Journal of Clinical Oncology. **52 (2):** 163–69. 2021.

Azuma H. **Beta Oscillations, Cognition, and Memory Function: Clues to the Nature of Psychosis?** Biol Psychiatry Cogn Neurosci Neuroimaging. **6(12):** 1121. 2021.

【和文業績】

近藤真前. 【めまい・ふらつき - QOL向上をめざした診療 -】めまいを生じる機能性疾患・精神疾患. ENTONI. **256:** 38–45, 2021.

奥山徹. 【精神科研修のエッセンスがまるごとわかる 医療面接の基本や精神症状へ

の対応など、どの科でも必ず役立つ基本事項を身につけよう!】抑うつ診たてと対応。レジデントノート 22, no. 15: 2847-54.

山田敦朗. 【子どもの自殺】. 精神医学. 63(7) : 1051-1061, 2021.

井上真一郎, 谷向仁, 松田能宣, 奥山徹. 【緩和ケアと精神医療 最近のトピックス】緩和ケアにおけるせん妄. 臨床精神医学 50, no. 8: 829-37. 2021.

奥山徹. 【緩和ケアと精神医療 最近のトピックス】進行がん患者に対する早期からの緩和ケア. 臨床精神医学 50, no. 8: 765-71. 2021.

長谷川貴昭, 奥山徹, 明智龍男. 緩和ケアのエビデンス 本邦の肺癌患者の Advance Care Planning の現状と課題 多施設縦断的観察研究から. 肺癌. 61(6): 497-497, 2021.

東英樹, 明智龍男. けいれん発作時脳波周波数変化は心拍数と同様に増加するが脳波発作終了前に増加する. 臨床神経生理学. 49(5): 424-424, 2021. 10月

明智龍男. 【今日の精神科治療ハンドブック】(第15章)コンサルテーション・リエゾン(二次性の精神および行動の症候群を含む) 緩和ケアにおける精神医学. 精神科治療学. 36(増刊): 328-331, 2021.

明智龍男. 【「実感と納得」に向けた病気と治療の伝え方】コンサルテーションリエゾンおよびサイコオンコロジー. 精神医学. 63(11): 1713-1719. 2021.

酒井美枝, 杉浦健之, 永田富義, 青木晃大, 近藤真前. 薬物療法に併用してアクセプタンス&コミットメント・セラピーを実施した慢性二次性筋骨格系疼痛の一症例. 慢性疼痛. 40(1): 131-137, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	明智龍男	20(10)	16(6)	4(4)
講師	東英樹	2(2)	1(1)	1(1)
講師	山田敦朗	1(1)	1(1)	1(1)
講師	久保田陽介	0	0	0
助教	中口智博	0	0	0
助教(2022.10.退職)	近藤真前	5(1)	3(0)	2(1)
助教	白石直	0	0	0
助教	渡辺孝文	1(1)	1(1)	0
助教	長谷川貴昭	3(2)	2(1)	1(1)
助教(2021.6.退職)	今井理紗	0	0	0
助教	利重裕子	1(1)	1(1)	0

※()内数字は筆頭あるいは責任著者(教授は最終著者含む)

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	奥山徹	8(3)	4(0)	4(3)

准教授	持田圭仁	0	0	0
-----	------	---	---	---

※()内数字は筆頭あるいは責任著者(教授は最終著者含む)

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】 (科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載)

- 明智 龍男. 文部省科学研究費(基盤 B・代表). 令和元年度-令和4年度、2,100 千円
- 明智 龍男. 文部省科学研究費(挑戦的萌芽・代表). 令和元年度-令和4年度、900 千円
- 明智 龍男. 厚生労働科学研究費(代表). 令和3年度、8,775 千円
- 明智 龍男. 厚生労働科学研究費(代表). 令和3年度、9,750 千円
- 明智 龍男. 厚生労働科学研究費(分担). 令和3年度、500 千円
- 明智 龍男. 厚生労働科学研究費(分担). 令和3年度、代表者一括
- 明智 龍男. 厚生労働科学研究費(分担). 令和3年度、代表者一括
- 明智 龍男. 厚生労働科学研究費(分担). 令和3年度、代表者一括
- 明智 龍男. 受託研究(NEDO・分担). 令和3年度、100 千円
- 明智 龍男. 受託研究(AMED・代表). 令和3年度、14,000 千円
- 明智 龍男. 受託研究(AMED・分担). 令和3年度、100 千円
- 明智 龍男. 受託研究(AMED・分担). 令和3年度、配分なし
- 明智 龍男. 文部省科学研究費(基盤 B・分担). 令和元年度～令和3年度、200 千円
- 山田 敦朗. 文部省科学研究費(基盤 B・分担). 令和元年度～令和5年度、300 千円
- 近藤 真前. 文部省科学研究費(基盤 C・代表). 令和元年度-令和3年度、1,200 千円
- 近藤 真前. 文部省科学研究費(基盤 B・分担). 令和元年度～令和5年度、200 千円
- 近藤 真前. 文部省科学研究費(基盤 C・分担). 令和元年度～令和3年度、14 千円
- 近藤 真前. 文部省科学研究費(基盤 C・分担). 令和元年度～令和3年度、100 千円
- 近藤 真前. 文部省科学研究費(基盤 C・分担). 令和2年度～令和4年度、100 千円
- 近藤 真前. 文部省科学研究費(基盤 C・分担). 令和3年度～令和7年度、50 千円
- 白石 直. 文部省科学研究費(若手). 令和元年度-令和4年度、800 千円
- 白石 直. 文部省科学研究費(基盤 C・分担). 令和3年度～令和5年度、100 千円
- 白石 直. 受託研究(AMED・分担). 令和3年度、200 千円
- 利重 裕子. 文部省科学研究費(若手). 令和元年度～令和3年度、1,100 千円
- 今井 理紗. 文部省科学研究費(若手 B). 令和2年度～令和5年度、700 千円

奥山 徹. 文部省科学研究費(基盤 B・分担).令和元年度～令和 3 年度、700 千円

奥山 徹.厚生労働科学研究費(分担).令和 3 年度、代表者一括

【その他】

特になし

<研究活動実績>

【欧文業績】

(桜山)

Katano H, Mase M. **Epigenetic changes in carotid plaques with high calcium scores; DNA methylation and microRNA assessments.** *Atherosclerosis*. **331**: e93, 2021

Shibata T, Nishikawa Y, Torigai T, Kitamura T, Yamada H, Aihara N, Katano H, Mase M. **Balloon test occlusion of the carotid artery: internal validation of predictive results.** *Turk Neurosurg*. **31**: 710-717, 2021.

Kanamori M, Takami H, Suzuki T, Tominaga T, Kurihara J, Tanaka S, Hatazaki S, Nagane M, Matsuda M, Yoshino A, Natsumeda M, Yamaoka M, Kagawa N, Akiyama Y, Fukai J, Negoto T, Shibahara I, Tanaka K, Inoue A, Mase M, Tomita T, Kuga D, Kijima N, Fukami T, Nakahara Y, Natsume A, Yoshimoto K, Keino D, Tokuyama T, Asano K, Ujifuku K, Abe H, Nakada M, Matsuda KI, Arakawa Y, Ikeda N, Narita Y, Shinojima N, Kambe A, Nonaka M, Izumoto S, Kawanishi Y, Kanaya K, Nomura S, Nakajima K, Yamamoto S, Terashima K, Ichimura K, Nishikawa R. **Necessity for craniospinal irradiation of germinoma with positive cytology without spinal lesion on MR imaging-A controversy.** *Neurooncol Adv*. **3(1)**: vdab086, 2021.

Nakajima M, Yamada S, Miyajima M, Ishii K, Kuriyama N, Kazui H, Kanemoto H, Suehiro T, Yoshiyama K, Kameda M, Kajimoto Y, Mase M, Murai H, Kita D, Kimura T, Samejima N, Tokuda T, Kajima M, Akiba C, Kawamura K, Atsuchi M, Hirata Y, Matsumae M, Sasaki M, Yamashita F, Aoki S, Irie R, Miyake H, Kato T, Mori E, Ishikawa M, Date I, Arai H, research committee of idiopathic normal pressure hydrocephalus. **Guidelines for Management of Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus (Third Edition): Endorsed by the Japanese Society of Normal Pressure Hydrocephalus.** *Neurol Med Chir (Tokyo)*. **61(2)**: 63-97, 2021.

Oomura M, Kitamura T, Adachi K, Nishikawa Y, Mase M. **Development of Internal Carotid Artery Dissection During Masturbation.** *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 2021 **Jan**;30(1):105387. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2020.105387. Epub 2020 Nov11. PMID: 33188954.

Inoue H, Oomura M, Nishikawa Y, Mase M, Matsukawa N. **The Feasibility of Mechanical Thrombectomy on Single-Plane Angiosuite: An In-Depth Analysis of Procedure Time.** *Cerebrovasc Dis Extra*. **11(3)**: 112-117, 2021.

Shibata T, Hashimoto N, Okura A, Mase M. **Brain abscess of odontogenic origine in patients with malignant tumors; A report of two cases.** *Surg Neurol Int*. **12**: 417, 2021

Shibata T, Nishikawa Y, Kitamura T, Mase M. **Cavernous sinus dural arteriovenous fistula accessed through a straightened superficial temporal vein.** *Surgical Neurology International*. **12**: 634, 2021.

Inoue H, Oomura M, Nishikawa Y, Mase M and Matsukawa N. **Aplastic or twig-like middle cerebral artery and cardiogenic cerebral embolism mimicking moyamoya disease with RNF213 polymorphism: A case report.** *Interventional Neuroradiology*. **28(6)**: 634-638, 2021.

SHIBATA T, NISHIKAWA Y, TORIGAI T, KITAMURA T, YAMADA H, AIHARA N, KATANO H, MASE M. **Balloon Test Occlusion of the Carotid Artery: Internal Validation of Predictive Results.** *Turk Neurosurg*. **31(5)**: 710-717, 2021.

Shibata T, Nishikawa Y, Kitamura T, Mase M. **Cavernous sinus dural arteriovenous fistula accessed through a straightened superficial temporal vein.** *Surgical Neurology International*. **12**: 634, 2021.

Inoue H, Oomura M, Nishikawa Y, Mase M and Matsukawa N. **Aplastic or twig-like middle cerebral artery and cardiogenic cerebral embolism mimicking moyamoya disease with RNF213 polymorphism: A case report.** *Interventional Neuroradiology.* **28(6):** 634-638, 2021.

(東部)

Shibata T, Nishikawa Y, Torigai T, Kitamura T, Yamada H, Aihara N, Katano H, Mase M. **Balloon Test Occlusion of the Carotid Artery: Internal Validation of Predictive Results.** *Turk Neurosurg.* **31(5):**710-717, 2021.

Shibata T, Hashimoto N, Okura A, Mase M. **Brain abscess of odontogenic origin in patients with malignant tumors: A report of two cases.** *Surg Neurol Int.* **12:** 417, 2021.

Shibata T, Nishikawa Y, Kitamura T, Mase M. **Cavernous sinus dural arteriovenous fistula accessed through a straightened superficial temporal vein.** *Surg Neurol Int.* **12:** 634, 2021.

【和文業績】

片野広之、山田和雄、間瀬光人. ヒト頸動脈プラーク安定化機構のためのオミックス解析. *メディカル・サイエンス・ダイジェスト* (岡野栄之編) **47:** 490-491, 2021

間瀬光人: 特発性正常圧水頭症. *脳神経疾患の最新治療 2021-2023.* 151-153, 2021

間瀬光人: 第2章. 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア. *脳神経外科学*, 第13版. 167-212, 2021

間瀬光人: 第12章 3. 正常圧水頭症. *脳神経外科学*, 第13版. 1413-1426, 2021

【各教員の論文数 (桜山)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	間瀬光人	15	12	3
准教授	片野広之	4	3	1
准教授	相原徳孝	0	0	0
講師	谷川元紀	0	0	0
講師	岡 雄一	0	0	0
助教	西川祐介	8	8	0
助教	坂田知宏	0	0	0
助教	山田紘史	0	0	0
助教	山中智康	0	0	0
助教	内田 充	0	0	0

注: () 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数 (東部)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授(診療)	金井秀樹	0	0	0

担当)				
助教	柴田広海	5	5	0
助教(診療担当)	堀田龍矢	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

(桜山)
間瀬光人. 社会福祉法人 名古屋市総合リハビリテーション事業団リハビリテーション研究基金研究事業等助成金. 令和3年度、700千円

片野広之. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和5年度、1,100千円

【その他】

1) 国際学会発表

(桜山)

Katano H, Mase M. Epigenetic changes in carotid plaques with high calcium scores; DNA methylation and microRNA assessments. The 89th European Atherosclerosis Society Congress (EAS 2021) 2021.5.30-6.2

2) 国内学会発表

(桜山)

片野広之. 第46回日本脳卒中学会. 頸動脈病変の遺伝子発現 ～石灰化粥腫の安定性を支えているもの～. 2021年3月13日

片野広之. 第80回日本脳神経外科学会総会. 頸動脈狭窄症における高度石灰化粥腫の網羅的ゲノム・エピゲノム解析. 2021年10月28日

(東部)

金井秀樹、打田 淳、大野貴之、岩田卓士、大石龍矢、加藤秀和
脳腫瘍手術治療例に関するDPCデータの有用性 日本脳神経外科学会第80回学術総会 2021/10/27～10/30 横浜

柴田広海、坂田 知宏、谷川 元紀、山田 勢至、間瀬 光人
確定診断にDNAメチル化解析が有用であったびまん性髄膜性グリア神経細胞腫瘍の一例 日本脳神経外科学会第80回学術総会 2021/10/27～10/30 横浜

柴田広海 内視鏡下脳内血腫除去術の2例 第21回脳卒中フォーラム 2021/12/2 名古屋

柴田広海 内視鏡下脳内血腫除去術の2例 第21回脳卒中フォーラム 2021/12/2 名古屋

3) 国内学会参加状況

片野広之. 日本小児神経外科学会. 日本頭痛学会. 日本医療情報学会. 日本認知症学会. 日本産業衛生学会. 日本公衆衛生学会. 日本職業災害医学会. 日本医療病院管理学会. 日本産業ストレス学会. 准教授

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

片野広之 日本小児神経外科学会評議委員・学術委員、脊髄髄膜瘤ガイドライン作成委員、社会医学系専門医委員会研修プログラム管理委員、JAM、AMORE、COSMO-JAPAN, P-Choc Registry 研究班分担研究者

<研究活動実績>

【欧文業績】

Oya N, Ito Y, Ebara T, Kato S, Ueyama J, Aoi A, Nomasa K, Sato H, Matsuki T, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh S, Kamijima M. **Cumulative exposure assessment of neonicotinoids and an investigation into their intake-related factors in young children in Japan.** *Sci Total Environ.* **750**: 141630, 2021.

Goto S, Ozaki Y, Ozawa F, Mizutani E, Kitaori T, Suzumori N, Blomgren K, Furuno T, Sugiura-Ogasawara M. **The investigation of calpain in human placenta with fetal growth restriction.** *Am J Reprod Immunol.* **85**: e13325, 2021.

Suzumori N, Sekizawa A, Takeda E, Samura O, Sasaki A, Akaishi R, et al. **Retrospective details of false-positive and false-negative results in noninvasive prenatal testing for fetal trisomy 21, 18 and 13.** *Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol.* **256**: 75-81, 2021.

Quenby S, Gallos ID, Dhillon-Smith RK, Podesek M, Stephenson MD, Fisher J, Brosens J, Brewin J, Ramhorst R, Lucas ES, McCoy RC, Anderson R, Daher S, Regan L, Al-Memar M, Bourne T, MacIntyre DA, Rai R, Christiansen OB, Sugiura-Ogasawara M, Odendaal J, Devall AJ, Bennett PR, Petrou S, Coomarasamy A. **Miscarriage matters: the epidemiological, physical, psychological and economic burden of early pregnancy loss.** *Lancet.* **397**: 1658-1667, 2021.

Yoshihara H, Sugiura-Ogasawara M, Goto S, Kitaori T. **Levothyroxine and subclinical hypothyroidism in patients with recurrent pregnancy loss.** *Am J Reprod Immunol.* **85**: e13341, 2021.

Ishitani K, Isoai A, Ito T, Sugiyama H, Arakawa A, Yamada Y, Onodera H, Kobayashi R, Torii N, Soneda N, Matsuno Y, Utsugisawa T, Kato M, Hanafusa N. **Clinical usefulness of cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy (CART) in combination with chemotherapy for malignant ascites: a post-marketing surveillance study.** *Int J Clin Oncol.* **26(6)**: 1130-1138, 2021.

Suzumori N, Ebara T, Tamada H, Matsuki T, Sato H, Kato S, Saitoh S, Kamijima M, Sugiura-Ogasawara M. **Relationship between delivery with anesthesia and postpartum depression: The Japan Environment and Children's Study (JECS) .** *BMC Pregnancy Childbirth.* **1**: 2375, 2021.

Yamada Y, Ebara T, Matsuki T, Kano H, Tamada H, Kato S, Sato H, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh S, Kamijima M, On Behalf Of The Japan Environment And Children's Study Jecs Group. **Relationship between Physical Activity and Physical and Mental Health Status in Pregnant Women: A Prospective Cohort Study of the Japan Environment and Children's Study.** *Int J Environ Res Public Health.* **18**: 11373, 2021.

Sasaki Y, Yamada T, Tanaka S, Sekizawa A, Hirose T, Suzumori N, Kaji T, et al. **Evaluation of the clinical performance of noninvasive prenatal testing at a Japanese laboratory.** *J Obstet Gynecol Res.* **47**: 3437-3446, 2021.

Goto S, Suzumori N, Kumagai K, Otani A, Ogawa S, Sawada Y, Inuzuka S, Sugiura-Ogasawara M. Trends of fetal chromosome analysis by amniocentesis before and after beginning of noninvasive prenatal testing: A single-center experience in Japan. J Obstet Gynaecol Res. 47(11): 3807-3812, 2021.

Kai K, Nasu K, Nishida H, Daa T, Shikama A, Shiozaki T, Kurakazu M, Yano M, Imamura Y, Tokunaga H, Tasaki K, Iida Y, Yamada Y, Morisawa H, Nakagawa S, Fujimoto E, Tsuruta T, Matsumoto H, Arakawa A, Nonaka M, Takano H, Ushiwaka T, Mori T, Ito K, Motohashi T, eramoto N, Yamada T. Correlation of World Health Organization 2010 classification for gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasms with the prognosis of ovarian neuroendocrine neoplasms: Kansai Clinical Oncology Group-Protocol Review Committee/Intergroup Study. Neuroendocrinology. 111(4): 320-329, 2021.

【和文業績】

関 宏一郎, 犬塚 早紀, 倉兼 さとみ, 小島 和寿, 村上 勇. 子宮腔内から異所性迷入したレボノルゲストレル放出子宮システムの2症例. 東海産婦人科内視鏡手術研究会雑誌. 9: 55-60, 2021.

田尻佐和子, 西川尚実, 粟生晃司, 川村祐司, 早川明子, 中元永理, 青山和史, 荒川敦志, 尾崎康彦. 帝王切開術中に羊水塞栓症を発症した母体死亡の1例. 産婦人科の実際. 70(1): 107-112, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	杉浦 真弓	7	7	0
病院教授	鈴木 伸宏	5	5	0
准教授	佐藤 剛	0	0	0
講師	北折 珠央	2	2	0
講師	後藤 志信	3	3	0
助教	澤田 祐季	1	1	0
助教	吉原 紘行	1	1	0
助教	間瀬 聖子	0	0	0
助教	小川 紫野	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
特任教授	村上 勇	1	0	1

准教授	小島 和寿	1	0	1
-----	-------	---	---	---

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
教授	尾崎 康彦	2	1	1
教授	荒川 敦志	3	2	1
助教	川端 俊一	0	0	0
助教	野々部 恵	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

杉浦 真弓. 文部科学省特色のある共同研究拠点の整備の推進事業～機能強化支援.
令和3年度～令和5年度、17,500千円

杉浦 真弓. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和2年度～令和4年度、100千円

杉浦 真弓. 受託研究費（国立研究開発法人科学技術振興機構・代表）令和3年度、1,560千円

佐藤 剛. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度～令和5年度、1,430千円

佐藤 剛. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 平成30年度～令和3年度、50千円

鈴森 伸宏. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度～令和5年度、1,560千円

鈴森 伸宏. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和3年度、10千円

北折 珠央. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度～令和4年度、1,170千円

後藤 志信. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 平成31年／令和元年度～令和3年

度、1,040 千円

澤田 祐季. 文部科学省科学研究費（基盤 B・代表）. 令和 2 年度～令和 4 年度、1,820 千円

吉原 紘行. 文部科学省科学研究費（基盤 B・代表）. 令和 3 年度～令和 6 年度、1,560 千円

【その他】

Yoshihara H, Sugiura-Ogasawara M, Goto S, Kitaori T. 37th European Society of Human Reproduction and Embryology 2021. Association between antinuclear antibodies and pregnancy prognosis in recurrent pregnancy loss patients. 2021 年 6 月 26 日～7 月 1 日

尾崎 康彦, 井出 祥子, 加藤 誠, 黒田 敬史, 多田 和美, 曾田 雅之, 熊谷 恭子, 青山 和史, 菊地 範彦, 杉浦 真弓. 第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会. リカレント教育プログラム“学びなおし講座（周産期プロバイダーコース）のリモート開催の効果の検討ー学びを止めるな！ COVID-19 のピンチをチャンスに変える！ー. 2021 年 4 月 22 日～4 月 25 日

佐藤 剛, 岩城 豊, 吉原 紘行, 伴野 千尋, 澤田 祐季, 松本 洋介, 杉浦 真弓. 第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会. 均衡型染色体相互転座を有する不育症夫婦の配偶子形成時減数分裂における各染色体分離様式の頻度と影響を受ける因子. 2021 年 4 月 22 日～4 月 25 日

澤田 祐季, 佐藤 剛, 長屋 雅士, 吉原 紘行, 伴野 千尋, 松本 洋介, 澤田 富夫, 浮田 宗伯, 杉浦 真弓. 第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会. 人工知能を用いた胚画像の解析による非侵襲的な胚選択法の確立. 2021 年 4 月 22 日～4 月 25 日

吉原 紘行, 後藤 志信, 北折 珠央, 鈴木 伸宏, 杉浦 真弓. 第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会. Levothyroxine treatment of subclinical hypothyroidism in patients with recurrent pregnancy loss. 2021 年 4 月 22 日～4 月 25 日

Goto S, Ozawa F, Yoshihara H, Kitaori T, Ozaki Y, Sugiura M. 第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会. Role of prokineticin 1 in decidua of patients with recurrent pregnancy loss. 2021 年 4 月 22 日～4 月 25 日

吉原 紘行, 北折 珠央, 尾崎 康彦, 杉浦 真弓. 第 31 回日本産婦人科・新生児血液学会. 胎児染色体異常性による不育症の遺伝子関連解析. 2021 年 6 月 4 日～6 月 5 日

澤田 祐季, 佐藤 剛, 長屋 雅士, 齋藤 知恵子, 吉原 紘行, 伴野 千尋, 松本 洋介, 松田 有希野, 吉貝 香里, 澤田 富夫, 浮田 宗伯, 杉浦 真弓. 第 42 回中部生殖医学会学術集会. 人工知能を用いたタイムラプスイメージングの解析による非侵襲的な胚選択法の確立. 2021 年 6 月 19 日

吉原 紘行, 北折 珠央, 尾崎 康彦, 杉浦 真弓. 第 39 回受精着床学会学術講演会. 絨毛染色体異常性による不育症の関連遺伝子の探索. 2021 年 7 月 15 日～7 月 16 日

杉浦 真弓. 第 27 回愛知分娩監視研究会特別講演. 不育症のオーバービュー ～THE LANCET series Miscarriage matters～. 2021 年 7 月 31 日

後藤 志信, 小澤 史子, 吉原 紘行, 北折 珠央, 尾崎 康彦, 杉浦 真弓. 第 26 回日本病態プロテアーゼ学会学術集会. 非妊娠時インスリン分泌過多を示す原因不明不育症患者の脱落膜における PROK1 の役割. 2021 年 8 月 27 日

吉原 紘行, 杉浦 真弓, 小澤 史子, 後藤 志信, 北折 珠央, 鈴木 伸宏, 佐藤 剛, 尾崎 康彦, 青木 耕治, 柴田 泰宏, 鶴川 眞也, 西山 毅, 大前 陽輔, 徳永 勝士. 第 3 回日本不育症学会学術集会. 絨毛染色体異数性による不育症の遺伝子関連解析. 2021 年 9 月 11 日～9 月 17 日

後藤 志信, 小澤 史子, 大林 勇輝, 吉原 紘行, 北折 珠央, 杉浦真弓, 尾崎康彦. 第 3 回日本不育症学会学術集会. 不育症病態における妊娠初期脱落膜中の IL-33 と MMPs・TIMPs の役割. 2021 年 9 月 11 日～9 月 17 日

佐藤 剛, 小澤 史子, 齋藤 知恵子, 岩城 豊, 吉原 紘行, 伴野 千尋, 澤田 祐季, 松本 洋介, 杉浦 真弓. 日本人類遺伝学会第 66 回大会／第 28 回日本遺伝子診療学会大会合同開催. シンポジウム 9 着床前診断 2. 着床前胚染色体構造検査. 2021 年 10 月 13 日～10 月 16 日

杉浦 真弓. 第 40 回日本小児歯科学会中部地方会記念大会. 歯科医のための産婦人科知識. 2021 年 10 月 24 日

北折 珠央. 第 36 回日本生殖免疫学会総会・学術集会. 産科抗リン脂質抗体症候群. 2021 年 10 月 29 日～10 月 30 日

後藤 志信, 小澤 史子, 吉原 紘行, 北折 珠央, 尾崎 康彦, 杉浦 真弓. 第 36 回日本生殖免疫学会総会・学術集会. 非妊娠時インスリン抵抗性高値を示す原因不明不育症患者の脱落膜における PROK1 の役割. 2021 年 10 月 29 日～10 月 30 日

間瀬 聖子, 後藤 崇人, 小島 龍司, 小川 紫野, 西川 隆太郎, 杉浦 真弓. 第 21 回東海産婦人科内視鏡手術研究会. 当院における低侵襲子宮全摘術後腹腔内感染のリスク因子の検討. 2021 年 10 月 30 日

小川 紫野. 第 21 回東海産婦人科内視鏡手術研究会. 遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC) に対するリスク低減卵管卵巣切除 (RRSO) の検討. 2021 年 10 月 30 日

佐藤 剛, 岩城 豊, 吉原 紘行, 伴野 千尋, 澤田 祐季, 松本 洋介, 杉浦 真弓. 第 66 回日本生殖医学会学術講演会・総会. 均衡型染色体相互転座を有する不育症夫婦の配偶子形成時減数分裂における各染色体分離様式の頻度と影響を受ける因子. 2021 年 11 月 11 日～11 月 12 日

吉原 紘行, 北折 珠央, 鈴森 伸宏, 佐藤 剛, 杉浦 真弓. 第 66 回日本生殖医学会学術講演会・総会. Polo-like kinase 4 (PLK4)・Stromal antigen 3 (STAG3) と絨毛染色体異数性による不育症との関連性について. 2021 年 11 月 11 日～11 月 12 日

鈴森 伸宏. 第 7 回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会. 周産期講義 高年妊婦への対応. 2021 年 12 月 17 日～12 月 18 日

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

【市民公開講座等】

杉浦 真弓. 中日新聞健康経営フォーラム. 不育症～妊活中の社員の、心とキャリアを守るために～. 2021 年 10 月 21 日

<研究活動実績>

【欧文業績】

Itai T, Miyatake S, Taguri M, Nozaki F, Ohta M, Osaka H, Morimoto M, Tandou T, Nohara F, Takami Y, Yoshioka F, Shimokawa S, Okuno-Yuguchi J, Motobayashi M, Takei Y, Fukuyama T, Kumada S, Miyata Y, Ogawa C, Maki Y, Togashi N, Ishikura T, Kinoshita M, Mitani Y, Kanemura Y, Omi T, Ando N, Hattori A, Saitoh S, Kitai Y, Hirai S, Arai H, Ishida F, Taniguchi H, Kitabatake Y, Ozono K, Nabatame S, Smigiel R, Kato M, Tanda K, Saito Y, Ishiyama A, Noguchi Y, Miura M, Nakano T, Hirano K, Honda R, Kuki I, Takanashi JI, Takeuchi A, Fukasawa T, Seiwa C, Harada A, Yachi Y, Higashiyama H, Terashima H, Kumagai T, Hada S, Abe Y, Miyagi E, Uchiyama Y, Fujita A, Imagawa E, Azuma Y, Hamanaka K, Koshimizu E, Mitsuhashi S, Mizuguchi T, Takata A, Miyake N, Tsurusaki Y, Doi H, Nakashima M, Saitsu H, Matsumoto N. **Prenatal clinical manifestations in individuals with COL4A1/2 variants.** J Med Genet. **58(8)**: 505-513, 2021.

Okamoto N, Miya F, Tsunoda T, Kanemura Y, Saitoh S, Kato M, Yanagi K, Kaname T, Kosaki K. **Four pedigrees with aminoacyl-tRNA synthetase abnormalities.** Neurol Sci. **43(4)**: 2765-2774, 2021.

Natsume J, Numaguchi A, Ohno A, Mizuno M, Takahashi Y, Okumura A, Yoshikawa T, Saitoh S, Miura K, Noda M. **Death review of children receiving medical care at home.** Pediatr Res. **91(5)**: 1286-1289, 2021.

Unno M, Morisaki T, Kinoshita M, Saikusa M, Iwata S, Fukaya S, Yamashita Y, Nakayama M, Saitoh S, Iwata O. **Validation of actigraphy in hospitalised newborn infants using video polysomnography.** J Sleep Res. **31(1)**: e13437, 2021.

Kawaoka N, Ohashi K, Fukuhara S, Miyachi T, Asai T, Imaeda M, Saitoh S. **Impact of School Closures due to COVID-19 on Children with Neurodevelopmental Disorders in Japan.** J Autism Dev Disord. **52(5)**: 2149-2155, 2021.

Ohno A, Okumura A, Fukasawa T, Nakata T, Suzuki M, Tanaka M, Okai Y, Ito Y, Yamamoto H, Tsuji T, Kidokoro H, Saitoh S, Natsume J. **Acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion: Predictive EEG findings.** Brain Dev. **44(3)**: 221-228, 2021.

Okamoto N, Miya F, Kitai Y, Tsunoda T, Kato M, Saitoh S, Kanemura Y, Kosaki K. **Homozygous ADCY5 mutation causes early-onset movement disorder with severe intellectual disability.** Neurol Sci. **42(7)**: 2975-2978, 2021.

Ohashi K, Fukuhara S, Miyachi T, Asai T, Imaeda M, Goto M, Kurokawa Y, Anzai T, Tsurusaki Y, Miyake N, Matsumoto N, Yamagata T, Saitoh S. **Comprehensive Genetic Analysis of Non-syndromic Autism Spectrum Disorder in Clinical Settings.** J Autism Dev Disord. **51(12)**: 4655-4662, 2021.

Kuroda M, Suetsugu Y, Iwata S, Kinoshita M, Fujita F, Sato Y, Saitoh S, Iwata O, Morokuma S. **Influence of mothers' nighttime responses on the sleep-wake rhythm of 1-month-old infants.** Sci Rep. **11(1)**: 246363, 2021.

Mizutani Y, Kinoshita M, Lin YC, Fukaya S, Kato S, Hisano T, Hida H, Iwata S, Saitoh S, Iwata

O. **Temporal inversion of the acid-base equilibrium in newborns: an observational study.** PeerJ. **9**: e11240, 2021.

Hayakawa K, Kawase K, Fujimoto M, Nakamura Y, Saitoh S. **Utility of breakpoint-specific nested polymerase chain reaction for the diagnosis of Emanuel syndrome.** *Pediatr Int.* **63(12)**: 1534-1536, 2021.

Aiba K, Nakamura Y, Sugimoto M, Yatsuka Y, Okazaki Y, Murayama K, Ohtake A, Yokochi K, Saitoh S. **A case of ATR-X syndrome with mitochondrial respiratory chain dysfunction.** *Eur J Med Genet.* **64(8)**: 104251, 2021.

Nakane S, Tsuda K, Kinoshita M, Kato S. Iwata S, Lin YC, Mizuno M, Saitoh S. Iwata O. **Airway gas temperature within endotracheal tube can be monitored using rapid response thermometer.** *Sci Rep.* **11(1)**: 9537, 2021.

Egawa K, Saitoh S. Asahina N, Shiraishi H. **Short-latency somatosensory-evoked potentials demonstrate cortical dysfunction in patients with Angelman syndrome.** *eNeurologicalSci.* **22**: 100298, 2021.

Kinoshita A, Ohyama K, Tanimura S, Matsuda K, Kishino T, Negishi Y, Asahina N, Shiraishi H, Hosoki K, Tomiwa K, Ishihara N, Mishima H, Mori R, Nakashima M, Saitoh S. Yoshiura KI. **Itp1 regulates the formation of anterior eye segment tissues derived from neural crest cells.** *Development.* **148(16)**: dev188755, 2021.

Yokoi K. Iwata O. Kobayashi S, Kobayashi M, Saitoh S. Goto H. **Evidence of both foetal inflammation and hypoxia-ischaemia is associated with meconium aspiration syndrome.** *Sci Rep.* **11(1)**: 16799, 2021.

Isobe K, Ieda D, Miya F, Miyachi R, Otsuji S, Asai M, Tsunoda T, Kosaki K, Hattori A, Saitoh S. Mizuno M. **Hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome in a patient with a de novo heterozygous variant in KIF1A.** *Brain Dev.* **44(3)**: 249-253, 2021.

Suzumori N, Ebara T, Tamada H, Matsuki T, Sato H, Kato S, Saitoh S. Kamijima M, Sugiura-Ogasawara M; Japan Environment, Children's Study Group. **Relationship between delivery with anesthesia and postpartum depression: The Japan Environment and Children's Study (JECS).** *BMC Pregnancy Childbirth.* **21(1)**: 522, 2021.

Negishi Y, Aoki Y, Itomi K, Yasuda K, Taniguchi H, Ishida A, Arakawa T, Miyamoto S, Nakashima M, Saitsu H, Saitoh S. **SCN8A-related developmental and epileptic encephalopathy with ictal asystole requiring cardiac pacemaker implantation.** *Brain Dev.* **43(7)**: 804-808, 2021.

Hori I, Ieda D, Ito S, Ebe S, Nakamura Y, Ohashi K, Aoyama K, Hattori A, Kokubo M, Saitoh S. **Peripheral nerves are involved in hypomyelinating leukodystrophy-3 caused by a homozygous AIMP1 variant.** *Brain Dev.* **43(4)**: 590-595, 2021.

Yamada Y, Ebara T, Matsuki T, Kano H, Tamada H, Kato S, Sato H, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh S. Kamijima M, On Behalf Of The Japan Environment And Children's Study Jecs Group. **Relationship between Physical Activity and Physical and Mental Health Status in Pregnant Women: A Prospective Cohort Study of the Japan Environment and Children's Study.** *Int J Environ Res Public Health.* **18(21)**: 11373, 2021.

Oya N, Ito Y, Ebara T, Kato S, Ueyama J, Aoi A, Nomasa K, Sato H, Matsuki T, Sugiura-Ogasawara M, [Saitoh S](#), Kamijima M. **Cumulative exposure assessment of neonicotinoids and an investigation into their intake-related factors in young children in Japan.** *Sci Total Environ.* **750**: 141630, 2021.

[Iwata O](#), Iwata S, Lin YC, [Kato S](#), Mizutani Y, Hisano T, Kinoshita M, Fukaya S, Kawase K, [Saitoh S](#). **Promoting sound development of preterm infants in the name of developmental neuroscience: Beyond advanced life support and neuroprotection.** *Pediatr Neonatol.* **62 Suppl 1**: S10-S15, 2021.

Yamamoto H, Hayano S, Okuno Y, Onoda A, Kato K, Nagai N, Fukasawa Y, [Saitoh S](#), Takahashi Y, Kato T. **Phosphorylated proteome analysis of a novel germline ABL1 mutation causing an autosomal dominant.** *Int J Cardiol.* **326**: 81-87, 2021.

Egawa K, [Saitoh S](#), Asahina N, Shiraishi H. **Variance in the pathophysiological impact of the hemizygoty of gamma-aminobutyric acid type A receptor subunit genes between Prader-Willi syndrome and Angelman syndrome.** *Brain Dev.* **43(4)**: 521-527, 2021.

Suzuki T, [Togawa T](#), Kanno H, Ogura H, Yamamoto T, Sugiura T, Kouwaki M, [Saitoh S](#). **A Novel α -Spectrin Pathogenic Variant in Trans to α -Spectrin LELY Causing Neonatal Jaundice With Hemolytic Anemia From Hereditary Pyropoikilocytosis Coexisting With Gilbert Syndrome.** *J Pediatr Hematol Oncol.* **43(2)**: e250-e254, 2021.

Miyake N, Heydari S, Garshasbi M, [Saitoh S](#), Nasiri J, Hamanaka K, Takata A, Matsumoto N, Beheshti FH, Chaleshtori ARS. **The identification of two pathogenic variants in a family with mild and severe forms of developmental delay.** *J Hum Genet.* **66(4)**: 445-448, 2021.

Kato K, Miya F, Oka Y, Mizuno S, [Saitoh S](#). **A novel missense variant in CUL3 shows altered binding ability to BTB-adaptor proteins leading to diverse.** *J Hum Genet.* **66(5)**: 491-498, 2021.

[Iwata O](#), Iwata S, Kurata T, Tsuda K, Kawase K, Kinoshita M, Lin YC, Saikusa M, Araki Y, Takashima S, Oda M, Ohmae E, [Saitoh S](#). **Foetal growth, birth transition, enteral nutrition and brain light scattering.** *Sci Rep.* **11(1)**: 21318, 2021.

Tsuda K, Shibasaki J, Isayama T, Takeuchi A, Mukai T, Ioroi T, Takahashi A, Sano H, Yutaka N, Iwata S, Nabetani M, Sobajima H, Hosono S, Tamura M, [Iwata O](#); Baby Cooling Registry of Japan. **Body temperature, heart rate and long-term outcome of cooled infants: an observational study.** *Pediatr Res.* **91(4)**: 921-928, 2021.

Saikusa M, Kinoshita M, Tsuda K, Hisano T, Okada J, Iwata S, Fujino H, Maeno Y, Yamashita Y, [Iwata O](#). **Revisions of clinical protocols using the Plan Do Check Act cycle improved outcomes of extremely preterm infants at 2 years.** *Acta Paediatr.* **110(7)**: 2100-2109, 2021.

Kinoshita M, Yatsuga S, [Iwata O](#), Okamura H, Morisaki T, Iwata S, Hara N, Shindo R, Saikusa M, Harada E, Tsuda K, Yamashita Y, Koga Y. **Temporal changes and control variables of growth differentiation factor 15 levels during the first week of life in hospitalised newborn infants.** *Mitochondrion.* **61**: 25-30, 2021.

Chen YJ, Yu WH, Chen LW, Huang CC, Kang L, Lin HS, [Iwata O](#), [Kato S](#), Hussein MH, Lin

YC. Improved Survival of Periviable Infants after Alteration of the Threshold of Viability by the Neonatal Resuscitation Program 2015. Children (Basel). **8(1)**: 23, 2021.

Lin YC, Wang CY, Pan YW, Chen YJ, Yu WH, Chou YY, Huang CH, Chu WY, Lin CH, Iwata Q. **Postnatal Serum Total Thyroxine of Very Preterm Infants and Long-Term Neurodevelopmental Outcome.** Nutrients. **13(4)**: 1055, 2021.

Kimura A, Mizuochi T, Takei H, Ohtake A, Mori J, Shinoda K, Hashimoto T, Kasahara M, Togawa T, Murai T, Iida T, Nittono H. **Bile Acid Synthesis Disorders in Japan: Long-Term Outcome and Chenodeoxycholic Acid Treatment.** Dig Dis Sci. **66(11)**: 3885-3892, 2021.

Okamoto T, Sonoda M, Ogawa E, Ito S, Togawa T, Hayashi H, Okajima H, Uemoto S. **Long-term Outcomes of Living-donor Liver Transplantation for Progressive Familial Intrahepatic Cholestasis Type 1.** J Pediatr Gastroenterol Nutr. **72(3)**: 425-429, 2021.

Mizutani A, Sabu Y, Naoi S, Ito S, Nakano S, Minowa K, Mizuochi T, Ito K, Abukawa D, Kaji S, Sasaki M, Muroya K, Azuma Y, Watanabe S, Oya Y, Inomata Y, Fukuda A, Kasahara M, Inui A, Takikawa H, Kusahara H, Bessho K, Suzuki M, Togawa T, Hayashi H. **Assessment of Adenosine Triphosphatase Phospholipid Transporting 8B1 (ATP8B1) Function in Patients With Cholestasis With ATP8B1 Deficiency by Using Peripheral Blood Monocyte-Derived Macrophages.** Hepatol Commun. **5(1)**: 52-62, 2021.

Yamamoto A, Ito K, Naruse S, Hattori H, Nakakuki M, Fujiki K, Ishiguro H. **[Cystic fibrosis with focal biliary cirrhosis and portal hypertension in Japan: a case report].** Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi. **118(7)**: 686-697, 2021.

Takagi D, Morikawa Y, Kamei M, Ogino H, Iwata H, Maeda N, Akita N, Fukumoto T, Sasaki R, Kondo S. **The first pediatric case of sacral Ewing sarcoma treated with space-making particle therapy.** Pediatr Blood Cancer. **68(5)**: e28842, 2021.

Noda S, Aoyama K, Kondo Y, Okamura J, Suzuki A, Yamaguchi N, Yoshida A, Miyake Y. **An infant case of pseudohypoaldosteronism type1A caused by a novel NR3C2 variant.** Hum Genome Var. **8(1)**: 41, 2021.

Ishida A, Mizuno H, Aoyama K, Sasaki S, Negishi Y, Arakawa T, Mori T. **Partial nephrogenic diabetes insipidus with a novel arginine vasopressin receptor 2 gene variant.** Clin Pediatr Endocrinol. **31(1)**: 44-49, 2021.

Iwayama H, Tanaka T, Aoyama K, Moroto M, Adachi S, Fujisawa Y, Matsuura H, Takano K, Mizuno H, Okumura A. **Regional Difference in Myelination in Monocarboxylate Transporter 8 Deficiency: Case Reports and Literature Review of Cases in Japan.** Front Neurol. **12**: 657820, 2021.

【和文業績】

齋藤伸治. Prader-Willi 症候群. 小児内科. **53(増刊)**: 226-229, 2021

齋藤伸治. UBE3A (関連疾患: Angelman 症候群). 小児科診療. **84(11)**: 1505-1506, 2021

太田隆徳, 伊藤孝一, 杉浦時雄, 小山典久, 齋藤伸治, 村上周子, 田中靖人. **HBV ワクチンエスケープ変異株によりブレイクスルー感染した小児例.** 肝臓. **62(7)**: 403-412, 2021

齋藤伸治. 神経筋疾患. 遺伝子医学. **11(3)**: 132-135, 2021

齋藤伸治. 未診断の小児希少疾患の網羅的遺伝子診断. 現代医学. **68(1)**: 36-40, 2021

齋藤伸治. 先天性疾患 その他のエピゲノム異常症 CTCF 関連神経発達症. 遺伝子医学 MOOK. **(36)**: 164-167, 2021

川瀬恒哉, 岩田欧介. 新生児仮死. 周産期医学. **51(増刊)**: 573-575, 2021

鈴木智子, 岩田欧介, 加藤晋, 岩田幸子. Late preterm 児と正期産児との違い. with NEO. **34(4)**: 526-533, 2021

岩田欧介, 岩田幸子. 新生児医療 生存限界児の救命の次に必要なもの. 小児科臨床. **74(9)**: 1069-1077, 2021

岩田欧介, 津田兼之介, 川瀬恒哉, 岩田幸子. 低体温療法. 日本新生児成育医学会雑誌. **33(1)**: 31-35, 2021

戸川貴夫. 高直接ビリルビン血症. 周産期医学. **51(増刊)**: 761-766, 2021

足立夏帆, 高橋千恵, 田中裕之, 森口駿, 大橋瑛梨, 大和田啓峰, 梶保祐子, 神田祥一郎, 張田豊, 伊藤彰悟, 戸川貴夫, 高見尚平, 藤代準, 岡明. SLC25A13 遺伝子ヘテロ接合性変異を有する胆汁うっ滞性肝障害の乳児例. 小児科臨床. **74(10)**: 1245-1249, 2021

渡邊千裕, 戸川泰子, 杉本真里, 戸川貴夫, 杉浦崇浩, 村松幹司. 診断および治療に難渋した新生児硬膜動静脈瘻を持つ一絨毛膜二羊膜性双胎の一児例. 日本周産期・新生児医学会雑誌. **57(2)**: 353-359, 2021

楠木翔一郎, 坂本理恵子, 渡邊優, 伊藤彰悟, 戸川貴夫, 中村公俊. 肝病変の発見と精査を契機に診断に至った嚢胞性線維症. 日本小児科学会雑誌. **125(6)**: 911-917, 2021

武藤大和, 中野聡, 箕輪圭, 平井沙依子, 溝口枝里子, 戸川貴夫, 草野弘宣, 義岡孝子, 清水誠一, 阪本靖介, 福田晃也, 笠原群生, 湯浅光織, 重松陽介, 鈴木光幸, 清水俊明. くる病を契機に診断された慢性型高チロシン血症 1 型のパキスタン人幼児例. 日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌. **35(1)**: 18-25, 2021

伊藤彰悟, 戸川貴夫. 幼少期の肝疾患 新生児黄疸. 日本臨床. 別冊(肝・胆道系症候群 II): 49-52, 2021

中岡晃子, 野村孝泰. アレルギー・膠原病の処方 アレルギー性鼻炎・花粉症. 小児科臨床. **74(増刊)**: 1960-1965, 2021

山本明子, 伊藤孝一, 成瀬達, 服部日出雄, 中莖みゆき, 藤木理代, 石黒洋. Focal biliary cirrhosis と門脈圧亢進症をともなう嚢胞性線維症の 1 例. 日本消化器病学会雑誌. **118(7)**: 686-697, 2021

高木大輔, 亀井美智, 吉田悟, 武田理沙, 荻野浩幸, 岩田宏満, 近藤知史. 小児固形腫瘍の陽子線治療における延伸ポリテトラフルオロエチレン製シートを用いたスペーサー留置術. 日本小児血液・がん学会雑誌. **57(5)**: 379-384, 2021

林祐太郎, 西尾英紀, 水野健太郎, 青山幸平. 腎・泌尿器 陰茎が小さい. 小児科. **62(10)**: 1178-1186, 2021

中野優. こどもの腎機能. LiSA. **28(4)**: 362-365, 2021

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	齋藤伸治	36	30	6 (5)
准教授	岩田欧介	16	12	4 (2)
講師	戸川貴夫	10	4	6 (1)
講師	野村孝泰	2	1	1
助教	伊藤孝一	4	2	2
助教	鈴木一孝	0	0	0
助教	亀井美智	2	1	1
助教	加藤 晋	4	3	1
助教	青山幸平	5	4	1
助教	篠原 務	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	服部文子	5	5	0
講師	遠藤 剛	1	0	1
助教	中野 優	2	1	1 (1)
助教	家崎一葉	0	0	0
助教	武内温子	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	伊藤康彦	1	1	0
准教授	濱嶋直樹	1	1	0
講師	小林 悟	0	0	0
助教	中垣麻里	0	0	0
助教	吉田 悟	1	0	1
助教	水谷優子	3	3	0
助教	吉兼正宗	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

- ・齋藤 伸治. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和3年度、950千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度、500千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度、3,000千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度、1,400千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度、3,300千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度、1,200千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費（AMED）. 令和3年度、737千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費. 令和3年度、229千円
- ・齋藤 伸治. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和3年度、2,300千円
- ・齋藤 伸治. 文部科学省科学研究費（萌芽・代表）. 令和3年度、1,900千円
- ・齋藤 伸治. 厚生労働科学研究費（代表）. 令和3年度、1,900千円
- ・齋藤 伸治. 文部科学省科学研究費（基盤S・分担）. 令和3年度、300千円
- ・齋藤 伸治. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度、100千円
- ・齋藤 伸治. 研究助成金（中外製薬株式会社）. 令和3年度、252千円
- ・齋藤 伸治. 治験研究費（メドペイス・ジャパン株式会社）. 令和3年度、360千円
- ・齋藤 伸治. 治験研究費（大鵬薬品工業株式会社）. 令和3年度、415千円
- ・齋藤 伸治. 治験研究費（第一三共株式会社）. 令和3年度、33千円
- ・齋藤 伸治. 治験研究費（アレクシオンファーマ株式会社）. 令和3年度、103千円
- ・岩田 欧介. 受託研究費（国立大学法人九州大学）. 令和3年度、977千円
- ・岩田 欧介. 受託研究費（JST）. 令和3年度、8,800千円
- ・岩田 欧介. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度、300千円
- ・岩田 欧介. 文部科学省科学研究費（基盤A・代表）. 令和3年度、1,400千円
- ・岩田 欧介. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度、300千円
- ・岩田 欧介. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度、160千円
- ・戸川 貴夫. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度、1,300千円
- ・戸川 貴夫. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度、1,000千円
- ・戸川 貴夫. 文部科学省科学研究費（国際共同B・分担）. 令和3年度、500千円
- ・野村 孝泰. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度、1,700千円
- ・野村 孝泰. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度、100千円
- ・野村 孝泰. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度、100千円
- ・野村 孝泰. 研究助成金（公益財団法人ニッポンハム食の未来財団）. 令和3年度、1,680千円
- ・伊藤 孝一. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度、2,438千円
- ・伊藤 孝一. 治験研究費（一般社団法人日本血液製剤機構）. 令和3年度、22千円
- ・伊藤 孝一. 治験研究費（中外製薬株式会社）. 令和3年度、110千円
- ・鈴木 一孝. 治験研究費（アクテリオンファーマシューティカルズジャパン株式会社）. 令和3年度、665千円
- ・鈴木 一孝. 治験研究費（アクテリオンファーマシューティカルズジャパン株式会

社) . 令和 3 年度、130 千円

- ・鈴木 一孝. 治験研究費 (日本新薬株式会社) . 令和 3 年度、198 千円
- ・亀井 美智. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表) . 令和 3 年度、850 千円
- ・亀井 美智. 受託研究費 (AMED・分担) . 令和 3 年度、100 千円
- ・亀井 美智. 研究助成金 (一般社団法人 日本血液学会) . 令和 3 年度、1,000 千円
- ・亀井 美智. 研究助成金 (マルホ株式会社) . 令和 3 年度、252 千円
- ・亀井 美智. 研究助成金 (協和キリン株式会社) . 令和 3 年度、252 千円
- ・亀井 美智. 研究助成金 (帝人ファーマ株式会社) . 令和 3 年度、84 千円
- ・亀井 美智. 治験研究費 (武田薬品工業株式会社) . 令和 3 年度、44 千円
- ・加藤 晋. 研究助成金 (公益財団法人 日東学術振興財団) . 令和 3 年度、873 千円
- ・加藤 晋. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表) . 令和 3 年度、1,000 千円
- ・加藤 晋. 受託研究費 (AMED・分担) . 令和 3 年度、2,000 千円
- ・加藤 晋. 文部科学省科学研究費 (若手 B・代表) . 令和 3 年度、263 千円
- ・青山 幸平. 文部科学省科学研究費 (若手・代表) . 令和 3 年度、1,469 千円
- ・青山 幸平. 研究助成金 (公益財団法人 堀科学芸術振興財団) . 令和 3 年度、600 千円
- ・青山 幸平. 治験研究費 (ノボノルディスクファーマ株式会社) . 令和 3 年度、660 千円

【その他】

伊藤孝一, 鈴木美奈, 武田理沙, 野村孝泰, 亀井美智, 齋藤伸治. 第 124 回日本小児科学会学術集会. 肝炎発症から 12 ヶ月後に再生不良性貧血を発症した男児例. 2021. 4. 16, 京都

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1] Minamisawa M, Sato Y, Ishiguro E, Taniat T, Sakamoto T, Kawai G, Saito T, Saido TC. **Amelioration of Alzheimer's Disease by Gut-Pancreas-Liver-Brain Interaction in an App Knock-In Mouse Model.** *Life (Basel)*. **12(1)**, 2021.
- 2] Mizuno Y, Abolhassani N, Mazzei G, Sakumi K, Saito T, Saido TC, Ninomiya T, Iwaki T, Yamasaki R, Kira JI, Nakabeppu Y. **MUTYH Actively Contributes to Microglial Activation and Impaired Neurogenesis in the Pathogenesis of Alzheimer's Disease.** *Oxid Med Cell Longev*. **2021**: 8635088, 2021.
- 3] Liu X, Zhou Q, Zhang JH, Wang KY, Saito T, Saido TC, Wang X, Gao X, Azuma K. **Microglia-Based Sex-Biased Neuropathology in Early-Stage Alzheimer's Disease Model Mice and the Potential Pharmacologic Efficacy of Dioscin.** *Cells*. **10(11)**, 2021.
- 4] Hata S, Kano K, Kikuchi K, Kinoshita S, Sobu Y, Saito H, Saito T, Saido TC, Sano Y, Taru H, Aoki J, Komano H, Tomita T, Natori S, Suzuki T. **Suppression of amyloid- β secretion from neurons by cis-9, trans-11-octadecadienoic acid, an isomer of conjugated linoleic acid.** *J Neurochem*. **159(3)**: 603-617, 2021.
- 5] Inden M, Takagi A, Kitai H, Ito T, Kurita H, Honda R, Kamatari YO, Nozaki S, Wen X, Hijioka M, Kitamura Y, Hozumi I. **Kaempferol Has Potent Protective and Antifibrillogenic Effects for α -Synuclein Neurotoxicity In Vitro.** *Int J Mol Sci*. **22(21)**, 2021.
- 6] Pauls E, Bayod S, Mateo L, Alcalde V, Juan-Blanco T, Sánchez-Soto M, Saido TC, Saito T, Berrenguer-Llergo A, Attolini CS, Gay M, de Oliveira E, Duran-Frigola M, Aloy P. **Identification and drug-induced reversion of molecular signatures of Alzheimer's disease onset and progression in App(NL-G-F), App(NL-F), and 3xTg-AD mouse models.** *Genome Med*. **13(1)**: 168, 2021.
- 7] Tanaka H, Kondo K, Fujita K, Homma H, Tagawa K, Jin X, Jin M, Yoshioka Y, Takayama S, Masuda H, Tokuyama R, Nakazaki Y, Saito T, Saido T, Murayama S, Ikura T, Ito N, Yamamori Y, Tomii K, Bianchi ME, Okazawa H. **HMGBl signaling phosphorylates Ku70 and impairs DNA damage repair in Alzheimer's disease pathology.** *Commun Biol*. **4(1)**: 1175, 2021.
- 8] Wu X, Saito T, Saido TC, Barron AM, Ruedl C. **Microglia and CD206(+) border-associated mouse macrophages maintain their embryonic origin during Alzheimer's disease.** *Elife*. **10**, 2021.
- 9] Matsumoto K, Kinoshita K, Hijioka M, Kurauchi Y, Hisatsune A, Seki T, Masuda T, Ohtsuki S, Katsuki H. **Nicotine promotes angiogenesis in mouse brain after intracerebral hemorrhage.** *Neurosci Res*. **170**: 284-294, 2021.
- 10] Hoshi K, Ito H, Abe E, Fuwa TJ, Kanno M, Murakami Y, Abe M, Murakami T, Yoshihara A, Ugawa Y, Saito T, Saido TC, Matsumoto K, Yamaguchi Y, Furukawa K, Arai H, Kanai M, Miyajima M, Arai H, Ogawa N, Akatsu H, Hashizume Y, Tateno H, Honda T, Hashimoto Y. **Transferrin Biosynthesized in the Brain Is a Novel Biomarker for Alzheimer's Disease.** *Metabolites*. **11(9)**, 2021.
- 11] Sato K, Watamura N, Fujioka R, Mihira N, Sekiguchi M, Nagata K, Ohshima T, Saito T, Saido TC, Sasaguri H. **A third-generation mouse model of Alzheimer's disease shows early and increased cored plaque pathology composed of wild-type human amyloid β peptide.** *J Biol Chem*. **297(3)**: 101004, 2021.
- 12] Zhou X, Ji B, Seki C, Nagai Y, Minamimoto T, Fujinaga M, Zhang MR, Saito T, Saido TC,

Suhara T, Kimura Y, Higuchi M. **PET imaging of colony-stimulating factor 1 receptor: A head-to-head comparison of a novel radioligand, (11)C-GW2580, and (11)C-CPPC, in mouse models of acute and chronic neuroinflammation and a rhesus monkey.** J Cereb Blood Flow Metab. **41(9)**: 2410-2422, 2021.

13] Bettegazzi B, Sebastian Monasor L, Bellani S, Codazzi F, Restelli LM, Colombo AV, Deigendesch N, Frank S, Saito T, Saido TC, Lammich S, Tahirovic S, Grohovaz F, Zacchetti D. **Casein Kinase 2 dependent phosphorylation of eIF4B regulates BACE1 expression in Alzheimer's disease.** Cell Death Dis. **12(8)**: 769, 2021.

14] Mazzei G, Ikegami R, Abolhassani N, Haruyama N, Sakumi K, Saito T, Saido TC, Nakabeppu Y. **A high-fat diet exacerbates the Alzheimer's disease pathology in the hippocampus of the App(NL-F/NL-F) knock-in mouse model.** Aging Cell. **20(8)**: e13429, 2021.

15] Benitez DP, Jiang S, Wood J, Wang R, Hall CM, Peerboom C, Wong N, Stringer KM, Vitanova KS, Smith VC, Joshi D, Saito T, Saido TC, Hardy J, Hanrieder J, De Strooper B, Salih DA, Tripathi T, Edwards FA, Cummings DM. **Knock-in models related to Alzheimer's disease: synaptic transmission, plaques and the role of microglia.** Mol Neurodegener. **16(1)**: 47, 2021.

16] Sasai K, Tabu K, Saito T, Matsuba Y, Saido TC, Tanaka S. **Difference in the malignancy between RAS and GLI1-transformed astrocytes is associated with frequency of p27(KIP1)-positive cells in xenograft tissues.** Pathol Res Pract. **223**: 153465, 2021.

17] Takamura R, Mizuta K, Sekine Y, Islam T, Saito T, Sato M, Ohkura M, Nakai J, Ohshima T, Saido TC, Hayashi Y. **Modality-Specific Impairment of Hippocampal CA1 Neurons of Alzheimer's Disease Model Mice.** J Neurosci. **41(24)**: 5315-5329, 2021.

18] Doostdar N, Airey J, Radulescu CI, Melgosa-Ecenarro L, Zabouri N, Pavlidi P, Kopanitsa M, Saito T, Saido T, Barnes SJ. **Multi-scale network imaging in a mouse model of amyloidosis.** Cell Calcium. **95**: 102365, 2021.

19] Omagari K, Asamitsu K, Tanaka Y. **Application of fluorescent-based technology detecting protein-protein interactions to monitor the binding of hepatitis B virus X protein to DNA-damage-binding protein 1.** Biophys Physicobiol. **18**: 67-77, 2021.

20] Nakamura Y, Yamamoto T, Xu X, Kobayashi S, Tanaka S, Tamitani M, Saito T, Saido TC, Yano M. **Enhancing calmodulin binding to ryanodine receptor is crucial to limit neuronal cell loss in Alzheimer disease.** Sci Rep. **11(1)**: 7289, 2021.

21] Clayton K, Delpech JC, Herron S, Iwahara N, Ericsson M, Saito T, Saido TC, Ikezu S, Ikezu T. **Plaque associated microglia hyper-secrete extracellular vesicles and accelerate tau propagation in a humanized APP mouse model.** Mol Neurodegener. **16(1)**: 18, 2021.

22] Sutoko S, Masuda A, Kandori A, Sasaguri H, Saito T, Saido TC, Funane T. **Early Identification of Alzheimer's Disease in Mouse Models: Application of Deep Neural Network Algorithm to Cognitive Behavioral Parameters.** iScience. **24(3)**: 102198, 2021.

23] Tanaka T, Hirai S, Hosokawa M, Saito T, Sakuma H, Saido T, Hasegawa M, Okado H. **Early-life stress induces the development of Alzheimer's disease pathology via angiopathy.** Exp Neurol. **337**: 113552, 2021.

24] Kundu P, Torres ERS, Stagaman K, Kasschau K, Okhovat M, Holden S, Ward S, Nevenon KA, Davis BA, Saito T, Saido TC, Carbone L, Sharpton TJ, Raber J. **Integrated analysis of behavioral, epigenetic, and gut microbiome analyses in App(NL-G-F), App(NL-F), and wild type mice.** Sci Rep. **11(1)**: 4678, 2021.

25] Hark TJ, Rao NR, Castillon C, Basta T, Smukowski S, Bao H, Upadhyay A, Bomba-Warczak E, Nomura T, O'Toole ET, Morgan GP, Ali L, Saito T, Guillermier C, Saido TC, Steinhäuser ML, Stowell MHB, Chapman ER, Contractor A, Savas JN. **Pulse-Chase Proteomics of the App**

Knockin Mouse Models of Alzheimer's Disease Reveals that Synaptic Dysfunction Originates in Presynaptic Terminals. Cell Syst. **12(2)**: 141-158.e149, 2021.

26] Maeda J, Minamihisamatsu T, Shimojo M, Zhou X, Ono M, Matsuba Y, Ji B, Ishii H, Ogawa M, Akatsu H, Kaneda D, Hashizume Y, Robinson JL, Lee VM, Saito T, Saido TC, Trojanowski JQ, Zhang MR, Sahara T, Higuchi M, Sahara N. **Distinct microglial response against Alzheimer's amyloid and tau pathologies characterized by P2Y12 receptor.** Brain Commun. **3(1)**: fcab011, 2021.

27] Shahnur A, Nakano M, Ishihara S, Kakuda N, Miyasaka T, Uchiyama H, Shirai Y, Moniruzzaman M, Saito T, Saido TC, Nishimura M, Funamoto S. **A potential defense mechanism against amyloid deposition in cerebellum.** Biochem Biophys Res Commun. **535**: 25-32, 2021.

28] Vandenabeele M, Veys L, Lemmens S, Hadoux X, Gelders G, Masin L, Serneels L, Theunis J, Saito T, Saido TC, Jayapala M, De Boever P, De Strooper B, Stalmans I, van Wijngaarden P, Moons L, De Groef L. **The App(NL-G-F) mouse retina is a site for preclinical Alzheimer's disease diagnosis and research.** Acta Neuropathol Commun. **9(1)**: 6, 2021.

29] Sobue A, Komine O, Hara Y, Endo F, Mizoguchi H, Watanabe S, Murayama S, Saito T, Saido TC, Sahara N, Higuchi M, Ogi T, Yamanaka K. **Microglial gene signature reveals loss of homeostatic microglia associated with neurodegeneration of Alzheimer's disease.** Acta Neuropathol Commun. **9(1)**: 1, 2021.

30] Barrett T, Stangis KA, Saito T, Saido T, Park KHJ. **Neuronal Cell Cycle Re-Entry Enhances Neuropathological Features in AppNLF Knock-In Mice.** J Alzheimers Dis. **82(4)**: 1683-1702, 2021.

31] Sakakibara Y, Hirota Y, Ibaraki K, Takei K, Chikamatsu S, Tsubokawa Y, Saito T, Saido TC, Sekiya M, Iijima KM. **Widespread Reduced Density of Noradrenergic Locus Coeruleus Axons in the App Knock-In Mouse Model of Amyloid- β Amyloidosis.** J Alzheimers Dis. **82(4)**: 1513-1530, 2021.

32] Taslima F, Jung CG, Zhou C, Abdelhamid M, Abdullah M, Goto T, Saito T, Saido TC, Michikawa M. **Tooth Loss Induces Memory Impairment and Gliosis in App Knock-In Mouse Models of Alzheimer's Disease.** J Alzheimers Dis. **80(4)**: 1687-1704, 2021.

33] Nakano M, Mitsuishi Y, Liu L, Watanabe N, Hibino E, Hata S, Saito T, Saido TC, Murayama S, Kasuga K, Ikeuchi T, Suzuki T, Nishimura M. **Extracellular Release of ILE1/FAM3C and Amyloid- β Is Associated with the Activation of Distinct Synapse Subpopulations.** J Alzheimers Dis. **80(1)**: 159-174, 2021.

【和文業績】

1. 齊藤貴志. マウスモデルにおける A β 、タウ、そして ApoE. Dementia Japan. **35**: 18-25, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	齊藤貴志	31 (1)	30 (0)	1 (1)
講師	朝光かおり	1(0)	1(0)	0(0)
助教	脇岡雅宜	2(0)	2(0)	0(0)
特任助教	眞鍋達也	0(0)	0(0)	0(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の

論文も含む)

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】 (科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載)

齊藤 貴志. JST ムーンショット事業 (課題推進者). 令和3年度-令和7年度、66,154千円

齊藤 貴志. 文部科学省科学研究費 (基盤B・代表). 令和2年度-令和5年度、13,800千円

齊藤 貴志. 文部科学省科学研究費 (基盤B・分担). 令和2年度-令和4年度、1,100千円

齊藤 貴志. AMED 認知症開発研究事業 (分担). 令和2年度-令和4年度、5,500千円

齊藤 貴志. AMED-CREST 革新的先端研究開発支援事業 (適応修復・分担). 令和2年度-令和7年度、82,000千円

齊藤 貴志. 豊秋奨学会研究助成 (代表). 令和2年度-令和3年度、2,500千円

齊藤 貴志. 堀科学芸術振興財団研究助成 (分担). 令和2年度-令和4年度、1,500千円

脇岡 雅宣. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和2年度-令和3年度、3,300千円

【その他】

国内講演

1. 齊藤 貴志. 「アルツハイマー病の病態形成と脳内環境」老年・認知症ミーティング (Web配信 2021年12月16日)
2. 齊藤 貴志. 「アルツハイマー病モデルマウスの開発とその問題点、そして今後の展開」第55回日本実験動物技術者協会総会 教育講演 (Web配信 2021年10月15日)
3. 齊藤 貴志. 「認知症を知る、治す」名古屋市立・向陽高校「世界脳週間 2021 講演会」(向陽高校・ハイブリッド形式 2021年5月19日)
4. 齊藤 貴志. 「グリア応答/神経炎症とアルツハイマー病」第40回日本認知症学会学術集会シンポジウム (東京国際フォーラム 2021年11月28日)

国内学会発表 (ポスター)

1. Nozaki S, Hijioka M, Iwashita N, Namba J, Wen X, Kitamura Y. 第44回 日本神経科学大会. Galantamine inhibits the accumulation of α -synuclein by autophagy activation. 2021年7月.
2. 岩下夏未, 野崎空, 脇岡雅宣, 文小鵬, 北村佳久. 第71回日本薬学会関西支部大会. α -シヌクレイン凝集体のクリアランスにおけるガラントミンの作用解析. 2021年10月.

主要な国内学会活動の参加状況

齊藤 貴志

日本生化学会、評議員

日本認知症学会、倫理委員

日本認知症学会、基礎研究促進委員

日本認知症学会、代議員

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

教育活動

齊藤 貴志

熊本県立宇土中・高等学校 スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員

—グリア細胞生物学分野—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Kondo T, Otsuka Y, Aoki H, Goto Y, Kawaguchi Y, Waguri-Nagaya Y, Miyazawa K, Goto S, Aoyama M. **The Inducible Nitric Oxide Synthase Pathway Promotes Osteoclastogenesis under Hypoxic Culture Conditions.** Am J Pathol. **191(12)**: 2072-2079, 2021

Yagi K, Goto Y, Kato K, Suzuki N, Kondo A, Waseda Y, Mizutani J, Kawaguchi Y, Joyo Y, Waguri-Nagaya Y, Murakami H. **p38 Mitogen-Activated Protein Kinase Is Involved in Interleukin-6 Secretion from Human Ligamentum Flavum-Derived Cells Stimulated by Tumor Necrosis Factor- α .** Asian Spine J. **15(6)**: 713-720, 2021

Kojima M, Kojima T, Waguri-Nagaya Y, Takahashi N, Asai S, Sobue Y, Nishiume T, Suzuki M, Mitsui H, Kawaguchi Y, Kuroyanagi G, Yasuoka M, Watanabe M, Suzuki S, Arai H. **Depression, physical function, and disease activity associated with frailty in patients with rheumatoid arthritis.** Mod Rheumatol. **31(5)**: 979-986, 2021

Iwata H, Okamoto H, Kawaguchi Y, Endo K, Joyo Y, Aiba H, Murakami S, Murakami H. **Insidious Onset Compartment Syndrome of the Forearm in a Teenager: A Case Report and Review of the Literature.** J Hand Surg Asian Pac. **26(3)**: 481-484, 2021

Aiba H, Kimura H, Yamada S, Okamoto H, Hayashi K, Miwa S, Kawaguchi Y, Saito S, Sakai T, Tatematsu T, Nakanishi R, Murakami H. **Different patterns of pneumothorax in patients with soft tissue tumors treated with pazopanib: A case series analysis.** PLoS One. **16(7)**: e0254866, 2021

Mizuguchi K, Aoki H, Aoyama M, Kawaguchi Y, Waguri-Nagaya Y, Ohte N, Asai K. **Three-dimensional spheroid culture induces apical-basal polarity and the original characteristics of immortalized human renal proximal tubule epithelial cells.** Exp Cell Res. **404(1)**:112630, 2021

Oguri Y, Kawaguchi Y, Tatematsu N, Joyo Y, Mizuguchi K, Yonezu H, Okamoto H, Nozaki M, Kobayashi M, Kuroyanagi G, Aiba H, Asai K, Inoue K, Murakami H, Waguri-Nagaya Y. **N-acetyl-seryl-aspartyl-lysyl-proline: A new potential serum biomarker of rheumatoid arthritis.** Medical Mass Spectrometry. **Vol. 5 No. 1**, 2021.

【和文業績】

加藤 明裕, 福田 誠, 川口 洋平, 五島 隆宏, 松嶋 麻子. **バイク事故による橈骨遠位端骨折に合併した月状骨脱臼の1例.** 日本救急医学会雑誌. **32(2)**: 73-79. 2021.

岡本 秀貴, 川口 洋平, 上用 祐士, 村上 英樹. **【人工神経の現状と展望】本邦における人工神経開発の歴史と本邦で使用可能な人工神経.** 人工臓器. **50(1)**: 67-71, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	川口 洋平	9	7(1)	2

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

川口 洋平. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和4年度-令和6年度、3,640千円

川口 洋平. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和2年度-令和4年度、600千円

川口 洋平. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和元年度-令和4年度、300千円

川口 洋平. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和元年度-令和4年度、3,900千円

川口 洋平. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 平成30年度-令和3年度、800千円

川口 洋平. 受託研究費（メビックス株式会社、ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社、小野薬品工業株式会社・分担）. 令和3年度、56千円

【その他】

なし

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

スポーツ障害の予防検診への参加

<研究活動実績>

【欧文業績】

Miura Y, Ohkubo H, Niimi A, Kanazawa S. **Suppression of epithelial abnormalities by nintedanib in induced-rheumatoid arthritis-associated interstitial lung disease mouse model.** ERJ Open Res. **7(4)**: 00345-2021, 2021.

Miura Y, Lam M, Bourke JE, Kanazawa S. **Bimodal fibrosis in a novel mouse model of bleomycin-induced usual interstitial pneumonia.** Life Sci Alliance. **5(1)**: e202101059, 2021.

Koko M, Krause R, Sander T, Bobbili DR, Nothnagel M, May P, Lerche H; Epi25 Collaborative (including Suzuki T, Yamakawa K). **Distinct gene-set burden patterns underlie common generalized and focal epilepsies.** EBioMedicine. **72**: 103588, 2021

Hawkins NA, Jurado M, Thaxton TT, Duarte SE, Barse L, Tatsukawa T, Yamakawa K, Nishi T, Kondo S, Miyamoto M, Abrahams BS, Doring MJ, Kearney JA. **Soticlestat, a novel cholesterol 24-hydroxylase inhibitor, reduces seizures and premature death in Dravet syndrome mice.** Epilepsia. **62(11)**: 2845-2857, 2021.

Nakajima K, Ishiwata M, Weitemier AZ, Shoji H, Monai H, Miyamoto H, Yamakawa K, Miyakawa T, McHugh TJ, Kato T. **Brain-specific heterozygous loss-of-function of ATP2A2, endoplasmic reticulum Ca²⁺ pump responsible for Darier's disease, causes behavioral abnormalities and a hyper-dopaminergic state.** Hum Mol Genet. **30(18)**: 1762-1772, 2021.

Stevellink R, Luykx JJ, Lin BD, Leu C, Lal D, Smith AW, Schijven D, Carpay JA, Rademaker K, Rodrigues Baldez RA, Devinsky O, Braun KPJ, Jansen FE, Smit DJA, Koeleman BPC; International League Against Epilepsy Consortium on Complex Epilepsies; Epi25 Collaborative (including Suzuki T, Yamakawa K). **Shared genetic basis between genetic generalized epilepsy and background electroencephalographic oscillations.** Epilepsia. **62(7)**: 1518-1527, 2021.

Epi25 Collaborative (including Suzuki T, Yamakawa K). **Sub-genic intolerance, ClinVar, and the epilepsies: A whole-exome sequencing study of 29,165 individuals.** Am J Hum Genet. **108(6)**: 965-982, 2021.

Suzuki T, Koike Y, Ashikawa K, Otomo N, Takahashi A, Aoi T, Kamatani N, Nakamura Y, Kubo M, Kamatani Y, Momozawa Y, Terao C, Yamakawa K. **Genome-wide association study of epilepsy in a Japanese population identified an associated region at chromosome 12q24.** Epilepsia. **62(6)**: 1391-1400, 2021.

Yamagata T, Ogiwara I, Tatsukawa T, Otsuka Y, Mazaki E, Inoue I, Tokonami N, Hibi Y, Itohara S, Yamakawa K. **Scn1a-GFP transgenic mouse revealed Nav1.1 expression in neocortical pyramidal tract projection neurons.** BioRxiv. 2021.

Shimizu R, Ishihara K, Kawashita E, Sago H, Yamakawa K, Mizutani KI, Akiba S. **Decrease in the T-box1 gene expression in embryonic brain and adult hippocampus of down syndrome mouse models.** Biochem Biophys Res Commun. **535**: 87-92, 2021.

【和文業績】

該当なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	山川 和弘	8(2)	8(2)	0
講師	鈴木 俊光	4(1)	4(1)	0
助教	金澤 智	2(2)	2(2)	0
特任助教	山形 哲司	1(1)	1(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

山川和弘. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和2年度-令和4年度、4,600千円

金澤智. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度-令和4年度、3,000千円

鈴木俊光. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和元年度-令和3年度、1,100千円

山川和弘. 文部科学省科学研究費（基盤A・分担）. 平成29年度-令和3年度、780千円

【その他】

国内外学会における招待講演

Yamakawa Kazuhiro. Xiangya International Pediatric Neurology Forum. Molecular genetics of epilepsy and autism: Model studies for SCN1A, SCN2A, STXBP1. 2021年11月14日(中国)

山川和弘. 第69回脳の医学・生物学研究会 てんかん・自閉症の発症機序：SCN1A, SCN2A, STXBP1 2021年9月18日

山川和弘. 茨城てんかん懇話会 てんかんと発達障害の分子遺伝学 2021年7月17日

国内外学会における発表（ポスター/口頭）

金澤智. 第44回日本分子生物学会. Tyrosine kinase inhibitor, nintedanib は上皮間葉転換 Pad4+気管支上皮細胞を消失させリウマチ肺を改善する (Tyrosine kinase inhibitor, nintedanib ameliorates rheumatoid arthritis associated interstitial lung disease by reducing peptidyl deiminase 4+ alveolar epithelial cells with epithelial-mesenchymal transition) 2021年12月1日～3日

金澤智. 第44回日本分子生物学会. CTLA-4 Ig はリンパ節におけるB細胞を減少させ、抗体産生能を抑制する (CTLA-4 Ig suppresses antibody production by decreasing the percentage of B cells in lymph nodes.) 2021年12月1日～3日

Toshimitsu Suzuki, Kazuhiro Yamakawa. De Novo Missense and Truncating Variants in ZMYND8 Result in a Distinctive Neurodevelopmental Disorder. 2021年10月18日～22日

山川和弘, 鈴木俊光. 第 66 回日本人類遺伝学会. 一般公演 6「側頭葉てんかん原因遺伝子同定と発症機構の解明」2021 年 10 月 13 日～16 日

山川和弘. 第 54 回日本てんかん学会学術集会. セッション「てんかん症候群診断における遺伝子解析の意義:てんかんへの遺伝的背景の寄与は大きい - その理解の大切さ」2021 年 9 月 23 日～25 日

山形哲司, 山川和弘. 第 54 回日本てんかん学会学術集会. Nav1.1 分布解析と Nav1.1 発現量増加によるドラベ症候群遺伝子治療の試み. 2021 年 9 月 23 日～25 日

鈴木俊光, 山川和弘. 第 54 回日本てんかん学会学術集会. 若年ミオクロニーてんかん原因タンパクは神経細胞でなく運動性繊毛細胞で発現する. 2021 年 9 月 23 日～25 日

Yamakawa Kazuhiro. 第 44 回日本神経科学大会. Tracing and immunohistochemical study of the cortico-nigral projection in the mouse brain. 2021 年 7 月 28 日～31 日

Suzuki Toshimitsu, Yamakawa Kazuhiro. 第 44 回日本神経科学大会. Mice with Scn2a deficiency specifically in striatal medium spiny neurons displayed decreased anxiety and mild impairments of social behavior. 2021 年 7 月 28 日～31 日

金澤智. 第 42 回日本炎症・再生医学会. アバタセプトはリンパ節における B 細胞を減少させ、抗体産生能を抑制する. 2021 年 7 月 7 日～8 日

金澤智. 第 65 回日本リウマチ学会. 抗線維化薬ニンテダニブは、関節リウマチ関連間質性肺炎疾患モデル(iRA-ILD)における肺線維症を改善した. 2021 年 4 月

金澤智. 第 61 回日本呼吸器学会. iUIP マウスモデル由来 PCLS ex vivo 培養を用いた線維化状態の比較検討. 2021 年 4 月 26 日～28 日

プレスリリース

鈴木俊光, 山川和弘. 日本人てんかん発症に関わる新規遺伝子領域を発見 (てんかん発症機構の解明・治療につながる知見として期待). 2021 年 4 月 29 日.

主要な国内学会活動の参加状況

山川和弘. てんかん学会. 理事

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

他大学での学部講義/大学院講義

金澤智. 生命倫理入門. 名城大学 人間学部講義

—神経毒性学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Ando S, Fukamachi K, Yoshimoto E, Matsumoto H, Iinuma M, Suzui M. **Palmitoyl piperidinopiperidine, a novel derivative of 10-hydroxy-2-decenoic acid, as a potent and selective anticancer agent against human colon carcinoma cell lines.** Int J Oncol. **58(2): 251-265, 2021.**

【和文業績】

該当なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	酒々井真澄	1 (1)	1 (1)	
講師	深町勝巳	1	1	

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ掲載）

該当なし

【その他】

（国際学会発表）

Matsumoto Harutoshi, Sultana Nahida, Fukamachi Katsumi, Suzui Masumi. The 1st Meeting of the Asian Union of Toxicologic Pathology. The dried leaf extract of Musa basjoo induces growth inhibition and changes in protein expression level of cell cycle control molecules in human colon carcinoma cell lines. January/2022

Sultana Nahida, Matsumoto Harutoshi, Fukamachi Katsumi, Suzui Masumi. The 1st Meeting of the Asian Union of Toxicologic Pathology. Palmitoyl piperidineopiperidine induces selective anticancer activity against human colon carcinoma cell lines. January/2022

Fukamachi Katsumi, Sultana Nahida, Matsumoto Harutoshi, Tsuda Hiroyuki, Suzui Masumi. The 1st Meeting of the Asian Union of Toxicologic Pathology. LRG-1 is a promising blood marker for pancreas cancer. January/2022

(国内学会発表)

松本晴年, Sultana Nahida, 深町勝巳, 酒々井眞澄. 第38回日本毒性病理学会総会及び学術集会. 植物芭蕉 (Musa basjoo) 抽出物のヒト大腸がん細胞株に対する増殖抑制効果および細胞周期制御分子発現への作用. 2022年1月

Sultana Nahida, 松本晴年, 深町勝巳, 酒々井眞澄. 第38回日本毒性病理学会総会及び学術集会. Palmitoyl piperidineopiperidine induces selective anticancer activity against human colon carcinoma cell lines. 2022年1月

深町勝巳, Sultana Nahida, 松本晴年, 津田洋幸, 酒々井眞澄. 第38回日本毒性病理学会総会及び学術集会. 膵癌モデルラットを用いた膵癌の血清診断マーカー LRG-1 の同定. 2022年1月

(特別研究奨励費)

深町勝巳. 令和3年度、250千円

(国内学会活動)

酒々井眞澄. J Toxcol Sci. Editorial Board
酒々井眞澄. 日本がん予防学会 評議員
酒々井眞澄. 日本毒性病理学会 評議員
酒々井眞澄. 日本毒性学会 評議員
酒々井眞澄. 岐阜県スポーツドクター協議会 理事

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

酒々井眞澄. 進化型実務家教員養成プログラム TEEP 実施委員
酒々井眞澄. 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班代表

—神経発達・再生医学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Yaguchi A, Oshikawa M, Watanabe G, Hara C, Kaneko N, Sawamoto K, Hiramatsu H, Uchida N, Muraoka T and Ajioka I. **Efficient Protein Incorporation and Release by a Jigsaw-Shaped Self-Assembling Peptide Hydrogel for Injured Brain Regeneration.** Nat Commun. **12**: 6623, 2021.

Ota Y, Kubota Y, Hotta Y, Matsumoto M, Matsuyama N, Kato T, Hamakawa T, Kataoka T, Kimura , Sawamoto K and Yasui T. **Change in the Central Control of the Bladder Function of Rats with Focal Cerebral Infarction Induced by Photochemically-Induced Thrombosis.** PLOS ONE. **16(11)**: e0255200, 2021.

Okada M, Kawagoe Y, Sato Y, Nozumi M, Ishikawa Y, Tamada A, Yamazaki H, Sekino Y, Kanemura Y, Shinmyo Y, Kawasaki H, Kaneko N, Sawamoto K, Fujii Y and Igarashi K. **Phosphorylation of GAP-43 T172 is a molecular marker of growing axons in a wide range of mammals including primates.** Mol Brain. **14**: 66, 2021.

Ito N, Riyadh MA, Ahmad SAI, Hattori S, Kanemura Y, Kiyonari H, Abe T, Furuta Y, Shinmyo Y, Kaneko N, Hirota Y, Lupo G, Hatakeyama J, Abdulhaleem MFA, Anam MB, Yamaguchi M, Takeo T, Takebayashi H, Takebayashi M, Oike Y, Nakagata N, Shimamura K, Holtzman MJ, Takahashi Y, Guillemot F, Miyakawa T, Sawamoto K, and Ohta K. **Dysfunction of the proteoglycan Tsukushi causes hydrocephalus through altered neurogenesis in the subventricular zone.** Sci Transl Med. **13**: eaay7896, 2021.

Koyanagi I, Sonomura K, Naoi T, Ohnishi T, Kaneko N, Sawamoto K, Sato TA, Sakaguchi M. **Metabolic fingerprints of fear memory consolidation during sleep.** Mol Brain. **14**: 30, 2021.

Nakajima C, Sawada M, Sawamoto K. **Postnatal neuronal migration in health and disease.** Curr Opin Neurobiol. **66**: 1-9, 2021

Akter M, Kaneko N, Sawamoto K. **Neurogenesis and neuronal migration in the postnatal ventricular-subventricular zone: similarities and dissimilarities between rodents and primates.** Neurosci Res. **167**: 64-69, 2021

【和文業績】

中嶋智佳子, 澤本和延. シングルセル解析技術を用いたニューロン移動・再生機構の解明. Precision Medicine. **4**: 60-63, 2021.

宮本拓哉, 金子奈穂子, 澤本和延. 成体脳における新生ニューロンの移動メカニズムと治療応用. BIO Clinica. **36**: 192-196, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	澤本和延	9(2)	7(2)	2(2)
准教授	金子奈穂子	6(0)	5(0)	1(0)
講師	澤田雅人	1(0)	1(0)	0(0)

特任助教	中嶋智佳子	2(1)	1(1)	1(1)
特任助教	久保山和哉	0	0	0
特任助教	竹村晶子	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】

澤本和延. 科学研究費補助金（基盤 B・分担）. 令和 3 年度-令和 5 年度、910 千円

澤本和延. 共同研究費（生理研）. 令和 3 年度、690 千円

澤本和延. 科学研究費補助金（基盤 S・代表）. 令和 2 年度-令和 6 年度、17,524 千円

澤本和延. 科学研究費補助金（基盤 C・分担）. 令和 2 年度-令和 4 年度、1,300 千円

澤本和延. 科学研究費補助金（基盤 C・分担）. 令和 2 年度-令和 4 年度、100 千円

澤本和延. 受託研究費（AMED・代表）. 平成 31 年度-令和 6 年度、59,601 千円

澤本和延. 受託研究費（AMED・代表）. 平成 31 年度-令和 3 年度、32,500 千円

澤本和延. 受託研究費（二国間・代表）. 平成 31 年度-令和 3 年度、950 千円

澤本和延. 研究助成金（キャノン財団）. 平成 31 年度-令和 3 年度、20,000 千円

金子奈穂子. 科学研究費補助金（学術変革領域 B・代表）. 令和 3 年度-令和 5 年度、24,700 千円

金子奈穂子. 科学研究費補助金（学術変革領域 B・分担）. 令和 3 年度、300 千円

金子奈穂子. 科学研究費補助金（基盤 B・代表）. 令和 2 年度-令和 5 年度、5,070 千円

金子奈穂子. 受託研究費（SICORP・代表）. 平成 31 年度-令和 3 年度、5,694 千円

金子奈穂子. 研究助成金武田科学振興財団）. 平成 30 年度-、2,000 千円

澤田雅人. 科学研究費補助金（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-令和 5 年度、1,170 千円

澤田雅人. 研究助成金（堀科学芸術振興財団）. 令和 3 年度-令和 4 年度、1,000 千円

澤田雅人. 研究助成金（日東学術振興財団）. 令和 3 年度-令和 5 年度、1,000 千円

澤田雅人. 研究助成金（武田科学振興財団）. 平成 30 年度-、3,000 千円

竹村晶子. 科学研究費補助金（基盤 C・代表）. 平成 31 年度-令和 3 年度、390 千円

【その他】

<学会発表>

樽松千紘, 澤田雅人, 大村谷昌樹, 田中基樹, 久保山和哉, 荻野崇, 松本真実, 大石久史, 稲田浩之, 石戸友梨, 榊原悠紀菜, Huy Bang Nguyen, Truc Quynh Thai, 高坂新一, 大野伸

彦, 山田麻紀, 浅井真人, 曾我部正博, 鍋倉淳一, 浅野謙一, 田中正人, 澤本和延. ミクログリアによるフォスファチジルセリン依存的な成体新生ニューロンのシナプス貪食. 成体脳ニューロン新生懇談会. 2022.3.20-21. 口頭

大野雄也, 味岡逸樹, 村岡貴博, 藤岡哲平, 松川則之, 金子奈穂子, 澤本和延. 自己集合性バイオマテリアルを用いた脳傷害再生過程における新生ニューロンの移動促進. 第21回日本再生医療学会総会. 2022.3.17-19. 口頭

Kazunobu Sawamoto. Postnatal neuronal migration in health and disease. The International Symposium on Development and Plasticity of Neural Systems . 2022.3.14-17. 口頭

Kazunobu Sawamoto. Postnatal neuronal migration in health and disease. Joint symposium of McGill University – National Institute of Physiological Sciences “Recent Advances in Neuroscience”. 2022.1.12-13. 口頭

松本真実, 澤田雅人, Diego Garcia-Gonzalez, Vicente Herranz-Perez, 荻野崇, Huy Bang Nguyen, Truc Quynh Thai, 成田啓之, 熊本奈都子, 鶴川真也, 斎藤祐見子, 竹田扇, 金子奈穂子, Konstantin Khodosevich, Hannah Monyer, Jose Manuel Garcia-Verdugo, 大野伸彦, 澤本和延. 生後脳内を移動する新生ニューロンにおける一次繊毛の微細形態の動的変化. 第72回名古屋市立大学医学会総会. 2021.12.5. 口頭

川瀬恒哉, 澤本和延. 早産が生後の神経新生に与える影響. 新学術領域「脳構築における発生時計と場の連携」第6回班会議. 2021.12.10. 口頭

金子奈穂子, 澤本和延. Adult-born neurons migrate and differentiate in response to the microenvironment in the post-stroke brain. 動く細胞による形づくりから見る発生現象. 第44回分子生物学会年会. 2021.12.3. 口頭

中島 徳彦, 金子 奈穂子, 石崎 友崇, 田村 淳, 樋口 慧, 月田 早智子, 澤本 和延. ERM 蛋白質 Ezrin による脳室下帯の細胞構築制御 Ezrin is involved in the formation of pinwheel organization in the postnatal ventricular-subventricular zone. 第44回分子生物学会年会 2021.12.2. ポスター

Mami Matsumoto, Masato Sawada, Diego Garcia-Gonzalez, Vicente Herranz-Perez, Takashi Ogino, Huy Bang Nguyen, Truc Quynh Thai, Keishi Narita, Natsuko Kumamoto, Shinya Ugawa, Yumiko Saito, Sen Takeda, Naoko Kaneko, Konstantin Khodosevich, Hannah Monyer, Jose Manuel Garcia-Verdugo, Nobuhiko Ohno, Kazunobu Sawamoto. Dynamic Changes in Ultrastructure of the Primary Cilium in Migrating Neuroblasts in the Adult Brain. ISSCR TOKYO JAPAN. 2021.10.27. ポスター

Naoko Kaneko, Mariyam Akter, Vicente Herranz-Perez, Hisashi Oishi, Jose Manuel Garcia-Verdugo, Kazunobu Sawamoto. Neurogenic potential in common marmoset ventricular-subventricular zone during postnatal brain development. ISSCR TOKYO JAPAN シンポジウム. 2021.10.28. ポスター

澤田雅人, 澤本和延. 成体脳のニューロン新生における死細胞の貪食過程と意義. 第64回日本神経化学学会大会. 2021.9.30. 口頭

長瀬次郎, 中嶋智佳子, 中村小百合, 澤田雅人, 澤本和延. 細胞外マトリックスを含有する人工足場を用いた傷害脳組織における新生ニューロンの移動促進. 第64回日本神経化学学会大会. 2021.9.30. ポスター

樽松千紘, 澤田雅人, 大村谷昌樹, 田中基樹, 久保山和哉, 荻野崇, 松本真実, 大石久史, 稲田浩之, 高坂新一, 大野伸彦, 山田麻紀, 浅井真人, 曾我部正博, 鍋倉淳一, 浅野謙一, 田中正人, 澤本和延. ミクログリアはフォスファチジルセリン依存的に成体新生ニューロンのシナプスを貪食する. 第64回日本神経化学学会大会. 2021.9.30. 口頭

松本真実, 澤田雅人, 松下勝義, Huy Bang Nguyen, Truc Quynh Thai, 大野伸彦, 澤本和延.

正常脳と傷害脳内において鎖状移動する新生ニューロンの細胞間接着制御. 第 64 回日本神経化学会大会. 2021.9.30. 口頭

岡田正康, 澤本和延. Phosphorylation of GAP-43 T172 is a molecular marker representing the growing axons in a wide range of mammals including primates. 第 64 回日本神経化学会大会. 2021.9.30. ポスター

金子奈穂子, 澤本和延. 動的な鎖状細胞塊を形成して脳傷害部へ移動する新生神経細胞. 2021 年度日本数理生物学会年会 シンポジウム「生物学・数理科学・ロボット工学の融合により解き明かす細胞群知能の原理」. 2021.9.15. 口頭

中嶋智佳子. 脳細胞の移動・再生促進技術の開発. 令和 3 年度 AMED 再生・細胞医療・遺伝子治療研究開発交流会. 2021.9.8. ポスター

松本真実, 大野伸彦, 澤本和延. 組織の 3D 走査電子顕微鏡における試料作製から解析まで. 第 161 回電子顕微鏡技術研究会. 2021.9.4. 口頭

金子奈穂子, 澤本和延. 脳梗塞切片を移動する生きた神経細胞の挙動を記録するライブイメージング法. 第 11 回日本脳血管・認知症学会総会. 若手シンポジウム 1 モデル動物から迫る脳血管性認知症の病態. 2021.8.28. 口頭

久保山和哉. 傷害脳における新生ニューロンの移動に関わる細胞間相互作用分子の網羅的解析. 令和 3 年度 AMED 適応・修復領域 若手主体の会議. 2021.8.28. 口頭

澤本和延. 細胞移動促進による機能的神経再生. 第 42 回日本炎症・再生医学会 "シンポジウム 6 体内細胞動員と組織再生医療". 2021.7.7. 口頭

松本真実, 澤田雅人, Diego Garcia-Gonzalez, Vicente Herranz-Perez, 荻野崇, Huy Bang Nguyen, Truc Quynh Thai, 成田啓之, 熊本奈都子, 鶴川真也, 斎藤祐見子, 竹田扇, 金子奈穂子, Konstantin Khodosevich, Hannah Monyer, Jose Manuel Garcia-Verdugo, 大野伸彦, 澤本和延. 成体脳内を移動する新生ニューロンにおける一次繊毛の時空間的制御. 第 165 回名古屋市立大学医学会例会. 2021.6.21. 口頭

澤本和延. 生後のニューロン新生を操作することによる神経疾患治療法の開発. 第 62 回日本神経学会学術大会「遺伝子/核酸治療・再生医療」シンポジウム「Novel therapeutic approach for neurological disorders using stem cell biology and genetic modification.. 2021.5.19. 口頭

<書籍>

澤本和延. 脳細胞は再生する?～さまざまな脳の病気の治療を目指して～. 名市大ブックス⑧あなたが手術を受ける前に読む本. 110-119, 2021.

<学内研究費(特別研究奨励費)獲得>

澤本和延. 特別研究奨励費(分担). 令和 3 年度-令和 4 年度、1,300 千円

金子奈穂子. 特別研究奨励費(代表). 令和 3 年度-令和 4 年度、1,360 千円

澤田雅人. 特別研究奨励費(代表). 令和 3 年度-令和 4 年度、1,360 千円

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

澤本和延

【教育(学外)】

[非常勤講師]

2021.11.10 東京慈恵会 大学院カリキュラム「脳・神経科学研究法概論 - Principles in

modern neuroscience -」の講義

2021年度 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 神経発達・再生機構研究部門 客員教授

2021年度 慶應義塾大学医学部（生理学）非常勤講師 神経発達・再生機構に関する研究の指導

2021年度 三重大学大学院医学研究科 非常勤講師（講義及び本試験の作問）

〔講義〕

2021.11.10 東京慈恵会医科大学 「脳に内在する再生メカニズム」

2021.10.6 三重大学 非常勤講師 生理学2「反射と姿勢・随意運動の制御、聴覚・平衡覚」

【社会啓発・貢献活動】

2021.12.22 NHK 文化センター名古屋教室「ひとの大学」シリーズにて講義(ハイブリット)

2021.8.3 2021年度（令和3年度）大学丸ごと研究室体験～市立大学・市立高校 高大連携講座

澤田雅人

【社会啓発・貢献活動】

2021.8.3 2021年度（令和3年度）大学丸ごと研究室体験～市立大学・市立高校 高大連携講座

竹村晶子

【社会啓発・貢献活動】

2021.12.10 最新医学講座オープンカレッジ 2021年第3期「脳を知り、脳疾患を治す」にて発表

『こどもの脳の発達—神経細胞の移動について最近分かったこと—』(web 配信)

—認知機能病態学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

なし

【和文業績】

野村 洋, 天野 大樹. オンラインによる薬理学実習の実践と課題. 日本薬理学雑誌. 156: 335-337, 2021.

野村 洋. 最近の話題 行動実験のオートメーション化. 日本薬理学雑誌. 156: 312-312, 2021.

野村 洋. 失われた記憶の想起を回復させるヒスタミンシグナル. 日本薬理学雑誌. 156: 292-296, 2021.

野村 洋. 最近の話題 機械学習を用いた動物の行動解析. 日本薬理学雑誌. 156: 250-250, 2021

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
寄附講座 教授	野村洋	4(4)	0	4(4)
寄附講座 助教	森下良一	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

野村 洋. 日本学術振興会 科学研究費助成事業（新学術領域研究（研究領域提案型）・代表）. 令和3年度-令和4年度、2,000千円

野村 洋. 科学技術振興機構 創発的研究支援事業. 令和3年度-令和9年度、10,491千円

【その他】

国内学会における招待講演

野村 洋. 第70回 脳の医学・生物学研究会. 脳活動の制御による記憶の操作：失われた記憶を回復できるか. 2022年1月29日

野村 洋. 次世代脳プロジェクト 冬のシンポジウム2021. 記憶・学習を調節する脳情報動態の解明. 2021年12月16日

< 研究活動実績 >

【欧文業績】

< 桜山 >

- Tasaki Y, Suzuki M, Katsushima K, Shinjo K, Iijima K, Murofushi Y, Naiki-Ito A, Hayashi K, Qiu C, Takahashi A, Tanaka Y, Kawaguchi T, Sugawara M, Kataoka T, Naito M, Miyata K, Kataoka K, Noda T, Gao W, Kataoka H, Takahashi S, Kimura K, Kondo Y. **Cancer-Specific Targeting of Taurine-Upregulated Gene 1 Enhances the Effects of Chemotherapy in Pancreatic Cancer.** *Cancer Res.* **81(7)**:1654-1666, 2021.
- Narumi A, Rachi R, Yamazaki H, Kawaguchi S, Kikuchi M, Konno H, Osaki T, Okamoto Y, Shen X, Kakuchi T, Kataoka H, Nomoto A, Yoshimura T, Yano S. **Maltotriose-Chlorin e6 Conjugate Linked via Tetraethyleneglycol as an Advanced Photosensitizer for Photodynamic Therapy. Synthesis and Antitumor Activities against Canine and Mouse Mammary Carcinoma Cells.** *ACS Omega.* **6(10)**:7023-7033, 2021.
- Soyama T, Sakuragi A, Oishi D, Kimura Y, Aoki H, Nomoto A, Yano S, Nishie H, Kataoka H, Aoyama M. **Photodynamic therapy exploiting the anti-tumor activity of mannose-conjugated chlorin e6 reduced M2-like tumor-associated macrophages.** *Transl Oncol.* **14(2)**:101005, 2021.
- Tanida S, Ozeki K, Kanno T, Katano T, Sugimura N, Nishie H, Iwasaki H, Tanaka M, Shimura T, Kubota E, Kataoka H. **Combination therapy with ustekinumab plus intensive Granulocyte and Monocyte Adsorptive Apheresis in patients with refractory ulcerative colitis.** *J Clin Med Res.* **13(10-11)**:510-514, 2021.
- Camargo MC, Song M, Xu X, Zhao I, Sampson JN, Etemadi A, Brenner H, Lee HW, Trabert B, Holleczer B, Schöttker B, Spaid K, Dawsey SM, Lee S, Shimura T, Park SK, Malekzadeh R, Kang D, Rabkin CS. **Urinary estrogen metabolites and gastric cancer risk among postmenopausal women.** *Cancer Rep (Hoboken).* Nov 11:e1574. 2021
- Katano T, Shimura T, Iwasaki H, Kataoka H. **Whitish elevated lesion of esophagus.** *Lancet Gastroenterol Hepatol.* Jul;**6(7)**:596. 2021
- Katano T, Shimura T, Nomura S, Iwai T, Mizuno Y, Yamada T, Ebi M, Hirata Y, Nishie H, Mizushima T, Nojiri Y, Togawa S, Koguchi H, Shibata S, Hayashi N, Itoh K, Kataoka H. **Optimal definition of coagulation syndrome after colorectal endoscopic submucosal dissection: a post hoc analysis of randomized controlled trial.** *Int J Colorectal Dis.* Jul; **36(7)**:1479-1485. 2021
- Iwasaki H, Shimura T, Kataoka H. **Milky Ascites With Severe Peritonitis.** *Gastroenterology.* **161(3)**:e4-e5,2021.
- Iwasaki H, Shimura T, Yamada T, Nishigaki R, Okuda Y, Fukusada S, Ozeki T, Kitagawa M, Katano T, Tanaka M, Nishie H, Ozeki K, Kubota E, Tanida S, Kataoka H. **Novel and Simple Criteria for Predicting Mortality of Peptic Ulcer Disease.** *Intern Med.* **60(15)**:2349-2356,2021
- Okuda Y, Shimura T, Iwasaki H, Fukusada S, Nishigaki R, Kitagawa M, Katano T, Okamoto Y, Yamada T, Horike S, Kataoka H. **Urinary microRNA biomarkers for detecting the presence of esophageal cancer.** *Sci Rep.* **11(1)**:8508, 2021 Apr 20.
- Fukusada S, Shimura T, Iwasaki H, Okuda Y, Katano T, Ozeki T, Kitagawa M, Nishie H, Tanaka M, Ozeki K, Kubota E, Tanida S, Kataoka H. **Relationship between gene mutations and clinicopathological features in nonampullary duodenal epithelial tumors.** *Digestive Liver and Disease.* 2021 Dec 24. pii: S1590-8658(21)00892-6. doi: 10.1016/j.dld.2021.12.004.

- Fukusada S, Shimura T, Iwasaki H, Okuda Y, Katano T, Nishigaki R, Ozeki T, Kitagawa M, Nishie H, Tanaka M, Ozeki K, Kubota E, Tanida S, Kataoka H. **Relationship between Immunophenotype and Clinicopathological Findings for Superficial Nonampullary Duodenal Epithelial Tumor.** *Digestion*, 102, 870-877, 2021
- Sasaki M, Tanaka M, Ichikawa H, Suzuki T, Nishie H, Ozeki K, Shimura T, Kubota E, Tanida S, Kataoka H. **5-aminolaevulinic acid (5-ALA) accumulates in GIST-T1 cells and photodynamic diagnosis using 5-ALA identifies gastrointestinal stromal tumors (GISTs) in xenograft tumor models.** *PLoS One* 16(4):e0249650. 2021 Apr 7.
- Naitoh I, Kamisawa T, Tanaka A, Nakazawa T, Kubota K, Takikawa H, Unno M, Masamune A, Kawa S, Nakamura S, Okazaki K, collaborators. **Clinical characteristics of immunoglobulin IgG4-related sclerosing cholangitis: Comparison of cases with and without autoimmune pancreatitis in a large cohort.** *Dig Liver Dis.* 53(10):1308-1314, 2021.
- Yoshida M, Naitoh I, Hayashi K, Hori Y, Natsume M, Kato A, Kachi K, Asano G, Sahashi H, Toyohara T, Kito Y, Kataoka H. **Various innovative roles for 3-Fr microcatheters in pancreaticobiliary endoscopy.** *Dig Endosc*, 2021 Oct 30.
- Yoshida M, Naitoh I, Hayashi K, Natsume M, Hori Y, Kato A, Kataoka H. **Irrigation-assisted intraductal ultrasonography with a 3-Fr microcatheter during endoscopic retrograde cholangiography.** *Endoscopy*, 2021 Jul 2.
- Hori Y, Chari ST, Tsuji Y, Takahashi N, Inoue D, Hart PA, Uehara T, Horibe M, Yamamoto S, Satou A, Zhang L, Notohara K, Naitoh I, Nakazawa T. **Diagnosing Biliary Strictures: Distinguishing IgG4-Related Sclerosing Cholangitis From Cholangiocarcinoma and Primary Sclerosing Cholangitis.** *Mayo Clin Proc Innov Qual Outcomes.* 5(3):535-541, 2021.
- Hori Y, Ichino Y, Naitoh I, Hayashi K, Yoshida M, Natsume M, Jinno N, Kato A, Kachi K, Asano G, Atsuta N, Sahashi H, Kataoka H, Ohara H. **Impact of physiologically shaped pancreatic stent for chronic pancreatitis.** *Sci Rep.* 11(1):8285, 2021.
- Hori Y, Nagai T, Hayashi K, Izumi H, Yokoyama K, Ebara T. **Ability of ergonomic timeout to reduce musculoskeletal discomfort related to fluoroscopic endoscopy.** *Endosc Int Open.* 9(12): E1909-E1913, 2021.
- Hori Y, Hayashi K, Naitoh I, Yoshida M, Natsume M, Sahashi H, Kataoka H. **Combined transpapillary drainage and endoscopic ultrasound-guided hepaticoduodenostomy after failed manipulation under cholangioscopy guidance.** *Endoscopy.* 53(4): E153-E154, 2021.
- Hori Y, Hayashi K, Naitoh I, Miyabe K, Natsume M, Yoshida M, Kataoka H. **A pilot study of novel duodenal covered self-expandable metal stent fixation.** *Sci Rep.* 11(1):19708, 2021.
- Hori Y, Hayashi K, Naitoh I, Yoshida M, Kataoka H. **Intentional endoscopic nasopancreatic drainage to a pancreatic fistula in the treatment of disconnected pancreatic duct syndrome.** *Endoscopy.* 53(8): E295-E296, 2021.
- Hori Y, Fukumitsu K, Naitoh I, Onuki T, Hayashi K, Niimi A, Kataoka H. **Endoscopic ultrasound-guided transesophageal drainage for acute mediastinitis caused by pancreatic fistula.** *Respir Med Case Rep.* 34:101480, 2021.
- Kato A, Yoshida M, Hayashi K. **Endoscopic ultrasound-guided covered metal stent deployment through endoscopic tapered sheath preventing bile leakage.** *Digestive Endoscopy.* 2021 Dec; doi: 10.1111/den.14209.
- Kachi K, Kato H, Naiki-Ito A, Komura M, Nagano-Matsuo A, Naitoh I, Hayashi K, Kataoka H, Inaguma S, Takahashi S. **Anti-allergic drug suppressed pancreatic carcinogenesis via down-regulation of cellular proliferation.** *International Journal of Molecular Sciences.* 22(14):

7444, 2021

• Shimizu S, Naitoh I, Okumura F, Hirano A, Miyabe K, Nishi Y, Takada H, Haneda K, Anbe K, Yoshida M, Kondo H, Sano H, Hayashi K, Kataoka H. **One-step versus two-step distal self-expandable metal stent placement: A multicenter prospective randomized trial.** *J Gastroenterol Hepatol.* **36(7)**:2015-2021, 2021.

• Inoue T, Naitoh I, Suzuki Y, Okumura F, Haneda K, Kitano R, Yoshida M, Hayashi K, Yoneda M. **Multi-center study of endoscopic revision after side-by-side metal stent placement for malignant hilar biliary obstruction.** *Dig Endosc.* **33**: 807–814, 2021.

• Nakazawa T, Kamisawa T, Okazaki K, Kawa S, Tazuma S, Nishino T, Inoue D, Naitoh I, Watanabe T, Notohara K, Kubota K, Tanaka A, Takikawa H, Masamune A, Unno M. **Clinical diagnostic criteria for IgG4-related sclerosing cholangitis 2020. (Revision of the clinical diagnostic criteria for IgG4-related sclerosing cholangitis 2012)** *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* **28(3)**:235-242, 2021.

• Tasaki Y, Suzuki M, Katsushima K, Shinjo K, Iijima K, Murofushi Y, Naiki-Ito A, Hayashi K, Chenjie Qiu, Takahashi A, Tanaka Y, Kawaguchi T, Sugawara M, Kataoka T, Naito M, Miyata K, Kataoka K, Noda T, Wentao Gao, Kataoka H, Takahashi S, Kimura K, Kondo Y. **Cancer-Specific Targeting of Taurine-Upregulated Gene 1 Enhances the Effects of Chemotherapy in Pancreatic Cancer.** *Cancer research.* **81(7)**: 1654-1666, 2021.

• Macinga P, Bajer L, Del Chiaro M, Chari ST, Dite P, Frulloni L, Ikeura T, Kamisawa T, Kubota K, Naitoh I, Okazaki K, Pezzilli R, Vujasinovic M, Spicak J, Hucl T, Löhr M. **Pancreatic cancer in patients with autoimmune pancreatitis: A scoping review.** *Pancreatology.* **(5)**: 928-937, 2021.

• Hayashi S, Takenaka M, Kogure H, Yakushijin T, Maruyama H, Hori Y, Yoshio T, Ikezawa K, Takagi T, Asai S, Matsunaga K, Matsumoto K, Tsumura H, Yamaguchi S, Sumiyoshi T, Nagaike K, Tamaru Y, Hara K, Fujisawa T, Oda I, Ohnita K, Kato M, Nebiki H, Mikami T, Nishihara A, Egawa S, Minami R, Hosono M, Nishida T. **A questionnaire survey on radiation protection among 282 medical staff from 26 endoscopy-fluoroscopy departments in Japan.** *DEN Open*, 1: e5, 2021.

• Nagura Y, Fujiwara K, Matsuura K, Iio E, Tanaka Y, Kataoka H. **Complex structural variations in non-human primate hepatitis B virus.** *Virology.* **18(1)**:200, 2021.

• Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Kawada N, Enomoto N, Ido A, Yoshiji H, Miki D, Hiasa Y, Takikawa Y, Sakamori R, Kurosaki M, Yatsuhashi H, Tateishi R, Ueno Y, Itoh Y, Yamashita T, Kanto T, Suda G, Nakamoto Y, Kato N, Asahina Y, Matsuura K, Terai S, Nakao K, Shimizu M, Takami T, Akuta N, Yamada R, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T. **Sofosbuvir plus velpatasvir treatment for hepatitis C virus in patients with decompensated cirrhosis: a Japanese real-world multicenter study.** *J Gastroenterol.* **56(1)**:67-77,2021.

• Inoue T, Kusumoto S, Iio E, Ogawa S, Suzuki T, Yagi S, Kaneko A, Matsuura K, Aoyagi K, Tanaka Y. **Clinical efficacy of a novel, high-sensitivity HbcAg assay in the management of chronic hepatitis B and HBV reactivation.** *J Hepatol.* **75(2)**:302-310, 2021.

• Toyoda H, Hiraoka A, Uojima H, Nozaki A, Shimada N, Takaguchi K, Abe H, Atsukawa M, Matsuura K, Ishikawa T, Mikami S, Watanabe T, Itobayashi E, Tsuji K, Arai T, Yasuda S, Chuma M, Senoh T, Tsutsui A, Okubo T, Ehira T, Kumada T, Tanaka J. **Characteristics and Prognosis of De Novo Hepatocellular Carcinoma After Sustained Virologic Response.** *Hepatol Commun.* **5(7)**:1290-1299, 2021.

• Atsukawa M, Tsubota A, Kondo C, Uchida-Kobayashi S, Takaguchi K, Tsutsui A, Nozaki A, Chuma M, Hidaka I, Ishikawa T, Iwasa M, Tamai Y, Tobarai M, Matsuura K, Nagura Y, Abe H, Kato K, Suzuki K, Okubo T, Arai T, Itokawa N, Toyoda H, Enomoto M, Tamori A, Tanaka Y, Kawada N, Takei Y, Iwakiri K. **A novel noninvasive formula for predicting cirrhosis in patients with chronic hepatitis C.** *PloS One.* **16(9)**:e0257166, 2021.

- Atsukawa M, Tsubota A, Kondo C, Toyoda H, Nakamuta M, Takaguchi K, Watanabe T, Hiraoka A, Uojima H, Ishikawa T, Iwasa M, Tada T, Nozaki A, Chuma M, Fukunishi S, Asano T, Ogawa C, Abe H, Kato K, Hotta N, Shima T, Matsuura K, Mikami S, Tachi Y, Fujioka S, Okubo H, Shimada N, Tani J, Morishita A, Hidaka I, Moriya A, Tsuji K, Akahane T, Okubo T, Arai T, Kitamura M, Morita K, Kawata K, Tanaka Y, Kumada T, Iwakiri K. **Time-course changes in liver functional reserve after successful sofosbuvir/velpatasvir treatment in patients with decompensated cirrhosis.** Hepatol Res. 2021. Online ahead of print.
- Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Kawada N, Kurosaki M, Ido A, Miki D, Yoshiji H, Takikawa Y, Sakamori R, Hiasa Y, Nakao K, Kato N, Ueno Y, Yatsushashi H, Itoh Y, Tateishi R, Suda G, Takami T, Nakamoto Y, Asahina Y, Matsuura K, Yamashita T, Kanto T, Akuta N, Terai S, Shimizu M, Sobue S, Miyaki T, Moriuchi A, Yamada R, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T. **Liver-related events after direct-acting antiviral therapy in patients with hepatitis C virus-associated cirrhosis.** J Gastroenterol. **56(1):67-77**, 2021.
- Suzuki T, Matsuura K, Nagura Y, Iio E, Ogawa S, Fujiwara K, Nojiri S, Kataoka H, Tanaka Y. **Development of hepatocellular carcinoma from various phases of chronic hepatitis B virus infection.** PLOS ONE. **16(12)**, 2021.
- Son C, Makino H, Kasahara M, Tanaka T, Nishimura K, Taneda S, Nishimura T, Kasama S, Ogawa Y, Miyamoto Y, Hosoda K. **Comparison of Efficacy between Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor and Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitor on Metabolic Risk Factors in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: Results from the CANTABILE Study.** Diabetes Res Clin Pract. **180:109037**, 2021.
- Tanaka T, Kusakabe T, Ebihara K, Aizawa-Abe M, Aotani D, Yorifuji T, Satoh M, Ogawa Y, Nakao K. **Practice guideline for lipodystrophy syndromes—clinically important diseases of the Japan Endocrine Society (JES).** Endocr J. **68:1027-1042**, 2021.
- Hirabayashi M, Hasegawa C, Shimizu Y, Kakoi Shota, Fujii A, Yasuda S, Ito S, Ohguchi H, Yagi T, Koyama H, Akao M, Imaeda K, Okayama N, Kataoka H, Tanaka T. **Body mass index and γ -glutamyltransferase are associated with serum lactate levels in Japanese diabetic patients under metformin therapy.** Diabetes Fronti Online. **8:e1-001**, 2021.
- Fukuda M, Hamada K, Shimizu Y and Tanaka T. **Adrenal Cushing syndrome in a patient with corticosteroid-treated asthma and worsening diabetes mellitus.** BMJ Case Rep. **14:e241080**, 2021.

<名古屋市立大学医学部附属西部医療センター>

- Mori Y, Kataoka H, Ebi M, Adachi K, Yamaguchi Y, Hayashi N, Hirata Y, Sobue S, Ishihara R, Suzuki Y, Mizushima T, Inoue Y, Hasegawa I, Ono S, Hirano A, Kimura Y, Senoo K, Ozeki K, Shimura T, Kubota E. **Phase II Prospective Study of Trastuzumab in Combination with S-1 and Oxaliplatin (SOX100) Therapy for HER2-Positive Advanced Gastric Cancer.** J Gastrointest Cancer. 2021. Online ahead of print.
- Kikuchi M, Senoo K, Ohara H. **Clinical significance of procalcitonin measurement in patients with bacterial infections in the emergency setting.** J Hospital General Medicine, **Vol3-6:200-8**, 2021.

【和文業績】

<桜山>

- 谷田 諭史、尾関 啓司、片岡 洋望. **難治性活動性潰瘍性大腸炎に対するトファシチニブ+intensive GMA 併用療法の長期効果.** Ulcer research. **48: 50-52**, 2021.
- 松尾 洋一、林 香月、上田 悟郎、加藤 知克、青山 佳永、大見 関、林 祐一、今藤 裕之、齊藤健太、坪井 謙、森本 守、小川 了、高橋 広城、吉田 道弘、近藤 啓、宮部

勝之、内藤 格、瀧口修司. 術前診断に難渋した脾海綿状血管腫の1例. 脾臓. 36(4): 266-273, 2021.

- ・ 神野 成臣、夏目 まこと、内藤 格、吉田 道弘、堀 寧、加地 謙太、浅野 剛、熱田 直己、佐橋秀典、林 香月. ERCP 関連手技に伴う食道粘膜下血腫を認めた天疱瘡の1例. 日本消化器内視鏡学会雑誌. 63(8): 1489-1494, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職 名	氏 名	論文数	内 訳	
			欧 文	和 文
教授	片岡 洋望	28 (19)	27 (18)	1 (1)
准教授	谷田 諭史	6 (2)	5 (1)	1 (1)
准教授	久保田 英嗣	6 (0)	6 (0)	0
准教授	林 香月	16 (0)	14 (0)	2 (0)
准教授	田中 智洋	4 (1)	4 (1)	0
講師	藤原 圭	3 (0)	3 (0)	0
講師	志村 貴也	11 (0)	11 (0)	0
講師	内藤 格	16 (1)	14 (1)	2 (0)
講師	青谷 大介	1 (0)	1 (0)	0
講師	松浦 健太郎	9 (0)	9 (0)	0
講師	尾関 啓司	7 (0)	6 (0)	1
講師	吉田 道弘	11 (2)	9 (2)	2 (0)
助教	田中 守	5 (0)	5 (0)	0 (0)
助教	西江 裕忠	7 (0)	7 (0)	0
助教	小山 博之	1 (0)	1 (0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職 名	氏 名	論文数	内 訳	
			欧 文	和 文
教授	高木 博史	4 (1)	4 (1)	0
教授	伊藤 恵介	1 (0)	1 (0)	0
准教授	近藤 啓	2 (0)	1 (0)	1 (0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職 名	氏 名	論文数	内 訳	
			欧 文	和 文

教授	今枝 憲郎	1 (0)	1 (0)	0
教授	妹尾 恭司	2 (0)	2 (0)	0
准教授	土田 研司	0	0	0
講師	木村 吉秀	1 (0)	1 (0)	0
講師	森 義徳	1 (0)	1 (0)	0
助教	北川 美香	4 (0)	4 (0)	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

<桜山>

- ・ 志村 貴也. 名古屋市立大学学長表彰（研究） 2021/10/28

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

<桜山>

- ・ 谷田 諭史. 文部科学省科学研究費（基盤研究C・代表）. 令和元年度-令和3年度、4,030千円
- ・ 久保田 英嗣. 文部科学省科研費（基盤C・代表）. 令和元年度-令和4年度、4,420千円
- ・ 片岡 洋望. 科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度、4,290千円
- ・ 北川 美香. 科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和5年度、4,290千円
- ・ 田中 守. 科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度、4,290千円
- ・ 久保田 英嗣. 金沢大学がん進展制御研究所共同利用・共同研究費（代表）. 令和4年度、350千円
- ・ 志村 貴也. 文部科学省研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和4年度、4,160千円
- ・ 尾関 啓司. 厚生労働省科学研究費. 令和3年度-令和7年度、4,000千円
- ・ 西江 裕忠. 科学研究費獲得活性化事業 特別研究奨励費. 令和3年度、600千円
- ・ 田中 守. 公益信託第24回日本医学会総会記念 the 24th General Assembly of the Japanese Association of Medical Sciences 医学振興基金. 1,000千円
- ・ 田中 守. 公益財団法人愛知県がん研究振興会第46回がんその他の悪性新生物研究助成金. 200千円
- ・ 田中 守. 豊秋奨学会 TOYOAKI SCHLORSHIP FOUNDATION. 1,500千円
- ・ 吉田 道弘. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度、4,290千円
- ・ 林 香月、堀 寧. 共創の場形成支援プログラム（JST）「近未来労働環境デザイン拠点」. 令和2年度-令和3年度、70,390千円
- ・ 藤原 圭. 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金（代表）. 令和元年度-令和3年度、3,510千円
- ・ 松浦 健太郎. 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金（代表）. 令和2年度-令和4年度、4,290千円
- ・ 松浦 健太郎. (AMED・分担). 平成31年度-令和3年度、900千円
- ・ 田中 智洋. 科学研究費補助金（基盤C）. 平成31年度-令和3年度、4,290千円
- ・ 田中 智洋. 喫煙科学研究財団. 令和3年度、2,000千円
- ・ 小山 博之. 喫煙科学研究財団若手研究. 令和3年度、1,000千円
- ・ 小山 博之. 日本応用酵素協会 成人病の病因・病態の解明に関する研究助成. 令和3年度、350千円

<名古屋市立大学医学部附属東部医療センター>

- ・ 高木 博史. 厚生労働省科学研究費. 令和3年度-令和5年度、4,030千円
- ・ 高木 博史. 公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団 2021年度助成研究. 令和3年度、1,100千円

<名古屋市立大学医学部附属西部医療センター>

- ・ 木村 吉秀. 科学研究費助成事業(代表). 令和3年度-令和4年度、1,400千円

【その他】

特許出願

<桜山>

- ・ 発明者: 志村 貴也、奥田 悠介、片岡 洋望. 出願人: 公立大学法人名古屋市立大学. 食道癌の内視鏡治療の適応の判断を補助する方法、診断キット. 2021/11/8 国際出願 (PCT/JP2021/41056)

国内学会発表

<桜山>

- ・ 山本 佳宣、堀松 高博、矢野 友規、多田 春江、玉置 将司、石原 立、片岡 洋望、森田 智視、小野 裕之、武藤 学. LASER WEEK IN TOKYO II, 第42回日本レーザー医学会総会. (シンポジウム2) 食道癌化学放射線療法後遺残・再発に対する salvage PDT の新展開. 化学放射線療法後の局所遺残再発食道癌に対するタラポルフィンナトリウムと半導体レーザーを用いた光線力学的療法の長期成績. 2021/10/22-23 WEB開催
- ・ 大崎 智弘、野元 昭宏、矢野 重信、田中 守、片岡 洋望、岡本 芳晴. LASER WEEK IN TOKYO II, 第31回日本光線力学学会学術講演会. (シンポジウム7) PDT, PIT の未来を目指して. S7-3 獣医療における新規グルコース連結クロリンを用いた PDT. 2021/10/22-23 WEB開催
- ・ 澤田 武、久保田 英嗣、中村 慶史、高橋 直樹、太田 亮介、井戸田 雅史、佐々木 泰史、時野隆至、源 利成、片岡 洋望. 第80回日本癌学会学術総会. (P15-5-6) RAS, BRAF and PIK3C4 mutation in circulating tumor DNA and comparison with mutation in tissue in colorectal cancer. 2021/10/1 (9/30~10/2) パシフィコ横浜, 神奈川
- ・ 谷田 諭史、尾関 啓司、片岡 洋望. GIWeek 2021 第48回日本潰瘍学会 炎症性腸疾患 up to date 2021: 病態から治療まで. 活動性難治性潰瘍性大腸炎に対するトプァシチニブ+intensive GMA 併用療法の長期効果. 2021/2/21 大阪
- ・ 的屋 奨、志村 貴也、片野 敬仁、岩井 朋洋、伊藤 恵介、海老 正秀、水野 祐介、戸川 昭三、水島 隆史、西江 裕忠、山田 智則、稲垣 佑祐、高口 裕規、野村 智史、山田 貴教、瀧口 修司、片岡 洋望. GI week 2021: 第17回日本消化管学会総会学術集会オンライン開催. (WS19 ワークショップ19) 消化管狭窄の進歩「癒着性小腸イレウスに対するロングチューブ vs. 経鼻胃管ガストロフィン造影の多施設共同ランダム化比較試験」. 2021/2/19
- ・ 西垣 瑠里子、志村 貴也、尾関 貴紀、北川 美香、岩崎 弘靖、片野 敬仁、田中 守、西江 裕忠、尾関 啓司、久保田 英嗣、谷田 諭史、片岡 洋望. GI week 2021: 第17回日本消化管学会総会学術集会オンライン開催. (WS17 ワークショップ17) 消化管における免疫関連副作用(irAE)の現状と対策「当院における免疫チェックポイント阻害薬に伴う大腸炎の臨床病態の検討」. 2021/2/20
- ・ 北川 美香、志村 貴也、片岡 洋望、西垣 瑠里子、尾関 貴紀、岩崎 弘靖、田中 守、西江 裕忠、片野 敬仁、尾関 啓司、久保田 英嗣、谷田 諭史. GI week 2021: 第17回日本消化管学会総会学術集会オンライン開催. (WS15 ワークショップ15) 消化管稀少疾

患の病態、治療に関する最新のエビデンス「当院における肛門扁平上皮癌に対する治療成績の検討」. 2021/2/20

・ 尾関 貴紀、志村 貴也、片岡 洋望. 第 107 回日本消化器病学会総会・ハイブリッド形式. (PD2 パネルディスカッション 2) ESD 適応基準と治療基準の現状と課題「大腸 pT1 癌の臨床的特徴から考える内視鏡治療適応拡大の可能性」. 2021/4/17 京王プラザホテル (東京)

・ 志村 貴也、奥田 悠介、片岡 洋望. 第 107 回日本消化器病学会総会・ハイブリッド形式. (WS5 ワークショップ 5) 消化器領域におけるバイオマーカーの新展開「性差別新規尿中タンパクバイオマーカーによる早期胃癌診断」. 2021/4/16 京王プラザホテル (東京)

・ 西垣 瑠里子、志村 貴也、奥田 悠介、杉村 直美、尾関 貴紀、北川 美香、岩崎 弘靖、片野 敬仁、田中 守、西江 裕忠、尾関 啓司、久保田 英嗣、谷田 諭史、片岡 洋望. 第 107 回日本消化器病学会総会・ハイブリッド形式. 口演 (一般演題) 「当院における消化器系免疫関連有害事象 (腸炎・肝炎・胆管炎) の現況」. 2021/4/15 京王プラザホテル

・ 北川 美香、志村 貴也、西垣 瑠里子、杉村 直美、奥田 悠介、尾関 貴紀、岩崎 弘靖、田中 守、西江 裕忠、片野 敬仁、尾関 啓司、久保田 英嗣、谷田 諭史、片岡 洋望. 第 107 回日本消化器病学会総会・ハイブリッド形式. 口演 (一般演題) 「当院における肛門扁平上皮癌に対する治療成績の検討」. 2021/4/15 京王プラザホテル (東京)

・ 尾関 貴紀、志村 貴也、片岡 洋望. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会. (下部 5 ワークショップ 1) 大腸 cT1b 癌に対する内視鏡治療の最前線「大腸 pT1b 癌の臨床的特徴および内視鏡治療成績から考える適応拡大の可能性」. 2021/5/14 広島

・ 夏目 まこと、志村 貴也、奥田 悠介、片岡 洋望. 第 80 回日本癌学会学術総会. (SS1 Special Symposia 1) Woman scientists in cancer research (WSCR) がん研究における女性研究者癌学会「Omental adipocytes promote peritoneal dissemination of gastric cancer. (大網脂肪細胞は CXCL2-VEGFA axis を介し胃癌腹膜転移を促進する)». 2021/9/30 パシフィコ横浜 (横浜)

・ 梅澤 芙美子、矢木 宏和、山崎 郁弥、Chu-Wei Kuo、Kay-Hooi Khoo、志村 貴也、川島 博人、加藤 晃一. 日本薬学会第 141 年会 オンライン開催. (口演) 「真核生物におけるグリセロールリン酸修飾の生合成に関わる CDP-グリセロールの合成酵素の同定」. 2021/3/27

・ 梅澤 芙美子、矢木 宏和、山崎 郁弥、志村 貴也、中嶋 和紀、川島 博人、加藤 晃一. 第 94 回日本生化学大会. (口演) 「真核生物のグリセロールリン酸修飾に必要な CDP-グリセロールを合成する酵素の同定. 2021/11/4 パシフィコ横浜 (横浜) & オンライン開催

・ 森 義徳、海老 正秀、足立 和規、山口 純治、林 則之、平田 慶和、祖父江 聡、石原 亮、鈴木 雄太、水島 隆史、井上 裕介、長谷川 泉、小野 聡、平野 敦之、木村 良英、妹尾 恭司、尾関 啓司、志村 貴也、久保田 英嗣、片岡 洋望. JDDW2021. デジタルポスター「HER2 陽性切除不能進行胃癌に対する SOX (100) +trastuzumab 療法の臨床第 II 相試験」. 2021/11/5 神戸

・ Katano T, Shimura T, Kataoka H. JDDW2021. IS6 (Internal Session 6) アジアにおける多施設共同臨床研究の取り組み (Activities of multi-institutional clinical study in Asia). 「Multicenter, randomized controlled trial of long tube versus nasogastric tube with water-soluble contrast agent for adhesive small bowel obstruction」. 2021/11/6 神戸

・ 尾関 啓司、菅野 琢也、片野 敬仁、谷田 諭史、尾関 貴紀、岩崎 弘靖、北川 美香、西江 裕忠、田中 守、志村 貴也、久保田 英嗣、片岡 洋望. 第 17 回消化管学会総会. (一般演題) 「潰瘍性大腸炎患者における EB ウイルス血症陽性割合と背景因子の

単施設横断的検討」. 2021/2/19 web 開催

- ・ 尾関 啓司、谷田 諭史、片岡 洋望. JDDW2021. 潰瘍性大腸炎に対する PR3-ANCA による疾患活動性評価の有用性. 2021/11/6 神戸
- ・ 西江 裕忠、久野 佳代子、西垣 瑠璃子、管野 琢也、佐々木 慎子、奥田 悠介、杉村 直美、福定 繁樹、尾関 貴紀、北川 美香、岩崎 弘靖、片野 敬仁、田中 守、尾関 啓司、志村 貴也、久保田 英嗣、谷田 諭史、片岡 洋望. GI Week2021 第17回日本消化管学会総会学術集会・第48回日本潰瘍学会合同セッション. (口演) 当院における Non HP・non NSAIDs 胃潰瘍の現状. 2021/2/20 (Web 発表)
- ・ 西江 裕忠、小島 悠揮、佐々木 慎子、田中 守、片岡 洋望. 第75回日本食道学会学術集会. (ポスター) 食道癌化学放射線療法後の局所遺残再発例に対する内視鏡治療～当院でのタラポルフィンナトリウムを用いた光線力学的療法の治療成績～. 2021/9/23-24 (Web 発表)
- ・ 田中 守、西江 裕忠、片岡 洋望. 第107回日本消化器病学会総会. ワーク タラポルフィンを用いた光線力学的療法の成績～vascular shut downの基礎的検討も含めて～. 2021/4/17
- ・ 田中 守. LASER WEEK IN TOKYO II. (シンポジウム4) 当院における食道癌化学放射線療法後の局所遺残再発例に対する PDT の有害事象について. 2021/10/22
- ・ 片野 敬仁、尾関 啓司、久保田 英嗣、谷田 諭史、片岡 洋望. 第48回日本潰瘍学会. 主題セッション1「消化管疾患の病態形成におけるバリア機能と微小炎症」 腸管リザーブ幹細胞機能制御と杯細胞分化に関わる KLF4 の機能解析. 2021/2/20 オンライン開催
- ・ 杉村 直美、久保田 英嗣、片岡 洋望. 第29回日本消化器関連学会週間(JDDW2021). (デジタルポスターセッション消019 大腸(基礎)1) 「大腸癌に対する腫瘍溶解性ウイルス、レオウイルスによるがん免疫療法の検討」. 2021/11/4 神戸 ポスター優秀演題賞、若手奨励賞受賞
- ・ 奥田 悠介、志村 貴也、片岡 洋望. 第17回日本消化管学会. (口演 ワークショップ3. 消化管における translational research) 「血清エクソソーム含有 Dicer による分化型胃癌の非侵襲的早期診断」. 2021/2/19 大阪
- ・ 奥田 悠介、志村 貴也、片岡 洋望. 第29回日本消化器関連学会週間(JDDW2021). (口演 ワークショップ8. 消化器癌における新規バイオマーカーの意義) 「食道癌診断のための新規尿中 miRNA バイオマーカー開発」. 2021/11/5 神戸(神戸国際展示場)
- ・ 佐々木 慎子、田中 守、片岡 洋望. 第107回日本消化器病学会総会. (ワークショップ10) 「消化器癌に対する免疫チェックポイント阻害剤による治療」 Talaporfin sodium を用いた光線力学的療法と抗 PD-L1 抗体による治療相乗効果の検討. 2021/4/17 東京 (web 開催)
- ・ 佐々木 慎子、田中 守、片岡 洋望. 第101回日本消化器内視鏡学会総会. (シンポジウム6) 「内視鏡医学と基礎医学の融合」 光線力学的療法による免疫原性細胞死誘導および癌免疫療法との相乗効果の検討. 2021/5/16 広島 (web 開催)
- ・ Sasaki M、Tanaka M、Kojima Y、Nishie H、Kataoka H. 第80回日本癌学会学術総会. (ポスターセッション) Antitumor immunity enhancement by Photodynamic therapy (PDT) and synergism of PDT and anti PD-1 antibody. 2021/9/30 横浜(web 開催)
- ・ 佐々木 慎子、田中 守、片岡 洋望. 第32回日本消化器癌発生学会総会. (シンポジウム3) 「Immuno-Oncology up Date」 光線力学的療法による免疫原性細胞死誘導メカニズムの解明と癌免疫療法への応用. 2021/11/26 岐阜 (web 開催)

- ・ 吉田 道弘、林 香月、内藤 格、神野 成臣、夏目 まこと、堀 寧、加藤 晃久、加地 謙太、浅野 剛、熱田 直己、佐橋 秀典、片岡 洋望. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会. (一般口演)胆膵 内視鏡トラブルシューティング 新型マイクロカテーテルを用いた ERCP 関連処置におけるトラブルシューティング法. 2021/5/14 広島(WEB)
- ・ 市野 由華、堀 寧、内藤 格、林 香月、吉田 道弘、夏目 まこと、片岡 洋望. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会. 慢性膵炎の膵管狭窄に対する解剖学的視点から開発された膵管ステントの有用性. 2021/5/15 広島(支部研修医・専攻医 Award 受賞者セッション)
- ・ 吉田 道弘、林 香月、内藤 格、夏目 まこと、堀 寧、加藤 晃久、加地 謙太、浅野 剛、熱田直己、佐橋 秀典、片岡 洋望. 第 57 回日本胆道学会学術集会. (口演)内視鏡的経乳頭胆嚢ドレナージ Step 分類に基づいた内視鏡的経乳頭の胆嚢ドレナージ (ETGBD) における SpyGlass DS の有用性とその適応. 2021/10/7 東京 (WEB)
- ・ 加藤 晃久、内藤 格、林 香月、吉田 道弘、堀 寧、夏目 まこと、熱田 直己、片岡 洋望. 第 52 回日本膵臓学会大会. (ミニシンポジウム)切除不能膵癌の EUS-FNA 検体を用いた TUBB3 染色が GnP 療法効果を予測する. 2021/9/22 東京
- ・ 夏目 まこと、吉田 道弘、久野 佳代子、佐橋 秀典、熱田 直己、浅野 剛、加地 謙太、加藤 晃久、堀 寧、神野 成臣、内藤 格、林 香月、片岡 洋望. 第 57 回日本胆道学会. (一般口演)当院における胆道疾患における SpyGlass DS 下生検の現状. 2021/10/4 神戸
- ・ 加藤 晃久、内藤 格、林 香月、吉田 道弘、堀 寧、夏目 まこと、神野 成臣、熱田 直己、片岡 洋望. 第 57 回日本胆道学会学術集会. (一般口演)胆管生検デバイス Trefle とセルブロック法の組み合わせの有用性. 2021/10/7 横浜
- ・ 夏目 まこと、志村 貴也、片岡 洋望. 第 29 回日本消化器関連学会週間. (デジタルポスター)大網脂肪中の CXCL2 を標的とした胃癌腹膜転移に対する新たな分子標的治療法の可能性. 2021/11/4 神戸
- ・ 内藤 格、中沢 貴宏、大原 弘隆. 第 102 回日本消化器内視鏡学会総会. (シンポジウム)IgG4 関連硬化性胆管炎の鑑別診断における内視鏡検査の有用性. 2021/11/4 神戸
- ・ 吉田 道弘、内藤 格、林 香月. JDDW2021. (ワークショップ 14)胆膵内視鏡診療における新技術 新型 3Fr. マイクロカテーテルで広がる胆膵内視鏡診療における新技術. 2021/11/6 神戸
- ・ 藤原 圭、野尻 俊輔、片岡 洋望. 第 107 回日本消化器病学会総会. (シンポジウム 4: 消化器疾患のゲノム医療: 現状と今後の展望)B 型肝炎ウイルスの新しい遺伝子変化 Complex structural variation 90 例の解析—ヒトゲノムのウイルスゲノムへのインテグレーションを含めて—. 2021/4/16 WEB
- ・ 藤原 圭、鈴木 孝典、野尻 俊輔. 第 57 回日本肝臓学会総会. (ワークショップ 2 現在及びこれからの肝炎ウイルス研究の landscape)B 型肝炎ウイルスの新しい遺伝子変化 Complex structural variation 102 例の解析—ヒトゲノムのウイルスゲノムへの挿入を含めて—. 2021/6/18 WEB
- ・ 名倉 義人、松浦 健太郎、鈴木 孝典、藤原 圭、野尻 俊輔、田中 靖人. 第 57 回日本肝臓学会総会. (ミニオーラル 7 コロナ・バイオマーカー)HCV 排除後の肝硬変患者における血清サイトカイン/ケモカイン発現解析. 2021/6/18 WEB
- ・ 鈴木 孝典、松浦 健太郎、田中 靖人. 第 107 回日本消化器病学会総会. (シンポジウム 9. 肝発癌抑制を目指した B 型肝炎の最新治療)当院における B 型慢性肝炎の病期における長期予後の比較. 2021
- ・ 鈴木 孝典、名倉 義人、松浦 健太郎、藤原 圭. 第 57 回肝臓学会総会. (一般演題)進行肝細胞癌に対する Lenvatinib 投与における治療効果と副作用マネージメントの検

討. 2021/6/17

・ 鈴木 孝典、名倉 義人、松浦 健太郎、藤原 圭. 第 57 回肝臓学会総会. (一般演題)免疫寛容期及び、非活動性 B 型肝炎キャリアにおける長期臨床経過に関する検討. 2021/6/17

・ 田中 智洋. 第 41 回日本肥満学会. (シンポジウム)いつ使う? どう使う?—肥満症治療における薬物療法を考える. 2021/3/20~21 WEB 開催

・ 清水 優希、青谷 大介、岩本 暁子、梶 昭太、長谷川 千恵、浜田 けい子、小山 博之、船越 茜、川瀬 弘多郎、早川 俊輔、田中 達也、小川 了、山田 悠史、瀧口 修司、田中 智洋. 第 41 回日本肥満学会. (一般口演)当院の減量プログラムにより減量での耐糖能の改善が糖負荷試験で示された肥満症の一例. 2021/3/20~21 WEB 開催

・ 青谷 大介、田中 智洋. 第 126 回日本解剖学会総会・全国学術集会 第 98 回日本生理学会大会 合同大会. (シンポジウム)食欲調節破綻における栄養シグナルとホルモンの役割—基礎研究から肥満症診療への展開. 2021/3/28~30 WEB 開催

・ 青谷 大介、有安 宏之、竹田 勝志、桑原 智子、片岡 洋望、田中 智洋、中尾 一和. 第 94 回日本内分泌学会学術総会. (一般口演)グレリンの摂食促進効果に対する中鎖脂肪酸の阻害作用. 2021/4/22~24 オンデマンド配信

・ 竹田 勝志、青谷 大介、神野 智貴、小川 健人、Tingting Guo、服部 麗、八木 崇志、小山 博之、松村 成暢、片岡 洋望、田中 智洋. 第 94 回日本内分泌学会学術総会. (一般口演)高脂肪食給餌下でのニコチン離脱による、禁煙後体重増加モデルマウスの樹立. 2021/4/22~5/30 オンデマンド配信

・ 田中 智洋. 第 94 回日本内分泌学会学術総会. YEC セミナー2 (シンポジウム)肥満における視床下部リモデリングの分子論的理解と治療戦略の提唱を目指して. 2021/4/23 WEB 開催

・ 早川 暁子、青谷 大介、長谷川 千恵、八木 崇志、梶 昭太、清水 優希、浜田 けい子、竹田 勝志、小川 健人、西田 絵美、小山 博之、海老原 健、田中 智洋. 第 94 回日本内分泌学会学術総会 若手臨床内分泌医育成委員会・YEC 共同企画 KO Rounds. (一般口演)早老症様顔貌と部分性脂肪委縮から診断に至った MDP 症候群の 1 例. 2021/4/24 WEB 開催

・ 清水 優希、青谷 大介、伊藤 隆彦、岩本 暁子、位田 敬明、浜田 けい子、竹田 勝志、服部 麗、小山 博之、田中 達也、溝口 修司、田中 智洋. 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会 肥満外科手術 1. (一般口演)血糖コントロール困難な高度肥満症に対して 65 歳でスリーブ状胃切除術を行った一例. 2021/5/20 WEB 開催

・ 服部 麗. 第 8 回日本糖尿病医療学会学術年次集会. ランチョンセミナー (共催セミナー) 1 型糖尿病で良かった人生の実現に向けて. 2021/10/10 (共催: サノフィ株式会社)

・ 田中 智洋、小川 健人、片岡 洋望. 第 53 回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 口演 4: 炎症・サイトカイン 2 (一般口演) PPAR α リガンドがマイクログリアの活性化におよぼす影響. 2021/10/23 京都

・ 服部 麗. 第 20 回日本先進糖尿病治療研究会・第 18 回 1 型糖尿病研究会. モーニングセミナー (共催セミナー) わたしが糖尿病でもよい人生 あなたが糖尿病でもよい社会. 2021/11/7 (共催: サノフィ株式会社)

・ 浜田 けい子、浅田 馨、大野 恒夫、畦元 将隆、小山 博之、田中 智洋. 第 31 回臨床内分泌代謝 Update. (一般口演)LH-RH アゴニストでの前立腺癌治療開始後に血糖悪化を認めた一例. 2021/11/26~27 大阪 WEB 開催

<名古屋市立大学医学部附属東部医療センター>

・ 竹内 了哉、平林 真代、樹下 香苗、藤井 明沙美、赤尾 雅也. 第64回日本糖尿病学会年次学術集会. 第二種感染症指定医療機関におけるCOVID-19感染症患者の糖尿病治療. 2021/5/20 富山

<名古屋市立大学医学部附属西部医療センター>

・ 森 義徳、海老 正秀、足立 和規、山口 純治、林 則之、平田 慶和、祖父江 聡、石原 亮、鈴木 雄太、水島 隆史、井上 裕介、長谷川 泉、小野 聡、平野 敦之、木村 吉秀、妹尾 恭司、尾関 啓司、志村 貴也、久保田 英嗣、片岡 洋望. 第29回日本消化器関連学会週間. (一般演題) (デジタルポスターセッション) HER2陽性切除不能進行胃癌に対するSOX(100)+trastuzumab療法の臨床第Ⅱ相試験. 2021/11/5 神戸

・ 木村 吉秀、平野 敦之. 第44回日本肝臓学会西部会. 症候性肝嚢胞に対する塩酸ミノサイクリンとオレイン酸モノエタノールアミン併用硬化療法の検討. 2021/12/14 岡山

・ 伊藤 峻介、荒川 耕平、友齋 絵美、太田 亜佐美、竹田 勝司、渡邊 久美子、今枝 憲郎. 第94回日本内分泌学会総会. (一般演題)主産後数日で診断され、ヒドロコルチゾンに加えてGH補充療法を行いQOLの改善を得たSheehan症候群の1例. 2021/4/22-24

地方会発表

<桜山>

・ 西垣 瑠里子、尾関 啓司、片岡 洋望. 第135回消化器病学会東海支部例会. (シンポジウム1 消化管疾患診断・治療の最前線)当院におけるトファシチニブの潰瘍性大腸炎に対する有効性と副作用. 2021/12/11

・ 熱田 直己、林 香月、片岡 洋望. 日本消化器病学会東海支部第134回例会. (シンポジウム)SR-4 肝尾状葉腫瘍に対するEUS-FNAの有用性. 2021/6/12 津

・ 夏目 まこと、吉田 道弘、内藤 格. 日本消化器病学会東海支部第134回例会. (シンポジウム)当院におけるSpyGlass DS下胆道生検の現状. 2021/6/12 神戸

・ (一般演題)高齢女性の急性胆石性胆嚢炎に対して内視鏡的胆嚢ステントを留置し手術を回避した一例 2021/10/30 名古屋

・ 佐橋 秀典、堀 寧、林 香月. 第64回日本消化器内視鏡学会東海支部例会. (シンポジウム2)カバー付き胃十二指腸ステント逸脱防止を目的としたOver-the-scope clipによる把持法の有用性と安全性：パイロット試験. 2021/12/4 名古屋

・ 井村 尚斗、堀 寧、内藤 格、林 香月、吉田 道弘、夏目 まこと、加藤 晃久、加地 謙太、鬼頭 佑輔、片岡 洋望. 第64回日本消化器内視鏡学会東海支部例会. (支部研修医・専攻医 Award 受賞者セッション)超音波内視鏡にて診断・治癒し得た膵液漏による急性縦隔炎の1例. 2021/12/4 名古屋

・ 浅野 剛、宮部 勝之、内藤 格. 日本消化器病学会東海支部第135回例会. (シンポジウム② 肝胆膵疾患診断・治療の最前線)膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の進行に対する遺伝子異常の分子病理学的検討. 2021/12/11 名古屋

・ 豊原 祥資、宮部 勝之、片岡 洋望. 日本消化器病学会東海支部第135回例会. (シンポジウム)急性胆嚢炎の重症度予測因子に関する検討. 2021/12/11 名古屋

・ 佐藤 椋、堀 寧、内藤 格、鬼頭 佑輔、加地 謙太、加藤 晃久、夏目 まこと、吉田 道弘、林 香月、片岡 洋望. 日本消化器病学会東海支部第135回例会. (研修医セッション)irAE膵炎による周囲リンパ節腫大に対しEUS-FNBにて病理像を確認した1例. 2021/12/11 名古屋

・ 鈴木 孝典、松浦 健太郎、藤原 圭. 第44回日本肝臓学会西部会. (シンポジウム3)HBs抗原消失、肝発がん抑制を目指したB型肝炎治療の現状と展開 B型肝炎慢性肝

疾患における核酸アナログ投与例の発癌予測マーカーの探索. 2021/12/9 岡山

・ 名倉 義人、鈴木 孝典、久野 佳代子、松浦 健太郎、藤原 圭、片岡 洋望. 日本消化器病学会東海支部第 135 回例会. (一般演題)難治性肝性脳症に対し B-RTO を施行した症例. 2021/12/11 名古屋

・ 鈴木 孝典、名倉 義人、片野 敬仁、内藤 格、松浦 健太郎、藤原 圭、片岡 洋望. 消化器病学会東海支部第 135 回例会. (一般演題)原発性硬化性胆管炎 (PSC) と潰瘍性大腸炎 (UC) にて通院中、自己免疫性肝炎 (AIH) 合併を判明した 1 例. 2021/12/11 名古屋

・ 服部 麗、樹下 華苗、位田 敬明、浜田 けい子、小山 博之、青谷 大介、赤尾 雅也、田中 智洋. 日本内科学会東海支部主催 第 244 回東海地方会 一般演題第 3 会場 内分泌・代謝. (一般口演)同じインスリン製剤でも異なる食後血糖変動が観察された初発 1 型糖尿病の 2 例. 2021/6/27 WEB 開催

・ 田中 智洋. 第 28 回西日本肥満研究会 モーニングセミナー(共催セミナー). 今日よりはちょっと進んだ明日の肥満症診療を目指してー肥満症治療センター開設 おもてばなし・うらばなしー. 2021/7/18 岡山(共催:富士フィルム富山化学株式会社)

・ 五十川 賢司、服部 麗、位田 敬明、浜田 けい子、伊藤 隆彦、今井 理紗、小山 博之、青谷 大介、田中 智洋. 第 95 回日本糖尿病学会中部地方会 一般演題 B 会場 YIA セッション B 若手優秀演題発表. (一般口演)高度肥満合併 1 型糖尿病の一例. 2021/9/4 三重 WEB 開催

・ 清水 優希、小山 博之、伊藤 隆彦、位田 敬明、浜田 けい子、久我 祐介、竹田 勝志、服部 麗、青谷 大介、田中 智洋. 第 95 回日本糖尿病学会中部地方会 一般演題 A 会場 YIA セッション A 若手優秀演題発表. (一般口演)メトホルミンの内服と血清ビタミン B12 に関連する検討. 2021/9/4 三重 WEB 開催

・ 森 一憲、青谷 大介、浜田 けい子、岩本 暁子、伊藤 隆彦、位田 敬明、久我 祐介、服部 麗、小山 博之、服部 文子、田中 智洋. 第 95 回日本糖尿病学会中部地方会 一般演題 A 会場 糖尿病性昏睡. (一般口演)高血糖高浸透圧症候群および乳酸のアシドーシスに至った MELAS による糖尿病の 1 例. 2021/9/4 三重 WEB 開催

・ 田中 智洋. 第 95 回日本糖尿病学会中部地方会 スウィーツセミナー1(共催セミナー). 目指そう! 多点を攻める令和の糖尿病治療を. 2021/9/4 三重 WEB 開催 (共催: 第 95 回日本糖尿病中部地方会 サノフィ株式会社)

・ 小山 博之、伊藤 隆彦、位田 敬明、浜田 けい子、清水 優希、久我 祐介、竹田 勝志、青谷 大介、田中 智洋. 第 21 回日本内分泌学会東海支部学術集会. 一般演題 (セッション 8) (一般口演) エコーを用いた甲状舌骨金面積測定のスルコペニア診断における有用性についての検討. 2021/9/25 WEB 開催

・ 伊藤 隆彦、青谷 大介、岩本 暁子、位田 敬明、浜田 けい子、服部 麗、小山 博之、海老原 健、田中 智洋. 第 21 回日本内分泌学会東海支部学術集会 一般演題 セッション 8. (一般口演)糖脂質代謝異常および脂肪肝に対してレブチン治療が有効であった MDP 症候群の 1 例. 2021/9/25 WEB 開催

・ 小山 博之、伊藤 隆彦、位田 敬明、浜田 けい子、清水 優希、久我 祐介、竹田 勝志、青谷 大介、田中 智洋. 第 32 回日本老年医学会東海地方会. (一般口演)エコーで計測した甲状舌骨筋のスルコペニア診断における有用性. 2021/10/30 WEB 開催

・ 小山 博之、伊藤 隆彦、位田 敬明、浜田 けい子、清水 優希、久我 祐介、竹田 勝志、青谷 大介、田中 智洋. 第 8 回日本サルコペニア・フレイル学会大会 WEB 開催. (一般口演)エコーを用いた甲状舌骨筋量評価のスルコペニア診断における有用性について. 2021/11/6~7

<名古屋市立大学医学部附属東部医療センター>

・ 平山 陽太、近藤 啓、猪飼 千咲、市野 由華、加藤 真里絵、庄田 怜加、武仲 祐弥、森 俊敬、荒木 幸子、小島 尚代、西垣 信宏、田中 義人、伊藤 恵介。消化器病学会東海地方会。十二指腸狭窄を来した正中弓状靱帯圧迫症候群による膵十二指腸動脈瘤破裂の1例。2021/12/11

・ 猪飼 千咲、近藤 啓、伊藤 恵介、田中 義人、西垣 信宏、小島 尚代、荒木 幸子、森 俊敬、武仲 祐弥、庄田 怜加、加藤 真里絵、平山 陽太、市野 由華。消化器病学会東海地方会。胆管壁肥厚を呈しステロイドが有効であった好酸球形胆管炎の一例。2021/12/11

<名古屋市立大学医学部附属西部医療センター>

・ 富田 優作、田中 翔、中井 俊介、金岩 弘樹、山口 彩奈、寺島 明里、小野 聡、内田 絵里香、野村 智史、平野 敦之、森 義徳、木村 吉秀、土田 研司、妹尾 恭司。日本消化器病学会東海支部第 134 回例会。(一般演題)妊娠を契機に発症した先天性胆道拡張症の一例。2021/6/12 (WEB) 三重

・ 武田 ひろみ、奥山 徹、山本 あゆみ、妹尾 恭司。日本緩和医療学会第 3 回東海・北陸支部学術大会。患者の意向を汲み取り伴走しながら療養生活を支えた一症例。2021/10/9 (WEB) 名古屋

・ 久保田 淳、中井 俊介、金岩 弘樹、富田 優作、山口 彩奈、北川 美香、野村 智史、平野 敦之、森 義徳、木村 吉秀、土田 研司、妹尾 恭司。第 64 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会。多発食道潰瘍を呈したベーチェット病疑診の一例。2021/12/4 (WEB) 名古屋

・ 山根 佑基、久保田 淳、中井 俊介、金岩 弘樹、富田 優作、山口 彩奈、北川 美香、野村 智史、平野 敦之、森 義徳、木村 吉秀、土田 研司、妹尾 恭司。日本消化器病学会東海支部第 135 回例会。コルヒチンが著効した家族性地中海熱の一例。2021/12/11 名古屋

・ 菊地 隆太、今枝 憲郎、國井 英二、伊藤 峻介、友斉 絵美、高桑 修、山羽 悠介、山田 一貴、大脇 壮太、秋田 憲志。第 95 回日本糖尿病学会中部地方会。(一般演題)ニボルマブ投与後に劇症 1 型糖尿病を発症した 1 例。2021/9/4 三重 (WEB) 2021/9/4

・ 伊藤 峻介、菊地 隆太、荒川 耕平、友斉 絵美、竹田 勝志、渡辺 久美子、今枝 憲郎。第 21 回日本内分泌学会東海支部学術集会。高 PRL 血症による乳汁分泌から診断され、ACTH 分泌低下を伴った empty sella 症候群の 1 例。名古屋 (WEB) 2021/9/25

国際学会発表

<桜山>

・ Kataoka H, Nishie H, Tanaka M, Nomoto A, Yano S, Osaki T, Okamoto Y. PACIFICHEM 2021. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2021. Symposia13: Chemistry of Health Care, Photodynamic therapy and photoimmunotherapy based on the photochemistry. #189 Excellent antitumor effects of photodynamic therapy with a novel glucose conjugated chlorin e6. December 21(16-21), 2021. Honolulu, Hawaii, USA (Virtual Web).

・ Vermeire S, Tanida S, Hu R, Panaccione R, Hébuterne X, Rubin D T, Ilo D, Zhou W, Weinreich M A, Zhou Q, Danese S. United European Gastroenterology Week Virtual 2021. Upadacitinib Induction Therapy in Patients With Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis by Biologic Inadequate Responder Status: Results From Two Randomized Phase 3 Studies. 3/10/2021. Vienna, Austria.

・ Takizawa K, Takeuchi Y, Ohmori M, Fujisaki J, Yoshimizu S, Iwai T, Yamada T, Suzuki T, Takeuchi M, Yoshida M, Miyakawa A, Furuhashi H, Matsuda M, Araki H, Masui Y, Shimura T, Ota T, Mori K, Ishikawa H, Gotoda T. UEG Week Virtual 2021, Web. Oral. COLD SNARE POLYPECTOMY FOR SUPERFICIAL NON-AMPULLARY DUODENAL EPITHELIAL TUMOR: A MULTICENTER PROSPECTIVE CONFIRMATORY TRIAL (D-COP TRIAL). 2021/10/3

- Fukusada S, Shimura T, Okuda Y, Iwasaki H, Kitagawa M, Katano T, Kataoka H. UEG Week Virtual 2021, Web. Poster. Gene mutation analysis in nonampullary duodenal epithelial tumors. 2021/10/3
- Naitoh I. KDDW 2021. (Oral presentation)Optimal endoscopic drainage strategy. Nov 18 2021 Seoul Korea
- Hori Y, Hayashi K, Ebara T. 2nd NCU Contact Points in Asia Symposium 2021. (Oral presentation) Ability of ergonomic timeout to reduce musculoskeletal discomfort related to fluoroscopic endoscopy. August 26, 2021. Nagoya Japan
- Tanaka T. The 18th International Symposium on Atherosclerosis, KSoLA-JAS Joint Symposium 2. Hypertriglyceridemia, Approach to the Residual Risk. Triglycerides and its Constituents as a Central Cardiometabolic Risk. October 27,2021. Kyoto, Japan

学内研究費獲得実績（特別研究奨励費）

- 志村 貴也. 公立大学法人名古屋市立大学特別研究奨励費②外部研究資金獲得活性化事業[ア]先端の研究活性化支援. 令和3年度、1,740千円
- 片野 敬仁. 科学研究費獲得活性化事業 特別研究奨励費. 令和3年度、600千円
- 林 香月. 特別研究奨励. 令和3年度、600千円

—呼吸器・免疫アレルギー内科学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1) Nishiyama H, Tajiri T, Yamabe T, Yasukawa T, Takeda N, Fukumitsu K, Fukuda S, Kanemitsu Y, Uemura T, Ohkubo H, Takemura M, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Naniwa T, Niimi A. **Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis Presenting with Central Retinal Artery Occlusion During Treatment with Anti-interleukin-5 Receptor Monoclonal Antibody.** Intern Med. **60(22)**: 3631-3634, 2021.
- 2) Tajiri T, Kawachi H, Yoshida H, Noguchi S, Terashita S, Ikeue T, Horikawa S, Sugita T, Niimi A. **The causes of acute cough: a tertiary-care hospital study in Japan.** J Asthma. **58(11)**: 1495-1501, 2021.
- 3) Lee JH, Kang SY, Yoo Y, An J, Park SY, Lee SE, Kim MH, Kanemitsu Y, Chang YS, Song WJ. **Epidemiology of adult chronic cough: disease burden, regional issues, and recent findings.** Asia Pac Allergy. **11**: e38. 2021.
- 4) Ohkubo H, Nakano A, Fujita K, Ozawa Y, Murase T, Niimi A. **Spontaneous improvement of interstitial pneumonia with autoimmune features: A case report.** Respirol Case Rep. **9(11)**: e0867, 2021.
- 5) Kurokawa R, Kanemitsu Y, Fukumitsu K, Takeda N, Yap JM, Suzuki M, Mori Y, Fukuda S, Uemura T, Tajiri T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Niimi A. **The diagnostic utility of the frequency scale for the symptoms of gastroesophageal reflux disease questionnaire (FSSG) for patients with subacute/chronic cough.** J Asthma. **58(11)**: 1502-1511, 2021.
- 6) Song WJ, Niimi A. **Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitors, Asthma, and Cough: Relighting the Torch.** J Allergy Clin Immunol Pract. **9(9)**: 3440-3441, 2021.
- 7) Lee JH, Lee JW, An J, Won HK, Park SY, Kang SY, Kanemitsu Y, Kim HJ, Song WJ. **Efficacy of non-sedating H1-receptor antihistamines in adults and adolescents with chronic cough: A systematic review.** World Allergy Organ J. **14**: 100568. 2021.
- 8) Morimoto C, Matsumoto H, Tajiri T, Gon Y, Ito R, Hashimoto S, Suzukawa M, Ohta K, Izuhara K, Ono J, Ohta S, Ito I, Oguma T, Kanemitsu Y, Nagasaki T, Izuhara Y, Niimi A, Hirai T. **High serum free IL-18 is associated with decreased omalizumab efficacy: findings from a 2-year omalizumab treatment study.** J Asthma. **58(9)**: 1133-1142, 2021.
- 9) Uemura T, Fukumitsu K, Maeno K, Fukuda S, Onuki T, Kanemitsu Y, Oguri T, Niimi A, Hida T. **Asthma caused by durvalumab after chemoradiotherapy in two patients with non-small cell lung cancer.** Respirol Case Rep. **9(9)**: e0835, 2021.
- 10) Yoneshima Y, Morita S, Ando M, Nakamura A, Iwasawa S, Yoshioka H, Goto Y, Takeshita M, Harada T, Hirano K, Oguri T, Kondo M, Miura S, Hosomi Y, Kato T, Kubo T, Kishimoto J, Yamamoto N, Nakanishi Y, Okamoto I. **Phase 3 Trial Comparing Nanoparticle Albumin-**

- Bound Paclitaxel With Docetaxel for Previously Treated Advanced NSCLC.** *J Thorac Oncol.* **16(9)**: 1523-1532, 2021.
- 11) Hori Y, Fukumitsu K, Naitoh I, Onuki T, Hayashi K, Niimi A, Kataoka H. **Endoscopic ultrasound-guided transesophageal drainage for acute mediastinitis caused by pancreatic fistula.** *Respir Med Case Rep.* **34**:101480, 2021.
 - 12) Udagawa H, Sugiyama E, Harada T, Atagi S, Koyama R, Watanabe S, Nakamura Y, Harada D, Hataji O, Tanaka F, Kida H, Satouchi M, Maeno K, Inoue A, Yoh K, Yamane Y, Urata Y, Yoshioka H, Yamanaka T, Goto K. **Bevacizumab plus platinum-based chemotherapy in advanced non-squamous non-small-cell lung cancer: a randomized, open-label phase 2 study (CLEAR).** *Transl Lung Cancer Res.* **10(7)**: 3059-3070, 2021.
 - 13) Niimi A. **Natural Language Processing: A Promising Research Tool of Chronic Cough for the Big Data Era.** *Chest.* **159(6)**: 2149-2150, 2021.
 - 14) Kishimoto Y, Shirai T, Akamatsu T, Suzuki T, Asada K, Kanemitsu Y, Niimi A. **Validation of the Japanese version of the Manchester Cough in Lung Cancer Scale.** *Respir Investig.* **59(6)**: 865-870, 2021.
 - 15) Niimi A. **Redefining "one airway, one disease": Broader classification considering specific pathophysiology and treatment.** *Respir Investig.* **59(5)**: 573-575, 2021.
 - 16) Niimi A. **Narrative Review: how long should patients with cough variant asthma or non-asthmatic eosinophilic bronchitis be treated?** *J Thorac Dis.* **13(5)**: 3197-3214, 2021.
 - 17) Miura Y, Ohkubo H, Niimi A, Kanazawa S. **Suppression of epithelial abnormalities by nintedanib in induced-rheumatoid arthritis-associated interstitial lung disease mouse model.** *ERJ Open Res.* **7(4)**: 00345-2021, 2021.
 - 18) Gono T, Masui K, Nishina N, Kawaguchi Y, Kawakami A, Ikeda K, Kirino Y, Sugiyama Y, Tanino Y, Nunokawa T, Kaneko Y, Sato S, Asakawa K, Ukichi T, Kaieda S, Naniwa T, Okano Y, Kuwana M. **The Multicenter Retrospective Cohort of Japanese Patients with Myositis-Associated ILD (JAMI) Investigators. Risk Prediction Modeling Based on a Combination of Initial Serum Biomarker Levels in Polymyositis/Dermatomyositis-Associated Interstitial Lung Disease.** *Arthritis Rheumatol.* **73(4)**: 677-686, 2021.
 - 19) Mukae H, Kaneko T, Obase Y, Shinkai M, Katsunuma T, Takeyama K, Terada J, Niimi A, Matsuse H, Yatera K, Yamamoto Y, Azuma A, Arakawa H, Iwanaga T, Ogawa H, Kurahashi K, Gon Y, Sakamoto H, Shibata Y, Tamada T, Nishioka Y, Haranaga S, Fujieda S, Miyashita N, Mochizuki H, Yokoyama A, Yoshihara S, Tamaoki J. **JRS guidelines committee for the management of cough and sputum. The Japanese respiratory society guidelines for the management of cough and sputum (digest edition).** *Respir Investig.* **59(3)**: 270-290, 2021.
 - 20) Tamechika SY, Isogai S, Maeda S, Naniwa T, Niimi A. **Improvement of Chronic Rhinosinusitis and Reduction of the Myeloperoxidase-Antineutrophil Cytoplasmic Antibody Titer in a Patient with Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis by Additional Mepolizumab.** *Case Rep Rheumatol.* **29**: 2021:5561762, 2021.

- 21) Abdulqawi R, Satia I, Kanemitsu Y, Khalid S, Holt K, Dockry R, Woodcock AA, Smith JA. **A Randomized Controlled Trial to Assess the Effect of Lidocaine Administered via Throat Spray and Nebulization in Patients with Refractory Chronic Cough.** *J Allergy Clin Immunol Pract*; **9**: 1640-1647. 2021
- 22) Ito K, Yamanaka T, Hayashi H, Hattori Y, Nishino K, Kobayashi H, Oya Y, Yokoyama T, Seto T, Azuma K, Fukui T, Kozuki T, Nakamura A, Tanaka K, Hirano K, Yokoi T, Daga H, Sakata S, Fujimoto D, Mori M, Maeno K, Aoki T, Tamura A, Miura S, Watanabe S, Akamatsu H, Hataji O, Suzuki K, Hontsu S, Azuma K, Bessho A, Kubo A, Okuno M, Nakagawa K, Yamamoto N. **Sequential therapy of crizotinib followed by alectinib for non-small cell lung cancer harbouring anaplastic lymphoma kinase rearrangement (WJOG9516L): A multicenter retrospective cohort study.** *Eur J Cancer*. **145**: 183-193, 2021.
- 23) Sunadome H, Matsumoto H, Tohda Y, Horiguchi T, Kita H, Kuwabara K, Tomii K, Otsuka K, Fujimura M, Ohkura N, Iwanaga T, Hozawa S, Niimi A, Kanemitsu Y, Nagasaki T, Tashima N, Ishiyama Y, Morimoto C, Oguma T, Tajiri T, Ito I, Ono J, Ohta S, Izuhara K, Hirai T. **Assessment of serum periostin level as a predictor of requirement for intensive treatment for type-2 inflammation in asthmatics in future: A follow-up study of the KiHAC cohort.** *Allergol Int*. **70(2)**: 252-254, 2021.
- 24) Niimi A. **PATHOPHYSIOLOGY AND NOVEL TREATMENT STRATEGY OF REFRACTORY/UNEXPLAINED CHRONIC COUGH.** *Arerugi*. **70(2)**: 112-117, 2021.
- 25) Tajiri T, Matsumoto H, Jinnai M, Kanemitsu Y, Nagasaki T, Iwata T, Inoue H, Nakaji H, Oguma T, Ito I, Niimi A. **Pathophysiological relevance of sputum MUC5AC and MUC5B levels in patients with mild asthma.** *Allergol Int*. **71(2)**: 193-199, 2021.
- 26) Omote N, Kanemitsu Y, Inoue T, Yonezawa T, Ichihashi T, Shindo Y, Sakamoto K, Ando A, Suzuki A, Niimi A, Ito S, Imaizumi K, Hashimoto N. **Successful Treatment with High-dose Steroids for Acute Exacerbation of Idiopathic Pulmonary Fibrosis Triggered by COVID-19.** *Intern Med*. **61(2)**: 233-236, 2021.
- 27) Naniwa T, Uehara K, Yamabe T, Ohmura SI. **Reintroduction of tocilizumab elicited macrophage activation syndrome in a patient with adult-onset Still's disease with a previous successful tocilizumab treatment.** *Mod Rheumatol Case Rep*. **5(2)**: 360-364, 2021.
- 28) Morimoto C, Matsumoto H, Nagasaki T, Kanemitsu Y, Ishiyama Y, Sunadome H, Oguma T, Ito I, Murase K, Kawaguchi T, Tabara Y, Niimi A, Muro S, Matsuda F, Chin K, Hirai T. **Gastroesophageal reflux disease is a risk factor for sputum production in the general population: the Nagahama study.** *Respir Res*. **22(1)**: 6, 2021.
- 29) Yap JMG, Ueda T, Kanemitsu Y, Takeda N, Fukumitsu K, Fukuda S, Uemura T, Tajiri T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Ugawa S, Niimi A. **AITC inhibits fibroblast-myofibroblast transition via TRPA1-independent MAPK and NRF2/HO-1 pathways and reverses corticosteroids insensitivity in human lung fibroblasts.** *Respir Res*. **22(1)**:51, 2021.

30) Oya Y, Yoshida T, Asada K, Oguri T, Inui N, Morikawa S, Ito K, Kimura T, Kunii E, Matsui T, Kubo A, Kato T, Abe T, Tsuda T, Hida T. **Clinical utility of liquid biopsy for EGFR driver, T790M mutation and EGFR amplification in plasma in patients with acquired resistance to afatinib.** BMC Cancer. **21(1)**: 57, 2021.

31) Ohmura SI, Yamabe T, Naniwa T. **Successful dose escalation of tofacitinib for refractory dermatomyositis and interstitial lung disease with anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibodies.** Mod Rheumatol Case Rep. **5(1)**: 76-81, 2021.

【和文業績】

田尻 智子. 加熱式タバコによる急性好酸球性肺炎. 呼吸器内科. **40(3)**: 283-287, 2021

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	新実 彰男	21(13)	21(13)	
教授	小栗 鉄也	6	6	
准教授	伊藤 穰	3	3	
准教授	前野 健	6	6	
准教授	難波 大夫	5(2)	5(2)	
准教授	竹村 昌也	2	2	
講師	大久保 仁嗣	5(1)	5(1)	
講師	前田 伸治	1	1	
助教	田尻 智子	8(4)	7(3)	1(1)
助教	上村 剛大	4(1)	4(1)	
助教	福田 悟史	4	4	
助教	金光 禎寛	13(1)	13(1)	
助教	福光 研介	5	5	
特任助教	武田 典久	3	3	

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	前田 浩義			
助教	中野 暁子	1	1	

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

論文も含む)

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	秋田 憲志			
教授	速水 芳仁			
准教授	高桑 修			

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

小栗 鉄也. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和4年度、600千円

田尻 智子. 文部科学省科学研究費（若手研究）. 令和3年度-令和4年度、300千円

前野 健. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和4年度、700千円

前野 健. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和4年度、100千円

金光 禎寛. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和4年度、1,300千円

前野 健. 受託研究費（西日本がん研究機構）. 令和3年度、1,402千円

難波 大夫. 受託研究費（ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社）. 令和3年度、167千円

難波 大夫. 治験費（医師主導治験）. 令和3年度、220千円

難波 大夫. 製販後調査（日本イーライリリー株式会社）. 令和3年度、55千円

金光 禎寛. 研究助成金（日本アレルギー学会）. 令和3年度、500千円

難波 大夫. 製販後調査（ノバルティスファーマ株式会社）. 令和3年度、22千円

金光 禎寛. 研究助成金（公益財団法人 MSD 生命科学財団）. 令和3年1月-令和4年12月、1,000千円

新実 彰男. 研究助成金（ベーリンガーインゲルハイム株式会社）. 令和3年度、500千円

難波 大夫. 製販後調査 (サノフィ株式会社). 令和3年度、385千円

福光 研介. 治験費 (アストラゼネカ株式会社). 令和3年度、11千円

新実 彰男. 研究助成金 (日本イーライリリー株式会社) 令和3年度、500千円

難波 大夫. 受託研究費 (学校法人東京女子医科大学). 令和3年度、300千円

田尻 智子. 受託研究費 (株式会社リニカルシミックヘルスケア・インスティテュート株式会社). 令和3年度、98千円

前野 健. 研究助成金 (ベーリンガーインゲルハイム株式会社) 令和3年度、200千円

大久保 仁嗣. 研究助成金 (日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社). 令和3年度、300千円

新実 彰男. 研究助成金 (大鵬薬品工業株式会社). 令和3年度、500千円

難波 大夫. 製販後調査 (中外製薬株式会社). 令和3年度、66千円

新実 彰男. 治験費 (バイエル薬品株式会社). 令和3年度、887千円

難波 大夫. 製販後調査 (日本化薬株式会社). 令和3年度、88千円

前野 健. 治験費 (有限会社メディカル・リサーチ・サポート) 令和3年度、352千円

田尻 智子. 受託研究費 (独立行政法人国立病院機構東京病院). 令和3年度、82千円

前野 健. 受託研究費 (宝塚市立病院). 令和3年度、85千円

【その他】

国際学会発表 (ポスター)

Fujikawa M, Tajiri T, Masaya Takemura, Kenju Nakao, Sayaka Yamamoto, Yoshihide Inoue, Norihisa Takeda, Kensuke Fukumitsu, Satoshi Fukuda, Yoshihiro Kanemitsu, Takehiro Uemura, Hitoshi Ohkubo, Ken Maeno, Yutaka Ito, Tetsuya Oguri, Satoru Takahashi, Akio Niimi. An autopsy case of immune-related severe colitis consequent to long-term treatment with nivolumab in a patient with non-small cell lung cancer. The 25th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology. 20-21 Nov. 2021

国内学会発表 (ポスター)

西山裕乃、田尻智子、黒川良太、武田典久、福光研介、金光禎寛、福田悟史、上村剛大、大久保仁嗣、竹村昌也、伊藤穰、小栗鉄也、沓名健雄、西尾昌之、吉川公章、

新実彰男. 成人喘息患者における百日咳感染率と喘息病態との関連. 第70回日本アレルギー学会学術大会 2021年10月8-10日

田尻智子、河内寛明、吉田寛、野口進、深尾あかり、寺下聡、池上達義、堀川禎夫、杉田孝和、新実彰男. 急性上気道炎患者における改訂Fスケール問診票を用いた胃食道逆流症の検討. 第61回日本呼吸器学会学術講演会 2021年4月23-25日

国内学会発表（口演）

上村剛大、鈕持広知、福田悟史、宮脇太一、羽間大祐、神戸寛史、寺岡俊輔、松尾規和、山口哲平、益田武、横山俊秀、大坪孝平、橋本大哉、山本信之、中川和彦. 第62回日本肺癌学会学術集会 2021年11月26-28日

伊藤圭馬、田尻智子、西山裕乃、黒川良太、武田典久、福光研介、福田悟史、金光禎寛、上村剛大、高桑修、大久保仁嗣、竹村昌也、前野健、伊藤穰、小栗鉄也、新実彰男.

当院の喘息・ACOに対するICS/LABA/LAMA製剤(Single Inhaler Triple Therapy)を用いた治療の現状と、有効性予測因子の検討. 第70回日本アレルギー学会学術大会 2021年10月8-10日

小栗梓、田尻智子、山本清花、井上芳次、武田典久、福光研介、福田悟史、金光禎寛、上村剛大、大久保仁嗣、竹村昌也、前野健、伊藤穰、小栗鉄也、新実彰男. 持続的胸腔ドレナージ及び抗菌薬治療後にEndobronchial Watanabe Spigotを用いた気管支充填術が有効であった有癭性膿胸の1例. 第61回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会. 2021年7月3日

<研究活動実績>

【欧文業績】

(桜山)

- 1] Sugiura T, Dohi Y, Takagi Y, Yokochi T, Yoshikane N, Suzuki K, Tomiishi T, Nagami T, Iwase M, Takase H, Seo Y, Ohte N. **A body shape index could serve to identify individuals with metabolic syndrome and increased arterial stiffness in the middle-aged population.** Clin Nutr ESPEN. **46**: 251-258, 2021.
- 2] Inoue K, Khan FH, Remme EW, Ohte N, García-Izquierdo E, Chetrit M, Moñivas-Palomero V, Mingo-Santos S, Andersen ØS, Gude E, Andreassen AK, Wang TKM, Kikuchi S, Stugaard M, Ha JW, Klein AL, Nagueh SF, Smiseth OA. **Determinants of left atrial reservoir and pump strain and use of atrial strain for evaluation of left ventricular filling pressure.** Eur Heart J Cardiovasc Imaging. **23(1)**: 61-70, 2021.
- 3] Yamamoto M, Seo Y, Ishizu T, Nakagawa D, Sato K, Machino-Ohtsuka T, Nishi I, Hamada-Harimura Y, Sai S, Sugano A, Baba M, Higuchi H, Aonuma K, Ohte N, Ieda M. **Comparison of Soluble ST2, Pentraxin-3, Galectin-3, and High-Sensitivity Troponin T of Cardiovascular Outcomes in Patients With Acute Decompensated Heart Failure.** J Card Fail. **27(11)**: 1240-1250, 2021.
- 4] Nakazawa N, Seo Y, Ishizu T, Sato K, Yamamoto M, Machino-Ohtsuka T, Hoshi T, Sato A, Kawakami Y, Ohte N, Ieda M. **The determinants of plasma brain natriuretic peptide level in severe aortic valve stenosis patients undergoing transcatheter aortic valve implantation.** J Cardiol. **78(5)**: 413-422, 2021.
- 5] Fukuta H, Goto T, Wakami K, Kamiya T, Ohte N. **Effect of renin-angiotensin system inhibition ejection fraction: a meta-analysis of randomized controlled trials.** Heart Fail Rev. **26(6)**: 1477-1484, 2021.
- 6] Goto T, Mori K, Nakayama T, Yamamoto J, Shintani Y, Wakami K, Fukuta H, Seo Y, Ohte N. **Multimorbidity, polypharmacy, and mortality in older patients with pacemakers.** J Arrhythm. **38(1)**: 145-154, 2021.
- 7] Muto K, Wakami K, Yamamoto J, Banno T, Kikuchi S, Goto T, Fukuta H, Seo Y, Ohte N. **Correlation Between Longitudinal Strain in the Apical Segments of the Left Ventricle at End-Systole Obtained by 2-Dimensional Speckle-Tracking Echocardiography and Left Ventricular Relaxation.** Circ J. **85(9)**: 1575-1583, 2021.
- 8] Banno T, Wakami K, Kikuchi S, Fujita H, Goto T, Fukuta H, Seo Y, Ohte N. **Non-Invasive Estimation of Left Ventricular Filling Pressure Based on Left Atrial Area Strain Measured With Transthoracic 3-Dimensional Speckle Tracking Echocardiography in Patients With Coronary Artery Disease.** Circ Rep. **3(9)**: 520-529, 2021.
- 9] Yokoi M, Ito T, Wakami K, Sugiura T, Ohte N, Seo Y. **Early detection and progression of sepsis-related myocardial calcification with subsequent left ventricular systolic dysfunction: a case report.** J Cardiol Cases. **25(3)**: 130-132, 2021.
- 10] Fujita H, Yokoi M, Ito T, Nakayama T, Shintani Y, Sugiura T, Seo Y, Ohte N. **Unusual interventional treatment of spontaneous coronary artery dissection without stent implantation: a case series.** Eur Heart J Case Rep. **5(8)**: ytab306, 2021.
- 11] Goto T, Kikuchi S, Mori K, Nakayama T, Fukuta H, Seo Y, Narita H, Iida A, Ohte N. **Cardiac β -Adrenergic Receptor Downregulation, Evaluated by Cardiac PET, in Chronotropic Incompetence.** J Nucl Med. **62(7)**: 996-998, 2021.

- 12]Yokoi M, Ito T, Fujita H, Sugiura T, Seo Y, Ohte N. **Impact of malondialdehyde-modified low-density lipoprotein on clinical outcomes after fractional flow reserve-guided deferral of revascularization.** *Heart Vessels.* **36(5):** 605-614, 2021.
- 13]Kawada Y, Kitada S, Hachiya K, Kato M, Nakasuka K, Kikuchi S, Seo Y, Ohte N. **Left Ventricular Hypertrophic Change Indicating Poor Prognosis in Patients With Normal-Flow, Low-Gradient Severe Aortic Stenosis With Preserved Left Ventricular Ejection Fraction.** *Circ Rep.* **3(6):** 345-353, 2021.
- 14]Seo Y, Ishizu T, Ieda M, Ohte N. **Clinical Usefulness of the HFA-PEFF Diagnostic Scoring System in Identifying Late Elderly Heart Failure With Preserved Ejection Fraction Patients.** *Circ J.* **85(5):** 604-611, 2021.
- 15]Goto T, Mori K, Murakami Y, Ohte N. **Impact of differences in embryonic origin on the electrical features of the giant right atrium in an elderly patient.** *HeartRhythm Case Rep.* **7(7):** 496-497, 2021.
- 16]Ohno K, Takase H, Sugiura T, Machii M, Nonaka D, Tokumaru M, Seo Y, Ohte N, Dohi Y. **Current status and recent changes in blood pressure and dietary salt consumption in Japanese individuals.** *Clin Exp Hypertens.* **43(3):** 287-294, 2021.
- 17]Ito T, Yokoi M, Fujita H, Sugiura T, Seo Y, Ohte N. **Myocardial Ischemia Due to Silent Spontaneous Coronary Artery Spasm Detected by Coronary Computed Tomography-Derived Fractional Flow Reserve (FFR(CT)).** *Circ J.* **85(4):** 398, 2021.
- 18]Yokoi M, Fujita H, Ogawa T, Ito T, Seo Y, Suda H, Ohte N. **Intravascular Ultrasound Findings of BioGlue Surgical Adhesive Coronary Embolism After Ascending Aorta Replacement.** *JACC Cardiovasc Interv.* **14(4):** e39-e41, 2021.
- 19]Sugiura T, Dohi Y, Takase H, Fujii S, Seo Y, Ohte N. **Analytical evaluation of serum non-transferrin-bound iron and its relationships with oxidative stress and cardiac load in the general population.** *Medicine (Baltimore).* **100(7):** e24722, 2021.
- 20]Nakasuka K, Kitada S, Kawada Y, Kato M, Kikuchi S, Seo Y, Ohte N. **Future bradyarrhythmia in patients with hypertrophic cardiomyopathy.** *Int J Cardiol Heart Vasc.* **33:** 100735, 2021.
- 21]Yamamoto M, Seo Y, Iida N, Ishizu T, Yamada Y, Nakatsukasa T, Nakagawa D, Kawamatsu N, Sato K, Machino-Ohtsuka T, Aonuma K, Ohte N, Ieda M. **Prognostic Impact of Changes in Intrarenal Venous Flow Pattern in Patients With Heart Failure.** *J Card Fail.* **27(1):** 20-28, 2021.
- 22]Fukuta H, Goto T, Wakami K, Kamiya T, Ohte N. **Effect of beta-blockers on heart failure severity in patients with heart failure with preserved ejection fraction: a meta-analysis of randomized controlled trials.** *Heart Fail Rev.* **26(1):** 165-171, 2021.

(東部)

- 1]Kawada Y, Kitada S, Hachiya K, Kato M, Nakasuka K, Kikuchi S, Seo Y, Ohte N. **Left Ventricular Hypertrophic Change Indicating Poor Prognosis in Patients With Normal Flow, Low-Gradient Severe Aortic Stenosis With Preserved Left Ventricular Ejection Fraction.** *Circ Rep.* **3(6):** 345-353, 2021.
- 2]Goto T, Mori K, Murakami Y, Ohte N. **Impact of differences in embryonic origin on the electrical features of the giant right atrium in an elderly patient.** *HeartRhythm Case Rep.* **7(7):** 496-497, 2021.

【和文業績】

(桜山)
1] 中須賀 公亮、森 賢人、北田 修一、後藤 利彦、瀬尾 由広、大手 信之. リードスペースメーカー植込み後にたこつぼ様壁運動異常を認めた 2 例. 心臓. 53(10): 1100-1107, 2021.

(東部)
1] 山下 純世. 検査のための基礎知識 心電図検査. 救急医学. 45(7): 891-903, 2021.

【各教員の論文数 (桜山)】

職 名	氏 名	論文数	内 訳	
			欧 文	和 文
教授 (2021.3 まで)	大手 信之	25(19)	24(18)	1(1)
教授 (2021.6 から)	瀬尾 由広	20(1)	19(1)	1(0)
准教授	杉浦 知範	7(2)	7(2)	0
講師	後藤 利彦	9(4)	8(4)	1(0)
講師	伊藤 剛	5(1)	5(1)	0
助教	若見 和明	6(0)	6(0)	0
助教	藤田 浩志	5(1)	5(1)	0
助教	北田 修一	4(0)	3(0)	1(0)
助教	中須賀 公亮	4(2)	3(1)	1(1)
助教	中山 貴文	3(0)	3(0)	0
特任助教	森 賢人	5(0)	4(0)	1(0)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数 (東部)】

職 名	氏 名	論文数	内 訳	
			欧 文	和 文
教授	村上 善正	2(0)	2(0)	0
准教授	佐伯 知昭	0	0	0
准教授	山下 純世	1(1)	0	1(1)
講師	村井 俊介	0	0	0
講師	市橋 拓	0	0	0
講師診療 担当	関本 暁	0	0	0
講師診療 担当	蜂矢 健太	2(0)	2(0)	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数】 (西部)

職 名	氏 名	論文数	内 訳	
			欧 文	和 文
教授	矢島 和裕	0	0	0
講師診療 担当	杉浦 真人	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【表彰・受賞】

(桜山)

1]瀬尾 由広. 一般社団法人日本心エコー学会. Elderly Japanese Standard Data of Echocardiography; From J-LONG study. Journal of Echocardiography, Best Manuscript Award.

2]中須賀 公亮. 第1回日本不整脈心電学会東海北陸地方会. 最優秀演題賞. 令和3年3月

3]瀬尾 由広. 公益社団法人日本超音波医学会. 松尾賞. 令和3年5月

4]瀬尾 由広. 一般社団法人日本循環器学会. Circulation Journal Award 優秀賞. Clinical Usefulness of the HFA-PEFF Diagnostic Scoring System in Identifying Late Elderly Heart Failure With Preserved Ejection Fraction Patients. 令和4年2月

(西部)

1]矢島 和裕. 日本不整脈学会地方会. ベストアブストラクト賞. ExTRa mapping における%NP 問題について. 2022年3月5日

【研究費獲得実績】

(桜山)

1]伊藤 剛. 文部科学省科学研究費(若手研究・代表). 令和3年度-令和5年度、2,400千円

2]若見 和明. 文部科学省科学研究費(基盤C・代表). 令和3年度-令和5年度、2,200千円

3]中山 貴文. 文部科学省科学研究費(若手・代表). 令和3年度-令和7年度、2,500千円

4]森 賢人. 文部科学省科学研究費(若手研究・代表). 令和2年度-令和5年度、800千円

5]杉浦 知範. 文部科学省科学研究費(基盤C・代表). 令和2年度-令和5年度、600千円

6]北田 修一. 文部科学省科学研究費(基盤C・代表). 平成31年度-令和4年度、300千円

7]中須賀 公亮. 文部科学省科学研究費(若手研究・代表). 平成31年度-令和4年度、300千円

8]後藤 利彦. 文部科学省科学研究費(基盤C・代表). 平成30年度-令和4年度、700千円

9]瀬尾 由広. 共同研究費(キャノンメディカルシステムズ株式会社). 令和3年7月-令和4年7月、869千円

10]瀬尾 由広. 研究助成金(持田製薬株式会社). 令和3年12月-令和11年3月、168千円

11]瀬尾 由広. 研究助成金(日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社). 令和3年5月-令和4年3月、420千円

- 12]中山 貴文. 製販後調査研究費(持田製薬株式会社). 令和3年10月-令和4年3月、66千円
- 13]杉浦 知範. 製販後調査研究費(バイエル薬品株式会社). 令和3年10月、99千円
- 14]杉浦 知範. 製販後調査研究費(アステラス製薬株式会社). 令和3年10月、66千円
- 15]藤田 浩志. 製販後調査研究費(日本ライフライン株式会社). 令和3年10月-令和5年3月、260千円
- 16]杉浦 知範. 製販後調査研究費(日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社). 令和3年4月、594千円
- 17]中山 貴文. 製販後調査研究費(日本新薬株式会社). 平成30年10月-令和5年9月、264千円(処理日令和3年4月)
- 18]中山 貴文. 製販後調査研究費(日本新薬株式会社). 平成30年10月-令和5年9月、264千円(処理日令和3年10月)
- 19]杉浦 知範. 治臨研(国立大学法人 佐賀大学). 令和3年10月、96千円

【その他】

(桜山)

≪国内学会発表(口頭)≫

- 1]Yoshihiro Seo. 第86回日本循環器学術集会. Advance of Echocardiographic Imaging in Assessing of Cardiac Dyssynchrony. 2022年3月11日-13日
- 2]Yoshihiro Seo. 第86回日本循環器学術集会. Heart failure associated with arrhythmia. 2022年3月11日-13日
- 3]Yoshihiro Seo. 第86回日本循環器学術集会. Clinical Usefulness of the HFA-PEFF Diagnostic Scoring System in Identifying Late Elderly Heart Failure With Preserved Ejection Fraction Patients. 2022年3月11日-13日
- 4]若見和明、菊池祥平、藤田浩志、後藤利彦、福田英克、大手信之、瀬尾由広. 第86回日本循環器学術集会. Left Atrial Function Assessed by 3-dimensional Echocardiography is Useful for Predicting Future Heart Failure in Patients with Coronary Artery Disease. 2022年3月11日-13日
- 5]北田修一、菊池祥平、瀬尾由広. 第86回日本循環器学術集会. Newer treatment strategy for heart failure in consideration of renal circulation Topics 10: 心不全における多臓器障害:最新の話. 2022年3月11日-13日
- 6]北田修一、中須賀公亮、山本惇貴、中山貴文、菊池祥平、瀬尾由広. 第86回日本循環器学術集会. Impaired Left Atrial Contraction and Relaxation Associated with New-onset Heart Failure with Preserved Ejection Fraction and Paroxysmal Atrial Fibrillation. 2022年3月11日-13日
- 7]Tsuyoshi Ito, Kosuke Nakasuka, Takafumi Nakayama, Hiroshi Fujita, Masashi Yokoi, Tomonori Sugiura, Yoshihiro Seo. 第86回日本循環器学術集会. Effect of Intraday Glucose Variability on Coronary Plaque Instability: A Multislice Computed Tomography Study. 2022年3月11日-13日
- 8]Junki Yamamoto, Shuichi Kitada, Takafumi Nakayama, Shohei Kikuchi, Kazuaki Wakami, and Yoshihiro Seo. 第86回日本循環器学術集会. Association Between Shortening of Isovolumic Contraction Time with Ivabradine Therapy and Left Ventricular Reverse Remodeling in Heart

Failure with Reduced Ejection Fraction. 2022年3月11日-13日

9]Tsuyoshi Ito, Takafumi Nakayama, Masashi Yokoi, Hiroshi Fujita, Yoshihiro Seo. 第86回日本循環器学会学術集会. Utility of Percutaneous Transluminal Alcohol Septal Ablation with Pullback Pressure Gradient Assessment for Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy Complicated by Aortic Stenosis. 2022年3月11日-13日

10]中須賀公亮、森賢人、菊池祥平、北田修一、後藤利彦、瀬尾由広. 第86回日本循環器学会学術集会. The Efficacy of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction diagnosed using newly-proposed HFA-PEFF Score. 2022年3月11日-13日

11]中須賀公亮、森賢人、後藤利彦、瀬尾由広. 第86回日本循環器学会学術集会. Association between Atrial Fibrillation Drivers Analyzed with Real-time Phase Mapping and Atrial Electrical Substrates in Patients with Non-paroxysmal Atrial Fibrillation. 2022年3月11日-13日

12]瀬尾由広. ECHO Awaji CV imaging 2021. 体うっ血をどう判定するか. 2021年12月4日-5日

13]瀬尾由広. ECHO Awaji CV imaging 2021. 最近の心不全の考え方: HFrEF・HFmrEF・HFpEF. 2021年12月4日-5日

14]北田修一、瀬尾由広. 日本心臓リハビリテーション学会第6・7回東海支部地方会. 薬物抵抗性のステージD心不全に対して外来運動療法を導入した1例. 2021年11月27日

15]瀬尾由広. 第11回日本心臓弁膜症学会. 内科: 三尖弁形態と三尖弁逆流の重症度評価; 心エコー図診断の課題と展望. 2021年11月20日-21日

16]瀬尾由広. ストラクチャークラブ・ジャパン 2021. Valve in Valve を極める Bioprosthetic Valve Failure とは? 2021年11月5日-6日

17]中山貴文. 日本内科学会第245回東海地方会. 心室中隔穿孔に対する閉鎖術後に発症し治療に難渋した非細菌性血栓性心内膜炎の1例. 2021年10月31日

18]瀬尾由広. 日本循環器学会第158回東海・第143回北陸合同地方会. 心不全の診断. 2021年10月23日-24日

19]山本惇貴、横井雅史、森賢人、藤田浩志、杉浦知範、瀬尾由広. 日本循環器学会第158回東海・第143回北陸合同地方会. 新型コロナウイルスワクチン2回接種後の副反応による心膜炎を発症したと考えられた1例. 2021年10月23日-24日

20]中須賀公亮、山本惇貴、中山貴文、横井雅史、森賢人、菊池祥平、伊藤剛、北田修一、藤田浩志、若見和明、後藤利彦、杉浦知範、瀬尾由広. 日本循環器学会第158回東海・第143回北陸合同地方会、第35回日本生体医工学会東海支部大会. 免疫関連有害事象(irAE)心筋炎に合併した完全房室ブロックにおける心電図フォローの重要性. 2021年10月23日-24日

21]中山貴文. 日本循環器学会第158回東海・第143回北陸合同地方会. 心室への腫瘍細胞浸潤を認め治療に難渋した急性骨髄性白血病の1例. 2021年10月23日-24日

22]伊藤剛. 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)第45回東海北陸地方会. 心筋梗塞と心不全を合併した冠動脈の破裂に対してカテーテル治療を行なった1例. 2021年10月16日-17日

23]横井雅史. 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)第45回東海北陸地方会.

FFR測定により血行再建を除外された冠動脈疾患の長期臨床成績における慢性腎不全および透析の影響。 2021年10月16日-17日

24]杉浦知範、村井俊介、山下純世、大手信之、瀬尾由広。第43回日本高血圧学会総会。非侵襲的に測定された大動脈圧波形と運動耐容能との関係性についての検討。 2021年10月15日

25]北田修一、瀬尾由広、中須賀公亮、菊池祥平、若見和明、大手信之。第25回日本心不全学会学術集会。左室収縮が保たれた左室駆出率とは？あらたなカットオフ値58%の提唱。 2021年10月1日-3日

26]北田修一、瀬尾由広、中須賀公亮、菊池祥平、若見和明、大手信之。第25回日本心不全学会学術集会。重症単独TRの治療は薬物療法で良く、手術は慎重にすべきである。 2021年10月1日-3日

27]中須賀公亮、北田修一、森賢人、後藤利彦、瀬尾由広。日本不整脈心電学会カテテルアブレーション関連秋季大会2021。左室駆出率が高度に低下した心不全症例における上位右房起源頻拍に対するカテテルアブレーション。 2021年9月23日-25日

28]中須賀公亮、北田修一、森賢人、後藤利彦、瀬尾由広。日本不整脈心電学会カテテルアブレーション関連秋季大会2021。電氣的リモデリングの指標でExTRa Mappingを考える。 2021年9月23日-25日

29]瀬尾由広。第69回日本心臓病学会学術集会。心不全における臓器うっ血の評価と臨床応用～心腎連関を中心に～。 2021年9月17日-19日

30]瀬尾由広。第69回日本心臓病学会学術集会。最近フォローしていなかった循環器の話 弁膜症の診断・治療-ガイドラインのポイント。 2021年9月17日-19日

31]杉浦知範、村井俊介、大手信之、瀬尾由広。第69回日本心臓病学会学術集会。日本心臓病学会学術集会。運動負荷による中心血圧脈波成分の変化および運動耐容能との関連性。 2021年9月17日-19日

32]中須賀公亮、森賢人、後藤利彦、瀬尾由広、大手信之。第69回日本心臓病学会学術集会。心房頻拍性不整脈に対するカテテルアブレーション後の心房抗頻拍ペーシング：心内心電図による検討。 2021年9月17日-19日

33]瀬尾由広。日本超音波医学会 第42回中部地方会。高齢化社会における弁膜症の超音波診断とそのピットフォール。 2021年9月5日

34]瀬尾由広。日本心エコー図学会第30回夏期講習会。心房性MR。 2021年7月17日-18日

35]瀬尾由広。日本心エコー図学会第30回夏期講習会。COVID-19と心エコー図検査。 2021年7月17日-18日

36]杉浦知範、市橋拓、村井俊介、大手信之、瀬尾由広。第157回日本循環器学会東海地方会。腹部大動脈瘤を有する患者の上腕および中心血圧：健常者との比較検討。 2021年7月10日

37]中須賀公亮、北田修一、森賢人、後藤利彦、瀬尾由広。第157回日本循環器学会東海地方会。アブレーションによるsinus node modificationを行った低左心機能合併不適切洞頻拍の1例。 2021年7月10日

38]森賢人、後藤利彦、中山貴文、中須賀公亮、伊藤剛、若見和明、杉浦知範、瀬尾由広、

大手信之. 第 157 回日本循環器学会東海地方会. QT 延長を伴う左室収縮低下例における多形心室頻拍に上室期外収縮の関与が考えられた 1 例. 2021 年 7 月 10 日

39]横井雅史. 第 157 回日本循環器学会東海地方会. 敗血症性ショック後に出現し心機能障害をきたした敗血症関連心筋石灰化の 1 例. 2021 年 7 月 10 日

40]山本惇貴、北田修一、横井雅史、中須賀公亮、瀬尾由広. 第 157 回日本循環器学会東海地方会. MitraClip 後に非閉塞性腸間膜虚血が疑われた特発性拡張型心筋症の 1 例. 2021 年 7 月 10 日

41] Kosuke Nakasuka, Shuichi Kitada, Kento Mori, Shohei Kikuchi, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo, Nobuyuki Ohte. 第 67 回日本不整脈心電学会学術大会. Intra-procedural Changes of Left Atrial Pressure during Catheter Ablation for Atrial Fibrillation. 2021 年 7 月 1 日-4 日

42]中山貴文. 日本超音波医学会第 94 回学術集会. 左室肥大や S 字状中隔の存在はアンスラサイクリン心毒性のリスクマーカーとなる. Left ventricular hypertrophy and sigmoid septum as risk factors of anthracycline-induced cardiotoxicity. 2021 年 5 月 21 日-23 日

43]杉浦知範、村井俊介、山下純世、瀬尾由広、大手信之. 第 9 回臨床高血圧フォーラム. 多様性が「心臓」をまもる-高血圧診療の智慧と工夫. 2021 年 5 月 15 日-16 日

44]瀬尾由広. 第 7 回九州心臓弁膜症カンファレンス. 右室機能. 2021 年 5 月 8 日

45]瀬尾由広. 日本心エコー図学会第 32 回学術集会. 高齢者 HFpEF 診断におけるヨーロッパ心不全学会提唱 HFpEF 診断スコアシステムへの期待と課題. 2021 年 4 月 23 日-25 日

46]瀬尾由広. 日本心エコー図学会第 32 回学術集会. 日本心エコー図学会の立場としての対応について. 2021 年 4 月 23 日-25 日

47]中山貴文. 日本心エコー図学会第 32 回学術集会. 心エコー図検査における左室内腔、壁厚の適切な計測位置の検討. Analysis of the appropriate position for the measurements of left ventricular chamber. 2021 年 4 月 23 日-25 日

48]瀬尾由広. 第 7 回日本心筋研究会. CTRCD の心エコー図診断. 2021 年 4 月 17 日

49]Takafumi Nakayama, Yoshihiro Seo, Junki Yamamoto, Tsuyoshi Itoh, Kazuaki Wakami, Toshihiko Gotoh, Tomonori Sugiura, Nobuyuki Ohte. 第 85 回日本循環器学会学術集会. Vulnerable Left Ventricular Remodeling as a Risk for Anthracycline-Induced Cardiotoxicity. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

50]Takafumi Nakayama, Yoshihiro Seo, Kazuaki Wakami, Toshihiko Goto, Tomonori Sugiura, Nobuyuki Ohte. 第 85 回日本循環器学会学術集会. The Accuracy of the Echocardiographic Measurements at the Mitral Valve Leaflet Tips Level and the Mid Ventricular Level. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

51]Yoshihiro Seo, Nobuyuki Ohte. 第 85 回日本循環器学会学術集会. Renal congestion imaging by Doppler ultrasound; Current status and future perspective. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

52]Yoshihiro Seo. 第 85 回日本循環器学会学術集会. Pathophysiological and Clinical Advances in Interpretations of Renal Venous Doppler Flow in Heart Failure. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

53]Shuichi Kitada, Yoshihiro Seo, Kosuke Nakasuka, Shohei Kikuchi, Nobuyuki Ohte. 第 85 回日本循環器学会学術集会. Exaggerated Left Atrial Booster Function Associates with Worse Exercise Tolerance in Patients with Atrial Fibrillation and Preserved Ejection Fraction. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

54]杉浦知範、瀬尾由広、大手信之. 第 85 回日本循環器学会学術集会. Examination of Large Artery Atherosclerosis may Suggest Early-stage Small Artery Retinopathy. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

55]杉浦知範、瀬尾由広、大手信之. 第 85 回日本循環器学会学術集会. Analytical Evaluation of Serum Non-transferrin-bound Iron and Its Relationships with Oxidative Stress and Cardiac Load under Physiological Conditions. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

56]後藤利彦、中山貴文、山本惇貴、藤田浩志、若見和明、福田英克、瀬尾由広、大手信之. 第 85 回日本循環器学会学術集会. Cranial Shifts in the Locations of Pacemaker in Patients with Chronotropic Incompetence. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

57]菊池祥平、北田修一、後藤利彦、瀬尾由広、大手信之. 第 85 回日本循環器学会学術集会. Sympathetic Nervous Denervation of Left Ventricle in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

58]藤田浩志、杉浦知範、伊藤剛、山本惇貴、菊池祥平、若見和明、中山貴文、後藤利彦、瀬尾由広、大手信之. 第 85 回日本循環器学会学術集会. Evaluation of Short-term Changes in Aortic Pressure and Stiffness after Transcatheter Aortic Valve Implantation. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

59]Toshihiko Goto, Kento Mori, Kosuke Nakasuka, Junki Yamamoto, Takafumi Nakayama, Hiroshi Fujita, Kazuaki Wakami, Hidekatsu Fukuta, Yoshihiro Seo, Nobuyuki Ohte. 第 85 回日本循環器学会学術集会. Multimorbidity, Polypharmacy, and Mortality in Elderly Patients with Pacemaker. 2021 年 3 月 26 日- 3 月 28 日

60]中須賀公亮. 第 1 回日本不整脈心電学会東海・北陸支部地方会. 心房細動に伴う頻拍誘発性心筋症と左房リザーバー機能. 2021 年 3 月 6 日

《国内学会発表（ポスター）》

1]杉浦知範、大手信之、瀬尾由広. 第 86 回日本循環器学術集会. Impacts of serum uric acid on functional and morphological atherosclerosis are greater in females, as compared to males. 2022 年 3 月 11 日-13 日

2]後藤利彦、菊池祥平、森賢人、中山貴文、若見和明、福田英克、瀬尾由広. 第 86 回日本循環器学術集会. Cardiac Presynaptic Function Evaluated by Cardiac PET in Patients with Chronotropic Incompetence. 2022 年 3 月 11 日-13 日

3]藤田浩志、山本惇貴、菊池祥平、伊藤剛、若見和明、杉浦知範、瀬尾由広. 第 86 回日本循環器学術集会. The Clinical Implications of Changes in Central Hemodynamics after Transcatheter Aortic Valve Implantation. 2022 年 3 月 11 日-13 日

4]Kosuke Nakasuka, Kento Mori, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo. 第 86 回日本循環器学術集会. Association between Atrial Fibrillation Drivers Analyzed with Real-time Phase Mapping and Atrial Electrical Substrates in Patients with Non-paroxysmal Atrial Fibrillation. 2022 年 3 月 11 日-13 日

5]Kosuke Nakasuka, Kento Mori, Shohei Kikuchi, Shuichi Kitada, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo. 第 86 回日本循環器学術集会. The Efficacy of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction diagnosed using newly-proposed HFA-PEFF Score. 2022 年 3 月 11 日-13 日

6]中山貴文、山本惇貴、菊池祥平、若見和明、北田修一、瀬尾由広. 第 86 回日本循環器学術集会. The Association of ABO Blood Type with the Clinical Prognosis in Patients Undergoing Dialysis. 2022 年 3 月 11 日-13 日

7]Takafumi Nakayama, Junki Yamamoto, Masashi Yokoi, Shohei Kikuchi, Kazuaki Wakami, Shuichi Kitada, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo. 第 86 回日本循環器学術集会. Prognostic Impact of Ventricular Sigmoid Septum in Patients Undergoing Dialysis. 2022 年 3 月 11 日-13 日

8]Kento Mori, Toshihiko Gotoh, Kosuke Nakasuka, Kazuaki Wakami, Tomonori Sugiura, Hidekatsu Fukuta, Yoshihiro Seo. 第 86 回日本循環器学術集会. Efficacy of Catheter Ablation for Atrial Tachycardia Emerging during Ablation for Atrial Fibrillation. 2022 年 3 月 11 日-13 日

9]Tomonori Sugiura, Shunsuke Murai, Sumiyo Yamashita, Nobuyuki Ohte, Yoshihiro Seo. 第 86 回日本循環器学術集会. Associations between Changes in Aortic Stiffness by Exercise and Exercise Tolerance in Patients at the Risk Stage of Heart Failure. 2022 年 3 月 11 日-13 日

10]Kento Mori, Toshihiko Goto, Syohei Kikuchi, Kousuke Nakasuka, Takafumi Nakayama, Kazuaki Wakami, Hidekatsu Fukuta, Yoshihiro Seo, Nobuyuki Ohte. 第 67 回日本不整脈心電学会学術大会. Impact of cardiac beta-adrenergic receptor density evaluated by cardiac PET on chronotropic incompetence. 2021 年 7 月 1 日-4 日

11]後藤利彦、森賢人、山本惇貴、中山貴文、中須賀公亮、若見和明、福田英克、瀬尾由広、大手信之. 第 67 回日本不整脈心電学会学術大会. Impaired cranial shift in the pacemaker location in patients with chronotropic Incompetence. 2021 年 7 月 1 日-4 日

12]中山貴文. 第 7 回日本心筋研究会. 肥大型心筋症患者における心内膜心筋生検での線維化量の臨床的意義. 2021 年 4 月 17 日

【その他】 (東部)

≪ 国際学会発表(口頭) ≫

1]Sumiyo Yamashita, Nobuyuki Ohte. The Joint Meeting of the European Society of Hypertension (ESH) and the International Society of Hypertension (ISH)2021. Double product can be reduced by CPAP in the sleep apnea syndrome patients. 2021 年 4 月 11 日-14 日

≪ 国内学会発表(口頭) ≫

1]Satoru Sekimoto, Tomoaki Saeki, Yoshimasa Murakami, Nobuyuki Ohte. 第 86 回日本循環器学会学術集会. Investigation of leapfrog conduction into antrum of left pulmonary vein isolation line. 2022 年 3 月 11 日-3 月 13 日

2]関本暁、佐伯知昭、村上善正. 第 2 回日本不整脈心電学会東海・北陸支部地方会. CS musculature と左房下壁を巡回する心房頻拍の一例. 2022 年 3 月 5 日

3]佐伯知昭、市橋拓、関本暁、蜂矢健太、村上善正. 第 245 回日本内科学会東海地方会. 外来で診断できなかった巨大心房中隔欠損の 1 例. 2021 年 10 月 31 日

4]蜂矢健太、関本暁、市橋拓、村井俊介、山下純世、佐伯知昭、村上善正、大手信之. 日本循環器学会第 158 回東海・第 143 回北陸合同地方会. 新型コロナウイルスワクチン接種後に発症した劇症型心筋炎の 2 例. 2021 年 10 月 23 日-24 日

5]佐伯知昭. 日本循環器学会第 158 回東海・第 143 回北陸合同地方会. COVID-19 mRNA ワクチン接種後に劇症型心筋炎を発症し ECPELLA にて救命し得た 1 例. 2021 年 10 月 23 日-24 日

6]佐伯知昭、市橋拓、関本暁、蜂矢健太、山下純世、村上善正. 日本循環器学会第 158 回東海・第 143 回北陸合同地方会. ドネペジルの抗心不全作用. 2021 年 10 月 23 日-24 日

7]関本暁、蜂矢健太、市橋拓、村井俊介、山下純世、佐伯知昭、村上善正、大手信之. 日

本循環器学会第 158 回東海・第 143 回北陸合同地方会. Intercaval bundle と Bachmann's bundle 及び septopulmonary bundle の電氣的接続が疑われた心房細動の一例. 2021 年 10 月 23 日-24 日

8]市橋拓、蜂矢健太、関本暁、村井俊介、山下純世、佐伯知昭、村上善正、大手信之. 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)第 45 回東海北陸地方会. IVC フィルターにより腰動脈損傷をきたした一例. 2021 年 10 月 16 日-17 日

9]佐伯知昭、市橋拓、蜂矢健太、山下純世、関本暁、村上善正. 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)第 45 回東海北陸地方会. 慢性心房粗動に完全房室ブロックを合併した修正大血管転位症の一例. 2021 年 10 月 16 日-17 日

10]蜂矢健太、関本暁、市橋拓、村井俊介、山下純世、佐伯知昭、村上善正、大手信之. 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)第 45 回東海北陸地方会. VA-ECMO 導入後に経カテーテル的血栓除去術を行い救命し得た急性肺血栓塞栓症の一例. 2021 年 10 月 16 日-17 日

11]Tomoaki Saeki, Taku Ichihashi, Satoru Sekimoto, Kenta Hachiya, Sumiyo Yamashita, Yoshimasa Murakami, Nobuyuki Ohte. 第 25 回日本心不全学会学術集会. Total parenteral nutrition in hospitalized patients with decompensated heart failure. 2021 年 10 月 1 日-3 日

12]蜂矢健太、関本暁、市橋拓、村井俊介、山下純世、佐伯知昭、村上善正、大手信之. 第 157 回日本循環器学会東海地方会. 難治性心室細動に対し免疫抑制療法が奏功した炎症性心筋症の一例. 2021 年 7 月 10 日

13]関本暁、蜂矢健太、山下純世、佐伯知昭、村上善正. 第 157 回日本循環器学会東海地方会. Mitral isthmus block line における epicardial bridge の評価に pacing の位置が影響した心房頻拍の一例. 2021 年 7 月 10 日

14]佐伯知昭、関本暁、蜂矢健太、市橋拓、山下純世、村上善正. 第 157 回日本循環器学会東海地方会. 頻脈誘発性心筋症を併発した左心耳起源心房頻拍の一例. 2021 年 7 月 10 日

15]市橋拓、蜂矢健太、山下純世、佐伯知昭、村上善正. 第 244 回日本内科学会東海地方会. COVID 流行期における心肺蘇生・緊急カテーテル検査～当院での取り組み. 2021 年 6 月 27 日

16]市橋拓、蜂矢健太、関本暁、山下純世、佐伯知昭、村上善正. 第 244 回日本内科学会東海地方会. *Corynebacterium striatum* を起炎菌とした感染性心内膜炎に対し早期外科手術と抗菌薬治療で救命し得た 1 例. 2021 年 6 月 27 日

17]蜂矢健太、関本暁、市橋拓、山下純世、佐伯知昭、村上善正. 第 244 回日本内科学会東海地方会. サルモネラ菌血症の治療後に発症した感染性腹部大動脈瘤破裂の 1 例. 2021 年 6 月 27 日

18]佐伯知昭、市橋拓、関本暁、蜂矢健太、山下純世、村上善正. 第 244 回日本内科学会東海地方会. 収縮性心膜炎を合併した HFPEF の 1 例. 2021 年 6 月 27 日

19]佐伯知昭、市橋拓、関本暁、蜂矢健太、山下純世、村上善正. 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)第 44 回東海北陸地方会. 冠動脈解離を認めた急性冠症候群の一例. 2021 年 5 月 14 日-5 月 15 日

20]蜂矢健太、関本暁、市橋拓、山下純世、佐伯知昭、村上善正. 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)第 44 回東海北陸地方会. 当院における dRA (distal radial approach)の取り組み. 2021 年 5 月 14 日-5 月 15 日

【その他】
(西部)

《国内学会発表（口頭）》

1]矢島和裕. 第2回日本不整脈心電学会東海・北陸支部地方会. ベストアブストラクト賞. ExTRa mappingにおける%NP問題について. 2022年3月5日

2]矢島和裕. 第246回日本内科学会東海地方会. ExTRa マッピングで広範囲に高い興奮性を呈した持続性心房細動アブレーションの一例. 2022年2月20日

国内学会発表（ポスター）

1]矢島和裕、杉浦真人. 第86回日本循環器学会学術集会. Characteristics and Predictors in Patients with Cancer Associated Venous Thromboembolism. 2022年3月11-13日

《主要な学会・教育・社会貢献活動の参加状況》

(桜山)

《学会活動》

瀬尾 由広. 一般社団法人日本心エコー図学会. 副理事長

瀬尾 由広. 一般社団法人日本心不全学会. 理事

瀬尾 由広. 公益社団法人日本超音波医学会. 理事

瀬尾 由広. 一般社団法人日本内科学会. 評議員

瀬尾 由広. 一般社団法人日本循環器学会. 社員

瀬尾 由広. 一般社団法人日本心臓病学会. 社員(代議員)

瀬尾 由広. 日本成人病(生活習慣病)学会. 評議員

瀬尾 由広. 一般社団法人日本心血管画像動態学会. 評議員

瀬尾 由広. 日本循環器学会東海支部. 役員(幹事)

瀬尾 由広. Fellow, American Heart Association: FAHA

瀬尾 由広. Fellow, Japanese Circulation Society: FJCS

瀬尾 由広. Fellow, European Society of Cardiology: FESC

瀬尾 由広. Fellow, Japanese College of Cardiology: FJCC

中須賀 公亮. 日本サルコイドシス/肉芽腫性疾患学会. 評議員

中須賀 公亮. 日本生体医工学会. 評議員

中須賀 公亮. 日本循環器学会東海支部 若手委員

(東部)

《学会活動》

山下 純世. 日本高血圧学会. 評議員. ダイバーシティ推進委員会副委員長. 利益相反委員.

山下 純世. 日本高血圧学会・日本循環器病予防学会・日本動脈硬化学会・日本心臓病学会認定 循環器病予防療養指導士セミナー 講師

蜂矢 健太. 日本循環器学会東海支部. 若手委員

村上 善正. 日本不整脈心電学会. 評議員.

《社会貢献》

山下 純世. 令和3年度 大府市有識者懇話会委員

山下 純世. 名古屋市指定難病審査会委員. 愛知県指定難病審査会委員.

《教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績》

《教育活動》

(桜山)

瀬尾 由広. 第37回名古屋市立大学薬学部卒後教育講座. 心不全治療のニューパ

ラダイム. 2021年10月24日

瀬尾 由広. 名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ2021年第1期. 心不全を識り予防しましょう; 心不全パンデミック時代の到来を前に. 2021年7月2日

《教育活動》
(東部)

山下 純世. BRJ 心電図読影レクチャー (M1対象)

山下 純世. いびきと睡眠時の呼吸. 令和3年度 名古屋市女性会館前期主催講座【名古屋市立大学連携講座】.

山下 純世. 病態疾病論Ⅲ 循環器内科. 名古屋市立中央看護専門学校.

<研究活動実績>

【欧文業績】

Yonishi H, Namba-Hamano T, Hamano T, Hotta M, Nakamura J, Sakai S, Minami S, Yamamoto T, Takahashi A, Kobayashi W, Maeda I, Hidaka Y, Takabatake Y, Sakai N, Isaka Y. **Urinary mulberry bodies as a potential biomarker for early diagnosis and efficacy assessment of enzyme replacement therapy in Fabry nephropathy.** *Nephrol Dial Transplant.* **37(1):** 53-62, 2021.

Oka T, Hamano T, Ohtani T, Tanaka A, Doi Y, Yamaguchi S, Senda M, Sakaguchi Y, Matsui I, Nakamoto K, Sera F, Hikoso S, Nishino M, Sakata Y, Isaka Y. **Variability in estimated glomerular filtration rate and patients' outcomes in a real-world heart failure population.** *ESC Heart Fail.* **8(6):** 4976-4987, 2021.

Oka T, Hamano T, Ohtani T, Doi Y, Shimada K, Matsumoto A, Yamaguchi S, Hashimoto N, Senda M, Sakaguchi Y, Matsui I, Nakamoto K, Sera F, Hikoso S, Sakata Y, Isaka Y. **Renoprotection by long-term low-dose tolvaptan in patients with heart failure and hyponatremia.** *ESC Heart Fail.* **8(6):** 4904-4914, 2021.

Senda M, Hamano T, Fujii N, Ito T, Sakaguchi Y, Matsui I, Isaka Y, Moriyama T. **Exercise-induced hypercalcemia and vasopressin-mediated bone resorption.** *Osteoporos Int.* **32(12):** 2533-2541.

Nishimoto M, Murashima M, Yoshida H, Eriguchi M, Tasaki H, Fukata F, Kosugi T, Matsui M, Samejima K, Iseki K, Asahi K, Yamagata K, Fujimoto S, Konta T, Narita I, Moriyama T, Kasahara M, Shibagaki Y, Kondo M, Watanabe T, Kazuhiko Tsuruya K. **Impact of Self-Reported Walking Habit on Slower Decline in Renal Function among the General Population: A Longitudinal Study.** *J Nephrol* **34(6):** 1845-1853, 2021.

Nishimoto M, Murashima M, Kokubu M, Matsui M, Eriguchi M, Samejima K, Akai Y, Tsuruya K. **External Validation of a Prediction Model for Acute Kidney Injury Following Noncardiac Surgery.** *JAMA Network open* **4(10):** e2127362, 2021.

Doi Y, Tsujita M, Hamano T, Obi Y, Namba-Hamano T, Tomosugi T, Futamura K, Okada M, Hiramitsu T, Goto N, Nishiyama A, Takeda A, Narumi S, Watarai Y, Isaka Y. **The effect of cholecalciferol supplementation on allograft function in incident kidney transplant recipients: A randomized controlled study.** *Am J Transplant.* **21(9):** 3043-3054, 2021.

Ryuzaki M, Ito Y, Nakamoto H, Ishikawa Y, Itami N, Ito M, Ueda A, Kanazawa Y, Kawanishi H, Kanno Y, Sugiyama H, Tsuruya K, Terawaki H, Tomo T, Fukasawa M, Yamashita AC, Yokoi H, Nakayama M, Yuasa H, Tsujimoto Y, Tsujimoto H, Saka Y, Kuroki Y, Yasuda K, Fujii T, Kanno A, Fujikura E, Watanabe K, Obata Y, Murashima M, Toda N, Yamamoto S, Tsujimoto Y, Sakurada T, Komukai D, Uchiyama K, Washida N, Morimoto K, Kasai T, Maruyama

Y, Higuchi C, Io H, Wakabayashi K, on behalf of the Working Group on Revision of Peritoneal Dialysis Guidelines of the Japanese Society for Dialysis Therapy. **Peritoneal dialysis guidelines 2019 part 2: main text (position paper of the Japanese Society for Dialysis Therapy)**. *Renal Replacement Therapy* 7: 46, 2021.

Obi Y, Ichimaru N, Sakaguchi Y, Iwadoh K, Ishii D, Sakai K, Iwami D, Harada H, Sumida K, Sekine A, Masutani K, Akutsu N, Inoue T, Nishihira M, Yoneda T, Ito S, Araki M, Kaimori JY, Yoshida K, Satoh S, Ubara Y, Isaka Y, Yoshida K, Tsubakihara Y, Takahara S, Hamano T. **CANDLE-KIT Trial Investigators. Correcting anemia and native vitamin D supplementation in kidney transplant recipients: a multicenter, 2 × 2 factorial, open-label, randomized clinical trial**. *Transpl Int*. 34(7): 1212-1225, 2021.

Nitta K, Nakai S, Masakane I, Hanafusa N, Goto S, Taniguchi M, Hasegawa T, Wada A, Hamano T, Hoshino J, Joki N, Yamamoto K, Miura K, Abe M, Nakamoto H. **Annual dialysis data report of the 2018 JSDT Renal Data Registry: dementia, performance status, and exercise habits**. *Renal Replacement Therapy*. 7: 4, 2021.

Babitt JL, Eisenga MF, Haase VH, Kshirsagar AV, Levin A, Locatelli F, Malyszko J, Swinkels DW, Tarng DC, Cheung M, Jadoul M, Winkelmayer WC, Drüeke TB; Conference Participants: Abu-Alfa AK, Afsar B, Pai AB, Besarab A, Moore GB, Casadevall N, Cases A, de Francisco A, Eckardt KU, Fishbane S, Fried LF, Ganz T, Ginzburg YZ, Gómez R, Goodnough LT, Hamano T, Hanudel MR, Hao CM, Iseki K, Ix JH, Johansen KL, Ketteler M, Kovesdy CP, Leaf DE, Macdougall IC, Massy ZA, LP McMahon LP, Minutolo R, Nakanishi T, Nemeth E, Obrador GT, Parfrey PS, Park HC, Pecoits-Filho R, Robinson BM, Roger SD, Shah YM, Spinowitz BS, Tanaka T, Tsukamoto Y, Tungsanga K, Walther CP, Wang AY, Wolf M. **Controversies in optimal anemia management: conclusions from a Kidney Disease: Improving Global Outcomes (KDIGO) Conference**. *Kidney Int*. 99(6): 1280-1295, 2021.

Imaizumi T, Hamano T, Fujii N, Huang J, Xie D, Ricardo AC, He J, Soliman EZ, Kusek JW, Nessel L, Yang W, Maruyama S, Fukagawa M, Feldman HI; CRIC Study Investigators. **Cardiovascular disease history and β -blocker prescription patterns among Japanese and American patients with CKD: a cross-sectional study of the CRIC and CKD-JAC studies**. *Hypertens Res*. 44(6): 700-710, 2021.

Murashima M, Hamano T, Abe M, Masakane I. **Encapsulating peritoneal sclerosis and mortality related to infection in patients on combination once-weekly hemodialysis with peritoneal dialysis**. *Am J Nephrol* 52(4): 336-341, 2021.

Nitta K, Nakai S, Masakane I, Hanafusa N, Goto S, Taniguchi M, Hasegawa T, Wada A, Hamano T, Hoshino J, Joki N, Yamamoto K, Miura K, Abe M, Nakamoto H. **2018 annual dialysis data report of the JSDT Renal Data Registry: patients with hepatitis**. *Renal Replacement Therapy*. 7: 22, 2021.

Ogata H, Fukagawa M, Hirakata H, Kagimura T, Fukushima M, Akizawa T; LANDMARK Investigators and Committees: Suzuki M, Nishizawa Y, Yamazaki C, Tanaka S, Kobayashi S,

Komuro I, Tsuruya K, Fujii H, Komaba H, Taniguchi M, Hasegawa T, Hamano T, Mizobuchi M, et al. **Effect of Treating Hyperphosphatemia With Lanthanum Carbonate vs Calcium Carbonate on Cardiovascular Events in Patients With Chronic Kidney Disease Undergoing Hemodialysis: The LANDMARK Randomized Clinical Trial.** JAMA. **325(19)**: 1946-1954, 2021.

Yamaguchi S, Hamano T, Oka T, Doi Y, Kajimoto S, Yasuda S, Shimada K, Matsumoto A, Sakaguchi Y, Inoue K, Matsui I, Suzuki A, Isaka Y. **Electrocardiogram findings at the initiation of hemodialysis and types of subsequent cardiovascular events.** Hypertens Res. **44(5)**: 571-580, 2021.

Kawaguchi T, Hamano T, Masakane I, Wada A, Okada E, Kadomura M, Imasawa T. **Association of kidney transplantation with mortality on hemodialysis after graft failure.** J Nephrol. **34(2)**: 521-530, 2021.

Inoue K, Matsui I, Hamano T, Okuda K, Tsukamoto Y, Matsumoto A, Shimada K, Yasuda S, Katsuma Y, Takabatake Y, Tanaka M, Tanaka N, Mano T, Minamino T, Sakata Y, Isaka Y. **Maxacalcitol (22-Oxacalcitriol (OCT)) Retards Progression of Left Ventricular Hypertrophy with Renal Dysfunction Through Inhibition of Calcineurin-NFAT Activity.** Cardiovasc Drugs Ther. **35(2)**: 381-397, 2021.

Nangaku M, Hamano T, Akizawa T, Tsubakihara Y, Nagai R, Okuda N, Kurata K, Nagakubo T, Jones NP, Endo Y, Cobitz AR. **Daprodustat Compared with Epoetin Beta Pegol for Anemia in Japanese Patients Not on Dialysis: A 52-Week Randomized Open-Label Phase 3 Trial.** Am J Nephrol. **52(1)**: 26-35, 2021.

Isaka Y, Hamano T, Fujii H, Tsujimoto Y, Koiwa F, Sakaguchi Y, Tanaka R, Tomiyama N, Tatsugami F, Teramukai S. **Optimal Phosphate Control Related to Coronary Artery Calcification in Dialysis Patients.** J Am Soc Nephrol. **32(3)**: 723-735, 2021.

【和文業績】

濱野 高行. 【腎性貧血と HIF-PH 阻害薬】腎性貧血の病態生理(鉄動態を含めて). 日本腎臓学会誌. **63(8)**: 958-963, 2021.

宮口祐樹, 加藤聡美, 齋藤愛美, 井上陽平, 家田研人, 市原詩恵, 小林瑞穂, 高橋直生, 岩野正之, 萱憲広. 腎生検で診断し、ステロイド療法を行った高齢 Tubulo-interstitial nephritis with IgM-positive plasma cells (IgMPC-TIN) の 1 例 日本老年会雑誌. **58(4)**: 630-636, 2021

【各教員の論文数 (桜山)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文

教授	濱野高行	17(5)	17(5)	1(1)
助教	村島美穂	4(3)	4(3)	0
助教	小野水面	0	0	0
助教	水野晶紫	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	鈴木大成	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	菅憲広	1(0)	0	1(0)
助教	家田研人	1	0	1

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

村島美穂. 日本腎臓学会. 優秀演題賞. Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors (SGLT2i) use and anemia in diabetic CKD, 令和3年6月

【外部資金獲得実績】

濱野高行. 受託研究費(アステラス製薬株式会社). 令和4年度-令和7年度、2,750千円

村島美穂. 研究助成(公益財団法人 日本腎臓財団). 令和3年度-令和4年度、1,500千円

濱野高行. 共同研究費(鳥居薬品株式会社). 令和4年度、5,000千円

濱野高行. 研究助成(田辺三菱製薬株式会社). 令和3年度、168千円

濱野高行. 研究助成(公益財団法人 鈴木謙三記念財団医科学応用研究財団). 令和3年度-令和4年度、1000千円

濱野高行. 研究助成(中外製薬株式会社). 令和3年度、672千円

村島美穂. 研究助成(愛知腎臓財団). 令和3年度、126千円

濱野高行. 受託研究費 (AMED). 令和 3 年度、180 千円

濱野高行. 研究助成 (大塚製薬株式会社). 令和 3 年度、1,260 千円

濱野高行. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、1,200 千円

濱野高行. 文部科学省科学研究費 (基盤 C 独立基盤・代表). 令和 3 年度、1,500 千円

濱野高行. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和元年度-令和 3 年度、150 千円

濱野高行. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 平成 30 年度-令和 3 年度、1161 千円

村島美穂. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和 2 年度-令和 5 年度、1,573 千円

村島美穂. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、150 千円

小野水面. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、1,600 千円

小野水面. 研究助成 (公益財団法人 日本腎臓財団). 令和 2 年度-令和 3 年度、504 千円

【その他】

国際学会発表

Atsuki Ide, Yohei Nishiura, Keisuke Ota, Miho Murashima, Takayuki Hamano. World Congress of Nephrology. Nephrology referral slows the progression of chronic kidney disease especially among patients with proteinuria or anemia: a single center retrospective study. Feb 24-27, 2022

Miho Murashima, Takayuki Hamano, Masanori Abe, Ikuto Masakane, Kosaku Nitta. World Congress of Nephrology. Comparable outcomes between thrice-weekly hemodialysis and combination of peritoneal dialysis with once-weekly hemodialysis. Feb 24-27, 2022

Takayuki Hamano. American Society of Nephrology, Kidney Week. Insights About GFR Estimation Among Asian Populations (Symposium). Oct. 27-Nov. 7, 2021

Takayuki Hamano, Takahiro Imaizumi, Takeshi Hasegawa, Naohiko Fujii, Hirotaka Komaba, Masafumi Fukagawa. American Society of Nephrology, Kidney Week. Etiological information for risk stratification of chronic kidney disease based on past kidney biopsy. Oct. 27-Nov. 7, 2021

Takahiro Imaizumi, Hirotaka Komaba, Takayuki Hamano, Kenta Murotani, Takeshi Hasegawa, Naohiko Fujii, Masaomi Nangaku, Masafumi Fukagawa. American Society of Nephrology, Kidney Week. Estimated GFR Slope and Risk of Subsequent ESKD in Japanese Patients with CKD: The CKD-JAC Study. Oct. 27-Nov. 7, 2021

Takeshi Hasegawa, Takahiro Imaizumi, Kenta Murotani, Takayuki Hamano, Hirotaka Komaba, Naohiko Fujii, Masafumi Fukagawa. American Society of Nephrology, Kidney Week. Association Between Serum Indices of Iron Metabolism and Cardiovascular Morbidity in Patients with Pre-Dialysis CKD. Oct. 27-Nov. 7, 2021

Hirotaka Komaba, Takahiro Imaizumi, Takayuki Hamano, Kenta Murotani, Takeshi Hasegawa, Naohiko Fujii, Masafumi Fukagawa. American Society of Nephrology, Kidney Week. Predicting ESKD Risk and Time to RRT Initiation Based on Past Slope and Current Value of eGFR: The CKD-JAC Study. Oct. 27-Nov. 7, 2021

Miho Murashima, Atsuki Ide A, Minamo Ono, Masashi Mizuno, Taisei Suzuki, Takayuki Hamano. American Society of Nephrology, Kidney Week. Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitors and Anemia Among Diabetic Patients in Real Clinical Practice. Oct. 27-Nov. 7, 2021

Miho Murashima M, Takayuki Hamano, Kazuhiko Tsuruya, Satoshi Ogata, Eiichiro Kanda, Masanori Abe, Ikuto Masakane, Kosaku Nitta. American Society of Nephrology, Kidney Week. Performance Status (PS) as an Effect Modifier for Association Between Vitamin D Receptor Activator (VDRA) and Outcomes Among Hemodialysis Patients. Oct. 27-Nov. 7, 2021

Miho Murashima M, Atsuki Ide, Minamo Ono, Masashi Mizuno, Taisei Suzuki, Takayuki Hamano. American Society of Nephrology, Kidney Week. Electrolyte Disturbances Among Those with Malignancy on Anti-Neoplastic Agents. Oct. 27-Nov. 7, 2021

Masatoshi Nishimoto, Miho Murashima, Maiko Kokubu, Masaru Matsui, Masahiro Eriguchi, Ken-ichi Samejima, Yasuhiro Akai, Kazuhiko Tsuruya. American Society of Nephrology, Kidney Week. External Validation of Simple Postoperative AKI Risk (SPARK) Classification in Noncardiac Surgery: The NARA-AKI Cohort Study. Oct. 27-Nov. 7, 2021

Hamano T. The 19th International Symposium on Atherosclerosis. ESA in CKD patients. **Oct 24 - 27, 2021**

Atsuki Ide, Miho Murashima, Minamo Ono, Masashi Mizuno, Taisei Suzuki, Takayuki Hamano. Annual meeting of American College of Physicians, Japan Chapter. Electrolyte disturbances and their associated factors in daily clinical practice: A cross-sectional study. June 26-27, 2021

国内学会発表

家田研人, 齋藤愛美, 宮口祐樹, 菅憲広. 第 51 回日本腎臓学会西部学術集会.

INF2 遺伝子変異が同定された巣状分節性糸球体硬化症の一例. 2021 年 10 月 15
-16 日

難波倫子, 濱野高行, 京昌弘, 谷口歩, 田中亮, 山中和明, 阿部豊文, 客野宮治, 今村亮一, 野々村祝夫, 猪阪善隆. 第 57 回日本移植学会. 移植後 10 年以上経過した腎移植患者のグラフト生検の臨床的意義. 2021 年 9 月 18 日-20 日

長谷川毅, 今泉貴広, 室谷健太, 濱野高行, 藤井直彦, 駒場大峰, 深川雅史. 第 64 回日本腎臓学会学術総会. 保存期慢性腎臓病患者における血清鉄代謝指標と心血管疾患罹患の関連. 2021 年 6 月 18 日-20 日

藤井直彦, 今泉貴広, 濱野高行, 長谷川毅, 駒場大峰, 深川雅史, CKD-JAC II サイエントリーフィックコミッティー. 第 64 回日本腎臓学会学術総会. 保存期 CKD 患者において社会経済因子が腎予後に与える影響 (CKD-JAC II 研究). 2021 年 6 月 18 日-20 日

濱野高行, 今泉貴広, 長谷川毅, 藤井直彦, 駒場大峰, 深川雅史, CKD-JAC II Scientific Committee. 第 64 回日本腎臓学会学術総会. 過去の腎生検診断による予後予測能の改善:CKD-JACII 研究. 2021 年 6 月 18 日-20 日

村島美穂. 高カリウム血症とジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム. 第 64 回日本腎臓学会学術総会. 2021 年 6 月 18 日-20 日

村島美穂, 小野水面, 田中智洋, 井手敦基, 鈴木大成, 水野晶紫, 濱野高行. 第 64 回日本腎臓学会学術総会. Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors (SGLT2i) use and anemia in diabetic CKD. 2021 年 6 月 18 日-20 日

村島美穂, 井手敦基, 小野水面, 水野晶紫, 鈴木大成, 濱野高行. 第 64 回日本腎臓学会学術総会. Electrolyte disturbances among patients with malignancy on chemotherapy. 2021 年 6 月 18 日-20 日

西本雅俊, 村島美穂, 松井勝, 江里口雅裕, 鮫島謙一, 鶴屋和彦. 第64回日本腎臓学会学術総会. 見直される急性腎障害(Acute Kidney Injury)の診断と分類. 2021年6月18日-20日

西本雅俊, 村島美穂, 吉田寿子, 江里口雅裕, 松井勝, 鮫島謙一, 井関邦敏, 旭浩一, 山縣邦弘, 藤元昭一, 今田恒夫, 成田一衛, 守山敏樹, 笠原正登, 柴垣有吾, 近藤正英, 渡辺毅, 鶴屋和彦. 第64回日本腎臓学会学術総会. 自己申告に基づく歩行習慣とその後の腎機能低下の関連. 2021年6月18日-20日

濱野高行. 第66回日本透析医学会学術総会. 心不全に対する鉄の意義. 2021年6月4日-6日

濱野高行. 第66回日本透析医学会学術総会. CKD-MBDと貧血のクロストーク

HIF-PHI. 2021年6月4日-6日

宮口祐樹, 家田研人, 市原詩恵, 菅憲広. 第66回日本透析医学会学術総会. 血液浄化療法で救命しえた肝腎障害に伴った乳酸アシドーシスの1例. 2021年6月4日-6日

齋藤愛美, 井上陽平, 家田研人, 宮口祐樹, 市原詩恵, 菅憲広. 第66回日本透析医学会学術総会. 血液透析前に虚血性腸管壊死をきたし, 急激な転帰をたどった一例. 2021年6月4日-6日

井上陽平, 猪飼千咲, 齋藤愛美, 家田研人, 宮口祐樹, 市原詩恵, 菅憲広. 第66回日本透析医学会学術総会. ミロガバリンによる急性薬物中毒に対し, 血液透析が奏功した一例. 2021年6月4日-6日

村島美穂. 第66回日本透析医学会学術総会. 統計調査に見る透析医学この10年～腹膜透析療法この10年～. 2021年6月4日-6日

村島美穂, 濱野高行, 鶴屋和彦, 尾形聡, 神田英一郎, 阿部雅紀, 新田孝作. 第66回日本透析医学会学術総会. HD患者で活性型Vitamin D(VDRA)と死亡の関連における活動指標(PS)の影響～統計調査研究～. 2021年6月4日-6日

書籍

濱野高行. Onco-nephrology:悪性腫瘍治療と腎機能障害. がん治療と腎性貧血治療. 腎と透析. 92(3): 635-639, 2022年3月

濱野高行. 慢性腎臓病にともなうミネラル代謝異常 (CKD-MBD) . 内科学第12版. IV-21-24 朝倉書店, 2022年3月

濱野高行. 水電解質代謝 update. 慢性腎臓病における電解質・酸塩基平衡異常 Ca、P代謝異常. 腎臓内科 15(2): 176-183, 2022年2月

濱野高行. 腎性貧血治療の課題と対策-HIF-PH阻害薬, ESA, 鉄剤をめぐって. 長時間作用型 ESA vs. 短時間作用型 ESA. 臨床透析 38(2): 131-137, 2022年2月

濱野高行. CKD と透析療法. 治療薬解説 正しい鉄補充療法. カレントセラピー 40(1): 81-87, 2022年1月

濱野高行. 積極的降圧治療の功罪は eGFR によって異なる. ビジュアルアブストラクトで読みとく 腎臓論文ベストセレクション. 中外医学社 p178-182, 2021年12月

濱野高行. 慢性腎臓病-臨床の最新動向- 診断と治療(リスクファクターの治療を含む). 診断と治療(新規治療薬への期待) HIF-PH 阻害薬 日本臨床 79(12): 1847-1852, 2021年12月

濱野高行. 必修!レジデントが知っておくべき電解質異常・酸塩基平衡異常 カルシウム・リン代謝. 月刊レジデント 14(3): 99-106, 2021年12月

濱野高行. SGLT2 阻害薬の逆襲 現代医学 68(2) 61-64 2021年12月

濱野高行. 慢性腎臓病-臨床の最新動向- 診断と治療(リスクファクターの治療を含む). 診断と治療(新規治療薬への期待) HIF-PH 阻害薬. 日本臨床 79(12): 1847-1852, 2021年12月

濱野高行. CKD 患者を診たら-最近の CKD 診療の知見とその活かし方 CKD 患者のマネジメントに伴う骨・ミネラル代謝異常(CKD-MBD)の治療. 内科 128(5): 1015-1019, 2021年11月

濱野高行. 【腎疾患-エキスパートへの質問で学ぶ診療のキホンと最新情報】利尿薬やその他の新薬の有効性と注意すべき副作用 「HIF-PH 阻害薬の光と影」の本当のところを教えてください. Medicina 58(10): 1647-1650, 2021年9月

濱野高行. 【腎疾患治療薬 update】(第2章)慢性腎臓病・透析合併症 CKD-MBD 治療薬 ビタミンD 製剤 天然型ビタミンD. 腎と透析 91(増刊) 210-215, 2021年8月

小野水面, 濱野高行. 【CKD・薬剤性腎障害・特殊な患者背景への実践的アプローチ!腎臓病薬物療法コンサルテーション】(第3章)症例に学ぶ!薬剤性腎障害の判断と対応 カ

ルシウム濃度異常. 薬事 63(10): 2008-2012, 2021年7月

小野水面, 濱野高行. 【CKD・薬剤性腎障害・特殊な患者背景への実践的アプローチ!腎臓病薬物療法コンサルテーション】(第3章)症例に学ぶ!薬剤性腎障害の判断と対応 リン濃度異常. 薬事 63(10): 2013-2015, 2021年7月

濱野高行. 【腎性貧血 update】腎性貧血治療薬 鉄補充療法の適応と課題. 腎臓内科 13(5): 617-624, 2021年5月

濱野高行. 【腎性貧血治療の新展開-HIF-PH 阻害薬への期待-】HIF-PH 阻害薬の特性 HIF-PH阻害薬の臨床効果 臨床試験成績から. Progress in Medicine 41(5): 443-448, 2021年5月

濱野高行. 腎性貧血 最新ガイドラインに基づく腎・透析診療指針 2021-2022. 総合医学社 p265-271, 2021年5月

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

腫瘍腎臓内科外来開設 2021年1月

電解質バスターズ開始 2021年5月

<研究活動実績>

【欧文業績】

Oomura M, Usami T, Hattori H, Matsukawa N. **Mechanical thrombectomy in a patient with granulomatosis with polyangiitis.** *Neurol Clin Neurosci.* **9(1)**: 98-100, 2021.

Adachi K, Kato D, Kahyo T, Konishi T, Sato T, Madokoro Y, Mizuno M, Akatsu H, Setou M, Matsukawa N. **Possible correlated variation of GABAA receptor $\alpha 3$ expression with hippocampal cholinergic neurostimulating peptide precursor protein in the hippocampus.** *Biochem Biophys Res Commun.* **542**: 80-86, 2021.

Oomura M, Kitamura T, Adachi K, Nishikawa Y, Mase M. **Development of Internal Carotid Artery Dissection During Masturbation.** *J Stroke Cerebrovasc Dis.* **30(1)**: 105387, 2021.

Cho JY, Matsukawa N. **The unsolved mystery of hippocampal cholinergic neurostimulating peptide: A potent cholinergic regulator.** *Brain Circ.* **7(1)**: 29-32, 2021.

Ohno Y, Ikeda T, Sakurai K, Yamada K, Tomonari T, Iwasaki Y, Yoshida M, Matsukawa N. **Rapid Progression of White Matter Signal Changes and Frontotemporal Atrophy in Globular Glial Tauopathy.** *J Neuropathol Exp Neurol.* **80(5)**: 480-483, 2021.

Kano Y, Inui S, Uchida Y, Sakurai K, Muto M, Sugiyama H, Takeshima T, Yuasa H, Yamada K, Matsukawa N. **Quantitative arterial spin labeling magnetic resonance imaging analysis of reversible cerebral vasoconstriction syndrome: A case series.** *Headache.* **61(4)**: 687-693, 2021.

Kano Y, Yamada K, Muto M, Oomura M, Matsukawa N. **Reproducible Presyncope Due to Osteophyte Compression Into Transverse Foramen of the C5 Vertebra.** *J Stroke Cerebrovasc Dis.* **30(4)**: 2021

Kano Y, Yamagishi Y, Kamei K, Mutoh Y, Yuasa H, Yamada K, Matsukawa N. **First case report of fungal meningitis due to a polypore mushroom *Irpex lacteus*.** *Neurol Sci.* **42(5)**: 2075-2078, 2021.

Kano K, Mizuta I, Ueda A, Nozaki H, Sakurai K, Onodera O, Ando Y, Yamada K, Yuasa H, Mizuno T. **Heterozygous cysteine-sparing NOTCH3 variant p.Val237Met in a Japanese patient with suspected CADASIL: A case report.** *Intern Med.* **60(15)**: 2479-2482, 2021.

Nakamura S, Fujioka T, Kawashima S, Mizuno M, Omura M, Okita K, Matsukawa N. et al. **Self-remitting Elevation of Adenosine Deaminase Levels in the Cerebrospinal Fluid with Autoimmune Glial Fibrillary Acidic Protein Astrocytopathy: A Case Report and Review of the Literature.** *Intern Med.* **60(18)**: 3031-3036, 2021.

Usami T, Uchida Y, Sakurai K, Kuno K, Takada, Matsukawa N. **Hyperperfused bilateral high signal intensity on diffusion-weighted imaging of the parietotemporal cortices in echovirus 25 encephalitis.** *Neurol Clin Neurosci.* **9(6)**: 500-501, 2021.

Inoue H, Yamada K, Oomura M, Naiki-Ito A, Matsukawa N. **Direct aspiration through a**

balloon guide catheter can augment vessel wall injury. *Neurol Clin Neurosci.* **9(6)**: 478-480, 2021.

Uchida Y, Horimoto Y, Shibata H, Kuno T, Usami T, Takada K, Iida A, Ueki Y, Okamura N, Matsukawa N. **Occipital Tau Deposition and Astrogliosis After Traumatic Brain Injuries in a Kendo Player.** *Neurol Clin Pract.* **11(4)**: e579-e581, 2021

Kawashima S, Shimizu Y, Ueki Y, Matsukawa N. **Impairment of the visuospatial working memory in the patients with Parkinson's Disease: an fMRI study.** *BMC Neurol.* **21(1)**: 335, 2021.

Takai Y, Misu T, Suzuki H, Takahashi T, Okada H, Tanaka S, Okita K, Sasou S, Watanabe M, Namatame C, Matsumoto Y, Ono H, Kaneko K, Nishiyama S, Kuroda H, Nakashima I, Lassmann H, Fujihara K, Itoyama Y, Aoki M. **Staging of astrocytopathy and complement activation in neuromyelitis optica spectrum disorders.** *Brain.* **144(8)**: 2401-2415, 2021.

Yamada G, Toyoda T, Katada E, Matsukawa N. **Herpes Zoster Brachial Plexopathy with a Dorsal Horn Lesion.** *Intern Med.* **60(19)**: 3185-3186, 2021.

Inoue H, Oomura M, Nishikawa Y, Mase M, Matsukawa N. **The Feasibility of Mechanical Thrombectomy on Single-Plane Angiosuite: An In-Depth Analysis of Procedure Time.** *Cerebrovasc Dis Extra.* **11(3)**: 112-117, 2021.

Yamada G, Toyoda T, Katada E, Matsukawa N. **Index finger pointing posture in a patient with drug-induced foot tremor.** *Clin Park Relat Disord.* **5**: 100111, 2021.

Kondo-Takuma Y, Mizuno M, Tsuda Y, Madokoro Y, Suzuki K, Sato T, Takase H, Uchida Y, Adachi KI, Hida H, Borlongan CV, Matsukawa N. **Reduction of acetylcholine in the hippocampus of hippocampal cholinergic neurostimulating peptide precursor protein knockout mice.** *Sci Rep.* **11(1)**: 22072, 2021.

【和文業績】

内田 和彦, 伊藤 ひとみ, 劉 珊, 畑 直子, 鈴木 秀昭, 目野 浩二, 赤津 裕康, 松川 則之, 朝田 隆, 新井 哲明. **血漿を用いた MCI スクリーニング検査と血漿 A β 40、A β 42 レベルのアルツハイマー病と軽度認知障害(MCI)の血液検査としての臨床有効性.** *人間ドック.* **36(4)**: 560-567, 2021.

小川 慧子, 打田 佑人, 小林 晋, 高田 幸児, 寺田 清人, 松川 則之. **一過性てんかん性健忘で発症した抗 GABAB 受容体抗体陽性脳炎の 1 例.** *臨床神経学.* **61(1)**: 6-11, 2021.

谷口 葉子, 加納 裕也, 北村 太郎, 三浦 敏靖, 山田 健太郎. **三叉神経領域の帯状疱疹をアメナメビルで治療後に帯状疱疹性髄膜脳炎と脳血管炎を合併した 1 例.** *臨床神経学.* **61(4)**: 239-242, 2021.

【各教員の論文数 (桜山)】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文

教授	松川 則之	18(17)	16(16)	2(1)
講師	大村 眞弘	6(2)	6(2)	0
講師	大喜多 賢治	2(0)	2(0)	0
助教	川嶋 将司	2(1)	2(1)	0
助教	水野 将行	3(0)	3(0)	0
助教	藤岡 哲平	1(1)	1(1)	0
助教	佐藤 豊大	1(0)	1(0)	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
教授(診療担当)	山田 健太郎	7(1)	6(0)	1(1)
講師(診療担当)	北村 太郎	1(0)	0	1(0)
助教(診療担当)	中村 宜隆	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
教授(診療担当)	豊田 剛成	2(0)	2(0)	0
講師	山田 剛平	2(2)	2(2)	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

松川則之．文部科学省科学研究費(基盤 C. 分担)．平成 31 年度-令 5 年度、50 千円

松川則之．文部科学省科学研究費(基盤 B. 分担)．令和 2 年度-令和 7 年度、50 千円

松川則之．文部科学省科学研究費(基盤 C. 代表)．令和 2 年度-令和 5 年度、2,182 千円

松川則之．受託研究費(AMED・分担)．令和 3 年度-令和 4 年度、2,000 千円

松川則之. 受託研究費 (AMED・分担). 令和3年度-令和4年度、2,500千円

松川則之. 受託研究費 (循環器病研究開発費). 令和3年度-令和4年度、2,000千円

松川則之. 共同研究 (SBI ファーマ). 平成27年度-令和4年度、10千円

藤岡哲平. 文部科学省科学研究費(若手・基金). 平成30年度-令和5年度、1,041千円

水野将行. 文部科学省科学研究費(若手・基金). 平成31年度-令和4年度、1,935千円

豊田剛成. 文部科学省科学研究費(基盤C). 平成31年度-令和5年度、1,326千円

山田剛平. 文部科学省科学研究費(若手・基金). 平成31年度-令和5年度、968千円

【その他】

水野将行. 第62回日本神経学会学術大会. 当院における多発性硬化症に対する疾患修飾薬投与例の検討-再発症例を中心に-. 2021年5月20日

中村宜隆. 第62回日本神経学会学術大会. メチルプレドニゾロン大量静注療法(IVMP)後に発症した脳梗塞の検討. 2021年5月20日

松川則之. 日本神経学会. 代議員, 日本認知症学会. 代議員, 日本内科学会東海支部
評議員, 日本神経治療学会. 代議員, 日本老年医学会. 代議員

大喜多賢治. 日本神経学会. 評議員

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

山田健太郎. (東部) 臨床研修センター長

【欧文業績】

1. Chari A, Rodriguez-Otero P, MaCrthy H, Suzuki K, Hungria V, Balari AS, Perrot A, Hulin C, Magen H, Iida S, Maisnar V, Karlin L, Pour L, Parasrampur DA, Masterson T, Kosh M, Yang S, Delioukina M, Qi M, Carson R, Touzeau C. **Subcutaneous daratumumab plus standard treatment regimens in patients with multiple myeloma across lines of therapy (PLEIADES): an open-label phase 2 study.** Br J Haematol. **192**: 869-878, 2021.
2. Usmani SZ, Mateos M-V, Hungria V, Iida S, Bahlis NJ, Nahi H, Magen H, Cavo M, Hulin C, White D, Stefano VD, Fastenau J, Slavcev M, Heuck C, Qin X, Pei H, Masterson T, Lantz K, Gries KS. **Greater treatment satisfaction in patients receiving daratumumab subcutaneous versus intravenous for relapsed or refractory multiple myeloma: COLUMBA clinical trial results.** J Cancer Res Clin Oncol. **147**: 619-631, 2021.
3. Fujii K, Sakamoto Y, Masaki A, Murase T, Tashiro Y, Yonekura K, Utsunomiya A, Ito A, Kusumoto S, Iida S, Ueda R, Ishida T, Inagaki H. **Immunohistochemistry for CCR4 C-terminus predicts CCR4 mutations and mogamulizumab efficacy in adult T-cell leukemia/lymphoma.** J Pathol. **7**: 52-60, 2021.
4. Shibayama H, Matsumoto M, Kosugi H, Shibayama K, Yamazaki H, Iida S. **Subcutaneous delivery of daratumumab in Japanese patients with relapsed/refractory multiple myeloma.** Int J Hematol. **113**: 112-121, 2021.
5. Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Takeshita M, Iwasaki H, Yonekura K, Tashiro Y, Ito A, Kusumoto S, Utsunomiya A, Iida S, Ueda R, Inagaki H. **Clinical significance of CD28 gene-related activating alterations in adult T-cell leukemia/lymphoma.** Br J Haematol. **192**: 281-291, 2021.
6. Takezako N, Shibayama H, Handa H, Hagiwara S, Ozaki S, Suzuki K, Kosugi H, Ri M, Sugiura I, Choi I, Miyamoto T, Iida S. **Once-weekly versus twice-weekly carfilzomib dosing in a subgroup of Japanese relapsed and refractory multiple myeloma patients from a randomized phase 3 trial (A.R.R.O.W.) and comparison with ENDEAVOR.** Int J Hematol. **113**: 219-230, 2021.
7. Avet-Loiseau H, San-Miguel J, Casneuf T, Iida S, Lonial S, Usmani SZ, Spencer A, Moreau P, Plesner T, Weisel K, Ukropec J, Chiu C, Trivedi S, Amin H, Krevvata M, Ramaswami P, Qin X, Qi M, Sun S, Qi M, Kobos R, Bahlis NJ. **Evaluation of sustained minimal residual disease negativity with daratumumab-combination regimens in relapsed/refractory multiple myeloma: analysis of POLLUX and CASTOR.** J Clin Oncol. **39**: 1139-1149, 2021.
8. Ohmachi K, Konoshita T, Tobinai K, Ogawa G, Mizutani T, Yamauchi N, Fukuhara N, Uchida T, Yamamoto K, Miyazaki K, Tsukamoto N, Iida S, Utsumi T, Yoshida I, Imaizumi Y, Tokunaga T, Yoshida S, Masaki Y, Murayama T, Yakushijin Y, Suehiro Y, Nosaka K, Dobashi N, Kuroda J, Takamatsu Y, Maruyama D, Ando K, Ishizawa K, Ogura M, Yoshino T, Hotta T, Tsukasaki K, Nagai H. **A randomized phase II/III study of R-**

CHOP versus CHOP combined with dose-dense rituximab for DLBCL: JCOG0601. Blood Adv. **5**: 984-993, 2021.

9. Iida S, Ishida T, Horimoto K, Kazama H, Kim H, Crawford B, Teshima T. **Medical database analysis of Japanese multiple myeloma patients with planned stem cell transplantation (MEDALIST)-a focus on healthcare resource utilization and cost.** Int J Hematol. **113(2)**: 271-278, 2021.
10. Iida S, Ishikawa T, Min CK, Kim K, Yeh SP, Usmani SZ, Mateos M-V, Nahi H, Hueck C, Qin X, Parasrampur DA, Gries KS, Qi M, Bahlis N, Ito S. **Subcutaneous daratumumab in Asian patients with heavily pretreated multiple myeloma: subgroup analyses of the noninferiority, phase 3 COLUMBA study.** Ann Hematol. **100**: 1065-1077, 2021.
11. Hagiwara S, Kusumoto S, Ito A, Masaki A, Shiraga K, Tachita T, Hirade K, Oiwa K, Suzuki T, Kinoshita S, Ri M, Ito Y, Komatsu H, Inagaki H, Iida S. **Volunteer unrelated donor cell-derived acute myeloid leukemia with RUNX1-RUNX1T1.** eJHaem. **2**: 285-290, 2021.
12. Iida S, Sunami K, Minami H, Hatake K, Sekiguchi R, Natsume K, Ishikawa N, Rinne M, Taniwaki M. **A phase 1, dose-escalation study of oral PIM447 in Japanese patients with relapsed and/or refractory multiple myeloma.** Int J Hematol. **113**: 797-806, 2021.
13. Marumo Y, Kusumoto S, Masaki A, Nakashima T, Kikuchi T, Mori F, Komatsu H, Inagaki H, Iida S, Inagaki A. **Newly diagnosed follicular lymphoma during pembrolizumab treatment for lung cancer.** Int J Hematol. **114**: 280-285, 2021.
14. Hirano M, Imai Y, Kaito Y, Murayama T, Sato K, Ishida T, Yamamoto J, Ito T, Futani M, Ri M, Yasui H, Denda T, Tanaka Y, Ota Y, Nojima M, Kamikubo Y, Gotoh N, Iida S, Tojo A. **Small-molecule HDAC and Akt inhibitors suppress tumor growth and enhance immunotherapy in multiple myeloma.** J Exp & Clin Cancer Res. **40**: 110, 2021.
15. Matsumoto M, Suzuki K, Kuroda J, Taniwaki M, Sunami K, Ando K, Maruyama D, Tobinai K, Kher U, Farooqui M, Liao J, Marinello P, Matsuda K, Koh Y, Shimamoto T, Iida S. **Pembrolizumab plus pomalidomide and dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma (KEYNOTE-183): subgroup analysis in Japanese patients.** Int J Hematol. **113**: 777-784, 2021.
16. Nakamura N, Maruyama D, Machida R, Ichinohe T, Takayama N, Ohba R, Ohmachi K, Imaizumi Y, Tokunaga M, Katsuya H, Yoshida I, Sunami K, Kurosawa M, Kubota N, Morimoto H, Kobayashi M, Kato H, Kameoka Y, Kagami Y, Kizaki M, Takeuchi K, Munakata W, Iida S, Nagai H. **Single response assessment of transplant-ineligible multiple myeloma: a supplementary analysis of JCOG1105 (JCOG1105S1).** Jpn J Clin Oncol. **51(7)**: 1059-1066, 2021.
17. Tokugawa M, Inoue Y, Ishiuchi K, Kujirai C, Matsuno M, Ri M, Itoh Y, Miyajima C, Morishita D, Ohkota N, Iida S, Mizukami H, Makino T, Hayashi H. **Periplocin and cardiac glycosides suppress the endoplasmic reticulum stress response.** Sci Rep. **11**: 9528, 2021.
18. Mateos MV, Dimopoulos MA, Cavp M, Suzuki K, Knop S, Doyen C, Lucio P, Nagy Z, Pour L, Grosichi S, Crepaldi A, Liberati AM, Campbell P, Yoon S-S, Iosava G, Fujisaki T,

- Garg M, Iida S, Blade J, Ukropec J, Pei H, Rampellbergh RV, Kudva A, Qi M, San-Miguel J. **Daratumumab plus bortezomib, melphalan, and prednisone versus bortezomib, melphalan, and prednisone in transplant-ineligible newly diagnosed multiple myeloma: frailty subgroup analysis of ALCYONE**. Clin Lymphoma Myeloma. **21(11)**: 785-798, 2021.
19. Hosen N, Yoshihara S, Takamatsu H, Ri M, Nagata Y, Kosugi H, Shimomura Y, Hanamura I, Fujii S, Minauchi K, Kuroda J, Suzuki R, Nishomura N, Uoshima N, Nakamae H, Kawano Y, Mizuno I, Gomyo H, Suzuki K, Ozaki S, Nakamura S, Imai Y, Kizaki M, Negoro E, Handa H, Iida S. **Expression of activated integrin beta7 in multiple myeloma patients**. Int J Hematol. **114**: 3-7, 2021.
 20. Yamashita T, Takamatsu H, Kawamura K, Sunami K, Hagiwara S, Itagaki M, Takahashi T, Kondo T, Ikeda T, Watakabe-Inamoto K, Handa H, Imaizumi Y, Kuroda J, Murakami J, Nakamura Y, Nakazawa H, Ozaki S, Ohkura M, Takeuchi M, Nagai H, Hanamura I, Nakao S, Tobinai K, Iida S. **A nationwide survey on central nervous system multiple myeloma in Japan: analysis of prognostic factors that improve survival**. Br J Haematol. **195**: 217-229, 2021.
 21. Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Murase T, Takeshita M, Muto R, Iwasaki H, Ito A, Kusumoto S, Nakao N, Tokunaga M, Yonekura K, Tashiro Y, Iida S, Utsunomiya A, Ueda R, Inagaki H. **Clinical significance of TP53 mutations in adult T-cell leukemia/lymphoma**. Br J Haematol. **195**: 572-584, 2021.
 22. Ri M, Iida S, Maruyama D, Sakabe A, Kamei R, Nakashima T, Tohkn M, Osaga S, Tobinai K, Fukuhara N, Miyazaki K, Tsukamoto N, Tsujimura H, Yoshimitsu M, Miyamoto K, Tsukasaki K, Nagai H. **HLA genotyping in Japanese patients with multiple myeloma receiving bortezomib: an exploratory biomarker study of JCOG1105 (JCOG1105A1)**. Cancer Sci. **112**: 5011-5019, 2021.
 23. Shimazu Y, Mizuho S, Fuchida S, Suzuki K, Tsukada N, Hangaishi A, Itagaki M, Kataoka K, Kato S, Sakaida E, Yoshioka S, Iida S, Doki N, Tatsuo O, Ichinohe T, Kanda Y, Atsuta Y, Takamatsu H. **Improved survival of multiple myeloma patients treated with autologous transplantation in the modern era of new medicine**. Cancer Sci. **112**: 5034-504, 2021.
 24. Maeda Y, Wada H, Sugiyama D, Saito T, Irie T, Itahashi K, Minoura K, Suzuki S, Kojima T, Kakimi K, Nakajima J, Funakoshi T, Iida S, Oka M, Shimamura T, Doi T, Doki Y, Nakayama E, Ueda R. **Depletion of central memory CD8⁺ T cells might impede the antitumor therapeutic effect of mogamulizumab**. Nat Commun. **12(1)**: 7280, 2021.
 25. Saito T, Kurose K, Kojima T, Funakoshi T, Sato E, Nishikawa H, Nakajima J, Seto Y, Kakimi K, Iida S, Doki Y, Oka M, Ueda R, Wada H. **Phase Ib study on the humanized anti-CCR4 antibody, KW-0761, in advanced solid tumors**. Nagoya J Med Sci. **83**: 827-840, 2021.
 26. Maruyama D, Iida S, Ogawa G, Fukuhara N, Seo S, Miyazaki K, Yoshimitsu M, Kuroda J, Tsukamoto N, Tsujimura H, Hangaishi A, Yamauchi T, Utsumi T, Mizuno I, Takamatsu Y, Nagata Y, Minauchi K, Ohtsuka E, Hanamura I, Yoshida S, Yamasaki S, Suehiro Y, Kamiyama Y, Tsukasaki K, Nagai H. **Randomized phase II study to optimize melphalan,**

prednisolone, and bortezomib in untreated multiple myeloma (JCOG1105). Br J Haematol. **192**: 531-541, 2021.

27. Suzuki K, Min Chang-Ki, Kim Kihyun, Lee Je-Jung, Shibayama H, Ko Po-Shen, Huang Shang-Yi, Li Sin-Syue, Ding Bifeng, Khurana Monica, Iida S. **Carfilzomib, dexamethasone, and daratumumab in Asian patients with relapsed or refractory multiple myeloma: post hoc subgroup analysis of the phase 3 CANDOR trial.** Int J Hematol. **114(6)**: 653-663,2021
28. Yamauchi N, Maruyama D, Choi I, Atsuta Y, Sakai R, Miyashita K, Moriuchi Y, Tsujimura H, Kubota N, Yamamoto G, Igarashi T, Izutsu K, Yoshida S, Kojima K, Uchida T, Inoue Y, Tsukamoto N, Ohtsuka E, Suzuki S, Inaguma Y, Ichikawa S, Gomyo H, Ushijima Y, Nosaka K, Kurata M, Tanaka Y, Ueda R, Mizokami M, Kusumoto S. **Prophylactic antiviral therapy for hepatitis B virus surface antigen-positive patients with diffuse large B-cell lymphoma treated with rituximab-containing chemotherapy.** Cancer Sci. **112(5)**: 1943-1954,2021
29. Miyao K, Terakura S, Ozawa Y, Sawa M, Kohno A, Kasahara S, Iida H, Ino K, Kusumoto S, Kasai M, Takami A, Kurahashi S, Kajiguchi T, Morishita T, Nishida T, Murata M. **Comparison of Transplantation Outcomes after Foscarnet and Ganciclovir Administration as First-Line Anti-Cytomegalovirus Preemptive Therapy.** Transplant Cell Ther. **27(4)**: 342.e1-342.e10,2021
30. Shimada K, Yoshida K, Suzuki Y, Iriyama C, Inoue Y, Sanada M, Kataoka K, Yuge M, Takagi Y, Kusumoto S, Masaki Y, Ito T, Inagaki Y, Okamoto A, Kuwatsuka Y, Nakatochi M, Shimada S, Miyoshi H, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Shiozawa Y, Nannya Y, Okabe A, Kohno K, Atsuta Y, Ohshima K, Nakamura S, Ogawa S, Tomita A, Kiyoi H. **Frequent genetic alterations in immune checkpoint-related genes in intravascular large B-cell lymphoma.** Blood. **137(11)**: 1491-1502, 2021
31. Inoue T, Kusumoto S, Iio E, Ogawa S, Suzuki T, Yagi S, Kaneko A, Matsuura K, Aoyagi K, Tanaka Y. **Clinical efficacy of a novel, high-sensitivity HBcrAg assay in the management of chronic hepatitis B and HBV reactivation.** J Hepatol. **75(2)**: 302-310, 2021

【和文業績】

1. 金森貴之、飯田真介. 多発性骨髄腫におけるゲノムプロファイリングの現状と課題. 血液内科. **82(2)**: 221-225, 2021.
2. 立田卓登、飯田真介. 多発性骨髄腫において、多様なセレブロン遺伝子異常が IMiDs に対する獲得耐性に関与する. 血液内科. **83(1)**: 94-97, 2021.

3. 李政樹、多発性骨髄腫における BCMA-CAR-T 細胞の耐性機序. 血液内科. 83(4): 513-518, 2021.
4. 山田千亜希、竹下明裕、李政樹、長谷川雄一、大友直樹、万木紀美子、李悦子、名倉豊、日高陽子、川畑絹代、道野淳子、松浦秀哲、篠原茂、小嶋俊介、奥田誠、小幡由佳子. 抗 CD38 抗体治療における輸血検査上の問題点と対処法に関する多施設共同研究、日本輸血細胞治療学会誌. 67(3): 440-448, 2021
5. 楠本茂. 成人古典的ホジキンリンパ腫の初回治療戦略. 臨床血液、62(8): 1102-1111, 2021.
6. 楠本茂. 成人古典的 Hodgkin リンパ腫の病態・診断・治療. 日本内科学会雑誌、110(7): 1426-1433, 2021.
7. 楠本茂. 再発・治療抵抗性の古典的ホジキンリンパ腫における brentuximab vedotin と抗 PD-1 抗体選択の考え方と注意点. 血液内科. 82(6): 743-748, 2021.
8. 楠本茂. リンパ腫診療における FAQ リンパ腫治療における感染症予防は. 内科. 128(2): 279-282, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	飯田 真介	29	27 (9)	2 (2)
教授	小松 弘和	2	2	0
准教授	楠本 茂	13	9(1)	4(4)
講師	李 政樹	7	5(1)	2(1)
講師	成田 朋子	0	0	0
助教	稲垣 淳	1	1	0
助教	伊藤 旭	3	3	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	金森 貴之	0	0	1 (1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

特記事項なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

飯田 真介. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度、4,290千円

飯田 真介. 国立がん研究センターがん研究開発費（大江班・分担）. 令和3年度、1,500千円

飯田 真介. 厚生労働省科学研究費（内木班・分担）. 令和3年度、400千円

飯田 真介. 厚生労働省科学研究費（赤司班・分担）. 令和3年度、500千円

飯田 真介. 受託研究費（AMED丸山班・分担）. 令和3年度、1,820千円

飯田 真介. 研究助成金（大塚製薬株式会社）. 令和3年度、168千円

飯田 真介. 研究助成金（中外製薬株式会社）. 令和3年度、168千円

飯田 真介. 研究助成金（協和キリン株式会社）. 令和3年度、336千円

飯田 真介. 研究助成金（第一三共株式会社）. 令和3年度、252千円

飯田 真介. 研究助成金（武田薬品工業株式会社）. 令和3年度、588千円

飯田 真介. 治験費（中外製薬株式会社）. 令和3年度、183千円

飯田 真介. 治験費（武田薬品工業）. 令和3年度、489千円

飯田 真介. 治験費（協和キリン株式会社）. 令和3年度、33千円

飯田 真介. 治験費（ヤンセンファーマ株式会社）. 令和3年度、4,199千円

飯田 真介. 治験費（アッヴィ合同会社）. 令和3年度、526千円

飯田 真介. 治験費（アマジェン株式会社）. 令和3年度、1,067千円

飯田 真介. 治験費（セルジーン株式会社）. 令和3年度、2,563千円

飯田 真介. 治験費（グラクソ・スミスクライン株式会社）. 令和3年度、1,718千円

飯田 真介. 治験費（セルジーン株式会社）. 令和3年度、956千円

飯田 真介. 治験費（ファイザー株式会社）. 令和3年度、1,663千円

飯田 真介. 治験費（ノバルティスファーマ株式会社）. 令和3年度、66千円

飯田 真介. 治験費（IQVIA サービスーズジャパン株式会社）. 令和3年度、1,441千円

楠本 茂. 治験費（日本新薬株式会社）. 令和3年度、22千円

楠本 茂. 治験費（小野薬品工業株式会社）. 令和3年度、33千円

李 政樹. 治験費（小野薬品工業株式会社）. 令和3年度、1,053千円

伊藤 旭. 治験費（ノバルティスファーマ株式会社）. 令和3年度、33千円

李 政樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度、3,400千円

李 政樹. 厚生労働省科学研究費（赤司班・分担）. 令和3年度、500千円

李 政樹. 共同研究費（第一三共株式会社）. 令和2年度-令和5年度、5,000千円

楠本 茂. 受託研究費（AMED 永井班・分担）. 令和3年度、500千円

楠本 茂. 受託研究費（AMED 溝上班・分担）. 令和3年度、9,000千円

楠本 茂. 受託研究費（AMED 福田班・分担）. 令和3年度、200千円

楠本 茂. 共同研究費（シスメックス株式会社）. 令和3年度-令和8年度、500千円

楠本 茂. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和4年度、3,400千円

【その他】

国際学会発表

1. Kana Oiwa, Shin Lee, Kei Fujita, Tetsuji Morishita, Hikaru Tsukasaki, Eiju Negoro, Takanori Ueda, Shinsuke Iida, Taahiro Yamauchi. **The impact of the geriatric 8 score on overall survival in older adults with diffuse large B-cell lymphoma.** Poster session #1908, Annual Meeting of European Hematology Association, Virtual, June 9-17, 2021.
2. Tomotaka Suzuki, Dai Maruyama, Ryunosuke Machida, Tomoko Kataoka, Noriyasu Fukushima, Nobuyuki Takayama, Rie Ohba, Masahito Tokunaga, Hiroo Katsuya, Isao Yoshida, Kazutaka Sunami, Mitstoshi Kurosawa, Nobuko Kubota, Hiroaki Morimoto, Miki Kobayashi, Kazuhito Yamamoto, Yoshihito Kameoka, Yoshihito Kagami, Takayuki Tabayashi, Masaki Maruta, Tsutomu Kobayashi, Shinsuke Iida, Hirokazu Nagai. **The prognostic impact of The UK Myeloma Research Alliance Risk Profile in untreated patients with multiple myeloma who underwent melphalan, prednisolone and**

bortezomib: an ad hoc analysis of JCOG1105. Poster session, The 18th. International Myeloma Workshop, Vienna, Austria, September 8-11, 2021

3. Wee-Joo Chng, Sagar Lonial, Gareth J. Morgan, Shinsuke Iida, Philippe Moreau, Shaji K. Kumar, Philip Twumasi-Ankrah, Arun Kumar, Ajeeta B. Dash, Alexander Vorog, Xiaoquan Zhang, Kaveri Suryanarayan, Richard Labotka, Meletios A. Dimopoulos, S. Vincent Rajkumar. **Progression-Free Survival (PFS) According to the Presence of Adverse Cytogenetic Abnormalities in Patients (pts) with Multiple Myeloma (MM) Receiving Ixazomib (Ixa)-Based vs Placebo (Pbo)-Based Therapy: A Pooled Analysis of the TOURMALINE-MM1, MM2, MM3, and MM4 Phase 3 Studies.** Poster session #1678, The 63th. Annual Meeting of American Society of Hematology and Exposition, December 11-14, Atlanta, USA, 2021.
4. Alexander Lesokhin, Shinsuke Iida, Don Stevens, Afshin Eli Gabayan, Wei Dong Ma, Sharon Sullivan, Marc-Steffan Raab. **MagnetisMM-3: An open-label, multicenter, non-randomized phase 2 study of elranatamab (PF-06863135) in patients with relapsed or refractory multiple myeloma.** Poster session #1674, The 63th. Annual Meeting of American Society of Hematology and Exposition, December 11-14, Atlanta, USA, 2021.
5. Kenshi Suzuki, Naohiro Sekiguchi, Shinya Rai, Wataru Munakata, Hiroshi Handa, Hirohiko Shibayama, Tomoyuki Endo, Yasuhito Terui, Noriko Iwaki, Noriko Fukuhara, Hiro Tatetsu, Shinsuke Iida, Takayuki Ishikawa, Daisuke Iguchi, Koji Izutsu. **Two-year follow-up data of phase II study of tirabrutinib, a second generation bruton's kinase inhibitor, in patients with treatment-naïve or relapsed/refractory Waldenstrom's macroglobulinemia.** Poster session, The 63th. Annual Meeting of American Society of Hematology and Exposition, December 11-14, Atlanta, USA, 2021.

主要な国内学会活動の参加状況

1. Takashi Kanamori, Masaki Ri, Shinsuke Iida. **Cytogenetic risk/genome-based medicine in multiple myeloma.** Oral presentation, The 12nd Japanese Society of Hematology International Symposium. Kamakura, Japan, May 15, 2021.
2. 飯田真介. 腫瘍内科学におけるバイオシミラーの使用について. シンポジウム 18 「臨床におけるバイオシミラーの現状、さらなる普及とその課題」、口演、熊本、第 31 回日本医療薬学会年会 10 月 9 日、2021.

学内研究費（特別研究奨励費）の獲得

飯田 真介. 名古屋市立特別研究奨励費（梅澤直樹代表・分担）. 令和 3 年度、500 千円

<研究活動実績>

【欧文業績】

Sento Y, Arai M, Yamamori Y, Fujiwara S, Tamashiro M, Kawamoto E, Naito T, Atagi K, Fujitani S, Osaga S, Sobue K, on behalf of the In-Hospital Emergency Study Group. **The characteristics, types of intervention, and outcomes of postoperative patients who required rapid response system intervention: A nationwide database analysis.** Journal of Anesthesia. **35(2)**: 222-231, 2021.

Sento Y, Suzuki Y, Sobue K. **Trends in PACU utilization in Japanese children's hospitals.** Journal of Anesthesia. **35(2)**:321, 2021.

Sato AB, Kako E, Okuni N, Kusama N, Kamimura Y, Sento Y, So M, Tanaka M, Miyamoto H, Kato S, Kobayashi M, Shibuya Y, Sobue K. **Perioperative management of thyroglossal duct cystectomy in a pediatric patient: A case report.** Clinical Case Reports. **9(2)**: 673-676, 2021.

Kamimura Y, Nakanishi T, Sato AB, Kako E, Tanaka M, Sobue K. **Anesthetic considerations for cesarean delivery in a parturient with hereditary hemorrhagic telangiectasia: a case report** JA Clinical Reports. **7(1)**: 19, 2021.

Sato AB, Sento Y, Hasegawa T, Tsutsumi K, Kamimura Y, So M, Kako E, Sobue K. **Anesthetic management of a patient with Freeman-Sheldon syndrome undergoing oral surgery: A case report.** Clinical Case Reports. **9(6)**: e04358, 2021.

Nakanishi T, Sobue K. **Pilot line damage at the embedded part of a sutured endotracheal tube intubated via a tracheostomy stoma.** Saudi Journal of Anesthesia. **15(1)**:79-80, 2021.

Nakanishi T, Sento Y, Kamimura Y, Sobue K. **Macintosh laryngoscope and i-view™ and C-MAC© video laryngoscopes for tracheal intubation with an aerosol box: A randomized crossover manikin study.** JA Clinical Reports. **7(1)**: 52, 2021.

Kamimura Y, Nakanishi T, Sobue K, Tanaka M. **Ultrasound-guided SUCCESS approach in emergency cesarean delivery.** Saudi Journal of Anesthesia. **15(2)**: 236-237, 2021.

Sato AB, Sento Y, Kamimura Y, Kako E, Okuda M, Tachi N, Okumura Y, Hashimoto M, Hoshijima H, Suzuki F, Sobue K. **Comparison of hemostatic effect and safety between epinephrine and tramazoline during nasotracheal intubation. A double-blind randomized trial.** BMC Anesthesiology. **21(1)**: 235, 2021.

Nakanishi T, Sento Y, Kamimura Y, Tsuji T, Kako E, Sobue K. **Remimazolam for induction of anesthesia in elderly patients with severe aortic stenosis: A prospective, observational pilot study.** BMC Anesthesiology. **21**: 306, 2021.

Watanabe T, Kondo M, Sakai M, Takabatake S, Furukawa TA, Akechi T. **Association of Autism Spectrum Disorder and Attention Deficit Hyperactivity Disorder Traits with Depression and Empathy Among Medical Students.** Adv Med Educ Pract. **12**: 1259-1265, 2021.

Matasic DS, Holland N, Gautam M, Gibbons DD, Kusama N, Harding AMS, Shah VS, Snyder PM, Benson CJ. **Paradoxical potentiation of acid-sensing ion channel 3 (ASIC3) by amiloride via multiple mechanisms and sites within the channel.** Front Physiol. **12**:750696, 2021.

【和文業績】

井口 広靖, 加古 英介, 仙頭 佳起, 田村 哲也, 祖父江 和哉. 免疫チェックポイント阻害薬での免疫関連有害事象による ICU 入室患者の後方視的研究. 日本集中治療医学会雑誌. 28(6): 543-544, 2021.

仙頭 佳起, 祖父江 和哉. 超高齢患者の術後集中治療. ICU と CCU. 45(12): 811-817, 2021.

仙頭 佳起, 山添大輝, 祖父江 和哉. 術後患者の急変対策: 予防策と対応システム. 臨床麻酔. 45(11): 1389-1395, 2021.

<総説>

酒井 美枝, 杉浦 健之, 永田 富義, 青木 晃大, 近藤 真前. 薬物療法に併用してアクセプタンス&コミットメント・セラピーを実施した慢性二次性筋骨格系疼痛の一症例. 慢性疼痛. 40(1): 131-137, 2021.

加藤 利奈, 杉浦 健之, 酒井 美枝, 草間 宣好, 藤掛 数馬, 祖父江 和哉. 心理療法と漢方療法の併用が有効であった過敏性腸症候群の 1 例. 日本ペインクリニック学会誌. 29(1): 5-8, 2021.

酒井 美枝. 慢性疼痛診療におけるアクセプタンス&コミットメント・セラピーの実際. 総合リハビリテーション. 49(10): 959-964, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	祖父江 和哉	14 (14)	10 (10)	4 (4)
教授(診療担当)	田中 基	3 (1)	3 (1)	0
教授(診療担当)	杉浦 健之	2	0	2
講師	徐 民恵	2	2	0
講師	田村 哲也	1	0	1
講師	加古 英介	6	5	1
講師	太田 晴子	0	0	0
講師(助教級)	仙頭 佳起	10 (4)	7 (2)	3 (2)
講師(助教級)	上村 友二	7 (2)	7 (2)	0
助教	井口 広靖	1 (1)	0	1 (1)
助教	藤掛 数馬	1	0	1
助教	加藤 利奈	1 (1)	0	1 (1)
助教	辻 達也	1	1	0
特任助教	酒井 美枝	4 (2)	1	3 (2)

注: () 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す(教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授（診療担当）	伊藤 彰師	0	0	0
准教授	森島 徹朗	0	0	0
准教授（診療担当）	佐野 文昭	0	0	0
助教	工藤 妙	0	0	0
助教（診療担当）	松山 周平	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授（診療担当）	笹野 信子	0	0	0
准教授（診療担当）	草間 宣好	2	2	0
講師	加藤 裕子	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費（基盤 B・代表）. 令和 3 年度-令和 6 年度、1,700 千円

仙頭 佳起. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 3 年度-令和 6 年度、50 千円

上村 友二. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 3 年度-令和 6 年度、25 千円

杉浦 健之. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-令和 7 年度、550 千円

太田 晴子. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-令和 7 年度、50 千円

仙頭 佳起. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-令和 7 年度、50 千円

藤掛 数馬. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-令和 7 年度、50 千円

円

井口 広靖. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、500 千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、100 千円

森島 徹朗. 文部科学省科学研究費 (研究活動スタート支援・代表). 令和 3 年度-令和 4 年度、1,200 千円

杉浦 健之. 厚生労働省科学研究費 (分担). 令和 3 年度、200 千円

杉浦 健之. 厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 (東海・北陸ブロック)、令和 3 年度、4,600 千円

祖父江 和哉. 受託研究費 (アボットジャパン合同会社). 令和 3 年度、705 千円

田中 基. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 2 年度-令和 4 年度、1,820 千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 2 年度-令和 4 年度、100 千円

祖父江 和哉. 共同研究費 (コドニックス・ヘルスケア・ジャパン株式会社). 令和 2 年 4 月-令和 3 年 3 月、300 千円

草間 宣好. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 平成 31 年度-令和 3 年度、830 千円

徐 民恵. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 平成 31 年度-令和 3 年度、150 千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 平成 31 年度-令和 3 年度、110 千円

田村 哲也. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 平成 31 年度-令和 3 年度、1,043 千円

仙頭 佳起. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 平成 31 年度-令和 3 年度、2,148 千円

酒井 美枝. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 平成 30 年度-令和 3 年度、700 千円

【その他】

<著書>

酒井 美枝, 明智 龍男. 名市大ブックス 6 支えあう人生のための医療 2021 年 4 月発行 中日新聞社 : 分担執筆「長引く痛みへの新対処法! ~痛みのある人生を, 自分らしく, しなやかに生きる~」

酒井 美枝, 明智 龍男. 名市大ブックス 10 地域に根ざし, 寄り添う医療~西部医療センターの挑戦 2021 年 12 月発行 中日新聞社 : 分担執筆「マインドフルネス~「今この瞬間」を十分に味わう~」

明智 龍男, 杉浦 健之 (著, 編集)「こころとからだにチームでのぞむ 慢性疼痛ケースブック」 医学書院 2021 年 7 月発行 全 304 ページ

杉浦 健之. いたみの教科書一「疼痛医学」ダイジェスト版 2021 年 12 月発行 医学書院 分担執筆「慢性疼痛の診断と ICD-11 分類」

<国内学会 座長・司会・講師>

祖父江 和哉. 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会. シンポジウム 7. 司会 WEB

2021.7/21-22 (司会 7/22)

祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会第41回大会. シンポジウム(4). 座長 札幌 2021.11/4-5 (座長 11/4)

祖父江 和哉. 第125回日本産科麻酔学会学術集会. ランチョンセミナー1「妊産婦の生体情報モニタリング」 座長 名古屋 2021.12/4-5 (座長 12/4)

酒井 美枝, 茂本 由紀, 嶋 大樹. 第22回認知療法・認知行動療法学会研修会「CTワークショップ9」講師 多職種のためのアクセプタンス&コミットメント・セラピー入門. 2021.7.10 Web

<国内学会発表>

仙頭 佳起, 新井 正康, 山森 祐治, 藤原 紳祐, 玉城 正弘, 川本 英嗣, 内藤 貴基, 安宅 一晃, 藤谷 茂樹, 大佐賀 智, 祖父江 和哉. 第48回日本集中治療医学会学術集会. RRSの介入を必要とした術後患者の解析. ライブ配信 2021.2.12-14 オンデマンド配信 2021.2.12-3.25

前田 洵哉, 仙頭 佳起, 中西 俊之, 上村 友二, 田村 哲也, 秋丸 慎太郎, 伊藤 遥, 青木 優祐, 井口 広靖, 祖父江 和哉. 第48回日本集中治療医学会学術集会. 当施設における胸腔鏡腹腔鏡下食道垂全摘術の術後経過の現状調査. ライブ配信 2021.2.12-14 オンデマンド配信 2021.2.12-3.25

辻 達也, 佐藤 泉美, 上村 友二, 太田 晴子, 武田 親宗, 祖父江 和哉, 川村 浩司. 第48回日本集中治療医学会学術集会. 小児MRI検査時の鎮静における執行実態の調査と有害事象のリスク因子の検索. ライブ配信 2021.2.12-14 オンデマンド配信 2021.2.12-3.25

中西 俊之, 仙頭 佳起, 柴田 結佳, 前田 洵哉, 山添 大輝, 藤掛 数馬, 太田 晴子, 加古 英介, 田村 哲也, 祖父江 和哉. 第48回日本集中治療医学会学術集会. 術後ICU入室患者における周術期 β 遮断薬の継続状況が心・脳血管合併症に与える影響: 後ろ向き観察研究. ライブ配信 2021.2.12-14 オンデマンド配信 2021.2.12-3.25

長谷川 達也, 上村 友二, 秋丸 慎太郎, 永井 梓, 中西 俊之, 徐 民恵, 草間 宣好, 田中 基, 祖父江 和哉. 第48回日本集中治療医学会学術集会. 気道異物の破片化により複数回の摘出術を要したが経過の異なる健常児の2例. ライブ配信 2021.2.12-14 オンデマンド配信 2021.2.12-3.25

安田 雅美, 稲葉 守彦, 市橋 理恵子, 坂本 一路, 伊藤 美早紀, 鈴木 辰幸, 笹野 信子. 第48回日本集中治療医学会学術集会. 劇症型A群連鎖球菌感染症より壊死性筋膜炎を合併し股離断を施行した症例に対する早期リハビリ介入の報告. ライブ配信 2021.2.12-14 オンデマンド配信 2021.2.12-3.25

加藤 利奈, 草間 宣好, 太田 晴子, 加古 英介, 徐 民恵, 杉浦 健之, 祖父江 和哉. 日本ペインクリニック学会第1回東海・北陸支部学術集会. 脊柱起立筋膜面ブロックにより右胸背部の癌性疼痛緩和を試みた1症例. web開催 2021.3.8-3.22

伊藤 遥, 加古 英介, 長谷川 達也, 中西 俊之, 仙頭 佳起, 太田 晴子, 田村 哲也, 草間 宣好, 祖父江 和哉. 日本区域麻酔学会第8回学術集会. 回腸ストーマ造設後の慢性腹痛に腹直筋鞘ブロック及び心理療法が効果的であった一例. 現地開催/ライブ配信 2021.4.9-10 オンデマンド配信 2021.4.9-26

秋丸 慎太郎, 徐 民恵, 山添 大輝, 中西 俊之, 太田 晴子, 加古 英介, 田村 哲也, 草間 宣好, 杉浦 健之, 祖父江 和哉. 日本区域麻酔学会第8回学術集会. Hugh-Jones分類IV度の高度低肺機能患者に対して開腹S状結腸切除術を施行した一例. 現地開催/ライブ配信 2021.4.9-10 オンデマンド配信 2021.4.9-26

上村 友二, 永井 梓, 長谷川 達也, 横井 礼子, 祖父江 和哉, 田中 基. 日本麻酔科学

会第 68 回学術集会. 日本人妊婦における坐位と側臥位の触診による腸骨稜結合線:前向き観察研究. 現地 2021.6.3-4 WEB 開催 2021.6.5-7.9

仙頭 佳起, 長谷川 達也, 上村 友二, 鈴木 康之, 祖父江 和哉. 日本麻酔科学会第 68 回学術集会. 日本の小児病院における PACU 運営状況の経年的変化: 調査報告. 現地 2021.6.3-4 WEB 開催 2021.6.5-7.9

上村 友二, 永井 梓, 長谷川 達也, 横井 礼子, 祖父江 和哉, 田中 基. 日本麻酔科学会第 68 回学術集会. 日本人妊婦における坐位と側臥位の触診による腸骨稜結合線:前向き観察研究. 現地 2021.6.3-4 WEB 開催 2021.6.5-7.9

田村 哲也, 仙頭 佳起, 井口 広靖, 祖父江 和哉. 日本集中治療医学会第 5 回東海北陸支部学術集会. 急性腎障害を合併した出血傾向を呈する術後肝不全症例に対する血液浄化療法の工夫. ライブ配信 2021.7.10 オンデマンド配信 2021.7.11-31

大塚 醇, 森島 徹朗, 笠原 央達, 下谷 彩, 森川 彰大, 松山 周平, 山村 薫平, 佐野 文昭, 工藤 妙, 伊藤 彰師. 日本集中治療医学会第 5 回東海北陸支部学術集会. 意識障害から強直性痙攣をきたし集中治療を要した脂肪塞栓の一例. ライブ配信 2021.7.10 オンデマンド配信 2021.7.11-31

笠原央達, 山村薫平, 大塚醇, 下谷彩, 森川彰大, 松山周平, 佐野文昭, 工藤妙, 森島徹朗, 伊藤彰師. 日本集中治療医学会第 5 回東海北陸支部学術集会. Stanford A 型急性大動脈解離に対して全弓部大動脈人工血管置換術後に頸髄梗塞を来した一例. ライブ配信 2021.7.10 オンデマンド配信 2021.7.11-31

松山周平, 佐野文昭, 大塚醇, 笠原央達, 下谷彩, 森川彰大, 山村薫平, 安藤雅樹, 森島徹朗, 伊藤彰師. 日本集中治療医学会第 5 回東海北陸支部学術集会. COVID-19 中等症および重症患者受け入れに際しての当院での対応. ライブ配信 2021.7.10 オンデマンド配信 2021.7.11-31

太田 晴子, 杉浦 健之, 藤掛 数馬, 井口 広靖, 加藤 利奈, 加古 英介, 徐 民恵, 草間 宣好, 大堀 久, 祖父江 和哉. 混合性結合組織病に合併した三叉神経障害の症状緩和に星状神経節ブロックが有効であった一例. 日本ペインクリニック学会第 55 回学術集会 一般演題 デジタルポスター. 2021.7.22-24 富山

下谷彩, 佐野文昭, 笠原央達, 工藤妙, 森島徹朗, 伊藤彰師. 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 19 回学術集会. 伏臥位手術中にセファゾリンによるアナフィラキシーで心停止に至った一例. WEB 開催 2021.9.4-10.4

酒井 美枝. 第 117 回日本精神神経学会学術総会. 慢性疼痛患者に対するアクセプタンス&コミットメント・セラピー: 継続的な QOL の拡大と維持を目指して. 2021.9.20 京都

中西 俊之, 影山 翔一, 秋丸 慎太郎, 仙頭 佳起, 加古 英介, 祖父江 和哉. 日本心臓血管麻酔学会第 26 回学術大会. 重症大動脈弁狭窄症を有する高齢者におけるレミマゾラムを用いた全身麻酔の導入: 単施設パイロット研究. 現地 2021.10.23-24 WEB 開催 2021.9.17-11.22

森島徹朗, 伊藤彰師, 山村薫平, 工藤妙. 日本心臓血管麻酔学会第 26 回学術大会. 治療抵抗性の心房頻拍に対する左心耳切除術の麻酔管理に問題を生じた 1 例. 現地 2021.10.23-24 WEB 開催 2021.9.17-11.22

山村薫平, 森島徹朗, 工藤妙, 伊藤彰師. 日本心臓血管麻酔学会第 26 回学術大会. 急性大動脈解離術後に体外循環式心配蘇生法 (ECPR) を行った際, 両上肢 PaO₂ 較差から偽腔送血と診断した一例. 現地 2021.10.23-24 WEB 開催 2021.9.17-11.22

稻垣 諒将, 田村 哲也, 辻 達也, 青木 優祐, 仙頭 佳起, 藤掛 数馬, 草間 宣好, 祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会第 41 回大会. ダブルルーメンカテーテルによる VV-ECMO 管理中に敗血症によりカテーテル交換を要した重症 COVID-19 肺炎症例.

2021.11.5-6 北海道札幌市

仙頭 佳起, 田中 基, 篠田 弥紀, 中西 俊之, 太田 晴子, 祖父江 和哉. 第 125 回日本産科麻酔学会学術集会. リトドリン塩酸塩の長期投与による肺水腫とリバウンド高カリウム血症をきたした帝王切開術患者の周術期管理 (症例報告). 2021.12.4-5 愛知県名古屋市

酒井 美枝. 第 125 回 日本産科麻酔学会学術集会. ニプロ株式会社 共催シンポジウム 周術期の痛みを考える 術後遷延性疼痛に対する集学的治療と心理的アプローチの可能性ー産科関連の痛みへの展望を含めてー. 2021.12.4 愛知

杉浦 健之, 藤掛 数馬, 太田 晴子. 第 43 回日本疼痛学会. 顔認識アプリを用いた痛みの表情解析. 2021.12.11 WEB

<国内学会 役職等>

祖父江 和哉

日本麻酔科学会・理事,代議員,第 69 回学術集会第 6・救急・ICU ワーキンググループ サテライトメンバー,倫理委員会副委員長,APSF ニュースレター日本語版作成ワーキンググループワーキンググループ長,東海・北陸支部運営委員会支部長,術中の心肺蘇生ガイドライン作成ワーキンググループメンバー

日本集中治療医学会・評議員,研究倫理委員会委員/

日本臨床麻酔学会・理事,評議員,広報委員会委員長,学会誌編集刊行委員会委員

日本老年麻酔学会・評議員

日本臨床栄養代謝学会・理事,支部世話人,臨床栄養コンセンサス検討委員会副委員長, 周術期・救急集中治療ワーキングチームワーキングチーム長

日本神経麻酔集中治療学会・理事,評議員

日本区域麻酔学会・評議員,上嶋浩順氏論文問題に関する調査委員会委員長

日本術後痛学会・評議員

日本小児麻酔学会・代議員

<特別研究奨励費>

徐 民恵. 特別研究奨励費.令和 3 年度, 600 千円

上村 友二. 特別研究奨励費.令和 3 年度, 600 千円

辻 達也. 特別研究奨励費.令和 3 年度, 533 千円

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

田村 哲也, 上村 友二. 名古屋市救急救命研修所 外来講師 救急救命士の手技に対する指導及び助言. 月 1 回随時

杉浦 健之. 日本福祉大学看護学部 2 年 疾病論 (外科系) 講義. 2021.4.19, 26. 愛知: 日本福祉大学

徐 民恵. 名古屋市立大学 学びなおし講座: 痛みの治療最前線 カラダとココロの両面からのアプローチ~2021. 「慢性痛に対する多職種診療」 2021.4.7.

太田 晴子. 名古屋市立大学 学びなおし講座: 痛みの治療最前線 カラダとココロの両面からのアプローチ~2021. 「難治性の神経障害性疼痛」 2021.4.28

加藤 利奈. 名古屋市立大学 学びなおし講座: 痛みの診療最前線 カラダとココロの両面からのアプローチ~2021. 「慢性痛の東洋医学的アプローチ~心身一如~」 2021.4.14

酒井 美枝. 名古屋市立大学 学びなおし講座：痛みの治療最前線 カラダとココロの両面からのアプローチ～2021. 「慢性疼痛と行動科学ーその基礎と応用ー」 2021.7.7

酒井 美枝. NPO 法人 エスビューロー 第 13 回小児がん脳腫瘍全国大会. アクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT) を通して考える, 自分らしい生きがいのある生活 ～慢性痛の臨床現場からの提案～. 2021.8.22

酒井 美枝. 第一三共株式会社 痛みとこころのセミナー. アクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT) の役割ーACT で見つけ出す, 痛みのある新しい人生の “ 生き方 ”ー. 2021.9.11

酒井 美枝. 同志社大学心理学部ランチョンセミナー. 大学病院での集学的治療の一員としてーOne Purpose の精神を胸にー. 講師 2021.9.29

杉浦 健之. 慢性疼痛診療ガイドライン研修会 in 名古屋. ファシリテーター2021.10.17 名古屋医師会館

杉浦 健之. 第 20 回中部日本運動器超音波研究会. 麻酔・ペインクリニック領域の超音波ガイド下・下肢神経ブロック特別講演講師. 2021.10.21

杉浦 健之. 令和 3 年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 関東甲信越ブロック 日本大学医学部附属板橋病院慢性疼痛診療研修会講師. 慢性疼痛の分類と疾患について知ろう. ファシリテーター 2021.11.13

酒井 美枝. 令和 3 年度厚生労働省慢性疼痛診療体制構築モデル事業 関東甲信越ブロック 日本大学医学部附属板橋病院 慢性疼痛診療研修会. 講師痛みの治療の知識をつけよう：心理療法. 2021.11.13

徐 民恵. 名市大ブックス創刊 1 周年記念事業 特別市民公開講座「慢性痛」 2021.12.5

酒井 美枝. 名市大ブックス創刊 1 周年記念事業 特別市民公開講座「長引く痛みへの新対処法！～痛みのある人生を, 自分らしく, しなやかに生きる～」 2021.12.5

<研究活動実績>

【欧文業績】

Ohkubo H, Nakano A, Fujita K, Ozawa Y, Murase T, Niimi A. **Spontaneous improvement of interstitial pneumonia with autoimmune features: A case report.** *Respirol Case Rep.* **9(11)**: e0867, 2021.

Kawamura M, Koide Y, Murai T, Ishihara S, Takase Y, Muraio T, Okazaki D, Yamaguchi T, Uchiyama K, Itoh Y, Kodaira T, Shibamoto Y, Mizuno M, Kikkawa F, Naganawa S. **The importance of choosing the right strategy to treat small cell carcinoma of the cervix: a comparative analysis of treatments.** *BMC Cancer.* **21(1)**: 1046, 2021.

Takaoka T, Tomita N, Shido Y, Baba S, Fukushima M, Sugie C, Shibamoto Y. **Radiotherapy for a rare phosphaturic mesenchymal tumor in the middle ear presenting with oncogenic osteomalacia: A case report.** *Medicine (Baltimore).* **100(38)**: e27284, 2021.

Manabe Y, Hashimoto S, Mukouyama H, Shibamoto Y. **Stereotactic body radiotherapy using a hydrogel spacer for localized prostate cancer: A dosimetric comparison between tomotherapy with the newly-developed tumor-tracking system and cyberknife.** *J Appl Clin Med Phys.* **22(10)**: 66-72, 2021.

Tomita N, Tamechika S.Y, Kawakita D, Saito K. **Marked Improvement of Anti-TIF1- γ Antibody-Positive Dermatomyositis After Chemoradiotherapy to Relevant Nasopharyngeal Cancer.** *Adv Radiat Oncol.* **6(4)**: 100695, 2021.

Nakayama K, Shimohira M, Nagai K, Ohta K, Kawai T, Sawada Y, Shibata S, Shibamoto Y. **Duodenal stenosis after transcatheter arterial embolization for rupture of an inferior pancreaticoduodenal aneurysm.** *Radiol Case Rep.* **16(10)**: 2869-72, 2021.

Matsuo Y, Nagata Y, Wakabayashi M, Ishikura S, Onishi H, Kokubo M, Karasawa K, Shioyama Y, Onimaru R, Hiraoka M. **Impact of pre-treatment C-reactive protein level and skeletal muscle mass on outcomes after stereotactic body radiotherapy for T1N0M0 non-small cell lung cancer: a supplementary analysis of the Japan Clinical Oncology Group study JCOG0403.** *J Radiat Res.* **62(5)**: 901-09, 2021.

Nakajima K, Iwata H, Hattori Y, Nomura K, Hashimoto S, Toshito T, Hayashi K, Kuroda Y, Fukano H, Ogino H, Shibamoto Y. **Spot Scanning Proton Therapy for Sinonasal Malignant Tumors.** *Int J Part Ther.* **8(1)**: 189-99, 2021.

Iwaki S, Kawakita D, Sawabe M, Matoba T, Takano G, Oguri K, Murashima A, Minohara K, Tanaka N, Tsuge H, Imaizumi S, Matsumura A, Masaki A, Murase T, Ogawa M, Iwasaki S. **Long-term efficacy of weekly paclitaxel therapy in unresectable primary squamous cell carcinoma of the thyroid.** *Auris Nasus Larynx.* **49(6)**: 1083-87, 2022.

Aibe N, Ogino H, Teramukai S, Yamazaki H, Iwata H, Matsuo Y, Okimoto T, Murakami M, Suzuki M, Arimura T, Ogino T, Murayama S, Harada H, Nakamura M, Akimoto T, Sakurai H. **Multi-Institutional Retrospective Analysis of the Outcomes of Proton Beam Therapy for Patients With 1 to 3 Pulmonary Oligometastases from Various Primary Cancers.** *Adv Radiat Oncol.* **6(4)**: 100690, 2021.

Okazaki D, Shibamoto Y, Yanagi T, Ishikura S, Kondo T, Yamada Y, Niwa M. **Local radiotherapy for pleural dissemination of thymic tumors after initial treatment.** *J Radiat Res.* **62(4)**: 676-81, 2021.

Sakai T, Aiba H, Nakagawa M, Hattori H, Murakami H, Kimura H. **Myelolipoma mimicking osteosarcoma in the distal femur.** *Int J Surg Case Rep.* **83**: 105997, 2021.

Mizumoto M, Fuji H, Miyachi M, Soejima T, Yamamoto T, Aibe N, Demizu Y, Iwata H, Hashimoto T, Motegi A, Kawamura A, Terashima K, Fukushima T, Nakao T, Takada A, Sumi M, Oshima J, Moriwaki K, Nozaki M, Ishida Y, Kosaka Y, Ae K, Hosono A, Harada H, Ogo E, Akimoto T, Saito T, Fukushima H, Suzuki R, Takahashi M, Matsuo T, Matsumura A, Masaki H, Hosoi H, Shigematsu N, Sakurai H. **Proton beam therapy for children and adolescents and young adults (AYAs): JASTRO and JSPHO Guidelines.** *Cancer Treat Rev.* **98**: 102209, 2021.

Isobe T, Naiki T, Naiki-Ito A, Kawai T, Etani T, Nagai T, Nozaki S, Kobayakawa Y, Iwatsuki S, Matsuyama N, Kato H, Kawai N, Yasui T. **Rare case of immunoglobulin G4-related disease arising in gonadal glands with long-term remission without steroid treatment: Discussion and literature review.** *IJU Case Rep.* **4(3)**: 188-91, 2021.

Shimohira M, Nagai K, Ohta K, Sawada Y, Naik T, Nagai T, Yasui T, Shibamoto Y. **Use of microspheres in embolization for unruptured renal angiomyolipomas.** *Open Med (Wars).* **16(1)**: 655-59, 2021.

Kawai T. **Editorial for "Can Hybrid Arterial Spin Labeling-Tagged Zero-Echo-Time Magnetic Resonance Angiography Be an Effective Candidate in the Evaluation of Intracranial Artery Diseases? A Clinical Feasibility Study".** *J Magn Reson Imaging.* **54(3)**: 950-51, 2021.

Kawai T, Brender J. R, Lee J. A, Kramp T, Kishimoto S, Krishna M. C, Tofilon P, Camphausen K. A. **Detection of metabolic change in glioblastoma cells after radiotherapy using hyperpolarized.** *NMR Biomed.* **34(7)**: e4514, 2021.

Ogawa M, Urano M, Takaishi T, Kan H, Arai N, Takahashi H, Hara M, Saito M, Shibamoto, Y. **T-staging of rectal cancer: Utility of single-shot turbo spin-echo diffusion-weighted imaging with T2-weighted images and fusion images.** *PLoS One.* **16(4)**: e0249433, 2021.

Kazawa N, Shibamoto Y, Hirose Y, Yamashita Y. **The radiologic (CT/MRI)-pathological correlations of the salivary duct carcinoma (SDC) with hyaline degeneration and peripheral nerve invasion.** *Dentomaxillofac Radiol.* **50(7)**: 20200603, 2021.

De Maria L, Terzi di Bergamo L, Conti A, Hayashi K, Pinzi V, Murai T, Lanciano R, Burneikiene S, Buglione di Monale M, Magrini S. M, Fontanella M. M. **CyberKnife for Recurrent Malignant Gliomas: A Systematic Review and Meta-Analysis.** *Front Oncol.* **11**: 652646, 2021.

Ozawa Y, Shibamoto Y, Hiroshima M, Nakagawa M, Ono A, Hanaoka R, Yamamoto A, Tominaga J, Kawada H, Koyama M, Takumi K, Tsubakimoto M, Egashira R, Tsushima F, Kikuchi Y, Izumi Y, Ushio T, Kimura M, Ichikawa S, Kitamura N, Matsushita S, Okauchi K, O'uchi T, Ishikawa H, Kitase M. **Preoperative CT Findings for Predicting Acute Exacerbation of Interstitial Pneumonia After Lung Cancer Surgery: A Multicenter Case-Control Study.** *AJR Am J Roentgenol.* **217(4)**: 859-69, 2021.

Nakamura S, Fujioka T, Kawashima S, Kawaguchi T, Mizuno M, Omura M, Okita K, Kimura A, Shimohata T, Matsukawa N. **Self-remitting Elevation of Adenosine Deaminase Levels in the Cerebrospinal Fluid with Autoimmune Glial Fibrillary Acidic Protein Astrocytopathy: A Case Report and Review of the Literature.** *Intern Med.* **60(18)**: 3031-36, 2021.

Iwata H, Ogino H, Hattori Y, Nakajima K, Nomura K, Hashimoto S, Hayashi K, Toshito T, Sasaki S, Mizoe JE, Shibamoto Y. **A phase 2 study of image-guided proton therapy for operable or ablation-treatable primary hepatocellular carcinoma.** *Int J Radiat Oncol Biol Phys.* **111(1)**: 117-126. 2021.

Shimoyama R, Nakagawa K, Ishikura S, Wakabayashi M, Sasaki T, Yoshioka H, Hashimoto T, Kataoka T, Fukuda H, Watanabe S. I. **A multi-institutional randomized phase III trial comparing postoperative radiotherapy to observation after adjuvant chemotherapy in patients with pathological N2 Stage III non-small cell lung cancer: Japan Clinical**

Oncology Group Study JCOG1916 (J-PORT study). Jpn J Clin Oncol. **51(6)**: 999-1003, 2021.

Aibe N, Ogino H, Teramukai S, Yamazaki H, Iwata H, Matsuo Y, Okimoto T, Murakami M, Suzuki M, Arimura T, Ogino T, Murayama S, Harada H, Nakamura M, Akimoto T, Sakurai H. **Multi-institutional retrospective analysis of the outcomes of proton beam therapy for patients with 1 to 3 pulmonary oligometastases from various primary cancers.** Adv Radiat Oncol. **6(4)**: 100690. 2021.

Ohta K, Shimohira M, Ogino H, Nagai K, Sawada Y, Nakayama K, Shibamoto Y. **Safety and utility of performing CT-guided biopsies of pulmonary lesions that arise after radiotherapy.** J Med Imaging Radiat Oncol. **65(3)**: 317-22, 2021.

Hattori Y, Iwata H, Nakajima K, Nomura K, Hayashi K, Toshito T, Hashimoto S, Umemoto Y, Mizoe JE, Ogino H, Shibamoto Y. **Changes in sexual function and serum testosterone levels in patients with prostate cancer after image-guided proton therapy.** J Radiat Res. **62(3)**: 517-524. 2021.

Kurokawa, R, Kanemitsu, Y., Fukumitsu, K, Takeda, N, Yap, J. M, Ozawa, Y, Masaki, A, Ono, J, Izuhara, K, Nishiyama, H, Fukuda, S, Uemura, T, Tajiri, T, Ohkubo, H, Maeno, K, Ito, Y, Oguri, T, Takemura, M, Suzuki, M. and Niimi, A. **Nasal polyp eosinophilia and FeNO may predict asthma symptoms development after endoscopic sinus surgery in CRS patients without asthma.** J Asthma. **59(6)**: 1139-47, 2022.

Maki H, Nakagawa M, Kagaya R, Kumazawa S, Matsumoto K, Hatano M, Miyake Y, Sugihara W, Shibamoto Y. **Transient Hyperintensity of the Infant Thyroid Gland on T1-Weighted MR Imaging: Correlation with Postnatal Age, Gestational Age, and Signal Intensity of the Pituitary Gland.** AJNR Am J Neuroradiol. **42(5)**: 955-960, 2021.

Ogawa M, Osaga S, Shiraki N, Kawakita D, Hanai N, Tamaki T, Tsukahara S, Kawaguchi T, Urano M, Shibamoto, Y. **Utility of CT texture analysis to differentiate olfactory neuroblastoma from sinonasal squamous cell carcinoma.** Sci Rep. **11(1)**: 4679, 2021.

Nomura K, Iwata H, Toshito T, Omachi C, Nagayoshi J, Nakajima K, Ogino H, Shibamoto Y. **Biological effects of passive scattering and spot scanning proton beams at the distal end of the spread-out Bragg peak in single cells and multicell spheroids.** Int J Radiat Biol. **97(5)**:695-703, 2021

Shimohira M, Nagai K, Ohta K, Sawada Y, Nakayama K, Shibamoto Y. **Safety of Transcatheter Arterial Embolization for Visceral Artery Pseudoaneurysms: Incidence of Intraprocedural Rupture.** Vasc Endovascular Surg. **55(4)**: 361-66, 2021.

Inagaki A, Kojima A, Ogawa M, Sakata T, Iwasaki S. **Imaging manifestations on sequential magnetic resonance imaging in pharyngolaryngeal involvement by varicella zoster virus.** J Neurovirol. **27(1)**: 186-90, 2021.

Mizuno T, Tomita N, Takaoka T, Tomida M, Fukuma H, Tsuchiya T, Shibamoto Y. **Dosimetric comparison of helical tomotherapy, volumetric-modulated arc therapy, and intensity-modulated proton therapy for angiosarcoma of the scalp.** Technol Cancer Res Treat. **20**: 1533033820985866, 2021

Tomita N, Ogawa S, Aikawa G. **Abscopal Effect of Pelvic Intensity Modulated Radiation Therapy on Lung Metastases in a Patient With Recurrent Endometrial Cancer.** Adv Radiat Oncol. **6(1)**: 100563, 2021.

Takemoto S, Shibamoto Y, Hashizume C, Miyakawa A, Murai T, Yanagi T, Sugie C, Nagai A. **Changes in pulmonary function and their correlation with dose-volume parameters in patients undergoing stereotactic body radiotherapy for lung cancer.** J Radiat Res. **62(2)**: 338-45, 2021.

Ozawa Y, Hiroshima M, Maki H, Hara M, Shibamo Y. **Correction to: Imaging findings of lesions in the middle and posterior mediastinum.** *Jpn J Radiol.* **39(2)**: 208, 2021.

Shimohira M, Kiyosue H, Osuga K, Gobara H, Kondo H, Nakazawa T, Matsui Y, Hamamoto K, Ishiguro T, Maruno M, Sugimoto K, Koganemaru M, Kitagawa A, Yamakado K. **Location of embolization affects patency after coil embolization for pulmonary arteriovenous malformations: importance of time-resolved magnetic resonance angiography for diagnosis of patency.** *Eur Radiol.* **31(7)**: 5409-20, 2021.

Iwata H, Ogino H, Hattori Y, Nakajima K, Nomura K, Hayashi K, Toshito T, Sasaki S, Hashimoto S, Mizoe JE, Shibamoto Y. **Image-guided proton therapy for elderly patients with hepatocellular carcinoma: high local control and quality of life preservation.** *Cancers (Basel).* **13(2)**: 219. 2021.

Shimohira M, Kondo H, Ogawa Y, Kawada H, Koganemaru M, Ikeda O, Yamamoto A, Komada T, Tanoue S, Muraoka N, Tanikake M, Hayashi S, Yamamoto S, Sato T, Mizunuma K, Ganaha F, Murakami Y, Ishiguchi T. **Natural History of Unruptured Visceral Artery Aneurysms Due to Segmental Arterial Mediolysis and Efficacy of Transcatheter Arterial Embolization: A Retrospective Multiinstitutional Study in Japan.** *AJR Am J Roentgenol.* **216(3)**: 691-97, 2021.

Matsuyama N, Naiki T, Naiki-Ito A, Chaya R, Kawai T, Etani T, Nagai T, Kato H, Kubota Y, Yasui T. **Novel case of androgen receptor-positive cancer of unknown primary without serum prostate-specific antigen elevation that became progression free in the long term after primary combined androgen blockade.** *IJU Case Rep.* **4(1)**: 59-63, 2021.

Makino T, Ihn H, Nakagawa M, Urano M, Okuyama R, Katoh N, Tateishi C, Masuda K, Ogawa E, Nishida E, Nishimoto S, Muramoto K, Tsuruta D, Morita A. **Effect of adalimumab on axial manifestations in Japanese patients with psoriatic arthritis: a 24 week prospective, observational study.** *Rheumatology (Oxford).* **60(8)**: 3669-78, 2021.

Murakami N, Mori T, Machida R, Kodaira T, Ito Y, Shikama N, Konishi K, Matsumoto Y, Murakami, Y, Nakamura N, Yamashita H, Yorozu A, Yoshimura M, Inoue K, Nozaki M, Ishikura S, Itami J, Nishimura Y, Kagami Y. **Prognostic Value of Epithelial Cell Adhesion Molecules in T1-2N0M0 Glottic Cancer.** *Laryngoscope.* **131(7)**: 1522-27, 2021.

Okabe H, Suzuki K, Tsukahara S, Kagaya R, Kitase M, Mizutani M, Shimohira M, Shibamoto Y. **Triaxial system in stent-graft placement for traumatic renal artery dissection: A case report.** *Radiol Case Rep.* **16(3)**: 493-96, 2021.

Inukai R, Kawai T, Nishikawa R, Ogawa S, Kojima R, Kita N, Hattori H, Shibamoto Y. **Ependymoma of the broad ligament mimicking an ovarian surface epithelial tumor.** *Radiol Case Rep.* **16(1)**: 210-14, 2021.

Iwata H, Akita K, Yamaba Y, Kunii E, Takakuwa O, Yoshihara M, Hattori Y, Nakajima K, Hayashi K, Toshito T, Ogino H, Shibamoto Y. **Concurrent chemo-proton therapy using adaptive planning for unresectable stage 3 non-small cell lung cancer: a phase 2 study.** *Int J Radiat Oncol Biol Phys.* **109(5)**: 1359-1367. 2021.

Kimura T, Takeda A, Sanuki N, Ariyoshi K, Yamaguchi T, Imagumbai T, Katoh N, Eriguchi T, Oku Y, Ozawa S, Tsurugai Y, Kokubo M, Shimizu S, Ishikura S. **Multicenter prospective study of stereotactic body radiotherapy for previously untreated solitary primary hepatocellular carcinoma: The STRSPH study.** *Hepatol Res.* **51(4)**: 461-71, 2021.

Ohta K, Shimohira M, Shoji J, Yoshida S, Takaishi T, Morimoto M, Matsuo Y, Ogawa T, Suda H, Shibamoto Y. **Multiple large pancreaticoduodenal artery aneurysms due to celiac artery occlusion: Combination of the aorto-hepatic bypass and coil embolization with a dual approach through both the superior mesenteric artery and bypass.** *Radiol Case Rep.* **16(1)**: 1-4, 2021.

Osawa T, Ohno N, Mase M, Miyati T, Omasa R, Ishida S, Kan H, Arai N, Kasai H, Shibamoto Y, Kobayashi S, Gabata, T. **Changes in Apparent Diffusion Coefficient (ADC) during Cardiac Cycle of the Brain in Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus Before and After Cerebrospinal Fluid Drainage.** J Magn Reson Imaging. **53(4)**: 1200-07, 2021.

Shimohira M, Sato Y, Yasumoto T, Kodama Y, Masada T, Inaba Y, Yamakado, K. **Arterial Embolization Using Microspheres for Hypervascular Liver Metastases Refractory to Standard Treatments: A Multicenter Prospective Clinical Trial.** Cardiovasc Intervent Radiol. **44(3)**: 392-400, 2021e.

Ohta K, Ogino H, Iwata H, Hashimoto S, Hattori Y, Nakajima K, Yamada M, Shimohira M, Mizoe JE, Shibamoto Y. **Feasibility of transrectal and transperineal fiducial marker placement for prostate cancer before proton therapy.** Jpn J Clin Oncol. **51(2)**: 258-263. 2021.

Takaishi T, Ozawa Y, Bando Y, Yamamoto A, Okochi S, Suzuki H, Shibamoto Y. **Incorporation of a computer-aided vessel-suppression system to detect lung nodules in CT images: effect on sensitivity and reading time in routine clinical settings.** Jpn J Radiol. **39(2)**: 159-64, 2021.

Ozawa Y, Hiroshima M, Maki H, Hara M, Shibamoto Y. **Correction to: Imaging findings of lesions in the middle and posterior mediastinum.** Jpn J Radiol. **39(2)**: 208, 2021.

Ozawa Y, Hiroshima M, Maki H, Hara M, Shibamoto, Y. **Imaging findings of lesions in the middle and posterior mediastinum.** Jpn J Radiol. **39(1)**: 15-31, 2021.

Tomita N, Okuda K, Osaga S, Miyakawa A, Nakanishi R, Shibamoto Y. **Surgery versus stereotactic body radiotherapy for clinical stage I non-small-cell lung cancer: propensity score-matching analysis including the ratio of ground glass nodules.** Clin Transl Oncol. **23(3)**: 638-47, 2021b.

Bando Y, Kitase M, Shimohira M, Honda J, Furuta Y, Kasuya A, Imada H, Mizutani M, Shibamoto, Y. **2D-shear wave elastography in the prediction of type II endoleaks after endovascular aneurysm repair.** Minim Invasive Ther Allied Technol. **30(1)**: 21-26, 2021.

Takaoka T, Tomita N, Mizuno T, Hashimoto S, Tsuchiya T, Tomida M, Yanagi T. **Dosimetric comparison of helical tomotherapy and intensity-modulated proton therapy in hippocampus- and scalp-sparing whole brain radiotherapy.** Technol Cancer Res Treat. **20**: 15330338211060170, 2021.

Takagi D, Morikawa Y, Kamei M, Ogino H, Iwata H, Maeda N, Akita N, Fukumoto T, Sasaki R, Kondo S. **The first pediatric case of sacral Ewing sarcoma treated with space-making particle therapy.** Pediatr Blood Cancer. **68(5)**: e28842. 2021.

Zeng J, Badiyan SN, Garces YI, Wong T, Zhang X, Simone CB 2nd, Chang JY, Knopf AC, Mori S, Iwata H, Meijers A, Li H, Bues M, Liu W, Schild SE, Rengan R; International Particle Therapy Cooperative Group Thoracic Subcommittee. **Consensus Statement on Proton Therapy in Mesothelioma.** Pract Radiat Oncol. **11(2)**: 119-133. 2021.

【和文業績】

岩田 宏満. III 期非小細胞肺癌に対する免疫陽子線治療の確立. 上原記念生命科学財団研究報告集. **35**: 2433-3441, 2021.

河合 憲康, 永井 隆, 飯田 啓太郎, 惠谷 俊紀, 内木 拓, 畦元 将隆, 吉田 亮人, 芝本 雄太, 安井 孝周. **放射線温熱治療が奏功した前立腺小細胞癌の一例.** Thermal Medicine. **37(3)**: 73-74, 2021.

高木 大輔, 亀井 美智, 吉田 悟, 武田 理沙, 荻野 浩幸, 岩田 宏満, 近藤 知史. 小児固形腫瘍の陽子線治療における延伸ポリテトラフルオロエチレン製シートを用いたスペーサー留置術. 日本小児血液・がん学会雑誌. 57(5): 379-384, 2021.

安田 雄紀, 林 香奈, 秦野 基貴, 堀田 直秀, 堀部 晃弘, 原 眞咲, 小澤 良之, 村瀬 貴幸. 診断・治療に難渋した前縦隔発生血管腫の1例. 日本医学放射線学会秋季臨床大会抄録集. 57: S441-S442, 2021.

中川 基生. 【地力が伸ばせる小児画像診断-知っておきたい小児領域の救急疾患-】心大血管 チアノーゼ性先天性心疾患を中心に. 臨床画像. 37(8): 956-967, 2021.

岩田 宏満, 芝本 雄太. FLASH Radiotherapy. Radioisotopes. 70(4): 279-289, 2021.

下平 政史. 外科治療前のマーキング:Bronchoscopy vs CT 小型肺腫瘍に対する術中同定法 CTガイド下マーキングの実際. 気管支学. 43(Suppl): S156, 2021.

下平 政史. 末梢肺病変の確定診断(気管支鏡下生検 vsCTガイド下生検) CTガイド下針生検 肺癌診療における役割. 気管支学. 43(Suppl): S141, 2021.

永井 圭一, 澤田 裕介, 中山 敬太, 芝本 雄太. 術後の内臓動脈出血に対してバルーン閉塞併用のステントグラフト留置の有用性の検討. 日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌. 36(Suppl): 202, 2021.

加古 志織, 加藤 裕史, 中村 元樹, 森田 明理, 村井 太郎, 芝本 雄太. 放射線療法が奏効した高齢者顔面基底細胞癌の1例. 日本皮膚科学会雑誌. 131(1): 129, 2021.

【各教員の論文数 (桜山)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	芝本雄太	34(29)	30(29)	4(0)
准教授	下平政史	13(10)	11(8)	2(2)
准教授	小澤良之	8(3)	8(3)	0
准教授	石倉聡	5(0)	5(0)	0
准教授	富田夏夫	6(4)	6(4)	0
講師	中川基生	4(1)	3(0)	1(1)
講師	村井太郎	3(0)	3(0)	0
講師	河合辰哉	7(3)	7(3)	0
講師	小川正樹	9(2)	9(2)	0
助教	浦野みすぎ	3(0)	3(0)	0
助教	川口毅恒	2(0)	2(0)	0
助教	太田賢吾	6(3)	6(3)	0
助教	橋本眞吾	9(0)	9(0)	0
助教	真木浩行	4(1)	4(1)	0
助教	中山敬太	3(1)	3(1)	0
助教	鈴木梨津子	0	0	0
助教	古田好輝	0	0	0
助教	澤田裕介	0	0	0

注: () 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の

論文も含む)

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	橋爪卓也	0	0	0
准教授(診療担当)	武藤昌裕	0	0	0
助教	廣島希彦	0	0	0

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授(診療担当)	荻野浩之	13(6)	13(6)	0
教授(診療担当)	原 眞咲	0	0	0
准教授	岩田宏満	12(5)	12(5)	1(1)
准教授	馬場二三八	0	0	0
助教	堀部晃弘	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

富田 夏夫. 名古屋市立大学医学部同窓会 瑞友会. 第15回（2021年度）瑞友会賞(学術部門賞). 各種悪性腫瘍に対する強度変調技術を主とした高精度放射線治療の精度管理と有効性に関する研究, 令和3年9月.

【外部資金獲得実績】

岩田 宏満. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和5年度、3,300千円
 岩田 宏満. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、150千円
 岩田 宏満. 研究助成金（公立大学法人名古屋市立大学 令和3年度特別研究奨励費）. 令和4年2月、200千円
 岩田 宏満. 研究助成金（公益財団法人 かなえ医薬振興財団）令和2年12月-令和4年3月、1,000千円
 岩田 宏満. 受託研究費（AMED・分担）. 令和2年度-令和4年度、1,560千円
 岩田 宏満. 治験費（アルフレッサファーマ）. 令和2年1月-令和5年6月、78千円
 岩田 宏満. 受託研究費（AMED・分担）. 平成31年度-令和3年度、485千円
 岩田 宏満. 受託研究費（国立がん研究センター研究開発費・分担）. 平成31年度-令和3年度、950千円
 岩田 宏満. 受託研究費（AMED・分担）. 平成31年度-令和3年度、1,300千円
 浦野みすぎ. 文部科学省科学研究費 若手研究 令和2年度-令和5年度 1,560千円

富田 夏夫. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 2 年度-令和 5 年度、3,400 千円

富田 夏夫. 日本放射線腫瘍学会 2021・2022 度研究課題. 令和 3 年度-令和 4 年度、600 千円

富田 夏夫. 堀科学芸術振興財団 研究助成. 令和 3 年度-令和 4 年度、1,000 千円

下平 政史. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 2 年度-令和 5 年度、3,300 千円

太田賢吾. 文部科学省科学研究費 (若手 B・代表). 令和 1 年度-令和 4 年度、3300 千円

【その他】

《国際学会発表》

＜招待講演 シンポジウム＞

Hiromitsu Iwata. 59th Annual Conference of the Particle Therapy Co-Operative Group. Scanning proton FLASH irradiation using a synchrotron accelerator: effects on cultured cells and differences by LET. 2021 年 6 月 4-7 日

＜ポスター＞

Hiromitsu Iwata. the 63rd American Society for Therapeutic Radiology and Oncology Annual Meeting. Immune-related radiation pneumonitis in patients undergoing durvalumab treatment after concurrent chemo-proton therapy. 2021 年 10 月 24-27 日

Hiromitsu Iwata. 59th Annual Conference of the Particle Therapy Co-Operative Group. Proton therapy with a bio-absorbable spacer for Ewing sarcoma: the world's first pediatric case of space-making proton therapy. 2021 年 6 月 4-7 日

《国内学会発表、活動》

＜招待講演 シンポジウム＞

岩田 宏満. FLASH 照射の生物学的事項と臨床応用への期待. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, 2021 年 11 月 12-14 日

岩田 宏満. III 期非小細胞肺癌に対する同時併用化学陽子線治療成績と durvalumab への期待. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, 2021 年 11 月 12-14 日

＜口演発表＞

岩田 宏満. 同時併用化学陽子線治療後の durvalumab を導入における免疫関連放射線肺臓炎. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, 2021 年 11 月 12-14 日

岩田 宏満. 切除不能 III 期非小細胞肺癌に対する同時併用化学陽子線治療成績. 第 17 回日本粒子線治療臨床研究会, 2021 年 10 月 16 日

＜主要な国内外学会活動の参加状況＞

岩田 宏満. 日本放射線腫瘍学会. 代議員 (学術委員、健保委員), 生物部会幹事, 粒子線治療部会幹事、専門医認定試験ワーキング委員・試験作成委員、粒子線保険適用ガイドライン作成委員

岩田 宏満. 国際癌治療増感研究協会. 理事

岩田 宏満. Japanese Radiation Oncology Study Group. 粒子線治療委員会委員

Hiromitsu Iwata. Particle Therapy Co-operative Group. Thoracic subcommittee member

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

- 岩田 宏満. 教育講演・講習会. 第10回 JBMP 放射線治療品質管理・医学物理講習会. FLASH 照射の有用性について. 2021年11月.
- 岩田 宏満. Japanese Journal of Radiology, Scinetific reports, Journal of Radiation Research など海外誌査読
- 岩田 宏満. JCOG 施設放射線治療責任者・コーディネーター(名古屋市立大学医学部 附属西部医療センター)
- 岩田 宏満. 陽子線セラピーニュース執筆
- 富田夏夫. Clinical Medicine Insights: Oncology. Editorial board member.
- 富田夏夫. Current Oncology. Editor.

<研究活動実績>

【欧文業績】

Kikuchi M, Senoo K, Ohara H. **Clinical significance of procalcitonin measurement in patients with bacterial infections in the emergency setting.** *J Hosp Gen Med.* **3(6):** 200-208, 2021.

Hori Y, Ichino Y, Naitoh I, Hayashi K, Yoshida M, Natsume M, Jinno N, Kato A, Kachi K, Asano G, Atsuta N, Sahashi H, Kataoka H, Ohara H. **Impact of physiologically shaped pancreatic stent for chronic pancreatitis.** *Sci Rep.***11(1):** 8285, 2021.

Nakazawa T, Kamisawa T, Okazaki K, Kawa S, Tazuma S, Nishino T, Inoue D, Naitoh I, Watanabe T, Notohara K, Kubota K, Ohara T, Tanaka A, Takikawa H, Masamune A, Unno M. **Clinical diagnostic criteria for IgG4-related sclerosing cholangitis 2020: (Revision of the clinical diagnostic criteria for IgG4-related sclerosing cholangitis 2012).** *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* **28:** 235-242, 2021.

Tanaka H, Gunasekaran S, Saleh DM, Alexander WT, Alexander DB, Ohara H, Tsuda H. **Effects of oral bovine lactoferrin on a mouse model of inflammation associated colon cancer.** *Biochem Cell Biol.* **99(1):** 159-165, 2021.

Miyabe K, Notohara K, Asano G, Kato A, Jinno N, Natsume M, Hori Y, Yoshida M, Naitoh I, Tsuboi K, Matsuo Y, Ohara H, Hayashi K, Kataoka H. **Early Detection of High-grade Biliary Intraepithelial Neoplasia (BillIN-3) in the Cystic Duct Visualized by SpyGlass DS Cholangioscopy.** *Intern Med.* **60(1):** 47-52, 2021.

Muguruma Y, Nagatomo R, Kamatsuki S, Miyabe K, Asano G, Akatsu H, Inoue K. **Experimental design of a stable isotope labeling derivatized UHPLC-MS/MS method for the detection/quantification of primary/secondary bile acids in biofluids.** *J Pharm Biomed Anal.* **25:** 209, 2021.

Hoshi K, Ito H, Abe E, Fuwa TJ, Kanno M, Murakami Y, Abe M, Murakami T, Yoshihara A, Ugawa Y, Saito T, Saido TC, Matsumoto K, Yamaguchi Y, Furukawa K, Arai H, Kanai M, Miyajima M, Arai H, Ogawa N, Akatsu H, Hashizume Y, Tateno H, Honda T, Hashimoto Y. **Transferrin Biosynthesized in the Brain Is a Novel Biomarker for Alzheimer's Disease.** *Metabolites.* **11(9):** 616, 2021.

Uchida K, Morikawa K, Muguruma Y, Hosokawa M, Tsutsumiuchi K, Kaneda D, Hashizume Y, Akatsu H, Inoue K. **LC-MS/MS assay for the investigation of acetylated Alpha-synuclein in serum from postmortem Alzheimer's disease pathology.** *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.* **1:** 1181, 2021.

Samimi N, Sharma G, Kimura T, Matsubara T, Huo A, Chiba K, Saito Y, Murayama S, Akatsu H, Hashizume Y, Hasegawa M, Farjam M, Shahpasand K, Ando K, Hisanaga. **Distinct phosphorylation profiles of tau in brains of patients with different tauopathies.** *SI. Neurobiol Aging.* **21(108):** 72-79, 2021.

Kageyama Y, Irie Y, Matsushima Y, Segawa T, Bellier JP, Hidaka K, Sugiyama H, Kaneda D, Hashizume Y, Akatsu H, Miki K, Kita A, Walker DG, Irie K, Tooyama I. **Characterization of a Conformation-Restricted Amyloid β Peptide and Immunoreactivity of Its Antibody in Human AD brain.** *ACS Chem Neurosci.* **10:** 1021, 2021.

Jin M, Jin X, Homma H, Fujita K, Tanaka H, Murayama S, Akatsu H, Tagawa K, Okazawa H. **Prediction and verification of the AD-FTLD common pathomechanism based on dynamic molecular network analysis.** *Commun Biol.* **4(1):** 961, 2021.

Kunii Y, Matsumoto J, Izumi R, Nagaoka A, Hino M, Shishido R, Sainouchi M, Akatsu H,

Hashizume Y, Kakita A, Yabe H. **Evidence for Altered Phosphoinositide Signaling-Associated Molecules in the Postmortem Prefrontal Cortex of Patients with Schizophrenia.** *Int J Mol Sci.* **22(15)**: 8280, 2021

Homma H, Tanaka H, Jin M, Jin X, Huang Y, Yoshioka Y, Bertens CJ, Tsumaki K, Kondo K, Shiwaku H, Tagawa K, Akatsu H, Atsuta N, Katsuno M, Furukawa K, Ishiki A, Waragai M, Ohtomo G, Iwata A, Yokota T, Inoue H, Arai H, Sobue G, Sone M, Fujita K, Okazawa H. **DNA damage in embryonic neural stem cell determines FTLDs' fate via early-stage neuronal necrosis.** *Life Sci Alliance.* **4(7)**: e202101022, 2021.

Manabe T, Kambayashi D, Akatsu H, Kudo K. **Favipiravir for the treatment of patients with COVID-19: a systematic review and meta-analysis.** *BMC Infect Dis.* **21(1)**: 489, 2021.

Pahrudin Arrozi A, Yanagisawa D, Kato T, Akatsu H, Hashizume Y, Kaneda D, Tooyama I. **Nasal Extracts from Patients with Alzheimer's Disease Induce Tau Aggregates in a Cellular Model of Tau Propagation.** *J Alzheimers Dis Rep.* **5(1)**: 263-274, 2021.

Maeda J, Minamihisamatsu T, Shimojo M, Zhou X, Ono M, Matsuba Y, Ji B, Ishii H, Ogawa M, Akatsu H, Kaneda D, Hashizume Y, Robinson JL, Lee VM, Saito T, Saido TC, Trojanowski JQ, Zhang MR, Sahara T, Higuchi M, Sahara N. **Distinct microglial response against Alzheimer's amyloid and tau pathologies characterized by P2Y12 receptor.** *Brain Commun.* **3(1)**: fcab011, 2021.

Adachi K, Kato D, Kahyo T, Konishi T, Sato T, Madokoro Y, Mizuno M, Akatsu H, Setou M, Matsukawa N. **Possible correlated variation of GABA_A receptor $\alpha 3$ expression with hippocampal cholinergic neurostimulating peptide precursor protein in the hippocampus.** *Biochem Biophys Res Commun.* **542**: 80-86, 2021.

Kataoka T, Mori T, Suzuki J, Kawaki Y, Kito Y, Hotta Y, Kawade Y, Maeda Y, Kimura K. **Oxaliplatin, an Anticancer Agent, Causes Erectile Dysfunction in Rats due to Endothelial Dysfunction.** *J Sex Med.* **18(8)**: 1337-1345, 2021.

Kambayashi D, Manabe T, Kawade Y, Hirohara M. **Knowledge, attitudes, and practices regarding COVID-19 among pharmacists partnering with community residents: A national survey in Japan.** *PLoS One.* **16(10)**: e0258805, 2021.

【和文業績】

大原弘隆, 内藤 格, 林 香月, 中沢貴宏. **硬化性胆管炎（二次性硬化性胆管炎）**. 別冊日本臨牀 領域別症候群シリーズ. 15 : 15-18, 2021.

林 香月, 大原 弘隆, 内藤 格, 吉田 道弘, 堀 寧, 夏目 まこと, 神野 成臣, 加藤 晃久, 熱田 直己, 片岡 洋望. **慢性膵炎のマネジメント**. *Gastroenterology & hepatology / 消化器・肝臓内科編集委員会 編.* **9(1)** : 104-111, 2021.

中沢 貴宏, 内藤 格, 林 香月, 大原 弘隆. **IgG4 関連硬化性胆管炎臨床診断基準 2020.** *肝胆膵.* **83(5)** : 735-740, 2021.

中沢 貴宏, 神澤 輝実, 岡崎 和一, 川 茂幸, 田妻 進, 西野 隆義, 井上 大, 内藤 格, 渡邊 貴之, 能登原 憲司, 窪田 賢輔, 大原 弘隆, 田中 篤, 滝川 一, 正宗 淳, 海野 倫明. **IgG4 関連硬化性胆管炎臨床診断基準 2020 (IgG4 関連硬化性胆管炎臨床診断基準 2012 改定版)**. *胆道.* **35(4)** : 593-601, 2021.

大原弘隆, 中沢貴宏. **IgG4 関連硬化性胆管炎**. 専門医のための消化器病学第3版. 537-

541, 2021.

内田和彦, 伊藤ひとみ, 劉 珊, 畑 直子, 鈴木 秀昭, 目野 浩二, 赤津 裕康, 松川 則之, 朝田 隆, 新井 哲明. 血漿を用いた MCI スクリーニング検査と血漿 A β 40, A β 42 レベルのアルツハイマー病と軽度認知障害 (MCI) の血液検査としての臨床有効性. 人間ドック. 36: 560-567, 2021

菊地基雄. 市民病院から大学病院へー症例報告からメタ解析までー. Nagoya Med. J. 57: 43-50, 2021.

【各教員の論文数 (桜山)】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
教授	大原弘隆	9(5)	4(2)	5(3)
教授(診療担当)	赤津裕康	13(0)	12(0)	1(0)
講師	兼松孝好	0	0	0
講師	田中創始	1(1)	1(1)	0
特任准教授	川出義浩	2(0)	2(0)	0

注: () 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数 (西部)】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
教授(診療担当)	菊地基雄	2(2)	1(1)	1(1)

注: () 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】 (科学研究費金額は令和 3 年度配分額のみ記載)

大原 弘隆. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 2 年度-令和 6 年度、50 千円

大原 弘隆. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和元年度-令和 3 年度、70 千円

大原 弘隆. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和元年度-令和 3 年度、450 千円

赤津 裕康. 共同研究費 (新潟大学). 令和 3 年度、112 千円

赤津 裕康. 受託研究費（長寿医療研究開発費・分担）. 令和3年度、300千円

赤津 裕康. 共同研究費（森永乳業株式会社）. 令和2年度-令和4年度、434千円

赤津 裕康. 受託研究費（研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム育成型・分担）. 令和2年12月-令和4年3月、3,846千円

赤津 裕康. 文部科学省科学研究費（国際B・分担）. 令和2年10月-令和5年3月、1,000千円

赤津 裕康. 文部科学省科学研究費（開拓・分担）. 令和2年7月-令和6年3月、1,000千円

赤津 裕康. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和2年度-令和6年度、3,200千円

赤津 裕康. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和元年度-令和3年度、50千円

赤津 裕康. 文部科学省科学研究費（基盤A・分担）. 令和元年度-令和5年度、500千円

赤津 裕康. 受託研究費（AMED・分担）. 平成30年9月-令和4年3月、3,000千円

兼松 孝好. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和元年度-令和3年度、10千円

田中 創始. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和元年度-令和3年度、900千円

川出 義浩. 受託研究費（未来社会創造事業・分担）. 令和2年11月-令和4年3月、500千円

川出 義浩. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和2年度-令和6年度、50千円

【その他】

大原弘隆. 第107回日本消化器病学会総会. 一般公演「膵臓2」司会

大原弘隆. 第52回日本膵臓学会大会. 一般口演「自己免疫性膵炎3」司会

大原弘隆. JDDW2021KOBE. デジタルポスター「胆道（検査・診断）」司会

大原弘隆. 第24回日本病院総合診療医学会総会. 一般演題6座長

松本逸平、三長孝輔、村瀬貴昭、宮田剛、川口晃平、亀井敬子、水野修吾、糸井隆夫、大原弘隆、正宗淳、阪上順一、佐田尚宏、竹中完、北野雅之、乾和郎、竹山宜典. 第52回日本膵臓学会大会. 特別企画4 日本膵臓学会プロジェクト研究報告「慢性膵炎による難治性疼痛に対する内科的インターベンション治療と外科治療との比較解析. 2021年9月23日

内藤格、中沢貴宏、大原弘隆. JDDW2021KOBE (第 102 回日本消化器内視鏡学会総会). IgG4 関連硬化性胆管炎の鑑別診断における内視鏡検査の有用性. 2021 年 11 月 4 日

赤津裕康. 第 63 回日本老年医学会学術集会. 教育講演 20「高齢者の転倒予防戦略-早期からの行動変容を目指して-」. 2021 年 6 月 12 日

赤津裕康. 第 44 回日本基礎老化学会 ランチョンセミナー講師, 共催セミナー座長

赤津裕康. 第 10 回日本認知症予防学会学術集会. CTAD 報告座長

赤津裕康. 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会. 一般演題座長

赤津裕康. 日本老年医学会東海地方会. 大会長

赤津裕康. 日本内科学会 2021 年度 J-OSLER 病歴要約査読委員、指導医

赤津裕康. 日本認知症学会専門医・指導医取得

赤津裕康. 日本臨床栄養代謝学会 2021 年度認定試験ワーキンググループメンバー (問題作成担当)

赤津裕康. 日本病院総合診療医学会指導医取得

赤津裕康. 日本補体学会学会誌編集副委員長

兼松孝好. 第 53 回医学教育学会大会. Live discussion Zoom アプリケーションを用いた、診断推論に関するチーム基盤型学習 (TBL) の導入と効果. 2021 年 7 月 30 日

田中創始、間辺利江、秋田憲志、赤津裕康、長谷川千尋、中村敦、小橋修、丸山光生、大原弘隆、鈴木幹三. ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究 令和 3 年度第 1 回 Web 班会議. 病院職員、施設職員および施設入所者における新型コロナウイルスワクチンの有効性、安全性に関する前向き観察研究. 2021 年 9 月 9 日

芳金智子、菊地基雄、池原典之、妹尾恭司、大原弘隆. 第 32 回日本老年医学会東海地方会. (グループ F: 症例)「横紋筋融解症で発症した副腎皮質機能低下症」

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

大原弘隆. 2021 年 4 月 19 日、5 月 10 日 大学院看護学研究科講義「フィジカルアセスメント (総論)」「フィジカルアセスメント (感覚器・皮膚)」

大原弘隆. 2021 年 11 月 5 日大学院講義「IgG4 関連胆膵疾患の診療-硬化性胆管炎を中心に-」

大原弘隆. 2021 年 11 月 10 日中部日中経済交流会「新型コロナウイルス感染症について」

て」講演

大原弘隆. 慢性膵炎診療ガイドライン 2021 (南江堂) P9, P65-68, P73-74, P80-83.

大原弘隆. 臨床検査のガイドライン JSLM2021 (宇宙堂八木出版) P345-348

葛谷雅文, 赤津裕康, 森直治, 三浦久幸, 亀井克典. 高齢者医療の EOL-C (エンドオブライフ・ケア) を考える. 現代医学. 68 (2) : 1-7, 2021.

赤津裕康. 「第 5 章 病態下の静脈・経腸栄養法 I. 成人 V. 高齢者に対する栄養療法」. 静脈経腸栄養テキストブック改訂第 2 版 (2021 年 4 月発刊)

赤津裕康. 雑誌取材 月刊地域ケアリング 2021 年 8 月号 P1-3 「コロナ禍の超高齢社会を支える運動と栄養戦略について」

兼松孝好. 治験関係研究費 (受託研究費). 小林化工株式会社. 令和 3 年度、110 千円

兼松孝好. 治験関係研究費 (受託研究費). 第一三共株式会社. 令和 3 年度、110 千円

兼松孝好. 名古屋市立大学病院総合診療専門研修プログラム作成

兼松孝好. 名古屋市立大学病院研修医オリエンテーション「基本的な救急・外来、入院などで必要な電子カルテ記載の仕方と検査・処方オーダーについて」講義. 2021 年 4 月 8 日

片岡 智哉, 鈴木 純, 川木 雄斗, 鬼頭 陽平, 堀田 祐志, 川出 義浩, 前田 康博, 木村 和哲. オキサリプラチンは神経障害と内皮障害を介してラットの勃起機能を低下させる. 日本薬理学会年会要旨集. 94 (0) : 3-0-F4-3, 2021.

<研究活動実績>

【欧文業績】

Hori Y, Nagai T, Hayashi K, Izumi H, Yokoyama K, Ebara T. **Ability of ergonomic timeout to reduce musculoskeletal discomfort related to fluoroscopic endoscopy.** *Endosc Int Open.* **9(12):** E1909-E1913, 2021.

Hori Y, Hayashi K, Naitoh I, Miyabe K, Natsume M, Yoshida M, Kataoka H. **A pilot study of novel duodenal covered self-expandable metal stent fixation.** *Sci Rep.* **11(1):** 19708, 2021.

Hori Y, Hayashi K, Naitoh I, Yoshida M, Kataoka H. **Intentional endoscopic nasopancreatic drainage to a pancreatic fistula in the treatment of disconnected pancreatic duct syndrome.** *Endoscopy.* **53(8):** E295-E296, 2021.

Hori Y, Fukumitsu K, Naitoh I, Onuki T, Hayashi K, Niimi A, Kataoka H. **Endoscopic ultrasound-guided transesophageal drainage for acute mediastinitis caused by pancreatic fistula.** *Respir Med Case Rep.* **34:** 101480, 2021.

Hori Y, Chari ST, Tsuji Y, Takahashi N, Inoue D, Hart PA, Uehara T, Horibe M, Yamamoto S, Satou A, Zhang L, Notohara K, Naitoh I, Nakazawa T. **Diagnosing Biliary Strictures: Distinguishing IgG4-Related Sclerosing Cholangitis From Cholangiocarcinoma and Primary Sclerosing Cholangitis.** *Mayo Clin Proc Innov Qual Outcomes.* **5(3):** 535-541, 2021.

Yoshida M, Naitoh I, Hayashi K, Jinno N, Hori Y, Natsume M, Kato A, Kachi K, Asano G, Atsuta N, Sahashi H, Kataoka H. **Four-Step Classification of Endoscopic Transpapillary Gallbladder Drainage and the Practical Efficacy of Cholangioscopic Assistance.** *Gut Liver.* **15(3):** 476-485, 2021.

Hayashi S, Takenaka M, Kogure H, Yakushijin T, Maruyama H, Hori Y, Yoshio T, Ikezawa K, Takagi T, Asai S, Matsunaga K, Matsumoto K, Tsumura H, Yamaguchi S, Sumiyoshi T, Nagaïke K, Tamaru Y, Hara K, Fujisawa T, Oda I, Ohnita K, Kato M, Nebiki H, Mikami T, Nishihara A, Egawa S, Minami R, Hosono M, Nishida T. **A questionnaire survey on radiation protection among 282 medical staff from 26 endoscopy-fluoroscopy departments in Japan.** *DEN Open.* **1(1):** e5, 2021.

Hori Y, Ichino Y, Naitoh I, Hayashi K, Yoshida M, Natsume M, Jinno N, Kato A, Kachi K, Asano G, Atsuta N, Sahashi H, Kataoka H, Ohara H. **Impact of physiologically shaped pancreatic stent for chronic pancreatitis.** *Sci Rep.* **11(1):** 8285, 2021.

Hori Y, Hayashi K, Naitoh I, Yoshida M, Natsume M, Sahashi H, Kataoka H. **Combined transpapillary drainage and endoscopic ultrasound-guided hepaticoduodenostomy after failed manipulation under cholangioscopy guidance.** *Endoscopy.* **53(4):** E153-E154, 2021.

Jinno N, Yoshida M, Hayashi K, Naitoh I, Hori Y, Natsume M, Kato A, Kachi K, Asano G, Atsuta N, Sahashi H, Kataoka H. **Autotaxin in ascites promotes peritoneal dissemination in pancreatic cancer.** *Cancer Sci.* **112(2):** 668-678, 2021.

Miyabe K, Hori Y, Yoshida M, Naitoh I, Hayashi K. **Over-the-scope-clip treatment for**

perforation of the duodenum after endoscopic papillectomy. VideoGIE. 6(2): 101-104, 2021.

Miyabe K, Notohara K, Asano G, Kato A, Jinno N, Natsume M, Hori Y, Yoshida M, Naitoh I, Tsuboi K, Matsuo Y, Ohara H, Hayashi K, Kataoka H. **Early Detection of High-grade Biliary Intraepithelial Neoplasia (BillN-3) in the Cystic Duct Visualized by SpyGlass DS Cholangioscopy.** Intern Med. 60(1): 47-52, 2021.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	堀 寧	12	12	0
助教	荒川 和幸	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

なし

【その他】

（Oral presentation）

Yasuki Hori, Kazuki Hayashi, Takeshi Ebara. 2nd NCU Contact Points in Asia Symposium 2021. Ability of ergonomic timeout to reduce musculoskeletal discomfort related to fluoroscopic endoscopy. 2021年8月26日

佐藤 棕、堀 寧、内藤 格、鬼頭 佑輔、加地 謙太、加藤 晃久、夏目 まこと、吉田 道弘、林 香月、片岡 洋望. 第135回日本消化器病学会東海支部例会（研修医セッション）. irAE 膵炎による周囲リンパ節腫大に対し EUS-FNB にて病理像を確認した1例. 2021年12月11日

井村 尚斗、堀 寧、内藤 格、林 香月、吉田 道弘、夏目 まこと、加藤 晃久、加地 謙太、鬼頭 佑輔、片岡 洋望. 第64回日本消化器内視鏡学会東海支部例会（支部研修医・専攻医 Award 受賞者セッション）. 超音波内視鏡にて診断・治療し得た膵液漏による急性縦隔炎の1例. 2021年12月4日

佐橋 秀典、堀 寧、林 香月. 第64回日本消化器内視鏡学会東海支部例会シンポジウム 2. カバー付き胃十二指腸ステント逸脱防止を目的とした Over-the-scope clip による把持法の有用性と安全性：パイロット試験. 2021年12月4日

市野 由華、堀 寧、内藤 格、林 香月、吉田 道弘、夏目 まこと、片岡 洋望. 第101回日本消化器内視鏡学会総会（支部研修医・専攻医 Award 受賞者セッション）. 慢性

膵炎の膵管狭窄に対する解剖学的視点から開発された膵管ステントの有用性. 2021年
5月15日

＜教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績＞

堀 寧. 名古屋市立大学病院意見交換会「人間工学を活用した内視鏡技師の3つの視点」. 2021年12月17日

堀 寧. 名古屋市立大学病院 研修医勉強会「消化器内科医から一目置かれるコンサルト術」. 2021年11月10日

堀 寧. TopGain 座談会「ゲノム医療への取り組み、TopGain19Gの有用性・安全性」. 2021年8月30日

堀 寧. 名古屋市立大学病院新規採用研修医オリエンテーション「保険診療とは?」. 2021年4月8日

井村 尚斗、堀 寧. 第64回日本消化器内視鏡学会東海支部例会「若手研究者奨励賞」. 2021年12月4日

—地域包括医療学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Kondo K, Suzuki K, Washio M, Ohfuji S, Adachi S, Kan S, Imai S, Yoshimura K, Miyashita N, Fujisawa N, Maeda A, Fukushima W, Hirota Y; Pneumonia in Elderly People Study Group. **Association between coffee and green tea intake and pneumonia among the Japanese elderly: a case-control study.** Sci Rep. **11 (1)** : 5570, 2021.

【和文業績】

特になし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	鈴木幹三	1(0)	1(0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

特になし

【外部資金獲得実績】

特になし

【その他】

田中創始、間辺利江、秋田憲志、赤津裕康、長谷川千尋、中村敦、小橋修、丸山光生、大原弘隆、鈴木幹三。ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究 令和3年度第1回 Web 班会議。病院職員、施設職員および施設入所者における新型コロナウイルスワクチンの有効性、安全性に関する前向き観察研究。2021年9月9日

中島啓、鈴木幹三、青島正大、近藤亨子、大藤さところ、福島若葉、前田章子、廣田良夫、高齢者肺炎研究グループ。ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究班。高齢者におけるインフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの肺炎予防効果。2021年9月9日

鈴木幹三。第36回日本環境感染症学会総会・学術集会。教育講演 33 座長

＜教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績＞

鈴木幹三。米国予防接種インフルエンザの予防と対策諮問委員会（ACIP）勧告 2021 年版「インフルエンザの予防と対策」アドバイザー

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1] Ohta Y, Kubota Y, Hotta Y, Matsumoto M, Matsuyama N, Kato T, Hamakawa T, Kataoka T, Kimura K, Sawamoto K, Yasui T. **Change in the central control of the bladder function of rats with focal cerebral infarction induced by photochemically-induced thrombosis.** PLOS ONE. **16(11)**: e0255200, 2021.
- 2] Sanagawa A, Hotta Y, Mori N, Tomita N, Kataoka T, Tohkin M, Kimura K. **BRAF/MEK inhibitor-associated nephrotoxicity in a real-world setting and human kidney cells.** Anticancer Drugs. **32(10)**: 1076-1083, 2021.
- 3] Mori T, Hotta Y, Nakamura D, Yahagi R, Kataoka T, Kimura K. **Enhancement of the RhoA/Rho kinase pathway is associated with stress-related erectile dysfunction in a restraint water immersion stress model.** Physiol Rep. **9(20)**: e15064, 2021.
- 4] Kataoka T, Mori T, Suzuki J, Kawaki Y, Kito Y, Hotta Y, Kawade Y, Maeda Y, Kimura K. **Oxaliplatin, an Anticancer Agent, Causes Erectile Dysfunction in Rats due to Endothelial Dysfunction.** J Sex Med. **18(8)**: 1337-1345, 2021.
- 5] Kataoka T, Hotta Y, Yamamoto Y, Fukamoto A, Takeuchi M, Maeda Y, Kimura K. **Effect of Late Androgen Replacement Therapy on Erectile Function Through Structural Changes in Castrated Rats.** Sex Med. **9(4)**: 100348, 2021.
- 6] Tasaki Y, Suzuki M, Katsushima K, Shinjo K, Iijima K, Murofushi Y, Naiki-Ito A, Hayashi K, Qiu C, Takahashi A, Tanaka Y, Kawaguchi T, Sugawara M, Kataoka T, Naito M, Miyata K, Kataoka K, Noda T, Gao W, Kataoka H, Takahashi S, Kimura K, Kondo Y. **Cancer-specific targeting of taurine upregulated gene 1 enhances the effects of chemotherapy in pancreatic cancer.** Cancer Res. **81**: 1654–66, 2021.
- 7] Maeda K, Hotta Y, Ieda N, Kataoka T, Nakagawa H, Kimura K. **Control of rat bladder neck relaxation with NORD-1, a red light–reactive nitric oxide releaser: in vitro study.** J Pharmacol Sci. **146(4)**: 226-232, 2021.
- 8] Maeda K, Hotta Y, Kawata R, Kataoka T, Kimura K. **Detrusor underactivity causes neurogenic voiding dysfunction in a rat bilateral accessory nerve-injury model.** J Pharmacol Sci. **146(2)**: 116-119, 2021.
- 9] Kawata R, Hotta Y, Maeda K, Kataoka T, Kimura K. **Effects of high salt intake on detrusor muscle contraction in Dahl salt-sensitive rats.** Nutrients. **13(2)**: 539, 2021.
- 10] Maeda K, Hotta Y, Shibayama M, Kawata R, Kataoka T, Matsumoto S, Yamamoto T, Kimura K. **Impairment of accessory nerves around major pelvic ganglion leading to overflow urinary incontinence in rats.** NeuroUrol Urodyn. **40(2)**: 624-631, 2021.
- 11] Hashimoto D, Hirashima T, Yamamura H, Kataoka T, Fujimoto K, Hyuga T, Yoshiki A, Kimura K, Kuroi S, Tachibana M, Suzuki K, Yamamoto N, Sasaki T, Yamada G. **Dynamic erectile responses of a novel penile organ model utilizing two photon excitation microscopy (TPEM).** Biol Reprod. **104(4)**: 875-886, 2021.
- 12] Hashimoto D, Kajimoto M, Ueda Y, Hyuga T, Fujimoto K, Inoue S, Suzuki K, Kataoka T, Kimura K, Yamada G. **3D reconstruction and histopathological analyses on murine corporal body.** Reprod Med Biol. **20(2)**: 199-207, 2021.
- 13] Kataoka K, Hotta Y, Kimura K. **A Review of foods and food supplements increasing testosterone levels.** Journal of Men's Health. **17(2)**: 4-14, 2021.

【和文業績】

該当なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	木村和哲	13 (9)	13 (9)	0
講師	片岡智哉	12 (2)	12 (2)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師（診療担当）	西出 景子	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授（診療担当）	日比 陽子	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

片岡智哉. **日本がん・生殖医療学会**. 令和3年度学術奨励賞. 多角的アプローチによる小児がんサバイバーの男性性機能障害に対する新規治療法の創出, 令和4年2月

片岡智哉. **日本がん・生殖医療学会**. 第12回日本がん・生殖医療学会 学術集会 優秀演題賞. 牛車腎気丸はPDE-5阻害作用を介してオキサリプラチン投与に伴う男性性機能障害を改善させる, 令和4年2月

片岡智哉. **日本医療薬学会**. 第31回日本医療薬学会年会 Young Investigator's Award. ビンクリスチン投与に伴う男性性機能障害に対する新規治療法の探求 - ラットを用いたDPP-4阻害薬の効果の薬理学的アプローチ -, 令和3年10月

片岡智哉. **日本薬学会東海支部**. 2021年度学術奨励賞. 泌尿器科疾患における病態解

明と新規治療法の創出, 令和3年7月

片岡智哉. 日本抗加齢医学会. 第21回日本抗加齢医学会総会 最優秀演題賞. 抗がん剤投与に伴う男性ホルモン低下症に対する男性ホルモン補充療法の効果, 令和3年6月

【外部資金獲得実績】 (科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載)

木村和哲. 文部科学省科学研究費 (挑戦的研究 (萌芽)・代表). 令和3年度-令和5年度、4,900千円

片岡智哉. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和2年度-令和4年度、3,300千円

日比陽子. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和2年度-令和4年度、4,290千円

【その他】

<国際学会>

Kataoka K, Kimura K.

Cancer-specific targeting of taurine upregulated gene 1 enhances the effects of chemotherapy in pancreatic cancer.

15th Asian Epigenomics Meeting (Web) 2021.2

<シンポジウム>

木村和哲. 光制御可能なNOドナーによる勃起不全治療の新規アプローチ

第94回日本薬理学会年会 (札幌) 2021年3月

日比陽子. 実習生はみんな違う ~病院実習から思ったこと~

第6回日本薬学教育学会大会 (Web) 2021年8月

シンポジウムオーガナイザー兼シンポジスト

<国内学会>

木村和哲

抗がん剤自動調製ロボットによる予約調製機能の有用性に関する評価

第31回日本医療薬学会年会 (Web) 2021年10月

木村和哲

外来がん化学療法における「情報共有用紙」を用いた薬薬連携の取り組みに関する評価

第31回日本医療薬学会年会 (Web) 2021年10月

片岡智哉、日比陽子、木村和哲

ビンクリスチン投与に伴う男性性機能障害に対する新規治療法の探求

- ラットを用いたDPP-4阻害薬の効果の薬理的アプローチ -

第31回日本医療薬学会年会 (Web) 2021年10月

片岡智哉、木村和哲

ラット骨盤内神経損傷に伴う膀胱線維化メカニズムの検討
第 28 回日本排尿機能学会（松本）2021 年 9 月

片岡智哉、日比陽子、木村和哲

Testosterone 投与による排尿機能への影響—雌性ラットを用いた分子薬理的検討—
第 28 回日本排尿機能学会（松本）2021 年 9 月

片岡智哉、木村和哲

Adriamycin 誘発性ネフローゼモデルを用いた PDE5 阻害薬 tadalafil の有効性の検討
医療薬学フォーラム 2021/第 29 回クリニカルファーマシーシンポジウム (Web) 2021
年 7 月

片岡智哉、木村和哲

牛車腎気丸は NO-cGMP 経路の活性化によりオキサリプラチンに伴う男性性機能障害を
改善させる—ラットを用いた分子薬理的検討—
医療薬学フォーラム 2021/第 29 回クリニカルファーマシーシンポジウム (Web) 2021
年 7 月

片岡智哉、木村和哲

ホスホジエステラーゼ 5 阻害剤 tadalafil のネフローゼ症候群モデルに対する効果
第 67 回日本薬学会東海支部大会 (Web) 2021 年 7 月

片岡智哉、木村和哲

抗がん剤投与に伴う男性ホルモン低下症に対する男性ホルモン補充療法の効果
第 21 回日本抗加齢医学会総会（京都）2021 年 6 月

片岡智哉、日比陽子、木村和哲

去勢ラットに対する testosterone undecanoate 投与の効果
日本アンドロロジー学会第 40 回学術大会 (Web) 2021 年 6 月

Tomoya Kataoka, Kazunori Kimura.

膵臓がんは LncRNA TUG1 による miR376b-DPYD の発現制御を介して 5-FU の抵抗性を獲得する
第 14 回日本エピジェネティクス研究会年会 (Web) 2021 年 3 月

片岡智哉、木村和哲

Applicability of “NORD-1,” a light-reactive NO releaser, to the lower
urinary tract dysfunction.
第 94 回日本薬理学会年会（札幌）2021 年 3 月

片岡智哉、木村和哲

High salt diet enhanced cholinergic components-induced contractile responses
of detrusor muscle in Dahl salt-sensitive rats.
第 94 回日本薬理学会年会（札幌）2021 年 3 月

片岡智哉、木村和哲

Development of a novel treatment for interstitial cystitis using filtered adipose-derived stem cells lysate.

第 94 回日本薬理学会年会（札幌）2021 年 3 月

片岡智哉、木村和哲

Anti-Cancer Agent Oxaliplatin Caused Erectile Dysfunction in Rats through Both Neural and Endothelial Dysfunction.

第 94 回日本薬理学会年会（札幌）2021 年 3 月

片岡智哉、木村和哲

ドキシソルピシンに伴う勃起障害に対するテストステロン補充療法の有効性の検討

第 11 回日本がん・生殖医療学会 学術集会（Web）2021 年 2 月

片岡智哉、木村和哲

非細胞性製剤「間葉系幹細胞濾液（FSCL）」の ED に対する効果

第 30 回 日本性機能学会中部総会（金沢）2021 年 1 月

片岡智哉、木村和哲

Androgen 補充療法の継続による勃起機能の改善効果－去勢ラットを用いた薬理学的検討－

日本アンドロロジー学会 第 39 回学術大会（金沢）2021 年 1 月

<講演>

日比陽子. せん妄と薬 ～リスクになるもの、助けになるもの～

東海薬剤師生涯学習センター講座 講師 2021 年 6 月 16 日

—先進急性期医療学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Goshima T, Terasawa T, Iwata M, Matsushima A, Hattori T, Sasano H. **Treatment of acute hyponatremia caused by sodium overload in adults: A systematic review.** *Medicine (Baltimore)*. **101(8)**: e28945, 2021.

Matsui R, Sasano H, Azami T, Yano H, Yoshikawa H, Yamagishi Y, Goshima T, Miyazaki Y, Imai K, Tsubouchi M, Matsuo Y, Takiguchi S, Hattori T. **Effectiveness of a novel semi-closed barrier device with a personalized exhaust in cough aerosol simulation according to particle counts and visualization of particles.** *Indoor Air*. **32(2)**: e12988, 2021

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	笹野 寛	2	2	0
教授	服部友紀	2	2	0
教授	松嶋麻子(~7月)	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	大出靖将(~7月)	0	0	0
准教授(診療担当)	三浦敏靖(~7月)	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

なし

【その他】

なし

—救命救急医療学—

2021年8月~12月

<研究活動実績>

【欧文業績】

Imaeda T, Nakada TA, Takahashi N, Yamao Y, Nakagawa S, Ogura H, Shime N, Umemura Y, Matsushima A, Fushimi K. **Trends in the incidence and outcome of sepsis using data from a Japanese nationwide medical claims database-the Japan Sepsis Alliance (JaSA) study group.** *The Lancet Global Health.* **25(1):** 338, 2021.

Egi M, Ogura H, Yatabe T, Atagi K, Inoue S, Iba T, Kakihana Y, Kawasaki T, Kushimoto S, Kuroda Y, Kotani J, Shime N, Taniguchi T, Tsuruta R, Doi K, Doi M, Nakada TA, Nakane M, Fujishima S, Hosokawa N, Masuda Y, Matsushima A, Matsuda N, Yamakawa K, Hara Y, Sakuraya M, Ohshimo S, Aoki Y, Inada M, Umemura Y, Kawai Y, Kondo Y, Saito H, Taito S, Takeda C, Terayama T, Tohira H, Hashimoto H, Hayashida K, Hifumi T, Hirose T, Fukuda T, Fujii T, Miura S, Yasuda H, Abe T, Andoh K, Iida Y, Ishihara T, Ide K, Ito K, Ito Y, Inata Y, Utsunomiya A, Unoki T, Endo K, Ouchi A, Ozaki M, Ono S, Katsura M, Kawaguchi A, Kawamura Y, Kudo D, Kubo K, Kurahashi K, Sakuramoto H, Shimoyama A, Suzuki T, Sekine S, Sekino M, Takahashi N, Takahashi S, Takahashi H, Tagami T, Tajima G, Tatsumi H, Tani M, Tsuchiya A, Tsutsumi Y, Naito T, Nagae M, Nagasawa I, Nakamura K, Nishimura T, Nunomiya S, Norisue Y, Hashimoto S, Hasegawa D, Hatakeyama J, Hara N, Higashibeppu N, Furushima N, Furusono H, Matsuishi Y, Matsuyama T, Minematsu Y, Miyashita R, Miyatake Y, Moriyasu M, Yamada T, Yamada H, Yamamoto R, Yoshida T, Yoshida Y, Yoshimura J, Yotsumoto R, Yonekura H, Wada T, Watanabe E, Aoki M, Asai H, Abe T, Igarashi Y, Iguchi N, Ishikawa M, Ishimaru G, Isokawa S, Itakura R, Imahase H, Imura H, Irinoda T, Uehara K, Ushio N, Umegaki T, Egawa Y, Enomoto Y, Ota K, Ohchi Y, Ohno T, Ohbe H, Oka K, Okada N, Okada Y, Okano H, Okamoto J, Okuda H, Ogura T, Onodera Y, Oyama Y, Kainuma M, Kako E, Kashiura M, Kato H, Kanaya A, Kaneko T, Kanehata K, Kano KI, Kawano H, Kikutani K, Kikuchi H, Kido T, Kimura S, Koami H, Kobashi D, Saiki I, Sakai M, Sakamoto A, Sato T, Shiga Y, Shimoto M, Shimoyama S, Shoko T, Sugawara Y, Sugita A, Suzuki S, Suzuki Y, Suhara T, Sonota K, Takauji S, Takashima K, Takahashi S, Takahashi Y, Takeshita J, Tanaka Y, Tampo A, Tsunoyama T, Tetsuhara K, Tokunaga K, Tomioka Y, Tomita K, Tominaga N, Toyosaki M, Toyoda Y, Naito H, Nagata I, Nagato T, Nakamura Y, Nakamori Y, Nahara I, Naraba H, Narita C, Nishioka N, Nishimura T, Nishiyama K, Nomura T, Haga T, Hagiwara Y, Hashimoto K, Hatachi T, Hamasaki T, Hayashi T, Hayashi M, Hayamizu A, Haraguchi G, Hirano Y, Fujii R, Fujita M, Fujimura N, Funakoshi H, Horiguchi M, Maki J, Masunaga N, Matsumura Y, Mayumi T, Minami K, Miyazaki Y, Miyamoto K, Murata T, Yanai M, Yano T, Yamada K, Yamada N, Yamamoto T, Yoshihiro S, Tanaka H, Nishida O. **The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2020 (J-SSCG 2020).** *Acute Med Surg.* **8(1):** e659, 2021.

Egi M, Ogura H, Yatabe T, Atagi K, Inoue S, Iba T, Kakihana Y, Kawasaki T, Kushimoto S, Kuroda Y, Kotani J, Shime N, Taniguchi T, Tsuruta R, Doi K, Doi M, Nakada TA, Nakane M, Fujishima S, Hosokawa N, Masuda Y, Matsushima A, Matsuda N, Yamakawa K, Hara Y, Sakuraya M, Ohshimo S, Aoki Y, Inada M, Umemura Y, Kawai Y, Kondo Y, Saito H, Taito S, Takeda C, Terayama T, Tohira H, Hashimoto H, Hayashida K, Hifumi T, Hirose T, Fukuda T, Fujii T, Miura S, Yasuda H, Abe T, Andoh K, Iida Y, Ishihara T, Ide K, Ito K, Ito Y, Inata Y, Utsunomiya A, Unoki T, Endo K, Ouchi A, Ozaki M, Ono S, Katsura M, Kawaguchi A, Kawamura Y, Kudo D, Kubo K, Kurahashi K, Sakuramoto H, Shimoyama A, Suzuki T, Sekine S, Sekino M, Takahashi N, Takahashi S, Takahashi H, Tagami T, Tajima G, Tatsumi H, Tani M, Tsuchiya A, Tsutsumi Y, Naito T, Nagae M, Nagasawa I, Nakamura K, Nishimura T, Nunomiya S, Norisue Y, Hashimoto S, Hasegawa D, Hatakeyama J, Hara N, Higashibeppu N, Furushima N, Furusono H, Matsuishi Y, Matsuyama T, Minematsu Y, Miyashita R, Miyatake Y, Moriyasu M, Yamada T, Yamada H, Yamamoto R, Yoshida T, Yoshida Y, Yoshimura J, Yotsumoto R, Yonekura H, Wada T, Watanabe E, Aoki M, Asai H, Abe T, Igarashi Y, Iguchi N, Ishikawa M, Ishimaru G, Isokawa S, Itakura R, Imahase H, Imura H, Irinoda T, Uehara K, Ushio N, Umegaki T, Egawa Y, Enomoto Y, Ota K, Ohchi Y, Ohno T, Ohbe H, Oka K, Okada N, Okada Y, Okano H, Okamoto J, Okuda H, Ogura T, Onodera Y, Oyama Y, Kainuma M, Kako E, Kashiura M, Kato H, Kanaya A, Kaneko T, Kanehata K, Kano KI, Kawano H, Kikutani K, Kikuchi H, Kido T, Kimura S, Koami H, Kobashi D, Saiki

I, Sakai M, Sakamoto A, Sato T, Shiga Y, Shimoto M, Shimoyama S, Shoko T, Sugawara Y, Sugita A, Suzuki S, Suzuki Y, Suhara T, Sonota K, Takauji S, Takashima K, Takahashi S, Takahashi Y, Takeshita J, Tanaka Y, Tampo A, Tsunoyama T, Tetsuhara K, Tokunaga K, Tomioka Y, Tomita K, Tominaga N, Toyosaki M, Toyoda Y, Naito H, Nagata I, Nagato T, Nakamura Y, Nakamori Y, Nahara I, Naraba H, Narita C, Nishioka N, Nishimura T, Nishiyama K, Nomura T, Haga T, Hagiwara Y, Hashimoto K, Hatachi T, Hamasaki T, Hayashi T, Hayashi M, Hayamizu A, Haraguchi G, Hirano Y, Fujii R, Fujita M, Fujimura N, Funakoshi H, Horiguchi M, Maki J, Masunaga N, Matsumura Y, Mayumi T, Minami K, Miyazaki Y, Miyamoto K, Murata T, Yanai M, Yano T, Yamada K, Yamada N, Yamamoto, T, Yoshihiro S, Tanaka H, Nishida O. **The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2020 (J-SSCG 2020)**. *J Intensive Care*. **9(1)**: 53, 2021.

Jitsuiki K, Omori K, Muramatsu KI, Ikegami S, Kushida Y, Nagawasa H, Takeuchi I, Ohsaka H, Oode Y, Yanagawa Y. **Experience Using a Forehead Continuous Deep Temperature Monitoring System During Air Evacuation**. *Air Med J*. **40(1)**: 79-80, 2021.

Muramatsu KI, Omori K, Kushida Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Shitara J, Ohsaka H, Oode Y, Yanagawa Y. **An analysis of patients with acute aortic dissection who were transported by physician-staffed helicopter**. *Am J Emerg Med*. **44**: 330-332, 2021.

Kushida Y, Jitsuiki K, Muramatsu KI, Ikegami S, Nagasawa H, Takeuchi I, Ohsaka H, Oode Y, Omori K, Yanagawa Y. **A comparison of physician-staffed helicopters and ground ambulances transport for the outcome of severe thoracic trauma patients**. *Am J Emerg Med*. **45**: 358-360, 2021.

【和文業績】

工藤大介, 久志本成樹, 松嶋麻子. **もっと知りたい、わかりたい 日本版敗血症診療ガイドライン 2020. もっと知る、もっとわかる J-SSCG2020 輸血療法(解説)**. *救急医学*. **45(9)**: 1137-1141, 2021.

松嶋麻子. **熱く語るぜ!! 進化する熱傷診療 初期評価・急性期治療 熱傷診療ガイドライン(改訂第3版)の概要(解説)**. *救急医学*. **45(11)**: 1352-1362, 2021.

柳川 洋一, 間所 俊介, 村松 賢一, 串田 好宏, 長澤 宏樹, 大森 一彦, 竹内 郁人, 大坂 裕通, 日域 佳, 大出 靖将. **ダメージコントロールを行った胸部外傷が、術後に膿胸、気腫性胃炎、気腫性膀胱炎を合併した一例**. *日本集中治療医学会雑誌*. **28 巻 Suppl. 2**: 518, 2021.

加藤 明裕, 安藤 雅樹, 小峠 和希, 坪田 真実, 三浦 敏靖, 大出 靖将. **院内救急コール対応で蘇生した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の一例**. *日本救急医学会雑誌*. **32 巻 12 号**: 2626, 2021.

串田 好宏, 村松 賢一, 高橋 大悟, 長澤 宏樹, 池上 さや, 日域 佳, 大坂 裕通, 大森 一彦, 大出 靖将, 柳川 洋一. **重症胸部外傷における、ヘリ搬送及び救急車搬送の比較**. *日本外傷学会雑誌*. **35 巻 2 号**: 158, 2021.

村松 賢一, 日域 佳, 池上 さや, 長澤 宏樹, 串田 好宏, 竹内 郁人, 大坂 裕通, 大出 靖将, 大森 一彦, 柳川 洋一. **出産後に posterior reversible encephalopathy syndrome を合併し、クッシング症候群の存在が明らかとなった一例**. *Neurosurgical Emergency*. **25 巻 3 号**: 515, 2021.

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	松嶋麻子	5	3	2
准教授	大出靖将	7	3	4
准教授（診療担当）	三浦敏靖	1	0	1

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

松嶋麻子. 医薬関連奨学寄附金. 令和3年度、500千円

【その他】

松嶋麻子. 日本救急医学会. 評議員

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

2021年8月より新分野として設立されました。
東部医療センターの救急科として臨床業務に携わっています。

<研究活動実績>

【欧文業績】

- Mohanto NC, Ito Y, Kato S, Kamijima M. **Life-time environmental chemical exposure and obesity: Review of epidemiological studies using human biomonitoring methods.** Front Endocrinol (Lausanne). **12**: 778737, 2021.
- Hori Y, Nagai T, Hayashi K, Izumi H, Yokoyama K, Ebara T. **Ability of ergonomic timeout to reduce musculoskeletal discomfort related to fluoroscopic endoscopy.** Endosc Int Open. **14**;9(12): E1909-E1913, 2021.
- Wakayama T, Ito Y, Miyake M, Nomasa K, Sakai K, Oya N, Sato H, Ohno H, Kamijima M. **Inhalation exposure to 2-ethyl-1-hexanol causes hepatomegaly and transient lipid accumulation without induction of peroxisome proliferator-activated receptor alpha in mice.** Ind Health. **59**(6): 383-392, 2021.
- Nakaoka H, Hisada A, Matsuzawa D, Yamamoto M, Mori C. Japan Environment and Children's Study (JECS) Group (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Iso H, Shima M, Kurozawa Y, Suganuma N, Kusuvara K, Katoh T). **Associations between prenatal exposure to volatile organic compounds and neurodevelopment in 12-month-old children: The Japan Environment and Children's Study (JECS).** Sci Total Environ. **794**: 148643, 2021.
- Ma C, Iwai-Shimada M, Nakayama SF, Isobe T, Kobayashi Y, Tatsuta N, Taniguchi Y, Sekiyama M, Michikawa T, Yamazaki S, Kamijima M, Japan Environment Children's Study Group. **Association of prenatal exposure to cadmium with neurodevelopment in children at 2 years of age: The Japan Environment and Children's Study.** Environ Int. **156**: 106762, 2021.
- Yamaguchi C, Ebara T, Futamura M, Ohya Y, Asano M. **Do allergic clinical manifestations increase the risk of behavioral problems in children? A cross-sectional study.** Pediatr Allergy Immunol. **32**(8): 1646-1653, 2021.
- Yamada Y, Ebara T, Matsuki T, Kano H, Tamada H, Kato S, Sato H, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh S, Kamijima M, The Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. **Relationship between physical activity and physical and mental health status in pregnant women: A prospective cohort study of the Japan Environment and Children's Study.** Int J Environ Res Public Health. **18**(21): 11373, 2021.
- Suzumori N, Ebara T, Tamada H, Matsuki T, Sato H, Kato S, Saitoh S, Kamijima M, Sugiura-Ogasawara M. Japan Environment, Children's Study Group. **Relationship between delivery with anesthesia and postpartum depression: The Japan Environment and Children's Study (JECS).** BMC Pregnancy Childbirth. **21**(1): 522, 2021.
- Sato H, Ito Y, Hanai C, Nishimura M, Ueyama J, Kamijima M. **Non-linear model analysis of the relationship between cholinesterase activity in rats exposed to 2, 2-dichlorovinyl**

dimethylphosphate (dichlorvos) and its metabolite concentrations in urine. Toxicology. **450**: 152679, 2021.

Nomasa K, Oya N, Ito Y, Terajima T, Nishino T, Mohanto NC, Sato H, Tomizawa M, Kamijima M. **Development of a strategic approach for comprehensive detection of organophosphate pesticide metabolites in urine: Extrapolation of cadusafos and prothiofos metabolomics data of mice to humans.** J Occup Health. **63(1)**: e12218, 2021.

Zhang Y, Chen D, Shi R, Kamijima M, Sakai K, Tian Y, Gao Y. **Indoor volatile organic compounds exposures and risk of childhood acute leukemia: a case-control study in shanghai.** J Environ Sci Health A Tox Hazard Subst Environ Eng. **56(2)**: 190-198, 2021.

Matsuzaki I, Ebara T, Tsunemi M, Hatta Y, Yamamoto K, Baba A, Hattori M, Nakamura M, Fujishiro M. **Effects of working hours engaged in gastrointestinal endoscopy on musculoskeletal disorders in Japanese endoscopists: a cross-sectional study.** Endosc Int Open. **9(5)**: E674-E683, 2021.

Yamada S, Ebara T, Uehara T, Kimura S, Aoki K, Inada A, Kamijima M. **Reliability of anthropometric landmarks on body surface for estimating pelvic incidence without lateral X-ray.** Environ Occup Health Pract. **3(1)**, 2021.

Mohanto NC, Sato H, Ito Y, Ueyama J, Minato K, Oya N, Miyake M, Nomasa K, Gotoh M, Saito I, Shibata E, Kamijima M. **Human biomonitoring of a urinary propetamphos metabolite using gas chromatography-mass spectrometry.** Environ Occup Health Pract. **3(1)**: 1-9, 2021.

Oya N, Ito Y, Ebara T, Kato S, Ueyamad J, Aoi A, Nomasa K, Sato H, Matsuki T, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh S, Kamijima M. **Cumulative exposure assessment of neonicotinoids and an investigation into their intake-related factors in young children in Japan.** Sci Total Environ. **750**: 141630, 2021.

Committee for Recommendation of Occupational Exposure Limits, Japan Society for Occupational Health (Ito Y, Kamijima M, et al.). **Occupational exposure limits for acetaldehyde, 2-bromopropane, glyphosate, manganese and inorganic manganese compounds, and zinc oxide nanoparticle, and the biological exposure indices for cadmium and cadmium compounds and ethylbenzene, and carcinogenicity, occupational sensitizer, and reproductive toxicant classifications.** J Occup Health. **63(1)**:e12294, 2021.

【和文業績】

榎原毅, 松木太郎. エディトリアルー子どもの発達×ICT×人間工学ーすべての学術もローマに通ずー. 人間工学. **57(6)**: 301-302, 2021.

榎原毅. 新コア・コンピテンシーから学ぶ. 3つの人間工学の視点. 安全衛生コンサルタント. **41(140)**: 7-14, 2021.

山田翔太, 榎原毅, 上原徹, 稲田充, 上島通浩. 外観姿勢から骨盤固有角の大きさを判別できるか?—簡易分類ツールの信頼性と妥当性の検証—. 人間工学. 57(5): 288-292, 2021.

常見麻実, 松崎一平, 服部昌志, 榎原毅, 藤城光弘. 内視鏡治療時における sit-stand workstation の使用が身体局所違和感に与える影響. 人間工学. 57(5):261-268, 2021.

榎原毅, 鳥居塚崇, 小谷賢太郎, 藤田祐志. 人間工学者が今実践すべき 3 つのこと—IEA の改訂コア・コンピテンシーから学ぶ—. 安全衛生コンサルタント. 57(4):155-164, 2021.

榎原毅. エディトリアル—「2:1」の比は何を語るのか? — 性差人間工学の実践について考える —, 人間工学. 57(4):151-154, 2021.

松木太郎, 近井学, 村木里志, 神田直弥, 齋藤誠二, 中川千鶴, 前田享史, 牧口実, 吉川悦子, 榎原毅. 人間工学誌への満足度・投稿意欲・投稿推奨度にはどのような要因が関与するか?—人間工学誌への投稿経験者へのアンケートから—. 人間工学. 57(1):11-23, 2021

山口知香枝, 榎原毅, 二村昌樹, 大矢幸弘, 浅野みどり. 育児ストレスに関連する小児のアレルギー症状の探索. アレルギーの臨床. 41(7):66-69, 2021.

榎原毅. エディトリアル—質は時間よりも強し:査読の質が学会誌の魅力を決めている. 人間工学. 57(1):1-3, 2021

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	上島通浩	14(10)	13(9)	1(1)
准教授	榎原毅	16(5)	7(1)	9(5)
准教授	伊藤由起	8(0)	8(0)	0
助教	加藤沙耶香	4(0)	4(0)	0
特任助教	金子佳世	0	0	0
特任助教	玉田葉月	2(0)	2(0)	0
特任助教	松木太郎	5(0)	3(0)	2(0)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

上島通浩. 中央労働災害防止協会. 労働衛生. 緑十字賞. 令和3年10月

榎原毅. (一社) 日本人間工学会. 人間工学 GP 賞
榎原毅. (一社) 日本人間工学会. 研究奨励賞. 令和 3 年 6 月
榎原毅. 日本産業衛生学会. 2020 年度優秀査読者賞. 令和 3 年 5 月
伊藤由起. 日本産業衛生学会. 2020 年度優秀査読者賞. 令和 3 年 5 月
伊藤由起. 日本産業衛生学会. 産業衛生技術部会. 2021 年度奨励賞 (中明賞). 令和 3 年 5 月

【外部資金獲得実績】(科学研究費金額は令和 3 年度配分額のみ記載)

上島通浩. 子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査愛知ユニットセンター) (代表) 委託業務. 配分額非公開 (産科婦人科学分野、新生児・小児医学分野等と共同で実施)
上島通浩. 環境省環境研究総合推進費 (代表, 分担: 榎原毅・伊藤由起). 令和 3 年度-令和 5 年度、27,692 千円
上島通浩. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・代表). 令和元年度-令和 3 年度、3,800 千円
榎原毅. 科学技術振興機構 (JST) (分担) 令和 3 年度共創の場形成支援プログラム共創分野「近未来労働環境デザイン拠点」(育成型). 令和 3 年度-令和 4 年度、3,846 千円
榎原毅. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・代表). 令和元年度-令和 3 年度、2,500 千円
榎原毅. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担). 令和元年度-令和 3 年度、600 千円
榎原毅. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、200 千円
榎原毅. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、1,000 千円
伊藤由起. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・代表). 令和元年度-令和 3 年度、3,600 千円
伊藤由起. 文部科学省科学研究費 (挑戦的研究 (萌芽)・代表). 令和 3 年度-令和 4 年度、3,900 千円
加藤沙耶香. 文部科学省科学研究費 (若手 B・代表). 平成 30 年度-令和 3 年度、130 千円
加藤沙耶香. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担). 令和元年度-令和 3 年度、600 千円
金子 佳世. 文部科学省科学研究費 (研究活動スタート支援・代表). 令和 2 年度-令和 4 年度、1,430 千円
金子 佳世. 文部科学省科学研究費 (若手研究・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、3,120 千円
松木太郎. 文部科学省科学研究費 (若手研究・代表). 令和 2 年度-令和 3 年度、2,400 千円
玉田葉月. 文部科学省科学研究費 (若手研究・代表). 令和 2 年度-令和 4 年度、800 千円

【その他】

学会発表

松木太郎, 大橋圭, 福原里美, 今枝正行, 宮地泰士, 浅井朋子, 山本孔次郎, 榎原毅, 上島通浩, 松崎一基, 玉田葉月, 湊京子. 第 10 回日本情動学会. マインドフルネス呼吸法と育児の関係—スマートフォン・アプリによるマインドフルネス・トレーニングが発達障

害児をもつ母親にもたらす効果について一. 2021/12/11-12

湊京子, 伊藤由起, 加藤沙耶香, 上山純, 齋藤勲, 五藤雅博, 柴田英治, 上島通浩. 第31回日本産業衛生学会全国協議会. 中小規模事業所と大学の連携による健康管理の取り組みと健康課題の経年変化について. 2021/12/2

Yasuyuki Yamada, Takeshi Ebara, Takashi Toriizuka, Good Practice of Ergonomic Science Communication in Japan, International symposium, 2021/11/30

酒井一輝, 榎原毅, 山田翔太, 松木太郎, 上島通浩. 第25回作業関連性運動器障害研究会. 在宅勤務における情報機器使用に伴う頸部の動きが頸部筋骨格系症状へ与える影響: 研究プロトコル. 2021/11/13

松崎一平, 榎原毅「個人防護具の人間工学的課題ーフェイスシールドの問題点ー」第7回内視鏡検査・周術期管理の標準化に向けた研究会, 2021/11/7

山田翔太, 榎原毅, 上原徹, 稲田充, 上島通浩. 日本人間工学会東海支部2021年研究大会. 外観姿勢から骨盤固有角の大きさを判別できるか?ー簡易分類ツールの信頼性と妥当性の検証ー. 2021/10/30

松崎一基, 榎原毅, 上島通浩 他. 2021年度日本産業衛生学会東海地方会学会. 栄養疫学研究における変数定義の系統レビューー産業保健への普及実装の観点からー. 2021/10/14

三宅美緒, 伊藤由起, 若山貴成, 上島通浩. 第48回産業中毒・生物学的モニタリング研究会. 2-エチル-1-ヘキサノール慢性吸入曝露によるマウス嗅球, 海馬への影響. 2021/10/2

那須民江, 伊藤由起, 内藤久雄, 王海蘭, 上島通浩. 第48回産業中毒・生物学的モニタリング研究会. トリクロロエチレンによるhypersensitivity syndrome発症の労働衛生学的. 2021/10/2

松崎一平, 榎原毅, 服部昌志, 中村正直, 藤城光弘. 第21回EMR/ESD研究会. 内視鏡治療による筋骨格系障害の人間工学的リスクマネージメント. 2021/7/18

伊藤由起, 大矢奈穂子, 上山純, 加藤沙耶香, 佐藤博貴, 齋藤伸治, 杉浦真弓, 榎原毅, 上島通浩. 第67回東海公衆衛生学会学術大会. エコチル調査参加1歳半児の殺虫剤曝露量と前日に摂取した食材との関連. 2021/7/3

金子佳世, 伊藤由起, 加藤沙耶香, 玉田葉月, 松木太郎, 榎原毅, 井上貴子, 杉浦真弓, 齋藤伸治, 八谷寛, 藤田直也, 上島通浩. 第67回東海公衆衛生学会学術大会. 小学2年非肥満児における男女別の推定食塩摂取量, 尿中Na/K比と収縮期血圧の関連. 2021/7/3

加藤沙耶香, 金子佳世, 玉田葉月, 松木太郎, 榎原毅, 伊藤由起, 杉浦真弓, 齋藤伸

治, 上島通浩. 第67回東海公衆衛生学会学術大会. 子どもの注視対象・注視時間特性と言語発達の関連. 2021/7/3

常見麻実, 松崎一平, 服部昌志, 榎原毅. Sit-stand workstationを取り入れたESD環境の提唱～術者に対する筋骨格系障害の比較検討～. 第86回日本消化器内視鏡技師学会. 2021/5/15

馬場朱美, 常見麻実, 松崎一平, 服部昌志, 榎原毅, 藤城光弘. 第86回日本消化器内視鏡技師会. 内視鏡スタッフの身体症状とリスク要因に関する実態調査. 2021/5/15(広島)

伊藤由起, 加藤沙耶香, 玉田葉月, 松木太郎, 大矢奈穂子, 野正夏鈴, 金子佳世, 佐藤博貴, 榎原毅, 上島通浩. 第91回日本衛生学会総会. エコチル調査参加学童児の感覚特性の分布. 2021/3/6-8

大矢奈穂子, 伊藤由起, 野正夏鈴, Nayan Chandra Mohanto, 加藤沙耶香, 佐藤博貴, 齋藤伸治, 杉浦真弓, 榎原毅, 上島通浩. 第91回日本衛生学会総会. 妊婦における尿中に排泄された化学物質の網羅的解析. 2021/3/6-8

野正夏鈴, 大矢奈穂子, 伊藤由起, 寺島健仁, 西野隆祐, Nayan Chandra Mohanto, 佐藤博貴, 富澤元博, 上島通浩. 第91回日本衛生学会総会. 網羅的分析手法を用いた有機リン系農薬(OP)尿中代謝物の同定. 2021/3/6-8

野村洸司, 浜田梨沙, 斎藤勲, 近藤高明, 佐藤光夫, 上島通浩, 上山純. 第90回日本衛生学会学術総会. ヒトバイオモニタリングに応用可能な高感度尿中グリホサート測定法の開発. 2021/3/6-8

金子佳世, 伊藤由起, 加藤沙耶香, 玉田葉月, 松木太郎, 大矢奈穂子, 野正夏鈴, 佐藤博貴, 榎原毅, 上島通浩. 第31回日本疫学会学術総会. 学童期健常児における推定塩分摂取量と収縮時期・拡張期血圧の関連. 2021/1/27

講演, シンポジウムなど

榎原毅. 「近未来の重量物取扱管理－IS011228改訂について－(特別企画: 「労働衛生の将来の方向性」を考える講演会)」講演, 2021年度日本産業衛生学会東海地方会産業衛生技術部会. 2022/1/22

榎原毅. 在宅勤務の人間工学－7つの人間工学ヒントの概説－. 多摩さんぽ会. 2022/1/19

上島通浩. エコチル調査10年公衆衛生への寄与. 第80回日本公衆衛生学会. 2021/12/23
松木太郎. 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の概要と愛知ユニットセンターの成果について. 名市大公衆衛生学研究会. 2021/12/15

榎原毅. 人間工学分野で現在扱われている Working From Home (WFH) 研究と社会実装の動向(産業衛生技術部会シンポジウム: テレワーク・在宅勤務における労働環境の

問題と今後の課題, シンポジスト) . 第 31 回日本産業衛生学会全国協議会.
2021/12/3-5

上島通浩. 小児環境保健疫学研究-フィールドからエビデンスをつくる-第139回大幸ライ
フトピア連携研究会. 2021/11/17

松木太郎, 玉田葉月, 加藤沙耶香, 金子佳世. 子どもと健康と環境に関する全国調査」エ
コチル調査でわかったこと. 中生涯学習センター後期講座, 2021/11/26~12/17, 第
1回子どもの心とからだの発達 (松木太郎), 第2回食事・栄養と母子の健康 (玉田葉
月), 第3回変わりゆく子どもの予防接種 (加藤沙耶香), 第4回小児期からできる生
活習慣予防 (金子佳世)

榎原毅. コロナ時代に産業保健スタッフが知っておきたい人間工学ヒント ~テレワー
クと高齢労働者対策を中心に~」愛知産業保健総合支援センター 衛生管理者等対
象研修. 2021/11/15

榎原毅. 新・人間工学研究のための倫理指針実践編のポイント (企画シンポジウム:「人
間工学研究のための倫理指針」の改訂). 日本人間工学会第62回大会. 2021/5/22-23

榎原毅. 7つの人間工学ヒントについて(ワークアーゴノミクス部会企画シンポジウ
ム:「テレワークの人間工学」). 日本人間工学会第62回大会. 2021/5/22-23

榎原毅. 理事会企画シンポジウム. パンデミックは私たちの労働・生活様式をどのよ
うに変え, 人間工学はどのような貢献ができるのか?企画・オーガナイザー・司会,
主催: 日本人間工学会理事会, 日本人間工学会第62回大会. 2021/5/22-23

榎原毅. 編集委員会企画講座「人間工学誌に投稿しよう! -論文投稿から掲載までのポ
イント解説-」企画・オーガナイザー・司会, 主催: 日本人間工学会理事会, 日本人
間工学会第62回大会. 2021/5/22-23

上島通浩. 第10回エコチル調査シンポジウム. 2021/2/21

主要な学会活動

上島通浩

日本産業衛生学会 理事・代議員・東海地方会理事・許容濃度委員会委員
日本衛生学会代議員
日本毒性学会評議員
日本農薬学会編集委員
東海公衆衛生学会評議員

榎原毅

日本人間工学会理事

International Ergonomics Association Executive committee member (国際人間工学連合理事)

Chair of Professional standard and education (PSE) standing committee, IEA (IEA 専門標準・教育常設委員会委員長)

International Ergonomics Association Council Meeting Member(国際人間工学連合評議会日本代表委員)

ISO/TC159(人間工学)国内対策委員会 SC3(人体計測と生体力学)分科会委員長

一般社団法人日本人間工学会 編集委員会委員長、国際誌検討委員会委員長、表彰委員会委員、倫理指針検討委員会副委員長、国際協力委員会委員、若手支援委員会委員、東海支部支部役員

産業保健人間工学会 理事

日本労働科学学会 理事

日本産業衛生学会 作業関連性運動器障害研究会代表世話人、学術委員会委員、広報委員会委員、代議員、東海地方会理事、東海地方会ニュース編集委員会委員、東海地方会学術研究推進委員会委員、東海地方会広報委員、技術部会東海地方会世話人

伊藤由起

日本産業衛生学会 代議員・東海地方会理事、産業衛生技術部会本部幹事・東海地方会副部会長/事務局長、許容濃度委員会 起案委員、Journal of Occupational Health・産業衛生学雑誌・Environmental and Occupational Health Practice 誌 編集委員会委員、第31回日本産業衛生学会全国協議会(三重)運営組織委員

日本衛生学会 代議員、生殖次世代影響研究会世話人

日本毒性学会 Fundamental Toxicological Sciences, Editorial Board

International Society of Exposure Science (国際環境曝露科学会) International human biomonitoring guidance values (i-HBM) working group member

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

外部委員・非常勤講師など

上島通浩

国立研究開発法人国立環境研究所参与

国立環境研究所子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)運営委員長(研究代表者)

環境省有害大気汚染物質健康リスク評価等専門委員ワーキンググループ委員、有害大気汚染物質対策調査検討会委員

環境省化学物質の人へのばく露量モニタリング調査検討委員

農林水産省農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会委員

厚生労働省アレルギー疾患対策推進協議会委員

厚生労働大臣登録「建築物環境衛生管理技術者等講習会」教授

愛知労働局労働衛生指導医

愛知県健康・快適居住環境専門家

愛知県環境影響評価審査会委員

愛知県貝類出荷自主規制解除判定会議構成員

名古屋市食の安全・安心推進会議会長

名古屋市保健所運営協議会副会長
順天堂大学非常勤講師
高知大学非常勤講師
名古屋大学非常勤講師

榎原毅

厚生労働省 労働安全衛生教育教材作成事業「重量物取扱に係る安全衛生教育教材作成
ワーキング」委員
厚生労働省行動災害（転倒・腰痛等）の減少を図る対策の在り方に関する有識者会議有
識者
公益財団法人労働科学研究所 特別研究員
修文大学 非常勤講師
日本福祉大学 非常勤講師
宮城学院女子大学 非常勤講師
中央災害防止協会・情報機器作業労働衛生教育インストラクターコース 作業管理・健
康管理等に関する講師

伊藤由起

環境省 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) 曝露評価専門委員会委
員、曝露評価専門委員会精度管理分科会委員
愛知県環境影響評価審査会委員
名古屋市環境審議会専門委員
名古屋大学 非常勤講師

加藤沙耶香

名古屋市北区保健センター 乳児発達相談

エコチル調査愛知ユニットセンター活動実績

(名古屋市立大学母と子どもの健康・環境総合研究センター)

1. 愛知ユニットセンターの役割

名古屋市立大学は、環境省の事業「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」を国立環境研究所より受託している。エコチル調査は環境省が企画・立案し、国立環境研究所エコチル調査コアセンターに設置される運営委員会が調査計画を決定する。調査実施に関してはコアセンターが調査をとりまとめ、メディカルサポートセンター(国立成育医療研究センター)が医学面でのサポートを行い、全国15地域の大学等に設置されたユニットセンターは、調査地区において参加協力者に関する調査実務を担い、調査で得られたデータの解析と論文化をおこなう。

本学では、エコチル調査を実施するために医学研究科に「母と子どもの健康・環境総合研究センター（エコチル調査愛知ユニットセンター）」を設置し、医学研究科を挙げて調査を継続実施するための体制を整えている。エコチル調査愛知ユニットセンターは、調査地区である名古屋市北区と一宮市での調査を運営する役割を担っている。2021年度は、高い調査参加率を維持するためのフォローアップ業務や広報、質問票調査、乳歯調査、疾患情報登録調査、詳細調査（医学的検査）および学童期検査（小学2年生）等を前年に引き続き実施した。また、環境労働衛生学、産科婦人科学、新生児・小児医学等の研究者が、各自の専門的知見から、エコチル調査で得られたデータを解析し、学術論文としてまとめ、エコチル調査の成果の発信に努めた。

2. 運営・組織体制

エコチル調査は全国各地に調査指定地域を設け、小学校の学年・学級によっては4割近くの児童が参加する調査であることから、調査実施にあたり地域内の協力医療機関、行政、医師会等との連携による強固な実施体制を構築している。2014年3月に調査参加者の募集（リクルート期）が終わり、以後、フォローアップ期に入り今日に至る。この間、地域の行政機関、医療機関、医師会をはじめとする医療関係団体、市民団体等と連携して協力体制を構築している。2021年度も前年度と同様に、各機関・組織等の代表をエコチル調査愛知ユニットセンター運営協議会、名古屋市北区エコチル調査推進委員会、一宮市エコチル調査推進委員会に招聘し、エコチル調査の継続・推進に向けた助言を得た。

3. 調査の実績

2010年度の調査開始から12年間が経過した2022年3月時点で、5,278名（追跡率95%）の子どもが継続的に調査に参加している。2021年度には参加者全員を対象とする質問票調査を2回、特定の疾患に罹患した場合に医療情報を収集する疾患情報登録調査、当該年度に小学2年生となる参加者を対象に全国统一の方法により行う対面調査（学童期検査）、脱落乳歯に含まれる化学物質を分析し、胎児期から乳児期の長期的な化学物質による曝露状況を調べるための乳歯回収調査、参加者の5%の方（約270人）を対象に特定の項目を調べる対面調査（詳細調査）、エコチル調査の全国统一プロトコルとは別に愛知ユニットセンター独自に計画する追加調査を実施した。対面調査においては、新型コロナウイルス感染症対策として、感染対策マニュアルを作成し、調査事務局および業務委託先スタッフ間で感染対策への意識を統一し、調査実施に取り組んだ。

4. 広報活動の取組み実績

① 一般市民向け公開講座の開催

地域全体にエコチル調査の意義を伝え、認知度を高めるためのアウトリーチ活動である一般市民向け公開講座として、2021年11～12月、名古屋市教育委員会生涯学習課との大学連携企画として、愛知ユニットセンターの教員が、名古屋市中生涯学習センターにおいて、4回にわたる市民向け公開講座を実施した。

【開催日・講座内容・発表者】

2021年11月26日（金）「子どもの心とからだの発達」（松木太郎）

2021年12月 3日（金）「食事・栄養と母子の健康」（玉田葉月）

2021年12月10日（金）「変わりゆく子どもの予防接種」（加藤沙耶香）

2021年12月17日（金）「小児期からできる生活習慣病予防」（金子佳世）

② 第 92 回日本衛生学会学術総会（2022 年 3 月 21 日～23 日、オンライン）における附設展示

エコチル調査愛知ユニットセンター独自の調査・研究活動や、これまでの主な研究成果についての PR 動画を出展し、将来的にエコチル調査の研究活動を共に担う可能性のある研究者への広報活動を行った。

③ 名古屋市立大学「SDG s IDEA FORUM」(2022 年 2 月 26 日)での発表

SDGs の達成に貢献している研究プロジェクトの一つとして、10 年以上に渡るエコチル調査の研究成果を大学生に向けて紹介した。

④ 名古屋市立大学の YouTube チャンネルでの配信 (2022 年 3 月)

SDGs 達成に向けた研究活動として、愛知ユニットセンターについての紹介動画を配信している。

動画視聴 URL : <https://www.youtube.com/watch?v=6vmGEBTwo6Y>

動画視聴 QR コード :



⑤ エコチル調査の認知度促進を目指す「オンライン・バルーン教室」(2022 年 1 月、2 月)

愛知ユニットセンターのマスコットキャラクターである「エコネコ★」バルーンを親子と一緒に制作することで、子どもの集中力と親子の触れ合いをうながす対面イベントを企画していたが、オンライン開催に変更し、限定動画配信を実施した。

⑥ ニュースレター「ECO♡AICHI 通信」の発行

2021 年 12 月に第 1 号、2022 年 3 月に第 2 号を発行した。

⑦ 研究成果の社会還元に向けたホームページの整備

研究成果の社会還元を目的とした専用ホームページ「JECS-A-Scicom (<https://jecs-a-sci.com/>)」を立ち上げた。

⑧ 報道による情報発信

2021 年 9 月 21 日の日刊工業新聞で、名古屋市立大学における SDGs に関する多様な活動展開の一つとして、エコチル調査が取り上げられた。2021 年 9 月 23 日、REUTERS 通信関連の医学専門情報サイト「Medscape」「MeDedge」および、2022 年 2 月 15 日、日本の医療関連情報ソフトウェア開発会社「ユサコ株式会社」ホームページにて、愛知ユニットセンターの学術論文「Association of Maternal Total Cholesterol with SGA or LGA Birth at Term: The Japan Environment and Children's Study」が紹介された。

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Takeuchi K, Naito M, Kawai S, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Tamura T, Hishida A, Nakatochi M, Sasakabe T, Hashimoto S, Furusho N, Tanaka K, Hara M, Nishida Y, Matsuo K, Ito H, Oze I, Mikami H, Nakamura Y, Kusakabe M, Takezaki T, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Suzuki S, Nishiyama T, Watanabe M, Koyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Kita Y, Ueshima H, Matsui K, Arisawa K, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Nakamura S, Narimatsu H, Hamajima N, Tanaka H, Wakai K. **Study profile of the Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study.** *J Epidemiol*, **31(12)**: 660-668, 2021.
2. Watanabe M, Hosono S, Nakagawa-Senda H, Yamamoto S, Aoyama M, Hattori S, Yamada T, Suzuki S. **Does direct-to-consumer personal genetic testing improve gynecological cancer screening uptake among never-screened attendees? A Randomized Controlled Study.** *Int J Environ Res Public Health*, **18(23)**: 12333, 2021.
3. Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Uemura H, Nguyen TV, Takezaki T, Ibusuki R, Suzuki S, Otani T, Okada R, Kubo Y, Tamura T, Hishida A, Koyama T, Matsui D, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Ikezaki H, Matsumoto Y, Nishida M, Takeuchi K, Wakai K, for the Multi-Institutional Collaborative Cohort J-MICC Study. **Association of skipping breakfast and short sleep duration with the prevalence of metabolic syndrome in the general Japanese population: Baseline data from the Japan Multi-Institutional Collaborative cohort study.** *Preventive Med Rep*, **24**: 101613, 2021
4. Otani T, Takahashi K. **Flexible scan statistics for detecting spatial disease clusters: The rflexscan R package.** *J Statistics Software*, **99**: e13, 2021.
5. Nakamura Y, Narita A, Sutoh Y, Imaeda N, Goto C, Matsui K, Takashima N, Kadota A, Miura K, Nakatochi M, Tamura T, Hishida A, Nakashima R, Ikezaki H, Hara M, Nishida Y, Takezaki T, Ibusuki R, Oze I, Ito H, Kuriyama N, Ozaski E, Mikami H, Kusakabe M, Nakagawa-Senda H, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Kita Y, Wakai K. **A genome-wide association study on meat consumption in a Japanese population: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort study.** *J Nutr Sci*, **10**: e61, 2021.
6. Adachi J, Aoki Y, Tatematsu T, Goto H, Nakayama A, Nishiyama T, Takahashi K, Sana M, Ota A, Machida J, Nagao T, Tokita Y. **Novel MSX1 frameshift mutation in a Japanese family with nonsyndromic oligodontia.** *Hum Genome Var*, **8**: 1-3, 2021.
7. Koyama T, Ozaki E, Kuriyama N, Tomida S, Yoshida T, Uehara R, Tanaka K, Hara M, Hishida A, Okada R, Kubo Y, Oze I, Koyanagi YN, Mikami H, Nakamura Y, Shimoshikiryo I, Takezaki T, Suzuki S, Otani T, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Ikezaki H, Murata M, Takeuchi K, Wakai K: J-MICC Study Group. **Effect of underlying cardio-metabolic diseases on the association between sedentary time and all-cause mortality in a large Japanese population: A cohort analysis based on the J-MICC study.** *J Am Heart Assoc*, **10(13)**: e018283, 2021.
8. Yamazaki H, Shimizu M, Otani T, Mizugaki A, Mure K, Suzuki S, Ishikawa H. **Effects of polymorphic cytochrome P450 2A6 genotypes on chemoprevention against colorectal tumors in single Japanese cohort using daily low-dose aspirin: insights into future personalized treatments.** *J Pharm Health Care Sci*, **7(1)**: 26, 2021.
9. Suzuki H, Nakamura Y, Matsuo K, Imaeda N, Goto C, Narita A, Shimizu A, Takashima N,

- Matsui K, Miura K, Nakatochi M, Hishida A, Tamura T, Kadomatsu Y, Okada R, Nishida Y, Shimanoe C, Nishimoto D, Takezaki T, Oze I, Ito H, Ikezaki H, Murata M, Matsui D, Ozaki E, Mikami H, Nakamura Y, Suzuki S, Watanabe M, Arisawa K, Uemura H, Kuriki K, Momozawa Y, Kubo M, Kita Y, Takeuchi K, Wakai K. **A genome-wide association study in Japanese identified one variant associated with a preference for a Japanese dietary pattern.** *Eur J Clin Nutr*, **75(6)**: 937-945, 2021.
10. Kuru Y, Nishiyama T, Sumi S, Suzuki F, Shiino T, Kimura T, Hirai K, Kuroda M, Kamio Y, Kikuchi S. **Practical applications of brief screening questionnaires for autism spectrum disorder in a psychiatry outpatient setting.** *Int J Methods Psychiatr Res*. **30(2)**: e1875, 2021.
 11. Ishikawa H, Mutoh M, Sato Y, Doyama H, Tajika M, Tanaka S, Horimatsu T, Takeuchi Y, Kashida H, Tashiro J, Ezoe Y, Nakajima T, Ikematsu H, Hori S, Suzuki S, Otani T, Takayama T, Ohda Y, Mure K, Wakabayashi K, Sakai T. **Chemoprevention with low-dose aspirin, mesalazine, or both in patients with familial adenomatous polyposis without previous colectomy (J-FAPP Study IV): a multicentre, double-blind, randomised, two-by-two factorial design trial.** *Lancet Gastroenterol Hepatol*. **6 (6)**: 474-481, 2020.
 12. Morisawa J, Otani T, Nishino J, Emoto R, Takahashi K, Matsui S. **Semi-parametric empirical Bayes factor for genome-wide association studies.** *Eur J Hum Genet*, **29(5)**: 800-807, 2021
 13. Suzuki S, Goto A, Nakatochi M, Narita A, Yamaji T, Sawada N, Katagiri R, Iwagami M, Hanyuda A, Hachiya T, Sutoh Y, Oze I, Koyanagai YN, Kasugai Y, Taniyama Y, Ito H, Ikezaki H, Nishida Y, Tamura T, Mikami H, Takezaki T, Ikezaki H, Nishida Y, Tamura T, Mikami H, Takezaki T, Suzuki S, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Arisawa K, Takeuchi K, Tanno K, Shimizu A, Tamiya G, Hozawa K, Kinoshita K, Wakai K, Sasaki M, Yamamoto M, Matsuo K, Tsugane S, Iwasaki M. **Body mass index and colorectal cancer risk: A Mendelian randomization study.** *Cancer Sci*. **112(4)**: 1579-1588, 2021.
 14. Noguchi T, Wakabayashi R, Nishiyama T, Otani T, Nakagawa-Senda H, Watanabe M, Hosono A, Shibata K, Kamishima H, Nogimura A, Nagaya K, Yamada T, Suzuki S. **The impact of job conditions on health-related quality of life among working Japanese older adults: A five-year longitudinal study using J-MICC Okazaki Study Data.** *Arch Gerontol Geriatr*. **95**: 104385, 2021.
 15. Iwase M, Matsuo K, Nakatochi M, Oze I, Ito H, Koyanagi Y, Ugai T, Kasugai Y, Hishida A, Takeuchi K, Okada R, Kubo Y, Shimanoe C, Tanaka K, Ikezaki H, Murata M, Takezaki T, Nishimoto D, Kuriyama N, Ozaki E, Suzuki S, Watanabe M, Mikami H, Nakamura Y, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Kita Y, Takashima N, Nagino M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K. **Differential effect of polymorphisms on body mass index across the life course of Japanese: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study.** *J Epidemiol*. **31(3)**: 172-179, 2021.
 16. Suzuki T, Nakamura Y, Matsuo K, Oze I, Doi Y, Narita A, Shimizu A, Imaeda N, Goto C, Matsui K, Nakatochi M, Miura K, Takashima N, Kuriki K, Shimanoe C, Tanaka K, Ikezaki H, Murata M, Ibusuki R, Takezaki T, Koyanagi Y, Ito H, Matsui D, Koyama T, Mikami H, Nakamura Y, Suzuki S, Nishiyama T, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Takeuchi K, Tamura T, Okada R, Kubo Y, Momozawa Y, Kubo M, Kita Y, Wakai K, J-MICC Research Group. **A genome-wide association study on fish consumption in a Japanese population-the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study.** *Eur J Clin Nutr*, **75(3)**: 480-488, 2021.
 17. Suzuki T, Nakamura Y, Doi Y, Narita A, Shimizu A, Imaeda N, Goto C, Matsui K, Kadota A, Miura K, Nakatochi M, Tanaka K, Hara M, Ikezaki H, Murata M, Takezaki T, Nishimoto D, Matsuo K, Oze I, Kuriyama N, Ozaki E, Mikami H, Nakamura Y, Watanabe M, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Kita Y, Wakai K, J-MICC Research Group. **A genome-wide association study on confection consumption in a Japanese population: the Japan Multi-Institutional Collaborative**

Cohort Study. Br J Nutr, **126(12)**: 1843-1851, 2021.

18. Ando R, Nagaya T, Suzuki S, Takahashi H, Kawai M, Taguchi K, Hamamoto S, Okada A, Yasui T. **Independent and interactive effects of kidney stone formation and conventional risk factors for chronic kidney disease: a follow-up study of Japanese men.** Int Urol & Nephrol. **53**: 1081-1087, 2021.
19. Hishida A, Nakatochi M, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Suzuki S, Nishiyama T, Kuriyama N, Watanabe I, Takezaki T, Nishimoto D, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Mikami H, Kusakabe M, Oze I, Koyanagi YN, Nakamura Y, Kadota A, Shimanoe C, Tanaka K, Ikezaki H, Murata M, Kubo M, Momozawa Y, Takeuchi K, Wakai K, and for the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study Group. **Genome-wide association study of serum prostate-specific antigen levels based on 1000 Genomes data in Japanese: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study.** Nagoya J Med Sci. **83(1)**: 184-194, 2021.
20. Usui Y, Matsuo K, Oze I, Ugai T, Koyanagi Y, Maeda Y, Ito H, Hishida A, Takeuchi K, Tamura T, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Hara M, Nishida Y, Shimoshikiryō I, Takezaki T, Ozaki E, Matsui D, Watanabe I, Suzuki S, Watanabe M, Nakagawa-Senda H, Mikami H, Nakamura Y, Arisawa K, Uemura H, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Ikezaki H, Murata M, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K. **Impact of PSCA polymorphisms on the risk of duodenal ulcer.** J Epidemiol. **31(1)**: 12-20, 2021.

【和文業績】

1. 鈴木 貞夫. 特集：新型コロナウイルス感染症 18：公開データから見る「新型コロナウイルス感染症」第5波とワクチンの概観. 名古屋医報. **1482**: 4-7, 2021.
2. 鈴木 貞夫. 名古屋スタディの概要と研究をめぐる状況・展望. 小児科. **62(2)** : 562-567, 2021.
3. 鈴木 貞夫. 医療界を読み解く（識者の眼）：非感染性・慢性疾患の疫学者が語る、ワクチンと有害事象. 日本医事新報. **5055**: 52, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	鈴木貞夫	19(5)	16(2)	3(3)
准教授	西山 毅	6(0)	6(0)	0
講師	大谷隆浩	7(1)	7(1)	0
助教	中川弘子	4(0)	4(0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

1. 鈴木 貞夫. 文部科学省科学研究費（新学術領域研究・分担）. 平成29年度-令和3年度、5,600千円
2. 鈴木 貞夫. 文科省科学研究費（基盤B・代表）. 令和2年度-令和6年度、4,300千円

円

3. 西山 毅. 文科省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 2 年度-令和 6 年度、100 千円
4. 西山 毅. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 平成 31 年度-令和 3 年度、3,300 千円
5. 鈴木 貞夫. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 平成 31 年度-令和 3 年度、150 千円
6. 鈴木 貞夫. 長寿医療研究開発費 (分担). 令和 3 年度、350 千円
7. 鈴木 貞夫. 文部科学省科研費 (基盤 C・分担). 令和 2 年度-令和 4 年度、150 千円.
8. 西山 毅. 厚生労働科学研究費補助金 (分担). 令和 2 年度-令和 3 年度、200 千円
9. 中川 弘子. 文部科学省科学研究費 (若手 B・代表). 平成 29 年度-令和 3 年度、3,100 千円
10. 大谷 隆浩. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 6 年度、1,300 千円
11. 大谷 隆浩. 文科省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、200 千円

【その他】

- 1) 国際学会発表 (ポスター)
 1. Watanabe M, Nagaya T, Nakagawa Senda H, Hosono S, Ban K, Yamada T, Suzuki S. **Helicobacter pylori infection in parents and their children**. 22th IEA World Congress of Epidemiology, Melbourne, 2021.9.3-6 (on demand).
 2. Noguchi T, Kakizaki M, Wakabayashi R, Nakagawa H, Nishiyama T, Watanabe M, Hosono A, Shibata K, Ichikawa M, Kamishima H, Watanabe H, Ema K, Nagaya K, Yamada T, Suzuki S. **Social inequalities in second-hand smoking among Japanese adults: A repeated cross-sectional study**. 22th IEA World Congress of Epidemiology, Melbourne, 2021.9.3-6 (on demand).
- 2) 国内学会における発表
 1. 鈴木 貞夫. モニタリングレポート委員会による賛否の分かれる公衆衛生対策に関するディベート: ワクチン接種のマスクは不要か? 第 80 回日本公衆衛生学会, 東京, 2021. 11. 22 (オンライン) シンポジウム.
 2. 鈴木 貞夫. COVID-19 Update. 日本プライマリ・ケア連合学会 第 34 回近畿地方会, 大阪, 2021. 11. 28 (オンライン), 特別講演
 3. 鈴木 貞夫. 名古屋スタディの影響と今後の展望. がん予防大会 2021 東京, 2021. 9. 11 (オンライン), シンポジウム.
 4. 鈴木 貞夫. 疫学からみたコロナ禍. 日本尿路結石症学会第 31 回学術集会, 名古屋, 2021.8.28 特別講演.
 5. 西山 毅. **Multi-dimensional phenotyping approach** を通じたデータ駆動型精神医学. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021.9.21 (オンライン), シンポジウム.

6. 中山 昌喜、中柄 昌弘、河村 優輔、山本 健、中岡 博史、清水 聖子、小山 晃英、栗木 清典、大山 博司、島ノ江 千里、釜野 桜子、前原 一輝、桐原 真奈、嶽崎 俊郎、松尾 恵太郎、鈴木 貞夫、若井 建志、岡田 随象、四ノ宮 成祥、松尾 洋孝. 病型特異的な痛風関連遺伝子と適応進化の評価：臨床診断された痛風症例のゲノムワイド関連解析から. 第 31 回日本疫学会学術総会, 佐賀, 2021.1.28-29 (オンデマンド).
7. 大谷 隆浩, 高橋 邦彦. 複数の疾病集積性を解析するための R パッケージ "multicluster" の開発と評価. 第 31 回日本疫学会学術総会, 佐賀, 2021.1.28-29 (オンデマンド).
8. 渡邊 美貴、中川 弘子、細野 覚代、永谷 照男、番 響子、山田 珠樹、鈴木 貞夫. 母親の出生率による子供のピロリ菌の感染状況と感染要因の検討. 第 31 回日本疫学会学術総会, 佐賀, 2021.1.28-29 (オンデマンド).

3) 教育活動（講演等）

鈴木貞夫

1. 一般社団法人日本血液製剤機構 神戸小児感染症セミナー. 「名古屋スタデイの意味とその後の展開」、2021.12.16 (オンライン).
2. 岐山高校講演「COVID-19 Update」, 2021.12.6 (オンライン).
3. JAMP(日本女性医療者連合)講演. 「子宮頸がんから日本の女性を守るために」、2021.11.22 (オンライン).
4. 一般社団法人日本疫学会 サマーセミナー. 「新型コロナ対策から考える疫学のもの見方と考え方」、2021.8.22 (オンライン).
5. 一般社団法人メディカルジャーナリズム勉強会. 「非感染性・慢性疾患の疫学者」が語るコロナ話、2021.4.24 (オンライン).
6. 赤ちゃん育成ネットワーク講演会. 「疫学的視点から新型コロナワクチンと検査を考える」、2021.3.28 (オンライン).
7. NPO 法人 VPD を知って子どもを守ろうの会. 「疫学からみたコロナワクチンの効果」、2021.3.25 (オンライン).

大谷隆浩

1. 「救急救命養成教育の講義」外来講義. 「公衆衛生学」
2021.9.9、9.24、10.12、名古屋市救急救命研修所
2. 経営人材育成講座（名古屋市ロボット・AI・IoT 人材育成事業）. 「AI・IoT 概論」
2021.8.13 (オンライン).

—法医学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Fukuta M, Kurose A, Horita T, Otaki J, Nakamura Y, Kanno S, Kato H, Aoki Y. **An autopsy case of spontaneous coronary artery dissection with eosinophilic coronary periarteritis and degeneration of medial smooth muscles.** Am J Forensic Med Pathol. **42(4):** 387-391, 2021.

Numaguchi A, Mizoguchi F, Aoki Y, An B, Ishikura A, Ichikawa K, Ito Y, Uchida Y, Umemoto M, Ogawa Y, Osamura T, Obonai M, Kaneko K, Kamizono J, Kizaki Z, Kinoshita A, Yachiyo, Konishi N, Sato A, Shibano S, Senda M, Takizawa T, Nakabayashi Y, Nerome Y, Murata Y, Morisaki N, Yoshimura K, Kawano Y, Kobayashi M, Okumura A. **Epidemiology of child mortality and challenges in child death review in Japan.** Pediatr Int. **64:** e15068, 2021.

【和文業績】

大瀧 純, 菅野さな枝, 福田真未子, 加藤秀章, 中村昌美, 青木康博. **多剤併用の3剖検例：法医学実務における薬物乱用の今日的課題の検討.** 法医学の実際と研究. **64:** 121-129, 2021.

福田真未子, 中村昌美, 大瀧 純, 菅野さな枝, 加藤秀章, 青木康博. **片側性小脳半球低形成の関与が示唆された自死事例.** 法医学の実際と研究. **64:** 113-120, 2021.

福田真未子, 加藤秀章, 青木康博. **STR 配列多型が個人識別における確率的評価に与える影響について.** DNA 多型. **29:** 87-90, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	青木康博	5(4)	2(1)	3(3)
准教授	加藤秀章	4(0)	1(0)	3(0)
講師	菅野さな枝	3(0)	1(0)	2(0)
助教	福田真未子	4(3)	1(1)	3(2)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

菅野さな枝. 日本学術振興会科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和5年度、780千円

青木康博. 日本学術振興会科学研究費（基盤 C・代表）. 令和元年度-令和 3 年度、650 千円

青木康博. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和元年度-令和 3 年度、650 千円

福田真未子. 日本学術振興会科学研究費（若手・代表）. 令和元年度-令和 3 年度、520 千円

福田真未子. 日本学術振興会科学研究費（基盤 C・分担）. 令和元年度-令和 3 年度、65 千円

菅野さな枝. 日本学術振興会科学研究費（基盤 B・分担）. 平成 30 年度-令和 3 年度、1,560 千円

＜教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績＞

・司法解剖：114 件，調査法解剖：21 件実施

—医学・医療情報管理学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Katano H, Mase M. Epigenetic changes in carotid plaques with high calcium scores; DNA methylation and microRNA assessments. *Atherosclerosis*. 331: e93, 2021

Shibata T, Nishikawa Y, Torigai T, Kitamura T, Yamada H, Aihara N, Katano H, Mase M. Balloon test occlusion of the carotid artery: internal validation of predictive results. *Turk Neurosurg*. 31: 710-717, 2021

【和文業績】

片野広之、山田和雄、間瀬光人. ヒト頸動脈プラーク安定化機構のためのオミックス解析. *メディカル・サイエンス・ダイジェスト* (岡野栄之編) 47: 490-491, 2021

【各教員の論文数 (桜山)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	片野広之	3	2	1

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】 (科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載)

片野広之. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和3年度-令和5年度、1,100千円

【その他】

1) 国際学会発表

Katano H, Mase M. Epigenetic changes in carotid plaques with high calcium scores; DNA methylation and microRNA assessments. The 89th European Atherosclerosis Society Congress (EAS 2021) 2021.5.30-6.2

2) 国内学会発表 (シンポジウム)

片野広之. 第46回日本脳卒中学会. 頸動脈病変の遺伝子発現 ～石灰化粥腫の安定性を支えているもの～. 2021年3月13日

片野広之. 第80回日本脳神経外科学会総会. 頸動脈狭窄症における高度石灰化粥腫の網羅的ゲノム・エピゲノム解析. 2021年10月28日

3) その他

日本小児神経外科学会評議委員・学術委員

JAM、AMORE、COSMO-JAPAN、P-Choc Registry 研究班分担研究者

＜教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績＞

脊髄髄膜瘤ガイドライン作成委員

社会医学系専門医委員会研修プログラム管理委員

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1] Katoh T, Yashima M, Takahashi N, Watanabe E, Ikeda T, Kasamaki Y, Sumitomo N, Ueda N, Morita H, Hiraoka M. **Expert consensus document on automated diagnosis of the electrocardiogram: The task force on automated diagnosis of the electrocardiogram in Japan: Part 2: Current status of inappropriate automated diagnosis is widely used electrocardiographs in Japan.** Journal of Arrhythmia **37(6)**: 1427-1433, 2021.
- 2] Katoh T, Yashima M, Takahashi N, Watanabe E, Ikeda T, Kasamaki Y, Sumitomo N, Ueda N, Morita H, Hiraoka M. **Expert consensus document on automated diagnosis of the electrocardiogram: The task force on automated diagnosis of the electrocardiogram in Japan: Part 1: Nomenclature for diagnosis and abnormal findings.** Journal of Arrhythmia **37(4)**: 871-876, 2021.
- 3] Hayano J, Ueda N, Kishohara M, Yoshida Y, Yuda E. **Ambient-task combined lighting to regulate autonomic and psychomotor arousal levels without compromising subjective comfort to lighting.** Journal of Physiological Anthropology **40(1)**: 8, 2021.
- 4] Hayano J, Ueda N, Kishohara M, Yuda E, Carney RM, Blumenthal JA. **Survival predictors of heart rate variability after myocardial infarction with and without low left ventricular ejection fraction.** Frontiers in Neuroscience **15**: 610955, 2021.
- 5] Yuda E, Ueda N, Kishohara M, Hayano J. **Redundancy among risk predictors derived from heart rate variability and dynamics: ALLSTAR big data analysis.** Annals of Noninvasive Electrocardiology **26(1)**: e12790, 2021.

【和文業績】

- 1] 加藤 貴雄, 八島 正明, 高橋 尚彦, 渡邊 英一, 池田 隆徳, 笠巻 祐二, 住友 直方, 植田 典造, 森田 宏, 平岡 昌和. **汎用心電計による心房細動関連不適切診断の現状と問題点.** 心電図. **41(1)**: 5-13, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	植田 典造	6	5	1

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

特記事項無し

【外部資金獲得実績】

特記事項無し

【その他】

主要な国内学会活動の参加状況

植田典浩. 日本循環器学会. 東海支部評議員.
植田典浩. 心電図自動診断を考える会. 世話人.

—次世代医療開発学—
(臨床研究開発支援センター)

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Fukuta H, Hagiwara H, Kamiya T. **Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in heart failure with preserved ejection fraction: A protocol for meta-analysis.** *Medicine (Baltimore)*. **100(51)**: e28448, 2021.
2. Fukuta H, Hagiwara H, Kamiya T. **Effects of angiotensin-receptor neprilysin inhibitor on exercise capacity, quality of life, and cardiac function in heart failure with preserved ejection fraction. A protocol for meta-analysis.** *Medicine: Case Reports and Study Protocols*. **2**: e0160, 2021.
3. Banno T, Wakami K, Kikuchi S, Fujita H, Goto T, Fukuta H, Seo Y, Ohte N. **Non-Invasive Estimation of Left Ventricular Filling Pressure Based on Left Atrial Area Strain Measured With Transthoracic 3-Dimensional Speckle Tracking Echocardiography in Patients With Coronary Artery Disease.** *Circ Rep*. **3(9)**: 520-529, 2021.
4. Fukuta H, Hagiwara H, Kamiya T. **Iron therapy in iron-deficiency patients with heart failure with preserved ejection fraction: A protocol for meta-analysis.** *Medicine (Baltimore)*. **100(32)**: e26919, 2021.
5. Okada T, Hamamoto S, Taguchi K, Okada S, Inoue T, Fukuta H, Chew BH, Penniston K, Okada A, Yasui T. **Validation of the Japanese Version of The Wisconsin Stone Quality of Life Questionnaire: Results from SMART Study Group.** *J Endourol*. **35(12)**: 1852-1856, 2021.
6. Fukuta H, Goto T, Kamiya T. **Transcatheter interatrial shunt device for the treatment of heart failure with preserved ejection fraction. A protocol for meta-analysis.** *Medicine: Case Reports and Study Protocols*. **2**: e0162, 2021.
7. Hagiwara H, Fukuta H, Hashimoto H, Niimura T, Zamami Y, Ishizawa K, Kamiya T, Ohte N. **A comparison of the safety and effectiveness of prasugrel and clopidogrel in younger population undergoing percutaneous coronary intervention: A retrospective study using a Japanese claims database.** *J Cardiol*. **77(3)**: 285-291, 2021.
8. Fukuta H, Goto T, Kamiya T. **Autonomic regulation device therapy in patients with heart failure with preserved ejection fraction A protocol for meta-analysis.** *Medicine: Case Reports and Study Protocols*. **2**: e0150, 2021.
9. Muto K, Wakami K, Yamamoto J, Banno T, Kikuchi S, Goto T, Fukuta H, Seo Y, Ohte N. **Correlation Between Longitudinal Strain in the Apical Segments of the Left Ventricle at End-Systole Obtained by 2-Dimensional Speckle-Tracking Echocardiography and Left Ventricular Relaxation.** *Circ J*. **85(9)**: 1575-1583, 2021.
10. Goto T, Kikuchi S, Mori K, Nakayama T, Fukuta H, Seo Y, Narita H, Iida A, Ohte N. **Cardiac β -Adrenergic Receptor Downregulation, Evaluated by Cardiac PET, in Chronotropic Incompetence.** *J Nucl Med*. **62(7)**: 996-998, 2021.
11. Fukuta H, Goto T, Wakami K, Kamiya T, Ohte N. **Effect of renin-angiotensin system inhibition on cardiac structure and function and exercise capacity in heart failure with preserved ejection fraction: a meta-analysis of randomized controlled trials.** *Heart Fail Rev*. **26(6)**: 1477-1484, 2021.
12. Fukuta H, Goto T, Wakami K, Kamiya T, Ohte N. **Effect of beta-blockers on heart failure**

severity in patients with heart failure with preserved ejection fraction: a meta-analysis of randomized controlled trials. Heart Fail Rev. **26(1)**: 165-171, 2021.

13. Goto T, Mori K, Nakayama T, Yamamoto J, Shintani Y, Wakami K, Fukuta H, Seo Y, Ohte N. **Multimorbidity, polypharmacy, and mortality in older patients with pacemakers.** J Arrhythm. **38(1)**: 145-154, 2021.
14. Osaga S, Nakada K, Iwakiri K, Haruma K, Joh T, Kamiya T. **Sex differences in risk factors for future onset of reflux esophagitis.** J Clin Biochem Nutr. **69(1)**: 91-97, 2021.
15. Ogawa M, Arihiro S, Matsushashi N, Joh T, Higuchi K, Iwakiri K, Kamiya T, Manabe N, Isshi K, Nakada T, Hokari A, Saruta M, Oshio A, Haruma K, Nakada K. **The early therapeutic response at 2 weeks is a crucial predictor of proton pump inhibitor refractory gastroesophageal reflux disease.** Esophagus. **18(2)**: 398-406, 2021.
16. Fukudo S, Okumura T, Inamori M, Okuyama Y, Kanazawa M, Kamiya T, Sato K, Shiotani A, Naito Y, Fujikawa Y, Hokari R, Masaoka T, Fujimoto K, Kaneko H, Torii A, Matsueda K, Miwa H, Enomoto N, Shimosegawa T, Koike K. **Evidence-based clinical practice guidelines for irritable bowel syndrome 2020.** J Gastroenterol. **56(3)**:193-217, 2021.
17. Okamoto R, Manabe T, Mizukami K. **Effects of Facial Muscles Exercise on Mental Health: A Systematic Review.** Int J Environ Res Public Health. **18(22)**:12216, 2021.
18. Manabe T, Phan D, Nohara Y, Kambayashi D, Nguyen TH, Van Do T, Kudo K. **Spatiotemporal distribution of COVID-19 during the first 7 months of the epidemic in Vietnam.** BMC Infect Dis. **21(1)**:1124, 2021.
19. Kambayashi D, Manabe T, Kawade Y, Hirohara M. **Knowledge, attitudes, and practices regarding COVID-19 among pharmacists partnering with community residents: A national survey in Japan.** PLoS One. **16(10)**: e0258805, 2021.
20. Manabe T, Kambayashi D, Akatsu H, Kudo K. **Favipiravir for the treatment of patients with COVID-19: A systematic review and meta-analysis.** BMC Infect Dis. **21(1)**: 489, 2021.
21. Kogure Y, Iwasawa S, Saka H, Hamamoto Y, Kada A, Hashimoto H, Atagi S, Takiguchi Y, Ebi N, Inoue A, Kurata T, Okamoto I, Yamaguchi M, Harada T, Seike M, Ando M, Saito AM, Kubota K, Takenoyama M, Seto T, Yamamoto N, Gemma A. **Efficacy and safety of carboplatin with nab-paclitaxel versus docetaxel in older patients with squamous non-small-cell lung cancer (CAPITAL): a randomised, multicentre, open-label, phase 3 trial.** Lancet Healthy Longev. **2(12)**: e791-e800, 2021.
22. Matsumura T, Takada H, Kobayashi M, Nakajima T, Ogata K, Nakamura A, Funato M, Kuru S, Komai K, Futamura N, Adachi Y, Arahata H, Fukudome T, Ishizaki M, Suwazono S, Aoki M, Matsuura T, Takahashi MP, Sunada Y, Hanayama K, Hashimoto H, Nakamura H. **A web-based questionnaire survey on the influence of coronavirus disease-19 on the care of patients with muscular dystrophy.** Neuromuscul Disord. **31(9)**: 839-846, 2021.
24. Kogure Y, Hashimoto H, Oki M. **A Randomized Phase III Study of Pembrolizumab Versus Pembrolizumab-Carboplatin-Pemetrexed for Locally Advanced or Metastatic Nonsquamous Non-small-cell Lung Cancer with PD-L1 50% or more (LAPLACE-50): Study Protocol.** Clin Lung Cancer. **22(6)**: e921-e924, 2021.

【和文業績】

1. 神谷 武. 特集：機能性消化管疾患—診療 UPDATE 2.機能性下部消化管疾患 (1)過敏性腸症候群 改訂学会ガイドラインが提示する治療の要点. 臨床消化器内科. **36(5)**: 520-526, 2021.

2. 神谷 武. 特集1：過敏性腸症候群ガイドラインの改正をめぐって
IBSと消化管運動 —治療薬を含めて—. 消化器・肝臓内科. **10(1)**: 20-27, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

			内訳	
職名	氏名	論文数	欧文	和文
教授・ センター長	神谷 武	13 (8)	11 (6)	2 (2)
准教授・副 センター長	福田 英克	13 (8)	13 (8)	0 (0)
特任助教	橋本 大哉	4 (0)	4 (0)	0 (0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

			内訳	
職名	氏名	論文数	欧文	和文
准教授	間辺 利江	4 (3)	4 (3)	0 (0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

Toshie Manabe（間辺利江）. PLOS ONE. Top 10% most cited author, 2021年. 7月

【外部資金獲得実績】

神谷 武. 文部科学省科学研究費（基盤研究C・代表）. 平成31年度-令和4年度、4,900千円

神谷 武. 研究助成金（横山臨床薬理財団・分担）. 令和4年度、100千円

神谷 武. 研究助成金（臨床薬理研究振興財団・分担）. 令和4年度、200千円

福田 英克. 文部科学省科学研究費基盤研究（基盤C・代表）. 平成31年度-令和4年度、4,420千円

間辺 利江. 文部科学省科学研究費（国際共同研究強化B・代表）. 令和2年度-令和5年度、18,720千円

間辺 利江. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和元年度-令和5年度、300千円

間辺 利江. 受託研究費 (JST・代表) . 令和 2 年度-令和 5 年度、32,500 千円

間辺 利江. 研究助成金 (公益財団法人 トヨタ財団) . 令和 2 年 10 月-令和 4 年 9 月、9,140 千円

間辺 利江. 研究助成金 (公益財団法人 杉浦記念財団) . 令和 2 年 6 月-令和 3 年 5 月、2,000 千円

橋本 大哉. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-令和 6 年度、150 千円

橋本 大哉. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 平成 31 年度-令和 4 年度、100 千円

橋本 大哉. 受託研究 (AMED・分担) . 令和 3 年度-令和 4 年度、300 千円

橋本 大哉. 受託研究 (AMED・分担) . 令和 2 年度-令和 4 年度、200 千円

橋本 大哉. 受託研究 (AMED・分担) . 令和 2 年度-令和 4 年度、100 千円

橋本 大哉. 受託研究 (AMED・分担) . 令和 2 年度-令和 4 年度、80 千円

橋本 大哉. 受託研究 (AMED・分担) . 平成 31 年度-令和 3 年度、200 千円

橋本 大哉. 受託研究 (AMED・分担) . 平成 31 年度-令和 3 年度、60 千円

橋本 大哉. 厚生労働省科学研究費 (分担) . 令和 3 年度-令和 5 年度、300 千円

橋本 大哉. 厚生労働省科学研究費 (分担) . 令和 3 年度-令和 4 年度、0 千円

橋本 大哉. 厚生労働省科学研究費 (分担) . 令和 2 年度-令和 3 年度、0 千円

【その他】

<学会発表>

神谷 武. (スポンサードシンポジウム 3 腸内細菌が脳腸相関に果たす役割) 過敏性腸症候群に対するプロバイオティクス治療のエビデンス.

第 23 回日本神経消化器病学会総会、 2021 年 10 月 8 日.

福田英克. 本邦におけるデバイスラグの発生要因の探索と審査迅速化対策の効果に関する検討 第 11 回レギュラトリーサイエンス学会学術大会 2021 年 9 月 18 日

後藤 利彦、中山 貴文、森 賢人、新谷 康広、山本 惇貴、伊藤 謙、藤田 浩志、若見 和明、福田 英克、瀬尾 由広、大手 信之. Cranial Shifts in the Locations of Pacemaker in Patients with Chronotropic Incompetence 第 85 回日本循環器学会学術集会 2021 年 3 月 28 日

Toshie Manabe, The 100th Anniversary of Establishment & the 31st Scientific Congress of Bach Mai Hospital. How to control COVID-19 pandemic successfully: Lesson learned form Japan. 2021年12月.

神林弾、間辺利江、廣原正宜. 第95回日本感染症学会学術講演会. 健康サポート薬局の薬剤師の全国調査の結果から. 2021年5月7日.

<学会活動>

神谷 武

役員・各種委員

日本内科学会：地方会評議員

日本消化器病学会：財団評議員、学会誌編集委員、ガイドライン作成委員

日本平滑筋学会：理事、プログラム委員、利益相反委員

日本神経消化器病学会：監事、薬事保険委員会会長、総務委員

日本消化管学会：代議員、国際交流委員、ガイドライン委員

日本消化器内視鏡学会：倫理委員

日本潰瘍学会：利益相反委員

日本心身医学会：代議員、地方会評議員

福田英克

日本循環器学会ガイドライン作成

大手 信之、石津 智子、泉 知里、伊藤 浩、岩永 史郎、大倉 宏之、尾辻 豊、坂田 泰史、柴田 利彦、新家 俊郎、瀬尾 由広、大門 雅夫、竹内 正明、田邊 一明、中谷 敏、新居 正基、西上 和宏、穂積 健之、安河内 聡、山田 博胤、山本 一博、出雲 昌樹、井上 勝次、岩野 弘幸、岡田 厚、片岡 明久、加地 修一郎、楠瀬 賢也、合田 亜希子、竹田 泰治、田中 秀和、土肥 薫、濱口 浩敏、福田 英克、山田 聡、渡邊 望. 2021年改訂版 循環器超音波検査の適応と判読ガイドライン.

主要な国内学会活動の参加状況

レギュラトリーサイエンス学会、日本臨床薬理学会、日本循環器学会、日本内科学会、日本臨床試験学会

<報道発表>

間辺利江

2021年7月21日. 【時事メディカル】. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染防御行動につながる意思決定支援のためのスマートフォン向けアプリを開発.

2021年7月27日. 【ABEMA NEWS. ABEMA ヒルズ】. 感染リスクを回避せよ！可視化アプリとは.

2021年8月25日. 【中部経済新聞】. アプリで感染回避行動を 名市大准教授ら開発

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

<教育活動>

神谷 武

名古屋市高齢者排泄ケア対応力向上研修講演 講師. 2021年2月15日

第1回臨床研究実施セミナー. 本学における臨床研究の手続き. 2021年4月28日

第3回臨床研究実施セミナー. 倫理指針改訂について. 2021年6月15日

臨床研究実施特別セミナー. 新倫理指針に対応した本学における新しいIRB申請書式について. 2021年8月18日

福田英克

第2回臨床研究実施セミナー. 本学における臨床研究の手続き. 2021年5月17日

第4回臨床研究実施セミナー. 臨床研究法について. 2021年7月19日

第10回臨床研究実施セミナー. 医療機器開発に必要な基礎知識. 2022年1月18日

第12回臨床研究実施セミナー. GCP / モニタリング. 2022年3月14日

間辺利江

第1回 臨床研究ワークショップ. 臨床研究のエッセンス. 2021年6月27日. 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター.

medicalHUB PICo プロジェクト (愛知県内・周辺の医療系学生に新しい教育プログラムを提供するプロジェクト) 講師 臨床研究ははじめの一步. 2021年8月16-17日. 名古屋市立大学

第6回臨床研究実施セミナー. 臨床研究の始め方. 2021年9月16日

第7回臨床研究実施セミナー. 臨床研究論文の書き方. 2021年10月14日

橋本大哉

第8回臨床研究実施セミナー. 統計解析の基本的な記述. 2021年11月16日

第9回臨床研究実施セミナー. 検定の多重性とその調整. 2021年12月15日

—医療安全管理学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Iwatsuki S, Hamamoto S, Shimizu N, Naiki T, Okada A, Kawai N, Tozawa K, Yasui T. Trocar site hernia resulting in intestinal necrosis 48 hours after robot-assisted radical prostatectomy. IJU Case Reports. 4(3): 180-183, 2021.

【和文業績】

戸澤 啓一、水野 健太郎、林 祐太郎、安井 孝周. 腎盂尿管移行部通過障害に対するロボット支援腎盂形成術. Urology Today. 28(1): 27-31, 2021.

水野 健太郎、西尾 英紀、黒川 覚史、加藤 大貴、神沢 英幸、中根 明宏、丸山 哲史、戸澤 啓一、岡田 淳志、濱本 周造、安井 孝周、林 祐太郎. 【泌尿器科領域のロボット手術の新しい展開】RALPY ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術の現状と今後の展開(解説). 泌尿器科. 13(3): 305-310, 2021.

黒川 覚史、水野 健太郎、野崎 哲史、西尾 英紀、戸澤 啓一、安井 孝周、林 祐太郎. 【腹腔鏡下腎盂形成術:適応の拡大と将来展望】ロボット支援腎盂形成術 市中病院における導入の経験(解説). Japanese Journal of Endourology. 34(1): 49-54, 2021.

岡田 淳志、大橋 一也、杉本 真樹、谷口 直嗣、林 知樹、野田 祐介、岡田 朋記、茶谷 亮輔、河瀬 健吾、永井 隆、加藤 大貴、田口 和己、濱本 周造、安藤 亮介、戸澤 啓一、安井 孝周. 腎結石手術における virtual reality 穿刺シミュレーション. 泌尿器科. 14(2): 221-225, 2021.

水野 健太郎、西尾 英紀、林 祐太郎、黒川 覚史、中根 明宏、丸山 哲史、戸澤 啓一、安井 孝周. 【これから始めるロボット支援下腎盂形成術】ロボット支援下腎盂形成術—小児例のテクニカルポイント(解説). J Urol. 34(2): 246-251, 2021.

岡田 淳志、磯谷 正彦、茶谷 亮輔、岡田 朋記、服部 竜也、河瀬 健吾、田中 勇太郎、杉野 輝明、海野 怜、加藤 大貴、藤井 泰普、田口 和己、新美 和寛、廣瀬 泰彦、小林 隆宏、濱本 周造、宇佐美 雅之、広瀬 真仁、安藤 亮介、伊藤 靖彦、戸澤 啓一、郡 健二郎、安井 孝周. 尿路結石を科学する—未来の結石治療に向かって— 「基礎研究」から科学する. 日本尿路結石症学会誌. 20(2): 27-36, 2021.

【各教員の論文数 (桜山)】

			内訳	
職 名	氏 名	論文数	欧 文	和 文
教授	戸澤 啓一	7(1)	1(0)	6(1)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【表彰・受賞】

なし

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

<<学会委員、社会活動等>>

東海医療安全研究会 名古屋地区代表幹事
名古屋市がん健診精度管理専門部会委員長

愛知県医師会医療安全支援センター委員会委員
愛知県医療事故調査等支援団体連絡協議会幹事

—臨床感染制御学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Toshiki E, Asaoka M, Kondo S, Wachino C, Hori K, Shimizu N, Noda Y, Nagai T, Nozaki S, Iida K, Naiki T, Ando, R Kawai N, Yanagita T, Nakamura A & Yasui T. **Efficacy of fosfomycin in the prevention of postoperative infection following transurethral resection of bladder tumor during periods of limited cefazolin, cefotiam, and cefmetazole supply.** J Infect Chemother. **27 (4):** 625-631, 2021.

【和文業績】

該当なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	中村 敦	1(0)	1(0)	0(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	長谷川 千尋	0(0)	0(0)	0(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

- 1) 中村敦. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）.令和1～3年度、350千円

【その他】

1. 国内学会指定演題発表（2021年度）
 - 1) 中村 敦. 第50回日本嫌気性菌感染症学会. Clostridioides difficile 感染症診療の新たな時代. 2021.5.30
 - 2) 中村 敦. 第36回日本環境感染学会. C. difficile 感染症患者の隔離予防策. 2021. 9.20

- 3) 朝岡みなみ, 中村 敦, 木村和哲. 第 51 回日本嫌気性菌感染症学会. Antimicrobial stewardship team による CDI の治療支援. 2022.3.5
2. おもな学会参加 (2021 年度)
 - 1) 中村 敦. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会. 一般口演座長, 評議員
 - 2) 中村 敦. 第 50 回日本嫌気性菌感染症学会. 受賞講演座長, 学会奨励賞選考委員長, 理事
 - 3) 中村 敦. 第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. ワークショップ座長, 評議員
 - 4) 中村 敦. 第 36 回日本環境感染学会総会. 招請講演座長, 評議員
 - 5) 中村 敦. 第 51 回日本嫌気性菌感染症学会. シンポジウム座長, 理事
 - 6) 中村 敦. 第 119 回日本呼吸器学会東海地方会・第 137 回日本結核・非結核性抗酸菌学会東海支部会・第 22 回サルコイドーシス/肉芽腫疾患学会中部支部会合同学会. 特別講演・招請講演座長, 会長
 - 7) 中村 敦. 第 91 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 第 64 回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第 69 回日本化学療法学会西日本支部総会. 招請講演・シンポジウム・学術奨励賞受賞講演座長, 日本感染症学会中日本地方会代表
 3. 学術集会運営 (2021 年度)
 - 1) 中村 敦. 第 119 回日本呼吸器学会東海地方会・第 137 回日本結核・非結核性抗酸菌学会東海支部会・第 22 回サルコイドーシス/肉芽腫疾患学会中部支部会合同学会会長
 - 2) 中村 敦. 第 97 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会学術講演会プログラム委員
 - 3) 中村 敦. 第 70 回日本化学療法学会総会プログラム委員
 - 4) 中村 敦. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会プログラム委員
 4. ガイド・ガイドライン作成委員会活動
 - 1) 中村 敦. 日本環境感染学会 : Clostridioides difficile 感染対策ガイド
 - 2) 中村 敦. 日本化学療法学会 / 日本感染症学会 : Clostridioides difficile 感染症診療ガイドライン
 - 3) 中村 敦. 日本感染症学会 / 日本化学療法学会 : JAID/JSC 感染症治療ガイド (呼吸器感染症)

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

1. 招請講演 (2021 年)
 - 1) 中村 敦. Care TEX 名古屋 2020 専門セミナー. 高齢者施設における感染制御と予防対策～高齢者を守るために何をすべきか～. 2021.1.15.
 - 2) 中村 敦. 名古屋市立大学大学院看護学研究科共催講座. 今だからこそ, あらためて感染症を知る!～正しく怖がる! 感染症との上手な付き合い方. 2021.1.29.
 - 3) 長谷川千尋. 新興再興感染症講演会. COVID-19 の診療と感染対策. 2022.2.2.
 - 4) 長谷川千尋. 3 病院合同地域医療連携講演会. 東部医療センターの感染症科の特色～輸入感染症と国内希少感染症の治療～. 2021.2.20.

- 5) 長谷川千尋. 東海院内感染対策フォーラム. COVID-19 の診療と感染対策. 2021.3.1.
- 6) 長谷川千尋. 社保研究会. 輸入感染症の診療と感染対策. 2021.4.1.
- 7) 長谷川千尋. 名古屋市北区医師会. COVID-19 の最新の知見 ～ワクチンと変異株を中心に～. 2021.6.12.
- 8) 中村 敦. 中部感染症・化療フォーラム. 感染対策ワンポイントレクチャー：医師の立場から. 2021.7.24.
- 9) 長谷川千尋. 第 1 回共に学ぶ会. いろいろな情報が飛び交っているけど、つまりは「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) ってどんな病気？」～これまでにわかっていること～. 2021.8.31.
- 10) 長谷川千尋. 名古屋市南部地区 第 73 回日常診療を語ろう会. 新型コロナウイルス感染症をめぐる最新情報. 2021.9.24.
- 11) 中村 敦. 第 482 回新城市医師会学術講演会. 呼吸器感染症診療と抗菌薬適正使用. 2021.10.20.

2. 執筆

●著書 (和文)

- 1) 中村 敦. 第 2 章新型コロナウイルス感染症の基礎知識 4. 「COVID-19 では静脈血栓症のリスクが増加しますか？」矢野邦夫編著「あなたの知りたかった！」に答えます！新型コロナウイルス対策 Q&A68. INFECTION CONTROL 2021 年春期増刊 (メディカ出版, 大阪) ;35-38, 2021.
- 2) 中村 敦. 第 2 章新型コロナウイルス感染症の基礎知識 5. 「現在, COVID-19 の治療薬やワクチンにはどのようなものが検討されているのでしょうか？」矢野邦夫編著「あなたの知りたかった！」に答えます！新型コロナウイルス対策 Q&A68. INFECTION CONTROL 2021 年春期増刊 (メディカ出版, 大阪) ; 39-45, 2021.
- 3) 中村 敦. 第 2 章 宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体 1.呼吸器感染症. ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物 第 3 版 6 刷 (メディカ出版) ; 34-41, 2021.
- 4) 長谷川千尋. あなたのまわりに寄生虫?. 名古屋市立大学編. 名市大ブックス 7 子育て世代が知りたい子供の病気やライフステージの話 (中日新聞社, 名古屋) ;96-103, 2021.

●総説 (和文)

- 1) 中村 敦. 特集 新型コロナウイルス感染症VIII インフルエンザシーズンにおける新型コロナウイルス感染症診療. 名古屋医報第 1472 号 : 15-17, 2021.
- 2) 田中創始, 中村 敦. 新型コロナウイルス感染症について～ COVID-19 ワクチンと変異株を中心に～. 名古屋医報第 1479 号 : 6-8, 2021.
- 3) 長谷川千尋. 新型コロナウイルス感染症専用病床の開設. 名古屋医報第 1478 号 : 13-14, 2021.
- 4) 木村 宏, 竹田 誠, 野田正治, 森島恒雄, 中村 敦, 吉川哲史. Web 座談会 新型コロナウイルスワクチンの現状と課題. 現代医学 68(1): 1-13, 2021.
- 5) 中村 敦. 臨床トピックス *Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症診療の新たな展開. 現代医学 68(1): 74-81, 2021.

3. 教育啓発活動

- 1) 中村 敦. NCU インфекションセミナー主催（代表世話人）
第 66～71 回セミナーの企画・開催
- 2) 中村 敦. 東海院内感染対策フォーラム（代表世話人）主催
COVID-19 を特集したオンラインセミナー企画・開催

4. 地域連携支援活動

- 1) 中村 敦, 小川綾花, 田上由紀子, 近藤周平. COVID-19 クラスタ改善支援活動
愛知県内の医療施設でのクラスター発生に対する改善支援

5. 行政との連携

- 1) 中村 敦. 長谷川千尋：愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部医療専門部会
- 2) 中村 敦. 愛知県感染対策ネットワーク会議
- 3) 中村 敦. コロナ陽性者宿泊施設開設の指導
- 4) 中村 敦. 名古屋市教育委員会の相談対応

6. マスメディア対応

- 1) 中村 敦, 長谷川千尋：TV 報道番組への出演
- 2) 中村 敦, 長谷川千尋：新聞社の取材

—医療人育成学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

なし

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	柿崎真沙子	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

柿崎真沙子．文部科学省科学研究費（基盤C・代表）．平成31年度-令和5年度、784千円

柿崎真沙子．文部科学省科学研究費（基盤A・分担）．令和3年度-令和7年度、100千円

柿崎真沙子．文部科学省科学研究費（基盤C・分担）．令和2年度-令和5年度、98千円

柿崎真沙子．厚生労働科学研究費（分担）．令和3年度-令和5年度、1,500千円

【その他】

＜国内学会発表＞

柿崎真沙子，今井優樹，大谷隆浩，田尻直輝，名古屋市立大学医学部 ICT 教育ワーキンググループ．第53回医学教育学会．名古屋市立大学医学部におけるオンライン講義の取り組み．2021年7月30、31日

兼松孝好，柿崎真沙子，赤津裕康，田中創始，荒川和幸，川出義浩，大原弘隆．第53回医学教育学会．Zoomアプリケーションを用いた、診断推論に関するチーム基盤型学習(TBL)の導入と効果．2021年7月30日

柿崎真沙子，明石恵子，木村和哲，鈴木匡，坡下真大，村上里奈，山口知香枝，金子典代，川出義浩，植田典浩，大石久史，医療系学部・研究科連携教育委員会．第53回医学教育学会．新型コロナウイルス感染拡大時における医・薬・看護学

部連携チームによる地域参加型早期体験学習の取り組み. 2021年7月31日

種村 菜奈枝, 柿崎 真沙子, 小野寺 理恵, 千葉 剛. 第80回日本公衆衛生学会総会. ベネフィットリスクの提示方法の違いがメッセージ送り手への信頼度に与える影響の検討. 2021年12月21-23日

種村 菜奈枝, 柿崎 真沙子, 小野寺 理恵, 千葉 剛. 第43回日本臨床栄養学会総会. 一般消費者向けの食品の有効性/安全性情報提供文書におけるピクトグラム活用に関するランダム化比較調査. 2021年10月2日

《シンポジウム・セミナー登壇》

柿崎真沙子. 医学教育サイバーシンポジウム(主催:医学教育学会). 『2021年:COVID-19パンデミック2年目の医学教育』. オンライン教育、誰がやっているの?何を使っているの?. 2021年5月29日

柿崎 真沙子. IRセミナー(主催:愛知医科大学医学部IR室・名古屋市立大学医学部医療人育成推進センター・埼玉医科大学IRセンター). 医学部教学IR統合データベースシステムの構築. 2021年10月25日

《学会活動》

柿崎 真沙子. 日本疫学会. 評議委員
柿崎 真沙子. 医療系IR友の会. 世話人

＜教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績＞

《学内委員会活動》

医療系学部・研究科連携教育委員会
行動科学ワーキンググループ
カリキュラム企画・運営委員
ICT教育ワーキンググループ
新学部設置準備委員
学生委員
DX推進委員

—中央臨床検査部—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Watanabe T, Inoue T, Tanaka Y. **Hepatitis B core related antigen and new therapies for hepatitis B.** *Microorganisms*. 2021; **9(10)**:2083.

Inoue T, Matsui T, Tanaka Y. **Novel strategies for earlier diagnosis of HBV reactivation.** *Hepatology Res.* 2021; **51(10)**:1033-1043.

Muto K, Wakami K, Yamamoto J, Banno T, Kikuchi S, Goto T, Fukuta H, Seo Y, Ohte N. **Correlation Between Longitudinal Strain in the Apical Segments of the Left Ventricle at End-Systole Obtained by 2-Dimensional Speckle-Tracking Echocardiography and Left Ventricular Relaxation.** *Circ J.* **85(9)**: 1575-1583, 2021.

Banno T, Wakami K, Kikuchi S, Fujita H, Goto T, Fukuta H, Seo Y, Ohte N. **Non-Invasive Estimation of Left Ventricular Filling Pressure Based on Left Atrial Area Strain Measured With Transthoracic 3-Dimensional Speckle Tracking Echocardiography in Patients With Coronary Artery Disease.** *Circ Rep.* **3(9)**: 520-529, 2021.

Goto T, Kikuchi S, Mori K, Nakayama T, Fukuta H, Seo Y, Narita H, Iida A, Ohte N. **Cardiac β -Adrenergic Receptor Downregulation, Evaluated by Cardiac PET, in Chronotropic Incompetence.** *J Nucl Med.* **62(7)**: 996-998, 2021.

Kawada Y, Kitada S, Hachiya K, Kato M, Nakasuka K, Kikuchi S, Seo Y, Ohte N. **Left Ventricular Hypertrophic Change Indicating Poor Prognosis in Patients With Normal-Flow, Low-Gradient Severe Aortic Stenosis With Preserved Left Ventricular Ejection Fraction.** *Circ Rep.* **3(6)**: 345-353, 2021.

Inoue T, Yagi S, Tanaka Y. **The reply to the correspondence entitled “Understanding HBcrAg components helps the better interpretation of clinical HBcrAg assay results” by Hong, X. and Hu, J.** *J Hepatol.* 2021; **75(4)**:998-999.

Nakasuka K, Kitada S, Kawada Y, Kato M, Kikuchi S, Seo Y, Ohte N. **Future bradyarrhythmia in patients with hypertrophic cardiomyopathy.** *Int J Cardiol Heart Vasc.* **33**: 100735, 2021.

Inoue T, Kusumoto S, Iio E, Ogawa S, Suzuki T, Yagi S, Kaneko A, Matsuura K, Aoyagi K, Tanaka Y. **Clinical efficacy of a novel, high-sensitivity HBcrAg assay in the management of chronic hepatitis B and HBV reactivation.** *J Hepatol.* 2021; **75(2)**:302-310.

Inoue K, Khan FH, Remme EW, Ohte N, García-Izquierdo E, Chetrit M, Moñivas-Palomero V, Mingo-Santos S, Andersen ØS, Gude E, Andreassen AK, Wang TKM, Kikuchi S, Stugaard M, Ha JW, Klein AL, Nagueh SF, Smiseth OA. **Determinants of left atrial reservoir and pump strain and use of atrial strain for evaluation of left ventricular filling pressure.** *Eur Heart J Cardiovasc Imaging.* **23(1)**:61-70, 2021.

【和文業績】

井上 貴子、田中 靖人. **HBV再活性化の新たな展開と早期診断を可能にするバイオマーカーの開発** トピックス：肝胆膵疾患の検査 up to date. *日本臨床検査医学会誌.* **69(10)**: 752-760, 2021.

井上 貴子、田中 靖人. **B型慢性肝炎の管理に関わる新規バイオマーカーの開発と実用化.** *医療検査と自動化.* **41(1)**: 3-12, 2021.

井上 貴子、加藤 正美、浅田 一史、竹内 克豊、根来 武史、梶村 豊彦、河合 正、是永 匡紹、内堀 典保. 歯科の特性に着目した愛知県歯科医師会主導での新しい肝炎対策とその成果. 肝臓. 62(9): 588-589, 2021.

榎本 大、日高 勲、井上 泰輔、磯田 広史、井出 達也、荒生 祥尚、内田 義人、井上 貴子、池上 正、柿崎 暁、瀬戸山 博子、島上 哲朗、小川 浩司、末次 淳、井上 淳、遠藤 美月、永田 賢治、是永 匡紹. 肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーター配置の現状. 肝臓. 62(2): 96-98, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	井上 貴子	8 (6)	4 (3)	4 (3)
助教	菊池 祥平	6 (0)	6 (0)	0 (0)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

井上 貴子. 第 29 回日本消化器関連学会週間. 第 29 回日本消化器関連学会週間優秀演題賞. HBV 再活性化予測における高感度 HB コア関連抗原測定法の臨床応用, 令和 3 年 11 月

【外部資金獲得実績】

菊池 祥平. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 平成 29 年度-令和 4 年度、4,030 千円

井上 貴子. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 2 年度-令和 4 年度、100 千円

井上 貴子. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和 2 年度-令和 4 年度、1,500 千円

井上 貴子. 受託研究費（AMED・分担）. 令和 2 年 6 月-令和 3 年度、4,790 千円

井上 貴子. 研究助成金（名古屋市立大学・代表）. 令和 3 年度、570 千円

【その他】

国際学会発表

Takako Inoue, Jiro Nakayama, Kei Moriya, Hideto Kawaratani, Etsuko Iio, Kentaro Matsuura, Hitoshi Yoshiji, Yasuhito Tanaka. AASLD The Liver Meeting Digital Experience. Characteristics of microbiome in chronic hepatitis C diagnosed as abnormal glucose metabolism after HCV elimination. Nov. 12-15, 2021. ポスター

Takako Inoue, Jiro Nakayama, Masaya Ohnishi, Masanori Isogawa, Keigo Kawashima, Kei Moriya, Hideto Kawaratani, Etsuko Iio, Yui Funatsu, Masaru Tanaka, Rie Momoda, Yutaka Suzuki, Kentaro Matsuura, Hitoshi Yoshiji, Yasuhito Tanaka. AASLD The Liver Meeting Digital Experience, Bile acid dysmetabolism in the gut-microbiota-liver axis among chronic hepatitis C patients. Nov. 12-15, 2021. ポスター

Takako Inoue, Yasuhito Tanaka Y. 8th Taiwan-Japan-Korea Research Symposium on Hepatitis

B Virus. Clinical application of a novel, high-sensitivity HBcrAg assay - the management of chronic hepatitis B and HBV reactivation. Jun. 20, 2021. 口頭 (シンポジウム)

Takako Inoue, Shigeru Kusumoto, Etsuko Iio, Shintaro Ogawa, Takanori Suzuki, Shintaro Yagi, Atsushi Kaneko, Kentaro Matsuura, Katsumi Aoyagi, Yasuhito Tanaka. EASL The International Liver Congress. Clinical importance of a new, high-sensitivity HBcrAg assay for monitoring chronic hepatitis B and HBV reactivation. Jun. 23-26, 2021. ポスター

主要な国内学会活動の参加状況

- ・ 井上 貴子.日本専門医機構 基本領域 臨床検査専門医 (2021年1月1日～)
- ・ 井上 貴子.日本臨床検査医学会 臨床検査専門医 (2015年8月29日～)、指導医 (2017年度～)、評議員 (2019年度～)、東海北陸支部幹事 (2021年7月～)
- ・ 井上 貴子.日本内科学会 認定内科医 (2005年9月26日～)、総合内科専門医 (2006年12月5日～)、東海支部評議員 (2019年度～)
- ・ 井上 貴子.日本肝臓学会 肝臓専門医 (2019年4月1日～)、西部会評議員 (2021年度～)
- ・ 井上 貴子.日本臨床化学会 東海北陸支部幹事 (2021年7月～)
- ・ 井上 貴子.日本糖尿病学会 糖尿病専門医 (2014年11月30日～)
- ・ 井上 貴子.日本産業衛生学会 日本医師会認定産業医 (2003年5月27日～)

書籍

- ・ 井上 貴子、田中 靖人 急性ウイルス性肝炎 臨床検査 2021年第65巻第6号別冊 614-618
- ・ 井上 貴子 おもしろくてためになる! 「臨床検査」のおはなし 名市大ブックス 5 医療の知識で自分を守る～心臓・膵臓・前立腺ほか～ 名古屋市立大学編 2021年 114-125
- ・ 井上 貴子、田中 靖人 内分泌疾患 (甲状腺機能異常症) における肝障害 別冊 日本臨床領域別症候群シリーズ No.14 肝・胆道系症候群 II—その他の肝・胆道系疾患を含めて— 肝臓編(下) 343-347 2021年2月28日発行

招待講演・講習会・市民公開講座

- ・ 井上 貴子 ウイルス性肝炎のトピックスと医科歯科連携に向けた新しい試み 三重県保険医協会歯科学術研究会 2021年11月28日 津市
- ・ 井上 貴子 C型肝炎でみられる胆汁酸代謝異常と腸内フローラの破綻 熊本消化器内科学術講演会～腸内細菌を考える～ 2021年10月21日 熊本市
- ・ 井上 貴子 愛知県における肝炎ウイルス検査の現状 令和3年愛知県肝炎医療コーディネーター講習会 2021年9月12日 名古屋市
- ・ 井上 貴子 肝疾患患者に対する差別偏見問題「ウイルス肝炎の感染経路及びウイルス肝炎の感染性についての理解度に関するアンケート調査 (八橋弘先生作成)」より考える 令和3年愛知県肝炎医療コーディネーター講習会 2021年9月12日 名古屋市
- ・ 井上 貴子 今なら間に合う! 本当に怖い脂肪肝 令和3年度 日本肝臓学会 肝がん撲滅運動 市民公開講座 名古屋市立大学病院 2021年8月 録画開催
- ・ 井上 貴子、村松 直子 『知っておこう! 肝疾患 予防しよう! ロコモ』学ぼう! 肝疾患に伴うサルコペニアの診断とロコモ対策 やってみよう! 使える! 役立つ! ロコモ体操 名古屋市立大学病院 肝疾患センター 第1回肝臓病教室

2021年7月 録画開催

- ・ 井上 貴子 愛知県でのウイルス肝炎受検・受療促進活動～地域に密着した新たな試み～ 肝疾患フォーラム in KUMAMOTO 2021 2021年5月13日 熊本市
- ・ 井上 貴子 愛知県における肝炎ウイルス検査の現状 令和2年度愛知県肝炎医療コーディネーター養成講習会 2021年3月21日 Web
- ・ 井上 貴子 C型肝炎と腸内フローラ ～肝臓と腸内細菌の深い関係～ AMED 公開発表会 2021年3月13日 東京都
- ・ 井上 貴子 一生に一度は肝炎検査を～働く人を守るために職場でできること～いま、企業に求められる「健康支援」とは？企業人事労務担当者向け「健康経営」セミナー 共催) 中日新聞社 協会けんぽ愛知支部 後援) 愛知県 健康保険組合連合会愛知連合会 2021年3月8日 名古屋市
- ・ 井上 貴子 C型肝炎でみられる腸内フローラの破綻と病態進展へのインパクト 第17回日本消化管学会総会学術集会ランチョンセミナー 2021年2月20日 大阪市
- ・ 井上 貴子 愛知県での肝炎ウイルス陽性者受診促進に向けた新たな取り組み 愛知県肝炎医療コーディネータースキルアップ講習会 2021年2月15日～21日 Web 配信
- ・ 井上 貴子 B型・C型肝炎の最新情報と愛知県での医療連携を目指した取り組み 稲沢市歯科医師会 2021年2月13日 稲沢市
- ・ 井上 貴子 ウイルス性肝炎のトピックスと医科歯科連携に向けた新しい試み 愛知県保険医協会歯科学術研究会 2021年1月17日 名古屋市

＜教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績＞

プレスリリース

- ・ 井上 貴子 2021年3月22日 B型肝炎ウイルスを簡便で迅速かつ高感度に検出する「高感度抗原定量検査法」を開発-B型肝炎ウイルス再活性化モニタリング検査への導入に期待-
論文情報：Inoue T, et al. Clinical efficacy of a novel, high-sensitivity HBcrAg assay in the management of chronic hepatitis B and HBV reactivation. Journal of Hepatology 2021; 75(2):302-310.
- ・ 井上 貴子 2021年9月6日 C型肝炎で起こる腸内環境の乱れの原因を解明-C型肝炎ウイルスの感染は胆汁酸代謝遺伝子発現に異常を起こす-
論文情報：Inoue T, et al. Bile acid dysmetabolism in gut-microbiota-liver axis under hepatitis C virus infection. Liver International 2022; 42(1):124-134.

政策提言

- ・ 愛知県感染症対策課と協働し、年一度、県内54市町村12保健所の肝炎検査実施状況・肝炎ウイルス陽性者への対応に関する調査を施行し、助言を行なう体制を導入した。
- ・ 愛知県感染症対策課と連携し、協会けんぽ愛知支部での肝炎検査受検促進事業を開始した。
- ・ これまで愛知県歯科医師会ではHBワクチン2回接種を想定して、その費用の一部を助成してきた。愛知県歯科医師会に助言し、歯科領域に従事者が正しいスケジュールでHBワクチンを受けられるよう、2021年4月から費用助成対象に関する文言を「HBワクチンを3回接種した場合」と変更した。
- ・ 令和3年度愛知県肝炎医療コーディネーター養成講習会の開催に際し、愛知県歯科医師会とともに、日本歯科医師会生涯研修事業の研修単位を取得可能に、歯科初診料の「注1」に規定する施設基準（歯初診）に該当する講習会となるよう調整した。

—緩和ケアセンター—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Uemoto Y, Uchida M, Kondo N, Wanifuchi-Endo Y, Fujita T, Asano T, Hisada T, Nishikawa S, Katagiri Y, Terada M, Kato A, Okuda K, Sugiura H, Osaga S, Akechi T, Toyama T. **Predictive factors for patients who need treatment for chronic post-surgical pain (CPSP) after breast cancer surgery.** *Breast Cancer*. **28(6)**: 1346-1357. 2021

Carey ML, Uchida M, Zucca AC, Okuyama T, Akechi T, Sanson-Fisher RW. **Experiences of Patient-Centered Care Among Japanese and Australian Cancer Outpatients: Results of a Cross-Sectional Study.** *J Patient Exp*. **8**: 23743735211007690. 2021

Kumagai N, Tajika A, Hasegawa A, Kawanishi N, Fujita H, Tsujino N, Jinnin R, Uchida M, Okamoto Y, Akechi T, Furukawa TA. **Assessing recurrence of depression using a zero-inflated negative binomial model: A secondary analysis of lifelog data.** *Psychiatry Res*. **300**: 113919. 2021

Maeda I, Inoue S, Uemura K, Tanimukai H, Hatano Y, Yokomichi N, Amano K, Tagami K, Yoshiuchi K, Ogawa A, Iwase S, Abo H, Akechi T, Akizuki N, Fujisawa D, Hagiwara S, Hirohashi T, Hisanaga T, Imai K, Inada S, Inoue S, Iwata A, Kaneishi K, Kumano A, Matsuda Y, Matsui T, Matsumoto Y, Matsuo N, Miyajima K, Mori I, Morita S, Nakahara R, Nakajima N, Nobata H, Odagiri T, Okuyama T, Sakashita A, Shimizu K, Sumazaki Watanabe Y, Takeuchi E, Takeuchi M, Tataru R, Tokoro A, Uchida M, Watanabe H, Yabuki R, Yamauchi T **Low-Dose Trazodone for Delirium in Patients with Cancer Who Received Specialist Palliative Care: A Multicenter Prospective Study.** *Palliat Med*. **24(6)**: 914-918. 2021

Uchida M, Akechi T, Morita T, Shima Y, Igarashi N, Miyashita M; J-HOPE group.

Development and validation of the Terminal Delirium-Related Distress Scale to assess irreversible terminal delirium. *Palliat Support Care*. **19(3)**: 287-293. 2021

Hasegawa T, Akechi T, Osaga S, Tsuji T, Okuyama T, Sakurai H, Masukawa K, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. **Unmet need for palliative rehabilitation in inpatient hospices/palliative care units: a nationwide post-bereavement survey.** *Jpn J Clin Oncol*. **51(8)**: 1334-1338, 2021.

Harashima S, Fujimori M, Akechi T, Matsuda T, Saika K, Hasegawa T, Inoue K, Yoshiuchi K, Miyashiro I, Uchitomi Y, J Matsuoka Y. **Death by suicide, other externally caused injuries and cardiovascular diseases within 6 months of cancer diagnosis (J-SUPPORT 1902).** *Jpn J Clin Oncol*. **51(5)**: 744-752, 2021.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	内田 恵	5(1)	5(1)	0
助教	長谷川貴昭	2(1)	2(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

内田 恵. 愛知県がん研究振興財団助成金 令和3年度 450千円

長谷川貴昭. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和元年度-3年度、1430千円

長谷川貴昭. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和3年度、760千円

【その他】

《国際学会発表（ポスター）》

Megumi Uchida, Tatsuo Akechi, Tatsuya Morita, Kento Masukawa, Yoshiyuki Kizawa, Satoru Tsuneto, Yasuo Shima, Masaki Mori, Mitsunori Miyashita. Clinical Oncology Society of Australia 48th Annual Meeting. The degree of coincidence between medical staffs and bereaved families regarding the presence or absence of terminal delirium, and its related factors 2021.11. 16-18

《主要な国内学会活動の参加状況》

内田 恵 日本サイコオンコロジー学会 代議員

長谷川貴昭. 日本緩和医療学会. 学術大会支援メンバーWG

長谷川貴昭. 日本緩和医療学会. 呼吸器症状ガイドライン改訂WG

長谷川貴昭. 日本サイコオンコロジー学会. ガイドライン策定委員会
せん妄小委員会

—医療デザイン研究センター—

<研究活動実績>

【欧文業績】

該当なし

【和文業績】

黒柳元, 寺田隆哉, 井口普敬, 坂井宏章, 宇佐美琢也, 植木美乃, 村上英樹. **THA 術前計画における三次元解析と 3D プリンタの有用性**. 東海関節. **13**: 41-45, 2021.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	寺田隆哉	1 (0)	0	1 (0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】（科学研究費金額は令和3年度配分額のみ記載）

寺田 隆哉. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、200千円

【その他】

該当なし

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

- ・ヘルスケアイノベーション推進会議 委員（名古屋市経済局、名古屋産業振興公社）
- ・中部医療産業化ネットワーク会議 委員（中部経済産業局）

第2章

教育活動実績

2021年度

医学部教育要項

名古屋市立大学

目 次

医学部学事予定表	1
暴風警報発令時等の緊急時における授業・試験の対応について	2
学年別時間割表	
1年授業時間割	4
2年4月～12月 授業時間割	5
2年1月～3年12月 授業時間割	6
3年1月～4年12月 授業時間割	7
臨床実習前半 スケジュール	8
臨床実習後半 スケジュール	9
医学部履修規程	10
本学医学部教育の到達目標（卒業時コンピテンシー）	27
医学部カリキュラムポリシー	28
カリキュラムツリー	29
カリキュラムマップ	30
医学教育モデルコア・カリキュラム	31
医学部 臨床実習資格基準・医療系実習参加資格基準	33
医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項	34
共用試験についての留意事項	36
名古屋市立大学医学部 医学生が実施する医行為一覧	37
アンプロフェッショナルな学生の評価	38
総合客観試験について	40
定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針	41
医学部 SNS利用時の注意事項	43
再（追）試験受験願用紙・試験欠席届用紙	44
成績疑問票取扱要綱	45
桜山キャンパス配置図	47
〔1学年専門教育〕	
総合医学コース 医学入門	50
社会医学コース 医学情報学	52
〔基礎医学〕（2学年4月～12月）	
解剖学コース	56
肉眼解剖学	56
組織学・発生学・神経解剖学	58
生化学コース	59
物質と代謝	59
分子と細胞	62
生理学コース	63
植物的機能系	63
動物の機能系	65
総合医学コース	66
水平統合基礎	66
行動科学・地域医療学コース	68
コミュニティ・ヘルスケア基礎	68
行動科学	70
研究能力養成コース	72
学術論文入門	72
〔臨床基礎医学〕（2学年1月～3学年12月）	
感染微生物コース	76
医動物学	76
細菌学	78
ウイルス学	80
免疫学コース	82
免疫学	82
病理学コース	84
病態病理／臨床病理	84
薬理学コース	87
薬理学	87
社会医学コース	89
法医学	89
医学・医療倫理	91
行動科学・地域医療学コース	93
神経科学	93
疼痛科学	95
コミュニティ・ヘルスケア応用	97
研究能力養成コース	99
Scientific Writing and Presentation	99
先端研究	100
臨床能力養成コース	102
救命救急	102
総合医学コース	104
水平統合病態	104

〔臨床医学〕（3学年1月～4学年12月）

臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系	108
	神経系（神経内科）	110
	（脳神経外科）	112
	皮膚系	114
	運動器系・リハビリテーション	116
	循環器系	118
	呼吸器系	120
	消化器系・内視鏡	122
	腎・尿路系（腎臓内科）	124
	（泌尿器科）	126
	生殖機能	128
	妊娠と分娩	130
	乳房	132
	内分泌・栄養・代謝系	134
	眼・視覚系	136
	耳鼻・咽喉・口腔系	138
	精神系	140
	臨床感染症学	142
	成長と発達／発生	144
	急性期医療	146
	食事と栄養療法	148
	放射線等を用いる診断と治療	150
	輸血と移植	152
	膠原病	154
	臨床腫瘍学	156
	救急科	158
	漢方医学	160
	臨床処方学	162
社会医学コース	予防医学基礎	164
臨床能力養成コース	基本臨床技能実習	166
	臨床診断推論	168
行動科学・地域医療学コース	コミュニティ・ヘルスケア発展	171

〔臨床実習前半〕（4学年1月～5学年11月）

消化器内科・肝臓内科	174
消化器外科	180
呼吸器内科	189
呼吸器外科	191
循環器内科	194
心臓血管外科	196
脳神経内科	199
脳神経外科	203
産科婦人科	208
小児科・小児外科	214
総合内科（コミュニティ・ヘルスケア実践を含む）	230
救急科	232
放射線科	236
医療安全	245
感染制御	247
病理診断科	249
臨床検査科	251

〔臨床実習後半〕（5学年11月～6学年9月）

麻酔科	254
薬剤部	259
整形外科／リハビリテーション科	261
膠原病内科	263
血液内科	270
口腔外科	276
耳鼻咽喉科	279
眼科	285
小児泌尿器科	290
泌尿器科	292
腎臓内科	298
形成外科	300
皮膚科	302
乳腺外科	308
内分泌糖尿病内科	311
緩和ケア	314
いたみセンター	315
精神科	316

〔選択制臨床実習〕		
選択制臨床実習について	320
海外での臨床実習プログラムについての取り扱い	321
学外実習要項	322
自己紹介票	325
[各科ガイドライン]		
名古屋市立病院（東部医療センター、西部医療センター複合コース	326
内科系 消化器内科、肝・膵臓内科	345
内分泌・糖尿病内科	354
呼吸器内科	356
リウマチ・膠原病内科	358
血液・腫瘍内科	362
循環器内科	366
腎臓内科	372
脳神経内科	375
外科系 消化器・一般外科	379
呼吸器外科	381
乳腺外科	382
小児外科	383
心臓血管外科	382
整形外科・リハビリテーション科	393
脳神経外科	402
小児科	407
精神科	421
眼科	428
産科婦人科	431
耳鼻咽喉科	434
皮膚科	438
泌尿器科	443
放射線科	448
麻酔科	455
形成外科	458
救急科	460
病理Ⅰ	462
病理Ⅱ	463
生理Ⅰ	464
●選択制臨床実習病院診療科リスト	465
社会医学コース 予防医学応用 1	※2022年度より6学年に実施時期を移動	
社会医学コース 予防医学応用 2	※2022年度より6学年に実施時期を移動	
社会医学コース 法医診断学	※2022年度より6学年に実施時期を移動	

2021年度 医学部 学事予定表

区分	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	行事	
2021	1月		6日 授業開始	4日 授業開始	12日 実習開始	4日 実習開始		
	2月						推薦入試 前期入試 25・26日	
	3月			22日～ 春季休業	22日～	8日～ 春季休業 29日 実習前半開始	15日～ 26日総合客観試験 29日 実習再開	
	4月	5日入学式 13日 教養教育 授業開始	6日 授業開始	6日 授業開始	5日 授業開始	3日～GW		6日入学式
	5月					10日 実習再開		
	6月							
	7月							
	8月	5日～ 夏季休業	30日～	20日～	2日～	26日～	5日～	初旬 オープンキャンパス
	9月	24日 専門授業開始	30日 授業開始	31日 授業開始	14日 授業開始 OSCE	23日 実習再開	30日 実習再開	
	10月		解剖感謝式	基礎自主研修			9日Post-CC OSCE	
	11月			基礎自主研修	GBT	実習後半開始		川澄祭 オープンキャンパス
	12月		進級判定 14日～	進級判定 14日～	進級判定 20日～	20日～	26日総合客観試験 医師国家試験 出願手続 卒業判定	
	1月	24日～ 冬季休業 7日 専門授業開始	6日(予定) 授業開始	6日(予定) 授業開始	4日(予定) 実習開始			
	2022	2月					医師国家試験 受験	推薦入試 前期入試
3月						卒業式	卒業式予定	

暴風警報発令時等の緊急時における授業・試験の対応について

1 暴風警報・暴風雪警報発令時における授業・試験について

名古屋地方気象台から、「愛知県西部」又は「尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部のいずれかの区域」又は「名古屋市」に暴風警報・暴風雪警報が発令された場合の授業・試験についての取り扱いは、以下のとおりとします。

◎所属学部・研究科又は担当教員から特別な指示がある場合は、この限りではありません。

◎電話での問い合わせは受け付けませんので、ラジオ・テレビ等の報道で確認のうえ、各自判断して下さい。

(1) 授業・試験の開始前に発令された場合

解除の時刻	区分	休講または試験が中止となる時限	授業または試験を行う時限
午前7時まで		なし（開講します）	通常どおり
午前7時から午前10時まで		第1時限及び第2時限	第3時限以降
午前10時すぎ		当日実施予定の全ての時限	実施しません

(2) 授業・試験の開始後に発令された場合

原則として授業は休講とし、試験は中止としますが、状況によっては続行することもあります。

なお、中止となった試験については、教務企画室の指示に従って下さい

(3) 居住地または通学経路内に発令された場合

居住地又は通学経路内に発令されている間は、登校しないで下さい。

ただし、愛知県西部、尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部、名古屋市のいずれにも発令されていない場合は、授業・試験は通常どおり行われています。

これに該当し、授業・試験を欠席する学生は、「特別欠席届」を後日すみやかに教務企画室に提出するなど所定の手続きを行って下さい。欠席した日の気象状況については、日本気象協会ホームページの警報発表履歴で確認します。

(4) その他の気象警報が発令された場合

暴風警報・暴風雪警報に限らず、その他の気象警報（大雨警報、大雪警報等）発令時において、学長、副学長等が必要と判断した場合は、授業・試験を中止することがあります。その場合の学生への周知は、大学ホームページやポータルサイトより行います。

2 公共交通機関運休時の対応について

(1) 大雨・強風・大雪等の気象状況による公共交通機関の運休の場合

通学経路に係る公共交通機関が運休している場合、無理な登校はしないで下さい。

ただし、愛知県西部、尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部、名古屋市のいずれにも暴風警報・暴風雪警報が発令されていない場合は、授業・試験は通常どおり行われています。

これに該当し、授業・試験を欠席する学生は、「特別欠席届」を後日すみやかに各学部事務室又は山の畑事務室に提出するなど所定の手続きを行って下さい。その場合、運休の事実を証明する書類が必要となります。

(2) 交通ストの場合

名古屋市営交通、東海旅客鉄道（JR東海）、名古屋鉄道（名鉄）の3社のうち2社以上がストライキを行った場合の授業・試験の取扱は、前項1の（1）で掲げた表に準ずるものとします。

(3) その他の事由による公共交通機関の運休の場合

事故等により、公共交通機関が運休し、授業・試験に出席できなかった場合は、（1）に準じて教務企画室にて、所定の手続きを行って下さい。

3 「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合における授業・試験等について

平成29年11月1日に「南海トラフ地震に関連する情報」の運用が開始され、これに伴い、現在、東海地震のみに着目した「東海地震に関連する情報」の発表は行われなくなりました。

授業等の実施中に「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合は、大学からの指示に従って行動して下さい。また、登校前や登校途中の場合は、安全な場所で待機するとともに各自で情報収集に努め、安全を確保して下さい。

〔参考〕南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件（気象庁ホームページ）

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/index.html>

「南海トラフ地震に関連する情報」は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の種類と発表条件は以下のとおりです。

情報の種類	情報の発表条件
南海トラフ地震に関連する情報（臨時）	<ul style="list-style-type: none">・南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合・観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合・観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではないと評価された場合
南海トラフ地震に関連する情報（定例）	<ul style="list-style-type: none">・「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合において評価した調査結果を発表する場合

○本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報（東海地震に関連する情報）の発表は行っていません。

○南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、本情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。

〔参考〕地震発生時の行動について

名古屋市立大学滝子キャンパス「ポケット防災」（滝子キャンパス自主防災委員会作成）

2021年度 医学部1年授業時間割案

講義室1

		月					火					水					木					金																														
		日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4																										
前期	4	29					30					31					1	新入生合同ガイダンス				2	英語力調査																													
		5	入学式				6	学部別ガイダンス				7					8					9	合宿オリエンテーション																													
		12					13	教養教育				14	教養教育				15	教養教育				16	医薬看連携地域参加型学習																													
		19	教養教育				20					教養教育					21					教養教育					22	教養教育				23																				
	26						27																				28										29	昭和の日(授業開講日)				30										
	3					憲法記念日(授業開講日)				4	みどりの日				5	こどもの日					6	教養教育					7																									
	10					11					12					13					14																															
	17										18										19										20																					
	24																				25														26					27												
	31															1											2								3																	
	7									8					9					10																																
	14														15												16									17																
	21													22					23																	24																
	28									29									30											1																						
	5									6									7											8					9																	
	12									13									14					15																												
	19																		20											21									22	海の日(授業開講日)												
	26													27									28																29	教養・前期期末試験				30	教養・前期期末試験							
	2	教養・前期期末試験								3	教養・前期期末試験				4	教養・前期期末試験							5	夏季休業(~9/23)				6	夏季休業																							
	9	夏季休業				10	夏季休業				11	山の日				12																																				
	16										17	夏季休業				18	夏季休業				19																															
	23															24												25									26															
	30	前期追試験・再試験(8/30-9/1)				31	前期追試験・再試験(8/30-9/1)								1	前期追試験・再試験(8/30-9/1)				2																																
	6	夏季休業				7	夏季休業				8	夏季休業				9					10																															
	13										14										15					16																										
	20										敬老の日										21												22					23	秋分の日													
	27					医薬看連携地域参加型学習										28					教養教育				29								教養教育					30	教養教育				1	専門	2							
	4									5					6					7																																
11										12										13									14																							
18										19									20										21																							
25									26						27									28	開学記念日(授業開講日)				29	11	12																					
1					教養教育				2											3	文化の日				4					5	13	14	教養教育																			
8																				9					10									11																		
15																									16													17					18									
22									23	勤労感謝の日								24	教養教育					25						26	19	20																				
29									30					1									2																													
6														7									教養教育						8					9																		
13													14					15																16																		
20									21									22					23					24					開学記念日の振替休日																			
27					冬季休業				28					冬季休業				29					冬季休業				30	冬季休業				31	冬季休業																			
3																		4														5					6					7	27	28	教養教育							
10					成人の日									11	教養教育								12	教養教育							13	教養教育					14					大学入学共通テスト準備										
17	教養教育				18								19						20												21						29					30	教養教育									
24													25																		26											27	教養 後期期末試験				28	教養 後期期末試験				
31	教養 後期期末試験								1	教養 後期期末試験				2									教養 後期期末試験					3	情報							4					情報											
7	情報				8	情報				9					10					11	建国記念の日																															
14					15					16					17					18	後期追試験・再試験																															
21	後期追試験・再試験				22	後期追試験・再試験				23	天皇誕生日				24					25																																
28					1					2					3					4																																
7					8					9					10					11																																

第1時限 09:00~10:30
第3時限 13:00~14:30

第2時限 10:40~12:10
第4時限 14:40~16:10

2021年度 医学部2年(4月~12月)授業時間割

講義場所:基礎教育棟講義室2

月		火				水				木				金											
日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4						
4	30	新入生オリエンテーション期				31					1	新歓行事				2	新歓行事				3	新歓行事			
	5	入学式				6	生化	解剖			7	組織	解剖			8	組織	解剖			9	組織実習	解剖		
	12	生理	生化			13					14					15					16				
	19					20					21		骨実習			22					23				
	26					27		解剖実習			28		解剖実習			29	昭和の日				30				
5	3	みどりの日				4	こどもの日				5	振替休日				6	自習				7	自習			
	10	生理	生化			11	生化	解剖実習			12	組織	解剖実習			13	生化	健康診断 B肝検査			14	組織実習	解剖実習		
	17					18					19					20		解剖実習			21				
	24					25					26					27					28				
6	31					1					2					3					4				
	7					8					9					10					11				
	14					15					16	組織実習				17					18				
	21					22					23					24					25	組織予備	B肝接種I		
7	28					29					30	組織予備				1					2	生理	解剖実習		
	5					6		組織予備			7	組織実習	生理			8		組織実習			9		自習		
	12	解剖1本試	自習			13		組織実習			14					15	生理				16		生理		
	19	生理				20					21					22	海の日				23	スポーツの日			
8	26	自習	生化1本試			27	生理	B肝接種2			28	組織予備	自習			29	解剖2実習試験				30				
	2	夏季休業				3	夏季休業				4	夏季休業				5	夏季休業				6	夏季休業			
	9					10					11					12					13				
	16					17					18					19					20				
9	23					24					25					26					27				
	30	自習	生理中間試験			31	生化	行動科学			1	生理	行動科学			2	生理	自習			3	自習	解剖2中間試験		
	6	生化実習				7	生化実習				8	生化実習				9	生化実習				10	生理			
	13	生理				14	生化実習	生化予備			15	生化実習	生化予備			16	生理実習				17	生理実習			
	20	敬老の日				21	生理実習				22	生理実習				23	秋分の日				24	生理討論	生理		
10	27	生化実習				28	生化実習				29	生化実習				30	生化実習				1		自習		
	4	自習	解剖2本試			5	生化実習	生化予備			6	生化実習	生化予備			7	生理予備	生理			8	生理			
	11	生理				12	生理実習予備日				13	生理				14	生理				15	生理予備	自習		
	18	自習	生化2本試			19	自習	解剖感謝式			20	生理実習				21	生理実習				22	生理実習			
11	25	生理実習				26	生理実習予備日				27	生理討論	川澄祭準備			28	生理討論	川澄祭準備			29	川澄祭準備			
	1	川澄祭後片付け				2	水平統合基礎	水平統合予備			3	文化の日				4	水平統合基礎				5	自習	水平統合基礎		
	8	自習	植生本試			9	自習	論文入門			10	アクティブ学習	水平統合予備			11	アクティブ学習	水平統合基礎			12	水平統合予備	自習		
	15	自習	動物本試			16	アクティブ学習				17	論文入門	アクティブ学習			18	アクティブ学習				19	論文入門	アクティブ学習		
	22	アクティブ学習	解剖1再試			23	勤労感謝の日				24					25	自習	生化1再試			26	基礎自主研修成果発表会			
12	29	自習	組織再試			30	アクティブ学習	B肝接種3			1					2	自習	生化2再試			3	論文入門	アクティブ学習		
	6	アクティブ学習				7	アクティブ学習				8	自習	植生再試			9	アクティブ学習				10	論文入門予備	自習		
	13	自習	動生再試			14					15					16					17				

アクティブ学習 : 論文入門における課題学習、自主学習を指す

2021年度 医学部2年1月～3年12月 授業時間割

講義場所: 基礎教育棟講義室3(通常) 講義室1(遠隔授業)

	月				火				水				木				金											
	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4			
	28					29					30					31					1	元日						
1	4					5					6	病理	病理			7	ウイルス	細菌			8	薬理			細菌			
	11	成人の日				12	ウイルス	法医			13					14					15							
	18	細菌		免疫		19					20		B肝炎検査			21					22							
	25					26					27	病理				28					29							
																	4	予備	細菌実習		5				細菌実習			
2	1					2					3					4					5				細菌実習			
	8					9	医動物				10					11	建国記念の日				12				細菌			
	15	ウイルス実習				16	ウイルス実習				17		病理実習			18	医動物	細菌実習			19				細菌実習			
	22	細菌				23	天皇誕生日				24		病理			25					26							
													病理実習				4	免疫	免疫実習		5				免疫			
3	1	神経科学				2	医動物	法医			3		病理実習			4					5				自習			
	8					9	自習				10	病理実習				11					12				自習			
	15	自習	細菌本試			16	免疫				17	病理				18	免疫実習				19	自習			薬理中間			
	22	春季休業				23	春季休業				24	春季休業				25	春季休業				26	春季休業						
	29					30					31					1	新入生オリエンテーション期間				2	新歓行事						
4	5	入学式				6	自習	法医			7	病理	病理予備			8	救命救急	薬理			9	薬理			自習			
	12			ウイルス本試		13	病理				14		病理実習			15		薬理実習			16				薬理			
	19	自習		神経科学		20					21	病理実習				22					23							
	26			免疫本試		27	病理実習				28	病理				29	昭和の日				30		自習		自習			
5	3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日				6	自習				7							
	10	細菌再試	SciWriting			11	病理	法医			12	病理実習				13	救命救急	健康診断			14	薬理			薬理予備			
	17	SciWriting	神経科学			18	病理実習	法医実習			19	病理予備	病理実習			20	先端研究	薬理実習			21	救急救命			自習			
	24	ウイルス再試				25	病理				26	病理実習				27					28	M1への実習						
6	31	自習	薬理本試			1	病理	予備			2	病理				3					4				CHC応用			
	7	先端	神経	SciWriting		8	病理実習	法医予備			9	病理実習				10	痛み科学				11				自習			
	14	自習	法医試験			15	病理予備	SciWriting			16					17		病理実習			18	医療倫理			CHC応用			
	21	SciWriting	水平統合病態			22	病理実習	医療倫理			23	病理予備				24	自習	病理実習試験			25							
	28	免疫再試				29	病理実習試験	水平統合病態			30	自習	水平統合病態			1					2							
7	5	自習	神経科学本試			6	病理予備				7	自習				8		医療倫理試験			9	自習						
	12		病理2本試			13	自習					14	基礎自主研修オリエン				15	基礎自主研修オリエン				16	自習					
	19	病理1本試				20					21					22	海の日				23	スポーツの日						
	26	夏季休業					27	夏季休業					28	夏季休業					29	夏季休業					30	夏季休業		
8	2					3					4					5					6							
	9					10					11					12					13							
	16					17					18					19					20							
	23					24					25					26					27				薬理再試			
									法医再試		1	基礎自主研修開始				2	基礎自主研修				3	基礎自主研修						
9	6	基礎自主研修					7	基礎自主研修					8	基礎自主研修					9					10				
	13					14					15					16					17							
	20	敬老の日					21					22					23	秋分の日				24						
	27					28					29					30					1							
10	4					5					6					7					8							
	11					12					13					14					15							
	18					19					20					21					22							
	25					26					27					28					29							
11	1					2					3	文化の日				4					5							
	8					9					10					11					12							
	15					16					17					18					19							
	22					23	勤労感謝の日					24					25					26	基礎自主研修成果発表					
	29					30			病理2再試		1	レポート作成期間				2	レポート作成期間				3	医療倫理再試	レポート作成					
12	6					7			病理1再試		8					9					10	神経科学再試						
	13	レポート提出期限					14					15					16					17						

※OSCEを9月25日(土)に実施するため、補助学生としての従事を予定しておくこと。事前説明会あり。

2021年 医学部3年1月～4年12月 授業時間割

講義場所：医学部研究棟講義室Bまたは講義室A（通常講義・遠隔講義）

…臨床薬理学校

月	月				火				水				木				金									
	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	
1	28					29					30					31					1	元日				
	4	腎・尿路	循環器			5	急性期医療				6	呼吸器				7	臨床診断推論Basic	循環器	8	腎・尿路	呼吸器	腎・尿路				
	11	成人の日				12					13					14					15					
	18	腎・尿路	循環器			19					20					21					22					
	25					26	救急				27	循環器				28					29					
2	1	救急				2	腎・尿路				3					4	呼吸器				5					
	8	腎・尿路				9	急性期医療(痛みと行動科学)				10					11	建国記念の日				12					
	15					16					17					18	呼吸器	循環器	19							
	22					23	天皇誕生日				24					25			S1試験	26				S1試験		
3	1	生殖機能				2	神経	乳房			3	食事と栄養療法				4	消化器				5	消化器				
	8					9				10					11				12							
	15					16				17	消化器				18				19							
	22	春期休業				23	春期休業				24	春期休業				25	春期休業				26	春期休業				
	29					30					31					1				2						
4	5	生殖機能				6	神経	乳房			7	神経	CHC発展	8	神経	内分泌	9	消化器	内分泌	10						
	12					13		基本臨床技能実習		14		基本臨床技能実習	15			16			17							
	19					20				21			22			23			24							
	26	妊娠と分娩				27					28	神経				29	昭和の日				30	内分泌				
5	3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日				6	神経	技能実習	7							
	10	妊娠と分娩				11	神経	基本臨床技能実習			12	神経	基本臨床技能実習	13			14	健診	15							
	17					18				19			20			21	基本臨床技能実習	22								
	24					25	処方学	社会医学			26	処方学		27			28			29						
6	31	社会医学				1	社会医学				2				3			S2試験	4				S2試験			
	7	成長と発達	耳鼻			8	精神	成長と発達			9	眼・視覚				10	耳鼻	眼・視覚	11	社会医学						
	14					15				16				17			PBL	18								
	21					22				23				24			PBL	25								
	28					29				30	基本臨床技能実習				1	社会医学	PBL	2								
7	5					6				7				8			PBL	PBL	9							
	12					13				14				15			社会医学	16								
	19	社会医学				20					21	成長と発達	社会医学	22	海の日				23	スポーツの日						
26	成長と発達				27			社会医学試験			28				29			S3試験	30				S3試験			
8	2	夏季休業				3	夏季休業				4	夏季休業				5	夏季休業				6	夏季休業				
	9					10					11				12				13							
	16					17					18				19				20							
	23					24					25				26				27							
	30	技能実習				31	運動器	輸血			1	漢方				2	皮膚	膠原病	3	技能実習						
9	6	運動器	皮膚			7				8	血液・造血				9			10	放射線を用いる診断と治療							
	13					14				15				16			17									
	20	敬老の日				21					22	(OSCE事前準備)				23	秋分の日/OSCE事前準備				24	(OSCE事前準備)				
	27	運動器	皮膚			28					29	血液・造血				30	皮膚	膠原病	1	放射線を用いる診断と治療						
10	4					5			皮膚	6	腫瘍学				7	腫瘍	血液	臨床診断推論(Advanced)	8							
	11	CBT体験テスト				12	血液・腫瘍学				13	血液・造血 感染				14				15						
	18	腫瘍学				19	感染				20	感染				21	腫瘍学				22	T-SPOT検査				
	25					26					27				28				29	川澄祭						
11	1					2				3	文化の日				4			S4試験	5				S4試験			
	8					9				10				11				12								
	15					16				17	(CBT事前準備)				18	C B T				19						
	22	セメスター1・2再試				23	勤労感謝の日				24	セメスター1・2再試				25				26						
	29	セメスター3・4再試				30	セメスター3・4再試				1				2				3							
12	6					7				8	(CBT再試事前準備)				9	CBT追再試				10						
	13	オリエンテーション				14	オリエンテーション				15	電子カルテ講習				16	電子カルテ講習				17	白衣授与式				
	20	冬季休業				21	冬季休業				22	冬季休業				23	冬季休業				24	冬季休業				
	27					28					29				30				31							
	3					4	BSLスタート				5				6				7							
10	成人の日				11					12				13				14								

セメスター1

セメスター2

セメスター3

OSCE
セメスター4

川澄祭

2021年度 M4 1月～M5 11月 臨床実習前半スケジュール

							肝	消	呼	心	脳	産	小	救	総	病	医	放	
							臓	化	吸	臓	神	婦	小	合	救	療	安	射	
							内	器	器	環	神	人	児	急	急	全	全	線	
							科	科	科	器	経	科	科	科	科	検	制	科	
		月	火	水	木	金	臨床実習前半												
		01/04 ~ 01/08	01/04	01/05	01/06	01/07	01/08	1/5オリエンテーション 1/6・7電子カルテ講習会 1/8白衣授与式											
1 ターム	01/11 ~ 01/15	01/11	01/12	01/13	01/14	01/15	A	B	C	D2	D1	E1	E2	F	G	H1	H2	I	1
	01/18 ~ 01/22	01/18	01/19	01/20	01/21	01/22	A	B	C	D2	D1	E1	E2	F	G	H1	H2	I	2
	01/25 ~ 01/29	01/25	01/26	01/27	01/28	01/29	A	B	C	D1	D2	E2	E1	F	G	H2	H1	I	3
	02/01 ~ 02/05	02/01	02/02	02/03	02/04	02/05	A	B	C	D1	D2	E2	E1	F	G	H2	H1	I	4
2 ターム	02/08 ~ 02/12	02/08	02/09	02/10	02/11	02/12	I	A	B	C2	C1	D1	D2	E	F	G1	G2	H	5
	02/15 ~ 02/19	02/15	02/16	02/17	02/18	02/19	I	A	B	C2	C1	D1	D2	E	F	G1	G2	H	6
	02/22 ~ 02/26	02/22	02/23	02/24	02/25	02/26	I	A	B	C1	C2	D2	D1	E	F	G2	G1	H	7
	03/01 ~ 03/05	03/01	03/02	03/03	03/04	03/05	I	A	B	C1	C2	D2	D1	E	F	G2	G1	H	8
春季休業	03/08 ~ 03/12	03/08	03/09	03/10	03/11	03/12	春季休業												
	03/15 ~ 03/19	03/15	03/16	03/17	03/18	03/19													
	03/22 ~ 03/26	03/22	03/23	03/24	03/25	03/26													
3 ターム	03/29 ~ 04/02	03/29	03/30	03/31	04/01	04/02	H	I	A	B2	B1	C1	C2	D	E	F1	F2	G	9
	04/05 ~ 04/09	04/05	04/06	04/07	04/08	04/09	H	I	A	B2	B1	C1	C2	D	E	F1	F2	G	10
	04/12 ~ 04/16	04/12	04/13	04/14	04/15	04/16	H	I	A	B1	B2	C2	C1	D	E	F2	F1	G	11
	04/19 ~ 04/23	04/19	04/20	04/21	04/22	04/23	H	I	A	B1	B2	C2	C1	D	E	F2	F1	G	12
4 ターム	04/26 ~ 04/30	04/26	04/27	04/28	04/29	04/30	G	H	I	A2	A1	B1	B2	C	D	E1	E2	F	13
	05/03 ~ 05/07	05/03	05/04	05/05	05/06	05/07	GW												
	05/10 ~ 05/14	05/10	05/11	05/12	05/13	05/14	G	H	I	A2	A1	B1	B2	C	D	E1	E2	F	14
	05/17 ~ 05/21	05/17	05/18	05/19	05/20	05/21	G	H	I	A1	A2	B2	B1	C	D	E2	E1	F	15
5 ターム	05/24 ~ 05/28	05/24	05/25	05/26	05/27	05/28	G	H	I	A1	A2	B2	B1	C	D	E2	E1	F	16
	05/31 ~ 06/04	05/31	06/01	06/02	06/03	06/04	F	G	H	I2	I1	A1	A2	B	C	D1	D2	E	17
	06/07 ~ 06/11	06/07	06/08	06/09	06/10	06/11	F	G	H	I2	I1	A1	A2	B	C	D1	D2	E	18
	06/14 ~ 06/18	06/14	06/15	06/16	06/17	06/18	F	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D2	D1	E	19
6 ターム	06/21 ~ 06/25	06/21	06/22	06/23	06/24	06/25	F	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D2	D1	E	20
	06/28 ~ 07/02	06/28	06/29	06/30	07/01	07/02	E	F	G	H2	H1	I1	I2	A	B	C1	C2	D	21
	07/05 ~ 07/09	07/05	07/06	07/07	07/08	07/09	E	F	G	H2	H1	I1	I2	A	B	C1	C2	D	22
	07/12 ~ 07/16	07/12	07/13	07/14	07/15	07/16	E	F	G	H1	H2	I2	I1	A	B	C2	C1	D	23
夏季休業	07/19 ~ 07/23	07/19	07/20	07/21	07/22	07/23	E	F	G	H1	H2	I2	I1	A	B	C2	C1	D	24
	07/26 ~ 07/30	07/26	07/27	07/28	07/29	07/30	夏季休業												
	08/02 ~ 08/06	08/02	08/03	08/04	08/05	08/06													
	08/09 ~ 08/13	08/09	08/10	08/11	08/12	08/13													
7 ターム	08/16 ~ 08/20	08/16	08/17	08/18	08/19	08/20													
	08/23 ~ 08/27	08/23	08/24	08/25	08/26	08/27	D	E	F	G2	G1	H1	H2	I	A	B1	B2	C	25
	08/30 ~ 09/03	08/30	08/31	09/01	09/02	09/03	D	E	F	G2	G1	H1	H2	I	A	B1	B2	C	26
	09/06 ~ 09/10	09/06	09/07	09/08	09/09	09/10	D	E	F	G1	G2	H2	H1	I	A	B2	B1	C	27
8 ターム	09/13 ~ 09/17	09/13	09/14	09/15	09/16	09/17	D	E	F	G1	G2	H2	H1	I	A	B2	B1	C	28
	09/20 ~ 09/24	09/20	09/21	09/22	09/23	09/24	C	D	E	F2	F1	G1	G2	H	I	A1	A2	B	29
	09/27 ~ 10/01	09/27	09/28	09/29	09/30	10/01	C	D	E	F2	F1	G1	G2	H	I	A1	A2	B	30
	10/04 ~ 10/08	10/04	10/05	10/06	10/07	10/08	C	D	E	F1	F2	G2	G1	H	I	A2	A1	B	31
9 ターム	10/11 ~ 10/15	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	C	D	E	F1	F2	G2	G1	H	I	A2	A1	B	32
	10/18 ~ 10/22	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	B	C	D	E2	E1	F1	F2	G	H	I1	I2	A	33
	10/25 ~ 10/29	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	B	C	D	E2	E1	F1	F2	G	H	I1	I2	A	34
	11/01 ~ 11/05	11/01	11/02	11/03	11/04	11/05	B	C	D	E1	E2	F2	F1	G	H	I2	I1	A	35
11/08 ~ 11/12	11/08	11/09	11/10	11/11	11/12	B	C	D	E1	E2	F2	F1	G	H	I2	I1	A	36	
		臨床実習後半へ																	

2021年度 M5 11月～M6 臨床実習後半スケジュール

	月	火	水	木	金	実習日数	必修														選択
							薬麻 剤酔 部科	リ整 ハ形 ビリ 外科科	膠 原 病 内 科科	血 液 内 科科	口耳 腔鼻 咽 外 喉 科科	眼 科科	小泌腎 児尿臟 泌器内 器科科	形皮 成 膚 外 科科	乳 腺 外 科科	内分 泌糖 尿病 科科	緩痛 和み ケン ア タ 部	精 神 科科	選臨 床 実 習 制		
11/23 ~ 11/27	11/23	11/24	11/25	11/26	11/27	4	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	1	
11/30 ~ 12/04	11/30	12/01	12/02	12/03	12/04	5	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	2	
12/07 ~ 12/11	12/07	12/08	12/09	12/10	12/11	5	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	3	
12/14 ~ 12/18	12/14	12/15	12/16	12/17	12/18	5	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	4	
12/21 ~ 12/25	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	-	冬季休業														
12/28 ~ 01/01	12/28	12/29	12/30	12/31	01/01	-															
01/04 ~ 01/08	01/04	01/05	01/06	01/07	01/08	5	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H	5	
01/11 ~ 01/15	01/11	01/12	01/13	01/14	01/15	4	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H	6	
01/18 ~ 01/22	01/18	01/19	01/20	01/21	01/22	5	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F1	F2	G1	G2	H	7	
01/25 ~ 01/29	01/25	01/26	01/27	01/28	01/29	5	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F1	F2	G1	G2	H	8	
02/01 ~ 02/05	02/01	02/02	02/03	02/04	02/05	5	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	9	
02/08 ~ 02/12	02/08	02/09	02/10	02/11	02/12	4	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	10	
02/15 ~ 02/19	02/15	02/16	02/17	02/18	02/19	5	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	11	
02/22 ~ 02/26	02/22	02/23	02/24	02/25	02/26	4	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	12	
03/01 ~ 03/05	03/01	03/02	03/03	03/04	03/05	5	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	13	
03/08 ~ 03/12	03/08	03/09	03/10	03/11	03/12	5	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	14	
03/15 ~ 03/19	03/15	03/16	03/17	03/18	03/19	-	春季休業														
03/22 ~ 03/26	03/22	03/23	03/24	03/25	03/26	-															
03/29 ~ 04/02	03/29	03/30	03/31	04/01	04/02	5	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F	15	
04/05 ~ 04/09	04/05	04/06	04/07	04/08	04/09	5	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F	16	
04/12 ~ 04/16	04/12	04/13	04/14	04/15	04/16	5	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	17	
04/19 ~ 04/23	04/19	04/20	04/21	04/22	04/23	5	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	18	
04/26 ~ 04/30	04/26	04/27	04/28	04/29	04/30	4	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	19	
05/03 ~ 05/07	05/03	05/04	05/05	05/06	05/07	2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	20	
05/10 ~ 05/14	05/10	05/11	05/12	05/13	05/14	5	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	21	
05/17 ~ 05/21	05/17	05/18	05/19	05/20	05/21	5	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	22	
05/24 ~ 05/28	05/24	05/25	05/26	05/27	05/28	5	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	23	
05/31 ~ 06/04	05/31	06/01	06/02	06/03	06/04	5	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	24	
06/07 ~ 06/11	06/07	06/08	06/09	06/10	06/11	5	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	25	
06/14 ~ 06/18	06/14	06/15	06/16	06/17	06/18	5	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	26	
06/21 ~ 06/25	06/21	06/22	06/23	06/24	06/25	5	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	27	
06/28 ~ 07/02	06/28	06/29	06/30	07/01	07/02	5	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	28	
07/05 ~ 07/09	07/05	07/06	07/07	07/08	07/09	5	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	29	
07/12 ~ 07/16	07/12	07/13	07/14	07/15	07/16	5	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	30	
07/19 ~ 07/23	07/19	07/20	07/21	07/22	07/23	4	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	31	
07/26 ~ 07/30	07/26	07/27	07/28	07/29	07/30	5	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	32	
08/02 ~ 08/06	08/02	08/03	08/04	08/05	08/06	5	夏季休業														
08/09 ~ 08/13	08/09	08/10	08/11	08/12	08/13	4															
08/16 ~ 08/20	08/16	08/17	08/18	08/19	08/20	5															
08/23 ~ 08/27	08/23	08/24	08/25	08/26	08/27	5															
08/30 ~ 09/03	08/30	08/31	09/01	09/02	09/03	5	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	33	
09/06 ~ 09/10	09/06	09/07	09/08	09/09	09/10	5	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	34	
09/13 ~ 09/17	09/13	09/14	09/15	09/16	09/17	5	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	35	
09/20 ~ 09/24	09/20	09/21	09/22	09/23	09/24	3	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	36	
09/27 ~ 10/01	09/27	09/28	09/29	09/30	10/01		プライマリ・ケア														
10/04 ~ 10/08	10/04	10/05	10/06	10/07	10/08																
10/11 ~ 10/15	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15																
10/18 ~ 10/22	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22																
10/25 ~ 10/29	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29																
11/01 ~ 11/05	11/01	11/02	11/03	11/04	11/05																
11/08 ~ 11/12	11/08	11/09	11/10	11/11	11/12																
11/15 ~ 11/19	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19																
11/22 ~ 11/26	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26																
11/29 ~ 12/03	11/29	11/30	12/01	12/02	12/03																
12/06 ~ 12/10	12/06	12/07	12/08	12/09	12/10																
12/13 ~ 12/17	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17																
12/20 ~ 12/24	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24																
12/27 ~ 12/31	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31																
01/03 ~ 01/07	01/03	01/04	01/05	01/06	01/07																
01/10 ~ 01/14	01/10	01/11	01/12	01/13	01/14																
01/17 ~ 01/21	01/17	01/18	01/19	01/20	01/21																

※休日及び祝日はカレンダー通り

名古屋市立大学医学部履修規程

目次

- 第1章 総則（第1条）
- 第2章 教養教育科目（第2条－第13条の4）
- 第3章 専門教育科目（第14条－第20条の2）
- 第3章の2 他学部との単位互換（第20条の3－第20条の8）
- 第4章 進級及び卒業要件（第21条－第25条）
- 第5章 雑則（第26条）
- 附則

（一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成22年達第37号、平成23年達第1号、平成23年達第16号、令和2年達第11号）

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規程は、名古屋市立大学学則（平成18年名古屋市立大学学則第1号。以下「学則」という。）第41条の規定に基づき、授業科目、授業科目、授業時間数（教養教育科目にあつては単位数）及び履修方法等（以下「履修方法等」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（一部改正 平成20年達第41号、令和2年達第11号）

第2章 教養教育科目

（授業科目及び単位数）

第2条 授業科目、配当年次、単位数及び必修・選択・自由の区分は、別表1のとおりとする。

（一部改正 平成27年達第10号）

（単位の計算の基準）

第3条 授業科目の単位数は、45時間の学修内容をもって1単位とし、授業形態に応じて次の各号に定める基準により計算する。

- (1) 講義 15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習 15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実習及び実技 30時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 実験 45時間の授業をもって1単位とする。

（一部改正 平成30年達第 号）

（修得必要単位数）

第4条 教養教育科目における修得必要単位数は、別表2のとおりとする。

（履修の届出）

第5条 学生は、年度の始めにおいて、前期及び後期に履修しようとする授業科目について指定された期間内に、所定の手続きにより届け出なければならない。

2 前項の規定により届け出た後期の授業科目については、後期において指定された期間内に所定の手続きにより変更（授業科目の追加を含む。）することができる。

（履修の取消）

第6条 学生は、指定された期間内に所定の手続きにより履修の取り消しをすることができる。

（履修方法）

第7条 必修科目は、配当年次において履修しなければならない。

2 授業時間の重なる授業科目（専門教育科目の授業科目を含む。）は、重複して履修することはできない。

3 第5条により届け出た授業科目以外の授業科目は、履修することができない。

4 既に単位を修得した授業科目は、再履修することはできない。

5 授業科目によっては、履修者数及び履修資格を定めることがある。

6 授業科目のうち、履修するクラスを指定する科目（以下「指定科目」という。）は、

原則として指定されたクラス以外で履修することはできない。ただし、指定科目を再履修するため、同一授業時間の別の指定科目が履修できない場合は、指定されたクラス以外で履修できることがある。

(一部改正 平成19年達第52号)

(試験)

第8条 試験は、学期末に行う。ただし、必要がある場合には、学期末以外の時期に行うことがある。

2 前項の試験は、レポートその他の方法をもって代えることがある。

3 出席時間数が当該授業科目の全時間数の7割に満たない場合は失格とし、受験資格を与えない。

(追試験)

第9条 学則第36条に規定する追試験を受けようとする学生は、指定された期間内に追試験受験願を提出しなければならない。

(再試験)

第10条 試験に不合格となった授業科目については、再試験を受けることができる。

2 再試験を受けることができる学生は、試験の成績が50点以上の者とし、指定された期間内に再試験受験願を提出し、再試験料を納付しなければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号)

(成績)

第11条 前3条の試験の成績は、100点を満点とした点数により採点し、60点以上を合格、60点未満を不合格とし、次の各号により表示する。

(1) 90点以上 秀

(2) 80点以上 優

(3) 70点以上 良

(4) 60点以上 可

(5) 60点未満 不可

2 再試験については、前項の規定にかかわらず最高60点を限度として採点する。

(一部改正 平成19年達第52号、平成22年達第37号)

(再履修)

第12条 不合格又は失格となった授業科目については、再履修しなければ受験資格を与えない。

2 再履修をしようとする学生は、事前に担当教員の許可を受けなければならない。

3 再履修をする場合、指定科目については原則として前年度所属クラスにおいて履修しなければならない。ただし、授業編成の都合でその授業時間に履修できない場合には、異なる学期又は他のクラスで履修できることがある。

(一部改正 平成19年達第52号)

(入学前の既修得単位の認定)

第13条 入学前の既修得単位の認定は、学則第40条に従い、教授会の議を経て行う。

2 既修得単位の認定を受けようとする学生は、指定された期間内に既修得単位認定申請書を提出しなければならない。

(学外における学修の単位認定)

第13条の2 学則第40条の2の規定により単位を認定することのできる学修及び単位数は、別表2の2のとおりとする。

2 前項に規定する単位の認定を受けようとする学生は、指定された期間内に学外における学修に係る単位認定申請書を提出しなければならない。

(一部改正 平成20年達第41号)

(履修登録単位数の上限)

第13条の3 1つの学期に履修科目として登録できる単位数の上限は、別に定める場合を除き26単位とする。

(一部改正 平成22年達第37号、平成30年達第19号)

(単位の取消)

第13条の4 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授

業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成23年達第1号)

第3章 専門教育科目

(授業科目及び授業時間数)

第14条 授業科目は、別表3のとおりとする。

2 授業科目の時間数及び配当年次は、別に定める。

3 授業科目は、選択制コースを除き必修とする。

4 学校推薦型選抜(中部圏活躍型・名古屋市高大接続型)により入学した学生は、MD-PhDコースを履修しなければならない。

(一部改正 平成31年達第9号、令和3年達第8号)

(試験)

第15条 試験は定期試験及び随時試験とする。

2 前項の試験のほか、論文又はレポート等をもって試験に代えることがある。

3 定期試験は、当該授業科目について正当な理由なく出席時間数が実習の8割、実習以外の講義等の7割に満たない場合、失格とし受験資格を与えない。また平常の履修実績等により、教授会の議を経て、学部長が当該授業科目を修得する見込みがないと判断した場合も同様とする。

4 前3項に定めるもののほか、試験の実施については別に定める。

(一部改正 平成27年達第47号、平成31年達第9号)

(試験の時期等)

第16条 定期試験は、原則として学期末又はその授業の構成単位を終了するときに行う。

2 随時試験は、その授業科目の担当教員が必要の都度行う。

(再試験)

第17条 試験に不合格となった授業科目については、担当教員の許可を得て、再試験受験願を提出することにより、再試験を1回受けることができる。

2 前項にかかわらず、5年次及び6年次に配当又は構成された専門教育科目の試験に不合格となった者のうち、不合格の授業科目が4科目以下の場合、授業科目ごとにさらに1回に限り再試験を受けることができる。

(再試験の時期等)

第18条 再試験は、担当教員の定めるところにより行う。

2 再試験は、遅くとも学年末までには終了し、成績評価を行う。

(追試験)

第19条 学則第36条に規定する追試験を受けることを希望する学生は、事前に担当教員の許可を得て、試験欠席届及び追試験受験願を提出しなければならない。

2 追試験を行う場合の時期等については、前条第2項を準用する。

(一部改正 平成19年達第52号)

(成績)

第20条 成績評価は、試験その他担当教員の定める評価方法により行う。

2 試験の成績は、原則として、100点を満点とした点数により採点し、60点以上を合格、60点未満を不合格とし、次の各号により表示する。

(1) 90点以上 秀

(2) 80点以上 優

(3) 70点以上 良

(4) 60点以上 可

(5) 60点未満 不可

3 再試験については、前項の規定にかかわらず最高60点を限度として採点する。

(一部改正 平成19年達第52号、平成22年達第37号)

(単位の取消)

第20条の2 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成23年達第1号)

第3章の2 他学部との単位互換

(一部改正 平成19年達第52号)

(授業科目)

第20条の3 学生は、別に定めるところにより、他学部の授業科目を履修することができる。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修の届出)

第20条の4 他学部の授業科目の履修を希望する場合は、指定された期間内に所定の様式により届け出なければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修の取消)

第20条の5 他学部の授業科目の履修を取り消す場合は、指定された期間内に所定の様式により届け出なければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修方法)

第20条の6 学生は、他学部の授業科目を履修する場合には、他学部の履修規程等の規定に従い、履修しなければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(単位の認定及び取消)

第20条の7 他学部の授業科目を履修した学生の単位の認定は、当該学部より送付される成績証明書等に基づき、本学部が行う。

2 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(その他)

第20条の8 単位互換に関し、この規程に定めのない事態が生じた場合には、その対処の方法について、教授会の議を経て、学部長が決定する。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

第4章 進級及び卒業要件

(原級留置)

第21条 各学年の進級判定は次に定めるところによる。

(1) 次のいずれかに該当する者は、第2年次に進級できない。

ア 1年次終了時において、第4条に定める修得すべき単位を修得できない者

イ 1年次に配当された専門教育科目を1科目でも修得できない者

(2) 2年次以降、各年次に配当又は構成された単位の専門教育科目（各年次において総合試験が実施される場合は、当該試験を含む。）を1科目でも修得できない者は、次年次に進級できない。

(一部改正 平成23年達第16号)

(再履修)

第22条 2年次から5年次までの次学年に進級できないと判定された者及び6年次において卒業が不可と判定された者は、原級に留まり、その学年に配当された全科目を再履修しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、教授会の議を経て、学部長が指定した専門教育科目については、再履修を要しない。

(一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号)

第23条 削除

(一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号)

(除籍)

第24条 学則第30条第2項の規定に基づき、次のいずれかに該当する者は、除籍する。

(1) 入学あるいは進級後3年に至っても、なお、次年次に進級できない者

(2) 在学年数が入学後 8 年に至っても、なお、5 年次に進級できない者

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第16号)

(卒業の認定)

第25条 所定の期間在学し、第4条に定める修得すべき単位及び第14条に定める全ての授業科目を修得した者は、卒業資格を認定する。ただし、第14条第4項に定める場合においては、MD-PhDコースを修得することを卒業要件に含めない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第16号、令和3年達第8号)

第5章 雑則

(その他)

第26条 この規程に定めるもののほか、履修方法等に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学部長が定める。

(一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号)

附 則

(施行期日)

- 1 この達は、発布の日から施行する。
(名古屋市立大学医学部履修規程の廃止)
- 2 名古屋市立大学医学部履修規程(平成8年名古屋市立大学達第18号)は、廃止する。
(経過措置)
- 3 この達は、平成18年度以後に入学(転入学、再入学及び学士入学(以下「転入学等」という。))を除く。)する学生について適用し、平成17年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、前項の規定による廃止前の名古屋市立大学医学部履修規程(以下「廃止前規程」という。)の例による。ただし、第5条及び第6条の規定は、平成17年度以前に入学した学生にも適用する。
- 4 前項の規定にかかわらず、平成17年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、廃止前規程の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。
- 5 平成18年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、この達の規定にかかわらず、その者の属する学年の在学生の例による。
- 6 この附則に規定するもののほか、この達の施行に伴い必要な経過措置は、教授会が別に定める。

附 則(平成19年公立大学法人名古屋市立大学達第52号)

(施行期日)

- 1 この規程は、発布の日から施行する。
(経過措置)
- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程(以下「改正後規程」という。)の規定は、平成19年度以後に入学(転入学、再入学及び学士入学(以下「転入学等」という。))を除く。)する学生について適用し、平成18年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、改正後規程第10条、第11条、第20条及び第21条の2から第21条の7の規定は、平成18年度以前に入学した学生にも適用する。
- 4 第2項の規定にかかわらず、平成18年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。
- 5 平成19年度以降に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。
- 6 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、別に定める。

附 則(平成20年公立大学法人名古屋市立大学達第41号)

(施行期日)

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程(以下「改正後規程」とい

う。)の規定は、平成20年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成19年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、従前の例による。

- 3 前項の規定にかかわらず、改正後規程第1条、第1条の2、第10条及び第13条の2並びに第6項の規定は、平成19年度以前に入学した学生にも適用する。
- 4 第2項の規定にかかわらず、平成19年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。
- 5 平成20年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。
- 6 平成19年度以後に入学した学生で原級留置となった学生は、第21条及び第24条の規定にかかわらず、その学年に配当された全科目を再履修しなければならない。
- 7 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し、必要な経過措置は、教授会が別に定める。

附 則（平成21年公立大学法人名古屋市立大学達第29号）
（施行期日）

- 1 この規程は、発布の日から施行する。
（経過措置）
- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、平成21年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成20年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成20年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。
- 4 平成21年度以降に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。
- 5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、教授会が別に定める。

附 則（平成22年公立大学法人名古屋市立大学達第37号）
（施行期日）

- 1 この規程は、発布の日から施行する。
（経過措置）
- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、平成22年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成21年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成21年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。
- 4 平成22年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。
- 5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し、必要な経過措置は、教授会が別に定める。

附 則（平成23年公立大学法人名古屋市立大学達第1号）
この規程は、発布の日から施行する。

附 則（平成23年公立大学法人名古屋市立大学達第16号）
（施行期日）

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、平成23年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成22年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成22年度以前に入学した学生に係る履修方法等について

て、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。

4 平成 23 年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。

5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し、必要な経過措置は、教授会が別に定める。

附 則（平成 24 年公立大学法人名古屋市立大学達第 18 号）
（施行期日）

1 この規程は、平成24年 4 月 1 日から施行する。
（経過措置）

2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、平成24年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成23年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、平成23年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。

4 平成24年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。

5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し、必要な経過措置は、教授会が別に定める。

附 則（平成 25 年公立大学法人名古屋市立大学達第 16 号）
（施行期日）

1 この規程は、平成25年 4 月 1 日から施行する。
（経過措置）

2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、平成25年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成24年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、平成24年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。

4 平成25年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。

5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し、必要な経過措置は、教授会が別に定める。

附 則（平成 26 年公立大学法人名古屋市立大学達第 11 号）
（施行期日）

1 この規程は、平成26年 4 月 1 日から施行する。
（経過措置）

2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、平成26年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成25年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。ただし、改正後規程別表 3 の規定（6 年一貫コースの部コミュニティ・ヘルスケア卒前教育の款に係る部分に限る。）は、平成25年度に入学した学生についても適用する。

3 前項の規定にかかわらず、平成25年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。

4 平成26年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。

5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、教授会が別に定める。

附 則（平成27年公立大学法人名古屋市立大学達第10号）
（施行期日）

1 この規程は、平成27年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、平成27年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成26年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成26年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたい場合は、教授会の議を経て学部長が別に定める。
- 4 平成27年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。
- 5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し、必要な経過措置は、教授会の議を経て学部長が別に定める。

附 則（平成27年公立大学法人名古屋市立大学達第47号）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年公立大学法人名古屋市立大学達第10号）

(施行期日)

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、平成28年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成27年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、改正後規程第1条の2の規定は、平成27年度以前に入学した在学生にも適用する。
- 4 第2項の規定にかかわらず、平成27年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。
- 5 平成28年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。
- 6 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、教授会が別に定める。

附 則（平成30年公立大学法人名古屋市立大学達第19号）

(施行期日)

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、平成30年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成29年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成29年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。
- 4 平成30年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。
- 5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、教授会の議を経て学部長が定める。

附 則（平成31年公立大学法人名古屋市立大学達第9号）

(施行期日)

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、平成31年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、平成30年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成30年度以前に入学した学生に係る履修方法等につい

て、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会が別に定める。

- 4 平成 31 年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。
- 5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、教授会の議を経て学部長が定める。

附 則（令和 2 年公立大学法人名古屋市立大学達第 11 号）
（施行期日）

- 1 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
（経過措置）
- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、令和 2 年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、令和元年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、令和元年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会の議を経て学部長が別に定める。
- 4 令和 2 年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。
- 5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、教授会の議を経て学部長が定める。

附 則（令和 3 年公立大学法人名古屋市立大学達第 8 号）
（施行期日）

- 1 この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。
（経過措置）
- 2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、令和 3 年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、令和 2 年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、令和 2 年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会の議を経て学部長が別に定める。
- 4 令和 3 年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。
- 5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、教授会の議を経て学部長が定める。

別表1

区 分		授 業 科 目	配当 年次	単 位 数		
				必修	選択	自由
共 通 科 目	一 般 教 養 科 目	大学生になる	1		2	
		大人になる	1		2	
		社会人になるA	1		2	
		社会人になるB	1		2	
		NCU先端科目：医療系	1		2	
		NCU先端科目：自然・情報系	1		2	
		NCU先端科目：社会科学系	1		2	
		NCU先端科目：人文系	1		2	
		地域社会で活躍する女性	1		2	
		共生社会におけるふれあいネットワーク	1		2	
		現代社会と人と地域のつながり	1		2	
		名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題	1		2	
		ESDと地域の環境	1		2	
		多文化共生と国際貢献ーあなたに何ができるのかー	1		2	
		ワークライフバランスとダイバーシティ	1		2	
		まちづくり論	1		1	
		次世代エネルギーワークショップ	1		2	
		起業家になる	1		2	
		科学館・博物館・美術館から知る名古屋	1		2	
		中国短期語学研修	1		2	
		フランス短期語学研修	1		2	
	現 代 社 会 の 諸 相	日本国憲法	1		2	
		なぜ憲法が必要なのか	1		2	
		法学入門	1		2	
		知的財産権入門	1		2	
		人と法と医療	1		2	
		経済学：経済と社会	1		2	
		経済学：経済のしくみ	1		2	
		経済学：経済学の考え方	1		2	
		経営学：企業と社会、個人の関係	1		2	
		経営学：企業活動の諸相	1		2	
		経営学：組織を取り巻く諸環境について	1		2	
		社会学A	1		2	
社会学B	1		2			

	社会学C	1	2	
	社会環境論	1	2	
	新聞報道の現場から	1	2	
	環境行動学と情報リテラシー	1	2	
	平和論	1	2	
	私たちの暮らしと政治・行政・地方自治	1	2	
	国際政治と社会	1	2	
	フィールド研究からみるアジア	1	2	
	キー・コンピテンシー	1	2	
	シティズンシップ入門	1	2	
文化と人間性の探求	琉球・沖縄の歴史・文化を識る	1	2	
	日本文化の理解	1	2	
	人類学	1	2	
	日本語コミュニケーション	1	2	
	囲碁に学ぶ	1	2	
	死の文化学	1	2	
	東ヨーロッパの文化と歴史	1	2	
	文化に見る歴史	1	2	
	欧州史の中の北欧史	1	2	
	アメリカ史入門	1	2	
	都市と地域構造の地理学	1	2	
	音楽と文化	1	2	
	デザインと情報	1	2	
	人間と表現	1	2	
	自分とみんなで考える哲学	1	2	
	討論の中で問題を発見する哲学	1	2	
	応用倫理学ー生命倫理の現在	1	2	
	心理学概論	1	2	
	心理学入門	1	2	
	現代教育の諸相	1	2	
次世代育成と地域の課題	1	2		
宗教学入門	1	2		
人間と自然	科学史	1	2	
	環境と社会・制度・政治・経済	1	2	
	環境科学	1	2	
	植物の多様性と環境	1	2	
	動物とヒトの進化多様性	1	2	
	社会と医学	1	2	
	くすりと社会	1	2	
	都市と自然	1	2	
	健康と生活	1	2	

		行動生態学	1		2		
	自然と数理の探求	教養として知っておきたい 様々な病気の実態	1			2	
		創薬と生命	1		2		
		宇宙のなりたち	1		2		
		植物とバイオテクノロジー	1		2		
		エネルギーのサイエンス	1		2		
		バイオサイエンス入門	1		2		
		情報と数理の世界	1		2		
		地球史入門	1		2		
		地域生態学	1		2		
語 学 科 目		英 語	IS: Community	1		1	
	IS: Social Justice		1		1		
	IS: Life & Work		1		1		
	IS: Health & Well-being		1		1		
	IS: The Arts		1		1		
	AE: Make a Difference in Your Community		1		2		
	AE: Interact Internationally		1		2		
	AE: Improve Life Skills		1		2		
	AE: Raise Health/ Environmental Awareness		1		2		
	AE: Produce a Movie		1		2		
	CS: Presentation		1		2		
	CS: Grammar and Usage		1		2		
	CS: TOEIC Preparation		1		2		
	EM: World News		1		2		
	EM: Popular Culture		1		2		
	EM: Reading for Inspiration		1		2		
	EM: Online Articles and Videos	1		2			
		そ の 他 の 言 語	ドイツ語初級 1	1		2	
			ドイツ語初級 2	1		2	
			フランス語初級 1	1		2	
			フランス語初級 2	1		2	
			中国語初級 1	1		2	
			中国語初級 2	1		2	
			韓国語初級 1	1		2	
			韓国語初級 2	1		2	
			スペイン語初級 1	1		2	
	スペイン語初級 2		1		2		
	日本手話初級 1	1		2			
	日本手話初級 2	1		2			
	ポルトガル語入門	1		2			
	ロシア語入門	1		2			

		イタリア語入門	1		2	
		アラビア語入門	1		2	
		ドイツ語初級会話 1	1			2
		ドイツ語初級会話 2	1			2
		フランス語初級会話 1	1			2
		フランス語初級会話 2	1			2
		中国語初級会話 1	1			2
		中国語初級会話 2	1			2
	情報科目	情報・統計処理	1	2		
		情報処理応用	1			2
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	1	2		
	ボランティア科目	ボランティア科目 1	1			1
		ボランティア科目 2	1			1
	基礎科目	物理学	力学	1		2
電磁気学			1		2	
波動・熱力学			1		2	
化学		有機化学	1		2	
		生体分子化学	1		2	
生物学		基礎生物学	1		2	
自然科学実験		自然科学実験	1	1		
数学・統計学		微分積分学	1		2	
		線形代数学 I	1		2	
		線形代数学 II	1		2	
地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習	1	2			

注 本表に掲げる授業科目のほかセミナー及び開放科目を、教授会の議を経て開設し単位を与えることがある。

(一部改正 平成 19 年達第 52 号、平成 20 年達第 41 号、平成 21 年達第 29 号、平成 22 年達第 37 号、平成 23 年達第 16 号、平成 24 年達第 18 号、平成 25 年達第 16 号、平成 26 年達第 11 号、平成 27 年達第 10 号、平成 28 年達第 10 号、平成 30 年達第 19 号、平成 31 年達第 9 号、令和 2 年達第 11 号、令和 3 年達第 8 号)

別表2

区 分		最低修得必要単位数	
共 通 科 目	一般教養 科目	大学特色科目	4 単位
		現代社会の諸相	4 単位
		文化と人間性の探 求	* 4 単位
		人間と自然	2 単位
		自然と数理の探求	
	語学科目	英語	6 単位
		その他の言語	4 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		2 単位
	ボランティア科目		
基 礎 科 目	物理学		4 単位
	化学		4 単位
	生物学		
	自然科学実験		1 単位
	数学・統計学		4 単位
	地域参加型学 習	医薬看連携地 域参加型学習	2 単位
教養教育科目合計		43単位	

注 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て4単位まで本表*印欄の必要単位数に算入することができる。

(一部改正 平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成24年達第18号、平成25年達第16号、平成26年達第11号、平成28年達第10号、平成30年達第19号)

別表2の2

検定試験の種類	語学科目[英語]	
	2単位	4単位
実用英語技能検定	準1級	1級
TOEIC / TOEIC L&R	730～799点	800点以上
TOEFL (iBT)	77～88点	89点以上

注1 申請はいずれか1種類に限る。

注2 認定の対象科目は「CS: TOEIC Preparation (2単位)」又は「CS: Grammar and Usage (2単位)」とし、認定単位は4単位を上限とする。
(一部改正 平成20年達第41号、平成23年達第16号、平成30年達第19号)

別表3

区分	授業科目	
	コース名	ユニット名
基礎医学	解剖学コース	肉眼解剖学
		組織学・発生学・神経解剖学
	生化学コース	物質と代謝
		分子と細胞
	生理学コース	植物的機能系
		動物的機能系
臨床基礎医学	病理学コース	病態病理
		臨床病理
	薬理学コース	薬理学
	感染微生物コース	医動物学
		細菌学
免疫学コース	ウイルス学	
社会医学	社会医学コース	免疫学
		予防医学基礎
		予防医学応用
		法医学
		法医診断学
		医学・医療倫理
医学情報学		
臨床医学	臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系
		神経系 (神経内科)
		神経系 (脳神経外科)
		皮膚系
		運動器系・リハビリテーション
		循環器系

		呼吸器系
		消化器系・内視鏡
		腎・尿路系（腎臓内科）
		腎・尿路系（泌尿器科）
		生殖機能（泌尿器科）
		生殖機能（婦人科）
		妊娠と分娩
		乳房
		内分泌・栄養・代謝系
		眼・視覚系
		耳鼻・咽喉・口腔系
		精神系
		臨床感染症学
		成長と発達／発生
		急性期医療
		食事と栄養療法
		放射線等を用いる診断と治療
		輸血と移植
		膠原病
		臨床腫瘍学
		救急科
		漢方医学
		臨床処方学
臨床実習	臨床実習コース	臨床実習
		選択制臨床実習
統合教育	総合医学コース	医学入門
		水平統合基礎
		水平統合病態
	行動科学・地域医療学コース	行動科学
		神経科学
		疼痛科学
		コミュニティ・ヘルスケア基礎（IPE）
		コミュニティ・ヘルスケア応用（IPE）
		コミュニティ・ヘルスケア発展（IPE）
		コミュニティ・ヘルスケア実践（IPE）
		研究能力養成コース
		Scientific Writing and Presentation
		先端研究
		基礎自主研修

臨床能力養成コース	救命救急
	臨床診断推論
	基本臨床技能実習
選択制コース	MD-PhDコース
	BRJ活動

注1 必要がある場合、授業科目及び授業時間数は、教授会の議を経て変更することができる。

注2 コミュニティ・ヘルスケア実践は総合内科臨床実習の一部として行う。

注3 上記科目以外に各段階の評価として以下のものを行う。

臨床前教育（臨床実習資格認定試験、共用試験CBT、共用試験OSCE）

卒業試験（共用試験Post-CC OSCE、総合客観試験）

注4 臨床医学コースの評価は、一部の科目を除き臨床実習資格認定試験によって行う。

注5 基本臨床技能実習の評価は、共用試験OSCEによって行う。

注6 IPE : Interprofessional Education

（一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成23年達第16号、平成26年達第11号、平成27年達第10号、平成30年達第19号、平成31年達第9号、令和2年達第11号、令和3年達第8号）

本学医学部教育の到達目標 (卒業時コンピテンシー)

本学医学部学生が卒業時点において身につけているべき能力を4領域に分けて示す。当学部のカリキュラムは、これらの4領域を各学年で学習し、4領域の能力が到着目標に向かってバランス良く向上することを目指している。

領域 I	科学者としての医師
a	ヒトの正常な構造、機能、行動および疾病の病因・病態を理解、研究し、医学の発展に貢献することができる。
b	臨床データや文献等の情報を吟味し、その妥当性や適用の有無を決定することができる。
c	重要な医学的知見や医療情報を、さまざまな立場の人に対し適切に説明、発表することができる。
d	科学的知識や科学的理解の限界を認識し、全ての科学的知見は常に更新される性質のものであることを理解できる。

領域 II	臨床家としての医師
a	患者・医師関係の意義を理解し、良好な関係を築くことができる。
b	医療面接や系統的な身体診察によって臨床所見や兆候を捉え、それらを解釈し、適切な検査や治療法を選択できる。
c	基本的な臨床手技を行うことができる。
d	医療情報の記録、管理を適切に行うことができる。
e	医療における安全性を理解し、適切な危機管理ができる。

領域 III	社会における医師
a	様々な生活環境や国および世界の健康、疾病の動向を評価し、対処できる。
b	個人および集団の健康を規定する因子を考察し、健康増進、疾病予防の方策を立案できる。
c	保健、医療、福祉に関する法や制度を社会的動向の中で理解し、活用することができる。
d	多職種連携による地域包括ケアシステムの構築に貢献できる。

領域 IV	プロフェッショナルとしての医師
a	プロフェッショナルとして人間愛と倫理性に溢れ、かつ冷静な行動をとることができる。
b	多職種と協調して行動し、必要な時にリーダーシップを発揮することができる。
c	自分の身体的、精神的状況を把握し、ストレスに適切に対応して、必要な時には率直に支援を求めることができる。
d	継続的に自身の医学知識、医療技術の向上に務めることができる。

ディプロマポリシーで示した医師としての能力の以下の4領域

- I 科学者としての医師
- II 臨床家としての医師
- III 社会における医師
- IV プロフェッショナルとしての医師

を各学年で巡回しつつ学修します。これにより、各領域の能力をバランス良く徐々に高め、学修目標を達成します。

1年次では、領域Iとして豊かな人間性の陶冶と幅広い教養を身につけるため、教養教育科目および専門科目としての医学入門を通じて科学としての医学を学ぶための基礎を形成します。領域IIとして医薬看連携地域参加型学習を通じ医療者としての基本技能を修得します。領域IIIとして医薬看連携地域参加型学習を通じ地域医療での課題解決をテーマとする学修を行うとともに、医学情報学の学修により必要な情報処理能力を修得します。領域IVとして一般教養科目及び医学入門を通じて医師に相応しい素養を養います。

2～3年次では、領域Iとして基礎医学、臨床基礎医学を学びます。さらに3年次の基礎自主研修を通じて、医師に求められる科学者としての堅実な基盤と広い視野を形成します。また、医学英語を学び、科学者としての研究能力に必要な英語力を修得します。領域IIとして救急救命処置を学修します。領域IIIとして法医学、行動科学、コミュニティ・ヘルスケアを学ぶと共に、社会医学領域の実践的な活動を経験します。領域IVとして医学・医療倫理を学修します。

3年次後半から4年次では、領域Iとして臨床医学を学び、基本的な医学知識を診療活動に参加できるレベルまで高めます。領域IIとして基本医療技能をさらに高め、医療系大学間共用試験(CBT、OSCE)により診療実習に参加できるレベルを担保します。領域IIIとして社会医学を学び、社会と医学との関わりを理解します。領域IVとして医学・医療の様々な側面の学修を通じ、医師に求められる姿勢や態度を学びます。

4年次後半から5年、6年次では、すべての診療科における診療参加型臨床実習および社会医学実習、選択制の診療参加型臨床実習を行います。これらの実践を通じ、領域I～IVの能力をディプロマポリシーが求めるレベルまで総合的に高めます。

実践

PBL・TBLなどのアクティブ・ラーニング方式を導入し、学生の主体的な学修を促します。

4年次後半から6年次では、学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら、医師としての職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な内容を学修する診療参加型臨床実習を行います。

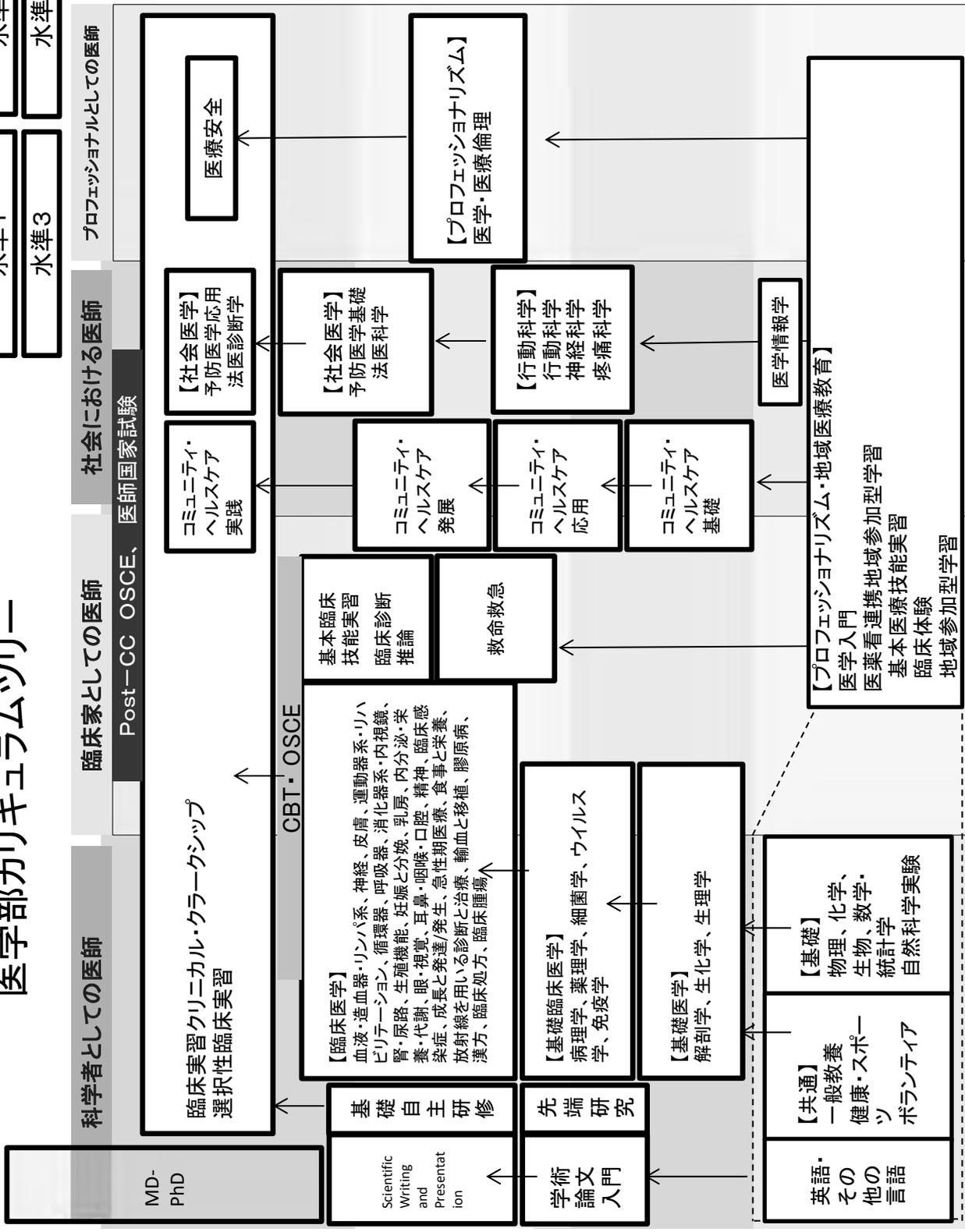
成績評価

学修成果の評価について、各科目の到達目標、成績評価の方法はシラバスにおいて明示します。

医学部カリキュラムツリー

水準1
水準2
水準3
水準4

6年
5年
4年
3年
2年
1年



専門教育科目

教養教育科目

2020年12月18日改訂

医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度改訂版)
(項目抜粋)

- A 医師として求められる基本的な資質・能力
- A-1 プロフェッショナルリズム
 - A-1-1) 医の倫理と生命倫理
 - A-1-2) 患者中心の視点
 - A-1-3) 医師としての責務と裁量権
 - A-2 医学知識と問題対応能力
 - A-2-1) 課題探求・解決能力
 - A-2-2) 学修の在り方
 - A-3 診療技能と患者ケア
 - A-3-1) 全人的実践的能力
 - A-4 コミュニケーション能力
 - A-4-1) コミュニケーション
 - A-4-2) 患者と医師の関係
 - A-5 チーム医療の実践
 - A-5-1) 患者中心のチーム医療
 - A-6 医療の質と安全管理
 - A-6-1) 安全性の確保
 - A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防
 - A-6-3) 医療従事者の健康と安全
 - A-7 社会における医療の実践
 - A-7-1) 地域医療への貢献
 - A-7-2) 国際医療への貢献
 - A-8 科学的探究
 - A-8-1) 医学研究への志向の涵養
 - A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
 - A-9-1) 生涯学習への準備
- B 社会と医学・医療
- B-1 集団に対する医療
 - B-1-1) 統計の基礎
 - B-1-2) 統計手法の適用
 - B-1-3) 根拠に基づいた医療<EBM>
 - B-1-4) 疫学と予防医学
 - B-1-5) 生活習慣とリスク
 - B-1-6) 社会・環境と健康
 - B-1-7) 地域医療・地域保健
 - B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度
 - B-1-9) 国際保健
 - B-2 法医学と関連法規
 - B-2-1) 死と法
 - B-2-2) 診療情報と諸証明書
 - B-3 医学研究と倫理
 - B-3-1) 倫理規範と実践倫理
 - B-4 医療に関連のある社会科学領域
 - B-4-1) 医師に求められる社会性
- C 医学一般
- C-1 生命現象の科学
 - C-1-1) 生命の最小単位—細胞
 - C-1-2) 生物の進化
 - C-2 個体の構成と機能
 - C-2-1) 細胞の構成と機能
 - C-2-2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係
 - C-2-3) 個体の調節機能とホメオスタシス
 - C-2-4) 個体の発生
 - C-2-5) 生体物質の代謝
 - C-3 個体の反応
 - C-3-1) 生体と微生物
 - C-3-2) 免疫と生体防御
 - C-3-3) 生体と薬物
- C-4 病因と病態
- C-4-1) 遺伝的多様性と疾患
 - C-4-2) 細胞傷害・変性と細胞死
 - C-4-3) 代謝障害
 - C-4-4) 循環障害、臓器不全
 - C-4-5) 炎症と創傷治癒
 - C-4-6) 腫瘍
- C-5 人の行動と心理
- C-5-1) 人の行動
 - C-5-2) 行動の成り立ち
 - C-5-3) 動機付け
 - C-5-4) ストレス
 - C-5-5) 生涯発達
 - C-5-6) 個人差
 - C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション
 - C-5-8) 行動変容における理論と技法
- D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療
- D-1 血液・造血器・リンパ系
 - D-1-1) 構造と機能
 - D-1-2) 診断と検査の基本
 - D-1-3) 症候
 - D-1-4) 疾患
 - D-2 神経系
 - D-2-1) 構造と機能
 - D-2-2) 診断と検査の基本
 - D-2-3) 症候
 - D-2-4) 疾患
 - D-3 皮膚系
 - D-3-1) 構造と機能
 - D-3-2) 診断と検査の基本
 - D-3-3) 症候
 - D-3-4) 疾患
 - D-4 運動器(筋骨格)系
 - D-4-1) 構造と機能
 - D-4-2) 診断と検査の基本
 - D-4-3) 症候
 - D-4-4) 疾患
 - D-5 循環器系
 - D-5-1) 構造と機能
 - D-5-2) 診断と検査の基本
 - D-5-3) 症候
 - D-5-4) 疾患
 - D-6 呼吸器系
 - D-6-1) 構造と機能
 - D-6-2) 診断と検査の基本
 - D-6-3) 症候
 - D-6-4) 疾患
 - D-7 消化器系
 - D-7-1) 構造と機能
 - D-7-2) 診断と検査の基本
 - D-7-3) 症候
 - D-7-4) 疾患
 - D-8 腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)
 - D-8-1) 構造と機能
 - D-8-2) 診断と検査の基本
 - D-8-3) 症候
 - D-8-4) 疾患
 - D-9 生殖機能
 - D-9-1) 構造と機能
- D-9-2) 診断と検査の基本
- D-9-3) 症候
- D-9-4) 疾患
- D-10 妊娠と分娩
- D-10-1) 構造と機能
 - D-10-2) 診断と検査の基本
 - D-10-3) 症候
 - D-10-4) 疾患
 - D-10-5) 産科手術
- D-11 乳房
- D-11-1) 構造と機能
 - D-11-2) 診断と検査の基本
 - D-11-3) 症候
 - D-11-4) 疾患
- D-12 内分泌・栄養・代謝系
- D-12-1) 構造と機能
 - D-12-2) 診断と検査の基本
 - D-12-3) 症候
 - D-12-4) 疾患
- D-13 眼・視覚系
- D-13-1) 構造と機能
 - D-13-2) 診断と検査の基本
 - D-13-3) 症候
 - D-13-4) 疾患
- D-14 耳鼻・咽喉・口腔系
- D-14-1) 構造と機能
 - D-14-2) 診断と検査の基本
 - D-14-3) 症候
 - D-14-4) 疾患
- D-15 精神系
- D-15-1) 診断と検査の基本
 - D-15-2) 症候
 - D-15-3) 疾患
- E 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療
- E-1 遺伝医療・ゲノム医療
 - E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性
 - E-2 感染症
 - E-2-1) 病態
 - E-2-2) 診断・検査・治療の基本
 - E-2-3) 症候
 - E-2-4) 疾患
 - E-3 腫瘍
 - E-3-1) 定義・病態
 - E-3-2) 診断
 - E-3-3) 治療
 - E-3-4) 診療の基本的事項
 - E-3-5) 各論
 - E-4 免疫・アレルギー
 - E-4-1) 診断と検査の基本
 - E-4-2) 症候
 - E-4-3) 病態と疾患
 - E-5 物理・化学的因子による疾患
 - E-5-1) 診断と検査の基本
 - E-5-2) 症候
 - E-5-3) 疾患
 - E-6 放射線の生体影響と放射線障害
 - E-6-1) 生体と放射線
 - E-6-2) 医療放射線と生体影響
 - E-6-3) 放射線リスクコミュニケーション

医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度改訂版)
(項目抜粋)

- E-6-4) 放射線災害医療
- E-7 成長と発達
 - E-7-1) 胎児・新生児
 - E-7-2) 乳幼児
 - E-7-3) 小児期全般
 - E-7-4) 思春期
- E-8 加齢と老化
 - E-8-1) 老化と高齢者の特徴
- E-9 人の死
 - E-9-1) 生物的死と社会的死
- F 診療の基本
 - F-1 症候・病態からのアプローチ
 - F-1-1) 発熱
 - F-1-2) 全身倦怠感
 - F-1-3) 食思(欲)不振
 - F-1-4) 体重減少・体重増加
 - F-1-5) ショック
 - F-1-6) 心停止
 - F-1-7) 意識障害・失神
 - F-1-8) けいれん
 - F-1-9) めまい
 - F-1-10) 脱水
 - F-1-11) 浮腫
 - F-1-12) 発疹
 - F-1-13) 咳・痰
 - F-1-14) 血痰・喀血
 - F-1-15) 呼吸困難
 - F-1-16) 胸痛
 - F-1-17) 動悸
 - F-1-18) 胸水
 - F-1-19) 嚥下困難・障害
 - F-1-20) 腹痛
 - F-1-21) 悪心・嘔吐
 - F-1-22) 吐血・下血
 - F-1-23) 便秘・下痢
 - F-1-24) 黄疸
 - F-1-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤
 - F-1-26) 貧血
 - F-1-27) リンパ節腫脹
 - F-1-28) 尿量・排尿の異常
 - F-1-29) 血尿・タンパク尿
 - F-1-30) 月経異常
 - F-1-31) 不安・抑うつ
 - F-1-32) もの忘れ
 - F-1-33) 頭痛
 - F-1-34) 運動麻痺・筋力低下
 - F-1-35) 腰背部痛
 - F-1-36) 関節痛・関節腫脹
 - F-1-37) 外傷・熱傷
 - F-2 基本的診療知識
 - F-2-1) 臨床推論
 - F-2-2) 根拠に基づいた医療<EBM>
 - F-2-3) 臨床検査
 - F-2-4) 病理診断
 - F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療
 - F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療
 - F-2-7) 超音波を用いる診断と治療
 - F-2-8) 薬物治療の基本原則
 - F-2-9) 外科的治療と周術期管理
 - F-2-10) 麻酔
 - F-2-11) 食事・栄養療法と輸液療法
 - F-2-12) 医療機器と人工臓器
 - F-2-13) 輸血と移植
 - F-2-14) リハビリテーション
 - F-2-15) 在宅医療と介護
 - F-2-16) 緩和ケア
 - F-3 基本的診療技能
 - F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論
 - F-3-2) 医療面接
 - F-3-3) 診療録(カルテ)
 - F-3-4) 臨床判断
 - F-3-5) 身体診察
 - F-3-6) 基本的臨床手技
- G 臨床実習
 - G-1 診療の基本
 - G-1-1) 臨床実習
 - G-2 臨床推論
 - G-2-1) 発熱
 - G-2-2) 全身倦怠感
 - G-2-3) 食思(欲)不振
 - G-2-4) 体重減少・体重増加
 - G-2-5) ショック
 - G-2-6) 心停止
 - G-2-7) 意識障害・失神
 - G-2-8) けいれん
 - G-2-9) めまい
 - G-2-10) 脱水
 - G-2-11) 浮腫
 - G-2-12) 発疹
 - G-2-13) 咳・痰
 - G-2-14) 血痰・喀血
 - G-2-15) 呼吸困難
 - G-2-16) 胸痛
 - G-2-17) 動悸
 - G-2-18) 胸水
 - G-2-19) 嚥下困難・障害
 - G-2-20) 腹痛
 - G-2-21) 悪心・嘔吐
 - G-2-22) 吐血・下血
 - G-2-23) 便秘・下痢
 - G-2-24) 黄疸
 - G-2-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤
 - G-2-26) 貧血
 - G-2-27) リンパ節腫脹
 - G-2-28) 尿量・排尿の異常
 - G-2-29) 血尿・タンパク尿
 - G-2-30) 月経異常
 - G-2-31) 不安・抑うつ
 - G-2-32) もの忘れ
 - G-2-33) 頭痛
 - G-2-34) 運動麻痺・筋力低下
 - G-2-35) 腰背部痛
 - G-2-36) 関節痛・関節腫脹
 - G-2-37) 外傷・熱傷
 - G-3 基本的臨床手技
 - G-3-1) 一般手技
 - G-3-2) 検査手技
 - G-3-3) 外科手技
 - G-3-4) 救命処置
 - G-4 診療科臨床実習
 - G-4-1) 必ず経験すべき診療科
内科、外科、小児科、産婦人科、精神科
総合診療科、救急科
 - G-4-2) 上記以外の診療科
 - G-4-3) 地域医療実習
 - G-4-4) シミュレーション教育

名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準

次の基準を満たしていない学生は臨床実習への参加を認めない。

1. 履修規程で定められた4年生までの教養、専門科目を全て履修していること。
2. 共用試験OSCE、CBTに合格していること。
3. 必要な感染症対策を行っていること。

次の感染症の抗体検査を受け、実習開始までに抗体のないものについては必要な予防接種を受けていること。(接種の記録を大学へ提出すること)

B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス

このうち、B型肝炎抗体検査・T-SPOTは大学で実施する。

4. 学生賠償責任保険に加入していること。

(2017.02.28 医学部教授会規定)

名古屋市立大学医学部 医療系実習参加資格基準

次の基準を満たしていない学生は医療系実習への参加を認めない。

1. 必要な感染症対策を行っていること。

次の感染症の抗体検査を受け、抗体のないものについては 入学年度の6月末日までに 必要な予防接種を受けていること。(接種の記録を大学へ提出すること)

- ・検査結果を提出するもの；麻疹、風疹、水痘、ムンプス
- ・ワクチン接種を各自行うもの；麻疹、風疹、水痘、ムンプス
(・大学で検査およびワクチン接種を行うもの；B型肝炎)

2. 学生賠償責任保険に加入していること。

(2016.02.23 医学部教授会規定)

名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項

名古屋市立大学医学部
カリキュラム企画運営委員会

1. セメスター試験について

4年生の臨床医学コースは4つのセメスターに分かれ、各セメスターはいくつかのユニットから成り立っている。各セメスターの最後にユニット単位の試験が行われる。

試験は、基礎教育棟3階の情報処理実習室にて、computer-based test (CBT)形式で実施される。

試験の可否等については次のように定められている。

- ・ 各ユニット 60 点を合格点とする。
- ・ あるセメスターの平均点が 60 点に満たない場合、そのセメスターの全てのユニットの本試験を不合格とする。
- ・ セメスター試験の再試験は年度末に1回行う。
- ・ 試験問題は、共用試験 CBT や医師国家試験に準拠した形式で作成される。
- ・ 試験の時間割は、セメスター毎に掲示にて発表する。基本的に1時限(90分間)に2科目(2ユニット)の試験を実施する。

2. 医学系共用試験

医学系共用試験は、臨床実習開始前の医学生が一定以上の能力と適性を持つことを確保するために、全国共通の基準に基づき行われる試験である。共用試験に合格すると、全国医学部長病院長会議から、Student Doctor の資格が付与され、認定証が発行される。共用試験は、臨床基本技能と態度をみる OSCE (9月26日(土)実施予定。予備日は10月25日(日))と医学・医療に関する知識をみる CBT (11月26日(木)実施予定)という2つの試験で構成される。今年度はいずれについても追試験・再試験を1回のみ行う(CBTの追再試験は12月17日(木)、追再試験に対する再試験は行わない)。

3. 共用試験の可否基準・成績としての利用方法について

OSCE は、一般診療に関する基本的臨床能力を客観的に評価する試験である。評価項目ごとの得点の合計と、6段階の概略評価で可否を判定する。

CBT は、基礎医学・臨床医学知識の総合的理解力を評価するコンピュータを用いた客観試験である。問題は共用試験実施評価機構にプールされている1万題を越える問題から出題され、受験者ごとに異なる。ただし、採点されるのは過去に一度出題され難易度が分かっている問題のみである。統計的な処理によって全体の難易度は標準化されて、受験者ごとの難易度が等しくなっている。なお、全国医学部長病院長会議はCBT の全国一律の合格ラインを能力値IRT 359としているが、本学本試験では能力値 IRT 378 以上であることを合格基準とする

る。

平成 27 年度より、全国医学部長病院長会議の通達により、前年度の共用試験結果を次年度に持ちこして利用を認めないこととなった。については、他の進級要件を満たせず原級留置となった際には、共用試験も再履修しなければならない。

4. 共用試験の内容に関する守秘義務について

OSCE および CBT からなる共用試験は、医師免許を保持しない医学生に診療参加型臨床実習を行わせることに対する社会や患者の理解を得るために、日本の医学部・医科大学が自主的に行っているものであることから、試験の公正さと厳正さも自ら保証する必要がある。これに基づき、医学生には、受験の前後を問わず、共用試験の運営や受験を通じて知り得た内容についての守秘義務が課されており、この試験の信頼性を損なう行為やそれを疑わせる行為は厳しく禁じられている。

5. 著作権の問題について

本学医学部内の試験問題は、医学部が著作権を有する。昨今こうした問題を収集する外部業者があつて、問題文や画像が流出する事例が相次いでおり、全国的に問題になっている。許可なく学外に漏洩した場合、カンニングと同様、不正行為扱いとするので注意すること。特にインターネット上で自由に閲覧可能なサイトに掲載した場合、大きな問題が起きる可能性がある。

許可を得ずに試験問題文を利用できる範囲は原則として同一学年のみとする。

6. 過去の問題の解答について

過去の問題について一部の正解が公表されているが、問題の適切性や正解は、日進月歩の医学・医療環境において、常に変化している。疫学・統計的なデータはもちろん、診断や治療についても同様である。解答のみを丸暗記する愚行は厳に謹んでもらいたい。

以上

共用試験についての留意事項

共用試験 CBT と OSCE は、医学生に臨床実習をさせてよいかどうかの学生の能力と適性を評価するために実施されている全国的規模の試験です。この試験が適正に行われ、合格できなければ、医学生に医行為をさせてよいという、医師法の違法性を阻却する事由 *になりません。そのため、入学試験や国家試験と同じような厳正さが求められている試験です。また、この問題を外部に漏洩することも禁じられており、そのことが明らかになった場合には、学生本人の責任が問われるばかりでなく、大学としての責任も問われ、CBT の参加資格が取り消される可能性があります。さらに臨床実習にご協力いただく患者さんからは、そのような大学や学生には協力しないどころか、そのような学生は医師にすべきではないとの意見が出るでしょう。皆さんはそのことを十分認識して、よい成績を収められることを期待します。

共用試験実施機構

* 医師ではない医学生が医行為をすることは、医師法で禁じられています。それにも関わらず学生に医行為を許可するためには、次の事由(違法性の阻却要件)を満たす必要があります。

学生が医療行為を行うことの違法性の阻却要件

1. 必要な能力を有していることの保証
2. 医師が行う場合と同等の安全性の確保

医学教育を行う大学は、CBT と OSCE に合格していることを、学生が必要な能力を有している証拠として、社会に呈示しようとしている。共用試験の公正性の保障がその基盤となる。

共用試験に関する誓約

私は、名古屋市立大学医学部学生として、共用試験の公平性を保つことの社会的責任を受け入れ、共用試験の公正な準備、実施および維持管理のために、次の事項を遵守します。

1. 共用試験の受験の有無を問わず、また共用試験の実施の前後を問わず、次の行為を行いません。
 - 1) 共用試験に関する問題の漏洩、それに荷担する行為、およびそれを疑われる行為
 - 2) 共用試験に関連する営利目的の行為、それに加担する行為、およびそれを疑われる行為
 - 3) 共用試験の適正な運用を妨げる行為、およびそのおそれのある行為
 - 4) 共用試験の信用を低下させる行為、およびそのおそれのある行為
2. 共用試験の公平性を妨害する不正な行為が認められた場合は、退学を含め厳正な処分を受け入れます。

名古屋市立大学医学部 医学生が実施する医行為一覧

分類		担当科／部署	
診察		診療記録記載（診療録作成）（※1）	全
		医療面接	全
		バイタルサインチェック	全
		診察法（全身・各臓器）	全
		耳鏡・鼻鏡	耳鼻咽喉科
		眼底鏡	眼科
		基本的な婦人科診察	産科婦人科
		乳房診察	乳腺外科
		直腸診察	消化器外科／消化器内科
		前立腺触診	泌尿器科
		高齢者の診察（ADL評価、高齢者総合機能評価）	リハビリテーション科／整形外科
一般手技		皮膚消毒	外科系／皮膚科
		外用薬の貼付、塗布	皮膚科／整形外科
		気道内吸引（※2）	麻酔科
		ネブライザー	呼吸器・アレルギー内科／呼吸器外科
		静脈採血	中央臨床検査部
		末梢静脈確保（※2）	救急科
		胃管挿入（※2）	消化器内科／消化器外科
		尿道カテーテル挿入・抜去（※2）	泌尿器科
		注射（皮下・皮内・筋肉・静脈内）	全
		予防接種	小児科／感染制御室
		清浄操作	外科系
外科手技	必須項目（医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が開始されるべき医行為 ）	手指消毒（手術前の手洗い）	外科系
		ガウンテクニック	外科系
		皮膚縫合	皮膚科／形成外科
		消毒・ガーゼ交換	皮膚科／外科
		抜糸	外科系
		止血処置	外科系
		手術助手	外科系
		尿検査	泌尿器科／中央検査部
		血液塗抹標本の作成と観察	中央臨床検査部
		微生物学的検査（Gram染色含む）	中央臨床検査部
		妊娠反応検査	産科婦人科
検査手技		超音波検査（心血管）	循環器内科／心臓血管外科
		超音波検査（腹部）	消化器内科／消化器外科／産科婦人科／泌尿器科
		心電図検査	循環器内科
		経皮的酸素飽和度モニタリング	呼吸器・アレルギー内科
		病原体抗原の迅速検査	中央臨床検査部
		簡易血糖測定	救急科
		一時的救命処置	救急科
		気道確保	救急科
		胸骨圧迫	救急科
		バックバルブマスクによる換気	救急科
		AED（※2）	救急科
治療（※4）		処方薬（内服薬・注射・点滴など）のオーダー	全
		食事指示	全
		安静度指示	全
		定型的な術前・術後管理の指示	外科系
		酸素投与量の調整（※5）	呼吸器外科
		診療計画の作成	全
		患者・家族への病状の説明	全
診察		分娩介助	産科婦人科
		直腸鏡・肛門鏡	消化器内科／消化器外科
一般手技		ギブス巻き	整形外科
		小児からの採血	小児科／小児外科
		カニューレ交換	耳鼻咽喉科
外科手技	推奨項目（医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が開始されること が望ましい 医行為 ）	洗腸	消化器内科
		膿瘍切開、排膿	皮膚科
		膿瘍・膿瘍穿刺（体表）	皮膚科
		創傷処置	皮膚科
検査手技		熱傷処置	皮膚科
		血液型判定	中央臨床検査部
		交差適合試験	中央臨床検査部
		アレルギー検査（塗布）	皮膚科
救急（※6）		発達テスト、知能テスト、心理テスト	精神科
		電気ショック	救急科
		気管挿管	麻酔科
治療（※7）		固定など整形外科的保存療法	整形外科
		健康教育	消化器外科／糖尿病内科

注：指導医が学生の知識や技術が不足していると判断した場合には、実施させないこともあります。十分に事前の学習・調査を行ってください。

※1 診療参加型臨床実習実施ガイドライン「学生による診療録記載と文章作成について」を参考に記載する。

※2 特にシミュレーターによる習得の後の後に行うべき。

※3 実施機会がない場合には、シミュレーターによる習得でも可。

※4 指導医等の確認後に実行される必要がある。

※5 酸素投与を実施している患者が対象。

※6 実施機会がない場合には、シミュレーターによる習得でも可。

※7 指導医等の確認後に実行される必要がある。

アンプロフェッショナルな学生の評価

名古屋市立大学医学部 BSL(臨床実習)小委員会

2020年2月

名古屋市立大学医学部医学科では臨床実習の評価の一つとして、アンプロフェッショナルな態度の評価を行います。「アンプロフェッショナルな学生」は以下のように定義します。

診療参加型臨床実習において、学生の行動を臨床現場で観察していて、特に医療安全の面から、このままでは将来、患者の診療に関わらせることが出来ないと考えられる学生

患者さんの診療に現場であたる臨床医としての先生の視点で、今後この学生が臨床医になって診療に関わる上で、特に医療安全の面から、明らかに不適切と思われる態度や行動が見られた場合、その事例について別紙にできるだけ詳しく記述下さい。その際に、直接ご自身で観察された情報と間接的に得た情報とを可能な限り区別していただくようお願いいたします。

なお、本評価は、各診療科での臨床実習の評価(合否判定)とは独立して運用します。

以下にアンプロフェッショナルな学生の例を提示します。京都大学医学部学務委員会臨床実習倫理評価小委員会が提示しています。参考にさせていただいて評価し、報告ください。

- ・ 初日の集合時間(朝9時)に、連絡なく大幅に遅刻して午後(13時)にしか出てこなかったのみならず、以後毎日、病院の職員が学生宿舎まで迎えに行かなければ、実習に出てこなかった【診療チームの一員としての責任感】
- ・ 診療チームの一員として、毎朝、担当患者さん(1名)を回診して、9時からの指導医回診でその状況を報告する役割を与えているが、全く患者さんのところに行かないばかりか、指導医回診で虚偽の報告を行った【診療チームの一員としての責任感+誠実な行動】
- ・ 臨床実習に殆ど出席せず、遅刻した症例発表会での発表内容、症例報告レポートの内容が非常に乏しかったため、追加レポートを求めたところ、真夜中に病棟に現れて、カルテのプリントアウトを大量に行った。プリントアウトの最中にナースステーション内でゲームをしていたため、夜勤の看護師が指摘したところ、素直に従わないどころか、「看護師のくせに偉そうなことを言うな」と逆ギレした【診療チームの一員としての責任感+知識・技能の向上に対する努力+他職種との協働+患者に関する情報の守秘義務】
- ・ 実習中に何処で何をしているのか分からない上に、PHSで連絡をしても繋がらない。なんとか見つけだして担当患者さんの病状説明(がんの告知)に同席させたところ、居眠りをしてしまい、患者さんが激怒した【診療チームの一員としての責任感+患者さん/家族に対する態度】
- ・ 実習中に、連絡なく欠席・遅刻を繰り返した。最終日に、レポートの内容が乏しいことを指摘すると、ふてくされた態度になった。無断欠席・遅刻に関して医学生としてふさわしくないことを伝えると、謝るところか、無言のままプライトそっぽを向いて部屋を出て行った【診療チームの一員としての責任感+知識・技能の向上に対する努力+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢】
- ・ 指導医・他の医療スタッフに対して、基本的な挨拶(おはようございます、ありがとうございます、すみませ

ん、など)が全くできず、また十分なコミュニケーションもとれない。担当患者さんに対しても同様の態度であったため、患者さんからクレームが来た。そのことを学生に伝えると、「あんな患者は京大病院に来なくていい」と言い出した【患者さん/家族に対する態度+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢+礼儀と基本的な挨拶および服装】

・ 臨床実習で担当した外国人の患者から、担当学生の態度がよくないとのクレームがあった。これを学生に伝えたところ、「こんなことで文句言うなんて絶対おかしい。あいつら〇〇人って、やっぱり、価値観、変」と、ナースステーションで、患者さんに声が聞こえることも気にせず大声で叫んだ【患者さん/家族に対する態度+社会的カテゴリーに基づく差別】

・ Twitter®に「〇〇病院の呼吸器内科で実習中なう。めっちゃ稀な△△病の患者さんの担当になったので勉強が大変(><)。でも若い女の子(しかも家が下宿の近所!)なのでいつも以上に頑張っています!」とツイートし、さらにはFacebook®(自分の下宿の住所が閲覧可能)に友達限定で同じ内容をレントゲン写真つきでアップした。【患者に関する情報の守秘義務】

・ ある勉強会に参加したところ、製薬会社が後援しており、とても高価な弁当をごちそうになった。以後、製薬会社の後援する弁当付き勉強会に診療科を問わず全て出席した。さらに、どの製薬会社がどの程度の値段の弁当を提供しているかについてのランキング表を写真付きで作り、「こんな弁当がただで食べられるなんて、やっぱ医者ってすげー。でも□□製薬さんにはもうちょっと頑張ってもらわないとね」とのコメントをつけて自身のブログにアップした【利益相反による弊害】

・ 一緒に住んでいる甥が3日前に病院でインフルエンザと診断された。昨日から自分も熱が出てきたが、次の実習先の診療科は厳しいとの評判を聞いていたので、休まずに臨床実習に出席し、担当患者さん(免疫抑制状態)のベッドサイドに毎日足を運び、看護師とのカンファランスにも積極的に出席した。「熱っばいの?大丈夫?」と指導医に言われたが、「大丈夫です」とだけ答えた【院内指針の遵守】

・ 〇〇診療科では、毎朝、担当患者を診察して、その内容をカルテに記録し、指導医に内容を確認してもらうことになっていた。ある日、寝坊して、朝、病院に行けなかった。指導医にはたまたま(寝坊したことが)見つからなかったが、患者さんは検査に行ってしまうと、朝の回診はできなかった。その診療科の教授がとっても怖いという評判だったので、電子カルテの記載時間を修正して(調整して)、午前中に診察したかのように電子カルテに記録した。【不正行為への関与】

・ 朝のカンファランスにギリギリにやってきたかと思えば、寝ぐせだらけの頭に無精髭、ダメージジーンズ、裸足にクロックス®、実習が始まってから1回も洗濯に出してなさそうな白衣を羽織って前のボタンもとめずに現れた。患者さんやスタッフから苦情が来たため、服装を正すように本人に伝えたが、本人は気にしている様子は全くなく、実習中、ずっと同じような格好で病棟に現れた【服装+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢】

※「これまでに国内外の大学医学部においてアンプロフェッショナルと評価された行動などを参考に、あくまで評価をする際に参照する目的で作成しました。よって、京都大学医学部医学科にこのような学生が在籍しているというわけではありません。」とのコメントがあります。

(出典:<http://cme.med.kyoto-u.ac.jp/sd/unprofessional.pdf> 京都大学医学研究科 医学教育・国際化推進センター)

卒業試験 総合客観試験について

I. 試験の目的

学習の到達度が、必須最低限のレベルに達しているか否かを評価する。

II. 試験の方法

1. 直近4年間の国家試験問題およびその類題を選別・作成し、そこから出題する。各科目の問題数は、最新の国家試験に準ずる割合とする。類題については選択肢の順番の入れ替えや選択肢の一部変更のみとし、試験問題の趣旨や難易度を大きく変えないように配慮する。禁忌問題は設定しない。
2. 合否判定基準は、国家試験のそれに準ずる。不合格者に対しては再試験を実施する。
3. 総合客観試験1の再試不合格者については、総合客観試験2の再試を総合客観試験1の再々試験とみなす。
4. 総合客観試験2の再々試験は行わない。
5. 総合客観試験1および2の両者の合格をもって総合客観試験の合格とする。
6. 最終合否判定は、総合判定会議をもって行う。

III. 2021年の総合客観試験日程

総合客観試験1

本試：2021年3月26日(金) 対象：全員

感染症対策が必要な場合は3月25日(木)も加え、2グループにわかれて受験

再試：2021年8月27日(金) 対象：総合客観試験1本試不合格者

総合客観試験2

本試：2021年11月26日(金) 対象：全員

感染症対策が必要な場合は11月25日(木)も加え、2グループにわかれて受験

再試：2021年12月17日(金) 対象：総合客観試験2の本試不合格者および総合客観試験1の再試不合格者

定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する懲戒等及び措置に関する指針

(平成27年4月1日 学長決定)

名古屋市立大学学生懲戒規程（以下「懲戒規程」という。）第23条の定めるところにより、同規程第3条第1項第4号に掲げる試験等における不正行為に関し、以下のとおり定める。

(定期試験における不正行為の定義)

第1 定期試験において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) カンニング（カンニングペーパーを所持し又は見ること、持込みが許可されていないテキスト等を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- (2) 試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- (3) 試験時間中に、携帯電話等を使用すること。
- (4) 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
- (5) 試験開始の指示の前に問題を見たり解答を始めること。
- (6) 試験終了の指示に従わず、解答を続けること。
- (7) 試験時間中に、携帯電話、時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を長時間鳴らすなど、試験の進行に多大な影響を与えること。
- (8) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- (9) 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- (10) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

(定期試験に代わるレポート課題における不正行為の定義)

第2 定期試験に代わるレポート課題において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) 既に公表されている著作物やウェブサイトに掲載された他人の文章や図表等の全部又は一部を、引用・出典を明示せずに、故意にあたかも自分自身の作成した文章や図表であるかのように利用すること。
- (2) 他人が作成したレポートの全部又は一部を、あたかも自分自身の作成したレポートであるかのように提出すること
- (3) その他、定期試験に代わるレポート課題の公平性を損なう行為をすること。

(懲戒等及び措置)

第3 第1又は第2に規定する不正行為を行ったものとみなされた学生に対しては、懲戒規程に基づき、懲戒処分（戒告、停学若しくは退学）又は学部長等による厳重注意（以下「懲戒等」という。）を行う。

2 前項に規定する懲戒等とあわせて、学部長等は、学部等の教授会の議を経て、不正行為の態様に応じて次の各号のいずれかの措置を行うものとする。

- (1) その学年における全ての科目の履修及び成績を無効とする。
- (2) その学期における全ての科目の履修を無効とする。ただし、通年科目の取扱いは、学部長等が教授会の議を経て決定する。

(3) 当該科目の履修を無効とする。なお、不正行為により教養教育の英語科目が無効となった場合は、当該懲戒等が行われた年度には英語検定試験による単位認定は行わない。

3 前項の規定にかかわらず、その学年における医学部専門教育科目のうち、不正行為を行った時点において、既に履修を終えている科目についてはその履修及び成績を無効とし、現に履修中の科目についてはその取扱いを学部長等が教授会の議を経て決定する。

(懲戒等の通知及び公示)

第4 第3に基づき懲戒等及び措置を行うときは、懲戒等の種類に関わらず、当該学生に通知し、及び公示するものとする。

2 前項の通知については、懲戒処分である者にあつては懲戒規程第14条に定めるところにより、学部長等による嚴重注意である者にあつては同条の例により、それぞれ行うものとする。

3 第1項の公示については、懲戒処分である者にあつては懲戒規程第15条に定めるところにより、学部長等による嚴重注意である者にあつては同条の例により、当該学生の所属、学年、懲戒等の種類、懲戒等の理由を掲げるほか、措置の内容を明らかにする。

4 第1項および前項の公示は、次の各号に掲げる場所に掲示することにより行う。

(1) 当該学生が所属する学部等の掲示板

(2) 教養教育科目における不正行為の場合、前号に加えて教養教育の掲示板

(3) 懲戒処分を行う場合、前2号に加えて他の学部及び研究科の掲示板

(その他)

第5 第3に定める懲戒等及び措置の基準については、別に定める。

付記

1 この指針は、平成27年4月1日から施行し、平成27年度に実施する定期試験及び定期試験に代わるレポート課題から適用する。

2 定期試験に準ずる試験及び集中講義に係る試験についても、この指針を準用する。

3 定期試験に準ずる試験に代わるレポート課題及び集中講義に係る試験に代わるレポート課題についても、この指針を準用する。

【レポート課題作成時の注意】

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものです。

他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要ですが、それを引用する場合はルールがあります。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要があります。

他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」(盗作)であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となります。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出して下さい。

名古屋市立大学医学部 SNS 利用時の注意事項

1. 一般的注意事項

ソーシャルメディア（インターネット上のブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、電子掲示板、動画投稿サイト等、特定または不特定の人に情報共有を行うメディア。Facebook、Twitter、Instagram、LINE 等）への投稿・情報発信は、当事者の学生間では問題無いような書き込みでも、第三者との関わりにより、重大なトラブルになる可能性がある。公開した内容、事案によっては懲戒処分の対象となりうるため、下記に十分に注意すること。

誹謗や中傷になることを投稿しない。

不当に対象者の社会的評価を貶めた場合、名誉棄損として損害賠償の対象になりうる。

個人情報等に関する投稿をしない。

実名でなくても、所属、行動、居住地域など他の人の情報、写真、動画等により、個人を特定できれば個人情報となる。

法やモラルに反する内容を投稿しない。

悪ふざけで投稿した内容でも法やモラルに反していれば、第三者に発見・特定され、処罰の対象となりうる。

大学 や 職務上（アルバイト等）で知り得た情報を投稿しない。

大学 や 職務上で知り得た情報を無断で発信することは、守秘義務違反となりうる。また、講義資料等を SNS に投稿することや他のインターネットサイトにアップロードすることを禁止する。

2. 実習における注意事項

カルテの内容など患者情報を漏らしてはならないことは当然であるが、実習の内容、病院等の内部情報（建物、宿舍、指導医や医療関係者の様子など）を投稿しない。実習先施設においても重大な問題となる場合がある。指導内容についての感想などはたとえ良い内容であっても、信頼を損ねることもある。

学生間では問題ないような投稿であっても、個人情報の漏洩、名誉毀損、プライバシー侵害、守秘義務違反となる可能性があるため、

実習にかかわる内容についてソーシャルメディアに投稿することは、個人の感想や関係者への謝辞等も含め、禁止とする。

2020年12月18日

カリキュラム企画・運営委員長

名古屋市立大学 医学部長

再（追）試験受験願用紙

医学部長 教育研究課長 教育研究課

担当
教授印

再（追）試験受験願

令和 年 月 日

医学部長様

医学部 学年 番

学籍番号

氏名

令和 年 月 日施行された 学試験に不合格
() のため欠席) となったので、再（追）試験を受験したく
許可下さいますようお願いいたします。

(注) 再・(追) のいずれか不要の文字は抹消すること。
追試験の場合は、試験欠席届を併せて提出すること。

試験欠席届用紙

医学部長 教育研究課長 教育研究課長

担当
教授印

試験欠席届

令和 年 月 日

医学部長様

医学部 学年 番

学籍番号

氏名

下記のとおり、試験に欠席（しましたので・しますので）お届けします。

記

欠席の理由

欠席の日時

欠席の試験科目

(注) 欠席の理由は詳しく記入し、病気の場合は診断書、事故の場合は事故を証明する
書面をそえること。

追試験を希望する場合は、追試験受験願いを併せて提出すること。

成績疑問票取扱要綱

(目的)

第1条 この要綱は、成績疑問票の取扱いについて必要な事項を定めることにより、本学における成績評価の透明性を担保することを目的とする。

(疑問票)

第2条 成績疑問票は、別紙様式1とする。

(提出期間)

第3条 成績疑問票の提出期間については、教養教育推進機構（教養教育科目）、各学部及び各研究科（以下「学部等」という。）において適切な時期を定める。
2 申請場所については、学部等を所管する事務室（教養教育科目については教務課）とする。

(回答期間)

第4条 提出された成績疑問票に対しては、受け付けてから1週間以内に回答するものとする。

(周知方法)

第5条 提出期間等の学生への周知方法として、履修要項、掲示板及びポータルサイトへ掲載することとする。

(疑義)

第6条 回答の内容について疑義を申し出た学生に対しては、原則として担当教員が直接説明をすることとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、成績疑問票について必要な事項は、教養教育推進機構、各学部及び各研究科において定めるものとする。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

令和 年 月 日 提出

成 績 疑 問 票

(医学部専門科目用)

学部・学年	医学部	年
学籍番号		
氏 名		

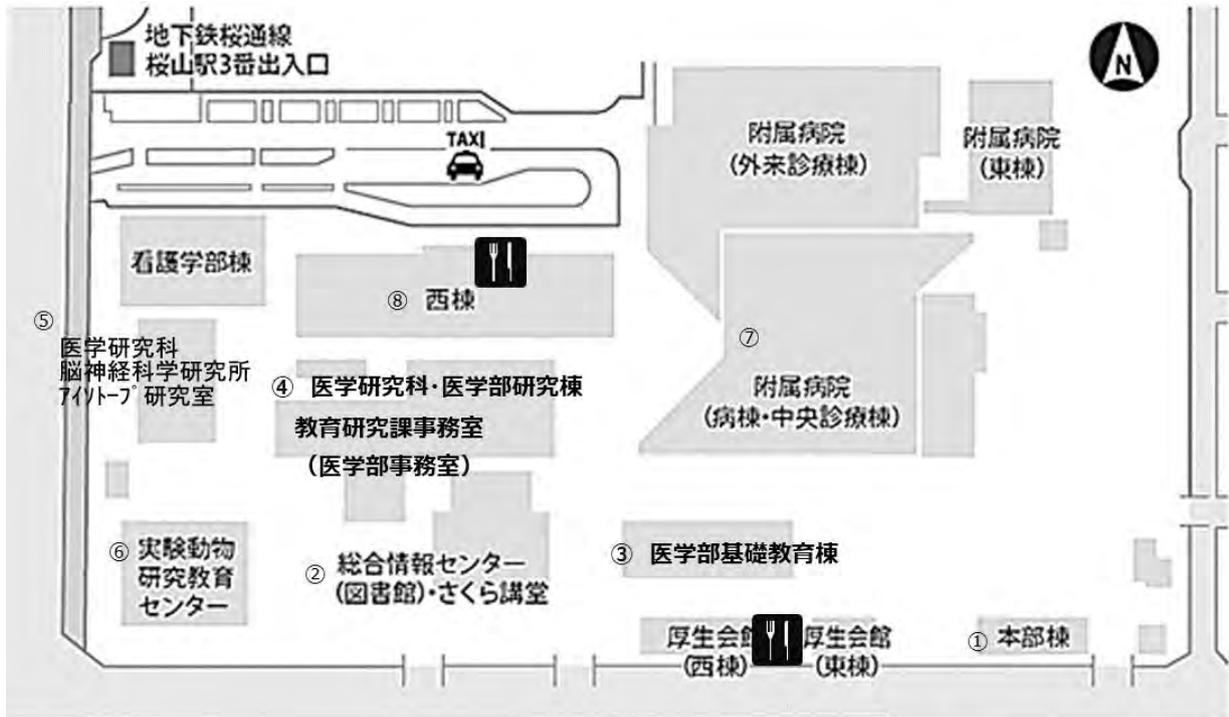
※太枠内は、必ず記入してください。

試験科目名	
担 当 教 員	
試験実施日	令和 年 月 日
内 容	

※学生は、以下の欄は記入しないでください。

回答者氏名	
回 答	

桜山 (川澄) キャンパス



学食・売店等



証明書自動発行機

①本部棟

- 4 F 多目的ホール施設課
- 3 F 学長室
総務課
監査室
- 2 F 学術課
財務課
- 1 F 入試課
企画広報課

②総合情報センター 川澄分館 (図書館)

- 2 F さくら講堂

③基礎教育棟

- 6 F 解剖学実習室
- 5 F 大学院セミナー室
講義室 3
- 4 F 微生物実習室
生体機能学実習室
- 3 F 情報処理実習室 (PC)
顕微形態実習室
- 2 F 講義室 1
講義室 2
セミナー室
談話室
- 1 F 生化・法医実習室
更衣室 (M1-3 ロッカー)

④研究棟

- | | | |
|---------------------|-----------------|-------|
| 11 F 特別会議室 | 講義室 A | 講義室 B |
| 10 F 環境労働衛生学 | 麻醉科学・集中治療医学 | |
| 10 F 公衆衛生学 | 精神・認知・行動医学 | |
| 9 F 細菌学 | 腎・泌尿器科学 | |
| 9 F ウイルス学 | 放射線医学 | |
| 8 F 薬理学 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | |
| 8 F 免疫学 | 加齢・環境皮膚科学 | |
| 7 F 細胞生理学 | 産科婦人科学 | |
| 7 F 脳神経生理学 | 視覚科学 | |
| 6 F 病態生化学 | 整形外科学 | |
| 6 F 細胞生化学 | 脳神経外科学 | |
| 5 F 実験病態病理学 | 消化器外科学 | |
| 5 F 臨床病態病理学 | 腫瘍・免疫外科学 | |
| 4 F 統合解剖学 | 循環器内科学 | |
| 4 F 機能組織学 | 新生児・小児医学 | |
| 3 F 法医学 | 消化器・代謝内科学 | |
| 3 F 神経内科学 | 呼吸器・免疫・アレルギー内科学 | |
| 3 F 心臓血管外科学 | | |
| 2 F 地域医療教育学 | 血液・腫瘍内科学 | |
| 2 F リハビリテーション医学 | 会議室 共同研究室 | |
| 2 F 更衣室 (M4-6 ロッカー) | 臨床セミナー室 | |
| 1 F 研究科長室 | 情報管理・教育センター | |
| 1 F 防災センター | 共同研究室 | |
| | 教育研究課事務室保健室 | |
| B1 F 中央監視室 | 法医解剖室 病理解剖室 | |

⑤脳神経科学研究所

- 医学研究科アイソトープ研究室
- 7 F 認知症科学
- 6 F グリア細胞生物学
- 5 F 神経発達症遺伝学
- 4 F 神経毒性学
- 3 F 神経発達・再生医学
- 2 F アイソトープ研究室
- 1 F アイソトープ研究室

⑥実験動物研究教育センター 病態モデル医学

⑦病棟・中央診療棟

- 7 F 口腔外科学
- 4 F 腎臓内科学
- 1 F 臨床薬剤学

⑧西棟

- 3 F 研修室1~12
多目的研修室
- 2 F 乳腺外科学
小児泌尿器科学
- 1 F 臨床シミュレーションセンター
サクラサイドテラス

医学部

シラバス・授業予定表

1 学年専門教育

開講年度	2021年度
科目名	総合医学コース・医学入門ユニット
専門・教養	専門
担当教員	
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	<p>医師の仕事は、病気に苦しむ患者さんの精神的・肉体的な治療にとどまらず、その発症の予防法や原因の探究、医療制度の改革、ヒトを含む生物の真理探究など、考える以上にそのカバーする領域は広く、M1学生は卒業後に様々な分野で活躍することが期待されている。活躍する人材には、その基盤となる人間力が求められる。</p> <p>本コースでは、様々な分野の第一線で活躍中の医師から、その仕事の内容を学び、また将来に対するアドバイスをいただき、“将来どんな医者として社会貢献していくのか”を考えるキャリアパスのための講義である。特に、各分野で活躍する医師の“人柄”を感じていただき、人間力を磨くきっかけとしていただきたい。</p>
キーワード	医療制度、禁煙教育、矯正医療、キャリアパス
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1d, 2a, 2e, 3a, 3c, 4a, 4d
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容の医学知識を理解できる。 ・第一線で活躍する医師の仕事を知り、共通する“人柄”を感じ人間力を高めるきっかけとする。 ・基本的な医学専門用語を日本語・英語で理解し、正確に記載できる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 A-1), A-2), A-6), A-7), A-9), B-1-4), B-1-5), B-1-7), B-1-8), B-1-9), B-4-1), C-5-8), D-9, E-2</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	講義テーマごとの講義
授業計画	<p>理事長／学長、医学研究科長、病院長、厚労省医系技官、愛知県医師会副会長、全国医学部長病院長会議男女共同参画推進委員会委員長、医師会男女共同参画メンバー、市立病院長を含む、各分野の第一線で活躍中の医師によるその専門分野の紹介、その仕事内容と経験に基づくM1学生へのメッセージを含んだ総合講義を行う。</p> <p>また、性行為感染症、タバコの害、Basic Life Supportなどの医学生として知っておくべき内容の講義も実施する。</p> <p>さらに、英語化されたグローバル時代に対応すべく医学英語の課題を自主学習し、単語試験により確認する。</p>
授業時間外の学修（準備学習を含む）	
成績評価方法	<p>70%以上の出席をもって本試験を受験することができる。ただし欠席・遅刻の場合には事前連絡すること。正当な理由なく欠席・遅刻の場合には本試験の受験資格を与えない。</p> <p>また、本試験に先立ち英単語試験を実施し、95%以上の得点をもって本試験の受験資格とする。また復習試験も随時実施し、良好な成績者は本試験を免除する。本試験は、講義内容の理解度と自己学習能を論述試験から判定する。</p>
教科書・テキスト	
参考文献	
履修上の注意事項	初回の講義で全体のオリエンテーションを行い、その際に単語試験用の課題を提示する。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	<p>連絡先：医学研究棟7階 脳神経生理学 飛田秀樹</p> <p>電話： 052-853-8134 メールアドレス：hhida@med.nagoya-cu.ac.jp</p>
実務経験を活かした教育の取組	
備考	試験は教養試験期間とは別に行う、日程は改めて1月下旬に知らせる
関連URL	

2021年度 第1学年

医学入門ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
理事長／学長	郡 健二郎 (泌尿器科医)
厚生省医官	大森 豊録 (元学長特別補佐)
東部医療センター名誉院長	津田 喬子 (全国医学部長病院長会議男女共同参画推進委員会前委員長)
奥田内科クリニック院長	奥田 宣明
大同病院副院長	水野 美穂子 (小児科主任部長)
藤田保健衛生大・教授	飯塚 成志
学習院女子大・准教授	土屋 有里子 (専門：日本文化、死生学)
公衆衛生学・教授	鈴木 貞夫
高度医療教育研究センター・教授	尾崎 康彦
脳神経生理学・教授	飛田 秀樹

月	日	曜日	時限	内 容 (仮題)	担当者
10	8	金	1	ガイダンス／医学情報処理(図書館(文献検索)実習)	飛田 秀樹
	8	金	2	ガイダンス／医学情報処理(図書館(文献検索)実習)	川澄分館職員
10	15	金	1, 2	プロフェッショナルリズム1：名市大医学生としての誇りと責務	郡 健二郎
10	22	金	1	休講	
			2	医学入門1：禁煙学習：タバコが与える人体への影響	鈴木 貞夫
10	29	金		休講(川澄祭準備)	
11	5	金	1	プロフェッショナルリズム2：医師としての働き方を考える	水野 美穂子
	5	金	2	プロフェッショナルリズム3：医師のキャリア継続と向上	津田 喬子
11	12	金	1, 2	保健医療1：この国の医療と福祉のかたちをつくる	大森 豊録
11	19	金	1, 2	医学入門2：「妊娠とホルモン」・「性行為感染症」	尾崎 康彦
11	26	金	1	医学入門3：BLS基礎(1)：AEDの原理	飛田 秀樹
		金	2	BLS基礎(2)：様々な場面での対応	飯塚 成志
12	3	金	1	医学入門4：医学・医療技術の歴史と生命倫理	飛田秀樹
		金	2	医学入門5：日本人の死生学	土屋 有里子
12	10	金	1, 2	保健医療2：開業医の仕事 ー医学と医療と人生とー	奥田 宣明
12	17	金	1	中間試験(単語確認試験を含む)	
		金	2	保健医療3：監察医制度について	法務省名古屋管区
1	7	金	1, 2	予備日	
1	14	金	1, 2	予備日	
1	21	金	1, 2	予備日	

開講年度	2021年度
科目名	社会医学コース・医学情報学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	佐藤泰正（NTT西日本東海病院院長、内科）、井出政芳（北津島病院内科）、片野広之（医学医療情報管理学准教授、情報管理教育センター、脳神経外科）、早川富博（厚生連足助病院院長、内科）、岸 真司（名古屋第二日赤医療情報部長、小児科）、宮治 眞（客員教授、内科）、佐野芳彦（作曲家、ト・ヘン取締役）＜順不同・敬称略＞
講義期間・曜日・時限	2022/2/3-8、木一火曜日3、4限

授業目的・目標	医学とは、疾病の予防・診断および治療を目的として、研究を行う学問である。このために医学は多くの情報を収集し意志決定を行うという情報処理過程を含んでいる。この意味において、基礎医学、臨床医学、社会医学を問わず、医学にはその基盤として情報科学が存在する。この情報科学は、一般の情報科学の医学的応用にとどまらず、医学と一体となってその基礎を形作っている固有の科学である。この科学が「医学情報学」と呼ばれている。「医学情報学」を理解することにより、専門化が進んだ医学・医療の総合化と、医療を行う上での効率化に貢献し、医学・医療の中で必要とされるあらゆる意志決定の基礎を涵養できる。(Outcome Competencies I-b, c, d, II-a, d, e, III-c, d, IV-a, d)
キーワード	情報管理/保険制度/カルテ論/機械学習/地域医療/解の探索/医療過誤
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域I-b, c, d, II-a, d, e, III-c, d, IV-a, d
学習到達目標	【学修到達目標】 医学・医療情報管理学（医学情報学）の基本理念と概略を総論として理解できる。将来の医療の担い手として必要な情報の入手、管理、利用および提供などに関する知識、実務、倫理を医学情報学の基礎として習得する。また、実際の臨床現場での応用について、診療情報の扱い方（I-b, c, II-d）、地域医療（III-d, B-1-7）、保険制度（III-c, B-1-8）などを含め様々なテーマから習得する。 【該当するモデルコアカリキュラム】 B-1-7、B-1-8
成績評価基準	合格：60点以上（学修到達目標を達成している）
授業概要	1年後期 16時間 1. 医学・医療情報管理学（医学情報学）総論 2. 医学情報学の基礎と応用 ・ 情報セキュリティ・保険制度 ・ 記号論・知識ベース・地域医療・遺伝的アルゴリズム・医用画像情報 ・ 医療過誤・音情報・ユニバーサルデザイン
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、下記参考文献などの関連箇所を参考にして該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。また、各講義の感想、自分の意見などを400字程度にまとめたものを、用件欄に氏名、学籍番号をいれて、その日のうちに med-info@med.nagoya-cu.ac.jp宛に送ること（小レポート、出席点 5x8=40）。
成績評価方法	講義は出席度、参加態度、質問頻度、質問内容および出席後の小レポートの提出、内容などで評価する（配分40%）。全講義終了後の医学情報に関する本レポート（テーマは自由選択。講義で扱ったテーマや、その他医学情報学に関するものであれば可。A4で3枚程度。配分60%）は単位認定試験の代替として医学部履修規程第15条に準ずる。レポートは内容の妥当性、独自性、適切な文献・資料の引用、自分の意見・論理の展開などで評価する。なお、講義中の私語など授業態度不良者、および指定したレポート提出期限を守らない者はすべて単位認定不可とする。
教科書・テキスト	特に指定しない
参考文献	医療情報「医学・医療編」「医療情報システム編」「情報処理技術編」日本医療情報学会 篠原出版新社
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。講義内容変更あり得るので、掲示に注意。講義中私語は厳禁。（守れない者は退室させる。授業態度不良者は単位認定不可とする。）
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	最後に学生と各講師との質疑応答・意見交換（ディベート）を行うので、積極的に発言すること（アクティブラーニング）。
連絡先・オフィスアワー	OH 平日9-17時、8286（脳神経外科医局、片野） eメール med-info@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	主に医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2021年度 第1学年

医学情報学ユニット 担当教員(順不同)

所属・職名	氏名
NTT西日本東海病院院長、 内科	佐藤泰正
厚生連足助病院院長、内科	早川富博
医学医療情報管理学准教 授、脳神経外科	片野広之
回精会 北津島病院 内科	井出政芳
名古屋第二赤十字病院医 療情報部長、小児科	岸 真司
客員教授、内科	宮治 真
作曲家、ト・ヘン取締役	佐野芳彦

R3(2021)年度 医学情報学授業計画(予定*)

月	日	曜日	時限	内 容(仮)	担当者(敬称略)
2022.2	3	木	3	医学情報学総論・情報セキュリティ	片野広之
2	3	木	4	医療記号論とエスノメソロジー	井出政芳
2	4	金	3	解の探索(遺伝的アルゴリズム)	岸 真司
2	4	金	4	知識ベース・高血圧処方支援システム～機械学習	佐藤泰正
2	7	月	3	医療の質、医療過誤	宮治 真
2	7	月	4	中山間部医療・医療福祉とICT	早川富博
2	8	火	3	医療保険制度	片野広之
2	8	火	4	音楽のユニヴァーサルデザイン	佐野芳彦

2022.2.3-8 第3限 13:00-14:30 第4限 14:40-16:10

講義会場:病院3階大ホール

* 講義内容変更あり得ますので、掲示に注意してください。

** 講義中私語厳禁。守れない人は退出させます。

基礎医学（2 学年 4 月～12 月）

開講年度	2021年度
科目名	解剖学コース・肉眼解剖学／組織学・発生学・神経解剖学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	植木孝俊、井上浩一、佐久間英輔、扇谷昌宏、森本浩之（以上、解剖学1） 鶴川真也、植田高史、熊本奈都子、柴田泰宏、島田昌一、池田一雄、石田雄介（以上、解剖学
講義期間・曜日・時限	解剖学講義および実習予定表を参照

授業目的・目標	解剖学の目的は、生物の構造を明らかにし、形態の上から生命の本態を追及することにある。特に肉眼によって剖出と観察を行う「肉眼解剖学（系統解剖学）」と、顕微鏡を用いて人体の微細な構造を明らかにする「顕微解剖学（組織学）」とに分けられ、医学生は両方を学ぶ必要がある。医学部における解剖学の講義は、主として、人体に関する解剖学「人体解剖学」を中心に行われ、医学を学ぶ上での重要な基礎となっている。
キーワード	肉眼解剖学、組織学、発生学、神経解剖学
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ia、Ic、Id
学習到達目標	近年、新しい研究方法の導入によって解剖学の上に新しい知識が限りなく加えられつつある。特に超微細構造の研究は、細胞生物学を中心とする生化学分野での研究領域拡大と相まって、生体内における諸種構造の機能的意義の解明を一層促進しており、今日では形態と機能を互いに分離して論ずることは不可能である。解剖学では、新しい研究の成果は歴史的に築き上げられた膨大な基礎的事実の上に付加され、その結果、解剖学の講義内容は日ごとに増加している。しかもそれらは、学生が自ら解剖し、あるいは検鏡し、よく考えることによってはじめて生きた知識となるのであって、解剖学を正しく理解するには、ただ単に各部位の名称を受動的に暗記するのではなく、人体の精巧な構造に興味を抱き、探究心に導かれた自主的な学習態度が必要である。 (学習到達目標) 1. 細胞の基本構造を説明できる。 2. 各組織・各臓器の構造と位置関係を肉眼レベル、光学顕微鏡レベル、電子顕微鏡レベルで説明できる。 3. 個体と器官が形成される発生過程を説明できる。 【該当するモデルコアカリキュラム】 C-1-1、C-2、D-1-1、D-2-1、D-3-1、D-4-1、D-5-1、D-6-1、D-7-1、D-8-1、D-9-1、D-10-1、D-11-1、D-12-1、D-13-1、D-14-1、E-7-1
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	(講義) 1. 序論 2. 発生学 3. 組織学総論 4. 運動器系 5. 循環器系 6. 消化器系 7. 呼吸器系 8. 泌尿生殖器系 9. 内分泌系 10. 神経系 11. 感覚器系 (実習) 1. 骨学実習 2. 肉眼解剖学実習 3. 組織学実習
授業計画	解剖学講義および実習予定表を参照のこと。第1回目の授業において、予習・復習について指示するので、その指示に従うこと。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考図書の該当箇所を予習してから講義に臨むこと。神経解剖学の教科書に関しては、間違った記述も散見されるので、最低3種類は目を通すことが望ましい。
成績評価方法	定期試験100%であるが、必要に応じてレポートを追加する場合がある。 授業・実習への出席回数、授業態度等も考慮する。また、解剖学1担当科目においては、試験成績に、諸実習でのスケッチ課題の出来も加味し総合的に評価する。
教科書・テキスト	(解剖学、肉眼解剖学実習、骨学実習) 解剖学講義 伊藤隆・高野廣子著、南山堂 解剖実習の手びき 寺田春水・藤田恒夫著、南山堂 骨学実習の手びき 寺田春水・藤田恒夫著、南山堂 ネッター解剖学アトラス 原書第6版 または 同電子書籍付セット版（ともに南江堂） (発生学) MOORE人体発生学 第8版 K.L. Moore・T.V.N. Persaud著、瀬口春道ら訳、医歯薬出版 ラングマン人体発生学 第11版 T.W. Sadler著、安田峯生ら訳、医学書院 ギルバート発生生物学 Scott F. Gilbert著、阿形清和・高橋淑子監訳、MEDSI ウォルパート発生生物学 L. Wolpertら著、武田洋幸ら監訳、MEDSI (神経解剖学) 神経解剖学講義ノート 寺島俊雄著、金芳堂 マーティン神経解剖学 ― テキストとアトラス 第4版 野村 巖ら監訳、西村書店 ハインズ神経解剖学アトラス 第4版 Duane E. Haines著、佐藤二美訳、MEDSI 機能解剖と斬る神経系疾患 中野 隆編著、メディカルプレス (組織学) 標準組織学（総論・各論）第5版 藤田尚男・藤田恒夫著、医学書院 現代の組織学 改訂第3版 山田安正著、金原出版 カラーアトラス機能組織学 原著第2版 Jeffrey B. Kerr著、河田光博ら監訳、医歯薬出版 diFiore人体組織図譜 原著第11版 V.P. Eroschenko著、相磯貞和 訳、南江堂 入門組織学 改訂第2版 牛木辰男著、南江堂 組織細胞生物学 原書第3版 内山安男翻訳、南江堂
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	月一金 8：45－17：15（事前に連絡すること） 電話：853-8121(解剖学1)・8126(解剖学2)
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2021年度 第2学年

解剖学コース 肉眼解剖学ユニット 担当教員

所属・職名
 統合解剖学分野 教授
 統合解剖学分野 准教授
 統合解剖学分野 講師
 統合解剖学分野 講師
 統合解剖学分野 博士研究員

氏名
 植木孝俊
 井上浩一
 佐久間英輔
 扇谷昌宏
 森本浩之

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	6	火	3	上肢1	佐久間
	"	"	4	上肢2	"
	7	水	3	上肢3・下肢1	"
	"	"	4	下肢2	"
	8	木	3	下肢3	森本
	"	"	4	背部	"
	9	金	3	胸部1 (呼吸器系)	井上
	"	"	4	頭頸部	"
	13	火	3	胸部2 (循環器系)	"
	"	"	4	胸部3 (循環器系)	"
	14	水	3	骨盤部1	扇谷
	"	"	4	腹部1 (内分泌系)	"
	15	木	3	骨盤部2	"
	"	"	4	骨盤部3	"
	20	火	3	腹部2 (消化器系)	植木
	"	"	4	腹部3 (消化器系)	"
	21	水	3	骨実習1 (組織学実習室)	全教員
	"	"	4	骨実習2 (組織学実習室)	"
	22	木	3	腹部4 (消化器系)	植木
	"	"	4	腹部5 (消化器系)、肉眼解剖学実習オリエンテーション	"
	27	火	3・4	肉眼解剖学実習1 (以降、解剖学実習室)	全教員
	28	水	3・4	肉眼解剖学実習2	"
5	11	火	3・4	肉眼解剖学実習3	"
	12	木	3・4	肉眼解剖学実習4	"
	14	金	3・4	肉眼解剖学実習5	"
	18	火	3・4	肉眼解剖学実習6	"
	19	水	3・4	肉眼解剖学実習7	"
	20	木	3・4	肉眼解剖学実習8	"
	21	金	3・4	肉眼解剖学実習9	"
	25	火	3・4	肉眼解剖学実習10	"
	26	水	3・4	肉眼解剖学実習11	"
	27	木	3・4	肉眼解剖学実習12	"
	28	金	3・4	肉眼解剖学実習13	"
6	1	火	3・4	肉眼解剖学実習14	"
	2	水	3・4	肉眼解剖学実習15	"
	3	木	3・4	肉眼解剖学実習16	"
	4	金	3・4	肉眼解剖学実習17	"
	8	火	3・4	肉眼解剖学実習18	"
	9	水	3・4	肉眼解剖学実習19	"
	10	木	3・4	肉眼解剖学実習20	"
	11	金	3・4	肉眼解剖学実習21	"
	15	火	3・4	肉眼解剖学実習22	"
	16	水	3・4	肉眼解剖学実習23	"
	17	木	3・4	肉眼解剖学実習24	"
	18	金	3・4	肉眼解剖学実習25	"
	22	火	3・4	肉眼解剖学実習26	"
	23	水	3・4	肉眼解剖学実習27	"
	24	木	3・4	肉眼解剖学実習28	"
	29	火	3・4	肉眼解剖学実習29	"
	30	水	3・4	肉眼解剖学実習30 (脳実習)	解剖学2担当
7	1	木	3・4	肉眼解剖学実習31	"
	2	金	3・4	肉眼解剖学実習32、納棺	" / 全教員
	12	月	1・2	解剖学1本試験	
10	19	火	3・4	解剖感謝式	
11	22	月	3・4	解剖学1再試験	

2021年度 第2学年

解剖学コース 組織学・発生学・神経解剖学 担当教員

所属・職名
 機能組織学分野 教授
 機能組織学分野 准教授
 機能組織学分野 講師
 機能組織学分野 助教
 大阪大学大学院 医学系研究科 教授
 大阪市立大学大学院 医学研究科 教授
 東北医科薬科大学 医学部 教授

氏名
 鶴川 真也
 植田 高史
 熊本 奈都子
 柴田 泰宏
 島田 昌一
 池田 一雄
 石田 雄介

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者	
4	7	水	1・2	組織学総論(1)・(2)	柴田 泰宏	
	8	木	1	組織学総論(3)	柴田 泰宏	
	8	木	2	神経解剖学(1)	熊本 奈都子	
	9	金	1・2	組織学実習(1)	全教員	
	14	水	1	組織学総論(4)	熊本 奈都子	
	14	水	2	神経解剖学(2)	鶴川 真也	
	15	木	1	発生学総論(1)	植田 高史	
	15	木	2	神経解剖学(3)	鶴川 真也	
	16	金	1・2	組織学実習(2)	全教員	
	21	水	1	感覚器(1)	熊本 奈都子	
	21	水	2	神経解剖学(4)	鶴川 真也	
	22	木	1	発生学総論(2)	植田 高史	
	22	木	2	神経解剖学(5)	鶴川 真也	
	23	金	1・2	組織学実習(3)	全教員	
	28	水	1	発生学各論(1)	植田 高史	
	28	水	2	神経解剖学(6)	鶴川 真也	
	30	金	1・2	組織学実習(4)	全教員	
	5	12	水	1・2	感覚器(2)・(3)	石田 雄介
		14	金	1・2	組織学実習(5)	全教員
19		水	1・2	神経解剖学(7)・(8)	島田 昌一	
21		金	1・2	組織学実習(6)	全教員	
26		水	1	発生学各論(2)	植田 高史	
26		水	2	感覚器(4)	鶴川 真也	
28		金	1・2	組織学実習(7)	全教員	
6		2	水	1	発生学各論(3)	植田 高史
	2	水	2	神経解剖学(9)	鶴川 真也	
	4	金	1・2	組織学実習(8)	全教員	
	9	水	1	発生学各論(4)	植田 高史	
	9	水	2	神経解剖学(10)	鶴川 真也	
	11	金	1・2	組織学実習(9)	全教員	
	16	水	1・2	組織学実習(10)	全教員	
	18	金	1・2	組織学実習(11)	全教員	
	23	水	1・2	組織学実習(12)	全教員	
	30	水	3・4	肉眼解剖学実習(30)	全教員	
7	1	木	3・4	肉眼解剖学実習(31)	全教員	
	2	金	3・4	肉眼解剖学実習(32)	全教員	
	7	水	1・2	組織学実習(13)	全教員	
	8	木	3・4	組織学実習(14)	全教員	
	13	火	3・4	組織学実習(15)	全教員	
	14	水	1・2	組織学実習(16)	全教員	
	15	木	3・4	組織学実習(17)	全教員	
	20	火	3・4	組織学実習(18)	全教員	
	21	水	1・2	組織学実習(19)	全教員	
	29	木	AM	組織学総論・各論・実習試験	全教員	
	9	3	金	3・4	中間試験	全教員
10	4	月	3・4	本試験	全教員	
10	19	火	PM	解剖感謝式		
11	29	月	3・4	再試験	全教員	

開講年度	2021年度
科目名	生化学コース・物質と代謝／分子と細胞ユニット
専門・教養	専門
担当教員	1) 物質と代謝ユニット：医学部；道川 誠、鄭 且均、辻田麻紀、鄒鶴、加藤洋一 非常勤講師：国立長寿医療センター；里 直行、渡辺 研 2) 分子と細胞ユニット：加藤洋一、岡本 尚、嶋田逸誠、朝光かおり、中西 真、中西圭子、石黒啓司
講義期間・曜日・時限	生化学講義および実習予定表を参照

授業目的・目標	卒業時コンピテンシー：領域1 1) 細胞を構成する細胞膜、細胞小器官の構造と機能を理解するとともに、遺伝子からタンパクへの流れに基づく生命現象を学び、遺伝子工学の手法と応用やヒトゲノムの解析を理解する。 2) 細胞の共通の属性である細胞周期、細胞骨格、タンパク質および脂質の細胞内輸送、さらには神経細胞等の特殊分化した細胞機能を理解する。さらに、細胞表面から核内にいたる情報伝達経路について詳細な分子機構を理解する。 3) 生体における糖質・脂質・タンパク質、酵素、ビタミン等の物質の構造と機能を学び、さらにこれらがどのように代謝と呼ばれる、合成・分解・変換の反応を受け、エネルギーを発生させ、生体の機能を発現させるのかを理解する。
キーワード	細胞膜、細胞小器官、遺伝子、細胞周期、代謝、糖質、脂質、タンパク質、酵素、ビタミン
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】領域1a, 1c, 1d
学習到達目標	<p>【細胞の構造と機能 (C-1-1, C-2-1)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 細胞の構造と細胞小器官の機能を説明できる。 2) 細胞内のエネルギー変換を説明できる。 3) 細胞骨格の構造と機能を概説できる。 4) アクチンフィラメント系による細胞運動を説明できる。 5) 細胞同士の接着と結合様式を説明できる。 6) 細胞膜の構造と細胞膜を介する物質の能動・受動輸送過程を概説できる。 7) 細胞膜を介する分泌と吸収の過程を説明できる。 8) 細胞内輸送システムを説明できる。 9) 受容体を介する細胞内シグナル伝達の過程と機能を概説できる。 10) 細胞周期と細胞死の過程を概説できる。 <p>【遺伝的多様性と疾患 (C-4-1)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Mendel の法則、ミトコンドリア遺伝、インプリンティング及び多因子遺伝の説明、ならびに遺伝型と表現型の関係を説明できる。 2) 染色体の構造を概説し、ゲノムと染色体及び遺伝子の構造と関係性、体細胞分裂及び減数分裂における染色体の挙動を説明できる。 3) 遺伝病についてその遺伝形式と病因を説明できる。 4) デオキシリボ核酸< DNA>からリボ核酸<RNA>への転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現及び調節 (セントラルドグマ) を説明できる。 5) デオキシリボ核酸の複製と修復を概説できる。 6) 体分析・DNA配列決定を含むゲノム解析技術を概説できる。 <p>【生体物質の代謝 (C-2-5)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 酵素の機能と調節を説明できる。 2) 解糖の経路と調節機構を説明できる。 3) クエン酸回路を説明できる。 4) 電子伝達系と酸化的リン酸化を説明できる。 5) 糖新生の経路と調節機構を説明できる。 6) グリコーゲンの合成と分解の経路を説明できる。 7) 五炭糖リン酸回路の意義を説明できる。 8) 脂質の合成と分解を説明できる。 9) リポタンパクの構造と代謝を説明できる。 10) タンパク質の合成と分解を説明できる。 11) アミノ酸の異化と尿素合成の経路を概説できる。 12) ヘム・ポルフィリンの代謝を説明できる。 13) ヌクレオチドの合成・異化・再利用経路を説明できる。 14) 酸化ストレス (フリーラジカル、活性酸素) の発生と作用を説明できる。 15) ビタミンの種類と作用を説明できる。 16) エネルギー代謝 (エネルギーの定義、食品中のエネルギー値、エネルギー消費量、推定エネルギー必要量) を理解し、空腹 (飢餓) 時、食後 (過食時) と運動時における代謝を説明できる。 <p>【代謝障害 (C-4-3)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 糖、タンパク質・アミノ酸、脂質代謝異常の病態を説明できる。 2) 核酸・ヌクレオチド代謝異常の病態を説明できる。 3) ビタミン、微量元素の代謝異常の病態を説明できる。 4) 肥満に起因する代謝障害の病態を説明できる。 <p>【加齢と老化 (E-8)】</p> <p>加齢と老化によって伴う神経変性疾患であるアルツハイマー病を説明できる。</p>

成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 細胞の構造と機能（C-1-1, C-2-1） 2. 遺伝的多様性と疾患（C-4-1） 3. 生体物質の代謝（C-2-5） 4. 代謝障害（C-4-3） 5. 加齢と老化（E-8）
授業計画	1) 物質と代謝ユニット：ガイダンス1、タンパク質7、糖質8、脂質6、酵素3、生体酸化2、ビタミン3、ヌクレオチド代謝1。 2) 分子と細胞ユニット：総論2、核酸1、遺伝学1、DNA複製1、染色体分配1、DNA修復1、転写と遺伝子発現2、RNAエディティング・マイクロRNA1、翻訳2、ゲノム科学1、バイオインフォマティクス1、膜輸送1、細胞内輸送2、細胞間情報伝達2、エネルギー変換1、細胞骨格1、細胞周期1、免疫基礎2、実験技術1、疾患4、学生発表4。 ※講義の一部を学生による講義形式の発表とし、相互に研鑽した内容について質疑を行う。 また、論文抄読により学生が自ら研鑽・理解した内容につきディスカッションする。
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	各ユニットごとに、筆記試験、実習口頭試問、実習レポートにより総合判定し、60%の理解度を達成したものを合格とする。
教科書・テキスト	教員より配布されるプリントが各講義の中心となる。参考テキストとして適宜、以下の生化学・分子生物学のテキストを利用すること。 （物質と代謝） ハーバー・生化学（丸善出版事業部）、デブリン生化学－臨床の理解のために（丸善出版事業部） レーニンジャー・新生化学（廣川書店）、ヴォート・生化学（東京化学同人） ストライヤー生化学（東京化学同人）、イラストレイテッド生化学（丸善出版事業部） （細胞と情報伝達）（遺伝と遺伝子） 細胞の分子生物学（教育社）、分子細胞生物学（東京化学同人）、遺伝医学（羊土社）
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	生化学は、分子生物学を含む広範な領域をカバーしているため暗記中心では対応できない。内容の理解を第一に。理解できないことは積極的に教員に質問すること。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	月～金 8:45-17:15（事前に連絡すること） Tel:853-8139（病態生化学） 853-8146（細胞生化学）
実務経験を活かした教育の取組	
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。授業時間外の学習については、講義内容を十分に理解するために、配布されたプリントや上に記載したテキスト等にあたり、授業に関連した箇所を掘り下げて学習すること。
関連URL	

生化学コース 物質と代謝ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 神経生化学分野・教授	道川 誠
医学研究科 細胞生化学分野・教授	加藤洋一
医学研究科 神経生化学分野・准教授	鄭 且均
医学研究科 神経生化学分野・准教授	鄒 鞏
医学研究科 神経生化学分野・講師	辻田麻紀
国立長寿医療研究センター・客員教授	里 直行
国立長寿医療研究センター・客員准教授	渡辺 研

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	6	火	1	ガイダンス	道川
4	6	火	2	酵素1(酵素の分子構造と機能、レーニンジャー新生化学第5版(上)、p267-p283参考、授業日までに予習しておく)	鄭
4	12	月	3	糖質1(代謝概観と糖質の消化・吸収、講義までにカラー生化学p315-323、イラストレイテッド生化学p101-107を予習する)	鄒
4	12	月	4	脂質1(リップスコット・イラストレイテッド生化学(LC), 15章)	辻田
4	13	火	1	タンパク質1(アミノ酸とペプチド、タンパク質の構造)	道川
4	13	火	2	酵素2(酵素の反応速度と阻害物質1、レーニンジャー新生化学第5版(上)、p283-p338参考、授業日までに予習しておく)	鄭
4	19	月	3	糖質2(解糖、講義までにイラストレイテッド生化学p111-131を予習する)	鄒
4	19	月	4	脂質2(ハーバー・イラストレイテッド生化学(IH), 22,23,25章)(LC, 16章)	辻田
4	20	火	1	タンパク質2(タンパク質の分離・精製・解析法)	道川
4	20	火	2	酵素3(酵素の反応速度と阻害物質2、レーニンジャー新生化学第5版(上)、p283-p338参考、授業日までに予習しておく)	鄭
4	26	月	3	糖質3(TCA回路、講義までにイラストレイテッド生化学p133-141、p89-95を予習する)	鄒
4	26	月	4	脂質3(LC, 16章)(IH, 22, 23章)	辻田
4	27	火	1	タンパク質3(アミノ酸、タンパク質の合成、輸送)	道川
4	27	火	2	ビタミン1(ビタミン一般論、ハーバー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	10	月	3	糖質4(糖新生と血糖の調節、講義までにイラストレイテッド生化学p146-153、ハーバー生化学p194-203を予習する)	鄒
5	10	月	4	ビタミン2(水溶性ビタミン、ハーバー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	11	火	1	タンパク質4(タンパク質の機能1)	渡辺(客員准教授)
5	11	火	2	生体酸化1(医科生化学 4章1-4)	辻田
5	13	木	1	糖質5(グリコーゲン代謝と単糖、二糖の代謝、講義までにイラストレイテッド生化学p155-177を予習する)	鄒
5	13	木	2	ビタミン3(脂溶性ビタミン、ハーバー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	17	月	3	糖質6(ペントースリン酸経路とNAPDH、講義までにイラストレイテッド生化学p179-191を予習する)	鄒
5	17	月	4	脂質4(IH, 24章)(LC, 17章)	辻田
5	18	火	1	タンパク質5(タンパク質の機能2)	道川
5	18	火	2	生体酸化2(医科生化学 4章5)	辻田
5	20	木	1	糖質7(グリコサミノグリカン、講義までにイラストレイテッド生化学p193-201を予習する)	鄒
5	20	木	2	ヌクレオチド代謝	加藤
5	24	月	3	糖質8(糖タンパク質、講義までにイラストレイテッド生化学p201-209を予習する)	鄒
5	24	月	4	脂質5(IH, 26章)(LC, 18章)	辻田
5	25	火	1	タンパク質6(タンパク質・アミノ酸の分解、尿素回路)	道川
5	25	火	2	脂質6(ヴォート生化学, 25章)	辻田
5	27	木	2	タンパク質7(タンパク質代謝と老化・疾患)	里(客員教授)

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
7	26	月	3,4	物質と代謝ユニット 筆記試験(本試験)	
11	25	木	3,4	物質と代謝ユニット 筆記試験(再試験)	

生化学コース 分子と細胞ユニット 担当教員

所属・職名
 細胞生化学分野・教授
 細胞生物学分野・講師
 細胞生物学分野・講師
 細胞生物学分野・助教
 免疫学・講師
 免疫学・講師
 非常勤講師(名市大・医・名誉教授)
 非常勤講師(東大医科研・教授)
 非常勤講師(愛知県医療療育総合センター)
 非常勤講師(岐阜医科大・保・教授)

氏名
 加藤洋一
 二宮裕将
 嶋田逸誠
 橋本寛
 今井優樹
 志馬寛明
 岡本尚
 中西真
 中西圭子
 石黒啓司

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	1	火	1	予備日	
	1	火	2	分子生物学総論	加藤
	3	木	1	予備日	
	3	木	2	核酸とその構造	中西(圭)
	7	月	3	クロマチン構造と基本転写因子	二宮
	7	月	4	遺伝子発現制御機構:転写の活性化と抑制	二宮
	8	火	1	予備日	
	8	火	2	スプライシング・RNAエディティング・マイクロRNA	加藤
	10	木	1	翻訳1	橋本
	10	木	2	翻訳2および翻訳後修飾	橋本
	14	月	3	ゲノム科学	岡本
	14	月	4	バイオインフーマティクス	岡本
	15	火	1	DNAの複製と再構成	加藤
	15	火	2	DNA修復機構	加藤
	17	木	1	基礎遺伝学	加藤
	17	木	2	染色体分配	加藤
	21	月	3	病気と遺伝子	石黒
	21	月	4	病気と遺伝子	石黒
	22	火	1	細胞生物学総論	加藤
	22	火	2	細胞周期と細胞死	加藤
	24	木	1	膜構造と膜輸送	加藤
	24	木	2	細胞骨格	加藤
	28	月	3	ガンと生化学	中西(真)
	28	月	4	ガンと生化学	中西(真)
	29	火	1	細胞内タンパク輸送	嶋田
	29	火	2	細胞内タンパク輸送(核、ミトコンドリア)	嶋田
7	1	木	1	エネルギー変換:ミトコンドリア	加藤
	1	木	2	シグナルと転写	加藤
	5	月	3	免疫学の基礎(1)	今井
	5	月	4	免疫学の基礎(2)	志馬
	6	火	1	情報伝達と発生	加藤
	6	火	2	組換えDNA 実験法の原理	加藤
	8	木	1	学生発表	
	8	木	2	学生発表	
	13	火	1	学生発表	
	13	火	2	学生発表	
	20	火	1	予備日	
	20	火	2	予備日	

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	31	火	2	生化学実習(分子生物学編) 総論と各論	全教員
9	6	月	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	7	火	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	8	水	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	9	木	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	14	火	1, 2	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	15	水	1, 2	生化学実習(分子生物学編) 実習試験	全教員
	27	月	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	28	火	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	29	水	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	30	木	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
10	5	火	1, 2	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	6	水	1, 2	生化学実習(分子生物学編) 実習試験	全教員

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	18	月	3, 4	分子と細胞ユニット 筆記試験	
12	2	木	3, 4	分子と細胞ユニット 再試験	

開講年度	2021年度
科目名	生理学コース・植物的機能系／動物的功能系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飛田秀樹、橋谷 光、田尻直輝、清水健二、三井 烈、高野博充、中森裕之、上野新也、瀬尾由広、福田道雄、富永真琴、田中謙二、近藤高史
講義期間・曜日・時限	講義・実習予定表を参照

授業目的・目標	生理学では、生体の正常な機能を細胞、組織、器官の各レベルで理解し、それらが統合され個体として機能している仕組みを学修する。断片的な知識習得にとどまることなく系統的に学習することにより、生体機能制御系が有機的に連関していることを理解し、生命現象の精巧かつ巧妙な仕組みを実感してもらいたい。臨床医学で学ぶ様々な疾病は、正常な生体機能が損なわれた状態であることから、生理学は臨床医学を理解するために不可欠な基盤となっている。
キーワード	平滑筋収縮、筋肉の可塑性、情動形成、運動機構
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1c, 1d
学習到達目標	講義の各項目で学習する生理機能について、分子、細胞、組織、器官それぞれのレベルで理解し、説明できるようにする。その上で、各生理機能の生命機能の中での位置づけや役割などを考察し、他の生理機能との関連や生命体としての統合を説明できるようにする。 【該当するモデルコアカリ】 C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-5-1, C-5-2, C-5-3, C-5-4, C-5-5, C-5-7, D-1, D-4, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9, D-10, D-12, D-13, D-14, E-7
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	
授業計画	動物的功能系ユニットと植物的機能系ユニットに分け、講義・実習を行う。 講義: パワーポイント、配布資料、板書などにより生理機能を解説する。 実習: 全体を8グループに分け、各グループが全て8項目について実習(終日)を行い、日を改めて実習内容についての発表・討議を行い、レポートを提出する。 4月以降順次講義を行い、実習関連項目の講義終了後(9月以降)に実習を行う。講義は、生理学の主要な分野について概説し、自主学習するための指針を与える。実習では、生体および摘出標本を用いて生理活動を体験しながら、講義で学修した内容の理解を深める。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義: 授業計画表を確認の上、あらかじめテキスト(参考文献)で該当項目を予習してから受講することが不可欠であり、講義終了後には小テストを実施して理解度を確認する。質問は講義後速やかに行って問題点を解決し、復習して学修内容を定着させることが重要である。 実習: 対応する講義内容を十分に復習、理解してから参加する必要がある。実習から討論まで、討論からレポート提出までの期間に各人およびグループで十分な考察と討議を行うことにより、理解を深めて定着させることが可能となる。
成績評価方法	夏休み明けに実施する両ユニット合同中間試験、講義・実習終了後に実施する各ユニット毎の期末試験を実施する。おおよその配点比率は出席・実習態度(10%程度)、中間試験(30%程度)、期末試験(60%程度)とするが、これらを総合的かつ客観的に判定し、M2における生理学について、必要な学習理解度と学習姿勢に達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	標準生理学 第9版 医学書院 Textbook of Medical Physiology 13th Edition Guyton & Hall, Elsevier 2018
参考文献	
履修上の注意事項	実習は実験動物や人体を使用し、補講が困難である。従って、受講できない場合や実習態度に問題がある場合は、翌年に再受講(留年)することになるので真摯な態度で実習に臨むこと。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	研究棟7階西側(植物的機能系ユニット:853-8131; 動物的功能系ユニット:853-8136) 質問に際しては、まず自ら理解する努力を十分に行うこと。講義のリポートや解答例の添削は行わない。必ず事前にメール等(大学ホームページ参照)で担当教員にアポイントを取ること、またメールでの質問・回答を活用すること。
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2021年度 第2学年

生理学コース 植物的機能系ユニット 担当教員

所属・職名
 細胞生理学 教授
 脳神経生理学 教授
 細胞生理学 講師
 細胞生理学 助教
 脳神経生理学 教授
 細胞生理学 助教
 循環器内科 准教授
 増子記念病院

氏名
 橋谷 光
 飛田秀樹
 三井 烈
 高野博充
 上野新也
 中森裕之
 瀬尾由広
 福田道雄

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	12	月	1	オリエンテーション	飛田
4	19	月	1	腎1	高野
4	26	月	1	腎2	高野
5	10	月	1	腎3	高野
5	17	月	1	腎4	高野
5	24	月	1	酸塩基1	高野
5	31	月	1	酸塩基2	高野
6	7	月	1	心臓1	橋谷
6	14	月	1	心臓2	橋谷
6	21	月	1	心臓3	橋谷
6	28	月	1	心臓4	橋谷
7	2	金	1	血管	三井
7	5	月	1	循環1	橋谷
7	7	水	3	循環2	橋谷
7	9	金	1	微小循環	三井
7	14	水	3	特殊循環	三井
7	14	水	4	呼吸1	飛田
7	15	木	1	呼吸2	飛田
7	15	木	2	平滑筋1	三井
7	16	金	1	平滑筋2	三井
7	16	金	3	呼吸3	飛田
7	19	月	1	平滑筋3	三井
7	19	月	2	血液1	橋谷
7	19	月	3	消化管1	中森
7	19	月	4	血液2	橋谷
7	21	水	3	血液3	橋谷
7	27	火	1	自律神経	上野
7	27	火	2	消化管2	中森
8	30	月	3~4	生理学 中間試験	全教員
9	1	水	1	実習説明	全教員
9	1	水	2	内分泌1	飛田
9	2	木	1	内分泌2	飛田
9	2	木	2	消化吸収1	中森
9	10	金	1	内分泌3	飛田
9	10	金	2	消化吸収2	中森
9	10	金	3	特別講義 (心臓)	瀬尾
9	10	金	4	特別講義 (腎臓)	福田
9	13	月	2	細胞リズム	橋谷
9	13	月	3	排尿機能	橋谷
9	16	木	1~4	実習1	全教員
9	17	金	1~4	実習2	全教員
9	21	火	1~4	実習3	全教員
9	22	水	1~4	実習4	全教員
9	24	金	1	実習討論1	全教員
9	24	金	2	実習討論2	全教員
9	24	金	3~4	筋肉の可塑性	橋谷
10	1	金	1	実習討論3	全教員
10	1	金	2	実習討論4	全教員
10	7	木	4	内分泌4	飛田
10	8	金	2	内分泌5	飛田
10	12	火	1~4	(実習 予備日)	
10	20	水	1~4	実習5	全教員
10	21	木	1~4	実習6	全教員
10	22	金	1~4	実習7	全教員
10	25	月	1~4	実習8	全教員
10	26	火	1~4	(実習 予備日)	
10	27	水	1	実習討論5	全教員
10	27	水	2	実習討論6	全教員
10	28	木	1	実習討論7	全教員
10	28	木	2	実習討論8	全教員
11	8	月	3~4	植物生理 本試験	全教員
12	8	水	3~4	植物生理 再試験	全教員

2021年度 第2学年

生理学コース 動物的功能系ユニット 担当教員

所属・職名

脳神経生理学 教授
 細胞生理学 教授
 脳神経生理学 准教授
 脳神経生理学 講師
 細胞生理学 講師
 脳神経生理学 助教
 細胞生理学 助教
 細胞生理学 助教
 自然科学研究機構 生理学研究所 教授
 慶応義塾大学 准教授
 味の素株式会社 イノベーション研究所

氏名

飛田秀樹
 橋谷 光
 田尻直輝
 清水健史
 三井 烈
 上野新也
 高野博充
 中森裕之
 富永真琴
 田中謙二
 近藤高史

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	12	月	1	オリエンテーション／膜	飛田
4	12	月	2	興奮1	田尻
4	19	月	2	興奮2	田尻
4	26	月	2	チャネル	田尻
5	10	月	2	シナプス	上野
5	17	月	2	骨格筋1	橋谷
5	24	月	2	骨格筋2	橋谷
5	31	月	2	体性感覚	飛田
6	7	月	2	視覚1	清水
6	14	月	2	視覚2	清水
6	21	月	2	視覚3	清水
6	28	月	2	聴覚	清水
7	2	金	2	脳機能	田尻
7	5	月	2	平衡覚	清水
7	7	水	4	運動1	田尻
7	9	金	2	運動2	田尻
7	16	金	2	運動3	田尻
7	16	金	4	基底核	上野
7	21	水	4	小脳	上野
8	30	月	3~4	生理学 中間試験	全教員
8	31	火	3~4	《行動科学》	
9	1	水	1	実習説明	全教員
9	1	水	3~4	《行動科学》	
9	13	月	1	脳の発生	清水
9	13	月	4	口腔生理	飛田(横山)
9	16	木	1~4	実習1	全教員
9	17	金	1~4	実習2	全教員
9	21	火	1~4	実習3	全教員
9	22	水	1~4	実習4	全教員
9	24	金	1	実習討論1	全教員
9	24	金	2	実習討論2	全教員
10	1	金	1	実習討論3	全教員
10	1	金	2	実習討論4	全教員
10	7	木	1~2	(生理学 予備)	
10	7	木	3	大脳皮質	田尻
10	8	金	1	辺縁系	田尻
10	8	金	3~4	特別講演「味覚」	近藤
10	11	月	2	記憶	田尻
10	11	月	3~4	脳研究	飛田
10	12	火	1~4	(実習 予備日)	
10	13	水	1	概日リズム	清水
10	13	水	2	視床下部	飛田
10	13	水	3~4	特別講演「TRIP」	富永
10	14	木	2	体温調節	飛田
10	14	木	3~4	特別講演「光刺激」	田中
10	20	水	1~4	実習5	全教員
10	21	木	1~4	実習6	全教員
10	22	金	1~4	実習7	全教員
10	25	月	1~4	実習8	全教員
10	26	火	1~4	(実習 予備日)	
10	27	水	1	実習討論5	全教員
10	27	水	2	実習討論6	全教員
10	28	木	1	実習討論7	全教員
10	28	木	2	実習討論8	全教員
11	15	月	3~4	動物生理 本試験	全教員
12	13	月	3~4	動物生理 再試験	全教員

開講年度	2021年度
科目名	総合医学コース・水平統合基礎ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飛田秀樹、橋谷 光、加藤洋一、植田高史、井上浩一、高野博充、片岡洋望、松川則之、伊藤 剛、島野泰暢
講義期間・曜日・時限	11月上旬に実施

授業目的・目標	生体の正常な構造と機能を、解剖学・生化学・生理学の講義と実習を通じて概ね理解できたM2終盤の時期に、臨床医学で学ぶ様々な疾病が、正常な生体機能が損なわれた状態であることを念頭に置きながら、生体機能が有機的に関連していることを横断的に理解する。
キーワード	虚血性心疾患治療の基礎的根拠、消化器疾病病態、人工透析のメカニズム、脳神経疾患の基礎
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1c, 1d
学習到達目標	臨床で重要となる疾患を視野に入れつつ、解剖・生化・生理学で学んだ知識を統合的に理解することを学習到達目標とする。 【該当するモデルコアカリ】 C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-5-1, C-5-2, C-5-3, C-5-4, C-5-5, C-5-7, D-1, D-4, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9, D-10, D-12, D-13, D-14, E-7
成績評価基準	合格：60点以上（学修到達目標を達成している）
授業概要	循環器系、消化器系、呼吸器系、内分泌系、腎泌尿器系、脳神経系に絞り、臨床で重要となる疾患のより深い理解に繋げるための解剖・生化・生理の統合的講義を行う。
授業計画	循環器系では、虚血性心疾患を理解するための解剖生理を統合的に講義する。 消化器系では、消化器疾患の病態を理解するための解剖生理を統合的に講義する。 呼吸器系では、気管支ぜんそくを中心とする呼吸器疾患を理解するための解剖生理を講義する。 内分泌障害では、パセドウ病と痛風に焦点を当てて生化学の統合的講義をする。 腎泌尿器系では、透析治療を理解するための解剖生理の統合的講義を行う。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	
成績評価方法	動物生理ユニットの試験と同じ日程時間内で、講義における理解度を試験する。 これにより到達目標を達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	各講義において紹介される
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	なし
連絡先・オフィスアワー	研究棟7階（脳神経生理学 飛田:853-8136）および 各担当教員 質問に際しては、まず自ら理解する努力を十分に行うこと。講義のリポートや解答例の添削は行わない。 必ず事前にメール等(大学ホームページ参照)で担当教員にアポイントを取ること、またメールでの質問・回答を活用すること。”
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2021年度 第2学年

水平統合基礎ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経生理学 教授	飛田 秀樹
細胞生理学 教授	橋谷 光
細胞生化学 教授	加藤 洋一
機能組織学 准教授	植田 高史
統合解剖学 准教授	井上 浩一
細胞生理学 講師	高野 博充
消化器・代謝内科学 教授	片岡 洋望
脳神経内科学 教授	松川 則之
心臓・腎高血圧内科学 助教	伊藤 剛
五条川リハビリテーション病院 院長	島野 泰暢

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
11	2	火	1	呼吸器系（呼吸器疾患の理解のための解剖・生理）	井上 浩一
			2	内分泌／代謝系（バセドウ病と痛風の病態理解）	加藤 洋一
			3	予備	
			4	予備	
11	4	木	1	腎泌尿器系（透析治療を理解するための解剖・生理）	高野 博充
			2	腎泌尿器系（透析治療の基礎的根拠）	島野 泰暢
			3	循環器系（虚血性心疾患を理解するための解剖・生理）	橋谷 光
			4	循環器系（虚血性心疾患治療の基礎的根拠）	伊藤 剛
11	5	金	3	脳神経系（脳神経疾患を理解するための解剖・生理）	飛田 秀樹
			4	脳神経系（脳神経疾患の臨床病態：脳卒中と神経変性疾患）	松川 則之
11	11	木	3	消化器系（消化器疾患を理解するための解剖・生理）	植田 高史
			4	消化器系（消化器疾患病態のメカニズム）	片岡 洋望
11	12	金	1	予備	
			2	予備	

開講年度	2021年度
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学コース コミュニティ・ヘルスケア基礎 (IPE)ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：赤津裕康、川出義浩、渋谷恭之、村上里奈 看護学部：山口知香枝 非常勤講師：五島明
講義期間・曜日・時限	2021/4/16～2021/4/30、第3, 4, 5金曜日、3～4限目

授業目的・目標	地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における多職種連携、認知症サポートの重要性を理解する
キーワード	地域包括ケアシステム、多職種連携
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	2b, 3a, 3b, 3c, 3d, 4a, 4b
学習到達目標	1. コミュニティヘルスケアの概念、歴史的背景等を理解し、地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および行政を含む多職種間の連携の必要性を説明できる。 2. 多職種の医療・保健・福祉専門職、患者・利用者、その家族、地域の人々など、様々な立場の人が違った視点から医療現場に関わっていることを理解する。 3. 在宅療養と入院または施設入所との関係について、総合的な考察ができる。 4. 認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人や家族を支援することができる。 【該当するモデルコアカリ】 A-7-1)、B-1-7) 地域医療への貢献、 B-4-1) 医師に求められる社会性、E-8-1) 老化と高齢者の特徴
成績評価基準	合格：60点以上（学修到達目標を達成している）
授業概要	本科目は、エイジング・イン・プレイス (AIP) 社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。 講義は6コマであるが、後半は1時間毎で講師は8名で対応する。授業時間内に名古屋市認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジリングを取得する。
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	準備学習は特に必要ない。幅広い教養に基づいて、将来を見据えた医師像を自分なりに形成出来る様、各方面の読書に励んでほしい。
成績評価方法	毎回授業後に提出するレスポンスシートを講義最後に回収 5点満点で7コマ分35点とする。最終講義の最後20分で75点満点の試験を行う。
教科書・テキスト	
参考文献	地域医療学入門（診断と治療社）
履修上の注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける（学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる）。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	本講座は座学主体でアクティブ・ラーニングの形式はとらない
連絡先・オフィスアワー	担当教員名：赤津、川出 連絡先：地域医療教育学 午前9時から午後5時（月～金） 内線：8537
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	平成25年度入学者から適用 「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。なお、「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」は教養教育科目「医薬看護連携地域参加型学習」として履修する。プログラム履修についての詳しい内容は担当教員に確認すること。
関連URL	

2021年度 第2学年

コミュニティ・ヘルスケア基礎(IPE)ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療教育学 教授(診療担当)	赤津裕康
名古屋市緑保健センター 所長	五島 明
口腔外科学 教授	渋谷恭之
看護学部 地域保健看護学 准教授	山口知香枝
地域医療教育学 特任准教授	川出義浩
リハビリテーション医学 助教	村上里奈
瑞穂区東部いきいき支援センター分室	小林紀子

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	16	金	3	コミュニティ・ヘルスケア概論	赤津裕康
			4	少子高齢化社会での行政と保健所の役割	五島 明
4	23	金	3-4	病院・地域における看護師・保健師の役割	山口知香枝
				病院・地域における歯科医師、歯科衛生士の役割	渋谷恭之
				病院・地域におけるリハビリテーションの役割	村上里奈
4	30	金	3-4	病院・地域における薬剤師の役割	川出義浩
				認知症サポータ養成講座	いきいき
				認知症の基本	赤津裕康

開講年度	2021年度
科目名	行動科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	上島通浩、植田典浩、榎原毅、松木太郎
講義期間・曜日・時限	2021/8/31～2021/9/1

授業目的・目標	【授業目的】人間の行動と心理の決定要因を理解し、治療的または予防的な介入効果を評価して患者・集団・社会の行動変容を引き出す力は医師に求められる資質のひとつである。このことを理解し、各科目を履修する上での意識付けを行う。 【授業目標】人間の行動の法則性を探求する行動科学の全体像や心理学的側面とともに、その各構成要素を医学専門課程のどこで学ぶかを、理解する。
キーワード	行動、動機付け、生涯発達、個人差、対人コミュニケーション、行動変容
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰのc 領域Ⅱのa 領域Ⅲのb 領域Ⅳのc
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 卒業までの各学年、各科目で行動科学のどのような構成要素に関する授業が行われるか、理解する。 2. 健康と疾病に関する行動を形作る、生涯発達の過程を説明できる。 3. 心理学的側面から動機付け、個人差、効果的な対人コミュニケーションを説明できる。 4. 個人の違いにあわせて集団や個人の健康行動への変容を引き出す方法論があることを理解できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2-1) 課題探求・解決能力、A-2-2) 学修の在り方、A-4-1) コミュニケーション、A-4-2) 患者と医師の関係、B-1-5) 生活習慣とリスク、B-1-6) 社会・環境と健康、B-4-1) 医師に求められる社会性、C-5-1) 人の行動、C-5-2) 行動の成り立ち、C-5-3) 動機付け、C-5-4) ストレス、C-5-5) 生涯発達、C-5-6) 個人差、C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、C-5-8) 行動変容における理論と技法、E-8-1) 加齢と老化
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 医師に行動科学が必要な理由と卒業までに学ぶ内容の全体像と各構成要素を説明する。 2. 生まれてから死ぬまでに人がたどる発達の過程を考察する。 3. 人の行動と心理を動機付け・個人差・対人コミュニケーションの側面から解説する。 4. 人や集団の健康行動や行動変容がどのように生じるか、公衆衛生学的視点から解説する。
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、本科目で授業を行う単元に相当する箇所の内容を、参考書「行動医学テキスト」または「Behavioral Science」 by B. Fedem で自習すること。
成績評価方法	成績評価は定期試験100%とし、動物生理の試験時間枠の中で行う（行動科学として100点満点、所要10～15分程度、多肢選択式または正誤問題）。行動科学の基礎的概念が理解できているかを評価する。
教科書・テキスト	参考図書：「行動医学テキスト」 日本行動医学会 編集 「Behavioral Science」 by B. Fedem
参考文献	必要に応じ、講義時間中に紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	担当教員：上島通浩 内線8171、電子メール eisei@med.nagoya-cu.ac.jp 10:00～16:00（月曜～金曜）会議等で不在の場合があるので、在室を確認してから来室することが望ましい。
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験または専門家としての社会実装経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	
関連URL	

2021年度 第2学年

行動科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
環境労働衛生学・教授	上島通浩
医学・医療教育学・講師	植田典浩
環境労働衛生学・准教授	榎原 毅
環境労働衛生学・特任助教	松木太郎

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	31	火	3	行動科学ガイダンス	上島通浩
			4	生涯発達	植田典浩
9	1	水	3	人の行動と心理-動機付け・個人差・対人コミュニケーション	松木太郎
			4	行動変容における理論と技法	榎原 毅
11	15	月	3・4	試験(動物生理の試験時間の中で実施)	

開講年度	2021年度
科目名	研究能力養成コース・学術論文入門ユニット
専門・教養	専門
担当教員	植木孝俊、鶴川真也、加藤洋一、飛田秀樹、大石久史、酒々井真澄、山川 和弘、澤本和延、齋藤貴志、鄭 且均、三井 烈、深町勝巳
講義期間・曜日・時限	10月下旬から12月上旬にかけ実施、不定期のため別紙日程表を参照

授業目的・目標	計10コマ程度の輪読会を実施する。期間内に、学術論文の検索法、科学的論文の読み方、実験手法の原理の理解、学術内容の論理的思考法を学ぶ。
キーワード	先端研究の理解、実験手法の理解、論理性の理解
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1b, 1c, 1d, 2d, 4d
学習到達目標	興味をもった医学の先端科学的内容を知ることを目的に、英語原著論文を抵抗なく手に取り、その内容を理解する為の基本的姿勢や知識を身につける。 【該当するモデルコアカリ】 B-1-1), B-1-3), C-1)
成績評価基準	合格:学修到達目標を達成している
授業概要	教員が提示するテーマの中から一つを選び、8~9人のグループに分かれ、そのテーマに関する総説および英語原著論文を輪読する。
授業計画	先ず最初に、図書館での文献検索やPubMedを用いた文献検索する事を学ぶ。その後、提示された中から興味をもったテーマを選び、担当教員のもとに8~9人のグループに分かれ、そのテーマに関する総説および英語原著論文を輪読する。最終的に、一つの論文を読み、その内容についてレポートを作成する。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	論文を読み調べ、事前に内容を軽く理解する必要がある
成績評価方法	ユニット終了後に関連論文を読み、その内容をまとめたレポートを作成する。レポート提出などを含めた総合判定を担当教員およびユニット責任者で行い、到達目標を達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	各教員により、総説または原著論文が随時提示される
参考文献	
履修上の注意事項	教員の都合により実施日が変更される可能性がある。その際には、教員と学生との話し合いの中で別途日程を調整することになる。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
連絡先・オフィスアワー	研究棟7階(脳神経生理学 飛田:853-8136) および 各担当教員
実務経験を活かした教育の取組	
備考	各グループ初回授業において、予習・復習について指示するので、その指示に従うこと。
関連URL	

2021年度 第2学年

研究能力養成コース・学術論文入門ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
統合解剖学	植木 孝俊
機能組織学	鵜川 眞也
神経生化学	鄭 且均
細胞生化学	加藤 洋一
細胞生理学	三井 烈
脳神経生理学	飛田 秀樹
病態モデル医学	大石 久史
神経毒性学	酒々井 真澄
神経毒性学	深町 勝巳
神経発達症遺伝学	山川 和弘
神経発達・再生医学	澤本 和延
認知症科学	齋藤 貴志

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
11	9	火	3	導入説明・文献検索法1	飛田
		火	4	文献検索法2	川澄分館
11	17	水	1-2	論文読解1	全教員
	19	金	1-2	論文読解2	全教員
	24	水	1-2	論文読解3	全教員
12	1	水	1-2	論文読解4	全教員
	3	金	1-2	論文読解5	全教員
	10	金	1-2	予備日	

臨床基礎医学

(2 学年 1 月～3 学年 12 月)

開講年度	2021年度
科目名	感染微生物コース・医動物学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	山崎小百合(免疫学 教授)、長谷川忠男(細菌学 教授)、今井優樹(免疫学 講師)、志馬寛明(免疫学 講師)、浦木隆太(免疫学 助教) 非常勤講師：改正恒康(和歌山県立医科大学 教授)、谷口(塩田)裕子(九段坂病院 部長)
講義期間・曜日・時限	2021年2月9日 ～ 3月2日

授業目的・目標	医動物学は人の感染症の原因となる原生动物および動物とそれによる疾病を研究する学問である。原虫および蠕虫感染症を取り扱う寄生虫学と、節足動物や脊椎動物が直接的、間接的に関与する主として取り扱う衛生動物学とからなる。本科目では寄生虫という生き物を理解するように努めると共に寄生虫疾患の病理、発症機序、診断、治療、疫学およびその予防に関する知識を習得する。また寄生虫疾患は発展途上国では重要な地位を占めており、今後いっそう重要となる発展途上国の医療に対する我が国の関わりの仕方やグローバル化に伴う輸入感染症の問題についても理解を深める。
キーワード	原虫類、蠕虫類、人獣共通寄生虫症、感染経路、治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a-d
学習到達目標	1. 原虫類・蠕虫類の分類および形態学的特徴を説明できる。 2. 寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を説明できる。 3. 寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を説明できる。 4. 日和見寄生虫症と寄生虫症の重症化を説明できる。 5. 各臓器・器官の主な寄生虫症を説明できる。 6. 人獣共通寄生虫症を説明できる。 7. 寄生虫症の診断、治療と予防の概要を説明できる。 【該当するモデルコアカリ】C-3-1) 生体と微生物、C-3-2) 免疫と生体防御、C-4-5) 炎症と創傷治癒、D-7) 消化器系、D-3) 皮膚系、E-2) 感染症、E-3) 腫瘍、E-4) 免疫・アレルギー
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 医動物総論 2. 条虫・吸虫感染症の診断と治療および疫学 3. 原虫感染症その診断と治療および疫学 4. 線虫感染症の診断と治療および疫学 5. 幼虫移行症の病理、診断、治療 6. 標本を見ながら医動物種の診断・治療の学習 【アクティブラーニング】 7. 寄生虫への免疫反応蚊が媒介するウイルス感染症 8. 臨床現場の医動物
授業計画	本年は新型コロナウイルス感染対策のため、オンライン講義を予定している。 2021年度医動物学講義予定を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 理解が不完全であった項目については、繰り返し復習して修得に努めること。講義・アクティブラーニング：本年は新型コロナウイルス感染対策のため、オンライン講義を予定しているため、予習・復習を各自でしっかりと行うこと。
成績評価方法	筆記試験(100)点満点 *筆記試験60点未満の場合、アクティブラーニング、授業参加度、授業態度、レポートを参考とする。全てを総合的に検討し、必要な理解度と学習姿勢に達した者を合格とする。
教科書・テキスト	寄生虫学テキスト 上村清、木村英作、金子明ら著 文光堂
参考文献	標準医動物学 石井明、鎮西康雄、太田伸生編、医学書院 図説人体寄生虫学 吉田幸雄著、南山堂 熱帯医学 竹田美文編、南山堂 国際保健医療学 日本国際保健医療学会編、杏林書院
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。実技実習がある場合は白衣を忘れないようにすること。 講義の録画、録音、写真撮影等をしないこと。講義資料は授業に出席している学生さんのためのものであるので、SNS、オンラインなどで拡散をしないこと。
履修者への要望事項	医動物学は臨床の現場でも遭遇するので、将来患者様の力になれるように積極的に真面目に学ぶこと。
アクティブ・ラーニング	本年は新型コロナウイルス感染対策のため、オンライン講義を予定している。可能な範囲で積極的に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：免疫学分野：浦木、志馬、今井、山崎 内線：8186、電子メール：immunol@med.nagoya-cu.ac.jp 月、水 12:00～16:00（事前に連絡すること）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員または免疫学を専門とする研究者としての経験を持つ教員が担当する。
備考	質問などがある場合は、必ず事前に上記の連絡先にオフィスアワーに連絡をとること。
関連URL	

医動物学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
免疫学分野・教授	山崎 小百合
細菌学分野・教授	長谷川 忠男
免疫学分野・講師	今井 優樹
免疫学分野・講師	志馬 寛明
免疫学分野・助教	浦木 隆太
和歌山県立医科大学・教授	改正 恒康
九段坂病院皮膚科・部長	谷口（塩田）裕子

医動物学ユニット 授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
2	9	火	1	医動物学総論	山崎
			2	医動物学各論(1)条虫、吸虫	改正
	18	木	1	医動物学各論(2)マラリア・トキソプラズマ	長谷川
			2	医動物学各論(3)線虫、幼虫移行症	今井
	25	木	1	医動物学各論アクティブラーニング(1)	山崎・ 志馬・浦木
			2	医動物学各論アクティブラーニング(2)	
3	2	火	1	寄生虫への免疫反応/蚊が媒介するウイルス感染症	志馬・浦木
			2	臨床現場の医動物	谷口・山崎

開講年度	2021年度
科目名	感染微生物コース・細菌学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	長谷川忠男、立野一郎、南 正明、井坂雅徳
講義期間・曜日・時限	1月7日から2月26日・月曜日・1-2限、木金曜日・3-4時限

授業目的・目標	(目的) 病原微生物のヒトへの侵襲を防ぎ、感染症の予防および診断、治療に役立てることができる。 (目標) 感染症が医学全般の中で占める位置および臨床医学との関連性を理解し、ヒトへの侵襲起こす病原微生物の基礎知識を修得する。
キーワード	細菌の生理、細菌の病原性、病原細菌の取り扱い、病原因子
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I
学習到達目標	1. 独立した生物である細菌そのものについて理解し説明できる。 2. これら細菌の病原性発現において発現してくる生物学的現象について理解し説明できる。 3. 感染症の診断、治療(抗菌剤)や予防(滅菌・消毒、ワクチン)について理解し説明できる。 4. 細菌の培養、形態観察、性状検査などについて理解し実施できる。 5. 病原性の強い細菌や真菌を含めて多くの病原体を使用して慎重な取扱法を習得する。 6. 学生各自の検体から菌を分離させて、身近な常在菌叢について認識する。 7. 生体に感染した場合に発生する複雑な現象について理解し説明できる。 8. 病原微生物のヒトへの侵襲すなわち感染症の治療について理解し説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 C-3-1), D-3, D-6, D-7, E-2-1), E-2-2), E-2-4), F-2-3)
成績評価基準	秀: 学修到達目標を越えたレベルを達成している 優: 学修到達目標を十分に達成している 良: 学修到達目標を達成している 可: 学修到達目標を最低限達成している
授業概要	(講義要目) 1. 細菌学総論 細菌の形態と微細構造、細菌の増殖と代謝 細菌の変異および遺伝子の伝達機構、細菌の病原性因子と生体の感染防御機構 抗菌薬の作用機構と薬剤耐性機構、常在細菌叢の役割と日和見感染症 臨床材料の採取法と細菌学的診断法 2. 細菌学各論 病原細菌の諸性質と感染症との関係 (実習要目) 1. 細菌学の実習 光学顕微鏡による細菌の形態観察、培地の作製法と純培養法・分離培養法 細菌の性状検査と分離同定法、抗菌薬の作用
授業計画	2021年度細菌学授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考図書の該当箇所を予習してから講義に臨むこと。 日頃から新聞や雑誌に掲載された細菌感染症(食中毒や院内感染を含む)に関する記事を読んでおくこと。記事の内容に不明な点がある場合は、参考図書等を利用して調べること。
成績評価方法	筆記試験(90%)、実習レポート(10%)提出
教科書・テキスト	なし
参考文献	病原微生物学 荒川直親・神谷 茂・柳 雄介編, 東京化学同人 標準微生物学 中込 治・神谷 茂編, 医学書院 医科細菌学 笹川千尋・林 哲也編, 南江堂 ブラック微生物学 Jacquelyn G. Black, 丸善 標準感染症学 齋藤 厚・那須 勝・江崎孝行編, 医学書院 現代微生物入門 南嶋洋一・水口康雄・中山宏明著, 南山堂 細菌の逆襲 吉川昌之介著, 中公新書 人はなぜ病院で感染するのか? 太田美智男著, NHK出版 微生物 vs. 人類 加藤延夫著, 講談社現代新書 戸田新細菌学 吉田真一・柳 雄介・吉開泰信編, 南山堂 新しい微生物学 大野尚仁・笹津備規編, 廣川書店 微生物学 今井康之・増澤俊幸編, 南江堂 微生物学 神谷 茂・河野 茂監訳, medical science international
履修上の注意事項	講義時に資料を配布する。遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	予備日に講義等を振り替えることがあるので、掲示に注意すること
アクティブ・ラーニング	実習の中で、それぞれの課題についてグループディスカッションをさせている。
連絡先・オフィスアワー	月～金 9:00-18:00 (事前に連絡すること)/内線8164, 8166
実務経験を活かした教育の取組	なし
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

感染微生物コース・細菌学ユニット担当教員

所属・職名	氏名
細菌学分野・教授	長谷川 忠男
細菌学分野・講師	立野 一郎
細菌学分野・講師	南 正明
細菌学分野・学内講師	井坂 雅徳

感染微生物コース・細菌学ユニット授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	7	木	3	細菌の構造、分類、増殖	長谷川
			4	細菌感染、常在菌、細菌感染症の検査と診断	長谷川
	8	金	3	細菌の遺伝学(1)	立野
			4	細菌の遺伝学(2)	立野
	14	木	3	抗生物質の作用機構と耐性菌	井坂
			4	生体防御機構と生体の反応	長谷川
	15	金	3	細菌の病原因子	長谷川
			4	院内感染、消毒・滅菌、食中毒、感染症予防法	長谷川
	18	月	1	細菌学各論(1):グラム陽性球菌(ブドウ球菌)	長谷川
			2	細菌学各論(2):グラム陽性球菌(レンサ球菌)	長谷川
	21	木	3	細菌学各論(3):有芽胞菌、グラム陽性無芽胞桿菌	長谷川
			4	細菌学各論(4):放線菌とその関連細菌	長谷川
	22	金	3	細菌学各論(5):無芽胞偏性嫌気性グラム陰性桿菌	井坂
			4	細菌学各論(6):グラム陰性球菌	井坂
	25	月	1	細菌学各論(7):スピロヘータ、レプトスピラ、らせん菌	井坂
			2	細菌学各論(8):マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	井坂
	28	木	3	細菌学各論(9):グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅰ	立野
			4	細菌学各論(10):グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅱ	立野
1	29	金	3	細菌学各論(11):グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅲ	立野
			4	細菌学各論(12):グラム陰性好気性桿菌	立野
2	1	月	1	細菌感染症(1)	南
			2	細菌感染症(2)	南
	4	木	3	実習(1) 培地作成・純培養法 1班	全教員
			4	実習(2) 手指・毛髪が付着細菌の培養 1班	全教員
	5	金	3	実習(3) グラム染色及び観察 1班	全教員
			4	実習(4) 手指・毛髪が付着細菌の染色及び観察 1班	全教員
	8	月	1	細菌感染症(3)	南
			2	細菌感染症(4)	南
	12	金	3	真菌(1)	長谷川
			4	真菌(2)	長谷川
	18	木	3	実習(5) 培地作成・純培養法 2班	全教員
			4	実習(6) 手指・毛髪が付着細菌の培養 2班	全教員
	19	金	3	実習(7) グラム染色及び観察 2班	全教員
			4	実習(8) 手指・毛髪が付着細菌の染色及び観察 2班	全教員
	22	月	1	ワクチン	井坂
			2	予備	
	25	木	3	実習(9) 培地作成・純培養法 3班	全教員
			4	実習(10) 手指・毛髪が付着細菌の培養 3班	全教員
2	26	金	3	実習(11) グラム染色及び観察 3班	全教員
			4	実習(12) 手指・毛髪が付着細菌の染色及び観察 3班	全教員

開講年度	2021年度
科目名	ウイルス学
専門・教養	専門
担当教員	田中靖人（熊本大学医学部消化器内科学・教授）、五十川正記（国立感染症研究所・室長）、尾曲克己（ウイルス学・助教）、河島圭吾（ウイルス学・助教）、岡本 尚（細胞分子生物学分野・名誉教授）、木村宏（名古屋大学医学部・教授）、杉山 真也（国立国際医療研究センター研究所・副プロジェクト長）
講義期間・曜日・時限	2020年1月7日 ～ 2月16日

授業目的・目標	ウイルスは固有の遺伝子しか持たず、自己増殖できず、細胞の増殖機構を利用してしか増殖できない生命体である。このウイルスの特性を学びまた病原体としての性質を分子レベルで理解する。また、ウイルス感染による各種疾患を学び、その予防法や治療法についても学習する。
キーワード	ウイルス、感染予防、治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a-d
学習到達目標	1. ウイルスの種類と特徴を理解し、説明できる。 2. ウイルスの増殖の仕方を理解し、説明できる。 3. ウイルス病の性質と特徴を理解し、説明できる。 4. ワクチンと抗ウイルス薬を理解し、説明できる。 【該当するモデルコアカリ】C-3-1) 生体と微生物、C-4-5) 炎症と創傷治癒、D-7 消化器系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	（講義要目） 1, ウイルス学総論 2, ウイルスの多様性 3, ウイルスと免疫 4, レトロウイルスとAIDSおよびATL 5, ワクチンと抗ウイルス薬 6, DNAウイルスとヘルペスウイルス 7, 新型コロナウイルス感染症 8, 呼吸器感染症ウイルス 9, 小児感染症ウイルス 10, 神経病原性ウイルス 11, 下痢症ウイルス （実 習）ウイルスの分離培養と同定
授業計画	2021年度感染微生物コース-ウイルス学授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。実習：事前にどのように実験を進めていくか教科書を熟読した上で、実習に臨むこと。また、実験終了後、得られた実験結果について、よく考察すること。
成績評価方法	筆記試験(100)点満点 筆記試験60点未満の場合、レポート提出率、授業参加度、授業態度などにより加点評価することがある。
教科書・テキスト	参考書 「微生物学」 畑中正一 嶋田甚五郎 編 文光堂 「標準微生物学」 平松啓一 監修 医学書院 「医科ウイルス学」 高田賢蔵 編 南江堂
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	現時点では予定がありませんが、検討中。
連絡先・オフィスアワー	電話(ウイルス学)：052-853-8191 E-mail(ウイルス学 河島)：(kkawa@med.nagoya-cu.ac.jp)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	講義終了時に、復習を兼ねた小テストを行うこともある
関連URL	

2021年度 第3学年

感染微生物コース・ウイルス学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
熊本大学医学部 消化器内科学講座・教授	田中 靖人
国立感染症研究所 免疫部第一室・室長	五十川 正記
ウイルス学分野・助教	尾曲 克己
ウイルス学分野・助教	河島 圭吾
細胞分子生物学分野・名誉教授	岡本 尚
名古屋大学医学部・教授	木村 宏
国立国際医療研究センター研究所 ゲノム医科学プロジェクト・副プロジェク	杉山 真也

感染微生物コース・ウイルス学ユニット 授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	7	木	1-2	ウイルス学入門	田中
	12	火	1-2	ウイルスの多様性	五十川
	14	木	1-2	ウイルスと免疫	五十川
	19	火	1-2	レトロウイルスとAIDSおよびATL	岡本
	21	木	1-2	ワクチンと抗ウイルス薬	田中
	26	火	1-2	DNAウイルスとヘルペスウイルス	木村
	28	木	1	新型コロナウイルス感染症	杉山
			2	呼吸器感染症ウイルス・小児感染症ウイルス・神経病原性ウイル	尾曲
2	2	火	1-2	下痢症ウイルス	河島
	15	月	1-2	ウイルスの分離培養と同定	教室員全員
	16	火	1-2	ウイルスの分離培養と同定	教室員全員
	16	火	3-4	ウイルスの分離培養と同定	教室員全員
4	12	月	3-4	ウイルス学本試験	教室員全員
5	24	月	1-2	ウイルス学再試験	教室員全員

開講年度	2021年度
科目名	免疫学コース・免疫学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学研究科免疫学： 山崎小百合、今井優樹、志馬寛明、浦木隆太 非常勤講師： 名古屋大学・国立がんセンター 西川博嘉、和歌山県立医科大学 改正恒康、星薬科大学 築地 信、 メッシーナ大学 Guido Ferlazzo、カロリンスカ研究所 Mikael Karlsson
履修期間・曜日・時限	2021年1月18日（月）～3月18日（木）月曜3-4時限 木曜1-4時限 金曜3-4時限
授業目的・目標	（目的）免疫とは生体にとって不可欠な生体防御機構である。免疫がどのように維持、調節されているのかを学ぶ。 （目標）生体防御反応における免疫系の分子の基礎、細胞免疫学的基礎を学び、それらの制御不全による病態の理解や 疾病の治療に対処しうる知識を身につける。
キーワード	自然免疫、獲得免疫、樹状細胞、制御性T細胞、免疫学的自己寛容
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a, I b, I c, I d, II a, III a, III b, IV a, IV b, IV c, IV d
学習到達目標	① 免疫系の一般特性；生体防御機構における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を説明できる。免疫反応における組織と細胞を説明できる。免疫学的自己寛容とその破綻を説明できる。自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。 ② 免疫反応の調節機構；抗原レセプターからのシグナルの調節機構を説明できる。サイトカイン、ケモカインの特徴を説明できる。Th1/Th2、Th17、Treg、CTL、NK、NKT、マクロファージ、樹状細胞、顆粒球が担当する機能が説明できる。 ③ 自己と非自己の識別に関与する分子とその役割；MHCクラスIとクラスIIの構造、抗原提示経路が説明できる。抗体、BCR、TCRの構造と反応様式を説明できる。T細胞活性化における副刺激分子の役割を説明できる。遺伝子再構成に基づく、多様性獲得の機構を説明できる。免疫寛容、免疫制御を概説できる。 ④ 疾患と免疫；ウイルス、細菌、寄生虫に対する免疫応答の特徴を説明できる。先天性および後天性免疫不全症を概説できる。自己免疫疾患の発症を概説できる。アレルギー発症の機序を概説できる。腫瘍免疫の特徴を概説できる。移植免疫の特徴を概説できる。最新の免疫学研究と治療の関わりを概説できる。 【該当するモデルコアカリ】 C-3-1) 生体と微生物、C-3-2) 免疫と生体防御、C-4-5) 炎症と創傷治癒、C-4-6) 腫瘍、D-1) 血液・造血器・リンパ系、D-3) 皮膚系、D-14) 耳鼻・咽喉・口腔系、E-2) 感染症、E-3) 腫瘍、E-4) 免疫・アレルギー、E-8) 加齢と老化
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	講義（全25回） ①免疫序論・概念・歴史 リンパ組織・免疫反応概論 ②生体防御機構1 ③生体防御機構2 補体系 ④自然免疫系・TLR ⑤樹状細胞 ⑥免疫担当細胞1（マクロファージ・顆粒球）⑦免疫担当細胞2（T、B、NK、NKT）⑧抗原提示・MHC・副刺激分子 ⑨B細胞の基礎・抗体産生 ⑩自己寛容 Treg ⑪T細胞分化・T細胞の機能とシグナル伝達 ⑫サイトカインの機能とシグナル伝達・接着分子 ⑬自己免疫疾患 ⑭腫瘍免疫 ⑮B細胞レパトア・B細胞の機能とシグナル伝達・接着因子 ⑯獲得免疫系・抗体の多様性・遺伝子再構成 ⑰アレルギー ⑱自然リンパ球 ⑲移植免疫・皮膚免疫・神経免疫・老化と免疫・免疫不全症 ⑳マクロファージ・B細胞 ㉑感染免疫 ㉒粘膜免疫・腸管免疫 ㉓アポトーシス・オートファジー・異物排除 ㉔遺伝子改変マウス・樹状細胞サブセット ㉕炎症とがん 実習（全2回） ①抗原抗体反応1・2 ②免疫細胞1・2・3・まとめ
授業計画	本年は新型コロナウイルス感染対策のため、オンライン講義を予定している。各講義中にオンラインで可能な範囲でアクティブラーニングを行う。2021年度免疫学授業計画表を参照。授業計画表を確認の上、参考図書該当箇所を予習して、講義に臨むことが望ましい。
授業時間外の学修（準備学習を含む）	講義・アクティブラーニング：本年は新型コロナウイルス感染対策のため、オンライン講義を予定しているため、予習・復習を各自でしっかりと行うこと。 実習：新型コロナウイルス感染対策状況に応じ、場合により、オンラインで行うこともある。授業の復習を行い、どのように実験を進めていくか理解をしておくこと。得られた実験結果について、よく考察すること。
成績評価方法	・定期試験 ・出席状況（実習は全2回なので、全て参加が必須であるが、本年は新型コロナウイルス感染対策のため体調不良の場合は、考慮するので連絡をすること。） ・アクティブラーニング・授業・実習へ積極的かつ誠実に参加をしているか ・レポートへの取組姿勢 ・免疫学主催の講演会への参加など 全てを総合的に検討し、M3免疫学について必要な理解度と学習姿勢に達した者を合格とする。
教科書・テキスト	参考図書： 免疫生物学 笹月健彦監訳、南江堂 JANEWAY'S IMMUNOBIOLOGY Kenneth Murphy & Casey Weaver著、南江堂 Cellular and Molecular Immunology Abul Abbas著、南江堂 もっとよくわかる免疫学 河本宏著、羊土社 エッセンシャル免疫学 笹月健彦監訳、メディカルサイエンスインターナショナル
参考文献	医系免疫学 矢田純一著、中外医学社 シンプル免疫学 中島泉・高橋利忠・吉開泰信共著、南江堂 免疫ペディア 熊ノ郷淳編集、羊土社 免疫学コア講義 熊ノ郷淳・阪口薫雄・竹田潔・吉田裕樹編集、南山堂 ゼロから実践する 遺伝統計学セミナー～疾患とゲノムを結びつける 岡田随象 羊土社
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。実習実習がある場合は白衣を忘れないようにすること。 講義の録画、録音、写真撮影等をしないこと。講義資料は授業に出席している学生さんのためのものであるため、SNS、オンラインなどで拡散をしないこと。
履修者への要望事項	免疫学は臨床医学の広い分野に関連する。 将来患者様の力になれるように積極的に真面目に学ぶこと。
アクティブ・ラーニング	本年は新型コロナウイルス感染対策のため、オンライン講義を予定している。可能な範囲で積極的に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：免疫学分野：浦木、志馬、今井、山崎 内線：8186、電子メール：immuno1@med.nagoya-cu.ac.jp 月、水 12:00～16:00（事前に連絡すること）
実務経験を活かした教育の取組	免疫学を専門とする研究者としての経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	質問などがある場合は、必ず事前に上記の連絡先にオフィスアワーに連絡をとること。
関連URL	

免疫学コース・免疫学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
免疫学分野・教授	山崎 小百合
免疫学分野・講師	今井 優樹
免疫学分野・講師	志馬 寛明
免疫学分野・助教	浦木 隆太
名古屋大学・教授・ 国立がん研究センター免疫TR分野・分野長	西川 博嘉
和歌山県立医科大学・教授	改正 恒康
星薬科大学・准教授	築地 信
メッシーナ大学・教授	Guido Ferlazzo
カロリンスカ研究所・教授	Mikael Karlsson

免疫学コース・免疫学ユニット 授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
1	18	月	3	免疫学序論・概念・歴史・リンパ組織・免疫反応概論	山崎
			4	生体防御機構1	今井
	25	月	3	生体防御機構2 補体系	今井
			4	自然免疫系・TLR	志馬
2	1	月	3	樹状細胞I	山崎
			4	免疫担当細胞1(マクロファージ、顆粒球)	今井
	8	月	3	免疫担当細胞2(T、B、NK、NKT)	今井
			4	抗原提示・MHC・副刺激分子	山崎
	15	月	3	B細胞の基礎・抗体産生	今井
			4	自己寛容 Treg	山崎
	22	月	3	T細胞の機能とシグナル伝達・T細胞分化	今井
			4	サイトカインの機能とシグナル伝達・接着分子	志馬
3	1	月	3	自己免疫疾患	山崎
			4	腫瘍免疫	西川
	4	木	1	B細胞の機能とシグナル伝達・B細胞レパトア	築地
			2	獲得免疫系・抗体の多様性・遺伝子再構成	築地
			3	アレルギー	山崎
			4	自然リンパ球	山崎/Ferlazzo
	5	金	3	移植免疫・皮膚免疫・神経免疫・老化と免疫・免疫不全症	山崎
			4	マクロファージ・B細胞	山崎/Karlsson
	8	月	3	感染免疫	浦木
			4	粘膜免疫・腸管免疫	志馬
	11	木	1	アポトーシス・オートファジー・異物排除	志馬
			2	遺伝子改変マウス・樹状細胞サブセット	改正
			3	実習 抗原抗体反応1	全教員
			4	実習 抗原抗体反応2	全教員
	16	火	1	予備	
			2	炎症とがん	志馬
	18	木	1	実習 免疫細胞1	全教員
			2	実習 免疫細胞2	全教員
			3	実習 免疫細胞3	全教員
			4	実習 免疫細胞まとめ	全教員
4	26	月	3-4	本試験	全教員
6	28	月	1-2	再試験	全教員

開講年度	2021年度
科目名	病理学
専門・教養	専門
担当教員	<p>実験病態病理学（病理学第1講座） 教授 高橋 智、渋谷 恭之（口腔外科学）、稲熊 真悟（高度医療教育研究センター） 准教授 内木 綾 助教 加藤 寛之、小村 理行 非常勤講師 津田 洋幸、小川 久美子、山下 聡</p> <p>臨床病態病理学（病理学第2講座） 教授 稲垣 宏 准教授 村瀬 真幸（病院病理部） 准教授 正木 彩子 助教 津田 香那 非常勤講師 岩崎靖、服部日出雄</p>
講義期間・曜日・時限	医学部3年：2021年1月6日(水)～7月6日(火) 火曜日 1限-2限、水曜日 1限-4限 木曜日 3限-4限
授業目的・目標	<p>生物には形態と機能の両面がある。この二つの面が有機的に統合され個体の生命現象が営まれている。人間の疾病も病的な機能状態（臨床症状）とその形態像（病理所見）により規定されることが多く、絶えず両者の対比検討が行われている。</p> <p>病理学はこれらの探求のため病理形態を基礎とし疾病の起こり方、原因、進展の様相、治療効果の判定等に至るまで考究する。従って病理学では疾患の形態学的所見を詳細に観察し、克明に記載する訓練と疾病を相互関連性の上にて統合する力を養うことが必要である。</p> <p>これらの目的のため、疾患臓器を肉眼的に観察し、その組織学的変化を顕微鏡によって観察し記録することにより疾病の形態像を有機的に把握する。また、その背後の超微形態像、分子生物学的変化についても学ぶ。</p>
キーワード	<p>実験病態病理学（病理学第1講座） 腫瘍学 消化器 肝・胆・膵 乳腺 皮膚 腎・泌尿器 口腔 臨床病態病理学（病理学第2講座） 循環器 血液 呼吸器 神経 骨・軟部</p>
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰ-a, d、Ⅱ-d, e、Ⅲ-a, b、Ⅳ-a, b, d
学習到達目標	<p>病理形態を基盤として、疾患の成り立ち、種類、その原因を系統的に理解できるようにする。</p> <p>【該当するモデルコアカリ】：C-4-2)、C-4-3)、C-4-4)、C-4-5)、C-4-6)、D-1、D-2、D-3、D-4、D-5、D-6、D-7、D-8、D-9、D-11、D-12、D-14、E-2、E-3、E-4、E-5、E-6、E-8、E-9</p>
成績評価基準	<p>秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している</p>
授業概要	<p>医学部3年（2021年1月より実施） ・病理学総論 ・病理学各論 【講義】 [実験病態病理学] 口腔、咽頭・頸部、消化管・腹膜、肝臓、胆嚢、膵臓、 泌尿器、男性生殖器、女性生殖器、乳腺、皮膚、小児病理 [臨床病態病理学] 循環器、呼吸器、縦隔組織、造血器、リンパ組織、 内分泌臓器、中枢神経系、骨軟部組織、細胞診断 【実習】 肉眼病理学（必要に応じて行う）、組織病理学</p>
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	<p>授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。</p>
成績評価方法	<p>実験病態病理学（病理学第1講座） 実習試験 不合格者は本試験より10点減点（6割以上で合格） 本試験 60点以上合格</p> <p>臨床病態病理学（病理学第2講座） 本試験90% 実習試験10%を基準に評価する。</p>
テキスト及び参考文献	<p>参考文献) 標準病理学第4版、坂本穆彦編集、医学書院、2010 ロビンス基礎病理学原書8版、Vinay Kumar他、丸善出版、2011 Robbins Basic Pathology 9th ed.、Vinay Kumar他、W. B. Saunders Company、2012 カラールービン病理学—臨床医学への基盤— E. ルービン他編著 西村書店 2007 組織病理アトラス第5版、小池盛雄他、文光堂、2005 病理組織の見方と鑑別診断カラーアトラス第5版、松原修他、医歯薬出版、2007</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	実習授業ではグループで臨床を検討することもある。
連絡先・オフィスアワー	<p>実験病態病理学 高橋智 月曜日-金曜日、16:00-17:15（事前に連絡が必要）、 医学部研究棟5階 内線8156 E-mail : sattak@med.nagoya-cu.ac.jp</p> <p>臨床病態病理学 稲垣宏 月曜日-金曜日、16:00-17:15（事前に連絡が必要）、 医学部研究棟5階 内線8161 E-mail : hinagaki@med.nagoya-cu.ac.jp</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2021年度 第3学年

病理学コース担当教員

所属・職名(第1病理)
 実験病態病理学分野・教授
 口腔外科学分野・教授
 実験病態病理学分野・准教授
 実験病態病理学分野・助教
 実験病態病理学分野・助教
 名古屋市立大学特任教授
 高度医療教育研究センター・教授
 国立医薬品食品衛生研究所・病理部・部長
 国立がん研究センター・エビゲノム解析分野・ユニット長

氏名
 高橋 智
 渋谷 恭之
 内木 綾
 加藤 寛之
 小村 理行
 津田 洋幸
 稲熊 真悟
 小川 久美子
 山下 聡

所属・職名(第2病理)
 臨床病態病理学分野・教授
臨床病態病理学分野(病院病理部・准教授)
 臨床病態病理学分野・准教授
 臨床病態病理学分野・助教
 愛知医科大学・医学部・教授
名古屋徳州会病院 病理診断科長

氏名
 稲垣 宏
 村瀬 貴幸
 正木 彩子
 津田 香那
 岩崎 靖
 服部 日出雄

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
1	6	水	1	病理学入門	2 稲垣
			2	実験病理学入門	1 高橋
			3	腫瘍病理学-1(腫瘍の概念と特徴・原因)	1 加藤
			4	腫瘍病理学-2(転移・進展)	1 加藤
1	13	水	1	消化器病理-唾液腺・食道	1 加藤
			2	先天異常・奇形	1 高橋
			3	傷害に対する組織反応-1	2 稲垣
			4	傷害に対する組織反応-2	2 稲垣
1	20	水	1	代謝障害	2 稲垣
			2	循環器病理(総論)	2 正木
1	27	水	1	縦隔の病理	2 村瀬
			2	循環器病理(心)	2 村瀬
			3	感染症	2 稲垣
			4	免疫病理学	2 正木
2	3	水	1	血液病理-1	2 稲垣
			2	血液病理-2	2 稲垣
			3	消化器病理-胃1	1 小村
			4	消化器病理-胃2	1 小村
2	10	水	1	呼吸器病理-1	2 村瀬
			2	呼吸器病理-2	2 村瀬
			3	肝臓の病理-1	1 内木
			4	肝臓の病理-2	1 内木
2	17	水	1	病理遺伝子診断	2 稲垣
			2	内分泌病理	2 津田(香)
			3	実習(消化器-1)	① 小村
			4	実習(消化器-2)	① 小村
2	24	水	1	毒性病理学-1	1 津田(洋)
			2	毒性病理学-2	1 津田(洋)
			3	運動器・膠原病の病理	2 津田(香)
			4	肝臓病理-3	1 加藤
3	3	水	1	消化器病理-腸1	1 稲熊
			2	消化器病理-腸2	1 稲熊
			3	実習(循環器-1)	② 第2病理全員
			4	実習(循環器-2)	② 第2病理全員
3	10	水	1	実習(血液-1)	② 第2病理全員
			2	実習(血液-2)	② 第2病理全員
			3	実習(消化器-3)	① 小村
			4	実習(消化器-4)	① 小村
	17	水	1	膵臓の病理-1(含む胆道)	1 内木
			2	膵臓の病理-2	1 内木
			3	脳腫瘍の病理	2 津田(香)
			4	骨・軟部腫瘍の病理	2 津田(香)
4	7	水	1	泌尿器病理-1(腎臓-1)	1 高橋
			2	泌尿器病理-2(腎臓-2)	1 高橋
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
	13	火	1	神経病理-1	2 岩崎
			2	神経病理-2	2 岩崎
	14	水	1	泌尿器病理-3(膀胱)	1 内木
			2	生殖器病理-1(前立腺・精巣)	1 高橋
			3	実習(肝臓-1)	① 加藤
			4	実習(肝臓-2)	① 加藤

	20	火	1	神経病理-3	2 岩崎
			2	神経病理-4	2 岩崎
	21	水	1	実習(胆道・膵臓-1)	① 内木
			2	実習(胆道・膵臓-2)	① 内木
			3	実習(呼吸器-1)	② 第2病理全員
			4	実習(呼吸器-2)	② 第2病理全員
	27	火	1	実習(消化器-5)	① 稲熊
			2	実習(消化器-6)	① 稲熊
	28	水	1	乳腺病理	1 高橋
			2	皮膚・感覚器病理	1 小川
			3	循環器病理(血管)	2 正木
			4	肺癌の病理	2 村瀬
5	11	火	1	小児病理	1 稲熊
			2	腫瘍の分子病理学	1 山下(聡)
	12	水	1	実習(血液-3)	② 第2病理全員
			2	実習(血液-4)	② 第2病理全員
			3	実習(呼吸器-3)	② 第2病理全員
			4	実習(呼吸器-4)	② 第2病理全員
	18	火	1	実習(神経-1)	② 岩崎
			2	実習(神経-2)	② 岩崎
	19	水	1	自習(予備日)	
			2	自習(予備日)	
			3	実習(内分泌-1)	② 第2病理全員
			4	実習(内分泌-2)	② 第2病理全員
	25	火	1	歯、口腔病理-1	1 渋谷
			2	歯、口腔病理-2	1 渋谷
	26	水	1	実習(泌尿器-1)	① 高橋
			2	実習(泌尿器-2)	① 高橋
			3	実習(乳腺・生殖器-1)	① 加藤
			4	実習(乳腺・生殖器-2)	① 加藤
6	1	火	1	細胞診断学	2 服部
			2	自習(予備日)	
	2	水	1	生殖器病理-2(子宮)	1 小村
			2	生殖器病理-3(胎盤・卵管・卵巣)	1 高橋
			3	リンパ組織病理-1	2 正木
			4	リンパ組織病理-2	2 正木
	8	火	1	実習(生殖器-3)	① 内木
			2	実習(生殖器-4)	① 内木
	9	水	1	実習(肺癌・縦隔腫瘍-1)	② 第2病理全員
			2	実習(肺癌・縦隔腫瘍-2)	② 第2病理全員
			3	実習(皮膚-1)	① 小村
			4	実習(皮膚-2)	① 小村
	15	火	1	自習(予備日)	
			2	自習(予備日)	
	16	水	1	実習(骨軟部-1)	② 第2病理全員
			2	実習(骨軟部-2)	② 第2病理全員
			3	実習(泌尿器-3)	① 加藤
			4	実習(泌尿器-4)	① 加藤
	17	木	3	実習(リンパ組織-1)	② 第2病理全員
			4	実習(リンパ組織-2)	② 第2病理全員
	22	火	1	実習(2病)	② 第2病理全員
			2	実習(2病)	② 第2病理全員
	23	水	1	自習(予備日)	
			2	自習(予備日)	
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
	24	木	3	実習試験(2病)	
			4	実習試験(2病)	
	29	火	1	実習試験(1病)	
			2	実習試験(1病)	
7	6	火	1	自習(予備日)	
			2	自習(予備日)	
	12	月	3	本試験(2病)	
			4	本試験(2病)	
	20	火	3	本試験(1病)	
			4	本試験(1病)	

開講年度	2021年度
科目名	薬理学コース・薬理学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	大矢 進, 鬼頭宏彰, 遠藤京子, 齊藤貴志, 今井優樹, 片岡智哉, 伊藤猛雄
講義期間・曜日・時限	前期(1/8~5/27)・木曜日3・4限目、金曜日1・2限目または3・4限目

授業目的・目標	薬物と生体の相互作用について理解し、安全かつ適切な薬物療法を行うための基本的な学識を身につける。最新の薬物療法に対応できる基礎的知識を修得し、治療薬適用の具体例や薬物療法の展望について理解する。【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1c, 2e, 3a, 3b, 4d
キーワード	中枢神経系作用薬, 末梢神経系作用薬, 循環器系作用薬, 消化器系作用薬, 免疫、呼吸器系作用薬
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I-a
学習到達目標	1. 薬理作用の基本的概念とその定量的表現, 薬物の副作用と毒性, 薬物の長期反復投与の問題点について説明できる。 2. 各種病態における薬物の生体調節作用を理解し, 基本的かつ重要な薬物についてその薬理作用, 作用機序, 副作用および薬物代謝を説明できる。 3. 種々の薬物の臨床適応の具体例を挙げ, 実際の薬物療法について説明できる。 4. 薬物投与方法と薬物の体内動態について説明できる。 5. 薬物相互作用, 薬物反応の個人差について, 具体例を挙げ, 説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 C-3-3), C-5-6), D-1-4), D-2-4), D-5-4), D-6-4), D-7-4), D-9-4), D-12-4), D-13-4), E-3-3), E-4-3)
成績評価基準	秀: 90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優: 80点以上 (学修到達目標を十分に達成している) 良: 70点以上 (学修到達目標を達成している) 可: 60点以上 (学修到達目標を最低限達成している) ※ 履修規程のとおり, 評価する。
授業概要	講義 (全30回) 1. 総論 2. 自律神経系作用薬 3. 体性神経系作用薬 4. 中枢神経系作用薬 5. 循環器系作用薬 6. 消化器系作用薬 7. 代謝・内分泌系作用薬 8. 免疫・炎症系作用薬 9. 血液系作用薬 10. 呼吸器系作用薬 11. 抗がん薬 実習 (全4回) 1. 薬物の吸収・分布・排泄 2. 自律神経系作用薬 3. 循環器作用薬 (シミュレーション学習) 4. 末梢性筋弛緩薬 演習 (アクティブラーニング) (全1回, 180分)
授業計画	2021年度薬理学コース・薬理学ユニットの「授業計画」を参照すること。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	講義: 学修内容が多いため, 教科書を予習すること (1週当たり60分程度)。また, 解剖学及び生理学で学修した関連知識を復習すること。講義中に実施する演習問題等で修得の到達度を各自確認し, 学修内容を復習すること (1週当たり60分程度)。 実習: 事前に実習書 (実習ガイダンス時に配布予定) を熟読し, 使用する薬物の薬理作用について理解すること。
成績評価方法	筆記試験 (80%), 実習レポート (20%) 実習レポートでは, 特に独自性を評価の対象とする (実習ガイダンスにて説明)。演習における取組姿勢や参加度についても適宜評価する。
教科書・テキスト	「薬がみえる」 vol. 1-4, メディックメディア
参考文献	「詳解 薬理学」香月博志, 成田 年, 川畑篤史 編著 廣川書店 「NEW薬理学 改訂第7版」田中千賀子, 加藤隆一, 成宮 周 編集 南江堂 「Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics」, ed. Brunton, L.L., Chabner, B.A., Knollman, B.C. (eds) McGraw-Hill
履修上の注意事項	講義資料は, 講義の開始直前に配布する。履修規程を理解しておくこと。
履修者への要望事項	講義前に生理学, 生化学, 解剖学で学修した関連知識について復習すること。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングでは, 10名程度を1グループとして, 事前に指定した課題 (疾患) に関してグループディスカッションした内容をまとめる。口頭発表によりプレゼンテーションし, 質疑応答を行う。
連絡先・オフィスアワー	月~金 9:00~17:00(事前に連絡すること) ・電話 052-853-8151 (内線8151) (研究棟8F) 大矢 進 (sohya@med.nagoya-cu.ac.jp) 鬼頭宏彰 (kito@med.nagoya-cu.ac.jp) 遠藤京子 (k.endo@med.nagoya-cu.ac.jp) 片岡智哉 (kataoka@med.nagoya-cu.ac.jp) 齊藤貴志 (saito-t@med.nagoya-cu.ac.jp)
実務経験を活かした教育の取組	
備考	今年度から, 中間試験を実施します。
関連URL	

薬理学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
薬理学分野・教授	大矢 進
薬理学分野・助教	鬼頭 宏彰
薬理学分野・助教	遠藤 京子
認知症科学分野・教授	齊藤 貴志
免疫学分野・講師	今井 優樹
臨床薬剤学分野・講師	片岡 智哉
日本福祉大学・教授(本学・名誉教授)	伊藤 猛雄

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	8	金	1	薬理学総論(1)	大矢
1	8	金	2	薬理学総論(2)・薬物依存	大矢
1	15	金	1	末梢性・中枢性筋弛緩薬(1)	鬼頭
1	15	金	2	末梢性・中枢性筋弛緩薬(2)	鬼頭
1	22	金	1	副交感神経刺激薬	大矢
1	22	金	2	副交感神経遮断薬	大矢
1	29	金	1	交感神経刺激薬	大矢
1	29	金	2	交感神経遮断薬・緑内障治療薬	大矢
2	5	金	1	消化器系疾患治療薬(1)	大矢
2	5	金	2	消化器系疾患治療薬(2)	大矢
2	12	金	1	呼吸器系・内分泌系疾患治療薬	大矢
2	12	金	2	脂質異常症・高尿酸血症治療薬	鬼頭
2	19	金	1	認知症治療薬	齊藤
2	19	金	2	パーキンソン病治療薬・片頭痛治療薬	大矢
2	26	金	1	糖尿病治療薬	伊藤
2	26	金	2	抗がん薬(化学療法薬)	鬼頭
3	5	金	1	免疫・炎症・アレルギー系疾患治療薬(1)	今井
3	5	金	2	免疫・炎症・アレルギー系疾患治療薬(2)	今井
3	12	金	1	血液系疾患治療薬	片岡
3	12	金	2	心不全治療薬	大矢
3	19	金	3	中間試験	
4	8	木	3	抗不整脈薬	遠藤
4	8	木	4	利尿薬・実習ガイダンス	鬼頭
4	9	金	1	睡眠薬・抗不安薬	大矢
4	9	金	2	抗てんかん薬	大矢
4	15	木	3,4	薬理学実習(1)	大矢、鬼頭、遠藤、片岡
4	16	金	1	全身麻酔薬・鎮痛薬	遠藤
4	16	金	2	狭心症治療薬	鬼頭
4	16	金	3	高血圧・低血圧治療薬	鬼頭
4	16	金	4	血管拡張薬	鬼頭
4	22	木	3,4	薬理学実習(2)	大矢、鬼頭、遠藤、片岡
4	23	金	1	統合失調症治療薬	大矢
4	23	金	2	気分障害治療薬	大矢
5	14	金	1,2	薬理学演習(アクティブラーニング)	大矢、鬼頭、遠藤
5	20	木	3,4	薬理学実習(3)	大矢、鬼頭、遠藤、片岡
5	27	木	3,4	薬理学実習(4)	大矢、鬼頭、遠藤、片岡
5	31	月	3,4	本試験	

開講年度	2021年度
科目名	社会医学コース・法医学科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	青木康博, 加藤秀章, 菅野さな枝, 福田真未子 非常勤講師: 安達 登, 三枝 聖, 山田良広
講義期間・曜日・時限	2020年1月～5月・火曜日・3～4限
授業目的・目標	授業目的: 法医学の専門領域に対する医学・医療および社会からの要請を理解する。 授業目標: 法病理学, 法中毒学, 法医人類学等に関する基礎的知識を習得し, 法医学的諸問題について, 臨機応変かつ的確に案件処理ができる能力を修得する。
キーワード	法病理学, 法中毒学, 法医遺伝学, 法医人類学, 法歯学
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia, Ic, IIIb, IIIc, IVd
学習到達目標	1. 法医学が果たすべき社会的義務について説明できる。 2. 生活反応, 死後変化の原因・鑑別法を説明できる。 3. 各種損傷の成因および特徴的所見を説明できる。 4. 窒息死体の所見および死に至る機序を説明できる。 5. 異常環境における死について所見を説明できる。 6. 突然死, 内因性急死の医学的・社会的問題について説明できる。 7. 小児の死に関連する法的・医学的問題について説明できる。 8. 死因の概念を説明できる。 9. 個人識別の基本原則を説明できる。 10. DNA多型, 血液型についてその生化学的・遺伝学的背景を説明できる。 11. 大規模災害時の法医学活動の概要を説明できる。 12. 有機リン剤, 有機塩素剤による中毒死の死体所見と機序が説明できる。 13. 有毒ガスによる中毒死の死体所見の特徴と機序が説明できる。 14. 覚せい剤中毒の機序が説明できる。 15. 薬物に対する精神的依存および身体的依存について説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 B-2-1) 死と法, B-2-2) 診療情報と諸明書, E-9 人の死 F-1-37) 外傷・熱傷
成績評価基準	秀: 90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優: 80点以上 (学修到達目標を十分に達成している) 良: 70点以上 (学修到達目標を達成している) 可: 60点以上 (学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	講義項目 1. 法病理学 1) 死後経過時間 a. 死体現象 b. 昆虫学的証拠による推定 2) 損傷 (鈍器損傷, 鋭器損傷, 銃器損傷, 交通事故損傷) 3) 窒息, 致命的頸部圧迫 4) 内因性急死 5) 小児法医学 6) 異常環境による死 2. 法中毒学 1) アルコールの法医学 2) 有毒ガスによる中毒 3) 農薬 4) 乱用薬物 5) 工業化学物質, その他 3. 個人識別 1) 法歯学的個人識別 2) 遺伝形質による個人識別およびヒトの系統解析 3) 骨検査 4) 大規模災害時の法医学活動 (実習) 1. 血液型, 2. 法中毒学的検査, 3. DNA多型, 4. 血痕検査 具体的な講義・実習日程については別表を参照されたい。
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	事前に配布される資料がある場合, それを用いて予習しておくこと。 特に実習書については, 事前に目を通し, 実習の目的および手順について理解しておくこと。また, 実験終了後に得られた実験結果について, よく考察すること。
成績評価方法	筆記試験 100% (但し全実習の出席を要件とする) 筆記試験においては, 法医学の各分野に関する基礎的知識や解釈だけでなく, 問題解決能力も評価のポイントとする。また特に実習内容の理解度については, 個別の項目ごとに評価する。
教科書・テキスト	(参考書) 「NEWエッセンシャル法医学 第5版」高取健彦監修 医歯薬出版 2019年 「法医学 改訂第3版」福島弘文編 南山堂 2015年 「臨床法医学テキスト 第2版」佐藤喜宣編 中外医学社 2012年 「臨床のための法医学 第6版」澤口彰子編 朝倉書店 2010年 「死体検案ハンドブック 第4版」近藤稔和・木下博之編 金芳堂 2020年 「薬物乱用・中毒百科-覚醒剤から咳止めまで」内藤裕史著 南江堂 2011年 「死体検案マニュアル2017」日本法医学会編 日本法医学会 2017年
参考文献	講義ノートなどをweb上にて公開する
履修上の注意事項	一部の講義資料はLive Campus 経由で配布する。
履修者への要望事項	生化学, 解剖学, 病理学, 薬理学等で得た知識と関連付けて内容を理解するように努められたい。
アクティブ・ラーニング	症例検討など問題解決型授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	月, 火, 水, 金 9:00～18:00 (事前に連絡すること) 内線 8179, 8181 青木康博 aokiy@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	法医学実務(解剖鑑定・法中毒学的検査等)の経験を有する教員が全講義・実習を担当する。
備考	第5学年法医学診断学にて, 発展的な演習を行う。
関連URL	http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/legal.dir/

2021年度 第3学年

法医科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科法医学分野 教授	青木康博
医学研究科法医学分野 准教授	加藤秀章
医学研究科法医学分野 講師	菅野さな枝
医学研究科法医学分野 助教	福田真未子
山梨大学 教授	安達 登
岩手医科大学 講師	三枝 聖
神奈川歯科大学 教授	山田良広

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	12	火	3	死体現象・死後経過時間	青木康博
			4	損傷総論	青木康博
1	19	火	3	鈍器損傷	青木康博
			4	鋭器損傷	青木康博
1	26	火	3	銃器損傷	青木康博
			4	臓器別損傷・損傷死死因	青木康博
2	2	火	3	交通事故損傷I	青木康博
			4	交通事故損傷II	青木康博
2	9	火	3	臓器別損傷・損傷死死因	青木康博
			4	骨検査	青木康博
3	2	火	3	法医人類学特講	安達 登
			4	法昆虫学	三枝 聖
3	9	火	3	窒息総論	青木康博
			4	頸部圧迫	青木康博
3	16	火	3	溺水・水中死体	青木康博
			4	個人識別・大規模災害	青木康博
4	6	火	3	焼死/寒冷死・感電	加藤秀章
			4	内因性急死	加藤秀章
4	13	火	3	虐待	加藤秀章
			4	嬰兒殺	加藤秀章
4	20	火	3	法歯学	山田良広
			4	法中毒学総論	菅野さな枝
4	27	火	3	法中毒学各論I	菅野さな枝
			4	法中毒学各論II	菅野さな枝
5	11	火	3	血液型	青木康博
			4	DNA多型・DNA鑑定	福田真未子
5	18	火	3	実習I 法医学の物体検査	全教員
			4	実習I 法医学の物体検査	全教員
5	25	火	3	実習II 法医学の物体検査	全教員
			4	実習II 法医学の物体検査	全教員
6	1	火	3	実習III 法中毒学の検査	全教員
			4	実習III 法中毒学の検査	全教員

開講年度	2021年度
科目名	社会医学コース・医学・医療倫理ユニット
専門・教養	専門
担当教員	齋藤伸治、戸澤啓一、杉浦真弓、鈴木伸宏、岡本 尚、神谷 武、内田 恵、青木康博
講義期間・曜日・時限	6月18、25、7月2日（金）1・2限、6月22日（火）3・4限

授業目的・目標	医療を行い、あるいは医学の研究開発を行う上ではさまざまな倫理的な問題と向き合う必要があり、またその普遍的倫理を基盤とした法的な制約、規制等がある。本講義では臨床実務上および臨床研究実施上生ずる諸問題につき検討することを通じ、医学・医療倫理に関する基礎的知識や思考法をさまざまな側面から学び、理解する。
キーワード	医学研究倫理、インフォームド・コンセント、医療倫理、終末期医療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ic, IIa, IIId, IIe, IIIc, IVa
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・医療の発達に伴って生ずる倫理的諸問題を指摘できる。 2. ベルモント三原則、ヘルシンキ宣言について説明できる。 3. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」「臨床研究法」について概説できる。 4. 医学研究、臨床試験、治研の目的やデザインについて、法的規制と関連付けて説明できる。 5. 医学研究におけるデュアルユース問題と対策について概説できる。 6. 生殖医療の現状およびその倫理的問題について、法的規制と関連付けて説明できる。 7. 遺伝子診断・遺伝医療の基本的事項を指摘し、遺伝カウンセリングのあり方について概説できる。 8. 患者の自己決定権や患者-医師関係に関する原則および具体的対応手順について説明できる。 9. 終末期医療およびその倫理的・法的問題について概説できる。 10. 医療事故の発生要因を理解し、医療の安全を確保するシステム・制度のあり方を概説できる。 11. 守秘義務に関する医療倫理と刑事司法との関係について概説できる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 A-1-1) 医の倫理と生命倫理, A-1-2) 患者中心の視点, A-1-3) 医師としての責務と裁量権, A-4-1) コミュニケーション, A-4-2) 患者と医師の関係, A-6-1) 安全性の確保, A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防, B-2-1) 死と法, B-2-2) 診療情報と諸証明書, B-3-1) 倫理規範と実践倫理, B-4-1) 医師に求められる社会性, E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性, E-9-1) 生物的死と社会的死, F-2-16) 緩和ケア, F-3-3) 診療録（カルテ）</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学研究に関する倫理的原則やそれに基づく指針について、具体的に学習する。 2. 医学研究、臨床試験、治研に関する制度、倫理的・法的規制について学習する。 3. 生殖医療、遺伝子診断、遺伝医療および遺伝カウンセリングの現状、倫理的問題、法的規制について学習する。 4. あるべき患者-医師関係に根ざした患者の自己決定権の上に成り立つ医療のイメージを学習する。 5. 医療の安全確保に関する制度設計や基本原則について学習する。 6. 医療倫理と法規制との相互関係について、具体的に学習する。
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考図書や事前配布資料を利用して予習した上で、講義に臨むこと。毎回の講義後に、各講義の要点について十分に復習し、理解すること。
成績評価方法	筆記試験100% 各講義ごとに基本的な理解度を評価する。
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義において資料を配布する。 ・文部科学省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」 http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf ・日本学術会議「提言：病原体研究に関するデュアルユース問題」 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t184-2.pdf ・日本医師会「医師の職業倫理指針」 http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20161012_2.pdf ・インフォームドコンセントの在り方に関する検討会報告書(1995年) http://www.umin.ac.jp/inf-consent.htm ・厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスにに関するガイドライン」 https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000197701.pdf
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業を取り入れる。
連絡先・オフィスアワー	月曜日～金曜日（09:00～18:00 随時） 青木康博 連絡先： Tel： 052-853-8179, E-mail： aokiy@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての実務経験を有する教員が全講義を担当する。
備考	
関連URL	

2021年度 第3学年

医学・医療倫理ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
新生児・小児医学分野 教授	齋藤伸治
医療安全学分野 教授	戸澤啓一
名誉教授(前細胞分子生物学分野 教授)	岡本 尚
次世代医療開発分野 教授	神谷 武
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓
臨床遺伝医療部 准教授	鈴木伸宏
緩和ケア部 助教	内田 恵
法医学分野 教授	青木康博

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	18	金	1	医学研究倫理	齋藤伸治
6	18	金	2	コミュニケーション能力とインフォームド・コンセント	戸澤啓一
6	22	火	3	医学研究とデュアルユース問題: 研究倫理をどのように担保すべきか	岡本 尚
6	22	火	4	臨床研究・治験と医療倫理	神谷 武
6	25	金	1	生殖医療とヒトゲノム倫理	杉浦真弓
6	25	金	2	遺伝カウンセリング	鈴木伸宏
7	2	金	1	ターミナル・ケア	内田 恵
7	2	金	2	刑事司法と医療倫理	青木康博

開講年度	2021年度
科目名	行動科学・地域医療学コース・神経科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	道川 誠、浅井清文、間瀬光人、松川則之、飛田秀樹、鷯川眞也、澤本和延、植木美乃、南部 篤、福田敦夫、和氣弘明
講義期間・曜日・時限	2021年3月1日（月）から6月3日（木）

授業目的・目標	脳機能を支える分子基盤を理解し、神経疾患の原因、治療、予防などを理解するための基本知識を得るために、神経科学領域の分子、細胞レベルでの基礎知識を習得するとともに、神経疾患の病因の分子基盤を理解する。 【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1d, 4d
キーワード	神経最先端研究、新研究手法、神経科学
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1d, 4d
学習到達目標	1. 神経系を構成する細胞の特性を説明できる。 2. 神経系の発生を説明できる。 3. 神経伝達物質の種類、シナプスの種類と構造、シナプス伝達の機序を説明できる。 4. 神経系におけるトランスポーターの機能を説明できる。 5. 神経系にみられる可塑性、記憶、学習の分子基盤について説明できる。 6. 血液脳関門の機能を説明できる。 7. 神経の変性と再生の機序を理解する。 8. 神経疾患および精神疾患の分子基盤を理解する。 9. 神経系腫瘍の特徴を理解する。 【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養 A-9-1) 生涯学習への準備 C-2-2)-(1) 組織・各臓器の構造と機能 C-2-3)-(1) 情報伝達の基本 C-2-3)-(2) 神経による情報伝達の基礎 C-4-6) 腫瘍
成績評価基準	合格：60点以上（学修到達目標を達成している）
授業概要	1. オリエンテーション・動物的機能と情動の生後発達 2. 脳内出血後の神経回路シフト 3. 神経ネットワーク形成の分子機構 4. 感覚器の分子生物学 5. 精神神経疾患と神経科学 6. 神経再生医学 7. 血液脳関門 8. グリアと神経病態 9. アルツハイマー病の分子神経生物学 10. 神経変性疾患の分子生物学 11. 脳脊髄液と神経病態 12. 特別講義
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	
成績評価方法	筆記試験
教科書・テキスト	
参考文献	参考文献 "Principles of Neural Science" Eric R.Kandel et al., McGraw-Hill Publishing Co. "Basic Neurochemistry" George Siegel et al., Raven Press
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	2年で学習した解剖学、生理学、生化学における関連項目を復習の上（予習に相当）講義に臨むこと。最新の研究内容についての講義は、配布プリントを元に復習すること。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	医学研究棟7階 医学研究科脳神経生理学分野 飛田秀樹 内線 8134、電子メール hhida@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2021年度 第3学年

神経科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
神経生化学 教授	道川 誠
グリア細胞生物学 教授	浅井 清文
脳神経外科学 教授	間瀬 光人
脳神経内科学 教授	松川 則之
脳神経生理学 教授	飛田 秀樹 責任者
機能組織学 教授	鶴川 眞也
神経発達・再生医学 教授	澤本 和延
リハビリテーション医学 教授	植木 美乃
生理学研究所・生体システム研究部門 教授	南部 篤
浜松医科大学・神経生理学 教授	福田 敦夫
名古屋大学・第一解剖学 教授	和氣 弘明

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
3	1	月	1	オリエンテーション・動物的機能と情動の生後発達	飛田 秀樹
			2	神経再生医学	澤本 和延
3	8	月	1	アルツハイマー病の分子神経生物学	道川 誠
			2	感覚器の分子生物学	鶴川 眞也
4	19	月	3	脳内出血後の神経回路シフト	飛田 秀樹
			4	神経変性疾患の分子生物学	松川 則之
5	17	月	3	光を利用した最先端研究(仮)	和氣 弘明
			4	神経・精神疾患とマルチモーダルGABA(仮)	福田 敦夫
5	24	月	3	パーキンソン病の病態と先端研究(仮)	植木 美乃
			4	大脳基底核の最先端研究(仮)	南部 篤
6	3	木	3	血液脳関門	浅井 清文
			4	脳脊髄液と神経病態	間瀬 光人

開講年度	2021年度
科目名	行動科学・地域医療学コース・疼痛科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	祖父江和哉、植木孝俊、草間宣好、大澤匡弘、杉浦健之
講義期間・曜日・時限	6月10日（木）

授業目的・目標	疼痛に関する基礎医学的知識を断片的ではなく、科目横断的に理解し、習得する。
キーワード	
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1d, 2d, 3a, 4d
学習到達目標	疼痛に関する基礎医学的知識を学習し、将来、質の高い疼痛管理を様々な診療科や医療チームのなかで提供するための基礎知識を習得する。 【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養 C-2-3)-(2) 神経による情報伝達の基礎
成績評価基準	合格：60点以上（学修到達目標を達成している）
授業概要	痛みの神経科学 内臓痛 痛みと中枢神経系イメージング 動物モデルを使用した慢性疼痛に関する研究
授業計画	2021年度 疼痛科学ユニット授業計画を参照のこと
授業時間外の学修(準備学習を含む)	
成績評価方法	客観試験（神経科学試験の一部として行います）
教科書・テキスト	各講義にて配布される資料を参照すること
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	2年生で学習した解剖学、生理学、生化学、感染微生物学などを前もって復習した上で講義に臨むこと
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	平日（月～金）午前9時～午後5時 麻酔科学・集中治療医学分野 祖父江和哉 TEL 052-853-8281（直通）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

2021年度 第3学年

疼痛科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
麻酔科学・集中治療医学分野・教授	祖父江和哉
麻酔科学・集中治療医学分野疼痛科学部門・教授	杉浦健之
統合解剖学分野・教授	植木孝俊
麻酔科学・集中治療医学分野・講師	草間宣好
非常勤講師(薬学研究科神経薬理学・准教授)	大澤匡弘

疼痛科学ユニット授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
6	10	木	1	動物モデルを使用した慢性疼痛に関する研究	大澤
			2	内臓痛	草間
			3	痛みと中枢神経系イメージング	植木
			4	痛みの神経科学	杉浦

開講年度	2021年度
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学 コース コミュニティ・ヘルスケア応用 (IPE) ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学研究科：植田典浩、酒々井真澄、大石久史、木村和哲、川出義浩、柿崎真沙子、村上里奈 薬学研究科：鈴木 匡、菊池千草、坂下真大 看護学研究科：明石恵子、山口知香枝、金子典代
講義期間・曜日・時限	2021年6月4日(金)～2021年7月2日(金)
授業目的・目標	【授業目的】医療系の学生として、人に対する理解を深め、コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。 【授業目標】医療を提供するための基盤を修得し、医療者になることへの自覚を深めるのを目標としている。地域在住高齢者の生活現場において訪問実習を行う。現在の日常生活環境を把握し、健康維持や療養・介護のニーズを調査することにより、将来に向けての提案書を作成する。
キーワード	コミュニティ、ヘルスケア、国際生活機能分類 (ICF)、エイジング・イン・プレイス (AIP)、多職種連携教育 (IPE)
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰの c 領域Ⅱの b, d 領域Ⅲの a, b, c, d 領域Ⅳの a, c
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 老化と高齢者の特徴、超高齢社会における医療の課題について説明できる。 2. 医療系の学生として、相手の状態にあわせた適切なコミュニケーションができる。 3. 訪問実習を通じて、相手との信頼関係を構築できる。 4. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的概念を理解し、個人の生活上の課題を適切に評価できる。 5. チームにおける個人情報の共有と保護を適切に行うことができる。 6. 将来の医療者としての自覚を深める。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2-1) 課題探求・解決能力、A-2-2) 学修の在り方、A-4-1) コミュニケーション、 A-4-2) 患者と医師の関係、A-7-1) 地域医療への貢献、 B-1-6) 社会・環境と健康、B-1-7) 地域医療・地域保健、B-4-1) 医師に求められる社会性、 C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、E-8-1) 加齢と老化、 F-2-14) リハビリテーション、F-2-15) 在宅医療と介護、F-3-2) 医療面接
成績評価基準	合格：学修到達目標を達成している
授業概要	本科目は、エイジング・イン・プレイス (AIP) 社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。 チームでの地域在住高齢者家庭の訪問実習と、そのための準備としての講義・グループワークで構成されている。
授業計画	講義・グループワーク (6/4 3-4限、7/2 3-4限) 訪問実習 (2回、6/18 と 6/25) 6/18、6/25 のいずれも13:00に講義室に集合し連絡事項等を確認した後、あらかじめ承諾の得られている高齢者の家庭をチームで訪問する。訪問時に生活や健康状態について話を聞き取り、その内容を基にして、 ①健康と暮らしのプロファイル、②国際生活機能分類 (ICF) 整理チャート、③エイジング・イン・プレイス (AIP) に向けた提案書、を作成する。 1) 学生はチームで行動し、指定された1世帯を訪問する。 2) 1チームは3～4名とする。各チームに1人の担当教員が割り当てられる。 3) 学生は訪問時に名札を着用する
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、医療系学生チーム訪問実習マニュアル(オリエンテーション時に配布)を予習した上で、実習に臨むこと。 国際生活機能分類 (ICF) の基本的概念について自己学習すること。 エイジング・イン・プレイス (AIP) の基本的概念について自己学習すること。
成績評価方法	2回の家庭訪問、3つのプロダクトの作成と提出、は必須である。 実習時の態度、提出物の提出状況と内容、を総合的に評価する。
教科書・テキスト	医療系学生チーム訪問実習マニュアル(オリエンテーション時に配布)
参考文献	講義時間中に紹介します。
履修上の注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける(学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる)。 訪問先とのトラブルや懸念事項が生じたときは、自分たちだけで判断せずに担当教員に報告し相談すること(各チームに1人の担当教員が割り当てられる)。 集合時間、提出期限は厳守すること。
履修者への要望事項	第1回目の講義までに2年時に履修したコミュニティ・ヘルスケア基礎で学んだ超高齢社会の課題について、自分なりの考えをまとめておいてほしい。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	月火木金：10時から16時、水：10時から12時 連絡先：医学・医療教育学 植田典浩 内線8441 E-mail:nueda@med.nagoya-cu.ac.jp チーム担当教員との連絡方法はオリエンテーション時に指示する。
実務経験を活かした教育の取組	医師、薬剤師、看護師、としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	平成25年度入学者から適用 「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。 なお、「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」は、教養教育科目「医薬看護地域参加型学習」として履修する。 プログラム履修についての詳しい内容は担当教員に確認すること。
関連URL	

2021年度 第3学年

コミュニティ・ヘルスケア応用ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 医学・医療教育学 講師	植田典浩
医学研究科 分子毒性学 教授	酒々井眞澄
医学研究科 病態モデル医学 教授	大石久史
医学研究科 臨床薬剤学 教授	木村和哲
医学研究科 地域医療教育学 特任准教授	川出義浩
医学研究科 医療人育成学 特任講師	柿崎真沙子
医学研究科 リハビリテーション医学 助教	村上里奈
薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 教授	鈴木 匡
薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 講師	菊池千草
薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 講師	坂下真大
看護学研究科 クリティカルケア看護学 教授	明石恵子
看護学研究科 地域保健看護学 准教授	山口知香枝
看護学研究科 国際保健看護学 准教授	金子典代

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	4	金	3	講義:超高齢社会の課題／加齢と老化	植田
6	4	金	4	オリエンテーション	全教員
6	18	金	3-4	第1回 家庭訪問実習	全教員
6	25	金	3-4	第2回 家庭訪問実習	全教員
7	2	金	3	国際生活機能分類(ICF)の作成 家庭訪問実習で学んだことの共有	植田
7	2	金	4	グループワーク:「エイジング・イン・プレイス に向けた提案書」の作成	全教員

開講年度	2021年度
科目名	Scientific Writing and Presentationユニット
専門・教養	専門
担当教員	早野順一郎(非常勤講師)、三浦 裕(非常勤講師)、辻田麻紀、金澤 智、植田典浩、村上里奈
講義期間・曜日・時限	月曜日1-2時限(5/18、6/21)、3-4限(5/10、6/7)、火曜日3-4限(6/15) 情報処理実習室

授業目的・目標	医学領域の調査・研究成果を世界の研究者に適切に伝えられるようになるために、英語による科学的文書の作成とプレゼンテーションの基本知識と技法、倫理、科学的な文章を作成することの醍醐味や面白さを学ぶ。
キーワード	科学統計解析、グラフィックプレゼンテーション、科学作文技術、論文投稿、研究倫理
ディプロマ・ポリシーとの関連	領域Ⅰのb、c、d、領域Ⅱのd
学習到達目標	1. 原著論文の役割と意義、構造、倫理を理解することで、医学研究の文献等の情報を吟味してその基本的な妥当性を評価できるようになる。 2. 研究結果から英文でtitle、abstract、figure、tableからなるレポートを作成する基本的な技術を修得することで、医学的知見や医療情報を英語で説明し、国際的に発表することができるようになる。 3. 科学論文の作成の方法、発表における倫理、公表のルールを理解することで、医学論文から得られる科学的知識や科学的理解には限界があり、またそれらは常に更新されていることを理解する。 4. 医学研究の意義、方法、醍醐味を知ること、生涯に亘って継続的に医学知識の向上に務める基本的な姿勢を身につけることができる。 モデル・コア・カリキュラム A-2-2、A-8-1、A-7-2
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	Mini lectureと個人作業、チーム作業、発表と全体討論の繰り返しによる授業を行う。科学的記述では、general to specificを基本構造とするparagraphing、research questionとanswerを明確にした構成を行う事を授業全体を通じて学習し、科学的レポートの作成技術を学ぶ。また、国際標準に沿った図表の作成技術およびプレゼンテーションの技法を習得する。授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、与えられたデータからabstractと図表を作成し、教員による査読を経て、受理されることをもって合格とする。
授業計画	5月10日3-4限 Statistical analysis of data (早野) 5月17日1-2限 Structure of scientific reports (金澤) Graphics for scientific reports (早野) 6月 7日3-4限 Why scientific writing? (三浦) Good slide presentation (植田) 6月15日3-4限 Title and body of abstract (辻田) Ethics and presentation skills (村上) 6月21日1-2限 Write your abstract! (active learning) (早野、金澤、辻田、植田)
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、 ①与えられたデータからabstractと図表を作成し、onlineで査読者(匿名教員)に提出する。 ②査読者からonlineで返送される査読コメントに基づいて、必要な改訂を行い再提出する。 ③査読者によって受理されるまで②③を繰り返す。
成績評価方法	①演習で作成するプロダクト(文章、グラフ)と小テスト(dictation)の回答をもって出席とする。 ②指定されたデータを基に、abstractと図表を作成し、6月21日23:59までに電子メールに添付して提出すること。 ③提出されたabstractと図表に対して電子メールで返送される査読結果に基づき必要な改訂を行い、2週間以内にメールでの再提出すること。 ④Abstractと図表が9月30日までに受理されること。 ⑤査読に対する改訂版と返事を2週間以内に提出しなかった場合は、毎回、追加課題が課される。その場合は④とともに全ての追加課題を9月30日までに終了することが求められる。 以上、①による必要な出席数と、②～⑤を全て満たすことを持って合格とする。 Abstract提出先: ncuswp@gmail.com メールの件名: Abstract_学籍番号_氏名 ←学籍番号 (出席番号は不可) Abstract file名: Abstract_学籍番号_氏名.docx
教科書・テキスト	
参考文献	参考書 A Practical Guide to the Use of Scientific English: a Skeleton Approach Malcolm A. Moore and Hiroyuki Tsuda, APOCP ライフ・サイエンスにおける 英語論文の書き方 市原 A. エリザベス, 共立出版 科学論文のセンスを磨く 鈴木英次, 化学同人
履修上の注意事項	①第1回目の授業を含め、授業の開始時に宿題をもとにしたdictationの小テストを授業開始時に毎回行うので、遅刻をしないこと。 ②指定された形式を守らないabstractは査読されず、正しい形式での再提出を求められます。 ③Abstractと図表は、合格水準に達するまで再提出が求められます。 ④Abstractの修正を指示された時は修正した点を明記して2週間以内に再提出してください。 ⑤再提出が期限より遅れた場合はAbstractに加えて追加課題が課されます。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、 ①与えられたデータからabstractと図表を作成し、onlineで査読者(匿名教員)に提出する。 ②査読者から返送される査読コメントに基づいて、必要な修正を行い2週間以内に再提出する。 ③査読者によって受理されるまで②③を繰り返す。
連絡先・オフィスアワー	月 10:30~12:00 連絡先: 医学・医療教育学分野 植田 典浩 電話: 052-853-8507 メールアドレス: nueda@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	研究者として一線で研究活動を行っている教員が授業・実習、アクティブラーニングにおける査読者を担当する。
備考	
関連URL	

開講年度	2021年度
科目名	研究能力養成コース・先端研究ユニット
専門・教養	専門
担当教員	酒々井真澄、山川和弘、齊藤貴志、金子奈穂子、川口洋平、深町勝巳
講義期間・曜日・時限	2021年5月20日（木）から 6月3日（木）

授業目的・目標	脳神経科学研究所を中心に行われている研究について学び、基礎医学研究について理解を深める。
キーワード	
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1b, 1d, 3a, 3b, 4d
学習到達目標	基礎医学の知識をもとに、先端的な医学研究について理解するとともに、それぞれの研究における課題についても説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養, A-9-1) 生涯学習への準備, B-1-6) 社会・環境と健康, C-2-3) 個体の調節機構とホメオスタシス, C-4-1) 遺伝的多様性と疾患 C-4-2) 細胞傷害・変性と細胞死, C-4-6) 腫瘍, D-2-3) 神経系症候, D-2-4) 神経系疾患, E-5-2) 物理・化学的因子による疾患症候
成績評価基準	秀: 学修到達目標を越えたレベルを達成している 優: 学修到達目標を十分に達成している 良: 学修到達目標を達成している 可: 学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 動物モデルとその応用 2. グリオスタチンと関節リウマチの基礎研究 3. 神経疾患とニューロン新生 4. リード化合物と創薬科学 5. 認知症・アルツハイマー病研究の最前線 6. 発達障害とてんかんの分子遺伝学
授業計画	
授業時間外の学修(準備学習を含む)	毎回講義の最後に講義のポイントアンケートを実施するので、これまでの講義や実習で学習した内容の概要を予習しておくこと
成績評価方法	出席、講義のポイントアンケート、レポートなど
教科書・テキスト	各講義にて配布される資料を参照すること
参考文献	各講義にて配布される資料を参照すること
履修上の注意事項	講義参加度、受講態度、提出物の期限厳守
履修者への要望事項	これまでの講義や実習で学習した内容をふまえた上で受講すること
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	医学研究科神経毒性学分野 酒々井真澄 内線 8991、電子メール suzui@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2021年度 第3学年

先端研究ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
神経毒性学分野・教授	酒々井眞澄
神経毒性学分野・講師	深町勝巳
神経発達・再生医学分野・准教授	金子奈穂子
神経発達症遺伝学・教授	山川和弘
グリア細胞生物学・助教	川口洋平
認知症科学・教授	齊藤貴志

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
5	20	木	1	発がん動物モデルとその応用	深町
5	20	木	2	グリオスタチンと関節リウマチの基礎研究	川口
5	27	木	1	神経疾患によるニューロン新生	金子
5	27	木	2	認知症・アルツハイマー病研究の最前線	齊藤
6	3	木	2	発達障害とてんかんの分子遺伝学	山川
6	7	月	2	リード化合物と創薬科学	酒々井

開講年度	2020年度
科目名	臨床能力養成コース・救急救命ユニット
専門・教養	専門
担当教員	服部友紀・山岸庸太・三浦敏靖・村上里奈・増田和彦・三浦裕・金子洋
講義期間・曜日・時限	4月8, 15, 22日と5月13日(講義・実習)、5月21, 28日と6月4, 11日(新一年生へのBLS指導) いづれの日も1, 2時限(午前)
授業目的・目標	授業目的：救急救命処置の学習を通じ、技能を修得する。医学生として必要な救急蘇生法・応急手当を修得する。新しく改定されたガイドライン2020に基づいた最新の1次救命処置(BLS)を指導するための知識、コミュニケーション能力を身につける 授業目標：BLSの修得と後輩への指導ができるようになること
キーワード	1児救命処置(BLS)、応急手当、災害医療、低体温症、インストラクション
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1c, 2c, 2e, 4a, 4b, 4d
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蘇生の必要な成人・小児・乳児に対して適切な一次救命処置を行うことができる ・ 一般的な応急手当法を施すことができる ・ 災害時に医学生としてできることを知る ・ 一次救命処置を(新一年生に)指導することができる 【該当するモデルコアカリ】 A-4-1) コミュニケーション, B-1-6) 社会・環境と健康, B-4-1) 医師に求められる社会性, C-4-4) 循環障害・臓器不全, E-9) 人の死
成績評価基準	秀：90点以上；学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：80点以上；学修到達目標を十分に達成している 良：70点以上；学修到達目標を達成している 可：60点以上；学修到達目標を最低限達成している
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次に学習した一次救命処置(BLS)実技を完全に修得する。 ・ 窒息者に対する気道の異物除去法や創傷処置など応急手当の方法を学習する。 ・ 医学生として災害時にすべきことを学習する。 ・ 医学部・薬学部・看護学部1年生へ一次救命処置(BLS)を指導する。
授業計画	授業計画表(別資料)に記載
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義については特に予習の必要はない 復習については、2回目以降の講義において講義の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。 BLS動画を作成し期限までに提出すること 1年生へのBLS指導については、講義で学ぶ通り「人に教える」重要性を認識して、講義資料をしっかりと復習・修得して望むこと
成績評価方法	講義への参加とBLS動画提出
教科書・テキスト	救急蘇生法の指針2020(市民用)(厚生労働省 4月には無料でダウンロードできる予定。未の場合は別途指示する)
参考文献	追加資料は講義の際に配布
履修上の注意事項	節度ある態度で望むこと
履修者への要望事項	講義・実習について、遅刻欠席の場合には理由を付して連絡すること。
アクティブ・ラーニング	BLSの講義は人形を用いて行う 1年生へBLSについてインストラクションする
連絡先・オフィスアワー	連絡先：救急科 服部友紀(はっとりともりのり) 電話：052-851-5511 内線 4732 メールアドレス：thatтори@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	第1回目の授業までに、1年次に学習したBLSの手順を十分に復習しておくこと。 BLSの一連の手順等についてビデオ撮影しファイル提出する(コロナ感染症の流行によっては中止となる可能性あり) 詳細は初回の講義の際に説明する
関連URL	

2021年度 第3学年

救急救命ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 先進急性期医療学 教授	服部友紀
名古屋市立大学病院 災害医療センター長	山岸庸太
至誠館大学 健康科学部 栄養科学科 教授	三浦裕
江南厚生病院 救急科部長	増田和彦
名古屋市消防局 消防係長	金子洋

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
4	8	木	1	一次救命処置（BLS）の重要性の理解と習得	服部友紀
			2	BLSの指導方法と心構え	服部友紀
4	15	木	1	小児・乳幼児に対するBLS	増田和彦
			2	医学生として知っておくべき応急手当	増田和彦
4	22	木	1	急病時の考え方～こんな訴えの時どう対処する～	金子 洋
			2	急病時の考え方～こんな訴えの時どう対処する～	金子 洋
5	13	木	1	熱中症・低体温症・高山病	三浦裕
			2	災害時に医学生としてどう行動すべきか	山岸庸太
5	21	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部友紀
5	28	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部友紀
6	4	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部友紀
6	11	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部友紀

開講年度	2021年度
科目名	総合医学コース・水平統合病態ユニット
専門・教養	専門
担当教員	細菌学分野 教授 長谷川忠男、臨床病態病理学分野 教授 稲垣 宏、助教 津田香那、実験病態病理学分野 教授 高橋 智、薬理学分野 教授 大矢 進、法医学分野 教授 青木康博、神経毒性学分野 教授 酒々井真澄、免疫学分野 教授 山崎小百合、新生児・小児医学分野 教授 齊藤伸治、神経発達証遺伝学分野 教授 山川和弘、周産期母子医療センター 准教授 鈴森伸宏
講義期間・曜日・時限	2021年6月21日(月)～7月7日(水)

授業目的・目標	感染・免疫、臓器障害の二つのテーマについて基礎医学を中心とする立場から授業を行う。さらに遺伝医学の基礎および最近の動向についても学ぶ。
キーワード	臓器障害、中毒、感染、免疫、薬剤、遺伝医学、ゲノム、遺伝子、遺伝疾患、遺伝子診断
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I-a, b, c, d、II-d, e、III-a, b, c、IV-a, b, d
学習到達目標	1. 臨床基礎医学の知識をもとに、先端的な医学研究について理解する。 2. それぞれの研究における課題を説明できる。 3. 研究の持つ臨床応用の可能性について説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 B-3-1) 倫理規範と実践倫理, C-3-1) 生体と微生物, C-3-2) 免疫と生体防御, C-3-3) 生体と薬物, C-4-1) 遺伝的多様性と疾患, C-4-6) 腫瘍, E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	臨床医学と関連の深い基礎医学（臨床基礎分野）の理解がほぼ終了した者を対象に、各領域でのトピックスもしくは研究の最前線となっている事について講義を行う。これにより、それぞれの領域が密接に関連していることや、狭い領域にとられない幅広い知識・思考が現在の医学を理解する上で重要であることを学ぶ。
授業計画	10分野の講師による講義
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、これまでの基礎の講義を復習の上講義に臨むこと。 授業内容をテキストや参考図書を参考にして復習しておくこと。
成績評価方法	レポート、小テスト、授業態度などにより判定する
教科書・テキスト	講義担当教員の所属する分野が推奨するのテキストなど
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	細菌学分野 長谷川忠男 月曜日～金曜日 医学部研究棟9階 内線8164 E-mail : tadaoh@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	これまでの基礎の講義と異なる観点からの授業ですので、今後の臨床医学の講義の理解が深まると思います。
関連URL	

2021年度 第3学年

水平統合病態ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
細菌学分野 教授	長谷川忠男
臨床病態病理学分野 教授	稲垣 宏
臨床病態病理学分野 助教	津田香那
免疫学分野 教授	山崎小百合
神経毒性学分野 教授	酒々井真澄
実験病態病理学分野 教授	高橋 智
薬理学分野 教授	大矢 進
法医学分野 教授	青木康博
神経発達症遺伝学分野 教授	山川和弘
新生児・小児医学分野 教授	斉藤伸治
周産期母子医療センター 准教授	鈴森伸宏

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	21	月	3	感染・免疫 ① 細菌学	長谷川忠男
			4		
6	28	月	3	感染・免疫 ② 臨床病態病理学	稲垣 宏、津田香那
			4	感染・免疫 ③ 免疫学	山崎小百合
6	29	火	3		
			4		
6	30	水	3	臓器障害－副作用と毒性－①	高橋 智
			4	臓器障害－副作用と毒性－②	酒々井真澄
7	1	木	3	臓器障害－副作用と毒性－③ 中毒病態への法医学的アプローチ	青木康博
			4	臓器障害－副作用と毒性－④	大矢 進
7	6	火	3	ヒトゲノムの多様性と変異・疾患	斉藤伸治
			4	遺伝子疾患の診断と治療	山川和弘
7	7	水	3		
			4	遺伝カウンセリングと倫理的社会的課題	鈴森伸宏

臨床医学

(3 学年 1 月～4 学年 12 月)

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・血液・造血器・リンパ系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飯田真介 小松弘和 楠本茂 李政樹 伊藤旭 亀井美智 正木彩子 木下史緒理 鈴木智貴 非常勤講師：松下 正 伊藤康彦
講義期間・曜日・時限	セメスター4 (2021/9/8~2021/10/14)

授業目的・目標	血液・リンパ系疾患患者の診療に必要な基本的知識や集学的治療の重要性を理解するために(目的)、血液・リンパ系疾患の疫学、病態、診断学、標準的治療法に関する基礎的知識を習得する(目標)。さらに血液疾患の学習を通して、新しい分子標的治療、再生医療等、先端医療における臨床応用についての理解を深める(目標)。
キーワード	貧血、リンパ節腫大、発熱(不明熱)、造血器腫瘍、分子標的療法
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I a, I b, I c, II a, III a, IV a
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 血液・リンパ系器官の解剖と細胞の形態学的特徴を説明できる。 血液・リンパ系器官の正常機能と病的異常の概論を説明できる。 血液・リンパ系疾患の(分子)病態や遺伝・環境要因についての概要を説明できる。 造血幹細胞の分化・機能について説明できる。 造血器腫瘍の病理診断、遺伝子診断の特徴とその限界について説明できる。 造血器腫瘍に対する化学療法的基本的理論、作用機序、主な副作用と支持療法を説明できる。 血液・リンパ系疾患に対する分子標的療法の特徴、種類、開発法について説明できる。 造血細胞移植療法の理論と適応、実際について説明できる。 出血性疾患・血栓性疾患の病態、診断、治療について説明できる。 貧血の定義、病態、主要疾患についての診断、治療について説明できる。 急性白血病、慢性白血病の違いを形態、分子機構、治療法の観点から説明できる。 骨髄増殖性疾患の分類と分子機序、及び診断、治療、予後について説明できる。 悪性リンパ腫の分子機序及び治療法につき、病理学及び病期分類に基づいて説明できる。 多発性骨髄腫の診断、治療、さらには最近の分子標的治療の進歩について説明できる。 小児の血液疾患・腫瘍性疾患の病態を理解し、治療法と予後について説明できる。 【該当するモデルコアカリ：D-1, F-1-1, F-1-26, F-1-27】
成績評価基準	<p>秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している)</p> <p>優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している)</p> <p>良：70点以上(学修到達目標を達成している)</p> <p>可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 造血幹細胞分化とサイトカイン、細胞表面抗原解析 先天性血栓傾向と播種性血管内凝固症候群 血友病と類縁疾患 血小板減少症(ITP/TTP)と機能異常症 鉄欠乏性貧血・二次性貧血と巨赤芽球性貧血 溶血性貧血と造血不全 血液像・骨髄像の見方 小児血液・腫瘍(1) 小児血液・腫瘍(2) 急性白血病 骨髄異形成症候群 骨髄増殖性疾患・慢性骨髄性白血病 悪性リンパ腫(成人T細胞性白血病リンパ腫を含む) 形質細胞腫瘍 造血幹細胞移植療法 造血器疾患合併感染症
授業計画	令和3年度血液・造血器・リンパ系授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、教科書(参考文献)の該当箇所を予習した上で、講義に望むこと
成績評価方法	セメスター試験(80)点満点、アクティブラーニング(発表10、参加態度10、計20)点満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	カラーテキスト血液病学 第2版 中外医学社 造血器腫瘍アトラス 改訂第5版 日本医事新報社 Up To Date (https://www.uptodate.com/contents/search) Wintrobe's Clinical Hematology WHO Classification Tumours of Haematopoietic and Lymphoid Tissues (IARC)
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。 小児血液・腫瘍学(日本小児血液・がん学会編)診断と治療社
履修上の注意事項	連絡のない遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	アクティブ・ラーニングまでに、貧血、リンパ節腫大、発熱(不明熱)の鑑別診断に関する基礎知識を予習しておくことが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	月曜から金曜 AM9~PM5、血液・腫瘍内科学医局(853-8738 内線は8738) 責任教員：楠本茂(skusumot@med.nagoya-cu.ac.jp, PHS3239)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

血液・造血器・リンパ系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
血液・腫瘍内科学 教授	飯田真介	新生児・小児医学 助教	亀井美智
臨床腫瘍部 教授	小松弘和	臨床病態病理学 准教授	正木彩子
血液・腫瘍内科学 准教授	楠本 茂	外来講師(名古屋大学)	松下 正
輸血部 講師	李 政樹	外来講師(西部医療センター)	伊藤康彦
血液・腫瘍内科学 助教	伊藤 旭		
血液・腫瘍内科学 病院助教	木下史緒理		
血液・腫瘍内科学 病院助教	鈴木智貴		

血液・造血器・リンパ系ユニット 授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	8	水	1	鉄欠乏性・二次性貧血と巨赤芽球性貧血	小松弘和
9	8	水	2	小児血液・腫瘍①	亀井美智
9	8	水	3	急性白血病	伊藤 旭
9	8	水	4	悪性リンパ腫(成人T細胞性白血病リンパ腫を含む)	楠本 茂
9	15	水	1	血小板減少症(ITP/TTP)と機能異常症	李 政樹
9	15	水	2	血友病と類縁疾患	伊藤康彦
9	15	水	3	造血幹細胞移植療法	楠本 茂
9	15	水	4	溶血性貧血と造血不全	鈴木智貴
9	29	水	1	骨髄増殖性疾患・慢性骨髄性白血病	木下史緒理
9	29	水	2	小児血液・腫瘍②	亀井美智
9	29	水	3	骨髄異形成症候群	伊藤 旭
9	29	水	4	造血器疾患合併感染症	楠本 茂
10	6	水	1	造血幹細胞分化とサイトカイン、細胞表面抗原解析	正木彩子
10	7	木	2	血液像・骨髄像の見方	飯田真介
10	12	火	1	形質細胞腫瘍	飯田真介
10	13	水	1	Active Learning	楠本・鈴木
10	13	水	2	Active Learning	楠本・鈴木
10	14	木	2	先天性血栓傾向と播種性血管内凝固症候群	松下 正

開講年度	2021年度
科目名	神経系コース（神経内科）
専門・教養	専門
担当教員	松川則之、大村眞弘、大喜多賢治、植木美乃、川嶋将司、水野将行、藤岡哲平、佐藤豊大 （非常勤講師）加藤大輔
講義期間・曜日・時限	2019年3月3日～5月7日の火・水・木 1・2時限

授業目的・目標	<p>本コースでは中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断と治療について、その理解に必要な神経解剖学、神経生理学、神経病理学、神経薬理学、神経化学などの基礎医学領域を復習しながら学んでもらう。</p> <p>神経系疾患には他領域との関連も多く、神経内科的な観点からそれらを解説し、特に診断のアプローチについて習得してもらう。</p>
キーワード	神経診察、高位診断、脳卒中、神経変性疾患
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a, 1d, 2b, 2c, 4d
学習到達目標	<p>神経系の解剖、生理、機能について説明できる。 神経症候から病巣を推定することができ、その理由を説明できる。 神経系の病態（炎症、血管障害、変性など）について説明できる。 神経系の検査の適応、意義、結果の解釈について説明できる。 神経内科疾患の診断、病態生理、治療について説明できる。</p> <p>【該当するモデルコアカリ】 D-2 神経系、F-1-8 けいれん、F-1-19 嚥下困難・障害、F-1-32 もの忘れ F-1-33 頭痛、F-1-34 運動麻痺・筋力低下、F-3-5 神経、G-4-4 (10) 腰椎穿刺</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<p>神経系総論 脳血管障害（虚血性、出血性） 神経変性疾患（認知症、脊髄小脳変性症、パーキンソン症候群、運動ニューロン病） 機能的疾患（てんかん、頭痛） 筋疾患・末梢神経疾患・脊髄疾患 脱髄疾患（中枢、末梢） 神経系代謝性疾患・中毒</p>
授業計画	<p>神経系コース（神経内科）授業計画表を参照。 神経系コース46時限の23時限分を神経内科が担当。 理解を深めるための小テストを講義内で適宜行う。</p>
授業時間外の学修（準備学習を含む）	一部の講義で最後に小テストを行うので、その内容をあとで復習しておくこと。
成績評価方法	講義ごと的小テスト結果、アクティブラーニングの発表内容とその取り組み・参加態度を評価する。評価配分は、セメスター試験80%、小テスト・アクティブラーニングを20%とする。
教科書・テキスト	<p>「病気がみえる7 脳・神経」 MEDIC MEDIA 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭、齊藤佳雄編 南山堂</p>
参考文献	「神経内科ハンドブック」 水野美邦編 医学書院
履修上の注意事項	講義途中での入退室は原則認めない。
履修者への要望事項	基礎で学んだ神経解剖学、神経生理学を適宜見直すことと理解しやすい。
アクティブ・ラーニング	事前に提示された課題をグループごとに調べて発表する。 （グループワークとプレゼンテーション）
オフィスアワー・連絡先	<p>神経内科 大喜多まで（平日午前9時～午後6時） TEL：052-853-8094（神経内科医局） Eメール：shinkei@med.nagoya-cu.ac.jp</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	http://ncu-shinkeinaika.jp

2021年度 第4学年

神経系ユニット(脳神経内科) 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 神経内科学教授	松川 則之
医学研究科 神経内科学講師	大村 真弘
医学研究科 神経内科学講師	大喜多 賢治
医学研究科 神経内科学助教	川嶋 将司
医学研究科 神経内科学助教	水野 将行
医学研究科 神経内科学助教	藤岡 哲平
医学研究科 神経内科学病院助教	佐藤 豊大
医学研究科 リハビリテーション医学教授	植木 美乃
名古屋大学医学研究科 分子細胞学助教	加藤 大輔

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
3	2	火	1	神経機能解剖学と症候学(1)	松川 則之
			2	神経機能解剖学と症候学(2)	松川 則之
	9	火	1	神経系の検査法(1)	大喜多 賢治
			2	神経系の検査法(2)	大喜多 賢治
	16	火	1	虚血性脳血管障害	大村 真弘
			2	出血性脳血管障害	大村 真弘
4	6	火	1	脳血管内治療	課題の発表 大村 真弘
			2	アルツハイマー型認知症	松川 則之
	7	水	1	運動ニューロン病	大喜多 賢治
			2	脊髄疾患	水野 将行
	8	木	1	パーキンソン病	川嶋 将司
			2	脱髄性疾患	藤岡 哲平
	13	火	1	神経系の代謝・中毒疾患	水野 将行
			2	その他の認知症	課題の発表 松川 則之
	14	水	1	末梢神経・自律神経疾患	佐藤 豊大
			2	機能性疾患(頭痛、てんかん)	大喜多 賢治
	15	木	1	パーキンソン症候群	課題の発表 藤岡 哲平
			2	脊髄小脳変性症	川嶋 将司
	20	火	1	生体イメージングで明らかにする神経内科疾患の病態	加藤 大輔
	21	水	1	意識障害	大喜多 賢治
			2	筋疾患	佐藤 豊大
	22	木	1	高次脳機能障害	植木 美乃
			2	動画で見る神経疾患・まとめ	大喜多 賢治

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・神経系ユニット（脳神経外科）
専門・教養	専門
担当教員	間瀬 光人、片野 広之、谷川 元紀、大蔵 篤彦、岡 雄一、坂田 知宏、西川 祐介、山中 智康
講義期間・曜日・時限	2021.4.20～2021.5.27

授業目的・目標	本コースでは中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断・治療およびその理解に必要な神経解剖学、神経生理学、神経病理学、神経薬理学、神経化学などの基礎知識についても復習しながら学んでもらう。これらの疾患について、主に脳神経外科的視点から解説する。自己学習の時間も設けて、自ら疑問に思ったことを自ら調べ、科学的に多角的に判断する姿勢を身につけてもらう。
キーワード	脳、脊髄、血管、腫瘍、小児
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1b, 1c, 1d, 2b, 3b, 4a, 4d
学習到達目標	神経系の解剖、生理、機能について説明できる。 神経症候から病巣を推定することができ、その理由を説明できる。 神経系の病態（炎症、血管障害、腫瘍、変性など）について説明できる。 神経系の検査の適応、意義、結果の解釈について説明できる。 脳神経外科疾患の診断、病態生理、手術適応、手術法について説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 A-2-2学修の在り方、B-1-5生活習慣とリスク、C-4-2細胞障害・変性と細胞死、C-4-3代謝障害、C-4-4循環障害、臓器不全、C-4-5炎症と創傷治療、C-4-6腫瘍、F-1-33 頭痛、D-2神経系
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断・治療およびその理解に必要な神経解剖学、神経生理学、神経病理学、神経薬理学、神経化学などの基礎知識をもとに、主に脳神経外科的視点から解説する。
授業計画	神経系コース授業予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験 90点満点 + アクティブラーニング 10点満点（アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする）
教科書・テキスト	ニュースタンダード脳神経外科学 第3版 三輪書店 標準脳神経外科学 第14版 医学書院 脳卒中治療ガイドライン2015 協和企画 ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献など
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	1つの講義に1班5名程度の学生を割り当て、1班ずつ試験問題と解説を作成する 作成した試験問題は、専用のメールアドレス (nsbs1@med.nagoya-cu.ac.jp) 宛にWORD文書またはテキストファイルに入力したものを添付して送信する。 講義の最終日に学生が作成した問題で試験を行い、学生が1班1問ずつ回答と解説を発表する。 注1 この学生が作成する問題はセメスター試験の問題とは異なるものである。 注2 脳神経内科の講義内容は学生が試験問題を作成する範囲に含まれません。
連絡先・オフィスアワー	脳神経外科 医局長 坂田知宏 まで（常時） TEL：052-853-8286 脳神経外科代表 Eメール：ncunoge@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

2021年度 第4学年

神経系ユニット(脳神経外科) 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経外科 教授	間瀬光人
医学・医療情報学 准教授	片野広之
脳神経外科 講師	谷川元紀
脳神経外科 外部講師(西部医療センター)	大蔵篤彦
脳神経外科 病院講師	岡 雄一
脳神経外科 助教	坂田知宏
脳神経外科 助教	西川祐介
脳神経外科 助教	山中智康

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	20	火	2	脳神経外科オリエンテーション 脳循環代謝・脳浮腫、頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア	間瀬光人
4	27	火	1	くも膜下出血・脳動脈瘤	間瀬光人
4	27	火	2	脳血管内治療 硬膜動静脈瘻・静脈洞血栓症	間瀬光人
4	28	火	1	水頭症 (成人)	間瀬光人
4	28	水	2	脳出血の外科(高血圧性脳出血、脳動静脈奇形、海綿状血管腫など)	西川祐介
4	28	水	3	脳虚血の外科 (1) (頸動脈病変・EC-ICバイパス)	片野広之
4	28	水	4	脳虚血の外科 (2) (もやもや病など)	西川祐介
5	6	木	1	脳虚血の外科 (3) (血栓回収療法)	西川祐介
5	6	木	2	小児脳神経外科 (中枢神経の発達と奇形)	片野広之
5	11	火	1	水頭症 (小児)	片野広之
5	11	火	2	脳腫瘍総論	谷川元紀
5	12	水	1	神経上皮系腫瘍 (1) (神経膠腫など)	坂田知宏
5	12	水	2	神経上皮系腫瘍 (2) (胎児性腫瘍など)	坂田知宏
5	13	木	1	間葉系腫瘍・末梢神経腫瘍	谷川元紀
5	13	木	2	傍鞍部腫瘍	谷川元紀
5	18	火	1	松果体部腫瘍 (胚細胞腫瘍など)	谷川元紀
5	18	火	2	転移性脳腫瘍・悪性リンパ腫など	坂田知宏
5	19	水	1	脊椎椎間板障害	大蔵篤彦
5	19	水	2	脊髄腫瘍・脊髄血管奇形・脊髄外傷・ITB療法	大蔵篤彦
5	20	木	1	頭部外傷	山中智康
5	20	木	2	パーキンソン病の外科	岡 雄一
5	27	木	1	機能的疾患の外科 (神経圧迫症候群、てんかん、不随意運動)	岡 雄一
5	27	木	2	学生による模擬試験と解説	間瀬光人

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・皮膚系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	森田、鳥山、加藤、中村、井汲、松江（非常勤講師）、榊原（非常勤医師）、澤田（非常勤講師）、西尾（非常勤講師）、西田（非常勤講師）、古橋（非常勤医師）
講義期間・曜日・時限	セメスター4（2021/9/2～2020/10/5）（月曜・火曜3～4限、木曜1～2限）

授業目的・目標	皮膚科学は単なる皮膚に原因する疾患を対象とするだけの学問ではなく、身体他の部分からの異常を背景として生じる疾患をも含む広い範囲を追求する科学である。したがって皮膚コースではいわゆる「皮膚病」を学ぶのではなく、皮膚に生じた変化を全身を基盤としてどのように考えて行くか（目標）、実際的には皮膚に起こっている変化（皮疹のみかた）を正確にとらえ、その原因をどのように追求していくか、どのような検査を行うべきか、その結果どのような背景を考えるべきか、治療はどのようにして行くべきか、などの考え方を深める。
キーワード	皮膚の組織構造、皮膚検査法、湿疹・皮膚炎、治療
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域Ⅱb, c及び領域Ⅳd
学習到達目標	皮膚の構造と機能を理解する(C-2-2, E-8)。 皮膚の検査の基本を理解し、説明できる(D-3, F-2-4)。 皮膚の疾患の各論に関して理解して、重要なポイントを説明できる(D-3, F-1-12, F-1-37)。 皮膚疾患の治療の考え方を理解し、基本的な治療方法を説明できる(C-4-5, C-4-6, D-3, F-2-9, 一般手技2), 3), 外科手技1)-6))。
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	（講義要目） 皮膚の組織構造・細胞・生理 皮膚検査法・皮膚アレルギー検査法・微生物検査法 湿疹・皮膚炎 皮疹からみた膠原病 蕁麻疹、薬疹、紅斑症 感染症 皮膚良性腫瘍・悪性腫瘍 水疱症 炎症性角化症・角化症 治療
授業計画	担当教員・講義予定表を参照（各講義において実習形式や実際の検査用機械などに触れる体験を行う）
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験
教科書・テキスト	チャート式カラー皮膚科（医学評論社）、あたらしい皮膚科学（中山書店）、皮膚病アトラス
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	月曜、木曜 午前（事前に連絡すること）担当教員：森田明理 内線 8261、電子メール amorita@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

皮膚系ユニット 授業計画

加齢環境皮膚科・教授	森田明理	非常勤講師(千葉大学皮膚科 教授)	松江弘之
形成外科・教授	鳥山和宏	非常勤講師(旭ろうさい病院 部長)	榊原代幸
加齢環境皮膚科・講師	加藤裕史	非常勤講師(市立西部医療センター 部長)	澤田啓生
加齢環境皮膚科・講師	中村元樹	非常勤講師(豊川市民病院 部長)	西尾栄一
加齢環境皮膚科・助教	井汲今日子	非常勤講師(岡崎市民病院 部長)	西田絵美
		非常勤講師(春日井市民病院 医長)	古橋卓也

	月日	曜日	時限	授業項目	授業内容	担当	教員
1	9/2	木	1	皮膚の疾患と治療	皮膚悪性腫瘍(上皮系・メラノーマ)	皮膚	加藤
2	9/2	木	2	皮膚の疾患と治療	褥瘡・熱傷治療、潰瘍治療	皮膚	加藤
3	9/6	月	3	皮膚の構造と機能	皮膚の組織構造・細胞・生理	皮膚	森田
4	9/6	月	4	皮膚の検査の基本	皮膚検査法・皮膚アレルギー検査法・微生物検査法	皮膚	森田
5	9/9	木	1	皮膚の疾患と治療	蕁麻疹・薬疹・紅斑症・紅皮症・皮膚免疫	皮膚	西尾(非常勤講師)
6	9/9	木	2	皮膚の疾患と治療	皮膚良性腫瘍・母斑・母斑症	皮膚	古橋(非常勤講師)
7	9/13	月	3	皮膚の疾患と治療	皮膚形成外科	皮膚	鳥山
8	9/13	月	4	皮膚の疾患と治療	紫斑・血流障害・血管炎	皮膚	榊原(非常勤講師)
9	9/16	木	1	皮膚の疾患と治療	水疱症・膿疱症	皮膚	森田
10	9/16	木	2	皮膚の疾患と治療	乾癬と角化症	皮膚	森田
11	9/27	月	3	皮膚の疾患と治療	皮膚症状から考える皮膚科疾患への治療アプローチ	皮膚	井汲
12	9/27	月	4	皮膚の疾患と治療	湿疹・皮膚炎	皮膚	澤田(非常勤講師)
13	9/30	木	1	皮膚の疾患と治療	感染症1 梅毒・性病・HIV感染症・動物性皮膚疾患	皮膚	中村
14	9/30	木	2	皮膚の疾患と治療	感染症2 細菌感染症・ウイルス感染症・皮膚結核	皮膚	加藤
15	10/4	月	3	皮膚の疾患と治療	皮疹からみた膠原病	皮膚	森田
16	10/4	月	4	皮膚の疾患と治療	光線治療・レーザー治療	皮膚	森田
17	10/5	火	3	皮膚の疾患と治療	皮膚のリンパ腫・皮膚間葉系腫瘍	皮膚	松江(非常勤講師)
18	10/5	火	4	皮膚の疾患と治療	感染症3 色素異常・皮膚形成異常・代謝異常表在性・深在性真菌症・ハンセン病	皮膚	西田(非常勤講師)

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・運動器系/リハビリテーションユニット
専門・教養	専門
担当教員	整形外科：村上英樹、若林健二郎、岡本秀貴、鈴木伸幸、野崎正浩、木村浩明、吉田雅人(運動器スポーツ先進医学寄附講座)、小林 真、加藤賢治、川口洋平(グリア細胞生物学)、八木 清、米津大貴 非常勤講師：水谷 潤 リハビリテーション：植木美乃、黒柳 元、村上里奈、青山公紀 非常勤講師：和田郁雄、多和田 忍
講義期間・曜日・時限	Semester 4 (2021/8/31~2021/11/5)、月・火曜日、1~2限目
授業目的・目標	骨、軟骨、筋肉および靭帯など、運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の原因、症候、診断と治療について学び、臨床実習に必要な基礎知識を習得する。 リハビリテーションの基本について学ぶ。
キーワード	リハビリテーション、多職種連携
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia, Ic, IIb, IIc, IIIb, IIIc, IVb, IVd
学習到達目標	1. 骨折、関節脱臼やスポーツ障害の診断や治療について理解する。 2. 先天性股関節脱臼など小児に特有の疾患や先天異常について理解する。 3. 関節リウマチや変形性関節症など各種関節疾患の原因、診断、治療について理解する。 4. 腰椎椎間板ヘルニア、頚椎症性脊髄症や脊髄損傷など脊椎の疾患や外傷について理解する。 5. 四肢の絞扼性神経障害について理解する。 6. 骨粗鬆症の病態とそれに伴う障害について理解する。 7. リハビリテーションの概念と適応を理解する。 8. リハビリテーション・チームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。 9. 理学療法、作業療法と言語聴覚療法を概説できる。 10. 主な歩行補助具、車椅子、義肢(義手、義足)と装具を概説できる。 【該当するモデルコアカリ】 A-2) 医学知識と問題対応能力, A-3) 診療技能と患者ケア, A-6) 医療の質と安全の管理, A-5-1) 患者中心のチーム医療, B-1-4) 疫学と予防医学, B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度, C-2-2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係, C-4-6) 腫瘍, D-4) 運動器(筋骨格)系, E-7) 成長と発達, F-1-34) 運動麻痺・筋力低下, F-1-35) 腰背部痛, F-1-36) 関節痛・関節腫脹, F-1-37) 外傷・熱傷, F-2-14) リハビリテーション
成績評価基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	1. リハビリテーション総論 2. 運動器・内部障害のリハビリテーション 3. 小児のリハビリテーション 4. 義肢・装具とリハビリテーション 5. 摂食嚥下障害のリハビリテーション 6. 中枢神経のリハビリテーション 7. 整形外科総論 8. 救急外傷(骨折、脱臼、捻挫) 9. 骨粗鬆症 10. 腰椎疾患 11. 骨軟部腫瘍 12. 小児整形外科 13. 脊椎・脊髄の外傷、スポーツ障害 14. 頚椎疾患、脊柱変形 15. 手の外科、末梢神経障害 16. 膝の変性疾患 17. 膝のスポーツ障害 18. 肩・肘のスポーツ障害 19. 関節リウマチ 20. 股関節疾患
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。授業後は、講義資料を用いて復習し、内容の習得に努めること。
成績評価方法	本試は Semester 試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 ※再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングについては参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	テキスト 図解整形外科 久保俊一、大塚隆信他編集、金芳堂 ¥5,720、 整形外科研修ノート 永井良三総監修、大塚隆信他編集、診断と治療社 ¥9,680 標準整形外科学 石井清一他監修、医学書院 ¥10,120 標準リハビリテーション医学 津山直一監修、医学書院 ¥7,480 参考書 Simon's Emergency Orthopedics 8th ed. Scott C. Sherman, McGraw-Hill ¥31,561 Orthopedics Robert H Fitzgerald Jr. Mosby ¥25,786
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	「小児のリハビリテーション」では、患者さんに協力いただき、対話型授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	月～金 9:00～17:00 整形外科医局(研究棟6階) 電話：052-853-8236 月～金 9:00～17:00 リハビリテーション医学医局(研究棟2階) 電話：052-853-8733
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://www.ncu-ortho.jp/ https://ncu-rehab.jp/

2021年度 第4学年

運動器系／リハビリテーションユニット 担当教員

所属・職名	氏名
整形外科学分野 教授	村上英樹
整形外科学分野 講師	若林健二郎
整形外科学分野 講師	岡本秀貴
整形外科学分野 講師	鈴木伸幸
整形外科学分野 講師	野崎正浩
整形外科学分野 講師	木村浩明
運動器スポーツ先進医学寄附講座 講師	吉田雅人
整形外科学分野 助教	小林 真
整形外科学分野 助教	加藤賢治
グリア細胞生物学分野 助教	川口洋平
整形外科学分野 病院助教	八木 清
整形外科学分野 病院助教	米津大貴
整形外科学分野 非常勤講師	水谷 潤
リハビリテーション医学 教授	植木美乃
リハビリテーション医学 講師	黒柳 元
リハビリテーション医学 助教	村上里奈
リハビリテーション医学 助教	青山公紀
リハビリテーション医学 非常勤講師	和田郁雄
リハビリテーション医学 非常勤講師	多和田忍

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	31	火	1	リハビリテーション総論	植木美乃
8	31	火	2	摂食嚥下障害のリハビリテーション	青山公紀
9	6	月	1	小児のリハビリテーション	多和田忍
9	6	月	2	運動器・内部障害のリハビリテーション	村上里奈
9	7	火	1	中枢神経のリハビリテーション	植木美乃
9	7	火	2	義肢・装具とリハビリテーション	和田郁雄
9	13	月	1	整形外科総論	村上英樹
9	13	月	2	救急外傷（骨折、脱臼、捻挫）	米津大貴
9	14	火	1	骨粗鬆症	鈴木伸幸
9	14	火	2	腰椎疾患	加藤賢治
9	21	火	1	骨軟部腫瘍	木村浩明
9	21	火	2	小児整形外科	若林健二郎
9	27	月	1	脊椎・脊髄の外傷、スポーツ障害	八木 清
9	27	月	2	頚椎疾患、脊柱変形	水谷 潤
9	28	火	1	手の外科、末梢神経障害	岡本秀貴
9	28	火	2	膝の変性疾患	小林 真
10	4	月	1	膝のスポーツ障害	野崎正浩
10	4	月	2	肩・肘のスポーツ障害	吉田雅人
10	5	火	1	関節リウマチ	川口洋平
10	5	火	2	股関節疾患	黒柳 元

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・循環器系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	内科：大手信之、瀬尾由広、杉浦知範、後藤利彦、若見和明、藤田浩志、北田修一、村井俊介、伊藤 剛、菊池祥平、中山貴文、山下純世、土肥靖明（非常勤講師） 小児科：鈴木一孝 心臓血管外科：須田久雄、小川真司、山田敏之、小川辰士、浅野實樹
講義期間・曜日・時限	セメスター1（2021年1月4日～2021年2月22日 月・水・木曜日：1・2・3・4時限）

授業目的・目標	【目的】小児から成人に至る多様な循環動態や循環器疾患を理解し、基礎的な臨床能力を養成する。 【目標】循環器に関わる生理・解剖・病理・薬理の知識を習得し、疾患の診断技術と検査結果の評価について学習し、薬物や手術などによる基本的治療戦略への理解を深め、演習などを通して臨床実習の準備を行う。
キーワード	循環器、心臓、血管、成人、小児
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、I b
学習到達目標	1. 生理学、解剖学、生化学の基礎知識を再学習し、循環器疾患が理解できる。 2. 心不全や循環不全の原因を列挙し、諸検査から循環を評価できる。 3. 心電図を理解し、不整脈や病態を診断できる。 4. 発生学や構築学の見地から先天性心疾患を理解し、手術法が選択できる。 5. 弁膜疾患の病態を理解し、内科と外科による治療の選択と評価ができる。 6. 虚血性心疾患を理解し、適切な治療戦略が選択できる。 7. 動脈硬化の成因と病態を理解し、各種疾患の治療法を列挙し選択できる。 8. 血圧異常の病態を理解し、多様な治療法について説明できる。 9. 心筋疾患、心膜疾患、心臓腫瘍について理解できる。 10. 循環器疾患を急性期と慢性期から捉え、治療法の相違と選択法が説明できる。 11. 循環器疾患と生活習慣の関連を学び、成人循環器疾患の予防と生活指導を説明できる。 【該当するモデルコアカリ】B-1-5、C-4-4、D-5、F-1-10、F-1-11、F-1-16、F-1-17、F-1-18
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	本科目は小児と成人の循環器疾患に対する内科的、外科的な立場からの講義と心電図診断など演習からなる。多様な循環器疾患の病態生理、心機能・循環動態を学び治療戦略を考察する。
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義・演習は循環器ユニット授業計画表に基づいて行う。授業時間外学習として、第1回授業までにM3病態生理の講義で配布した心機能・心電図に関する資料およびM3薬理学の講義で配布した心不全と不整脈・抗不整脈薬に関する資料を復習しておくこと。各講義毎にその日の復習すべき事項を明示するので次回講義までに確実に復習すること。
成績評価方法	セメスター試験 100点満点 セメスター試験が60点未満の場合、アクティブラーニングを10点を上限としてプラスする。 アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。 本試験はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試験は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングとその他項目については参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	Braunwald's Heart Disease 第10版 Mann/Zipes/Libby/Bonow編, Elsevier出版 図解心電図テキスト 村川祐二訳, 文光堂 臨床心エコー図学 吉川純一著, 文光堂 ハーバード大学テキスト心臓病の病態生理 Leonard S. Lilly編, 川名正敏他, MEDSi社 心不全治療に心エコーを活かす 瀬尾由広他著, MWDICAL VIEW社 臨床発達心臓病学 第3版 高尾篤良他編, 中外医学社 新心臓血管外科テキスト 安達秀雄他編, 中外医学社 心臓外科チームのための基本手術マニュアル 三石績著, ヘルス出版
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	真摯な態度で取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	レポート提出、ショートテスト、プレゼンテーションなどを取り入れた授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	月～金曜日 9:00～16:00（医局秘書を通じて各講義の担当教員に連絡の事） 内科：内線8221、電子メール：ohte_sec@med.nagoya-cu.ac.jp 小児科：内線8246、電子メール：aykhat@med.nagoya-cu.ac.jp 心臓血管外科：内線8099、電子メール：herz@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

循環器系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
循環器内科学 教授	大手信之	心臓血管外科学 教授	須田久雄
循環器内科学 准教授	瀬尾由広	心臓血管外科学 助教	小川真司
急性心臓疾患治療部 准教授	杉浦知範	心臓血管外科学 助教	山田敏之
循環器内科学 講師	後藤利彦	心臓血管外科学 助教	小川辰士
循環器内科学 助教	若見和明	新生児 小児医学 助教	鈴木一孝
循環器内科学 助教	藤田浩志	高度医療教育研究センター 教授	浅野實樹
循環器内科学 助教	北田修一	高度医療教育研究センター 准教授	山下純世
循環器内科学 助教	村井俊介		
循環器内科学 助教	伊藤 剛	非常勤講師	土肥靖明
中央臨床検査部 助教	菊池祥平		
循環器内科学 助教	中山貴文		

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	4	月	3	循環器症候論・不整脈総論	大手教授
	4	月	4	循環器外科学総論	須田教授
	7	木	3	心音・心雑音	瀬尾准教授
	7	木	4	心臓カテーテル検査	藤田助教
	14	木	3	心エコー・心臓核医学	若見助教
	14	木	4	心機能	大手教授
	18	月	3	心不全診断	大手教授
	18	月	4	高血圧の診断と治療	土肥非常勤講師
	21	木	3	感染性心内膜炎・心臓腫瘍	菊池助教
	21	木	4	動脈硬化の成因	大手教授
	25	月	3	胎児循環と先天性心疾患	鈴木助教
	25	月	4	心臓発生と先天性心疾患	鈴木助教
	27	水	1	心電図・波形診断	杉浦准教授
	27	水	2	不整脈(I) 徐脈性不整脈	後藤講師
	28	木	3	心筋炎・特発性心筋症	北田助教
	28	木	4	大動脈弁疾患	瀬尾准教授
2	1	月	3	末梢血管疾患の診断・内科治療	村井助教
	1	月	4	僧帽弁疾患	瀬尾准教授
	3	水	1	狭心症	山下准教授
	3	水	2	二次性心筋症	中山助教
	4	木	3	虚血性心疾患の外科治療	山田助教
	4	木	4	末梢血管・静脈疾患の外科治療	小川辰士助教
	8	月	3	収縮性心膜炎・心タンポナーデ	若見助教
	8	月	4	収縮性の維持された心不全	大手教授
	10	水	1	不整脈(II) 頻脈性不整脈	後藤講師
	10	水	2	心電図演習	杉浦准教授
2	15	月	3	小児心筋疾患・川崎病	鈴木助教
	15	月	4	弁膜症の外科	小川真司助教
	17	水	1	肺高血圧と右心不全	中山助教
	17	水	2	先天性心疾患の外科	浅野教授
	18	木	3	心筋梗塞	藤田助教
	18	木	4	心不全の薬物・非薬物治療	北田助教
	22	月	3	大動脈瘤・急性動脈解離	伊藤助教
	22	月	4	大動脈疾患の外科治療	須田教授

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・呼吸器系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	新実彰男、中西良一、中村 敦、伊藤 穰、前野 健、竹村昌也、大久保仁嗣、田尻智子、上村剛大、福田悟史、福光研介、奥田勝裕、羽田裕司、横田圭右、立松 勉、小田梨紗、坂根理司、近藤知史、加藤 晋、野村孝泰 非常勤講師：宇佐美郁治、樋田豊明、森山悟、加藤丈典
講義期間・曜日・時限	セメスター1 (2021/1/6~2021/2/19)

授業目的・目標	呼吸器疾患に対する理解を深め、これに対応できる能力を身につけるため、呼吸器疾患の病態、診断、治療、予防に関して学ぶ。
キーワード	呼吸器、肺、縦隔、感染症、アレルギー、腫瘍
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I a, I b, I c, II b, III b
学習到達目標	代表的な呼吸器疾患の病態を理解する。 臨床データを基に診断ができる。 実例について内科的あるいは外科的な治療方針を説明できる。 呼吸器稀少疾患について説明できる。 環境要因、生活習慣による呼吸器疾患の予防について説明できる。 【該当するモデルコアカリ】D-6 呼吸器系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー、E-7 成長と発達
成績評価基準	マークシート試験 秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	呼吸器の機能と症候、呼吸器の検査、喘息、慢性閉塞性肺疾患、慢性咳嗽、肺癌、縦隔腫瘍、感染症、びまん性肺疾患、胸膜疾患、重症筋無力症、小児呼吸器疾患、小児呼吸器外科、胸部外傷、その他
授業計画	担当教員・講義予定表を参照。深い理解と効率的な知識習得のため、テキスト及び参考文献などで授業時間外に学習することをすすめる。 一部の授業においては、課題や症例が提示され、関連する臨床医学の情報を種々の手段で調べ、診断と治療法を個々およびグループで見出す。その結果を発表し、討論しながら問題点を整理する形式で行われる。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験(100)点満点 *セメスター試験が60点未満の場合、講義の参加態度を参考とする。
教科書・テキスト	新臨床内科学(医学書院)、ハリソン内科学 第4版 pp1805-1899(メディカル・サイエンス・インターナショナル)、フレイザー呼吸器病学エッセンス(西村書店)、呼吸器外科学(南山堂)、General Thoracic Surgery (Shields編, Lippincott Williams & Wilkins)、縦隔の外科-手術手技アトラス(南山堂)、呼吸器外科手術書(金芳堂)、肺癌診療ガイドライン(日本肺癌学会編)
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	講義中の私語、出入りは慎むこと
履修者への要望事項	講義中の私語、出入りは慎むこと
アクティブ・ラーニング	講師の先生の裁量でアクティブラーニングを行う。
連絡先・オフィスアワー	新実彰男：月 13-14時(事前に連絡) a.niimi@med.nagoya-cu.ac.jp 中西良一：月 14-15時(事前に連絡) ryoichi@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2020年度 第3学年・2021年度 第4学年

呼吸器系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
呼吸器・免疫アレルギー内科学内科学 教授	新実彰男
腫瘍・免疫外科学 教授	中西良一
非常勤講師(旭ろうさい病院)	宇佐美郁治
非常勤講師(トヨタ記念病院)	森山 悟
非常勤講師(愛知県がんセンター)	樋田豊明
高度医療教育研究センター 准教授	羽田裕司
臨床感染制御学 教授	中村 敦
地域医療教育研究センター 准教授	竹村昌也
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	伊藤 穰
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	前野 健
呼吸器・免疫アレルギー内科学 講師	大久保仁嗣
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	田尻智子
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	上村剛大
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	福田悟史
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	福光研介
腫瘍・免疫外科学 准教授	奥田勝裕
腫瘍・免疫外科学 講師	横田圭右
腫瘍・免疫外科学 講師	立松 勉
腫瘍・免疫外科学 助教	小田梨紗
腫瘍・免疫外科学 助教	坂根理司
小児外科 病院准教授	近藤知史
豊橋市民病院小児科(新生児)第三部長	加藤文典
新生児・小児医学 助教	加藤 晋
新生児・小児医学 助教	野村孝泰

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	6	水	1	縦隔(各論)	坂根理司
1	6	水	2	肺癌(症候・診断)	上村剛大
1	6	水	3	呼吸器感染症(抗酸菌感染症以外)	中村 敦
1	6	水	4	胸部エックス線・呼吸不全	前野 健
1	8	金	2	呼吸器疾患の特徴と魅力、総論・症候	新実彰男
1	8	金	3	気管支喘息	新実彰男
1	13	水	1	びまん性肺疾患(総論)	福田悟史
1	13	水	2	縦隔(総論)	小田梨紗
1	13	水	3	肺癌の遺伝子異常	奥田勝裕
1	13	水	4	じん肺と石綿(アスベスト)関連疾患	宇佐美郁治
1	15	金	2	肺癌(化学療法)	樋田豊明
1	15	金	3	肺癌(総論、疫学)	羽田裕司
1	20	水	1	胸膜疾患(外科)	森山 悟
1	20	水	2	胸膜疾患(内科)	田尻智子
1	20	水	3	気管支拡張症・嚢胞性肺疾患	福光研介
1	20	水	4	抗酸菌感染症	伊藤 穰
1	22	金	2	呼吸器疾患の診断と検査	竹村昌也
1	22	金	3	(予備日)	
1	27	水	3	びまん性肺疾患(各論)	大久保仁嗣
1	27	水	4	胸膜疾患(外科)	立松 勉
1	29	金	2	喘息以外のアレルギー性呼吸器疾患、COPD	新実彰男
1	29	金	3	慢性咳嗽	新実彰男
2	4	木	1	新生児呼吸生理	加藤文典
2	4	木	2	新生児呼吸器疾患	加藤文典
2	5	金	2	(予備日)	
2	5	金	3	小児呼吸器外科(中枢気道疾患)	近藤知史
2	12	金	2	呼吸器外科手術術前術中術後管理	横田圭右
2	12	金	3	小児呼吸器外科(末梢気道疾患)	近藤知史
2	18	木	1	気道疾患・喘息(小児)	野村孝泰
2	18	木	2	肺実質、横隔膜疾患(小児)	加藤 晋
2	19	金	2	肺癌外科治療1	中西良一
2	19	金	3	肺癌外科治療2	中西良一

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・消化器系・内視鏡ユニット
専門・教養	専門
担当教員	(内科)片岡洋望、谷田諭史、林 香月、藤原 圭、久保田英嗣、内藤 格、志村貴也、松浦健太郎、尾関啓司、西江裕忠、(外科)瀧口修司、松尾洋一、高橋広域、小川 了、森本 守、田中達也、志賀一慶、佐川弘之、齊藤健太、前田祐三、大久保友貴、今藤裕之(口腔外科)横井基夫、竹本 隆、(次世代医療開発学)神谷 武、(地域医療教育研究センター)野尻俊輔 (非常勤講師)祖父江聡
講義期間・曜日・時限	セメスター2 (3月4日～4月23日) 計30コマ

授業目的・目標	消化器系の解剖、機能を把握し、主要な消化器系疾患の病態生理、診断、治療を学び、臨床実習に必要な基礎的知識を習得することを目的とする。
キーワード	口腔、食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆道、膵臓、腹部救急、腹部手術
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a
学習到達目標	1. 消化器系の正常構造と機能を理解する。 2. 主要な消化器系疾患の病因について理解する。 3. 正確な診断方法を選択し、鑑別すべき疾患を理解する。 4. 最適な治療法について理解する。 5. 消化器内視鏡の適応、診断、治療方法について理解する。 【該当するモデルコアカリ】 A-4-2)患者と医師の関係、B-4-1)医師に求められる社会性、D-7)人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療構造と機能、消化器系、E-3)全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療、腫瘍、F-1-20)腹痛、F-2-6)内視鏡を用いる診断と治療
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 口腔疾患と治療法 2. 食道疾患の診断と治療 3. 胃疾患の診断と治療 4. 小腸・大腸疾患の診断と治療 5. 肝疾患の診断と治療 6. 胆道・膵疾患の診断と治療 7. 腹部救急疾患の診断と治療
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	筆記試験80%、出席及び授業態度20%
教科書・テキスト	
参考文献	Bocku's Gastroenterology 5th ed. Haubrich ed, Saunders 1995 Textbook of Gastroenterology 5th ed. Yamada ed, John Wiley & Sons 2011 内視鏡所見のよみ方と鑑別診断 上部消化管 第2版・下部消化管 第2版 医学書院 カラー版消化器病学基礎と臨床 西村書店 2013 消化管内視鏡診断テキスト1.2.3 文光堂 2008 消化器内視鏡ガイドライン 第3版 医学書院 2006 消化器外科手術のための解剖学 食道、胃・十二指腸、腹壁・ヘルニア メジカルビュー社 1999 オクルージョンの臨床 第2版 Peter E. Dawson, 1993 歯科衛生士のための口腔外科学 2011年
履修上の注意事項	体調管理に努め、発熱・感冒症状などある場合は申し出ること。遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	講義のなかで、実際の症例提示を行い、検査、診断、治療などについて考えさせる。
連絡先・オフィスアワー	平日(月～金) 午前9時から午後5時 連絡先：消化器代謝内科学 西江裕忠 内線：8211、 E-mail:nishie@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

消化器系・内視鏡ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
消化器・代謝内科学 教授	片岡洋望	消化器外科学 教授	瀧口修司
次世代医療開発学 教授	神谷 武	消化器外科学 教授（診療担当）	松尾洋一
地域医療教育研究センター 教授（いなべ総合病院）	野尻俊輔	消化器外科学 准教授	高橋広城
消化器・代謝内科学 准教授	谷田諭史	消化器外科学 講師	小川 了
消化器・代謝内科学 准教授	林 香月	消化器外科学 講師	森本 守
消化器・代謝内科学 准教授	久保田英嗣	消化器外科学 助教	田中達也
消化器・代謝内科学 講師	藤原 圭	消化器外科学 助教	志賀一慶
消化器・代謝内科学 講師	内藤 格	消化器外科学 助教	佐川弘之
消化器・代謝内科学 講師	志村貴也	消化器外科学 助教	大久保友貴
消化器・代謝内科学 講師	松浦健太郎	消化器外科学 助教	齊藤健太
消化器・代謝内科学 講師	尾関啓司	消化器外科学 助教	前田祐三
消化器・代謝内科学 助教	西江裕忠	消化器外科学 病院助教	今藤裕之
非常勤講師（中沢内科クリニック）	中沢貴宏		
消化器内科・高度医療教育センター教授（西部医療センター）	妹尾恭司	口腔外科学・名誉教授	横井基夫
非常勤講師（春日井市民病院）	祖父江 聡	口腔外科学・高度医療教育研究センター教授	竹本 隆
地域医療教育研究センター 教授（豊川市民病院）	佐野 仁		

授業計画

月日	曜日	時限	授業項目	授業内容	担当	教官
3月4日	木	1	口腔	舌の診かたについて	口外	横井基夫
		2	食道、胃	胃食道逆流症、機能性消化管疾患	内科	神谷 武
		3	内視鏡	消化器疾患と消化管内視鏡	内科	久保田英嗣
		4	内視鏡	ピロリ感染症	内科	片岡洋望
3月5日	金	1	胆道	胆道外科	外科	齊藤健太
		2	肝臓	肝臓外科	外科	森本 守
		3	膵臓	膵炎	内科	内藤 格
		4	肝臓	肝癌の内科的治療	内科	松浦健太郎
3月11日	木	1	肝臓	肝硬変と合併疾患	内科	野尻俊輔
		2	肝臓	ウイルス性肝疾患	内科	祖父江聡
		3	口腔	口腔所見と病態	口外	竹本 隆
		4	胆道	胆道1	内科	中沢貴宏
3月12日	金	1	大腸	大腸*リ-フ、大腸癌	内科	志村貴也
		2	食道、胃	食道腫瘍	内科	妹尾恭司
		3	膵臓	膵腫瘍	内科	佐野 仁
		4	胆道	胆道2	内科	林 香月
3月17日	水	1	胃	胃腫瘍	内科	西江裕忠
		2	内視鏡	小腸・大腸疾患	内科	尾関啓司
		3	小腸・ヘルニア	小腸外科・ヘルニア	外科	田中達也
		4	腹部外傷	腹部外傷	外科	大久保友貴
3月18日	木	1	食道	食道外科	外科	小川 了
		2	直腸・肛門	大腸外科1（直腸・肛門）	外科	高橋広城
		3	膵臓	膵臓外科	外科	松尾洋一
		4	外科総論	外科総論	外科	瀧口修司
4月9日	金	1	大腸	炎症性腸疾患	内科	谷田諭史
		2	肝臓	肝機能検査、画像診断	内科	藤原 圭
4月16日	金	3	急性腹症	急性腹症	外科	今藤裕之
		4	胃	胃外科	外科	佐川弘之
4月23日	金	1	結腸	大腸外科2（結腸）	外科	志賀一慶
		2	腹腔鏡手術	腹腔鏡手術	外科	前田祐三

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・腎・尿路ユニット
専門・教養	専門
担当教員	濱野高行、水野晶紫、小野水面、村島美穂、鈴木大成 非常勤講師：猪阪善隆
講義期間・曜日・時限	セメスター1（2020/1/4～2020/2/19）、月曜日 1・2限目、金曜日 1・4限目
授業目的・目標	腎・尿路の役割を理解するために、糸球体・間質疾患、体液・電解質異常などを理解し、腎臓の視点からプライマリケアにも役立つ診察、診断、治療に必要な知識を習得する。症例検討会ではディスカッション能力を高める。医師国家試験に準じた臨床問題にもチャレンジする。
キーワード	腎臓、電解質、利尿薬、酸塩基平衡、尿検査、間質尿細管疾患、糸球体疾患、急性腎障害、慢性腎臓病、腎臓病理、腎代替療法
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 Ia、Ib、IIb
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・尿路系の解剖、機能、生理について述べるができる。 2. 尿所見・尿検査について診断的意義や鑑別点を述べるができる。 3. 体液・電解質・血圧異常について、その病態、治療を述べるができる。 4. 糸球体疾患、間質疾患について、その病態、治療を述べるができる。 5. 腎不全について、その病態、治療を述べるができる。 6. 腎臓病をきたす全身性疾患について病態、治療を述べるができる。 7. シェント手術で手洗い・ガウンテクニック・介助・皮膚縫合・創部ドレッシングを修得。 7. 腎代替療法について、適応を述べるができる。 8. 症例検討会において学生同士での提示、議論ができる。 <p>【該当するモデルコアカリ】C-2-2組織・各臓器の構成、機能と位置関係、C-2-3個体の調節機能とホメオスタシス、D-8腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）、F-1-4体重減少・体重増加、F-1-10脱水、F-1-11浮腫、F-1-28尿量・排尿の異常、F-1-29血尿・タンパク尿、F-2-3臨床検査、F-2-4病理診断、F-2-8薬物治療の基本原理、F-2-11食事・栄養療法と輸液療法、F-2-12医療機器と人工臓器</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 尿検査の実際（血尿・蛋白尿）、腎機能の見方（24時間尿・eGFR） 2. 酸塩基平衡とK代謝異常 3. CKD-MBD 4. 血液透析、移植 5. 水・Na代謝・利尿薬 6. ネフローゼ症候群 7. 糸球体疾患の腎病理 8. 急性腎障害、急性血液浄化 9. 遺伝性腎疾患（多発性のう胞腎、Fabry病、Alport症候群） 10. 二次性腎症 11. 二次性高血圧 12. CKDと腎性貧血 13. DKD、腎硬化症 14. 間質尿細管疾患 15. 腹膜透析
授業計画	2020年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 60%
教科書・テキスト	<p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初学者から専門医までの腎臓学入門 日本腎臓学会編 東京医学社 2. Clinical Nephrology Brenner, Coe, Rector WB Saunders 3. Clinical Physiology of Acid-Base and Electrolyte Disorders (5th Ed) McGraw-Hill 4. Heptinstall's Pathology of the Kidney (6th ED) Lippincott Williams & Wilkins <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気がみえる vol.8 腎・泌尿器
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：鈴木大成 内線：3602、電子メール：taisei@med.nagoya-cu.ac.jp 9：00～17：00〔月曜および水曜～金曜〕
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2021年度 第4学年

腎・尿路ユニット（腎臓内科）担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 腎臓内科学 教授	濱野 高行
医学研究科 腎臓内科学 助教	水野 晶紫
医学研究科 腎臓内科学 助教	小野 水面
医学研究科 腎臓内科学 助教	村島 美穂
医学研究科 腎臓内科学 病院助教	鈴木 大成
非常勤講師	猪阪 善隆

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
1	4	月	1	尿検査の実際(血尿・蛋白尿)、腎機能の見方(24時間尿・eGFR)	水野 晶紫
1	4	月	2	遺伝性腎疾患（多発性のう胞腎、Fabry病、Alport症候群）	鈴木 大成
1	15	金	4	CKD-MBD	濱野 高行
1	18	月	1	血液透析、移植	村島 美穂
1	18	月	2	水・Na代謝・利尿薬	猪阪 善隆
1	25	月	1	ネフローゼ症候群（+Active Learning）	水野 晶紫
1	25	月	2	糸球体疾患の腎病理	猪阪 善隆
1	29	金	4	酸塩基平衡とK代謝異常（+Active Learning）	小野 水面
2	2	火	1	急性腎障害、急性血液浄化（+Active Learning）	小野 水面
2	2	火	2	二次性腎症	小野 水面
2	8	月	2	二次性高血圧	村島 美穂
2	12	金	1	CKDと腎性貧血	濱野 高行
2	15	月	1	DKD、腎硬化症	鈴木 大成
2	15	月	2	間質尿細管疾患	村島 美穂
2	19	金	4	腹膜透析	濱野 高行

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・腎・尿路系ユニット（泌尿器科）
専門・教養	専門
担当教員	安井孝周、林 祐太郎、丸山哲史、河合憲康、岡田淳志、水野健太郎、安藤亮介、瀧本周造、内木 拓、田口和己
講義期間・曜日・時限	セメスター1 1月8日～2月19日 11コマ

授業目的・目標	腎・泌尿器の役割を理解するために、腎実質・腎盂・尿管・膀胱・尿道の解剖と機能に関する知識を確認し、それらに特有の病態、疾患などを理解し、診断から手術に至る様々な知識を総合的に習得する。
キーワード	副腎・腎・尿管・発生
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a-d, 11a-e, 111b, IVd
学習到達目標	1. 腎・泌尿器の解剖・発生、症候・検査について、述べることができる。 2. 腎・泌尿器の先天異常、発生について、述べることができる。 3. 尿路結石の成因・治療を述べることができる。 4. 副腎疾患・腎腫瘍について、その病態、治療を述べることができる。 5. 腎盂・尿管・膀胱腫瘍について、その病態、治療を述べることができる。 6. 腎・泌尿器の炎症と外傷について、その病態、治療を述べることができる。 7. 腎不全、腎移植について、その病態、治療を述べることができる。 【該当するモデルコアカリ】 D-8 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）、F-1-11) 浮腫 F-1-25) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘍、F-1-28) 尿量・排尿の異常、 F-1-29) 血尿・タンパク尿、F-1-37) 外傷・熱傷
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 腎・泌尿器の解剖・生理、症候・検査 2. 腎・泌尿器の発生 3. 腎・泌尿器の先天異常 4. 尿路結石の成因 5. 尿路結石の治療 6. 腎・泌尿器の炎症と外傷 7. アクティブラーニング(結石、感染、炎症、外傷) 8. 腎不全・腎移植 9. 副腎疾患・腎腫瘍 10. 腎盂・尿管・膀胱腫瘍 11. アクティブラーニング(副腎・腎・尿路上皮腫瘍、腎移植) ※「2. 腎・泌尿器の発生」「3. 腎・泌尿器の先天異常」についてのアクティブラーニングは、生体機能コースでの範囲となります。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、Zoomによるサマリーテスト・解説に変更します。
授業計画	2021年度授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	初回の講義までに、教科書・テキストなどで予習しておくこと。 アクティブラーニングはTBL(team-based learning)形式で行い、講義始めに小テストがあります。 アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、Zoomによるサマリーテスト・解説に変更します。
成績評価方法	セメスター試験 80%、アクティブラーニング 20% ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、Zoomによるサマリーテスト・解説に変更します。
教科書・テキスト	教科書：標準泌尿器科学 第9版 医学書院 病気がみえる vol18 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA 参考資料：講義配布プリント
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	講義開始時間の1分前までに着席していること。講義の途中入室・途中退室は特別な事情がある場合に限るものとする。 スマホでの講義撮影・動画撮影・録音は禁止します。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングはTBL(team-based learning)形式で行い、講義始めに小テストがあります。 アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。 ※「2. 腎・泌尿器の先天異常」「3. 腎・泌尿器の発生」についてのアクティブラーニングは、生体機能コースでの範囲となります。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、Zoomによるサマリーテスト・解説に変更します。
連絡先・オフィスアワー	対応可能な時間：月～金 9:00～17:00 担当教員の名前：岡田 淳志 准教授 連絡先：8266（医局内線）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	臨床現場に出る際に必要となる知識を学ぶ1度切りの機会です。 また講義をする医師は、20年後の自分たちの姿であると認識し、礼節をもって講義に臨んで下さい。
関連URL	

2021年度 第4学年

腎・尿路ユニット(泌尿器科) 担当教員

所属・職名	氏名
腎・泌尿器科学分野・教授	安井 孝周
小児泌尿器科学分野・教授	林 祐太郎
高度医療教育研究センター・教授	丸山 哲史
地域医療研究教育センター・教授	安藤 亮介
腎・泌尿器科学分野・准教授	河合 憲康
腎・泌尿器科学分野・准教授	岡田 淳志
小児泌尿器科学分野・准教授	水野 健太郎
腎・泌尿器科学分野・講師	濱本 周造
腎・泌尿器科学分野・講師	内木 拓
腎・泌尿器科学分野・講師	田口 和己

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	8	金	1	腎・泌尿器の解剖・生理、症候・検査	安井 孝周
1	8	金	4	腎・泌尿器の発生	林 祐太郎
1	15	金	1	腎・泌尿器の先天異常	水野 健太郎
1	22	金	1	尿路結石の成因	田口 和己
1	22	金	4	尿路結石の治療	濱本 周造
1	29	金	1	腎・泌尿器の炎症と外傷	丸山 哲史
2	5	金	1	アクティブラーニング(結石、感染、炎症、外傷)	岡田 淳志
2	5	金	4	副腎疾患・腎腫瘍	河合 憲康
2	8	月	1	腎不全・腎移植	安藤 亮介
2	12	金	4	腎盂・尿管・膀胱腫瘍	内木 拓
2	19	金	1	アクティブラーニング(副腎・腎・尿路上皮腫瘍、腎移植)	岡田 淳志

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・生殖機能ユニット
専門・教養	専門
担当教員	産科婦人科： 杉浦真弓、尾崎康彦、佐藤 剛、西川隆太郎 泌尿器科： 安井孝周、林 祐太郎、戸澤啓一、梅本幸裕、窪田泰江、河合憲康、水野健太郎、野々村祝夫
講義期間・曜日・時限	
授業目的・目標	(産科婦人科) 生殖器の疾患の原因、病理、形態、症候、病態生理を正確に把握し、診断や治療法の基本を正しく理解することを目標とする。 (泌尿器科) 下部尿路・男性生殖器の役割を理解するために、膀胱・前立腺・尿道・精巣の解剖と機能の関する知識を確認し、それらに特有の病態、疾患などを理解し、診断から手術に至る様々な知識を総合的に習得する。
キーワード	(産科婦人科) 性分化、生殖内分泌、月経異常、不妊症、婦人科腫瘍 (泌尿器科) 男性生殖器・前立腺・精巣・男子不妊症
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 1a-d, 11a-e, 111b, 1Vd
学習到達目標	(産科婦人科) 1. 女性生殖器の発生、構造、機能について正しく理解し説明できる。 2. 女性の正常な性分化およびその異常について正しく理解し説明できる。 3. 女性の生殖内分泌機構や排卵の機序およびその破綻の結果生じる月経異常や不妊症について正しく理解し説明できる。 4. 婦人科腫瘍の検査・診断、良悪性の鑑別、治療について正しく理解し説明できる。 (泌尿器科) 1. 生殖腺の構造と機能、性周期について正しく理解し、説明できる。 2. 不妊症について理解し、説明できる。 3. 生殖器腫瘍の診断・治療について理解し、説明できる。 【該当するモテロコアカリ】 C-2-4) 個体の発生、C-4-1) 遺伝的多様性と疾患、C-4-6) 腫瘍、D-9) 生殖機能、E-3) 腫瘍、E-7-4) 成長と発達(思春期)、E-8-1) 加齢と老化、F-1-20) 腹痛、F-1-30) 月経異常、F-2-4) 病理診断、F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療、F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-2-9) 外科的治療と周術期管理
成績評価基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	(産科婦人科) 1. 女性生殖器の構造と機能・発生と性分化・内外生殖器の先天異常 2. 性周期発現と排卵の機序・性腺刺激ホルモンとステロイド 3. 月経異常の診断と治療 4. 女性不妊症の系統診断と治療 5. 婦人科腫瘍学総論 6. 子宮頸癌 7. 子宮体癌 8. 卵巣腫瘍・絨毛性疾患 9. 子宮内膜症・子宮筋腫 10. アクティブラーニング：婦人科内分泌疾患 11. アクティブラーニング：婦人科腫瘍 (泌尿器科) 1. 男性生殖器の機能、症候と検査 2. 性分化疾患の診断・治療 3. 男性生殖器の先天異常 4. EDの診断と治療・STI 5. 男性不妊症の系統診断と治療 6. 前立腺癌 7. 精巣腫瘍 8. 前立腺肥大症・下部尿路通過障害 9. Femal Urology/神経因性膀胱 10. アクティブラーニング(小児・先天異常・不妊) 11. アクティブラーニング(前立腺・尿道・精巣腫瘍・排尿)
授業計画	授業計画を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 講義内容を正しく修得できるよう、テキストや参考図書および講義での配付資料により復習し理解を深める。さらに講義では触れられなかった講義内容に関わる項目についても自己学習により知識を広め、理解・修得に努めること。 初回の講義までに、教科書・テキストなどで予習しておくこと。 アクティブラーニングは、TBL(team-based learning)形式で行い、講義始めに小テストがあります。アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。
成績評価方法	(産科婦人科) セメスター試験：80点満点 アクティブラーニング：参加態度10+提出物10=20点満点 本試験は以上2項目の合計点を100点満点とし6割未満を不合格とする。再試験は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 (泌尿器科) セメスター試験 80%、アクティブラーニング 20% ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、Zoomによるサマリーテスト・解説に変更します。
教科書・テキスト	標準泌尿器科学 (第9版) 医学書院、病気がみえる vol18 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA 参考資料：講義配布プリント 「プリンシプル産科婦人科学 婦人科編」メディカルビュー 第3版、 「病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科」MEDIC MEDIA 第4版
参考文献	テキストにあげられている参考文献、講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	講義の途中入室・途中退室は、原則認めない。特別な事情がある場合は、必ず講義担当者に申し出ること。病欠の場合は教育研究課に連絡すること。 スマホでの講義撮影・動画撮影・録音は禁止します。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	(産科婦人科) TBL(team-based learning)形式で行い、全員参加型である。積極的に議論に参加すること。 (泌尿器科) アクティブラーニングは、TBL(team-based learning)形式で行い、講義始めに小テストがあります。アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、Zoomによるサマリーテスト・解説に変更します。
連絡先・オフィスアワー	(産科婦人科) 担当教員：佐藤 剛、北折珠央 産科婦人科 医局 853-8241(内線8241) e-mail: og.sato@med.nagoya-cu.ac.jp 平日 8:00 - 17:00 (泌尿器科) 対応可能な時間：月～金 9:00～17:00 担当教員：河合憲康 准教授 連絡先：8266(医局内線)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	臨床現場に出た際に必要となる知識を学ぶ1度切りの機会です。 また講義をする医師は、20年後の自分たちの姿であると認識し、礼節をもって講義に臨んで下さい。 講義での疑問点や十分な理解に至らなかった事項については、そのまましておかず、教員への積極的な質問・確認や自己学習により解決するよう努めること。
関連URL	

生殖機能ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓	腎・泌尿器科学分野 教授	安井孝周
高度医療教育研究センター 教授(診療担当)	尾崎康彦	小児泌尿器科学分野 教授	林 祐太郎
産科婦人科学分野 准教授	佐藤 剛	医療安全管理学分野 教授	戸澤啓一
産科婦人科学分野 助教	西川隆太郎	高度医療教育研究センター 教授	梅本幸裕
		看護学部健康科学臨床生理学 教授	窪田泰江
		腎・泌尿器科学分野 准教授	河合憲康
		小児泌尿器科学分野 准教授	水野健太郎
		非常勤講師	
		大阪大学大学院医学研究科泌尿器科 教授	野々村祝夫

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
3	1	月	1	女性生殖器の構造と機能・発生と性分化・内外生殖器の先天異常	杉浦真弓
3	1	月	2	性周期発現と排卵の機序・性腺刺激ホルモンとステロイド	杉浦真弓
3	1	月	3	男性生殖器の機能、症候と検査	安井孝周
3	1	月	4	男性生殖器の先天異常	林 祐太郎
3	8	月	1	月経異常の診断と治療	杉浦真弓
3	8	月	2	女性不妊症の系統診断と治療	佐藤 剛
3	8	月	3	性分化疾患の診断・治療	水野健太郎
3	8	月	4	アクティブラーニング(小児・先天異常)	林・水野
3	15	月	1	アクティブラーニング(婦人科内分泌疾患)	佐藤 剛
3	15	月	2	婦人科腫瘍学総論	西川隆太郎
3	15	月	3	前立腺肥大症・下部尿路通過障害	河合憲康
3	15	月	4	Female Urology・神経因性膀胱	窪田 泰江
4	5	月	1	子宮頸癌	西川隆太郎
4	5	月	2	子宮体癌	西川隆太郎
4	5	月	3	男性不妊症の系統診断と治療	梅本幸裕
4	5	月	4	EDの診断と治療・STI	梅本幸裕
4	12	月	1	卵巣腫瘍・絨毛性疾患	西川隆太郎
4	12	月	2	子宮内膜症と子宮筋腫	尾崎康彦
4	12	月	3	精巣腫瘍	戸澤啓一
4	12	月	4	前立腺癌	野々村祝夫
4	19	月	1	アクティブラーニング(婦人科腫瘍)	西川隆太郎
4	20	月	2	アクティブラーニング(前立腺・尿道・精巣腫瘍・排尿)	河合憲康

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・妊娠と分娩 ユニット
専門・教養	専門
担当教員	杉浦真弓、尾崎康彦、鈴木伸宏、佐藤 剛、北折珠央
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2021年4月26日～5月24日）月曜日 1, 2, 3, 4 限
授業目的・目標	基礎医学の中で修得した女性の解剖、生理、病理の理解をもとに、基本的な知識の習得を目標とし、さらに新しい分子細胞生物学の進歩による新しい知見も含めて理解することを目的とする。具体的には基本的産科知識（正常妊娠、正常分娩）を正確に習得し、異常妊娠・分娩・産褥について病態やリスクの程度を理解し、その管理法を学習する。また胎児心拍モニタリングや超音波断層法などの医療工学機器により得られた胎児情報についてその原理と結果の評価について理解し、得られるデータに対する適切な臨床的判断を学習・修得することを目標とする。
キーワード	妊娠、分娩、産褥、胎児、産科麻酔
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 Ia, Ib, Ic, Id, IIb, IIe, IIIb, IVd
学習到達目標	1. 妊娠の生理を理解し説明できる。 2. 異常妊娠・合併症妊娠について理解し説明できる。 3. 産科検査法を理解し説明できる。 4. 胎児の状態に関する検査法とその評価について理解し説明できる。 5. 正常分娩経過について理解し説明できる。 6. 異常分娩とその管理について理解し説明できる。 7. 産科手術について理解し説明できる。 8. 産科危機的出血、産科DIC等の産科救急について理解し説明できる。 9. 産科麻酔について理解し説明できる。 10. 正常な産褥経過およびその異常について理解し説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 C-2-4) 個体の発生、D-9 生殖機能、D-10 妊娠と分娩、E-1 遺伝医療・ゲノム医療、E-7-1) 成長と発達(胎児・新生児)、F-1-5) ショック、F-1-20) 腹痛、F-1-21) 悪心・嘔吐、F-1-30) 月経異常、F-1-31) 不安・抑うつ、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-2-9) 外科的治療と周術期管理、F-2-10) 麻酔
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 妊娠の診断と妊娠・分娩に伴う解剖学的・生理学的変化 2. 異常妊娠（流産・異所性妊娠・多胎妊娠・胎児体勢異常） 3. 胎児の発達・産科超音波検査法・出生前診断法 4. 胎児-胎盤機能検査法・胎児心拍数モニタリング 5. 妊娠合併症（耐糖能異常・血液凝固障害・内分泌疾患・妊娠高血圧症候群） 6. 早産の管理・陣痛の調整法 7. 胎盤位置異常・常位胎盤早期剥離 9. 正常分娩 10. 異常分娩 11. 産科出血・産科DIC 12. 産科麻酔 13. 産褥期（子宮復古不全・産褥熱・乳腺疾患・メンタルケア） 14. アクティブラーニング1, 2
授業計画	妊娠と分娩 授業計画を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。講義内容を正しく修得できるよう、テキストや参考図書および講義での配布資料により復習し理解を深める。さらに講義では触れられなかった講義内容に関わる項目についても自己学習により知識を広め、理解・修得に努めること。
成績評価方法	セメスター試験：80点満点 アクティブラーニング：参加態度10+提出物10=20点満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	テキスト：「プリンシプル産科婦人科学 産科編」メディカルビュー 第3版、 「病気がみえる vol.10 産科」MEDIC MEDIA 第4版
参考文献	テキストにあげられている参考文献
履修上の注意事項	講義の途中入室・途中退室は、原則認めない。特別な事情がある場合は、必ず講義担当者に申し出ること。病欠の場合は教育研究課に連絡すること。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	TBL(team-based learnig)形式で行い、全員参加型である。積極的に議論へ参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：佐藤 剛、北折珠央 産科婦人科 医局 853-8241（内線8241）e-mail：og.sato@med.nagoya-cu.ac.jp 平日 8:00 - 17:00
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	講義での疑問点や十分な理解に至らなかった事項については、そのままにしておかず、教員への積極的な質問・確認や自己学修により解決するよう努めること。
関連URL	

妊娠と分娩ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓
高度医療教育研究センター 教授(診療担当)	尾崎康彦
産科婦人科学分野 病院教授	鈴木伸宏
産科婦人科学分野 准教授	佐藤 剛
産科婦人科学分野 講師	北折珠央

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	26	月	1	妊娠の診断と妊娠・分娩に伴う解剖学的・生理学的変化	佐藤 剛
4	26	月	2	異常妊娠(流産・異所性妊娠・多胎妊娠・胎位体勢異常)	杉浦真弓
4	26	月	3	胎児の発達・産科超音波検査法・出生前診断法	鈴木伸宏
4	26	月	4	胎児-胎盤機能検査法・胎児心拍数モニタリング	鈴木伸宏
5	10	月	1	妊娠合併症1(耐糖能異常・血液凝固障害・内分泌疾患)	北折珠央
5	10	月	2	妊娠合併症2(妊娠高血圧症候群)	北折珠央
5	10	月	3	切迫早産の治療法・陣痛の調整法	北折珠央
5	10	月	4	胎盤位置異常・常位胎盤早期剥離	鈴木伸宏
5	17	月	1	正常分娩1	尾崎康彦
5	17	月	2	正常分娩2	尾崎康彦
5	17	月	3	アクティブラーニング1	鈴木伸宏
5	17	月	4	産科出血・産科DIC	佐藤 剛
5	24	月	1	異常分娩1	尾崎康彦
5	24	月	2	異常分娩2・産科麻酔	尾崎康彦
5	24	月	3	産褥期(子宮復古不全・産褥熱・乳腺疾患・メンタルケア)	北折珠央
5	24	月	4	アクティブラーニング2	尾崎康彦

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・乳房ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：遠山竜也、近藤直人、鰐淵友美 非常勤講師：愛知県がんセンター：岩田広治、神奈川県立がんセンター：山下年成
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2021/3/2～2021/4/6）火曜日、3・4限目

授業目的・目標	授業目的：乳房の疾患領域における医学、医療、福祉に関し、乳腺専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため 授業目標：乳房の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法に関して基礎的知識を修得し、乳房診療特有の検査などを実習する。
キーワード	乳房、乳がん、胸部
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー)との 関連	領域Ib、Ic、IIa、IIb
学習到達目標	学習到達目標 1. 乳房の構造と機能、および女性ホルモンの正常乳腺組織および乳がんへの影響について説明できる 2. 乳がんの疫学と診断方法が説明できる 3. 乳がんに対する手術療法が説明できる 4. 乳がんに対する薬物療法（内分泌療法、化学療法、分子標的療法、免疫療法）が説明できる 5. がんに対する臨床試験について説明できる 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-11、F-3(5)-4)
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	乳がんの基礎：乳癌とホルモン 乳がんの疫学・診断 乳がんの手術療法 乳がんの薬物療法 がん治療－標準治療と臨床試験－ 乳房コース：総括講義
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 *セメスター試験が60点未満の場合、最初（3月1日3限）の講義時のレポートを10点を上限としてプラスする。
教科書・テキスト	(参考文献) 1. 「病気がみえる vol.9;婦人科・乳腺外科」医療情報科学研究所（編集） 2. 「乳腺腫瘍学」日本乳癌学会（編集）金原出版 3. 「乳癌診療ガイドライン」日本乳癌学会（編集）金原出版
参考文献	上記参照
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業を一部行う
連絡先・オフィスアワー	乳腺外科学分野 秘書 杉山順子 乳腺外科学分野 教授 遠山竜也 PHS:3188 Email:t.toyama@med.nagoya-cu.ac.jp 10:00-17:00（乳腺外科学分野医局 内線 8336）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げてください。
関連URL	

2020年度 第3学年 2021年度 第4学年

乳房ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
乳腺外科学分野 教授	遠山竜也
乳腺外科学分野 講師	近藤直人
乳腺外科学分野 講師	鰐淵友美
神奈川県立がんセンター 乳腺内分泌外科 部長	山下年成
愛知県がんセンター病院 副院長・乳腺科部長	岩田広治

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
3	2	火	3	乳がんの基礎:乳がんとホルモン	遠山竜也
3	2	火	4	乳がんの薬物療法(ホルモン療法・免疫療法)	遠山竜也
3	9	火	3	乳がんの疫学・診断	山下年成
3	9	火	4	乳がんの手術療法	近藤直人
3	16	火	3	乳がんの薬物療法(化学療法・分子標的療法)	鰐淵友美
3	16	火	4	がん治療—標準治療と臨床試験—	岩田広治
4	6	火	3	乳房コース:総括講義	遠山竜也

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・内分泌・栄養・代謝系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	田中智洋、青谷大介、小山博之、服部 麗、青山幸平、野尻俊輔、今枝憲郎 非常勤講師：岩崎泰正、伊藤哲哉、加藤岳史、小川浩平、水野達央
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2021年4月8日～2018年5月14日）

授業目的・目標	【授業目的】内分泌・代謝疾患の診断学・治療学の基本となる知識と考え方を学ぶ 【授業目標】(1)人体の動的恒常性機構の基盤となる内分泌・栄養・代謝システムを理解する。(2)恒常性の破綻としての内分泌・代謝疾患の疾病概念と病態生理を理解し、診断と治療の基本を修得する。(3)内分泌・代謝学を通して内科診断学・治療学の基本を学ぶ。
キーワード	糖尿病、合併症、代謝異常、副腎疾患、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, b, c, d, 2c, 3a, b
学習到達目標	【学習到達目標】(1)内科学の中心的分野である内分泌代謝学の学習を通して内科学の基本的考え方を身につけ、内科診断学・治療学を実践できる識見を修得する。(2)解剖学・生理学・生化学・遺伝学などの基礎医学知識に立脚し、個々の患者に即した病態生理の理解と説明ができる。(3)内分泌・代謝疾患領域における臨床推論のプロセスを体験し、診断や治療方針の策定や予後の予測について説明できる。(4)次年度以降のBSLにおいて担当患者の診療プロセスにスムーズに参加し、症例に基づくレポート作成に支障ないレベルの知識と考え方を身につける。 【該当するモデルコアカリ】 D-12内分泌・栄養・代謝系
成績評価基準	秀：講義を聴いたことが無い下級生に理解可能な形で説明し、質問に答えることができる 優：講義を聴いた同級生とモデル症例について病態、診断、治療方針、予後を議論できる 良：教員に対して学んだことを述べ、教員からの質問に概ね答えることができる 可：各疾患の成り立ちや診断・治療の基本的考え方についての設問に答えられる
授業概要	総論（内分泌疾患、栄養疾患、代謝疾患についての基本的考え方）と各論（各疾患の疫学、疾病概念、病態生理、診断学、治療学）の学習を通して、日常診療の前段階としてのBSLに必須の知識を修得する。
授業計画	①内分泌・代謝内科学総論、②糖尿病とは 病態生理・慢性合併症・未来への展望、③糖尿病治療論、④糖尿病の急性合併症、⑤1型糖尿病特論、⑥肥満、やせ、メタボリックシンドローム、⑦脂質代謝異常、⑧高アンモニア血症・アミノ酸代謝異常、⑨ビタミン欠乏症と過剰症、⑩代謝性肝疾患、⑪消化管ホルモンおよび産生腫瘍、⑫甲状腺疾患、⑬副腎疾患、⑭視床下部・下垂体疾患、⑮副甲状腺疾患、ミネラル代謝異常、骨代謝異常、⑯先天性糖代謝異常症・ライソゾーム病、⑰小児の甲状腺疾患、⑱小児の成長ホルモン治療、⑲症例に即したアクティブラーニング（グループワークおよびプレゼンテーション）
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。一部講義では穴埋め式のまとめ資料を準備しており、これを活用しての復習を实践されたい。
成績評価方法	セメスター試験（100点満点）に基づき判定する。6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	最新内分泌代謝学 診断と治療社 内科学書 改訂第9版 Vol.5 内分泌疾患、代謝・栄養疾患 中山書店 病気がみえる③ 糖尿病・代謝・内分泌 メディックメディア 糖尿病治療ガイド 日本糖尿病学会編、南江堂 小児内分泌疾患を楽しく学ぶ 診断と治療社 Williams Textbook of Endocrinology 14th edition Elsevier
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	10名前後の学生グループに分かれ、それぞれのグループで1モデル症例を担当し、グループ内で必要な情報と検査、鑑別すべき疾患と鑑別プロセス、臨床診断、治療方針の決定、長期予後の予測、考察を行い、全員に対しプレゼンテーションを行う。同級生からの質問に対して答え、互いに議論をすることで理解を深める。
連絡先・オフィスアワー	消化器・代謝内科学 准教授 田中智洋 月、金 8:30～17:00（事前に必ず連絡すること） 内線：8211, PHS: 4783, E-mail: tttanaka@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	内分泌代謝科専門医・指導医、糖尿病専門医・研究指導医を初め、内分泌代謝科診療、肝臓病診療、小児内分泌診療の熟達者が病態の考察と実症例を題材とした診療の実際について解説する。
備考	内分泌学・代謝学の学習を通して、内科学の基本的考え方と実践の基礎を学びましょう！
関連URL	http://ncu-shotai.sakura.ne.jp/

2021年度 第4学年

内分泌・栄養・代謝系 担当教員

所属・職名	氏名
消化器・代謝内科学分野 准教授	田中智洋
消化器・代謝内科学分野 講師	青谷大介
消化器・代謝内科学分野 助教	小山博之
消化器・代謝内科学分野 病院助教	服部 麗
新生児・小児医学分野 助教	青山幸平
地域医療教育研究センター 教授	野尻俊輔
名古屋市立大学 西部医療センター 内分泌・糖尿病内科 教授	今枝憲郎
高知大学 特任教授／鈴鹿医療科学大学 教授	岩崎泰正
藤田医科大学 小児科 教授	伊藤哲哉
豊川市民病院 糖尿病内分泌内科 部長	加藤岳史
旭労災病院 糖尿病内分泌内科 部長	小川浩平
刈谷豊田総合病院 糖尿病・内分泌内科 部長	水野達央

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	8	木	3	内分泌・代謝内科学総論	田中智洋
4	8	木	4	糖尿病とは 病態生理・慢性合併症・未来への展望	田中智洋
4	9	金	3	糖尿病治療論	青谷大介
4	9	金	4	肥満、やせ、メタボリックシンドローム	水野達央
4	15	木	3	ビタミン欠乏症と過剰症	小山博之
4	15	木	4	脂質代謝異常	加藤岳史
4	16	金	3	1型糖尿病特論	服部麗
4	16	金	4	糖尿病の急性合併症	小川浩平
4	22	木	3	消化管ホルモンおよび産生腫瘍／アクティブラーニングオリエンテーション	小山博之
4	22	木	4	高アンモニア血症・アミノ酸代謝異常	伊藤哲哉
4	23	金	3	代謝性肝疾患	野尻俊輔
4	23	金	4	アクティブラーニング自習	自習
4	30	金	1	副腎疾患1	田中智洋
4	30	金	2	副腎疾患2	田中智洋
4	30	金	3	視床下部・下垂体疾患1	岩崎泰正
4	30	金	4	視床下部・下垂体疾患2	岩崎泰正
5	7	金	1	先天性糖代謝異常症・ライソゾーム病	伊藤哲哉
5	7	金	2	副甲状腺疾患、ミネラル代謝異常、骨代謝異常	青谷大介
5	7	金	3	甲状腺疾患1	今枝憲郎
5	7	金	4	甲状腺疾患2	今枝憲郎
5	14	金	1	アクティブラーニング発表	全教員
5	14	金	2	アクティブラーニング発表	全教員
5	14	金	3	小児の甲状腺疾患	青山幸平
5	14	金	4	小児の成長ホルモン治療	青山幸平

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・眼・視覚系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	安川力 野崎実穂 森田裕 平野佳男 加藤亜紀 鈴木識裕 小椋俊太郎 桑山創一郎 木村 雅代 玉井 一司 中沢 陽子
講義期間・曜日・時限	セメスター3 (2021/6/9~2021/7/8)、水曜日 1~4限目、木曜日3, 4限目

授業目的・目標	授業目的：眼球とその付属器および視覚系の疾患について、その原因、病態、症候、診断、治療に関しての知識を習得し、最新の眼科治療法、症候から診断に至るプロセスを学ぶ。 授業目標：学生自ら考えながら問題解決に到達できることを目標とする。
キーワード	眼球、眼付属器、視路
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 1a, c, IVd
学習到達目標	学習到達目標 1. 眼球とその付属器および視路についての解剖、生理について説明できる。 2. 解剖は豚眼を実際に解剖することでよりいっそう理解を深める。 3. 眼科検査について説明できる。 4. 直像鏡ではお互い眼底を観察しあい、患者への対応の仕方、患者のを気持ちを理解すると共に、より眼球の構造を理解する。 5. 眼、視覚疾患の病因、病態について説明できる。 6. 眼疾患の治療について説明できる。 7. 患者の症候、検査所見から診断、治療にいたるプロセスを述べられる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-13
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	(講義) 1視覚系の構造と機能 2眼科検査法 3外眼部疾患 4緑内障 5水晶体 6網膜硝子体疾患 7ぶどう膜炎 8神経眼科 9小児眼科 10全身疾患と眼 11眼の外傷・救急 12眼科治療学 13眼科臨床診断学 14眼科のtranslational research (実習) 眼局所解剖(豚眼解剖実習)、直像鏡を用いた眼底実習、眼科疾患PBL
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	1) 第1回目の講義までに上記テキストのp2~p23pまでを読んでおくこと。 2) 授業計画表を確認の上、教科書(参考文献)の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと 3) 各授業において、教科書以外の予習・復習について指示することがあるので、その指示に従うこと。
成績評価方法	セメスター試験(100)点満点 *セメスター試験が60点未満の場合、アクティブラーニングを10点を上限としてプラスする。 アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。アクティブラーニングの評価が困難なとき(オンラインによる参加・発表になったときなど)は評価の対象としない。
教科書・テキスト	(参考図書) Ophthalmology: An illustrated colour text 3rd edition M. Batterbury, B. Bowling Elsevier/Churchill Livingstone, 2005
参考文献	現代の眼科学 監 修所 敬; 編集吉田 晃敏 / 谷原 秀信 金原出版
履修上の注意事項	豚眼解剖実習の際には白衣を持参すること。解剖実習、眼底実習は2グループに分けて行う。PBL1回目、2回目は前の講義が終わり次第開始するので前の講義に出席できない際には注意すること。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	眼球解剖1時間、眼底実習1時間、眼科疾患PBL5時間を行う。BSLでは積極的に議論に参加すること。実習でお互いに協力し合うこと。
連絡先・オフィスアワー	月曜日~金曜日 9:00~17:00 内線8251 安川力 yasukawa@med.nagoya-cu.ac.jp 加藤亜紀 akikato@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

眼・視覚系 ユニット 担当教員

所属・職名

氏名

視覚科学・准教授	安川 力
視覚科学・講師	野崎 実穂
視覚科学・講師	加藤 亜紀
視覚科学・講師	平野 佳男
視覚科学・助教	森田 裕
視覚科学・助教	小椋 俊太郎
視覚科学・助教	鈴木 識裕
視覚科学・助教	桑山 創一郎
視覚科学・病院助教	木村 雅代
高度医療センター 准教授	玉井 一司
高度医療センター 准教授	中沢 陽子

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	9	水	1	オリエンテーション、視覚系の構造と機能	安川
	9	水	2	眼科検査法	木村
	9	水	3	眼科実習1解剖	鈴木
	9	水	4	眼科実習2解剖	鈴木
	10	木	3	水晶体疾患	野崎
	10	木	4	緑内障	野崎
	16	水	1	ぶどう膜疾患	加藤
	16	水	2	網膜硝子体疾患1	森田
	16	水	3	網膜硝子体疾患2	平野
	16	水	4	神経眼科	玉井
	17	木	3	全身疾患と眼(60分)	鈴木
	17	木	4	PBL1	小椋
	23	水	1	眼科実習2 直像鏡	木村・桑山
	23	水	2	眼科実習3 直像鏡	木村・桑山
	23	水	3	眼科のtranslational research	安川
	23	水	4	小児眼科	中沢
	24	木	3	外眼部・角結膜疾患 (60分)	桑山
	24	木	4	PBL2	桑山・鈴木
7	1	木	3	眼科救急 (60分)	小椋
	1	木	4	PBL発表準備	桑山
	8	木	3	PBL発表・総括	小椋・加藤
	8	木	4	PBL発表・総括	小椋・加藤

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・耳鼻・咽喉・口腔系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	岩崎真一、鳥山和宏、鈴木元彦、讃岐徹治、佐藤慎太郎、江崎伸一、川北大介、蒲谷嘉代子、的場拓磨、有馬菜千枝、佐藤秀吉 非常勤講師：高橋真理子、花井信広、中村善久
講義期間・曜日・時限	Semester 3 (2020/6/7~2020/7/12)、月・木曜日、1~4限目

授業目的・目標	授業目的：耳鼻咽喉科・頭頸部外科の専門領域における医学、医療、福祉に関しこの分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため 授業目標：耳鼻咽喉科・頭頸部外科学が扱う領域の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法に関して基礎的知識を修得し、耳鼻咽喉科特有の検査などを実習する。さらに頭蓋底外科、嚥下障害の診断と治療といった他科との境界領域、人工内耳をはじめとする新しい治療法、全身疾患と耳鼻咽喉科などに対する理解を深める。
キーワード	耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頭頸部、形成
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、II b
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の概念を理解し説明できる 2. 耳科学、神経耳科学に関する構造と機能ならびに検査法を説明できる 3. 外耳・中耳・内耳・顔面神経の代表疾患の疫学・病態・治療を説明できる 4. 鼻副鼻腔の構造と機能、検査法を説明できる 5. 鼻副鼻腔の代表疾患につき疫学・病態・治療を説明できる 6. 口腔咽頭・喉頭の構造と機能ならびに検査法を説明できる 7. 口腔咽頭・喉頭の代表疾患につき疫学・病態・治療を説明できる 8. 耳鼻咽喉科救急疾患について理解し、治療法を説明できる 9. 頭蓋底外科、人工内耳、人工中耳、について理解し説明できる 10. 全身疾患と耳鼻咽喉科との関わりについて理解し説明できる 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-14、E-1, 2, 3, 4, 6, 7, 8、F-1-1, 15, 19, 27、F-2-1, 3, 6, 7, 8, 9、G-2-9, 19, 27
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 耳鼻咽喉科の役割と魅力 2. 耳鼻咽喉科領域の構造と生理 3. 病態、代表的疾患とその診断 4. 標準的治療法 5. 感覚器の検査と新しい治療方法 6. 救急疾患 7. 全身疾患と耳鼻咽喉科 8. 側頭骨、頭蓋底外科 9. 耳鼻咽喉科のリハビリ 10. 形成外科
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。講義後には知識を定着させ、理解を深めるために復習をしておくこと。
成績評価方法	Semester 試験（100）点満点 * Semester 試験が60点未満の場合、アクティブラーニングを10点を上限としてプラスする。アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。
教科書・テキスト	新耳鼻咽喉科学 切替一郎ほか、南山堂 イラスト耳鼻咽喉科 森満保、文光堂 Step 耳鼻咽喉科 渡辺健介、高橋茂樹、海馬書房
参考文献	Head and Neck Surgery Naumann HH, Georg Thieme Verlag 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 森山寛ほか、医学書院 新 図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 全5巻 メジカルビュー社 耳鼻咽喉科 診療プラクティス 文光堂
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	リハビリテーションの実践やグループワークを取り入れた授業を行う。 リハビリテーション、グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	月曜から金曜 9:00~17:00 連絡先 担当教員：蒲谷嘉代子 医局秘書に伝言可 内線 8256 電子メール meikyo@med.nagoya-cu.ac.jp（秘書宛て）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2021年度 第4学年

耳鼻・咽喉・口腔系 担当教員

所属・職名	氏名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 教授	岩崎真一
高度医療教育センター 教授	鈴木元彦
形成外科学 教授	鳥山和宏
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 准教授	讃岐徹治
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	佐藤慎太郎
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	江崎伸一
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	川北大介
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	蒲谷嘉代子
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	的場拓磨
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	南方寿哉
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	有馬菜千枝
形成外科学 助教	佐藤秀吉
愛知学院大学歯学部外科学(耳鼻咽喉科) 准教授	高橋真理子
名古屋第二赤十字病院 耳鼻咽喉科部長	中村善久
愛知県がんセンター 頭頸部外科部長	花井信広

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	7	月	3	耳鼻咽喉科の役割・総論	岩崎真一
6	7	月	4	外耳・中耳:解剖・生理・疾患、顔面神経	南方寿哉
6	10	木	1	鼻副鼻腔:解剖・生理・疾患、アレルギー疾患	中村善久
6	10	木	2	鼻副鼻腔腫瘍、嗅覚、味覚	鈴木元彦
6	14	月	3	頸部の解剖、頭頸部悪性腫瘍1	川北大介
6	14	月	4	めまいの基礎と検査	岩崎真一
6	17	木	1	頭頸部悪性腫瘍2	花井信広
6	17	木	2	睡眠 基礎と臨床	有馬菜千枝
6	21	月	3	口腔咽頭1:解剖・生理 炎症性疾患と睡眠時無呼吸症候群	佐藤慎太郎
6	21	月	4	喉頭:解剖と疾患、音声外科	讃岐徹治
6	24	木	1	嚥下障害の臨床とアクティブラーニング	讃岐徹治
6	24	木	2	口腔咽頭2:疾患、唾液腺疾患	江崎伸一
6	28	月	3	聴覚:解剖・生理・疾患、聴覚検査	蒲谷嘉代子
6	28	月	4	救急疾患(異物、外傷、気管食道)	的場拓磨
7	5	月	3	めまいの臨床とアクティブラーニング	蒲谷嘉代子
7	5	月	4	全身疾患との関連	高橋真理子
7	12	月	3	形成外科総論	鳥山和宏
7	12	月	4	頭頸部再建	佐藤秀吉

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・精神系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：明智龍男、奥山 徹、東 英樹、山田敦朗、久保田陽介、中口智博、内田 恵、近藤真前、白石 直、渡辺孝文、井野敬子 大学院人間文化研究科：小川 成、南山大学：中野有美、南知多病院：仲秋秀太郎
講義期間・曜日・時限	セメスター3（2021/6/8～2021/7/20）、火曜日、1～2限目
授業目的・目標	先進国では病気による国民のQOL損失の最大の原因は精神疾患によるものであることが示唆されていることに加え、身体疾患患者やプライマリーケアを受診する患者においても、高頻度に抑うつ、不安などの精神症状が認められることが示されている。従って、本コースでは専門科を問わず、全ての医師に求められる、精神症状および精神疾患に関する基本的な認識を得るために、広く精神疾患についての診断や治療法の基本に関して理解を深めることを目標とする。
キーワード	気分障害、統合失調症、不安障害、認知行動療法、コンサルテーション
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 1a, 1b, 1c, 1d, 2a, 2b, 2d, 3a, 3b, 3c, 3d, 3d, 4a, 4b, 4c, 4d
学習到達目標	1. 精神医学の概念および疾病分類学を理解し説明できる。 2. 心理検査、症状評価法などの精神医学的検査法について説明できる。 3. 精神疾患に対する薬物療法について説明できる。 4. 認知行動療法などの精神療法について説明できる。 5. 児童および青年期にみられる精神疾患について説明できる。 6. 一般身体疾患による精神障害、コンサルテーション精神医学について説明できる。 7. 統合失調症およびその他の精神病性障害について説明できる。 8. 抑うつ症状群について説明できる。 9. 双極性障害について説明できる。 10. 不安症群、強迫症、摂食障害について説明できる。 11. 認知症その他老年期の精神疾患について説明できる。 12. 心的外傷およびストレス因関連障害群、解離症群、身体症状症について説明できる。 13. 日本における精神保健福祉の法規と制度について説明できる。 14. 睡眠覚醒障害群、てんかんについて説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-15)精神系、F-1-3)食思(欲)不振、F-1-4)体重減少・増加、F-1-8)けいれん、F-1-17)動悸、F-1-31)不安・抑うつ
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 精神医学総論 2. 精神科検査法 3. 薬物療法 4. 精神療法 5. 児童精神医学 6. 症状精神病・コンサルテーション精神医学 7. 統合失調症 8. 抑うつ障害群 9. 双極性障害 10. 不安症群、強迫症、摂食障害 11. 認知症その他老年期の精神疾患 12. PTSD、解離症群、身体症状症 13. 精神保健福祉法 14. てんかん、睡眠-覚醒障害群
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。授業の際に過去の授業の内容について質問されても答えられるよう、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験（100点満点）
教科書・テキスト	カプラン臨床精神医学テキスト 第3版 メディカルサイエンスインターナショナル 標準精神医学 第7版 尾崎紀夫、三村将他編、医学書院 精神科診察・診断学 古川壽亮、神庭重信編著、医学書院 精神科における予診・初診・初期治療 笠原嘉、星和書店 内科医のための精神症状の見方と対応 宮岡等、医学書院 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 日本精神神経学会監修、医学書院
参考文献	
履修上の注意事項	精神腫瘍学(サイコオンコロジー)については、臨床腫瘍学コースで講義する
履修者への要望事項	最終的な講義計画は初回の講義時に配布する。 外部講師による特別講義が予定されている場合には必ず出席すること。
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業
連絡先・オフィスアワー	担当：東 英樹 木曜日 15:00-17:00（事前に連絡すること） 内線：8271、PHS：3968、電子メール：azma@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	http://www.ncupsychiatry.com/

精神系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
精神・認知・行動医学分野 教授	明智龍男
精神・認知・行動医学分野 講師	東 英樹
精神・認知・行動医学分野 講師	山田敦朗
精神・認知・行動医学分野 助教	中口智博
精神・認知・行動医学分野 助教	近藤真前
精神・認知・行動医学分野 助教	白石 直
精神・認知・行動医学分野 助教	渡辺孝文
精神・認知・行動医学分野 助教	井野敬子
緩和ケア部 病院准教授	奥山 徹
緩和ケア部 助教	内田 恵
医療政策・経営科学講師	久保田陽介
名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 教授	小川 成
南山大学 人文学部心理人間学科 教授	中野有美
南知多病院 診療部長	仲秋秀太郎

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	8	火	1	精神医学総論	明智龍男
			2	精神科治療:精神療法(認知行動療法を中心に)	中野有美
	15	火	1	精神科治療:薬物療法および身体的治療法	渡辺孝文
			2	精神科検査法:心理検査、症状評価尺度、画像検査、生理検査	近藤真前
	22	火	1	気分障害(1)	奥山 徹
			2	気分障害(2)	井野敬子
	29	火	1	不安症群、強迫症および関連症群、食行動障害および摂食障害群	小川 成
			2	統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群	白石 直
7	6	火	1	神経発達症群その他児童・思春期の精神疾患	山田敦朗
			2	認知症その他老年期の精神疾患	仲秋秀太郎
	13	火	1	心的外傷およびストレス関連障害群、 解離症群、身体症状症および関連症群	中口智博
			2	医学的疾患による精神障害およびコンサルテーション精神医学	内田 恵
	20	火	1	精神保健福祉法、睡眠-覚醒障害群、てんかん	東 英樹
			2	精神作用物質関連障害	久保田陽介

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・臨床感染症学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	別紙参照
講義期間・曜日・時限	2021年10月13日 ～ 10月26日

授業目的・目標	感染症学の理解には他の臨床科目と同様に、これまで勉強してきた微生物学、薬理学、解剖学等の基礎医学と内科学、外科学等の臨床医学、さらには公衆衛生学などの知識が必要である。これらの知識をもとに、実際の感染症に対する予防法や診断治療方法について学ぶ。特に、プライマリケアにおける感染症を中心とした各臓器別に実践的な学習（症例提示）を行う。「臨床感染症学」では、診断から治療、感染予防対策まで幅広く学び、医師として最低限の感染症の知識を習得し、臨床実習に備える。
キーワード ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー)との 関連	感染症、感染経路、検査、治療、予防 III-a, b, d
学習到達目標	感染症の病態を理解し、診断・治療の合理的解釈ができる。実際の各種感染症に対する予防法や診断治療方法を習得する。 【該当するモデルコアカリ】 A-2) 医学知識と問題対応能力 C-3-1) 生体と微生物 E-2) 感染症
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	感染症へのアプローチ プライマリケアにおける感染症（呼吸器領域） プライマリケアにおける感染症（耳鼻科領域） プライマリケアにおける感染症（消化器領域） 婦人科領域の感染症（性感染症含む） 泌尿器科領域の感染症（性感染症含む） 小児感染症 中枢神経系感染症 外科・周術期感染症 日和見感染症と院内感染 感染症の臨床検査 抗菌剤の適正使用 感染予防対策
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。理解が不完全であった項目については、繰り返し復習して修得に努めること。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点；出席率が70%未満の場合は、本試験の受験資格なし。 *セメスター試験が60点未満の場合、授業参加度、授業態度などを参考に5点を上限としてプラスする。
教科書・テキスト	[要点整理]： クエスチョン・バンクCBT 2019 vol.3 プール問題 臨床後編 メディックメディア STEP内科2 血液・感染症 海馬書房 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア 新・病態生理でできた内科学9 感染症 医学教育出版社 iMedicine 第10巻 感染症 リプロ・サイエンス(発刊予定) [成書]： 標準感染症学 医学書院 標準微生物学 医学書院 [臨床]： レジデントのための感染症診療マニュアル 医学書院 New専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 11 感染症 日本医事新報社 [基礎医学]： ブラック微生物学 丸善 微生物学250ポイント 金芳堂
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	該当なし
連絡先・オフィスアワー	臨床感染制御学 中村敦 anakamur@med.nagoya-cu.ac.jp PHS 3332
実務経験を活かした教育の取組	臨床経験を持つ医師・医療職員が講義を担当する
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2021年度 第4学年

臨床感染症学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
臨床感染制御学 教授	中村 敦
医療安全管理学 教授	戸澤啓一
産科婦人科・周産期母子医療センター 病院教授	鈴木伸宏
消化器・代謝内科学 准教授	谷田諭史
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	伊藤 穰
地域医療教育学 講師	田中創始
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講師	江崎伸一
小児科・分べん成育先端医療センター 助教	伊藤孝一
消化器外科学 助教	柳田 剛
脳神経内科学 助教	川嶋将司
感染制御室 副室長・主査	小川綾花
中央臨床検査部 微生物検査係長	近藤周平
薬剤部・感染制御室 専任薬剤師	朝岡みなみ

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	13	水	3	感染症へのアプローチ	田中創始
	13	水	4	感染症の臨床検査	近藤周平
	19	火	1	抗菌剤の適正使用	朝岡みなみ
	19	火	2	プライマリケアにおける感染症(呼吸器領域)	伊藤 穰
	19	火	3	プライマリケアにおける感染症(耳鼻科領域)	江崎伸一
	19	火	4	プライマリケアにおける感染症(消化器領域)	谷田諭史
	20	水	1	婦人科領域の感染症(性感染症含む)	鈴木伸宏
	20	水	2	泌尿器科領域の感染症(性感染症含む)	戸澤啓一
	20	水	3	小児感染症	伊藤孝一
	20	水	4	中枢神経系感染症	川嶋将司
	26	火	1	予備日	
	26	火	2	感染予防対策	小川綾花
	26	火	3	日和見感染症と院内感染	中村 敦
	26	火	4	外科・周術期感染症	柳田 剛

開講年度	2021年度
科目名	成長と発達／発生
専門・教養	専門
担当教員	≪小児科≫ 齋藤伸治(教授)、岩田欧介(准教授)、服部文子(講師)、戸川貴夫(講師)、伊藤孝一(助教)、野村孝泰(助教)、青山幸平(助教)、亀井美智(助教)、久野正(病院助教)、岩田幸子(病院助教) ≪非常勤講師≫ 上村 治、宮地泰士、岩田直美 ≪小児外科≫ 近藤知史(病院准教授) ≪救急科≫ 今井一徳(病院助教)
講義期間・曜日・時限	別紙参照

授業目的・目標	1. 一般医として各専門領域で小児患者を診療する場合に欠かせない小児病態生理を学習する。 2. 救急医療やプライマリケアで小児科を診療する上で必須となる発育・発達、生理的特性を理解する。 3. 小児の病態生理、診断、治療法、そして重症児のトリアージ基準を理解する。 4. 家族の中でのごどもの幸せを実現するための幅広い見方・考え方を習得する。
キーワード	発育・発達・呼吸循環・免疫・神経・代謝、小児によく見られる外科的疾患
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia、Ib、IIa、IIb、IIc、IIe、IIIc、IVa、IVb、IVd
学習到達目標	胎児・新生児・乳幼児・小児期から思春期にかけての生理的成長・発達とその異常の特徴および精神・社会的な問題を理解する。 【関連するモデルコア・カリキュラム】 E-7成長と発達、F-1-1)発熱、F-3-5)-(8)小児の診察、
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	“Children are not miniature adults.”と言われるように、小児は成人と比較して解剖学的にも生理学的にも異なる特徴を有している。本講義では、家族・学校・社会の中でのごどもの健康と幸せを実現するための必須知識を、正常像から連続する病態生理の理解、診断・介入プランの立案、治療効果の評価を通じて学ぶ。また、予防接種や健診などの疾病を予防するための小児保健についても学習する。
授業計画	将来幅広い分野で小児を診療する場合に必要な知識として、1. なコモンディジーズの診断と重症例のトリアージ、2. 各臓器別の専門疾患の概略の理解、3. 疾病を予防したり、早期にスクリーニングするための戦略や政策の理解、4. 1-3を理解するために必要な小児特有の病態生理や発育・発達の特性をカバーする講義を、これらの分野のエキスパートによる参加型の講義を多用しながら行う。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	実習にて学習した疾患について、書籍やインターネット等を用いて掘り下げ、実習中に得られなかったことの補完、得たことの検証を行なう。また、これから学習する疾患が分かるときには、あらかじめ概略を調べておく。
成績評価方法	セメスター試験（60）点満点 アクティブラーニング（発表20、積極性20、計40）点満点 本試験は以上3項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	Nelson Textbook of Pediatrics, 20th Edition, by Robert M, Elsevier（日本語訳第19版）； 標準小児科学 第8版 監修 内山聖 医学書院；標準小児外科学 第6版 監修 伊藤泰雄 医学書院
参考文献	
履修上の注意事項	時間外にも所定のテキストの該当部分を学習すること
履修者への要望事項	小児医療に携わる多職種チームの一員として、病児のトラブル解消のために責任感を持って取り組み、いかなる困難な局面においても与えられた最善の情報とエビデンスから最善の判断を選択することを実践的に体感してほしい。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングを取り入れ、与えられた症例から問題点を設定、情報収集、予測、介入法の提案ができるようにする。
連絡先・オフィスアワー	担当：岩田欧介 准教授 Tel:052-853-8246 E-mail: o.iwata@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	臨床経験豊かな教員が症例を多く取り入れた実践的な講義を行う。
備考	授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
関連URL	

成長と発達ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
新生児・小児医学分野 教授	齋藤 伸治
新生児・小児医学分野 准教授	岩田 欧介
新生児・小児医学分野 講師	服部 文子
新生児・小児医学分野 講師	戸川 貴夫
新生児・小児医学分野 助教	伊藤 孝一
新生児・小児医学分野 助教	青山 幸平
新生児・小児医学分野 助教	亀井 美智
新生児・小児医学分野 助教	野村 孝泰
新生児・小児医学分野 病院助教	岩田 幸子
新生児・小児医学分野 病院助教	久野 正
小児外科 病院准教授	近藤 知史
救急科 病院助教	今井 一徳
一宮医療療育センター センター長	上村 治(非常勤講師)
名古屋市西部地域療育センター 所長	宮地 泰士(非常勤講師)
あいち小児保健医療総合センター 予防診療科 医長	岩田 直美(非常勤講師)

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
6	7	月	1	小児の特性 小児科の特徴	齋藤 伸治
			2	乳幼児健診、小児保健	齋藤 伸治
6	8	火	3	頭頸部、腹壁形成異常	近藤 知史
			4	アレルギー疾患(喘息以外)	野村 孝泰
6	14	月	1	免疫不全	齋藤 伸治
			2	遺伝・先天異常	齋藤 伸治
6	15	火	3	食道・上部消化管疾患および腹膜炎	近藤 知史
			4	肝・胆・膵	戸川 貴夫
6	21	月	1	消化管	伊藤 孝一
			2	ウイルス感染症・予防接種	岩田 幸子
6	22	火	3	性腺・副腎疾患	青山 幸平
			4	小児糖尿病	青山 幸平
6	28	月	1	事故、救急	今井 一徳
			2	新生児総論 胎児疾患	岩田 欧介
6	29	火	3	小児固形悪性腫瘍	近藤 知史
			4	腎	上村 治
7	5	月	1	細菌感染症	久野 正
			2	その他の感染症	久野 正
7	6	火	3	肝胆膵、脾疾患	近藤 知史
			4	消化管閉鎖症および直腸肛門奇形	近藤 知史
7	12	月	1	新生児疾患(呼吸器以外)	岩田 欧介
			2	成長 発達	岩田 欧介
7	13	火	3	てんかん、その他の神経疾患	服部 文子
			4	診療法 治療概論	服部 文子
7	20	火	3	虐待、児童福祉	宮地 泰士
			4	児童精神・発達	宮地 泰士
7	21	水	3	小児血液・腫瘍	亀井 美智
			4	筋疾患	服部 文子
7	26	月	1	神経系先天奇形	齋藤 伸治
			2	リウマチ性疾患	岩田 直美
			3	水・電解質、脱水	岩田 欧介
			4	臨床推論	岩田 欧介

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・急性期医療ユニット
専門・教養	専門
担当教員	
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	麻酔科医が関与する周術期管理と集中治療の基本知識を身につけ、全身管理を理解した医師となる基礎を固める。痛みを持った患者に対して、集学的な対応の重要性を理解し、基本的な対応ができる医療人となる。
キーワード	
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 I-a、I-c、I-d、II-e、IV-d
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 術前の患者評価の方法について述べるができる。 麻酔を概説できる。 麻酔科医が行う術後管理について述べるができる。 集中治療が必要な患者を判断し、必要性を述べるができる。 集中治療で行われる治療を概説できる。 医療における痛み管理の重要性を説明できる。 慢性疼痛の評価を説明し、実践できる。 慢性疼痛に対する集学的治療を概説できる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 F-1-5)、F-1-6)、F-2-9)、F-2-10)</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	本コースは、周術期管理・集中治療・慢性疼痛の基本について講義で理解し、症例検討を行うことにより実践的な考え方を取得する。
授業計画	<p>講義 全15回 課題学習 1回 グループ討議と発表 1回 痛みの評価法（ハンズオン） 1回</p> <p>【グループ討議と発表】</p> <ol style="list-style-type: none"> 教員より症例提示とグループを発表する。 各グループで討論し、パワーポイント等にまとめる。 最終的なグループ討議と発表者を決定する。 発表と総合討議を行う。 パワーポイント等にまとめたプロダクトを提出する。
授業時間外の学修（準備学習を含む）	
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 講義とハンズオンへの80%以上出席とレスポンスカードの提出 課題学習のレポート提出 グループ討議と発表のプロダクトの提出 セメスター試験60点以上（100点満点）
教科書・テキスト	<p>「ミラー麻酔科学」編集 ロナルド・D・ミラー 監修 武田純三（MEDSi） 「ICUブック第4版」ポール・L・マリノ 翻訳 稲田英一（MEDSi） 「慢性痛の心理療法ABC」編集 山本達郎ら（分光堂） 「痛みと鎮痛の基礎知識」小山なつ（技術評論社）</p>
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	講義はBSLで最低限の知識を身につけることを目的とする。よって、講義内容は、基本的として学ぶべき項目を提示する。さらに、より詳細な内容は自己学習で補完すること。
アクティブ・ラーニング	課題学習、グループ討議
連絡先・オフィスアワー	<p>平日（月～金）午前9時～午後5時 麻酔科学・集中治療医学分野 祖父江和哉 TEL 052-853-8281（直通）</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

急性期医療ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
麻酔科学・集中治療医学分野・教授	祖父江和哉
麻酔科学・集中治療医学分野疼痛医学部門・教授	杉浦健之
麻酔科学・集中治療医学分野周産期麻酔部門・教授	田中 基
麻酔科学・集中治療医学分野・助教	太田晴子
看護学部・教授	薊 隆文
人間文化研究科・教授	小川 成
精神・認知・行動医学分野・助教	近藤真前
精神・認知・行動医学分野・臨床心理士	酒井美枝

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	5	火	1	課題学習:麻酔科として、術前の患者評価の必要性について3つ考えてください。	祖父江和哉
			2	麻酔科学とは、周術期医学とは(総論)	祖父江和哉
			3	<麻酔>気道確保・人工呼吸	薊 隆文
			4	<麻酔>術前管理 患者の術前評価・前投薬	祖父江和哉
1	12	火	1	<麻酔>臨床薬理 鎮静薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬	祖父江和哉
			2	<麻酔>術後管理	祖父江和哉
			3	<麻酔>症例検討:グループワーク	祖父江和哉
			4	<麻酔>症例検討:発表と討論	祖父江和哉
1	19	火	1	<麻酔>周産期麻酔	田中 基
			2	<ICU>ICUとは	祖父江和哉
			3	<ICU>臨床生理 重症患者の管理に必要な呼吸生理学	薊 隆文
			4	<ICU>感染症 ICUの感染症・感染予防	祖父江和哉
2	9	火	1	<ICU>臨床生理 循環生理学・ショックの病態と生理	祖父江和哉
			2	<痛みと行動科学>集学的な痛み治療とは、痛みの基礎知識	杉浦健之
			3	<痛みと行動科学>痛みの評価方法 (ハンズオン)	太田晴子 酒井美枝
			4	<痛みと行動科学>痛みと薬物療法、神経ブロック	杉浦健之
2	16	火	1	予備日	
			2	<痛みと行動科学>痛みとアクセプタンス&コミットメント・セラピー	近藤真前
			3	<痛みと行動科学>痛みと認知行動療法	小川 成

開講年度	2021年度
科目名	食事と栄養療法
専門・教養	専門
担当教員	田中智洋、杉浦知範、濱野高行、高木大輔 非常勤講師：山田悠史、土岐祐一郎、村元雅之
講義期間・曜日・時限	セメスター3（2021/3/3～2021/3/10）、水曜日、1～4限目

授業目的・目標	栄養療法の重要性を認識し、経口食事療法、強制栄養法を理解する。 【該当する卒業時コンピテンシー】Ⅱ-b、Ⅲ-b
キーワード	栄養評価、外科代謝、食事療法、輸液、経腸栄養
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a、1b
学習到達目標	1: 食品と栄養素の関係を説明でき、代表的食品の蛋白、エネルギー量を計算できる。 2: 栄養評価ができる。 3: 腎疾患、糖尿病、高血圧、肥満症の食事療法を説明できる。 4: 外科代謝栄養及び、外科術後の栄養障害について理解する。 5: 静脈・経腸栄養法を理解する。 6: 小児、成人の輸液を理解する。 【該当するモデルコアカリ】D-7、D-8、D-12、F-2-11
成績評価基準	秀：セメスター試験90点以上 優：セメスター試験80点以上 良：セメスター試験70点以上 可：セメスター試験60点以上
授業概要	1: 臨床栄養管理（食事の基本） 2: 小児輸液管理 3: 高血圧に対する食事療法 4: 慢性腎不全に対する食事療法 5: 糖尿病・肥満症に対する食事療法 6: 総合科学としての分子病態栄養学 7: 高齢者の栄養管理 8: 消化器外科術後の栄養障害
授業計画	小児～成人の栄養管理、経管栄養と経腸栄養の違い、補液の原則、電解質管理を実例を中心に説明する。
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業時間外の学習（授業概要項目参照） 1: 受講前に1日分の食事記録を書いてみる 2: 小児外科学の教科書（例：標準小児外科学）にて復習 3: 第一セメスターで学習した高血圧各論の復習 4: 第一セメスターで学習した腎不全各論の復習 5: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと 6: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと 7: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと
成績評価方法（令和元年度までの項目名称「成績評価基準」）	セメスター試験（100）点満点 アクティブラーニング（参考）点満点 その他（具体的に）（参考）点満点 本試験はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試験は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングとその他項目については参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	経腸栄養ハンドブック 日本経腸栄養学会編集 南江堂 2014年。 NST完全ガイド 東口高志 編集 照林社 2009年。 経腸栄養ガイドライン 日本経腸栄養学会編集 照林社 2013年。 水・電解質と酸塩基平衡 黒川 清 著 南江堂 2005年。 わかりやすい透析食 小川洋史 監修 ライフサイエンス社。 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編。 すぐに使える小児輸液実践ハンドブック、金子一成 編著、中外医学社。 輸液を学ぶ人のために 和田孝雄、近藤和子、医学書院。 実践輸液ガイド 和田攻ら編 文光堂。
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	消化器外科 小川 了 内線：3686 E-mail： r-ogawa@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師・管理栄養士としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2021年度 第4学年

食事と栄養療法ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腎臓内科 教授	濱野高行
内分泌・糖尿病内科 准教授	田中智洋
循環器内科 准教授	杉浦知範
小児・移植外科 病院講師	高木大輔
栄養管理係・係長	山田悠史
非常勤講師 大阪大学 消化器外科 教授	土岐祐一郎
非常勤講師 知多厚生病院 副院長	村元雅之

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
3	3	水	1	臨床栄養管理(食事の基本)	山田悠史
3	3	水	2	高血圧に対する食事療法	杉浦知範
3	3	水	3	小児輸液管理	高木大輔
3	3	水	4	消化器外科術後の栄養障害	土岐祐一郎
3	10	水	1	糖尿病・肥満症に対する食事療法	田中智洋
3	10	水	2	総合科学としての分子病態栄養学	田中智洋
3	10	水	3	高齢者の栄養管理	村元雅之
3	10	水	4	慢性腎不全に対する食事療法	濱野高行

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・放射線等を用いる診断と治療ユニット
専門・教養	専門
担当教員	石倉 聡、富田夏夫、小澤良之、中川基生、下平政史、浦野みずぎ、川口毅恒、河合辰哉、村井太郎、鈴木梨津子、小川正樹、中山敬太、芝本雄太、原 真咲、荻野浩幸、岩田宏満
講義期間・曜日・時限	セメスター4 (2021年9月10日～10月15日)
授業目的・目標	医療における放射線医学の役割を理解するために(目的)、放射線治療、画像診断、IVRそれぞれの基本的考え方を修得する(目標)。
キーワード	放射線治療、画像診断、IVR
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 Ia、Ic、IIa、IIb、IIc、IId、IIe、IVd
学習到達目標	学習到達目標 放射線治療の基本的知識を説明できる。 治療中及び治療後の患者管理を述べることができる。 画像診断：画像の成り立ちを理解し、各領域ごとに基本的読影方法を説明できる。 IVRの適応と内容、合併症・副作用を述べるができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 E-6：放射線の生体影響と放射線障害、F-2-5：放射線等を用いる診断と治療
成績評価基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	講義
授業計画	放射線医学M4講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考文献等により該当箇所を予習した上で、実習に臨むこと
成績評価方法	セメスター試験 90点満点 アクティブラーニング 10点 *アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。
教科書・テキスト	
参考文献	標準放射線医学 第7版(医学書院)
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	欠席・遅刻の場合は、radon@med.nagoya-cu.ac.jpへ必ず連絡のこと。 月～金：09:00～17:00(但し事前に連絡すること) 連絡先 放射線科医局 853-8276(内線8276)担当：浦野
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2021年度 第4学年

放射線等を用いる診断と治療ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	
放射線科 教授	芝本雄太	2021/3/31
中央放射線部 准教授	石倉 聡	
放射線科 准教授	富田夏夫	
放射線科 准教授	小澤良之	
放射線科 准教授	下平政史	
放射線科 講師	中川基生	
放射線科 助教	河合辰哉	
放射線科 助教	浦野みすぎ	
中央放射線部 助教	村井太郎	
放射線科 助教	小川正樹	
放射線科 助教	鈴木梨津子	
放射線科 助教	中山敬太	
中央放射線部 助教	太田賢吾	
中央放射線部 助教	川口毅恒	
高度医療教育研究センター 教授	原 真咲	
高度医療教育研究センター 教授	荻野浩幸	
西部医療センター陽子線治療科	岩田宏満	

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	10	金	1	CT・MRIの基本/小児画像診断	中川基生
			2	核医学	川口毅恒
			3	放射線概論	芝本雄太
			4	放射線生物学	岩田宏満
9	17	金	1	胸部画像診断1	原真咲
			2	胸部画像診断2	小澤良之
			3	胸部画像診断3	小澤良之
			4	粒子線治療	荻野浩幸
10	1	金	1	IVR1	下平政史
			2	IVR2	中山敬太
			3	放射線治療総論	芝本雄太
			4	放射線治療各論1	富田夏夫
10	8	金	1	放射線治療各論2	石倉 聡
			2	高度放射線治療	石倉 聡
			3	救急画像診断	小川正樹
			4	乳腺画像診断	浦野みすぎ
10	15	金	3	放射線治療各論3	村井太郎
			4	腹部画像診断	河合辰哉

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・輸血と移植ユニット
専門・教養	専門
担当教員	近藤知史、鈴木達也、藤原 圭、草間宣好、李 政樹、松浦健太郎
講義期間・曜日・時限	2021年8月31日～2020年9月27日・火曜日・3限4限

授業目的・目標	【授業目的】輸血および移植医療について、臨床実習に必要な知識だけでなく将来臨床医となった場合に応用できるための基本事項を身につける。また医療や医療行政による健康被害の歴史から教訓を学ぶ。 【授業目標】目標は、輸血に必要な検査および副作用について学び、血液浄化療法から細胞治療、最近の輸血製剤に関する問題点までを理解する。また臓器移植について脳死と臓器移植に関連する法律を理解する。臓器移植の対象となる基本的な病態と適応、移植免疫に関する基礎知識から肝移植を中心とした臓器移植の実際と、術前術後管理および移植に伴う倫理面に関する事項を理解する。集団予防接種等によるB型肝炎感染被害拡大の歴史と教訓について認識・理解する。
キーワード	日本の臓器移植の現状と肝移植、輸血と細胞治療にまつわる諸問題、肝炎virus、肝不全と治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅱe、Ⅲc、Ⅳa、Ⅳb、Ⅳd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 輸血管理業務の概念を理解し、輸血関連検査項目の内容、意義を説明できる。 2. 輸血療法の適応の判断、実施に関する注意点、血液製剤の適正使用について理解し、説明できる。 3. 輸血施行時におこりうる合併症・副作用について理解でき、その対応方法について述べることができる。 4. 移植免疫の概要について理解でき、造血幹細胞移植をはじめ細胞治療について述べるができる。 5. 脳死判定と脳死臓器移植の手続きについて述べるができる。 6. 臓器移植の対象となる病態と適応について述べるができる。 7. 移植免疫および移植に伴う感染症の特徴を述べるができる。 8. 肝移植の実際について理解し、説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-1) 医の倫理と生命倫理、A-2) 医学知識と問題対応能力、 B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度、B-2-1) 死と法、C-3-1) 生体と微生物、C-4-4) 循環障害、臓器不全、 D-1) 血液・造血器・リンパ系、D-7) 消化器系、E-2) 感染症、F-1-24) 黄疸、 F-2-13) 輸血と移植
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	（講義要目） 1. 臓器移植総論と臓器移植に関わる法律 移植適応となる小児疾患 2. 臓器移植に伴う感染症（肝移植を中心に） 3. 輸血管理業務・輸血検査 4. 輸血療法・適正輸血 5. B型肝炎ウイルス感染要因と再活性化 6. 重症肝不全の治療 7. 血液浄化療法 8. 肝移植、生体肝移植 9. 輸血合併症・副作用 10. 移植免疫・細胞治療
授業計画	授業概要を参照 あらかじめ授業概要から得られる情報を基に、教科書や参考文献・各種ホームページを参照しながら予習した上で、講義に臨むこと。内容と時間配分によっては、討議形式も随時行う。なお、講義内容を講義後にクラウドにアップロードする場合もある。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験（100点）で、6割以上を合格とする。再試験も同じとする。 [以下の項目について評価する] 1. 輸血管理業務の概念、輸血関連検査項目の内容、意義を理解できているか。 2. 輸血療法の適応の判断、実施に関する注意点、血液製剤の適正使用について理解できているか。 3. 輸血施行時におこりうる合併症・副作用、その対応方法について理解ができているか。 4. 移植免疫の概要、造血幹細胞移植をはじめ細胞治療について理解ができているか。 5. 脳死判定と脳死臓器移植の手続きについて理解ができているか。 6. 臓器移植の対象となる病態と適応について理解ができているか。 7. 移植免疫および移植に伴う感染症の特徴について理解ができているか。 8. 肝移植の実際について理解ができているか。
教科書・テキスト	（テキスト） 血液型と輸血検査 第2版 大久保康人著、医歯薬出版 輸血ハンドブック 関口定美著、医学書院 分子細胞免疫学 原著第9版 中尾篤人監訳、エルゼビア・ジャパン 標準外科学 第14版 畠山勝義著、医学書院 （参考図書） 血液製剤の使用にあたって 第4版 血液製剤調査機構編集、(株)じほう イラストレイテッド免疫学 原書2版 リッピンコットシリーズ 免疫ペディア～101のイラストで免疫学・臨床免疫学に強くなる！ 羊土社 サイトカインの最前線-疾患とのかかわりを探る 野俊夫編、羊土社 Annual Review 免疫 2008 菊池浩吉他編、中外医学社 実践・輸血マニュアル～自己血輸血輸血療法全般の理解を求めて 脳本信博編、医薬ジャーナル 日本急性血液浄化学会標準マニュアル 日本急性血液浄化学会編集、医学図書出版 ICU/CCUの急性血液浄化療法の考え方、使い方 中外医学社 （公社）日本臓器移植ネットワークホームページ https://www.jotnw.or.jp/ 一般社団法人 日本移植学会ホームページ http://www.asas.or.jp/jst/
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。
履修上の注意事項	やむを得ない事情が無い限り遅刻・欠席をしないこと。
履修者への要望事項	講義前に、該当内容部分についてテキスト等により予習をしてください。
アクティブ・ラーニング	学習内容が複数の専門領域に渡るため、自己学習と講義を中心とする。
連絡先・オフィスアワー	月曜、木曜、金曜の各午後、内線8231（腫瘍・免疫外科学）PHS 3343、 E-mail s.kondo@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	自己学習が視野・視点を広げることにつながる。
関連URL	

2021年度 第4学年

輸血と移植ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腫瘍・免疫外科学 病院准教授 小児外科 部長	近藤知史
輸血・細胞療法部 副部長 講師	李政樹
麻酔科 副部長 講師	草間宣好
消化器・代謝内科学 講師 肝・膵臓内科 副部長 肝疾患センター 室長	藤原 圭
消化器・代謝内科学 講師 肝疾患センター 副室長	松浦健太郎
藤田医科大学 小児外科学 教授	鈴木達也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	31	火	3	臓器移植総論と臓器移植に関わる法律 移植適応となる小児疾患	近藤知史
8	31	火	4	臓器移植に伴う感染症(肝移植を中心に)	近藤知史
9	7	火	3	輸血管理業務・輸血検査	李政樹
9	7	火	4	輸血療法・適正輸血	李政樹
9	14	火	3	B型肝炎ウイルス感染要因と再活性化	松浦健太郎
9	14	火	4	重症肝不全の治療	藤原 圭
9	21	火	3	血液浄化療法	草間宣好
9	21	火	4	肝移植, 生体肝移植	鈴木達也
9	28	火	3	輸血合併症・副作用	李政樹
9	28	火	4	移植免疫・細胞治療	李政樹

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・膠原病ユニット
専門・教養	専門
担当教員	難波大夫、前田伸治、為近真也、山邊 徹、上原幸治
講義期間・曜日・時限	セメスター4 (2021/9/2~2020/9/30)、木曜日、3~4限目

授業目的・目標	授業目的：関節リウマチなどの膠原病の診療を含めリウマチ科の専門領域における医学、医療、福祉に関しこの分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため 授業目標：リウマチ学が扱う領域の解剖学、免疫学およびそれらの知識に基づく筋骨格系身体診察、自己抗体など検査、X線や超音波、MRIなどの画像診断ならびに膠原病の疾患概念、代表的なリウマチ性疾患の病態、臨床像、分類基準、グルココルチコイド薬、免疫抑制薬、生物学的製剤など分子標的学リウマチ薬の適応や副作用及びその管理に関する基礎的知識を修得し理解を深める。
キーワード	筋骨格、自己免疫疾患、膠原病、関節炎、多臓器疾患、免疫調整薬、グルココルチコイド
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、II b
学習到達目標	学習到達目標 1. リウマチ学・膠原病学の概念を理解し説明できる 2. 筋骨格系の構造や機能、免疫系の構造や機能を概説し、自己抗体など検査法を説明できる 3. 膠原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる 4. 関節腫脹や圧痛をきたす原因と病態生理ならびに疾患を列挙できる 5. 膠原病に特徴的な皮疹やその他の臓器症候を説明し、関連する疾患を列挙できる 6. 関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療とリハビリテーションを説明できる 7. 関節リウマチ、脊椎関節炎の関節外症状を説明できる 8. 成人スチル病の症候、診断と治療を説明できる 9. 全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、全身性血管炎、ベーチェット病の病態生理、侵されやすい臓器病変、症候、診断や分類基準を説明できる 10. グルココルチコイド薬や免疫抑制薬、生物学的製剤など分子標的薬の作用機序、効果、適応、副作用など安全管理について説明できる 11. リウマチ性疾患患者の管理における多職種チーム医療の必要性を説明できる 12. 患者中心の視点の必要性を説明できる 【該当するモデル・コア・カリキュラム】A-1-2)、A-1-3)、A-4-1)、A-4-2)、A-5-1)、C-3-2)、C-4-1)、C-4-5)、D-4、E-4-1)、E-4-2)、E-4-3)、F-1-1)、F-1-2)、F-1-27)、F-1-29)、F-1-34)、F-1-35)、F-1-36)、F-2-1)、F-2-2)、F-2-3)、F-2-5)、F-2-7)、F-2-8)、F-3-1)、F-3-2)、F-3-3)、F-3-4)、F-3-5)-(1)、F-3-5)-(2)、F-3-5)-(7)
成績評価基準	秀：90%以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80%以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70%以上（学修到達目標を達成している） 可：60%以上（学修到達目標を最低限達成している） 不可：60%未満
授業概要	1. リウマチ性疾患の診断に必要な診察や検査 2. 関節リウマチ、脊椎関節炎、成人スチル病、結晶誘発性関節炎 3. 血管炎症候群、ベーチェット病、抗リン脂質抗体症候群 4. 全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、線維筋痛症 5. 皮膚筋炎、多発性筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織病 6. リウマチ性疾患の治療 7. 症例検討（アクティブラーニング） 8. 症例検討（アクティブラーニング）
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	【授業時間外の学習】 講義の前までに、講義項目に関する事前配布資料や下記の参考文献（教科書）の該当箇所を熟読すること。不明な点があれば積極的に質問をすること。授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験にて成績判定を行い6割未満を不合格とする。再試も6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	・リウマチ病学テキスト 改訂第2版 診断と治療社 ・関節リウマチ診療ガイドライン2014 メディカルレビュー社 ・関節リウマチ治療におけるメトトレキサート(MTX)診療ガイドライン 2016年改訂版 羊土社 ・全身性エリテマトーデス臨床マニュアル 第3版 日本医事新報社 ・シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル 改訂第2版 ・多発性筋炎・皮膚筋炎診療ガイドライン 診断と治療社 ・ANCA関連血管炎診療ガイドライン2017 診断と治療社 ・全身性強皮症診療ガイドライン - 公益社団法人日本皮膚科学会 https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/1372907289_3.pdf ・膠原病学 改訂第6版 塩沢俊一、丸善 ・膠原病診療ノート 第3版 三森明夫、日本医事新報社 ・リウマチ病診療ビジュアルテキスト 第2版 上野征夫、医学書院 ・日本リウマチ学会 ガイドライン http://www.ryumachi-jp.com/guideline.html ・European League Against Rheumatism (EULAR) Recommendations: Recommendations for management https://www.eular.org/recommendations_management.cfm ・American College of Rheumatology (ACR) Clinical Practice Guidelines https://www.rheumatology.org/Practice-Quality/Clinical-Support/Clinical-Practice-Guidelines ・Arthritis and Allied Conditions: A Textbook of Rheumatology 15th ed. Koopman WJ, Moreland LW. Lippincott Williams and Wilkins. ・Practical Rheumatology 3rd ed. Hochberg MC, Silman AJ, Smolen JS, Weinblatt ME, Weisman MH. Mosby.
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークによる症例検討を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	呼吸器・免疫アレルギー内科学教室（内線8216） 難波大夫 (tnaniwa@med.nagoya-cu.ac.jp) 前田伸治 (snb51961@med.nagoya-cu.ac.jp) 対応可能な時間：面談が必要な場合は、事前にメール等にて日時を確認ください 9:00~17:00 [月曜から金曜]
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2021年度 第4学年

膠原病ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
呼吸器・免疫アレルギー内科学 病院准教授	難波大夫
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	前田伸治
呼吸器・免疫アレルギー内科学 病院助教	爲近真也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	2	木	3	リウマチ性疾患の診断に必要な診察や検査	難波大夫
9	2	木	4	関節リウマチ、脊椎関節炎、成人スチル病、結晶誘発性関節炎	爲近真也
9	9	木	3	血管炎症候群、ベーチェット病、抗リン脂質抗体症候群	難波大夫
9	9	木	4	全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、線維筋痛症	前田伸治
9	16	木	3	皮膚筋炎、多発性筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織病	難波大夫
9	16	木	4	リウマチ性疾患の治療	前田伸治
9	30	木	3	リウマチ性疾患の検討1(グループ発表)	爲近真也
9	30	木	4	リウマチ性疾患の検討2(グループ発表)	爲近真也

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・臨床腫瘍学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	学内：伊藤 旭 奥山 徹 木下 史緒理 小松 弘和 鈴木 貞夫 鈴木 奈々 高橋 智 遠山 竜也 富田 夏夫 前野 健 松尾 洋一 外来：安藤 正志 上田 龍三 近藤 豊 三田 貴臣 前田 徹 室 圭
講義期間・曜日・時限	2021年10月6日(水)～2021年10月25日(月)

授業目的・目標	医師として、がん患者の診療に必要な基本的知識や集学的治療の重要性を理解するために（目的）、がんの疫学、がん細胞の分子・生物学的特性や病態、診断学、標準的治療法に関する基礎的知識を臓器横断的に習得する。さらにはがん検診の意義や、がん患者およびその家族の心理的、社会的問題や新しい診断・治療法の開発に関する理解を深める（目標）
キーワード	
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1d, 2d, 3a, 3d, 4d
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床腫瘍学の概念を説明できる。 2. がんの疫学の定義と動向を説明できる。 3. がん細胞の生物学的特徴、分子病態や遺伝・環境要因について説明できる。 4. がんの浸潤や転移のメカニズムについて説明できる。 5. がんの病理診断、遺伝子診断の特徴とその限界について説明できる。 6. 抗がん剤の薬物動態、薬力学的解析とその遺伝的多様性について説明できる。 7. 化学療法の基本理論、作用機序、主な副作用と支持療法を説明できる。 8. 分子標的療法の特徴、種類、開発法について説明できる。 9. 放射線生物学、がんの放射線治療の基本理論と適応について説明できる。 10. がんの手術適応、根治手術と縮小手術の原則について説明できる。 11. 腫瘍抗原、細胞免疫療法概念が説明できる。 12. がんの臨床試験の特徴について説明できる。 13. がん診療における標準的治療の確立過程を理解しEBMを利用できる。 14. がんの予防や集団検診の意義と臨床疫学方法論について説明できる。 15. 精神腫瘍学の概念を理解し、全人的医療に貢献できる。 16. 癌性疼痛について理解し、緩和医療、終末期医療について説明できる。 17. Oncologic emergencyについて理解し、説明できる。 18. がん患者と向き合う基本的姿勢、インフォームドコンセントについて説明できる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 B-1-3 根拠に基づいた医療<EBM>、B-1-4 疫学と予防医学、C-4-6 腫瘍、E-3 腫瘍、E-6 放射線の生体影響と放射線障害、E-9 人の死、F-2-4 病理診断、F-2-5 放射線を用いる診断と治療、F-2-6 内視鏡を用いる診断と治療、F-2-8 薬物治療の基本理、F-2-9 外科的治療と周術期管理、F-2-16 緩和ケア</p>
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの記述疫学・がんの予防 2. がんの病理診断 3. がんの細胞生物学 4. がんのゲノミクス 5. 抗がん剤の薬物動態・薬力学 6. がん診療における現状と諸問題（倫理を含む） 7. がんの臨床試験 8. がんの放射線治療 9. がんの手術療法 10. 希少がん（化学療法を含む） 11. 疼痛緩和 12. 分子標的療法 13. がんの免疫療法 14. がん治療におけるEBM 15. 精神腫瘍学 16. Oncologic Emergency(腫瘍随伴症候群を含む) 17. 18. Active learning
授業計画	2021年度臨床腫瘍学授業予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	各講義までに、「入門腫瘍内科学」の該当ページ（目次参照）を読んでおくこと。さらに知識を深めるためには、「新臨床腫瘍学」の該当ページを読むとよい。英文に親しむ意味では、「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」（臨床）、「The Genetic Basis of Human Cancer」（基礎）も利用するとよい。
成績評価方法	セメスター試験 80点満点、アクティブラーニング20点（発表・レポート10点、参加態度10点）満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	「入門腫瘍内科学」監修 日本臨床腫瘍学会 篠原出版社 「新臨床腫瘍学」第3版 日本臨床腫瘍学会 南江堂 「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」Edited by Kantarjian HM, Wolf RA and Koller CA., Mc Graw Hill Co. Inc. 「The Genetic Basis of Human Cancer」Edited by Vogelstein B & Kinzler KW., Mc Graw Hill Co. Inc.
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	各講義までに、「入門腫瘍内科学」の該当ページ（目次参照）を読んでおくこと。さらに知識を深めるためには、「新臨床腫瘍学」の該当ページを読むとよい。英文に親しむ意味では、「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」（臨床）、「The Genetic Basis of Human Cancer」（基礎）も利用するとよい。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	火、水（9時～21時）木、金（14時～21時）内線8738 電子メール komatsu@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

2021年度 第4学年

臨床腫瘍学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
臨床腫瘍部 教授	小松弘和	化学療法部 病院助教	木下史緒理
公衆衛生学 教授	鈴木貞夫	緩和ケア部 病院助教	鈴木奈々
実験病態病理学 教授	高橋 智	外来講師 (愛知医科大学)	上田龍三
乳腺外科学 教授	遠山竜也	外来講師 (名古屋大学)	近藤 豊
緩和ケア部 病院准教授	奥山 徹	外来講師 (金城大学)	前田 徹
呼吸器・免疫・アレルギー内科学 准教授	前野 健	外来講師 (愛知県がんセンター)	室 圭
消化器外科学 准教授	松尾洋一	外来講師 (愛知県がんセンター)	安藤正志
放射線医学 准教授	富田夏夫	外来講師 (シンガポール大学)	三田貴臣
血液・腫瘍内科学 助教	伊藤 旭		

臨床腫瘍学ユニット授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	6	水	2	がん診療における現状と諸問題(倫理を含む)	安藤正志
10	6	水	3	がんの放射線治療	富田夏夫
10	6	水	4	希少がん(化学療法を含む)	木下史緒理
10	7	木	1	がんの記述疫学・がんの予防	鈴木貞夫
10	12	火	2	がんの臨床試験	室 圭
10	12	火	3	がんの細胞生物学	近藤 豊
10	12	火	4	がん治療におけるEBM	遠山竜也
10	14	木	1	精神腫瘍学	奥山 徹
10	18	月	1	分子標的療法	前野 健
10	18	月	2	がんの病理診断	高橋 智
10	18	月	3	がんの手術療法	松尾洋一
10	18	月	4	Oncologic emergency(腫瘍随伴症候群含む)	伊藤 旭
10	21	木	1	癌のゲノミクス	三田貴臣
10	21	木	2	抗がん剤の薬物動態・薬力学	前田 徹
10	25	月	1	緩和ケア	鈴木奈々
10	25	月	2	がんの免疫療法	上田龍三
10	25	月	3	Active Learning	小松弘和
10	25	月	4	Active Learning	小松弘和

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・救急科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	服部友紀、笹野寛、松嶋麻子、山岸庸太、三浦敏靖、今井一徳、間瀬則文、竹内昭憲
講義期間・曜日・時限	2020年1月26日1-4限、2月1日1-2限、2月2日3-4限

授業目的・目標	授業目的；需要が増加する一方の救急医療をどのような仕組みで対応しているのか、救急医の役割とは何かを学ぶ。診療に時間的余裕のない救急患者の緊急度と重症度を如何に見分けて診療するかその診療手順を学ぶ。心停止、外傷、中毒など救急患者に特有の疾患について学ぶ。災害時の特殊な考え方と医療体制について学ぶ。 授業目標；救急診療に必要な考え方について理解を深める
キーワード	心肺蘇生術、多発外傷、急性中毒、災害医療、プレホスピタルケア
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I c, II b, IV a, IV b
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本及び愛知県の救急診療体制を理解する；地域医療への貢献 ・救急医の役割について理解する；プロフェッショナリズム ・日本の災害時の医療体制と多数傷病者の診療の考え方を理解する；社会における医療の実践、チーム医療の実践 ・心停止患者に対する救急処置(2次救命処置；ALS)を理解する；心停止、チーム医療の実践、根拠に基づいた医療(EBM)、救命処置、シミュレーション教育 ・種々の中毒疾患の診療を理解する；物理・化学的因子による疾患、意識障害・失神、けいれん ・外傷患者の診療について学習する；外傷・熱傷、放射線等を用いる診断と治療 ・プレホスピタルケアの重要性を理解する；社会における医療の実践、地域医療への貢献、救命処置 ・ショックの鑑別法を学習する；ショック、超音波を用いる診断と治療、脱水 ・症状から必要な検査を行い診断から治療までグループ討論する；臨床推論、臨床検査、問題志向型システムと臨床診断推論、臨床判断、全身状態とバイタルサイン
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・プレホスピタルケア、外傷、熱傷、中毒、2次救命処置、内科救急疾患について講義を行う ・シミュレーション形式で2次救命処置；ALSを実践する ・提示した症状から、緊急性の判断、検査、診断、治療について議論する
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・救急総論～日本及び愛知県の救急診療体制、救急医の役割～(講義) ・災害医療～大災害時の医療体制と多数傷病者への診療～(講義) ・重症外傷診療(講義) ・2次救命処置；ALS(講義+シミュレーション) ・内科救急疾患(講義+シミュレーション) ・ERでよく見る中毒疾患(講義) ・プレホスピタルケアの重要性～ドクターカー・ドクターヘリの役割～(講義) ・救急患者の評価と診療(講義、グループディスカッション)
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法(令和元年度までの項目名称「成績評価基準」)	セメスター試験(100)点満点 *セメスター試験が60点未満の場合、アクティブラーニングを10点を上限としてプラスする。アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする
教科書・テキスト	救急診療指針(へるす出版)、DMAT標準テキスト(へるす出版)、JRC蘇生ガイドライン(医学書院) 講義・実習に臨む前に上記参考図書の該当する項目を熟読しておくこと 昨年の救急科講義資料を再確認しておくこと
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します
履修上の注意事項	止むを得ず遅刻・欠席の場合は理由を添えて報告すること
履修者への要望事項	M1, M3で習得した一次救命処置(BLS)についてはしっかり復讐しておくこと
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ロールプレイを取り入れた講義を行う
連絡先・オフィスアワー	連絡先：救急科 服部 電話：052-851-5511 内線 4732 メールアドレス：thattori@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	シミュレーション形式では動きやすい服装で。最初の講義で救急総論の他、オリエンテーションを兼ねて以降の講義内容についても解説する
関連URL	なし

救急科ユニット 担当教員

所属・職名	担当教員
救急科・教授	服部友紀
救急科・教授	笹野寛
救急科・教授	松嶋麻子
災害医療センター・センター長	山岸庸太
救急科・病院助教	今井一徳
東部医療センター神経内科・特別診療科部長及び高度医療教育研究センター・講師	三浦敏靖
江南厚生病院・副院長、救急科・部長、救命救急センター長	竹内昭憲
中津川市民病院病院前救急科・部長	間渕則文

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	26	火	1	救急医の役割と救急医療	服部友紀
1	26	火	2	救急患者の評価と診療	今井一徳
1	26	火	3	内科救急疾患の見方	三浦敏靖
1	26	火	4	災害時医療～大災害時の医療体制と多数傷病者への診療～	山岸庸太
2	1	月	1	プレホスピタルケアの重要性～ドクターカー&ドクターヘリの役割～	間渕則文
2	1	月	2	ガイドライン2020に基づく2次救命処置	竹内昭憲
2	2	火	3	外傷患者の診療	松嶋麻子
2	2	火	4	ERでよく見る中毒疾患	笹野寛

開講年度	2021年度
科目名	臨床医学コース・漢方医学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	木村和哲、野尻俊輔、牧野利明、松尾洋一、種村光代、戸澤啓一、有馬菜千枝
講義期間・曜日・時限	セミナーウイーク 9月1日(水)

授業目的・目標	1. 診療に必要な漢方薬治療の基本(漢方医学の基本概念、診療方法、漢方処方の運用)を学ぶ。 2. 全人的視野を養い、漢方薬を含めた患者のための最良の治療指針を選択できる
キーワード	漢方、証、生薬、気・血・水
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1b, 2a, 2b, 2d, 4a, 4c
学習到達目標	1. 漢方医学と西洋医学の基本的相違を説明できる。 2. 漢方医学の特徴・基本的概念を説明できる。 (気・血・水・陰陽・虚実・表裏・寒熱を理解する) 3. 漢方医学の診断方法を説明できる。 (四診<望診・聞診・問診・切診>を理解する) 4. 漢方医学の「証」について説明できる。(随証治療を理解する) 5. 漢方方剤の構成生薬、薬理作用、適応症を説明できる。 6. 漢方処方の代表的副作用や使用上の注意事項を説明できる。 7. 漢方医学のEBMと東西医学の統合について概説できる。 【該当するモデルコアカリ】 F-2-8 薬物治療の基本原理
成績評価基準	合格：60点以上(学修到達目標を達成している)
授業概要	1. 漢方医学総論・歴史 2. 漢方医学の概念 3. 漢方医学の薬物 4. 漢方医学の診断 5. 消化器内科、心療内科、外科、産婦人科、泌尿器科における漢方治療の実際
授業計画	別紙のとおり、90分を2名の講師で担当する。 授業のなかで、実際の煎じ薬を調整し、服用体験を行う。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと
成績評価方法	出席とレポート提出
教科書・テキスト	基本がわかる漢方医学講義 日本漢方医学教育協議会、羊土社 学生のための漢方医学テキスト 日本東洋医学会編、南江堂 入門 漢方医学 日本東洋医学会編、南江堂 実践漢方医学 日本東洋医学会編、南江堂
参考文献	EBM漢方 寺澤捷年他、医歯薬出版 和漢診療学 寺澤捷年、医学書院 医学生のための漢方医学【基礎】 安井廣迪、東洋学術出版社 漢方・中医学講座シリーズ 入江祥史ほか、医歯薬出版 女性の頻用漢方イラストレイテッド 川口恵子、永井書店
履修上の注意事項	静粛に受講すること
履修者への要望事項	静粛に受講すること
アクティブ・ラーニング	漢方薬を実際に煎じて服用体験をする
連絡先・オフィスアワー	火水木金曜日 午前9時～午後5時 連絡先：薬剤部 木村和哲 kkimura@med.nagoya-cu.ac.jp 内線 7404 PHS 3069
実務経験を活かした教育の取組	漢方薬への知識が豊かな教員および臨床経験をもつ教員が講義・実習を担当する
備考	授業時間外の学習は授業開始前に「入門 漢方医学」を一読しておくこと。
関連URL	

2021年度 第4学年

漢方医学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 臨床研究医	有馬菜千枝
臨床薬学分野 教授	木村和哲
種村ウィメンズ クリニック 院長	種村光代
腎・泌尿器科学分野 准教授	戸澤啓一
消化器・代謝内科学分野 准教授	野尻俊輔
薬学部生薬学分野 教授	牧野利明
消化器外科学分野 准教授	松尾洋一

授業計画

月	日	曜日	時限		内 容	担当者
9	1	水	1-前半	9:00~9:45	漢方医学の歴史と概要	木村和哲
9	1	水	1-後半	9:45~10:30	生薬学入門	牧野利明
9	1	水	2-前半	10:40~11:25	漢方医学の診断と証の概念	野尻俊輔
9	1	水	2-後半	11:25~12:10	漢方処方の構成と効果・副作用	有馬菜千枝
9	1	水	3-前半	13:00~13:45	外科と漢方	松尾洋一
9	1	水	3-後半	13:45~14:30	内科と漢方	野尻俊輔
9	1	水	4-前半	14:40~15:25	泌尿器科領域における漢方診療	戸澤啓一
9	1	水	4-後半	15:25~16:10	女性医療と漢方	種村光代

開講年度	2021年度
科目名	臨床処方学セミナー
専門・教養	専門
担当教員	木村和哲、片岡智哉
講義期間・曜日・時限	2021年5月25日（火）・5月26日（水）、1・2限

授業目的・目標	授業目的：投与される薬剤が安全かつ効果的に使用するため 授業目標：適正な薬物治療をするために処方せんの書き方を習得する。また、薬剤の使用方法や医療制度に関する理解を深めるため、臨床薬理学、処方学の知識を修得する。
キーワード	処方箋、麻薬・向精神薬、治療薬物モニタリング、後発医薬品
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域2b, 2c, 2d, 2e
学習到達目標	学習到達目標 1. 処方せんの種類を説明できる。 2. 処方せんの記載事項を理解し説明できる。 3. 内服薬・外用薬・注射薬の種類を概説できる。 4. 麻薬および向精神薬の管理を説明できる。 5. 治療薬物モニタリング(TDM)の必要性を説明できる。 6. PK/PD理論を概説できる。 7. 病院における調剤と医薬品管理を説明できる。 8. 後発（ジェネリック）医薬品の特徴を説明できる。 9. レジメンによるがん化学療法における申請、治療の過程を説明できる。 10. 包括医療費支払い制度(DPC)、クリニカルパスにおける薬物治療を説明できる。
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 処方設計の考え方 2. 処方せん発行とその注意事項 3. 処方解析の仕方 4. 薬物動態学的応用 5. 医薬品安全管理の実際
授業計画	講義、演習 5月25日（火）1限・2限 5月26日（水）1限・2限
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	3回以上講義へ出席し、受講時の態度、提出物等を評価する。 5月26日（水）2限目に確認試験を実施し、総合的に判定する。
教科書・テキスト	(テキスト) 配布資料にて行う (参考図書) 「調剤指針」日本薬剤師会編（薬事日報社） 「臨床薬理学」日本臨床薬理学会編（医学書院） 「臨床薬物動態学」澤田康文編（医学書院） 「疾患と今日の処方」福田保他編（医歯薬出版） 「和漢診療学」寺澤捷年（医学書院）
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	静粛に受講すること
アクティブ・ラーニング	議論型授業を取り入れた授業を行う。議論型授業では積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：木村和哲 火～金 14:00～17:00 薬剤部（内線7404）
実務経験を活かした教育の取組	薬剤師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	「授業時間外の学習」授業前に「調剤指針」の5章、6章を読んでおくこと。
関連URL	

2021年度 第4学年

臨床処方学ユニット 担当教員

所属・職名
臨床薬学分野・教授
臨床薬学分野・講師

氏名
木村和哲
片岡智哉

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	25	火	1	臨床処方学の講義	木村和哲
5	25	火	2	臨床処方学の講義	木村和哲
5	26	水	1	臨床処方学の講義	片岡智哉
5	26	水	2	臨床処方学の講義・試験	片岡智哉

開講年度	2021年度
科目名	社会医学コース・予防医学基礎ユニット
専門・教養	専門
担当教員	上島通浩、榎原 毅、伊藤由起、加藤沙耶香、金子佳世、鈴木貞夫、西山 毅、大谷隆浩、中川弘子、安井 禎、松原史朗、細野晃弘、玉腰浩司、永谷照男、小嶋雅代、鷺見 学
講義期間・曜日・時限	2021年5月21日（金）～7月27日（火）
授業目的・目標	社会医学は、人間の健康問題を宿主要因（性・年齢、心理的要因、遺伝要因などの個人の特性）、環境要因（物理・化学的環境、生物学的環境、社会的環境）との関連で捉え、個人および集団における疾病予防と健康増進のあり方を明らかにする実践科学である。これらは医師が備えるべき力であるため、現実社会の中で健康問題を解決し予防医学的活動を展開する際に必要な知識や考え方を、講義・実習を通して習得する。
キーワード	地域保健、産業保健、環境保健、保健統計、疫学、根拠に基づいた医療（EBM）
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】Ⅰb, Ⅱd, Ⅲa, Ⅲb, Ⅲc, Ⅲd, Ⅳd
学習到達目標	1. 社会医学の目的、意義、歴史、政策等を理解する。 2. 保健医療制度と医療資源・保健統計・保健指導の現状と動向を説明できる。 3. 地域保健・学校保健・産業保健・環境保健・国際保健等の概要を説明できる。 4. 健康問題の集団的解析に必要な統計学手法を理解する。 【該当するモデルコアカリ】 A-7社会における医療の実践、B-1集団に対する医療、B-4医療に関連のある社会科学領域、C-5人の行動と心理、E-5物理・化学的因子による疾患
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している 実習は積み上げ式で行うため全回出席を求める。課題レポートの提出は必須である。
授業概要	担当教員・講義予定表を参照
授業計画	<講義項目> 1. 社会医学総論（歴史・政策等） 2. 保健統計（現状と動向、各種指標の計算等）と疫学総論・各論（EBM手法を含む） 3. 地域保健、学校保健、産業・環境保健、世界の保健医療問題等の総論・各論 4. 地域医療問題、医療経済 5. 疫学データ処理の実例 6. 保健所・市町村保健センターの活動と役割 *講義内容についての小テスト <社会医学テーマ実習> テーマごとに形成する自主グループでの実地見学・調査・解析・討論とその結果の発表・レポート作成 <疫学統計実習> 1. 地域の保健指標、疫学データ解析、疾病診断・スクリーニング等の基礎 2. 基礎医学実験における実験計画の立て方、サンプルサイズの決め方 3. 統計解析ソフトを用いたデータ処理
授業時間外の学修（準備学習を含む）	教科書の該当箇所を読み込むことが望まれる。「疫学統計実習」では、ハンドアウトを確認し、あらかじめ内容を理解し、実習に臨むこと。解析後、得られた解析結果について十分に考察して、レポートにまとめること。
成績評価方法	定期試験成績100%。学修到達目標が達成できているかを評価する。レポート提出状況・内容は、定期試験の点数の一部を構成する（最大10%）。なお、履修規程に規定された回数の出席が確認できない場合は定期試験の受験資格を失うので、注意すること。
教科書・テキスト及び参考文献	原則として、毎回、資料を配布する。参考書（(1)、(2)はいずれかで可）を手元に置いて予習復習に活用することが望ましい。(3)は通読する必要はなく、辞書的に使用する。統計数値、政策は毎年アップデートされるため、国家試験前には最新年度のものを参照すること。 <参考書> (1)NEW予防医学・公衆衛生学 南江堂、(2)シンプル衛生公衆衛生学 南江堂、(3)国民衛生の動向厚生労働統計協会、(4)Basic Epidemiology WHO（日本語版あり）
履修上の注意事項・履修者への要望事項	疫学統計実習は遅刻すると授業についていけなくなります。 また、テーマ実習における学外施設の訪問などの実習は、訪問先の方々のご厚意により成り立っている。医学生として見られていることを自覚し、遅刻・欠席しないことはもちろん、挨拶・服装・私語等に注意を払うこと。
アクティブ・ラーニング	「社会医学テーマ実習」では、テーマごとにグループを形成し、実地見学、調査、データ解析、グループ討論を行い、その結果をまとめ、報告会においてプレゼンテーションを行う。また、グループごとにレポートを作成し、「社会医学テーマ実習報告書」として製本する。
連絡先・オフィスアワー	平日（月曜日～金曜日）9：00～17：00 （会議等で教員が不在の場合もあるので、事前に確認すること） 【連絡先】環境労働衛生学 上島 Tel：853-8171
実務経験を活かした教育の取組	
備考	不明な点があれば積極的に教員に質問し、十分な理解を得るよう努めること。
関連URL	

社会医学(予防医学基礎)コース 担当教員

所属・職名
 環境労働衛生学・教授
 環境労働衛生学・准教授
 環境労働衛生学・准教授
 環境労働衛生学・特任助教
 環境労働衛生学・特任助教
 公衆衛生学・教授
 公衆衛生学・准教授
 公衆衛生学・講師
 公衆衛生学・助教

氏名
 上島 通浩
 榎原 毅
 伊藤 由起
 加藤沙耶香
 金子 佳世
 鈴木 貞夫
 西山 毅
 大谷 隆浩
 中川 弘子

非常勤講師
 名古屋市精神保健福祉センター
 名古屋市南区保健センター
 名古屋市熱田保健センター
 名古屋大学大学院医学系研究科
 中部学院大学
 国立長寿医療研究センター
 厚生労働省健康局

氏名
 安井 禎
 松原 史朗
 細野 晃弘
 玉腰 浩司
 永谷 照男
 小嶋 雅代
 鷺見 学

授業計画

講義・社会医学テーマ実習:研究棟11階 講義室B、統計実習:基礎教育棟3階 情報処理室

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	21	金	1	社会医学総論	鈴木
			2	保健統計(1)-疾病頻度の評価と比較	大谷
			3	EBMの理論と実践(1)-治療・予防	西山
			4	EBMの理論と実践(2)-予後予測	西山
25	火	3	社会医学テーマ学習(1) オリエンテーション	全教員	
			産業保健(1)-総論	榎原	
			環境保健(1)-総論	伊藤	
			保健医療論	上島	
28	金	1	EBMの理論と実践(3)-診断検査	西山	
			疫学(1)-因果関係とEBM	鈴木	
			産業保健(2)-夜勤交代勤務と健康	榎原	
			産業保健(3)-有機化合物と健康	上島	
31	月	2	社会医学テーマ学習(2) 計画	全教員	
			疫学(2)-疫学研究のデザイン	鈴木	
			EBMの理論と実践(4)-系統的レビュー	西山	
			地域保健・地域医療(1)-保健所・市町村保健センター	松原	
6	1	火	産業保健(4)-無機化学物質と健康	上島	
			環境保健(2)-大気・水環境汚染と廃棄物対策	伊藤	
			統計実習(1): 疫学データ解析 記述等計量、計数値の解析、相関と回帰、交絡の補正、 多変量回帰(線型回帰、ロジスティック回帰)分析	公衆衛生学教員	
			社会医学テーマ学習(3)	全教員	
11	金	1	統計実習(2): 疾病診断とスクリーニングの基礎 感度、特異度、ROC曲線	公衆衛生学教員	
			精神保健	安井	
			感染症法とその他医師の守るべき法規	細野	
			統計実習(3): 地域の保健指標 人口、死亡数、粗死亡率、年齢調整死亡率、 生命表、平均寿命、平均余命	公衆衛生学教員	
18	金	2	社会医学テーマ学習(4)	全教員	
			環境保健(3)-室内空気汚染と健康	上島	
			環境保健(4)-食品衛生と国民栄養	伊藤	
			統計実習(4): 実験デザイン概論、統計解析基礎、小レポート (実験計画基礎、記述統計量、サンプルサイズ、検定力、効果量、乱塊法、誤差、バイアス、変動係数、 α/β エラー、統計的仮説検定、多重比較)	環境労働衛生学教員	
25	金	3	学校保健	加藤	
			母子保健	玉腰	
			保健統計(2)-厚生指標	大谷	
			地域保健・地域医療(2)-フレイル予防、医療と福祉の一体的実施	小嶋	
7	1	木	統計実習(5): 統計解析応用、論文精読、実験計画立案 (実験計画応用、一元配置、二元配置、欠損値、外れ値、対数変換、経時測定 分散分析、主効果、交互作用、傾向検定、ICC/Kappa係数)	環境労働衛生学教員	
			社会医学テーマ学習(5) まとめ、報告会準備	全教員	
			環境保健(5)-衛生動物・衛生害虫と健康	伊藤	
			健康増進と障害者福祉	榎原	
8	木	1	行動科学(1)-意思決定と行動変容の理論と実践	榎原	
			行動科学(2)-社会行動医学と意思決定	鈴木	
			統計実習(6): 課題演習、レポート作成	環境労働衛生学教員	
			多様な文化的背景をもつ個人・集団における疾病予防	金子	
9	金	2	疫学(3)-国際保健	鷺見	
			産業保健(5)-作業態様と健康	榎原	
			産業保健(6)-物理的要因 まとめ	上島	
			社会医学テーマ学習(6) 報告会	全教員	
15	木	3	疫学(4)-長寿・少子社会と健康	永谷	
			疫学(5)-循環器疾患、肥満とその関連疾患	永谷	
			社会医学試験	全教員	
			社会医学試験	全教員	
16	金	1	環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
19	月	1	環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
21	水	3	環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
27	火	3	環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	
			環境労働衛生学教員	環境労働衛生学教員	

開講年度	2021年度
科目名	臨床能力養成コース 基本臨床技能実習
専門・教養	専門
担当教員	安井孝周、神谷武、大喜多賢治、谷田諭史、岡本秀貴、若見和明、新実彰男、杉浦知範、小川了、川北大介、笹野寛
講義期間・曜日・時限	2021年度基本臨床技能コース担当教員・スケジュールを参照
授業目的・目標	診療参加型臨床実習において診療に主体的に参加し、診療チームの一員として実質的な診療機能を担うことができるために、一般診療に必要な医師としての態度および診療技能を修得する。
キーワード	医療面接、臨床技能、身体診察、基本的臨床手技
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia、IIb、IIc、IVa
学習到達目標	<p>医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)の「F-3 基本的診療技能」に示されている以下の項目について修得することを目標としている。</p> <p>【医療面接】</p> <p>①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。②医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。③病歴(主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー)を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。④診察時に患者に適切な体位(立位、座位、半座位、臥位、砕石位)を説明できる。</p> <p>【身体診察】</p> <p>〈基本事項〉</p> <p>①患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。②患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。③患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。④感染を予防するため、診察前後の標準予防策(standard precautions)ができる。⑤身だしなみ、言葉遣い及び態度等に気を配ることができる。</p> <p>〈全身状態とバイタルサイン〉</p> <p>①身長・体重を測定し、body mass index <BMI>の算出、栄養状態を評価できる。②上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。③両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。④呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。⑤腋窩で体温を測定できる。⑥下肢の動脈の触診を実施できる。⑦全身の外観(体系、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声)を評価できる。</p> <p>〈頭頸部〉</p> <p>①頭部(顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋)の診察ができる。②眼(視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜)の診察ができる。③耳介およびその周囲を観察できる。④耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。⑤口唇、口腔、咽頭、扁桃の診察ができる。⑥鼻(全体の形状や皮膚の所見)、副鼻腔の診察ができる。⑦甲状腺、頸部血管、唾液腺の診察ができる。⑧頭頸部リンパ節の診察ができる。</p> <p>〈胸部〉</p> <p>①胸部の視診、触診、打診ができる。②呼吸音と副雑音の聴診ができる。③心音と心雑音の聴診ができる。④背部の叩打痛を確認できる。</p> <p>〈腹部〉</p> <p>①腹部の視診、聴診ができる。②区分に応じて腹部の打診、触診ができる。③腸雑音、血管雑音の聴診ができる。</p> <p>〈神経〉</p> <p>①意識レベルを判定できる。②脳神経系の診察ができる(眼底検査を含む)。③腱反射の診察ができる。④小脳機能・運動系の診察ができる。⑤感覚系(触覚)の診察ができる。⑥髄膜刺激所見(項部硬直)を確認できる。</p> <p>〈四肢と脊柱〉</p> <p>①四肢と脊柱(彎曲、疼痛)の診察ができる。②関節(可動域、腫脹、疼痛、変形)の診察ができる。</p> <p>〈基本的臨床手技〉</p> <p>①静脈採血をシミュレーターで実施できる。②手指衛生等の標準予防策(standard precautions)を実施できる。③12誘導心電図を記録できる。④経皮的酸素飽和度を測定できる。⑤手術や手技のための手洗いができる。⑥手術室におけるガウンテクニックができる。</p> <p>〈救急救命処置〉</p> <p>①緊急性の高い状況かどうかをある程度判断できるようになる。②一次救命処置を実施できる。</p> <p>【関連するモデル・コア・カリキュラム】 F-3-2、F-3-5、F-3-6</p>
成績評価基準	<p>秀: 90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している)</p> <p>優: 80点以上(学修到達目標を十分に達成している)</p> <p>良: 70点以上(学修到達目標を達成している)</p> <p>可: 60点以上(学修到達目標を最低限達成している)</p>
授業概要	医学部4年次に実施。1学年を2グループに分け、グループ毎にミニレクチャーと実技の実習を行う。
授業計画	2021年度基本臨床技能実習担当教員・スケジュールを参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	下記DVD映像(オンラインで視聴可能)を視聴して講義・実習に臨むこと
成績評価方法	<p>形成的評価を各ユニットの中で適宜行い、診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験(Pre-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination; Pre-CC OSCE)による総括的評価を行う。</p> <p>OSCE本試験: 実施日2021年9月25日(土) 追・再試験: ユニット毎に指定する日時に実施</p>
教科書・テキスト	<p>①診療参加型臨床実習に参加する学生に必要な技能と態度に関する学修・評価項目 (社)医療系大学間共用試験実施評価機構</p> <p>②診療参加型臨床実習に必要な技能と態度 教育・学習用DVD (社)医療系大学間共用試験実施評価機構 医学部Webサイト>学生教職員の方>共用試験のDVD視聴 https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/kyouvousiken.html</p> <p>※ DVDの内容は、医学部Webサイトから閲覧可能である。あらかじめ視聴の上講義・実習に臨むこと。</p>
参考文献	<p>映像で見る診療参加型臨床実習DVD 医学部Webサイト>学生教職員の方>映像ライブラリ https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/education/video_library.html</p>
履修上の注意事項	臨床実習と同様の服装・身だしなみで参加すること(名札・白衣着用。ヒール、ブーツ等の履物は禁止)。各回の会場、持ち物等は掲示等により指示するので、各自で必ず確認すること。
履修者への要望事項	実習開始までに、聴診器を購入すること。
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、プレゼンテーション、シミュレーション学習、グループ・ディスカッション
連絡先・オフィスアワー	<p>月 10:30~12:00</p> <p>連絡先: 医学・医療教育学分野 植田 典浩 電話: 052-853-8507 メールアドレス: nueda@med.nagoya-cu.ac.jp</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	http://www.cato.umin.jp/osce.html

臨床能力養成コース 基本臨床技能実習 担当教員

科目責任者
科目調整担当者

腎・泌尿器科学 安井孝周 教授
医学・医療教育学 植田典浩 講師

領域名		領域責任者	
医療面接		次世代医療開発学	神谷 武 教授
頭頸部の診察		耳鼻咽喉・頭頸部外科学	川北大介 講師
全身状態とバイタルサイン		循環器内科学	若見和明 助教
胸部診察1 (循環器)			
胸部診察2 (呼吸器)		呼吸器・免疫アレルギー内科学	新実彰男 教授
腹部診察		消化器・代謝内科学	谷田諭史 准教授
神経診察		神経内科学	大喜多賢治 講師
四肢と脊柱		整形外科	岡本秀貴 講師
基本的臨床手技	手洗い・手袋・ガウン テクニック	消化器外科学 (中央手術部)	小川 了 講師
	12誘導心電図 ・静脈採血	循環器内科学 (急性心臓疾患治療部)	杉浦知範 准教授
救急救命処置		先進急性期医療学	笹野 寛 教授

授業計画

1		全身状態とバイタルサイン 胸部診察1 (循環器)	胸部診察2 (呼吸器)
2月3日 (水)	3・4限	講義 全員 (3限)	講義 全員 (4限)
2月10日 (水)	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
2月17日 (水)	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
2		腹部診察 (1回目)	四肢と脊柱
4月13日 (火)	3・4限	講義 全員 (3限)	休講
4月20日 (火)	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
4月27日 (火)	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
3		医療面接 (1回目)	神経診察 (1回目)
4月21日 (水)	3・4限	講義 全員 (3限)	講義 全員 (4限)
5月12日 (水)	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
5月19日 (水)	3・4限	実習 Bグループ	—
5月27日 (木)	3・4限	—	実習 Aグループ
4		手洗い・手袋・ガウンテクニック	頭頸部の診察
5月6日 (木)	3・4限	講義 全員 (3限)	講義 全員 (4限)
5月20日 (木)	3・4限	実習 Aグループ	—
5月27日 (木)	3・4限	実習 Bグループ	—
8月30日 (月)	3・4限	—	実習 3限 Aグループ/4限 Bグループ
5		医療面接 (2回目)	12誘導心電図・静脈採血
5月26日 (水)	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
6月30日 (水)	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
6		救命救急処置	
6月30日 (水)	1限	講義 全員 (1限)	
7月7日 (水)	1・2限	実習 (1~2限)	
7		神経診察 (2回目)	腹部診察 (2回目)
7月7日 (水)	3・4限	実習 Aグループ	—
7月14日 (水)	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
9月3日 (金)	1・2限	—	実習 Bグループ
8		総復習	
9月22日 (水)	3・4限	各実習の復習	
9		本試験	
9月25日 (土)	終日	共用試験OSCE	

開講年度	2021年度
科目名	臨床診断推論 (Basic)
専門・教養	専門
担当教員	兼松孝好, 赤津裕康, 田中創始, 荒川和幸, 鈴木幹三, 大原弘隆
講義期間・曜日・時限	1月7日, 14日, 21日, 28日の各1・2限 計8コマ

授業目的・目標	臨床診断がより正しくできる為に、問題志向型システムを用いた病歴聴取やカルテ記載ができると共に、臨床診断推論の具体的な手法を学ぶ。また、グループ討論の中から、より妥当な診断を得る経験を通じて、チームダイナミクスの有用性や他者の意見の尊重などを重ねて学ぶ。
キーワード	臨床診断推論, カルテ記載, 医療面接
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域I abc, 領域II abcd, 領域IV ad
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題志向型システムを意識したカルテ記載ができる。(F-3-1, F-3-3) 2. 診断推論に必要な病歴聴取や身体所見, 検査項目の確認ができる。(F-2-1, F-3-5-(1)) 3. 全身倦怠感, 腹痛, 頭痛に対し, 診断推論を図ることができる。(F-1-2, F-1-20, F-1-33) 4. 課題に対して小グループ討論により論理を展開し, 解決するための手段を提示できる。 5. チームダイナミクスを理解し, 他者との比較により自己学習課題を見つけることができる。 6. 診断推論に基づいて, 議論を行うことができる。(F-3-4) 7. 自発的な生涯自己学習を行うことができる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 《F-1 診療の基本》F-1-2) 全身倦怠感, F-1-20) 腹痛, F-1-33) 頭痛, 《F-2 基本的診療知識》F-2-1) 臨床推論, 《F-3 基本的診療技能》F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論, F-3-2) 医療面接, F-3-3) 診療録(カルテ), F-3-4) 臨床判断, F-3-5) 身体診察</p>
成績評価基準	秀: 学修到達目標を越えたレベルを達成している 優: 学修到達目標を十分に達成している 良: 学修到達目標を達成している 可: 学修到達目標を最低限達成している
授業概要	双方向講義, シミュレーション学習, TBL学習などのアクティブ・ラーニングを行う。TBL形式によるグループ討論と学習を行った後、診断の絞り込みを行う。最後にまとめの講義が行われる。
授業計画	(予定) 1月09日(木) 1-2限 双方向講義(「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 1月16日(木) 1-2限 シミュレーション学習(「腹痛」のカルテ学習) 1月23日(木) 1-2限 TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 1月30日(木) 1-2限 TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション)

開講年度	2021年度
科目名	臨床診断推論 (Advanced)
専門・教養	専門
担当教員	兼松孝好, 赤津裕康, 田中創始, 荒川和幸, 鈴木幹三, 大原弘隆
講義期間・曜日・時限	10月7日, 10月14日, 10月21日の各3・4限 計6コマ

授業目的・目標	臨床診断がより正しくできる為に、問題志向型システムを用いた病歴聴取やカルテ記載ができると共に、臨床診断推論の具体的な手法を学ぶ。また、グループ討論の中から、より妥当な診断を得る経験を通じて、チームダイナミクスの有用性や他者の意見の尊重などを重ねて学ぶ。
キーワード	臨床診断推論, カルテ記載, 医療面接
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I abc, 領域 II abcd, 領域 IV ad
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題指向型システムを意識したカルテ記載ができる。(F-3-1, F-3-3) 2. 診断推論に必要な病歴聴取や身体所見, 検査項目の確認ができる。(F-2-1, F-3-5-(1)) 3. 全身倦怠感, 腹痛, 頭痛に対し, 診断推論を図ることができる。(F-1-2, F-1-20, F-1-33) 4. 課題に対して小グループ討論により論理を展開し, 解決するための手段を提示できる。 5. チームダイナミクスを理解し, 他者との比較により自己学習課題を見つけることができる。 6. 診断推論に基づいて, 議論を行うことができる。(F-3-4) 7. 自発的な生涯自己学習を行うことができる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 《F-1 診療の基本》F-1-2) 全身倦怠感, F-1-20) 腹痛, F-1-33) 頭痛, 《F-2 基本的診療知識》F-2-1) 臨床推論, 《F-3 基本的診療技能》F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論, F-3-2) 医療面接, F-3-3) 診療録 (カルテ), F-3-4) 臨床判断, F-3-5) 身体診察</p>
成績評価基準	秀: 学習到達目標を越えたレベルを達成している 優: 学習到達目標を十分に達成している 良: 学習到達目標を達成している 可: 学習到達目標を最低限達成している
授業概要	双方向講義, シミュレーション学習, TBL学習などのアクティブ・ラーニングを行う。TBL形式によるグループ討論と学習を行った後、診断の絞り込みを行う。最後にまとめの講義が行われる。
授業計画	(予定) 10月07日 (木) 3-4限 TBL形式 (「全身倦怠感」の症例提示, ディスカッション) 10月14日 (木) 3-4限 TBL形式 (「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 10月21日 (木) 3-4限 TBL形式 (「頭痛」の症例提示, ディスカッション) <ul style="list-style-type: none"> ・ 双方向講義については、腹痛を題材として、基本的な診断推論の手法を学ぶ。 ・ シミュレーション学習では、カルテの書き方について、カルテの1例を題材に学習する。 ・ TBLでは症例が主訴、医療面接情報、身体所見、検査所見の順に提示され、それぞれのところでどのような疾患・病態が考えられ、その鑑別にはどのような情報があればよいかを検討する。議論の中で自分達の理解できていない項目が明確になるため、これを学習課題とし、分担して学習し、これを持ち寄って次週にグループ学習を行う。最後にまとめの講義で診断が提示されるとともに、考えるべき重要な項目が指摘される。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業では鑑別疾患のリストアップを繰り返すが、当初は閲覧資料を持ち込み可とするが、後期(総合内科Advanced)においては予習資料のみを持ち込み可能とする。よって準備学習が必須となる。 授業の始めに前回授業に関する小テストを予定するため、復習が必要である。
成績評価方法	各講義において、課題を提出し採点する。課題は、学習に対する理解度の確認の他、参加態度なども点数化する。複数回の課題を評価し、基準点を満たすものを合格とする。
教科書・テキスト	テキスト・適切な参考文献を自ら探して選択することも学習課題のひとつとする。
参考文献	例示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学生からの診断推論～今日もホームランかつぼそうぜ (山中克郎) (羊土社) ・ 診断推論Step by Step 症例提示の6ステップで鑑別診断を絞り込む (酒見英太) (新興医学出版社)
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義実習について、遅刻・欠席・早退の場合には理由を付して連絡すること。 ・ 連絡のない遅刻・欠席・早退については最大3倍の遅刻・欠席・早退時間として算定する。 ・ 学生自身にとって不利益が大きいため、理由がない遅刻・欠席・早退は履修を認めない。
履修者への要望事項	事前に「扱う症候(腹痛, 頭痛, 全身倦怠感)」を指定された場合は、独自に予習を行うこと。予習の方法は各自で選択するため、参考図書などの指定はない。
アクティブ・ラーニング	双方向講義, シミュレーション学習, TBL (チーム基盤型学習) 学習
連絡先・オフィスアワー	月・火・木 12:00~13:00 連絡先: 地域医療教育学分野 兼松孝好 電話: 052-853-8527 メールアドレス: kanecore@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	実際の症例をベースとした症例提示を行うため、極めて実践的である。臨床教員が、外来診療を行う経験を疑似体験できる。
備考	
関連URL	

2020年度 第3学年～2021年度 第4学年

臨床診断推論ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療教育学 講師	兼松孝好
地域医療教育学 教授(診療担当)	赤津裕康
地域医療教育学 学内講師	田中創始
地域医療教育学 特任助教	荒川和幸
地域医療教育学 特任助教	鈴木幹三
地域医療教育学 教授	大原弘隆

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	7	木	1, 2	双方向講義(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
1	14	木	1, 2	シミュレーション学習(「腹痛」のカルテ学習)	兼松孝好
1	21	木	1, 2	TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
1	28	木	1, 2	TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	7	木	3, 4	TBL形式(「全身倦怠感」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	14	木	3, 4	TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	21	木	3, 4	TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好

開講年度	2021年度
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学コース コミュニティ・ヘルスケア発展 (IPE)ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：赤津裕康、川出義浩
講義期間・曜日・時限	セメスター2 2021/4/7(水)、2021/4/19(月) 3~4限目

授業目的・目標	G10: 地域包括ケアシステムを理解し、地域や高齢者の保健医療福祉に関するニーズを把握し医療計画から主治医意見書を作成し、個々の終末期の対応を提示できる。
キーワード	超高齢社会、介護保険、アドバンスケアプランニング (ACP:人生会議)
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	2a, 2d, 3c, 3d, 4a, 4b
学習到達目標	SB0 1: 高齢者個別のニーズを把握することができる。 SB0 2: 高齢者の課題に対し、多職種・地域で対応する方策を提案できる。 SB0 3: 認知症予防や介護のためのコミュニティ・ヘルスプロモーション活動を提案できる。 SB0 4: Advance care planningの必要性を説明できる。 SB0 5: AIP社会における医療者の役割を説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 A-1-1, 2, 3) プロフェッショナリズム、B-2-1) 死と法、 B-4-1) 医師に求められる社会性、E-8-1) 老化と高齢者の特徴、E-9-1) 生物的死と社会的死、F-2-15) 在宅医療と介護、F-2-16) 緩和ケア、G-2-32) 物忘れ
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	本科目は、超高齢社会における、認知症、多死の問題に焦点をあてつつ、具体的症例に関して検討するとともに、自らの問題としてもとらえつつ、医師としての向き合い方をともに学びたい。
授業計画	1) 高齢者の特性を把握し、その身体的・精神的・社会的状況の理解を進める。 2) 症例を取り上げつつ、主事意見書の概略を把握し高齢者のニーズにあった介護サービスの提供を理解する。 3) 認知症の進行とその末期の状況を学び、末期高齢者の問題を具体的に捉え、終末期の状態に向けたアドバイスができる素養を習得する。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	超高齢社会を迎えての国の施策に関する情報収集を行っておく。自らの人生に関しても将来の社会情勢を見据えて考え、医師になったときにアドバイスが行える準備を進めておく。
成績評価方法	4コマの講義それぞれ講義最後にレスポンスカードの記載を行う：各10点で合計40点満点、主事意見書の提出：30点満点、最終講義最後の30分で試験を行う：30点満点とする。
教科書・テキスト	
参考文献	なごや認知症あんしんナビ (http://n-renkei.jp/index.html) ACPトレーニングパッケージ (http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/eol/acp/acp_training_p.html)
履修上の注意事項	本科目は、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの選択科目であり、医学部・薬学部・看護学部横断型プログラムとして履修する。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	担当教員名：赤津、川出 連絡先：地域医療教育学 内線：8537 午前9時から午後5時(月～金)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。
関連URL	

2021年度 第4学年

コミュニティ・ヘルスケア発展(IPE) ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療教育学分野教授(診療担当)	赤津裕康
地域医療教育学分野特任准教授	川出義浩
みどり訪問クリニック院長	姜 琪鎬

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	7	水	3	主治医意見書の書き方	赤津
			4	死の体験授業	姜 琪鎬
4	19	月	3	老年医学概論	赤津、川出
			4	アドバンスケアプランニング、最後30分で試験	赤津、川出

臨床実習前半

(4 学年 1 月～5 学年 11 月)

開講年度	2021年1月～2021年11月
科目名	臨床実習コース・消化器内科、肝臓内科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	【消化器内科】片岡洋望、谷田諭史、久保田英嗣、志村貴也、尾関啓司、西江裕忠、田中守、片野敬仁、岩崎弘靖、北川美香、尾関貴紀 【肝・膵臓内科】林 香月、藤原 圭、内藤 格、松浦健太郎、吉田道弘、夏目まこと、加藤晃久
講義期間・曜日・時限	4週間

授業目的	①(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 ②(消化器内科・肝・膵臓内科) M4までに習得した基礎知識を元に、消化器、肝・膵臓内科系疾患における診療を通して、すべての診療科の医師が必要とする基本的診療の実際および医師としての態度や心構えを身につけることを目的とする。そして「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。さらにその診断、病態の把握に必要な諸検査を合理的に組み立て、適切な治療法を選択できることを目指す。また学外実習を2週間行うことにより、実際の臨床現場で行っている医療行為に参加する機会を増やす。 ③該当する卒業時コンピテンシー領域Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
学習到達目標	①BSL終了時にできるようになってほしい行動、②該当するモデルコアカリ 1. 患者との適切なコミュニケーションを得る能力を身につける。【F-3-1)2)3)4)】 2. 消化器疾患に対する基本的診察法を正確に実施し、整理・記載できる。【F-3-5)-(5)F-3-5)-(5)】 3. 消化器疾患疾患における主要症候を理解する。【D-7、F-1-3)4)22)24)25)】 4. 自覚的所見、血液生化学的検査から病態を把握し、診断に必要な検査を的確に組み立てることができる。【F-2-3)】 5. 臨床所見と諸検査から疾患の緊急性の判断ができ、適切な治療を選択することができる。【F-1-5)21)】 6. 基本的治療および手技を理解し、指導医が行う放射線、内視鏡、超音波を用いた診断・治療では、見学を通じてその適応と意義を学ぶ。【F-2-5)6)7)】 ③必ず学ぶべき症候・手技 食欲不振、体重減少・体重増加、ショック、悪心・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、黄疸、腹部膨隆・腫瘍、腹部診察手技
授業概要	1. 外来実習：外来見学 診察方法・診断の進め方・治療方針の決め方 2. 病棟実習：担当患者の受け持ち、単独での回診および回診後の診断・治療方針についての議論(診療チームの一員としての診療参加型実習)。実習終了までに受け持ち症例の要約についてのレポートを作成する。 3. 超音波検査室(頸部・腹部超音波検査)での実習 4. 内視鏡室(各種内視鏡検査・治療、肝腫瘍の治療)での実習 5. 中央放射線部テレビ室(消化管、胆膵疾患の診断・治療)での実習 6. 学外実習：関連施設、消化器内科での見学、実習
授業計画	消化器内科・肝臓内科の予定表(別掲)を参照
成績判定基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
テキスト及び参考文献	教科書、参考書： ベッドサイド消化器学 丹羽寛文他編、南江堂 消化器病診療 「消化器病診療」編集委員会編、医学書院 腹部エコーのABC 竹原靖明他編、日本医師会 消化管内視鏡のABC 出月康夫編、日本医師会
BSLにかかる諸注意	体調管理に努め、発熱・感冒症状など体調不良の際は必ず申し出ること 遅刻、欠席をしないこと。 清潔感のある服装で、ネクタイは不要。 言動には十分な配慮を配ってください。 診察、会話などで得た情報に対しては守秘義務があります。
オフィスアワー・連絡先	月～金 9:00～17:00 消化器・代謝内科学教室(052-853-8211、内線は8211) 担当 医局長 西江裕忠(nishix589998@gmail.com)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。実習に自発的かつ積極的に参加をお願いします。

消化器内科⇒肝・膵臓内科 M5 (各グループ 1) BSL 予定表

BSL ルームは 16 階北病棟 Dr 実習室です

予定表の余白に、各実習担当教員の印/サインをもらってください。総括時に確認します。

	時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
第 1 週	AM	9:00～ オリエンテーション 担当患者紹介 場所：16N 実習室 担当：西江：3483 9:30～ 外来実習 場所：内科外来 担当： 16 診：片岡 5 診：堀 6 診：野尻 7 診：谷田	9:00～ 内視鏡モデル使用実習 場所：シミュレーション センター 担当：志村：3292	9:00～ 消化器疾患治療 場所：研究棟 3F 医局 担当：西江：3483	9:00～ 胃透視・注腸 場所：2 階中放 X線 TV 2 担当：検査担当医 10:00～ 消化器診察検査手技の シュミレーション 場所：16N 実習室 担当：久保田：3186	9:00～ 外来実習 場所：内科外来 担当： 4 診：林/志村 5 診：松浦 6 診：田中 7 診：神谷 11 診：尾関啓
	PM	14:00～ 消化器内科総回診・症例 ディスカッション 場所：16N 実習室 担当：片岡教授：3362	15:00～ 炎症性腸疾患、検査・ 治療の実際 場所：16N 実習室 担当：谷田：3479	15:00～ 下部消化管内視鏡診断・ 治療シュミレーション 16N 実習室 場所：16N 実習室 担当：尾関：3293	13:30～ 内視鏡実習 (内視鏡 治療の実際) 内視鏡室 場所：2 階内視鏡室 担当：検査担当医	14:00～ 担当患者回診・症例要約 場所：指定なし 担当：各自
第 2 週	AM	10:00～ 肝膵臓内科総回診・症例 ディスカッション 場所：16N 実習室 担当：林：3236	9:00～ 肝生検・肝治療の実際 (治療がない場合はレクチャー) 場所：5F 手術室 担当：松浦：4782	9:00～ 胆 膵 疾 患 症例ディスカッション 場所：16N 実習室 担当：吉田：4745 終了後～ 外来実習 場所：内科外来 担当： 4 診：谷田/内藤 5 診：藤原 6 診：林 7 診：久保田 11 診：志村	9:00～ 胆膵内視鏡検査 ・治療の実際 場所：内視鏡室 7 番 担当：夏目：3241	9:00～ 肝生検・肝治療の実際 場所：5F 手術室 担当：藤原：3235 10:30～ 西部医療センターにお ける消化器診療の実際 場所：研究棟 3F 医局 担当：西部妹尾教授
	PM	13:00～ 腹部 US 実習 場所：シュミレーション センター 担当：夏目：3241 14:00～ 消化器の腹部診察 場所：シュミレーション センター 担当：加藤：4142	13:30～ 肝疾患患者の回診、 症例ディスカッション 場所：16N 実習室 担当：藤原：3235 15:00～ 胆膵内視鏡検査 ・治療の実際 場所：内視鏡室 7 番 担当：神野：3323	13:30～ 担当患者回診・症例要約 場所：指定なし 担当：各自	13:30～ 胆膵内視鏡検査 ・治療の実際 場所：内視鏡室 7 番 担当：夏目：3241 15:00～ 臨床推論：肝胆膵 場所：16N 実習室 担当：松浦：4782	13:30～ 担当患者 プレゼンテーション・ ディスカッション 場所：16N 実習室 担当：谷田：3479

肝・膵臓内科⇒消化器内科 M5 (各グループ 2) BSL 予定表

BSL ルームは 16 階北病棟 Dr 実習室です

予定表の余白に、各実習担当教員の印/サインをもらってください。総括時に確認します。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
第 1 週	AM	<p>10:00～ オリエンテーション 担当患者紹介</p> <p>場所：16N 実習室 担当：西江：3483</p> <p>.....</p> <p>10:30～ 肝膵臓内科総回診・ 症例ディスカッション</p> <p>場所：16N 実習室 担当：林：3236</p>	<p>9:00～ 肝生検・肝治療の実際 (治 療がない場合はレクチャー)</p> <p>場所：5F 手術室 担当：松浦：4782</p>	<p>9:00～ 胆 膵 疾 患 症例ディスカッション</p> <p>場所：16N 実習室 担当：吉田：4745</p> <p>.....</p> <p>終了後～ 外来実習</p> <p>場所：内科外来 担当：</p> <p>4 診：谷田/内藤 5 診：藤原 6 診：林 7 診：久保田 11 診：志村</p>	<p>9:00～ 胆膵内視鏡検査 ・治療の実際</p> <p>場所：内視鏡室 7 番 担当：夏目：3241</p>	<p>9:00～ 肝生検・肝治療の実際</p> <p>場所：5F 手術室 担当：藤原：3235</p> <p>.....</p> <p>10:30～ 西部医療センターにお ける消化器診療の実際</p> <p>場所：研究棟 3F 医局 担当：西部妹尾教授</p>
	PM	<p>13:00～ 腹部 US 実習</p> <p>場所：シュミレーションセ ンター 担当：夏目：3241</p> <p>.....</p> <p>14:00～ 消化器の腹部診察</p> <p>場所：シュミレーションセ ンター 担当：加藤：4142</p>	<p>13:30～ 肝疾患患者の回診、 症例ディスカッション</p> <p>場所：16N 実習室 担当：藤原：3235</p> <p>.....</p> <p>15:00～ 胆膵内視鏡検査 ・治療の実際</p> <p>場所：内視鏡室 7 番 担当：林：3236</p>	<p>13:30～ 担当患者回診・症例要約</p> <p>場所：指定なし 担当：各自</p>	<p>13:30～ 胆膵内視鏡検査 ・治療の実際</p> <p>場所：内視鏡室 7 番 担当：堀：3233</p> <p>.....</p> <p>15:00～ 臨床推論：肝胆膵</p> <p>場所：16N 実習室 担当：松浦：4782</p>	<p>13:30～ 胆膵疾患の診断と 内視鏡検査・治療 シュミレーション</p> <p>場所：16N 実習室 担当：内藤：3331</p>
第 2 週	AM	<p>9:30～ 外来実習</p> <p>場所：内科外来 担当：</p> <p>16 診：片岡 5 診：堀 6 診：野尻 7 診：谷田</p>	<p>9:00～ 内視鏡モデル使用実習</p> <p>場所：シミュレーションセ ンター 担当：志村：3292</p>	<p>9:00～ 消化器疾患治療</p> <p>場所：研究棟 3F 医局 担当：西江：3483</p>	<p>9:00～ 胃透視・注腸</p> <p>場所：2 階中放 X線 TV 2 担当：検査担当医</p> <p>.....</p> <p>10:00～ 消化器診察検査手技の シュミレーション</p> <p>場所：16N 実習室 担当：久保田：3186</p>	<p>9:00～ 内視鏡実習 (内視鏡 検査・治療の実際) 内視鏡室</p> <p>場所：2 階内視鏡室 担当：検査担当医</p>
	PM	<p>14:00～ 消化器内科症例 ディスカ ッション</p> <p>場所：16N 実習室 担当：片岡教授：3362</p>	<p>15:00～ 炎症性腸疾患、検査・治 療の実際</p> <p>場所：16N 実習室 担当：谷田：3479</p>	<p>15:00～ 下部消化管内視鏡診断・ 治療シュミレーション 16N 実習室</p> <p>場所：16N 実習室 担当：田中：3294</p>	<p>13:30～ 内視鏡実習 (内視鏡 治療の実際) 内視鏡室</p> <p>場所：2 階内視鏡室 担当：検査担当医</p>	<p>13:30～ 担当患者 プレゼンテーション・ ディスカッション</p> <p>場所：研究棟 3F 医局 担当：内藤：3331</p>

消化器内科，肝・膵臓内科 学外病院情報

1.消化器内科、肝・膵臓内科学外実習病院の基本情報

- 1) 病院名、診療科名
- 2) 病院長
- 3) 受け入れ学生人数
- 4) 病院の特徴
- 5) 実習方法の方針

1) 名古屋市立西部医療センター 消化器内科

- 2) 院長：桑原義之、学外実習責任者（院長代行）：妹尾恭司
- 3) 2名
- 4) 消化器，代謝・内分泌、呼吸器，循環器，リウマチ・膠原病、血液・腫瘍、神経、腎臓、総合内科とあらゆる内科疾患の実習が可能。大学との連絡も密であり，救急を含む幅広い症例が経験できる。腫瘍疾患の症例が豊富。
- 5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。

1) 名古屋市立東部医療センター

- 2) 院長：村上信五、学外実習責任者：（消化器内科部長）伊藤恵介
- 3) 1名
- 4) 循環器、消化器、呼吸器、神経、内分泌、腎臓内科の実習が可能。急性期および慢性期ともに一通りに疾患を経験できる。特に救急医療に力点を置いているので豊富で幅広い救急疾患を経験できる。
- 5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。

1) 豊川市民病院

- 2) 院長：松本隆、学外実習責任者：（副院長）佐野仁
- 3) 1名
- 4) 消化器，呼吸器，循環器，血液・膠原病，神経内科の実習を中心とした幅広い実習が可能。臨床研修指定病院として研修プログラムに準じて実習する。急性期から慢性期までの豊富な症例を学ぶことができる。
- 5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。実習時の宿泊は可能です。

1) 蒲郡市民病院

- 2) 院長：中村誠、学外実習責任者：（副院長）安藤朝章
- 3) 1名
- 4) 消化器，循環器疾患の実習が可能。急性期，慢性期ともに豊富であり，一通りに疾患を経験できる。
- 5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。実習時の宿泊は可能です。

1) 春日井市民病院

- 2) 院長：成瀬友彦，学外実習指導責任者：（副院長）祖父江聡
- 3) 1名
- 4) 消化器の実習が可能。消化管，肝，胆道膵臓疾患など豊富な症例が経験できます。

5) 消化器：予診，診察の習得と検査所見，画像所見の読解力の習得.

1) 岐阜県立多治見病院

2) 院長：近藤泰三，学外実習責任者：(消化器内科部長)：奥村文浩

3) 1名

4) 病院の特徴岐阜県東濃地区の基幹病院で救命救急センターを有する三次医療機関です。一般病床 510 床のほか、結核病棟、精神科病棟、緩和ケア病棟も有し、急性期疾患から慢性期疾患まで偏りのない幅広い実地医療を経験できる。

5) 実習方法の方針

指導医とともに救急外来の対応や入院診療にあたってください。可能な医療行為については実践・協力していただきます。指導医とのディスカッションを積極的に行っていただきます。宿泊可能です。

1) 中京病院

2) 院長：後藤百万、学外実習指導責任者：(消化器科部長)長谷川泉

3) 1名

4) 消化器の実習が可能。名古屋市南部にある 683 床の急性期総合病院。

5) 検査の見学(上部消化器内視鏡，大腸内視鏡，腹部エコー，腹部血管造影)。救急部の見学も可能。

1) 名古屋記念病院

2) 院長：長谷川真司、学外実習責任者：(消化器内科部長)戸川昭三

3) 1名

4) 消化器・血液・膠原病，呼吸器内科の実習が可能

5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。

1) 名古屋第二赤十字病院

2) 院長：佐藤公治、学外実習責任者：(第二消化器内科部長)林克巳

3) 1名

4) 一般外来患者、救急患者とともに非常に多く、消化器内科疾患をすべて網羅的に実習できる。スタッフも消化器内科医がレジデントも含めて 16 名おり、指導教育体制も整っている。また研修医が多数(各学年 20 名づつ)いるので、身近な研修情報も聞ける。

5) 胃カメラ、大腸内視鏡検査、内視鏡的膵胆管造影検査、血管造影検査などを中心に見学胃カメラについてはゴムのモデルでの練習も行ってもらおう。病棟回診、検討会に参加。希望すれば夜間や祝日の救急外来の見学も可。

1) 旭労災病院

2) 院長：宇佐美郁治，学外実習指導責任者(消化器科主任部長)：小笹貴士

3) 1名

4) 消化器，呼吸器，糖尿病代謝，循環器の実習が可能。中規模総合病院。

5) 指導医とともに実際の臨床の場をみていただき，可能な医療行為については体験していただく方針。救急外来患者の実習や救急当直の体験も可能です。

2. 学外実習項目

学習できた項目に学生、担当医が○を記載する

A 医師として求められる基本的な資質・能力

- A-1 プロフェッショナリズム
- A-2 医学知識と問題対応能力
- A-3 診療技能と患者ケア
- A-4 コミュニケーション能力
- A-5 チーム医療の実践
- A-6 医療の質と安全の管理
- A-7 社会における医療の実践
- A-8 科学的探究
- A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

自己評価 担当医評価

_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____

D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療

- D-7 消化器系

自己評価 担当医評価

_____	_____
-------	-------

E 全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療

- E-3 腫瘍

自己評価 担当医評価

_____	_____
-------	-------

F 診療の基本医師として求められる基本的な資質・能力

F-1 症候・病態からのアプローチ、臨床推論

- F-1-3) 食欲不振
- F-1-4) 体重減少・体重増加
- F-1-20) 腹痛
- F-1-21) 悪心・嘔吐
- F-1-22) 吐血・下血
- F-1-23) 便秘・下痢
- F-1-24) 黄疸
- F-1-25) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘍

自己評価 担当医評価

_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____

F-2 基本的診療知識

- F-2-3) 臨床検査
- F-2-4) 病理診断
- F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療
- F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療
- F-2-7) 超音波を用いる診断と治療
- F-2-16) 緩和ケア

自己評価 担当医評価

_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____

F-3 基本的診療技能

- F-3-2) 医療面接
- F-3-3) 診療録（カルテ）
- F-3-4) 臨床判断
- F-3-5) 身体診察
- F-3-5(5) 腹部

自己評価 担当医評価

_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____

開講年度	2021年度
科目名	臨床実習コース・消化器外科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	瀧口修司教授、松尾洋一教授、高橋広城准教授、小川了講師、森本守講師、田中達也助教、坪井謙助教、佐川弘之助教、志賀一慶助教、廣川高久助教、齊藤健太助教、前田祐三助教、大久保友貴助教、今藤裕之病院助教、柳田剛助教
講義期間・曜日・時限	M4-M5 BSL

授業目的	(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 (消化器外科) ・消化器疾患に対して正しい診断・手術適応の有無・手術方法・周術期管理について正しく理解することを目的とする。 ・学外実習を行うことで、市中病院における外科医の役割を理解し、common diseaseに対する外科的治療法を理解する。
キーワード	消化管の悪性疾患に対する外科治療、肝胆膵領域の悪性疾患に対する外科治療、急性腹症、低侵襲手術
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、II b
学習到達目標	①BSL終了時にできるようになってほしい行動 (知識) ・診断、治療計画立案、周術期管理に参画し、臨床医としての修練を積み能力を高める。 (態度) ・手術に臨む患者、家族の心情を理解する。 ・診療を通じ他診療科との連携を学び、チーム医療の重要性を理解する。 (技能) ・無菌操作・手洗い・ガウンテクニック・縫合・抜糸など基本的な外科手技を習得する。 ②該当するモデルコアカリ D-7、E-3、F-1-3、F-1-4、F-1-20、F-1-22、F-1-25、F-1-37、F-2-6、F-2-11、F-3-6-3 ③ <必ず学ぶべき症候> 食不振・体重減少(増加)・腹痛・腹部膨隆・腫瘍・外傷 <必ず学ぶべき手技> 皮膚消毒・手術室における外科基本テクニック(無菌操作・手洗い・ガウンテクニック・縫合・抜糸・ガーゼ交換・手術補助)
成績評価基準	秀: 90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優: 80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良: 70点以上(学修到達目標を達成している) 可: 60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	・外実習: 外来患者の予診のとり方、カルテ記載法を習得し、診断・治療方針について理解する。 ・病棟・手術実習: 病棟において入院患者を供覧し診察方法、診断決定の根拠、検査、治療、あるいはそれに関連する疾患について実地に指導を行う。 ・上部消化管、下部消化管、肝胆膵、内視鏡外科についての指導を行う。
授業計画	【学内】 1. 外来、病棟、手術実習(2週間) 2. 講義: 上部/下部消化管、肝胆膵、内視鏡外科、外科栄養・感染領域の講義および総括 瀧口修司教授、松尾洋一准教授、高橋広城准教授、小川了講師、森本守助教、田中達也助教、坪井謙助教、佐川弘之助教、志賀一慶助教、廣川高久助教、齊藤健太助教、前田祐三病院助教、大久保友貴病院助教、今藤裕之病院助教、柳田剛助教 【学外】 <Aグループ病院で1週間、Bグループ病院の中から2つの病院で1週間の実習を行う> Aグループ病院: 刈谷豊田総合病院、西部医療センター、東部医療センター、豊川市民病院、トヨタ記念病院 Bグループ病院: 稲沢厚生病院、蒲郡市民病院、知多厚生病院、名古屋共立病院、名古屋徳洲会病院、成田記念病院
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	
成績判定基準	実習態度・レポート内容を総合的に判断し成績を判定します。
テキスト及び参考文献	教科書一般、医局図書室の本も参考にしてください。
BSLにかかる諸注意	基本的医師としての心構え ・医師としての心構えを理解し、節度ある身なり態度がとれる。 ・指導医に対し真摯な態度を守ること。 ・患者・家族との適切な接遇の重要性を理解する。 ・医療スタッフと協調・協力が円滑にできる。 ・患者および患者家族に学生医師であることを明示すると共に、信頼されるよう誠意を持って接すること。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。担当患者においては手術に手洗いをし参加し、基本的な解剖・手術器具の使用法や起こりうる問題点について理解をする。
オフィスアワー・連絡先	対応時間(平日 8:00-18:00) 消化器外科医局(内線8226) 病棟医長: 廣川高久助教(E-mail: takhiro@med.nagoya-cu.ac.jp)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	1ターム(2週間)の期間に1人の患者を担当し、受け持ち患者についてのreport(パワーポイント)を作成していただきます。タームの最後に診療科部長による総括を行います。 授業時間外の学習: M4の講義を復習しておいてください 【注意点】 1. 時間厳守 朝ならびに各講義などの集合時間を守ること。 2. 服装 長袖白衣の時にはネクタイ着用、または半袖の白衣、Gパン不可。名札を必ず身につける。 髪型、靴(スリッパなどつかける形のもの不可、女性はヒール不可) 3. 病棟での携帯電話厳禁 白衣を着ている以上、患者さんは医師だと思っています。 学生気分を捨てること。 4. 患者のプライバシーの保護 カンファレンス用紙など患者のプライバシーの書かれているものをなくさないこと。 5. M6の学生も実習しています。M6の学生にも質問してともに学んでください。 6. 予定が変更になることがあります。

消化器外科BSL予定表 (1)

	月	火	水	木	金
第1週	8:00 16南実習室 全体オリエンテーション・ 廣川 9:00～12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:00～9:00 10階第4会議室 消化器外科症例検討会 8:30～12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:30～12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:00～9:00 10階第4会議室 消化器外科症例検討会 8:30～11:00手術・担当医 11:00～12:00医局 外科と医療安全・桑原/木村	8:30～12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医
	13:00～17:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	12:30～ 医局 説明会 13:30～14:30 医局 下部消化管講義・ 高橋/前田	13:00～15:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医 15:00～16:30 16南エレベーターホール NST回診/講義・ 小川	13:30～15:00 外科外来 肝胆膵外科講義・ 坪井/今藤 16:00～17:00 16南 腫瘍・上部消化管講義・ 田中/大久保	15:00～16:30 レポート作成
第2週	8:30～12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:00～9:00 10階第4会議室 消化器外科症例検討会 8:30～15:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:30～12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:00～9:00 10階第4会議室 消化器外科症例検討会 8:30～12:00 手術・担当医	8:30～12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医
	13:00～17:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医 病棟回診・担当医	12:30～ 医局 説明会 14:00～15:30 16南 内視鏡手術実習・ 志賀	13:00～17:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	13:00～14:00 外科医局 上部G総括・ 小川 14:00～15:30 外科外来 肝胆膵外科講義+総括・ 松尾	15:00～16:00 消化器外科医局 消化器外科総括・ 瀧口 16:00～17:00 消化器外科医局 大腸G総括・ 高橋
第3週	学外病院(学内での、初日オリエンテーション・最終日総括はありません。終日学外です。)				
第4週	学外病院(学内での、初日オリエンテーション・最終日総括はありません。終日学外です。)				

消化器外科BSL予定表 (2)

	月	火	水	木	金
第1週	学外病院(学内での初日オリエンテーション、最終日総括はありません。終日学外です。)				
第2週	学外病院(学内での初日オリエンテーション、最終日総括はありません。終日学外です。)				
第3週	8:00 16南実習室 全体オリエンテーション・廣川	8:00~9:00 10階第4会議室 消化器外科症例検討会	8:30~12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:00~9:00 10階第4会議室 消化器外科症例検討会	8:30~12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医
	午前 9:00~12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:30~12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:30~11:00手術・担当医 11:00~12:00医局 外科と医療安全・桑原/木村		
	午後 13:00~17:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医 14:30~15:30 糸結び実習・柳田	12:30~ 医局 説明会 13:30~14:30 医局 下部消化管講義 高橋/前田	13:00~15:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医 15:00~16:30 16南エシベーターホール NST回診 講義・小川	13:30~15:00 外科外来 肝胆膵外科講義・坪井/今藤 16:00~17:00 16南 腫瘍・上部消化管講義・田中/大久保	15:00~16:30 レポート作成
第4週	8:30~12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:00~9:00 10階第4会議室 消化器外科症例検討会	8:30~12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:00~9:00 10階第4会議室 消化器外科症例検討会	8:30~12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医
	午前 9:00~12:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:30~15:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	8:30~12:00 手術・担当医	8:30~12:00 手術・担当医	
	午後 13:00~17:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医 病棟回診・担当医	12:30~ 医局 説明会 14:00~15:30 16南 内視鏡手術実習・志賀	13:00~17:00 中央手術部 消化器外科手術・担当医	13:00~14:00 外科医局 上部G総括・小川 14:00~15:30 外科外来 肝胆膵外科講義+総括・松尾	15:00~16:00 消化器外科医局 消化器外科総括・溝口 16:00~17:00 消化器外科医局 大腸G総括・高橋

消化器外科 学外臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

診断、治療計画立案、患者および家族への説明、手術、周術期患者管理に参画し、臨床医としての修練を積み、臨床医としての能力を高める。

基本的臨床実習のガイドライン

実習内容は、診断、治療計画立案、患者および家族への説明、手術、周術期患者管理、救急患者への対応に参画する。いわゆるクリニカルクラークシップである。4週間のうち、2週間は大学で、残りの2週間を学外実習とする。

基本的医師としての心構え

- ・ 医師としての心構えを理解し、節度ある身なり態度がとれる。
- ・ 指導医に対し真摯な態度を守ること。
- ・ 患者・家族との適切な接遇の重要性を理解する。
- ・ 医療スタッフと協調・協力が円滑にできる。
- ・ 患者および患者家族に学生医師であることを明示すると共に、信頼されるよう誠意を持って接すること。

学外臨床実習について

交通手段、実習中の事故、学生の健康診断書、既往歴、HBワクチン接種状況、その他の注意事項は名古屋市立大学医学部から示される学外実習実施要項に従う。

診断、治療計画立案、患者および家族への説明、手術、周術期患者管理に参画し、臨床医としての修練を積む点においては学内実習と同様である。学外実習では、大学病院で経験することが少ない一般外科疾患(虫垂炎、ヘルニア、外傷等)や、救急疾患を入院、病歴聴取に始まり、手術、退院まで継続して診ることにより、医療の最前線での医師と患者および患者家族とのコミュニケーションのとりかたの重要性を学ぶ。

学外臨床実習内容

1) 外来実習

- ・ 指導医の監視のもと、問診、理学的診断、処置等を行う。

2) 病棟実習

- ・ 指導医と共に診断、病状の把握、患者の状態の評価、手術適応の検討、手術術式の決定、術後状態の予測、患者および患者家族への説明を行う。
- ・ 指導医と共に周術期の患者管理を行う。

3) 検査・手術

- ・ 指導医と共に検査を行い、検査で得られる情報や検査の必要性と共に、検査による侵襲を理解する。
- ・ 指導医と共に手洗いして手術に参加し、局所解剖、手術術式を理解する。

指導内容

1) 実習の目的

- ・手術を受ける患者・家族の不安、苦悩など心理を理解する。
- ・手術症例の診断、術前管理、手術、術後管理の過程を体験する。
- ・医療従事者の役割分担、協力関係、病院の成り立ちと機能を理解する。
- ・卒後研修に円滑に移行しうる臨床の態度、知識、技能を身につける。

2) 基本的診察法

- ・外来診察に参加し、予診、シュライバー、カルテ記載を行う。適切かつ良好なコミュニケーションで患者面接を行い、病歴を聴取し記述する。あいさつ、自己紹介、適切な姿勢・態度、適切な会話法、共通の言葉、要約する能力、心理・社会的側面の情報収集などの重要性を理解する。
- ・患者さんが病状をどのように捉え、どのようなことを心配し、どのような診療を希望しているかを把握できる。すなわち、共感的態度、信頼できる態度、患者が十分に話したと思えるインタビュー、内容をまとめ記述する能力を学習する。
- ・多くの診察に参加し各種診察法とその結果所見を理解する。
- ・バイタルサインを測定し記述する。
- ・指導医の監視のもと実際に診察し、全身身体所見を的確に把握し記述する。
- ・学生のカルテ記載については必ず学生は署名し、担当医師がそれを訂正追加し署名する。

3) 一般的検査

学生の参加は担当指導医の下で患者の了解を得た上で行う。以下の検査内容と程度については見学するだけでなく、できるだけ体験する。

- ・検尿、検便、血液型、出血・凝固時間検査を指導医と実施する。
- ・血液一般、生化学、凝固系、血液ガス、心機能、肺機能、腎機能など一般的術前検査の実際と結果の理解。
- ・胸部・腹部検査：読影に参加し結果を理解し記述する。
- ・腹部エコー：検査に参加し結果を理解し記述する。
- ・上部消化管検査：胃・十二指腸造影、胃ファイバーに参加し結果を理解し記述する。
- ・下部消化管検査：注腸造影、大腸ファイバーに参加し結果を理解し記述する。
- ・肛門鏡検査、直腸鏡検査：検査に参加し結果を理解し記述する。
- ・CT、MRI、DIC、ERCP などの各種画像診断の読影に参加し結果を把握し記述する。

4) 病棟管理

学生は副主治医として患者を受け持つ。検査計画や治療計画の作成には主治医との討論や診療科でのカンファランスなどを通じて積極的に参加する。検査への学生の参加は担当医指導の下で患者の了解を得た上で行う。学外の各診療科の実情をふまえて学生が参加可能な検査内容と程度は一般的検査に準ずる。採血は指導者の下で患者の了解を得た上で行う。注射、点滴については採血が上達した段階で可能な施設で担当医指導の下で患者の了解を得た上で行う。

- ・一般的術前検査の結果を把握し記述する。
- ・術前状態の問題点を理解し記述する。
- ・症例を提示する。

- ・輸液の実際：処方の内容を理解し、実施する。
- ・中心静脈栄養法を理解し、実施に参加する。
- ・経腸栄養を理解し、実施に参加する。
- ・抗生剤、鎮痛剤の適応と処方の内容を理解する。
- ・術後合併症を理解し、対処法を把握し記述する。
- ・一般的術後管理にできるだけ参加する。
- ・高度な呼吸、循環、代謝管理を見学し理解する。

5) 手術

見学のみでの参加ではなく、鉤引き程度（手洗い、糸切り、糸結びを含む）の参加を基本とし、可能ならば更に高度の内容を実習する。

- ・滅菌、消毒の留意点を習熟し実施する。
- ・清潔、不潔の概念を完全に理解し、術野の準備に参加する。
- ・局所麻酔、脊椎麻酔、全身麻酔については方法を理解し、指導医の監督下で介助し記録する。
- ・切開、排膿については指導医の監督下で介助する。
- ・軽度の外傷処置は指導医の監督下で実施する。
- ・簡単な皮膚縫合は指導医の監督下で介助または実施する。
- ・手術にはできるだけ参加し、その内容を理解し、要点を記述する。
- ・切除標本の記録・整理に参加する。
- ・病理所見を理解する。

学外臨床実習病院の基本情報

- 1) 名古屋市立東部医療センター
- 2) 院長：村上信五、学外実習指導責任者（第二消化器外科部長）：木村昌弘
- 3) 受入れ学生人数は1～2名
- 4) 当院は名古屋市立病院中の最大規模の病院で、外科については常勤医9名、専攻医1名で、消化器、呼吸器、乳腺内分泌などの疾患を扱っている。症例数は年間約500件の全身麻酔手術を行っており、一般的外科疾患の十分な研修が可能である。

- 1) 名古屋市立西部医療センター
- 2) 院長：桑原義之、学外実習指導責任者（院長）：桑原義之
- 3) 受入れ学生人数は1～2名
- 4) 2011年4月に開院した新しい病院。名古屋城のほぼ真北に位置し、地下鉄駅（名城線：黒川駅または鶴舞線：庄内通駅）から徒歩15分程の所にある。屋上のヘリポートと屋上庭園が特徴的な地上8階建ての建物で、北側に陽子線治療施設が併設されている。病床数は500床で、31診療科の診療科とICU、NICU、GCUなどの中央部門が整備されている。ほとんどの診療科は名古屋市立大学から派遣されており、大学で学生教育に携わった職員も多数在籍しており、学生教育にも熱心。
病院の特徴は小児周産期医療とがん医療にある。特にがん医療に関しては、地域がん拠点病院の認定を受けており、診療科、部門をまたいだチーム医療を重視し、消化器腫瘍センター、呼吸器腫瘍センターを中心に、手術療法、内視鏡的治療、放射線療法、陽子線、化学療法などの最先端技術を駆使した医療を提供している。外科メンバーは常勤12名、後期研修医2名で、一般外科から、消化器外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、小児外科まであらゆる外科手術に取り組んでいる。忙しいが雰囲気良く、多彩な症例を経験でき、実習に適したセンター病院である。

- 1) 豊川市民病院
- 2) 院長：西田 勉、学外実習指導責任者：寺西 太
- 3) 受入れ学生人数は同時期に2名まで
- 4) 東名高速道路の豊川、音羽両インターより約10分の東三河中央部に位置し、豊川市、東三河北部までの約25万人を医療圏としている。一般、消化器、呼吸器、乳腺内分泌、小児の領域を診ており、年間手術件数は約1100例。東名高速と1号線に挟まれているため事故などの救急症例も頻繁に搬送される。多彩な症例が経験でき、臨床実習に適した病院。2013年5月には、新病院（101床増床）が開院した。新病院になり、入院患者、手術症例が増加している。救急部門も充実し、救急車の受け入れ実績は、約6200台で、救急患者お断りゼロを目指している。
- 5) 指導医の受け持ち患者を中心にできるだけ多くの手術に入ってもらおう。その他、症例検討会、他科との合同カンファランスへの参加、救急患者の対応も指導医と共に行ってもらおう。

- 1) 蒲郡市民病院
- 2) 院長：河邊義和、学外実習指導責任者（副院長・外科部長・手術部長）：中村善則
- 3) 受入れ学生人数は、同時に1～2名
- 4) 消化器外科症例が中心で、年間400件前後の手術がある。腹腔鏡を中心とした、癌の定期手術から虫垂炎、穿孔性腹膜炎などの緊急手術など、様々な疾患に対応して手術を行っている。JR蒲郡駅（金山より35分）より近く、学生実習、初期・後期研修医の受け入れ実績も多くある。内科も名古屋市立大学出身の医師が大半で、合同のカンファレンスも積極的に行っており、様々な症例を経験できる。特に救急外来は、上級医師が常に待機しており、遠慮なく相談できる体制で充実した研修を受けられる。各種のセミナー、院内研修会、講演会にも参加でき、専門的な知識の習得もできる。海の幸も新鮮で食生活も充実している。
- 5) 指導医の受け持ち患者を中心にできるだけ多くの手術に入ってもらおう。その他、症例検討会、他科との合同カンファランスへの参加も指導医と共に行ってもらおう。希望があれば、救急外来も実習できる。実習期間中の駐車場・宿泊は完備している。

- 1) 刈谷豊田総合病院
- 2) 院長：井本正巳、学外実習指導責任者：小林建司
- 3) 1～2名
- 4) 外科は消化器・一般（上部消化管外科、肝胆膵外科、下部消化管・一般外科、小児外科）、呼吸器、乳腺・内分泌、心臓血管外科に分かれ、それぞれに専門医がいる。2016年8月から腹腔鏡ヘルニアセンターを開設した。
心臓・血管外科は循環器内科とともに循環器センターに所属している。手術件数は鏡視下手術をはじめとして外来手術を含めて年間 2200 例を超える。定期手術は月曜から金曜まで、第一第三土曜日にも行っている。急性腹症を主とした緊急手術も多い。
回診は主治医、担当医回診のほか、月に副院長総回診、火木に部長処置回診を行い患者さんの状態把握に努めている。モーニングカンファレンスは7時50分から8時20分(曜日により異なる)から始まり、前日施行の手術のビデオ報告を行っている。週1回の抄読会、放射線科、消化器内科との症例検討会を行っている。
当院は放射線科、麻酔科が充実しているのも強みである。また、外科すべての分野に専門スタッフがそろっており、外科専門医を取得できる環境にある。

- 1) トヨタ記念病院
- 2) 院長：岩瀬三紀、学外実習指導責任者（副院長）：篠田憲幸
- 3) 受入れ学生人数は1～2名
- 4) 年間1000件前後の豊富で、かつ市中病院の特色である、癌の定期手術から虫垂炎、穿孔性腹膜炎などの緊急手術など、バラエティーに富んだ手術を行っている。救急救命センターを併設しており、交通外傷などの緊急手術も間近に見られるかもしれない。各疾患については、消化器外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科の学会認定指導医・専門医が指導に当たる。また、

クリニカルパス作成・利用や、臨床指標による評価などを行っているので、これらが体験出来る。その他、研修医教育が充実(モーニングセミナーを水・金、朝食付きで開催など)しており、若い研修医も多く、いろいろな話を聞けるチャンスがある。各種のセミナー、院内研修会、講演会にも参加し、今後の進路を考える上で役立ててほしい。

- 1) 知多厚生病院 消化器・一般外科
- 2) 院長：宮本忠壽、学外実習指導責任者（第一診療部長・外科代表部長）：村元雅之
- 3) 同時に2名まで
- 4) 知多半島南部に位置し、篠島、日間賀島も診療圏に入れる地区の中核病院である。消化器を中心に手術を行っており、内視鏡下の手術、血管手術にも力を入れている。さらに栄養サポートチームや緩和ケアチームなどのチーム医療にも中心となって関わっている。また、人口に対する高齢者の比率が高く、病診連携を充実した在宅医療の普及にも積極的に取り組んでいるので、外科一般のみならず地区に密着した外科系医療を学んでいただきたい。

- 1) 稲沢厚生病院 消化器・一般外科
- 2) 院長：伊藤浩一、学外実習指導責任者：伊藤浩一
- 3) 同時に2名
- 4) 稲沢市西部に位置する愛知厚生連の病院である。消化器外科を中心に一般外科の手術を行っている。当院は各科全て名市大の医局関連であり、2~3名/年の初期臨床研修医も名市大出身者が主である。特徴としては、救急を含めた急性期の患者から療養型の慢性期の患者、さらに精神疾患を有する患者の外科治療を行っている点である。地域医療の中核をなす病院であるため、綿密な病診連携のもと在宅医療の普及にも取り組んでいる。地域に密着した医療が経験できる。

- 1) 名古屋徳洲会総合病院
- 2) 院長：前田 徹、学外実習指導責任者（副院長・呼吸器外科部長）：可児久典
- 3) 受入れ学生人数は1-2名
- 4) 当院での実習コンセプトは「積極性を重んじる」である。やる気のある学生さんには、どんどん手術に参加していただく。定期手術は、土日曜以外は毎日ある。この他、救急からの緊急手術もある。毎月40~50例ほどの手術を行っている。また手術以外に、外科系救急、各種検査（消化器内視鏡、気管支鏡など）も外科医師が担当している。従って、術前診断から治療計画の立案、患者や家族への説明など、総合的な実習を提供することが可能。加えて緩和ケア外科では、進行がん診療の柱でもある緩和ケアを学ぶことができる。現在、名市大たすきがけを含めて、多くの研修医が頑張っており研修をしている。

- 1) 名古屋共立病院
- 2) 院長：堀 浩、学外実習指導責任者（外科部長）：塩崎みどり
- 3) 受入れ学生人数は1名
- 4) 多くの血液透析クリニックを有する偕行会グループの基幹病院。透析合併症対策に力を入れるのはもちろん、地域の専門特化した高機能病院を目指しており、がんの診断・治療にも力を注いでいる。がん診療においては、PET-CT・内視鏡など最新の機器・技術で早期発見、早期診断を行う。治療が必要な場合は、外科手術、内科的手術（内視鏡処置）、定位放射線治療（ガンマナイフ・ノバルリス）、化学療法と総合的な治療を行っている。消化器外科は現在2名で診療を行っており、ともに出身大学は名古屋市立大学。症例の全体数は他の施設に比し少なくなるが、スタッフが多くないため、一人あたりの執刀手術症例は多くなっている。大病院ではないため、時期によって手術件数のばらつきがある。手術症例が多い週もあり、少ない週もある。比較的若い年代で構成された消化器外科ではあるが、コメディカルスタッフも巻き込んで、活気あるチーム医療を目指している。

- 1) 成田記念病院
- 2) 院長：成田 真、学外実習指導責任者（副院長・外科部長）：沢井博純
- 3) 受入れ学生人数は1-2名
- 4) 当院外科では消化器、呼吸器、乳腺外科を中心に診療を行っており、消化器外科では腹腔鏡を駆使し、安全かつ迅速な手術治療を行っている。消化器癌に対して積極的に腹腔鏡下手術を導入し、上部消化管では早期胃癌、局所切除の適応となる粘膜下腫瘍を中心に腹腔鏡下胃切除術を、結腸・直腸癌に対しては進行癌まで含めて約8割以上の症例に腹腔鏡下手術を行っている。また、当院消化器内科の充実で消化管悪性腫瘍のみならず、肝胆膵悪性疾患に対する手術数も増加しており、名古屋市立大学病院消化器外科と連携し、適応となる膵腫瘍に対して腹腔鏡下膵体尾部切除術を導入している。
術前・術後化学療法については、外来に設置されている化学療法室で安全に行われており、症例によっては当院の高精度放射線治療センターと連携し、適切な術前後放射線治療を行っている。さらに平成30年には、東海三県で2施設目となる成田記念陽子線センターが開院し、外科での手術治療に加えてさらに充実した集学的治療が可能となっている。実際に腹腔鏡・開腹手術への参加や、術前後化学放射線療法の実際についての学習が可能。

【実習評価】

学生は、実習内容をレポートとして提出すると共にし、指導医から臨床実習内容について評価を受ける。

開講年度	2021年度
科目名	臨床実習コース・呼吸器内科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	新実彰男、伊藤 穰、前野 健、大久保仁嗣、田尻智子、上村剛大、福田悟史、福光研介、武田典久、小栗鉄也、高桑 修、竹村昌也
講義期間・曜日・時限	2週間

授業目的・目標	(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 (呼吸器内科)呼吸器疾患の鑑別に必要な検査項目を列挙でき、それらを適切に評価した上で、確定診断へのプロセスを学び、治療プランを提示できること。
キーワード	肺癌、閉塞性肺疾患、呼吸器感染症、肺機能検査/気管支鏡検査、case based learningなど
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰa.b.、領域Ⅱa.b.d.、領域Ⅲa.b.、領域Ⅳa.b.d. を習得することを最低限の目標とする。
学習到達目標	1. 患者とのコミュニケーションを通じ、病歴聴取や身体診察(特に胸部領域)が実施できる。 2. 呼吸器疾患の診断のために必要な検査や考え方を説明できる。 3. 呼吸器疾患の治療や予想される有害事象を説明できる。 4. 1.～3. を診療録に正確に記載できる。 5. 担当症例を簡潔にわかりやすくプレゼンテーションできる。 6. 担当症例のレポートを作成できる。 【該当するモデルコアカリ】 <必ず学ぶべき項目>F-3-1)問題志向型システムと臨床診断推論、F-3-2)医療面接、F-3-3)診療録(カルテ)、F-3-4)臨床判断、F-3-5)身体診察、G-2-13)咳・痰、G-2-14)血痰・咯血、G-2-15)呼吸困難、G-2-16)胸痛、G-2-18)胸水 <必ず学ぶべき手技>経皮的酸素飽和度測定
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルであり、医師と同等のレベルである 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している 不可：学習到達目標を達成していない、または実習態度が不良である
授業概要	講義、外来・検査見学、病棟実習、カンファレンスでのプレゼンテーションなど
授業計画	別紙のスケジュール表に従い、実習を行う。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	・講義や検査/外来見学の開始時間に関わらず、8時半には来棟し、夜間の担当患者の状態を把握すること。 ・続いて、講義や検査/外来見学に出席し、なおかつ、積極的に参加すること。 ・講義や見学が終了した後は、診療録の記載や、指導医とdiscussionを行うこと。 ・空き時間を利用して担当症例のレポート作成や、case based learningの準備を行うこと。 ・帰宅前に担当患者の病室を訪ね、容態に変わりがないことを確認してから帰宅すること。 ・実習終了後は明日の講義や検査の予習を行うと共に、清書などを用いて、本日の実習内容の復習を行うこと。
成績評価方法	学習到達目標を達成していることを担当教員が評価する。 それに加えて、以下の項目を評価基準の参考とする。 ・積極的に実習に参加していること。 ・欠席や遅刻をしないこと。 ・講義やカンファレンスでの態度(居眠りをしていないかなど)。 ・身だしなみや言葉使いが適切であること。
教科書・テキスト	内科学清書(朝倉内科学、ハリソン内科学など)、各疾患のガイドラインなど
参考文献	BSLまでに行われた授業プリント
履修上の注意事項	講義や検査では予習・復習を行うこと。
履修者への要望事項	BSLまでに行われた授業プリントを見直しておくこと。 一医療人であるstudent doctorとしての自覚をもって、実習に臨むこと。
アクティブ・ラーニング	Case based learningが当科のactive learningに当たると考える。 Case based learningでは、与えられた症例を実習期間の1週目に担当教官と話し合い、情報収集を行う。2週目以降は得られた情報を班員で共有し、power pointでスライドを作成し、考察を含めてプレゼンテーションする。
連絡先・オフィスアワー	呼吸器・免疫アレルギー内科学医局 052-853-8216 (AM9時-PM5時)、福光研介、k-fkmt@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。疾患だけを学ぶのではなく、医師がどのようなことを考えながら診療に従事しているかを実習で学ぶこと。
備考	発熱や体調不良のため欠席する場合は欠席する旨を医局または教育研究課に電話すること。 ※新型コロナウイルス感染症の蔓延が治まるまでは診断書は不要とする。
関連URL	http://ncu-intern2.jp/

呼吸器内科BSL週間予定表

月 火 水 木 金

1週目	午前	<p>オリエンテーション 時間：8時30分 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：福光</p> <p>講義「身体所見の取り方」 時間：9時30分(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：竹村医師</p> <p>講義「肺炎の抗菌薬の使い方」 時間：11時 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：福光</p> <p>病棟実習</p>	<p>講義「肺癌の臨床」 時間：9時30分(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：秋田教授</p> <p>病棟実習</p> <p>※講義前はプロジェクターとパソコンを接続しておくこと</p>	<p>病棟実習 希望者のみ気管支鏡見学 時間：9時30分～ 場所：内視鏡室(中央診療棟2F) ※その他の学生は病棟実習</p>	<p>講義「抗酸菌」 時間：9時30分(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：伊藤医師</p> <p>病棟実習</p>	<p>気管支鏡シミュレーション及び気管支内視鏡の見学 時間：9時(時間厳守) 場所：内視鏡室(中央診療棟2F) 担当：高桑医師</p>
	午後	<p>カンファレンス 時間：15時(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室</p>	<p>病棟実習</p>	<p>講義「呼吸不全・酸素療法」 時間：13時(時間厳守) 場所：臨床セミナー室 担当：前田教授</p> <p>病棟実習</p>	<p>講義「呼吸機能検査」 時間：13時15分(時間厳守) 場所：肺機能検査室(203) 担当：田尻医師</p> <p>臨床推論</p> <p>時間：15時(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：小栗教授</p> <p>カンファレンス 時間：17時(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室</p>	<p>Advanced OSCE & Role play 時間：15時(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：大久保医師</p>
2週目	午前	<p>講義「吸入薬の使い方」 時間：9時30分(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：竹村医師</p> <p>講義「胸部単純X線写真読影」 時間：11時(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：前野医師</p> <p>病棟実習・レポート作成・CBL準備</p>	<p>呼吸器内科外来見学 時間：9時30分(時間厳守) 場所：内科診察室29診 担当：新実教授</p>	<p>呼吸器内科外来見学 時間：9時30分(時間厳守) 場所：内科診察室29診 担当：新実教授</p>	<p>実習振り返り 時間：9時(時間厳守) 場所：内視鏡室(中央診療棟2F) 担当：高桑医師</p>	<p>実習振り返り 時間：9時(時間厳守) 場所：内視鏡室(中央診療棟2F) 担当：高桑医師</p>
	午後	<p>講義「喘息・慢性咳嗽」 時間：13時(時間厳守) 場所：第4会議室(研究棟2階) 担当：新実教授</p> <p>Case Based Learning 予演 時間：14時30分(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：上村医師</p> <p>カンファレンス 時間：15時(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室</p>	<p>病棟実習・レポート作成・CBL準備</p>	<p>病棟実習・レポート作成・CBL準備</p>	<p>病棟実習・レポート作成・CBL準備</p> <p>Case Based Learning 発表 時間：17時(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室</p>	<p>総括 時間：14時(時間厳守) 場所：15南病棟 Dr.実習室 担当：新実教授</p>

※教員の都合などによりスケジュールが変更になることもある。

開講年度	2021年度
科目名	臨床実習コース・呼吸器外科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	中西良一、奥田勝裕、横田圭右、立松 勉、小田梨紗、坂根理司
講義期間・曜日・時限	2週間

授業目的	<p>①(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。</p> <p>②(呼吸器外科) 患者さんに実際に接して診察することで、臨床の現場での疑問を考えながら解決していき、その中でM4までに学んだ知識を復習し、さらに新しい知識を求め、終了時には医師として基本的に持つべき呼吸器外科の知識、技術を身につける</p> <p>③該当する卒業時コンピテンシー 領域Ⅰ-a, b, c, d、領域Ⅱ-a, c, d, e、領域Ⅳ-d</p>
学習到達目標	<p>①BSL終了時にできるようになってほしい知識、手技 外科手術が考えられる患者の診断、手術適応の判断、術前術中術後管理を理論立てて考えることができる(無菌操作を実施できる、手術や手技のための手洗いができる、手術室におけるガウンテクニックができる、手術、術前、術中、術後管理を見学し、介助する)。</p> <p>②該当するモデルコアカリ A-5-1, D-6-1, D-6-2, D-6-3, D-6-4, F-2-9, G-3-3</p> <p>③<必ず学ぶべき手技>呼吸器手術の周術期管理、ガウンテクニック</p>
授業概要	手術予定患者の間診、聴診、触診等の診察、手術の補助、術後管理への参加、検討会、回診でのプレゼンテーション、患者とのコミュニケーション
授業計画	<p>【学内】 講義：呼吸器外科総論、肺野孤立性陰影の読影、肺門縦隔の解剖に関するグループワーク 実習：糸結び 総括：中西良一</p> <p>【学外】 実習病院における手術や日常臨床の見学。</p>
成績判定基準	<p>秀:優に加え、担当症例以外の手術症例にも積極的に関わり、理解する</p> <p>優:良に加え、担当症例のレポートが優れる</p> <p>良:可に加え、ディスカッションに積極的に参加</p> <p>可:実習の参加とレポートの提出</p>
テキスト及び参考文献	<p>呼吸器外科学 南山堂 General Thoracic Surgery Shields編, Lippincott, Williams and Wilkins 肺癌診療ガイドライン 日本肺癌学会編 縦隔の外科-手術手技アトラス 南山堂 呼吸器外科手術書 金芳堂</p>
BSLにかかる諸注意	遅刻、欠席(病気の場合は要診断書)は必ず事前に届け出ること 清潔な身なり(Tシャツ、Gパンは不可)、謙虚で誠実な態度を求めます
オフィスアワー・連絡先	中西良一:月 14-15時(事前に連絡) 電話:内線8231
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業時間外の学習:担当患者の手術前には必ず該当手術について上記テキスト等を参照しておくこと

2021年度 呼吸器外科BSL予定表

	月	火	水	木	金	
1・3週	午	8:30*~研究棟5F医局 全体オリエンテーション 中西良一	8:30~ 15南病棟 呼吸器外科回診 横田圭右/小田梨紗	9:00~ 外来 呼吸器外科外来 予診 中西良一	8:30~ 15南病棟 呼吸器外科回診 立松 勉/坂根理司	
	前	9:00~ 研究棟5F医局 オリエンテーション・講義 立松 勉	9:00~ 中央手術部 呼吸器外科手術 中西良一, 奥田勝裕		9:00~ 中央手術部 呼吸器外科手術 中西良一, 奥田勝裕	
午		13:30~ 2階内視鏡室 気管支鏡 奥田勝裕		14:00~ 15南実習室 呼吸器外科講義 坂根理司	14:30~ 15南病棟 呼吸器外科回診 中西良一	
	後	15:00~ 研究棟5F医局 呼吸器外科講義 奥田勝裕		15:00~ 15南実習室 呼吸器外科講義 横田圭右		
2・4週	午	学外実習 (刈谷、東部 各1名)	学外実習 (西部、トヨタ 各1名)	学外実習 (刈谷または西部 1名)	8:30~ 15南病棟 呼吸器外科回診	
	前	8:30~ 15南病棟 呼吸器外科回診 立松 勉	8:30~ 15南病棟 呼吸器外科回診 横田圭右/小田梨紗	8:30~ 15南病棟 呼吸器外科回診 遠藤克彦	立松 勉/坂根理司 9:00~ 中央手術部 呼吸器外科手術 中西良一, 奥田勝裕	
午		14:00~ 研究棟5F医局 呼吸器外科講義 中西良一		9:00~ 外来 呼吸器外科外来 予診 中西良一	14:30~ 15南病棟 呼吸器外科回診 中西良一	
	後	17:30~ 15南実習室 呼吸器外科症例検討会 中西良一	9:00~ 中央手術部 呼吸器外科手術 中西良一, 奥田勝裕	15:00~ 15南実習室 呼吸器外科講義 小田梨紗	16:00~ 研究棟5F医局 呼吸器外科総括 中西良一	

*初回月曜が休日の場合は、実習初日の8:30より研究棟5F医局において全体オリエンテーション(中西)とオリエンテーション・回診(奥田/横田/立松)を行います。

担当者が不在の時は、その他の者が代わりを務めます。

BSL班を2グループに分け、呼吸器外科と呼吸器内科をそれぞれ2週間ずつ実習します。したがって、1, 2週と3, 4週は同じ予定表です。

第2,4週は学外実習があります。新型コロナウイルスの流行により、学外実習が中止になる可能性があります。

連絡先 呼吸器外科8231 学生担当係・横田医師3451

呼吸器外科 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

- 1) **トヨタ記念病院 呼吸器外科**
- 2) 病院長：岩瀬 三紀 学外実習指導責任者：呼吸器外科部長 森山 悟
- 3) 実習は1日（呼吸器外科実習の第2週、火曜日）で、人数は1名
- 4) 年間1000件前後の豊富で、かつ市中病院の特色である、癌の定期手術から虫垂炎、先行性腹膜炎などの緊急手術など、バラエティーに富んだ手術を行っている。救急救命センターを併設しており、交通外傷などの緊急手術も間近に見られるかもしれない。各疾患については、消化器外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科の学会認定指導医・専門医が指導に当たる。また、クリニカルパスの作成・利用や、臨床指標による評価などを行っているので、これらが体験できる。その他、研修医教育が充実しており、若い研修医も多く、色々な話を聞けるチャンスがある。各種のセミナー、院内研修会、講演会にも参加し、今後の進路を考える上で役立ててほしい
- 5) 実習病院における呼吸器外科手術や病棟業務などの見学
- 6) 中央棟2階 エレベーターホール前の待合スペース 午前8時30分

- 1) **刈谷豊田総合病院 呼吸器外科**
- 2) 病院長：田中 守嗣 学外実習指導責任者：患者サポートセンター長 山田 健
- 3) 呼吸器外科実習の第2週、月曜日と水曜日に、人数は各1名ずつ
- 4) 「保健・医療・福祉の分野で社会に貢献します」という理念の下、温かい想いを込めた質の高い医療サービスを提供するという方針を掲げています。
- 5) 実習病院における呼吸器外科手術や病棟業務などの見学
- 6) 6棟2階応接室・9:15（※2020年12月現在コロナウイルス感染症対策のため）

- 1) **名古屋市立西部医療センター 呼吸器外科**
- 2) 病院長：栗原 義之 学外実習指導責任者：呼吸器外科部長 羽田 裕司
- 3) 呼吸器外科実習の第2週、火曜日と水曜日に、人数は各1名ずつ
- 4) 『小児・周産期医療』と『がん医療』を大きな柱としている病院
- 5) 実習病院における呼吸器外科手術や病棟業務などの見学
- 6) 9:00 病院2階 管理課事務室

- 1) **名古屋市立東部医療センター 呼吸器外科**
- 2) 病院長：村上 信五 学外実習指導責任者：呼吸器外科部長 水野 幸太郎
- 3) 実習は1日（呼吸器外科実習の第2週、火曜日）で、人数は1名
- 4) 当院は消化器、呼吸器、乳腺内分泌などの疾患を扱っている。症例数は年間約500件の全身麻酔手術を行っており、外科疾患の十分な研修が可能である。
- 5) 実習病院における呼吸器外科手術や病棟業務などの見学
- 6) 救急・外来棟4階の庶務課窓口 9時10分

2. 学外実習評価

学外病院実習は1日のため、実習内容の評価はしない。実習出席の確認のみ行う。

開講年度	2021年度
科目名	臨床実習コース・循環器内科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	学内：大手信之、瀬尾由広、杉浦知範(急性心臓疾患治療部)、後藤利彦、若見和明、藤田浩志、北田修一、村井俊介、伊藤 剛、菊池祥平(中央臨床検査部)、中山貴文 学外：東部医療センター/西部医療センター/豊川市民病院/蒲郡市民病院の指導医資格を有する教育担当臨床教員
講義期間・曜日・時限	循環器内科/心臓血管外科のタームのうち2週間

授業目的・目標	これまでの講義で習得した基礎知識を元に、実際の臨床に参加して診察、診断、治療にとって必要な知識のうち不足している部分を補填し、態度、技能と併せて習得する。特に、循環器疾患診療は治療に一刻を争う急性期疾患と長期的に治療を継続し予後の延長とQOLの維持に主眼が置かれる慢性期疾患に分けて考える必要があり、臨床実習によりこうした特徴を理解して患者マネジメントに役立つ基本的な能力を養成することを目標とする。
キーワード	循環器、心臓、血管、内科、外科
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	全て(特にIc、Ib、II d、II e、III b、IV d)
学習到達目標	BSL終了時にできるようになってほしい行動 《知識》 ・症候・病態から診断を推論することができる(特に下記のコアカリ該当項目)。 ・急性期と慢性期における循環器疾患の特徴および治療法を理解し、説明できる。 ・急性心不全の病態および背景となる生活習慣病について理解し、説明できる。 ・虚血性心疾患や不整脈疾患の診断、治療法を説明できる。 ・心臓カテーテル検査の目的、適応、方法、意義を説明できる。 《態度》 ・患者個々の状態やQOLを理解し、配慮した診療を実践することができる。 ・診療チームの一員であることを理解し、他職種と連携することができる。 ・患者や医療従事者にとって安全な医療について理解する。 ・どのような場合に循環器内科にコンサルトするか理解し適切にコンサルトできる。 《技能》 ・心電図を記録し、所見を判読できる。 ・心エコー図検査における基本画像を描出し、所見を判読できる。 ・中心静脈カテーテルの挿入について理解し、手技の介助をすることができる。 【該当するモデルコアカリ】 <必ず学ぶべき症候> F-1-7)意識障害・失神、F-1-10)脱水、F-1-11)浮腫、F-1-16)胸痛、F-1-17)動悸、F-1-18)胸水 <必ず学ぶべき手技> (1)一般手技 7)中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助できる。 (2)検査手技 7)12誘導心電図を記録できる。
成績評価基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	循環器領域の選択性臨床実習は、学外あるいは学内のいずれも選択可能であり、いずれにおいても以下の項目を中心にクリニックワークシップを実践する。 ・外来実習：予診聴取、診察方法・診断の進め方・治療方針の決め方 ・病棟実習：担当患者の受持ち、診療チームの一員としての診療参加型実習 ・集中治療室(急性心臓疾患治療室:CCU)での実習 ・検査：心電図、心エコー図検査、レントゲン検査、運動負荷検査、心臓核医学検査 ・手技：心臓カテーテル、中心静脈カテーテルについて(手技の介助を含む) ・手術：経皮的カテーテルインターベンション治療、ペースメーカー植込み手術
授業計画	臨床実習中、病態生理の理解から症候論、手技、患者QOLへの配慮、生活習慣病の予防、EBMIに至るまでの教育理念が反映されるよう学外病院と大学間で綿密な連携が図られるため、学外、学内いずれを選択しても遜色なく実習できる。 《2020年度M5スケジュール表を参照》 【学外】 学外を選択した場合、約2週間の期間を急性期、慢性期のいずれも疾患も診療可能な循環器臨床病院で実習する。特に急性心不全や虚血性心疾患を中心とした循環器救急医療を集中的に学ぶことが可能であり、数多くの心臓カテーテル検査やカテーテル治療を経験することになる。 【学内】 学内では上述の循環器救急医療のほか、肺動脈性肺高血圧症や成人先天性心疾患、難治性不整脈へのカテーテルアブレーションおよびデバイス治療、治療抵抗性の生活習慣病などを幅広く学ぶことができる。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	実習までに予習しておくべき事項 ①循環器内科総論 これまでの講義内容を復習しておくこと ②胸部診察・心電図 心音の鑑別、心電図の記録・判読法を復習しておくこと ③急性期疾患 虚血性心疾患や急性心不全に関してテキストで予習すること ④慢性期疾患 心疾患の一次予防と二次予防について理解しておくこと ⑤中心静脈カテーテル・心臓カテーテル 冠動脈や心内圧について予習すること ⑥心エコー 心臓の解剖とエコー画像について理解しておくこと ⑦不整脈 心臓の解剖をよく理解し不整脈の治療法について予習すること ⑧予診 OSCE医療面接を復習しておくこと ⑨臨床推論 浮腫、胸痛、脱水、胸水、動悸、失神の鑑別診断を予習しておくこと ⑩総括 前日までにレポートを仕上げプレゼンテーションの準備をして臨む
成績評価方法	授業への参加姿勢、実習態度、レポートにより判定。
教科書・テキスト	教科書 ハーバード大学テキスト心臓病の病態生理 Leonard S.Lilly編, MEDSi社] Braunwald's Heart Disease 第10版 Mann/Zipes/Libby/Bonow編, Elsevier出版 臨床心エコー図学 吉川純一編, 文光堂 参考書 日本循環器学会ガイドライン(日本循環器学会ホームページ参照)
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。真摯な態度で取り組むこと。
履修者への要望事項	生理学・生化学・解剖学・病理学・薬理学で関連する分野の復習をしておくこと。
アクティブ・ラーニング	レポート提出、ショートテスト、プレゼンテーションなどを取り入れた授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	欠席・遅刻・早退時は事前に以下の循環器内科学分野医局に連絡のこと 月～金 9:00～17:00 内線8221, E-mail: ohte_sec@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

循環器内科(学内)BSL予定表

		月	火	水	木	金																																		
第1週	午前	9:00 研究棟4階 循環器内科学教室 若見和明 助教	9:00 診療棟14階北病棟 Dr実習室 杉浦知範 准教授	9:00 診療棟2階 心臓カテーテル検査室 藤田浩志 助教 ほか	9:00 診療棟14階北病棟 Dr実習室 伊藤剛 助教	9:00 研究棟4階 循環器内科学教室 北田修一 助教																																		
		オリエンテーション 臨床推論:浮腫	基本的臨床手技:12誘導心電図	心臓カテーテル検査	臨床推論:胸痛	臨床推論:胸水																																		
	午後	13:00 診療棟14階北病棟 Dr実習室 村井俊介 助教	13:00 診療棟14階北病棟 Dr実習室 中山貴文 助教	13:30 診療棟5階 中央手術室 後藤利彦 講師	13:00 診療棟4階 超音波検査室 菊池祥平 助教	14:00 診療棟14階北病棟 Dr実習室 山下純世 准教授																																		
		心臓カテーテル検査 操作演習	臨床推論:脱水	ペースメーカー植え込み手術(予定があれば)	心エコーシミュレーション	事例検討																																		
第2週	午前	9:00 診療棟14階北病棟 Dr実習室 伊藤剛 助教	9:00 西棟1階 シミュレーションセンター 杉浦知範 准教授	9:00 診療棟2階 心臓カテーテル検査室 藤田浩志 助教 ほか	9:00 診療棟5階 ハイブリッド手術室 ハートチーム担当医	10:00 研究棟4階 循環器内科学教室 大手信之 教授																																		
		臨床推論:胸痛 冠動脈疾患の診断方法	臨基本的臨床手技:中心静脈カテーテル	心臓カテーテル治療	経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)	総括																																		
	午後	14:00 診療棟14階北病棟 Dr実習室 瀬尾由広 准教授	13:30 診療棟4階 生理検査室 菊池祥平 助教	13:30 診療棟5階 中央手術室 後藤利彦 講師	13:30 診療棟14階北病棟 Dr実習室 担当指導医																																			
		入院症例検討会	心エコー	ペースメーカー植え込み手術(予定があれば)	クリニカルクラークシップ																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">第3週</td> <td>午前</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>午後</td> <td colspan="5" style="text-align: center;"> 後半2週間は心臓血管外科を実習 (前半2週で心臓血管外科を実習した場合は上記スケジュールにより後半2週で循環器内科を実習) </td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第4週</td> <td>午前</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>午後</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									月	火	水	木	金	第3週	午前						午後	後半2週間は心臓血管外科を実習 (前半2週で心臓血管外科を実習した場合は上記スケジュールにより後半2週で循環器内科を実習)						第4週	午前						午後					
		月	火	水	木	金																																		
第3週	午前																																							
	午後	後半2週間は心臓血管外科を実習 (前半2週で心臓血管外科を実習した場合は上記スケジュールにより後半2週で循環器内科を実習)																																						
第4週	午前																																							
	午後																																							

※注意事項

急性心筋梗塞などの緊急カテーテルやCCU入室、中心静脈穿刺処置がある際にはPHSで呼び出します。

実習時間内(9時~17時)はフリーであってもPHSの電源をonにした状態で学内待機して下さい。

CCUにて平日毎朝7:30~循環器内科カンファレンス、毎週火曜18:00~心臓外科との合同カンファレンスを実施しますので積極的に出席して下さい。

(重要事項)レポート提出までに最低3回は指導医のチェックを受けてください。

開講年度	2021年1月～2021年11月
科目名	臨床実習コース・心臓血管外科
専門・教養	専門
担当教員	須田久雄、小川真司、山田敏之、中井洋佑、小川辰士 非常勤講師：浅野實樹、水野明宏
講義期間・曜日・時限	BSL予定表に準ずる

授業目的	<p>①(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。</p> <p>②(心臓血管外科)治療介入による死に最も直面する心臓大血管の手術を通じて、大きな手術に臨む患者と家族の心情を理解する。また学外実習を通して、異なる医療環境における診療の工夫や医療の合意形成のあり方を学ぶ。</p> <p>③該当する卒業時コンピテンシー Ia、Ib、Ic、IIa、IIb、IIc、II d、IIe、IVa、IVb、IVc、IVd</p>
学習到達目標	<p>①BSL終了時にできるようになってほしい行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識：心臓血管疾患の手術適応と治療成績（死亡率と合併症）、人工心肺と心筋保護技術 ・態度：重症患者と家族への接し方 ・技能：基本的手術手技と心臓血管手術への補助 <p>②該当するモデルコアカリ F-1-5)ショック、F-1-6)心停止、F-1-16)胸痛、F-1-17)動悸、F-1-18)胸水</p> <p>③必ず学ぶべき症候・手技 外科手技、外科的治療と周術期管理、)医療機器と人工臓器</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例検討会の議論に参加し、手術適応と治療戦略の知識と理解を深める。 2. 手術に参加し、手技を学び、指導下に手術の補助を行う。 3. ICUと病棟で術後の病態を観察し、周術期管理と合併症および対応策を学ぶ。
授業計画	<p>【学内】2020年度担当教員・講義予定表を参照 【学外】各実習病院の指導医の指示に従ってください。</p>
成績判定基準	<p>以下の3領域を総合的に判断し、60点以上を合格とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識：手術適応、治療戦略および治療成績の理解度：40点 2. 態度：プレゼンテーション、手術参加意欲、ICUや病棟での言動：30点 3. 技能：手術補助能力、基本的手技能力、術後循環動態把握能力：30点
テキスト及び参考文献	教科書一般、心臓血管外科学教室の図書は随時閲覧可能。テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
BSLにかかる諸注意	積極的な態度で実習に臨むこと。遅刻、欠席をしないこと。 随時報告すること。
オフィスアワー・連絡先	心臓血管外科学教室（内線8099、秘書対応は08：30-17：00） ホットライン：090-5458-8105 当番PHS：3963 その他の方法は、オリエンテーションで随時指示する。
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	

心臓血管外科 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

- 1) 病院名、診療科名：名古屋市立東部医療センター 心臓血管外科
- 2) 病院長、学外実習指導責任者：病院長：村上信五先生、
学外実習指導責任者：浅野實樹先生（高度医療教育研究センター教授 副院長）
- 3) 受け入れ学生人数 ※2
- 4) 病院の特徴：心臓血管外科全般、とくに救急疾患の対応に力を入れている
- 5) 実習方法の方針：大学実習に準じる
- 6) 集合場所・集合時間：初日 心臓血管外科外来診察室 8時30分 以降は担当医の指示

2. 学外臨床実習評価項目

経験症例一覧、ケースレポートを作成し、実習内容の○項目を含めてA-Dで評価する。
最終日には大学にて総括を行う。

開講年度	2021年度（2021年1月～2021年11月）
科目名	脳神経内科学
専門・教養	専門
担当教員	松川則之、大村真弘、大喜多賢治、川嶋将司、水野将行、藤岡哲平、佐藤豊大、鈴木鮎子、間所佑太、井上裕康、荒川いつみ、谷口葉子
講義期間・曜日・時限	2021年1月12日～2021年11月12日

授業目的	<p>①「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。</p> <p>②(脳神経内科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい神経診察法を習得し、正確な病巣部位を診断できる能力を身につける。 診断に至る症候や検査を理解して病態を把握し、要約して発表する能力を習得する。 患者や家族と良好な関係を築ける接遇態度を身につける。 学外施設の実習から対象症例や診療体制の違いなどを理解できる。 <p>③該当する卒業時コンピテンシー</p> <p>1 a, b, c, d, 2a, b, c, d, e, 3b, c, d, 4a, b, c, d</p>
学習到達目標	<p>①BSL終了時にできるようになってほしい行動</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識：神経系機能解剖を理解し、頻度の多い神経症候について説明できる。神経診察所見から病巣部位を予測することができる。代表的な神経疾患の病態と鑑別診断、治療について概説することができる。 態度：患者やその家族に診察の協力を得られるような接遇ができる。 技能：標準的な神経診察ができる（意識レベル、脳神経、運動系、小脳系、感覚系）。 <p>②該当するモデルコアカリ</p> <p>D-2 神経系、構造と昨日、診断と検査の基本、症候、疾患</p> <p>③必ず学ぶべき症候・手技</p> <p><必ず学ぶべき症候> F-1-7 意識障害・失神、F-1-8 けいれん、F-1-9 めまい、F-1-32 もの忘れ、F-1-32 もの忘れ、F-1-33 頭痛、F-1-34 運動麻痺・筋力低下</p> <p><必ず学ぶべき手技> F-3-5-7 神経診察</p>
授業概要	主に臨床実習の形式で、実際に入院患者を受け持ち、チーム医療の一員として診断・治療に参加する。外来で多くの患者に接し、初診患者の対応、再診患者の管理を理解する。合間に小講義を入れ、知識の整理を行う。
授業計画	<p>①学内実習</p> <ol style="list-style-type: none"> BSL開始前に、OSCEで習った神経診察手技を復習しておく。 病棟患者を受け持ち、チーム医療に参加。症例報告書を提出する。 外来見学。初診患者は予診を行い、その後の診察を見学して病態を理解する。再来患者は見学して多くの神経症候を観察し、病態の理解を深める。 カンファレンス、回診に参加。実際に症例のプレゼンテーションを行う。 <p>②学外実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 病棟患者を受け持ち、チーム医療に参加。症例報告書を提出する。 指導医の入院患者回診や救急患者の診察に付き添い、その対応を学ぶ。 外来見学。多くの初診・再診患者の神経症候を観察し、その病態の理解を深める。 カンファレンス、回診に参加。実際に症例のプレゼンテーションを行う。
成績判定基準	<p>神経診察技能：担当患者での診察技能のほか、最終日総括で診察実技も評価する。担当症例レポート：1週間で1症例を担当し、診察所見・鑑別診断の流れと最終診断に至る流れが正しく理解できているか評価する。</p> <p>実習への取り組み態度：実習での質問や取り組み、患者への対応などを評価する。</p> <p>秀：学習到達目標を超えたレベルを達成している 優：学習到達目標を2つ以上十分に達成している 良：学習到達目標を2つ以上ある程度達成している 可：学習到達目標を最低限達成している</p>
テキスト及び参考文献	<p>「病気がみえる7 脳・神経」 MEDIC MEDIA 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭、斉藤佳雄編 南山堂 「神経内科ハンドブック」 水野美邦編 医学書院</p>
BSLにかかる諸注意	清潔感のある服装、白衣着用、ネクタイは不要。担当患者は毎日診察を行い、その病態をしっかりと理解し、不明な点は担当医に相談すること。病院内では常に発言や態度、身だしなみに注意し、患者・家族や多職種から見られていることを意識する。
オフィスアワー・連絡先	神経内科 大喜多（月～金 午後3時以降） TEL：052-853-8094 Eメール：shinkei@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	

2020-21年 M4-5 脳神経内科BSL週間予定表

		月		火		水		木		金		
第 1 週	午前	9時		9時		9時		9時		7時30分		
			研究棟3階神経内科医局	研究棟3階神経内科医局	西棟1階 コミュニケーションセンター	西棟2階 内科診察室16・2・29番	13階北病棟 カンファランス ルーム	外来棟2階 内科診察室 1・2・8番				9時
			松川	松川	大喜多	松川、大喜多、藤岡		松川・大村・大喜多				
		ガイダンス 講義 (神経機能解剖、神経診察 法)	講義 (神経症候学、診断学)	神経救急の対応		外来診察の見学	脳外科との 合同症例検討 回診	外来診察の 見学				
	午後	14時		16時	13時半	14時	14時	14時	14時	15時半		
			13階北病棟	病棟など	13階北病棟 カンファランスルーム	13階北病棟	13階北病棟	13階北病棟	13階北病棟	13階北病棟	13階北病棟	
		松川、水野、藤岡	担当症例の 指導医	大喜多	担当症例の指導医	担当症例の指導医	担当症例の指導医	担当症例の指導医	担当症例の指導医	大喜多		
	新規入院患者検討会 教授回診 担当患者の紹介	病棟回診 外来・救急な ど	症例検討 頸動脈エコー		病棟回診 外来・救急な ど	病棟回診 外来・救急な ど	病棟回診 外来・救急な ど	病棟回診 外来・救急な ど	担当症例回診			
第 2 週	午前	9時		9時		9時		9時		9時		
			(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	レポート作成	
			(学内)佐藤 13階北、回診など	(学内)井上 13階北、回診など	(学内)津田 13階北、回診など	(学内)増田 13階北、回診など	(学内)増田 13階北、回診など	(学内)川嶋				
		14時	14時半	14時半	14時半	14時半	14時半	14時半	14時半	15時		
		(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(実習病院の予定に従う)	(場所は秘書に確認)		
	午後		(学内)教授回診 新規入院患者検討会 総回診	回診など	回診など	回診など	回診など	回診など	回診・筋電図など	松川	総括 担当症例発表、神経診察試験	

・神経内科医局(秘書) 8094
 ・PHS番号: 大村3657、大喜多3209、川嶋3509、水野3906、藤岡3314、佐藤3510、鈴木鮎子3907、間所3454、井上4096、荒川4149、谷口4150、当番3716

個人情報取り扱いに注意！ (患者情報、医師PHS番号など)

担当医と連絡が取れない場合は、医局秘書(8094)に確認してください。

脳神経内科 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

1) 公立陶生病院 脳神経内科

- 2) 院長：味岡正純，学外実習指導責任者：脳神経内科部長 湯浅浩之
- 3) 1名
- 4) 瀬戸市の中核病院。脳神経内科は脳血管障害から各種変性疾患まで神経疾患全般を幅広く診療。
- 5) 指導医とともに病棟，外来，検査を見学，可能な医療行為を経験する。
第2週月～木、午前外来など、午後病棟・検査など
- 6) 初日の集合場所：8時半 東棟4階研修管理室

1) 名古屋市立東部医療センター 脳神経内科

- 2) 院長：村上信五，学外実習指導責任者：脳神経内科部長 山田健太郎
- 3) 1名
- 4) 名古屋市立病院の中核。498床のうち、神経内科病棟は50床。
脳血管障害急性期治療を主体に、変性疾患など神経疾患を幅広く診療。
- 5) 指導医とともに病棟，外来，検査を見学，可能な医療行為を経験する。
第2週月～木、午前外来など、午後病棟・検査など
- 6) 初日の集合場所：8時45分 救急外来棟4階 臨床研修センター会議室（事務室の隣）

1) 豊川市民病院 脳神経内科

- 2) 院長：松本隆，学外実習指導責任者：脳神経内科部長 高田幸児
- 3) 1名
- 4) 東三河の中核病院の一つ。脳血管障害から各種変性疾患まで神経疾患全般を幅広く診療。
認知症疾患の診断・治療にも力を入れている。
- 5) 指導医とともに病棟，外来，検査を見学，可能な医療行為を経験する。
第2週月～木、午前外来など、午後病棟・救急・検査など
- 6) 初日の集合場所：9時 3階キャリア支援センター事務室

1) 名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 脳神経内科

- 2) 院長：日比野敬明，学外実習指導責任者：脳神経内科部長 稲垣亜紀
- 3) 1名
- 4) 脳血管障害，認知症疾患，神経変性疾患，高次脳機能障害のリハビリと研究を行なっている。
- 5) 指導医とともに病棟，外来，検査を見学，神経疾患のリハビリテーションを中心に実習する。
第2週月～木、午前外来・リハビリテーションなど、午後病棟・リハビリテーションなど
- 6) 初日の集合場所：9時 4階医局

1) 名古屋市立西部医療センター 脳神経内科

- 2) 院長：栗原義之，学外実習指導責任者：脳神経内科部長 豊田剛成
- 3) 1名
- 4) 名古屋市立病院の中核、脳血管障害や変性疾患など幅広い神経疾患を扱う。
- 5) 指導医とともに病棟，外来，検査を見学，可能な医療行為を経験する。
第2週月～木、午前外来など、午後病棟・救急・検査など
- 6) 初日の集合場所：9時（月曜休みで火曜初日時は8時半） 2階実習室（シミュレータールーム）

2. 学外臨床実習評価項目

(神経系のみ) 評価は A: 優良, B: 良, C: 可, D: 不十分, の4段階とする.

- | | 自己評価 |
|---------------------------------|-------|
| (1) 神経学的診察法を行い, 異常所見を述べる事ができる | _____ |
| 意識・高次脳機能 | |
| 脳神経 | |
| 運動系 | _____ |
| 感覚系 | _____ |
| 協調運動 | _____ |
| 反射 | _____ |
| 立位・歩行・髄膜刺激徴候 | _____ |
| (2) 神経診察所見より神経障害部位を予測することができる。 | |
| (3) 病歴と所見を踏まえて、鑑別疾患を挙げる事ができる。 | |
| (4) 各種神経系検査を観察・介助し、その結果を解釈できる。 | |
| (2項目以上、経験できることが望ましい) | |
| 腰椎穿刺(髄液検査) | _____ |
| 超音波検査(頸動脈) | _____ |
| 簡易知能スケール(MMSE、長谷川式) | _____ |
| 脳血管造影検査 | |
| 筋電図(末梢神経伝導検査、針筋電図) | _____ |
| 脳波 | _____ |
| 中枢神経系CT・MRI | _____ |
| その他() | _____ |
| (5) 検査結果を踏まえて、確定診断に至った流れを説明できる。 | _____ |

開講年度	2021年度
科目名	臨床実習コース・脳神経外科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	間瀬 光人、相原 徳孝、片野 広之、谷川 元紀、岡 雄一、坂田 知宏、青山 公紀、西川 祐介、山田 紘史、山中 智康 名古屋市立東部医療センター脳神経外科 金井秀樹
講義期間・曜日・時限	2021.1.4~2021.11.12

授業目的・目標	脳神経外科に対する基礎知識は、M4時に神経内科と合同で行った講義(神経系コース)にて習得されています。机上で学んだことを、実際に患者さんを診察することにより再確認してもらいます。担当症例については、手術へも積極的に参加してもらいます。
キーワード	脳、脊髄、血管、腫瘍、小児
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1b, 1c, 1d, 2a, 2b, 2c, 2d, 2e, 3b, 3c, 3d, 4a, 4b, 4c, 4d
学習到達目標	臨床実習は教科書には書いていない生きた知識を伝える場であり、できるだけ多くの患者を診て、診断に至る過程、治療選択の多様性、術後の神経症状の変化や改善等を実際に即して学ぶことを目的とします。 【具体的な目標】①患者さんに元気に挨拶し、礼儀正しく接する。②清潔感のある医師らしい服装をこころがける。③脳・脊髄疾患について自ら興味を持って実習する。④脳・脊髄疾患の診断・外科治療を間近でみて学ぶ。⑤要領よく英語で症例提示、議論する力を身につける。
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	主に臨床実習の形式で、脳神経外科患者の術前診断、手術見学、術後管理を通じて、脳神経外科的診断と治療の実際を体験します。不足していると感じた知識や情報を、自ら教科書、ガイドラインや論文、医療情報WEBサイト等で調べ、理解し実習に臨むことに挑戦します。
授業計画	2週間のうち前半1週間の火～金曜日は各指定病院での学外実習に臨んでもらいます。 (学内の受け入れは2名まで) 後半1週間は全員学内での実習となります。 【学外】 担当者とともに、外来や手術などに積極的に関わることで、一般病院における脳神経外科の臨床を経験してもらいます。 【学内】 毎日スタッフが交替で学生実習の担当となり、脳神経外科診療(手術、検査、回診など)や症例検討会に参加してもらいます。学生1人につき入院患者1名を担当し、木曜日に開催される英語での症例検討会で担当症例の提示を行います。各学生が提示した症例について、英語で質問し、英語で返答・解説し、ディスカッションすることにも挑戦します。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で実習に臨むこと。
成績評価方法	実習中の態度(服装、身だしなみ、言葉遣い)、学習到達目標の達成への努力、レポートによる評価
教科書・テキスト	標準脳神経外科学 第14版 医学書院 ニュースタンダード脳神経外科学 第3版 三輪書店 脳卒中治療ガイドライン2015 協和企画 EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針 第4版 メジカルビュー社 など
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。 患者さんと接する機会も多く、社会人として相応の身だしなみ、言葉遣い、態度を望みます。 服装 男性：ネクタイ着用+長袖白衣 or 半袖白衣 or 半袖+長袖白衣 女性：半袖 or 長袖白衣 or 半袖+長袖白衣 を推奨します。
履修者への要望事項	手術や検査などには積極的に参加してください。
アクティブ・ラーニング	学内における木曜日の英語症例検討会では、事前に担当症例について経過などを要約するとともに、英語でのプレゼンテーションを行う。提示された症例に対しては、さらにグループ内でディスカッションをしてもらいます。
連絡先・オフィスアワー	脳神経外科医局 医局長 坂田知宏 TEL：052-853-8286 不在時は医局秘書。 遅刻・欠席・早退時は必ず連絡して下さい(当日の連絡は電話をお願いします)。
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	【レポートについて】担当した症例について、英語での症例検討会でのプレゼンテーションを参考に、入院症例要約としてまとめて提出してください。 ※A4用紙一枚以上、参考にした教科書、文献や医療情報WEBサイトがあれば記載すること。 ※他人のコピーペーストは避け、自身のオリジナルなものを作成すること。 (提出先:脳神経外科医局秘書 提出期限:実習最終週の翌週前半)
関連URL	

2021年BSL(1月～)

脳神経外科BSL予定表

	月	火	水	木	金
第1週(第3週)	7:45 脳神経外科医局	8:30 脳神経外科医局 (大学希望者) 病棟医長	7:30 脳神経外科医局 (大学希望者) 片野(病棟医長)	8:30 脳神経外科医局 (大学希望者) 病棟医長	7:30 13北病棟Dr実習室
担当教官	坂田 入院・退院カンファレンス抄 読会、回診 Orientation、手術見学	病棟医長 回診 血管撮影見学 血管内治療見学	入院患者カンファレンス 回診 手術見学	回診 血管撮影見学 血管内治療見学	谷川(病棟医長) 神内と合同カンファ・回診 手術見学
集合時間			18:30		
集合場所			脳神経外科医局		
			カンファレンス 手術症例検討会		
第2週(第4週)	7:45 脳神経外科医局	①8:30 ②15:00 脳神経外科医局 □	7:30 脳神経外科医局	①8:30 ②12:30 脳神経外科医局	①7:30 ②9:00 ③14:30 ①13北病棟Dr実習室 ②脳神経外科医局 ③臨床シミュレーションセンター
担当教官	西川 入院・退院カンファレンス 抄読会、回診 手術見学	AM 相原 PM 青山 ①回診、血管撮影見学 血管内治療見学 ②画像診断(頭痛疾患)	岡 入院患者カンファレンス 回診 手術見学	①AM 山田 ②PM 間瀬 ①講義 ②昼食会(総括)、画像診断	AM 金井 PM 山中 ①神内と合同カンファ・回診 ②脳腫瘍病理・血管病理 ③腰椎穿刺実習
集合時間			18:30	17:00	
集合場所			脳神経外科医局	脳神経外科医局	
			カンファレンス 手術症例検討会		英語カンファレンス

注意事項

グループの前半は1～2週目脳神経外科、3～4週目神経内科で実習

グループの後半は1～2週目神経内科、3～4週目脳神経外科で実習

基本的に第1(3)週目の火～金は学外実習(希望者は2名まで学内実習も可)とします

脳神経外科 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

- 1) 名古屋市立東部医療センター 脳神経外科
- 2) 病院長 村上信五、 学外実習指導責任者 金井秀樹（副院長）
- 3) 1名
- 4) 名古屋市千種区にある病床数 498 床の急性期医療センターであり、「救急医療及び心臓血管疾患、脳血管疾患に対する高度専門医療」をはじめとした多くの医療機能を提供しています。当院は、「断らない救急に力を入れる総合病院」として高度・専門医療や救急医療など病院機能をより一層向上させるため、2014 年度末には「救急・外来棟」が開棟しました。2018 年 2 月には、名古屋市内で 7 施設目となる「救命救急センター」の指定を愛知県から受け、三次救急に益々注力しています。救急搬送件数は年々増加して 2019 年は約 7,900 件余りとなっています。2019 年 8 月末には新病棟が竣工し、2020 年から新病棟での入院診療が開始されています。
- 5) 常勤スタッフ 4 名（脳外科専門医）、後期研修医 1 名で、24 時間 365 日、神経救急に携わっています。治療対象とする主な疾患は、急性期の脳血管障害、外傷性疾患です。年間 200 例前後の手術・血管内治療を行っています。短期間の選択実習では、主に急性期の脳血管障害および外傷性疾患について、主治医、担当医らとともに、その初療から一連の検査・治療（血管内治療や手術）に積極的に関与していただき、各疾患の病態をより深く理解していただくことを目標としています。当科の実習を通じて、各疾患に対する治療が実際にどのような流れで進んでいくのか、指導医らとともに discussion しつつ、脳外科臨床の実際について基礎、概要について学ぶことができます。尚、当直、宿舎の提供はありません。
- 6) 一週間の実習スケジュールは以下の通りです。

	火	水	木	金
午前	病棟回診，処置 外来診察	病棟回診，処置 外来診察	病棟回診，処置 外来診察	定期手術 病棟回診，処置 外来診察
午後	検査、臨時手術 16:30～手術症例 カンファランス	13:00～血管撮 影・血管内治療	13:30～病棟合同 カンファランス	+定期手術

（血管内治療を含む緊急手術には常に対応できる体制を整えていますので、その際には、上記の予定以外に随時、参加することが可能です。）

- 1) 名古屋市立西部医療センター 脳神経外科
- 2) 院長：栞原（くわばら）義之 脳神経外科部長・脳腫瘍センター長：橋本信和
- 3) 1名
- 4) 名古屋市黒川の北西、西区の境界に位置する北区平手町にある 500 床の病院。主として西区、北区、北名古屋市を診療圏とする。病院是としてのがん診療と陽子線治療ならびに小児・周産期診療は着実に伸びているが、最近では基礎診療科の活動性も上がっており、救急医療も充実してきた。脳神経外科の対象疾患は primary から高度医療までを網羅し、単純な頭部外傷から重篤な脳卒中まで種々の救急症例に携わる。並行して脳腫瘍や慢性期血管障害の手術例も明らかに増加中。
脳神経外科 3 名（脳神経外科専門医 3 名、脳卒中専門医 3 名、血管内治療専門医 2 名）の体制でこれらに当たっており、年代が異なる各自が、それぞれの見識・技量に応じて行動している。とにかく忙しいときは忙しい、それ以外はまったりの繰り返し。脳外科がおもしろい、楽しいでなければ、現場はとて続かないので、その雰囲気をまず味わってほしい。
- 5) 手術、外来、検査などは可能な限り助手として実践して貰う。実際に医療機器に触れ、患者

とのやりとりを最も近くで経験する事になる。

- 6) 定期手術は金曜日だが、緊急事例もあり柔軟に対処する。定期の血管撮影（検査・血管内治療）は水曜日、症例検討は火曜日に実施している。

- 1) 豊川市民病院 脳神経外科

- 2) 院長：松本隆 脳神経外科主任部長、実習指導責任者；渡邊隆之

- 3) 2人

- 4) 愛知県豊川市にある地域の中核病院（527床）で、豊川市を中心に東三河北部を含む25万人前後の人口をカバーする三次救急病院です。

初期研修医は、1学年10数名で形成し、1)自由闊達な土壌の上で、厳しさと優しさを追求、2)「地域住民の健康を守る」という気概、3)研修修了者から国際的に通用する臨床医の輩出、をモットーに日夜研鑽に励んでいます。高いレベルの初期臨床研修を受けながら、自身のQOLや福利厚生も充実し、厳しいながらも楽しく研修医生活を送っているようです。

脳神経外科に関しては、初期研修医のローテートや後期研修の専攻医とも、早い時期から実践を重視したトレーニングを行い、後期研修3年間で終了する時には、疾患管理全般や基本的脳外科手術に習熟し、脳動脈瘤クリッピング、脳腫瘍摘出術など脳神経外科の到達点ともいべきmajor手術や、最近注目度を増している血管内手術も執刀医として数多く経験できるようプログラムを運用しています。業務はハードですが、自身のQOLを充実させるため、on/offをはっきりさせているのも当科の特徴です。

診療内容に関しては、脳卒中や頭部外傷といった救急疾患を中心に、脳腫瘍の手術なども積極的に行っています。上級医もそれぞれ専門領域を分担することで、脳卒中の外科手術、血管内手術、内視鏡手術、頭蓋底手術、ナビゲーションを用いた先端的治療など各分野ともレベルの高い診療を実践しています。現在は、常勤医5名（病院長含む）で年間200例超の手術を行っており、そのうち70例前後はいわゆるmajor手術といわれるものです。専攻医から各領域の専門医まで、10年後20年後の日本の中心医師として活躍できるような人材育成環境を整えています。

- 5) 手術室、検査室、病棟、外来などで診療チームに加わり、可能な行為については実践、協力して頂きます。空いた時間で、机上での縫合練習（肉眼下や顕微鏡下）や、主に手術ビデオを用いた講義なども行います。教科書的な内容より、実臨床を重視した実習を目指しています。希望者は近隣のビジネスホテルでの宿泊も可能です。
- 6) 定期手術が火曜日と木曜日、血管内治療・検査が月曜日と木曜日。その他、緊急手術も多数ある。手術や検査が無い時も、曜日によって学生実習担当医を決めており、診療現場の紹介、顕微鏡下手術（縫合練習）の体験なども行っている。また、月曜日に入院症例カンファ、水曜日に手術症例カンファ、金曜日に英文抄読会、学会予演会・報告会などを行っており、これらにも参加して頂く。

- 1) 蒲郡市民病院 脳神経外科

- 2) 院長：中村 誠 脳神経外科第一診療部長：小出和雄

- 3) 1人/回

- 4) 蒲郡市にある地域中核病院。脳血管内手術、放射線手術、内視鏡手術、脊髄・脊椎手術を含め、脳神経外科全般の診療を自己完結的に行っている。医師は4名で全員が脳神経外科専門医を取得しており、他に神経内視鏡技術認定医を2名、脳卒中専門医を3名、脳神経血管内治療専門医を3名が取得している。当院脳神経外科の特徴は、①待機、当直は経験に関わらず、受け持ち患者はfirst touchした医師が担当する、②患者の診療は担当医師が行い、実力にしたがって指導・援助・助言を上級医が行う、全員の医師が脳神経外科全ての領域の治療を行う。

初期研修の特徴は、①屋根瓦方式ではなく、部長・医長を含め、全ての医師が研修医を指導する、②見学・知識よりも技術の習得を重視する、③研修している診療科に拘わらず、必要

な技術を実践させる、④診療の全責任を上級医・指導医が負う。

- 5) 手術室、病棟、外来で診療チームに加わり、可能な行為については実践、協力していただく。当直は、副直として可。学生用宿泊施設あり。
- 6) (水、金)午前中 回診 (火、木)中心に脳血管撮影 手術
他、随時必要に応じて、救急外来診察など

- 1) 知多厚生病院 脳神経外科
- 2) 院長：水野志朗 脳神経外科代表部長、診療協同部長：福島庸行
- 3) 1人(1週につき)
- 4) 当院は電子カルテ(NEC)、80列CT、1.5T MRI、Xe-CT脳血流測定装置、心臓カテーテル検査にも対応したモノプレーン血管撮影装置、広い空間が確保された救急外来、機能的な手術室、リハビリテーション室、内視鏡室、分娩室、健診センター、地域包括ケア病棟、療養病棟、感染病棟などの充実した医療設備を備えており、地域の災害拠点病院としての責務を負っている。脳神経外科の常勤医は2019年11月現在で4人。脳神経外科一般の診療はもちろん、脳卒中全般、認知症の初期診療からの対応や、地域包括ケア病棟を利用したレスパイト入院など幅広いニーズに応える診療体制を敷いている。
初期研修医の研修では、各科・各専門職の垣根を越えて病院全体がひとつのチームとなって研修医を育てる環境にあり、各科のローテーションは自由度が高く、研修医の要望を取り入れた主体的なプログラムで研修をすることができる。また当院では篠島診療所にて「離島医療」を経験することができ、さらに名古屋市立大学との連携で専門医療の研修を可能としているのも特長である。
- 5) 手術室、検査室、病棟、外来で診療チームに加わり、可能な行為については実践、協力していただく。当直は、副直として可。院内宿泊施設あり。
- 6) 1日目 病院案内と回診見学。救急搬送患者があれば診療見学。
2-3日目 午前中は外来見学または回診見学。救急搬送患者があれば診療見学。午後は検査または手術があれば見学。またはリハビリテーション見学。希望により当直見学。
4日目 総括と意見交換。

- 1) 中東遠総合医療センター 脳神経外科
- 2) 院長：宮地正彦 副院長、脳神経外科統括診療部長、脳血管内治療センター長：市橋鋭一
- 3) 4人
- 4) 地域の中核病院。常勤医師5人。東海道新幹線掛川駅、東名高速道路掛川ICから車で5分とアクセス良好。静岡県中東遠地域47万人の東部の基幹病院(500床)。当科では、脳から脊髄まで、中枢神経系に関する領域の疾患を一貫して診断、治療できる体制がある。研修医の臨床研修においては、主要な科のスタッフが全て揃っていることから、医師としての基本的手技の習得とともに、充実した急性期医療の研修ができる。救急部門は救急専門医の指導下で研修を行い、循環器疾患と脳血管障害に対してはそれぞれ専門医によるチームが24時間体制で対応。初期研修(2年間で28人)後、名市大カリキュラムに準じた脳神経外科専修医では、あらゆる分野の指導医がサブスペシャリティ取得を前提とした指導を行う。
- 5) 手術室、病棟、外来で診療チームに加わり、診察の仕方、検査方法、検査計画、治療計画の進め方を学ぶとともに、週一回のカンファレンスに参加してもらう。可能な行為については実践、協力していただく。救急医指導下の救急当直、ICUの見学も可能であり、学生用宿泊施設の準備がある。
- 6) 実習スケジュール
火曜日 血管内手術 水曜日 観血的手術 木曜日 カンファレンス
金曜日 脳血管撮影

開講年度	2021年1月～2021年11月
科目名	産科婦人科
専門・教養	専門
担当教員	杉浦真弓、尾崎康彦、鈴森伸宏、佐藤 剛、北折珠央、西川隆太郎、後藤志信、間瀬聖子、澤田祐季、松本洋介、小川紫野、吉原紘行、伴野千尋、小島龍司
講義期間・曜日・時限	BSL予定表に準ずる

授業目的	<p>①(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。</p> <p>②(産科婦人科)婦人科学は性成熟期の女性の性器疾患の治療を目的として発展した学問であるが、女性の一生を考えた場合、胎生期の性の決定から幼児期、思春期や性成熟期、さらには更年期、老年期までが対象となる。産科学は女性の性機能の中でも特に妊娠現象との関連の中で体系化された学問で、妊娠、分娩や産褥期の変化は生理的現象であり決して疾病ではないが、容易に異常に移行しやすく、内科的な疾病をはじめ種々の合併症を伴うこともまれではない。また、診療の対象となるのは患者本人だけでなく胎児および新生児も含まれる。</p> <p>産科婦人科学の対象は広範囲で、その修得には幅広く深い知識が要求される。教育の目的は、基礎医学の中で修得した女性生殖器の解剖、生理学、生化学や病理学の知識をもとに、基本的な産科婦人科学の知識を加え、さらに進歩の著しい新しい知見を加えながら対処するスキルを実際の診療に参加しながら修得することをである。</p>
学習到達目標	<p>①【BSL終了時にできるようになってほしい行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識：正常な産科(妊娠、分娩と産褥期)と婦人科の基本的な診断法・管理法を理解できる。 ・態度：女性を診察する場合において女性のライフステージや妊娠を念頭に置き、プライバシーに配慮した対応をする習慣を身に付ける。産科婦人科の診療がチーム医療であることを体現できる。 ・技能：主な産科婦人科疾患の症候や病態を理解した上で診察し、診断と治療計画の立案及び実施に参加できる。 <p>②【該当するモデルコアカリ】</p> <p>A-1-2)患者中心の視点、A-4-1)コミュニケーション、A-4-2)患者と医師の関係、A-5-1)患者中心のチーム医療、D-10)妊娠と分娩、E-1-1)遺伝医療・ゲノム医療、E-2)感染症、E-3)腫瘍、E-7-1)胎児・新生児、E-8-1)加齢と老化、F-1-11)浮腫、F-1-20)腹痛、F-1-21)悪心・嘔吐、F-1-25)腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍、F-1-26)貧血、F-1-30)月経異常、F-1-31)不安・抑うつ、F-2-6)内視鏡を用いる診断と治療、F-2-7)超音波を用いる診断と治療、F-3-5)-(5)身体診察 腹部、F-3-6)-(3)基本的臨床手技 外科手技、G-2-20)腹痛、G-2-21)悪心・嘔吐、G-2-25)腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍、G-2-26)貧血、G-2-30)月経異常、G-2-31)不安・抑うつ、G-3-3)外科手技、G-4-1)-(4)産婦人科</p> <p>③必ず学ぶべき症候・手技</p> <p>【必ず学ぶべき症候】ショック、腹痛、悪心・嘔吐、腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍、月経異常</p> <p>【必ず学ぶべき手技】診察録(カルテ)作成、妊娠反応検査、無菌操作、手術・手技のための手洗い、ガウンテクニック、術前・術中・術後管理</p>
授業概要	<p>実習項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予診のとり方 2. シミュレーターを用いた内診法及び分娩助法 3. 超音波検査、子宮卵管造影法、子宮鏡、腹腔鏡などの診断法、治療法 4. 手術見学、術後管理、産科救急、産科麻酔 5. 産婦人科チーム医療 6. 担当症例のプレゼンテーション
授業計画	<p>①学内実習：「産科婦人科 BSL予定表」を参照</p> <p>②学外実習：「学外病院情報」を参照</p>
成績判定基準	<p>実習態度、学習到達目標達成へ向けての意欲や努力、ケースレポート、学習到達目標の習得の程度などにおける評価をもとに総合的に判定する。</p>
テキスト及び参考文献	<p>テキスト：「プリンシプル産科婦人科学 産科編・婦人科編」 メディカルビュー 第3版、 「病気がみえる vol.10 産科」 MEDIC MEDIA 第4版、 「病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科」 MEDIC MEDIA 第4版、 講義での配付資料</p> <p>参考文献：テキストにあげられている参考文献、実習中に紹介された書籍、文献</p>
BSLにかかる諸注意	<p>集合時間は厳守のこと。遅刻者は欠席扱いとする。</p> <p>遅刻、欠席する場合は、本人自ら当日8:30までに下記連絡先に連絡すること。</p> <p>医療現場に立つ社会人としてふさわしい、清潔な身だしなみ、謙虚で誠意ある態度、丁寧でわかりやすい礼節を備えた言葉遣いで、敬意を持って患者や指導医に接すること。</p>
オフィスアワー・連絡先	<p>担当教員：佐藤 剛、北折珠央</p> <p>産科婦人科 医局 853-8241 (内線8241) e-mail : og.sato@med.nagoya-cu.ac.jp</p> <p>平日 8:00 - 17:00</p>
実務経験を活かした教育の取組	<p>医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。</p>
備考	<p>実習中は、積極的に診療に参加し、経験した診療手技を正しく吸収・修得できるよう、疑問点は些細なことも含め担当医師に常に確認するように努めること。</p>

産科婦人科 M5 BSL 予定表

		学内スタート 婦人科⇒産科コース	学内スタート 産科⇒婦人科コース
第1週 目 月	AM	9:00 西棟 臨床シミュレーションセンター集合 オリエンテーション(杉浦)～ミニレクチャー「産婦人科の予診の取り方」(外来予診室:8診、9診)(濱田)	
	PM	13:00 子宮卵管造影(外来) 14:00 分娩介助・超音波検査(西棟 臨床シミュレーションセンター・野村、小笠原)	14:00 分娩介助・超音波検査(西棟 臨床シミュレーションセンター・野村、小笠原)
1週目 火	AM	9:00 8階南病棟 Dr実習室集合 教授回診 回診後 予診(外来8、9診)	9:00 8階南病棟 Dr実習室集合 教授回診 病棟実習(8階北病棟)
	PM	病棟実習(8階南病棟) 13:30 コルポスコピー、ヒステロスコープ(外来7診)	病棟実習(8階北病棟) 16:00 周産期カンファランス(NIGU Drカンファランス室)
1週目 水	AM	8:00 8階南病棟 Dr実習室集合 手術症例検討 手術(5階中央手術部)	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)
	PM	手術(5階中央手術部)	手術(5階中央手術部)
1週目 木	AM	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)	9:00 8階北病棟集合 病棟実習
	PM	13:30 コルポスコピー、ヒステロスコープ(外来7診) 15:00 「婦人科内視鏡」(西棟 臨床シミュレーションセンター・東部医療センター 村上)	13:00 羊水検査(外来11診) 15:00 「婦人科内視鏡」(西棟 臨床シミュレーションセンター・東部医療センター 村上)
1週目 金	AM	8:30 8階南病棟あるいは手術室集合 手術(5階中央手術部)	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)
	PM	手術(5階中央手術部)	手術(5階中央手術部)
2週目 月	AM	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)
	PM	病棟実習(8階北病棟)	病棟実習(8階南病棟) 13:00 子宮卵管造影(外来) 16:00 放射線科カンファランス(外来棟2階 画像診断室)
2週目 火	AM	9:00 8階南病棟 Dr実習室集合 教授回診 病棟実習(8階北病棟)	9:00 8階南病棟 Dr実習室集合 教授回診 回診後 予診(外来8、9診)
	PM	病棟実習(8階北病棟) 16:00 周産期カンファランス(NIGU Drカンファランス室)	病棟実習(8階南病棟) 13:30 コルポスコピー、ヒステロスコープ(外来7診)
2週目 水	AM	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)	8:00 8階南病棟 Dr実習室集合 手術症例検討 手術(5階中央手術部)
	PM	手術(5階中央手術部)	手術(5階中央手術部)
2週目 木	AM	9:00 8階北病棟集合 病棟実習	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)
	PM	13:00 羊水検査(外来11診) 病棟実習(8階北病棟)	13:30 コルポスコピー、ヒステロスコープ(外来7診) 病棟実習(8階南病棟)
2週目 金	AM	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)	8:30 8階南病棟あるいは手術室集合 手術(5階中央手術部)
	PM	手術(5階中央手術部) 学外実習先の病院へ連絡、スケジュール確認	手術(5階中央手術部) 学外実習先の病院へ連絡、スケジュール確認
3、4週目	学外病院にて実習		
4週目 金	PM	15:00 BSL総括(鈴森、佐藤) (西棟 臨床シミュレーションセンター)	

産婦人科BSLでは2週間学内実習、2週間学外実習を行います。学外実習に行く週の金曜日に実習担当責任者に電話連絡してください。

【学内実習の注意事項】実習開始時に個々の学生に指導医師が割り振られます。1日1回は自分の指導医師に連絡を取り、実習内容等につき相談して下さい。

第1週産科・第2週婦人科と第1週婦人科・第2週産科の2グループに分かれます。

分娩や緊急手術を優先して見学しましょう。

妊婦健診、子宮卵管造影検査、コルポスコピー、ヒステロスコープ、羊水検査は必ず見学できるよう2週間の中で調整しましょう。

コルポスコピー、ヒステロスコープは週によっては予定がないこともあります。確認して見学しましょう。

担当患者には、できるだけ毎日症状の変化等について話を聞き、カルテ記載をしましょう。病室訪問前に主治医に確認をするようにしましょう。

【学外実習】実習病院	実習担当責任者	連絡先
名古屋市立東部医療センター	小島 和寿	052-721-7171 (内線 6921)
名古屋市立西部医療センター	西川 尚実	052-991-8121
一宮市立市民病院	佐々 治紀	0586-71-1911
江南厚生病院	樋口 和宏	0587-51-3333
海南病院	鷺見 豊、和田 鉄也	0567-65-2511
豊川市民病院	保條 脱彦	0533-86-1111 (内線 7073)

産科婦人科 M5 BSL 予定表

		学外スタート 婦人科⇒産科コース	学外スタート 産科⇒婦人科コース
第1週目 月	AM	9:00 西棟 臨床シミュレーションセンター集合 オリエンテーション(杉浦)～ミニレクチャー「産婦人科の予診の取り方」(外来予診室:8診、9診)(濱田)	
	PM	14:00 分娩助介・超音波検査(西棟 臨床シミュレーションセンター・野村、小笠原)	
1,2週	学外病院にて実習		
3週目 月	AM	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)
	PM	病棟実習(8階南病棟) 13:00 子宮卵管造影(外来) 18:00 放射線科カンファランス(外来棟2階 画像診断室)	病棟実習(8階北病棟)
3週目 火	AM	9:00 8階南病棟 Dr実習室集合 教授回診 回診後 予診(外来8、9診)	9:00 8階南病棟 Dr実習室集合 教授回診 病棟実習(8階北病棟)
	PM	病棟実習(8階南病棟) 13:30 コルポスコピー、ヒステロスコーピー(外来7診)	病棟実習(8階北病棟) 18:00 周産期カンファランス(NICU Drカンファランス室)
3週目 水	AM	8:00 8階南病棟 Dr実習室集合 手術症例検討 手術(5階中央手術部)	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)
	PM	手術(5階中央手術部)	手術(5階中央手術部)
3週目 木	AM	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)	9:00 8階北病棟集合 病棟実習
	PM	13:30 コルポスコピー、ヒステロスコーピー(外来7診) 15:00 「婦人科内視鏡」(西棟 臨床シミュレーションセンター・東部医療センター 村上)	13:00 羊水検査(外来11診) 15:00 「婦人科内視鏡」(西棟 臨床シミュレーションセンター・東部医療センター 村上)
3週目 金	AM	8:30 8階南病棟あるいは手術室集合 手術(5階中央手術部)	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)
	PM	手術(5階中央手術部)	手術(5階中央手術部)
4週目 月	AM	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)
	PM	病棟実習(8階北病棟)	病棟実習(8階南病棟) 13:00 子宮卵管造影(外来) 18:00 放射線科カンファランス(外来棟2階 画像診断室)
4週目 火	AM	9:00 8階南病棟 Dr実習室集合 教授回診 病棟実習(8階北病棟)	9:00 8階南病棟 Dr実習室集合 教授回診 回診後 予診(外来8、9診)
	PM	病棟実習(8階北病棟) 18:00 周産期カンファランス(NICU Drカンファランス室)	病棟実習(8階南病棟) 13:30 コルポスコピー、ヒステロスコーピー(外来7診)
4週目 水	AM	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)	8:00 8階南病棟 Dr実習室集合 手術症例検討 手術(5階中央手術部)
	PM	手術(5階中央手術部)	手術(5階中央手術部)
2週目 木	AM	9:00 8階北病棟集合 病棟実習	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)
	PM	13:00 羊水検査(外来11診) 病棟実習(8階北病棟)	13:30 コルポスコピー、ヒステロスコーピー(外来7診) 病棟実習(8階南病棟)
4週目 金	AM	9:00 外来集合 予診(外来8、9診)または妊婦健診(外来4、5診)	8:30 8階南病棟あるいは手術室集合 手術(5階中央手術部)
	PM	15:00 BSL総括(鈴森、佐藤) (西棟 臨床シミュレーションセンター)	

産婦人科BSLでは2週間学内実習、2週間学外実習を行います。学外実習に行く前の週の金曜日に実習担当責任者に電話連絡してください。

【学内実習の注意事項】実習開始時に個々の学生に指導医師が割り振られます。1日1回は自分の指導医師に連絡を取り、実習内容等につき相談して下さい。

第1週産科・第2週婦人科と第1週婦人科・第2週産科の2グループに分かれます。

分娩や緊急手術を優先して見学しましょう。

妊婦健診、子宮卵管造影検査、コルポスコピー、ヒステロスコーピー、羊水検査は必ず見学できるよう2週間の中で調整しましょう。

コルポスコピー、ヒステロスコーピーは週によっては予定がないこともあります。確認して見学しましょう。また、開始時間が13:30のこともありますので、担当者に確認
担当患者には、できるだけ毎日症状の変化等について話を聞き、カルテ記載をしましょう。病室訪問前に主治医に確認をするようにしましょう。

【学外実習】実習病院	実習担当責任者	連絡先
名古屋市立東部医療センター	小島 和寿	052-721-7171 (内線 6921)
名古屋市立西部医療センター	西川 尚実	052-991-8121
一宮市立市民病院	佐々 治紀	0586-71-1911
江南厚生病院	樋口 和宏	0587-51-3333
海南病院	鷲見 豊、和田 鉄也	0567-65-2511
豊川市民病院	保藤 説彦	0533-86-1111 (内線 7073)

産科婦人科 学外病院情報

学外実習病院の基本情報

- 1) 病院名、診療科名
- 2) 病院長、学外実習指導責任者
- 3) 受け入れ学生人数
- 4) 病院の特徴
- 5) 実習方法の方針
- 6) 実習初日の集合場所、集合時間

- 1) 名古屋市立東部医療センター 産科婦人科
- 2) 病院長：村上信五
学外実習指導責任者：院長代行 村上 勇
- 3) 1名
- 4) 婦人科腫瘍、内視鏡手術を中心として一般的な婦人科疾患に対する手術治療、周産期管理まで、産科婦人科疾患を幅広く経験、研修できる病院である。心臓血管センター・脳血管センターを有し、内科・外科が2次救急を行っているため救急疾患の症例も多数経験できる。
- 5) 午前中は外来診療、病棟回診を主治医らが交代で行っており、バランスよく経験できるように配置を考える。午後は手術が多く、可能な限り手術に参加する。また、分娩があれば、分娩見学・実習を行う。
- 6) 6階東病棟 9:00

- 1) 名古屋市立西部医療センター 産婦人科
- 2) 病院長：桑原義之
学外実習指導責任者：第一産婦人科部長 荒川敦志
- 3) 2名
- 4) 名古屋医療圏、尾張中部医療圏を網羅する地域周産期母子医療センターとして、小児科と一体となり、地域の周産期医療施設との連帯を図っている。そのため産科症例が多いのが特徴となっている。
- 5) 以下の内容についてできるだけ多く経験できるように実習期間中の症例を割り当てる。また毎週行われる症例検討会にも参加してもらい診療について理解が深まるようにしている。また本院の特性上、優先して分娩見学できるように配慮している。

<外来実習>

問診、カルテ記載法、診察見学、双手診、膣鏡診、膣部細胞診検査、婦人科疾患の超音波診断法(経腹法、経膣法)、コルポスコピー、妊婦診察(外診法、双手診法、超音波断層

法による胎児発育の評価、分娩監視装置によるノンストレステストの実施と診断)

<婦人科>

手術前患者の診察法、手術前検査、処置、手術手洗い、手術助手(術野の消毒と無菌的管理、骨盤内臓器解剖学、手術手技および手術術式の理解)

<産科>

妊産婦の診察法(外診法と双手診;先進部の確認、子宮口の開大度、先進部の下降度など)、分娩監視装置の装着と記録波形の診断、分娩見学、会陰切開縫合術、新生児蘇生術、産科手術見学と手洗い(流産手術、頸管縫縮術、鉗子手術、帝王切開術)、褥婦の診察、新生児診察

6) 2階管理課事務室前 8:45

1) 一宮市立市民病院 産婦人科

2) 院長：松浦昭雄

学外実習指導責任者：産婦人科部長、診療局長、周産期母子医療センター長
佐々治紀

3) 1名

4) 尾張西部医療圏の中核病院であり、地域周産期母子医療センターとして、小児科と協力し地域の周産期医療を担っている。また、婦人科においても悪性腫瘍から良性疾患まで、腹腔鏡下手術やロボット支援下手術を中心とした手術を行っている。

5) 分娩見学・介助、帝王切開術や婦人科手術への助手としての参加、妊婦健診での胎児エコー実践等を中心に実習を行い、常に2~3名の症例を担当し随時主治医とカンファレンスを行う。

6) 地下1階管理課 8:10

1) 江南厚生病院 産婦人科

2) 病院長：河野彰夫

学外実習指導責任者：副院長、周産期母子医療センター長 樋口和宏

3) 1名

4) 地域周産期母子医療センターに指定されており、周辺の病院、診療所からの母体搬送を受け入れている。自然分娩を基本として母乳哺育・母児同室を推進し、骨盤位や帝王切開既往妊娠に対しても適応をクリアすれば経膈分娩を行っている。血液疾患・甲状腺疾患・糖尿病・腎疾患などの合併症妊娠に対しては、専門内科と連携をとりながら診療に当たっている。婦人科では悪性腫瘍手術のほか、良性疾患・腫瘍においては手術侵襲を少なくするため、積極的に内視鏡下手術を取り入れている。不妊症外来では、一般不妊検査、排卵誘発、人工授精、体外受精・胚移植を行っている。

5) 臨床経験豊富な産婦人科常勤医師 10 名（うち日本産科婦人科学会専門医 6 名）が、学生の指導に当たっており、産婦人科疾患の問診のすすめ方、内診、超音波検査、妊婦健診を教え、手術においては学生を第 2 助手として手術に参加させている。

6) 3 階医局会議室 8 : 30

1) 海南病院 産婦人科

2) 院長：奥村明彦

学外実習指導責任者：産婦人科代表部長 鷺見整

産婦人科部長、地域周産期母子医療センター長 和田鉄也

3) 1 名

4) 産科では、尾張西部医療圏を中心とした地域周産期母子医療センターとして、正常分娩をはじめとし、合併症妊娠、異常妊娠などを扱っている。双胎や帝王切開既往妊娠に対しても患者の希望があり適応をみたせば経膈分娩を行っている。婦人科では地域がん拠点病院として、手術療法、抗がん剤治療、放射線治療などを精力的に行いつつ、良性疾患に対しては、できうる限る鏡視下での手術を行うようになってきている。2020 年 1 月よりロボット支援手術も始まった。不妊治療は人工授精までを行っている。臨床的に多くの経験や知識が得られると考えている

5) 常に 2 年次の初期研修医 1-2 名が研修を行っているが、先輩研修医の医師とともに有意義な臨床実習が遂行できるよう出来る限りバランス良く計画している。

6) 教育研修棟 3 階教育研修室 8 : 30

1) 豊川市民病院 産婦人科

2) 院長：松本 隆

学外実習指導責任者：産婦人科部長、診療局長 保條説彦

3) 1 名

4) 東三河医療圏における周産期医療の砦として正常妊娠、分娩から合併症妊娠、内科疾患の合併症はもとより、とくに精神疾患合併妊娠の管理は当院が中心となり管理している。近隣の産科取扱い施設の減少から、当院では産科オープンシステムを導入しており連携施設の増加が期待される。婦人科領域では腹腔鏡、子宮鏡手術を中心に悪性腫瘍手術、抗がん剤治療、緩和医療までを扱う。2019 年度から三次救急を開始し救命救急センターが開設された。

5) 午前は主に外来診療を実習して頂き午後は手術に参加して頂く。分娩は病棟担当医から連絡が入るためその都度立会いを行う。産婦人科業務の合間には当院研修医が対応し救急センターでの診療を体験する。

6) 産婦人科外来 8 : 45

開講年度	2021年1月～2021年11月
科目名	臨床実習コース・小児科・小児外科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	<小児科>：齋藤伸治(教授)、岩田欧介(准教授)、加藤文典(講師)、服部文子(講師)、戸川貴夫(講師)、伊藤孝一(助教)、青山幸平(助教)、久野正(病院助教)、岩田幸子(病院助教)、上村治(非常勤講師)、宮地泰士(非常勤講師)、岩田直美(非常勤講師) <小児外科>：近藤知史(病院准教授)、高木大輔(病院講師)
講義期間・曜日・時限	2020年1月11日～2020年11月12日、月曜～金曜、午前・午後

授業目的	<p><全科共通> 「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。モデルコアカリキュラム15-17参照。</p> <p><小児科> ①一般医として各専門領域で小児患者を診療する場合に欠かせない小児病態生理を学習するとともに、②救急医療やプライマリケアで小児科診療を行う上で必須となる小児の発育・発達、生理的特性を理解し、③病態生理、診断、治療法、そして重症児のトリアージ基準を理解する。講義で得られた知識の発展にとどまらず、患児と家族の幸せに導くために、見方・考え方を幅広く習得する。</p> <p><小児外科> 炎症と創傷治療、腫瘍、呼吸器系、消化器系、成長と発達、呼吸困難、腹痛、悪心・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、黄疸、腹部膨満・腫瘍、リンパ節腫脹、外科治療と術期管理、外科手技 少子化を迎えた社会において、子どもの診療は社会の持続可能性に関わる重大関心事である。持続可能な社会を構成するために、将来を担う小児の外科的疾患を学ぶ。</p> <p>該当する卒業時コンピテンシー 【小児科】領域：A-1-1, A-1-2, A-1-3, A-2-1, A-2-2, A-3-1, A-4-1, A-4-2, A-5-1, A-6-1, A-7-1, A-7-2, A-8-1, A-9-1, B-1-3, B-1-4, B-1-5, B-1-6, B-1-7, B-1-8, B-1-9, B-2-1, C-5-5, C-5-6, C-5-7, E-7-1, E-7-2, E-7-3, E-7-4, F-1-1, F-2-2, F-3-1, F-3-2, F-3-3, F-3-4, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-6, F-3-6, F-3-6, G-1-1, G-1-1, G-2-1, G-2-2, G-2-3, G-2-4, G-2-5, G-2-6, G-2-7, G-2-8, G-2-9, G-2-10, G-2-11, G-2-12, G-2-13, G-2-14, G-2-15, G-2-16, G-2-18, G-2-19, G-2-20, G-2-21, G-2-22, G-2-23, G-2-24, G-2-25, G-2-26, G-2-27, G-2-28, G-2-29, G-2-33, G-2-34, G-3-1, G-3-2, G-3-4, G-4-1, G-4-4 【小児外科】領域：C-4-5, C-4-6, E-3, D-6, D-7, E-7, F-1-15, F-1-20, F-1-21, F-1-22, F-1-23, F-1-24, F-1-25, F-1-27, F-2-9, G-3-3</p>
学習到達目標	<p>BSL終了時にできるようになってほしい行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識 <p><小児科> 小児診察スキル、特に言語に依存しないコミュニケーションおよび情報収集能力。 <小児外科> 糸結びを覚える。清潔野と不潔野の区別ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・態度 <p><小児科> 医師として必要な誠実な態度・清潔な身なりだけでなく、病児の緊張を和らげ、情報収集や診療へのコンプライアンスを高めるためのテクニックや姿勢。 <小児外科> 病児の子どもとその家族に対して真摯に向き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能 <p><小児科> 病児の恐怖心を最低限にする診察や検査の実施介助。病児の全身状態を総合的に判断してWell-beingを担保するスキル。A-2-1, A-3-1, A-4, A-5-1, E-7, F-1, F-3-5。 <小児外科>無菌操作を実施できる。手術や手技のための手洗いができる。手術室におけるガウンテクニックができる。術野の消毒が正しくできる。術野へ覆布を正しくかけられる。術野で糸結びが正しくできる。術野で糸切りが正しくできる。鉤を用いた術野の展開ができる。 【該当するモデルコアカリ】 <必ず学ぶべき症候> A-1-1 患者中心の視点 A-5-1 患者中心のチーム医療 B-1-3 根拠に基づいた医療 F-1-1 発熱 F-1-4 体重減少・体重増加 F-1-5 ショック F-1-10 脱水 F-1-12 発信 F-1-15 呼吸困難 F-1-24 黄疸 F-3-1 問題志向型システムと臨床診断推論 F-3-2 医療面接 F-3-3 診療録 F-3-5 小児の診察 F-3-6 救命処置 G-3-1 G-3-3 <必ず学ぶべき手技> 4-1 身体兆候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。4-2 一次救命処置を実施できる。4-3 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。糸結び、糸切り、鉤引き</p>
授業概要	<p><小児科> 外来実習：①病歴と基本診察・検査診断のプランニングと結果の重みづけ・病態推論・介入の選択、②救急処置、③追跡調査、④発達評価 病棟実習：小児科ならではの幅広い領域の疾患診療に加わることで、①疾患と関連する病態生理への理解を深め、②感染・けいれん発作・呼吸循環不全などのよく遭遇する小児の病態への診断対処法を習得できるようにする。また、担当医師の指導の下での受持ち患者の病歴聴取および病歴の診察を行い、診断のために必要な検査プランを立て、診断に至る病態のシークエンスを組み立て、治療プランを提示し、時には原疾患の治療とは直接関係のない介入をも選択することで、患児と家族が幸福の追求をすることをアシストする包括的な診療を体得する。 【学内】希少疾患・最重症疾患を行動に専門的なセッティングで管理し、目標を明確にして外来フォローアップや二次・一次施設に再びゆだねるまでのリエゾンを垣間見ることを通じて、プライマリケアと高度専門医療のつながりとトリアージ・コンサルテーション・プレゼンテーションスキルを同時に学ぶことができるように実践的なBSLを行う。学生は多職種による診療チームの一員として、その情報収集・判断・治療観察計画に責任を持つようになる。 【学外】大学のような高度専門医療機関と異なり、より地域に密着したセッティングにおいて、コモンディージーズのプライマリケアやトリアージ、予防接種や一般乳幼児健診などの予防医学および保健事業への参加を通じて、小児の健康を包括的に守るシステムを理解する。</p> <p><小児外科> 術前検査の理解と手術可否の判断。患者さんと家族への対応の仕方。手術のための手洗いとガウンテクニック。手術野での制限された助手としての役割。術後管理の理解。 【学内】外来診療の見学と所見のとおり方を実習する。病棟にて、手術目的で入院してくる患者さんとその家族に接し、手術の説明や術前診察を実習する。カンファレンスで手術症例のプレゼンテーションを行い、術前の評価を実習する。手術室で手洗いを実習する。手術の助手として手術介助を実習する。 【学外】学内実習に準ずるとともに、市中病院における診療を実習する。</p>
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
成績判定基準	<p><小児科> 問診や診察を含む情報収集能力20点・病態生理図の作成20点・診断治療プラン作成20点・プレゼンテーションおよび意見調整能力20点・診療態度及び積極性20点で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p><小児外科> 真摯に実習に参加したか、手術症例のプレゼンテーションができたか、疾患レポートについてのグループ内発表が十分にできたかを総合的に判断する。</p>
テキスト及び参考文献	<p><小児科> Nelson Textbook of Pediatrics 20th Edition Robert M. Elsevier (日本語訳第19版) 標準小児科学 第8版 内山聖監修, 医学書院 標準小児外科学 第6版 伊藤泰雄監修, 医学書院</p> <p><小児外科> 標準小児外科学 医学書院 鼠径部ヘルニアの手術 解剖と手術手技 へるす出版</p>
BSLにかかる諸注意	<p>医師としての心構えを理解し、節度ある身なり態度がとれる。 指導医に対し真摯な態度を守ること。 患者・家族との適切な接遇の重要性を理解する。 医療スタッフと協調・協力が円滑にできる。 患者および患者家族に学生医師であることを明示すると共に、信頼されるよう誠意を持って接する。</p>
オフィスアワー・連絡先	<p><小児科>：岩田欧介 准教授 Tel:052-853-8246 E-mail: o.iwata@med.nagoya-cu.ac.jp <小児外科>：月曜、木曜、金曜の各午後、内線8231 (腫瘍・免疫外科学) PHS 3343、 E-mail: s.kondo@med.nagoya-cu.ac.jp</p>
実務経験を活かした教育の取組	参加型の実習なので、すべての患者とのかかわりが実務と直結する。 医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	教科書による学習や医師の診察・治療の見学ではなく、Student Doctorとして多職種による診療チームに加わり、率先して病児のプロブレム解決のための情報を収集し、診断・治療介入・治療効果の評価に関する議論やプランニングに加わり、自分の意見を表明できるよう、プロフェッショナル意識を持って実習に臨んでほしい。

小児科 学外病院情報

本資料に記載されている情報以外に、集合時刻・準備する物品・核施設で推奨される服装などについて確認が必要な場合、学外実習指導責任者と事前に連絡を取り（メールアドレスがある場合はこれを使用、最近実習した学生から十分な情報が得られている場合は不要）、実習先での学習が有意義なものとなるよう、最大限の準備をしてください。

また、集合時刻などはしっかり守っていただくよう、お願いします（学内では大目に見ますが、学外では絶対！）。場所がわかりにくかった、バスが遅れた、などは事前に予想するリスクであり、皆様と同年代の社会人には許容されないことがある失敗であると意識してください。

1. 学外実習病院の基本情報

- 1) 病院名、診療科名
- 2) 病院長、学外実習指導責任者
- 3) 受け入れ学生人数
- 4) 病院の特徴
- 5) 実習方法の方針
- 6) 実習スケジュール

1) あいち小児保健医療総合センター

2) センター長：伊藤 浩明、学外実習指導責任者：藤田 直也（内科部長）

3) 1名

4) あいち小児保健医療総合センターは2001年11月にオープンした小児保健医療施設で、愛知県唯一の子どものための保健医療施設です。大きな特徴の一つは保健と医療を2本の大きな柱にしていることで、病院機能だけでなく、保健にも大きなウエイトを置いており、両者が連携してさらに両部門の機能を高めています。2016年 2月には救急棟（ヘリポート、小児ER、手術室7室、小児ICU 16床）がオープンし、当センターは東海三県唯一の『小児救命救急センター』です。2016年 11月に周産期部門（産科外来、産科病棟10床、NICU 12床）がオープンしました。現在、全28科で24時間365日態勢で小児患者とそのご家族のために診療を行っています。

5) 多彩な専門疾患に対する集学的アプローチを体感していただきます。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8:20 防災センター集合 9 時 病棟回診 11 時ごろ ER	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド
火曜	8:30 PICU ラウンド 9 時 病棟回診 11 時ごろ ER	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド

水曜	8:30 PICU ラウンド 9 時 病棟回診 11 時ごろ ER	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド
木曜	8:30 PICU ラウンド 9 時 病棟回診 11 時ごろ ER	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド
金曜	8:30 PICU ラウンド 9 時 病棟回診 11 時ごろ ER	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド
土曜	8:30 PICU ラウンド 9 時 病棟回診 11 時ごろ ER	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド

1)一宮市立市民病院 小児科

2) 院長：松浦昭雄、学外実習指導責任者：三宅能成（小児科部長）

3) 1名

4) 本院は、愛知県の西北部に位置し、地域の中核病院として質の高い医療の実践を目指している。許可病床数は594床（一般病床 570床、結核 18床、感染症 6床）である。小児科医は 常勤15名（後期研修医 6名を含む）で、小児病棟44床、NICU 9床、GCU 21床（現在は12床運用）の定床を持ち、年間各々1200名前後、320名前後の入院患者を受け入れている。特にNICUは産科とともに周産期医療に力を注いでおり、尾張西部地区の地域周産期母子センターとしての役割を担っている。小児病棟では、急性疾患をはじめ、喘息・腎臓疾患・代謝疾患・心身症などの慢性疾患も多数入院しており、病棟内には院内学級（小学校・中学校）を併設している。また当院は3次救急病院に指定されており、小児救急にも対応している。未熟児医療から思春期医療（さらにはトランジション）まで、高度医療・患児および家族に寄り添う医療を研修できる施設です。

5) 小児病棟では、急性疾患に加え、悪性腫瘍、喘息、腎臓疾患、心身症などの慢性疾患について学ぶことができる。院内学級（小学校及び中学校）が併設されているため、慢性管理における環境整備についても研修可能である。また当院は3次救急病院に指定されているので小児救急をはじめとして、未熟児医療などの高度医療、患者・家族の気持ちを考えた対応などを学ぶことができる。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8:15 カンファレンス 9 時 回診・一般外来	14 時 専門外来 17:30 小児病棟カンファ

火曜	8:15 カンファレンス 9時 回診・一般外来	14時 専門外来
8:15 カンファレンス	8:15 カンファレンス 9時 回診・一般外来	14時 予防接種外来 18時 準夜帯 ER 当直実習
木曜	8:15 カンファレンス 9時 回診・一般外来	14時 1か月健診 17時 NICU カンファ・抄読会
金曜	8:15 カンファレンス 9時 回診・一般外来	14時 専門外来 17時 まとめ・反省会

1) 愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院 小児科

2) 院長：奥村 明彦、学外実習指導責任者：小久保 稔（小児科部長）

3) 1名

4) 当院は愛知県の西端に位置し、海部地区および三重県の桑名市を医療圏にしています。名古屋駅からのアクセスがよく、近鉄で弥富駅まで15分程度でつき、そこから病院までは徒歩10分程度です。病床数540床、診療科目31科目とほとんどの診療科をカバーしています。

5) 研修として内科はすべてローテートでき、小児科、産婦人科、外科、麻酔科も必修になっており、まんべんなく研修できます。救急に関しては、日中は救急専門医が常駐し、手厚い指導を受けられ、症例もCommon diseaseから3次救急まで幅広く経験することができます。当直明けにはその日の症例を振り返るカンファがあり、夜間の症例をfeed backしています。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8時30分 オリエンテーション(受け持ち患者決定) 9時 一般外来	13時30分 発達外来
火曜	8時30分 部長回診	13時 病棟回診 15時30分 予防接種外来
水曜	9時 病棟回診	13時30分 抄読会
木曜	9時 病棟回診	13時30分 1ヶ月健診 15時30分 予防接種外来
金曜	8時30分 部長回診	13時 症例カンファレンス 16時30分 周産期カンファ・まとめ・反省会など

適宜、帝王切開、新生児回診、搬送などに参加していただきます。

1) 蒲郡市民病院 小児科

2) 院長：中村 誠、学外実習指導責任者：渡部珠生（小児科部長）

3) 1名

4) 当科は常勤医師4名、非常勤医師7名。年間入院数は一般小児約800名、未熟児、病的新生児約130名。蒲郡地区唯一の小児科入院施設である。当然一次から二次まであらゆる疾患への対応が要求され、開業医との連携も密である。

5) 難病など扱う大学病院などではなかなか実習できない、救急を中心としたプライマリーケアと小児メタボ対策やアレルギー疾患への対応など、健康小児科学の一端を幅広く修得していただけたら幸いと考える。加えて専門的な分野では、アレルギー性疾患のみならず、低身長を始めとする内分泌疾患、循環器疾患、腎疾患などをしっかり勉強して頂けると思う。さらには子どもの心の問題がクローズアップされている今、自閉症や心身症の子ども達への対応も発達外来で勉強して頂きたい。現場で子どもたちと密に接して、小児科医の楽しさを十分に味わっていただく予定である。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	9時 病棟開始、babyの診察、採血等 10時 一般外来	13時半 予防接種、そのまま 専門外来 17時半 症例検討会 続いて 抄読会
火曜	9時 病棟開始、babyの診察、採血等 10時 専門外来	14時 専門外来
水曜	9時 病棟開始、babyの診察、採血等 10時 一般外来	13時 アレルギーカンファレンス 13時半 乳児健診 14時半 アレルギー外来
木曜	9時 病棟開始、babyの診察、採血等 10時 一般外来	13時半 予防接種 14時半 心臓外来 18時 周産期カンファレンス
金曜	9時 病棟開始、babyの診察、採血等 10時 一般外来	14時半 専門外来

1) 岐阜県立多治見病院 小児科

2) 院長：近藤 泰三、学外実習指導責任者：荒川 武（小児科部長）

連絡先 arakawa-takeshi@tajimi-hospital.jp

3) 1名

4) 岐阜県東濃地域の基幹病院で全575床。結核病床、精神科病床あり。基幹病院ならではの多種多様な

症例があります小児科スタッフ10名（小児科専門医8名）＋毎月初期研修医1名。NICU9床、GCU11床
小児科23床で24時間患者受け入れをしています。小児科病棟の入院患者数は季節変動大で、病床利用率50%～80%。NICUは利用率80%以上です。食物負荷試験は毎週行っています。

5) 地域医療の要として、プライマリケア・救急医療・新生児医療・在宅医療など、幅広く研修することができる。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8時半 ガイダンス 9時 一般外来	13時 1か月検診 15時 カンファレンス
火曜	9時 一般外来	14時 心臓外来
水曜	9時 病棟回診→一般外来	14時 内分泌外来 またはアレルギー外来 (選択)
木曜	7時半 産科小児科カンファレンス(隔週) 8時半 NICU 回診→ 一般外来	14時 慢性外来
金曜	9時 一般外来	13時 カンファレンス→NICU 検診

* 学生に PHS 貸与。イベントあれば声かけます

イベント＝帝王切開・新生児搬送・食物負荷試験・救急車・その他 随時 ミニ講義

1) 小牧市民病院 小児科

2) 院長：谷口健次、学外実習指導責任者：田中秀典（小児科部長）

3) 1名

4) 当院は尾張北部の3次救急を担う病院です。救急車受け入れも県内で有数です。尾張北部だけでなく名古屋市内からの救急患者も受け入れています。2019年5月には新病院での診療が開始されます。地域の医療機関から多数の患者さんをご紹介いただいています。common disease から3次救急として来院する重症患者さんまで幅広い経験をすることができます。新病院ではNICUも増床し、新生児医療にも一層力を入れています。

5) 軽症から重症の幅広い範囲の様々な小児疾患を経験することが可能である。地域周産期母子医療センターに指定されておりNICU入院児のケアも学ぶことができる。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	9時 一般外来 10時半病棟回診	14時 乳児健診

火曜	9時 一般外来 10時半病棟回診	14時 専門外来
水曜	9時 一般外来 10時半病棟回診	14時 乳児健診 16時 カンファレンス
木曜	9時 一般外来 10時半病棟回診	14時 予防接種
金曜	9時 一般外来 10時半病棟回診	14時 専門外来 16時 まとめ・反省会

1) 市立四日市病院 小児科

2) 院長：一宮 恵、学外実習指導責任者：坂 京子（小児科部長）

3) 1名

4) 総病床数は568床。三重県北部（北勢地域）の中核病院として、地域支援病院、救急救命センター、総合周産期母子センター等の指定を受けています。小児科常勤医11名（内、女性医師は4名）、小児科病床数：43床（NICU9床、GCU12床、一般小児22床）、小児科入院患者数は年間約1100名（内、NICU病棟への入院は270名程）です。四日市市内だけでなく北勢地域全域から救急搬送や紹介があり、小児の急性疾患から慢性疾患まで症例は非常に豊富です。NICU入院児の約3/4が院内出生（母体搬送を含む）ですが、院外からの要請に対しては新生児搬送も行っています。少子化で小児患者数は全体的には減少傾向にありますが、医療の進歩により当院でも特殊治療や医療的ケアを必要とする児は年々増加しています。

5) 地域での小児医療の現状を実感していただくには良い病院です。ぜひ実習や見学にお越しください。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8:30 朝ミーティング 8:45 NICU 採血 病棟回診・チームカンファ 外来	14:00 小児病棟カンファ・回診 15:30 予防接種
火曜	8:00 抄読会 8:45 NICU 採血 病棟回診・チームカンファ 外来	14:00 乳児検診 16:00 周産期カンファレンス(隔週)
水曜	8:30 朝ミーティング 8:45 NICU 採血 病棟回診・チームカンファ 外来	14:00 外来心エコー 病棟回診
木曜	同上	14:00 NICU 外来 病棟回診
金曜	同上	14:00 NICU カンファ・回診

1) 聖隷浜松病院 小児科・総合周産期母子医療センター新生児科

2) 院長：岡 俊明、学外実習指導責任者：大呂陽一郎（小児科部長）、大木 茂（新生児科部長、総合周産期母子医療センター長）

3) 一般小児コース1名・新生児コース1名

4) 当院は地域医療支援病院で、地域の医療機関との連携による安全で良質な医療の実践を目指しています。一般病棟 628 床、救命救急センター（ICU 12 床／救命救急病棟 18 床）、総合周産期母子医療センター（MFICU 15 床／NICU 21 床／GCU 20 床）、小児病棟 36 床で構成されています。運営方針として下記の 5 点を挙げています：望まれる良質な医療を提供します、地域社会とのつながりを大切にします、良い医療人を育てます、働きやすい環境を作ります、健全な経営を継続します。2018 年には JCI（国際的医療機能評価機関）、2017 年には日本医療機能評価機構指定病院の認証を取得しています。周産期部門は静岡県総合周産期母子医療センターに指定されており、地域の周産期医療機関、療育機関、行政機関との連携による安全で良質な医療の実践を目指しています。年間分娩数は 1800 名程度、新生児専用ドクターカーを持ち年間 280 回程度の緊急出動があります。

5) 新生児および小児の高度専門医療に加え、救命救急センターの指定を受けた ER を有するため、1 次救急から 3 次救急までの実習が可能である。新生児コースでは多職種チームによる新生児高度救急医療に加え家族を支える Family centered care、well-baby care と育児支援、NICU 退院児の健やかな成育を目指すフォローアップなどに触れることができます。

6) 下表参照

A: 一般小児コース

	午前	午後
月曜	8 時 カンファレンス 9 時 病棟回診、一般外来	14 時 カンファレンス 14 時 専門外来、乳児健診、予防接種 17 時 病棟回診
火曜	8 時 カンファレンス 9 時 病棟回診、一般外来	14 時 カンファレンス 14 時 専門外来 17 時 病棟回診
水曜	8 時 抄読会、カンファレンス 9 時 病棟回診、一般外来	14 時 カンファレンス 14 時 専門外来、乳児健診、心カテ 17 時 病棟回診
木曜	8 時 カンファレンス 9 時 病棟回診、一般外来	14 時 カンファレンス、心カテ 17 時 病棟回診
金曜	8 時 カンファレンス 9 時 病棟回診、一般外来	14 時 カンファレンス 14 時 専門外来、乳児健診、予防接種 心カテ 17 時 病棟回診

B: 新生児コース

	午前	午後
月曜	8時半 申し送り 9時 病棟回診、新生児回診	12時半 カンファレンス 14時 乳児健診、病棟回診 17時 申し送り
火曜	8時半 申し送り 9時 病棟回診、新生児回診	12時半 多職種合同カンファレンス 14時 フォローアップ外来、病棟回診 17時 産科新生児科合同カンファレンス
水曜	8時半 申し送り 9時 病棟回診、新生児回診	12時半 カンファレンス 14時 医ケア児外来、病棟回診 17時 申し送り
木曜	8時半 申し送り 9時 病棟回診、新生児回診	12時半 カンファレンス 14時 フォローアップ外来、病棟回診 17時 申し送り
金曜	8時半 申し送り 9時 病棟回診、新生児回診	12時半 カンファレンス 14時 病棟回診 17時 申し送り (17時半 有志輪読会)

* 昼休みを使って週1回程度不定期に勉強会（学会報告、疾患学習、若手からの企画提案、…など学術的なものに限らずなんでもありのプレゼン大会）

* 新生児救急出動、緊急分娩立会いなどは日常的にあり帯同可能。

1) 聖霊病院 小児科

2) 院長：平林憲之、学外実習指導責任者：今峰浩貴（第一小児科部長）

3) 1名

4) 当院小児科では新生児医療を中心に地域医療に貢献していくことを目指しており、地域周産期母子医療センターとしてNICU病床6床、GCU病12床を有し、医師同乗のもと救急車ででの新生児搬送受け入れを行っています。外来では一般小児外来の他、NICU退院後の発達外来や、アレルギー外来、神経外来、循環器外来、内分泌外来などの専門外来を開設し、NICU退院後の成長も見守っています。

アレルギー分野では、アレルギー専門医教育研修認定施設として食物経口負荷試験を積極的に行っています。

5) 病院の規模は大きくないが、日常診療から専門分野まで、網羅的に現場研修を行うことができる。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8時30分 病棟回診	病棟業務 16時産科カンファ

		17時当直申し送りプレゼン
火曜	8時 NICU 採血 9時 一般外来	14時 専門外来 or 病棟業務 17時当直申し送りプレゼン
水曜	8時 抄読会 8時30分 回診	14時 アレルギー外来 17時当直申し送りプレゼン
木曜	8時 NICU 採血 9時 食物負荷試験	14時 予防接種外来 17時当直申し送りプレゼン
金曜	8時 NICU 採血 8時30分 回診	14時 専門外来 or 病棟業務 16時 まとめ ふりかえり

1) 聖隷三方原病院 小児科

2) 院長：荻野 和功、学外実習指導責任者：木部 哲也（副院長・小児科部長）

3) 1名

4) 浜松市北部に位置する地域拠点病院。病床数は934床（一般810床、精神104床、結核20床）と静岡県内で最大であり、超急性期から慢性期まで幅広く対応している。ほとんどの診療科が揃っており、ドクターヘリを擁する高度救急救命センター、ホスピス、おおぞら療育センター（重症心身障害施設）、嚙下りハビリなど他にはあまりない施設や部門を擁する。初期研修医（一学年14名）は全国津々浦々から集まり、研修医間のつながりが強い。

5) 地域からの紹介患者が多くプライマリケアから高度専門医療までバランスよく経験できる。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8時25分 申し送り 9時 一般外来、病棟	15時 カンファレンス
火曜	8時25分 申し送り 9時 一般外来、病棟	時間外外来、病棟 16時45分 申し送り
水曜	8時25分 申し送り 9時 一般外来、病棟	時間外外来、病棟 16時45分 申し送り 17時15分 周産期カンファレンス
木曜	7時45分 小児神経勉強会 8時25分 申し送り 9時 一般外来、病棟	時間外外来、病棟 16時45分 申し送り

金曜	8時25分 申し送り	時間外外来、病棟
	9時 一般外来、病棟	16時30分 NICU回診

1) 大同病院 小児科

2) 院長：野々垣浩二 学外実習指導責任者：水野美穂子（副院長、小児科部長）

3) 1名

4) 結核病床を含む404床の中規模急性期病院です。「地域最高の包括ケアネットワークを確立するために高度急性期医療を追求する」が病院の理念です。学生から初期研修医、専攻医までの教育を重視していること、各診療科の垣根が低く相談しやすい雰囲気であることが病院の特徴です。小児科は年間3000名近い入院患者があり、NICUやICU管理が必要な急性期の重症患者、気管支喘息などアレルギー疾患や様々な感染症など一般的な小児疾患以外に小児在宅医療など幅広い分野の症例を経験することができます。特に脳腫瘍など悪性腫瘍の終末期を支える医療などは当院以外ではあまり行われていません。医学生はstudent doctorとして初期研修医1年目の医師とほぼ同じプログラムで研修します。学生であっても「医師」としての自覚をもって実習を行っていただきたいと思います。

5) 実習戦略として、a 基本的な診察所見の習得～喘鳴など肺野の聴診、神経所見など全身の診察を行う、b 静脈採血 点滴 気管内挿管などの基本手技をシミュレーターを使って習得する、c 胸部単純Xp・CTの読影・超音波診断（心臓 腹部）などの画像診断の基礎知識を身につける、d 研修医、上級医とともに患者の診察を行う（Shadowing）、e 在宅で人工呼吸器管理をおこなっている児の訪問診療を経験することを掲げている。

6) student doctor のライセンスで実習に臨むので初期研修医1年目に準じた内容で実習を行う。病棟：回診（診察 バイタルチェック カルテ記載 PEWS 記載）上級医報告，検査付き添い 鎮静付き添い。手技：吸痰（喀痰培養）耳鏡で診る 胃管挿入 気管カニューレ 胃瘻挿入 帝切（新生児蘇生）NICU GCUで超音波検査 ヒール採血など。カンファランス：多職種カンファランス 退院支援カンファ参加。救急：救急センター患者診察 カルテ記載 上級医報告 治療方針決定。クリニック：予防接種センター 注射も許可されている（午前中の処置 鼻水吸引 ネブライザー 患者抑制，午後乳児健診 計測 お母さんの話を聴く，一般外来 問診をする，訪問診療に同行してカニューレ交換 経管栄養の挿入 胃瘻交換を行う）。

第1週	月	火	水	木	金
午前	病棟 田村	病棟 水野	病棟救急 南木	病棟 小早川	病棟 安井
昼 14時～	病棟検査 磯部	訪問診療 救急 岩井	予防接種 佐伯	帝切/新生児蘇生 病棟NICU 加藤	クリニック 1か月検診
第2週					
午前	クリニック 水野	病棟 山内	病棟 浅井	病棟 岩井	病棟 水野
昼 14時	救急 各務	訪問診療 病棟救急 磯部岩井	クリニック 2週間健診	帝切/新生児蘇生 クリニック 安井	総括 病棟救急 田村

上記担当で行う。

1) 豊橋市民病院 小児科

2) 院長：加藤岳人、学外実習指導責任者：村松幹司（小児科第一部長）

3) 1名

4) 一次医療から三次救急、新生児、血液腫瘍、アレルギー、内分泌、腎臓、心臓疾患といった三次医療まで、また、生まれたての超低出生体重児、さらには18歳を過ぎた慢性疾患の患者さん、在宅医療の患者さんまで、一つの病院であらゆる小児疾患に高いレベルで対応しているのが当院の特色です。そのような視点で考えると全国でも他に例を見ないほど特殊な病院といえるかもしれません。また、若手が多く活力があふれています。忙しいのは否めませんが、そんな活気のあふれている現場に触れて、一緒に診療に加わってもらいたいと考えます。

5) 本院での研修は、指定された指導医のもとで実地医療を学ぶことと、日々行われる小児科カンファレンス、周産期カンファレンス等での討論を通して、最新医療情報、医師としての倫理観、患者対応を習得することを目指している。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8時30分 カンファレンス オリエンテーション 病棟回診、 一般外来	14時 新規入院患者処置 専門外来(内分泌、腎臓) 午後からの救急患者の対応 17時30分 症例検討会
火曜	8時10分 カンファレンス 病棟回診、入院患者処置	14時 乳児健診、発達障害 17時30分 抄読会(朝の週もあります)
水曜	8時30分 カンファレンス 病棟回診、入院患者処置	14時 専門外来(アレルギー)、午後からの救急患者の対応、新規入院患者処置など 18時 準夜帯 ER 当直実習
木曜	8時30分 カンファレンス 新生児センター回診、NCPR、帝王切開・分娩立ち会い	14時 入院患者処置、専門外来(心臓) 18時 産科との合同カンファレンス
金曜	8時30分 カンファレンス 食物負荷試験 病棟回診	14時 専門外来(神経、血液) 17時30分 症例検討会、まとめ・反省会

スケジュールは学生さんの希望に添って微修正可能です。

1) 名古屋市立西部医療センター 小児科

2) 院長：栗原義之、学外実習指導責任者：伊藤康彦（小児医療センター長）

3) 1名

4) 全500床の病院で、うち小児病棟44床、NICU/GCU 36床 をしめています。そのためか新生児の入院が半数あり、バランスとしては新生児の疾患が多い傾向にあります。しかし小児科としては、アレルギー、神経、代謝、内分泌、腎臓、遺伝、血液腫瘍、新生児 の専門医がおり、多彩な患者さんを

一緒に診ることができます。小児救急は2次救急までで患者数はさほど多くはありませんが、時間内にも来院があります。また小児外科もあるため小児外科関連の疾患も勉強できます。

5) 小児2次救急への対応や日常の疾患に対する処置、検査および家族への対応を診療現場から学習する。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8:45 カンファ 9時 グループ回診	救急外来 16:45 回診+カンファ
火曜	8:45 カンファ 9時 グループ回診	救急外来
水曜	8:45 カンファ 9時 グループ回診	1か月健診 16:30 抄読会
木曜	8:45 カンファ 9時 グループ回診	12:30 カルテ回診 救急外来
金曜	8:45 カンファ 9時 グループ回診	救急外来 17時 まとめ・反省会

1)名古屋第二赤十字病院 小児科

2) 院長：佐藤 公治、学外実習指導責任者：石井 睦夫（第一小児科部長）

3) 1名（受け入れ態勢により小児1名・NICU1名まで可）

4) 本院の全ベッド数は812床で、小児病棟のベッド数は35床、NICUは35床、小児科の常勤医師数は22名です。小児の年間外来患者数30200人、年間入院数2100人で、小児病棟35床に加え、救急病棟（ICU）、ICUへの入院もあり、多くの小児科疾患を経験することができます。外来診療は、循環器、アレルギー、腎臓、血液、神経、精神、内分泌、NICUフォローアップ、遺伝、の専門外来があります。

入院診療は、循環器、アレルギー、腎臓、血液の4グループにわかれ、指導医のもと各専門疾患に加え、すべての小児疾患の診療に当たります。腎臓グループは、腎臓病総合医療センターの小児部門に位置し、小児腎移植の内科的治療、血液浄化を含めた腎泌尿器疾患すべてについて、国内有数の治療実績を誇ります。NICUは、名古屋市東部地域をカバーする総合周産期母子医療センターです。NICU15床GCU20床を有し、年間入院数450人（うち搬送入院70人）、1500g未満50人と、愛知県下有数の規模を誇り、多くの新生児疾患を経験することができます。「赤ちゃん達だけでなく、面会に来られるご家族や働くスタッフにとっても優しい光に包まれたNICU」をコンセプトとして、2013年4月にNICUを改築しました。

5) 救急救命センターの受診者数は年間39000名で、そのうち6200名を小児が占めており、あらゆる種類の小児救急疾患の診療と集中治療を研修する事が可能です（ICU23床うちPICU2床）。

6) 下表参照

A: 一般小児コース

	月	火	水	木	金	土・日
7:30 -8:00	採血 受持患者情報の把握					週末日直 (1/月)
8:00 -9:00	チーム回診 (火・金 症例検討会 月 1 回レントゲンカンファレンス)					
9:00 -12:00	病棟 初期研修医の教育 一般外来 (1 回/週) 救急外来 (随時) (火; 腎生検 水; 心臓カテーテル検査 月木; 食物負荷テスト)					
13:00 -17:00	病棟 初期研修医の教育 救急外来 (随時) 専門外来 月; 腎臓外来 火; 血液外来 水; アレルギー外来 木; 循環器外来 月木; 小児精神外来 金; NICU フォローアップ外来 予防接種外来・乳児健康診断 隔週水 (水; 膀胱造影 金; 膀胱内圧測定)					病診連携講 演会症例検 討会 (年 2 回)
16:00 -17:00	チーム回診					
18:00 -20:00		抄読会 症例 検討会				

B: 周産期コース

	月	火	水	木	金	土・日
7:30-8:00 8:00-9:00	採血 当直者からの申し送り 受持患者情報の把握 水; 周産期カンファレンス 木; NICU 抄読会					週末日直 (1/月)
9:00-12:00	NICU 初期研修医の教育 一般外来 (1 回/週) 帝王切開					周産期カンフ ァ レンス (年 1 回)
13:00-17:00	病棟 初期研修医の教育 専門外来 (同上) 予防接種外来・乳児健康診断 (同上)					NICU 同窓会 (年 1 回)
	総回診	帝王切開		帝王切開		
16:00-17:00				症例検討 会		
18:00-20:00		抄読会 症例検 討会				

2. 学外臨床実習評価項目

各科に特徴的なもののみ。ABCをつけるか、○×にするか、自己評価させるか等、各科にお任せする。

一般的評価項目は成績報告書へ

小児科選択制臨床実習評価項目

小児科一般 評価項目

実習の評価（基本項目）

	良い				悪い
(1) 実習に対する積極性（欠席日数・遅刻の有無等）	5	4	3	2	1
(2) 診療チームとの協調性（指導医・コメディカルとの対応等）	5	4	3	2	1
(3) 患者さんに接する態度（態度・言葉遣い、思いやり等）	5	4	3	2	1
(4) 基本的な知識の量	5	4	3	2	1
(5) 診療技能	5	4	3	2	1
(6) 服装・清潔度	5	4	3	2	1

実習の評価（小児科評価項目…達成できた項目にチェックをしてください）

基本的診察法

- 1) 言語性・非言語性コミュニケーションにより必要な病歴を聴取できる。
- 2) 診察を通じてバイタルサインおよび身体所見を集めることができる。
- 3) 収集した情報を重みづけ・組み立て、病態生理とともに記述できる。
- 4) 病態生理の理解に基づき、問題解決のための介入プランを立案できる。
- 5) 多職種チームの一員として病態や方針を共有し、考えを伝えられる。

検査

- 1) 検査の意味を理解し、最小の侵襲で診断・治療・児の安全担保をする検査プランを立てられる。
- 2) 検体検査を解釈し、診療チームに説明するとともに、診断治療に生かすことができる。
- 3) 画像検査を施行、あるいは画像診断や造影検査の結果を解釈し、診断治療に生かすことができる。
- 4) 臨床所見と検査所見から病態生理をとらえ、プロブレム解消プランを作成することができる。
- 5) 検査結果が示唆する仮説を整理し、診療チームに説明することができる。
- 6) 病態予測が誤りである可能性、その場合考え得る仮説を提示できる。

治療

- 1) 患児の病態に応じた輸液療法を具体的に、根拠を持って提示できる。
- 2) 患児の病態に応じた感染症治療を具体的に、根拠を持って提示できる。
- 3) 化学療法（抗ガン剤の投与方法・副作用）について理解する。
- 4) 患児の病態に応じた循環管理を具体的に、根拠を持って提示できる。
- 5) 患児の病態に応じた呼吸補助を具体的に、根拠を持って提示できる。
- 6) 救急蘇生法（薬物療法・バギング・胸骨圧迫）を理解し、実施・介助できる。
- 7) 清潔・不潔の概念を理解し、清潔操作ができる。

開講年度	2021年度
科目名	総合内科・総合診療科 BSL
専門・教養	専門
担当教員	兼松孝好・赤津裕康・川出義浩・田中創始・鈴木幹三・正木克由規・荒川和幸・大原弘隆 (他、外部施設指導教員を含む) (保健センター実習は、環境労働衛生学分野 上島通浩教授担当)
講義期間・曜日・時限	医学部 4年/5年 2週間必修

授業目的・目標	総合内科および総合診療科における、総合医療について学ぶ。 特に症候診断学や診断ストラテジーを習得するとともに、それに必要な身体診察手法などについて診療実習を通じて身に付けることを目標とする。その他、理論的な基本的診療実技について理解し、習得することを目標とする。
キーワード	臨床診断推論、カルテ記載、医療面接
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域：Ⅰa,b,Ⅱa,b,c,d,Ⅲb,c,d,Ⅳa,b,c,d
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合診療をイメージでき、それに必要な全人的な基本的診療を学び実践することができる。 ・基本的な検査所見を解釈できる。 ・診断推論に基づいた議論を行うことができる。 ・地域包括ケアについて理解できる。 ・総合内科・総合診療科について理解できる。 ・全身倦怠感、頭痛、腹痛などについて、鑑別疾患を挙げ、診断推論を考えることができる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 《F-1 診療の基本》F-1-2)全身倦怠感, F-1-20)腹痛, F-1-33)頭痛, 《F-2 基本的診療知識》F-2-1)臨床推論, 《F-3 基本的診療技能》F-3-1)問題志向型システムと臨床診断推論, F-3-2)医療面接, F-3-3)診療録(カルテ), F-3-4)臨床判断, F-3-5)身体診察</p>
成績評価基準	<p>秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している</p>
授業概要	<p>週間予定表は別紙に示す。 総合内科・総合診療科における講義、外来・病棟実習、2日間の学外実習により、上記学習を行う。(内容や週間予定については、年度途中で一部の改変を行う可能性があります。)</p> <p>上記とは別に、保健センターの学外実習(1日間)を行う。</p>
授業計画	<p>1グループをA・B・C・Dの4つの班に分け、A班・B班は前半2週間で救命救急センター、後半2週間で当科で実習し、C班・D班は前半2週間で当科、後半2週間で救命救急センターで実習する。</p> <p>A班とB班、C班とD班は、合同または班に分かれ、学内・学外実習を行う。</p> <p>学内実習については、基本的診療手法や理論、カルテの記載方法、基本的検査の理解と実践などを目標に実習を行う。</p> <p>学外実習については、協力地域医療施設において2日間の訪問医療・訪問看護実習を行う。 また、1日間の保健センター実習を行う。</p> <p>学外実習に基づいた「学びと考察レポート」を作成する予定である。 また、外来患者または入院患者に関する症例レポートを作成予定である。</p>
授業時間外の学修(準備学習を含む)	心電図、胸部X線などについては、履修問題を配付し、授業時間外に学習を行う。 授業内で答え合わせや質疑応答などの時間を設ける。
成績評価方法	出席とレポート、実習態度などにより総合判断する。
教科書・テキスト	・ジェネラリストのための内科診断リファレンス
参考文献	・厚生労働省HP(地域包括ケアシステム) (http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/)
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義実習について、遅刻・欠席・早退の場合には理由を付して連絡すること。 ・連絡のない遅刻・欠席・早退については最大3倍の遅刻・欠席・早退時間として算定する。 ・学生自身にとって不利益が大きいため、理由がない遅刻・欠席・早退は履修を認めない。
履修者への要望事項	・身体診察や診断学などについて、事前学習しておくことが望ましいです。
アクティブ・ラーニング	シミュレーション学習、グループディスカッションなどを多用する。
連絡先・オフィスアワー	月・火・木 12:00~13:00 連絡先: 地域医療教育学分野 兼松孝好 電話: 052-853-8527 メールアドレス: kanecore@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	実際の診療をベースとした学びを行い、実践的な学習を行う。 臨床教員が実地診療を元に講義、実習を担当する。
備考	
関連URL	

新M5 BSL 総合内科・総合診療科 プログラム 2021

星組・宙組は前半2週間は救命救急センター、後半2週間は当科 / 月組・花組は前半2週間は当科、後半2週間は救命救急センター

星組 および 月組					
1週目	月	火	水	木	金
集合時間 場所	9:45 地域医療教育学教室 (研究棟2階)		10:00 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	9:30 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	
午前	オリエンテーション (兼松) 総合診療学 (第1話 拾い上げ) (兼松)	学外実習 (訪問実習)	救急・腹部超音波検査 (田中)	内科的救急対応実習 (兼松)	学外実習 (訪問実習)
集合時間 場所	13:00 地域医療教育学教室 (研究棟2階)		13:00 包括医療支援センター (研究棟2階)	13:00 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	
午後	胸部X線の読影手順 (兼松) 基本のECG (正木) (1項目または2項目)	学外実習 (訪問実習)	カルテの書き方の作法 (赤澤)	総合診療学 (第2話 絞り込み) (兼松)	学外実習 (訪問実習) 15:00 包括医療支援センター (研究棟2階) 薬剤師からみた地域医療支援 (川出)
2週目	月	火	水	木	金
集合時間 場所	9:00 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	9:30 地域医療教育学教室 (研究棟2階)		9:45 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	8:30 内科外来 (第16診察室)
午前	総合診療学 (第3話 確かめる) (兼松)	採血手技と点滴確保のコツ (兼松)	学外実習 (保健センター)	胸部X線の問診集 答え合わせ (鈴木)	内科外来実習 (兼松・赤津・田中・荒川) (聴診器, IDカード, カルテパスワードが必要)
集合時間 場所	13:30 地域医療教育学教室 (研究棟2階)			13:30 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	
午後	基本のECG (正木) (1項目または2項目) BGAの読み方 (兼松)	ECG および 胸部X線 問診読影 (白賀)	学外実習 (保健センター)	直感的心臓超音波検査 (兼松)	内科外来実習 (兼松・赤津・田中・荒川) 15:00 地域医療教育学教室 (研究棟2階) 全体総括 (大原教授: 代行 兼松)

宙組 および 花組					
1週目	月	火	水	木	金
集合時間 場所	9:45 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	9:30 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	10:00 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	9:30 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	8:30 内科外来 (診察室16)
午前	オリエンテーション (兼松) 総合診療学 (第1話 拾い上げ) (兼松)	採血手技と点滴確保のコツ (兼松)	救急・腹部超音波検査 (田中)	内科的救急対応実習 (兼松)	内科外来実習 (兼松・赤津・田中・荒川)
集合時間 場所	13:00 地域医療教育学教室 (研究棟2階)		13:00 包括医療支援センター (研究棟2階)	13:00 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	
午後	胸部X線の読影手順 (兼松) 基本のECG (正木) (1項目または2項目)	ECG および 胸部X線 問診読影 (白賀)	カルテの書き方の作法 (赤澤)	総合診療学 (第2話 絞り込み) (兼松)	内科外来実習 (兼松・赤津・田中・荒川) 15:00 包括医療支援センター (研究棟2階) 薬剤師からみた地域医療支援 (川出)
2週目	月	火	水	木	金
集合時間 場所	9:00 地域医療教育学教室 (研究棟2階)			9:45 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	
午前	総合診療学 (第3話 確かめる) (兼松)	学外実習 (訪問実習)	学外実習 (保健センター)	胸部X線の問診集 答え合わせ (鈴木)	学外実習 (訪問実習)
集合時間 場所	13:30 地域医療教育学教室 (研究棟2階)			13:30 地域医療教育学教室 (研究棟2階)	
午後	基本のECG (正木) (1項目または2項目) BGAの読み方 (兼松)	学外実習 (訪問実習)	学外実習 (保健センター)	直感的心臓超音波検査 (兼松)	学外実習 (訪問実習) 15:00 地域医療教育学教室 (研究棟2階) 全体総括 (大原教授: 代行 兼松)

全員で学内実習	班ごとに学外実習	全員で学外実習	班ごとに学内実習
---------	----------	---------	----------

開講年度	2021年度
科目名	救急科
専門・教養	専門
担当教員	服部友紀、笹野寛、松嶋麻子、山岸庸太、今井一徳、三浦敏靖、坪内希親
講義期間・曜日・時限	M5 BSL (1/12/2021-11/12/2021)

授業目的・目標	授業目的；救急患者の重症度、緊急度を見極めるための診療手順を理解する。救急患者に必要なエコー検査を理解する。患者の状態を把握するためのデータの読み方を理解する 授業目標；救急患者の緊急度・重症度を適切に評価法と診断・治療について理解を深める
キーワード	重症度と緊急度、初期診療、多発外傷、血液ガス、輸液
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1c, 2a, 2b, 2c, 2d, 3d, 4b, 4c, 4d
学習到達目標	救急患者の症状から緊急度と重症度を適切に評価する 救急診療に役立つ超音波検査を実践する 外傷患者の標準初期診療を理解する 救急車に同乗し病院前診療の重要性を体験・理解する 救急診療の現場に参加する 【該当するモデルコアカリ】 A-1-2, A-4, A-5-1, A-7-1, C-4-4, F-1(全て), F-2-1, F-2-5, F-2-7, G-4
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	シミュレーション人形を使用した体験実習（模擬診療）を行う 実際のERで救急患者の診療に参加する 救急患者にモニター装着、酸素投与、理学的診察、エコー検査、12誘導心電図など行う 救急車に同乗し病院前診療の現場を体験する 診療を担当した症例について資料を作成（症状、診断、検査、考察）しプレゼンテーションする
授業計画	担当教員・講義予定表
授業時間外の学修（準備学習を含む）	実習前にこれまでの講義内容（BLS/ACLS、外傷診療、中毒、災害医療など）をよく復習しておくこと ER実習では診療に参加するため心電図、超音波検査、血液検査など異常値を指摘できるようにしておくこと
成績評価方法（令和元年度までの項目名称「成績評価基準」）	授業参加度、授業態度、発言頻度、質問頻度、課題への取組姿勢、実習での診療姿勢により評価する 最終日のプレゼンテーションでは内容の妥当性に加えて独自性も評価する
教科書・テキスト	救急診療指針（へるす出版）、DMAT標準テキスト（へるす出版）、JRC蘇生ガイドライン（医学書院）
参考文献	これまで講義で配布した資料を使用して復讐しておくこと
履修上の注意事項	最終日に行うプレゼンテーション資料（パワーポイントで作成）を提出すること
履修者への要望事項	2週目は学内、学外で実習になるため指導医の下で積極的に診療に参加すること 救急車同乗実習、ER実習では節度ある態度で望むこと
アクティブ・ラーニング	2週間の実習のうち、 1週目は主にグループディスカッション、シミュレーション人形を使った模擬診療（外傷の初期診療手順、エコー検査）、ロールプレイを取り入れた講義を課題別に行う（別資料参照） 2週目は学内・学外病院のERにて実際の診療に参加する
連絡先・オフィスアワー	服部友紀（はっとりともりのり） メールアドレス；thattori@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	初日は7：55に名市大病院救命救急センター医師控室に集合 名市大医学生として適切な礼節で患者・病院スタッフ・救急隊に接すること コロナ感染症の流行によっては救急車同乗実習や学外実習が中止となる可能性がある。その場合は別途指示する。
関連URL	

R3年度(1/12～11/12) 救急科BSL予定

	担当教官及び内容		備考
	AM	PM	
第1週	月	山岸／多発外傷患者の初期診療(講義) 三浦／2次救命処置(講義、模擬診療)	朝にオリエンテーション
	火	救急車同乗実習	AM8:50 各消防署(本署)の総務課庶務係に集合
	水	松嶋／救急診療の実際(講義・ロールプレイ) 救急車同乗実習	
	木	笹野／ERで必要なエコー検査(実習)	
	金	今井／輸液、血ガスについて	
第2週	月		
	火	各施設で実習(月～木) 指導医の下、救急患者の診療に参加する	病院実習についてはオリエンテーション時に確認する 実習先では指導医の指示に従って行動する
	水		
	木		
	金	坪内／症例提示～実際の症例の紹介～ 服部／症例プレゼンテーション・総括	AM9:30に医師控室に集合
備考	第1週目の月・火・木・金は朝7:55救命救急センター医師控室に集合。予定はオリエンテーション時に説明する		
	2週目は病院での実習が主となる。実習先病院については開始前に別途調整する		
	水曜日の救急車同乗実習についてはオリエンテーション時に詳細を説明する		
	第2週金曜日の症例発表は、各施設で各々が経験した症例をパワーポイントで資料を作成しプレゼンテーションする		
	希望者は当直・夜間の救命救急センター実習も可 予定は担当教官の都合などにより変更となることがある		

実習先病院
名市大病院
東部医療センター
海南病院
江南厚生病院
一宮市立市民病院
公立陶生病院

救急科 学外病院情報

救急科のBSLでは2週間のうち、

前半は学内でアクティブラーニングを取り入れた講義形式で救急診療について学び、

後半1週間は以下の病院のERで実際の診療に参加する

後半1週間のうち最終日は学内で総括・まとめを行うため月～木曜日までの4日間の実習となる

以下に、実習病院について記載する

各病院に1人、実習先病院についてはBSL開始前に決定する（事務より事前に連絡する、班で話し合
って決定すること）。

学外実習病院の基本情報

- 1) 病院名、診療科名
- 2) 病院長、学外実習指導責任者（職名を入れる。必ず、現在の職名を確認してください。）
- 3) 受け入れ学生人数（必ず記載してください）
- 4) 病院の特徴
- 5) 実習方法の方針
- 6) 実習スケジュール；既に記載のため省略 救急科BSL2週間のうち後半の4日間(月～木曜日)

1) 海南病院 救命救急センター

- 2) 病院長：奥村明彦、学外実習指導責任者 救命救急センター長 谷内仁
- 3) 1名 実習期間；1週間(月～木曜日の4日間)
- 4) 海部地区の中核病院で年間7000台の救急車を受け入れている。ドクターカー出動も行っている。外傷患者も多く多彩な症例が経験できる。ERには救急専門医が専従しており、レベルの高い指導を受けられる。
- 5) ERにて診療に参加する。実習中は指導医の指示に従う

1) 江南厚生病院 救命救急センター

- 2) 院長：斎藤二三夫、学外実習指導責任者；救命救急センター長 竹内昭憲
- 3) 1名 実習期間；1週間(月～木曜日の4日間)
- 4) H27年4月より救命救急センターに認可された。R112月に新棟が完成し救命救急センターも新しい。江南地区の中核病院で指導医は名市大救急部出身者である。
- 5) ERにて診療に参加する。実習中は指導医の指示に従う

1) 東部医療センター 救命救急センター

- 2) 病院長：村上信五、学外実習指導責任者：救命救急センター長 安藤雅樹
- 3) 1名 実習期間；1週間(月～木曜日の4日間)
- 4) 名古屋市の中心的病院として救急医療に力を入れており年間8000台の救急車を受け入れて

いる。ERには救急専門医が専従しており、学生にも積極的に診療に参加させている

5) ERにて診療に参加する。実習中は指導医の指示に従う

1) 一宮市立市民病院 救命救急センター

2) 病院長：松浦昭雄、学外実習指導責任者：救命救急センター長 山口均

3) 1名 実習期間；1週間(月～木曜日の4日間)

4) 一宮市立市民病院は尾張西部医療圏の中核病院であり、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、救命救急センターの指定を受けている。2018年10月より、緩和ケア病棟や、ハイブリッド手術室を含む手術室をはじめとした新棟が稼働。手術支援ロボットの運用も軌道に乗りつつある。救急症例は多岐に渡り多くの経験ができる

5) ERにて診療に参加する。実習中は指導医の指示に従う

1) 公立陶生病院 救命救急センター

2) 院長：味岡正純

学外実習指導責任者：救命救急センター長・心臓血管外科部長 市原利彦

3) 1名 実習期間；1週間(月～木曜日の4日間)

4) 瀬戸市の中核病院。脳血管障害を中心に急性期神経疾患の診断と治療を学ぶことができる。多彩な症例が搬送される

5) ERにて診療に参加する。実習中は指導医の指示に従う

開講年度	2021年度
科目名	臨床実習コース・放射線科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	芝本雄太、石倉 聡、富田夏夫、小澤良之、中川基生、下平政史、浦野みすぎ、川口毅恒、河合辰哉、村井太郎、永井圭一、鈴木梨津子、小川正樹、太田賢吾、橋本眞吾、真木浩行、澤田裕介、中山敬太、原眞咲
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	医療における放射線医学の役割を理解するために（目的）、放射線治療、画像診断、IVRそれぞれの基本的考え方を修得する（目標）。
キーワード	放射線治療、画像診断、IVR
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、I c、II a、II b、II c、II d、II e、IV d
学習到達目標	学習到達目標 放射線治療の基本的知識を説明できる。治療中及び治療後の患者管理を述べるができる。 画像診断：画像の成り立ちを理解し、各領域ごとに基本的読影方法を説明できる。 IVRの適応と内容、合併症・副作用を述べるができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 E-6：放射線の生体影響と放射線障害、F-2-5：放射線等を用いる診断と治療
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	講義：各領域の画像診断、放射線治療、IVR 演習：放射線治療、IVR
授業計画	【学内】 放射線医学BSLスケジュールを参照 【学外】 学外病院情報を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、参考文献等により該当箇所を予習した上で、実習に臨むこと
成績評価方法	出席（無断欠席1回につき試験判定時2点減点）と学習・実習態度、プレゼンテーションの観察記録
教科書・テキスト	
参考文献	標準放射線医学 第7版（医学書院）
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	欠席・遅刻の場合は、radon@med.nagoya-cu.ac.jpへ必ず連絡のこと。 月～金：09:00～17:00（但し事前に連絡すること） 連絡先 放射線科医局 853-8276（内線8276）担当：浦野
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

放射線科BSL *グループ

学外実習：別名簿にて事前に放射線科秘書(radon@med.nagoya-cu.ac.jp)までメールにて提出すること
 学外1：西部医療センター、東部医療センター、刈谷豊田総合病院、西川多総合病院、名古屋第二赤十字病院、春日井市民病院から選択(1病院1人まで)
 学外2：岡崎市立病院、津島市民病院、江南厚生病院、中京病院、豊川市民病院、一宮市立市民病院から選択(1病院1人まで)

学生番号 後半5-6名

学生番号 前半6名

		1月11日	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日
第1週	午前					
	午後					

		1月11日	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日
第1週	午前	9:30 病棟B1F 地下放射線部実習 芝本雄太	9:30 外来2F 読影室入口 河合英哉	9:30 外来2F 読影室入口 栗田裕介	9:30 病棟B1F 治療計画室 芝本雄太、石倉聡	9:00(時間注意！) 東棟1Fカンファレンス室 原真哉
	午後	13:30 利エリナーン、治療新患診察 今後に役立つ画像診断	13:30 外来2F 読影室入口 今後に役立つ画像診断	13:30 病棟B1F 治療計画室 村井太郎	13:30 外来2F 読影室入口 小川正樹	13:30 胸腹部造影X線実習の 基本と応用 ①

		1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日
第2週	午前					
	午後					

		1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日
第2週	午前	9:30 外来2F 読影室入口 中川基生	9:30 病棟B1F 治療計画室 富田夏夫	9:30 病棟B1F 治療計画室 石倉聡	9:30 外来2F 読影室入口 永井圭一	9:00(時間注意！) 東棟1Fカンファレンス室 原真哉
	午後	13:30 研究棟9F 放射線科医局 小澤良之	13:30 研究棟9F 放射線科医局 小澤良之	13:30 研究棟9F 放射線科医局 川口毅恒	13:30 研究棟9F 放射線科医局 小澤良之	13:30 胸腹部造影X線実習の 基本と応用 ②

		1月27日	1月28日	1月29日	1月30日	1月31日
第3週	午前					
	午後					

		1月27日	1月28日	1月29日	1月30日	1月31日
第3週	午前	9:30 病棟B1F 地下放射線部実習 芝本雄太	9:30 外来2F 読影室入口 栗田裕介	9:30 外来2F 読影室入口 河合英哉	9:30 病棟B1F 治療計画室 芝本雄太、石倉聡	9:00(時間注意！) 東棟1Fカンファレンス室 原真哉
	午後	13:30 研究棟9F 放射線科医局 小澤良之	13:30 研究棟9F 放射線科医局 今後に役立つ画像診断	13:30 研究棟9F 放射線科医局 今後に役立つ画像診断	13:30 病棟B1F 治療計画室 村井太郎	13:30 胸腹部造影X線実習の 基本と応用 ①

		2月3日	2月4日	2月5日	2月6日	2月7日
第4週	午前					
	午後					

		2月3日	2月4日	2月5日	2月6日	2月7日
第4週	午前	9:30 外来2F 読影室入口 中川基生	9:30 病棟B1F 治療計画室 富田夏夫	9:30 病棟B1F 治療計画室 石倉聡	9:30 病棟B1F 治療計画室 永井圭一	9:00(時間注意！) 東棟1Fカンファレンス室 原真哉
	午後	13:30 研究棟9F 放射線科医局 小澤良之	13:30 研究棟9F 放射線科医局 小澤良之	13:30 研究棟9F 放射線科医局 川口毅恒	13:30 研究棟9F 放射線科医局 中根神隆の画像診断	13:30 胸腹部造影X線実習の 基本と応用 ②

放射線科 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

1) 一宮市立市民病院 放射線診断科、放射線治療科

2) 病院長：松浦昭雄

学外実習指導責任者（診療局長）：村尾豪之（放射線治療科）

3) 受け入れ学生人数：隔週 1 名まで

4) 病院の特徴：一宮市立市民病院は尾張西部医療圏の中核病院であり、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、救命救急センターの指定を受けています。2018年10月より、緩和ケア病棟や、ハイブリッド手術室を含む手術室をはじめとした新棟が稼働しました。手術支援ロボットの運用も軌道に乗りつつあります。

2020年12月末現在、治療医2名、診断医5名の常勤医が勤務しており、放射線治療、画像診断、IVRを行っています。

放射線診断科は現状全検査の読影を行うことは困難ですが、初期研修医が主に対応する救急外来科の検査に対しては可及的速やかに読影を行い、重要症例の拾い上げを行っています。交通事故などの外傷や、術後合併症、産科出血などの緊急 IVR にも積極的に対応しています。

放射線治療科の特色として、2010年からリニアックに加え IMRT 専用装置であるトモセラピーを導入し、放射線治療の新患者数約 400 人/年の当地域では最大の放射線治療施設で、多くの治療経験があり、がん診療において重要な役割を果たしています。

また、バセドウ病、甲状腺癌術後外来アブレーション、骨転移などのアイソトープを用いた内用療法にも対応し実績があります。

5) 実習方法の方針：放射線診断科では診断医の指導下で診断報告書の作成や、ティーチングファイルの閲覧を行い、画像診断に必要な解剖の知識や重要疾患の画像所見を学習することができます。

IVR にも可能な限り参加し、IVR の適応や検査の流れについて理解を深めてもらいます。

放射線治療科では放射線治療が重要な役割を担う代表的疾患（限局型悪性リンパ腫、肺癌・食道癌・喉頭癌・子宮癌・前立腺癌）について、専門医の指導下で初診から診療に参加し、実際にワークステーションを操作し治療計画を作成してもらいます。

放射線診断科・治療科とも、診療を行う際に関連診療科との連携を特に重視しています。定期的開催される各科とのカンファレンスに参加することで、放射線科医が診療上で果している役割を認識することができます。

希望者は時間外の救急救命センターの見学や当直の研修医との交流も可能です。希望により見学者用の宿泊設備も利用可能です。

6) 集合場所・集合時間

初日午前 8 時 50 分に地下 1 階管理課（担当：草田さん、百瀬さん）

1) 岡崎市民病院、放射線科

2) 院長：早川文雄、学外実習指導責任者（放射線科統括部長）：渡辺賢一

- 3) 受け入れ学生人数：隔週 1 名まで。
- 4) 病院の特徴：西三河地区の中核総合病院として 680 の病床数を持ち、虚血性心疾患、大動脈疾患、脳卒中や外傷などの三次救急までを担っている。がん診療連携拠点病院として悪性腫瘍の診療、緩和ケアも充実している。CT/MRI は 24 時間稼働している。診断業務は常勤の放射線科医 5 人で CT、MRI、RI/PET の読影を担当している。電子カルテシステム、画像ネットワークの環境下で読影業務を行っている。循環器領域以外の IVR（脳血管内治療、大動脈ステントグラフト治療を含む）も行なっている。放射線治療（リニアック、トモセラピー、RALS）は常勤の放射線科医 2 人が担当している。
- 5) 実習方法の方針：実習学生にも独立した診断ブースの準備をしており指導医とともにディスカッションをしながら CT、MRI などの読影を行なう。急性腹症の読影法を学べるよう症例リストが用意されている。血管造影、IVR においてはインフォームドコンセントの段階から関わり、助手の一人として手技に参加できる。放射線治療の見学実習も行っている。各領域の様々な癌放射線治療の第一線を学べる。一般的な疾患から救急症例、稀な疾患まで症例は多岐にわたり勉強材料には事欠かないので積極的に実習に臨んでほしい。
- 6) 集合場所・集合時間：実習初日は B1F 医局受付に 8 時 30 分に集合。

- 1) 刈谷豊田総合病院、放射線科
- 2) 院長：田中守嗣、学外実習指導責任者（放射線科部長）：北瀬正則
- 3) 受け入れ学生人数：隔週 1 名まで
- 4) 病院の特徴：病床数 704 床の急性期総合病院で、症例は多岐にわたり、CT、MRI、IVR、RI、PET、単純 X 線写真等検査も豊富に担当している。救急画像診断、IVR 症例も多い。
- 5) 実習方法の方針：画像診断では、救急画像検討会や科内症例検討会などで、実践的な画像検討を行う。IVR においては、症例毎に、適応や目的を学習し、手技に参加する。放射線治療では、IMRT を含めた高度放射線治療の実際を学ぶ。
- 6) 集合場所・集合時間：6 棟 2 階 応接室・9 時 45 分

- 1) 江南厚生病院、放射線科
- 2) 院長：河野彰夫、学外実習指導責任者（放射線科代表部長）：鈴木啓史
- 3) 受け入れ学生人数：隔週 1 名まで
- 4) 病院の特徴：江南市のみならず犬山市や大口町、扶桑町を診療圏とする 684 床の総合病院で、救命救急センターがあり 24 時間体制で救急医療を提供している。災害時には地域中核災害拠点病院でもある。放射線治療装置である Tomotherapy の最新機種が稼働している。常勤の放射線科医は主に画像診断と IVR および放射線治療に従事している。実習の医学生も宿泊が可能である。
- 5) 実習方法の方針：放射線科医が担当する各種画像診断について専門医の指導の下で実習に参画してもらうことにより、臨床解剖、病態生理、鑑別診断について修得する。また血管系 IVR や非血管系 IVR などの手技と読影や病棟回診についても専門医の指導の下で実際に参画する。最新の放射線治療やがん治療全般についても常勤の放射線治療医から直接指導を受けることができる。希望者は時間外の救急、当直の見学や研修医との交流も可能である。
- 6) 集合場所・集合時間：病院 3 階の医局会議室に 8 時半集合

- 1) 春日井市民病院 放射線科
- 2) 院長：成瀬友彦、学外実習指導責任者（放射線科部長）：深谷信行
- 3) 受け入れ学生人数：隔週 1 名まで。
- 4) 病院の特徴：558 床の地域中核病院。救急医療を積極的に受け入れている。腎臓内科・循環器内科・外科症例数が特に多く、外科手術数及び手術症例のバラエティは豊富。例年臨床研修医指導にも力を入れている。放射線科としてはマルチスライス CT4 台と 1.5 テスラ MRI 2 台、3.0 テスラ MRI 1 台および IVR-CT を取り揃え、放射線診断部門は充実しており、また放射線治療設備も有する。
- 5) 実習方法の方針：豊富な救急症例画像・外科症例画像を中心とした画像診断を中心に、実践的な放射線診断学を主体とした研修をしていただく。
- 6) 集合場所：診療棟 3F 研修管理室 集合時間：午前 8:50

- 1) 公立西知多総合病院、放射線診断科、放射線治療科
- 2) 院長：吉原 基、学外実習責任者（放射線診断科部長）：上岡久人
- 3) 受け入れ学生人数：週 1 名隔週、合計 3 人まで
- 4) 病院の特徴：病床数 468 床の総合病院。旧東海市民病院と旧知多市民病院を合併し、2015 年 5 月より開設された病院で地域の急性期医療を担う中核病院として機能している。症例は多岐に渡り豊富で放射線診断科は主に CT, MRI, RI 検査の読影に従事している。2019 年 4 月より放射線治療（トモセラピー導入）が開始され、癌の集約的治療が可能となっている。
- 5) 実習の方針：指導医の下でチェックを受けながら積極的に CT, MRI の実践的な読影を行ってもらい、各科からのコンサルトの対応についても経験していただく。また放射線治療についても実習していただく。
- 6) 集合場所：病院正面入り口 集合時間：9:30 当院事務職員が対応致します。

- 1) 名古屋市立西部医療センター 放射線診断科、放射線治療科、陽子線治療科
- 2) 院長：栗原義之、学外実習指導責任者（副病院長・放射線診療センター長）：原 眞咲
- 3) 受け入れ学生人数：隔週 1 名まで（原則 M6 と重ならないように）
- 4) 病院の特徴：

当院は 500 床の総合病院であり、癌診療と周産期医療とを中心とする診療が特徴である。小児、周産期医療センターでは小児やハイリスク妊産婦の救急医療、専門医療を行っている。また、消化器・呼吸器各腫瘍センターを中心に手術療法、内視鏡的治療、放射線治療（陽子線治療、高精度放射線治療を含め）、化学療法を集学的に駆使し、関係診療科による緊密なチーム医療を実践している。いわば名古屋市がんセンターの役割を果たしている。

陽子線治療センターは、平成 25 年 3 月より稼働し、当初は前立腺癌のみであったが、対象疾患を肝癌、肺癌と拡大し、さらには骨軟部・頭頸部癌も対象に含め、現在ではすべての領域の悪性腫瘍に対象が拡大されている。小児癌ではいち早く保険適応となったため、周辺の各大学と連携を取り積極的に治療を実施している。昨年度より前立腺癌が保険適応となり患者数が急増している。今年度の目標治療者数 600 症例達成にむけて鋭意努力している。陽子線治療開始より、病院全体に肺癌、膵癌症例が増加してきている。東海三県で唯一のまた、全国的にもまれな都市型の粒子線治療施設であり、消化器・呼吸器癌のみならずすべての癌診療の拠点施設としてさらなる発展が期待される。アジア初となるスポットスキニングとそれを応用した強度変調陽子線治療（IMPT）も実施している。令和元年度の実績は、治療患者数 574 名（前立腺 338 名、肝臓 85 名、肺 57 名、頭頸部 29 名、骨軟部 11

名、膵臓1名、小児19名、その他34名)である。

通常の放射線治療件数も30件/日前後であり、IMRTにも積極的に挑戦している。豊富な症例を有しており充実した実習が可能である。実績は放射線治療患者数378名、IMRT31名(前立腺14名、その他17名)、定位放射線治療患者数53名(脳27名、肺15名、その他11名)である。

画像診断部門は、特定機能病院(大学病院やがんセンターの一部)を除いて最も基準の厳しい画像診断管理加算2を満たすのみならず、基本的に検査当日中、外来患者に対しては可能な限り1時間以内の即時読影を原則とし、臨床における最高水準のサービスを提供することを目標としている。画像診断報告書の水準向上にも積極的に取り組んでおり、subspecialtyの能力を習得し、各専門診療科からの高水準に要求に応えるべく努力を重ねている。令和元年度の診断報告書作成件数はCT37861件、MRI15635件、PET/CT939件、SPECT615件に及び、CTとMRIは開院以来増加の一途をたどっている。さらにCTの造影率は23%、MRIは19%と高く、精密検査の割合が多いことが特筆される。

interventional radiology(IVR)症例も年間436件と豊富であり、毎週8-10件程度実施しており実習症例に不足することはない。IVR専門医のもと、最新のIVR/CT装置を駆使して低侵襲かつ精密な治療、生検術、ドレナージ術、及びマーカ留置術を提供している。

5) 実習方法の方針：医学部卒業に必要な、画像診断、核医学診断、IVRおよび放射線治療の幅広い領域の診療を実際に経験することを目標とする。画像診断医9名(うち診断専門医5、IVR指導医1名、核医学専門医2名)、放射線治療医2名+陽子線治療医6名(うち治療専門医5名)計17名の放射線科常勤医を擁しており、臨床及び教育の観点からは大学病院に優るとも劣らない陣容である。緊密かつ充実した教育体制の構築を心がけている。他科とのカンファレンスも積極的に行っており、これらに参加する事により、放射線科の病院における役割、また、その重要性についての理解を深めることができる。画像診断・放射線治療実践における情報伝達の精度向上、さらに直接のフィードバックを得ることの意義を学習する。

6) 集合場所・集合時間 外来棟2階事務室・8:45-9:00

1) 独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院 放射線科

2) 院長：後藤百万、学外実習指導責任者(放射線科部長)：伊藤俊裕

3) 受け入れ学生人数：隔週1名まで。

4) 病院の特徴：名古屋市南部の663床の中核病院。5疾病(がん・脳卒中・心筋梗塞・糖尿病、精神科疾患)5事業(救急・災害・僻地・周産期・小児)を中心に、名古屋市南部、知多半島の一部の地域における急性期の総合的な病院で、症例は多岐にわたっている。放射線科は画像診断と放射線治療においていずれにも重要な役割を担っている。

5) 実習方法の方針：画像診断と放射線治療とも実習して頂く。画像診断では各種検査の適応、撮像法、手技、読影を実習して頂く。放射線治療では診察見学、適応、照射手技を実習して頂く。

6) 集合場所・集合時間 中京病院 総務企画課(8階)・9時30分

1) 津島市民病院、放射線科

2) 院長：神谷里明、学外実習指導責任者(放射線科部長)：大宮裕子

3) 受け入れ学生人数：隔週1名まで。

4) 病院の特徴：津島市のみならず愛西市や海部郡を診療圏とする地域の中核病院であり臨床研修指定病院でもある。画像診断管理加算Ⅱを取得している。常勤の放射線科医は主に画像診断と IVR に従事している。

5) 実習方法の方針：放射線科医が担当する各種画像診断について専門医の指導の下で実習に参画してもらうことにより、臨床解剖、病態生理、臨床常識、鑑別診断について修得する。検査の適応、順序、限界や造影手技についても理解する。また血管系 IVR や非血管系 IVR などの手技と読影や病棟回診についても専門医の指導の下で実際に参画する。ティーチングファイルの学習や過去の症例リストから画像をレビューすることもできる。希望者は時間外の救急、当直の見学や研修医との交流も可能である。

6) 集合場所 西病棟 2 階管理課 集合時間 午前 9 時 00 分

1) 名古屋市立東部医療センター 放射線科

2) 院長：村上 信五、学外実習指導責任者（放射線科部長）：森 雄司

3) 受け入れ学生人数：隔週 1 名まで。

4) 病院の特徴：急性期病院であり、CT、MRI など症例は急性期疾患の多数多岐に及ぶ。脳血管センターや心血管センターを設置しており、これらの領域の症例が豊富である。実習内容については画像診断の他、症例があれば大動脈ステントを含めた IVR や放射線治療の研修も行っている。

5) 実習方法の方針：指導医のもとでチェックをうけながら積極的に CT、MRI の実践的な読影を行ってもらう。血管造影や非血管系 IVR においては、助手として参加し、手技の流れや注意すべきポイントなどが学習できる。特に当院は心血管センターとして心臓血管外科と協力して血管内治療を盛んに行っており、機会があれば大動脈ステントなどの見学もできる。最新の放射線治療装置が導入されており、放射線治療専門医の元で実践的な放射線治療の修練も受けることができる。

6) 集合場所・集合時間：研修担当の庶務係（鈴木 文規）により 9 時に読影室に案内してもらう。

1) 豊川市民病院、放射線科

2) 院長：松本 隆、学外実習指導責任者（副院長兼放射線科部長）：黒野賢仁

3) 受け入れ学生人数：隔週 1 名まで。

4) 病院の特徴：各診療科と密接な連携が取れており、読影室でミニカンファレンスが頻繁に行なわれるなど、臨床病院で活躍する放射線科医の実態を見て頂くには非常に良い環境である。

5) 実習の方針：課題とされた単純写真、CT、MRI 等を自ら読影した後、指導医のチェックを受けることにより、読影の基本を学ぶことを主眼とする。希望があれば、指導医とともに超音波検査を行い、原理、手技を学ぶことや、RI、放射線治療についても、学ぶことは可能である。また、機会があれば、IVR に助手として参加し、適応症や手技を学ぶことも可能である。非常に限られた時間ではあるが、臨床の最前線における放射線科医の仕事の楽しさと画像診断の深さに気付いてもらいたい。

6) 集合場所・集合時間

3F キャリア支援センターに 9 時 30 分頃までに来てください。

（一般エレベータを使用し、3F フロアの左側のインターフォンを使用）

- 1) 名古屋第二赤十字病院、放射線科
- 2) 院長：佐藤公治、学外実習指導責任者（第一放射線科部長）：伊藤雅人
- 3) 受け入れ学生人数：隔週 1 名まで。
- 4) 病院の特徴：1. 高度先進医療、2. 救急医療、3. 病診連携、4. 研修医教育が当院の基本理念である。放射線科は画像診断と癌の放射線治療においていずれにも重要な役割を担っている。
- 5) 実習方法の方針：各種画像診断検査の適応、撮像法、手技、読影を実習して頂く。高度急性期病院における救急症例を主とした画像診断から他診療科と放射線科の関わりを学ぶ。高精度放射線治療センターでは最先端の照射手技を実習する。
- 6) 集合場所・集合時間 初日は管理棟 1 階総務課に 9:30 に集合

2. 学外臨床実習評価項目

成績報告書に沿って行う。

放射線科 学外実習名簿 () グループ

グループの代表者は、() 内に名前を記載し、期日までに、radon@med.nagoya-cu.ac.jp にメールにてお送りください。
1 病院で実習できるのは、1 名までです。

学籍番号 前半6名

第1週	大学					
第2週	大学					
第3週 (月・火・木)	西部医療センター () () () () () ()	東部医療センター () () () () () ()	刈谷豊田総合病院 () () () () () ()	西知多総合病院 () () () () () ()	名古屋第二赤十字病院 () () () () () ()	春日井市民病院 () () () () () ()
第4週 (水・木・金)	岡崎市民病院 () () () () () ()	一宮市立市民病院 () () () () () ()	津島市民病院 () () () () () ()	江南厚生病院 () () () () () ()	豊川市民病院 () () () () () ()	中京病院 () () () () () ()

学籍番号 後半5or6名

第1週 (月・火・木)	西部医療センター () () () () () ()	東部医療センター () () () () () ()	刈谷豊田総合病院 () () () () () ()	西知多総合病院 () () () () () ()	名古屋第二赤十字病院 () () () () () ()	春日井市民病院 () () () () () ()
第2週 (水・木・金)	岡崎市民病院 () () () () () ()	一宮市立市民病院 () () () () () ()	津島市民病院 () () () () () ()	江南厚生病院 () () () () () ()	豊川市民病院 () () () () () ()	中京病院 () () () () () ()
第3週	大学					
第4週	大学					

開講年度	2021年度
科目名	臨床実習コース・医療安全管理学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	戸澤啓一、松尾洋一、加藤裕史、前野 健、杉浦知範、下平政史、水野圭子、早川英子、今泉浩徳
講義期間・曜日・時限	1月15日～11月5日 第1、3金曜

授業目的・目標	(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 【該当する卒業時コンピテンシー】全て
キーワード	医療安全、医療法
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅱ a. 患者・医師関係の意義を理解し、良好な関係を築くことができる。 d. 医療情報の記録、管理を適切に行うことができる。 e. 医療における安全性を理解し、適切な危機管理ができる
学習到達目標	BSL終了時にできるようになってほしい行動 ・知識 ①実際の医療には多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。 ②医療上の事故等を防止するためには、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)はもとより、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)が重要であることを説明できる。 ③医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録(カルテ)改竄の違法性を説明できる。 ④医療の安全性に関する情報(薬剤等の副作用、薬害、医療過誤(事例や経緯を含む)、やっつけはいけないこと、優れた取組事例等)を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。 ⑤医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。 ⑥医療機関における医療安全管理体制の在り方(事故報告書、インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療廃棄物処理、医療安全管理者(リスクマネージャー)、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制度、産科医療補償制度)を概説できる。 ⑦医療関連感染症の原因及び回避する方法(院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、院内感染対策チーム(infectioncontrolteam<ICT>)、感染対策マニュアル等)を概説できる。 ⑧真摯に疑義に応じることができる。 ・態度:コミュニケーション能力の向上 【該当するモデルコアカリ】A-6-1)安全性の確保、A-6-2)医療上の事故等への対処と予防、A-6-3)医療従事者の健康と安全
成績評価基準	6 優れている(医師と違いがないレベル) 5 良い(学生としては良くできるレベル) 4 合格レベル(最低要求レベルよりは上) 3 ボーダーライン 2 不合格だが改善可能 1 明らかに不合格
授業概要	
授業計画	【学内】 医療安全の基礎知識の確認 患者相談室訪問 未承認薬適応外審査について 事例検討について
授業時間外の学修(準備学習を含む)	
成績評価方法	医療安全の基礎知識の確認、患者相談室訪問、未承認薬適応外審査について、事例検討について事例検討会での発言とレポートによる教員評価(5段階)
教科書・テキスト	医療安全管理者必携 医療安全管理テキスト 第4版(一般社団法人日本規格協会 2019)
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	月曜日～金曜日(09:00～18:00 随時) 戸澤啓一 連絡先: Tel: 858-7539, 7540 E-mail: toza@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医療安全管理室員としての経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

医療安全 BSL予定表

		月	火	水	木	金
第1週	午前					医療安全 9:00(集合) 病院3階 医療安全管理室
	午後					
第2週	午前					
	午後					
		月	火	水	木	金
第3週	午前					医療安全 9:00(集合) 病院3階 医療安全管理室
	午後					
第4週	午前					
	午後					

注意事項など

開講年度	2021年1月～2021年11月
科目名	臨床実習コース・感染制御ユニット
専門・教養	専門
担当教員	中村 敦、伊藤 旭、田中創始、柳田 剛、小川綾花、 田上由紀子、和知野千春、朝岡みなみ、近藤周平、堀 薫
講義期間・曜日・時限	第1・3週 水曜日 1～4限

授業目的	<p>①(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する ②医療行為を行う場合の感染予防対策を理解し、身につけるとともに、感染症に対する診療アプローチを学ぶ ③領域Ⅰ 科学者としての医師 b. 臨床データや文献等の情報を吟味し、その妥当性や適用の有無を決定することができる。 領域Ⅱ 臨床家としての医師 b. 医療面接や系統的な身体診察によって臨床所見や兆候を捉え、それらを解釈し、適切な検査や治療法を選択できる。 領域Ⅲ 社会における医師 b. 個人および集団の健康を規定する因子を考察し、健康増進、疾病予防の方策を立案できる。 領域Ⅳ プロフェSSIONALとしての医師 b. 多職種と協調して行動し、必要な時にリーダーシップを発揮することができる</p>
学習到達目標	<p>①BSL終了時にできるようになってほしい行動 ・知識：感染症診断、抗微生物薬治療 ・態度：他の医師、他職種との連携 ②該当するモデルコアカリ E-2 感染症：F-2-1)病態 F-2-2)診断・検査・治療の基本 F-2-3)症候 F-2-4)疾患 F-2 基本的診療知識：F-2-1)臨床推論 F-2-3)臨床検査 ③必ず学ぶべき症候・手技 ・標準予防策 ・感染経路別予防策</p>
授業概要	感染対策の基本と病院感染管理を学ぶ 感染症の診療を学ぶ
授業計画	<p>【学内】 感染症症例検討 抗菌薬・微生物ラウンド 血液疾患カンファランス 抗菌薬適正使用支援 血液培養陽性例診療支援 感染予防策実習</p>
成績判定基準	<p>実習中に与えられた課題を理解しプレゼンテーションできるかを評価する 秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
テキスト及び参考文献	<p>国公立大学附属病院感染対策協議会編：病院感染対策ガイドライン 小林寛伊他監修：感染制御標準ガイド 日本感染症学会・日本化学療法学会編：JAID/JSC感染症治療ガイド 日本化学療法学会編：抗菌薬適正使用 生涯教育テキスト</p>
BSLにかかる諸注意	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、欠席をしない ・事前に感染防止対策について学習し理解した上で、実習に臨む ・実習前半で与えた課題について学習し、実習後半でプレゼンテーションできるようにする ・得られた実習経験について、よく考察する
オフィスアワー・連絡先	<p>臨床感染制御学 中村 敦 anakamur@med.nagoya-cu.ac.jp PHS 3332</p>
実務経験を活かした教育の取組	臨床経験を持つ医師・医療職員が講義を担当する
備考	医療の基本となる感染対策を理解し実践できるように学習すること

感染制御 臨床実習予定表

		月	火	水	木	金	
第1週	午前			8:45			
				14階南病棟Dr実習室			
				中村 敦、田中創始、朝岡みなみ、近藤周平、伊藤 旭、田上由紀子			
					感染症症例検討 抗菌薬・微生物ラウンド 血液疾患カンファランス		
	午後			13:00			
				感染制御室			
			田上由紀子、田中創始、柳田 剛、小川綾花、和知野千春、堀 薫				
				感染予防策実習 抗菌薬適正使用支援 血培陽性例診療支援			
第2週	午前						
	午後						
		月	火	水	木	金	
第3週	午前			8:45			
				14階南病棟Dr実習室			
				中村 敦、田中創始、朝岡みなみ、近藤周平、伊藤 旭、田上由紀子			
					感染症症例検討 抗菌薬・微生物ラウンド 血液疾患カンファランス		
	午後			13:00			
				感染制御室			
			田上由紀子、田中創始、柳田 剛、小川綾花、和知野千春、堀 薫				
				感染予防策実習 抗菌薬適正使用支援 血培陽性例診療支援			
第4週	午前						
	午後						

注意事項など

開講年度	2021年度
科目名	臨床実習コース・病理診断科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	稲垣 宏、村瀬貴幸
講義期間・曜日・時限	第2あるいは4週月曜日、1-4時限

授業目的・目標	1. 病理診断が治療選択においてしばしば決定的な役割を果たすことを理解する。 2. 病理診断の見学・実習を行い、医師として基本的な技能を身に付ける。
キーワード	病理診断、コンパニオン診断、免疫染色
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー)との 関連	1a, 1c, 4d
学習到達目標	病理診断の過程を理解し、患者治療における病理診断の意義を把握する。 【関連するコア・カリキュラム】C-4-6)腫瘍、F-2-4)病理診断
成績評価基準	学習・実習態度により評価を行う。事前に連絡なく無断欠席・遅刻をした場合は不合格とすることもある。
授業概要	1. 診療として行われている病理診断の概要を理解する。 2. 現代医学における病理診断の重要性を理解する。 3. 病理学的技術の基本を習得する。 4. 病理診断の実際を経験する。
授業計画	【学内】 午前：病理診断 見学・実習 午後：病理診断 実習 【学外】 なし
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	病理診断における免疫染色、特殊染色の重要性について調べてくること。
成績評価方法	学習・実習態度により評価を行う。事前に連絡なく無断欠席・遅刻をした場合は不合格とすることもある。
教科書・テキスト	随時指示する。
参考文献	
履修上の注意事項	遅刻・欠席の場合は必ず連絡すること（電話：052-853-8161）。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	特になし
連絡先・オフィスアワー	臨床病態病理学 稲垣 宏 月曜日-金曜日、9:00-16:00（事前に連絡が必要）、 連絡先 052-853-8161 hinagaki@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	
備考	授業外の学習について：授業計画を確認の上、教科書の該当分野を予習したうえで、授業に臨むこと。また授業終了後には復習を行うこと。 授業当日が休日及び欠席した場合：臨床病理検討会（CPC）あるいは臨床科との合同カンファレンスへの出席およびそのレポートなどにより成績判定を行う。詳細は問い合わせること。
関連URL	

病理診断科BSL予定表

		月	火	水	木	金
第1週	午前					
	午後					
第2週	午前	集合時間: 9時00分				
		集合場所: 中央棟4階 病理診断部				
		担当教官: 稲垣				
	午後	・病理診断・技術実習				
		・まとめ				
		集合時間: 13時00分				
午後	集合場所: 中央棟4階 病理診断部					
	担当教官: 村瀬					
	・病理診断実習					
		・病理関連施設見学				
		・まとめ				
		月	火	水	木	金
第3週	午前					
	午後					
第4週	午前	集合時間: 9時00分				
		集合場所: 中央棟4階 病理診断部				
		担当教官: 稲垣				
	午後	・病理診断・技術実習				
		・まとめ				
		集合時間: 13時00分				
午後	集合場所: 中央棟4階 病理診断部					
	担当教官: 村瀬					
	・病理診断実習					
		・病理関連施設見学				
		・まとめ				

注意事項など

開講年度	2021年1月～2021年11月
科目名	【臨床実習】臨床検査科
専門・教養	専門
担当教員	菊池 祥平、李 政樹、井上 貴子
講義期間・曜日・時限	M5 BSL 第2週または第4週火曜日

授業目的	①(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 ②(臨床検査科) 1. Reversed CPCを通して、患者の病態を正しく把握するための臨床検査活用法を習得する。 2. 輸血講義から、輸血の意義と目的・適応など、実臨床に即した内容を身につける。 3. 検体検査、血液検査、遺伝子検査、微生物検査、一般検査、輸血・緊急検査、生理機能検査の見学・実習を行い、医師として基本的な臨床検査技能・知識を身に付ける。 4. 心エコー検査の実習にて、超音波検査の原理・目的と基本的な操作法を理解する。 ③該当する卒業時コンピテンシー 領域I-b、領域II-c d e、領域IV-a b d
学習到達目標	①BSL終了時にできるようになってほしい行動 ・知識：患者の病態を正しく把握できるよう、検査結果の解釈・判断ができる。 ・態度：医療スタッフそれぞれの役割を理解し、医療チームの一員として行動できる。医療スタッフを各分野の専門家として尊重し、敬意を持って接することができる。 ・技能：静脈採血、血液型判定、輸血クロスマッチなどの基本的検査手技を実施できる。心エコー検査の基本操作を実施できる。 ②該当するモデルコアカリ F-2-3) 臨床検査、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療 ③必ず学ぶべき症候・手技 血液型判定、心臓超音波検査
授業概要	1. 心臓超音波実習・中央臨床検査部内の見学と検査内容の理解(中央臨床検査部：中央診療棟2F 3F 4F、輸血部：中央診療棟1F、臨床シミュレーションセンター：西棟1F) ・検体検査、血液検査、遺伝子検査、微生物検査、一般検査、輸血・緊急検査、生理機能検査の各検査室で臨床検査・輸血の見学・実習を行う。 ・シミュレーターを用いて心エコー検査のトレーニングを一人ずつ行う。同時に心エコー検査で理解すべき心臓の基本構造や検査目的を講義する。 ・医療スタッフの役割を認識し、お互いを尊重して業務に取り組む姿勢を習得する。 2. 輸血講義(輸血部：中央診療棟1F) ・専門医より、輸血の意義と目的・適応など、実臨床に即した内容を学ぶ。 3. Reversed CPC(中央臨床検査部：中央診療棟3F) ・患者の病態を正しく把握するための臨床検査活用法を習得する。 ・症例の検査データから、病態の解釈・診断を試みるトレーニングを行う。
授業計画	①学内実習 午前 午前9時15分～10時30分 臨床シミュレーションセンター 心臓超音波検査の実際と基本的手技取得 <実習、見学>(菊池、井上) 午前10時30分～11時15分 中央臨床検査部 臨床検査の役割と業務説明 <見学、実習>(菊池、井上) 午前11時30分～12時 中央臨床検査部 採血室の業務運用と静脈採血の手技習得 <実習、見学>(菊池、井上) 午後 午後1時45分～3時 中央臨床検査部 Reversed CPC <講義、グループ討論>(井上、菊池) 午後3時～4時30分 輸血部 血液型判定、輸血クロスマッチ <実習、見学>(李) 輸血学講義 <講義>(李) ②学外実習：実施しない
成績判定基準	秀：教官の指導を受けずに、検査結果の解釈・判断、基本的検査手技ができる。 優：おおむね教官の指導を受けずに、検査結果の解釈・判断、基本的検査手技ができる。 良：教官の指導を受けながら、検査結果の解釈・判断、基本的検査手技ができる。 可：検査結果の解釈・判断、基本的検査手技について理解できている。 事前に連絡なく無断欠席・遅刻をした場合は、不合格とすることもある。
テキスト及び参考文献	テキスト 中央臨床検査部・輸血部実習書(基本的には実習前日の担当教官より配布される) 参考文献 標準臨床検査医学(医学書院)
BSLにかかる諸注意	・遅刻・欠席の場合は必ず事前に連絡すること。 電話(ウイルス学)：052-853-8191 Email(井上) clinoue@med.nagoya-cu.ac.jp ・白衣を着用し、名札を付けること。 ・患者さんや医療スタッフに、社会人として礼節のある態度で接すること。 ・検査室内では国際認証ISO15189:2012に従ったゾーニング(清潔・感染エリア分け)を行っているため、指導教員・医療スタッフの指示に従って行動すること。Reversed CPCは基本的に白衣を脱いで行なうため、白衣を脱いだ際に違和感のない服装で参加すること。 ・筆記用具・必要最小限の教科書類を持参すること。 ・過剰な荷物は持参せず、フロアの上に荷物を置かないこと。
オフィスアワー・連絡先	対応可能時間：14～17時 担当教員名：井上 電話：052-853-8191(ウイルス学)、3368(院内PHS 井上) E-mail clinoue@med.nagoya-cu.ac.jp(井上)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	・前もって中央臨床検査部・輸血部実習書を配布するので、実習当日までに通読すること。特に静脈採血の手技は十分にシミュレーションして実習に臨み、円滑に行なえるよう工夫すること。 ・Reversed CPCの問題は必ず各自で解いてくること。問題中に記載されている検査結果に対して、前もって評価を行なっておくこと。 ・実習終了後には復習を行うこと。

臨床検査科臨床実習予定表

		月	火	水	木	金
第1週	午前					
	午後					
第2週	午前		<ul style="list-style-type: none"> ・午前9時15分～10時30分 心臓超音波検査の実際と基本的手技取得 (担当: 菊池) 集合場所: 西棟1階 臨床シミュレーションセンター ・午前10時30分～11時15分 臨床検査の役割と業務説明 (担当: 菊池、井上) ・午前11時15分～12時 採血室の業務運用と静脈採血の手技習得 (担当: 菊池、井上) 			
	午後		<ul style="list-style-type: none"> ・午後1時45分～3時 Reversed CPC (担当: 井上) 集合場所: 中央診療棟3階検体検査室前 ・午後3時～4時30分 血液型判定、輸血クロスマッチ 輸血学講義 (担当: 李) 			
		月	火	水	木	金
第3週	午前					
	午後					
第4週	午前		<ul style="list-style-type: none"> ・午前9時15分～10時30分 心臓超音波検査の実際と基本的手技取得 (担当: 菊池) 集合場所: 西棟1階 臨床シミュレーションセンター ・午前10時30分～11時15分 臨床検査の役割と業務説明 (担当: 菊池、井上) ・午前11時15分～12時 採血室の業務運用と静脈採血の手技習得 (担当: 菊池、井上) 			
	午後		<ul style="list-style-type: none"> ・午後1時45分～3時 Reversed CPC (担当: 井上) 集合場所: 中央診療棟3階検体検査室前 ・午後3時～4時30分 血液型判定、輸血クロスマッチ 輸血学講義 (担当: 李) 			

臨床実習後半

(5学年11月～6学年9月)

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	麻酔科学・集中治療医学分野
専門・教養	専門
担当教員	祖父江和哉、薊 隆文、田中 基、杉浦健之、草間宣好、徐 民恵、田村哲也、加古英介、太田晴子、加藤利奈、井口広靖、藤掛敦馬、上村友二、仙頭佳起、青木優祐、中西俊之、長谷川達也、山添大輝
講義期間・曜日・時限	BSL予定表に準ずる

授業目的	<p>①(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。</p> <p>②(麻酔科学・集中治療医学分野) 手術、疼痛、重症病態などの侵襲がもたらす生体機能変化や病態を理解し、対応・治療を選択できるようになること。また、手術・麻酔を受ける患者、重症患者やその家族の倫理面に配慮でき、心理的な配慮ができるようになること。</p> <p>③(該当する卒業時コンピテンシー) 全て</p>
学習到達目標	<p>①BSL終了時にできるようになってほしい行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識：手術、疼痛、重症病態などの侵襲がもたらす生体機能変化や病態を理解 ・態度：手術・麻酔を受ける患者、重症患者やその家族の倫理面・心理的への配慮 ・技能：生体モニタリング <p>②該当するモデルコアカリ F-1-1, F-1-5, F-1-6, F-2-10, F-2-11, G-3-4</p> <p>③必ず学ぶべき症候・手技 ショック、全身麻酔、動静脈血管確保</p>
授業概要	周術期における患者の麻酔・全身管理の実際（手術室およびICU実習）、重症患者管理学の概念と実際（PBLD、ICU実習）
授業計画	<p>①学内 授業時間外の学習：事前学習サイト（http://ncutest.wp.xdomain.jp/）にアクセスし、「事前学習項目」について学習しておくこと。実習初日までに読んでおくこと。</p> <p>②学外 各実習病院の指導医の指示に従ってください。</p>
成績判定基準	<p>学習・実習態度（60%） レポート（20%） プレゼンテーション（20%）</p>
テキスト及び参考文献	<p>標準麻酔科学 第6版（弓削孟文）医学書院 2011年 集中治療医学（日本集中治療学会）秀潤社 2001年 Miller's Anesthesia 8th edition (Ronald D. Miller) Saunders 2014 麻酔科研修チェックノート 改訂第5版（讀岐 美智義）羊土社 2015</p>
BSLにかかる諸注意	積極的な態度で実習に臨むこと
オフィスアワー・連絡先	<p>9時00分～17時00分：TEL 052-853-8281（秘書が出ます、学生担当：井口広靖 内線3638） ※上記時間以外の緊急時は麻酔科ICU当直医（3049）へ連絡のこと</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	実習初日は手術着に着替えず、白衣を着用して8時に手術室カンファレンスルーム（病院4階）に集合。

麻酔科・集中治療部 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

1) あいち小児保健医療総合センター 麻酔科

2) 院長：伊藤浩明、 学外実習指導責任者（麻酔科科長）：宮津光範

3) 1名

4) すべての外科系診療科がそろっている、東海北陸地方唯一の小児病院である。手術室は8室であり、心臓外科、泌尿器科、眼科の手術が豊富である。MRIの鎮静や心臓カテーテル検査の麻酔も麻酔科管理で実施している。小児救命救急センターを併設し、ドクターカーを使用した小児重症患者専門の搬送チームを有する。PICUは16床で、東海地方最大規模であり、愛知県内のみならず他県からの重症患者搬送やヘリ搬送も多い。小児膜型人工肺(ECMO)の実施件数は日本有数であり、治療成績は大変良好である。

5) 術前診察、保育士によるプレパレーション（オペラちゃんツアー）の見学、麻酔カンファでの検討を経て、実際に小児麻酔に入る。学習態度やモチベーション、事前学習による知識の程度によっては、シミュレーターによる実習ののちに次に示す手技を実際に経験させる。

経験できる手技；超音波ガイド下末梢静脈路確保、マスク換気、気管挿管、声門上器具挿入等。

余裕があれば手術室以外の部署にも案内可能であり、小児病院独特の空気感を感じたい小児科志望の学生に特に推奨できる。

6) 〒474-8710 愛知県大府市森岡町7丁目426番地

最寄り駅；JR東海道線・武豊線・大府駅下車。駅から知多バス利用可。

大府駅からは徒歩も可能だが登り坂で25分。大府駅からのバスは1時間に2本と少ないので（大学の実習として禁止していないなら）自家用車利用が便利。

自家用車；名古屋市内から名古屋高速と知多半島道路（大府東海IC）を利用して車で35分。

集合時刻は8:00、 8:15からPICU回診、 8:30から麻酔カンファ

実習終了時刻は17:30

集合場所；救急棟1階救急受付または本館1階防災センター

（宮津へのPHSコール、不在時は麻酔科控室への電話を依頼してください）

スーツ不要、ネクタイ不要、白衣不要、履物不要、院内コンビニあり。宿泊施設無し。

1) 安城更生病院 麻酔科・救命救急センター（麻酔、集中治療、救急）

2) 病院長：度会正人、 学外実習指導責任者（麻酔科部長）：森田正人

3) 1名

4) 心臓外科、帝王切開、新生児手術、脳外科、呼吸器外科など手術内容が幅広く多彩。他科との壁がないため麻酔科研修中に他科の様子を知ることができる。メディカルスタッフは極めて協力的であり、毎年優秀な初期研修医が採用され病院中活気に満ち溢れている。

5) 麻酔を中心とした実習を行うが、集中治療・救急など柔軟に見学や研修が可能（麻酔科医も管理に関わっている）。複数の研修医とも十分話ができる。

6) 〒446-8602 愛知県安城市安城町東広畔 28 番地 TEL:0566-75-2111

JR 安城駅、名鉄新安城駅よりバスあり。

実習時間：8時00分のカンファレンスから業務終了（17時頃）まで。駐車場あり。

院内での宿泊は当直者など優先のため原則不可。昼食は職員食堂で利用可能（無料）。

集合場所：初日は朝7時50分

集合場所：3階手術室 受付インターホンで用件を告げる。

1) 岡崎市民病院 麻酔科・救命救急センター（麻酔、集中治療、救急）

2) 病院長：早川文雄、 学外実習指導責任者（救命救急センター所長）：中野 浩

3) 1名

4) 岡崎市民病院は、岡崎市・幸田町を合わせた人口約40万人を診療圏とする地域中核病院です。

手術件数は年間約5000件ですが、そのうちの2500件程度を麻酔科で管理しています。また、救命救急センターを有し、救急外来受診患者数は年間約31000人、救急車は約9000台を超え、救命救急センター病棟の入院患者数は約1500人となっています。麻酔、ICU、救急の実習が可能です。

5) 麻酔・集中治療・救急など幅広い研修を行う。

実習時間8時30分～業務終了時。

当直も可能である。

【実習担当者】

麻酔：糟谷琢映（麻酔科統括部長）

ICU：中野 浩（救急科統括部長）

救急外来：救急科担当医師

6) 〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合 3 番地 1 TEL: 0564-21-8111

【病院地図・交通機関】

病院ホームページを御覧ください。HP>www.okazakihospital.jp

また移動手段は原則、公共交通機関を利用して下さい。

名鉄の「東岡崎駅」と、急行でひとつ先の「美合駅」から名鉄バスが出ています。

【実習について】

実習日	火・水
集合時間	午前8時30分
集合場所	1日目は1階ファミリーマート向かいの総務課
実習内容	麻酔（一般手術麻酔） ※状況によりICU・救急外来の場合もあります

- まずは総務課へ。電子カルテのIDや宿泊の説明等を行います。
院内に入って右の方、ファミリーマートの向かいに入口あります。

1) 海南病院 集中治療センター・麻酔科（麻酔、集中治療、救急）

2) 院長：奥村明彦、 学外実習指導責任者（集中治療センター長・麻酔科代表部長）：有馬 一

3) 1名

4) 当院は、愛知県西部に位置し、約40万人の診療圏を抱える救命救急センターを併設した553床の地域中核病院である。集中治療センターは、いわゆるクローズドシステムで、麻酔科医が専従医のGeneral ICUである。日々の治療方針は麻酔科医・主治医と、看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士など多職種が協力し合い、多角的な視点から相談して決めている。また、集中治療センターは手術センターと直結しており、集中治療医・麻酔科医・救急医といった集中治療管理のスペシャリストを中心に各診療科の医師や看護師、臨床工学技士が協力して、緊急手術などのあらゆる状況に対応できる万全な体制をとっている。よって、心臓外科、脳外科、多発外傷をはじめとして多種多様な手術の麻酔が研修できる。

5) 麻酔・集中治療・救急など希望に合わせて研修ができる。救命救急センターでの研修も可能だが事前に連絡が必要。研修医は常に誰かが集中治療センター・麻酔科を研修しており、身近な先輩の話聞くこともできる。

6) 〒498-8502 愛知県弥富市前ヶ須町南本田 396

① TEL: 0567-65-2511 FAX: 0567-67-3697

② 近鉄名古屋駅より急行で15分、近鉄弥富駅下車、南に徒歩約10分。

③ 原則公共交通機関で来院のこと。

初日の朝は、白衣・診察のできる用具（聴診器など）・参考書・筆記用具を持参の上、8時30分までに教育研修棟2階 病院図書室へ集合。

1) 刈谷豊田総合病院 麻酔科・救命救急センター

(麻酔、集中治療、救急、緩和、ペイン)

- 2) 院長：田中守嗣、 学外実習指導責任者（救急集中治療部部長）：三浦政直
- 3) 1名
- 4) 刈谷市及びトヨタ関連8社が出資する総合病院、日本医療機能評価機構認定取得（1998年）。2011年4月救命救急センターの指定、年間9,000台以上の救急車を受け入れており、全国でもトップレベルの数である。24時間365日、重症患者は麻酔科が担当している。救命救急センター（救命病棟、ICU）併せて26床を麻酔科主導で管理している。
- 5) 麻酔・集中治療・救急・ペインクリニック・緩和医療など希望に合わせて幅広い研修ができる。毎週開催される初期研修医のための、ランチョンセミナー、救急症例検討会などに参加希望があれば参加可能。
- 6) 〒448-8505 刈谷市住吉町5-15 TEL: 0566-21-2450
JR刈谷駅より徒歩10分、駐車場あり・食堂使用可・宿泊施設なし。
実習時間9時30分～16時（コロナ対応のため）。初日は午前8時10分、6棟1階 臨床研修センター、2日目以降は3棟4階 救命救急センター・カンファレンスルーム集合。

1) 名古屋市立東部医療センター 麻酔・集中治療科 ※下記補足事項参照

- 2) 院長：村上信五、 学外実習指導責任者（第一麻酔・集中治療科部長）：伊藤彰師
- 3) 1名
- 4) 名古屋市の中心部に位置し、一般急性期病床488床と2類感染症病床10床の計498床を有する「救急に力を入れている総合病院」。平成30年2月に救命救急センターに指定され、麻酔・集中治療科は手術室での麻酔管理の他に、集中治療部や救急部の運営にも積極的に関与している。名古屋市立大学病院と連携を密にしているため、大学病院から送られてくる麻酔管理症例も多い。
- 5) 主に手術室の麻酔管理症例（とくに心臓血管外科症例）および集中治療部の研修を行う。希望者はペインクリニックの研修も可。
- 6) 〒464-8547 名古屋市千種区若水1丁目2番23号 TEL:052-721-7171 FAX: 052-721-1308
名古屋市地下鉄今池駅または池下駅下車、徒歩約10分原則公共交通機関で来院。
朝8時30分に救急・外来棟4階管理課に集合。管理課の職員が、手術室へ案内します。
白衣持参のこと。

2. 学外臨床実習評価項目

チェックリストに基づき、指導担当医師による評価を行う。

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	薬剤部
専門・教養	専門
担当教員	木村和哲
講義期間・曜日・時限	

授業目的	<p>(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 (薬剤部) 大学病院の薬剤部が実施している業務を見学・講義・演習などを通して知ること、大学病院における薬剤師の役割を理解する。</p> <p>【該当する卒業時コンピテンシー】 Ib、Ic、2a、2b、2c、2d、2e</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学病院の薬剤部が実施している業務内容とその意義を説明できる。 2. 大学病院における薬剤師の役割を理解する。 <p>【該当するモデルコアカリ】 F-2-8 薬物治療の基本原理</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 医薬品情報演習 (持参薬の情報をもとに処方入力を行う) 3. 調剤 (作成した処方に対する調剤の体験、調剤室全体の見学など) 4. 麻薬 (麻薬納品の見学、管理業務の体験など) 5. 注射薬 (注射せん監査の体験、TPN調製および注射薬調剤の見学など) 6. TDM (TDM概説講義、VCM症例を用いた投与設計の体験演習など) 7. 持参薬管理 (患者サポートセンターの見学、持参薬指示オーダーの作成など) 8. 化学療法 (外来化学療法室の見学、レジメン確認および注射薬調製の実習) 9. 病棟業務・服薬指導 (概説講義、自己注射及び吸入薬の服薬指導体験) 10. クロージング
授業計画	<p>【学内】 服薬指導、処方解析、血中濃度測定、処方せん発行後の調剤業務など実際に行ってもらおう。</p>
成績判定基準	実習態度により評価
テキスト及び参考文献	なし
BSLにかかる諸注意	医師としてふさわしい服装、身だしなみ、態度、言動を心がける事
オフィスアワー・連絡先	<p>月曜～金曜 8:30-17:00 薬剤部医薬品情報管理室 (7401) 電子メール : phesaki@med.nagoya-cu.ac.jp (薬剤部副薬剤部長 江崎哲夫)</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が担当する。
備考	

			①班	②班	③班							
第1週	月	AM	オリエンテーション									
		PM	シミュレーション									
	火	AM	麻酔①	麻酔実習①	ICU	ICUオリエンテーション+PBLD	ICU・学外	学外実習				
		PM		Basic計画								
	水	AM		Basic		自己学習						
		PM		Basic検討		産科麻酔						
	木	AM		麻酔実習②		機器実習（臨床工学技士）			ICUオリエンテーション+PBLD			
		PM		呼吸生理講義								
	金	AM		薬剤部（医薬品情報・病棟）						ICU看護（看護師）		
		PM		薬剤部（薬務・持参）								
第2週	月	AM		自己学習		ICU・学外				ICU advance①	麻酔①	麻酔実習①
		PM		薬剤部（化学療法・調剤）								Basic計画
	火	AM	Advance計画①	学外実習	Basic							
		PM	Advance①				Basic検討					
	水	AM	Advance計画②	ICU advance②	麻酔実習②							
		PM	Advance②				産科麻酔					
	木	AM	ICU看護（看護師）	自己学習	ICU看護（看護師）		呼吸生理講義					
		PM						薬剤部（医薬品情報・病棟）				
	金	AM		薬剤部（薬務・持参）								
		PM										
第3週	月	AM		ICUオリエンテーション+PBLD		ICU	麻酔①	麻酔②	自己学習			
		PM							ICU basic（カルテ記載）	薬剤部（化学療法・調剤）		
	火	AM							自己学習	麻酔実習②	Advance計画①	
		PM							産科麻酔			
	水	AM							機器実習（臨床工学技士）	自己学習	Advance①	
		PM										呼吸生理講義
	木	AM	Advance計画②									
		PM			Advance②							
	金	AM	ICU看護（看護師）		Advance計画①				ICU basic（カルテ記載）			
		PM								薬剤部（化学療法・調剤）		
火	AM	学外実習		Advance①	ICU advance①							
	PM					Advance②						
水	AM	ICU advance①		Advance計画②	機器実習（臨床工学技士）							
	PM					Advance②						
木	AM	総括		自己学習								
	PM				自己学習							
金	AM			自己学習								
	PM				自己学習							

- * 初日は白衣・名札を着用し、8時に病院4階カンファレンス室に集合してください。
- * 2日目以降の集合時間・場所はオリエンテーションにて説明します。
- * 実習スケジュールは変更の可能性があります。

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	整形外科・リハビリテーション科
専門・教養	専門
担当教員	村上 英樹、植木 美乃 他
講義期間・曜日・時限	2020年11月～2021年10月（月～金曜日の午前午後）

副題	なし
授業形態	診療実習（ポリクリ、手術見学など）主体
授業目的・目標	<p>人体の四肢・体幹に認める先天性疾患、後天性の変形、外傷に基づく機能障害は極めて多岐にわたる。機能を重視する整形外科的診断法および治療法の概略を理解することを目的とする。手術適応、手術法、後療法、予後などについて学び、整形外科疾患の特徴、リハビリテーションの概念を理解することによって、患者の早期社会復帰の必要性の認識を深めることを目標とする。</p> <p>【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 2b, 2c, 3c, 4b</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科の代表的疾患について理解し、診断法、治療法の説明ができる（変形性関節症、関節リウマチ、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、骨肉腫、ユーイング肉腫、未分化多形肉腫、発育性股関節形成不全、先天性内反足など）。 2. 単純X線像で、転位のある骨折、脱臼、変形性関節症の診断ができる。 3. 各関節の可動域測定ができる。徒手筋力検査を理解し、筋力測定が出来る。 4. 代表的な筋肉の名称とその働きについて説明できる。 5. リハビリテーションの概念と適応を説明できる。 6. 障害をICFの心身機能、身体構造、活動、参加に分けて説明できる。 7. 機能障害と日常生活動作の評価ができる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 D-4)運動器（筋骨格）系、E-3)腫瘍、F-1-35 腰背部痛、F-1-36)関節痛・関節腫脹、F-1-37)外傷・熱傷、F-2-14リハビリテーション、F-3-5)四肢と脊柱、G-4-1)必ず経験すべき診療科</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポリクリ：患者さんを問診した後に診察を見学し、診察法、検査法について学習する。 2. 手術見学：腫瘍、関節、脊椎、小児、手、外傷の外科各グループの手術を見学する。 3. 実習：臨床グループ（関節、脊椎、小児、腫瘍、手の外科、リハビリテーション）に各2～3名ごとに分かれ、実際の診断、治療の流れを学習する。ギプス、顕微鏡下縫合、関節可動域測定などを経験する。 4. 教授回診、症例検討会：鑑別診断、治療法決定の手順、各種画像所見の読影法などを実際的に学ぶ。 5. 学外実習：一般整形外科及び外傷を見学し、第一線の整形外科医から実際に即した話を聞く。
授業計画	2021年度整形外科・リハビリテーション医学BSL予定表を参照
成績判定基準	<p>整形外科）手術予定の患者さんを1名受け持ち、その患者さんについて考察を加えて、症例報告の形式で発表する。また症例問題を割り当てるので、それについても調べて発表する。</p> <p>リハビリテーション）患者さんをグループで受け持って診察し、薬学部生と合同で症例検討を行う。症例のリハビリテーションに関する文献を検索し、最新の知見に基づいたレポートを作成して、プレゼンテーションを行い、評価する。</p>
テキスト及び参考文献	<p>図解整形外科 久保俊一、大塚隆信他、金芳堂 整形外科研修ノート 大塚隆信他、診断と治療社 標準整形外科 共穂栄二他、医学書院 図解整形外科問題集 大塚隆信他、金芳堂 Campbell's Operative Orthopaedics ST Canale, JH Beaty, Mosby</p>
注意・要望事項	出席は厳密にとる。80%以上の出席がないと卒業試験の受験資格なし。また正当な理由のない欠席は認めない。やむを得ない欠席理由がある場合は必ず連絡すること。
オフィスアワー・連絡先	<p>月～金 9:00～17:00、 整形外科医局 内線8236 リハビリテーション医学医局 内線8733</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が担当する。
備考	

整形外科/リハビリテーション科 BSL予定表

		月	火	水	木	金		
グループ1 (関節)	午前	9:00 外来(野崎、吉田、黒柳)	9:00 外来(野崎、坂井)	9:00 外来/12北(吉田、坂井)	9:00 外来(野崎、小林、黒柳、武長)	9:00 名鉄病院 外来(土屋)		
		手術(膝、股関節)	膝スポーツ外来、人工関節外来、リウマチ外来	肩外来、股関節外来	膝、股、肩関節外来	名鉄病院 膝・スポーツ学外実習		
	午後	手術(膝・股・肩関節)	13:00 外来(坂井)	13:00 手術室(吉田、黒柳)	13:00 手術室(野崎、小林)			
		16:30 病棟教授回診(12北) 17:00 12北 カンファ室 整形外科カンファレンス	人工股関節、リウマチ外来	肩関節手術、人工股関節手術(手術がない週は自習)	膝関節手術	4週目 14:00 教授室 整形外科教授総括		
グループ2 (脊椎)	午前	8:30-9:00 医局(鈴木)	8:30-17:00 手術室ルーム8(鈴木)	9:00-13:30 外来(鈴木)	8:30 庶務(ナカサマ様)	9:30 東部医療 手術室(鈴木)		
		担当症例説明	担当症例脊椎手術見学	外来見学(1診鈴木、2診後藤、5診近藤、6診加藤)	第2週 学外実習 大垣市民病院	担当症例脊椎 手術見学	東部医療センター手術見学 ※屋内履き靴持参	
		9:00-12:00 外来(鈴木)		9:00-15:00				
	外来見学(8診村上教授、1診鈴木)	自習(レポート作成)						
	12:00-16:00 自習	15:00-16:00 12北(後藤)						
	午後	16:00-16:30 12北病棟(加藤)	火曜日手術患者術前回診、木曜日手術患者術前回診、検査	13:30-17:00 12北カンファ(早稲田)	火曜日、木曜日担当術後患者回診			
		火曜日手術患者術前回診						
16:30 病棟教授回診(12北)								
17:00 12北 カンファ室 整形外科カンファレンス		4週目 14:00 教授室 整形外科教授総括						
グループ3 (小児・腫瘍・手)	午前	9:00 外来(若林、河)	8:30 手術室(若林、河)	9:00 医局(岡本)	8:30 手術室(木村)	9:00 外来(木村)		
		小児外来、ギプス見学	小児手術	症例シミュレーション	腫瘍手術	腫瘍外来		
	午後	15:00 医局 縫合実習(整形担当医 後日連絡)	13:00 ギプス室(岡本、平岩)	13:00 手術室(岡本)		第2週 学外実習 海南病院	13:00 12北(川口)	
		16:30 病棟教授回診(12北) 17:00 12北 カンファ室 整形外科カンファレンス	ギプス実習 小児手術・小児グループカンファレンス(若林、河)	手外科手術	レポート準備 4週目 14:00 教授室 整形外科教授総括			
グループ4 (リハビリテーション)	午前	9:30 リハ部診察室(村上)	9:30 リハ部診察室(黒柳)	8:30 研修センター(星野)	9:30 リハ部診察室(早稲田)	9:30 リハ部診察室(植木)	9:30 学外実習(村上)	9:30 リハ部診察室(青山)
		リハビリテーション診療	リハビリテーション診療	第2週 整形外科 学外実習 小牧市民病院	リハビリテーション診療	リハビリテーション診療(脳血管障害)	西部地域療育センター 2F 外来(白衣不要)	リハビリテーション診療
	午後	13:30 リハ部診察室	13:30 リハ部診察室(村上)		4:00 リハ科医局(青山)	13:30 学外実習(村上) 中央療育センター 2F 外来	13:30 リハ部診察室(植木)	12:00(医局) 症例検討まとめ
		可動域測定・作業療法評価 15:00 医薬合同 参加型症例検討	身障診断 15:00 リハ医局 カンファレンス/抄読会		嚥下検査 15:00 リハ科医局(8733) ICF	13:30 学外実習(村上) 中央療育センター 2F 外来	15:30 身障診断	14:00 嚥下評価実習 4週目 14:00 教授室 整形外科教授総括

★1週目の月曜日8:30から整形外科医局で実習グループ全員を対象としたオリエンテーション(担当野崎)を行いますので全員集合してください。

以下担当医連絡先

若林 3885
岡本 3383
野崎 3384

植木 3300
村上(里) 3621, 2010
青山 3808, 2010

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	リウマチ・膠原病内科
専門・教養	専門
担当教員	難波大夫、前田伸治、爲近真也、山邊 徹、上原幸治
講義期間・曜日・時限	4週間（2週間毎にグループの半数が入れ替わり、血液内科と膠原病内科の実習を受ける）

授業目的	<p>①(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。</p> <p>②(リウマチ・膠原病内科)筋骨格系症状は最も頻度の高い愁訴であり、その中に機能予後、生命予後の観点から早期発見、早期治療が必要となる関節リウマチなどの膠原病について、実際の患者を通して学ぶことは重要である。当科のBSLでは、患者と接し指導医の診断・治療の実際に触れることおよびレクチャーを通して、関節痛・関節腫脹、筋痛、筋力低下、腰痛部痛など筋骨格系症状および発熱、全身倦怠感、体重減少、多臓器にわたる症候の評価に必要な問診、身体診察、適切な検査の実施、解釈ならびに全身性リウマチ性疾患の治療の実際を学ぶこと、および指定難病を多く含む膠原病患者の社会的サポート（指定難病制度や身体障害者福祉法）について学ぶことを目的とする。学外実習では、上記に加え地域におけるリウマチ性疾患診療の役割や重要性を学ぶことを目的とする。</p> <p>③該当する卒業時コンピテンシー I1a, I1b, I1c, I11c, I11d</p>
学習到達目標	<p>①BSL終了時にできるようになってほしい行動</p> <p>知識：「各種膠原病の病態、症候、診断、治療を概説できる」 「関節炎をきたす疾患を列挙できる」 「膠原病に特徴的な皮疹を説明し、関連する疾患を列挙できる」 「自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる」 「グルココルチコイド薬、抗リウマチ薬の特徴、適応疾患、副作用を概説できる」 「指定難病制度や身体障害者福祉法について概要を説明できる」</p> <p>態度：「長期にわたる治療が必要な難病患者・家族に配慮できる」</p> <p>技能：「関節腫脹や圧痛、可動域、徒手筋力テストなど筋骨格系診察ができる」 「皮疹の性状から膠原病を疑うことができる」 「注射(皮下、皮下、筋肉、静脈内)を実施できる。」</p> <p>②該当するモデルコアカリ</p> <p>E-4 免疫・アレルギーのうち関節リウマチなど膠原病の症候・診断・治療 F-1 症候・病態からのアプローチのうち、36) 関節痛・関節腫脹 F-3 基本的診察技能のうち、5)-(7) 四肢と脊柱</p> <p>③必ず学ぶべき症候・手技 関節痛・関節腫脹、筋骨格系身体診察</p>
授業概要	外来および病棟実習、ミニレクチャー
授業計画	<p>①学内実習</p> <p>1. 外来実習：病歴やReview of systemなどの問診および筋骨格系を中心とした全身診察を行い、鑑別疾患や診断へのアプローチについて学ぶ。関節や血管等の超音波検査、薬物治療（経口薬、注射薬による全身投与、関節や腫節注射など局所投与）について見学し、機会があれば指導医の監視下に皮下注射などを実施する。</p> <p>2. 病棟実習：担当患者を受け持ち、学生医として診療に参加する。</p> <p>3. ミニレクチャー：リウマチ性疾患における診察の基礎となる筋骨格系診察を学ぶ。リウマチ・膠原病疾患の症候、診断、治療に関する知識を深める。</p> <p>②学外実習 外来や病棟実習を通じて、リウマチ・膠原病疾患の症候、診断、治療に関する知識を深めるとともに地域医療におけるリウマチ診療の役割や重要性を学ぶ。</p>
成績判定基準	<p>病棟や外来実習において指導医がBSLへの積極性・態度・患者とのコミュニケーション能力を評価する（40％）。</p> <p>実習2週目の木曜日17時のカンファレンスでは受け持ち入院症例の症例提示を行う。その際に患者の病態、患者が抱える問題点の把握能力、ディスカッション能力を指導医が口頭試問を交えて評価する（30％）。</p> <p>実習2週目の金曜日15時の総括（または金曜日が休日の場合は木曜日17時のカンファレンス（いずれも12階南医師実習室））において、指導医が受け持ち入院患者1例および外来症例1例の病歴要約レポートの内容および、医学的知識、態度などを評価する（30％）</p>
テキスト及び参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・リウマチ病学テキスト 改訂第2版 診断と治療社 ・関節リウマチ診療ガイドライン2014 メディカルレビュー社 ・関節リウマチ治療におけるメトトレキサート（MTX）診療ガイドライン 2016年改訂版 羊土社 ・全身性エリテマトーデス臨床マニュアル 第3版 日本医事新報社 ・シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル 改訂第2版 ・多発性筋炎・皮膚筋炎治療ガイドライン 診断と治療社 ・ANCA関連血管炎診療ガイドライン2017 診断と治療社 ・全身性強皮症診療ガイドライン - 公益社団法人日本皮膚科学会 https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/1372907289_3.pdf ・膠原病学 改訂第6版 塩沢俊一、丸善 ・膠原病診療ノート 第3版 三森明夫、日本医事新報社 ・リウマチ病診療ビジュアルテキスト 第2版 上野征夫、医学書院 ・日本リウマチ学会 ガイドライン http://www.ryumachi-jp.com/guideline.html ・European League Against Rheumatism (EULAR) Recommendations: Recommendations for management https://www.eular.org/recommendations_management.cfm ・American College of Rheumatology (ACR) Clinical Practice Guidelines https://www.rheumatology.org/Practice-Quality/Clinical-Support/Clinical-Practice-Guidelines ・Arthritis and Allied Conditions: A Textbook of Rheumatology (15th ed) Koopman WJ, Moreland LW, Lippincott Williams and Wilkins. ・Practical Rheumatology (3rd ed) Hochberg MC, Silman AJ, Smolen JS, Weinblatt ME, Weisman MH, Mosby.
BSLにかかる諸注意	<p>BSL総括（金曜日が休日の場合は木曜日17時のカンファレンス）において下記を提出する。</p> <p>(ア) 受け持ち入院患者1例の病歴要約レポート (イ) 外来症例1例のレポート (ウ) 「学生による目標設定と自己評価」 (エ) 指導医に評価をうけ記載された「指導医による学生の評価」 (オ) 「学生による臨床実習指導に対する評価」</p> <p>無断欠席の場合は、当該BSL実習における以降の実習は中止とし、BSLは不合格とする。 新型コロナウイルス感染症やその疑い等の理由により、BSLで作成した資料（成績判定基準（ア）～（エ））の提出が予定通り行えない場合は、実習の最終週の金曜日から2週後の金曜日までに呼吸器・免疫アレルギー内科学教室に提出する。正当な理由がなく定められた期日以内に提出がない場合は、BSLは不合格とする。</p>
オフィスアワー・連絡先	<p>呼吸器・免疫アレルギー内科学教室（内線8216） 難波大夫（tnaniwa@med.nagoya-cu.ac.jp） 前田伸治（snb51961@med.nagoya-cu.ac.jp） 対応可能な時間：面談が必要な場合は、事前にメール等にて日時を確認ください</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	

2020年11月～2021年9月

リウマチ・膠原病内科BSL予定表

		月	火	水	木	金
第1週	午前	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
		研究棟3F 呼吸器・免疫アレルギー内科学教室 第8研究室	外来診察室 (17診または22診)	外来診察室 (17診または22診)	外来診察室 (17診または22診)	外来診察室 (17診または22診)
		為近	為近 (17診)、前田・山邊 (22診)	難波他 (17診)、前田 (22診)	難波 (17診)、山邊・上原 (22診)	難波・為近 (17診)、前田 (22診)
		BSLオリエンテーション 担当患者紹介	外来予診・見学	外来予診・見学	外来予診・見学	外来予診・見学
		レクチャー① 筋骨格系診察				
	午後	14:00	14:00	13:30	13:30	13:30
		12階南病棟医師実習室	12階南病棟医師実習室	12階南病棟など	12階南病棟など	12階南病棟など
		前田	前田	担当患者主治医	担当患者主治医	担当患者主治医
		レクチャー② 膠原病の検査	レクチャー③ 膠原病の治療	担当患者診察・レポート作成	担当患者診察・レポート作成	担当患者診察・レポート作成
		16:00	16:00		17:00	15:00
第2週	午前	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
		外来診察室 (17診または22診)	外来診察室 (17診または22診)	外来診察室 (17診または22診)	外来診察室 (17診または22診)	外来診察室 (17診または22診)
		為近・上原 (17診)、難波 (22診)	為近 (17診)、前田・山邊 (22診)	難波他 (17診)、前田 (22診)	難波 (17診)、山邊・上原 (22診)	難波・為近 (17診)、前田 (22診)
		外来予診・見学	外来予診・見学	外来予診・見学	外来予診・見学	外来予診・見学
		13:30	13:30	13:30	13:30	15:00
	午後	12階南病棟など	12階南病棟など	12階南病棟など	12階南病棟など	12階南病棟医師実習室
		担当患者主治医	担当患者主治医	担当患者主治医	担当患者主治医	難波
		担当患者診察・レポート作成	担当患者診察・レポート作成	担当患者診察・レポート作成	担当患者診察・レポート作成	BSL総括
					17:00	
					12階南病棟医師実習室	
			全指導医			
			症例検討会 (学生症例呈示)			

注意事項など: 外来診察の見学の前日までに患者カルテを確認しておくこと

リウマチ・膠原病内科 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

I. 名古屋市立西部医療センター

所在地：〒462-8508 名古屋市北区平手町1丁目1番地の1

病院長：桑原 義之

学外実習担当診療科名：リウマチ膠原病内科

学外実習担当委員：速水 芳仁（リウマチ膠原病内科部長。日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医、日本リウマチ学会 リウマチ専門医・指導医、臨床研修指導医）

学外実習担当委員 E-mail：y.hayami.23@west-med.jp

受け入れ可能な学生の予定人数（期間）：1名（2週間）×4枠

病院の特徴：名古屋北西部に位置する基幹病院。病床数500床。臨床研修指定病院、日本リウマチ学会教育施設。令和2年度は常勤医（日本リウマチ学会）1名、非常勤医3名の診療体制。

実習方法：2. 学外実習スケジュールについて、3. 選択性臨床実習の評価項目を参照のこと

集合場所・時間：実習開始の前週までに学外実習担当委員に E-mail や電話等にて連絡をとり、集合場所および時間を確認する。

II. JA 愛知県厚生連海南病院

所在地：〒498-8502 愛知県弥富市前ヶ須町南本田396番地

病院長：奥村 明彦

学外実習担当診療科名：膠原病内科、膠原病・リウマチセンター

学外実習担当委員：佐々木 謙成（膠原病内科代表部長。日本内科学会 総合内科専門医 日本内科学会 認定内科医、日本リウマチ学会 専門医・指導医、臨床研修指導医）

学外実習担当委員 E-mail：cap68480@hotmail.co.jp

受け入れ可能な学生の予定人数（期間）：1名（2週間）×7枠 + 学外選択制 1名（2週間）×2枠

病院の特徴：名古屋市西部から三重県北勢地域の一部をカバーする地域の基幹病院、救命救急センター指定病院。病床数540床（一般病床534床 感染病床6床）。臨床研修指定病院、日本リウマチ学会認定教育施設。膠原病内科は、令和2年度、常勤医2名、非常勤医1名の体制。

実習方法：2. 学外実習スケジュールについて、3. 選択性臨床実習の評価項目を参照のこと

集合場所・時間：実習開始の前週までに学外実習担当委員に E-mail や電話等にて連絡をとり、集合場所および時間を確認する。

III. 大同病院・だいどうクリニック

所在地：〒457-8511 名古屋市南区白水町9番地

病院長：野々垣 浩二

学外実習担当診療科名：：膠原病・リウマチ内科

学外実習担当委員：土師 陽一郎（膠原病・リウマチ内科部長。日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医、日本リウマチ学会 リウマチ専門医・指導医、日本腎臓学会認定腎臓専門医）
学外実習担当委員 E-mail：haji4160@gmail.com

受け入れ可能な学生の予定人数（期間）：1名（2週間）×5~9枠（学外病院選択制での実習の有無により変動）、1名（4週間）×4枠（学外病院選択制の9タームのうち4タームのみ）

病院の特徴：名古屋市南部に位置する基幹病院。外来診療を行うだいでクリニックを併設。病床数404床（一般病床 394床、結核病床 10床）。臨床研修指定病院、日本リウマチ学会認定教育施設。膠原病・リウマチ内科は、常勤医3名の体制。

実習方法：2. 学外実習スケジュールについて、3. 選択性臨床実習の評価項目を参照のこと
集合場所・時間：初日8時30分に、大同病院 東玄関に入ってすぐの1F 総合案内から卒後研修支援センター事務の担当者に連絡を依頼する。

2. 学外実習スケジュールについて

学外実習を行う学生の選出

- ① 血液内科・膠原病内科コースでは、4週間の実習期間を2週間ずつに分け、グループの半数ずつがクロスオーバーで実習を受ける。（例 1, 2週目血液・腫瘍内科で実習した学生は、3, 4週目にリウマチ・膠原病内科で実習を行う。）膠原病内科コースの実習期間（2週間）において、C1、A1グループを除き学生1名が学外で臨床実習を行う。（次ページ表参照）
- ② 学外病院（選択制）での実習のうち、大同病院は4タームのみ（H, F, D, Bグループのみ）、1タームにつき4週間、学生1名を、海南病院は2タームのみ（C, Aグループのみ）、1タームにつき2週間（6/7～6/18、8/30～9/10）、学生1名を受け入れる。（次ページ表参照）
- ③ M6BSL開始2週間前までに、各グループから学外実習を行う学生を選出し、事務に連絡をすること。

学外実習のスケジュール（内容は施設の事情に合わせて調整）

- ④ 新型コロナウイルス感染症等の理由により、学外病院での実習受け入れの停止期間が、実習期間の土日休日を除く日数の1/4以上に及ぶ場合、学外実習予定の学生の実習は大学病院で行う。
- ⑤ 実習初日に、指導医より受け持ち患者の紹介を受けたのち、直ちに受け持ち患者さんのこれまでの病歴を診療録により確認し、適宜問診を追加し把握する。
- ⑥ 2日目以降、毎朝、受け持ち入院患者さんのカルテの経過表（検温表、バイタルサイン等継続的に記録されたもの）、医師記録、看護記録に目を通した後、自ら問診などの診察を行い前日や夜間に起こったことを把握し、問題点を整理しておく。
- ⑦ その後、受け持ち患者さんの状態、検査結果、検査治療計画について口頭で上級医（研修医、シニアレジデント）・指導医に提示し、検討を行う。

- ⑧ 診察した所見をカルテに記載する。カルテ記載内容は上級医・指導医の点検（加筆・訂正）を受け、署名してもらう。
- ⑨ 不明な点、問題点は上級医・指導医と相談するが、自主的に文献などを検索し、解決へ向けての学習を行う。
- ⑩ 症例カンファレンスでは受け持ち患者さんのプレゼンテーションを行う。
- ⑪ 患者や家族への病状説明や治療方針の話し合いなどに積極的に参加する。
- ⑫ 上級医・指導医の問診、身体診察、インフォームド・コンセントを見学する。
- ⑬ 関節穿刺・注射などの基本手技や超音波検査を見学する。
- ⑭ 大学病院で行われる実習最終週の金曜日 15 時の総括または金曜日が休日の場合は木曜日 17 時のカンファレンス（いずれも 12 階南医師実習室）に出席する。

学外病院実習受け入れ人数（予定）

期間	土日休日を 除く日数	リウマチ・膠原病内科				学外病院（選択制）		
		グループ	大同	西部	海南	グループ	大同	海南
2020/11/23 ~ 12/4	9	C2	1			I		
12/7 ~ 12/18	10	C1		1		I		
2021/1/4 ~ 1/15	9	B2	(1)			H	1	
1/18 ~ 1/29	10	B1			1	H	1	
2/1 ~ 2/12	9	A2	1			G		
2/15 ~ 2/26	9	A1		1		G		
3/1 ~ 3/12	10	I2	(1)			F	1	
3/29 ~ 4/9	10	I1			1	F	1	
4/12 ~ 4/23	10	H2	1			E		
4/26 ~ 5/7	6	H1			1	E		
5/10 ~ 5/21	10	G2	(1)	1		D	1	
5/24 ~ 6/4	10	G1			1	D	1	
6/7 ~ 6/18	10	F2	1			C		1
6/21 ~ 7/2	10	F1			1	C		
7/5 ~ 7/16	10	E2	(1)	1		B	1	
7/19 ~ 7/30	9	E1			1	B	1	
8/30 ~ 9/10	10	D2	1			A		1
9/13 ~ 9/24	8	D1			1	A		

リウマチ・膠原病内科実習における大同病院の（1）は、同じ期間の学外病院（選択制）において当科の学外病院実習を選択する学生がいなかった場合に、リウマチ・膠原病内科実習を行う学生の1名が大同病院で実習を行うことを意味する。

2. 学外実習の評価項目

1. オリエンテーション時に今回の臨床実習における学生自身の自己目標を「学生による目標設

- 定と自己評価」フォームに記載し、実習施設の指導医の確認をうける。
2. 指導医により、知識、技能、実習態度について総合評価を受ける。
 3. 実習実施施設の最終日に、実習の達成度に関する自己評価を「学生による目標設定と自己評価」フォームを用いて行い、実習施設の指導医の確認をうける。
 4. 学生は2週目の木曜日までに、「学生による臨床実習指導に対する評価」を記載する。
 5. 実習施設の指導医は、
 - (ア) 実習最終日までに「指導医による学生の評価」フォームに必要事項を記載し学生に渡す。
 - (イ) 学外実習成績報告書（名古屋市立大学医学部 選択的臨床実習の手引きを参照）を記載し、厳封の上、学生を通じて、または郵送で名古屋市立大学 医学・病院管理部教育研究課 医療人育成係に返送する。
 6. 大学病院で行われる実習最終週の金曜日 15 時の総括または金曜日が休日の場合は木曜日 17 時のカンファレンス（いずれも 12 階南医師実習室）に下記を提出する。
 - (ア) 受け持ち入院患者 1 例の病歴要約レポート
 - (イ) 外来症例 1 例のレポート
 - (ウ) 「学生による目標設定と自己評価」
 - (エ) 指導医に評価をうけ記載された「指導医による学生の評価」
 - (オ) 「学生による臨床実習指導に対する評価」
 7. やむを得ない理由により BSL を欠席する場合は、各施設の学外実習担当委員へ欠席の理由とともに連絡する。無断欠席の場合は、当該 BSL 学外実習における以降の実習は中止とし、BSL は不合格とする。
 8. 新型コロナウイルス感染症やその疑い等の理由により、6 の資料提出が予定通り行えない場合は、実習の最終週の金曜日から 2 週後の金曜日までに (ア) ~ (エ) を呼吸器・免疫アレルギー内科学教室に提出する。正当な理由がなく定められた期日以内に提出がない場合は、BSL は不合格とする。

学外病院実習受け入れ人数(予定)

期間	土日休日を除く日数	リウマチ・膠原病内科				学外病院(選択制)		
		グループ	大同	西部	海南	グループ	大同	海南
11/23 ~ 12/4	9	G2	1			I		
12/7 ~ 12/18	10	C1		1		I		
2021/1/4 ~ 1/15	9	B2	(1)			H	1	
1/18 ~ 1/29	10	B1			1	H	1	
2/1 ~ 2/12	9	A2	1			G		
2/15 ~ 2/26	9	A1		1		G		
3/1 ~ 3/12	10	I2	(1)			F	1	
3/29 ~ 4/9	10	I1			1	F	1	
4/12 ~ 4/23	10	H2	1			E		
4/26 ~ 5/7	6	H1			1	E		
5/10 ~ 5/21	10	G2	(1)	1		D	1	
5/24 ~ 6/4	10	G1			1	D	1	
6/7 ~ 6/18	10	F2	1			C		1
6/21 ~ 7/2	10	F1			1	C		
7/5 ~ 7/16	10	E2	(1)	1		B	1	
7/19 ~ 7/30	9	E1			1	B	1	
8/30 ~ 9/10	10	D2	1			A		1
9/13 ~ 9/24	8	D1			1	A		

Hグループの学外病院(選択制)で、学生が大同病院での実習を選択しなかった場合、それぞれB2グループのリウマチ・膠原病内科実習のうち1名は大同病院での学外実習を行うこととする。

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	血液・腫瘍内科
専門・教養	専門
担当教員	飯田真介、小松弘和、楠本茂、李政樹、伊藤旭、木下史緒理、鈴木智貴、大岩加奈
講義期間・曜日・時限	

授業目的	<p>(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 (血液・腫瘍内科)臨床実習を通じて、発熱・貧血・リンパ節腫脹の鑑別診断および関連する血液・腫瘍内科分野の疾患治療体系を学ぶ。ベットのサイドで指導医と行動を共にし、適宜ミニレクチャーを受けることで、患者に接する姿勢や診察技法を身につける。担当した患者の診断および治療における疑問点を抽出し、鑑別診断に重きを置いてレポート作成を行い、総括で発表する。効率的に実習するためテキスト及び参考文献などで授業時間外に(とくに1週目と2週目の土日を生かして)十分に勉強しておくことが望ましい。【該当する卒業時コンピテンシー：1a, 1b, 1c, 1d, 2a, 2b, 2c, 2d, 2e, 3b, 4d】 【該当する卒業時コンピテンシー】 全て</p>
学習到達目標	<p>①BSL終了時にできるようになってほしい行動： 知識：不明熱、貧血およびリンパ節腫脹の鑑別診断および発熱性好中球減少症の治療 態度：患者さんおよびその家族、メディカルスタッフとの基本的コミュニケーション能力を身につける。カンファレンスでの簡潔かつ要領を得たプレゼンテーションのコツを学ぶ。 技能：末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。 骨髓穿刺の手技(穿刺位置、局所麻酔および吸引の方法など)を理解する。骨髓血塗抹標本における正常造血の形態を説明できる。</p> <p>②該当するモデルコアカリ 発熱：F-1-1) 貧血：F-1-26) リンパ腫腫脹：F-1-27)</p> <p>③必ず学ぶべき症候・手技 末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。</p>
授業概要	<p>1) 学生ごとに指導教員および担当患者を割り当てるとともに、レポート作成を行う。 2) 発熱、貧血およびリンパ節腫脹についてミニレクチャーを行う。</p>
授業計画	<p>1) 血液・腫瘍内科と膠原病内科と2週間交代制： グループごとに、2つの小グループに分かれて、血液・腫瘍内科2週間、膠原病内科2週間とする。(例：10名(12名)のグループでは、5名(6名)ずつに分かれる)血液・腫瘍内科の総括は、原則として、小グループごとに2週目の金曜日に実施する。</p> <p>2) 血液・腫瘍内科は、学外4名、学内1名もしくは2名： 小グループのうち、学内・学外に分かれて実習を行うが、学外4名、学内1名もしくは2名とする。(例：5名のグループでは、学外4名+学内1名とし、6名のグループでは学外4名+学内2名とする。)学外は2週間あたり各施設最大1名とする。学内は2週間あたり最大2名とする。ただし、選択実習で選択した学生とあわせると、学外は各施設最大2名までとする。 なお、2週間をさらに再分割(学内1週間、学外1週間など)することは許容されない。また、学外実習病院を2つ以上選択(1週間ずつなど)することも許容されない。 小グループの人数が7名以上の場合には別途協議のうえ、最大人数を決定する。</p> <p>3) 血液・腫瘍内科の臨床実習内容 ベットのサイドで患者さんとその家族に接し、医療スタッフの一員として、手技やインフォームド・コンセントおよびカンファレンスに積極的に参加する。血液・腫瘍内科のコアカリキュラム項目である発熱・貧血・リンパ節腫脹については、その鑑別診断の仕方を中心に、適宜ミニレクチャーをまじえながら、基本知識を身につける。</p> <p>4) 学内・学外共通スケジュール： 2週間ごとに小グループに分かれるが、以下の3つの共通スケジュールがある。 ・各2週間の最初の月曜日の午前8時30分よりオリエンテーションを血液・腫瘍内科学教室(研究棟2階)にて実施する。もし、月曜日が祝日であった場合には、火曜日の午前8時30分より同教室にてオリエンテーションを行うこととする。</p>
成績判定基準	臨床実習中の積極性、態度、診察能力、医学知識、カルテ記載能力、レポート内容、プレゼンテーション技術を総合的に評価する。
テキスト及び参考文献	造血器診療ガイドライン(日本血液学会)、悪性リンパ腫治療マニュアル、白血病治療マニュアル、造血細胞移植マニュアル、新臨床腫瘍学など
BSLにかかる諸注意	医療人としての自覚をもち、態度、身だしなみ、会話などは十分注意する。やむを得ない理由で遅刻、欠席する場合は、グループ内の他の学生に必ず連絡する。集合は原則5分前。
オフィスアワー・連絡先	月曜から金曜 AM9～PM5、血液・腫瘍内科学医局(853-8738 内線は8738) 責任教員：楠本茂 (skusumot@med.nagoya-cu.ac.jp, PHS3239)
備考	

血液・腫瘍内科BSL予定表 (* 膠原病内科と合同で2週間交代制プログラム)

		月	火	水	木	金
第1週	午前	8:30	9:00	9:00	9:00	9:00
		血液・腫瘍内科学教室(研究棟2階)	15北病棟(病院)	15北病棟(病院)	15北病棟(病院)	15北病棟(病院)
		楠本	各指導医	各指導医	各指導医	各指導医
	午後	血液・腫瘍内科オリエンテーション(学内・学外共通)ミニレクチャー:鑑別診断のポイント	病棟業務あるいは外来業務見学	病棟業務あるいは外来業務見学	病棟業務あるいは外来業務見学	病棟業務あるいは外来業務見学
		13:15	13:15	13:15	15:00	15:00
		15北病棟(病院)	15北病棟(病院)	15北病棟(病院)	ミニレクチャー予備日	15北病棟(病院)
	各指導医	各指導医	各指導医	レポート作成確認	鈴木	
	病棟業務あるいは外来業務見学	病棟業務あるいは外来業務見学、その後に18時より症例検討会	病棟業務あるいは外来業務見学		ミニレクチャー:貧血	
第2週	午前	9:00	9:00	9:00	9:00	9:30
		15北病棟(病院)	外来化学療法室(病院)	15北病棟(病院)	15北病棟(病院)	臨床セミナー室(研究棟2階)
		各指導医	小松	各指導医	各指導医	飯田
	午後	病棟業務あるいは外来業務見学	化学療法部見学およびミニレクチャー:原発不明癌	病棟業務あるいは外来業務見学	病棟業務あるいは外来業務見学	9時30分より総括(飯田教授)を行う
		15:00	15:00	15:00	15:00	13:15
		ミニレクチャー予備日	ミニレクチャー予備日	血液・腫瘍内科学教室(研究棟2階)	血液・腫瘍内科学教室(研究棟2階)	総括予備日
	レポート作成確認	レポート作成確認	大岩	楠本		
			ミニレクチャー:リンパ節腫大	ミニレクチャー:発熱		
第3週 (*)	午前	8:30	9:00	9:00	9:00	9:00
		血液・腫瘍内科学教室(研究棟2階)	15北病棟(病院)	15北病棟(病院)	15北病棟(病院)	15北病棟(病院)
		楠本	各指導医	各指導医	各指導医	各指導医
	午後	血液・腫瘍内科オリエンテーション(学内・学外共通)ミニレクチャー:鑑別診断のポイント	病棟業務あるいは外来業務見学	病棟業務あるいは外来業務見学	病棟業務あるいは外来業務見学	病棟業務あるいは外来業務見学
		13:15	13:15	13:15	15:00	15:00
		15北病棟(病院)	15北病棟(病院)	15北病棟(病院)	ミニレクチャー予備日	15北病棟(病院)
	各指導医	各指導医	各指導医	レポート作成確認	鈴木	
	病棟業務あるいは外来業務見学	病棟業務あるいは外来業務見学、その後に18時より症例検討会	病棟業務あるいは外来業務見学		ミニレクチャー:貧血	
第4週 (*)	午前	9:00	9:00	9:00	9:00	9:30
		15北病棟(病院)	外来化学療法室(病院)	15北病棟(病院)	15北病棟(病院)	臨床セミナー室(研究棟2階)
		各指導医	小松	各指導医	各指導医	飯田
	午後	病棟業務あるいは外来業務見学	化学療法部見学およびミニレクチャー:原発不明癌	病棟業務あるいは外来業務見学	病棟業務あるいは外来業務見学	9時30分より総括(飯田教授)を行う
		15:00	15:00	15:00	15:00	13:15
		ミニレクチャー予備日	ミニレクチャー予備日	血液・腫瘍内科学教室(研究棟2階)	血液・腫瘍内科学教室(研究棟2階)	総括予備日
	レポート作成確認	レポート作成確認	大岩	楠本		
			ミニレクチャー:リンパ節腫大	ミニレクチャー:発熱		

注意事項など: 血液・腫瘍内科と膠原病内科合同で4週間、2週間ごとで交代する(5名ずつなどに分かれること)。
 (例) 第1・2週目に膠原病内科BSLメンバーが第3・4週目に血液・腫瘍内科BSLとなる。
 もし、月曜日が祝日であった場合には、火曜日の午前8時30分より同教室にてオリエンテーションを行うこととする。
 BSL予定表の黄色枠は、血液・腫瘍内科学外・学内共通

血液・腫瘍内科 学外病院情報

基本事項：

1) 血液・腫瘍内科と膠原病内科と 2 週間交代制：

グループごとに、2つの小グループに分かれて、血液・腫瘍内科 2 週間、膠原病内科 2 週間とする。(例：10人のグループでは、5人ずつに分かれる) 血液・腫瘍内科の総括は、原則として、小グループごとに 2 週目の金曜日に実施する。

2) 血液・腫瘍内科は学外 4 名、学内 1 名もしくは 2 名：

小グループのうち、学内・学外に分かれて実習を行うが、学外 4 名、学内 1 名もしくは 2 名とする。(例：5名のグループでは、学外 4 名+学内 1 名とし、6名のグループでは学外 4 名+学内 2 名とする。) 学外は 2 週間あたり各施設最大 1 名とする。学内は 2 週間あたり最大 2 名とする。ただし、選択実習で選択した学生とあわせると、学外は各施設最大 2 名までとする。なお、小グループの人数が 7 名以上の場合には別途協議のうえ、最大人数を決定する。

(注意事項:2 週間をさらに再分割(学内 1 週間、学外 1 週間など)することは許容されない。また、学外実習病院を 2 つ以上選択(1 週間ずつなど)することも許容されない。)

3) 血液・腫瘍内科の臨床実習内容

ベットサイドで患者さんに接し、医療スタッフの一員として、診察手技やインフォームド・コンセントおよびカンファレンスに積極的に参加する。血液・腫瘍内科のコアカリキュラム項目である発熱・貧血・リンパ節腫脹については、適宜ミニレクチャーをまじえながら、鑑別診断に必要な基本知識を身につける。

4)学外実習病院スケジュール

第 1 週

	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション* (学内)	学外病院	学外病院	学外病院	学外病院
午後	学外病院				

*もし、月曜日が祝日であった場合には、翌火曜日の午前 8 時 30 分より、血液・腫瘍内科学教室にてオリエンテーションを行うこととする。

第 2 週

	月	火	水	木	金
午前	学外病院	学外病院	学外病院	レポートまとめ (学内)	教授回診、総括
午後					

1. 学外実習病院の基本情報

I. 名古屋市立西部医療センター

- 1) 診療科名：血液・腫瘍内科
- 2) 病院長：桑原 義之、学外実習指導責任者：稲垣 淳（血液・腫瘍内科部長）
- 3) 受け入れ学生人数：2週間（小グループ単位）につき1名
- 4) 病院の特徴：平成23年5月に開院の名古屋市立西部医療センターは、名古屋市立大学病院や名古屋市立東部医療センターと連携しながら市民の健康を守ってゆく使命があり、特に悪性腫瘍の診療と周産期医療に力を入れて取り組んでいます。
血液・腫瘍内科では地域医療の中核病院として近隣の医療機関から御紹介頂いた血液疾患の患者さんの診断と治療を幅広く行っています。悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、急性白血病などの造血器腫瘍に対する化学療法を積極的に行うとともに、単に病気を治すだけではなく患者さんの健康問題全般の解決に多職種で連携して取り組んでいます。また多発性骨髄腫や悪性リンパ腫の再発例に対しては自己末梢血幹細胞移植を併用した大量化学療法も行っています。
- 5) 実習方法の方針：
 - ・造血器腫瘍に対する化学療法を通じて、がん薬物治療の基本的な考え方を習得することを目指します。当院では複数の併存疾患を抱えた患者さんが多く、そのような制約を抱えた患者さん達に対しエビデンスと患者さんの体力・希望を考慮しつつ最善の治療法を選択・実施してゆく過程を体験していただきます。
 - ・化学療法に伴い必要となる感染症の治療や輸血療法などの支持療法についても実際の臨床の現場を体験していただきます。
 - ・機会があれば、末梢血幹細胞採取や造血幹細胞移植の実際を見学していただきます。
 - ・病棟での多職種合同カンファレンスに参加して、職種間の考え方の違いを理解・尊重しつつどのようにチームとして患者さんに向き合ってゆくか学んでいただきます。

II. 名古屋記念病院

- 1) 診療科名：血液・化学療法内科
- 2) 病院長：長谷川 真司、学外実習指導責任者：粥川 哲（血液・化学療法内科部長）
- 3) 受け入れ可能な学生人数：2週間（小グループ）につき1名
- 4) 病院の特徴：古屋記念病院は、地域に必要な急性期医療と第二次救急医療を行う基幹病院としての役割を果たすとともに、がんと免疫疾患についての専門的医療を提供する病院です。また、厚生労働省が指定する臨床研修病院です。
血液・化学療法科では、造血器腫瘍を主とした血液疾患と種々の悪性腫瘍の診療を担当しています。十分なインフォームド・コンセントのもとに、各科の専門家が協力しあって、ひとりの患者様に対してより高度な治療を提供する集学的治療に取り組んでいます。当科には、がん専門施設で研修した悪性腫瘍の薬物療法の専門医が在籍しています。
- 5) 実習方法の方針： 指導医、研修医とともに、クリニカル・クラークシップ方式で、悪性腫瘍の患者様へのインフォームド・コンセント、治療方針の決定、治療の実際を学びます。医療チームの一員として積極的に医療に参加します。また、指導医とともに各種疾患の骨髄像の鏡検を行い、身につけていただきます。実習担当委員が初期臨床研修の責任者をしておりますので、当科で実習しながら救急外来や病棟における研修医の実際の研修に同席・参加することができます。

Ⅲ. 豊川市民病院

- 1) 診療科名：血液内科
- 2) 病院長：松本 隆、学外実習指導責任者：血液内科：金森 貴之（部長代行）
- 3) 受け入れ可能な学生人数：2週間（小グループ）につき1名
- 4) 病院の特徴：豊川市民病院は愛知県の東南の端（東三河）、豊川稲荷で知られる豊川市にある病床数453、標榜科23の病院です。主な診療圏は豊川市と宝飯郡の4町で、その人口は約18万人です。本院は豊川海軍工廠共済病院を母体とし、昭和21年4月に開設され、約60年の歴史がありますが、昭和57年病院整備事業増築工事が完成したのを機に医療設備の整備と医療スタッフの充実を図り、以来地域の中核病院としての役割を果たしております。一般医療のほか高度・特殊・先駆的医療ならびに救急医療にも積極的に取り組んでおり、また地域の保健・医療・福祉機関との連携も密にしております。医師をはじめ、医療従事者の臨床教育の場としての役割もおおいに担っております。平成元年臨床研修病院の指定を受けましたが、平成16年度から始まった新臨床研修制度では単独型臨床研修病院として研修医の募集を行いました。
豊川市民病院の基本理念は「信頼される医療の提供を通じて、地域住民の健康づくりに貢献する」であります。患者さま中心の、分かり易いインフォームド・コンセントをもとに高度で安全な医療の提供に努め、地域住民の方々に愛される病院づくりに努力いたしております。
- 5) 実習方法の方針：血液内科として、平成25年度より常勤医2名が担当しており、最新のエビデンスに基づいた、血液疾患の診断、治療を行っている。地域の中核病院として、多くの血液疾患を診療するとともに、造血幹細胞移植療法や新規薬剤治療開発においては、名古屋市立大学病院とタイアップして、最適な医療を提供できるようにチーム医療の構築をおこなっている。

Ⅳ. 愛知厚生連海南病院

- 1) 診療科名：血液内科
- 2) 病院長：奥村 明彦、学外実習指導責任者：矢野 寛樹（血液内科部長）
- 3) 受け入れ可能な学生人数：2週間（小グループ）につき1名
- 4) 病院の特徴：海南病院は、海部～桑名周辺にかけて約30万の人口をカバーする地域の中核病院で、平成30年に創立80周年を迎えています。公益法人としての安定性と民間としてのフットワークの軽さを併せ持ち、限られた医療資源の中で、病診・病病連携、在宅支援を最大限に発揮しながら安全で温かい医療を目指しています。また、厚生労働省指定の臨床研修病院であり、特に内科は総合診療部とのタイアップを行い、内科の総合力をつけるべく工夫をしています。
- 5) 実習方法の方針：指導医、研修医とともに、クリニカル・クラークシップ方式で、患者さんへのインフォームド・コンセント、治療方針の決定、治療の実際を学びます。入院患者さんを1～2人担当して、毎日カンファレンスでプレゼンテーションを行うことにより、疾患のみならず患者さん自身を体系的に理解することを目指します。その他、呼吸器内科でも、研修医とともに、臨床研修の実際を体験することができます。

Ⅴ. 愛知県がんセンター中央病院（選択実習に限る）

- 1) 診療科名：薬物療法部
- 2) 病院長：丹羽 康正、学外実習指導責任者：室 圭（薬物療法部部长・外来化学療法センター長）

3) 受け入れ可能な学生人数：2週間（小グループ）につき1名

4) 病院の特徴：愛知県がんセンターは昭和39年12月に設立された、病院と研究所を併せ持つ県立としては日本初のがん専門施設です。平成26年で50周年を迎えました。長年、国立がん研究センター、(財)癌研究会癌研究所と並び、日本における主要がんセンターとして、がんの診断治療、予防並びに研究に取り組んできました。愛知県における都道府県がん診療連携拠点病院に指定されています。薬物療法部は、抗がん剤治療を専門とする診療部門であり、胃がん・大腸がん・食道がんといった消化管がんの化学療法・化学放射線治療を中心に、その他原発不明がん・胚細胞腫瘍がん・腎がん・乳がん・頭頸部がん・軟部肉腫などの固形がんに対する全身化学療法を行っています。標準治療とともに治験や臨床試験、先進医療等も活発に実施しています。

5) 実習方法の方針：指導医、研修医とともに、クリニカル・クラークシップ方式で、悪性腫瘍の患者さんへのインフォームド・コンセント、治療方針の決定、治療の実際を学びます。医療チームの一員として積極的に医療に参加してもらいます。入院患者さんを数人担当して、カンファレンスでプレゼンテーションを行い、議論に積極的に参加してもらいます。

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	口腔外科
専門・教養	専門
担当教員	渋谷恭之、加藤伸一郎、青木尚史、宮本大模、菱田純代、横井基夫、深野英夫
講義期間・曜日・時限	第2週の火曜日と水曜日

副題	医師に必要な歯科および口腔外科に関する知識の習得
授業形態	実習、見学、講義、レポート作成
授業目的・目標	医師として知っておくべき歯、口腔、唾液腺、顎関節などの解剖とその疾患、さらに歯および口腔が関連する全身的な疾患についての知識を習得する。 【該当する卒業時コンピテンシー】 領域Ⅰ-a, b, c、領域Ⅲ-c、領域Ⅳ-b
学習到達目標	1) 歯、口腔、唾液腺、顎関節の構造（解剖）と機能について説明出来る。(D-14、F-3-5) 2) 歯、口腔、唾液腺、顎関節における疾患に対する検査法、診断、治療方について説明できる。(D-14、F-3-5) 3) 歯周病や歯性感染症と関連する全身疾患について説明できる。(D-14、F-3-5) 4) 周術期や終末期、在宅医療での口腔機能管理の重要性について説明出来る。(A-5、A-7-1)
授業概要	病棟回診、オリエンテーション、手術見学、外来見学、往診見学、口腔ケア見学、実習など
授業計画	病棟回診：入院患者の口腔内診察や頸部リンパ節の触診等を行う（アクティブラーニング） オリエンテーション：スライドを用いて歯科口腔外科疾患と全身疾患の関係性や口腔機能管理の重要性を学ぶ 手術見学：全身麻酔下手術の見学 外来見学：外来歯科処置の見学 往診見学：病棟への往診の見学 口腔ケア見学、実習：口腔機能管理の適切な手技を学ぶ（アクティブラーニング）
成績判定基準	実習態度、レポート内容
テキスト及び参考文献	1) 口腔外科学 白砂兼光、古郷幹彦編, 医歯薬出版 2) この疾患医科で診る？歯科で診る？ 天笠光雄他, デンタルダイヤモンド社
注意・要望事項	医師としてふさわしい服装、身だしなみ、態度、言動を心がけること 各担当に出席の確認印を押してもらって下さい。 確認印がない場合は欠席扱いとなる場合があります。
オフィスアワー・連絡先	第2週の火曜日と水曜日 9:00～17:00 12階南病棟・口腔外科医局（中央診療棟7階、内線7302） E-mail:shibuya@med.nagoya-cu.ac.jp（渋谷）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が担当する。
備考	

口腔外科BSL予定表

	月	火	水	木	金
午前					
午後					
午前		9:00	9:00		
		12階南 口腔外科処置室 渋谷、担当医 オリエンテーション 病棟回診 担当症例プレゼンテーション	手術室前 担当医 手術見学 口腔ケア実習		
午後		9:30 7階 口腔外科医局 横井先生 講義			
		13:00	14:00		
午後		歯科口腔外科外来 横井先生 特殊外来見学 外来見学	歯科口腔外科 医局 深野先生 担当研究課題プレゼンテーション まとめ		

口腔外科BSL出席確認用紙

名前：

班名：

		月	火	水	木	金
第 1 週	午前					
	午後					
第 2 週	午前	9:00	出席確認	9:00	出席確認	
		12階南 口腔外科処置室		手術室前		
		渋谷、担当医	⑥	担当医	⑥	
		オリエンテーション 病棟回診 担当症例プレゼンテーション		手術見学 口腔ケア実習		
		9:30 7階 口腔外科医局	出席確認			
		横井先生 講義	⑥			
午後	13:00	出席確認	14:00	出席確認		
	歯科口腔外科外来		歯科口腔外科 医局			
	横井先生	⑥	深野先生	⑥		
	特殊外来見学 外来見学		担当研究課題プレゼンテーション まとめ			

注意事項など 各担当の先生に出席確認を受けてください。

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	耳鼻咽喉科
専門・教養	専門
担当教員	岩崎真一、讃岐徹治、稲垣彰、佐藤慎太郎、江崎伸一、川北大介、蒲谷嘉代子、的場拓磨、南方寿哉、鈴木元彦
講義期間・曜日・時限	BSL予定表に準ずる

授業目的	<p>①(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。</p> <p>②(耳鼻咽喉科)耳鼻咽喉科学は、神経、感覚器の多くを扱う、QOLに直結する分野である。頭頸部腫瘍にてQuality of Lifeの損なわれた患者さんに接し、医学の究極の目的であるQOLの向上のためどのように取り組んでいるかなど、診察・検査・手術に臨場し、耳鼻咽喉科の特性を学び、理解することを目的とする。学外実習では、大学では経験しにくい、一般診療面、特に一次、二次救急症例への対応を学ぶことを目的とする。</p> <p>③該当する卒業時コンピテンシー I a-d、II a-e、IV a-d</p>
学習到達目標	<p>①BSL終了時にできるようになってほしい行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識：耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の概念を理解し説明できる。主要な疾患に関し、理解し、診断治療における概略を説明できる。 ・態度：患者やその家族の倫理面・心理面への配慮 ・技能：耳鼻咽喉科・頭頸部外科の基本的な診察手技ができるようになる。代表的検査を自ら被検者となり経験し、その原理、検査結果などを説明できる。代表的疾患の手術を、見学または助手として参加し、手術の適応、危険性を説明できる。 <p>②該当するモデルコアカリ D-14、E-2、E-3、E-4、F-1-8、F-1-19、F-1-27、F-2-1、G-2-9、G-2-19、G-2-27、G-3-1、G-3-2、G-3-3</p> <p>③必ず学ぶべき症候・手技</p> <p><必ず学ぶべき症候> めまい、嚥下障害、リンパ節腫脹</p> <p><必ず学ぶべき手技> 聴力検査、平衡機能検査</p>
授業概要	耳鼻咽喉科基本手技を習得する。症候や診断に必要な検査を学ぶ。手術症例を担当し、術前診断から手術方法まで学び、それをまとめてプレゼンテーションする。
授業計画	<p>①学内実習 (実習要目) 医療面接、診察、処置、プライマリケア、検査法、治療、手術 (実習) 1. 聴覚検査、2. 平衡機能検査、3. 鼻咽腔・喉頭ファイバー検査 4. 手術見学または助手として参加 (臨床推論) 1. めまい、2. 嚥下障害、3. リンパ節腫脹</p> <p>②学外実習 外来診察、外来処置、入院処置、手術見学もしくは助手として参加</p>
成績判定基準	実習態度、積極的に学ぶことができたか、パワーポイントによるプレゼンテーションにより総合的に評価する。
テキスト及び参考文献	<p>(テキスト) 新耳鼻咽喉科学 切替一郎他、南山堂 イラスト耳鼻咽喉科 森満保、文光堂 Head and Neck Surgery Naumann HH, Georg Thieme Verlag (参考図書) 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 森山寛他、医学書院 新 図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 全5巻 メジカルビュー社</p>
BSLにかかる諸注意	実習において欠席・遅刻は必ず理由を付して申し出ること 実習においては特に医師としてふさわしい身だしなみ・言葉遣い・態度を心がけること
オフィスアワー・連絡先	月曜から金曜 9:00～17:00 連絡先 蒲谷嘉代子(学生担当) 医局秘書に伝言可 外線052-853-8256、内線8256、メール meikyo@med.nagoya-cu.ac.jp (秘書)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	授業時間外での学習：授業計画表を確認の上、教科書(参考文献)等の該当箇所を予習した上で、講義・実習に臨むこと

耳鼻咽喉科BSL予定表

	月	火	水	木	金	
第1週	午前	9:30	9:00	9:00	8:30	9:00
		11階北病棟カンファラーム	外来⑧	外来④	手術室	外来⑧
		川北	蒲谷	岩崎		中山
		オリエンテーション・診察方法	平衡機能検査・めまい◎	初診	手術見学	めまい外来
		13:00/15:00	13:00/13:30/14:30/17:00	14:00/15:00	15:30	13:00
	午後	手術室/医局 /讃岐	10階病棟第4会議室/11北/外来/医局 名声会/岩崎/的場/	外来/外来 江崎/稲垣	医局 鈴木	手術見学
	手術見学/嚥下◎	名声会見学/教授回診/腫瘍外来/症例検討会	外来検査・画像/聴覚	アレルギー・嗅覚		
第2週	午前	8:30/11:00	歯科口腔外科実習	歯科口腔外科実習	8:30	9:00
		手術室/医局	9:00 12階南病棟集合		手術室	学外実習
		担当医/川北				学外担当医
		手術見学/腫瘍・リンパ節腫脹◎			手術見学	外来・手術見学
		13:00			13:30/15:00/16:00	学外実習
	午後	手術室			外来/外来/医局 佐藤/高橋/岩崎	学外担当医
	手術見学			内視鏡/耳鳴外来/総括	外来・手術見学手術見学	

注意事項など

欠席の場合、事前に必ず担当教員に連絡すること
 担当教員とは適宜コンタクトを取り、レポート作成(パワーポイント)の指導ならびにチェックを受けること
 第2週火曜日と水曜日は歯科口腔外科の実習となる
 それぞれ出席確認のため本予定表にサインをもらうこと
 この予定表は総括の時に提出すること、総括前までにポートフォリオの記載をすませてください

耳鼻咽喉科 学外病院情報

- 耳鼻咽喉科必須臨床実習タームでは、2週目金曜日を学外実習とする。
- 耳鼻咽喉科タームでの学外実習は、事前に提示する病院から各グループで話し合いにて実習先を決定していただきます。
- 耳鼻咽喉科選択制臨床実習の学生を優先するため、1つの病院に同時期に定員以上の人数が重なった場合は実習先の変更をしていただく場合があります。
具体的には、海南病院と江南厚生病院は選択と必須合わせて1人まで、豊橋市民病院は選択と必須合わせて2人までとしますので、選択と重なった場合、該当の学生は自習先の病院の変更をしていただきます。

1. 学外実習病院の基本情報

学外実習病院の基本情報

- 1) 病院名、診療科名
- 2) 病院長、学外実習指導責任者
- 3) **受け入れ学生人数**
- 4) 病院の特徴
- 5) 実習方法の方針
- 6) 集合場所・集合時間

- 1) **一宮市立市民病院**、耳鼻いんこう科・頭頸部外科
- 2) 院長：松浦昭雄、学外実習指導責任者（副院長）：森部一穂
- 3) 1ターム1名
- 4) 当病院は西尾張の中心的存在であり、年間手術数は400件を超える。中耳手術は約50例、頭頸部手術も30例以上行っています。特徴としては、腫瘍から外傷に至るまでの頭頸部外科を実施しており、大学と異なる点は急性疾患が多いということです。外来では見学が主体となり、一般市中病院における臨機応変さ、多忙さを見ていただき、病棟回診では腫瘍性疾患の患者さんの生の声が聞けるとおもいます。実習は、指導医のもと外来および病棟患者の診療と基本的な手術手技を行っていただきます。
(宿泊可、職員食堂使用可、駐車場使用可)
- 5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学
(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置
- 6) 学生個人宛に毎回連絡あり

- 1) **愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院、耳鼻いんこう科**
- 2) 院長：奥村明彦、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科 代表部長）：原田生功磨
- 3) 1ターム1名まで
- 4) 外来見学、耳鼻科的器具の取扱い、回診見学、Opeの見学（手洗いまでは可）
- 5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学
(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置 見学のみとならないように実習する予定です。
- 6) 教育研修棟 3 階 教育研修室 ※HP レジデントインフォメーション見学のご案内参照、8:30

- 1) **愛知県厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院、耳鼻いんこう科**
- 2) 院長：片田直幸、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科部長）：欄真一郎
- 3) 1ターム1名
- 4) 午前：外来見学および外来診察に必要な基本手技の指導
午後：月、水、木、金と手術日、手術見学および手術助手
- 5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学
(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置
- 6) 病院 2 階企画室、8:30

- 1) **愛知県厚生農業協同組合連合会安城更生病院、耳鼻いんこう科**
- 2) 院長：度会正人、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科代表部長）：三矢昭治
- 3) 1ターム1名
- 4) 午前：外来見学および外来診察に必要な基本手技の指導
午後：手術日、手術見学および手術助手
- 5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学
(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置
- 6) 2階教育研修・臨床研究支援センター、8:15

- 1) **春日井市民病院、耳鼻いんこう科**
- 2) 院長：成瀬友彦、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科部長）：佐藤雄二
- 3) 1ターム1名
- 4) 主として手術・外来を中心に。希望があれば、入院患者の回診助手も可能。
- 5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 病院 3 階研修管理室、8:30

1) **豊川市民病院**、耳鼻いんこう科

2) 院長：松本 隆、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科部長）：國井博史

3) 1 ターム 1 名

4) 外来診療、手術の見学を主とするが、その場の状況によっては、検査や手術の手洗いをしてもらうこともある。

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 3 階エレベーターホールにある「インターホン」で、キャリア支援センターまで連絡
※病院 HP の病院見学参照、8:30

1) **豊橋市民病院**、耳鼻いんこう科

2) 院長：加藤岳人、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科部長）：小澤泰次郎

3) 1 ターム 2 名まで

4) 東三河地区の中心的な病院で紹介を含めた外来患者、入院患者ともに多い。(ベッド数：23 床、年間手術件数：約 550 件) 中耳手術、頭頸部腫瘍手術が多く頭頸部悪性腫瘍に対しては再建手術を含めた集学的治療を行っている。実習は、指導医のもと外来および病棟患者の診療と基本的な手術手技を習得する。

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 病院 3 階管理課、8:30

1) **名古屋第二赤十字病院**、耳鼻咽喉科

2) 院長：佐藤 公治、学外実習指導責任者（耳鼻咽喉科部長）：中村善久

3) 1 ターム 1 名

4) ◎外来診療の実際を見学してもらう。

◎検査に立ち会ってもらう。

◎救急外来での処置の実際を見てももらう。

◎手術の実際（見学）を体験してもらう。

◎入院患者に対するカンファランスに参加してもらう。

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 総務課 増本様宛に伺う 8:55

1) **愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院** 耳鼻咽喉科

(宿泊可・職員食堂利用可・職員駐車場利用可)

2) 病院長：河野 彰夫、学外実習指導責任者（耳鼻咽喉科部長）：尾崎慎哉

3) 1ターム1名まで

4) 尾北地区の中心的病院です。全病床数は684床です。耳鼻咽喉科は外科系診療科として外来・手術・救急診療に積極的に携わっています。当科の方針として若手医師の自主性を尊重しています。

5) (外来実習) 予診・シュライバー・各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医・手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り・創部縫合介助・入院患者の処置

午前は主に外来見学・病棟回診

手術日は手術見学・手洗い

希望者は救急外来の見学

6) 医局会議室、8:30

1) **名古屋市立西部医療センター**、耳鼻いんこう科

2) 院長：栗原義之、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科副部長）：黒田 陽

3) 1ターム1名

4) 午前：外来見学および外来診察に必要な基本手技の指導

午後：手術日は手術見学および手術助手 それ以外は検査や処置等の見学

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 病院2階管理課、8:45-9:00

2. 学外臨床実習評価項目

実習に対する姿勢・態度により評価する。

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	【臨床実習】眼科
専門・教養	専門
担当教員	小椋、玉井、中沢、安川、野崎、森田、加藤、平野、鈴木(識)、小椋(俊)、桑山、尾関*、水野(晋)*、富田*、奥田*、松原*、芦荻*、倉知*、鈴木(東)*、服部*、菅*、太田*、藤野*、新井*、水谷*、所*、久保田* (*非常勤講師)
講義期間・曜日・時限	M5-M6 BSL期間内

授業目的	眼科教育の目的は、すでに習得した解剖学、生理学、生化学、薬理学、細菌学、ウイルス学、病理学、分子生物学などの知識をもとにして、眼の生理的および病的状態の基本を習得する。さらに、他科との関連において眼科学の占める割合を理解する。 眼科検査法の講義・実習、眼疾患に対する考え方を教育したうえで、病床実習、外来実習、手術見学を通じて眼科臨床の概要を理解、習得する。 眼科学は、小さい器官である眼球のみを対象とした領域ではなく、眼球の状態を理解するためには全身のことを熟知していることが必要である一方で、眼球は全身の状態を知る重要な器官であることを学ぶ。 【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, c, IVd
学習到達目標	・知識: 眼科の検査機器(視力検査、眼圧検査、視野検査、眼底撮影、眼底3次元解析など)について理解する。眼科手術機器(顕微鏡、撮影システム、白内障手術機器、硝子体手術機器、眼科手術一般の器具、針、糸など)について理解する。眼科手術の主要な術式(白内障手術・緑内障手術・網膜硝子体手術など)について理解する。眼科の外来での手術、処置、検査(網膜光凝固術、光線力学的療法、蛍光眼底造影検査など)について理解する。 ・態度: 視力障害のある患者への接し方に留意する。検査、手術に際して、医師、視能訓練士、看護師と積極的にコミュニケーションをはかり、安全かつ円滑に手技がすすむよう心がける ・技能: 細隙灯顕微鏡を使用した前眼部の診察方法、倒像鏡を使用した眼底の診察方法を学び、眼科医の診察を見学する。また学生同士で練習して、一定以上の技術が身についた後、指導医の監督下で患者の診察をおこなう。眼科手術での清潔不潔部位を理解する。その上で手術の助手(顕微鏡の側視鏡下で手術に参加する)をつとめ、必要に応じて術野に灌流液をかけたり、糸を切ったり、執刀医の補助をする。鑑別診断を考えながら初診患者の問診をとる。その後指導医と一緒に診察、検査につく。 【該当するモデルコアカリ】 D-13-1)-4)
授業概要	
授業計画	1. 検査実習 臨床実習の最初に、屈折、視力、両眼視、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査などの実習を行う。特に眼底検査は、将来いずれの専門分野を選んでも必要な手技であるので、十分に時間をかけて指導し習得する。 2. 外来実習 外来患者、主として新患を受け持って予診を行い、当日のBSL担当医師と一緒に診察を行う。細隙灯顕微鏡や眼底所見は、モニターに映し出し、必要に応じて再生して解説する。また、レーザー治療、蛍光眼底造影、視野検査、超音波検査などの実際を見学する。外来実習の後半にはミニレクチャーにおいてカルテや資料を参考にしながら、実際に則した症例の検討を行う。 3. 病棟実習 入院患者の検査、診察を通じて様々な眼疾患の症状、経過、予後などについての知識を習得する。各グループでできるだけ、各学生が異なる疾患を担当し、術前検査、手術見学、術後経過観察を通じて、視力をはじめ視機能の回復過程の実際を体験する。 4. 実習講義 主要疾患の術式についてビデオ供覧により知識を深める。 5. 手術実習 白内障、網膜硝子体疾患、緑内障、斜視、角膜移植などの手術見学、助手につき、眼科手術一般の知識を習得させ、その特殊性を理解する。 6. レポート 臨床実習第2週目水曜日午後担当症例についてまとめたレポートを発表し、指導医を交えて討論を行い、お互いに理解を深めあう。まとめたレポートは提出する。
成績判定基準	全日程の8割以上の出席を原則とする。それを満たした上で、実習態度、実習中の質疑応答、レポートなどを総合的に評価する
テキスト及び参考文献	Ophthalmology: An illustrated colour text (4th ed) M. Batterbury, C. Murphy, Elsevier 眼科学 丸尾敏夫、本田孔士、臼井正彦、田野保雄編、文光堂 カンスキー臨床眼科学 臼井正彦監訳
BSLにかかる諸注意	ベッドサイドの実習なので服装等身だしなみ、態度に注意すること
オフィスアワー・連絡先	月曜日～金曜日 9:00～17:00 内線 8251 (外線 052-853-8251) 安川力 yasukawa@med.nagoya-cu.ac.jp 加藤亜紀 akikato@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	M4の講義の際に配布した授業プリントを持参することが望ましい。また、M4で行った講義の復習を行い、実習にのぞむこと。

		月	火	水	木	金
眼科第1週	午前	9:30 AM	9:00 AM、1:00 PM ※	9:30 AM	9:00 AM、1:00 PM ※	9:30 AM
		3F眼科外来 ロービジョンルーム 担当医 眼科オリエンテーション終了後 外来見学 1:45 PM	中央手術室 ルーム2 小椛祐一 教授 他 手術見学 3:00 PM ※※	11北病棟診察室 術後患者回診・レポート患者について の質問 1:30 PM	中央手術室 ルーム2 術後患者回診 他 手術見学 2:00 PM ※※	3F眼科外来 ロービジョンルーム 中沢陽子 准教授 眼科ブライマリアケア講義 1:30 PM
	午後	3F眼科外来 ロービジョンルーム 野崎・症例主治医 症例の振り分け（主治医紹介）	11北病棟診察室 非常勤講師 検査機器、診察実習	外来レーザー室 担当医 光線力学療法見学（講義 鈴木 or 平原 or 木村）	医局 非常勤講師 眼科手術講義（白内障、網膜硝 子体、緑内障）	3F眼科外来 ロービジョンルーム 玉井一 司 准教授 眼科画像診断、神経眼科講義
		9:30 AM	9:30 AM、1:00 PM	9:30 AM	9:30 AM、1:00 PM	9:30 AM
眼科第2週	午前	外来1診 小椛教授・注射担当医（桑山） 1診見学・問診・診察→ミニレク チャー	中央手術室 ルーム2 or 10階病 棟 小椛祐一 教授 他 手術見学 or オペ動画実習	11北病棟 眼科外来第1診察室 術後患者回診担当医・加藤	中央手術室 ルーム2 or 10階 病棟 小椛祐一 教授 他 手術見学 or オペ動画実習	3F眼科外来 ロービジョンルーム 担当医 レクチャー
		1:30 PM	2:30 PM	2:30 PM	2:30 PM	12:00 PM
	午後	眼科外来 担当医 模擬眼眼底検査実習	3F眼科外来 ロービジョンルーム 担当医 レクチャーまたは検査機器実習	研究棟7F眼科医局 加藤 レポート提出	研究棟7F眼科医局 担当医 ドキュメント実習	研究棟7F眼科医局 又は眼科外 来ロービジョンルーム 担当医 総括

注意事項など 耳鼻咽喉科・口腔外科・眼科のBSLは、1グループをさらにグループAとグループBのサブグループにわけ、グループAは1、2週目に耳鼻咽喉科・口腔外科の、グループBは眼科の実習を行い、3、4週目はいれかわる。サブグループは原則学籍番号順で前半と後半で分けるが、グループ内で相談し適宜調整してよい。実習の始まる前にあらかじめ決めておき、1週目の月曜日から、研修を受ける科にそれぞれ別れて集合すること（眼科注意事項） ※1週目の火・木は、午前の手術の終了後昼食をとり、1:00に手術室に戻ってくる 1時から手術がないときには適宜手術室に来る時間を調整すること ※※午前の手術が終わっていても、午後の実習、講義を優先すること * 術後患者の診察はない場合もあり

眼科 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

1. 名古屋市立東部医療センター、眼科

2. 病院長：村上 信吾

学外実習指導責任者：玉井 一司（眼科部長、高度医療教育研究センター准教授）

3. 受け入れ学生人数：1人

4. 病院の特徴：名古屋市千種区に位置する病院で開院は明治 23 年、100 年以上の歴史をもつ 500 床の病院で、診療科全般で高度な医療を提供している。

5. 実習方法の方針他科との連携必要とする疾患における眼科の意義を体験することが出来る。当病院では、しっかりと予習をした者に、チャレンジ精神を持って診療の見学実習を受けてもらう。

6. 集合場所・集合時間：9:00 眼科外来

実習スケジュール：午前中は診療部長の外来を見学、症例によっては実際に診察を行う。手術日には午前、午後とも手術室に入り手術介助をする。手術のない日の午後は検査や処置の見学、介助を行う。

1. 名古屋市西部医療センター、眼科

2. 病院長：桑原 義之

学外実習指導責任者：中沢 陽子（眼科部長、高度医療教育研究センター准教授）

3. 受け入れ学生人数：1人

4. 病院の特徴：23 年 5 月開院した 500 床の総合病院（旧名古屋市立城北病院、城西病院合併施設）で名古屋市の拠点病院の一つである。

5. 実習方法の方針：眼科通院患者は、眼科のみならず、他科にも通院しており治療を受けることが多い。眼科疾患が全身に関与しており、医師が他科との連携をはかることで、医療の質・患者の QOL があがることを、外来実習を通して学ぶ。手術前後の入院患者で、実際の臨床に関わる。

6. 集合場所・集合時間：8:50 庶務課

実習スケジュール：午前中は診療部長の外来を見学、症例によっては実際に診察を行う。手術日には午前、午後とも手術室に入り手術介助をする。手術のない日の午後は検査や処置の見学、介助を行う。

1. 豊田厚生病院、眼科

2. 病院長：川口 鎮

学外実習指導責任者：山田 麻里（眼科部長）

3. 受け入れ学生人数：1人
4. 病院の特徴：600床の総合病院で西三河北部医療圏の基幹病院としての役割を果たしている。
5. 実習方法の方針：外来・手術を中心に、出来るだけ臨床に触れてもらうよう考えている。
6. 集合場所・集合時間：8:30 総務課
実習スケジュール：午前中は診療部長の外来を見学、症例によっては実際に診察を行う。手術日には午前、午後とも手術室に入り手術介助をする。手術のない日の午後は検査や処置の見学、介助を行う。

1. 大同病院、眼科

2. 病院長：野々垣 浩二
学外実習指導責任者：久保田 文洋（眼科部長）
3. 受け入れ学生人数：1人
4. 病院の特徴：南区にある400床の総合病院で、一般的な市中病院であるが、救急医療にも力を入れている。眼科は白内障手術のみならず、硝子体手術、緑内障手術、眼瞼下垂などの外眼部手術も積極的におこなっている。
5. 実習方法の方針：短い実習期間でも、できる限り多くの症例を経験してもらうよう心がけており、また外来では最新のOCTなどのツールを用いた、「患者さんに分かりやすい説明」をモットーにしているので、よく見て、よく聞いて、眼科疾患への理解を深め、実習の最後には自分である程度患者さんに説明ができるようになってもらえることを期待している。
6. 集合場所・集合時間：9:00 だいどうクリニック 3階の眼科外来
実習スケジュール：午前中は診療部長の外来を見学、症例によっては実際に診察を行う。手術日には午前、午後とも手術室に入り手術介助をする。手術のない日の午後は検査や処置の見学、介助を行う。

2. 学外臨床実習評価項目

A: 到達目標に達した

B: 目標に近い

項 目	自己評価			指導医評価		
	A	B	C	A	B	C
基本的診察法						
1) 眼科診療における問診を自ら実施できる。						
2) 他覚的屈折検査(オートレフラクトメーター)、視力検査、眼圧測定が自ら実施できる。						
3) 細隙燈顕微鏡による前眼部の診察および眼底検査を指導医の監督のもとで自ら実施できる。						
一般的眼科検査						
1) 視野検査の実際を、施行者の助手を勤めながら実施し、その結果を理解することができる。						
2) 蛍光眼底造影検査を、施行者の助手を勤めながら見学し、その結果を理解することができる。						
病棟管理						
1) 入院患者の術前・術後の投薬の実際を指導医とともに体験し、その結果を理解する。						
2) 主治医とともに、入院患者、家族への病状説明に参加し、その実際を体験し、理解する。						
手術						
1) レーザー治療を、施行者の助手を勤めながら見学し、その結果を理解することができる。						
2) 白内障手術に加わり、その結果を理解することができる。						

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	【臨床実習】小児泌尿器科
専門・教養	専門
担当教員	林祐太郎、水野健太郎、西尾英紀
講義期間・曜日・時限	2020年11月24日～2021年9月24日 月曜日～金曜日

授業目的	<p>(全科共通) 「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 <追加資料2参照></p> <p>(小児泌尿器科)</p> <p>将来、医師として医学・医療の発展の発展に寄与することができるようになるために、小児泌尿器科に関する以下、3項目の習得を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 泌尿器系、男性生殖器の正常な構造、機能および、小児泌尿器科疾患の原因・病態を理解することができる。 2. 小児泌尿器科領域の基本的な臨床手技を行うことができる 3. カンファレンスの参加、プレゼンテーションを契機に、継続的に自身の医学知識の向上に努めることができる。 <p>【該当する卒業時コンピテンシー】 全て</p>
学習到達目標	<p>BSL終了時にできるようになってほしい行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識：小児泌尿器科疾患に関わる先天性疾患（先天性水腎症、膀胱尿管逆流、尿道下裂、停留精巣）、急性尿路感染症、急性陰囊症について、原因・病態を概説することができる。 ・態度：小児泌尿器科疾患を有する患児およびそのご家族の価値観、社会的な背景を理解した上で、行動することができる。 ・技能：小児泌尿器科領域の基本的な臨床手技を行うことができる。 <p>【該当するモデルコアカリ】</p> <p><必ず学ぶべき症候>F-1-11) 浮腫、F-1-25) 腹部膨隆(腹水も含む)・腫瘍、F-1-28) 尿量・排尿の異常、F-1-29) 血尿・タンパク尿、F-1-37) 外傷・熱傷</p> <p><必ず学ぶべき手技>尿道カテーテルの挿入と抜去の実施、ドレーンの挿入と抜去の見学と介助</p>
授業概要	<p>小児泌尿器科外来実習、および手術患者に関わる術前指導、手術実習、術後回診などの病棟実習や、クリニカルクラークシップ（小児泌尿器造影検査・神経学的検査）、アクティブラーニング（小児泌尿器科疾患レビュー）、レクチャー&ドリル（UTI・VUR・水腎症・後部尿道弁）、クルズ（小児泌尿器科腫瘍・先天性生殖器疾患・性分化疾患）カンファレンスにおけるプレゼン指導など。</p>
授業計画	別紙：小児泌尿器科BSL予定表を参照
成績判定基準	<p>外来・病棟・手術室などでの実習姿勢、カンファレンス（外来・病棟）でのプレゼンや意見の内容と姿勢、担当教官からの課題への取り組み、提出レポート、筆記試験・口頭試験など。</p>
テキスト及び参考文献	<p>小児泌尿器科に入院している全患者の疾患・病態の理解を深めるために、図書館やインターネットなどで資料（参考文献など）を収集し深く学習すること。その上で疑問点があれば、担当教官に積極的にアプローチして指導を請うこと。</p>
BSLにかかる諸注意	<p>実習開始前までに、教科書・テキスト（M4時のシラバスに記載）および講義録などで、しっかり復習をしておくこと。泌尿器科臨床講義（腎・尿路コース&生殖機能コース）で勉強した内容は身につけているものとして、実際の患者さんの医療に参加してもらいます。医学生として相応しい行動・身なりをするよう、また実習目標を達成できるように、オリエンテーションで指導を行う。★小児泌尿器科のオリエンテーションは実習開始の月曜日午前8時20分から小児泌尿器科医局（西棟3階）で行います。月曜日が祝日の場合、火曜日朝に行います。前週に事前のオリエンテーションを希望する場合は、前週火曜日18時までに代表者から西尾医局長にメールすること（何らかの不具合でメールが届かないことがあるので、水野准教授・林教授をCCにすることをお勧めします。）</p>
オフィスアワー・連絡先	<p>月～金 8:20-16:45・連絡先 西尾英紀 内線4931 メール hnishio@med.nagoya-cu.ac.jp 事前に連絡のこと（水野准教授・林教授をCCにすることをお勧めします。両名のアドレスは小児泌尿器科BSL予定表の注意事項に記載されています）</p>
備考	<ol style="list-style-type: none"> ① 小児泌尿器科BSL予定表をみて、各曜日の集合時間と集合場所を確認しておいて下さい。 ② ただし緊急入院や緊急手術などで状況は常に流動的ですし、それぞれの学生ごとに実習場所と内容が違う場合がありますので、オリエンテーションのときに連絡方法について十分に確認して下さい。 ③ 幼い子どもを扱う診療科なので、小児泌尿器科BSL予定表の欄外の【注意事項】を熟読して下さい。

小児泌尿器科 BSL予定表

週間予定	月			火			水			木			金		
	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00	8:20~12:00
午前	小児泌尿器科医局(西棟3階)	中央手術室	泌尿器科外来(外来棟3階)	泌尿器科外来(外来棟3階)	小児泌尿器科医局	小児泌尿器科医局	中央手術室								
	西尾医局長	西尾医局長	西尾医局長・水野准教授・林教授	西尾医局長・水野准教授・林教授	水野准教授	水野准教授	西尾医局長								
午後	8:20 オリエンテーション(資料配付) 8:40 ラパロドバイボックス・オリ 9:00 レクチャー&ドリル【UTI・VUR】	7:15 泌尿器科・小児泌尿器科外来同力 ンアラレンス《希望者》(11階南病棟) 8:20 手術実習(術前→手術→術後回診)	8:20 小児泌尿器科外来実習	8:20 小児泌尿器科外来実習	10:30 アクティブ・ラーニング 11:00 ラパロ・テクニカルチェック	13:00 クルズズ(先天性生殖器疾患) 15:00 クルズズorブラクティス【小児泌尿器 科画像診断】 16:45 ラパロ・バーチャルトレーニング《希 望者》	13:00 ラウンド心構え指導 13:15 チームラウンド 15:00 クルズズ【小児泌尿器科腫瘍】 16:45 ラパロ・バーチャルトレーニング《希 望者》								

【注意事項】(別紙の概要とオリエンテーション時の配布資料も合わせて必読)

- ① 実習が始まる前の週末に、小児泌尿器科の講義内容について十分勉強しておくこと(別紙概要にも記載)。その内容が習得されたという前提で実習を行います。
- ② オリエンテーション(以下オリ)は月曜日8時20分に開始する予定です。変更がある場合は前週に連絡(メール)があります。週間予定表の説明と出席の取り方を説明します。
- ③ 月曜日が祝日の場合、翌日火曜日8:00から中央手術室リフレッシュルームでオリとなります。
- ④ **実習は8:20~12:00、昼休憩をはさんで、13:00~16:45が原則です。午前・午後で出席確認を受けて下さい。**
- ⑤ しかしオバヤカンファは早朝からスタートするときも夜遅くまで続くこともあります。時間外については無理せず「に体調や都合に合わせて参加を考慮して下さい。
- ⑥ 外来診察では、見学者目録にならないよう、診療チームの一員として患児・家族に寄り添う姿勢、患者さん目線で臨んで下さい。
- ⑦ 病棟回診では、多人数で入室すると患児と家族はストレスを感じるので、少人数(できれば一人ずつ)で交代で入室しては控えます。
- ⑧ 医学生として恥ずかしくない良識的な身なりで実習して下さい。ナースセンターなどで大きな声で喋ったりゲラゲラと笑ったりするのは控えます。
- ⑨ 手術を見学する場合、私語は厳禁です。繊細な手術の進行の障害にならないよう小声で伝達するからルーム外で会話して下さい(緊急時は例外です)。
- ⑩ 手術中に限らず、実習中に気分が悪くなった場合には、遠慮せず周りの人に伝えて下さい。
- ⑪ 火曜日手術終了後、中根准教授(東大医科研で腎臓再生を研究)の「小児腎臓リサチアアーツィクル勉強会」があります。希望者は事前に中根明宏先生(aki-nakane@ams.odn.ne.jp)に連絡して下さい。
- ⑫ 金曜日午後には丸山教授の「小児排尿指導外来」があります。希望者は当日でも良いので丸山哲史先生にメール(tmaru3461@yahoo.co.jp)して、診療に参加して下さい。

【連絡先】 西尾医局長(hnshio@med.nagoya-cu.ac.jp / PHS 4931)、水野准教授(kmizuno@med.nagoya-cu.ac.jp / PHS 3516)、林教授(yutaro@med.nagoya-cu.ac.jp / PHS 3352)

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	【臨床実習】泌尿器科
専門・教養	専門
担当教員	安井孝周、戸澤啓一、丸山哲史、梅本幸祐、窪田泰江、安藤亮介、河合憲康、岡田淳志、瀧本周造、内木 拓、田口和己、恵谷俊紀、加藤大貴
講義期間・曜日・時限	2020年11月23日～2021年9月24日 月曜日～金曜日

授業目的	<p>(全科共通) 「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 (泌尿器科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 泌尿器科領域の基本的な臨床手技は、どの診療科となろうとも臨床家としての医師として必要であるため、BSLを通じて概略を学ぶ。 どの診療科における入院患者も退院時には排尿管理が問題の一つとなることが多いため、社会における医師として、BSLを通して排尿管理に対する退院支援の概略を学ぶ。 BSLを通じて泌尿器科教員、レジデントあるいはコメディカルと触れあうことにより、科学者としての医師のあり方や、プロフェッショナルとしての医師のあり方に触れる。 <p>【該当する卒業時コンピテンシー】 全て</p>
学習到達目標	<p>BSL終了時にできるようになってほしい行動</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識：泌尿器系、男性生殖器の正常な構造、機能および疾病の原因・病態を理解することができる。それを元に泌尿器科学に関心を持ち、将来に研究し、医学の発展に貢献することができる。 態度：プロフェッショナルとして人間愛と倫理性にあふれ、かつ冷静な行動をとることができる。カンファレンスの参加、プレゼンテーションを契機に、継続的に自身の医学知識の向上に努めることができる。 技能：泌尿器科領域の基本的な臨床手技を行うことができる。 <p>【該当するモデルコアカリ】</p> <p><必ず学ぶべき症候></p> <ul style="list-style-type: none"> 浮腫、腹部膨隆・腫瘤、尿量・排尿の異常、血尿・タンパク尿、外傷・熱傷 <p><必ず学ぶべき手技></p> <ul style="list-style-type: none"> 尿道カテーテルの挿入と抜去、ドレーンの挿入と抜去の見学と介助 <p>1. 腎・尿路系 腎・尿路系の構造と機能を理解し、主な腎・尿路系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 腎・尿路系の画像診断の適応と異常所見を概説できる。 尿流動体検査を経験し、説明できる。 腎尿路の主な先天異常（膀胱尿管逆流、尿道下裂、尿路通過障害など）を概説できる。 腎外傷の症候、診断と治療を説明できる。 尿路結石の病因、症候、診断と治療を説明できる。 尿路の炎症（膀胱炎、前立腺炎、尿道炎）の病因、診断と治療を説明できる。 神経因性膀胱を概説できる。 腎癌および膀胱癌を含む尿路上皮癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。 <p>2. 生殖機能 生殖系の構造と機能を理解し、生殖器に問題を有する患者の診断と治療に関する知識を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 精巣と前立腺の検査法（超音波検査、CT, MRI）の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 勃起障害と射精障害を概説できる。 精巣機能障害を概説できる。 男子不妊症を概説できる。 前立腺肥大症の診断と治療を説明できる。 前立腺癌および精巣腫瘍の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。 <p>3. 副腎皮質・髄質疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> Cushing症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞巣および先天性副腎過形成の病態、症候と診断を説明できる。 <p>4. 診療の基本</p> <p>4-1. 症候・病態からのアプローチ</p> <ol style="list-style-type: none"> 尿量・排尿の異常の原因と病態生理を理解し、その疾患をあげ、診断の要点を説明できる。 血尿・タンパク尿の異常の原因と病態生理を理解し、その疾患をあげ、診断の要点を説明できる。 <p>4-2. 基本的診療知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 内視鏡を用いる診断と治療を経験する。 超音波検査を用いる診断と治療を経験する。 手術・術前・術中・術後管理を見学し、介助する。 <p>【該当するモデルコアカリ】 D-8. 腎尿路系、D-9. 生殖機能、F-1-28. 尿量、排尿の異常、F-1-29. 血尿・タンパク尿、F-2-6. 内視鏡を用いる診断と治療、F-2-7. 超音波を用いる診断と治療、F-2-9. 外科的治療と周術期管理</p> <ul style="list-style-type: none"> BSL期間中に担当教官（チーム制）が決まり、その担当教官によるクリニカル・クラークシップが中心である。 学習到達目標で掲げた必ず学ぶべき症候・手技については別途「講義+実習」（臨床推論・アクティブラーニング）を行う 全体カンファレンス、クルズス、総括により自ら学んできた事柄をまとめていき医師としての資質を磨いていく。
授業概要	
授業計画	<p>【学内】 別紙：泌尿器科BSL予定表を参照</p> <p>【学外】 学内実習とほぼ同じであるが、学外の病院のそれぞれの特徴のある疾患や医療システムに触れることができる。</p>
成績判定基準	<p>外来・病棟・手術室、研究室などでの実習姿勢、カンファレンス（外来・病棟）でのプレゼンや意見の内容と姿勢、担当教官からの課題への取り組み、提出レポート、筆記試験・口頭試験など。</p>
テキスト及び参考文献	<p>教官の受け持ち患者全員の疾患・病態の理解を深めるために、図書館やインターネットなどで資料（参考文献など）を収集し深く学習すること。その上で疑問点があれば担当教官に積極的にアプローチして指導を請うこと。</p>
注意・要望事項	<ul style="list-style-type: none"> 4週間で泌尿器科、小児泌尿器科、腎臓内科の実習を行う。 原則として泌尿器科_2週間、小児泌尿器科_1週間、腎臓内科_1週間の実習となる オリエンテーションは、原則として実習スタートの前タームの最終平日（金曜日）、前の診療科のBSLの終了後（17:30～）に、ZOOMにより医局長あるいは副医局長が行う。詳細については適宜医局長から連絡があるので、その指示に従ってください。 連絡先（岡田医局長：a-okada@med.nagoya-cu.ac.jp）電話：052-853-8266（泌尿器科医局） 学外実習等の希望調査については後半のBSLが始まる前に、別途メールと掲示で連絡をします。
オフィスアワー・連絡先	<p>月～金 9:00～17:00 BSLの担当教員、担当教員に連絡がつかないとき、河合憲康准教授 n-kawai@med.nagoya-cu.ac.jp PHS:3518</p>
実務経験を活かした教育の取組	<p>医師としての臨床経験を持つ教員が担当する。</p>
備考	<p>実習開始前までに、教科書・テキスト（M4時のシラバスに記載）および講義録などで、しっかり復習をしておくこと。泌尿器科臨床講義（腎・尿路コース&生殖機能コース）で勉強した内容は身に付けているものとして、実際の患者さんの医療に参加してもらう。患者さんのプライバシーの遵守が絶対条件である泌尿器科診療に参加するわけであるから、医学生として相応しい行動・身なりをするようオリエンテーションで指導を行う。</p>

泌尿器科BSL予定表 2021/ -

月	火	水	木	金
第 1 週	外来診察 (9:00 外来1診) 臨床推論 (10:00 臨床シミュレーションセミナー 研修室③)	病棟回診 (9:00 11S 医師記録室)	外来診察 (8:30 外来1診)	手術室：手術見学
	指導医指示 (クリニカルクラークシップ) *オブション 透視検査 (13:30 2階泌尿器透視室8番) 膀胱鏡等 (14:00 泌尿器科外来)	指導医指示 (クリニカルクラークシップ) *オブション 透視検査 (13:30 2階泌尿器透視室8番) 膀胱鏡等 (14:00 泌尿器科外来)	クルズス (教授；14:00 医局) 教授回診 15:00 カンファレンス (16:00 11S カンファレンスルーム)	手術室：手術見学

【注意事項】 (概要とオリエンテーション時の配布資料も合わせて必読)

実習が始まる前の週末に、泌尿器科の講義内容 (概要参照) について十分勉強しておくこと。その内容が習得されたという前提で実習を行います。

その他、実習前に質問したい場合には、岡田医局長宛にメールすること (ただ届かない場合もあるので、河合准教授をCCにしておく)

BSL最後の総括時にはポートフォリオのC-1,C-3を完成させて臨むようにしてください

【連絡先】 岡田医局長(a-okada@med.nagoya-cu.ac.jp / PHS 3514)、河合准教授(n-kawai@med.nagoya-cu.ac.jp / PHS 3518)

泌尿器科BSL

・泌尿器科 2週間、小児泌尿器科 1週間、腎臓内科 1週間

・泌尿器科の2週間の実習の内訳：

1週間 泌尿器科学内（必須）

1週間 泌尿器科学内、泌尿器科学外、腎臓内科のうちから選択

	泌尿器科	小児泌尿器科	腎臓内科
1週	グループ1 ①②③ 学内	グループ2 ④⑤⑥ 学内・学外 腎内	グループ4 ⑩⑪⑫
2週	グループ4 ⑩⑪⑫ 学内	グループ1 ①②③ 学内・学外 腎内	グループ3 ⑦⑧⑨
3週	グループ3 ⑦⑧⑨ 学内	グループ4 ⑩⑪⑫ 学内・学外 腎内	グループ2 ④⑤⑥
4週	グループ2 ④⑤⑥ 学内	グループ3 ⑦⑧⑨ 学内・学外 腎内	グループ1 ①②③

学外実習病院（順不同）

1. 東部医療センター
2. 西部医療センター
3. 蒲郡市民病院
4. 大同病院
5. 安城更生病院
6. 豊田厚生病院
7. 海南病院
8. 江南厚生病院
9. 菰野厚生病院
10. 豊川市民病院
11. 名古屋徳州会病院
12. 稲沢厚生病院
13. 知多厚生病院
14. いなべ総合病院

新型コロナウイルス感染の影響で、実習受け入れ条項は逐次変更がある

泌尿器科 学外病院情報

* 新型コロナウイルス感染の影響で、実習受け入れの状況は逐次変更となることをご了承ください。

- 1) 名古屋市立東部医療センター 泌尿器科
- 2) 院長：村上信五、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：丸山哲史
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで
- 4) 病院の特徴 名古屋市の市民病院の中核として幅広くかつ専門性の高い医療を提供している。
- 5) 実習方法の方針 現場に即した実践的医療と、さまざまな手術を経験してもらう。

- 1) 名古屋市立西部医療センター 泌尿器科
- 2) 院長：桑原義之、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：梅本幸裕
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで
- 4) 病院の特徴 名古屋市の北エリアに位置する病院。産科が二次救急を行い、NICU もあるので、小児泌尿器科疾患が多いのが特徴。
- 5) 実習方法の方針 個人指導のシステムで、診療の流れ（初診・検査・入院・手術・退院・通院など）を経験してもらう。

- 1) 蒲郡市民病院 泌尿器科
- 2) 院長：中村 誠、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：中根 明宏
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として1名まで
- 4) 病院の特徴 蒲郡市の中核病院として、地域に根ざした幅広い医療を中心としながら、名古屋市立大学からの教員派遣による医療連携を行うことで、高度な医療も行っている。
- 5) 実習方法の方針 大学の実習内では少ない **common disease** を多く経験することができる。希望に応じて、救急外来の診療の見学も行うことが可能である。またチーム医療の重要性を理解するために、コメディカルとのコミュニケーションの取り方を実習に取り入れる。泌尿器科診療における基本的な診察、検査および手術の見学や体験を通して、医師として必要なことが理解できる実習を行う。

- 1) 厚生連海南病院 泌尿器科
- 2) 院長：奥村明彦、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：窪田裕樹
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで
- 4) 病院の特徴 愛知県西部の基幹病院として海部津島医療圏の公的医療機関の役割を担っている。
- 5) 実習方法の方針 癌患者の **QOL** を重視した手術治療、とくに尿路変更を重点的に指導する。また泌尿器科救急疾患についても経験してもらいたい。

- 1) 安城更生病院 泌尿器科
- 2) 院長：度会正人、学外実習指導責任者（副院長）：岡村武彦
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで
- 4) 病院の特徴 西三河最大規模の病院。救急・時間外診療も多く、患者サービスもきわめて良い。また専門性の高い医療を行っている。
- 5) 実習方法の方針 よく遭遇する疾患から珍しい症例まで、多くの経験をしてもらう。また医療サービスとは何かということについて考えてもらえるようなカリキュラムを組む予定である。

- 1) 豊田厚生病院 泌尿器科
- 2) 院長：川口 鎮、学外実習指導責任者（副院長）：岩瀬 豊

- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで
- 4) 病院の特徴 患者数、手術件数が多く、泌尿器科では、悪性腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症の患者が多い。
- 5) 実習方法の方針 一般病院に必要な患者への対応、スピーディさ、コメディカルスタッフたちとの協調など、大学の教育では対応しきれないことを覚えていってもらいたい。

1) **江南厚生病院** 泌尿器科

- 2) 院長：河野彰夫、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：坂倉 毅
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで
- 4) 病院の特徴 尾張北部医療圏の北部地域（江南市、丹羽郡大口町・扶桑町、犬山市）の急性期医療を担う中核病院。
- 5) 実習方法の方針 泌尿器科診療における診察手順、検査手技および手術補助を指導するとともに、医療の中心である医師とコメディカルの連携の重要性を習得していただく。

1) **大同病院** 泌尿器科

- 2) 院長：野々垣浩二、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：神谷浩行
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として1名まで
- 4) 病院の特徴 南区、緑区、知多半島北部を医療圏とする急性期病院。特に救急医療に力をいれている。泌尿器科は悪性腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症、女性泌尿器など幅広くかつ専門性の高い医療を提供。
- 5) 実習方法の方針 現場の状況をよく吟味し、柔軟かつ迅速に対応できる臨床力を体験してもらいたい。その結果についてはカンファレンスの場にてスタッフ全員で検証されフィードバックされる。

1) **豊川市民病院** 泌尿器科

- 2) 院長：松本 隆、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：伊藤尊一郎
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで
- 4) 病院の特徴 豊川市の中核病院として地域医療を中心とした、幅広い医療を行っている。
- 5) 実習方法の方針 臨床研修指定病院としての研修プログラムに準じた臨床実習を行う。

1) **菰野厚生病院** 泌尿器科

- 2) 院長：小嶋正義、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：最上 徹
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として1名まで
- 4) 病院の特徴 三重県北勢部の四日市市に隣接し、観光拠点である湯の山温泉と、鈴鹿山脈の主峰 御在所岳がある人口4万人の菰野町にある。菰野町の地域医療を担う基幹病院として機能特化を図り、急性期医療（急性期・救急・専門医療）から慢性期医療（療養・回復期医療）、健診、在宅・福祉部門まで幅広い地域医療ニーズに包括的に応えている。
- 5) 実習方法の方針 地域に根ざした医療を通じ、心のふれあいを大切にする医療を学ぶ。

1) **名古屋徳州会病院** 泌尿器科

- 2) 院長：亀谷良介、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：黒川覚史
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として1名まで
- 4) 病院の特徴 地域救急医療を中心に医療を行っている。また、ダヴィンチロボット手術などの高度医療の提供も可能な病院である。春日井地区のみならず、岐阜県、三重県の医療過疎地域の重症患者さんの受け入れをドクターカー運用、ドクターヘリ受け入れなどを通じ積極的に対応している。
- 5) 実習方法の方針 地域医療機関としての責務を果たしながら、ダヴィンチロボット手術など高度医療も行っている現場で臨床実習を行う

- 1) 稲沢厚生病院 泌尿器科
- 2) 院長：伊藤浩一、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：畦元将隆
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として1名まで
- 4) 病院の特徴 稲沢市西部地域の中核病院、また西尾張医療圏の二次医療機関であり、災害拠点病院でもある当院は、救急医療や災害医療、急性期医療から地域包括ケア病棟を用いた回復期医療まで幅広く担っている。また一方で、当院は愛知県内で数少ない精神科病床を有する総合病院である。
- 5) 実習方法の方針 泌尿器科部長が病院の臨床研修科部長も兼務しており、泌尿器科疾患のみならず、幅広い観点から臨床実習を行う。

- 1) 知多厚生病院 泌尿器科
- 2) 院長：水野志朗、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：本間秀樹
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として1名まで
- 4) 病院の特徴 知多半島南部における急性期医療と救急医療の拠点病院である。知多半島医療圏の第二種感染症指定医療機関、篠島や日間賀島など離島医療を支援するへき地医療拠点病院、災害拠点病院、臨床研修指定病院に指定されている。
- 5) 実習方法の方針 臨床研修指定病院としての研修プログラムに準じ、また当院の特徴を生かした臨床実習を行う。

現時点での受入は
中止

- 1) いなべ総合病院 泌尿器科
- 2) 院長：相田直隆、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：安藤 亮介
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として1名まで
- 4) 病院の特徴 三重県北勢部のいなべ市にあり、災害拠点病院・がん診療連携推進病院・基幹型臨床研修指定病院の指定を受けた急性期中核病院である。
- 5) 実習方法の方針 臨床研修指定病院としての研修プログラムに準じ、また当院の特徴を生かした臨床実習を行う。

注意点

- ① 同一ターム・同一施設に実習希望者が多数になった場合などには実習日数を修正することがあります。
- ② 実習中、担当教官（実習前に通知されます）と密に連絡をとり、経過の報告を忘れないようにして下さい。
- ③ 泌尿器科実習の前に、必ず担当教官と連絡を取り、初日のスケジュールを確認しておいて下さい。

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	【臨床実習】腎臓内科
専門・教養	専門
担当教員	濱野高行、水野晶紫、村島美穂、小野水面、鈴木大成
講義期間・曜日・時限	2020年11月23日～2021年9月24日

授業目的	<p>①(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。</p> <p>②(腎臓内科)慢性腎臓病の管理を通じて、体液量、電解質、酸塩基バランス、心血管疾患、貧血、骨代謝など多臓器の評価が十分でき、今後の方針を設計できるようになる。総括時にそれら評価についてプレゼンテーションしてもらいます。</p> <p>③該当する卒業時コンピテンシー全て</p>
学習到達目標	<p>①BSL終了時にできるようになってほしい行動 知識：体液量、電解質、酸塩基バランス、心血管疾患、貧血、骨代謝の異常の病態および治療方法についての理解。 態度：患者さんおよびその家族、メディカルスタッフとの基本的コミュニケーション能力を身につける。 技能：尿沈渣検査手法、腎エコー検査手法、動脈血採取、透析療法オーダー</p> <p>②該当するモデルコアカリ C-2-2, C-2-3, D-8, F-1-4, F-1-10, F-1-11, F-1-28, F-1-29, F-2-3, F-2-4, F-2-8, F-2-11, F-2-12</p> <p>③必ず学ぶべき症候・手技 尿沈渣検査と結果の解釈、腎エコー検査、血液ガス所見の解釈、透析療法についての理解</p>
授業概要	<p>1) 学生ごとに指導教員および担当患者を割り当てるとともに、総括でのプレゼンテーションの準備をする。</p> <p>2) 尿沈渣検査と結果の解釈、腎エコー検査、血液ガス所見の解釈、透析療法について指導を受ける。</p>
授業計画	<p>①学内実習 腎臓内科1週間(必須)および希望者追加1週間： 必須の1週間は学生ごとに患者を受け持ち、学習到達目標を基準として患者の既往、現病歴、現症、現行の治療を含めた全身状態について把握してもらいます。総括は、原則として金曜日に実施する。また、火曜日は酸塩基平衡の理解、水曜日は透析療法、木曜日は腎エコー、金曜日は尿沈渣についての説明、実習があります。</p> <p>②学外実習 実習先病院の体制に合わせて実習を受けてもらいます。</p>
成績判定基準	臨床実習中の積極性、態度、診察能力、医学知識、カルテ記載能力、レポート内容、プレゼンテーション技術を総合的に評価する。
テキスト及び参考文献	<p>教科書 1. 初学者から専門医までの腎臓学入門 日本腎臓学会編, 東京医学社</p> <p>参考書 1. 病気がみえる vol.8: 腎・泌尿器, 医療情報学研究所 2. エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン 2018 (日本腎臓学会HPよりダウンロード可能)</p>
BSLにかかる諸注意	医療人としての自覚をもち、態度、身だしなみ、会話などは十分注意する。やむを得ない理由で遅刻、欠席する場合は、グループ内の他の学生に必ず連絡する。集合は原則5分前。
オフィスアワー・連絡先	月曜から金曜 午前9～午後5、腎臓内科学医局(858-7429 内線は2320) 責任教員: 鈴木大成 (taisei@med.nagoya-cu.ac.jp, PHS3602)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が担当する。
備考	

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	【臨床実習】形成外科
専門・教養	専門
担当教員	鳥山、佐藤、恒川
講義期間・曜日・時限	M5 BSL期間内

授業目的	形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損に対して、いろいろな手術手技を用いて、機能のみならず形態的にもより正常にする科です。 当授業では、①体の表面にどのような異常、変形、欠損が生じているかを認知し、その背景にある患者さんの基礎疾患および社会的状況を洞察する。②異常、変形、欠損の中でも、特に、創傷治癒について知識を応用し外傷・熱傷の創の状態の理解し、その治療を行う。
学習到達目標	BSL終了時にできるようになってほしい行動 ・知識 創傷治癒について知識を再確認し外傷・熱傷の創の状態の理解と治療法を習得する。C-4-5, F-1-37, F-2-9 ・態度 乳幼児から高齢者までの患者さんとのコミュニケーションをとれる。チーム医療として他科の医師、多職種スタッフとコミュニケーションをとれる。A-5-1 ・技能 外傷・熱傷の初期治療を行える。F-2-9, F-3-6, G-3-3 【該当するモデルコアカリ】 <必ず学ぶべき症候>外傷、熱傷 F-1-37 <必ず学ぶべき手技>創処置（洗浄、軟膏処置、縫合処置、ドレッシング）F-2-9, F-3-6, G-3-3
授業概要	①体表面の異常、変形、欠損の認知：外来・病棟の患者さんの病変部を観察して、その後で質疑応答する。 ②背景にある患者さんの基礎疾患および社会的状況の洞察：①で検討した症例において考慮すべき基礎疾患および社会的背景について教官と討議する。 ③外傷・熱傷の創の状態の理解と治療：創傷治癒について知識の整理とポイントの習得をする。この知識を応用して、外傷・熱傷の創の状態について討議して、行うべき治療を検討する。外来や手術室で実際に治療を見学する。
授業計画	【学内】 2019年度 形成外科授業予定表を参照。外来診療・処置、病棟回診・処置・レーザー治療、全身麻酔手術および局所麻酔手術の参加、創の診かたについて討議、創処置の実習、受け持ち患者の症例提示など。 【学外】 特に予定はない。
成績判定基準	レポート内容、カンファレンス等でのプレゼンテーション、態度などで評価
テキスト及び参考文献	標準形成外科学、形成外科の基本手技1・2
BSLにかかる諸注意	
オフィスアワー・連絡先	月曜日午前 鳥山 PHS:3197 あるいは 外来 PHS:3453
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が担当する。
備考	

形成外科科BSL予定表

		月	火	水	木	金	
コ	午前	8:30 形成外科外来 鳥山	8:30 形成外科外来 恒川	8:30 中央手術室 佐藤	9:00 13階南病棟 佐藤/鳥山	10:00 中央手術室 佐藤	
		外来診察と処置	外来診察と処置	全身麻酔手術参加 担当患者を持つ	病棟回診と処置 外来レーザー	全身麻酔手術参加	
		13:30 中央手術室 佐藤/鳥山	13:00 形成外科医局 鳥山/佐藤	12:30 中央手術室 鳥山	13:00 形成外科医局 鳥山/佐藤	15:00 中央手術室 佐藤	
	午後	部分麻酔手術参加	創の診かたについて討議 創処置の実習① カンファレンスで発表	全身麻酔手術参加 担当 患者を持つ	創の診かたについて討議 創処置の実習② カンファレンスで発表	部分麻酔手術参加	
		午前	8:30 形成外科外来 佐藤/恒川	9:00 13階南病棟 小山/鳥山	8:30 中央手術室 佐藤	9:00 中央手術室 佐藤/鳥山	9:00 形成外科外来 鳥山
			外来診察と処置	病棟回診と処置 外来レーザー	全身麻酔手術参加 担当患者を持つ	部分麻酔手術参加	外来診察と処置
13:30 中央手術室 佐藤/鳥山	13:00 形成外科医局 鳥山/佐藤		12:30 中央手術室 鳥山	13:00 形成外科医局 鳥山/佐藤	12:30 中央手術室 鳥山		
午後	部分麻酔手術参加	創の診かたについて討議 創処置の実習① カンファレンスで発表	全身麻酔手術参加 担当 患者を持つ	創の診かたについて討議 創処置の実習② カンファレンスで発表	全身麻酔手術参加		
	シ						
	月						
シ	午前	9:00 13階南病棟 小山	9:00 形成外科外来 佐藤	8:30 中央手術室 佐藤	9:00 中央手術室 佐藤/鳥山	9:00 形成外科外来 恒川/小山	
		病棟回診と処置 外来レーザー	外来診察と処置	全身麻酔手術参加 担当患者を持つ	部分麻酔手術参加	外来診察と処置	
		13:30 中央手術室 佐藤/鳥山	13:00 形成外科医局 鳥山/佐藤	12:30 中央手術室 鳥山	13:00 形成外科医局 鳥山/佐藤	12:30 中央手術室 鳥山	
	午後	部分麻酔手術参加	創の診かたについて討議 創処置の実習① カンファレンスで発表	全身麻酔手術参加 担当 患者を持つ	創の診かたについて討議 創処置の実習② カンファレンスで発表	全身麻酔手術参加	

注意事項など

形成外科医局は診療棟4階の緩和ケアの奥です。月曜日朝8時に医局集合。ガイダンスとカンファレンス(日程確認)

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	臨床実習（皮膚科）
専門・教養	専門
担当教員	森田、加藤、中村、佐川、斎藤、高木、中田、西原、井汲、日下部、小田
講義期間・曜日・時限	BSL期間内

授業目的	皮膚科学は単なる皮膚に原因する疾患を対象とするだけの学問ではなく、身体他の部分からの異常を背景として生じる疾患をも含む広い範囲を追求する科学である。 したがって皮膚コースではいわゆる「皮膚病」を学ぶのではなく、皮膚に生じた変化を全身を基盤としてどのように考えて行くか（目標）、実際的には皮膚に起こっている変化（皮疹のみかた）を正確にとらえ、その原因をどのように追求していくか、どのような検査を行うべきか、その結果どのような背景を考えるべきか、治療はどのようにして行くべきか、などの考え方を深め、さらに実習ではその実際を学ぶ（目標）。（領域I1b, c及び領域IVd）。
学習到達目標	皮膚の構造と機能を理解する（C-2-2, E-8）。 皮膚の検査の基本を理解し、説明できる（D-3, F-2-4）。 皮膚の疾患の各論に関して理解して、重要なポイントを説明できる（D-3, F-1-12, F-1-37）。 皮膚疾患の治療の考え方を理解し、基本的な治療方法を説明できる（C-4-5, C-4-6, D-3, F-2-9, 一般手技2), 3), 外科手技1)-6)）。
授業概要	（実習要目） 医療面接（初診） 皮膚科基本処置 皮疹の見方 皮膚外科手技 皮膚病理 皮膚科検査方法 皮膚科診療における治療
授業計画	皮膚科学授業予定表を参照（縫合実習やパッチテスト実習、軟膏、処置実習などで実際の手技を行って頂く予定）
成績判定基準	レポート内容、カンファレンス等でのプレゼンテーション、態度などで評価
テキスト及び参考文献	チャート式カラー皮膚科、皮膚病アトラス
BSLにかかる諸注意	
オフィスアワー・連絡先	月曜、木曜 午前（事前に連絡すること） 内線 8261、電子メール h-kato@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	各グループをさらに①から④の4つの小グループに分け、スケジュール（別記）の様に1週間ごとにローテーションします。それぞれの小グループによってスケジュールが異なりますので、開始1週間前までに皮膚科医局（秘書）に資料を取りに来るようお願いします。シラバスには小グループ①の学内実習の予定を記載します。 また、学外実習で選択可能な医療機関は以下の通りです ①名古屋第2赤十字病院 ②東部医療センター ③西部医療センター ④豊川市民病院 ⑤蒲郡市民病院 ⑥海南病院 ⑦江南厚生病院 ⑧春日井市民病院 ⑨聖霊病院 ⑩岡崎市民病院

	1w	2w	3w	4w
①	学内	学内	皮膚科学外	形成外科
②	学内	学内	形成外科	皮膚科学外
③	皮膚科学外	形成外科	学内	学内
④	形成外科	皮膚科学外	学内	学内

2021年度 第6学年

臨床実習グループ名簿

グループ	番号	氏名	性別	パターン	グループ	番号	氏名	性別	パターン	グループ	番号	氏名	性別	パターン
A	A 1	1	男	①α	D	35		男	①α	G	67		男	①α
		2	男	②α		36		男	②α		68		男	②α
		3	男	③α		38		男	③α		69		男	③α
		4	男	④α		34		女	④α		73		女	④α
		5	男	①β		37		女	①β		78		女	①β
		7	男	②β		43		女	②β					②β
	A 2	8	男	③β		39		男	③β		70		男	③β
		9	男	④β		40		男	④β		71		男	④β
		10	男	①γ		41		男	①γ		72		男	①γ
		11	男	②γ		45		女	②γ		86		女	②γ
		12	男	③γ		46		女	③γ		88		女	③γ
							99		女		④γ			
B	B 1	14	男	①α	E	42		男	①α	H	74		男	①α
		15	男	②α		44		男	②α		75		男	②α
		17	男	③α		47		男	③α		76		男	③α
		18	男	④α		48		男	④α		77		男	④α
		6	女	①β		50		女	①β		92		女	①β
		13	女	②β		51		女	②β		95		女	②β
	B 2	19	男	③β		49		男	③β		79		男	③β
		21	男	④β		53		男	④β		80		男	④β
		23	男	①γ		55		男	①γ		81		男	①γ
		16	女	②γ		52		女	②γ		97		女	②γ
		20	女	③γ		54		女	③γ		98		女	③γ
C	C 1	24	男	①α	F	56		男	①α	I	82		男	①α
		25	男	②α		57		男	②α		83		男	②α
		26	男	③α		59		男	③α		84		男	③α
		28	男	④α		61		男	④α		85		男	④α
		22	女	①β		58		女	①β		87		男	①β
		27	女	②β		60		女	②β		89		男	②β
	C 2	29	男	③β		62		男	③β		90		男	③β
		30	男	④β		64		男	④β		91		男	④β
		32	男	①γ		66		男	①γ		93		男	①γ
		31	女	②γ		63		女	②γ		94		男	②γ
		33	女	③γ		65		女	③γ		96		男	③γ

計99名

…グループ代表者

皮膚科臨床実習予定表

BSL 皮膚科臨床実習【パターン① 1週目】

		月		火		水		木		金	
午前	8:30	8:30 オリエンテーション (皮膚科7号診察室)		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	9:00	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	9:30	外来(7診)	病棟	外来(2診)	病棟	外来(7診)	病棟	外来(7診)	病棟	外来(7診)	入院手術 (中央手術室)
	10:15	手術 (中央手術室)	病棟		病棟		病棟	手術 (中央手術室)	病棟		病棟
	10:30										
12:00											
午後	13:00	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	13:30	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	14:00	病棟		レーザー (外来、外 来手術室)	病棟	手術 (中央手術室)		病棟		入院手術 (中央手術室)	
	14:30	病棟		病棟	病棟	病棟		病棟		病棟	
	15:00	外来手術 (外来手術室)	病棟	15:00 皮膚の見方と皮膚科スライド 皮膚科医局		手術 (中央手術室)		フットケア(外来)		病棟	
	15:30										
	16:00			16:00 Aチーム病棟回診 12階南病棟医師記録室		16:00 臨床スライドカンファレンス 12階南病棟カンファレンス室					
	16:30										
17:00											

*月曜が休日の週は火曜8:20に皮膚科外来2号診察室にてオリエンテーション

BSL 皮膚科臨床実習

2020年10月発行

		月		火		水		木		金	
α	am	外来(7診)		病棟Aチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)		病棟Aチーム(12南病棟)		外来(7診)	
	pm	外来手術(外来手術室)		病棟Aチーム(12南病棟)		入院手術(中央手術室)		病棟Aチーム(12南病棟)		入院手術(中央手術室)	
β	am	病棟Aチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)		外来(7診)		外来(7診)→手術(中央手術室)		入院手術(中央手術室)	
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)		レーザー(外来)		入院手術(中央手術室)		フットケア(外来)		入院手術(中央手術室)	
γ	am	外来(7診)→手術(中央手術室)		外来(2診)		病棟Aチーム(12南病棟)		外来(7診)		病棟Aチーム(12南病棟)	
	pm	往診(12南病棟)		レーザー(外来)		病棟Aチーム(12南病棟)		フットケア(外来)		病棟Aチーム(12南病棟)	

BSL 皮膚科臨床実習【パターン① 2週目】

		月		火		水		木		金	
午前	8:30	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	9:00	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	9:30	外来(2診)	病棟	外来(7診)	病棟	外来(4,5診)	病棟	外来(2診)	病棟	外来(7診, 2診)	病棟
	12:00										
午後	13:00	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	13:30	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	14:00	病棟		レーザー(外来、外 来手術室)	病棟	病棟		病棟		病棟	
	14:30	パッチテスト(外来)	光線(外来)	病棟	病棟	光線(外来)	病棟	フットケア(外来)	病棟	光線(外来)	病棟
	15:00	病棟		15:00 総合実習 シミュレーションセンター		病棟		病棟		病棟	
	15:30	病棟		病棟		病棟		病棟		病棟	
	16:00	16:00 処置・軟膏実習 皮膚科外来		レーザー(外来、外 来手術室)	病棟	16:00 臨床スライドカンファレンス 12階南病棟カンファレンス室		16:00 皮膚病理 皮膚科医局		15:30 レポート検討・総括 皮膚科第1研究室	
	16:30										
17:00											

BSL 皮膚科臨床実習

2020年10月発行

		月		火		水		木		金	
α	am	外来(2診)		外来(7診)		病棟Bチーム(12南病棟)		病棟Bチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)	
	pm	パッチテスト(外来)		レーザー(外来)		病棟Bチーム(12南病棟)		病棟Bチーム(12南病棟)		光線(外来)	
β	am	病棟Bチーム(12南病棟)		病棟Bチーム(12南病棟)		外来(4診)		外来(2診)		外来(7診)	
	pm	病棟Bチーム(12南病棟)		病棟Bチーム(12南病棟)		光線(外来)		フットケア(外来)		光線(外来)	
γ	am	外来(2診)		外来(7診)		外来(5診)		往診(12南病棟)		病棟Bチーム(12南病棟)	
	pm	光線(外来)		レーザー(外来)		光線(外来)		フットケア(外来)		病棟Bチーム(12南病棟)	

BSL 皮膚科臨床実習【パターン① 3週目(extra) スケジュール】

		月		火		水		木		金	
午前	8:30	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	9:00	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	9:30	外来(3,4診)	病棟	外来(5診)	病棟	外来(3診)	病棟	外来(4診)	病棟	外来(4,5診)	入院手術 (中央手術室)
	12:00										
午後	13:00	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	13:30	病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング	
	14:00	手術説明		レーザー (外来、外 来手術室)	病棟	入院・外来手術 (中央手術室)		病棟		入院手術 (中央手術室)	
	14:30	病棟		病棟	病棟	病棟		病棟		病棟	
	15:00	外来手術 (外来手術室)	病棟	自己学習		手術 (中央手術室)		フットケア(外来)		病棟	
	15:30										
	16:00					16:00 臨床スライドカンファレンス 12階南病棟カンファレンス室					
	16:30										
17:00											

BSL 皮膚科臨床実習

2020年10月発行

		月		火		水		木		金	
α	am	外来(3診)		外来(5診)		病棟Aチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)		外来(5診)	
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)		レーザー(外来)		病棟Aチーム(12南病棟)		病棟Aチーム(12南病棟)		入院手術(中央手術室)	
β	am	病棟Aチーム(12南病棟)		病棟Aチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)		外来(4診)		外来(4診)	
	pm	往診(12南病棟)		病棟Aチーム(12南病棟)		入院手術(中央手術室)		外来手術(外来手術室)		入院手術(中央手術室)	
γ	am	外来(4診)		往診(12南病棟)		外来(3診)		病棟Aチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)	
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)		レーザー(外来)		入院手術(中央手術室)		フットケア(外来)		病棟Aチーム(12南病棟)	

皮膚科臨床実習予定表

BSL 皮膚科臨床実習【パターン② 1週目】

		月		火		水		木		金	
午前	8:30	8:30 オリエンテーション (皮膚科7診)			病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング
	9:00		病棟 プリーフィング	外来(7診)		外来(4,5診)		外来(2診)		外来(7診、2診)	
	9:30	外来(2診)			病棟		病棟		病棟		病棟
	12:00		病棟								
午後	13:00		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング
	13:30										
	14:00			レーザー(外来、外来 手術室)	病棟		光線(外来)				
	14:30										
	15:00	パッチテスト(外来)	光線(外来)		15:00 皮膚の見方と皮膚科スライド 皮膚科医局			フットケア(外来)	病棟	光線(外来)	病棟
	15:30										
	16:00				レーザー(外来、外来 手術室)	病棟	16:00 臨床スライドカンファレンス 12階南医師カンファレンス室				
	16:30										
17:00											

*月曜が休日の週は火曜8:20に皮膚科外来2番診察室にてオリエンテーション

BSL 皮膚科臨床実習

2020年10月発行

		月		火		水		木		金	
α	am	外来(2診)		外来(7診)		病棟Bチーム(12南病棟)		病棟Bチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)	
	pm	パッチテスト(外来)		レーザー(外来)		病棟Bチーム(12南病棟)		病棟Bチーム(12南病棟)		光線(外来)	
β	am	病棟Bチーム(12南病棟)		病棟Bチーム(12南病棟)		外来(4診)		外来(2診)		外来(7診)	
	pm	病棟Bチーム(12南病棟)		病棟Bチーム(12南病棟)		光線(外来)		フットケア(外来)		光線(外来)	
γ	am	外来(2診)		外来(7診)		外来(5診)		往診(12南病棟)		病棟Bチーム(12南病棟)	
	pm	光線(外来)		レーザー(外来)		光線(外来)		フットケア(外来)		病棟Bチーム(12南病棟)	

BSL 皮膚科臨床実習【パターン② 2週目】

		月		火		水		木		金	
午前	8:30	8:30 オリエンテーション (皮膚科7診)			病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング
	9:00		病棟 プリーフィング	外来(7診)		外来(7診)		外来(7診)		外来(7診)	入院手術 (中央手術室)
	9:30	外来(7診)			病棟		病棟		病棟		病棟
	10:15	外来(7診)	手術 (中央手術室)		外来(2診)		外来(7診)		外来(7診)		手術 (中央手術室)
	10:30		病棟								
	12:00										
午後	13:00		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング
	13:30										
	14:00			レーザー(外来)	病棟		入院・外来手術 (中央手術室)				入院手術 (中央手術室)
	14:30	外来手術 (中央手術室)		掃帚回診 (10階第4 会議室)			病棟	フットケア(外来)	病棟		病棟
	15:00				15:00 総合実習 シミュレーションセンター						
	15:30										15:30 レポート検討・総括 皮膚科第1研究室(森田)
	16:00		16:00 処置・軟膏実習 皮膚科外来		16:00 Aチーム病棟回診 12階南病棟医師記録室		16:00 臨床スライドカンファレンス 12階南医師カンファレンス室		16:00 臨床スライド 皮膚科医局		
	16:30										
17:00											

BSL 皮膚科臨床実習

2020年10月発行

		月		火		水		木		金	
α	am	外来(7診)		病棟Aチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)		病棟Aチーム(12南病棟)		外来(7診)	
	pm	外来手術(中央手術室)		病棟Aチーム(12南病棟)		入院手術(中央手術室)		病棟Aチーム(12南病棟)		入院手術(中央手術室)	
β	am	病棟Aチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)		外来(7診)		外来(7診)→手術(中央手術室)		入院手術(中央手術室)	
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)		レーザー(外来)		入院手術(中央手術室)		フットケア(外来)		入院手術(中央手術室)	
γ	am	外来(7診)→手術(中央手術室)		外来(2診)		病棟Aチーム(12南病棟)		外来(7診)		病棟Aチーム(12南病棟)	
	pm	往診(12南病棟)		レーザー(外来)		病棟Aチーム(12南病棟)		フットケア(外来)		病棟Aチーム(12南病棟)	

BSL 皮膚科臨床実習【パターン② 3週目(extra) スケジュール】

		月		火		水		木		金	
午前	8:30		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング
	9:00			外来(5診)		外来(3診)		外来(4診)		外来(4,5診)	入院手術 (中央手術室)
	9:30	外来(3,4診)			病棟		病棟		病棟		病棟
	12:00		病棟								
午後	13:00		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング		病棟 プリーフィング
	13:30	手術説明	手術説明								
	14:00			レーザー(外来、外来 手術室)	掃帚回診 (10階第4 会議室)		入院・外来手術 (中央手術室)				入院手術 (中央手術室)
	14:30						病棟	フットケア(外来)	病棟		病棟
	15:00	外来手術 (中央手術室)	外来手術 (中央手術室)								
	15:30				自己学習						
	16:00										
	16:30						16:00 臨床スライドカンファレンス 12階南医師カンファレンス室				
17:00											

BSL 皮膚科臨床実習

2020年10月発行

		月		火		水		木		金	
α	am	外来(3診)		外来(5診)		病棟Aチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)		外来(5診)	
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)		レーザー(外来)		病棟Aチーム(12南病棟)		病棟Aチーム(12南病棟)		入院手術(中央手術室)	
β	am	病棟Aチーム(12南病棟)		病棟Aチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)		外来(4診)		外来(4診)	
	pm	往診(12南病棟)		病棟Aチーム(12南病棟)		入院手術(中央手術室)		外来手術(中央手術室)		入院手術(中央手術室)	
γ	am	外来(4診)		往診(12南病棟)		外来(3診)		病棟Aチーム(12南病棟)		往診(12南病棟)	
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)		レーザー(外来)		入院手術(中央手術室)		フットケア(外来)		病棟Aチーム(12南病棟)	

皮膚科臨床実習予定表

BSL 皮膚科臨床実習【パターン③ 1週目(extra) スケジュール】

		月	火	水	木	金	
午前	8:30	8:30 オリエンテーション (皮膚科7号診察室)		病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング
	9:00	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング
	9:30	外来(3,4診)	外来(5診)	外来(3診)	外来(4診)	外来(4,5診)	入院手術 (中央手術室)
	12:00	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
午後	13:00	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング
	13:30	手術説明	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	14:00	病棟	レーザー (外来、外 来手術室)	病棟	病棟	病棟	病棟
	14:30	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	15:00	外来手術 (外来手術室)	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	15:30	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	16:00	自己学習	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	16:30	病棟	病棟	16:00 臨床スライドカンファレンス 12階南医師カンファレンス室	病棟	病棟	病棟
	17:00	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟

BSL 皮膚科臨床実習

2020年2月発行

		月	火	水	木	金
α	am	外来(3診)	外来(5診)	病棟Aチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)	外来(5診)
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)	レーザー(外来)	病棟Aチーム(12南病棟)	病棟Aチーム(12南病棟)	入院手術(中央手術室)
β	am	病棟Aチーム(12南病棟)	病棟Aチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)	外来(4診)	外来(4診)
	pm	往診(12南病棟)	病棟Aチーム(12南病棟)	入院手術(中央手術室)	外来手術(外来手術室)	入院手術(中央手術室)
γ	am	外来(4診)	往診(12南病棟)	外来(3診)	病棟Aチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)	レーザー(外来)	入院手術(中央手術室)	フットケア(外来)	病棟Aチーム(12南病棟)

BSL 皮膚科臨床実習【パターン③ 1週目】

		月	火	水	木	金	
午前	8:30	8:30 オリエンテーション (皮膚科7号診察室)		病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング
	9:00	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング
	9:30	外来(7診)	外来(2診)	外来(7診)	外来(7診)	外来(7診)	入院手術 (中央手術室)
	10:15	外来(7診)	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	10:30	手術 (中央手術室)	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	12:00	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
午後	13:00	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング
	13:30	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	14:00	病棟	レーザー (外来、外 来手術室)	病棟	病棟	病棟	病棟
	14:30	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	15:00	外来手術 (外来手術室)	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	15:30	病棟	15:00 皮膚の見方と皮膚科スライド 皮膚科医局	病棟	病棟	病棟	病棟
	16:00	病棟	16:00 Aチーム病棟回診 12階南病棟医師記憶室	病棟	病棟	病棟	病棟
	16:30	病棟	病棟	16:00 臨床スライドカンファレンス 12階南医師カンファレンス室	病棟	病棟	病棟
	17:00	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟

*月曜が休日の週は火曜8:20に皮膚科外来2番診察室にてオリエンテーション

BSL 皮膚科臨床実習

2020年10月発行

		月	火	水	木	金
α	am	外来(7診)	病棟Aチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)	病棟Aチーム(12南病棟)	外来(7診)
	pm	外来手術(外来手術室)	病棟Aチーム(12南病棟)	入院手術(中央手術室)	病棟Aチーム(12南病棟)	入院手術(中央手術室)
β	am	病棟Aチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)	外来(7診)	外来(7診)→手術(中央手術室)	入院手術(中央手術室)
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)	レーザー(外来)	入院手術(中央手術室)	フットケア(外来)	入院手術(中央手術室)
γ	am	外来(7診)→手術(中央手術室)	外来(2診)	病棟Aチーム(12南病棟)	外来(7診)	病棟Aチーム(12南病棟)
	pm	往診(12南病棟)	レーザー(外来)	病棟Aチーム(12南病棟)	フットケア(外来)	病棟Aチーム(12南病棟)

BSL 皮膚科臨床実習【パターン③ 4週目】

		月	火	水	木	金	
午前	8:30	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング
	9:00	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	9:30	外来(2診)	外来(7診)	外来(4,5診)	外来(2診)	外来(7診、2診)	病棟
	12:00	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
午後	13:00	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング
	13:30	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	14:00	病棟	レーザー(外来、外来手術室)	病棟	病棟	病棟	病棟
	14:30	パッチテスト(外来)	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	15:00	光線(外来)	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	15:30	病棟	15:00 総合実習 シミュレーションセンター	病棟	病棟	病棟	病棟
	16:00	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	16:30	16:00 処置・教育実習 皮膚科外来	レーザー(外来、外来手術室)	病棟	16:00 臨床スライドカンファレンス 12階南医師カンファレンス室	16:00 皮膚病理 皮膚科医局	15:30 レポート検討・総括 皮膚科第1研究室
	17:00	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟

BSL 皮膚科臨床実習

2020年2月発行

		月	火	水	木	金
α	am	外来(2診)	外来(7診)	病棟Bチーム(12南病棟)	病棟Bチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)
	pm	パッチテスト(外来)	レーザー(外来)	病棟Bチーム(12南病棟)	病棟Bチーム(12南病棟)	光線(外来)
β	am	病棟Bチーム(12南病棟)	病棟Bチーム(12南病棟)	外来(4診)	外来(2診)	外来(7診)
	pm	病棟Bチーム(12南病棟)	病棟Bチーム(12南病棟)	光線(外来)	フットケア(外来)	光線(外来)
γ	am	外来(2診)	外来(7診)	外来(5診)	往診(12南病棟)	病棟Bチーム(12南病棟)
	pm	光線(外来)	レーザー(外来)	光線(外来)	フットケア(外来)	病棟Bチーム(12南病棟)

皮膚科臨床実習予定表

BSL 皮膚科臨床実習【パターン④ 2週目(extra) スケジュール】

		月	火	水	木	金						
午前	8:30	8:30 オリエンテーション (皮膚科7号診察室)		病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング						
	9:00	外来(3,4診)	病棟 プリーフィング	外来(5診)	病棟	外来(3診)	病棟	外来(4診)	病棟	外来(4,5診)	入院手術 (中央手術室)	病棟
	9:30											
	12:00											
午後	13:00	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング						
	13:30	手術説明	レーザー (外来、外来手術室)	褥瘡回診 (10階第4 会議室)	入院・外来手術 (中央手術室)	病棟	フットケア(外来)	病棟	入院手術 (中央手術室)	病棟		
	14:00	外来手術 (外来手術室)									病棟	自己学習
	14:30											
	15:00											
	15:30											
	16:00											
	16:30											
	17:00											

BSL 皮膚科臨床実習

2020年2月発行

		月	火	水	木	金
α	am	外来(3診)	外来(5診)	病棟Aチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)	外来(5診)
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)	レーザー(外来)	病棟Aチーム(12南病棟)	病棟Aチーム(12南病棟)	入院手術(中央手術室)
β	am	病棟Aチーム(12南病棟)	病棟Aチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)	外来(4診)	外来(4診)
	pm	往診(12南病棟)	病棟Aチーム(12南病棟)	入院手術(中央手術室)	外来手術(外来手術室)	入院手術(中央手術室)
γ	am	外来(4診)	往診(12南病棟)	外来(3診)	病棟Aチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)	レーザー(外来)	入院手術(中央手術室)	フットケア(外来)	病棟Aチーム(12南病棟)

BSL 皮膚科臨床実習【パターン④ 3週目】

		月	火	水	木	金					
午前	8:30	8:30 オリエンテーション (皮膚科7号)		病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング					
	9:00	外来(2診)	病棟 プリーフィング	外来(7診)	病棟	外来(4,5診)	病棟	外来(2診)	病棟	外来(7診、2診)	病棟
	9:30										
	12:00										
午後	13:00	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング					
	13:30	パッチテスト (外来)	病棟	レーザー(外来、外来手術室)	病棟	光線(外来)	病棟	フットケア(外来)	病棟	光線(外来)	病棟
	14:00										
	14:30			15:00 総合実習 シミュレーションセンター							
	15:00										
	15:30										
	16:00				レーザー(外来、外来手術室)	病棟	18:00 臨床スライドカンファレンス 12階南医師カンファレンス室				
	16:30										
	17:00										

*月曜が休日の週は火曜8:20に皮膚科外来2号診察室にてオリエンテーション

BSL 皮膚科臨床実習

		月	火	水	木	金
α	am	外来(2診)	外来(7診)	病棟Bチーム(12南病棟)	病棟Bチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)
	pm	パッチテスト(外来)	レーザー(外来)	病棟Bチーム(12南病棟)	病棟Bチーム(12南病棟)	光線(外来)
β	am	病棟Bチーム(12南病棟)	病棟Bチーム(12南病棟)	外来(4診)	外来(2診)	外来(7診)
	pm	病棟Bチーム(12南病棟)	病棟Bチーム(12南病棟)	光線(外来)	フットケア(外来)	光線(外来)
γ	am	外来(2診)	外来(7診)	外来(5診)	往診(12南病棟)	病棟Bチーム(12南病棟)
	pm	光線(外来)	レーザー(外来)	光線(外来)	フットケア(外来)	病棟Bチーム(12南病棟)

BSL 皮膚科臨床実習【パターン④ 4週目】

		月	火	水	木	金					
午前	8:30	外来(7診)	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング					
	9:00										
	9:30										
	10:15	手術 (中央手術室)	病棟	外来(2診)	病棟	外来(7診)	病棟	外来(7診)	入院手術 (中央手術室)	病棟	
	10:30										
	12:00										
午後	13:00	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング	病棟 プリーフィング					
	13:30	外来手術 (外来手術室)	病棟	レーザー (外来)	褥瘡回診 (10階第4 会議室)	入院・外来手術 (中央手術室)	病棟	フットケア(外来)	病棟	入院手術 (中央手術室)	病棟
	14:00										
	14:30			15:00 皮膚の見方と皮膚科スライド 皮膚科医局							
	15:00										
	15:30										
	16:00				16:30 処置・教育実習 皮膚科外来	16:00 Aチーム病棟回診 12階南病棟医師記憶室	18:00 臨床スライドカンファレンス 12階南医師カンファレンス室	18:00臨床スライド 皮膚科医局			
	16:30										
	17:00										
	17:00	15:30 レポート検討・総括 皮膚科第1研究室(森田)									

BSL 皮膚科臨床実習

		月	火	水	木	金
α	am	外来(7診)	病棟Aチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)	病棟Aチーム(12南病棟)	外来(7診)
	pm	外来手術(外来手術室)	病棟Aチーム(12南病棟)	入院手術(中央手術室)	病棟Aチーム(12南病棟)	入院手術(中央手術室)
β	am	病棟Aチーム(12南病棟)	往診(12南病棟)	外来(7診)	外来(7診)→手術(中央手術室)	入院手術(中央手術室)
	pm	病棟Aチーム(12南病棟)	レーザー(外来)	入院手術(中央手術室)	フットケア(外来)	入院手術(中央手術室)
γ	am	外来(7診)→手術(中央手術室)	外来(2診)	病棟Aチーム(12南病棟)	外来(7診)	病棟Aチーム(12南病棟)
	pm	往診(12南病棟)	レーザー(外来)	病棟Aチーム(12南病棟)	フットケア(外来)	病棟Aチーム(12南病棟)

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	【臨床実習】乳腺外科
専門・教養	専門
担当教員	遠山竜也（教授）、近藤直人（講師）、鰐淵友美（講師）、藤田崇史（講師）、浅野倫子（助教）、久田知可（病院助教）
講義期間・曜日・時限	第1週月曜日午前8:40（遠山竜也）、第1週水曜日午前11:00（近藤直人）、第1週水曜日午後1:30（久田知可）、第1週水曜日午後2:00（藤田崇史）、第1週木曜日午後4:00（鰐淵友美） 第1週金曜日午後2:00（浅野倫子）

授業目的	(全科共通) 「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 (乳腺外科) 乳がんに対する診断、治療計画立案、患者および家族への説明、手術、周術期患者管理に参画し、臨床医としての修練を積み、臨床医としての能力を高める。 【該当する卒業時コンピテンシー】 全て
学習到達目標	BSL終了時にできるようになってほしい行動 ・知識：乳房の構造と内分泌依存性の機能を理解し、主な乳房疾患の症候、診断と治療を理解する。 ・態度：患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者及びその家族と良好な関係性を築き、意思決定を支援する。また患者の苦痛や不安感に配慮しながら、診療を実践する。 ・技能：乳房の診察方法を理解する。 【該当するモデルコアカリ】 <必ず学ぶべき症候> 乳がん <必ず学ぶべき手技> 乳房の診察
授業概要	乳腺腫瘍学、マンモグラフィの読影方法、乳房エコーの読影方法、乳房MRIの読影方法
授業計画	【学内】 乳腺専門外来の見学、乳癌手術への参加。 【学外】 乳腺専門クリニックでの実習 ・あんどろ乳腺クリニック 基幹病院での実習 ・名古屋市立西部医療センター 乳腺内分泌外科
成績判定基準	参加態度100点満点
テキスト及び参考文献	教科書： 1. 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 医療情報科学研究所編集 2. 乳腺腫瘍学 日本乳癌学会編集，金原出版 3. 乳癌診療ガイドライン 日本乳癌学会編集，金原出版
BSLにかかる諸注意	男子学生は原則ネクタイ着用（+白衣）、またはケーシー白衣着用のこと。
オフィスアワー・連絡先	乳腺外科学分野 秘書 杉山順子 乳腺外科学分野 教授 遠山竜也 PHS:3188 Email:t.toyama@med.nagoya-cu.ac.jp 10:00-17:00（乳腺外科学分野医局 内線8336）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	

乳腺外科 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

- 1) 名古屋市立西部医療センター 外科（乳腺内分泌外科）
- 2) 病院長：桑原義之、学外実習指導責任者（乳腺内分泌外科部長）：杉浦博士
- 3) 受入れ学生人数は1名
- 4) 地下鉄黒川駅から市バスで約10分、クオリティライフ21城北内に、城北、城西病院が合併して2011年4月から西部医療センターとして開設しました。新しい西部医療センターは地下1階、地上8階建てで500床の病院となり、30診療科が整備されています。新病院の特徴は小児周産期医療とがん医療で、特にがん医療に関しては消化器腫瘍センターを中心に手術療法、内視鏡的治療、放射線療法、化学療法などを駆使し、チーム医療を重視した悪性新生物医療を提供しています。また、来年度には陽子線がん治療施設の開設が予定され、副作用の少ない「痛みのないがん治療」を推進していきます。外科メンバーは常勤8名、非常勤2名で、一般外科から、消化器外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、小児外科まであらゆる外科手術に取り組んでおり、多彩な症例を経験でき、実習に適したセンター病院です。
- 5) 市中病院での乳腺内分泌外科診療を学ぶ。
- 6) 第2週月曜日

- 1) あんどう乳腺クリニック 乳腺外科
- 2) 院長・学外実習指導責任者：安藤由明
- 3) 受入れ学生人数は1名
- 4) 金山総合駅北口より徒歩6分、の天津通沿いに位置し、平成22年5月に開院しました。あんどう乳腺クリニックでは、専門医ならではの乳腺外科に特化した外来診療をしており、クオリティの高い乳がんの検診・2次精密検査・治療を提供しております。また、乳癌の病診連携にも力を入れており、乳癌地域連携パスを積極的に受け入れています。一般診療所とは違い、専門性が高い診療所で、実習に適した乳腺クリニックです。
- 5) 乳腺専門クリニックにおける診療を学ぶ。
- 6) 第1週水曜日等

2. 学外臨床実習評価項目

学生は、実習内容をレポートとして提出すると共にし、指導医から臨床実習内容について評価を受ける。

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	【臨床実習】内分泌・糖尿病学
専門・教養	専門
担当教員	田中智洋、青谷大介、小山博之、服部麗
講義期間・曜日・時限	2020. 11. 23～2021. 9. 24

授業目的	(全科共通) 「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 <追加資料2参照> (内分泌糖尿病科) 糖尿病・内分泌疾患の病因・病態を理解し、症例に即して考察する能力を養う 【該当する卒業時コンピテンシー】 全て
学習到達目標	BSL終了時にできるようになってほしい行動 ・知識：糖尿病の疾患概念、分類・成因、合併症を理解する。ホルモンの分泌と作用の異常に関する疾患概念、症状・身体所見、血液検査所見を理解する。 ・態度：医学生として相応しい実習姿勢で患者に接し、クリニカルクラークシップ診療体制の一員となるべく努力する。 ・技能：糖尿病診療のみならず内科医として全身の病状把握の能力を身につける。内分泌疾患の診断確定への手順を習得する。 【該当するモデルコアカリ】 <必ず学ぶべき症候> 肥満、痩せ、全身倦怠感 <必ず学ぶべき手技> 病歴聴取、治療計画の作成、診療録作成、食事指示
授業概要	的確な問診、綿密な身体所見をとる術を習得する。適切な病態把握・診断・medical decision makingのための必要なストラテジーを身につける。
授業計画	【学内】 講義：1ターム中に3～4回 実習：患者教育の観点から糖尿病患者を心理的・社会的側面も含めて理解し、患者に対して的確に説明・指導する能力を身につける。また内分泌疾患に関しては、common diseaseとしての甲状腺疾患の診断法および治療法を習得する。 【学外】 実習：これまでに習得した基礎医学および臨床医学の知識を礎とし、より深い洞察力をもって内分泌・代謝疾患の診療現場を体験する。
成績判定基準	講義への出席、レポートの提出は必須である。実習時の態度、レポートの内容により総合的に判定する。
テキスト及び参考文献	特になし
BSLにかかる諸注意	患者とのトラブルや懸念事項が生じたときは、自分たちだけで判断せずに担当教員に報告し相談すること。 内分泌代謝疾患の成因・病態を理解しておくことが望ましい。
オフィスアワー・連絡先	平日(月～金) 午前9時から午後5時 連絡先：田中 智洋 PHS:4783 Email:tttanaka@med.nagoya-cu.ac.jp、青谷 大介 PHS:3298 E-mail:aotani@med.nagoya-cu.ac.jp、小山 博之 PHS:3431 Email:hk0515@kuhp.kyoto-u.ac.jp、服部 麗 PHS:3334 Email:raygenome@gmail.com
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	乳腺外科との話し合いにより、12人を6人×2グループに分け、各診療科で1グループずつ各々2週間受け入れる。内分泌・糖尿病内科の2週間では、1週目の月・火曜日は6人全員を受け入れるが、1週目水曜日～2週目金曜日については、4人は学内で引き続き受け入れ、2人は学外の病院で受け入れていただく。

内分泌糖尿病内科BSL予定表

		月	火	水	木	金
第1週	午前	9:30	10:00	9:30	10:00	9:30
		南14病棟カンファレンス室	南14病棟カンファレンス室	南14病棟カンファレンス室	南14病棟カンファレンス室	南14病棟
		小山助教	青谷講師	青谷講師	服部病院助教	当番医
		オリエンテーション	ミニレクチャー	患者割当て	ミニレクチャー	当番医実務補助
	午後	13:30	15:00	13:00	13:00	13:00
		南14病棟カンファレンス室	南14病棟カンファレンス室	南14病棟	南14病棟	南14病棟
田中准教授 ミニレクチャー SMBG実習		今枝臨床教授 ・ミニレクチャー(甲状腺) ・症例検討会(16:45~)	担当患者主治医 担当患者診察	担当患者主治医 担当患者診察	担当患者主治医 担当患者診察	
第2週	午前	10:00	9:30	10:00	10:00	10:00
		外来30診	南14病棟カンファレンス室	外来30診	外来30診	南14病棟カンファレンス室
		担当医 初診外来見学	当番医 当番医実務補助	担当医 初診外来見学	担当医 初診外来見学	田中准教授 総括
	午後	13:00	14:00	13:00	13:00	
		南14病棟カンファレンス室	4F 403	南14病棟	南14病棟カンファレンス室	
		担当患者主治医 担当患者診察	検査担当医 ・甲状腺エコー見学 ・症例検討会(16:45~)	担当患者主治医 担当患者診察	小山助教 ミニレクチャー	
第3週	午前					
	午後					
第4週	午前					
	午後					

注意事項など

内分泌・糖尿病内科 学外病院情報

学外実習は、第1週の水曜日～第2週目の金曜日までの計8日間とする。

1. 学外実習病院の基本情報

- 1) 刈谷豊田総合病院 糖尿病・内分泌内科
 - 2) 院長：田中 守嗣 先生、糖尿病・内分泌内科部長：水野 達央 先生
 - 3) 内分泌・代謝内科として1人まで
 - 4) 当院はトヨタグループ8社ならびに刈谷市・高浜市によって運営されている704床の地域中核病院です。先進的な医療機器を完備して、高度な医療を提供しています。
 - 5) 糖尿病・内分泌分野でも先進的な機器を導入し、豊富な症例、他科にまたがる重症例を日々診療しています。8日間の実習では糖尿病・内分泌内科の担当症例を選定し、身体診察、データの読み方、プレゼンテーション、レポート作成などを行います。若手医師とも交流し、多様な症例に触れたりインフォームドコンセントを学んでいただきます。
 - 6) 病院6棟2階応接室 9時15分（2020年10月現在、新型コロナウイルスの影響で開始が遅めです）
-
- 1) 旭ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科
 - 2) 院長：宇佐美 郁治 先生、糖尿病・内分泌内科部長：小川 浩平 先生
 - 3) 受け入れ人数は内分泌・糖尿病内科として1人まで
 - 4) 旭ろうさい病院は尾張旭市にあり、名鉄瀬戸線印場駅から北に2kmです。250床と中小規模であり、診療科間・職種間の垣根が低く、いわゆる小回りが利く病院です。令和元年5月に新病院が完成しまして、環境は非常に良いです。糖尿病内分泌内科は3名の常勤医が在籍しており、糖尿病学会認定教育施設です。糖尿病教育入院を常時受け付けており、チーム医療により患者の個々の状況に合わせた診療をしています。
 - 5) 糖尿病教育入院中の患者の担当につき、チーム医療を体験する。稀な症例は是非とも経験してもらおう。当院で力を入れているフットケア外来を見学する など
 - 6) 5階の総務課、午前9時
-
- 1) 名古屋市立西部医療センター 内分泌・糖尿病内科
 - 2) 院長：桑原 義之 先生、内分泌・糖尿病内科部長：今枝 憲郎 先生
 - 3) 受け入れ人数は内分泌・糖尿病内科として1人まで
 - 4) 名古屋市北部および近隣自治体の中核病院であり、成育医療・がん診療の拠点病院である。内分泌糖尿病患者全般に加え妊娠糖尿病や化学療法中の糖尿病患者が多いのが特徴である。
 - 5) 外来・病棟をバランスよく実習していただく。複数の医師に指導をうけてキャリアモデルをイメージしていただく。
 - 6) 初日、午前9時。2階管理科事務室 井上さんを訪ねる
-
- 1) 名古屋市立東部医療センター 内分泌内科
 - 2) 院長：村上 信五 先生、内分泌内科部長：赤尾 雅也 先生
 - 3) 受け入れ人数は内分泌・糖尿病内科として1人まで
 - 4)
 - 5)
 - 6) 8:45に病院4階の管理課の鈴木さんを訪ねてください
-
- 1) 豊川市民病院 糖尿病内分泌内科
 - 2) 院長：松本 隆 先生、糖尿病内分泌内科部長：加藤 岳史 先生
 - 3) 受け入れ人数は糖尿病内分泌内科として1人まで
 - 4) 比較的救急が多い。リアルタイムは難しいですが当直帯からでDKAやHHSや低血糖の入院はよくあります。
 - 5) 病棟・外来の両方でなるべく多くの患者、疾患を見てもらう。
 - 6) 病院3階キャリア支援センターに8時30分集合

2. 学外臨床実習評価項目

各病院の実習責任者に一任する。

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	【臨床実習】精神科・緩和ケアセンター
専門・教養	専門
担当教員	精神科：明智龍男、東 英樹、山田敦朗、久保田陽介、中口智博、内田 恵、近藤真前、白石直、渡辺孝文、今井理紗、井野敬子 緩和ケアセンター：奥山 徹、内田 恵、長谷川貴昭、鈴木奈々
講義期間・曜日・時限	2020年11月23日～12月18日、2021年1月4日～3月12日、3月29日～7月30日、8月30日～9月24日

授業目的	(全科共通) 「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 (緩和ケアセンターBSL) 身体的問題を有する患者における身体的・心理社会的苦痛に共感を持って接し、包括的な評価を行うことができるようになることを目標とする。学外実習においては、緩和ケア病棟で提供される終末期ケアについて学ぶ。 【該当する卒業時コンピテンシー】 全て
学習到達目標	1. 緩和ケアの概念について説明することができる。(知識) 痛み、倦怠感などの頻度の高い身体症状、うつ病、せん妄などの頻度の高い精神症状について、基本的な概念を説明できる。(知識) 2. 身体的問題を有する患者に対して、病むことによる苦痛を理解し、共感を持って接することができる。(態度、技能) 3. 症状緩和におけるチーム医療について説明でき、またチーム医療において医師に求められる態度について述べるができる。(知識) 4. 予診で聴取すべき問診内容を理解し、実践できる。(知識、態度、技能) 5. 症例の概要をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(知識、技能) 【該当するモデルコアカリ】 A-4 コミュニケーション能力、A-5 チーム医療の実践、C-5 人の行動と心理、D-15 精神系、E-9 人の死、F-1-2) 全身倦怠感、F-1-3) 食思(欲)不振、F1-1-4) 体重減少・増加、F-1-15)呼吸困難、F-1-16)胸痛、F-1-20) 腹痛、F-1-21) 悪心・嘔吐、F-1-31) 不安・抑うつ、F-2-16) 緩和ケア <必ず学ぶべき症候> F-2-16) 緩和ケア
授業概要	学習到達目標を実践するために、指導医の指導のもと、自ら緩和ケアを要する患者の診察を行う。緩和ケアチームによる多職種による診察、治療方法、カンファレンスを学ぶ。また院外の緩和ケア病棟の見学を行う。
授業計画	【学内】 1. 外来における初診・再診患者の診察の陪席 2. 入院における初診患者の予診と診療記録記載 3. 入院患者診察と診療記録記載 4. 病棟回診の見学 5. 病棟カンファレンスへの参加 6. 各種ミーティングへの参加 【学外】 1. 緩和ケア病棟の見学実習
成績判定基準	以下の合計得点を精神科卒試得点に反映させる。 1. 緩和ケア部実習態度(5点) 2. 「緩和ケア実習を通して感じたこと、考えたこと」レポート作成(5点)
テキスト及び参考文献	Textbook of Palliative Medicine and Supportive Care Bruera E, et al., CRC Press, 2015 Psycho-oncology (2nd ed) Holland JC, et al., Oxford University Press, 2013 がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 緩和医療学会 がん患者の治療抵抗性の苦痛と鎮静に関する基本的な考え方の手引き 緩和医療学会 カプラン臨床精神医学テキスト 第3版 メディカルサイエンスインターナショナル DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 日本精神神経学会監修、医学書院
BSLにかかる諸注意	精神科BSLと連携して実施する。
オフィスアワー・連絡先	担当 奥山 徹 木曜日 15:00-17:00 (事前に連絡すること) 内線8271、PHS: 3973、電子メール: okuyama@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	授業時間外の学習：教科書(参考文献)の該当箇所ならびにM4講義をよく復習して、実習に臨むこと。

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	【臨床実習】いたみセンター
専門・教養	専門
担当教員	麻酔科：杉浦健之、徐 民恵、草間宣好、太田晴子 整形外科：早稲田祐也、植木美乃 精神科：近藤真前、酒井美枝
講義期間・曜日・時限	2020年11月23日～12月18日、2021年1月4日～3月12日、2021年3月29日～7月30日、 2021年8月30日～9月24日

授業目的	(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 (いたみセンターBSL)急性痛と慢性痛の病態が異なることを理解し、急性痛の評価・治療の概要を理解するとともに、慢性痛に対する多面的評価・多職種集学的治療の重要性を理解することを目標とする。 【該当する卒業時コンピテンシー】 全て
学習到達目標	1. 各種の痛みを患う患者に対する偏見や誤解があれば、それに気づく。(態度) 2. 痛みを有する患者と良好なコミュニケーションをとることができる。(態度、技能) 3. 慢性痛の生物・心理・社会要因の病態を理解し説明できる。(知識) 4. 慢性痛診療におけるチーム医療について説明できる。(知識) 5. 痛み評価ツールの内容を理解し、実践できる。(知識、態度、技能) 6. 症例の概要をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(知識、技能)
授業概要	学習到達目標を実践するために、いたみセンターで多職種による診察、カンファレンス、治療方法を学ぶ
授業計画	1週目 08～09時 カンファレンス見学 09～10時 問診事項確認(現病歴・神経学所見：痛み強度、アロディニア、ROM・心理要因・社会要因、iPadによる心理社会要因の評価実習) 10～11時 エコーガイド神経ブロック実習 11時～ 初診カルテ予習 12時30分～ 慢性痛初診の心理士診察・麻酔科診察の見学 16時 緩和ケアカンファレンスなど 2週目 08～09時 カンファレンス参加(症例提示、討論参加) 09～10時 担当症例の確認・解説 10～11時 痛み評価ツールの実習 12時30分～ 慢性痛初診の心理士診察・麻酔科診察の見学 15～17時 緩和ケアカンファレンスなど
成績判定基準	1. いたみセンター外来実習姿勢(10点) いたみ評価ツールを用いた評価ができる 2. 慢性痛多職種カンファレンスへの参加姿勢(10点) カンファレンスで意見を発言出来る 3. 慢性疼痛患者レポート作成(10点) 担当患者の病態を理解してレポートにまとめる
テキスト及び参考文献	① Bonica's Management of Pain、② Wall & Melzack's Textbook of Pain、 ③ 慢性疼痛診療ガイドライン、④ ペインクリニック治療指針、 ⑤ 神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン
BSLにかかる諸注意	いたみセンターBSL予定表を参照(木曜朝8:00のいたみセンター・カンファレンスでは、病院外来棟1階の麻酔科・いたみセンターの外来に集合すること)カンファレンス前日までに担当症例の把握をすること。
オフィスアワー・連絡先	平日(月～金) 午前9時から午後5時 連絡先：いたみセンター 杉浦健之 内線:3449 E-mail:tsugiurak@med.nagoya-cu.ac.jp 麻酔科手術室ディレクター 内線:3052
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が担当する。
備考	

開講年度	2020年11月～2021年9月
科目名	【臨床実習】精神科
専門・教養	専門
担当教員	精神科：明智龍男、奥山 徹、東 英樹、山田敦朗、久保田陽介、中口智博、内田 恵、近藤真前、白石 直、渡辺孝文、井野敬子
講義期間・曜日・時限	2020年11月23日～12月18日、2021年1月4日～3月12日、2021年3月29日～7月30日、2021年8月30日～9月24日

授業目的	(全科共通)「医師として求められる基本的な資質・能力」を獲得する。 (精神科学内BSL)心の病を理解するために、種々の医療現場での心の病を実態を知り、彼らと語りうることができ、彼らへの偏見をなくすことを目標とする。 (精神科選択制BSL)1)各種の精神障害(気分障害、統合失調症、不安障害、認知症など)の診断と初期治療の実際に触れる。2)患者および家族の悩みを通じて、身体疾患患者にも当然みられる精神医学的・心理社会的側面への感性と評価する能力を養い、患者の全人的理解に資する。 【該当する卒業時コンピテンシー】 全て
学習到達目標	1. 心の病を患う患者に対する偏見や誤解があれば、それに気づく。(態度) 2. 心の病を有する患者と良好なコミュニケーションをとることができる。(態度、技能) 3. 種々の医療現場での心の病の実態を理解し説明できる。(知識) 4. 精神医療におけるチーム医療について説明できる。(知識) 5. 予診で聴取すべき問診内容を理解し、実践できる。(知識、態度、技能) 6. 症例の概要をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(知識、技能) 【該当するモデルコアカリ】 D-15)精神系、F-1-3)食思(欲)不振、F1-1-4)体重減少・増加、F-1-8)けいれん、F-1-17)動悸、F-1-31)不安・抑うつ <必ず学ぶべき症候> F-1-31)不安・抑うつ
授業概要	名古屋市立大学精神科では、卒前教育(M4、M5、M6)、卒後初期臨床研修(1ヶ月以上の精神科ローテート)と一貫した教育を目指しています。初期臨床研修を終える時には、「何科の医者になってもしばしば遭遇する多頻度精神症状を捉え対処できる」、すなわち「身体科で出会う精神疾患に適切に対処できるように、主たる精神症状と基本疾患を知り、患者の悩みを受け止めることができる」ことを目標としています。
授業計画	【学内】 1. 外来における初診患者の予診聴取 2. 外来における初診患者の診察の陪席 3. 専門外来の陪席 4. 病棟回診の見学 5. 修正型電気けいれん療法の見学実習 6. 病棟カンファレンスへの参加 7. チームミーティングへの参加 8. 入院患者の診察とカルテ記載 【学外】 1. 精神科病院の見学実習(学内BSL) 2. 児童精神医学施設(名古屋市児童福祉センター)の見学実習(学内BSL)
成績判定基準	緩和ケアの提出物(10点)も併せて計30点として卒試得点に反映させる。 1. 予診聴取、初診陪席と修正型電気けいれん療法への実習姿勢(10点)：最低でも予診1例、初診見学3例を行うこと。理由のない欠席、遅刻は減点対象とする。 2. 精神科病院見学実習への参加姿勢(5点)：学外施設の担当責任者の評価による。個人に対する評価ではなく、実習グループ全体に対して行われる。 3. 精神科レポートと精神科病院実習レポート作成(5点)
テキスト及び参考文献	カプラン臨床精神医学テキスト 第3版 メディカルサイエンスインターナショナル 標準精神医学 第7版 尾崎紀夫、三村将他編、医学書院 精神科診察・診断学 古川壽亮、神庭重信編著、医学書院 精神科における予診・初診・初期治療 笠原嘉、星和書店 内科医のための精神症状の見方と対応 宮岡等、医学書院 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 日本精神神経学会監修、医学書院
BSLにかかる諸注意	精神科BSL予定表を参照(BSL開始時にオリエンテーションを行うので、オリエンテーション初日の午前9時に研究棟10階精神科カンファレンス室に集合)
オフィスアワー・連絡先	担当 東 英樹 木曜日 15:00～17:00(事前に連絡すること) 内線8271、PHS:3968、電子メール: azma@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	授業時間外の学習：教科書(参考文献)の該当箇所ならびにM4講義をよく復習して、実習に臨むこと。

精神科、CL・緩和ケア・いたみセンターBSL予定表

		月	火	水	木	金
第1週	午前	9:00~ 研究棟10F 渡辺 全体オリエンテーション	①8:50~ ②8:50~ ①精神科外来 ②病棟6F⇒各担当病棟 ①初診担当医 ②酒井⇒CL緩和担当医 ①予診、初診陪席 ②慢性痛レクチャー⇒CL緩和実習	①各病院に合わせる ②各担当医に合わせる ①現地集合 ②各担当病棟 ①各病院担当医 ②CL緩和担当医 ①児童精神医学施設見学 ②CL緩和実習	①8:50~ ②8:00~ ①病棟7階北病棟 ②外来1Fいたみセンター ①病棟担当医 ②いたみ担当医 ①精神科病棟実習 ②いたみセンター実習	①8:50~ ②8:50~ ①精神科外来 ②病棟6F⇒各担当病棟 ①初診担当医 ②酒井⇒CL緩和担当医 ①予診、初診陪席 ②慢性痛レクチャー⇒CL緩和実習
	午後	①13:30~ ②13:30~ ①病棟7階北病棟 ②研究棟10F ①病棟担当医 ②CL緩和担当医 ①精神科病棟実習 ②CL緩和実習	①13:30~ ②13:30~ ①病棟7階北病棟 ②研究棟10F ①病棟担当医 ②CL緩和担当医 ①病棟実習 ②MMSE実習 CL緩和実習	①各病院に合わせる ②各担当医に合わせる ①現地集合 ②各担当病棟 ①各病院担当医 ②CL緩和担当医 ①児童精神医学施設見学 ②CL緩和実習	①13:30~ ②12:30~ ①病棟7階北病棟 ②外来1Fいたみセンター ①病棟担当医 ②いたみ担当医 ①病棟回診 病棟会議 ②いたみセンター実習	13:30~ 研究棟10F 渡辺 週間まとめ
第2週	午前	①8:50~ ②8:50~ ①精神科外来 ②病棟5F手術室1番ルーム ①初診担当医 ②東 ①予診、初診陪席 ②ECT見学	①各病院に合わせる ②各担当医に合わせる ①現地集合 ②各担当病棟 ①各病院担当医 ②CL緩和担当医 ①精神科単科病院見学 ②CL緩和実習	①各病院に合わせる ②各担当医に合わせる ①現地集合 ②各担当病棟 ①各病院担当医 ②CL緩和担当医 ①精神科単科病院見学 ②CL緩和実習	①8:50~ ②8:00~ ①病棟7階北病棟 ②外来1Fいたみセンター ①病棟担当医 ②いたみ担当医 ①精神科病棟実習 ②いたみセンター実習	①8:50~ ②8:50~ ①精神科外来 ②各担当病棟 ①初診担当医 ②CL緩和担当医 ①予診、初診陪席 ②CL緩和実習
	午後	①13:30~ ②各担当医に合わせる ①病棟7階北病棟 ②各担当医に合わせる ①病棟担当医 ②CL緩和担当医 ①精神科病棟実習 ②CL緩和実習	①各病院に合わせる ②各担当医に合わせる ①現地集合 ②各担当病棟 ①各病院担当医 ②CL緩和担当医 ①精神科単科病院見学 ②CL緩和実習	①各病院に合わせる ②各担当医に合わせる ①現地集合 ②各担当病棟 ①各病院担当医 ②CL緩和担当医 ①精神科単科病院見学 ②CL緩和実習	①13:30~ ②12:30~ ①病棟7階北病棟 ②外来1Fいたみセンター ①病棟担当医 ②いたみ担当医 ①病棟回診 病棟会議 ②いたみセンター実習	13:30~ 研究棟10F 明智 中間まとめ
第3週	午前	①8:50~ ②8:50~ ①病棟5F手術室1番ルーム ②精神科外来 ①東 ②初診担当医 ①ECT見学 ②予診、初診陪席	①8:50~ ②8:50~ ①病棟6F⇒各担当病棟 ②精神科外来 ①酒井⇒CL緩和担当医 ②初診担当医 ①慢性痛レクチャー⇒CL緩和実習 ②予診、初診陪席	①各担当医に合わせる ②各病院に合わせる ①各担当病棟 ②現地集合 ①各病院担当医 ②各病院担当医 ①CL緩和実習 ②児童精神医学施設見学	①8:00~ ②8:50~ ①外来1Fいたみセンター ②病棟7階北病棟 ①いたみ担当医 ②病棟担当医 ①いたみセンター実習 ②精神科病棟実習	①8:50~ ②8:50~ ①病棟6F⇒各担当病棟 ②精神科外来 ①酒井⇒CL緩和担当医 ②初診担当医 ①慢性痛レクチャー⇒CL緩和実習 ②予診、初診陪席
	午後	①各担当医に合わせる ②13:30~ ①各担当医に合わせる ②病棟7階北病棟 ①CL緩和担当医 ②病棟担当医 ①CL緩和実習 ②精神科病棟実習	①13:30~ ②13:30~ ①研究棟10F ②病棟7階北病棟 ①CL緩和担当医 ②病棟担当医 ①MMSE実習 CL緩和実習 ②病棟実習	①各担当医に合わせる ②各病院に合わせる ①各担当病棟 ②現地集合 ①CL緩和担当医 ②各病院担当医 ①CL緩和実習 ②児童精神医学施設見学	①12:30~ ②13:30~ ①外来1Fいたみセンター ②病棟7階北病棟 ①いたみ担当医 ②病棟担当医 ①いたみセンター実習 ②病棟回診 病棟会議	13:30~ 研究棟10F 渡辺 週間まとめ
第4週	午前	①9:00~ ②9:00~ ①病棟5F手術室1番ルーム ②精神科外来 ①東 ②初診担当医 ①ECT見学 ②予診、初診陪席	①各担当医に合わせる ②各病院に合わせる ①各担当病棟 ②現地集合 ①CL緩和担当医 ②各病院担当医 ①CL緩和実習 ②精神科単科病院見学	①各担当医に合わせる ②各病院に合わせる ①各担当病棟 ②現地集合 ①CL緩和担当医 ②各病院担当医 ①CL緩和実習 ②精神科単科病院見学	①8:00~ ②9:00~ ①外来1Fいたみセンター ②病棟7階北病棟 ①いたみ担当医 ②病棟担当医 ①いたみセンター実習 ②精神科病棟実習	①9:00~ ②9:00~ ①各担当病棟 ②精神科外来 ①CL緩和担当医 ②初診担当医 ①CL緩和実習 ②予診、初診陪席
	午後	①各担当医に合わせる ②13:30~ ①各担当医に合わせる ②病棟7階北病棟 ①CL緩和担当医 ②病棟担当医 ①CL緩和実習 ②精神科病棟実習	①各担当医に合わせる ②各病院に合わせる ①各担当病棟 ②現地集合 ①CL緩和担当医 ②各病院担当医 ①CL緩和実習 ②精神科単科病院見学	①各担当医に合わせる ②各病院に合わせる ①各担当病棟 ②現地集合 ①CL緩和担当医 ②各病院担当医 ①CL緩和実習 ②精神科単科病院見学	①12:30~ ②13:30~ ①外来1Fいたみセンター ②病棟7階北病棟 ①いたみ担当医 ②病棟担当医 ①いたみセンター実習 ②病棟回診 病棟会議	13:30~ 研究棟10F 明智 最終まとめ

注意事項など 2グループ①②に分けて精神科と緩和ケア・いたみセンター実習を2週間ずつ行う

第1、第3火、水、木のCL緩和実習、あるいはいたみセンター実習中、数名ごとに入れ替わりで学外緩和ケア病棟実習を行う

選択制臨床実習

選択制学外実習について

1 実習期間

実習期間は4週である。希望科を回る選択制臨床実習を行う。
開業医プライマリ・ケア実習は、9/27～10/8のうち、いずれか2日間で実施する。

2 選択方法

4週間の選択については以下の通りである。

- (1) 必須、選択の区別はない。(すべて選択制)
- (2) この「手引き」に示された基礎医学講座を選択することも出来る。
- (3) 名古屋市立大学とオーストラリア・ニューサウスウェールズ大学での実習はもちろん、個人で用意した海外の他施設での臨床実習も必要書類が整えば、認められる。
(海外での臨床実習プログラムについての取り扱い の項参照)
- (4) 選択制臨床実習の受け入れ人数を超えたときは、各科に増員の可能性を問いそれでも超過する場合は学生間で調整する。
- (5) 東部医療センター・西部医療センターへの実習を希望するものは、該当箇所を参照すること。

海外での臨床実習プログラムについての取り扱い

(学生個人が希望する場合)

最高学年時の臨床実習の一部として、海外の大学や教育機関において臨床実習(エクスターンシップ)を行うことは、異なった医療体制を見聞・体験し、日本とは異なる指導体制で教育を受け、さらには異文化のもとで医師として国際人として活躍する基盤ともなるという観点から、望ましいものであると考えられる。そこで、オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学での実習以外に、以下の手順を踏めば、海外での臨床実習について、互換を認める。

1. 実習開始前年度の8月末日 までにカリキュラム企画・運営委員会に以下の書類を提出する。

- (ア) 志望理由書
- (イ) 4週間の研修の計画表
- (ウ) 相手先の受け入れ承諾書
- (エ) 実習のために外国に渡航する学生は、旅行傷害保険などに加入していることを証明するもの

2. カリキュラム企画・運営委員会および教授会は、以下の基準で互換に値するか否かを判定する。

- (ア) 相手先が大学医学部/医学校であること
- (イ) 受け入れプログラムが海外の場合は、大学の正式プログラムであり、医療事故の保険が備わっていること。あるいは渡航者がこれに替わる損害賠償責任保険に加入すること。

3. 実習終了後、1ヶ月以内に以下のものをカリキュラム企画・運営委員会に提出すること。

- (ア) 受け入れ責任者による、実習修了を認める書類
- (イ) 本人による、実習内容についてのポートフォリオ形式レポート
(日本語または英語、感想文は不可)

名古屋市立大学医学部 学外臨床実習要項

はじめに

学外臨床実習は選択制臨床実習のなかに組み入れられている。したがって選択した科の方針で学外臨床実習は計画立案されている。学外臨床実習を積極的に取り入れている科もあれば、行わない科もある。この点については選択臨床実習の手引きを参照のこと。

学外臨床実習の趣旨

学外臨床実習の目的

1) 第一線の医療現場を知る

大学病院が研究機能を有することから、各講座各研究グループの興味の対象となる疾患の診療に重点が置かれ、学生が実地に観察しうる疾患に偏りがある。大学病院は科ごとにまた科の中でも研究グループごとに顕著な特殊性および独立性が存在するため、学生が対象患者や対象疾患を観察あるいは考察する場合に最先端領域に目を奪われ、全体的な医療内容の把握に目が向かない状況にある。

大学病院は医師、看護師、薬剤師、検査技師、その他の医療従事者の相対的な比率が市中の第一線医療機関とかなり異なるため、大学病院での医療従事者間での業務分担が異なっている。第一線病院ではこれら大学病院における特異性を排した医療を実習できる。

2) 徹底した実習を行う

講義形式の学習でなく、殆ど全ての学習が患者を対象とした実習であるため、実地に即した教育が出来る。特に、各学生は将来自分の興味を感じている領域を行うために教育効果も高い。

3) 急性疾患や多頻度疾患を学習する

実際の医療現場で多く大学病院で少ない疾患、特に急性感染症など比較的迅速に対応が必要な疾患あるいは比較的治療期間の短い疾患について学習し、大学での疾患の偏りを補完する。

対象となる学生

選択臨床実習を行っている医学部6年生の学生が対象である。

期間

学外臨床実習は、選択臨床実習期間中に選択した診療科の方針に従って行う。

選択実習における科の選択方法

- 1) 選択臨床実習における科を選択するにあたって、各科から出された学外臨床実習病院情報を参考にする。
- 2) 受け入れ病院の決定は各科の方針に従う。

交通手段

- 1) 公共交通機関を使うことを原則とする。
- 2) 公共交通機関を使うのが原則であるが、合理的理由があり、受入病院の許可があれば、自家用車の使用も可能である。病院での駐車については、病院に駐車スペースがあり、病院や患者に迷惑がかからず病院が許可した場合のみ可能である。駐車場の有無は各病院の資料に記載されている。
- 3) その他、交通手段について各病院の規則があればそれに従う。

実習中の事故について

- 1) 学生本人の場合
学生本人の事故については、大学の通常の実習中の場合に準ずる。
- 2) 医療事故
学外臨床実習に伴う医療事故は通常ありえないが、不幸にして発生した場合、担当の医師と名古屋市立大学医学部関連講座の長と医学部長が責任を負うことになる。従って、当面、責任系列の関係上、受け入れ科以外の診療科のローテイトは行わないこととする。もし、事故が発生した場合、学外実習担当責任者は院長に事故報告を行い、直ちに事後の対応にあたる。院長は大学関連講座の長または医学部長にこれを報告する。

実習の細目

病院の規律、規則があれば、なによりもこれを優先する。ここに記載のない細目については学生と各病院各科で定めた学外実習指導責任者との話し合いで決めることを原則とする。

- 1) 実習時間：基本的には8時30分から4時30分を正式な実習時間とする。ただし、病院の都合により変更されることがある。病院が医師の勤務時間とすればそれが実習時間である。実習時間外で実習を継続することは、効果的な実習に必要と思われる時には可能である。実習時間についてはその都度指導医が学生の意見を参考として設定する。
- 2) 白衣：清潔な白衣を着用のこと。
- 3) 名札：名札は大学で使用しているものか、病院の規律があれば、これに従う。
- 4) 昼食：院内で食事をする場合は病院の規律に従う。
- 5) 当直：当該科での当直が実習に有効と判断され、学生が希望する場合に限り副直として行う。当直室などは病院の規律に従う。当直についてはその都度指導医が学生の意見を参考として設定する。
- 6) その他：その他問題点があれば、関連病院各科の学外実習指導責任者が大学の講座の学外臨床実習担当委員とで協議し諸問題を解決する。

健康診断

健康管理のため、学外臨床実習を行うものは学年初めの健康診断は必ず受けることを義務とする。内容は、胸部レ線、心電図、検尿、血圧計測、視力検査等である。

院内感染症対策

- 1) CDC（米国・疾病予防管理センター）の標準予防策、または実習先各病院の感染予防マニュアルに従う。
- 2) 針刺し事故については大学での実習と同等に扱う。
- 3) 下記疾患の感受性者ではないこと、すなわち有意の抗体価上昇等の証明書（ワクチン歴または抗体価の提示）を指定の期日までに提出する。※証明書については全員、臨床実習開始以前に以下の証明書・ワクチン歴を教育研究課医療人育成係に提出済みである。
結核（ツ反結果）・B型肝炎・麻疹（はしか）・風疹・ムンプス（流行性耳下腺炎、おたふく風邪）・水痘（みずぼうそう）

会議

症例検討会、セミナー、抄読会など参加すべき定例会議、その他必要な事項については学外各診療科が公示する。会議への参加も評価対象とする。

出席

学生の無断欠席は、学外各診療科の判断で実習中止とすることが出来る。この学生については不合格と判定し、次年度に再度選択臨床実習を履修するものとする。

やむを得ず、遅刻・欠席する場合は、各診療科実習担当教員及び教育研究課医療人育成係へ必ず連絡すること。

臨床実習の評価

臨床実習の評価は、レポート提出、日常の活動及び、学外実習病院の指導教員による評価を各診療科部長（教授）が総合的に行う。各診療科部長（教授）は7月末までに可否を教育研究課医療人育成係へ提出し、教授会で判定する。学外各診療科の希望があれば、各講座において評価項目表を含む評価マニュアルを作成する。

その他注意事項

- 1) 患者の個人情報はこのを漏洩してはならない。
- 2) 医師としてふさわしい身なりと言動に留意する。
- 3) 社会では、長幼と職能に基づく毅然とした序列があり、病院においても例外ではない。
学生は若く、なんの職能もないことを認識し、序列をわきまえた態度と言動に留意する。
- 4) 患者とのいさかいは、いかなる理由があろうとも禁止する。
- 5) 病院・医療従事者は患者からの信頼を得るために、厳しい規律に従って働いている。
患者は、学生であっても院内にいれば、医療従事者としてみなす。学生が学生の理論を持ち込み、この規律を乱してはならない。
- 6) 患者からの質問については、患者の話を親身になって聞く態度が大切である。質問に対しては、学生である身分をあきらかにし、立場を説明して、担当医に尋ねることを患者に勧める。癌の告知など患者の誘導尋問に注意する。
- 7) 指導医に、報告、連絡、相談を欠かさないのが大原則であり、常に念頭において行動する。
- 8) 学外臨床実習は関連病院の厚意で成り立つものであり、誠意ある態度で望み、迷惑をかけるようなことがあってはならない。

自己紹介票

名古屋市立大学 医学部6年 選択制臨床実習用

ふりがな		写 真 (サイズは不問)
氏 名		
年 月 日生 (満 歳)		
電話番号 ※緊急時の連絡用として使用します。	男 女	
() —		

あなたの人となりが見える自己紹介を記入下さい。例：自己PRや卒後の展望など

* 写真のサイズは自由です。 コピーでもかまいません。

* この自己紹介票は名市大実習診療科及び実習先病院、プライマリ・ケア実習先へ提出します。

名古屋市立病院（東部医療センター・西部医療センター）複合 選択制臨床実習マニュアル

1 実習の特徴

本実習は、実習生が東部医療センター、西部医療センターの2病院の診療科を複合的に選択することができ、各病院の特色ある診療科を効率的に集中して体験できます。

名古屋市立病院では「患者さんと職員の笑顔がみられる病院」を理念に、救急医療、小児・周産期医療など、民間医療機関では提供が必ずしも十分でない政策的な医療に積極的に取り組むとともに、がん、心臓血管疾患、脳血管疾患等の高度・専門医療を始めとする医療機能の充実・強化を図ることにより市民が安心して適切な医療を受けることができるよう努めています。

東部医療センターでは、365日24時間体制で救命救急センターとして名古屋市の救急医療の一翼を担っており、心臓血管疾患、脳血管疾患、内視鏡下手術等の高度・専門医療を始めとする質の高い急性期医療を提供しています。

西部医療センターでは、小児・周産期医療、成育医療、がん医療、最先端の陽子線治療等の特徴ある医療を提供しています。

また、東部医療センター、西部医療センターともに「地域医療支援病院」として地域の医療機関と緊密な連携を図るなど、地域の皆さまに信頼され、安心して受診できる医療を提供するとともに、「臨床研修病院」として優れた医療人の育成に努めております。

2つの市立病院の特色ある診療科を含め、その他多くの診療科での実習が可能であり、幅広く経験を積みたい方にもお勧めです。

2 実習のガイドライン

(1) 実習期間

2ターム（4週間）

(2) 受入人数

希望者は原則受け入れますが、希望者多数の場合は調整させていただくことがあります。

(3) 診療科の選択

東部医療センターで2タームを希望する場合は、表1「東部医療センターモデルコース」を参考にして、表2「東部医療センター選択診療科」の中から2つの実習診療科を選択してください（重複はできません。）。

西部医療センターで2タームを希望する場合は、表3「西部医療センターモデルコース」を参考にして、表4「西部医療センター選択診療科」の中から2つの実習診療科を選択してください（重複はできません。）。

東部医療センターで1ターム、西部医療センターで1タームを希望する場合は、表2「東部医療センター選択診療科」、表4「西部医療センター選択診療科」の中から、それぞれ1つずつ実習診療科を選択してください。

※ 実習内容等は「3 各病院での実習内容等」をご覧ください。

※ 東部医療センター又は西部医療センターでの実習診療科の選択に当たり、希望される方には高度医療教育研究センターの教員が相談に応じます。

<表 1：東部医療センターモデルコース>

コース名	実習診療科
救急診療コース	救急科、麻酔・集中治療科（ICU管理）
内視鏡下手術コース	産婦人科、外科、泌尿器科 のうちから2科
消化器疾患コース	消化器内科、外科
外傷コース	整形外科、救急科
心臓疾患コース	循環器内科、心臓血管外科
脳血管疾患コース	脳神経内科、脳神経外科

<表 2：東部医療センター選択診療科>

記号	実習診療科	記号	実習診療科
ア	呼吸器内科	シ	皮膚科
イ	消化器内科	ス	泌尿器科
ウ	循環器内科	セ	産婦人科
エ	脳神経内科	ソ	眼科
オ	内分泌内科	タ	耳鼻咽喉科
カ	腎臓内科	チ	放射線科（注）
キ	小児科	ツ	救急科
ク	外科	テ	麻酔・集中治療科
ケ	心臓血管外科	ト	歯科
コ	整形外科	ナ	病理診断科
サ	脳神経外科		

（注）「チ 放射線科」での実習期間は、1ターム（東部医療センター放射線科で1週間、西部医療センター放射線科で1週間）となります。

<表 3：西部医療センターモデルコース>

コース名	実習診療科
消化器腫瘍コース	消化器内科、外科（消化器外科）
呼吸器腫瘍コース	呼吸器内科、外科（呼吸器外科）
小児・周産期コース	産婦人科、小児科

<表 4：西部医療センター選択診療科>

記号	実習診療科	記号	実習診療科
A	呼吸器内科	J	外科
B	消化器内科	K	整形外科
C	循環器内科	L	皮膚科
D	脳神経内科	M	泌尿器科
E	内分泌・糖尿病内科	N	産婦人科
F	腎臓・透析内科	O	眼科
G	血液・腫瘍内科	P	耳鼻咽喉科
H	リウマチ・膠原病内科	Q	放射線科（注）
I	小児科	R	病理診断科

（注）「Q 放射線科」での実習期間は、1ターム（東部医療センター放射線科で1週間、西部医療センター放射線科で1週間）となります。

3 各病院での実習内容等

(1) 東部医療センター（病院長：村上 信五、病床数 498床）

当院の特徴は、365日、24時間体制で「断らない救急」を目指した救急医療や心臓血管疾患、脳血管疾患、内視鏡下手術等の高度・専門医療に取り組み、質の高い急性期医療を提供しています。

特に平成27年 3月末に救急・外来棟をオープンし、平成30年 2月には救命救急センターの指定も受けるなど、更なる救急医療の充実を図っています。

また、臨床研修指定病院（基幹型）として指定を受けるとともに、卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定病院として医師の初期研修を始め、その他の医療従事者の育成に努めています。

さらに、地域医療支援病院、第二種感染症指定病院、災害拠点病院（地域災害医療センター）認定なども受け、地域の中核病院として市民に信頼され、安心・安全な医療の提供をしています。

各コース、各診療科での実習内容等は次のとおりです（診療の状況等により、一部変更となる場合があります。）。

①モデルコースの特徴

救急診療コース（救急科、麻酔・集中治療科(ICU管理)）

○コースの特徴

救命救急センターで緊急を要する患者への対応など救急診療を経験することができます。また、ICUでは心臓血管外科を始めとした周術期の患者さんを診ることができます。

内視鏡下手術コース（産婦人科、外科、泌尿器科 のうちから2科）

○コースの特徴

東部の特徴としてセンター化した大きな柱です。

内視鏡下手術の専門医として、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 1名、泌尿器腹腔鏡技術認定制度認定医 3名と素晴らしいスタッフで運営しています。このコースで技術を習得してください。

消化器疾患コース（消化器内科、外科）

○コースの特徴

頻度の高い消化器疾患を消化器内科、消化器外科のチーム医療を通して学習することができます。

外傷コース（整形外科、救急科）

○コースの特徴

外傷センターとして、救急対応、緊急手術を行っています。
実際の現場で、外傷対応の基礎を身につけてください。

心臓疾患コース（循環器内科、心臓血管外科）

○コースの特徴

心臓疾患に特化したコースです。PCI、Ablationの症例数が豊富で、高度な医療を体験することができます。

脳血管疾患コース（脳神経内科、脳神経外科）

○コースの特徴

脳血管疾患に特化したコースです。脳血管内治療の資格を持つ4名の医師の下、脳血管疾患の急性期の診療を間近で体験できます。

②各診療科での実習内容等

ア 呼吸器内科

○実習責任者 地域医療連携センター長（呼吸器内科部長） 前田 浩義

○診療科の特徴

地域の基幹病院として、あらゆる呼吸器疾患を経験することができます。

肺炎、COPD、喘息、間質性肺炎、肺がん、気胸などコモンディジーズはまず十分な経験をする

ことができるでしょう。

また、呼吸療法としては酸素投与、NIPPV、NHF（ネーサルハイフロー）など、臨床工学室の先生方と協議しながら様々な方法を駆使して対応しています。

人工呼吸に関してもICUの麻酔・集中治療科の先生と検討しながら、自ら管理を行うことができます。

患者さんの年齢層はやや高い傾向にありますが、そのため全身を管理しつつ呼吸器疾患を診るという面もあり、様々な内科的疾患も対応しながら（各科の協力も仰ぎつつ）単一の病気だけを診るのではない診療を経験できると思います。

○実習内容・方針

2人程度の患者さんの担当となっていただきます。

副主治医になったぐらいの感覚で診療に当たっていただきます。

患者さんの診察、患者さんや家族とのコミュニケーション、IC、検査計画と解釈、治療計画と効果判定に至るまで、主治医とともに実践的な勉強をしていただきたいと思います。実習の主体ではありませんが、知りたいことに関してはある程度のレクチャーも考慮します。

また、読影は実際にX線写真をたくさん見ていただいて慣れていただくようにしたいと思います。

気管支鏡検査は意欲があれば部分的に実際の検査に参加していただくように考えたいと思います。

イ 消化器内科

○実習責任者 消化器内視鏡センター長（第一消化器内科部長） 伊藤 恵介

○診療科の特徴

消化器内科は11名（シニアレジデント 1名を含む）の陣容であり、幅広い消化器疾患および様々な検査の実習・見学が可能です。

当院の救急搬送件数は、令和元年度は 7,673件で名古屋市内では第 5位の搬送件数となっています。したがって消化器急性期疾患に関連する緊急検査・処置例が豊富であり、慢性期疾患と併せて多彩な消化器症例を経験できます。また、当院は古くから感染症科を有している背景上、アメーバ性大腸炎などの特殊な感染性消化器疾患についても勉強ができます。

○実習内容・方針

指導医とともに病棟・外来・検査を見学し、可能な医療行為については実践又は協力していただく方針です。

ウ 循環器内科

○実習責任者 副院長（心臓血管センター長） 村上 善正

○診療科の特徴

平成25年 4月に開設された心臓血管センターでは24時間CCU対応の下、虚血性心血管疾患、心不全、不整脈疾患の治療を可能としています。

冠動脈、末梢動脈のカテーテルインターベンション、体外循環を含めた心不全疾患治療、不整脈に対するカテーテルアブレーションや両室ペースメーカーを含む植込み型デバイス治療など高度な治療を行っています。

○実習内容・方針

患者さんに相対し、問診や心音、呼吸音の聴取から始まり、簡単な検査である心電図、胸部レントゲンや心エコーを適切に解釈できれば、ほとんどの循環器疾患は診断可能です。また、高度なカテーテル治療も最初は血管穿刺から始まります。

これらを可能な限り実践していただき患者の診断から治療までを体感していただきます。

エ 脳神経内科

○実習責任者 脳神経内科部長 山田 健太郎

○診療科の特徴

日本神経学会教育施設として常勤医 5名（うち 3名が神経内科専門医であり、うち 2名が脳卒中専門医でもある。）と後期研修医 4名の計 9名で、神経領域における救急疾患である脳卒中を中心に、認知症、神経変性疾患、多発性硬化症、てんかん、頭痛など多岐にわたる神経内科疾患を診療しています。また、神経内科の関連領域においても、日本脳神経血管内治療学会専門医 1名、日本認知症学会認知症専門医 1名、日本頭痛学会専門医 1名、日本救急医学会専門医 1名がいま

すので、それぞれの領域で専門的な治療や教育・指導が提供できる体制が整っています。

○実習内容・方針

指導医のオリエンテーションのあと、当科のスタッフとともに病棟患者での問診、神経学的所見の取り方を実践していただきます。次に、CT、MRIや各種検査（脳血管撮影、頸動脈エコー、腰椎穿刺、末梢神経伝導速度、脳波など）の結果を踏まえて診断に至るプロセスを学び、治療法の選択と実践までの流れを上級医・指導医とともに考えていきます。

また、回診や症例検討会では、症例提示を行っていただき、プレゼンテーション能力を磨いていただくことを目標とします。そのほかには、看護師、リハビリスタッフ、ケースワーカーを含めた多職種でのカンファレンスではチーム医療の大切さとチームの一員としての役割を学んでいただきます。

オ 内分泌内科

○実習責任者 内分泌内科部長 赤尾 雅也

○診療科の特徴

当科では糖尿病、甲状腺疾患を中心に、様々な内分泌疾患の治療に携わっています。

糖尿病は、各科疾患に合併する症例を含め、1型糖尿病、糖尿病合併妊娠、DKAなどあらゆる状況を診療しています。

その他にも甲状腺のアイソトープ治療や、各種内分泌負荷試験などを行っています。

○実習内容・方針

実習の対象となる主な疾患は糖尿病です。指導医とともに糖尿病治療に参加していただきます。

また、東海地区小児糖尿病サマーキャンプの参加者(参加予定者を含む)はカーボカウントの応用も経験していただけます。さらに、適切な症例があれば甲状腺超音波検査や内分泌負荷試験などの実習を行っていただきます。

カ 腎臓内科

○実習責任者 腎臓内科副部長 友齊 達也

○診療科の特徴

腎臓疾患は症状に乏しく、自覚症状が出現したときにはすでに腎機能障害が進行している場合も少なくありません。

症状のない段階での発見・診断・治療こそが腎予後を改善する一番の方法です。検診での検尿異常から糸球体腎炎を疑い腎生検を施行し、正確な病理診断をすることで的確な治療が可能となります。また、保存的治療ではARBを中心とした薬剤調整のほか、食事・生活習慣指導まで行っていきます。

進行した腎障害の場合、血液透析・腹膜透析・腎移植といった腎代替療法の選択が必要になります。適切な情報提供を行い、患者さん個人のみならずご家族を含め全員で検討をしていただき、十分議論を尽くした上で、体調が悪化する前に透析の準備を行い、導入を行っていくことが私たちの理想です。

透析患者さんについても、様々な合併症が起こりますので、該当科の先生方と連携して透析患者さんの合併症治療に対応できる体制を整えています。

○実習内容・方針

実際の診療に沿って実習を進めてまいります。患者さんを目の前にしての診察方法から、どんな検査をするか、そして、その結果をどのように解釈し鑑別を進めていくかを、病態生理を交えながら検討を進めていきます。

診断がつけば次は治療です。輸液の管理方法から投薬、透析治療の判断・実施までを学んでいきます。腎生検やシャント手術に参加していただくことも可能です。

キ 小児科

○実習責任者 第一小児科部長 森川 治子

○診療科の特徴

小児科常勤医は2名です。

0才から15才までの小児科全般にわたる疾患を診療しています。

外来では、よく遭遇する日常の疾患から、近隣クリニックからの紹介患者さん、救急外来を受診される患者さんなど、多岐にわたる疾患に対応しています。また、午後の予約外来では、心臓

外来・乳児健診・予防接種外来を行っております。

病棟においては、感染症を中心とした症例や、院内出生の病的新生児の治療や正常新生児の管理などを行っています。

○実習内容・方針

指導医とともに、病棟回診や外来診療における診察、処置や検査、ご家族への対応を学んでいただき、可能な医療行為については実践または協力していただく方針です。

また、帝王切開は全例立ち合いを行っており、新生児蘇生を共に経験できます。

ク 外科

○実習責任者 副院長（内視鏡下手術センター長） 木村 昌宏

○診療科の特徴

当科では、小児を除く、消化器、呼吸器、乳腺内分泌の手術を行っております。

消化器では、大腸、胃、食道を含め、虫垂炎やヘルニア、絞扼性イレウスを伴う急性腹症も内視鏡手術で施行することが多いです。

呼吸器では、胸腔鏡補助下に、(転移性を含む)肺がん、気胸等の手術があり、乳がんの手術も増加傾向にあります。また、大学病院と比べ、緊急手術を多く経験できるというメリットがあります。

○実習内容・方針

外科分野では内視鏡手術が多く取り入れられているのが実情です。従来の開腹、開胸手術では、胸腔内や腹腔内の解剖や手術操作が見えづらく、学生の方々にはなかなか手術に興味を持っていかねないかも知れません。しかし、鏡視下手術では解剖や手術操作が良く見えるため、学生の方々にも手術に興味を持っていただけるものと思います。特に、虫垂炎の手術などは、意外に、見るだけでも興味を持ちうると考えます。

手術手技の実習としては、真皮縫合を行っていただくことを考えています。外科に限らず、この手技は有用となるでしょう。

また、当科では、化学療法が必要な症例や経口摂取困難な症例について中心静脈ポートの造設を多く行っております。この手技も外科に限らず有用と考えます。腹腔鏡下虫垂切除術やCVポート造設の介助などは、大学などでは、あまり見る事ができないので、興味を持っていただけると幸いです。

ケ 心臓血管外科

○実習責任者 副院長（第一心臓血管外科部長） 浅野 実樹

○診療科の特徴

平成20年 4月より心臓血管センターが開設され、循環器内科、心臓血管外科の 2科で心臓血管病に対し24時間 365日受け入れを行っています。心臓血管外科は常勤医 4名、シニアレジデント 1名で担当しており、成人心臓外科疾患（虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患）に加え、大学病院では経験できないような末梢血管外科疾患（下肢閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤、透析シャント）にも取り組んでいます。血管内治療（ステントグラフト内挿術）を含めた低侵襲治療を積極的にしており、成人心臓血管外科疾患全般にわたる研修が可能です。

○実習内容・方針

当科の体制がチーム医療であることから、実習も完全参加型システムです。従って実習中は心臓血管外科チームスタッフの一員として扱われます。

スタッフ全員での朝夕の回診、初診外来を担当し診断に至るまでの検査立案、また上級医の指導のもとに手術症例の手術戦略を検討し、術前カンファランスでのプレゼンテーションも担当していただきます。

もちろん全ての手術に助手として参加し、状況が許せば時間外の緊急対応もスタッフの一員として召集されます。

原則として座学はなく、経験で学んでいただくこととなります。実習生自らの積極性によって、内容・質をどれだけでも高めることができる実習を目指しています。

コ 整形外科

○実習責任者 リウマチ・骨粗鬆症センター長（外傷センター長） 永谷 祐子

○診療科の特徴

常勤スタッフ10名（整形外科専門医 6名）により整形外科診療を行っています。6名の専門医はさらにそれぞれリウマチ指導医、手外科専門医、脊椎脊髄外科専門医を持っています。年間手術件数は約 1,200件以上と院内でも最多件数を占めています。当院の救急受け入れ態勢の強化により、外傷センターでの整形外科外傷手術件数は年間約 900件と格段に増加しています。またリウマチ・骨粗鬆症センターの併設により関節リウマチ、変形性関節症等の疾患に対する関節形成術も股関節・膝関節・足関節・前足部・肘関節・手関節・手と多岐に渡っています。また脊椎、手の外科の予定手術も毎年増加しています。

○実習内容・方針

実習の対象となる疾患は、四肢外傷と関節、脊椎、手の外科疾患です。

大腿骨頸部骨折手術、人工関節手術（変形性股関節症、変形性膝関節症）などは件数が多いため、手術助手として手洗いを含めて参加していただくことが可能です。

当科の実習により、外傷を含む整形外科疾患の診察、X線写真読影から手術まで、整形外科治療の流れを実地に体験していただくことができます。

サ 脳神経外科

○実習責任者 副院長（脳血管センター長） 金井 秀樹

○診療科の特徴

常勤スタッフ 4名（脳外科専門医）、後期研修医 1名で、24時間 365日、神経救急に携わっています。治療対象とする主な疾患は、急性期の脳血管障害、外傷性疾患であり、その他には、脳腫瘍なども診療の対象としています。

特に、血管内治療の発展は近年目覚しく、当院でも 4人の常勤の血管内治療専門医（3名は脳外科医、1名は脳神経内科医）が、機械的血栓除去術、内頸動脈狭窄症に対するステント留置術（CAS）、動脈瘤に対するコイル塞栓術などの専門的治療を担当しています。

○実習内容・方針

臨床実習の対象となる主な疾患は、急性期脳血管障害と外傷性疾患です。

急性期脳血管障害では、脳出血、くも膜下出血などの疾患を主体に初療から脳外科的専門治療までの一連の検査・治療に積極的に関与していただき、脳血管障害の病態をより深く理解できるように実習できる内容を整えています。

一刻を争うt-PA静注療法などの超急性期の閉塞性脳血管障害やそれに引き続き行われることがある機械的血栓除去術では、実際の治療に助手として参加し、病態に対する理解を深めることができます。

脳出血やくも膜下出血についても、手術治療の実際を助手として関与し、脳外科手術の基本的事項からmicrosurgeryの概要を学ぶことができます。また、顕微鏡下での機械縫合手技も練習できます。

外傷性疾患では、指導医（上級医）の指導のもとで、創傷処置から穿頭手術などに参加して手技を経験できます。

当科の実習を通じて、神経救急疾患に対する治療が実際にどのような流れで進んでいくのか、指導医とともにdiscussionしつつ、脳外科臨床の実際を基礎から高度な治療まで学ぶことができます。

シ 皮膚科

○実習責任者 皮膚科副部長 岩井 敦子

○診療科の特徴

当院は心臓血管疾患や脳血管疾患に対する高度・専門医療に積極的に取り組み地域の中核的病院の役割を果たしています。このように当院が特に循環器系疾患に力を入れているため、それらの心疾患や脳血管疾患に合併することが多い足の病変（糖尿病や閉塞性動脈硬化に伴う足趾潰瘍・壊疽）を持つ患者さんの割合が非常に多いです。これは皮膚科だけでは、どうすることもできない疾患ですが、整形外科ですぐ足切断になる前にワンクッションにおいて、皮膚科の処置に加え、循環器内科で、下肢切断の危険性が高い重症下肢虚血肢への末梢血管のカテーテル治療を積極的に行っています。

その他は皮膚科一般の皮膚病を取り扱っています。アトピー性皮膚炎等の湿疹・皮膚炎群、滲出性紅斑や結節性紅斑などの紅斑症、皮膚膠原病、自己免疫性水疱症、蜂窩織炎等の細菌感染症（救急病院のため、たまにガス壊疽や壊死性筋膜炎が紛れ込みますが・・・）、カポジ水痘様発疹症

や帯状疱疹などのウイルス感染症、皮膚潰瘍、乾癬、蕁麻疹、褥瘡などを扱っています。

皮膚腫瘍は良性腫瘍全般と、メラノーマ・Paget病などを除く皮膚悪性腫瘍を診ています。熱傷は軽傷～中等症程度のものを扱っています。

○実習内容・方針

指導はマンツーマン方式で、下記の日常業務と並行して行います。

午前：外来診療

午後：病棟回診・往診、手術及び皮膚科的検査

ス 泌尿器科

○実習責任者 第一泌尿器科部長 丸山 哲史

○診療科の特徴

当科では術後QOLを重視し、体腔鏡下手術を主体とした手術に取り組んでいます。早くから副腎、腎尿管及び前立腺の腹腔鏡下摘除術を取り入れ実績を積んできました。その後、術後疼痛が少ない後腹膜アプローチの手技を取り入れ前立腺全摘除術を施行し、早期カテフリー及び尿失禁フリーが可能となりました。

現在では腹腔鏡認定医が3名在籍し、膀胱全摘除においても腹腔鏡手術が可能になりました。代用膀胱を始めとする尿路変更のステップでは、創外での確実な腸管切離・形成そして尿管吻合操作となりますが、腹腔鏡を用いての手術では体表傷は約4cmと小さく、創部感染のリスクはほとんどありません。おかげで、充分時間をかけながら尿路変更術に集中できるようになり、術後の排尿状態も良好です。

その他、女性の骨盤臓器脱など良性疾患に対しても、積極的に体腔鏡下手術に取り組んでいます。

一方、外科系救急疾患の東部医療センター全体としての積極的受け入れに伴い、膀胱タンポナーゼ、結石性腎盂腎炎などの泌尿器科救急疾患に対する処置や手術も増加していますが、迅速な尿路ステント留置などを心がけています。

腎臓内科及び救急科にHD治療やICU治療などのバックアップ体制が充実しており、外科的処置に専念できることは当院の大きな特徴です。腎尿管結石症例では状態が落ち着きしだい、軟性尿管鏡とレーザー治療システムを用いて内視鏡的治療を施行しています。現在では、県内でも有数の症例数となりました。

<スタッフ>指導医 3名、後期研修医 2名

○実習内容・方針

頻度の高い泌尿器科疾患を実際の臨床現場で経験し理解を深めます。特に、救急医療における泌尿器科疾患を理解し、他科疾患との鑑別を学んでいただきます。高齢者・慢性疾患患者に対する診療態度、説明方法などを理解し身につけます。

外来検査では、腹部エコー、前立腺エコー検査を行い、結果を理解します。膀胱鏡検査に立会い、患者に接する態度を学びます。

病棟管理では、担当医の1人として患者を受け持ってください。検査計画や治療計画の作成には主治医との討論や診療科でのカンファレンスなどを通じて積極的に関与していただきます。

手術に際しては、手洗いをし手術助手として執刀医の補佐をします。内視鏡手術においては、器具の構造及び操作を理解します。特に、包皮環状切除術、陰嚢水腫根治術、高位精巣摘除術など、泌尿器科初期研修医が執刀する手術においては、専門医の指導のもと創部の止血や縫合手技を実際に経験していただきます。

救急医療として、結石性腎盂腎炎での尿管ステント留置術や腎瘻増設術、又は尿閉症例での尿道カテーテル留置や膀胱瘻増設などに携わります。担当指導医が外科系日直の時などには、ともに医療現場を経験していただきます。

セ 産婦人科

○実習責任者 院長代行 村上 勇

○診療科の特徴

内視鏡下手術（腹腔鏡、子宮鏡）を中心として一般的な産婦人科疾患に対する手術治療、周産期管理まで幅広く研修できる病院です。

特に腹腔鏡下手術は県内屈指の件数で、技術認定医が2名在籍しています。

病院が救急医療に力を入れており、産婦人科においても子宮外妊娠、卵巣腫瘍茎捻転などの救

急疾患の症例を経験できます。

○実習内容・方針

午前中は外来患者の問診をとることで、女性特有の主訴、症状を理解し、午後は手術に立ち会い可能な限り助手として参加していただきます。

また、分娩立会いし胎児心拍モニタリング、産科手術等の分娩管理を学びます。

当科の方針として、「女性に優しい低侵襲医療をめざします」を掲げています。

ソ 眼科

○実習責任者 第一眼科部長 玉井 一司

○診療科の特徴

総合病院眼科として眼科全般にわたる疾患を経験することができます。

特に糖尿病や神経疾患等の全身疾患と関連する患者が多いのも特徴です。

○実習内容・方針

新救急・外来棟では様々な検査機器がそろっていますので、それらを実際に使って検査し、診断、治療方針を考えていくことが学べます。

また、午後の手術では、モニター画面だけでなく実際に手術顕微鏡を覗いて生の眼科手術を体験してみましょう。

タ 耳鼻咽喉科

○実習責任者 耳鼻咽喉科 特別診療科部長 鈴木 元彦

○診療科の特徴

耳鼻咽喉科の疾患の中でも、専門医の存在のため、副鼻腔疾患（鼻副鼻腔腫瘍・慢性副鼻腔炎）、中耳疾患（真珠腫性中耳炎）が他病院と比較しても症例数が豊富です。

○実習内容・方針

午前中は外来・病棟回診見学、午後は手術・検査見学が中心です。

副鼻腔・中耳手術は、モニターにて手術所見が観察しやすいため、学びやすいと思います。

チ 放射線科

○実習責任者 第一放射線科部長 森 雄司

○診療科の特徴

4名の放射線診断専門医、1名の放射線治療専門医、1名の放射線専門医にて、診療を行っています。実習指導は放射線診断専門医及び治療専門医が行います。

症例は単純写真、CT、MRなど救急症例を含み多種多様です。IVRでは調整により、大動脈ステントも実習できます。多様なRI検査も実施しており、研修可能です。放射線治療の診察や治療計画も実習します。

○実習内容・方針

指導医のもとでチェックを受けながら積極的に実践的な読影を行い、疑問箇所については専門医とのディスカッションを通して解決します。当院では脳血管部門、循環器部門の診断が盛んであり、IVRでは脳血管や大動脈領域での研修も可能で、術後病棟管理も習熟できます。各種の癌や転移性癌変に対しての放射線治療の修練も受けることができます。

時期によってはCPCなどの会議にも参加していただく方針です。

ツ 救急科

○実習責任者 救命救急センター長（救急科部長） 安藤 雅樹

○診療科の特徴

当院は平成30年2月に救命救急センターに指定され、名古屋市の救急医療を大きく支える医療機関のひとつです。

昨年度の救急搬送件数は7,600件を超え、名古屋市内の他の救命救急センターに遜色ない症例数を誇っています。

当科は主に救急車で来院される患者の初療を3名の救急科専門医と全診療科協力体制のもと行っており、内因性・外因性問わず、また軽症から心肺停止などの重症まで多岐にわたる症例の経験が可能です。

○実習内容・方針

指導医のもとで初期研修医とともに救急搬送症例の初療を経験し、必要に応じて簡単な医療行為（静脈路確保、採血、縫合処置など）の実習を行います。

心肺停止症例では実際に胸骨圧迫などの蘇生処置を行うこともでき、救急搬送患者が緊急手術や緊急カテーテル検査となった場合にそのまま手術室や処置室での治療に携わることで、救急患者の初療から診断、治療まで診療科の垣根を越えて一貫した経験が可能です。また希望に応じて夜間の救急外来診療も経験可能です。

テ 麻酔・集中治療科

○実習責任者 集中治療センター長（第一麻酔・集中治療科部長） 伊藤 彰師

○診療科の特徴

名古屋市の中心部に位置し、一般急性期病床 488床と 2類感染症病床10床の合計 498床を有する「救急に力を入れている総合病院」。当院の麻酔科医は全身管理のできる総合医として診療に従事しています。

手術室の麻酔管理と麻酔科管理の集中治療部運営を担い、救急医療やペインクリニック・緩和医療にも麻酔科出身の医師が携わっています。手術室では、心臓血管外科、脳神経外科、外科などの多岐にわたる症例の麻酔管理を行っています。

日本周術期経食道心エコー認定医が複数在籍し、心臓血管外科麻酔中の経食道心エコー診断を行っています。また、超音波ガイド下末梢神経ブロックの対象となる麻酔症例も多く、積極的に適用しています。

集中治療部では救急、院内発生、大手術後（心臓血管外科症例含む）の重症例を受け入れ、敗血症性ショック、多臓器不全、多発外傷、ARDS、心肺蘇生後症候群など重症例の全身管理を行っています。

当院は、平成30年 2月に救命救急センターに指定されました。集中治療部内に救命救急センターICUベッド 4床を確保し、重症例受け入れのバックアップ機能の役割も果たしていきます。

○実習内容・方針

指導医のもとで麻酔管理症例（特に心臓血管外科症例）の研修を行います。

全身麻酔に伴う医療行為（マスク換気、気管挿管、静脈路確保、麻酔調節、人工呼吸、循環維持、輸液管理、抜管など）を実習していただきます。全身麻酔管理に加え、経食道心エコー診断や超音波ガイド下末梢神経ブロックの学習もできます。

集中治療部では、指導医について重症例の全身管理（呼吸、循環、代謝、腎・体液、感染、栄養、鎮痛・鎮静など）を研修します。

希望者は、救急医療、ペインクリニック（下記参照）の研修もできます。

【ペインクリニック】

○実習責任者 疼痛緩和支援診療科 春原 啓一

○診療科の特徴

慢性痛、がんによる痛みに対して薬物療法（オピオイドなどの各種鎮痛薬、漢方薬、向精神薬など）、神経ブロックなどの手法で対応しています。また、緩和ケアチーム活動に参加しています。

○実習内容

慢性痛の診療を通して、患者さんとのコミュニケーション法、痛みの薬物療法、神経ブロック療法を学びます。緩和ケアチーム活動に参加して緩和ケアを学びます。

ト 歯科

○実習指導責任者 歯科部長 則武 正基

○診療科の特徴

有病者の歯科治療、口腔外科的治療、口腔内科的治療及び周術期口腔機能管理（口腔ケア）に力を入れています。

○実習内容・方針

歯科口腔外科診療を通して口腔疾患の診察法と治療法を学ぶ。同時に口腔解剖と口腔機能、及び口腔と全身との関わりについて復習し、さらに口腔ケアの重要性を実感する。

ナ 病理診断科

○実習責任者 病理診断科部長 稲熊 真悟

○診療科の特徴

病理診断科は、医療の基盤を支える診療科であり、近年では質の高い医療を提供する病院の要件の一つとして、一般社会にも広く認識されるようになってきました。特に、ゲノム医療の飛躍的な進歩に伴い、腫瘍特異的遺伝子の発現や変異をコンパニオン診断として検討することにより、疾患の確定診断や、分子標的治療薬適応の決定にも重要な役割を担っております。

外科病理医として市中病院で働くことに興味がある方、外科や内科など病理診断科との関連深い診療科を志望しており、病理医との関係を病理医側の観点で見ておきたい方、また研究にも興味がある方、是非、お越しくください。

○実習内容・方針

病理医とともに、日常業務である組織検体の切り出しや病理組織診断、細胞診断のみならず、標本作成や、免疫染色も体験していただくことが可能です。機会があれば病理解剖や、臨床病理検討会（CPC）にも参加していただく予定です。

(2) 西部医療センター（病院長：栞原 義之、病床数 500床）

当院の特徴は、小児・周産期医療（周産期医療センター、小児医療センターを中心とした成育医療に取り組んでおり、ハイリスクの妊産婦さんたちの救急医療、専門医療を行っています。）や、がん医療（消化器腫瘍センター・呼吸器腫瘍センターを中心に悪性新生物医療を実施しています。さらに、名古屋陽子線治療センターにおいて、世界最先端の治療装置による副作用の少ない“体にやさしいがん治療”を推進しています。）です。

また、臨床研修指定病院、がん診療連携拠点病院、災害拠点病院（地域災害医療センター）、救急告示医療機関、協力型臨床研修病院の学会認定を受けています。

各コース、各診療科での実習内容等は次のとおりです（診療の状況等により、一部変更となる場合があります）。

①モデルコースの特徴

当院の強みである「小児・周産期医療」及び「がん医療」を中心に 3つのモデルコースを表記しました。これらのコースでは、コース内の診療科の専門知識を得たり、診療科間の連携を肌で感じることができます。こちらのコースにてチーム医療の大切さを体感していただきたいと思います。

消化器腫瘍コース（消化器内科、外科（消化器外科））

○コースの特徴

消化器系の疾患に特化したコースです。指導医とともに病棟・外来・検査・手術を見学し、可能な行為については実践又は協力していただく方針です。

がん医療だけでなく、急性腹症の内科初期対応から緊急手術までの流れを経験することができます。

呼吸器腫瘍コース（呼吸器内科、外科（呼吸器外科））

○コースの特徴

最新のCT、MRI、PET-CT、気管支鏡などを用いた診断・治療に参加していただきます。

また、外科的治療にも参加していただき、平成27年度より開設された呼吸器腫瘍センターの一連の診療を体感していただきます。

小児・周産期コース（産婦人科、小児科）

○コースの特徴

当院産科、NICUは地域周産期母子医療センターに認可されており、出生前、出生後の周産期医療に力を注いでいます。産婦人科・小児科の指導医の下、両診療科の一連の診療を学ぶことができます。

②各診療科での実習内容等

A 呼吸器内科

○実習責任者 呼吸器腫瘍センター長（呼吸器内科部長） 秋田 憲志

○診療科の特徴

肺がんの診断・治療を始め、気管支喘息、COPD、肺炎等呼吸器疾患全般において診療を行っています。最新のCT、MRI、PET-CT、気管支鏡などを駆使して呼吸器疾患の診断・治療を行っています。また、陽子線治療施設、名古屋陽子線センターが併設され、肺がん等の治療を行っています。

<在籍医師> 5名 日本内科学会認定内科医（5名）・指導医（3名）、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医（3名）・専門医（1名）、日本呼吸器内視鏡学会認定医・指導医（3名）・専門医（1名）、臨床研修指導医（3名）

○実習内容・方針

2週間の実習期間に肺がん、肺炎、気管支喘息など代表的な呼吸器疾患の入院患者さん 2症例を受け持ち、診察及び必要な検査・処置を行います。症例検討会では受け持ち患者さんの症例提示を行い、最終的にはレポートをまとめて疾患の理解を深めていただきます。また、気管支内視鏡検査、呼吸器内科外来、腫瘍外来の見学に適宜参加し、呼吸器疾患の診断及び治療の過程の理解を深めていただきます。

B 消化器内科

○実習責任者 院長代行（第一消化器内科部長） 妹尾 恭司

○診療科の特徴

最新の内視鏡・超音波等の医療機器をそろえてあらゆる消化器疾患に対応しています。

また、消化器腫瘍センターでは、消化器内科・消化器外科が同一フロアで緊密な連携を取り、放射線科も交えた消化器がんセンターを毎週定期的に開催して治療方針を決定しています。

抗がん剤治療もレジメン審査委員会承認のもと入院及び外来化学療法室で積極的に行っています。

日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会の認定指導施設です。

<在籍医師> 12名 日本内科学会認定内科医（4名）・指導医（2名）、日本内科学会総合内科専門医・指導医（4名）、日本消化器病学会専門医（6名）・指導医（5名）、日本消化器内視鏡学会専門医（6名）・指導医（6名）、臨床研修指導医（6名）

○実習内容・方針

指導医とともに病棟・外来・検査を見学し、可能な行為については実践又は協力していただきます。

入院患者さんを 1名担当し、回診・カルテ記載をしてもらいます。

C 循環器内科

○実習責任者 心臓カテーテル治療科部長 矢島 和裕

○診療科の特徴

当院は名古屋市北部に位置する平成 23 年に開院した 500 床の急性期型総合病院です。名古屋市北部の地域医療を担っており、循環器内科は最新の医療機器を完備し治療にあたっております。その中で実際の診療に参加することによって、以下の診察、診断、治療を体系的に経験し、循環器疾患治療の基本的な能力を養成します。

○実習内容方針

外来実習：予診聴取、診察方法・診断の進め方・治療方針の決め方

病棟実習：担当患者の受け持ち、診療チームの一員としての診療参加型実習

検査：心電図、心エコー、運動負荷心電図、冠動脈 CT、心臓核医学

手技：心臓カテーテル、中心静脈カテーテル

手術：経皮的冠動脈手術、アブレーション、末梢血管治療、ペースメーカー移植術

<学外臨床実習評価項目>

1. 循環器疾患の症候（意識障害・失神、脱水、浮腫、胸痛、動悸、胸水）から病態や診断を推論することができる。
2. 心不全の病態や治療法を理解し、説明できる。
3. 虚血性心疾患の病態や治療法を理解し、説明できる。
4. 不整脈の病態や治療法を理解し、説明できる。

5. 循環器疾患のカテーテル検査と治療の目的、適応、方法を理解できる。
6. 心電図を記録し、所見が判読できる。
7. 心エコー検査における基本画像を描出し、所見が判読できる。
8. 中心静脈カテーテルの挿入について理解し、手技の介助をすることができる。

実習スケジュール

		月	火	水	木	金
第一週	午前	オリエンテーション	心臓核医学検査	臨床推論:胸痛	カテーテル検査・治療	臨床推論:動悸
	午後	クリニカルクラークシップ 運動負荷検査	カテーテル検査・治療	クリニカルクラークシップ 運動負荷検査	カテーテル検査・治療	クリニカルクラークシップ
第二週	午前	臨床推論:浮腫、脱水	心臓核医学検査	臨床推論:意識障害・失神	カテーテル検査・治療	臨床推論:胸水
	午後	クリニカルクラークシップ 運動負荷検査	カテーテル検査・治療	クリニカルクラークシップ 運動負荷検査	カテーテル検査・治療	総括

D 脳神経内科

- 実習責任者 第一脳神経内科部長 片田 栄一
第二脳神経内科部長 豊田 剛成

○診療科の特徴

詳細で正確な病歴聴取と神経学的検査法をもとに患者を体系的、系統的にみることで神経疾患の正しい診断ができる神経学的診断法を実践しています。

また、かかりつけ医、包括支援センター、介護サービス施設等の地域医療連携に重点を置いた神経内科診療を目指しています。

<在籍医師> 3名 日本神経学会神経内科専門医(3名)、日本内科学会総合内科専門医(3名)

○実習内容・方針

臨床現場で頻度の高い脳梗塞急性期への対応について入院診療を通して学んでいただき、脳梗塞の病型分類、病型別治療指針、急性期リハビリテーションを経験していただきます。

外来診察では主な脳神経内科疾患、神経変性疾患(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症など)と一緒に診察する機会を通して神経難病への治療、問題点、地域医療連携の現状を学んでいただきます。

E 内分泌・糖尿病内科

- 実習責任者 内分泌・糖尿病内科部長 今枝 憲郎

○診療科の特徴

地域の医療機関と連携を取りながら、内分泌(視床下部、下垂体、副甲状腺、副腎、性腺)疾患、糖尿病(1型、2型、糖尿病合併妊娠、その他の糖尿病)疾患の専門的診断・治療を行います。

特に、小児・周産期医療の充実を特徴の一つとした当院では、小児期から思春期、成人期、周産期、そして新生児期とライフサイクルを考慮した「成育医療」を実践しています。その中で、思春期医療、成人医療、周産期医療での内分泌・糖尿病領域を担当し、「成育医療」の充実に貢献します。

<在籍医師> 5名 日本内科学会認定内科医(5名)、日本糖尿病学会専門医(2名)・研修指導医(1名)、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医(2名)・指導医(1名)、臨床研修指導医(2名)

○実習内容・方針

内分泌・糖尿病内科領域の典型的な入院症例を担当していただき、指導医の指導のもと病態・

診療・治療の理解を深めます。

内分泌疾患の負荷試験、甲状腺超音波検査、糖尿病教育入院での患者教育を体験します。

症例検討会で担当した症例についてプレゼンテーションを行い、端的にまとめ発表する能力を養います。

また、Zoomを利用して研究会等の参加を任意ですすめています。

F 腎臓・透析内科

○実習責任者 腎臓・透析内科部長 菅 憲広

○診療科の特徴

腎生検による病理診断、教育入院による保存的治療、末期腎不全時の透析導入といった腎臓病の初期から末期に至るまで全ての診療が可能となっています。

腎生検は年間約60件、腎臓病教育入院は年間約20件の症例がありました。

当科は、腎臓専門医の取得に必要な経験症例数、研修プログラムを有した日本腎臓学会研修施設として認定されています。

<在籍医師> 4名 日本内科学会総合内科専門医（1名）、認定内科医（3名）、日本腎臓学会専門医（3名）・指導医（2名）、日本リウマチ学会専門医（2名）、日本透析医学会専門医（2名）、臨床研修指導医（1名）

○実習内容・方針

腎臓内科における国際的な必須研修項目である①Glomerulonephritis、②Electrolytes and Acid base、③CKD and General nephrology、④AKI、⑤Transplantation、⑥Dialysisの全てを当科で研修することが可能です。

実習期間中は見学でなく、代表的な腎臓病の入院患者さんを担当医の一人として受け持ち、指導医と一緒に診療や手技を行います。

入院から退院するまで、腎臓病をどのように診断し、治療方針を決定していくのかを、主体的に経験していただきます。

他科からの腎機能障害や電解質異常のコンサルテーションにも積極的に参加していただき、総合病院における腎臓内科の役割を理解していただきます。

経験した症例をレポートにしたり、学会発表の希望があればサポートいたします。

G 血液・腫瘍内科

○実習責任者 血液・腫瘍内科部長 稲垣 淳

○診療科の特徴

地域医療の中核病院として近隣の医療機関から御紹介頂いた血液疾患の患者さんの診断と治療を幅広く行っています。悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、急性白血病などの造血器腫瘍に対する化学療法を積極的に行うとともに、単に病気を治すだけでなく患者さんの健康問題全般の解決に多職種で連携して取り組んでいます。

<在籍医師> 4名 日本内科学会認定内科医（4名）、日本内科学会総合内科専門医（2名）日本血液学会専門医（2名）、臨床研修指導医（3名）

○実習内容・方針

造血器腫瘍に対する化学療法を通じて、がん薬物治療の基本的な考え方を習得することを目指します。当院では複数の併存疾患を抱えた患者さんが多く、そのような制約を抱えた患者さん達に対しエビデンスと患者さんの体力・希望を考慮しつつ最善の治療法を選択・実施してゆく過程を体験していただきます。

化学療法に伴い必要となる感染症の治療や輸血療法などの支持療法、副作用への対応、緩和ケアについても実際の臨床の現場を体験していただきます。

機会があれば、末梢血幹細胞採取や造血幹細胞移植の実際を見学していただきます。

病棟での多職種合同カンファレンスに参加して、職種間の考え方の違いを理解・尊重しつつどのようにチームとして患者さんに向き合っているのか学んでいただきます。

H リウマチ・膠原病内科

○実習責任者 リウマチ・膠原病内科部長 速水 芳仁

○診療科の特徴

リウマチ・膠原病疾患を専門として診療に携わっています。関節リウマチ、膠原病を専門とし

で診療を行っている内科は、東海地区では比較的少なく、様々な症状をきたしうる全身性疾患であるリウマチ・膠原病疾患を総合的に診療することが可能です。

<在籍医師> 1名 日本内科学会認定内科医（1名）、日本内科学会総合内科専門医（1名）、日本リウマチ学会リウマチ専門医（1名）・指導医（1名）、臨床研修指導医（1名）

○実習内容・方針

リウマチ・膠原病患者さんの外来見学が主体となります。膠原病患者さんに対するステロイド・免疫抑制剤治療の実践を学んでください。

適切な入院患者さんがいたら担当し、サマリーを作成していただく予定です。

I 小児科

○実習責任者 小児医療センター長（第一小児科部長） 伊藤 康彦

○診療科の特徴

地域拠点病院として小児医療センターを開設しています。また、愛知県の地域周産期母子医療センターにも指定されています。

小児医療センターとしては、“成育医療”として0才から15才までの小児疾患の患者さんを一貫して診療しています。小児疾患以外にも、小児の発達や子育て支援など、小児を取り巻く様々な問題にも対応できる小児科を目指してします。

周産期母子医療センターとしては、胎児期から診断ケアを開始し、出産・新生児期に至る早産児、病的新生児などを24時間体制で診断・治療しています。また、臨床心理士によるカウンセリングも可能であり、入院中のお子さんやご家族の心理面でのサポートを行っております。

専門外来として、アレルギー外来、内分泌外来、神経外来、腎臓外来、発達心理外来、血液・腫瘍外来、未熟児フォローアップ外来、循環器外来を行っております。また、遺伝診療部にて、遺伝カウンセリング外来も行っております。

NICU入院数 488件、うち超低出生体重児14件、極低出生体重児17件です。

帝王切開は全例立会いを行っており、NCPRを実践した蘇生を経験してもらえます。

<在籍医師> 10名 日本小児科学会小児科専門医（7名）、日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医（2名）・指導医（2名）、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医（1名）、日本アレルギー学会認定専門医（2名）、日本小児神経学会小児神経専門医（1名）、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医（1名）・指導医（1名）、日本腎臓学会腎臓専門医（1名）、臨床研修指導医（7名）、日本血液学会専門医（1名）

○実習内容・方針

当院NICUと産科は地域周産期母子医療センターに認可され、出生前及び出生後の周産期医療に力を注いでいます。新生児専門医の指導の下、呼吸循環の管理の実習が充分できます。

小児医療センターが開設されており、小児科一般の初期対応の研修ができるほか、内分泌代謝専門医、アレルギー専門医、小児神経専門医、腎臓専門医、血液専門医、臨床遺伝専門医らの指導の下、専門分野の研修にも対応しています。また、小児に関連する小児外科や口唇口蓋患者も多いです。

救急疾患や日常の疾患に対する対応や処置、検査及び家族への対応を診療現場より学習していただきます。

J 外科

○実習責任者 病院長（総合外科部長） 栗原 義之

○診療科の特徴（前年度症例数を含め）

当院外科は、消化器外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、小児外科、一般外科の各専門分野で構成されており、あらゆる外科手術に取り組んでおり、多彩な症例を経験できます。各分野間で相互に協力しながら、専門的知識を集結して治療に当たっています。

また、専門的治療だけでなく、一般的な疾患も広く治療を行える体制で臨んでいます。

・消化器外科：豊富な経験と最新の知識、信頼ある臨床技術をもとに、より良い最先端の治療を提供します。消化器外科専門医・指導医、食道外科専門医、肝胆膵外科高度技術指導医のもとで、確実な手術療法を行っております。

食道手術（14件）、胃切除術・摘出（悪性腫瘍）（90件）、結腸悪性腫瘍手術（96件）、直腸切除術（44件）、肝切除術（7件）、胆道癌手術（6件）、膵臓手術（16件）、胆嚢摘出術（84件）、腸閉塞症手術（腸管癒着症手術）（19件）などの症例を含め数多くの手術件数がありました。

- ・呼吸器外科：肺、縦隔、胸壁、横隔膜の疾患の方に対して、積極的に胸腔鏡を使用した低侵襲手術を行っています。肺がん手術では、呼吸器内科、放射線診断科、放射線治療科と密に連携し、完治を目指して集学的に治療を行っています。

胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術、開胸肺悪性腫瘍手術、胸腔鏡下肺切除術、気胸手術など数多くの症例があります。

- ・乳腺内分泌外科：診療の中心である乳がん診療において、診断から治療まで一貫して行い、生活の質（QOL）を第一に考慮した診療を心がけています。

放射線科、病理診断科、薬剤科、看護部、外来化学療法部門などとのチーム医療を行うことにより、手術療法・薬物療法・放射線療法全般にわたり、乳がん治療のガイドラインに沿った標準治療を実践しています。

乳腺悪性腫瘍手術（140件）、乳腺腫瘍摘出術（9件）、甲状腺悪性腫瘍手術（10件）などの症例がありました。

- ・小児外科：生まれたばかりの新生児から中学生までを対象として、主に頸部から腹部の幅広い疾患の外科的治療を行っています。

産科、小児科を中心とした様々な診療科と連携し、子どもにとって最善で安全な医療が行えるように診療に当たっています。鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣、臍ヘルニアなどの小手術は、1泊2日の入院で行い、また内視鏡手術による低侵襲手術を積極的に取り入れ、お子さまのQOLの向上を心がけています。

鼠径ヘルニア手術（63件）、臍ヘルニア手術（19件）、新生児手術（12件）など計135件の症例がありました。

- ・一般外科：総合的な外科診察を行い、各専門の外科外来に振り分けています。また、専門科である消化器外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、小児外科の範疇に入らない疾患、例えば、体表の腫脹や腫瘍、リンパ節の腫大、肛門疾患を広く扱っています。

痔核手術（25件）などの症例がありました。

<在籍医師> 14名 日本外科学会専門医（12名）・指導医（4名）、日本消化器外科学会認定医（2名）・専門医（5名）・指導医（2名）、日本食道学会食道外科専門医・食道認定医（1名）、日本呼吸器外科学会専門医（2名）、日本乳癌学会専門医・指導医（2名）、日本小児外科学会専門医（2名）、臨床研修指導医（9名）

○実習内容・方針

手術への参加を中心に実習していただきます。

実際の外科治療に必要な手技、画像診断、全身管理などを中心に学習していただきます。

K 整形外科

○実習責任者 副院長（脊椎センター長、第一整形外科部長） 稲田 充

○診療科の特徴

腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症や頸椎症を代表とする変形性疾患、脊髄腫瘍、側弯症など脊椎疾患を中心に保存的治療かつ手術的な治療を行っています。

脊椎手術は可能な限り顕微鏡視下で行い、安全性と低侵襲に配慮した手術を目指しています。

また、基礎的な研究から臨床研究まで学術的活動も行っています。

関節リウマチ・小児整形外科疾患の専門外来も行っています。

骨折観血的手術（63件）、脊椎固定術・椎弓切除術・椎弓形成術（324件）、人工骨頭・人口関節挿入術（28件）、椎間板摘出術（38件）などの症例がありました。

<在籍医師> 6名 日本整形外科学会専門医（5名）、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医（1名）、日本脊椎脊髄病学会指導医（1名）、臨床研修指導医（2名）

○実習内容・方針

整形外科治療、特に脊椎疾患に関する基礎知識について講義を通じて学習していただくとともに実際の臨床に関わっていただきます。

手術を見学していただくとともに可能な行為について参加していただきます。

L 皮膚科

○実習責任者 皮膚科部長 澤田 啓生

○診療科の特徴

皮膚疾患全般の診療を行っています。原因検索などでは必要時に他の診療科と連携を取りなが

ら検査などを行っています。褥瘡対策や化学療法の血管外漏出への対応、薬剤の副反応のマネージメント、入院患者さんの皮膚疾患など院内からのコンサルテーションにも数多く対応しています。

子どもの皮膚疾患が比較的多いのも特徴です。アトピー性皮膚炎の専門外来も行っています。

皮膚腫瘍摘出術（露出部以外）（63件）、皮膚腫瘍摘出術（露出部）（96件）などの症例がありました。

<在籍医師> 2名 日本皮膚科学会専門医（1名）、日本アレルギー学会認定専門医（1名）、臨床研修指導医（1名）

○実習内容・方針

基本的にはマンツーマン方式です。

午前 外来患者の診察、検査、治療を見学

午後 専門外来、病棟回診・往診、手術及び皮膚科的検査

M 泌尿器科

○実習責任者 泌尿器科 特別診療科部長 梅本 幸裕

○診療科の特徴

日本泌尿器科学会の専門医教育施設（基幹教育施設）に認定されています。3名の常勤医中2名の専門医及び指導医で診療しております。

小児泌尿器科疾患、男性不妊症と他施設では見られない特徴があります。

膀胱悪性腫瘍手術（97件）、体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（66件）、経尿道的尿管ステント留置術（40件）、腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術（19件）、男性不妊症手術（84件）などの症例がありました。

<在籍医師> 3名 日本泌尿器科学会専門医（2名）・指導医（2名）、日本内視鏡外科学会技術認定（泌尿器腹腔鏡）（2名）、臨床研修指導医（2名）

○実習内容・方針

個人指導のシステムで、診療の流れ（初診、検査、入院、手術、退院、通院など）を経験していただきます。

排尿障害、血尿、尿路結石症、膀胱腫瘍、腎腫瘍、前立腺腫瘍、精巣腫瘍、尿路感染症など広範な泌尿器科医療の基礎を学びます。

カンファレンスで症例提示を行い、研修医になった後の学会での症例報告の練習をします。チーム医療体制のもと手術、周術期管理を行います。

N 産婦人科

○実習責任者 周産期医療センター長（第二産婦人科部長）西川 尚実

○診療科の特徴

地域周産期母子医療センターとして、名古屋市北部から尾張東部の周産期医療を担っており、切迫早産、胎児異常、子宮内感染、妊娠高血圧症候群と血管内治療（IVR）を必要とする前置胎盤や分娩時大量出血の患者さんを受け入れています。令和元年度の分娩件数は1,299件でした。

赤ちゃんに優しい病院（BFH）認定病院として、母乳育児を推進しています。

婦人科疾患に対しては、婦人科悪性腫瘍の手術療法・化学療法・放射線治療をはじめ良性疾患では子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮脱手術、腹腔鏡下手術や過多月経に対するMEA（子宮内膜焼灼術）を実施しています。また女性ヘルスケアとしては子宮内膜症、月経困難症、更年期障害や骨粗鬆症の診断と治療を行っています。

帝王切開術（396件）、鉗子娩出術（14件）、吸引娩出術（51件）、子宮悪性腫瘍手術（14件）、子宮付属器悪性腫瘍手術（15件）、子宮全摘出術（70件）などの症例がありました。

<在籍医師> 11名 日本婦人科学会専門医（7名）、臨床研修指導医（4名）

○実習内容・方針

・外来実習：問診、カルテ記載法、診察見学、双手診、腔鏡診、腔部細胞診検査、婦人科疾患の超音波診断法（経腹法、経膈法）、コルポスコピー、妊婦診察（外診法、双手診法、超音波断層法による胎児発育及びwell-beingの評価、分娩監視装置による胎児心拍数モニタリング）等

・婦人科：手術前患者の診察法、手術前検査、処置、手術手洗い、手術助手（術野の消毒と無菌的管理、骨盤内臓器解剖学、手術手技の習得、手術術式の理解）等

- ・産科：妊産婦の診察法（レオポルド腹部触診法・ビショップスコア）、胎児心拍数モニタリングの実施・判定・対応、正常分娩及び帝王切開術の見学・介助、会陰切開縫合術、産褥婦の診察、新生児蘇生術、新生児診察、産婦人科手術（流産手術、頸管縫縮術、吸引・鉗子手術）見学・介助等

O 眼科

○実習責任者 眼科部長 中沢 陽子

○診療科の特徴

眼病変は視力障害だけであっても、白内障、緑内障、視神経障害などの眼球に起因するものだけではなく、頭蓋内疾患、膠原病、代謝異常など、全身疾患を反映するものも多くある。血管の豊富なぶどう糖は全身炎症を前房のなかに反映するし、眼内にできたmalignant materialが、治療によって縮小していく様子を透明な眼球の中に見ることが出来る。人間の五感のうち外的情報を得る87%は視覚によるもので、網膜は後頭葉からつながるシナプスの最終神経となって眼球の内壁に広がっている。人の神経・血管が病気によって、あるいは加齢によって変化していくのを見ることが出来る。周辺裂肛では剥離になるが、黄斑の孔で剥離にならないなど、小さな臓器である眼のサイエンスは、謎が多い。

地域拠点病院として、眼科疾患の基本的な症例を外来で診察し、入院加療・手術的治療を行う。自科検査の眼底写真・造影検査、OCTなどを用いて、診断・治療方針をたてる。

加齢黄斑変性、緑内障など、社会の高齢化にともない増加する疾患については、医師の基本として把握してほしい。

令和元年度 手術件数：1,542件

在籍医師：5名 日本眼科学会専門医（2名）、臨床研修指導医（1名）

○実習内容・方針

午前：病棟診察、外来診察の医師について見学実習

午後：月・火・水曜日手術（手術室入室 手洗いをして助手）

：木・金曜日の隔週でNICUにおいて未熟児網膜症の診察見学

P 耳鼻咽喉科

○実習責任者 耳鼻いんこう科副部長 黒田 陽

○診療科の特徴

耳、鼻、のど（咽喉頭）および頸部の疾患に対する診療を行っています。外来では大学病院とは異なり、一般市中病院として咽頭炎、鼻副鼻腔炎、中耳炎、めまいなどの急性疾患を多く取扱います。手術治療は、口蓋扁桃摘出術、内視鏡下鼻内副鼻腔手術、頸部良性腫瘍摘出術などを主に全身麻酔で行っています。鼓膜チューブ留置術、鼻粘膜レーザー焼灼術などは外来での日帰り手術で行っています。

また当院の特色としては周産期医療とがん診療があげられます。当科は前者においては先天性サイトメガロウイルス難聴の検査・治療を小児科と連携して積極的に行っており、後者では頭頸部癌の検査・診断を行い、治療は主に名古屋市立大学病院と連携して行っています。

<在籍医師> 2名 日本耳鼻咽喉科学会専門医（2名）

○実習内容・方針

午前中は、主に外来診療の見学が主体になります。

午後は、病棟回診、外来処置・検査、手術の見学になります。

症例によっては、助手として手術に参加していただくこともできます。

Q 放射線科

○実習責任者 副院長（放射線診療センター長） 原 眞咲

○診療科の特徴

・放射線診断科：診断機器は、多列CT（64列、Siemens Dual Source CT Somatom Definition flash 及び Somatom AS）2台、3.0T MRI（Siemens）1台＋1.5T MRI（Siemens）2台、計3台、SPECT（Siemens）1台、PET-CT（GE）1台が導入され、最先端の画像診断が可能です。

放射線診断専門医がCT、MRI、核医学検査については検査当日中、外来患者については可及的

に速やかに読影し、画像診断報告書を配信しています。

大学病院などの特定機能病院を除くと保険診療の加算点数がもっとも高い、「画像診断管理加算2」を取得し、基準（検査翌日までに80%の報告書配信）を越えて当日100%報告書を完成し診療に貢献しています。

低診療外科的分野であるIVRは、IVR専門医のもとで、最新のIVR-CT (Siemens)を駆使した低侵襲治療や陽子線治療時のマーカー留置、生検、ドレナージ、CVポート留置といったIVRサービスを提供しています。

地域連携にも積極的に取り組んでおり、当日報告書作成に対し評価をいただいています。3台目のMRI導入によりさらに検査枠の増加を予定しています。

<主な画像診断患者数（令和元年度）>CT：37,861件（造影率23%）、MRI：15,635件（同19%）、SPECT：615件、PET-CT：939件、IVR-CT：436件

<在籍医師>9名 日本医学放射線学会診断専門医（5名）、日本IVR学会専門医（1名）、核医学認定医（2名）、臨床研修指導医（5名）

・放射線治療科：初発、再発を問わず、病態に応じて本人や家族の意向を踏まえた最良の治療法の提案を心がけています。

治療内容としては、精度及び再現性に優れる最新の Novalis TX (Brain Lab) 装置を用いて、通常の放射線治療から強度変調放射線治療 (IMRT) や定位放射線治療に至る高精度放射線治療まで幅広く対応しています。また、呼吸移動を伴う臓器（肺や肝臓など）についても呼吸による位置変化を考慮可能な呼吸同期システムを利用することにより、正常組織への影響を低く抑え線量集中性の高い最先端の治療法を実施しています。

<令和元年度治療患者数>放射線治療患者数 378名、IMRT 治療患者数 31名（前立腺 14名、その他 17名）、定位放射線治療患者数 53名（脳 27名、肺 15名、その他 11名）

<在籍医師>2名 日本医学放射線学会放射線治療専門医（2名）、臨床研修指導医（1名）

・陽子線治療科：名古屋陽子線治療センターは、愛知県、岐阜県、三重県の東海3県で初めての陽子線治療施設です。アジア初となるスポットスキニングとそれを応用した強度変調陽子線治療 (IMPT) を実施しています。小児、骨軟部、頭頸部及び前立腺癌の一部が保険適応となり29年度の405名から30年度は595名と治療患者数が急増しました。令和元年度も574名と高水準で推移しています。

固定照射室1室、ガントリー照射室2室

<令和元年度治療患者数> 574名（前立腺 338名、肝臓 85名、肺 57名、頭頸部 29名、骨軟部 11名、膵臓 1名、小児 19名、その他 34名）

<在籍医師> 6名 日本医学放射線学会放射線治療専門医（3名）、臨床研修指導医（2名）

○実習内容・方針

医学部卒業に必要な、画像診断、核医学診断、IVR及び放射線治療の幅広い領域の診療を実際に経験することを目標とします。

画像診断医 9名（うち診断専門医 5名、IVR指導医 1名、核医学専門医 2名）、放射線治療医 2名＋陽子線治療医 6名（うち治療専門医 5名）、合計17名の常勤医を有しており、緊密かつ充実した教育体制を構築しています。

他科とのカンファレンスも積極的に行っており、これらに参加することにより放射線科の病院における役割、また、その重要性についての理解を深め、放射線診療実践における情報伝達の精度向上、さらに直接のフィードバックを得ることの意義を学習します。

R 病理診断科

○実習責任者 病理診断科医師 小林 瑞穂

（複数の非常勤講師にもご協力いただいております。）

○診療科の特徴

名古屋市西部地域の中核病院として、一般的な疾患から特殊な腫瘍まで幅広い病理検体を診断しています。また、免疫染色を行う設備も充実しており、病理組織の免疫組織化学的検討も詳細に行っております。

令和元年度の検体数は、病理組織検査 8,110件、細胞診検査 5,845件、術中迅速検査 205件、剖検4件でした。研修に十分な症例を学ぶことができます。

○実習内容・方針

ホルマリン固定された手術検体の切り出し、写真撮影や病理標本作成の過程を勉強していただきます。出来上がった生検標本、手術標本を鏡検して、組織学・病理学的な疾患のとらえ方を学んでください。

病理医を目指す方には、実際の診断のトレーニングを行うことができます。ほかの臨床分野へ進まれる方にも、病理の知識は疾患の診断や理解に大いに役立ちますし、学会発表などで、病理組織が必要なことも少なくありません。臨床研修を終えた後もお役に立てるような実習を目指します。

4 実習の予定表（基本）

1ターム目	月	火	水	木	金
第1週	ガイダンス 実習	実習	実習	実習	実習
第2週	実習	実習	実習	実習	実習 総括
2ターム目	月	火	水	木	金
第3週	ガイダンス 実習	実習	実習	実習	実習
第4週	実習	実習	実習	実習	実習 総括

※選択診療科により変更する場合があります。

5 その他

(1) 本実習は、「名古屋市立大学医学部学外臨床実習要項」に基づき、医学部各診療科の方針で行うものです。「臨床実習の目的」、「実習の一般的目標」、「実習評価項目」などは、医学部各診療科のマニュアルで確認してください。

(2) 記載コース以外の希望がありましたら、医学部事務室まで相談してください。

6 臨床実習者の初日の集合時間及び場所

(1) 東部医療センター（名古屋市千種区若水一丁目2番23号）

①集合時間 午前 8時45分（診療科により集合時間が異なる場合があります。その場合は事前に連絡します。）

②集合場所 管理課庶務係（救急・外来棟 4階）

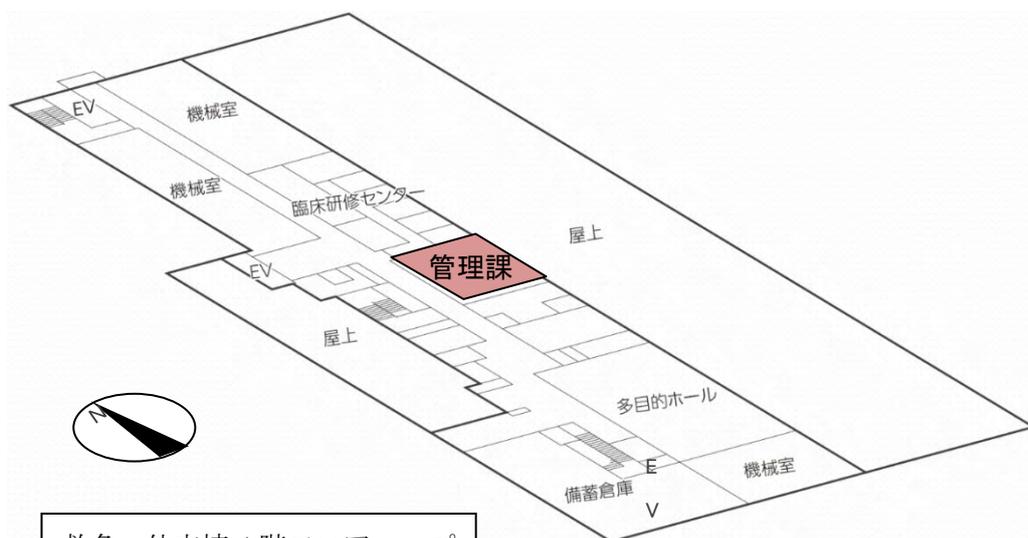
③連絡先 052-726-3101（直通）

※学生実習担当を呼び出して下さい。

※ 実習初日に名古屋市立大学でオリエンテーションを行った直後に、各病院へお越しの方は、集合場所は同じですが、集合時間については、医学部事務室でご確認下さい。



<東部医療センター救急・外来棟 4階管理課庶務係案内図>



救急・外来棟 4階フロアマップ



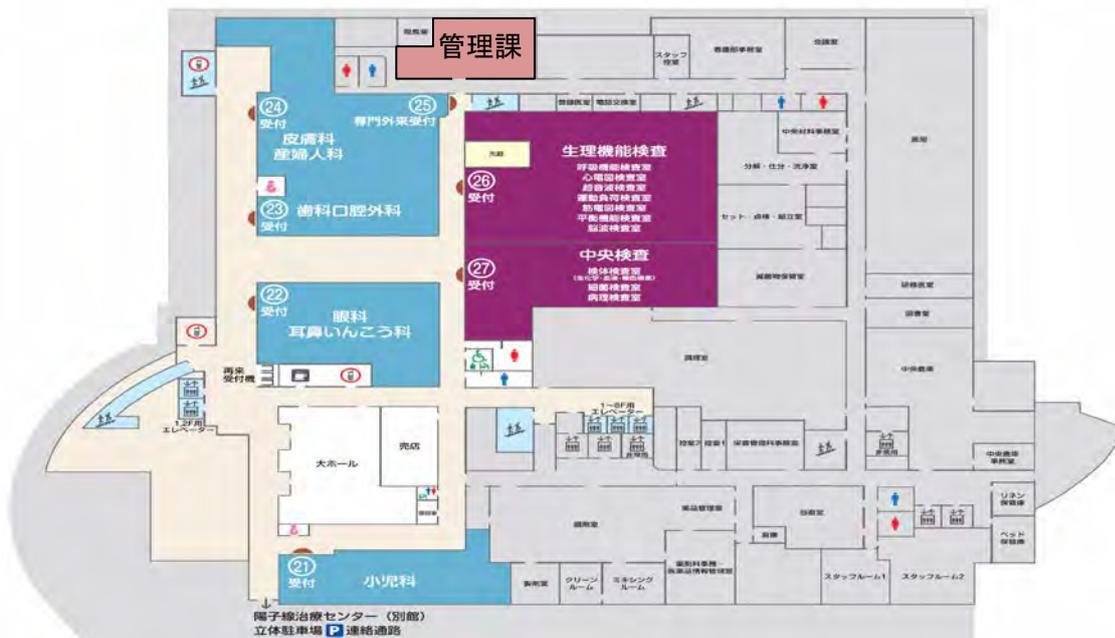
しの方は、集合

地下鉄名城線 名城公園駅下車 → 市バス「栄11如意車庫・平田町」行き「志賀公園前」下車
 地下鉄名城線 黒川駅下車 → 市バス「黒川14安井町西」・「北巡回黒川右回り」行き「金城町三丁目」下車

<西部医療センター 2階管理課庶務係案内図>



地下鉄名城線 名城公園駅下車 → 市バス「栄11如意車庫・平田町」行き「志賀公園前」下車
 地下鉄名城線 黒川駅下車 → 市バス「黒川14安井町西」・「北巡回黒川右回り」行き「金城町三丁目」下車



消化器内科，肝臓膵臓内科選択制臨床実習マニュアル（2021年度用）

1) 臨床実習の目的

消化器内科は食道から大腸肛門に至る消化管および肝臓，胆道，膵疾患の消化器病を専門とする領域であるが，実習に当たっては消化器疾患が疑われる患者の診断過程（症候→検査→鑑別診断→確定診断→治療）を十分理解し，その病態についての知識を会得すること，患者およびその家族へのインフォームドコンセントを通じて良好な医師・患者関係の構築を図ることなどを当面の目標とし，将来どの診療科の医師になるとしても最低限の知識，技能を経験・体験しておくことが求められる。

加えて，学内実習においてはクリニカルクラークシップ体制のなかで，指導医のみでなく上級の臨床研修医や下級学生（医学部5年生等）とのコミュニケーションを取りながら，チーム医療の実際について体験，実習参加していく。

複数の基本的な疾患を受け持つことにより，病態，症候，診断，治療と予後を学び，消化器内科領域における common disease に対する理解を深める。

2) 学外臨床実習病院

旭労災病院，いなべ総合病院，春日井市民病院，岐阜県立多治見病院，稲沢厚生病院，厚生連足助病院，知多厚生病院，豊川市民病院，名古屋記念病院，名古屋市東部医療センター，名古屋市西部医療センター，名古屋第二赤十字病院，中京病院，蒲郡市民病院

3-1) 学外スケジュール：基本的に2週間とする。

	月	火	水	木	金
第一週 午前	ガイダンス	関連病院 実習	関連病院 実習	関連病院 実習	関連病院 実習
午後	実習施設への 移動	関連病院 実習	関連病院 実習	関連病院 実習	関連病院 実習
	月	火	水	木	金
第二週 午前	関連病院 実習	関連病院 実習	関連病院 実習	症例の問題点 抽出	レポート作成
午後	関連病院 実習	関連病院 実習	関連病院 実習	研修の補修	総括

3-2) 学内スケジュール：基本的に2週間とする。

	月	火	水	木	金
第一週 午前	ガイダンス	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）
午後	病棟回診	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）
	月	火	水	木	金
第二週 午前	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）
午後	症例プレゼン テーション	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）	院内実習（ク リクラ）	総括

初日のガイダンス：月曜日午前9時に集合。場所は実習2週間までに消化器・代謝内科学医局（内線8211）に確認。学内、学外実習者、全員集合。

消化器内科，肝臓膵臓内科合同カンファレンス：

消化器内科は毎週火曜日17時30分から16階北病棟カンファレンスルーム，

消化器・代謝内科カンファレンスは18時から（場所要確認）

ただし奇数月第二火曜日は外科との合同症例検討会（時間要確認）

学内実習は、同一時期に2人を超えないこと。

消化器内科学外実習病院の基本情報

1) 旭労災病院

2) 院長：宇佐美郁治，学外実習指導責任者（消化器科主任部長）：小笹貴士

3) 原則として同時期に消化器内科に1名—2名

4) 消化器，呼吸器，糖尿病代謝，循環器の実習が可能。中規模総合病院。

5) 指導医とともに実際の臨床の場をみていただき，可能な医療行為については体験していただく方針。救急外来患者の実習や救急当直の体験も可能です。学生の宿泊は可能。

1) いなべ総合病院

2) 院長：相田直隆，学外実習指導責任者（副院長）：埜村智之

3) 原則として同時期に消化器内科に1名—2名

4) 消化器，循環器の実習可能。平成14年に総合病院として新築。消化器，循環器の専門医が指導。

5) 消化器内視鏡的診断と治療。心臓カテーテルなど心臓循環器系の診断と治療。透析など，内科全般を幅広く実習可能です。学生の宿泊は可能，但し同一時期に病院全体として4名まで。

1) 春日井市民病院

2) 院長：成瀬友彦，学外実習指導責任者：（副院長）祖父江聡

3) 原則として同時期に消化器内科に1名—2名

4) 消化器の実習が可能。消化管，肝，胆道膵臓疾患，など豊富な症例が経験できます。

5) 消化器：予診，診察の習得と検査所見，画像所見の読解力の習得。

1) 岐阜県立多治見病院

2) 院長：近藤泰三，学外実習責任者：（消化器内科部長）奥村文浩

3) 原則として同時期に消化器内科に1-2名

4) 岐阜県東濃地区の基幹病院で救命救急センターを有する三次医療機関であり，救急疾患を含め幅広い実地医療を体験できる。消化器疾患の診断と治療（特に内視鏡的関連）の経験や集学的治療が可能。

5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。消化器に関連した診断，治療はほとんど全てを網羅していますが，特に内視鏡治療に力をいれている。外来，消化器の検査の見学，検討会の参加などを実習します。

担当医によるインフォームドコンセント，カンファレンスにも参加。週一回は当直医とともに救急医療を体験していただきます。学生の宿泊は要相談。

1) 稲沢厚生病院

2) 院長：伊藤浩一，学外実習指導責任者：（副院長）後藤章友

3) 原則として同時期に消化器内科1名、内分泌糖尿病1名まで

4) 消化器：内視鏡検査，血管造影検査，胃瘻造設などの見学，介助。

内分泌糖尿病：糖尿病の教育入院を受け持ち，糖尿病教室に参加する。

さらに症例検討会への参加、救急患者の診断、検査、治療、訪問診察への同行など。学生の宿泊は可能です。現在のところは同時期に3名まで。

1) 厚生連足助病院

- 2) 院長：小林真哉，学外実習指導責任者：(院長) 小林真哉
- 3) 原則として同時期に消化器内科に1名
- 4) 消化器の実習可能。
- 5) 消化器：おじいちゃん，おばあちゃんと接しながら内科の基本が学べます。僻地のモデル病院として有名。宿泊も1名なら可能。

1) 知多厚生病院

- 2) 院長：水野志朗，学外実習指導責任者：(副院長) 高橋佳嗣
- 3) 原則として同時期に消化器内科に1名—2名
- 4) 消化器，内分泌・糖尿病の実習が可能。知多半島の中核病院として救急をはじめあらゆる急性，慢性疾患に対する診療を行っている。CATVを利用した在宅医療システムを開発し，在宅医療にも力をいれています。
- 5) 実習中には循環器内科の心臓カテーテル検査なども見学できます。
- 6) 研修医を対象とした early bird seminar などの様々な講義にも参加できます。
- 7) 基礎的な知識を習得している学生に対しては，検査，処置の見学や介助，病棟の副主治医，外来診療(予診，救急処置への参加)，内科手術での手洗いなどが可能です。離島の診療所への出張，褥瘡の管理の仕方なども学びます。実習時の宿泊は可能です。

1) 豊川市民病院

- 2) 院長：松本隆，学外実習責任者：(副院長) 佐野仁
- 3) 原則として同時期に消化器内科に1名—2名
- 4) 消化器，呼吸器，循環器，血液・膠原病，神経内科の実習を中心とした幅広い実習が可能。臨床研修指定病院として研修プログラムに準じて実習する。急性期から慢性期までの豊富な症例を学ぶことができる。
- 5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。実習時の宿泊は可能です。

1) 名古屋記念病院

- 2) 院長：長谷川真司，学外実習責任者：(消化器内科部長) 戸川昭三
- 3) 原則として同時期に消化器内科に1名
- 4) 消化器・血液・膠原病，呼吸器内科の実習が可能
- 5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。学生の宿泊はできません。

1) 名古屋市立東部医療センター

- 2)
- 3) 院長：村上信五 学外実習指導責任者：(第一消化器内科部長) 伊藤恵介
- 4) 原則として同時期に消化器内科に1名—2名
- 5) 消化器，呼吸器疾患の実習が可能。急性期，慢性期ともに豊富であり，一通りに疾患を経験できる。
- 5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。

1) 名古屋市立西部医療センター

- 2) 院長：桑原義之，学外実習責任者：(院長代行) 妹尾恭司
- 3) 原則として同時期に消化器内科に1名

- 4) 消化器，循環器，呼吸器，神経内科を中心とした実習が可能。大学との連絡も密であり，救急を含む幅広い症例が経験できる。脳血管障害を中心とした神経内科疾患に加えて，物忘れ外来を早くから手掛け，アルツハイマー病の早期診断・早期治療を目指して新しい診断法を検討している。また腫瘍疾患の症例が豊富。
- 5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。学生の宿泊は平日ならば1人限定で可能。

1) 名古屋第二赤十字病院

- 2) 院長：佐藤公治，学外実習責任者：（第一消化器内科部長） 林克巳
- 3) 原則として同時期に消化器内科に1名
- 4) 一般外来患者、救急患者ともに非常に多く、消化器内科疾患をすべて網羅的に実習できる。スタッフも消化器内科医がレジデントも含めて16名おり、指導教育体制も整っている。また研修医が多数（各学年20名づつ）いるので、身近な研修情報も聞ける。
- 5) 胃カメラ、大腸内視鏡検査、内視鏡的膵胆管造影検査、血管造影検査などを中心に見学胃カメラについてはゴムのモデルでの練習も行ってもらおう。病棟回診、検討会に参加。希望すれば夜間や祝日の救急外来の見学も可。

1) 中京病院

- 2) 院長：後藤百万、学外実習指導責任者：（消化器科部長）長谷川泉
- 3) 原則として同時期に消化器内科に1名
- 4) 消化器の実習が可能。名古屋市南部にある683床の急性期総合病院。
- 5) 検査の見学（上部消化器内視鏡，大腸内視鏡，腹部エコー，腹部血管造影）。救急部の見学も可能。

1) 蒲郡市民病院

- 2) 院長：河邊義和、学外実習指導責任者：（副院長）早川 潔（副院長）安藤朝章
- 3) 原則として同時期に消化器内科に1名
- 4) 消化器，循環器疾患の実習が可能。急性期，慢性期ともに豊富であり，一通りに疾患を経験できる。
- 5) 指導医とともに病棟・外来・検査を見学し，可能な行為については実践または協力していただく方針。実習時の宿泊は可能です。

選択制臨床実習評価項目

レポート提出，評価マニュアル，実習態度に基づき行う。レポートは病棟で担当した各患者についてそれぞれ作成する。評価マニュアルは学生と担当医が記入する。

評価マニュアル

評価は A：優れている，B：平均を上回る，C平均レベルに到達，D不十分なレベルに留まる の4段階とする。

(1) 下記の基本的診察法を実施し，所見を解釈できる	自己評価	担当医評価
1) 面接技法（診断情報の収集，患者・家族との適切なコミュニケーションを含む） 全身の観察（バイタルサインと精神状態のチェック，皮膚や表在リンパ節の診察を含む）	_____	_____
2) 頭頸部の診察	_____	_____
3) 胸部の診察	_____	_____
4) 腹部の診察	_____	_____
5) 骨・関節・筋肉系の診察	_____	_____
6) 神経学的診察	_____	_____
 (2) 基本的検査法		
A.必要に応じて自ら検査を実施あるいは指示し，結果を解釈できる。 (実際に実施した項目を評価する。7項目以上実施すること。)		
1) 一般検尿	_____	_____
2) 検便（潜血）	_____	_____
3) 血算	_____	_____
4) 血液型判定・交差適合試験	_____	_____
5) 心電図	_____	_____
6) 動脈血ガス分析	_____	_____
7) 血液生化学的検査	_____	_____
8) 血液免疫学的検査	_____	_____
9) 細菌学的検査	_____	_____
10) 肺機能検査（スパイロメトリー）	_____	_____
11) 超音波検査（心臓・腹部・頸部）	_____	_____
12) 脳波	_____	_____
13) 単純X線検査（頭，胸，腹部，骨，関節）	_____	_____
14) X線CT検査	_____	_____
15) MRI検査	_____	_____
16) その他（ ）	_____	_____
 B.指導医が施行する検査を観察・介助し，専門家の意見に基づき結果を解釈できる。 (実際に実施した項目を評価する。2項目以上実施すること。)		
1) 髄液検査	_____	_____
2) 骨髄検査（穿刺，骨髄像）	_____	_____
3) 造影X線検査（消化管，脊髄）	_____	_____
4) 神経生理学的検査（筋電図，自律神経機能）	_____	_____
5) 運動負荷検査	_____	_____
6) 心臓カテーテル検査	_____	_____

- 7) 内視鏡検査 _____
- 8) 内分泌学的検査 _____
- 9) 血管造影検査 _____
- 10) 筋・神経生検 _____
- 11) その他 () _____

(3) 基本的手技

- 1) 採血法 (静脈血, 動脈血) _____
- 2) 注射法 (皮内, 皮下, 筋肉, 点滴) _____

(4) 以下の救急処置法を適切に行うことができる

- 1) バイタルサインの把握 _____
- 2) 重症度および緊急度の把握 (判断) _____
- 3) 脳幹反射の実技 _____

(5) 下記の項目に配慮し, 患者・家族と良好な人間関係を確立できる

- 1) コミュニケーションスキル _____
- 2) インフォームドコンセント _____
- 3) プライバシーへの配慮 _____

(6) 医療の幅広いスタッフ (医師, 看護婦, 技師等) との, チーム医療について理解できる

(7) 以下の医療記録を適切に作成し, 管理できる

- 1) 診療録 _____

(8) 以下の診療計画・評価を実施できる

- 1) 必要な情報収集 (文献検索を含む) _____
- 2) 症例提示・要約 _____
- 3) 自己評価および第三者による評価をふまえた改善 _____
- 4) 担当医とのディスカッション _____

内分泌・糖尿病内科 選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

M5 までに習得した基礎医学および臨床医学の知識を礎とし、より深い洞察力を持って内分泌・代謝疾患の診療現場を体験する。最終学年生としてふさわしい実習姿勢で患者に接し、クリニカルクラークシップ診療体制の一員となるべく努力する。的確な問診・Review of systems、綿密な身体所見をとる術を習得する。適切な病態把握・診断・medical decision making のために必要なストラテジーを身につける。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 本年度は学外実習を1週間のみ可とする。
- 2) クリニカルクラークシップの一員としての自分の立場を理解する。
- 3) 糖尿病などの common disease の患者（外来・入院）を多数例、経験する。
- 4) 内分泌代謝疾患の病因・病態を理解し、症例に即して考察する能力を身につける
- 5) 糖尿病患者教育などチーム医療の現場に参画する。
- 6) 各症例での合併症の検索と、内科医としての全身の病状把握の能力を身につける

臨床実習の予定表

学外実習の場合

	月	火	水	木	金
第1週	オリエンテーション(学外)	クリニカルクラークシップ	クリニカルクラークシップ	クリニカルクラークシップ	総括(学外)

学外実習内容

糖尿病

- 1) 糖尿病の疾患概念を理解する。
- 2) 糖尿病の分類と成因を理解する。
- 3) 糖尿病の合併症を理解する。
- 4) 遺伝素因や環境因子を症例に即して把握し合併症も含めた治療能力を身につける。
- 5) 患者教育の観点から糖尿病患者を心理的・社会的側面をも含めて理解し、患者に対する的確に説明・指導する能力を身につける。
- 6) 他診療科からの糖尿病合併患者の管理の依頼に対し治療し管理する能力を身につける。

内分泌

- 1) ホルモンの分泌と作用の異常に関する疾患概念を理解する。
- 2) ホルモンの分泌と作用の異常が原因となる症状・身体所見を理解する。
- 3) ホルモンの分泌と作用の異常が原因となる血液検査異常を理解する。
- 4) 内分泌代謝疾患の診断確定への手順を習得する。
- 5) Common Disease としての甲状腺疾患の診断法と治療法を習得する。
- 6) まれな内分泌疾患を診断、治療する醍醐味を経験する。

学外実習病院基本情報

1. 刈谷豊田総合病院 糖尿病・内分泌内科
2. 院長：田中 守嗣 先生、水野 達央 先生(糖尿病・内分泌内科部長)
3. 内分泌・代謝内科として1人まで
4. 当院はトヨタグループ8社ならびに刈谷市・高浜市によって運営されている704床の地域中核病院です。先進的な医療機器を完備して、高度な医療を提供しています。
5. 糖尿病・内分泌分野でも先進的な機器を導入し、豊富な症例、他科にまたがる重症例を日々診療しています。8日間の実習では糖尿病・内分泌内科の担当症例を選定し、身体診察、データの読み

方、プレゼンテーション、レポート作成などを行います。若手医師とも交流し、多様な症例に触れたりインフォームドコンセントを学んでいただきます。

6. 病院 6 棟 2 階応接室 9 時 15 分 (2020 年 10 月現在、新型コロナウイルスの影響で開始が遅めです)

1. 旭ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科
2. 宇佐美 郁治 先生、小川浩平 先生(糖尿病・内分泌内科部長)
3. 受け入れ人数は内分泌・糖尿病内科として 1 人まで。1 週間のみ実習可。
4. 旭ろうさい病院は尾張旭市にあり、名鉄瀬戸線印場駅から北に 2km です。250 床と中小規模であり、診療科間・職種間の垣根が低く、いわゆる小回りが利く病院です。令和元年 5 月に新病院が完成しまして、環境は非常に良いです。糖尿病内分泌内科は 3 名の常勤医が在籍しており、糖尿病学会認定教育施設です。糖尿病教育入院を常時受け付けており、チーム医療により患者の個々の状況に合わせた診療をしています。
5. 糖尿病教育入院中の患者の担当につき、チーム医療を体験する。稀な症例は是非とも経験してもらおう。当院で力を入れているフットケア外来を見学する など
6. 5 階の総務課、午前 9 時

1. 公立西知多総合病院 内科
 2. 吉原 基 先生、神野靖也 先生(内科部長)
 3. 受け入れ人数は内分泌・糖尿病内科として 1 人まで。1 週間のみ実習可。
- 事前に内科部長 神野靖也先生に電話連絡し、当日の集合場所を確認してください。

1. 名古屋市立西部医療センター
2. 桑原 義之 先生、今枝憲郎 先生(内分泌・糖尿病内科部長)
3. 受け入れ人数は内分泌・糖尿病内科として 1 人まで
4. 名古屋市北部および近隣自治体の中核病院であり、成育医療・がん診療の拠点病院である。内分泌糖尿病患者全般に加え妊娠糖尿病や化学療法中の糖尿病患者が多いのが特徴である。
5. 外来・病棟をバランスよく実習していただく。複数の医師に指導をうけてキャリアモデルをイメージしていただく。
6. 初日、午前 9 時。2 階管理科事務室 井上さんを訪ねる

1. 名古屋市立東部医療センター
 2. 村上 信五 先生、赤尾雅也 先生(内分泌内科部長)
 3. 受け入れ人数は内分泌・糖尿病内科として 1 人まで。1 週間のみ実習可。
- 事前に管理課庶務係の宮田様に電話連絡し、当日の集合場所を確認してください。

1. 豊川市民病院
 2. 松本 隆 先生、加藤岳史先生 (糖尿病内分泌内科部長)
 3. 受け入れ人数は内分泌糖尿病内科として 1 人まで。1 週間のみ実習可。
- 事前に糖尿病内分泌内科部長 加藤岳史先生に電話連絡し、当日の集合場所を確認してください。

呼吸器・免疫アレルギー内科 M6 選択制臨床実習マニュアル

■臨床実習の目的

呼吸器・アレルギー内科領域のプライマリ・ケアを基本とした総合診療能力を有する臨床医を育成するために、common disease や緊急処置を要する病態を理解し、患者および医療スタッフと良好なコミュニケーションを通して、適切な対応能力を習得する。

具体的には、M5 BSL で培った知識 (knowledge)、技能 (skill) をさらに発展させ、これに加えて医師としてのプロフェッショナルリズムに適う態度 (attitude) を習得し、卒後臨床研修の実践の場へつなげていく。

■基本的実習内容のガイドライン

1) 選択制臨床実習の医療機関と受け入れ人数

名古屋市立大学 呼吸器・免疫アレルギー内科学と連携する医療機関（関連病院）において 2 週間の実習を行う。尚、関連病院の許可がある場合は、同一医療機関で 4 週間の実習を行うことも可能である。受け入れ人数は各医療機関によって異なるため、下記の「学外実習病院の基本情報」の項を参照のこと。

名古屋市立大学 呼吸器・免疫アレルギー内科学への入局を視野に入れている学生は名古屋市立大学病院での実習を許可する。その場合、はじめの 2 週間は関連病院の呼吸器内科で実習し、次の 2 週間に名古屋市立大学病院 呼吸器・免疫アレルギー内科学で実習を行う。通常、M5 学生が実習中であることが多いため、実習の一環として M5 学生の指導を行うこと。※大学の教員数には限りがあるため、名古屋市立大学病院での実習を希望する学生は実習時期の調整や研修先などの進路相談を兼ねて、事前に教室主任（医局長）に挨拶に来ること。

2) student doctor としての心構え

□身だしなみやマナー

基本的には、各医療機関での決まりに従うが、一般的には、以下のことを念頭に行動すること。

- ・髪型、毛髪の色、アクセサリ、化粧、爪の手入れ、ひげなど、実習を行うにふさわしい身だしなみを心がける。
- ・適宜洗濯した白衣を着用する。
- ・白衣の下には Y シャツやケーシーなど、実習にふさわしい衣服を着用する。※派手な生地 of T シャツなどは避けること。
- ・ボタンをきちんと留め、名札をつける。
- ・履物は清潔感があり、動きやすいものとする。サンダルは不可。
- ・患者さんやご家族、医療スタッフに対して、礼儀正しく振る舞い、不快感を与えない。特に患者さんとは、できるだけ同じ目の高さで、自己紹介や日々の挨拶をすること。
- ・病棟や廊下などでの大声の会話を控え、患者さんのプライバシーに配慮する。

□実習中の行動目標

上記を踏まえて、以下を行動目標として設定する。

- ・患者さんの立場を尊重し、信頼を得ることができる。
- ・患者さんのプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。
- ・患者さんの安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。
- ・挨拶、身だしなみ、言葉遣い等に気を配ることができる。
- ・感染を予防するため、診察前後の手洗いや器具等の消毒ができる。
- ・指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。

3) 実習中に経験すべき症候・疾患

- ・胸部悪性腫瘍
肺癌の診断（肺癌取り扱い規約に沿って）
肺癌の手術療法、放射線治療、化学療法（ガイドラインに沿って）
緩和医療（がんに対する疼痛緩和療法を中心に）
- ・びまん性肺疾患

間質性肺炎の診断、分類、治療、HRCT および病理像など
サルコイドーシスや膠原病肺の診断、治療

- 感染症
肺炎の治療:ガイドラインに従った抗菌薬の選択など
肺真菌症の診断と治療:アスペルギルス症、クリプトコッカス症などを中心に
結核および非結核性抗酸菌症の診断と治療
- 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
急性期 (増悪) 治療の実際
慢性期の管理:吸入療法の有用性、吸入指導 (ガイドラインに従って)
肺機能検査の方法や解釈
- 呼吸不全
急性・慢性呼吸不全の治療および管理:酸素療法 (在宅酸素療法も含めて) や人工呼吸管理 (在宅人工呼吸管理も含めて) など

- 胸水貯留の診断と治療
滲出性胸水と漏出性胸水の鑑別
癌性胸膜炎、結核性胸膜炎、細菌性胸膜炎の鑑別
胸腔鏡検査
- その他
肺血栓塞栓症の診断、予防
睡眠時無呼吸症候群の疾患概念と治療
結核病床における診療 (結核病床を有する施設で)
健康増進、疾患予防、疾患スクリーニングなど (禁煙指導も含めて)

4) 実習中の具体的な習得項目

- 病歴聴取と身体所見から鑑別疾患を挙げ、患者の病態に応じた検査を立案できる。
- 受け持ち患者の概要や問題点をカンファレンスで提示できる。
- 呼吸器/アレルギー内科領域の **common disease** (肺炎、喘息発作、慢性閉塞性肺疾患の増悪、間質性肺炎の増悪、肺癌など) に対して、適切な診断や初期治療を行うことができる。
- 呼吸不全患者における動脈血ガス分析の結果を解釈し、適切な酸素療法や人工呼吸管理を行うことができる。
- 胸部単純 X 線写真や胸部 CT の基本的な読影ができる。
- 呼吸機能検査の結果を解釈できる。
- 気管支鏡検査や胸腔穿刺、胸腔ドレナージの適応と合併症を理解する。
- 隔離が必要な感染性疾患 (結核やインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症など) を疑い、院内感染マニュアルや感染症法に基づく対応ができる。
- 患者や家族の心理的・社会的背景に配慮した対応ができる。

■学外臨床実習の予定表と実習内容

□予定表

第1週

	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション(学内)	クリニカルクラークシップ	クリニカルクラークシップ	クリニカルクラークシップ	クリニカルクラークシップ
午後	移動/予備				

第2週

	月	火	水	木	金
午前	クリニカルクラークシップ	クリニカルクラークシップ	クリニカルクラークシップ	クリニカルクラークシップ	総括(学内)
午後					

※4週間同一医療機関で実習を行う場合、第2週目の金曜日は総括ではなく、実習病院でクリニカルクラークシップを行う。

□実習内容

- ① 毎朝受け持ち患者さんの病室を訪室する前に、バイタルサインと看護・診療記録を必ずチェックし、前日の夜に起こったことを把握する。
- ② 患者さんに問診、身体診察を行う。必要があれば、本日予定している検査や治療を伝える。
- ③ 身体所見や検査結果を元に、今後の検査や治療の計画を立案し、指導医に口頭で提示し、検討する。
- ④ 上記の内容を診療録に記載する。記載した診療録は指導医に必ず読んでもらい、指導を受ける。
- ⑤ 回診やカンファレンス時に受け持ち患者さんをプレゼンテーションする。
- ⑥ ベッドサイドで行われる採血や静脈注射などの基本手技を見学・実施し、指導を受ける。
- ⑦ 患者さんやその家族への病状説明や退院支援のためのカンファレンスに参加する。

■学外実習病院の基本情報

以下に実習病院の基本情報を記す（情報は2020年9月28日現在のものであり、その後、変更されている可能性があることに留意すること）。

□愛知県がんセンター病院

病院長：丹羽 康正 先生

学外実習指導責任者：樋田 豊明 先生

受け入れ学生人数：同時期に2名まで可

実習期間：4週間研修可

病院の特徴：がんの専門病院であり、臨床試験・治験の症例数が豊富。研究所も併設している。

□旭労災病院

病院長：宇佐美 郁治 先生

学外実習指導責任者：宇佐美 郁治 先生

受け入れ学生人数：同時期に1名まで

実習期間：4週間研修可

病院の特徴：東尾張地区の地域密着型急性期病院で救急症例も多く経験でき、前身がじん

肺専門病院であるため、呼吸器疾患の症例も多い。プライマリケア疾患まで幅広く学べる。アスベスト疾患ブロックセンターも併設しており、アスベスト関連疾患を詳しく学べる

□大同病院

病院長：野々垣 浩二 先生

学外実習指導責任者：沓名 健雄 先生

受け入れ学生人数：同時期に 1 名まで

実習期間：4 週間研修可

病院の特徴：名古屋市南部の中核病院で、気管支喘息や COPD を中心に呼吸器疾患を全般的に診療している。結核病床あり。

□豊川市民病院

病院長：松本 隆 先生

学外実習指導責任者：二宮 茂光 先生

受け入れ学生人数：同時期に 2 名まで可

実習期間：2 週間研修のみ

病院の特徴：東三河地区の地域の中核病院で、救急搬送症例も多い。呼吸器疾患を全般的に診療している。結核病床あり。

□名古屋記念病院

病院長：長谷川 真司 先生

学外実習指導責任者：宮崎 幹規 先生

受け入れ学生人数：同時期に 1 名まで

実習期間：4 週間研修は可能だが要相談

病院の特徴：名古屋市天白区の地域の中核病院で、呼吸器疾患全般を診療している。

□名古屋第二赤十字病院

病院長：佐藤 公治 先生

学外実習指導責任者：若山 尚士 先生

受け入れ学生人数：同時期に 1 名まで

実習期間：2 週間研修のみ

病院の特徴：急性期疾患を中心として患者数が非常に多い。

□名古屋市立東部医療センター

病院長：村上 信五 先生

学外実習指導責任者：前田 浩義 先生（川口 裕子 先生）

受け入れ学生人数：同時期に 2 名まで可。ただし、名古屋市立病院複合選択制実習との兼ね合いで人数調整の必要あり。

実習期間：2 週間研修のみ

病院の特徴：幅広く呼吸器疾患に対応しており、救急搬送症例も多いため、急性期の対応などを経験しやすい。

□名古屋市立西部医療センター

病院長：桑原 義之 先生

学外実習指導責任者：秋田 憲志 先生

受け入れ学生人数：同時期に 1 名まで。名古屋市立病院複合選択制実習との兼ね合いで人数調整の必要あり。

実習期間：2 週間研修のみ

病院の特徴：最新の CT、MRI、PET-CT、気管支鏡などを駆使して呼吸器疾患の診断・治療を行っている。また東海三県で唯一の粒子線治療施設（名古屋陽子線センター）が併設されている。

□名古屋セントラル病院

病院長：中尾 昭公 先生

学外実習指導責任者：竹内 章 先生

受け入れ学生人数：同時期に 1 名まで。

実習期間：2 週間研修のみ

病院の特徴：最新の CT、MRI、PET-CT、気管支鏡などを駆使して呼吸器疾患の診断・治療を行っている。

□海南病院

病院長：奥村 明彦 先生

学外実習指導責任者：村松 秀樹 先生

受け入れ学生人数：同時期に 1 名まで。

実習期間：4 週間研修可

病院の特徴：海部津島医療圏の中核病院で救急症例も多い。肺癌、肺炎、気管支喘息、COPD、間質性肺炎など幅広く呼吸器疾患の診療を行っている。

■集合場所・集合時間

実習開始初日の 9 時に研究棟 3 階の呼吸器・免疫アレルギー内科学の医局に来ること。※実習開始日が月曜日以外の時は事前に医局に問い合わせること。

■選択性臨床実習の評価

・実習の評価は、原則として学外実習指導責任者より受ける。場合によっては、看護師などのコメディカルや担当患者より評価を受けることもある。

※名古屋市立大学病院で実習する場合は学内の実習指導責任者より評価を受ける。

・また、総括時にレポートを提出し、新実教授からも評価を受ける。

・レポートには経験した症例（最低 1 例、できれば 2 例以上）について、以下の内容が含まれている必要がある。

- ① 徴候・症状・鑑別診断・臨床経過
- ② 初期評価方法（診断基準や検査法など）
- ③ 疾病管理の基本的アプローチ
- ④ 文献的考察

■その他

呼吸器内科の実習中は原則として他病院の見学を禁止とする。

リウマチ・膠原病内科 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

I. 名古屋市立西部医療センター

所在地：〒462-8508 名古屋市北区平手町1丁目1番地の1

病院長：桑原 義之

学外実習担当診療科名：リウマチ膠原病内科

学外実習担当委員：速水 芳仁（リウマチ膠原病内科部長。日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医、日本リウマチ学会 リウマチ専門医・指導医、臨床研修指導医）

学外実習担当委員 E-mail：y.hayami.23@west-med.jp

受け入れ可能な学生の予定人数（期間）：1名（2週間）×4枠

病院の特徴：名古屋北西部に位置する基幹病院。病床数500床。臨床研修指定病院、日本リウマチ学会教育施設。令和2年度は常勤医（日本リウマチ学会）1名、非常勤医3名の診療体制。

実習方法：2. 学外実習スケジュールについて、3. 選択性臨床実習の評価項目を参照のこと

集合場所・時間：実習開始の前週までに学外実習担当委員に E-mail や電話等にて連絡をとり、集合場所および時間を確認する。

II. JA 愛知県厚生連海南病院

所在地：〒498-8502 愛知県弥富市前ヶ須町南本田396番地

病院長：奥村 明彦

学外実習担当診療科名：膠原病内科、膠原病・リウマチセンター

学外実習担当委員：佐々木 謙成（膠原病内科代表部長。日本内科学会 総合内科専門医 日本内科学会 認定内科医、日本リウマチ学会 専門医・指導医、臨床研修指導医）

学外実習担当委員 E-mail：cap68480@hotmail.co.jp

受け入れ可能な学生の予定人数（期間）：1名（2週間）×7枠 + 学外選択制 1名（2週間）×2枠

病院の特徴：名古屋市西部から三重県北勢地域の一部をカバーする地域の基幹病院、救命救急センター指定病院。病床数540床（一般病床 534床 感染病床6床）。臨床研修指定病院、日本リウマチ学会認定教育施設。膠原病内科は、令和2年度、常勤医2名、非常勤医1名の体制。

実習方法：2. 学外実習スケジュールについて、3. 選択性臨床実習の評価項目を参照のこと

集合場所・時間：実習開始の前週までに学外実習担当委員に E-mail や電話等にて連絡をとり、集合場所および時間を確認する。

III. 大同病院・だいどうクリニック

所在地：〒457-8511 名古屋市南区白水町9番地

病院長：野々垣 浩二

学外実習担当診療科名：：膠原病・リウマチ内科

学外実習担当委員：土師 陽一郎（膠原病・リウマチ内科部長。日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医、日本リウマチ学会 リウマチ専門医・指導医、日本腎臓学会認定腎臓専門医）

学外実習担当委員 E-mail：haji4160@gmail.com

受け入れ可能な学生の予定人数（期間）：1名（2週間）×5~9枠（学外病院選択制での実習の有無により変動）、1名（4週間）×4枠（学外病院選択制の9タームのうち4タームのみ）

病院の特徴：名古屋市南部に位置する基幹病院。外来診療を行うだいどうクリニックを併設。病床数404床（一般病床 394床、結核病床 10床）。臨床研修指定病院、日本リウマチ学会認定教育施設。膠原病・リウマチ内科は、常勤医3名の体制。

実習方法：2. 学外実習スケジュールについて、3. 選択性臨床実習の評価項目を参照のこと

集合場所・時間：初日8時30分に、大同病院 東玄関に入ってすぐの1F総合案内から卒後研修支援センター事務の担当者に連絡を依頼する。

2. 学外実習スケジュールについて

学外実習を行う学生の選出

① 血液内科・膠原病内科コースでは、4週間の実習期間を2週間ずつに分け、グループの半数ずつ

がクロスオーバーで実習を受ける。(例 1, 2 週目血液・腫瘍内科で実習した学生は、3, 4 週目にリウマチ・膠原病内科で実習を行う。) 膠原病内科コースの実習期間 (2 週間) において、C1、A1 グループを除き学生 1 名が学外で臨床実習を行う。(次ページ表参照)

- ② 学外病院 (選択制) での実習のうち、大同病院は 4 タームのみ (H, F, D, B グループのみ)、1 タームにつき 4 週間、学生 1 名を、海南病院は 2 タームのみ (C, A グループのみ)、1 タームにつき 2 週間 (6/7 ~ 6/18、8/30 ~ 9/10)、学生 1 名を受け入れる。(次ページ表参照)
- ③ M6BSL 開始 2 週間前までに、各グループから学外実習を行う学生を選出し、事務に連絡をすること。

学外実習のスケジュール (内容は施設の事情に合わせて調整)

- ④ 新型コロナウイルス感染症等の理由により、学外病院での実習受け入れの停止期間が、実習期間の土日休日を除く日数の 1/4 以上に及ぶ場合、学外実習予定の学生の実習は大学病院で行う。
- ⑤ 実習初日に、指導医より受け持ち患者の紹介を受けたのち、直ちに受け持ち患者さんのこれまでの病歴を診療録により確認し、適宜問診を追加し把握する。
- ⑥ 2 日目以降、毎朝、受け持ち入院患者さんのカルテの経過表 (検温表、バイタルサイン等継続的に記録されたもの)、医師記録、看護記録に目を通した後、自ら問診などの診察を行い前日や夜間に起こったことを把握し、問題点を整理しておく。
- ⑦ その後、受け持ち患者さんの状態、検査結果、検査治療計画について口頭で上級医 (研修医、シニアレジデント)・指導医に提示し、検討を行う。
- ⑧ 診察した所見をカルテに記載する。カルテ記載内容は上級医・指導医の点検 (加筆・訂正) を受け、署名してもらう。
- ⑨ 不明な点、問題点は上級医・指導医と相談するが、自主的に文献などを検索し、解決へ向けての学習を行う。
- ⑩ 症例カンファレンスでは受け持ち患者さんのプレゼンテーションを行う。
- ⑪ 患者や家族への病状説明や治療方針の話し合いなどに積極的に参加する。
- ⑫ 上級医・指導医の問診、身体診察、インフォームド・コンセントを見学する。
- ⑬ 関節穿刺・注射などの基本手技や超音波検査を見学する。
- ⑭ 大学病院で行われる実習最終週の金曜日 15 時の総括または金曜日が休日の場合は木曜日 17 時のカンファレンス (いずれも 12 階南医師実習室) に出席する。

学外病院実習受け入れ人数 (予定)

期間	土日休日を 除く日数	リウマチ・膠原病内科				学外病院 (選択制)		
		グループ	大同	西部	海南	グループ	大同	海南
2020/11/23 ~ 12/4	9	C2	1			I		
12/7 ~ 12/18	10	C1		1		I		
2021/1/4 ~ 1/15	9	B2	(1)			H	1	
1/18 ~ 1/29	10	B1			1	H	1	
2/1 ~ 2/12	9	A2	1			G		
2/15 ~ 2/26	9	A1		1		G		
3/1 ~ 3/12	10	I2	(1)			F	1	
3/29 ~ 4/9	10	I1			1	F	1	
4/12 ~ 4/23	10	H2	1			E		
4/26 ~ 5/7	6	H1			1	E		
5/10 ~ 5/21	10	G2	(1)	1		D	1	
5/24 ~ 6/4	10	G1			1	D	1	
6/7 ~ 6/18	10	F2	1			C		1
6/21 ~ 7/2	10	F1			1	C		
7/5 ~ 7/16	10	E2	(1)	1		B	1	
7/19 ~ 7/30	9	E1			1	B	1	

8/30 ~ 9/10	10	D2	1			A		1
9/13 ~ 9/24	8	D1			1	A		

リウマチ・膠原病内科実習における大同病院の（１）は、同じ期間の学外病院（選択制）において当科の学外病院実習を選択する学生がいなかった場合に、リウマチ・膠原病内科実習を行う学生の１名が大同病院で実習を行うことを意味する。

2. 学外実習の評価項目

1. オリエンテーション時に今回の臨床実習における学生自身の自己目標を「学生による目標設定と自己評価」フォームに記載し、実習施設の指導医の確認をうける。
2. 指導医により、知識、技能、実習態度について総合評価を受ける。
3. 実習実施施設の最終日に、実習の達成度に関する自己評価を「学生による目標設定と自己評価」フォームを用いて行い、実習施設の指導医の確認をうける。
4. 学生は２週目の木曜日までに、「学生による臨床実習指導に対する評価」を記載する。
5. 実習施設の指導医は、
 - (ア) 実習最終日までに「指導医による学生の評価」フォームに必要事項を記載し学生に渡す。
 - (イ) 学外実習成績報告書（名古屋市立大学医学部 選択的臨床実習の手引きを参照）を記載し、厳封の上、学生を通じて、または郵送で名古屋市立大学 医学・病院管理部教育研究課 医療人育成係に返送する。
6. 大学病院で行われる実習最終週の金曜日 15 時の総括または金曜日が休日の場合は木曜日 17 時のカンファレンス（いずれも 12 階南医師実習室）に下記を提出する。
 - (ア) 受け持ち入院患者 1 例の病歴要約レポート
 - (イ) 外来症例 1 例のレポート
 - (ウ) 「学生による目標設定と自己評価」
 - (エ) 指導医に評価をうけ記載された「指導医による学生の評価」
 - (オ) 「学生による臨床実習指導に対する評価」
7. やむを得ない理由により BSL を欠席する場合は、各施設の学外実習担当委員へ欠席の理由とともに連絡する。無断欠席の場合は、当該 BSL 学外実習における以降の実習は中止とし、BSL は不合格とする。
8. 新型コロナウイルス感染症やその疑い等の理由により、6 の資料提出が予定通り行えない場合は、実習の最終週の金曜日から 2 週後の金曜日までに（ア）～（エ）を呼吸器・免疫アレルギー内科学教室に提出する。正当な理由がなく定められた期日以内に提出がない場合は、BSL は不合格とする。

学外病院実習受け入れ人数(予定)

期間	土日休日を除く日数	リウマチ・膠原病内科				学外病院(選択制)		
		グループ	大同	西部	海南	グループ	大同	海南
11/23 ~ 12/4	9	G2	1			I		
12/7 ~ 12/18	10	C1		1		I		
2021/1/4 ~ 1/15	9	B2	(1)			H	1	
1/18 ~ 1/29	10	B1			1	H	1	
2/1 ~ 2/12	9	A2	1			G		
2/15 ~ 2/26	9	A1		1		G		
3/1 ~ 3/12	10	I2	(1)			F	1	
3/29 ~ 4/9	10	I1			1	F	1	
4/12 ~ 4/23	10	H2	1			E		
4/26 ~ 5/7	6	H1			1	E		
5/10 ~ 5/21	10	G2	(1)	1		D	1	
5/24 ~ 6/4	10	G1			1	D	1	
6/7 ~ 6/18	10	F2	1			C		1
6/21 ~ 7/2	10	F1			1	C		
7/5 ~ 7/16	10	E2	(1)	1		B	1	
7/19 ~ 7/30	9	E1			1	B	1	
8/30 ~ 9/10	10	D2	1			A		1
9/13 ~ 9/24	8	D1			1	A		

Hグループの学外病院(選択制)で、学生が大同病院での実習を選択しなかった場合、それぞれB2グループのリウマチ・膠原病内科実習のうち1名は大同病院での学外実習を行うこととする。

血液・腫瘍内科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

一滴の血液は全身のあらゆる病態を反映し血液疾患のみならず内科診療においては欠かせない情報を提供する。血液内科診療には、貧血・出血・血栓傾向から白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった造血器腫瘍、全身感染症、自己免疫疾患にいたる幅広い鑑別診断能力が必要である。加えて化学療法や造血幹細胞移植に伴う汎血球減少あるいは免疫不全時の日和見感染症の診断と治療、移植片対宿主病に対する免疫抑制剤の使用、サイトカインや抗体療法そして分子標的療法に至る幅広い臨床的知識と、全身管理能力を含む多くの臨床経験を必要とする分野である。全てを臨床実習の2週間で学ぶ事は不可能であるが、1週間半の間、学外での第一線の病院で医療スタッフに付き添ってクリニカル・クラークシップ方式で専門科診療から内科のプライマリケア（開業医院）にいたる日常診療、および悪性腫瘍であることを宣告された患者様に対して医師として如何に責任を持って接するべきかを学ぶ。また、腫瘍内科の学外実習として、愛知県がんセンター中央病院の薬物療法部にて最先端のがん薬物療法の実際を学ぶ。

基本的実習内容のガイドライン

1) 選択制臨床実習の受け入れ人数

1 施設あたり最大1名とし、合計5名（5施設）を超えないこと。

2) 血液・腫瘍内科の臨床実習内容

クリニカル・クラークシップを中心として直接患者さんに接し、現場の医療スタッフの一員として参加する。時折、必須項目についてはミニレクチャーをまじえながら基本知識を身につける。

なお、1施設あたり、原則として2週間の臨床実習期間とする。

臨床実習について

1. 学外実習スケジュール

第1週

	月	火	水	木	金
午前	実習全般 オリエンテーション（楠本）* （学内・学外共通）	関連病院	関連病院	関連病院	関連病院
午後	関連病院				

第2週

	月	火	水	木	金
午前	関連病院	関連病院	関連病院	レポートまとめ	血液・腫瘍内科 総括（飯田）
午後					

*月曜日のオリエンテーションは、午前8時30分より名古屋市立大学大学院医学研究科血液・腫瘍内科学教室（研究棟2階）にて行うこととする。なお、月曜日が祝日などお休みの場合には、翌日火曜日午前8時30分より同教室にて行う。

オリエンテーション担当：楠本茂（E-mail: skusumot@med.nagoya-cu.ac.jp）

学外実習病院の基本情報・実習内容

I. 名古屋市立西部医療センター

診療科名：血液・腫瘍内科

病院長：桑原 義之

学外実習担当委員：稲垣 淳（血液・腫瘍内科部長）

受け入れ学生人数：1タームにつき1名

病院の特徴：平成23年5月に開院の名古屋市立西部医療センターは、名古屋市立大学病院や名古屋市立東部医療センターと連携しながら市民の健康を守ってゆく使命があり、特に悪性腫瘍の診療と周産期医療に力を入れて取り組んでいます。

血液・腫瘍内科では地域医療の中核病院として近隣の医療機関から御紹介頂いた血液疾患の患者さんの診断と治療を幅広く行っています。悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、急性白血病などの造血器腫瘍に対する化学療法を積極的に行うとともに、単に病気を治すだけではなく患者さんの健康問題全般の解決に多職種で連携して取り組んでいます。また多発性骨髄腫や悪性リンパ腫の再発例に対しては自己末梢血幹細胞移植を併用した大量化学療法も行っています。

実習方法の方針：

- ・造血器腫瘍に対する化学療法を通じて、がん薬物治療の基本的な考え方を習得することを目指します。当院では複数の併存疾患を抱えた患者さんが多く、そのような制約を抱えた患者さん達に対しエビデンスと患者さんの体力・希望を考慮しつつ最善の治療法を選択・実施してゆく過程を体験していただきます。
- ・化学療法に伴い必要となる感染症の治療や輸血療法などの支持療法についても実際の臨床の現場を体験していただきます。
- ・機会があれば、末梢血幹細胞採取や造血幹細胞移植の実際を見学していただきます。
- ・病棟での多職種合同カンファレンスに参加して、職種間の考え方の違いを理解・尊重しつつどのようにチームとして患者さんに向き合っているか学んでいただきます。

II. 名古屋記念病院

診療科名：血液・化学療法内科

病院長：長谷川 真司

学外実習担当委員：粥川 哲（血液・化学療法内科部長、副院長）

受け入れ可能な学生人数：1タームにつき1名

病院の特徴：名古屋記念病院は、地域に必要な急性期医療と第二次救急医療を行う基幹病院としての役割を果たすとともに、がんと免疫疾患についての専門的医療を提供する病院です。また、厚生労働省が指定する臨床研修病院です。

血液・化学療法科では、造血器腫瘍を主とした血液疾患と種々の悪性腫瘍の診療を担当しています。十分なインフォームド・コンセントのもとに、各科の専門家が協力しあって、ひとりの患者様に対してより高度な治療を提供する集学的治療に取り組んでいます。当科には、がん専門施設で研修した悪性腫瘍の薬物療法の専門医が在籍しています。

実習方法の方針：指導医、研修医とともに、クリニカル・クラークシップ方式で、悪性腫瘍の患者様へのインフォームド・コンセント、治療方針の決定、治療の実際を学びます。医療チームの一員として積極的に医療に参加します。また、指導医とともに各種疾患の骨髄像の鏡検を行い、身につけていただきます。実習担当委員が初期臨床研修の責任者をしておりますので、当科で実習しながら救急外来や病棟における研修医の実際の研修に同席・参加することができます。

III. 豊川市民病院 内科

診療科名：血液内科

病院長：松本 隆

学外実習担当委員：血液内科：金森 貴之（医長、部長代行）

受け入れ可能な学生人数：1タームにつき1名

病院の特徴：豊川市民病院は愛知県の東南の端（東三河）、豊川稲荷で知られる豊川市にある病床数453、標榜科23の病院です。主な診療圏は豊川市と宝飯郡の4町で、その人口は約18

万人です。本院は豊川海軍工廠共済病院を母体とし、昭和 21 年 4 月に開設され、約 60 年の歴史がありますが、昭和 57 年病院整備事業増築工事が完成したのを機に医療設備の整備と医療スタッフの充実を図り、以来地域の中核病院としての役割を果たしております。一般医療のほか高度・特殊・先駆的医療ならびに救急医療にも積極的に取り組んでおり、また地域の保健・医療・福祉機関との連携も密にしております。医師をはじめ、医療従事者の臨床教育の場としての役割もおおいに担っております。平成元年臨床研修病院の指定を受けましたが、平成 16 年度から始まった新臨床研修制度では単独型臨床研修病院として研修医の募集を行いました。

豊川市民病院の基本理念は「信頼される医療の提供を通じて、地域住民の健康づくりに貢献する」であります。患者さま中心の、分かり易いインフォームド・コンセントをもとに高度で安全な医療の提供に努め、地域住民の方々に愛される病院づくりに努力いたしております。

実習方法の方針：

血液内科として、令和元年度より常勤医 3 名が担当しており、最新のエビデンスに基づいた、血液疾患の診断、治療を行っている。地域の中核病院として、多くの血液疾患を診療するとともに、造血幹細胞移植療法や新規薬剤治療開発においては、名古屋市立大学病院とタイアップして、最適な医療を提供できるようにチーム医療の構築をおこなっている。

IV. 愛知厚生連海南病院

診療科名：血液内科

病院長：奥村 明彦

学外実習担当委員：矢野 寛樹（血液内科代表部長）

受け入れ可能な学生人数：1 タームにつき 1 名

病院の特徴：海南病院は、海部～桑名周辺にかけて約 30 万の人口をカバーする地域の中核病院で、平成 30 年に創立 80 周年を迎えています。公益法人としての安定性と民間としてのフットワークの軽さを併せ持ち、限られた医療資源の中で、病診・病病連携、在宅支援を最大限に発揮しながら安全で温かい医療を目指しています。また、厚生労働省指定の臨床研修病院であり、特に内科は総合診療部とのタイアップを行い、内科の総合力をつけるべく工夫をしています。

実習方法の方針：指導医、研修医とともに、クリニカル・クラークシップ方式で、患者さんへのインフォームド・コンセント、治療方針の決定、治療の実際を学びます。入院患者さんを 1～2 人担当して、毎日カンファレンスでプレゼンテーションを行うことにより、疾患のみならず患者さん自身を体系的に理解することを目指します。

その他、呼吸器内科でも、研修医とともに、臨床研修の実際を体験することができます。

V. 愛知県がんセンター中央病院

診療科名：薬物療法部

病院長：丹羽 康正

学外実習担当委員：室 圭（薬物療法部部長・副院長）

受け入れ可能な学生人数：1 タームにつき 1 名

病院の特徴：愛知県がんセンターは昭和 39 年 12 月に設立された、病院と研究所を併せ持つ県立としては日本初のがん専門施設です。平成 26 年で 50 周年を迎えました。長年、国立がん研究センター、(財) 癌研究会癌研究所と並び、日本における主要がんセンターとして、がんの診断治療、予防並びに研究に取り組んできました。愛知県における都道府県がん診療連携拠点病院に指定されています。薬物療法部は、抗がん剤治療を専門とする診療部門であり、胃がん・大腸がん・食道がんといった消化管がんの化学療法・化学放射線治療を中心に、その他原発不明がん・胚細胞腫瘍がん・腎がん・乳がん・頭頸部がん・軟部肉腫などの固形がんに対する全身化学療法を行っています。標準治療とともに治験や臨床試験、先進医療等も活発に実施しています。

実習方法の方針：指導医、研修医とともに、クリニカル・クラークシップ方式で、悪性腫瘍の患者さんへのインフォームド・コンセント、治療方針の決定、治療の実際を学びます。医療チームの一員として積極的に医療に参加してもらいます。入院患者さんを数人担当して、

カンファレンスでプレゼンテーションを行い、議論に積極的に参加してもらいます。

選択制臨床実習の評価項目

2週目金曜日の総括時にレポートを提出する。

指導医により、知識、技能、実習態度についての総合評価を受ける。

困ったときなどの連絡先：

楠本茂

名古屋市立大学大学院医学研究科血液・腫瘍内科学

[TEL:052-853-8738](tel:052-853-8738)

FAX:052-853-8740

E-mail:skusumot@med.nagoya-cu.ac.jp

循環器内科選択制臨床実習マニュアル

1. 臨床実習での心構え

循環器疾患診療の下記の特徴をよく理解し、外来・ベッドサイドにおける患者マネジメントに役立つ基本的な能力の養成を目標として臨床実習に望むことが期待される。

- 1) 循環器疾患の症状、症候は、循環動態の理解により論理的にアプローチできる部分が多い。従って、患者病態を極力循環生理学の面から理解し、治療を考える際も論理的なアプローチを試みる。
- 2) 循環器疾患を、治療に一刻を争う救急疾患と長期的に治療を継続し患者 QOL の維持に主眼が置かれる慢性疾患に分けて考える必要がある。前者は主に救急外来、循環器内科病棟や急性心臓疾患治療室 (CCU)、心臓カテーテル検査室において治療がなされ、後者は一般的に外来において治療される。両者を偏り無く学ばなければならない。
- 3) 成人における循環器疾患は生活習慣病から発症するものも多い。臨床の場で生活習慣病の概念を十分理解し、患者指導や薬物療法から生活習慣病の予防について習熟する。
- 4) 現在循環器疾患患者は、JCS (日本循環器学会)、またはAHA/ACC (米国心臓協会/米国心臓病学会) およびESC (欧州心臓病学会) のガイドラインに沿って治療されている。臨床の場で Evidence Based Medicine (EBM)を体験して欲しい。

2. 基本的な実習内容

循環器領域の選択性臨床実習は、学外あるいは学内のいずれも選択可能であり、いずれにおいてもクリニカルクラッシュを実践する。

学外を選択した場合、オリエンテーション・総括を除く約 1 週間半の期間を循環器臨床病院で実習する。特に、急性心不全や虚血性心疾患を中心とした循環器救急医療を集中的に学ぶことが可能であり、数多くの心臓カテーテル検査やカテーテル治療 (PCI: Percutaneous Coronary Intervention) を経験することになる。

一方、学内では上述の循環器救急医療のほか、肺動脈性肺高血圧症や成人先天性心疾患、難治性不整脈へのカテーテルアブレーションおよびデバイス治療、治療抵抗性の生活習慣病などを幅広く学ぶことができる。

臨床実習中、病態生理の理解から患者 QOL への配慮、生活習慣病の予防、EBM に至るまでの教育理念が反映されるよう実習病院と大学間で綿密な連携を図るので、意欲高く実習に望んで欲しい。

3. 臨床実習病院

学内での受け入れ人数は 1 ターム 1 名までとする (2 週間毎にそれぞれ 1 名は可)。

いずれの病院も受け入れ期間は原則的に 2 週間単位とするが、要望により期間の調整を考慮する。学外実習病院の基本情報は以下の通りである。

学外実習病院の基本情報

1. 病院名、診療科名
2. 病院長名、学外実習担当委員
3. 受け入れ可能人数
4. 宿泊施設

1. 名古屋市立東部医療センター 循環器内科
2. 村上信五、村上善正（副院長 心臓血管センター担当）
3. 1タームに1名がよい
4. なし

1. 名古屋市立西部医療センター 循環器内科
2. 桑原義之、矢島和裕（心臓カテーテル治療科部長）
3. 1タームに1名がよい
4. なし

1. 蒲郡市民病院、循環器科
2. 中村誠、早川 潔（副院長、内科部長、集中治療部長）
3. 出来れば1ターム1名、最大でも2名まで
4. あり

1. 豊川市民病院、循環器内科
2. 松本隆、鈴木 健（循環器内科主任部長）
3. 1タームに2名できれば1名、年間を通じて約6名
4. あり

1. 総合大雄会病院、循環器内科
2. 今井秀、海川和幸（循環器内科統括部長）
3. 1タームに2名、年間を通じての制限はなし
4. なし

1. NTT 西日本東海病院、内科
2. 佐藤泰正（院長）、武田裕（副院長 循環器内科担当）
3. 1タームに1名が望ましい
4. なし

1. JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院、内科
2. 伊藤浩一、後藤章友（副院長 循環器内科担当）
3. 1タームに1名が望ましい
4. あり

1. 旭労災病院 循環器科
2. 宇佐美郁治、秋田展克（循環器科部長）
3. 1タームに1-2名
4. 一部可

1. 知多厚生病院 循環器内科
2. 水野志朗、富本茂裕（循環器内科部長）
3. 1タームに1名まで
4. 可

1. JA 静岡厚生連 遠州病院、循環器内科
2. 大石強、高瀬浩之（副院長 循環器内科担当）
3. 1タームに1名のみ、年間を通じて3-4名
4. 近隣のシティホテルやウィークリーマンションなどを費用病院持ちで斡旋する

4. スケジュール

① 学外実習スケジュール

第1週

	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション (学内)	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ
午後	移動・予備				

第2週

	月	火	水	木	金
午前	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ	総括 (学内)
午後					

② 学内実習スケジュール

第1週

	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ
午後					

第2週

	月	火	水	木	金
午前	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ	臨床 クラークシップ	総括 (学内)
午後					

腎臓内科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的 腎疾患全般（慢性腎臓病、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）について実習を受ける。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 選択制臨床実習の受け入れ人数
同一時期に4人を超えないこと
- 2) 基本的医師としての心構え
医師としての心構えを理解し、節度ある身なり態度がとれる。
家族・患者への適切な接遇の重要性を理解する。
医療スタッフと協調・協力が円滑にできる。

学外臨床実習について

実習先病院の実情に合わせて実習を受けていただきます

学外臨床実習内容

実習先病院の実情に合わせて実習を受けていただきます

学外実習病院の基本情報

- 1) **豊川市民病院，腎臓内科**
- 2) 院長：松本 隆 先生、学外実習指導責任者：伊藤 彰典 腎臓内科部長
- 3) 受け入れ学生人数：1チーム1名まで
- 4) 病院の特徴：病床数527床。高度先進医療や不採算医療を含めた地域医療、さらに各学会の専門医や厚生労働省の臨床研修医の修練施設として医師の育成にも努めている公的中核病院。
腎臓内科は検尿異常・腎機能低下の診断・腎生検(30件/年)・シャント手術(30件/年)・維持透析医療(導入30件/年、維持透析8例、腹膜透析0例)とほぼ腎疾患診療を幅広く扱っています。
- 5) 実習方法・方針：透析室見学・シャント手術見学が主体です。
- 6) 集合時間・場所
初日月曜日は午前8時30分に豊川市民病院臨床研修センターを訪れて下さい。その後 午前8時45分に豊川市民病院血液浄化センターに学外実習指導責任者：伊藤先生を訪ねて下さい。

- 1) **旭ろうさい病院，腎臓内科**
- 2) 院長：宇佐美 郁治 先生、学外実習指導責任者：市川 匡 腎臓内科部長
- 3) 受け入れ学生人数：1チーム1名まで
- 4) 病院の特徴：病床数250床。瀬戸地区圏業に関わるじん肺治療のために設立された歴史があるものの現在はベッドタウンとして人口が増加中である尾張旭市・守山区の公共医療機関。尾張東部医療圏の二次救急病院、愛知県地域保健医療計画の「がん診療・循環器診療・糖尿病専門医療を特に

行う施設」指定病院，日本医療機能評価機構の認定病院。2013年に「卒後臨床研修認定機構」を受審し4年間の認可取得済み。2017年初旬に新病院をオープンする活気にも満ちています。

- 5) 実習方法・方針：急性期医療や 糖尿病性腎症など 他科からの依頼を受けて腎臓内科がどのように関わるかを学ぶことができます。将来腎臓内科以外の診療科へ進む学生さんにも勉強になります。

腎生検 0 件/年，シャント手術件 8/年，血液透析導入 13 件/年，維持透析 15 例，腹膜透析 0 例

- 6) 集合時間、場所

初日月曜日 の 午前9時 旭労災病院学外実習指導責任者の市川先生を訪ねてください。

1) 名古屋第二赤十字病院，腎臓内科

- 2) 院長：佐藤 公治 先生、学外実習指導責任者：武田 朝美 腎臓内科部長

- 3) 受け入れ学生人数：1チーム1名まで

- 4) 病院の特徴：病床数 812 床。「救急医療・高度医療・医療連携・災害救護と国際救援・研修医/看護師教育」といった歴史と伝統を持つ同院において腎臓病総合医療センター外科（移植外科）は我が国で 1,2 位を争う 腎移植件数 を誇ります。

武田先生は腎臓病診療全般においては勿論，腎病理 においても高い評価を受けており名古屋市立大学心臓・腎高血圧内科学分野の臨床教授でいらっしゃいますので貴重な経験を期待できます。腎生検 700 件/年(移植外科・小児科を含む)，シャント手術 120 件/年 (移植外科を含む)，血液透析導入 140 件/年，PD 導入 3 件/年，維持透析 108 例，腹膜透析 20 例の診療実績です。

- 5) 実習方法・方針

週間予定 月曜日部長総回診，火曜日病理カンファレンス，水曜日 腎生検，木曜日抄読会・症例カンファレンス
金曜日午前中シャント手術

- 6) 集合時間・場所

初日月曜日の 午前9時 名古屋第二赤十字病院 3病棟8階 の腎臓内科病棟看護ステーションを訪ねて武田朝美先生と連絡をとってください。

1) 増子記念病院，腎臓内科

- 2) 院長(兼 理事長)：両角 國男 先生、学外実習指導責任者：福田 道雄 増子クリニック 副院長

- 3) 受け入れ学生人数：制限なし

- 4) 病院の特徴：病床数 102 床。「患者とその家族・職員とその家族の幸せを目指す」と「世界基準の医療と研究（特に肝・腎疾患）を発信する」を両立してきた歴史を有します。両角國男先生は名古屋市立大学腎臓内科グループの創設者で心臓・腎高血圧内科学分野臨床教授でおられた先生で、実習すると名古屋市立大学腎臓内科グループの医師が目指すところ/想いを語って頂けるはずです。医師とコメディカルが堅い絆をもって患者さんへ愛情を注ぐ雰囲気を感じられる病院です。over-night 透析 という特殊医療も行っています。福田道雄先生・白澤祐一先生・美浦利幸先生と院内を駆け回ってください。

- 5) 実習方法・方針

腎臓専門外来・腎移植外来・両角先生の理事長総回診・腎病理カンファレンス

稀少疾患も含めた症例カンファレンス・シャント手術/PTA 見学まで多彩です。

6) 集合時間・場所

初日月曜日の 午前9時 病院 6階 の医局へ美浦利幸先生を訪ねてください(白澤先生週休日のため)。

1) 刈谷豊田総合病院，腎・膠原病内科

2) 病院長：田中 守嗣 先生、学外実習指導責任者：小山 勝志 腎臓内科部長

3) 受け入れ学生人数：内分泌・糖尿病内科とあわせて2名まで

4) 病院の特徴：病床数 672 床。刈谷市周辺地域の中核病院で救急救命センターや県がん診療拠点病院。

腎・膠原病内科は腎疾患のみならず 膠原病症例も担当。

5) 実習方法・方針

週間予定： 月曜日 シャント手術，火曜日 腎生検・腎生検カンファ，水曜日透析カンファレンス・症例検討会

木曜日 抄読会・シャント手術

腎生検 40 件/年，シャント手術 100 件/年，血液透析導入 70 件/年，PD 導入 17 件/年 {2016 年度}

「東分院」で維持透析 150 例，腹膜透析 45 例の診療を行っています。

木曜日もしくは金曜日に小山先生の引率で東分院の見学もさせていただきます。

6) 集合時間・場所

初日月曜日の 午前7時50分 迄に刈谷豊田総合病院 本院 6 棟 4 階人事企画室 を訪ねてください。

事務手続き後に小山先生から総合病院血液浄化室でオリエンテーションがあります。

脳神経内科選択制臨床実習マニュアル

2021年度版（2020年11月～2021年9月）

臨床実習の目的

- 1) 患者および家族と良好なコミュニケーションを得るための態度、説明方法などを身につける。
- 2) 脳神経内科疾患患者の診察法を身につける。
- 3) 頻度の多い脳神経内科疾患（脳血管障害、パーキンソン病などの変性疾患、筋疾患、末梢神経障害など）の病態を理解し、診断と治療過程の実際を学ぶ。
- 4) 全身性疾患としての意識障害患者、脳血管障害患者の救急対応の実際を学ぶ。
- 5) 卒後研修に円滑に移行しうる心構えや知識、技能、態度などを養う。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 受け入れ人数：原則として 同一時期に一施設1名（学内は2名まで可）。
同一施設で4週間、あるいは大学を含む複数の施設を1～2週間ずつでも可
- 2) 基本的医師としての心構え
 - ・医師としての心構えを理解し、節度ある身なり態度がとれる。
 - ・患者・家族との適切な接遇の重要性を理解する。
 - ・医療スタッフと協調・協力が円滑にできる。
- 3) 外来実習

外来患者の診察を見学し、接遇方法、神経診察法、確定診断に必要な検査の選択など診療の流れを理解する。

患者の了解のうえに新患患者の予診を実施する。指導医の監督下で病歴聴取と一般理学的診察および神経学的診察を行い、聴取記事や診察所見、鑑別すべき疾患をカルテに記載する。次いで、本診察では担当医による診察を見学・補助しながら、鑑別診断と確定診断に必要な検査、治療法を考える。
- 4) 病棟実習

指導医や研修医と行動をともにし、1週間に1人の担当患者を受け持つ。担当患者の主治医と共に患者を診察し、各種検査を見学、診断・治療についての討論や患者および家族へのインフォームドコンセントに参加する。医師としての基本的姿勢・態度、カルテの記載法を中心に実習すると共に、頻度の多い神経内科疾患の入院から退院までの一連の流れについて学習する。
- 5) 検査
 - ・(状況によって) 担当指導医の下で患者の了解を得て行う検査：眼底鏡検査、各種静脈採血検査、動脈血ガス分析検査、検尿検査、心電図検査、誘発筋電図検査、頸動脈エコー検査、高次脳機能検査（簡易知能評価スケール、失語・失行・失認検査）など。
 - ・担当指導医の介助または見学にとどめる検査：腰椎穿刺、脳血管撮影、神経・筋生検、針筋電図検査、心理テスト・知能テスト、薬物を使用した自律神経検査、内分泌学的誘発試験など。
- 6) 治療行為
 - ・(状況によって) 指導医の指導・監督の下で実施が許容される治療行為：手術助手、止血、縫合、生検後創傷処置、皮内・皮下・筋肉注射、静脈注射、運動療法・作業療法の介助、バイタルサインチェック、胃管の挿入、気道内吸引、酸素投与。
 - ・原則として指導医の介助または見学に止める治療行為：中心静脈確保、抗てんかん剤の静脈内投与、降圧剤の微量静脈内投与、動脈注射、局所麻酔、全身麻酔薬投与、輸血。
- 7) 専門医によるクルズス（ミニレクチャー）を随時行う。
- 8) 当直・時間外・症例検討会・研究会
時間が許す限り積極的に参加する

学外臨床実習について

選択臨床実習で脳神経内科を選択した学生には、希望により学外実習を積極的に取り入れる。地域の中核病院における脳神経内科医療の現状を経験し、どのような卒後研修を行いたいかという具体的な目標や心構えができることを期待する。学外実習における実習期間、実習時間、交通手段、実習中の事故、学生の健康診断書、既往歴、HB ワクチン接種状況、その他の注意事項は名古屋市立大学医学部から示される学外実習実施要綱に従う。

学外臨床実習スケジュール

第1週

	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション [学内]	各病院	各病院	各病院	各病院
午後	部長回診 [学内] 各病院へ移動	各病院	各病院	各病院	各病院

第2～4週

	月	火	水	木	金(最終日)
午前	各病院	各病院	各病院	各病院	レポート作成 [学内]
午後	各病院	各病院	各病院	各病院	レポート提出 総括 [学内]

学内臨床実習スケジュール

第1週

	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション	病棟	病棟	外来	外来
午後	部長回診 症例検討会	病棟	病棟 症例カンファ	病棟 針筋電図	病棟

第2～4週

	月	火	水	木	金(最終日)
午前	病棟	病棟	病棟	病棟	レポート作成
午後	部長回診 症例検討会	病棟	頸動脈エコー 症例カンファ	病棟 針筋電図	レポート提出 総括

数回のクルズス（ミニレクチャー）を各専門医より適宜行う。

学外実習内容

実習内容は学内と基本的に同一であるが、脳血管障害患者や意識障害患者の多い第一線の地域中核病院における神経内科医療の現状を経験できる。

学外実習病院の基本情報

1) 公立陶生病院

- 2) 院長：味岡正純，学外実習指導責任者：脳神経内科部長 湯浅浩之
- 3) 1名
- 4) 瀬戸市の中核病院。脳血管障害を中心に急性期神経疾患の診断と治療を学ぶことができる。
- 5) 指導医とともに病棟，外来，検査を見学，可能な行為については実践または協力してもらう。
集合場所（火曜朝）：8：30 東棟4階研修管理室 0561-82-5101（病院代表）

1) JA 岐阜厚生連東濃中部医療センター 土岐市立総合病院

- 2) 院長：塚本英人，学外実習指導責任者：第二脳神経内科部長 土川聡
- 3) 1名
- 4) 東濃地区の中核病院。脳血管障害などの急性期神経疾患のみならず神経変性疾患も多い。
- 5) 指導医とともに病棟，外来，検査を見学，可能な行為については実践または協力してもらう。
集合場所（火曜朝）：8：50 脳神経内科外来受付 0572-55-2111（病院代表）

1) 名古屋市立東部医療センター

- 2) 院長：村上信五，学外実習指導責任者：脳神経内科部長 山田健太郎
- 3) 1名
- 4) 名古屋市立病院の中核。498床のうち、脳神経内科病棟は50床。
脳血管障害急性期治療を主体に、脳炎・意識障害など神経急性期病院を目指す。
- 5) 指導医とともに、神経急性疾患の初期対応から血管内治療などの高度専門的治療法の実践を経験してもらう。
集合場所（火曜朝）：8：45 内科外来受付 721-7171（病院代表）

1) 名古屋市立西部医療センター

- 2) 院長：桑原義之，学外実習指導責任者：脳神経内科部長 豊田剛成
- 3) 1名
- 4) 悪性腫瘍と小児・周産期の診療を主としているほか、地域の中核病院として近隣からの紹介患者が多く、脳神経疾患は脳血管障害や変性疾患など多彩である。
- 5) 指導医とともに外来診察，病棟診察，検査などについて，可能な限り実践してもらい，脳神経内科の診療や考え方を体験してもらう。
集合場所（火曜朝）：8：30 2階実習室（シミュレータールーム） 991-8121（病院代表）

1) 豊川市民病院

- 2) 院長：松本隆，学外実習指導責任者：脳神経内科部長 高田幸児
- 3) 1名
- 4) 東三河の中核病院で一般救急が多い。脳神経内科は脳血管障害を中心に急性期疾患を学ぶ。神経疾患全般を網羅するとともに、認知症疾患の診断・治療にも力を入れている。
- 5) 指導医とともに病棟，外来，検査を見学，可能な行為については実践または協力してもらう。
集合場所（火曜朝）：9：00 内科外来 0533-86-1111（病院代表）

1) 名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院

- 2) 院長：日比野敬明，学外実習指導責任者：脳神経内科部長 稲垣亜紀
- 3) 1名
- 4) 脳血管障害，認知症疾患，神経変性疾患，高次脳機能障害のリハビリと研究を行なっている。
- 5) 指導医とともに入院，外来患者を診察し，神経疾患のリハビリテーションを中心に研修する。

集合場所（火曜朝）：9：00 4階事務室 835-3811（病院代表）

1) **名古屋市厚生院**

2) 病院長：水野友之、学外実習指導責任者：脳神経内科部長 岩瀬環

3) 1名

4) 老年疾患，特に脳血管障害や認知症疾患を中心とした臨床研修が可能．神経病理の講義も可．

5) 指導医とともに入院患者を中心に患者の診察と管理について学ぶ．

集合場所（火曜朝）：後日連絡

1) **大同病院**

2) 院長：野々垣浩二、学外実習指導責任者：脳神経内科部長 匂坂尚史

3) 1名

4) 名古屋市南部の中核病院，症例は多く、脳血管障害や変性疾患などを中心に幅広く脳神経内科疾患を学ぶことができる．

5) 指導医とともに病棟、外来、検査を見学、可能な行為については実践または協力してもらう

集合場所（火曜朝）：後日連絡

外科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

診断、治療計画立案、患者および家族への説明、手術、周術期患者管理に参画し、臨床医としての修練を積み、臨床医としての能力を高める。

基本的臨床実習のガイドライン

消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科、心臓血管外科の5診療科より選択してもらい、診療科ごとに実習を受け入れる。可能であれば4週間の選択を望むが、2週間のみでも可。4週間の場合、選択する診療科は、同一でも異なる診療科2つでもかまわない。乳腺外科は2週間。

実習内容は、診断、治療計画立案、患者および家族への説明、手術、周術期患者管理、救急患者への対応、に参画する。いわゆるクリニカルクラークシップである。基本的には学内で実習を行うが、希望すれば実習期間内に学外での臨床実習を組み込むことも可能である。

1) 選択制臨床実習の受け入れ人数

- ・ 消化器・一般外科 同時に3名まで
- ・ 呼吸器外科 同時に2名まで
- ・ 乳腺外科 同時に1名まで
- ・ 小児外科 同時に1名まで
- ・ 心臓血管外科 同時に2名まで

2) 基本的医師としての心構え

- ・ 医師としての心構えを理解し、節度ある身なり態度がとれる。
- ・ 指導医に対し真摯な態度を守ること。
- ・ 患者・家族との適切な接遇の重要性を理解する。
- ・ 医療スタッフと協調・協力が円滑にできる。
- ・ 患者および患者家族に学生医師であることを明示すると共に、信頼されるよう誠意を持って接すること。

学外臨床実習について

学生の希望により学外実習を取り入れていく方針である。実習期間、実習時間、交通手段、実習中の事故、学生の健康診断書、既往歴、HBワクチン接種状況、その他の注意事項は名古屋市立大学医学部から示される学外実習実施要項に従う。

診断、治療計画立案、患者および家族への説明、手術、周術期患者管理に参画し、臨床医としての修練を積む点においては学内実習と同様である。学外実習では、大学病院で経験することが少ない一般外科疾患(虫垂炎、ヘルニア、外傷等)や、救急疾患を入院、病歴聴取に始まり、手術、退院まで継続して診ることにより、医療の最前線での医師と患者および患者家族とのコミュニケーションのとりかた重要性を学ぶ。

学外臨床実習内容

1) 外来実習

- ・指導医の監視のもと、問診、理学的診断、処置等を行う。

2) 病棟実習

- ・指導医と共に診断、病状の把握、患者の状態の評価、手術適応の検討、手術術式の決定、術後状態の予測、患者および患者家族への説明を行う。
- ・指導医と共に周術期の患者管理を行う。

3) 検査・手術

- ・指導医と共に検査を行い、検査で得られる情報や検査の必要性と共に、検査による侵襲を理解する。
- ・指導医と共に手洗いして手術に参加し、局所解剖、手術術式を理解する。

消化器・一般外科の指導内容

1) 実習の目的

- ・手術を受ける患者・家族の不安、苦悩など心理を理解する。
- ・手術症例の診断、術前管理、手術、術後管理の過程を体験する。
- ・医療従事者の役割分担、協力関係、病院の成り立ちと機能を理解する。
- ・卒後研修に円滑に移行しうる臨床の態度、知識、技能を身につける。

2) 基本的診察法

- ・外来診察に参加し、予診、シュライバー、カルテ記載を行う。適切かつ良好なコミュニケーションで患者面接を行い、病歴を聴取し記述する。あいさつ、自己紹介、適切な姿勢・態度、適切な会話法、共通の言葉、要約する能力、心理・社会的側面の情報収集などの重要性を理解する。
- ・患者さんが病状をどのように捉え、どのようなことを心配し、どのような診療を希望しているかを把握できる。すなわち、共感的態度、信頼できる態度、患者が十分に話したと思えるインタビュー、内容をまとめ記述する能力を学習する。
- ・多くの診察に参加し各種診察法とその結果所見を理解する。
- ・バイタルサインを測定し記述する。
- ・指導医の監視のもと実際に診察し、全身身体所見を的確に把握し記述する。
- ・学生のカルテ記載については必ず学生は署名し、担当医師がそれを訂正追加し署名する。

3) 一般的検査

学生の参加は担当指導医の下で患者の了解を得た上で行う。以下の検査内容と程度については見学するだけでなく、できるだけ体験する。

- ・検尿、検便、血液型、出血・凝固時間検査を指導医と実施する。
- ・血液一般、生化学、凝固系、血液ガス、心機能、肺機能、腎機能など一般的術前検査の実際と結果の理解。
- ・胸部・腹部検査：読影に参加し結果を理解し記述する。
- ・腹部エコー：検査に参加し結果を理解し記述する。

- ・上部消化管検査：胃・十二指腸造影、胃ファイバーに参加し結果を理解し記述する。
- ・下部消化管検査：注腸造影、大腸ファイバーに参加し結果を理解し記述する。
- ・肛門鏡検査、直腸鏡検査：検査に参加し結果を理解し記述する。
- ・CT、MRI、DIC、ERCP などの各種画像診断の読影に参加し結果を把握し記述する。

4) 病棟管理

学生は副主治医として患者を受け持つ。検査計画や治療計画の作成には主治医との討論や診療科でのカンファランスなどを通じて積極的に参加する。検査への学生の参加は担当医指導の下で患者の了解を得た上で行う。学外の各診療科の実情をふまえて学生が参加可能な検査内容と程度は一般的検査に準ずる。採血は指導者の下で患者の了解を得た上で行う。注射、点滴については採血が上達した段階で可能な施設で担当医指導の下で患者の了解を得た上で行う。

- ・一般的術前検査の結果を把握し記述する。
- ・術前状態の問題点を理解し記述する。
- ・症例を提示する。
- ・輸液の実際：処方の内容を理解し、実施する。
- ・中心静脈栄養法を理解し、実施に参加する。
- ・経腸栄養を理解し、実施に参加する。
- ・抗生剤、鎮痛剤の適応と処方の内容を理解する。
- ・術後合併症を理解し、対処法を把握し記述する。
- ・一般的術後管理にできるだけ参加する。
- ・高度な呼吸、循環、代謝管理を見学し理解する。
- ・ドレーン管理の適応・その実際について学ぶ

5) 手術

見学のみでの参加ではなく、鉤引き程度（手洗い、糸切り、糸結びを含む）の参加を基本とし、可能ならば更に高度の内容（腹腔鏡手術のスコーピストなど）を実習する。

- ・滅菌、消毒の留意点を習熟し実施する。
- ・清潔、不潔の概念を完全に理解し、術野の準備に参加する。
- ・局所麻酔、脊椎麻酔、全身麻酔については方法を理解し、指導医の監督下で介助し記録する。
- ・切開、排膿については指導医の監督下で介助する。
- ・軽度の外傷処置は指導医の監督下で実施する。
- ・簡単な皮膚縫合は指導医の監督下で介助または実施する。
- ・手術にはできるだけ参加し、その内容を理解し、要点を記述する。
- ・切除標本の記録・整理に参加する。
- ・病理所見を理解する。

呼吸器外科の指導内容

1) 臨床実習の目的

呼吸器外科で扱う疾患について、担当の呼吸器外科医とともに実際の臨床の場で、診断から治

療まで、また臨床的な知識から学術的な知識まで幅広く勉強していただくことを目的とする。

2) 臨床実習の実際

患者との接し方、とくに患者の心理状態にまで配慮した接し方を行うように心がける。

担当医師の患者は全例理解できることを目標とする。

呼吸器外科マニュアル（腫瘍・免疫外科学分野教授室にあります）を携帯、参照し、また必要に応じて教科書、手術書を参照する。呼吸器外科一般、特に肺癌、転移性肺癌、縦隔腫瘍、気胸について学習、理解する。

診断：画像診断は他科、特に放射線科医師とのカンファランスを中心に検討される。

特に孤立性肺結節、縦隔腫瘍の画像診断を学ぶ。

積極的に質問、発表すること。

気管支鏡検査、CTガイド下生検、胸腔鏡下生検も可能な限り見学する。

インフォームドコンセント（IC）：術前のICの際に同席しICについて充分理解する。

手術：術前に手術書を参照しておく。標準肺癌手術、縦隔腫瘍手術、胸腔鏡手術について学ぶ。担当医師の手術は全て手洗いをを行う。

また担当医師以外の手術も可能な限り手洗い、見学を行う。

実際に縫合や結紮、糸切りを行う。

補助療法：外科手術以外に化学療法、放射線療法についてその意義、効果と副作用、合併症について理解する。

特に肺癌や縦隔腫瘍の術前術後化学療法、放射線療法の意義について理解する。

回診：朝、夕は単独または担当医とともに毎日廻診する。

術前術後の経過、ドレーン管理について理解する。

教授（部長）回診時には担当患者のpresentationを行う。

3) 呼吸器外科は2021年4月8日・9日は日本外科学会、5月20日・21日は日本呼吸器外科学会、6月24日・25日は日本呼吸器内視鏡学会(当教室主催のため、学会に参加してもらえます)があるため、どの施設も受け入れが困難となります。ご了承ください。

乳腺外科の指導内容

1) 臨床実習の目的

乳腺疾患について、乳腺外科診療チームの一員として、外来および病棟診療や手術治療を経験し、専門的な知識と技術を学ぶ。

2) 臨床実習の基本的内容

A. 診断：1. 乳房の視触診法を学ぶ。

2. マンモグラフィーの読影方法を学ぶ。

3. 乳房超音波診断法を学ぶ。

4. 乳房CTおよび乳房MRIによる乳癌の拡がり診断を学ぶ。

5. ステレオおよび超音波ガイド下マンモトーム生検方法を学ぶ。

B. 手術療法：乳癌に対する手術の概要を理解する。

C. 薬物療法：乳癌に対する薬物療法

1. ホルモン療法：閉経前後女性に対する治療の違いについて学ぶ。

2. 化学療法：再発リスクに応じた化学療法の選択について学ぶ。

3. 分子標的治療法の実際について学ぶ。

3) 外来診療実習の内容

新患、再診患者の診察を見学し、医師としての患者に対する接し方や具体的な診察法を学ぶ。
乳癌に対する薬物療法の実際を見学する。
外来化学療法の意義、副作用などを学ぶ。
治療に対するインフォームドコンセントの取り方を学ぶ。

4) 病棟・手術実習の内容

乳癌手術の補助を行い、手術の概要を理解する。
術後の患者管理を指導医とともに行う。
再発患者への対応について指導医から学ぶ。

学外臨床実習について

- ・ 学内の集合場所は、月曜日午前8時に8南病棟ナースステーション（月曜日が祝日の場合は、火曜日午前8時に外科外来2番診察室）
- ・ 第1週月曜日午前から第2週金曜日午後までの2週間。
- ・ 集合場所：
 - 名古屋市立西部医療センター：月曜日8時30分 外科外来
 - 愛知県がんセンター：月曜日8時30分に5階西病棟 カンファレンスルーム
 - トヨタ記念病院：月曜日8時30分 臨床研修グループ(中央棟2階)
 - 豊川市民病院：当日は8時30分以降に、3Fエレベーターホールにある「インターホン」で、キャリア支援センターまで連絡してください。
*車の場合に、カーナビへ電話番号で豊川市民病院を入力すると、旧病院へ案内をしてしまうようですので、下記住所を入力してください。（電話番号は旧病院と変更はありませんので、注意してください。）

小児外科の指導内容

1) 実習の目的

- ・ 医師としての心構えを理解し、節度ある身なり態度がとれる。
- ・ 指導医に対し真摯な態度を守ること。
- ・ 患者・家族との適切な接遇の重要性を理解する。
- ・ 医療スタッフと協調・協力が円滑にできる。
- ・ 患者および患者家族に学生医師であることを明示すると共に、信頼されるよう誠意を持って接すること。

2) 基本的診察法

患者さんはその多くが言葉を発しないか、あるいは的確な情報を発信できない、という基本事実を理解し、病状をどのように捉え、どのように情報を得られるのかを実習する。指導医の監督のもと実際に診察し、全身身体所見を的確に把握し記述する。

3) 一般的検査

学生の参加は担当指導医の下で患者と/或いは家族の了解を得た上で行う。血液一般、生化学、凝固系、血液ガス、心機能、（肺機能）腎機能など一般的術前検査の結果の理解。胸部・腹部検査：読影に参加し結果を理解する。腹部エコー：検査に参加し結果を理解し記述する。上部消化管検査：胃・十二指腸造影に参加し結果を理解する。下部消化管検査：注腸造影に参加し結果を理解する。肛門鏡検査、直腸鏡検査に参加し結果を理解する。CT、MRI などの各種画像診断の読影に参加し結果を把握する。

4) 病棟管理

学生は副担当医として患者に接するが、単独ではなく必ず指導医とともに行動する。検査計画や治療計画の作成には主治医との討論や診療科でのカンファレンスなどを通じて積極的に参加する。検査への学生の参加は担当医指導の下で患者と/或いは家族の了承を得た上で行う。学外や各診療科の実情をふまえ、学生が参加可能な検査内容と程度は一般的検査に準ずる。術前状態の問題点を理解しプレゼンテーションを行う。術後合併症を理解し、対処法を把握する。術後管理にできるだけ参加する。

5) 手術

見学のみでの参加ではなく、手洗い・鉤引き・糸切り・糸結び等の参加を基本とし、機会をみて更に高度の内容を実習する。滅菌・消毒の留意点を習熟し実施する。清潔・不潔の概念を理解し、術野の準備に参加する。手術の内容を理解する。切除標本の記録・整理に参加する。病理所見を理解する。

学外実習内容

学生の希望により学外実習を取り入れていく方針である。実習期間、実習時間、交通手段、実習中の事故、学生の健康診断書、既往歴、HBワクチン接種状況、その他の注意事項は名古屋市立大学医学部から示される学外実習実施要項に従う。

診断、治療計画立案、患者および家族への説明、手術、周術期患者管理に参画し、臨床医としての修練を積む点においては学内実習と同様である。

予定表は実習初日に各実習先にて受け取ってください。

学外臨床実習内容

1) 外来実習

- ・指導医の監視のもと、問診、理学的診断、処置等を行う。

2) 病棟実習

- ・指導医と共に診断、病状の把握、患者の状態の評価、手術適応の検討、手術術式の決定、術後状態の予測、患者および患者家族への説明を行う。

- ・指導医と共に周術期の患者管理を行う。

3) 検査・手術

- ・指導医と共に検査を行い、検査で得られる情報や検査の必要性と共に、検査による侵襲を理解する。

- ・指導医と共に手洗いして手術に参加し、局所解剖、手術術式を理解する。

心臓血管外科の指導内容

臨床実習の目的

- ・心臓血管外科診療チームの一員として、外来および病棟診療や手術治療を経験し、専門的な知識と技術を学ぶ。
- ・人工心肺・心停止下に行われる、大きな手術に望む患者および家族の心情を理解する。
- ・診療を通じ、内科、小児科、麻酔科など他診療科との連携を学び、チーム医療の重要性を理解する。

基本的実習内容のガイドライン

1) 基本的医師としての心構え

- ① 医師としての心構えを理解し、節度ある身なりおよび態度がとれる。
- ② 患者および家族との適切な接遇の重要性を理解し、特に重症患者家族への配慮が充分行なえる。
- ③ 医療スタッフと協調・協力が円滑にでき、また時間が厳守できる。

2) 臨床実習の基本的な内容

指導医（主治医）の下で、外来および病棟診療や手術治療について全般的に実習を行う。特に期間中1～2名の患者を主治医と共に副主治医として担当し、レポートにまとめる。また希望により、関連した研究会や学会にも参加可能で、臨床実習として認める。

3) 外来診療実習の内容

- ① 新患、再診患者の診察を見学し、診察法を学ぶ。
- ② 予診をとり、指導医がとった理学所見を理解し、カルテに記載する。
- ③ 診察の補助を通じ、胸部理学診断や四肢の脈拍触知などの基本的な診察技術を習得する。
- ④ 外来、病棟を問わず、カルテ記載時は必ず署名し、学生として診療に対する責任を自覚する。

4) 病棟・ICU診療実習の内容

- ① 胸部レントゲン写真や心電図検査から、心臓カテーテル検査にいたる各種検査法の意義と意味を学び、手術適応と術式を理解する。
- ② 術後ICUでの循環・呼吸管理を見学し、循環・呼吸の指標とその評価法や対処法を理解する。
- ③ 術後管理の主体である循環薬剤の使用法と人工呼吸管理法の基本を学び、ICUや病棟での外科的処置の補助を行う。
- ④ ICU退室を通じ、病棟間の患者の流れを理解し、一般病棟における心臓手術後の管理を全般的に学ぶ。
- ⑤ 症例検討会で担当患者の症例提示を行い、診断や治療の議論に積極的に参加する。

5) 手術実習の内容

- ① 人工心肺技術や心筋保護法を学び、手技の補助を行う。
- ② 担当患者の手術に助手として参加し、手技の補助を行い、心血管手術の流れを理解する。
- ③ 手術手技や手術の危険性を理解し、手術による大きな循環の変化を正しく把握する。

学外実習内容

学習内容は学内のものを基本とし、第1週月曜日から第2週金曜日まで、全て学外実習病院で実習を行う。第一線病院で外来、入院を通し検査や手術の実態を体験し、総合的に循環器疾患を学習する。

選択制臨床実習評価項目

次の2項目により、臨床実習評価を行い、合格、不合格を判定する。

- 1) レポート提出；副主治医として担当した1～2名の患者の診療内容について報告し、簡単な考察を行う。
- 2) 実習内容の評価

A：到達目標に達した
 B：目標に近い
 C：目標に遠い

項 目		自己評価			指導医評価		
		A	B	C	A	B	C
外来実習							
1	適切な病歴の聴診、記述ができる						
2	胸部理学診断が適切に行える						
3	四肢の簡単な循環評価ができる						
検査							
1	病態と関連のある血液検査が理解できる						
2	胸部レントゲン写真の所見を把握できる						
3	心電図の基本的な所見を把握できる						
4	超音波検査から心構築や機能が理解できる						
5	心臓カテーテル検査から血行動態が理解できる						
病棟・ICU 管理							
1	術前の循環動態が理解でき、問題点を指摘できる						
2	重症患者や家族に適切に接する事ができる						
3	循環薬剤について簡単に説明できる						
4	循環と呼吸の評価項目と対処法を列举できる						
5	基本的な術後創処置に積極的に参加できる						
6	胸腔ドレーンを理解し、観察できる						
7	ペースメーカー治療を体験し、理解できる						
8	カルテに学生として診療内容を適切に記載できる						
手術実習							
1	手術適応、術式決定に参加し、戦略が理解できる						
2	人工心肺操作を見学し、手技の補助ができる						
3	心筋保護法を理解し、手技の補助ができる						
4	担当心疾患の手術手技が図示できる						
5	手術に助手の補助として積極的に参加できる						

学外臨床実習病院の基本情報

- 1) 名古屋市立東部医療センター 外科（消化器・一般外科、呼吸器外科）
- 2) 院長：村上信五、学外実習指導責任者（第二消化器外科部長）：堅田 武保
（呼吸器外科部長）：水野幸太郎
- 3) 受入れ学生人数は同時期に1名、4～5名まで可。
- 4) 当院は名古屋市立病院中の最大規模の病院で、外科については常勤医9名、専攻医1名で、消化器、呼吸器、乳腺内分泌などの疾患を扱っている。症例数は年間約500件の全身麻酔手術を行っており、一般的外科疾患・呼吸器外科疾患の十分な研修が可能である。

- 1) 名古屋市立東部医療センター 心臓血管外科
- 2) 院長：村上信五、学外実習指導責任者（心臓血管外科部長）：浅野實樹
- 3) 1～2名まで可。
- 4) 平成20年4月より心臓血管センターが開設され、循環器内科、心臓血管外科の2科で心臓血管病に対し24時間365日受け入れを行っている。心臓血管外科は常勤医3名、シニアレジデント1名で担当しており、成人心臓外科疾患（虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患）に加え、大学病院では経験できないような末梢血管外科疾患（下肢閉塞性動脈硬化症や下肢静脈瘤）にも取り組んでいる。血管内治療（ステントグラフト内挿術）を含めた低侵襲治療を積極的に行っており、成人心臓血管外科疾患全般にわたる研修が可能である。

- 1) 名古屋市立西部医療センター 外科（消化器外科、呼吸器外科、小児外科、一般外科）
- 2) 院長：桑原義之、学外実習指導責任者（院長）：桑原義之
呼吸器外科学外実習指導責任者（呼吸器外科部長：羽田 裕司
- 3) 受入れ学生人数は1～2名
- 4) 名古屋市立西部医療センターは、2011年4月に開院した新しい病院です。名古屋城のほぼ真北に位置し、地下鉄駅（名城線：黒川駅または鶴舞線：庄内通駅）から徒歩15分程の所にあります。屋上のヘリポートと屋上庭園が特徴的な地上8階建ての建物で、北側に陽子線治療施設が併設されています。病床数は500床で、31診療科の診療科とICU、NICU、GCUなどの中央部門が整備されています。ほとんどの診療科は名古屋市立大学から派遣されており、大学で学生教育に携わった職員も多数在籍しており、学生教育にも熱心です。

病院の特徴は小児周産期医療とがん医療にあります。特にがん医療に関しては、地域がん拠点病院の認定を受けており、診療科、部門をまたいだチーム医療を重視し、消化器腫瘍センター、呼吸器腫瘍センターを中心に、手術療法、内視鏡的治療、放射線療法、陽子線、化学療法などの最先端技術を駆使した医療を提供しています。外科メンバーは常勤12名、後期研修医2名で、一般外科から、消化器外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、小児外科まであらゆる外科手術に取り組んでいます。忙しいですが雰囲気良く、多彩な症例を経験でき、実習に適したセンター病院です。

- 1) 名古屋市立西部医療センター 乳腺外科
- 2) 院長：桑原義之、学外実習指導責任者（乳腺内分泌外科部長）：杉浦博士
- 3) 受入れ学生人数は1名
- 4) 地下鉄黒川駅から市バスで約10分、クオリティライフ21城北内に、城北、城西病院が合併して2011年4月から西部医療センターとして開設しました。新しい西部医療センターは地下1階、地上8階建てで500床の病院となり、30診療科が整備されています。新病院の特徴

は小児周産期医療とがん医療で、特にがん医療に関しては消化器腫瘍センターを中心に手術療法、内視鏡的治療、放射線療法、化学療法などを駆使し、チーム医療を重視した悪性新生物医療を提供しています。また、来年度には陽子線がん治療施設の開設が予定され、副作用の少ない「痛みのないがん治療」を推進していきます。外科メンバーは常勤8名、非常勤2名で、一般外科から、消化器外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、小児外科まであらゆる外科手術に取り組んでおり、多彩な症例を経験でき、実習に適したセンター病院です。

1) **豊川市民病院** 外科（消化器・一般外科、呼吸器外科）

2) 院長：松本 隆、学外実習指導責任者（呼吸器外科部長）：彦坂 雄、（消化器外科部長）：寺西 太

3) 受入れ学生人数は同時期に2名まで

4) 東名高速道路の豊川、音羽両インターより約10分の東三河中央部に位置し、豊川市、東三河北部までの約25万人を医療圏としています。一般、消化器、呼吸器、乳腺内分泌、小児の領域を診ており、年間手術件数は約1100例です。東名高速と1号線に挟まれているため事故などの救急症例も頻繁に搬送されます。多彩な症例を経験でき、臨床実習に適した病院です。2013年5月には、新病院（101床増床）が開院しました。新病院になり、入院患者、手術症例が増加しています。救急部門も充実し、救急車の受け入れ実績は、約6200台で、救急患者お断りゼロを目指しています。

5) 指導医の受け持ち患者を中心にできるだけ多くの手術に入ってもらいます。その他、症例検討会、他科との合同カンファランスへの参加、救急患者の対応も指導医と共に進めてもらいます。

1) **豊川市民病院** 乳腺外科

2) 院長：西田勉、学外実習指導責任者（乳腺・内分泌外科部長）：柄松章司

3) 受入れ学生人数は同時期に1名まで

4) 豊川、音羽両インターより約10分の東三河中央部に位置し、豊川市、三河北部までの約30万人を医療圏としています。一般、消化器、呼吸器、乳腺内分泌、小児の領域を診ており、年間手術件数は約800例です。東名高速と1号線に挟まれているため事故などの救急症例も頻繁に搬送されます。多彩な症例を経験でき、臨床実習に適した病院です。新病院になり入院患者、手術症例が増加しています。救急部門も充実し、救急車お断りゼロを目指しています。

5) 指導医の受け持ち患者を中心にできるだけ多くの手術に入ってもらいます。

1) **蒲郡市民病院** 外科（消化器・一般外科）

2) 院長：河邊 義和 学外実習指導責任者（副院長・外科部長・手術部長）：中村 善則

3) 受入れ学生人数は、同時に1～2名

4) 消化器外科症例が中心で、年間400件前後の手術があります。腹腔鏡を中心とした、癌の定期手術から虫垂炎、穿孔性腹膜炎などの緊急手術など、様々な疾患に対応して手術を行っています。JR蒲郡駅（金山より35分）より近く、学生実習、初期・後期研修医の受け入れ実績も多くあります。内科も名古屋市立大学出身の医師が大半で、合同のカンファランスも積極的に行っており、様々な症例を経験できます。特に救急外来は、上級医師が常に待機しており、遠慮なく相談できる体制で充実した研修を受けられます。各種のセミナー、院内研修会、講演会にも参加でき、専門的な知識

の習得もできます。海の幸も新鮮で食生活も充実しています。

5) 指導医の受け持ち患者を中心にできるだけ多くの手術に入ってもらいます。その他、症例検討会、他科との合同カンファランスへの参加も指導医と共に行ってもらいます。希望があれば、救急外来も実習できます。実習期間中の駐車場・宿泊は完備しています。

1) **刈谷豊田総合病院** 外科「消化器・一般外科（上部消化管外科、肝胆膵外科、下部消化管・一般外科、小児外科）、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、心臓血管外科」

2) 院長：田中守嗣、呼吸器外科学外実習指導責任者（呼吸器外科部長） 雪上晴弘

3) 4名

4) 外科は消化器・一般（上部消化管外科、肝胆膵外科、下部消化管・一般外科、小児外科）、呼吸器、乳腺・内分泌、心臓血管外科に分かれ、それぞれに専門医がいる。2016年8月から腹腔鏡ヘルニアセンターを開設した。

心臓・血管外科は循環器内科とともに循環器センターに所属している。手術件数は鏡視下手術をはじめとして外来手術を含めて年間2200例を超える。定期手術は月曜から金曜まで、第一第三土曜日にも行っている。急性腹症を主とした緊急手術も多い。

回診は主治医、担当医回診のほか、月に副院長総回診、火木に部長処置回診を行い患者さんの状態把握に努めている。

モーニングカンファレンスは7時50分から8時20分(曜日により異なる)から始まり、前日施行の手術のビデオ報告を行っている。週1回の抄読会、放射線科、消化器内科との症例検討会を行っている。

当院は放射線科、麻酔科が充実しているのも強みである。また、外科すべての分野に専門スタッフがそろっており、外科専門医を取得できる環境にある。

1) **刈谷豊田総合病院** 循環器科（心臓血管外科）

2) 院長：田中守嗣

学外実習指導責任者（循環器センター長）：山中雄二

3) 2名

4) 刈谷市およびその周辺の市町村における地域中核病院です。病床数は607床。

循環器科は循環器内科と心臓血管外科から成り立っています。24時間救命救急体制をとり、急性心筋梗塞に対する緊急カテーテル検査および治療から緊急手術までが可能である。

循環器患者の非観血的検査（ECG、心エコー、トレッドミル、心筋シンチ）や観血的検査（CAG、PTCA、stent）を学び、症例検討会への参加を通じ、外科的治療（虚血性心疾患、弁膜症、大動脈瘤など）や集中治療室での急性期患者の治療に参加する。

1) **トヨタ記念病院** 外科（消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺外科）

2) 院長：岩瀬三紀、学外実習指導責任者（副院長）：篠田憲幸、（呼吸器外科科部長）：森山悟、（外科科部長）：春木伸裕、（乳腺内分泌外科科部長）：伊藤和子

3) 受入れ学生人数は1～2名(1週間あたり)

4) 年間1000件前後の豊富で、かつ市中病院の特色である、癌の定期手術から虫垂炎、穿孔性腹膜炎などの緊急手術など、バラエティーに富んだ手術を行っています。救急救命センターを併設しており、交通外傷などの緊急手術も間近に見られるかもしれません。各疾患については、消化器外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科の学会認定指導医・専門医が指導にあたります。また、クリニカルパ

ス作成・利用や、臨床指標による評価などを行っているので、これらが体験出来ます。その他、研修医教育が充実(モーニングセミナーを火・金、朝食付きで開催など)しており、若い研修医も多く、いろいろな話を聞けるチャンスがあるかと思えます。各種のセミナー、院内研修会、講演会にも参加し、今後の進路を考える上でも役に立つ時となると思えます。

1) **聖隷三方原病院** 呼吸器外科

2) 院長：荻野和功、学外実習指導責任者(呼吸器外科部長)：棚橋雅幸

3) 受入れ学生人数は同時期に1～2名

4) 浜松市中央部に位置する934床の地域医療支援・地域がん診療拠点病院で、静岡県西部地区の中心的な病院の1つ。スタッフ7名(呼吸器外科専門医6名、後期研修医1名)で年間約400件の呼吸器外科手術を実施しているので、短期間で濃厚な研修が可能。肺癌患者さんとは検診から診断、手術、抗癌剤投与、看取りまですべての段階にかかわることができる。一人の患者さんに多くのスタッフがかかわっているため、看護師のみでなく、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、栄養士など他職種のスタッフとの幅広い交流を体験可能。最先端の放射線治療装置が2台あるので、手術を中心とした集学的治療、手術不能例に対する化学放射線療法も見学可能。呼吸器外科を目指す学生の見学は多い。

5) 週3日の手術を中心として、超音波内視鏡、細経気管支鏡、硬性気管支鏡による検査、血管造影検査の体験および見学を通して呼吸器外科学を深く知り、現在急増している肺癌患者さんにどのように向き合うかを考えていただきたい。同時期に救急ヘリコプター、ホスピスでの研修も可能である。宿泊施設完備。

1) **鈴鹿中央総合病院** 呼吸器外科

2) 院長：森 拓也、学外実習指導責任者(臨床副院長)：深井一郎、(呼吸器外科部長)：川野理

3) 受け入れ学生人数：1～2名

4) 呼吸器外科全般にわたる症例を経験できます。三重大学医学部の学生さん達との交流もできる唯一の施設です。

1) **名古屋市立緑市民病院** 消化器・一般外科

2) 院長：山本憲一、学外実習指導責任者(院長)：佐藤篤司

3) 同時に2名まで

4) 名古屋市の南東部に位置し、文字通り緑の多い所である。地下鉄の延長計画も相俟って住宅建築が急速に進み、緑区は名古屋市の区の中では人口が最も多い区となり、患者数も年々増加している。外科は4名で、消化器外科、乳腺外科、血管外科を中心に一般外科、救急外来も行なっている。午前中は外来、病棟管理、検査などで、午後は手術を行なっている。入院患者の手術を中心とした外科治療がほとんどであることから、消化器外科、乳腺外科などを中心とした、診断、治療計画にもとづく外科学の実習ができる。

1) **知多厚生病院** 消化器・一般外科

2) 院長：宮本忠壽、学外実習指導責任者（第一診療部長・外科代表部長）：村元雅之

3) 同時に2名まで

4) 知多半島南部に位置し、篠島、日間賀島も診療圏に入れる地区の中核病院である。消化器を中心に手術を行っており、内視鏡下の手術、血管手術にも力を入れている。さらに栄養サポートチームや緩和ケアチームなどのチーム医療にも中心となって関わっている。また、人口に対する高齢者の比率が高く、病診連携を充実した住宅医療の普及にも積極的に取り組んでいるので、外科一般のみならず地区に密着した外科系医療を学んでいただきたい。

1) **稲沢厚生病院（旧 尾西病院）** 消化器・一般外科

2) 院長：伊藤浩一 学外実習指導責任者（副院長兼外科部長）：伊藤浩一

3) 同時に2名

4) 稲沢市西部に位置する愛知厚生連の病院である。消化器外科を中心に一般外科の手術を行っている。当院は各科全て名市大の医局関連であり、2～3名／年の初期臨床研修医も名市大出身者が主である。特徴としては、救急を含めた急性期の患者から療養型の慢性期の患者、さらに精神疾患を有する患者の外科治療を行っている点である。地域医療の中核をなす病院であるため、綿密な病診連携のもと在宅医療の普及にも取り組んでいる。地域に密着した医療が経験できる。

1) **菰野厚生病院** 消化器・一般外科

2) 院長：小嶋正義、学外実習指導責任者（副院長）：岡田祐二

3) 同時に2名まで

4) 御在所のふもとに位置する、急性期の患者から、在宅医療へ移行する慢性期の患者の治療までを行っている地域の一般病院になります(大学からは高速を利用して、1時間かからない距離です)。消化器外科(腹腔鏡下手術を含む)、胸部外科、血管外科(シャント外科を含む)を中心にした外科一般に対する手術を行っています。見学だけではなく、副主治医として病棟管理、検査、処置の手伝いを行なっていただき、手術にはできるだけ多く立ち合って、経験していただきます。研修期間中の学生用の宿泊施設は完備しており無料です。

1) **いなべ総合病院** 消化器・一般外科

2) 院長：相田直隆、学外実習指導責任者（副院長）：舟橋 整

3) 2名

4) 消化器外科を中心に、年間約300例の一般外科手術を行っています。三重県北西部に位置する地域に根ざした第一線医療を担う病院で、救急医療を含めた急性期の患者から、在宅医療へ移行する慢性期の患者の治療までを行っています。大学病院から車で約1時間の距離です。地域医療の中核病院での実習として、虫垂炎、ヘルニアなどのcommon diseaseを中心に、胃癌、大腸癌の腹腔鏡下手術や肝胆膵の高難度手術まで経験できます。また、初期臨床研修医(3～4名/年)とともに、病棟回診、外来見学、救急対応、手術、カンファレンスへの参加など、外科医としての日常業務を体験していただき、医学部学生として将来に備えた予備学習をしていただきます。希望に応じて当直業務への参加も可能で、研修期間の宿泊施設も完備しています。

1) **NTT 西日本東海病院** 消化器・一般外科

2) 院長：佐藤泰正、学外実習指導責任者（副院長・外科部長）：福井拓治

3) 1名

4) 名古屋市中区の「大須」の近くに位置し、NTT 社員の検診や診療のみならず、現在では地域医療の中核となっている。病院の増改築が完了し、臨床の診療科および診断機器も充実して総合的な診断治療ができる。外科は消化器外科が中心であるが、乳腺外科なども積極的に行っている。クリティカルパスを基本とした診療計画に基づき、平均在院日数の短縮と患者サービスの向上を目指し、さらにインフォームドコンセントを重視し、諸外国の診療ガイドラインにも準拠して手術のレベルアップをはかり、新しい時代の外科へと変遷している。現在、国内外で実施されている多くのサーベイランスに基幹病院として参加するなど、幅広く活動している。

1) **名古屋徳洲会総合病院** 外科（消化器・一般外科、呼吸器外科、緩和ケア外科）

2) 院長：前田 徹、学外実習指導責任者（副院長・呼吸器外科部長）：可児久典

3) 受入れ学生人数は2～3名

4) 当院での実習コンセプトは「積極性を重んじる」です。やる気のある学生さんには、どんどん手術に参加していただきます。定期手術は、土日曜以外は毎日あります。この他、救急からの緊急手術もあります。毎月40～50例ほどの手術を行っています。また手術以外に、外科系救急、各種検査（消化器内視鏡、気管支鏡など）も外科医師が担当しております。従って、術前診断から治療計画の立案、患者や家族への説明など、総合的な実習をご提供することが可能です。加えて緩和ケア外科では、進行がん診療の柱でもある緩和ケアを学ぶことができます。現在、名市大たすきがけを含めて、多くの研修医も頑張っておりまして、ぜひ当院での実習をご検討ください。

1) **愛知県がんセンター中央病院**

2) 院長：丹羽康正、学外実習指導責任者（副院長兼乳腺科部長）：岩田広治

3) 受入れ学生人数は1名

4) 乳癌は日本人女性の最も多く罹患する癌で、最近急速に増加しています。さらに30代から50代の女性の癌による死亡原因の1位は乳癌です。当院は日本有数の乳癌治療施設として年間450件の乳癌の手術、100人/週の抗がん剤治療を行っています。乳癌の診断から手術、手術前後の薬物療法、放射線治療を含めた再発治療までをトータルに経験できます。指導には乳腺科スタッフ6名（乳癌学会専門医、外科学会指導医など）とレジデント7名があたります。世界最先端の癌治療に接することのできる良い機会だと思います。

【実習評価】

学生は、実習内容をレポートとして提出すると共にし、指導医から臨床実習内容について評価を受ける。

整形外科・リハビリテーション医学 学外臨床研修マニュアル

整形外科

臨床実習の目的

- 1) 地域病院の一般整形外科外来において地域患者とのコミュニケーションを図る。まず、患者さんと対話ができるようになる。
- 2) 整形外科手術を受ける患者・家族の不安、苦悩などの心理を理解する。
- 3) 整形外科手術症例の診断、術前管理、手術、術後管理の過程を体験する。
- 4) 医療従事者（看護師、リハビリ関連職種など）の役割分担、協力関係、病院の成り立ちと機能を理解する。
- 5) 卒後研修に移行しうる臨床の知識、技能、態度を身に付ける。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 選択性臨床実習の受け入れ人数
同一時期に10人を越えない事（同一時期に1病院1名）。希望が重複した時は調整させていただきます。
- 2) 医師としての基本的な心構え
 - ・医師としての基本的な心構えを身に付け、節度ある身なり・態度がとれる。
 - ・患者・家族との適切な接遇の重要性を理解する。
 - ・他の医療スタッフとの協調・協力が円滑にできる。
- 3) 基本的診察法
 - ・外来診察に参加し、予診、カルテ記載を行う。適切かつ良好なコミュニケーションで患者あるいは介助者と面接を行い病歴を聴取し記述する。あいさつ、自己紹介、適切な姿勢・態度、適切な会話法、共通の言葉、要約する能力、心理・社会的側面の情報収集、解釈モデルの把握（患者さんが病状をどのように据え、どのようなことを心配し、どのような検査を希望しているか）できるように指導する。すなわち、共感的態度、信頼できる態度、患者が十分に話したと思えるインタビュー、内容をまとめ記述する能力を学習する。
 - ・多くの診察に参加し各種診察法とその所見ならびに画像など補助的診断法を理解する。
 - ・バイタルサインを測定し記述する。
 - ・指導医の監視のもと実際に診察し、全身身体所見および局所所見を的確に把握し記述する。
 - ・学生のカルテ記載については必ず学生は署名し、担当医師がそれを訂正追加し署名する。
- 4) 検査および治療手技
 - ・学生の参加は担当指導医の下で患者の了解を得た上で行う。見学するだけでなく、体験できるよう指導したい。およその検査・治療手技の内容と程度を以下に示す。
 - ・X線撮影を見学し、実際に撮影体位を指導医とともに指示する。ただし、被爆を避ける意味でプロテクターを着て放射線危険範囲に入ることはいない。
 - ・血液一般、生化学、凝固系、血液ガス、心機能、肺機能、腎機能など一般的術前の実際と結果の理解。
 - ・採血手技は担当医指導の下で患者の了解を得た上で行う。
 - ・注射、点滴については採血が上達した段階で、可能な施設で担当医指導の下、患者の了解を得た上で行う。
 - ・代表的整形外科の手技である関節穿刺・注入を指導医の監督下に行う。関節液の性状を理解する。
 - ・レントゲン所見について指導医の解説をうけ理解する。
 - ・関節造影（膝関節・肩関節）所見について理解する。
 - ・シーネをあてる、ギプスを巻く、あるいは足持ちをする。

- ・ 各種治療薬の処方を学ぶ。

5) 病棟

学生は副主治医として患者を受け持つ。

- ・ 入院患者の病歴聴取・診察を行い、それをもとに指導医とともに再度病歴聴取・診察し整形外科的方法を理解する。
- ・ 検査計画や治療計画の作成には主治医との討論や診療科でのカンファランスなどを通じて積極的に参加する。
- ・ 検査の見学および一部実地を結果の把握・治療計画の修正（関節造影・脊髄造影・椎間板造影・神経根造影など）
- ・ 患者の術前全身状態の把握。
- ・ 症例検討会に参加し、症例を提示する。
- ・ 抗生剤、鎮痛剤の適応と処方の内容を理解する。
- ・ 術後合併症を理解し、対処法を把握し記述する。
- ・ 一般的術後管理にできるだけ参加する。
- ・ ベッドサイドでの術後処置に参加する。
- ・ 副主治医として担当した患者の回診を行う。
- ・ 各病院指導医の回診に同行する。
- ・ 副主治医として患者から信頼されるよう努力する。

6) 手術

手術に参加する。即ち手洗いし、手術助手としての参加を基本とする。

- ・ 手術室における各スタッフの役割、手術の流れをつかむ。
- ・ 手術室における清潔、不潔の概念を完全に理解し、手洗い方法および手術の清潔準備についての指導をうける。
- ・ 局所麻酔、脊椎麻酔については方法を理解し、指導医のもとで介助又は実施する。
- ・ 全身麻酔の方法・注意点を理解する。
- ・ 助手として鉤ひきや、足持ちをする。
- ・ 切開、排膿については指導医のもとで介助、実施する。
- ・ 程度の軽い外傷処置は指導医のもとで実施する。
- ・ 簡単な皮膚縫合は指導医のもとで介助または実施する。
- ・ 切除標本の記録・整理に参加し記録する。
- ・ 病理所見を理解する。

7) 当直および時間外外来・救急外来

時間が許せば積極的に参加して第一線現場の流れをつかむ。

- ・ 当該科での当直が実習に有効と判断され、学生用の当直室があり、学生が希望する場合のみ副直として行う。
- ・ 実習時間内の時間外外来や救急外来には指導医あるいは現場医師の下に積極的に参加する。
- ・ minor injuryについては局所麻酔・洗浄・縫合など指導医の下に経験させる。

学外臨床実習の評価

- ・ 実習の評価はレポート提出、日常の活動から判断など学外の各診療科が自由に行う。ただし、合格か不合格かを必ず評価する。不合格の場合には当該学生は次年度に再履修とする。
- ・ なお、**実習病院への提出レポートとは別に、実習終了後1週間以内に整形外科までメール (seikei@med.nagoya-cu.ac.jp) で実習内容や感想をレポートとして提出すること。**このレポートは各症例について詳細に記載するものではない。
- ・ 学生の無断欠席は、学外各診療科の判断で実習中止とすることが出来る。この学生については不合格と判断され、次年度に再度選択実習を履修するものとする。

学外臨床実習について

学外実習における実習期間、実習時間、交通手段、自習中の事故、学生の健康診断書、既往歴、HBワクチン接種状況、その他の注意事項は名古屋市立大学医学部から示される学外実習実施要項に従う。

実習内容

大学では経験することの少ない一次、二次救急、外傷の診療、整形外科の外来、入院、手術の実態を体験し、とくに第一線病院における患者と医療スタッフのかかわりについて学ぶ。

選択制実習開始前後の注意点

学生の希望が重なることがあり、実習病院決定の調整をするため、また病院ごとの実習初日の集合時間や場所の連絡などを行うため、選択制実習が始まる前に整形外科を選択した学生全員を対象にオリエンテーションを行います。掲示板、メールにて連絡しますので注意してください。また、選択制実習終了時に全員を対象に報告会を行うので参加してください。その時に、選択性実習についてレポートを提出していただきます。実習の実際、要望点、感想など特に書式はありません。参考のために、次の学年が閲覧することもありますのでそれを念頭において書いてください。尚、実習期間の2週間は基本的には大学に来る必要はありません。

学外実習病院の基本情報

- 1) タイコンケン大学
- 2) 学長：Charnchai Panthongviriyakul、学外実習指導責任者（整形外科准教授）：Permsak Paholpak（愛称 トン先生）
- 3) 2 - 6人
- 4) 1964年にタイ東北部で最初に設立されたタイ国立大学で、17学部および大学院を有するタイ東北部最大の総合大学。豊富な手術件数、患者数を誇り、臨床実習はもとより献体による屍体を用いた解剖実習も行っている。2020年大学ランキングではタイNo1を獲得し、2019年12月には名古屋市立大学とも医学部間交流協定を結んでいる。

- 1) 名古屋市東部医療センター
- 2) 院長：村上信五、学外実習指導責任者（整形外科部長）：永谷祐子
- 3) 1人
- 4) 名古屋市立病院の基幹病院として二次救急体制を確立し、整形外科疾患全般に対応している。手術内容では、外傷、関節疾患、脊椎疾患などの手術が数多く行われている。変形性股関節症、変形性膝関節症、関節リウマチ等に対する人工関節置換術。また脊椎脊髄疾患の手術も毎週行われており、毎週火曜日に脊椎検査が行われている。当院は日整会、日本リウマチ学会、日本リハビリテーション医学会の臨床研修施設に認定されている。

- 1) 豊川市民病院
- 2) 院長：松本 隆、学外実習指導責任者（整形外科部長）：高橋育太郎
- 3) 1人
- 4) 豊川市および宝飯郡の広範囲におよぶ地域での中核病院とし、外傷を始め関節外科、脊椎疾患等、多くの患者を治療しており、年間約600例以上の手術を行っている。また、臨床研修病院の指定も受けており、最新医療機器による高度医療を提供している。（日整会、日本リウマチ学会等、25の学会の臨床研修認定施設。）

- 1) 春日井市民病院
- 2) 院長：成瀬友彦、学外実習指導責任者（整形外科部長）：久保田雅仁
- 3) 1人
- 4) 外傷を中心とした救急病院で、大腿骨近位部骨折など多数の外傷の手術を行っている。関節、脊椎疾患の手術も多く行っており、関節外科、脊椎外科、手の外科の専門医がいるため、人工関節、関節鏡（膝関節、股関節、肘関節、足関節、肩関節）、リウマチの手足の手術、脊椎の手術などを主に行っている。

1) **小牧市民病院**

2) 院長：谷口健次、学外実習責任指導者（整形外科部長）：山田邦雄

3) 1人

4) 尾張北部医療圏の三次救急病院として、交通事故や労働災害による外傷患者を広く受け入れて、外傷整形外科に注力している。また、人工関節置換術や脊椎手術も多く、外傷、関節、脊椎、手の外科などスタッフが充実している。年間1500件以上の手術件数をこなす。

1) **海南病院**

2) 院長：奥村明彦、学外実習責任指導者（副院長、整形外科代表部長）：関谷勇人

3) 1人

4) 地域の基幹病院であり、救急外傷、特に手指の切断など重度四肢外傷に対しマイクロサージャリーを利用した治療を積極的に行っている。また手の外科、関節外科、脊椎外科、小児整形外科、足の外科についても専門医を中心に重点的に取り組んでいる。年間1000件以上の手術を行っている。

1) **公立陶生病院**

2) 院長：味岡正純、学外実習指導責任者（整形外科部長）：福岡宗良

3) 1人

4) 尾張東部医療圏の中の主に北部の基幹病院であり、二次救急体制を施行している。年間約6000件の救急車を受け入れており救急疾患、外傷を中心に脊椎疾患、関節外科等年間700例以上の手術を行っている。また日本整形外科学会、日本リウマチ学会の臨床研修認定施設である。

1) **大垣市民病院**

2) 院長：金岡祐次、学外実習責任指導者（整形外科部長）：小林正明

3) 1人

4) 当院は岐阜県西濃地区の基幹病院で、救急救命センターを併設していることもあり、外傷性疾患の症例が多い。年間の手術件数は1000件以上で、その内訳は、骨折、脱臼などの外傷性疾患が約55%、その他は脊椎、関節などの慢性疾患の手術症例である。

1) **いなべ総合病院**

2) 院長：相田直隆、学外実習指導責任者（整形外科部長）：奥地 裕

3) 1人

4) 地域の基幹病院であり、多くの外傷症例を始め、脊椎疾患、人工関節、切断再接着など様々な手術を行なっている。

1) **厚生連知多厚生病院**

2) 院長：水野志朗、学外実習指導責任者（整形外科代表部長）：山田 聡

3) 1人

4) 地域に密着した病院であり、外傷を中心として整形外科全般の治療を行っている。

1) **厚生連中濃厚生病院**

2) 院長：鷹津久登、学外実習指導責任者（整形外科部長）：波頭経俊

3) 1人

4) 救命救急センターを併設しており、中濃地区から奥美濃地区にかけての基幹病院であり、臨床研修病院である。外傷のみならず脊椎手術、人工関節手術、変形矯正手術などほとんどの症

例は自己完結型で治療しており、年間総手術数は約700件である。また、実習者が宿泊可能な個室（10室）も整備されており、院長をはじめ病院全体が学外実習や研修医を歓迎する雰囲気がある。岐阜県出身の学生、もちろん他地域出身の学生諸君にもぜひとも見学にお越しいただきたい。

1) 豊橋医療センター

2) 院長：恵美宣彦、学外実習指導責任者（整形外科部長）：柴田康宏

3) 1人

4) 東三河地区から静岡県西部地区にかけての基幹病院で、臨床研修病院である。外傷のみならず脊椎手術、人工関節手術など幅広い分野の治療を行っており、年間総手術数は1000件近く、非常に活発な病院である。特に部長を始めとしたスタッフ全員が若く、活気のある雰囲気の中で治療を行っている。

1) 名鉄病院

2) 院長：細井延行、学外実習指導責任者（整形外科部長）：土屋篤志

3) 1人

4) 名古屋駅にほど近い名鉄栄生駅に直結したロケーションを持ち、野球選手などのアスリートを中心にスポーツ整形外科治療を専門的に行っている。関節鏡を用いた肩、肘、膝関節の手術により、プロスポーツ選手をはじめとするトップアスリートの治療を行っている。

整形外科選択制臨床実習評価項目

A:目標に達成した

B:目標に近い

C:目標に遠い

運動器の基礎知識

	自己評価	指導医評価	指導医サイン	年月日
1. 骨・軟骨・関節の生理の臨床応用を学んだ。				
2. 神経・筋・腱・脈管の生理・解剖の臨床応用を学んだ。				

診断と検査

	自己評価	指導医評価	指導医サイン	年月日
1. 骨・関節のX線診断（MRIも含む）について主な疾患について学んだ。				
2. 関節造影の適応、所見、方法について学んだ。				
3. 脊髓腔造影の適応、所見、方法について学んだ。				
4. 電気生理学的検査の適応、所見、方法について学んだ。				
5. 関節液鏡検を観察した。				
6. 病理組織所見の重要性を理解した。				
7. 基本的診察と病理考察を学んだ。				
8. 神経学的に高位、横位診断が理解できた。				
9. 救急外傷患者の処置を学んだ。				
10. 痛みの処方を学んだ。				
11. 検査の意義を十分理解した。				
12. 整形外科的緊急危険症状を学んだ。				

整形外科臨床知識

	自己評価	指導医評価	指導医サイン	年月日
1. 病態把握と患者のプロフィールからその人に合った治療計画について理解した。				

2. 倫理の上に適切な説明と同意について理解した。				
3. 適切な薬剤処方、使用について学んだ。				
4. 徒手整復の正しい適応と実施について学んだ。				
5. 補装具の処方、指示、指導について学んだ。				
6. 理学療法の処方、指示について学んだ。				
7. 雑菌、消毒の留意点に習熟し実施できる。				
8. 清潔、不潔の概念を理解し清潔操作ができる。				
9. 外来手術の実際を経験する。				
10. 軽度外傷の処置ができる。				
11. 切開、止血、結紮、縫合、抜糸の実際を経験する。				
12. 介達牽引を学んだ。				
13. 直達牽引を学んだ。				
14. 創外固定を学んだ。				
15. 局麻、伝達麻酔を学んだ。				
16. 整形外科術前準備を理解した。				
17. 脊髄損傷の初期治療を観察した。				
18. 開放骨折の初期治療を観察した。				
19. 関節の感染症の初期治療を観察した。				
20. 手新鮮外傷の初期治療を観察した。				
21. 採骨と骨移植を学んだ。				
22. 主な関節手術（鏡視下、人工関節を含む）を観察した。				
23. 脊椎での椎弓切除を観察した。				
24. 椎間板切除術を観察した。				
25. 神経剥離術、神経縫合術を観察した。				
26. 血管吻合を観察した。				
27. 骨折手術を観察した。				
28. 腫瘍手術を観察した。				
29. 救急外傷患者の搬送について観察した。				
30. スポーツ外傷について学んだ。				
31. 義肢以外の各種装具を観察した。				
32. 関節リウマチの診断と治療を学んだ。				
33. 小児の先天性疾患（先股脱、内反足、筋性斜頸）の 治療と診断を学んだ。				

リハビリテーション科

臨床実習の目的

- 1) リハビリテーション外来では、運動器障害のみならず脳血管障害など、多領域にわたる障害をみる。患者さん（障がい者）や介助者の気持ちに思いを馳せ、会話を通じて「現在の問題点」を把握、理解できるようになる。
- 2) リハ外来を訪れる患者さん、介助者との会話、各種診察法と所見ならびに画像など補助的診断法を通じて、障害の階層的（機能障害、能力障害、社会的不利）問題や病態（障害学）を理解、把握できるようになる。
- 3) リハビリテーション医や理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）など多数の専門職から成るチーム医療と「協働」体制、リハビリテーションカンファレンスや療法士の役割を理解する。
- 4) リハビリテーション処方とリスク管理の方策を理解する。
- 5) 障がい（児）者のための福祉関連法規を理解する

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 選択性臨床実習の受け入れ人数
原則1名。名古屋市総合リハビリテーションセンターでは、1週間、または2週間の受け入れを基本とします。

2) 医師としての基本的な心構え

- ・ 医師としての基本的な心構えを身に付け、節度ある身なり・態度がとれる。
- ・ 患者・家族との適切な接遇の重要性を理解する。
- ・ 他の医療スタッフとの協調・協力が円滑にできる。

3) 基本的診察法

診察に参加し、カルテ記載を行う。適切かつ良好なコミュニケーションで患者あるいは介助者と面接して病歴を聴取し記述する。あいさつ、自己紹介、適切な姿勢・態度、適切な会話法、共通の言葉、要約する能力、心理・社会的側面の情報収集、解釈モデルの把握（患者さんが病状をどのように捉え、どのようなことを心配し、どのような検査を希望しているか）を実臨床の場でできるように指導する。すなわち、共感的態度、信頼できる態度、患者が十分に話したと思えるインタビュー、内容をまとめ記述する。

- ・ 多くの診察に参加し各種診察法とその所見ならびに画像など補助的診断法を理解する。
- ・ バイタルサインを測定し記述する。
- ・ 指導医の監督のもと実際に診察し、全身身体所見および局所所見を的確に把握し記述する。
- ・ 学生のカルテ記載については必ず学生は署名し、担当医師がそれを訂正追加し署名する。

4) 検査および治療手技

- ・ 学生の参加は担当指導医の下で患者の了解を得た上で行う
- ・ リハビリテーション処方とリスク管理の方策を学ぶ。
- ・ 電気生理学検査や嚥下機能検査（嚥下造影（VF）や嚥下内視鏡（VE））、高次脳機能検査などを経験する。
- ・ 関節可動域、筋力、日常生活動作などの評価を行い、障害の状態を判定する。
- ・ 補装具あるいは義肢、福祉関連機器の処方と作製の流れを学習する。
- ・ 各種治療薬の処方と使用の実際を学ぶ。

5) 病棟

学生は副主治医として患者を受け持つ。

- ・ 入院患者の病歴聴取・診察を行い、指導医とともに患者さんの状態を把握する。
- ・ 訓練計画や退院後の環境設定プランの作成には主治医との討論や診療科でのカンファランスなどを通じて積極的に参加する。
- ・ 回診して担当患者の全身状態を把握し、問題が生じていれば、迅速に指導医やスタッフに報告する。
- ・ 症例検討会に参加し、症例を提示する。
- ・ 副主治医として患者や家族から信頼されるよう努力する。

リハビリテーション科の実習内容

- ① リハビリテーション医学における基本的な評価法の理解と実践
筋力、運動麻痺、ADL（日常生活活動）の評価
- ② 脳卒中急性期のリハビリテーション
急性期の治療・全身管理と神経保護、リハビリ訓練の実際
- ③ 脳卒中維持期の評価（外来）
- ④ 神経変性疾患へのリハビリテーション的対応
- ⑤ 末梢神経疾患の特徴と電気生理学的診断・評価、
リハビリテーション的アプローチとしての訓練や装具療法
- ⑥ 高次脳機能障害の評価と治療
- ⑦ 認知症へのリハビリテーション的アプローチ
- ⑧ 嚥下障害に対するリハビリテーションの実際
- ⑨ 痙縮緩和へのアプローチ
- ⑩ 虚血性心疾患の全身管理とリハビリテーション的対応
（運動療法のリスクマネージメントを含めて）
- ⑪ 脊椎・骨関節疾患、特に術後のリハビリテーションの実際

- ⑫ 運動療法における心肺系を中心としたリスクマネジメント
- ⑬ 廃用症候群に対するリハビリテーションの実際
- ⑭ 脊髄損傷に対するリハビリテーションの実際
- ⑮ 切断に対するリハビリテーションの実際
- ⑯ 義肢・装具の作製
- ⑰ 多職種で行われるリハビリテーションカンファレンスへの参加
- ⑱ リハビリテーション関連書類の作成
(リハビリテーション総合実施計画書、脳卒中地域連携パス等)

学外臨床実習の評価

- ・ 学生、指導医に実習評価表を配布し、その記載内容を成績に反映する。
- ・ 合格か不合格かを必ず評価され、不合格の場合には当該学生は次年度に再履修とする。
- ・ 学生の無断欠席は、学外各診療科の判断で実習中止とすることが出来る。この学生については不合格と判断され、次年度に再度選択実習を履修するものとする。

学外実習病院の基本情報

- 1) 名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院、リハビリテーション科
- 2) 附属病院院長：日比野敬明、学外実習指導責任者（リハビリテーション科部長）：小川鉄男
- 3) 原則1人
- 4) 整形外科疾患、中枢・末梢神経疾患、心大血管疾患の回復期、維持期リハビリテーション等の医療リハビリテーション、社会復帰支援、就労支援、介護保険リハビリテーションを行っている。

実習スケジュール例

W1	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
午前	オリエンテーション 担当患者紹介	視覚訓練 視覚訓練室	住宅改修訪問 指導 総合相談室	心理訓練 心理訓練室	リハ科外来
午後	通所リハビリ リハビリテーション 総論	HAL 歩行訓練	運動負荷テスト (循環器内科) ボトックス(外 来)	調理訓練 (OT 室)	更生相談所 補装具判定
W2	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
午前	中間総括(医局)	PT 訓練 理学療法室	OT 訓練 (OT 室)	運転技能検査 (OT 室)	訪問リハビリ 通所リハ棟
午後	認知症外来見学	言語療法 言語訓練室 2	更生相談所 車椅子判定見 学	(レポート作 成)	褥瘡回診 ・NST 総括 レポート提出

リハビリテーション医学選択制臨床実習評価項目

- A:目標を達成した
- B:目標に近い
- C:目標に遠い

リハビリテーション診断学（障害学）の基礎知識

	自己評価	指導医評価	指導医サイン	年月日
--	------	-------	--------	-----

1.障害学における階層的（機能障害、能力障害、社会的 不利）問題を学んだ。				
2.障害学の病態と発生メカニズムを学んだ。				

診断と検査

	自己評価	指導医評価	指導医サイン	年月日
1.障害評価における評価法の適応とその解釈について 学んだ				
2.リハビリテーション医療における理学所見のとり方と 異常所見について学んだ。				
3.疾患と障害に関する画像診断法と異常所見について学 んだ。				
4.嚙下機能検査（VF、VE）の手技と所見について理解し た。				
5.重心動揺計測、歩行分析など動力的検査の適応、所 見、方法について学んだ。				
6.電気生理学的検査（筋電図、神経伝導速度、誘発筋電 図）、の適応、所見、方法について学んだ。				
7.高次脳機能検査の適応、所見、方法について学んだ。				

リハビリテーション医療臨床知識

	自己評価	指導医評価	指導医サイン	年月日
1.障害評価に基づいたリハビリテーション処方について学ん だ。				
2.リハビリテーション処方および訓練に際してのリスク管 理について理解した。				
3.患者およびその家族への説明と同意について理解した。				
4.補装具あるいは義肢、福祉関連機器の処方と作製の流れに ついて学んだ。				
5.障害評価、リハビリテーションカンファレンスを通じたゴ ール設定について学んだ				
6.急性期、回復期、維持期のリハビリテーションの流れと役 割について理解した。				

脳神経外科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

- 1) 脳血管障害、頭部外傷などの救急患者の処置法および手術法を理解する。
- 2) 手術症例の診断、術前術後管理および手術を理解する。
- 3) 患者およびその家族と接し、治療を受ける側の心理を理解する。
- 4) 卒後研修に役立つ知識、技能、態度を身につける。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 選択制臨床実習の受け入れ人数 同一時期に2人を超えないこと
- 2) 医師としての基本的な心構え
 - ・医師としての心構えを理解し、節度ある身なり、態度がとれる。
 - ・患者、家族との適切な接遇の重要性を理解する。
 - ・医療スタッフと協調、協力が円滑にできる。
 - ・患者の個人情報等を守秘できる。

学外臨床実習について

脳神経外科は1ターム2週間または4週間の選択が可能です。学外の実習病院先については、可能な限り希望を考慮します。

1日目：オリエンテーション

2日目以後：手術・検査への参加・見学、病棟回診・処置の補助

外来診察の見学・補助、カンファレンスへの参加など

(詳細は各施設のスケジュールを参考にしてください)

学外実習内容

大学病院での実習をベースとしつつ、大学病院では経験することが少ない一次・二次救急を中心とした臨床に積極的に参加してもらいます。

学外実習病院の基本情報

- 1) 病院名、診療科名
- 2) 病院長、学外実習指導責任者
- 3) 受け入れ学生人数
- 4) 病院の特徴
- 5) 実習方法の方針

- 1) 名古屋市立東部医療センター 脳神経外科
- 2) 病院長 村上信五、 学外実習指導責任者 金井秀樹 (副院長)
- 3) 1人/1ターム(1週間)
- 4) 名古屋市千種区にある病床数 498 床の急性期医療センターであり、「救急医療及び心臓血管疾患、脳血管疾患に対する高度専門医療」をはじめとした多くの医療機能を提供しています。当院は、「断らない救急に力を入れる総合病院」として高度・専門医療や救急医療など病院機能をより一層向上させるため、2014 年度末には「救急・外来棟」が開棟しました。2018 年 2 月には、名古屋市内で 7 施設目となる「救命救急センター」の指定を愛知県から受け、三次救急に益々注力しています。救急搬送件数は年々増加して 2019 年は約 7,900 件余りとなっています。2019 年 8 月末には新病棟が竣工し、2020 年から新病棟での入院診療が開始されています。
- 5) 常勤スタッフ 4 名 (脳外科専門医)、後期研修医 1 名で、24 時間 365 日、神経救急に携わっています。治療対象とする主な疾患は、急性期の脳血管障害、外傷性疾患です。年間 200 例前後の手術・血管内治療を行っています。短期間の選択実習では、主に急性期の脳血管障害および外傷性疾患について、主治医、担当医らとともに、その初療から一連の検査・治療 (血管内治療や手術) に積極的に関与していただき、各疾患の病態をより深く理解していただくことを目標にしています。当科の実習を通じて、各疾患に対する治療が実際にどのような流れで進んでいくのか、指導医らとともに **discussion** しつつ、脳外科臨床の実際について基礎、概要について学ぶことができます。尚、当直、宿舎の提供はありません。一週間の実習スケジュールは以下の通りです。

	月	火	水	木	金
午前	8:30～ 英文雑誌抄読会、 入院症例検討、 病棟回診、処置 外来診察	病棟回診, 処置 外来診察	病棟回診, 処置 外来診察	病棟回診, 処置 外来診察	定期手術 病棟回診, 処置 外来診察
午後	13:00～血管撮 影・血管内治療	検査、臨時手術 16:30～手術症例 カンファランス	13:00～血管撮 影・血管内治療	13:30～病棟合同 カンファランス	定期手術

(血管内治療を含む緊急手術には常に対応できる体制を整えていますので、その際には、上記の予定以外に随時、参加することが可能です。)

- 6) 集合場所：初日は、8 時 45 分、救急外来棟 4F,管理課 (臨床研修センター担当、鈴木) にお越しください。

- 1) 知多厚生病院 脳神経外科
- 2) 水野志朗院長、福島庸行(脳神経外科代表部長、診療協同部長)
- 3) 1人
- 4) 平成21年8月より外来診療棟が新築開棟され、NEC電子カルテ、80列CT、1.5T MRI、十分な床面積の内視鏡室、脳・心臓カテーテル検査治療に対応した血管撮影装置、機能的な手術室など充実した医療設備を備えます。脳神経外科の常勤医は水野院長を含めて令和2年9月現在で4人です。初期研修医の研修の特長を紹介します。各科・各専門職の垣根を越え、病院全体がひとつのチームとなって研修医を育てる環境にあります。各科のローテーションは自由度が高く、研修医の要望を取り入れた主体的なプログラムで研修をすることができます。また当院では篠島診療所にて「離島医療」を経験することができ、さらに名古屋市立大学との連携で専門医療の研修を可能としているのも特長です。
- 5) 手術室、病棟、外来で診療チームに加わり、可能な行為については実践、協力していただきます。当直は、副直として可。院内に学生用宿泊施設あり。
- 6) 研修日程：平日の月曜から金曜まで
初日集合場所：8:30 3階医局ラウンジ
1日目 病院案内と回診見学。救急搬送患者があれば診療見学。
2-4日目 午前中は外来見学または回診見学。救急搬送患者があれば診療見学。
午後は検査または手術があれば見学。またはリハビリテーション見学。
希望により当直見学。
5日目 総括と意見交換。

- 1) 豊川市民病院、脳神経外科
- 2) 松本隆院長、実習指導責任者；渡邊隆之（脳神経外科主任部長）
- 3) 2人
- 4) 愛知県豊川市にある地域の中核病院（527床）で、豊川市を中心に東三河北部を含む25万人前後の人口をカバーする三次救急病院です。
初期研修医は、1学年10数名で形成し、1) 自由闊達な土壌の上で、厳しさと優しさを追求、2) 「地域住民の健康を守る」という気概、3) 研修修了者から国際的に通用する臨床医の輩出、をモットーに日夜研鑽に励んでいます。高いレベルの初期臨床研修を受けながら、自身のQOLや福利厚生も充実し、厳しいながらも楽しく研修医生活を送っているようです。脳神経外科に関しては、初期研修医のローテートや後期研修の専攻医とも、早い時期から実践を重視したトレーニングを行い、後期研修3年間が終了する時には、疾患管理全般や基本的脳外科手術に習熟し、脳動脈瘤クリッピング、脳腫瘍摘出術など脳神経外科の到達点ともいふべきmajor手術や、最近注目度を増している血管内手術も執刀医として数多く経験できるようプログラムを運用しています。業務はハードですが、自身のQOLを充実させるため、on/offをはっきりさせているのも当科の特徴です。

診療内容に関しては、脳卒中や頭部外傷といった救急疾患を中心に、脳腫瘍の手術なども積極的に行っています。上級医もそれぞれ専門領域を分担することで、脳卒中の外科手術、血管内手術、内視鏡手術、頭蓋底手術、ナビゲーションを用いた先端的治療など各分野ともレベルの高い診療を実践しています。現在は、常勤医 5 名（病院長含む）で年間 200 例超の手術を行っており、そのうち 70 例前後はいわゆる **major** 手術といわれるものです。専攻医から各領域の専門医まで、10 年後 20 年後の日本の中心医師として活躍できるような人材育成環境を整えています。

5) 手術室、検査室、病棟、外来などで診療チームに加わり、可能な行為については実践、協力して頂きます。空いた時間で、机上での縫合練習（肉眼下や顕微鏡下）や、主に手術ビデオを用いた講義なども行います。教科書的な内容より、実臨床を重視した実習を目指しています。希望者は近隣のビジネスホテルでの宿泊も可能です。

6) 集合場所は病院内のキャリア支援センター、集合時間は朝 8 時 30 分です。

1) 蒲郡市民病院 脳神経外科

2) 中村 誠 院長、小出和雄（脳神経外科第一診療部長）

3) 1 人/回

4) 蒲郡市にある地域中核病院。脳血管内手術、放射線手術、内視鏡手術、脊髄・脊椎手術を含め、脳神経外科全般の診療を自己完結的に行っている。医師は 4 名で全員が脳神経外科専門医を取得しており、他に神経内視鏡技術専門医を 2 名、脳卒中専門医を 3 名、脳神経血管内治療専門医を 3 名が取得している。当院脳神経外科の特徴は①待機、当直は経験に関わらず、受け持ち患者は **first touch** した医師が担当する ②患者の診療は担当医師が行い、実力にしたがって、指導・援助・助言を上級医が行う ③全員の医師が脳神経外科全ての領域の治療を行う

初期研修の特徴は①屋根瓦方式ではなく、部長、医長を含め、全ての医師が研修医を指導する。②見学・知識よりも技術の習得を重視する。③研修している診療科に拘わらず、必要な技術を実践させる。④診療の全責任を上級医・指導医が負う。

5) 手術室、病棟、外来で診療チームに加わり、可能な行為については実践、協力していただきます。当直は、副直として可。学生用宿泊施設あり。

(月、水、金)午前中 回診 (火、木)中心に脳血管撮影 手術

他、随時必要に応じて、救急外来診察など

6) 研修初日は 8 時半に病院事務室へお越しく下さい。

1) 中東遠総合医療センター 脳神経外科

2) 宮地正彦 院長、市橋鋭一(副院長、脳神経外科統括診療部長、脳血管内治療センター長)

3) 4 人

4) 地域の中核病院。常勤医師5人。東海道新幹線掛川駅、東名高速道路掛川IC から車で5分とアクセス良好。静岡県中東遠地域47万人の東部の基幹病院（500床）。当科では、脳から脊髄まで、中枢神経系に関する領域の疾患を一貫して診断、治療できる体制があります。研修医の臨床研修の特長を紹介する。主要な科のスタッフが全て揃い、医師としての基本的手技の習得とともに、充実した急性期医療の研修ができます。救急部門は、救急専門医の指導下で研修を行い、循環器疾患と脳血管障害に対しては、それぞれ専門医によるチームが24時間体制で対応し、充実した研修ができます。初期研修（2年間で28人）後、名市大カリキュラムに準じた脳神経外科専修医では、あらゆる分野の指導医がサブスペシャリティー取得を前提とした指導を行います。

5) 手術室、病棟、外来で診療チームに加わり、診察の仕方、検査方法、検査計画、治療計画の進め方を学ぶとともに、週一回のカンファレンスに参加してもらいます。可能な行為については実践、協力していただきます。救急医指導下の救急当直、ICUの見学も可能であり、学生用宿泊施設の準備があります。

6) 実習スケジュール

月 水 観血的手術 火曜日 血管内手術 木曜日 カンファレンス
金曜日 脳血管撮影

小児科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

- 1) 病児のプロブレムを把握することができる。
- 2) 病児や家族への問診や診察法を習得し、病態生理解明のための情報収集ができる。
- 3) 収集した情報に重みづけをし、プロブレムの原因を説明する病態生理図を作成できる。
- 4) 病態生理図に基づいてプロブレム解決のための介入や評価プランを立てられる。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 選択制臨床実習の受け入れ人数
 - ・同一時期に4人を越えないこと。
 - ・学内専門実習と学外実習の選択性とする。
- 2) 基本的医師としての心構え
 - ・医師に相応しい服装・態度に加え、病児に過剰な緊張感を与えないスタンスを心がける。
 - ・担当指導医に対して真摯な態度を守ること。
 - ・当該病院の多職種にわたる医療スタッフとの情報共有と連携を常に心がけること。
 - ・病児および家族に臨床実習生であることを明示し、誠意を持って接すること。
- 3) 基本的診察法

病児やその家族が病状をどのように捉え、どのようなことを心配し、どのような検査・処置を希望されているかなど、病児および家族の立場に立って、短期・中期・長期的なプロブレム解決策を探索するように心がける。

 - ・指導医のもとで外来診療に参加し、予診・カルテ記載・診察・処置などを行う。
 - ・あいさつ・自己紹介を行ってから病児および家族に接する。
 - ・病児および家族の訴えをもとに診察・検査プランを考える。
 - ・小児特有の、言語に依存しない所見・情報収集のスキルを習得する。
 - ・得られた情報を吟味し、病態生理図を作成する。
 - ・病態生理図から考えられるプロブレム解決のための介入プランを立てる。
 - ・治療介入プランに至るまでの所見および考察を診療録に簡潔に記載する。
 - ・学生が電子カルテに記載するときは必ず学生自身のアカウントで記載を行い、担当指導医は記載事項を訂正・追加した上で承認をする。電子カルテ以外の場合は、学生自らが記載して署名し、担当指導医は記載事項を訂正・追加した上で署名をする。
- 4) 一般的検査

学生の参加は担当指導医の下、患者家族の承諾を得た上で行う。見学するだけでなく処置を体験できるよう指導する。以下の検査について理解し、データを評価したうえで診療録に記載する。

 - ・血液一般、生化学・血清学的検査、凝固機能、血液ガス、検尿、検便など
 - ・生理学的検査（心電図、心機能、呼吸機能、腎機能、脳波検査、ABR）
 - ・レントゲン検査（胸腹部単純撮影、消化管・尿路系造影検査、心臓カテーテル検査）
 - ・超音波検査（心臓・腹部・頭部）
 - ・CT、MRI検査
- 5) 病棟管理

学生は副主治医として患者を受け持つ。主治医や診療チームとの討論やカンファレンスにおいて自分の考えをわかりやすく説明し、より良い検査や治療計画の作成に貢献する。

 - ・副主治医として病児やその家族から信頼されるよう努力し、担当した患者を回診する。
 - ・病児および家族の訴えをもとに診察・検査プランを考える。
 - ・小児特有の、言語に依存しない所見・情報収集のスキルを習得する。
 - ・得られた情報を吟味し、病態生理図を作成する。
 - ・病態生理図から考えられるプロブレム解決のための介入プランを立てる。
 - ・治療介入プランに至るまでの所見および考察を診療録に簡潔に記載する。

- ・薬物療法、輸液、栄養管理を含めた治療法について把握し、病状の変化を予測する。
- ・各種検査や処置に参加する。
- ・カンファレンス、研究会、学会などで症例を呈示する。

学外および学内（アドバンストコース・臨床研究コース）臨床実習について

学外実習における実習期間、実習時間、交通手段、実習中の事故、学生の健康診断書、既往歴、ワクチンの接種状況、その他の注意事項は名古屋市立大学医学部から示される学外実習要項に従う。希望者に対しては学内でも高度医療及び臨床研究に主体的に取り組む臨床実習を行うことができるよう配慮している。

学外および学内実習内容

学習内容は学内のものを基本とする。大学では経験の少ない一次・二次救急の症例を中心に学ぶが、外来や入院での患者と医師の関わりについても学習する。学内実習を選択する場合、神経・内分泌・アレルギー・血液腫瘍・循環器・新生児のサブスペシャリティにおける先端医療（入院症例）とそのフォローアップ（外来症例）について、M5 BSLよりも深く踏み込んだ多職種チーム医療を学ぶプログラムに参加する。

1. 学外実習病院の基本情報

- 1) 病院名、診療科名
- 2) 病院長、学外実習指導責任者
- 3) 受け入れ学生人数
- 4) 病院の特徴
- 5) 実習方法の方針
- 6) 実習スケジュール

1) あいち小児保健医療総合センター

2) センター長：服部 義、学外実習指導責任者：藤田直也（内科部長）

3) 1名

4) あいち小児保健医療総合センターは2001年11月にオープンした小児保健医療施設で、愛知県唯一の子どものための保健医療施設です。大きな特徴の一つは保健と医療を2本の大きな柱にしていることで、病院機能だけでなく、保健にも大きなウエイトを置いており、両者が連携してさらに両部門の機能を高めています。2016年 2月には救急棟（ヘリポート、小児ER、手術室7室、小児ICU 16床）がオープンし、当センターは東海三県唯一の『小児救命救急センター』です。2016年 11月に周産期部門（産科外来、産科病棟10床、NICU 12床）がオープンしました。現在、全28科で24時間365日態勢で小児患者とそのご家族のために診療を行っています。

5) 多彩な専門疾患に対する集学的アプローチを体感していただきます。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	休診日	休診日
火曜	8:20 防災センター集合 9 時 病棟回診 11 時ごろ ER	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド
水曜	8:30 PICU ラウンド 9 時 病棟回診	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド

	11 時ごろ ER	
木曜	8:30 PICU ラウンド 9 時 病棟回診 11 時ごろ ER	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド
金曜	8:30 PICU ラウンド 9 時 病棟回診 11 時ごろ ER	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド
土曜	8:30 PICU ラウンド 9 時 病棟回診 11 時ごろ ER	13 時 ER 16 時 夕方病棟ラウンド

2) 一宮市立市民病院 小児科

2) 院長：松浦昭雄、学外実習指導責任者：三宅能成（小児科部長）

3) 1名

4) 本院は、愛知県の西北部に位置し、地域の中核病院として質の高い医療の実践を目指している。許可病床数は594床（一般病床 570床、結核 18床、感染症 6床）である。小児科医は常勤15名（後期研修医 6名を含む）で、小児病棟44床、NICU 9床、GCU 21床（現在は12床運用）の定床を持ち、年間各々1200名前後、320名前後の入院患者を受け入れている。特にNICUは産科とともに周産期医療に力を注いでおり、尾張西部地区の地域周産期母子センターとしての役割を担っている。小児病棟では、急性疾患をはじめ、喘息・腎臓疾患・代謝疾患・心身症などの慢性疾患も多数入院しており、病棟内には院内学級（小学校・中学校）を併設している。また当院は3次救急病院に指定されており、小児救急にも対応している。未熟児医療から思春期医療（さらにはトランジション）まで、高度医療・患児および家族に寄り添う医療を研修できる施設です。

5) 小児病棟では、急性疾患に加え、悪性腫瘍、喘息、腎臓疾患、心身症などの慢性疾患について学ぶことができる。院内学級（小学校及び中学校）が併設されているため、慢性管理における環境整備についても研修可能である。また当院は3次救急病院に指定されているので小児救急をはじめとして、未熟児医療などの高度医療、患者・家族の気持ちを考えた対応などを学ぶことができる。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8:15 カンファレンス 9 時 回診・一般外来	14 時 専門外来 17:30 小児病棟カンファ
火曜	8:15 カンファレンス 9 時 回診・一般外来	14 時 専門外来
8:15 カンファレンス	8:15 カンファレンス 9 時 回診・一般外来	14 時 予防接種外来 18 時 準夜帯 ER 当直実習

木曜	8:15 カンファレンス	14 時 1 か月健診
	9 時 回診・一般外来	17 時 NICU カンファ・抄読会
金曜	8:15 カンファレンス	14 時 専門外来
	9 時 回診・一般外来	17 時 まとめ・反省会

3) 愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院 小児科

2) 院長：奥村 明彦、学外実習指導責任者：小久保 稔（小児科部長）

3) 1名（他の学年と重ならないこと）

4) 当院は愛知県の西端に位置し、海部地区および三重県の桑名市を医療圏にしています。名古屋駅からのアクセスがよく、近鉄で弥富駅まで15分程度でつき、そこから病院までは徒歩10分程度です。病床数540床、診療科目31科目とほとんどの診療科をカバーしています。

5) 研修として内科はすべてローテートでき、小児科、産婦人科、外科、麻酔科も必修になっており、まんべんなく研修できます。救急に関しては、日中は救急専門医が常駐し、手厚い指導を受けられ、症例もCommon diseaseから3次救急まで幅広く経験することができます。当直明けにはその日の症例を振り返るカンファがあり、夜間の症例をfeed backしています。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8 時 30 分 オリエンテーション(受け持ち患者決定) 9 時 一般外来	13 時 30 分 発達外来
火曜	8 時 30 分 部長回診	13 時 病棟回診 15 時 30 分 予防接種外来
水曜	9 時 病棟回診	13 時 30 分 抄読会
木曜	9 時 病棟回診	13 時 30 分 1ヶ月健診 15 時 30 分 予防接種外来
金曜	8 時 30 分 部長回診	13 時 症例カンファレンス 16 時 30 分 周産期カンファ・まとめ・反省会など

適宜、帝王切開、新生児回診、搬送などに参加していただきます。

4) 蒲郡市民病院 小児科

2) 院長：河邊義和（小児科）、学外実習指導責任者：渡部珠生（小児科部長）

3) 1名

4) 当科は常勤医師4名、非常勤医師7名。年間入院数は一般小児約800名、未熟児、病的新生児約130名。蒲郡地区唯一の小児科入院施設である。当然一次から二次まであらゆる疾患への対応が要求され、開業医との連携も密である。

5) 難病など扱う大学病院などではなかなか実習できない、救急を中心としたプライマリーケアと小児メタボ対策やアレルギー疾患への対応など、健康小児科学の一端を幅広く修得していただけたら幸いとする。加えて専門的な分野では、アレルギー性疾患のみならず、低身長を始めとする内分泌疾患、循環器疾患、腎疾患などをしっかり勉強して頂けると思う。さらには子どもの心の問題がクローズアップされている今、自閉症や心身症の子ども達への対応も発達外来で勉強して頂きたい。現場で子どもたちと密に接して、小児科医の楽しさを

十分に味わっていただく予定である。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	9時 病棟開始、babyの診察、採血等 10時 一般外来	13時半 予防接種、そのまま 専門外来 17時半 症例検討会 続いて 抄読会
火曜	9時 病棟開始、babyの診察、採血等 10時 専門外来	14時 専門外来
水曜	9時 病棟開始、babyの診察、採血等 10時 一般外来	13時 アレルギーカンファレンス 13時半 乳児健診 14時半 アレルギー外来
木曜	9時 病棟開始、babyの診察、採血等 10時 一般外来	13時半 予防接種 14時半 心臓外来 18時 周産期カンファレンス
金曜	9時 病棟開始、babyの診察、採血等 10時 一般外来	14時半 専門外来

5) 岐阜県立多治見病院 小児科

2) 院長：近藤泰三、学外実習指導責任者：荒川 武（小児科部長）

3) 1名

4) 岐阜県東濃地域の基幹病院で全575床。結核病床、精神科病床あり。基幹病院ならではの多種多様な症例があります小児科スタッフ10名（小児科専門医8名）＋毎月初期研修医1名。NICU 9床、GCU 11床 小児科23床で24時間患者受け入れをしていますが、小児科病棟の入院患者数は季節変動大で、病床利用率50%～80%。NICUは利用率80%以上です。食物負荷試験は毎週行っています。

5) 地域医療の要として、プライマリケア・救急医療・新生児医療・在宅医療など、幅広く研修することができる。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8時半 ガイダンス 9時 一般外来	13時 1か月検診 15時 カンファレンス
火曜	9時 一般外来	14時 心臓外来
水曜	9時 病棟回診→一般外来	14時 内分泌外来 またはアレルギー外来 (選択)
木曜	7時半 産科小児科カンファレ	14時 慢性外来

	ンス(隔週) 8時半 NICU 回診→ 一般外来	
金曜	9時 一般外来	13時 カンファレンス→ NICU 検診

* 学生に PHS 貸与。イベントあれば声かけます
 イベント=帝王切開・新生児搬送・食物負荷試験・救急車・その他 随時 ミニ講義

6) 小牧市民病院 小児科

2) 院長：谷口健次、学外実習指導責任者：田中秀典（小児科部長）

3) 1名

4) 当院は尾張北部の3次救急を担う病院です。救急車受け入れも県内で有数です。尾張北部だけでなく名古屋市内からの救急患者も受け入れています。2019年5月には新病院での診療が開始されます。地域の医療機関から多数の患者さんをご紹介いただいています。common disease から3次救急として来院する重症患者さんまで幅広い経験をすることができます。新病院ではNICUも増床し、新生児医療にも一層力を入れています。

5) 軽症から重症の幅広い範囲の様々な小児疾患を経験することが可能である。地域周産期母子医療センターに指定されておりNICU入院児のケアも学ぶことができる。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	9時 一般外来 10時半病棟回診	14時 乳児健診
火曜	9時 一般外来 10時半病棟回診	14時 専門外来
水曜	9時 一般外来 10時半病棟回診	14時 乳児健診 16時 カンファレンス
木曜	9時 一般外来 10時半病棟回診	14時 予防接種
金曜	9時 一般外来 10時半病棟回診	14時 専門外来 16時 まとめ・反省会

7) 市立四日市病院 小児科

2) 院長：一宮 恵、学外実習指導責任者：坂 京子（小児科部長）

3) 1名

4) 総病床数は568床。三重県北部（北勢地域）の中核病院として、地域支援病院、救急救命センター、総合周産期母子センター等の指定を受けています。小児科常勤医11名（内、女性医師は4名）、小児科病床数：43床（NICU9床、GCU12床、一般小児22床）、小児科入院患者数は年間約1100名（内、NICU病棟への入院は270名程）です。四日市市内だけでなく北勢地域全域から救急搬送や紹介があり、小児の急性疾患から慢性疾患まで症例は非常に豊富です。NICU入院児の約3/4が院内出生（母体搬送を含む）ですが、院外からの要請に対しては新生児搬送も行っています。少子化で小児患者数は全体的には減少傾向にあります。医療の進歩によ

り当院でも特殊治療や医療的ケアを必要とする児は年々増加しています。

5) 地域での小児医療の現状を実感していただくには良い病院です。ぜひ実習や見学にお越しください。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8:30 朝ミーティング 8:45 NICU 採血 病棟回診・チームカンファ 外来	14:00 小児病棟カンファ・回診 15:30 予防接種
火曜	8:00 抄読会 8:45 NICU 採血 病棟回診・チームカンファ 外来	14:00 乳児検診 16:00 周産期カンファランス(隔週)
水曜	8:30 朝ミーティング 8:45 NICU 採血 病棟回診・チームカンファ 外来	14:00 外来心エコー 病棟回診
木曜	同上	14:00 NICU 外来 病棟回診
金曜	同上	14:00 NICU カンファ・回診 17時 総括

8) 聖隷浜松病院 小児科・総合周産期母子医療センター新生児科

2) 院長：岡 俊明、学外実習指導責任者：松林 正（小児科部長）、大木 茂（新生児科部長、総合周産期母子医療センター長）

3) 一般小児コース1名・新生児コース1名

4) 当院は地域医療支援病院で、地域の医療機関との連携による安全で良質な医療の実践を目指しています。一般病棟 628 床、救命救命センター（ICU 12 床／救命救急病棟 18 床）、総合周産期母子医療センター（MFICU 15 床／NICU 21 床／GCU 20 床）、小児病棟 36 床で構成されています。運営方針として下記の 5 点を挙げています：望まれる良質な医療を提供します、地域社会とのつながりを大切にします、良い医療人を育てます、働きやすい環境を作ります、健全な経営を継続します。2018 年には JCI（国際的医療機能評価機関）、2017 年には日本医療機能評価機構指定病院の認証を取得しています。周産期部門は静岡県の総合周産期母子医療センターに指定されており、地域の周産期医療機関、療育機関、行政機関との連携による安全で良質な医療の実践を目指しています。年間分娩数は 1800 名程度、新生児専用ドクターカーを持ち年間 280 回程度の緊急出動があります。

5) 新生児および小児の高度専門医療に加え、救命救命センターの指定を受けた ER を有するため、1 次救急から 3 次救急までの実習が可能である。新生児コースでは多職種チームによる新生児高度救急医療に加え家族を支える Family centered care、well-baby care と育児支援、NICU 退院児の健やかな成育を目指すフォローアップなどに触れることができます。

6) 下表参照

A: 一般小児コース

	午前	午後
月曜	8 時 カンファレンス 9 時 病棟回診、一般外来	14 時 カンファレンス 14 時 専門外来、乳児健診、予防接種 17 時 病棟回診
火曜	8 時 カンファレンス 9 時 病棟回診、一般外来	14 時 カンファレンス 14 時 専門外来

		17時 病棟回診
水曜	8時 抄読会、カンファレンス 9時 病棟回診、一般外来	14時 カンファレンス 14時 専門外来、乳児健診、心カテ 17時 病棟回診
木曜	8時 カンファレンス 9時 病棟回診、一般外来	14時 カンファレンス、心カテ 17時 病棟回診
金曜	8時 カンファレンス 9時 病棟回診、一般外来	14時 カンファレンス 14時 専門外来、乳児健診、予防接種 心カテ 17時 病棟回診

B: 新生児コース

	午前	午後
月曜	8時半 申し送り 9時 病棟回診、新生児回診	12時半 カンファレンス 14時 乳児健診、病棟回診 17時 申し送り
火曜	8時半 申し送り 9時 病棟回診、新生児回診	12時半 多職種合同カンファレンス 14時 フォローアップ外来、病棟回診 17時 産科新生児科合同カンファレンス
水曜	8時半 申し送り 9時 病棟回診、新生児回診	12時半 カンファレンス 14時 医ケア児外来、病棟回診 17時 申し送り
木曜	8時半 申し送り 9時 病棟回診、新生児回診	12時半 カンファレンス 14時 フォローアップ外来、病棟回診 17時 申し送り
金曜	8時半 申し送り 9時 病棟回診、新生児回診	12時半 カンファレンス 14時 病棟回診 17時 申し送り (17時半 有志輪読会)

* 昼休みを使って週1回程度不定期に勉強会（学会報告、疾患学習、若手からの企画提案、…など学術的なものに限らずなんでもありのプレゼン大会）

* 新生児救急出動、緊急分娩立会いなどは日常的にあり帯同可能。

9) 聖隷三方原病院 小児科

2) 院長：荻野和功 学外実習指導責任者：木部哲也（副院長・小児科部長）

3) 1名

4) 浜松市北部に位置する地域拠点病院。病床数は934床（一般810床、精神104床、結核20床）と静岡県内で最大であり、超急性期から慢性期まで幅広く対応している。ほとんどの診療科が揃っており、ドクターヘリを擁する高度救急救命センター、ホスピス、おおぞら療育センター（重症心身障害施設）、嚥下リハビリなど他にはあまりない施設や部門を擁する。初期研修医（一学年14名）は全国津々浦々から集まり、研修医間のつながりが強い。

5) 地域からの紹介患者が多くプライマリケアから高度専門医療までバランスよく経験できる。

6) 下表参照

	午前	午後
--	----	----

月曜	8時25分 申し送り 9時 一般外来、病棟	15時 カンファレンス
火曜	8時25分 申し送り 9時 一般外来、病棟	時間外外来、病棟 16時45分 申し送り
水曜	8時25分 申し送り 9時 一般外来、病棟	時間外外来、病棟 16時45分 申し送り 17時15分 周産期カンファレンス
木曜	7時45分 小児神経勉強会 8時25分 申し送り 9時 一般外来、病棟	時間外外来、病棟 16時45分 申し送り
金曜	8時25分 申し送り 9時 一般外来、病棟	時間外外来、病棟 16時30分 NICU回診

10)大同病院 小児科

2) 院長：小谷勝祥 学外実習指導責任者：水野美穂子（副院長）

3) 2名

4) 結核病床を含む404床の中規模急性期病院です。「地域最高の包括ケアネットワークを確立するために高度急性期医療を追求する」が病院の理念です。学生から初期研修医、専攻医までの一連の教育を重視していること、各診療科の垣根が低く相談しやすい雰囲気であることが病院の特徴です。小児科は年間3000名近い入院患者があり、NICUやICU管理が必要な急性期の重症患者、気管支喘息などアレルギー疾患や様々な感染症など一般的な小児疾患以外に小児在宅医療など幅広い分野の症例を経験することができます。特に脳腫瘍など悪性腫瘍の終末期を支える医療などは当院以外ではあまり行われていません。医学生は student doctorとして初期研修医1年目の医師とほぼ同じプログラムで研修します。学生であっても「医師」としての自覚をもって実習を行っていただきたいと思います。

5) 実習戦略として、a 基本的な診察所見の習得～喘鳴など肺野の聴診、神経所見など全身の診察を行う、b 静脈採血 点滴 気管内挿管などの基本手技をシミュレーターを使って習得する、c 胸部単純Xp・CTの読影・超音波診断（心臓 腹部）などの画像診断の基礎知識を身につける、d 研修医、上級医とともに患者の診察を行う（Shadowing）、e 在宅で人工呼吸器管理をおこなっている児の訪問診療を経験することを掲げている。

6) student doctor のライセンスで実習に臨むので初期研修医1年目に準じた内容で実習を行う。病棟：回診（診察 バイタルチェック カルテ記載 PEWS記載）上級医報告、検査付き添い 鎮静付き添い、手技：吸痰（喀痰培養）耳鏡で診る 胃管挿入 気管カニューレ 胃瘻挿入 帝切（新生児蘇生）NICU GCUで超音波検査 ヒール採血など、カンファレンス：多職種カンファレンス 退院支援カンファ参加、救急：救急センター患者診察 カルテ記載 上級医報告 治療方針決定、クリニック：予防接種センター 注射も許可されている（午前中の処置 鼻水吸引 ネブライザー 患者抑制、午後乳児健診 計測 お母さんの話を聴く、一般外来 問診をする、訪問診療に同行してカニューレ交換 経管栄養の挿入 胃瘻交換を行う）。

第1週	月	火	水	木	金
午前	病棟	病棟	病棟救急	クリニック	病棟

昼 14時～ 第2週	岩井 予防接種 佐伯	水野 訪問診療 救急 南木	浅井 アレルギー 外来 安井	水野 帝切/新生児蘇生 病棟 NICU 中嶋	加藤 1か月検診 岩井
午前 昼 14時	病棟 上野 救急 中根	クリニック 田村 訪問診療 在宅診療部 水野	病棟 中根 クリニック 2週間健診 田村	クリニック 浅井 帝切/新生児蘇生 病棟/新生児 中嶋/加藤	病棟 水野 総括 病棟救急 水野

上記のように担当医を決めている。(一例)

注1) 毎朝8時30分から小児科病棟(B4)にて医師、看護師の合同ミーティングがあり、前日当直帯に入院した患者の情報、当日の検査予定、重症患者の情報共有を行い、スケジュールの確認を行います。

注2) 初日は最初に研修医からカルテの使い方、感染管理、バイタルチェック(pews)のオリエンテーションがあります。

11) 豊橋市民病院 小児科

2) 院長：加藤岳人、学外実習指導責任者：小山典久（小児科第一部長）

3) 1名

4) 一次医療から三次救急、新生児、血液腫瘍、アレルギー、内分泌、腎臓、心臓疾患といった三次医療まで、また、生まれたての超低出生体重児、さらには18歳を過ぎた慢性疾患の患者さん、在宅医療の患者さんまで、一つの病院であらゆる小児疾患に高いレベルで対応しているのが当院の特色です。そのような視点で考えると全国でも他に例を見ないほど特殊な病院といえるかもしれません。また、若手が多く活力があふれています。忙しいのは否めませんが、そんな活気のあふれている現場に触れて、一緒に診療に加わってみたいと考えます。

5) 本院での研修は、指定された指導医のもとで実地医療を学ぶことと、日々行われる小児科カンファレンス、周産期カンファレンス等での討論を通して、最新医療情報、医師としての倫理観、患者対応を習得することを目指している。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8時30分 カンファレンス オリエンテーション 病棟回診、 一般外来	14時 新規入院患者処置 専門外来(内分泌、腎臓) 午後からの救急患者の対応 17時30分 症例検討会
火曜	8時10分 カンファレンス 病棟回診、入院患者処置	14時 乳児健診、発達障害 17時30分 抄読会(朝の週もあります)
水曜	8時30分 カンファレンス 病棟回診、入院患者処置	14時 専門外来(アレルギー)、午後からの救急患者の対応、新規入院患者処置など 18時 準夜帯 ER 当直実習
木曜	8時30分 カンファレンス 新生児センター回診、NCPR、帝王切開・分娩立ち会い	14時 入院患者処置、専門外来(心臓) 18時 産科との合同カンファレンス
金曜	8時30分 カンファレンス 食物負荷試験 病棟回診	14時 専門外来(神経、血液) 17時30分 症例検討会、まとめ・反省会

スケジュールは学生さんの希望に添って微修正可能です。

12)名古屋市立西部医療センター 小児科

2) 院長：桑原義之、学外実習指導責任者：鈴木 悟（センター長）

3) 1名

4) 全500床の病院で、うち小児病棟44床、NICU/GCU 36床 をしめています。そのためか新生児の入院が半数あり、バランスとしては新生児の疾患が多い傾向にあります。しかし小児科としては、アレルギー、神経、代謝、内分泌、腎臓、遺伝、血液腫瘍、新生児 の専門医がおり、多彩な患者さんを一緒に診ることができます。小児救急は2次救急までで患者数はさほど多くはありませんが、時間内にも来院があります。また小児外科もあるため小児外科関連の疾患も勉強できます。

5) 小児2次救急への対応や日常の疾患に対する処置、検査および家族への対応を診療現場から学習する。

6) 下表参照

	午前	午後
月曜	8:45 カンファ	救急外来
	9時 グループ回診	16:45 回診+カンファ
火曜	8:45 カンファ	救急外来
	9時 グループ回診	
水曜	8:45 カンファ	1か月健診
	9時 グループ回診	16:30 抄読会
木曜	8:45 カンファ	12:30 カルテ回診
	9時 グループ回診	救急外来
金曜	8:45 カンファ	救急外来
	9時 グループ回診	17時 まとめ・反省会

13)名古屋第二赤十字病院 小児科

2) 院長：佐藤 公治、学外実習指導責任者：石井 睦夫（第一小児科部長）

3) 1名（受け入れ態勢により小児1名・NICU1名まで可）

4) 本院の全ベッド数は812床で、小児病棟のベッド数は36床、NICUは35床、小児科の常勤医師数は23名です。小児の年間外来患者数30200人、年間入院数2300人で、小児病棟36床に加え、救急病棟（HCU）、ICUへの入院もあり、多くの小児科疾患を経験することができます。外来診療は、循環器、アレルギー、腎臓、血液、神経、精神、内分泌、NICUフォローアップ、遺伝、の専門外来があります。入院診療は、循環器、アレルギー、腎臓、血液の4グループにわかれ、指導医のもと各専門疾患に加え、すべての小児疾患の診療に当たります。腎臓グループは、腎臓病総合医療センターの小児部門に位置し、小児腎移植の内科的治療、血液浄化を含めた腎泌尿器疾患すべてについて、国内有数の治療実績を誇ります。NICUは、名古屋市東部地域をカバーする総合周産期母子医療センターです。NICU15床GCU20床を有し、年間入院数450人（うち搬送入院70人）、1500g未満50人と、愛知県下有数の規模を誇り、多くの新生児疾患を経験することができます。「赤ちゃん達だけでなく、面会に来られるご家族や働くスタッフにとっても優しい光に包まれたNICU」をコンセプトとして、2013年4月にNICUを改築しました。

5) 救急救命センターの受診者数は年間39000名で、そのうち6200名を小児が占めており、あらゆる種類の小児救急疾患の診療と集中治療を研修する事が可能です。集中治療室ICUは23床で、うち2床はPICUです。

6) 下表参照

A：一般小児コース

	月	火	水	木	金
7:30-8:00	採血 受持患者情報の把握				
8:00-9:00	チーム回診 (火・金 症例検討会 月 1回レントゲンカンファレンス)				
9:00-12:00	病棟 一般外来 (1回/週) 救急外来 (随時) (火; 腎生検 水; 心臓カテーテル検査 月木; 食物負荷テスト)				
13:00-17:00	病棟 救急外来 (随時) 専門外来 月; 腎臓 火; 血液 内分泌 水; アレルギー 木; 循環器 月木; 小児精神 金; 神経 NICU フォローアップ 予防接種・乳児健康診断 隔週水 (水; 膀胱造影 金; 膀胱内圧測定)				
16:00-17:00	チーム回診 最終日 16:30- 実習生プレゼンテーション				
17:30-		抄読会 症例検討会			

B: 周産期コース

	月	火	水	木	金
7:30-8:00	採血 当直者からの申し送り 受持患者情報の把握				
8:00-9:00	水; 周産期カンファレンス 木; NICU 抄読会				
9:00-12:00	NICU 一般外来 (1回/週) 帝王切開			帝王切開	
13:00-17:00	NICU 専門外来 (同上) 予防接種外来・乳児健康診断 (同上)				
	総回診	帝王切開		帝王切開	
16:00-17:00				症例検討会	
17:30-		抄読会 症例検討会			

14) 学内実習 (名古屋市立大学病院 小児科) アドバンストコース・臨床研究コース

2) 院長：小椋祐一郎、実習指導責任者：岩田欧介 (准教授)

3) 1名

4) 神経・内分泌・アレルギー・血液腫瘍・循環器・新生児において、先端医療の実施・先端医療をさらに進化させるための臨床研究・基礎研究・疫学的研究を活発に主導するとともに、関連施設における臨床研究へのサポートや助言にも力を入れています。

5) 各サブスペシャリティ分野における先端医療 (入院症例) とそのフォローアップ (外来症例) に多職種チームの一員として従事し、情報収集・吟味・質の高い判断と治療プラン立案・修正のサイクルを回せるようにします。実習期間中に、心臓超音波・骨髄生検の実施介助と評価・アレルギー負荷テスト・ハイリスク新生児の入院計画立案とご家族への説明などを各種手技とともに実践していただきます。臨床研究コースでは、実際に病棟で行われている臨床研究に参加し、データ収集・解析・抄録作成・学会発表などを経験します。

6) 新生児チームは8:00, それ以外は8:50に集合し、臨床ミーティング・回診を行い、重症患者の診断治療方針をチームの一員として相談しながら決定・実施します。午後は超音波検

査・心血管カテーテル検査や負荷テストなどを計画・介助し、結果を診断や治療にどのように反映させるかの計画を立て、多職種による診療チームにプレゼンテーションし、計画を修正・決定します。臨床研究コースでは、診療チームに加わりながらも、すでに学内倫理審査を経て実施されている臨床研究に関して、ご家族への説明・計画準備・データ収集・結果の整理・統計学的解析・発見事項の整理と修正仮設の作成に従事し、臨床研究の基本を学ぶとともに、研究における論理的思考を臨床判断にフィードバックする方法を学びます。

どちらのコースにおいても、木曜14：00からの総回診に参加し、問題症例のプレゼンテーション及び討議を行います。17：00のチーム申し送り回診に参加し、原則として回診終了後に解散となります。学生の希望により、成果を学術集会や研究会で発表、もしくは論文化することができます。

小児科選択制臨床実習評価項目

小児科一般 評価項目

項 目	自己評価			指導医評価		
	A	B	C	A	B	C
基 本 的 診 察 法						
1)言語性・非言語性コミュニケーションにより必要な病歴を聴取できる。						
2)診察を通じてバイタルサインおよび身体所見を集めることができる。						
3)収集した情報を重みづけ・組み立て、病態生理とともに記述できる。						
4)病態生理の理解に基づき、問題解決のための介入プランを立案できる。						
5)多職種チームの一員として病態や方針を共有し、考えを伝えられる。						
検 査						
1) 検査の意味を理解し、最小限の侵襲で診断・治療・児の安全担保を可能にする検査プランを立て、説明することができる。						
2) 血液・尿などの検体検査を解釈し、診療チームに説明するとともに、診断治療に生かすことができる。						
3) 超音波などの画像検査を施行、あるいは画像診断や造影検査の結果を解釈し、診断治療に生かすことができる。						
4) 複数の検査所見と臨床所見および経過を総合し、児の病態生理の理解をより正確にし、プロブレム解消のための治療プランを作成することができる。						
5) 検査結果が示唆する仮説を整理し、診療チームに説明することができる。						
6) 病態予測が誤りである可能性、その場合考え得る仮説を提示できる。						
治 療						
1) 患児の病態に応じた輸液療法を具体的に、根拠を持って提示できる。						
2) 患児の病態に応じた感染症治療を具体的に、根拠を持って提示できる。						
3) 化学療法（抗ガン剤の投与方法・副作用）について理解する。						
4) 患児の病態に応じた循環管理を具体的に、根拠を持って提示できる。						
5) 患児の病態に応じた呼吸補助を具体的に、根拠を持って提示できる。						
6) 救急蘇生法（薬物療法・バギング・胸骨圧迫）を理解し、実施・介助で						
7) 清潔・不潔の概念を理解し、清潔操作ができる。						

精神科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

名古屋市立大精神科では、卒前教育（M4, M5, M6）と卒後初期研修（1 ヶ月以上の精神科ローテート）の一貫した教育で、身体科で出会う精神障害に適切に対処するために、主たる精神症状と基本疾患を知り、患者の悩みを受け止めることが出来るようになることを目指している。そこで、M6BSL では「心の病を理解するために、種々の医療現場での心の病の実態を知り、彼らと語り合うことが出来、彼らへの偏見をなくす」ことをGIO(general instructional objective:一般目標)として実習を行った。M6 選択制臨床実習で精神科を選択した学生には、M5BSL での実習内容を広め、深めてもらえるよう、積極的に学外臨床実習を経験してもらおう方針である。具体的な学習目標は、以下のとおりである。

- 1) 各種の精神障害（気分障害、統合失調症、不安障害、認知症など）の診断と初期治療の実際に触れる。
- 2) 患者および家族の悩みを通じて、身体疾患患者にも当然みられる精神医学的・心理社会的側面への感性と評価する能力を養い、患者の全人的理解に資する。

基本的実習内容のガイドライン（指導内容）

- 1) 選択制臨床実習の受け入れ人数

学外実習協力病院で実のある実習を行うため、実習病院ごとに受け入れ人数の制限をしている。詳細は各受け入れ病院の要綱を確認のこと。

協力病院は、多忙な日々の臨床に加えて学生の指導にご協力をいただいている名古屋市立大学医学部精神科の関連病院のうちの有志の病院である。また、国立がん研究センター東病院は、関連病院ではないにも関わらず、将来の医療・医学の発展に寄与することを目的に、実習を受け入れてくれた国立のがん専門病院である。したがって、名古屋市立大学医学部から示される学外実習実施要綱（以下、「要綱」）を遵守することはもちろん、基本姿勢として、熱意と誠意を持って実習に臨んでほしい。

- 2) M6BSL では大学病院精神科及び児童精神医学施設、精神科病院での見学実習を行ったが、M6 選択制 BSL では主に総合病院での精神科医療を実習して頂きたい。
- 3) 2 週間あるいは 4 週間で 1 か所の病院で過ごすので、精神障害の治療の流れを直接に体験することができる。
- 4) がん患者の心のケア（サイコオンコロジー：精神腫瘍学）の現場である千葉県柏市の国立がん研究センター東病院には、緩和ケア病棟が併設されており、がん患者の心のケアや緩和ケアについて、国際レベルの臨床実践に触れることが出来る。旅費等は自己負担になるが、それでも、他の施設ではなかなか経験できない研修が可能である。
- 5) 大学病院では、M6BSL では必須実習課題には入っていなかった総合病院精神科としての機能、すなわち、コンサルテーション・リエゾン精神医療、サイコオンコロジー、緩和ケアといった身体科との連携を中心とした精神科医療実習を展開する。

6) 基本的心構え

学外に出るからといってまったく別種の心構えが必要となるわけではない。しかし、第一線の病院へ出るわけであるから、大学病院における以上に気を引き締めておいていただきたい。患者から見れば、白衣を着たあなたは学生ではなく医者である。「要綱」を熟読されたい。

1. 患者の人権と尊厳を尊重する。プライバシーには十二分に配慮が必要である。
2. 医師として節度ある身なり態度をとる。
3. 医療従事者の役割分担・協力関係を理解し、医療スタッフと協調・協力する。

学外臨床実習について

冒頭に掲げた学習目標を達成するために、原則学外臨床実習を行う。すなわち、第一線の病院で外来、開放病棟、閉鎖病棟といった精神科の伝統的なセッティングだけでなく、コンサルテーション・リエゾン、デイケア、家族会、社会復帰施設、老人保健施設などで、できるだけ多種類の疾患の患者を対象とすることにより、有意義な実習が出来るように配慮したい。

予定表

第1週

	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション(各施設にて)	クリニカル クラークシ ップ	クリニカル クラークシ ップ	クリニカル クラークシ ップ	クリニカル クラークシ ップ
午後					

第2週

	月	火	水	木	金
午前	クリニカル クラークシ ップ	クリニカル クラークシ ップ	クリニカル クラークシ ップ	クリニカル クラークシ ップ	クリニカル クラークシ ップ/移動
午後					15時： 実習報告

学外実習内容

1) 予診・初診

外来診察に参加し、各病院の体制に従って予診をとり、初診シュライバーを行う。
これを通じ、面接法を学ぶ。

患者の話のどこに焦点を当てて聞くのか。

患者の悩みに共感しつつも、面接の流れをコントロールできるようになる。

精神症状の評価の基本的訓練をつむ。

2) 病棟実習

各病院の指導医の指示に従って、病棟入院患者を割り当てられることがある。大学病院のBSLの4週間ではなかなか体験できない長期にわたる患者の治療経過や身体科との連携を経験する。

3) コンサルテーション・リエゾン精神医療

大学病院をはじめとする総合病院では、他科からのコンサルテーション（精神科医の診察等を求めること）やリエゾン（精神科医との共同診療）が多い。大学病院の実習ではそれらを中心に、各病院でも、指導医の許可のもと、コンサルテーション・リエゾン精神医療の現場を経験する。

4) サイコオンコロジー、緩和ケア

国立がん研究センター東病院と大学病院では、がん患者の心のケア、緩和ケアの研修が可能である。特に国立がん研究センター東病院では、サイコオンコロジーや緩和ケアについての高度専門医療機関として国際レベルの臨床実践・研究活動・教育体制などに触れることが可能である。

5) 当直および時間外外来・救急外来

各病院の指導医の指示に従って、時間が許せば、当直や時間外の診療を積極的に見学して第一線現場の経験を広げる。

6) 症例検討会

各病院のスケジュールが許せば、症例検討会で1例でも症例を提示するとよい。

7) 検査

心理検査：臨床心理士による心理検査の施行、臨床心理士および精神科医による心理検査結果の解釈を見学、または参加する。

Neuroimaging: CT, MRIなども同様。

8) その他

協力病院によっては、デイケア、作業療法、家族会、断酒会、精神障害者社会復帰施設、老人保健施設などへの参加・見学する。

学外臨床実習評価項目

選択制 BSL 評価用紙を記入

学外実習病院の基本情報（五十音順）

- 1) 愛知県厚生農業協同組合連合会 稲沢厚生病院 精神科
- 2) 院長：伊藤浩一、学外実習指導責任者：河邊真好（精神科部長）
- 3) 実習期間は2週間でその期間は1人のみ受け入れ可（ただし、R2年11月23日～27日、12月14日～18日、R3年2月1日～26日は受入不可。R3年3月12日までは研修医2名の研修が既に入っているため、希望者はR3年3月15日以降の実習がのぞましい）
- 4) 全300床、精神科病床51床（閉鎖病棟）。デイケア・精神科作業療法あり。医師4名。総合病院のため、合併症患者の受け入れが多い。
- 5) 愛知県にある有床総合病院3病院(大学病院を除く)のうちの一つが当院である。統合失調症・気分障害・認知症など、幅広く実習ができる。外来予診・陪席、指導医のもとで入院患者を担当・面接の他に、心理検査の見学、デイケアや精神作業療法への参加、認知症ケア・リエゾンラウンドならびに緩和ケアチームラウンドの参加など、チーム医療について学ぶことも可能である。
- 6) 初日月曜日は午前8時30分に稲沢厚生病院総務課を訪れて下さい(場所がわかりにくいので、正面玄関のスタッフを訪ねてください)。

- 1) 聖隷浜松病院 精神科
- 2) 院長：岡 俊明、学外実習指導責任者：堀 雅博（精神科部長）
- 3) 実習期間は2週間でその期間は1人のみ受け入れ可。ただし、受け入れ不可の期間が今後発生する場合もあり、その都度、協議したいと思います。
- 4) 静岡県で最大級の総合病院（750床）であり、医師数約250人以上、職員数約2000人からなる。現在、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、総合周産期母子医療センター、治験拠点医療機関、災害拠点病院などの認可を受けている。また1997年に全国で3番目の医療機能評価機構認定病院となり、その後も認証取得更新を続けている。また2012年には、国際的医療機能評価機関（JCI: Joint Commission International）による認証を、日本で5番目に（関東地区以外では初めて）受け、2018年に3度目の更新をしている。病院を運営する聖隷福祉事業団は、全国に100余りの関連施設を有する日本最大の社会福祉法人であり、戦後日本の医療福祉政策の舵取り的实践を行ってきた実績を持っている。学閥に拠らない病院で、全国50以上の大学から医師が集まって来て、自由で闊達な雰囲気満ちている。総合病院ゆえに神経症圏の患者が多いが、精神病圏の患者も多岐にわたっている。他科との連携については、①身体科と連携したコンサルテーション・リエゾン精神医療として共同診療を行い、②緩和ケアチームの一員としてサイコオンコロジー（精神腫瘍学）に携わり、③産後うつ病をはじめとする周産期精神障害に対応し、④児童虐待防止の一翼を担っている。
- 5) 精神科病床を有していないので、外来診療と他科入院患者のコンサルテーションが中心となる。現在、精神科常勤医師2名。午前は外来再診患者の診察に陪席し、午後は初診患者の診察に陪席するか、他科病棟への往診に同行する。
- 6) 集合場所・集合時間：初日月曜日午前9時に、精神科外来の堀 雅博医師を訪ねてください。

- 1) 公立陶生病院 メンタルクリニック
- 2) 院長：味岡正純、学外実習指導責任者：山田 明伸（精神科主任部長）
- 3) 2021年2月15日～2月26日、2021年3月1日～3月12日の期間で、それぞれ1名のみ受け入れ可。
- 4) 当院は701床の公立総合病院である。日本医療機能評価認定病院、卒後臨床研修評価認定病院、地域医療支援病院、災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院などの指定を受けている。当科の外来患者数は一日平均約35人、精神科病床はないが他科入院患者の診察依頼が年間約530名あり、コンサルテーション・リエゾン精神医学を学ぶ事ができる。精神科のない総合病院が増えて

きてしまった昨今、精神科医を目指す学生のみでなく、身体科の医師を目指す学生にとっても得るところは多いであろう。疾病はうつ病を中心とする気分障害、適応障害、不安障害、身体表現性障害、統合失調症、せん妄など多岐にわたる。また、緩和ケアチームの活動を行っており、緩和ケアの見学 実習も行える。

5) 常勤医師 1 名と非常勤医師 2 名で診療に従事しているが、主にその日の初診担当医師が対応する形を取る。午前中は外来にて予診を取り、見学。午後は入院患者の予診を取り、指導医とともに担当し、診療および治療方針を考える。

1) 豊川市民病院 精神科

2) 院長：松本隆、学外実習指導責任者：佐川竜一（精神科部長）

3) 実習期間は原則 2 週間（希望者は 4 週間も可）で、同時には 1 人のみ受け入れ可。3/1～3/12 および 3/29～4/9 のタームは受け入れ不可。合計で 6 人まで受け入れ可。

4) 全 527 床中 65 床の精神科病床を有する数少ない総合病院。1 日 120 人の外来患者で、種々の症例を経験できる。デイケア、作業療法室を併設している。保健所、看護学校、小規模保護作業所（3 か所）、老人保健施設、特別養護老人ホームなどとも連携している。

5) 午前中は外来で予診、シュライバー等の実習。午後は入院患者（急性期～慢性期）を指導医と一緒に診療ないしは地域活動に同行して見学。夜間、救急患者の診察も見学、診療手伝いが可能。

6) 実習初日 8:30 にキャリア支援センターに集合（エレベータを 3F で降り、インターホンを押して下さい）

1) 国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科

2) 院長：大津敦、学外実習指導責任者：小川朝生（精神腫瘍科科長、先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野長）

3) 2021 年 1 月 4 日～3 月 12 日、4 月 12 日～7 月 30 日、8 月 30 日～9 月 24 日の期間で受入れ可能。実習期間は 2 週間でその期間は 1 人のみ受け入れ可。

4) 千葉県柏市に位置している、国立がん研究センター中央病院（東京都中央区）と共にわが国のがん医療の中枢として機能している、文字通りのがん専門施設である。東病院は 425 床を有し、そのうち 25 床が緩和ケア病棟である。精神科の診療の中心は、外来及び精神科コンサルテーション（がん患者・家族の精神心理的支援）であるが、年間 1000 例を超える依頼がある。精神症状としては、せん妄、認知症、適応障害が中心である。周術期外来や臨床倫理コンサルテーションチーム、認知症ケアチームと密に連携し、統合的な支援を行っている。また緩和ケア病棟とも密接な連携を取り実践している。同じ敷地内に、先端医療開発センターがあり、その中に、わが国唯一のサイコオンコロジー（精神腫瘍学）の研究部門、精神腫瘍学開発分野がある。国立がん研究センター東病院では、臨床部門である精神科、緩和ケア病棟と、研究部門である精神腫瘍学開発分野が互いに協力しながら、国際レベルの臨床実践、研究活動を行っている。詳細に関しては、ホームページ(<http://www.ncc.go.jp/jp/ncce/index.html>)を参照のこと。

5) 見学実習が中心となるが、診察の現場の他に、テレビ会議システムを用いた全国規模の多施設症例検討会（毎月第 4 週の症例検討会には名市大も参加している）、国立がん研究センターで実施している研究の実際などにも触れることが可能である。国立がん研究センター東病院先端医療開発センター研修医室へ宿泊を希望する場合は申請書類を提出する必要がある。宿泊や事務関係手続きのため、本施設で実習予定となった者は、同病院へ連絡をすること。職員食堂なし。来院患者の駐車場が不足している現状のため、職員駐車場の利用は不可。

眼科科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

5年次の眼科BSLで外来診療から手術にいたる一連の過程をすでに経験しており、6年次の選択制臨床実習では、ワンランク上の米国型のclinical clerkshipを経験してもらう。すなわち、指導医（各病院の診療部長）と専門医およびシニアレジデントで構成される診療チームに加わり、可能な限り眼科のシニアレジデントと同様の眼科診療を終日経験してもらう。

基本的実習内容のガイドライン

1) 選択制臨床実習の受け入れ人数

同一時期での受け入れは、4名までとし、それ以上の場合は、教授、実習先の部長と相談のうえ決定する。

2) 基本的医師としての心構え

- ・ 医師としての心構えを理解し、節度ある態度、身なりがとれる。
- ・ 眼科のコメディカルと協調、協力が円滑にできる。
- ・ 外来診療、病棟診療で、患者およびその家族との適切な接遇を理解できる。

3) 基本的診察法

- ・ 初診患者の予診を行い、患者と直接接してその症状を的確に把握することを学ぶ。
- ・ 初診患者、再来患者の診察前の予診、屈折検査、視力検査、眼圧検査等の必要な眼科的検査を行う。
- ・ 初診患者の診察時には、担当医師が細隙灯顕微鏡や倒像鏡を用い、前眼部や眼底の診察をする様子を可能な限り、モニターで同じ所見を対診することで、種々の眼疾患を十分に理解し、診察から診断、治療方針決定までの一連の流れを体験する。

4) 一般的眼科検査

- ・ フルオレセイン蛍光眼底造影検査、インドシアニングリーン蛍光眼底造影検査を指導医の助手を務めながら見学し、その結果を理解する。
- ・ 動的および静的視野検査を指導医の助手を務めながら実施し、その結果を理解する。
- ・ 超音波検査を指導医とともにやり、その結果を理解する。

5) 病棟実習

白内障手術、硝子体手術の術前、術後の眼科診療の実際を体験する。

- ・ 入院患者の毎日の検査、すなわち、視力、眼圧、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査を指導医の監督のもと自ら行う。

- ・ 入院患者の術前・術後の投薬の実際を指導医とともに体験しその結果を理解する。
- ・ 主治医とともに、入院患者、家族への病状説明に参加し、その実際を体験し、理解する。
- ・ 入院患者の造影検査、視野検査、超音波検査を指導医とともにに行い、その結果を理解する。
- ・ 術前検討会で、指導医の監督のもと症例呈示ができる。

6) 手術

可能な限り手洗いをして、手術の準備から手術の実際、器具の片づけまでを体験する。

- ・ 清潔の概念を理解し、白内障手術、硝子体手術等の手術野の準備、眼科機器の準備に、指導医の監督のもと参加する。
- ・ 指導医の監督のもと、白内障手術、硝子体手術に参加する。
- ・ シニアレジデントとともに、豚眼を用いた白内障手術の実習を体験する。
- ・ レーザー治療を、助手を努めながら見学し、その結果を理解する。

学外臨床実習について

選択制臨床実習で眼科を選択した学生は、1週間または2週間は学外の指定病院で臨床実習を行う。

- ・ 実習病院の決定については可能な限り学生の希望を考慮するが、状況により他の病院に割り振ることがある。
- ・ 各実習病院での実習内容の詳細は、その責任者と相談のうえ最終的に決定される。
- ・ 交通手段、実習中の事故、学生の健康診断書、既往歴、HBワクチン接種状況、その他の注意事項は名古屋市立大学医学部の学外臨床実習実要項に従う。

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	手術	手術	検査・処置	手術	検査・処置

*午前中は外来、午後は手術または検査・処置に参加する

手術日の曜日、日数は実習先の病院によって多少異なる。

学外実習内容

眼科プライマリケアを中心として、大学病院では比較的症例が少ない疾患、屈折異常、外眼部・前眼部の炎症性疾患、眼外傷、白内障の診療を中心に実習を行う。さらに緑内障や網膜硝子体疾患についても理解を深める。

眼科 学外病院情報

1. 学外実習病院の基本情報

1) 名古屋市立東部医療センター、眼科

2) 病院長：村上 信吾

学外実習指導責任者：玉井 一司（眼科部長、高度医療教育研究センター准教授）

3) 受け入れ学生人数：1人

4) 病院の特徴：名古屋市千種区に位置する病院で開院は明治 23 年、100 年以上の歴史をもつ 500 床の病院で、診療科全般で高度な医療を提供している。

5) 実習方法の方針他科との関係必要とする疾患における眼科の意義を体験することが出来る。当病院では、しっかりと予習をした者に、チャレンジ精神を持って診療の見学実習を受けてもらう。

6) 集合場所・集合時間：9:00 眼科外来

実習スケジュール：午前中は診療部長の外来を見学、症例によっては実際に診察を行う。手術日には午前、午後とも手術室に入り手術介助をする。手術のない日の午後は検査や処置の見学、介助を行う。

1) 名古屋市西部医療センター、眼科

2) 病院長：桑原 義之

学外実習指導責任者：中沢 陽子（眼科部長、高度医療教育研究センター准教授）

3) 受け入れ学生人数：1人

4) 病院の特徴：23 年 5 月開院した 500 床の総合病院（旧名古屋市立城北病院、城西病院合併施設）で名古屋市の拠点病院の一つである。

5) 実習方法の方針：眼科通院患者は、眼科のみならず、他科にも通院しており治療を受けることが多い。眼科疾患が全身に関与しており、医師が他科との連携をはかることで、医療の質・患者の QOL があがることを、外来実習を通して学ぶ。手術前後の入院患者で、実際の臨床に関わる。

6) 集合場所・集合時間：8:50 庶務課

実習スケジュール：午前中は診療部長の外来を見学、症例によっては実際に診察を行う。手術日には午前、午後とも手術室に入り手術介助をする。手術のない日の午後は検査や処置の見学、介助を行う。

1) 豊田厚生病院、眼科

2) 病院長：川口 鎮

学外実習指導責任者：山田 麻里（眼科部長）

- 3) 受け入れ学生人数：1人
- 4) 病院の特徴：600床の総合病院で西三河北部医療圏の基幹病院としての役割を果たしている。
- 5) 実習方法の方針：外来・手術を中心に、出来るだけ臨床に触れてもらうよう考えている。
- 6) 集合場所・集合時間：8:30 総務課
実習スケジュール：午前中は診療部長の外来を見学、症例によっては実際に診察を行う。手術日には午前、午後とも手術室に入り手術介助をする。手術のない日の午後は検査や処置の見学、介助を行う。

1) 大同病院、眼科

- 2) 病院長：野々垣 浩二

学外実習指導責任者：久保田 文洋（眼科部長）

- 3) 受け入れ学生人数：1人
- 4) 病院の特徴：南区にある400床の総合病院で、一般的な市中病院であるが、救急医療にも力を入れている。眼科は白内障手術のみならず、硝子体手術、緑内障手術、眼瞼下垂などの外眼部手術も積極的におこなっている。
- 5) 実習方法の方針：短い実習期間でも、できる限り多くの症例を経験してもらうよう心がけており、また外来では最新のOCTなどのツールを用いた、「患者さんに分かりやすい説明」をモットーにしているので、よく見て、よく聞いて、眼科疾患への理解を深め、実習の最後には自分である程度患者さんに説明ができるようになってもらえることを期待している。
- 6) 集合場所・集合時間：9:00 だいどうクリニック 3階の眼科外来
実習スケジュール：午前中は診療部長の外来を見学、症例によっては実際に診察を行う。手術日には午前、午後とも手術室に入り手術介助をする。手術のない日の午後は検査や処置の見学、介助を行う。

2. 学外臨床実習評価項目

A: 到達目標に達した

B: 目標に近い

項 目	自己評価			指導医評価		
	A	B	C	A	B	C
基本的診察法						
1) 眼科診療における問診を自ら実施できる。						
2) 他覚的屈折検査(オートレフラクトメーター)、視力検査、眼圧測定が自ら実施できる。						
3) 細隙燈顕微鏡による前眼部の診察および眼底検査を指導医の監督のもとで自ら実施できる。						
一般的眼科検査						
1) 視野検査の実際を、施行者の助手を勤めながら実施し、その結果を理解することができる。						
2) 蛍光眼底造影検査を、施行者の助手を勤めながら見学し、その結果を理解することができる。						
病棟管理						
1) 入院患者の術前・術後の投薬の実際を指導医とともに体験し、その結果を理解する。						
2) 主治医とともに、入院患者、家族への病状説明に参加し、その実際を体験し、理解する。						
手術						
1) レーザー治療を、施行者の助手を勤めながら見学し、その結果を理解することができる。						
2) 白内障手術に加わり、その結果を理解することができる。						

産科婦人科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

- 1) 臨床研修医として産科婦人科診療に必要である基本的知識、技能、態度、倫理を身につける。
- 2) 不妊症、不育症や胎児異常などの挙児希望がありながら生児を得られない患者や、手術、化学療法を受ける患者とその家族の不安や苦悩を理解し、それらに対する対応法を体験する。
- 3) 分娩、手術症例の診断、術前・術後及び周術期の管理を体験する。
- 4) 生殖医療、出生前診断、悪性腫瘍治療におけるインフォームドコンセントの重要性を学ぶ。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 選択制臨床実習の受け入れ人数 同一時期に学外施設は各1名及び学内は2名まで
 - 2) 基本的医師としての心構え
 - ・医療スタッフと協力、協調が円滑にできる。
 - ・医師としてのみならず一社会人として節度ある身なりおよび態度をとること。
 - ・積極的な姿勢で患者の診察・診療にあたり、不明な点が生じた場合には自分自身で解明する最大限の努力を惜しまないこと。
 - ・実習前には授業で習った基本的な知識について予習しておくこと。
 - 3) 基本的診察法
 - ・担当指導医の監督下で患者の同意を得た上で診療に参加し、見学のみに留まらず可能なかぎり体験する。
 - ・外来診察にて初診患者の予診を取り、カルテ記載をする。その際には自己紹介し信頼できる態度で、患者が十分話したと思える問診を心掛け、要約してカルテに記載する能力を学習する。
 - ・指導医師のもとで症例に応じて内診をおこなう。
 - ・診断、治療方針について指導医師が患者さんにする説明を聞く。
 - ・各種検査に参加し、それらの結果、意義について理解する。
 - ・診察所見は的確、簡潔にカルテに記載し、必ず署名する。指導医師が訂正追加し署名する。
 - 4) 一般的検査
 - ・妊娠反応、精液検査、超音波検査、胎児心拍数モニタリングは担当医師と共に施行する。
 - ・子宮卵管造影、子宮鏡検査、コルポスコピー、羊水検査など外来検査を見学する。
 - 5) 病棟管理
 - 腫瘍、生殖（不育・不妊センター）、周産期（総合周産期母子医療センター）を中心としたグループ制で診療を行っている。学生は希望によりいずれかのグループに所属して主治医として患者を受け持つ。実習期間内に各グループを変わってもよい。主治医と行動を共にして、検査計画や治療計画の作成には、主治医との討論や診療科でのカンファレンスなどを通じて積極的に参加する。
 - (産科)
 - ・分娩経過は、陣痛発来した時点から分娩が終了するまで、可能な限り観察する。
 - ・帝王切開については手術前の経過から観察し、手術適応を理解した上で手術に参加する。
 - ・胎児管理のため入院中の患者さんについて、検討会に参加して検査・治療計画を把握する。
 - ・新生児に関しても毎日回診を行い、生理的変化を観察する
 - (婦人科)
 - ・手術に至る経過について、把握・理解する。
 - ・術前検査の意義・結果を理解する。
 - ・手術前の患者、家族への説明を聞いてインフォームドコンセントについて理解する。手術の適応、他の治療方針について理解した上で手術に参加する。
 - ・術後回診に参加し、術後の経時的な変化を理解する。
- 【重要】** 出席率、カンファレンス参加数及び症例発表等を修了認定基準に含める。

学外臨床実習について

選択制臨床実習で産婦人科を選択した学生には、希望により学外実習を積極的に取り入れていく方針である。

学外実習内容

学習内容は学内のものを基本とするが、大学病院では出生前診断、生殖医療など研究的医療を特色としているのに対し、学外実習施設はそれぞれの第一線病院での特色ある診療を行っている。また、産科、婦人科が分かれておらず医師全員がすべての患者の主治医であるグループ主治医制をとっている。主治医グループの中には長幼と職能に基づく序列があり、それぞれが役割を持っている。第一線医療施設において医療従事者の役割分担・協力体制等を理解する。学生は主治医らの指示に従い、原則として行動を共にする。

学外実習病院の基本情報

- 1) 名古屋市立西部医療センター 産婦人科
 - 2) 院長：栗原義之
学外実習指導責任者：荒川敦志（産婦人科第一部長）
 - 3) 受け入れ学生人数：1名
 - 4) 現在、名古屋医療圏、尾張中部医療圏をカバーする地域周産期母子医療センターとして、小児科と一体となって地域の周産期医療施設との連帯を図っている。そのため産科症例が多いのが特徴である。
 - 5) (外来実習) 問診、カルテ記載法、診察見学、双手診、腔鏡診、腔部細胞診検査、婦人科疾患の超音波診断法（経腹法、経膈法）、コルポスコピー、妊婦診察（外診法、双手診法、超音波断層法による胎児発育の評価、分娩監視装置によるノンストレステストの実施と診断）
(婦人科) 手術前患者の診察法、手術前検査、処置、手術手洗い、手術助手（術野の消毒と無菌的管理、骨盤内臓器解剖学、手術手技の修得、手術術式の理解）
(産科) 妊産婦の診察法（外診法と双手診；先進部の確認、子宮口の開大度、先進部の下降度など）、分娩監視装置の装着と記録波形の診断、分娩見学、会陰切開縫合術、新生児蘇生術、手術見学と手洗い（流産手術、頸管縫縮術、鉗子手術、帝王切開術）、褥婦の診察、新生児診察
 - 6) 2階 管理課 8:50
-
- 1) 名古屋市立東部医療センター 産婦人科
 - 2) 院長：村上信五
学外実習指導責任者：村上勇（院長代行、産婦人科総括）
 - 3) 受け入れ学生人数：1名
 - 4) 婦人科腫瘍、内視鏡手術を中心として一般的な婦人科疾患に対する手術治療、周産期管理まで、産科婦人科疾患を幅広く経験、研修できる病院である。心臓血管センター・脳血管センターを有し、内科・外科が2次救急を行っているため救急疾患の症例も多数経験できる。
 - 5) 午前中、外来、病棟回診は主治医らが交代で行っており、バランスよく経験できるように配置を考える。午後は手術が多く、可能な限り手術に参加する。また、分娩があれば、分娩介助を行う。
 - 6) 事務室 8:50
-
- 1) 一宮市立市民病院 産婦人科
 - 2) 院長：松浦昭雄
学外実習指導責任者：佐々治紀（産婦人科部長、診療局長、周産期母子医療センター長）
 - 3) 受け入れ学生人数：1名
 - 4) 尾張西部医療圏の中核病院であり、地域周産期母子医療センターとして、小児科と協力し地域の周

産期医療を担っている。また、婦人科においても悪性腫瘍から一般的な疾患、ロボット手術、腹腔鏡下手術、不妊治療と広範囲に亘り多種多様な症例を経験できる。

- 5) 分娩見学・介助、帝王切開術や婦人科手術への助手としての参加、妊婦健診での胎児エコー実践等を中心に実習を行い、常に2~3名の症例を担当し随時主治医とカンファレンスを行う。希望があれば上級医とともに産婦人科当直体験を行うことが可能である。
- 6) 4B 病棟(産科病棟) 8:25

- 1) JA 愛知厚生連海南病院 産婦人科

- 2) 院長：奥村明彦

学外実習指導責任者：鷺見整（産婦人科代表部長）

和田鉄也（産婦人科部長、地域周産期母子医療センター長）

- 3) 受け入れ学生人数：1名

- 4) 産科では、尾張西部医療圏を中心とした地域周産期母子医療センターとして、正常分娩をはじめとし、合併症妊娠、異常妊娠などを扱っている。双胎や帝王切開既往妊娠に対しても患者の希望があり適応をみれば経膈分娩を行っている。婦人科では地域がん拠点病院として、手術療法、抗がん剤治療、放射線治療などを精力的に行いつつ、良性疾患に対しては多くを内視鏡下で手術施行するようになってきている。令和2年1月よりダヴィンチ手術も始まった。臨床的に多くの経験や知識が得られると考えている。

- 5) 常に2年次の初期研修医1-2名が研修を行っているが、先輩研修医の医師とともに有意義な臨床実習が遂行できるよう出来る限りバランス良く計画している。

- 6) 教育研修室 8:30

- 1) JA 愛知厚生連江南厚生病院 産婦人科

- 2) 院長：河野彰夫

学外実習指導責任者：樋口和宏（副院長、周産期母子医療センター長）

- 3) 受け入れ学生人数：1名

- 4) 産科では地域周産期母子医療センターに指定されている。自然分娩を基本として母乳哺育・母児同室を推進し、骨盤位や前回帝王切開既往妊娠に対しても適応をクリアすれば経膈分娩を行っている。血液疾患・甲状腺疾患・糖尿病・腎疾患などの合併症妊娠に対しては、専門内科と連携をとりながら診察に当たっている。婦人科では、良性疾患・腫瘍においては、手術侵襲を少なくするため、積極的に内視鏡下手術を取り入れている。不妊症外来では、一般不妊検査、排卵誘発、人工授精を行っている。また、内視鏡検査（腹腔鏡・子宮鏡）や体外受精・顕微受精も行っている。

- 5) 現在臨床経験豊かな10名の産婦人科常勤医（内日本産婦人科学会専門医5名）が産婦人科全般にわたり診察に当たっている。

- 6) 3階 医局会議室 8:30

耳鼻咽喉科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

- 1) 耳鼻咽喉科における面接技法、耳鼻咽喉科的診察（耳・鼻・咽頭・喉頭）、神経耳科学的診察、頭頸部学的診察方法を理解し、所見を解釈できるようにする。
- 2) 耳鼻咽喉科における検査、診断、治療について理解し説明できるようにする。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 各病院の受け入れ人数を超えないこと
- 2) 以下より選択する
 - ① 1週間（1週間×1病院）
 - ② 2週間（2週間×1病院、1週間×2病院）
 - ③ 4週間（2週間×2病院）

学外臨床実習について

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	病棟回診	外来	手術
午後	検査	手術	検査・カンファレンス	検査・外来	手術

上記は一例。各病院概ね、午前は外来・病棟回診、午後は検査・手術・カンファレンス。
学外実習病院の基本情報の4)、5)を参照すること

学外実習内容

学外実習内容は、大学では経験の少ない一般診療面、特に一次、二次救急症例の診断治療に対して、どのように対応するかについて経験する。

学外実習病院の基本情報の4)、5)を参照すること

学外実習病院の基本情報

- 1) 病院名、診療科名
 - 2) 病院長、学外実習指導責任者
 - 3) 受け入れ学生人数
 - 4) 病院の特徴
 - 5) 実習方法の方針
 - 6) 集合場所・集合時間
-
- 1) **一宮市立市民病院**、耳鼻いんこう科・頭頸部外科
 - 2) 院長：松浦昭雄、学外実習指導責任者（副院長）：森部一穂
 - 3) 1ターム1名
 - 4) 当病院は西尾張の中心的存在であり、年間手術数は400件を超える。中耳手術は約50例、頭頸部手術も30例以上行っています。特徴としては、腫瘍から外傷に至るまでの頭頸部外科を実施しており、大学と異なる点は急性疾患が多いということです。外来では見学が主体となり、一般市中病院における臨機応変さ、多忙さを見ていただき、病棟回診では腫瘍性疾患の患者さんの生の声が聞けると思います。実習は、指導医のもと外来および病棟患者の診療と基本的な手術手技を行っていただきます。
（宿泊可、職員食堂使用可、駐車場使用可）
 - 5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 学生個人宛に毎回連絡あり

1) **愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院、耳鼻いんこう科**

2) 院長：奥村明彦、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科 代表部長）：原田生功磨

3) 1ターム1名まで

4) 外来見学、耳鼻科的器具の取扱い、回診見学、Opeの見学（手洗いまでは可）

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置 見学のみとならないように実習する予定です。

6) 教育研修棟3階 教育研修室 ※HP レジデントインフォメーション見学のご案内参照、8:30

1) **愛知県厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院、耳鼻いんこう科**

2) 院長：片田直幸、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科部長）：欄真一郎

3) 1ターム1名

4) 午前：外来見学および外来診察に必要な基本手技の指導

午後：月、水、木、金と手術日、手術見学および手術助手

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 病院2階企画室、8:30

1) **愛知県厚生農業協同組合連合会安城更生病院、耳鼻いんこう科**

2) 院長：度会正人、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科代表部長）：三矢昭治

3) 1ターム1名

4) 午前：外来見学および外来診察に必要な基本手技の指導

午後：手術日、手術見学および手術助手

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 2階教育研修・臨床研究支援センター、8:15

1) **春日井市民病院、耳鼻いんこう科**

2) 院長：成瀬友彦、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科部長）：佐藤雄二

3) 1ターム1名

4) 主として手術・外来を中心に。希望があれば、入院患者の回診助手も可能。

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 病院3階研修管理室、8:30

1) **豊川市民病院、耳鼻いんこう科**

2) 院長：松本 隆、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科部長）：國井博史

3) 1ターム1名

4) 外来診療、手術の見学を主とするが、その場の状況によっては、検査や手術の手洗いをしてもらうこともある。

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学
(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 3階エレベーターホールにある「インターホン」で、キャリア支援センターまで連絡
※病院HPの病院見学参照、8:30

1) **豊橋市民病院**、耳鼻いんこう科

2) 院長：加藤岳人、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科部長）：小澤泰次郎

3) 1ターム2名まで

4) 東三河地区の中心的な病院で紹介を含めた外来患者、入院患者ともに多い。(ベッド数：23床、年間手術件数：約550件) 中耳手術、頭頸部腫瘍手術が多く頭頸部悪性腫瘍に対しては再建手術を含めた集学的治療を行っている。実習は、指導医のもと外来および病棟患者の診療と基本的な手術手技を習得する。

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 病院3階管理課、8:30

1) **名古屋市立東部医療センター**、耳鼻いんこう科

2) 院長：村上信五、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科部長）：鈴木元彦

3) 1ターム1名

4) 主として入院患者の治療について実習していただく。

① 急性疾患（炎症、めまい、難聴）、②手術症例（耳鼻咽喉科一般）、③悪性腫瘍症例（手術、抗ガン剤、点滴など）の治療および経過観察。①②が多い。

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 管理課、8:45-9:00

1) **名古屋第二赤十字病院**、耳鼻咽喉科

2) 院長：佐藤 公治、学外実習指導責任者（耳鼻咽喉科部長）：中村善久

3) 1ターム1名

4) ◎外来診療の実際を見学してもらう。

◎検査に立ち会ってもらう。

◎救急外来での処置の実際を見学してもらう。

◎手術の実際（見学）を体験してもらう。

◎入院患者に対するカンファランスに参加してもらう。

5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学

(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置

6) 総務課 増本様宛に伺う 8:55

1) **愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院** 耳鼻咽喉科

(宿泊可・職員食堂利用可・職員駐車場利用可)

2) 病院長：河野 彰夫、学外実習指導責任者（耳鼻咽喉科部長）：尾崎慎哉

3) 1ターム1名まで

4) 尾北地区の中心的な病院です。全病床数は684床です。耳鼻咽喉科は外科系診療科として外来・手術・救急診療に積極的に携わっています。当科の方針として若手医師の自主性を尊重していま

す。

- 5) (外来実習) 予診・シュライバー・各種検査および処置の見学
(病棟実習) 病棟副主治医・手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り・創部縫合介助・入院患者の処置
午前は主に外来見学・病棟回診
手術日は手術見学・手洗い
希望者は救急外来の見学
- 6) 医局会議室、8:30

- 1) **名古屋市立西部医療センター**、耳鼻いんこう科
- 2) 院長：栗原義之、学外実習指導責任者（耳鼻いんこう科副部長）：黒田 陽
- 3) 1ターム1名
- 4) 午前：外来見学および外来診察に必要な基本手技の指導
午後：手術日は手術見学および手術助手 それ以外は検査や処置等の見学
- 5) (外来実習) 予診、シュライバー、各種検査および処置の見学
(病棟実習) 病棟副主治医、手術手洗い・鉤持ち・糸結び・糸切り、創部縫合介助、入院患者の処置
- 6) 病院2階管理課、8:45-9:00

皮膚科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

- 1) 皮膚疾患の診察に必要な基本的な知識と技術を学ぶ。
- 2) 皮膚疾患患者および家族の不安・苦痛などの心理を理解し、診療に当たる医師の態度を身につける。
- 3) 皮膚疾患の診断、治療の過程を経験し、理解する。
- 4) 全科における皮膚科の役割を理解する。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 選択性臨床実習受け入れ人数 同時期に2人を越えないこと。学内を最低1週間実習し、残りの1週間は学外を研修することもできる。連続2タームを選択する場合は、学内を最低1週間実習後、学外を研修することもできる。
- 2) 基本医師としての心構え
医師としての心構えを理解し、節度ある身なり・態度がとれる。
患者・家族との適切な接遇の重要性を理解する。
医療スタッフと協調・協力が円滑にできる。
- 3) 基本的診察法
外来診察では、予診、シュライバーを行う。予診では、適切かつ良好なコミュニケーションで患者面接を行い、病歴を聴取し記述する。あいさつ、自己紹介、適切な姿勢・態度、適切な会話法、共通の言葉、要約する能力を身につける。これは、M5の際の繰り返しになるが、さらに皮膚疾患患者の不安・苦痛を理解し、患者と十分なコミュニケーションをとり、診療に必要な病歴を十分に聴取し、診断・治療を視野に入れるようにする。
病棟では、指導医の監督のもと実際に診察し、皮膚所見、身体所見を的確に把握し記述する。学生は電子カルテで下書き保存をし、担当医師がそれを点検する。(学外：学生のカルテ記載については必ず学生は署名し、担当医師がそれを訂正追加し署名する。)
- 4) 学内における実習 (はじめ1週間)
基本的に、1人の医師とマンツーマンで、外来実習・病棟実習を行う。
 - 4-1) 外来実習
スケジュールに従って、外来実習を行う。
①予診、②医師の診察のシュライバー補助、担当医師が不在の場合は③専門外来(乾癬、膠原病、アトピー性皮膚炎、皮膚形成・皮膚悪性腫瘍)および④再来診察の見学・処置などの補助を行う。1週間で、皮膚の診察方法、皮疹の見方、診断のための検査法、治療法を学ぶ。外来小手術(生検術)は、上記外来診察に対応して行われるため、参加し、手術助手を務める。手術後の消毒ガーゼ交換も行う。また、パッチテスト、光パッチテスト、最少紅斑量測定、真菌検鏡・培養などの検査では、原理方法などを理解し、実際に行えるようにする。
 - 4-2) 病棟実習
スケジュールに従って、指導医のもと、病棟実習を行う。
学生は、副主治医として患者を受け持つ。選択実習の1週間、基本的には、担当医師とマンツーマンで、病棟実習を行う。入院時には、指導医の監督のもと実際に診察し、皮膚所見、身体所見を的確に把握し記述する。さらに、主治医との検査・治療計画の作成に積極的に参加する。同じ患者の診察にあたり、診断・治療の過程を体験する。
- 5) レポート
レポートは、以下の提出を義務とし、また出席やグループの先生の評価を加味する。両レポートは、BSL担当教官(加藤裕史)まで提出。
症例ショートレポート(2症例分)：第1週金曜に提出。1週間で、病棟で実習した患者さんのまとめをM5と同じ内容で行う。連続2タームの場合は第2週金曜に提出。ただし、1症例は、A4で2枚程

度。

学外臨床実習

後半の1週間に下記の病院で、各々施設1~2人ずつ学外臨床実習を行う。

学外臨床実習の内容をレポートとして、終了後、BSL 担当教科（加藤裕史）までメールで提出 e-mail(h-kato@med.nagoya-cu.ac.jp)。その際、学外臨床実習への感想・意見を記載のこと。

学外臨床実習の基本情報

1) 名古屋市立東部医療センター 皮膚科

2) 病院長 村上信五、学外実習担当委員（皮膚科副部長）岩井敦子

3) 受け入れ人数 皮膚科常勤医は3名であるため、同時期に1人

4) 本病院の皮膚科の特徴 名古屋市東にあつて、商業地と住宅地との接点に位置する。皮膚科受診患者はほとんどが周辺地域から来る。紹介患者についても近隣開業医からが多い。皮膚疾患全般にわたって受け入れている。

5) 実習の内容と注意点 指導はマンツーマン方式で、下記の日常業務として平行して行いたい。

午前：外来診察、午後：病棟回診・往診、手術および皮膚科的検査

6) 集合時間：8時30分、集合場所：4階事務 ※その後、8時50分から8時55分までに皮膚科外来へ移動。

1) 名古屋市立西部医療センター 皮膚科

2) 病院長 桑原 義之、学外実習担当委員（皮膚科部長）澤田啓生

3) 受け入れ人数 同時期に1人

4) 本病院の皮膚科の特徴 本センターは2011年5月に城北病院、城西病院からの移転、合併というかたちで北区平手町に新しく開設されました。名古屋城の真北に位置し、周産期医療センター、小児医療センター、消化器腫瘍センターを中心とした病床数500床の総合病院です。患者さんは一般的な皮膚疾患からアトピー性皮膚炎、膠原病、皮膚腫瘍など様々です。子供の皮膚疾患が比較的多いのも特徴です。毎週火曜日の午後にはアトピー性皮膚炎専門外来も行っています。

5) 実習の内容と注意点 基本的にはマンツーマン方式です。

午前 外来患者の診察、検査、治療を見学

午後 専門外来、病棟回診・往診、手術および皮膚科的検査

6) 集合時間：8時45分、集合場所：皮膚科外来 ※初日の集合場所は別に指定される可能性有り。

1) 名古屋第二赤十字病院 皮膚科

2) 病院長 佐藤公治、学外実習担当委員（皮膚科医長）鳥山えりか

3) 受け入れ人数 同時期に1人

4) 本病院の皮膚科の特徴 初診外来では紹介受診もしくはER後受診のみという特徴から救急皮膚疾患、紹介患者さんの診察・治療と比較的多種多様な皮膚疾患を診療しています。入院では蜂窩織炎、丹毒、帯状疱疹などの皮膚感染症、薬疹・中毒疹・水疱症などの炎症性疾患、手術患者などです。救急病院、地域の中核総合病院であるため、救急診療、地域連携、院内連携での皮膚科の役割を担っています。

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来実習	外来実習	外来実習	外来実習	外来実習
午後	外来手術 病棟実習	褥瘡回診 病棟実習	中央手術 病棟実習	外来手術 病棟実習 カンファレンス	外来手術 病棟実習

5) 実習の内容と注意点 午前中はマンツーマンでの診療の見学中心、午後は適宜手術や病棟に同伴し、可能な範囲で助手をつとめていただきます。

6) 集合時間：8時30分、集合場所：皮膚科外来

1) **蒲郡市民病院 皮膚科**

- 2) 病院長 中村誠、学外実習担当委員（皮膚科部長）久保良二
- 3) 受け入れ人数 同時期に1人
- 4) 本病院の皮膚科の特徴 東三河に所在し農業地と漁業地との接点に位置する。皮膚科への受診患者は主に蒲郡市民であるが、周辺地域からの受診も多い。また近隣に皮膚科開業医も多く、難治性皮膚疾患の精査や手術目的での紹介が多いため、総合病院での診療を必要とする皮膚科疾患の診療に重点を置いている。毎週月曜には褥瘡回診を行っている。病院として実習生を受け入れる体制が整っており、実習に来ていただいた折には皮膚科の実習のみでなく、地域医療を担う中核病院としての役割も実感してもらえようようにしたい。
- 5) 実習の内容と注意点 指導はマンツーマン方式で、下記の日常業務として平行して行いたい。手術や処置にも積極的に参加していただき、皮膚科処置、手術に携わっていただく。

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来実習	外来実習	外来実習	外来実習	外来実習
午後	褥瘡回診 病棟実習	手術 病棟実習	手術 病棟実習	手術 病棟実習 カンファレンス	手術 病棟実習

6)

1) **豊川市民病院 皮膚科**

- 2) 病院長 松本隆、学外実習担当委員（皮膚科医長）西尾栄一
- 3) 受け入れ人数 同時期に1人
- 4) 本病院の皮膚科の特徴 本院は東三河に位置し、豊川市、宝飯郡3町（音羽町、小坂井町、御津町）豊橋市北部、新城市の医療圏を担っている。この地域は古くから農業が盛んであるが最近では東名高速道路などのアクセスの良さから自動車産業をはじめとする工業地域となっている。したがって、患者層は小児・若年者から老年層まで幅広い。また外国人労働者も多く見られる。豊川市内には総合病院は市民病院以外には無く、地理的に名古屋市など大都市と離れているため多くの患者が集まる。このため疾患は湿疹・皮膚炎、炎症性角化症、感染症、皮膚腫瘍、膠原病、変性疾患など幅広く経験できる。とくに当院内科には膠原病・リウマチ科があるため膠原病の症例も豊富である。患者の多くは外来で治療可能な皮膚科の common disease である。入院治療が必要となるのは重症薬疹、重症ウイルス感染症、悪性腫瘍、重症熱傷などである。悪性腫瘍の多くは入院の上手術をおこなう。術後の再建が必要な症例には形成外科と連携し治療に当たる。
- 5) 実習の内容と注意点 午前 外来患者の診察、検査、治療を見学。午後に外来・手術室等で処置・手術の見学。
- 6) 集合時間：8時30分、集合場所：キャリア支援センター

1) **聖霊病院 皮膚科**

- 2) 病院長 春原晶代、学外実習担当委員（皮膚科部長）春原晶代
- 3) 受け入れ人数 同時期に1人
- 4) 本病院の皮膚科の特徴 当院は、名古屋市東南部、地下鉄いりなか駅徒歩2分の所にあり、キリスト教カトリックの聖霊会が運営する病院です。病院の基本理念は「愛と奉仕」で、患者様中心の医療を行っています。患者様はNICUがあるため、未熟児から高齢者まで幅が広く、外国人患者様も多く来院します。皮膚科診療は、一般外来診療、手術、病棟回診（特に褥瘡）を行っています。
- 5) 実習の内容と注意点 当院の理念を理解し、実習に臨んでください。皮膚科の外来診療は月から土ま

での午前中と、月、金の午後に行っています。実習生は、午前中は外来診療、午後は手術や病棟回診についていただきます。水曜日の午後は褥瘡回診です。

6) 集合時間：8時45分、集合場所：1階 総合受付（窓口の人に人事課職員を呼んでもらう）

1) **JA 愛知厚生連 海南病院** 皮膚科

2) 病院長 奥村明彦、学外実習担当委員（皮膚科代表部長）渡辺正一

3) 受け入れ人数 同時期に1人

4) 病院の特徴 愛知県西端に位置し、海部医療圏での基幹病院として機能している。皮膚科患者は海部医療圏のみならず、名古屋市西部や三重県北勢地域、岐阜県海津市周辺からも受診している。皮膚疾患は

アトピー性皮膚炎や乾癬、水疱症、脱毛症、皮膚腫瘍など広く全般にわたり診療している。

アトピー性皮膚炎や乾癬、水疱症、脱毛症、皮膚腫瘍など広く全般にわたり診療している。

5) 実習方法の方針 指導については、午前は外来中心でおこない、診察や検査・処置等を見学する。午後は、手術を主体に見学し、その他病棟回診や往診の見学も行う。

6) 集合時間：8時30分、集合場所：教育研修棟教育研修室

1) **春日井市民病院** 皮膚科

2) 病院長 成瀬友彦、学外実習担当委員（皮膚科医長）古橋卓也

3) 受け入れ人数 同時期に1人

4) 病院の特徴：552床、救急車受け入れ台数約1万台/年の患者数の多い地域中核病院

5) 実習方法の方針：学生のニーズに合わせて実習を行ってまいります。

地域中核病院皮膚科の現場を経験し、common diseaseに多く触れる。

3次救急での皮膚科の役割を実習する。

皮膚科手術、病棟処置を実習する。

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来 外来手術	外来	外来 外来手術	外来	
午後	中央手術 病棟回診	褥瘡回診 病棟回診 病理・臨床 カンファ	外来手術 病棟回診	外来手術 病棟回診	外来手術 病棟回診	

学内および学外実習予定表

第1週目の8時30分に皮膚科外来7診に集合。その際に、予定および学内実習の説明を行う。

実習スケジュール

学内臨床実習スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	担当医とともに病棟・外来実習				
午後	病棟・外来実習	回診	担当医とともに病棟・外来実習		
			カンファレンス	病棟・外来実習	カンファレンス

6) 集合時間：8時30分、集合場所：研修管理室

1) **江南厚生病院** 皮膚科

- 2) 病院長 齋藤二三夫、学外実習担当委員（皮膚科医長）村松伸之介
- 3) 受け入れ人数 同時期に1人
- 4) 病院の特徴：病床 684 床、年間約 30,000 人、救急車は 6,000 台以上の患者数の多い地域中核病院
愛知県北端に位置し、尾北での基幹病院として機能している。紫外線療法の機械もあり、皮膚疾患は
アトピー性皮膚炎や乾癬、水疱症、脱毛症、その他皮膚腫瘍など手術も行い幅広く全般にわたり診療
している。
- 5) 実習方法の方針：指導については、午前は外来中心でおこない、診察や検査・処置等を見学する。
午後は手術を主体に見学し、その他病棟回診や往診の見学も行う。
- 6) 集合時間：8 時 30 分、集合場所：3 階医局会議室

1) **岡崎市民病院 皮膚科**

- 2) 病院長 早川 文雄、学外実習担当委員（皮膚科統括部長）西田絵美
- 3) 受け入れ人数 同時期に1人、常勤皮膚科医 2 名
- 4) 病院の特徴：病床 715 床、1 日平均外来患者数 1200 人/日、救急車搬入数 9000 台超/年、研修医は 15 名

/学年の高度急性期医療を得意とする地域中核臨床研修病院です。

- 5) 実習の内容と注意点：午前中は外来にて初診患者の予診を行ってもらうとともに、救急外来から受診と

なった患者の診察、炎症性皮膚疾患、アレルギー性疾患、感染症、皮膚腫瘍など幅広い症例を経験し、
紫外線治療、処置、生検、検査なども多数経験することができます。その他、他科へ入院中の患者の往
診、褥瘡回診、また週 2 回、皮膚外科手術も行っているため、すべて参加型で皮膚科全般を幅広く実
習

することが可能です。

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	14 時～ 入院手術 病棟回診	14 時～ 外来手術 病棟回診	病棟回診 病理組織・ 臨床症例 カンファレンス	14 時半～ 褥瘡回診 病棟回診	病棟回診

- 6) 集合時間：9 時、集合場所：皮膚科外来

泌尿器科 臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

- 1) 大学外の実地病院実習で泌尿器科の魅力を体感する。
- 2) Post-cc-OSCE、医師免許取得後の臨床研修に向けた高度の臨床実習を行う。
- 3) 頻度の高い泌尿器科疾患を数多く経験し理解する。
- 4) 救急医療における泌尿器科疾患を理解し、他科疾患との鑑別を学ぶ。例えば急性腹症、無尿と尿閉、浮腫、不明熱など。
- 5) 泌尿器科疾患を持つ患者は基礎疾患が多いことを理解し、その基礎疾患に対する対応の仕方を学ぶ。
- 6) 高齢者、慢性疾患患者に対する診察態度、説明方法などを理解し身につける。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 選択制臨床実習の受け入れ人数
 - ・ 原則として同一タームに 12 人を超えないこと
- 2) 基本的医師としての心構え
 - ・ 医師としての心構えを理解し、節度ある身なり態度がとれる。
 - ・ 家族・患者への適切な接遇の重要性を理解する。
 - ・ 医療スタッフと協調・協力が円滑にできる。
- 3) 基本的診察法
 - ・ 外来診察に参加（予診、カルテ記載、および助手として診察に携わる）。
 - ・ 各種診察法とその結果所見を理解する。
 - ・ 指導医の監督のもとで実際に診察し、全身身体所見を的確に把握し記述する。
- 4) 一般検査

学生の参加は担当指導医の下で患者の了解を得た上で行う。見学するだけでは実効はあがりにくいので、できる限り体験できるように指導したい。

 - ・ 直腸診を施行し、正常前立腺、前立腺肥大症、前立腺癌の直腸診上の所見が理解できるようにする。
 - ・ 腹部および外陰部の触診を含め各種検査を行い、所見を理解する。
 - ・ 尿流量測定を自身で排尿を行って体験し、各疾患での所見を理解する。
 - ・ 腹部エコー、前立腺エコーの検査を行い、結果を理解する。画像から癌の診断をする。
 - ・ 排泄性尿路造影に立ち会い、検査の内容と結果を理解する。また救急医療として造影剤副作用に対する処置を学習する。
 - ・ 逆行性尿道造影に立ち会い、患者に接する態度を学ぶ。検査の結果を理解する。
 - ・ 膀胱鏡検査に立ち会い、患者に接する態度を学ぶ。硬性鏡と軟性鏡があること、またその特性について学ぶ。
 - ・ 内視鏡を用いたカテーテル検査（逆行性腎盂造影など）に立ち会う。
- 5) 病棟管理

副主治医として患者を受け持つ。検査計画や治療計画の作成には主治医との討論や診療科でのカンファレンスなどを通じて積極的に参加する。

 - ・ 術前の全身状態、基礎疾患を把握する。手術に向けての基礎疾患の対応を学ぶ。
 - ・ 症例検討会に参加し、受け持ち患者を提示する。
 - ・ 回診時に指導医のもとで処置をする。
 - ・ 興味ある症例・疾患について文献検索を行い、論文を作成する。
- 6) 手術

手洗いをして、手術助手として参加することを基本とする。

 - ・ 手術前には、必ず手術書を熟読し、内容を把握しておく。
 - ・ 手術にはできるだけ参加して、その留意点を理解し、記録する。

- ・ 手術の助手をする。
 - ・ 切除標本の記録・整理に参加し記録する。
 - ・ 病理所見を理解する。
 - ・ 内視鏡手術においては、内視鏡の構造、操作を理解する。
 - ・ 簡単な縫合糸の結紮や糸切りを行う。
- 7) 小手術
- ・ 経皮的腎 瘻造設術、嵌頓包茎整復術、前立腺生検などに参加し、事前準備から術後管理までを学ぶ。
 - ・ 体外衝撃波結石破砕術に参加し、機械の仕組み・特性を理解する。
- 8) 救急医療
- ・ 学外臨床実習期間中に担当指導医が日当直の時は、これに付いて回り一般病院での救急医療の現場に参加する。
 - ・ 急性陰嚢症や急性腹症に対する診断技術を理解する。その中で泌尿器科疾患の対応を身につける。他科のスタッフと連絡の取り方、救急外来での動きを学び、実際に緊急手術も経験する。

学外臨床実習について

- 1) 学外実習病院は海外と国内にあります。しかし、2021 年度では世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、海外実習病院での実習応募は受け付けておりません。
- 2) 基本的に学外実習である。1つの病院は1週間単位で1週間～4週間で選択する。ただし、希望があれば学内実習も選択可能
- 3) 学外実習病院とはたえず密に連携をとり、大学との一体感を持たせる。病院の特徴を提示し、希望を募る。(学外実習における実習期間、実習時間、交通手段、実習中の事故、学生の健康診断書、既往歴、HB ワクチン接種状況、その他の注意事項は名古屋市立大学医学部から示される学外実習要項に従う。)

学外実習内容

一次、二次救急の診察に学外実習担当医の救急業務に立ち会って参加する。救急医療現場における泌尿器科医の役目について学ぶ。

学外実習病院の基本情報

1.国内

* 新型コロナウイルス感染の影響で、実習受け入れの状況は逐次変更となることをご了承ください

- 1) 名古屋市立東部医療センター 泌尿器科 【下記の注意点①を参照】
 - 2) 院長：村上信五、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：丸山哲史
 - 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで
 - 4) 病院の特徴 名古屋市の市民病院の中核として幅広くかつ専門性の高い医療を提供している。
 - 5) 実習方法の方針 現場に即した実践的医療と、さまざまな手術を経験してもらう。
-
- 1) 豊川市民病院 泌尿器科
 - 2) 院長：松本 隆、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：伊藤尊一郎
 - 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで
 - 4) 病院の特徴 豊川市の中核病院として地域医療を中心とした、幅広い医療を行っている。

5) 実習方法の方針 臨床研修指定病院としての研修プログラムに準じた臨床実習を行う。

1) **安城更生病院** 泌尿器科

2) 院長：度会正人、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：秋田英俊

3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで

4) 病院の特徴 西三河最大規模の病院。救急・時間外診療も多く、患者サービスもきわめて良い。また専門性の高い医療を行っている。

5) 実習方法の方針 よく遭遇する疾患から珍しい症例まで、多くの経験をしてもらう。また医療サービスとは何かということについて考えてもらえるようなカリキュラムを組む予定である。

1) **豊田厚生病院** 泌尿器科

2) 院長：川口 鎮、学外実習指導責任者（副院長）：岩瀬 豊

3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで

4) 病院の特徴 患者数、手術件数が多く、泌尿器科では、悪性腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症の患者が多い。

5) 実習方法の方針 一般病院に必要な患者への対応、スピーディさ、コメディカルスタッフたちとの協調など、大学の教育では対応しきれないことを覚えていてもらいたい。

1) **名古屋市立西部医療センター** 泌尿器科 【下記の注意点①を参照】

2) 院長：桑原義之、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：梅本幸裕

3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで

4) 病院の特徴 名古屋市の北エリアに位置する病院。産科が二次救急を行い、NICU もあるので、小児泌尿器科疾患が多いのが特徴。

5) 実習方法の方針 個人指導のシステムで、診療の流れ（初診・検査・入院・手術・退院・通院など）を経験してもらう。

1) **厚生連海南病院** 泌尿器科

2) 院長：奥村明彦、学外実習指導責任者（副院長・泌尿器科部長）：窪田裕樹

3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで

4) 病院の特徴 愛知県西部の基幹病院として海部津島医療圏の公的医療機関の役割を担っている。

5) 実習方法の方針 癌患者の QOL を重視した手術治療、とくに尿路変更を重点的に指導する。また泌尿器科救急疾患についても経験してもらいたい。

1) **江南厚生病院** 泌尿器科

2) 院長：河野彰夫、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：坂倉 毅

3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として2名まで

4) 病院の特徴 尾張北部医療圏の北部地域（江南市、丹羽郡大口町・扶桑町、犬山市）の急性期医療を担う中核病院。

5) 実習方法の方針 泌尿器科診療における診察手順、検査手技および手術補助を指導するとともに、医療の中心である医師とコメディカルの連携の重要性を習得していただく。

1) **大同病院** 泌尿器科

2) 院長：野々垣浩二、学外実習指導責任者（副院長・泌尿器科部長）：神谷浩行

3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として1名まで

4) 病院の特徴 南区、緑区、知多半島北部を医療圏とする急性期病院。特に救急医療に力をいれている。泌尿器科は悪性腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症、女性泌尿器など幅広くかつ専門性の高い医療を提供。

5) 実習方法の方針 現場の状況をよく吟味し、柔軟かつ迅速に対応できる臨床力を体験してもらいたい。その結果についてはカンファレンスの場にてスタッフ全員で検証されフィードバックされる。

- 1) 蒲郡市民病院 泌尿器科
- 2) 院長：中村 誠、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：中根 明宏
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として1名まで
- 4) 病院の特徴 蒲郡市の中核病院として、地域に根ざした幅広い医療を中心としながら、名古屋市立大学からの教員派遣による医療連携を行うことで、高度な医療も行っている。
- 5) 実習方法の方針 大学の实習内では少ない common disease を多く経験することができる。希望に応じて、救急外来の診療の見学も行うことが可能である。またチーム医療の重要性を理解するために、コメディカルとのコミュニケーションの取り方を実習に取り入れる。泌尿器科診療における基本的な診察、検査および手術の見学や体験を通して、医師として必要なことが理解できる実習を行う。

- 1) いなべ総合病院 泌尿器科
- 2) 院長：相田直隆、学外実習指導責任者（泌尿器科部長）：安藤 亮介
- 3) 受け入れ学生人数 1タームに原則として1名まで
- 4) 病院の特徴 三重県北勢部のいなべ市にあり、災害拠点病院・がん診療連携推進病院・基幹型臨床研修指定病院の指定を受けた急性期中核病院である。
- 5) 実習方法の方針 臨床研修指定病院としての研修プログラムに準じ、また当院の特徴を生かした臨床実習を行う。

現時点での受入は
中止

注意点

- ① 東部医療センター・西部医療センターについては東部西部専属コースの中で選択することをお勧めします
- ② 同一ターム・同一施設に実習希望者が多数になった場合などには実習日数を修正することがあります。
- ③ 実習中、担当教官（実習前に通知されます）と密に連絡をとり、経過の報告を忘れないようにして下さい。
- ④ 4週間の泌尿器科選択実習を行う学生については、医局長あるいは担当教官が面談をし、希望に合わせて最高の実習ができるようにします。
- ⑤ 泌尿器科実習の前に、必ず担当教官と連絡を取り、初日のスケジュールを確認しておいて下さい

2.海外

2021年度は募集いたしておりません。

- 1) The University of California, San Francisco (UCSF) (アメリカ合衆国カリフォルニア州)
- 2) University of Florida (アメリカ合衆国フロリダ州)
- 2) University of Western Ontario (カナダ オンタリオ州 ロンドン市)
- 3) Université de Reims Champagne-Ardenne (ランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学 フランス)
- 4) 南京医科大学常州第二病院 (中国 紅蘇州南京市)

選択制臨床実習評価項目（国内実習）

泌尿器科研修内容及び到達目標

A: 目標に達した

B: 目標に近い

C: 目標に遠い

	自己評価			指導医評価		
	A	B	C	A	B	C
<p>【診察・検査】</p> <p>適切な問診ができる</p> <p>患者、家族へのインフォームドコンセント</p> <p>採血、点滴を理解できる</p> <p>検尿結果を理解できる</p> <p>尿道カテーテルを安全に挿入できる</p> <p>直腸診の所見がとれる</p> <p>超音波ができ、読影できる</p> <p>膀胱鏡の所見をとれる</p> <p>前立腺生検の助手ができる</p> <p>仙骨麻酔の助手ができる</p> <p>逆行性腎盂造影の助手ができる</p> <p>CT、MRIを読影できる</p> <p>IVP、RCUG、VCUGの読影ができる</p> <p>UFM、CMGを評価できる</p> <p>【手術】（助手として参加）</p> <p>水腎症手術（ロボット腹腔鏡手術含む）</p> <p>尿道下裂修復術</p> <p>ESWL</p> <p>TUL</p> <p>PNL</p> <p>精巣固定術（腹腔鏡手術含む）</p> <p>精巣摘除術（腹腔鏡手術含む）</p> <p>陰嚢水腫根治術</p> <p>TURBT</p> <p>経尿道的尿道切開術</p> <p>経皮的腎瘻造設術</p> <p>被膜下前立腺摘除術</p> <p>男性不妊症手術（精索静脈瘤など）</p> <p>VUR手術（ロボット腹腔鏡手術含む）</p> <p>尿失禁根治手術</p> <p>腎摘除術・腎部分切除術</p> <p>膀胱全摘除術</p> <p>前立腺全摘除術（ロボット腹腔鏡手術含む）</p> <p>回腸導管造設術</p> <p>代用膀胱造設術</p>						

放射線科選択制学外臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

放射線科は、放射線を医療・医学に役立てることを目的とする専門科である。放射線は広範な利用価値を持つ反面、大量に被曝すると人体に障害を引き起こす可能性を有している。従って医師としてその長所ならびに短所を熟知し、正しい放射線の利用法を身につけることは不可欠である。放射線を利用した様々な精密装置が開発され、超音波、X線CT、MRI、核医学など多様な領域が放射線科に導入され、これらの技術や原理を理解し正しく利用することは臨床医としての責務であり放射線医の需要はますます高まりつつある。これらを踏まえ放射線科臨床実習にあたっては、放射線を正しく理解した上で、様々な装置の原理や適応、撮影法、手技を習得することを目標とする。また、従来の放射線治療に加え、放射線を利用した新たな治療として IVR (Interventional Radiology) が発展してきた。これは、放射線科における高度な診断技術を利用して、低侵襲でかつ外科的手術に匹敵する治療効果を目的とした手技である。そのためには放射線治療において放射線科医が果たしてきたように患者の全身管理に対する知識と実践が要求される。こうした基本的患者管理や治療学、IVRについても臨床実習で体験、実習することを目標とする。

基本的実習内容のガイドライン

1) 選択制学外臨床実習の受け入れ人数

各週最大1名。

別表の○がついている期間を選択すること。

2) 基本的医師としての心構え

- ・医師としての心構えを理解し、節度ある身なりや態度がとれる。
- ・患者ならびに家族と適切な接遇の重要性を理解する。
- ・医療スタッフとの協調・協力が円滑に行える。

3) 診察

- ・特殊画像検査や IVR における患者ならびに家族への説明に参加し、インフォームドコンセントにて理解する。
- ・放射線科外来業務を履修し、一連の画像診断検査法の順序、適応と禁忌について学習する。

4) 画像検査

- ・単純X線写真、超音波検査、X線CT、MRI などを見学し、検査の適応と方法を理解し、画像所見について学習する。
- ・造影剤の種類と使用法、注意点などを学習し、造影手技を介助、副作用の対策や予防法について学習する。
- ・核医学検査について核種に関する基本的知識を習得し、画像の成り立ちについて理解する。

5) 病棟ならびに放射線治療

放射線治療の基礎と原理を学習し、適応や照射法について理解する。

副主治医として担当患者を回診し、患者の管理基本手技を学習、症例検討会への呈示、報告を行う。

6) IVR その他

指導医の監督下で IVR 手技の介助、実践を行う。

症例検討会に参加し、検討症例の呈示や画像の供覧、画像所見の報告を行う。

学外臨床実習について

実習に関わる交通費等は学生の負担とする。

学外実習の実習期間、実習時間、交通手段、実習中の事故、学生の健康診断書、既往歴、HB ワクチン接種状況、その他の注意事項については、名古屋市立大学医学部から示される学外実習実施要綱に従う。

実際の学外実習にあたっては、各学外実習担当指導医の判断の下に実習が行われる。その評価は別紙、選択性臨床実習評価項目に基づいて行われる。

学生の無断欠席や無断早退は各学外実習担当の指導医の判断で実習中止とすることができる。節度ある態度をとり、スタッフとの協調を図り、患者および家族に信頼されるべく誠意を持って接すること。出席回数は卒業試験の可否に関係する。

学外実習内容

実習内容は、学内における基本的実習内容のガイドラインを規準とする。超音波検査ならびに CT や MRI、血管造影などは大学内実習でも見学可能であるが、学外病院でいわゆる“common disease”に対する画像診断の検査法や読影法を学ぶ。さらに大学では経験の少ない救急画像診断や機会があれば救急疾患への IVR 手技にも参加し、第一線の現場を経験、研修する。

各診療科間での連絡、連携が緊密かつ豊富である点を生かして、放射線科の画像診断報告書の重要度や放射線医の他診療科との関わり合いについて学ぶ。

学外実習病院の基本情報

(学外実習病院について以下の項目を記載する)

- 1) 病院名、診療科名
- 2) 病院長、学外実習指導責任者
- 3) 受け入れ学生人数
- 4) 病院の特徴
- 5) 実習方法の方針
- 6) 集合時間、集合場所

1) 一宮市立市民病院 放射線治療科、放射線診断科

2) 病院長：松浦昭雄

学外実習指導責任者（診療局長）：村尾豪之（放射線治療科）

3) 受け入れ学生人数：1名/週まで、最大12名まで

4) 病院の特徴：一宮市立市民病院は尾張西部医療圏の中核病院であり、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、救命救急センターの指定を受けています。2018年10月より、緩和ケア病棟や、ハイブリッド手術室を含む手術室をはじめとした新棟が稼働しました。

2020年10月現在、治療医2名（放射線治療専門医1名、放射線専門医1名）、診断医5名（放射線診断専門医3名、放射線専門医2名）の常勤医が勤務しており、放射線治療、画像診断、IVRを行っています。放射線治療科の特色として、2010年からリニアックに加えIMRT専用装置であるトモセラピーを導入し、放射線治療の新患数約400人/年の当地域では最大の放射線治療施設で、多くの治療経験があり、がん診療において重要な役割を果たしています。

また、バセドウ病、甲状腺癌術後外来アブレーション、骨転移などのアイソトープを用いた内用療法にも対応し実績があります。

放射線診断科は各診療科からの依頼に対応して読影を行い、研修医など若い先生方が関与する救急外来科の画像検査に対しては可及的速やかに全検査読影を行っています。交通事故などの外傷や、術後合併症、産科出血などの緊急IVRにも可能な限り対応しています。

5) 実習方法の方針：放射線治療科では放射線治療が重要な役割を担う代表的疾患（限局型悪性リンパ腫、肺癌・食道癌・喉頭癌・子宮癌・前立腺癌）について、専門医の指導下で初診から診療に参加し、実際にワークステーションを操作し治療計画を作成してもらいます。

放射線診断科ではティーチングファイルを閲覧し、診断医の指導下で画像診断に必要な解剖の知識や重要疾患の画像所見を学習することができます。IVRにも可能な限り参加してもらい、IVRの適応や検査の流れについて理解を深めてもらいます。

放射線治療科・診断科とも、診療を行う際に関連診療科との連携を特に重視しています。希望者は定期的に関行される各診療科とのカンファレンスに参加することで、放射線科医が診療で果している役割を認識することができます。

時間外の救急救命センターの見学や当直の研修医との交流が可能です。

希望者は宿泊設備を利用可能です。

6) 集合場所・集合時間：初日午前8時50分に地下1階管理課（担当：草田さん、百瀬さん）

1) 岡崎市民病院、放射線科

2) 院長：早川文雄、学外実習指導責任者（放射線科統括部長）：渡辺賢一

3) 受け入れ学生人数：1名/週まで。

4) 病院の特徴：西三河地区の中核総合病院として650の病床数を持ち、虚血性心疾患、大動脈疾患、脳卒中や外傷などの三次救急までを担っている。さらに令和元年からは愛知病院と経営統合を果たし、がん診療や緩和ケアを包括して取り扱うようになった。がん診療拠点病院としての役割も担っている。放射線診断科は常勤の放射線科医5名でCT、MRI、RIの読影を担当している。電子カルテシステム、画像ネットワークの環境下で読影業務を行なっている。実習学生にも独立した診断ブースの準備をしている。循環器領域以外のIVR（脳血管内治療、大動脈ステントグラフト治療を含む）も行なっている。放射線治療科は常勤の放射線科医2名がリニアック、トモセラピー、RALSを担当している。がんセンターとしての役割が大きくなっている。

5) 実習方法の方針：指導医とともにディスカッションをしながらCT、MRI、RIなどの読影を行なう。血管造影、IVRにおいてはインフォームドコンセントの段階から関わり、助手の一人として手技に参加する。また抄読会への参加、ケースレポートの提出を課している。放射線治療の見学実習も行っている。一般的な疾患から救急症例、稀な疾患まで症例は多岐にわたり勉強材料には事欠かないので積極的に実習に臨んでほしい。

6) 集合場所・集合時間 実習初日は医局へ午前8時30分に来てください。

1) 春日井市民病院 放射線科

2) 院長：成瀬友彦、学外実習指導責任者（放射線科部長）：深谷信行

3) 受け入れ学生人数：1名/週まで、隔週で最大3名まで。

4) 病院の特徴：556床の地域中核病院。救急医療を積極的に受け入れている。腎臓内科・循環器内科・外科症例数が特に多く、外科手術数及び手術症例のパラエティは豊富。例年臨床研修医指導にも力を入れている。マルチスライスCT4台と1.5テスラMRI2台、3.0テスラMRI1台、放射線治療装置としてトモセラピー1台を有し、放射線部門は充実している。

5) 実習方法の方針：豊富な救急症例画像・外科症例画像を中心とした放射線診断学、ならびに放射線治療学を研修していただく。

6) 集合場所・集合時間 診療棟3F研修管理室 8時50分

1) 刈谷豊田総合病院、放射線科

2) 院長：田中守嗣、学外実習指導責任者（放射線科統括部長）：北瀬正則

3) 受け入れ学生人数：1名/週まで。

4) 病院の特徴：病床数704床の急性期総合病院で、症例は多岐にわたり、CT、MRI、血管造影、RI、PET、単純X線写真等検査も豊富に担当している。救急画像診断やIVRなどの症例も多い。

5) 実習方法の方針：若手医師を含め、多くの医師が担当し、様々な領域の画像診断について学んでいただけます。また、希望に応じ院内各所の見学研修も可能です。当院初期研修医と共に、救急外来で施行した画像の検討を行います。毎日、画像診断検討会或いは抄読会を行っており、積極的に討論に加わります。IVR症例があるときは、助手として参加し、手技実践を行います。放射線治療では、外来診察や治療計画に参画し、IMRTについても学びます。課題症例のレポート作成を行い、さらに質疑により知識を深めます。

6) 集合場所・集合時間

6棟2階応接室・9時45分

1) 江南厚生病院、放射線科

2) 院長：河野彰夫、学外実習指導責任者（放射線科代表部長）：鈴木啓史

3) 受け入れ学生人数：1名/各タームまで、最大4名まで、M5のBSLで当院を選択しなかった学生が望ましい。

4) 病院の特徴：病院の特徴：江南市のみならず犬山市や大口町、扶桑町を診療圏とする684床の総合病院で、救命救急センターがあり24時間体制で救急医療を提供している。災害時には地域中核災害拠点病院でもある。現在常勤の放射線科スタッフは7名で診断専門医が4名、治療専門医が2名である。主に画像診断とIVRおよび放射線治療に従事している。診断においては画像診断管理加算1を取得している。今後ス

タッフの増員により加算2を目指している。放射線治療装置である Tomotherapy の最新機種が稼働している。強度変調放射線治療 IMRT を実施している。実習の医学生も宿泊に空きがあれば可能である。

5) 実習方法の方針：放射線科医が担当する各種画像診断について専門医の指導の下で実習に参画してもらうことにより、臨床解剖、病態生理、鑑別診断について修得する。また血管系 IVR や非血管系 IVR などの手技と読影や病棟回診についても専門医の指導の下で実際に参画する。最新の放射線治療やがん治療全般について放射線治療医から直接指導を受けることができる。希望者は時間外の救急、当直の見学や研修医との交流も可能である。

6) 集合場所・集合時間：病院3階の総務課に8時30分

1) 名古屋市立西部医療センター 放射線診断科、放射線治療科、陽子線治療科

2) 院長：栗原義之、学外実習指導責任者（副院長：放射線診療センター長）：原 真咲

3) 受け入れ学生人数：1名/週まで、令和3年4月12日の週は不可。

4) 病院の特徴：

当院は500床の総合病院であり、癌診療と周産期医療とを中心とする診療が特徴である。小児、周産期医療センターでは小児やハイリスク妊産婦の救急医療、専門医療を行っている。また、消化器・呼吸器各種瘍センターを中心に手術療法、内視鏡的治療、放射線治療（陽子線治療、高精度放射線治療を含め）、化学療法を集学的に駆使し、関係診療科による緊密なチーム医療を実践している。いわば名古屋市がんセンターの役割を果たしている。

画像診断部門は、特定機能病院（大学病院やがんセンターの一部）を除いて最も基準の厳しい画像診断管理加算2を満たすのみならず、基本的に検査当日中、外来患者に対しては可能な限り検査後1時間以内の即時読影を原則とし、臨床における最高水準のサービスを提供することを目標としている。画像診断報告書の水準向上にも積極的に取り組んでおり、subspeciality の能力を習得し、各専門診療科からの高水準に要求に応えるべく努力を重ねている。令和元年度の診断報告書作成件数はCT 37861件、MRI 15365件、PET/CT 929件、SPECT 615件に及び、CT と MRI は開院以来増加の一途をたどっている。さらにCTの造影率は23%、MRIは19%と高く、精密検査の割合が多いことが特筆される。令和2年度内に3TMRIの増設（3台目）、CTの128列デュアルソースCTへの更新が決定しており、さらなる充実が図られている。

interventional radiology (IVR) 症例も年間483件と豊富であり、毎週8-10件程度実施しており実習症例に不足することはない。IVR専門医のもと、最新のIVR/CT装置を駆使して低侵襲かつ精密な治療、生検術、ドレナージ術、及びマーカー留置術を提供している。

陽子線治療センターは、平成25年3月より稼働し、当初は前立腺癌のみであったが、対象疾患を肝癌、肺癌と拡大し、さらには骨軟部・頭頸部癌も対象に含め、現在ではすべての領域の悪性腫瘍に対象を拡大している。小児癌ではいち早く保険適応となったため、周辺の各大学と連携を取り積極的に治療を実施している。平成30年4月より前立腺癌が保険適応となり患者数が急増し、目標治療者数をほぼ達成している。陽子線治療開始より、病院全体に肝癌、肺癌、膵癌、頭頸部癌、小児癌症例が増加してきている。東海三県で唯一のまた、全国的にもまれな都市型の粒子線治療施設であり、消化器・呼吸器癌のみならずすべての癌診療の拠点施設としてさらなる発展が期待されている。アジア初となるスポットスキヤニングとそれを応用した強度変調陽子線治療 (IMPT) も実施している。平成30年度の実績は、治療患者数574名（前立腺338名、肝臓85名、肺57名、頭頸部29名、骨軟部11名、膵臓1名、小児19名、その他34名）である。

通常の放射線治療件数も年間378例にのぼり、IMRT や定位放射線治療にも積極的に挑戦している。豊富な症例を有しており充実した実習が可能である。平成30年度の実績は放射線治療患者数378名、IMRT 31名（前立腺14名、その他17名）、定位放射線治療患者数53名（脳27名、肺15名、その他11名）である。

5) 実習方法の方針：医学部卒業に必要な、画像診断、核医学診断、IVR および放射線治療の幅広い領域の診療を実際に経験することを目標とする。画像診断医9名（うち診断専門医5、IVR指導医1名、核医学専門医2名）、放射線治療医2名＋陽子線治療医6名（うち治療専門医5名）計17名の放射線科常勤医を擁しており、臨床及び教育の観点からは大学病院に優るとも劣らない陣容である。さらに、放射線科を希望する初期研修医が4名所属しており、総勢22名の陣容である。以上のように緊密かつ充実した教育体制の

構築を心がけている。他科とのカンファレンスも積極的に行っており、これらに参加する事により、放射線科の病院における役割、また、その重要性についての理解を深めることができる。画像診断・放射線治療実践における情報伝達の精度向上、さらに直接のフィードバックを得ることの意義を学習する

6) 集合場所・集合時間

8時45分、病院外来棟2階管理課事務室

1) **独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院 放射線科**

2) 院長：後藤百万、学外実習指導責任者（放射線科部長）：伊藤俊裕

3) 受け入れ学生人数：1名/週まで、隔週。最大5名まで。

4) 病院の特徴：名古屋市南部の663床の中核病院。5疾病（がん・脳卒中・心筋梗塞・糖尿病、精神科疾患）5事業（救急・災害・僻地・周産期・小児）を中心に、名古屋市南部、知多半島の一部の地域における急性期の総合的な病院で、症例は多岐にわたっている。放射線科は画像診断と放射線治療においていずれにも重要な役割を担っている。

5) 実習方法の方針：画像診断と放射線治療とも実習して頂く。画像診断では各種検査の適応、撮像法、手技、読影を実習して頂く。放射線治療では診察見学、適応、照射手技を実習して頂く。

6) 集合場所・集合時間

中京病院8階事務室、10時。

1) **名古屋市立東部医療センター 放射線科**

2) 院長：村上 信五、学外実習指導責任者（放射線科部長）：森 雄司

3) 受け入れ学生人数：1名/週まで、隔週で最大3名まで。

4) 病院の特徴：急性期病院であり、CT、MRIなど症例は急性期疾患の多数多岐に及ぶ。脳血管センターや心血管センターを設置しており、実習内容については調整により大動脈ステントのIVRやRI・放射線治療の研修も可能。

5) 実習方法の方針：指導医のもとでチェックをうけながら積極的にCT、MRIの実践的な読影を行ってもらう。血管造影においては、助手あるいは術者として参加し術後病棟管理も習熟できる。特に当院は脳血管部門・循環器部門の診断が盛んであり、機会があれば脳血管部門、大動脈ステントなどIVRの見学もできる。この他修練期間や希望に応じてラジオアイソトープや放射線治療の実践的な修練も受けることができる。

6) 集合場所・集合時間：9時に読影室。事務の臨床研修担当者（鈴木）に案内してもらう。

1) **豊川市民病院、放射線科**

2) 院長：松本 隆、学外実習指導責任者（副院長兼放射線科部長）：黒野賢仁

3) 受け入れ学生人数：1名/週まで、隔週で最大3名まで。

4) 病院の特徴：各診療科と密接な連携が取れており、読影室でミニカンファレンスが頻繁に行なわれるなど、臨床病院で活躍する放射線科医の実態を見て頂くには非常に良い環境である。

5) 実習の方針：課題とされた単純写真、CT、MRI等を自ら読影した後、指導医のチェックを受けることにより、読影の基本を学ぶ。指導医とともに超音波検査を行い、原理、手技を学ぶ。IVRに助手として参加し、適応症や手技を学ぶ。希望があれば、RI、放射線治療についても、学ぶことは可能である。限られた時間ではあるが、臨床の最前線における放射線科医の仕事の楽しさと画像診断の深さに気付いてもらいたい。

6) 集合場所・集合時間

3F キャリア支援センターに9時頃までに来てください。

（一般エレベータを使用し、3Fフロアの左側のインターフォンを使用）

1) **名古屋第二赤十字病院、放射線科**

2) 院長：佐藤公治、学外実習指導責任者（第一放射線科部長）：伊藤雅人

3) 受け入れ学生人数：1名/週まで、最大5名まで。ただし別表の○として週のみ。

4) 病院の特徴：1. 高度先進医療、2. 救急医療、3. 病診連携、4. 研修医教育が当院の基本理念である。放射線科は画像診断と癌の放射線治療においていずれにも重要な役割を担っている。

5) 実習方法の方針：各種画像診断検査の適応、撮像法、手技、読影を実習して頂く。高度急性期病院における救急症例を主とした画像診断から他診療科と放射線科の関わりを学ぶ。高精度放射線治療センターでは最先端の照射手技を実習する。

6) 集合場所・集合時間 初日は、病院管理棟 1 階総務課に 9 : 3 0

1) 公立西知多総合病院、放射線診断科、放射線治療科

2) 院長：吉原 基、学外実習責任者（放射線診断科部長）：上岡久人

3) 受け入れ学生人数：1 名/週まで、隔週で最大 3 名まで。

4) 病院の特徴：病床数 468 床の総合病院。旧東海市民病院と旧知多市民病院を合併し、2015 年 5 月より開設された病院で地域の急性期医療を担う中核病院として機能している。症例は多岐に渡り豊富で放射線科は主に CT, MRI, RI 検査の読影に従事している。2019 年 4 月より放射線治療（トモセラピー導入）が開始され、癌の集約的治療が可能となっている。

5) 実習の方針：指導医の下でチェックを受けながら積極的に CT, MRI の実践的な読影を行ってもらい、各科からのコンサルトの対応についても経験していただく。また放射線治療についても実習していただく。

6) 放射線治療棟 2 階事務室に 9 : 3 0 にお越しください。

		○の週のみ選択可能です。各施設1名/週まで。											
		選択制BSL	西部	春日井	刈谷	中京	東部	西知多	日赤	一宮	岡崎	江南	豊川
2020	11/23 ~ 11/27	I	○	○	○	○	○	○	X	○	○	○	○
	11/30 ~ 12/04	I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12/07 ~ 12/11	I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12/14 ~ 12/18	I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12/21 ~ 12/25	休み											
12/28 ~ 01/01	休み												
2021	01/04 ~ 01/08	H	○	○	○	○	X	X	○	○	○	○	○
	01/11 ~ 01/15	H	○	次学年前半BSL						○	○	○	○
	01/18 ~ 01/22	H	○	○	○	○	○	○	○	次学年前半BSL			
	01/25 ~ 01/29	H	○	次学年前半BSL						○	○	○	○
	02/01 ~ 02/05	G	○	○	○	○	○	○	○	次学年前半BSL			
	02/08 ~ 02/12	G	○	次学年前半BSL						○	○	○	X
	02/15 ~ 02/19	G	○	○	○	○	○	○	X	次学年前半BSL			
	02/22 ~ 02/26	G	○	次学年前半BSL						○	○	○	X
	03/01 ~ 03/05	F	○	○	○	○	○	○	○	次学年前半BSL			
	03/08 ~ 03/12	F	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	X
	03/15 ~ 03/19	休み											
	03/22 ~ 03/26	休み											
	03/29 ~ 04/02	F	○	次学年前半BSL						X	○	X	X
	04/05 ~ 04/09	F	○	○	○	○	X	○	X	次学年前半BSL			
	04/12 ~ 04/16	E	X	次学年前半BSL						X	○	X	X
	04/19 ~ 04/23	E	○	○	○	○	○	○	○	次学年前半BSL			
	04/26 ~ 04/30	E	○	次学年前半BSL						○	○	X	○
	05/03 ~ 05/07	E	○	○	○	○	○	○	○	○	○	X	○
	05/10 ~ 05/14	D	○	○	○	○	○	○	○	次学年前半BSL			
	05/17 ~ 05/21	D	○	次学年前半BSL						○	○	X	○
	05/24 ~ 05/28	D	○	○	○	○	○	○	○	次学年前半BSL			
	05/31 ~ 06/04	D	○	次学年前半BSL						○	○	X	○
	06/07 ~ 06/11	C	○	○	○	○	○	○	○	次学年前半BSL			
	06/14 ~ 06/18	C	○	次学年前半BSL						○	○	X	○
	06/21 ~ 06/25	C	○	○	○	○	○	○	○	次学年前半BSL			
	06/28 ~ 07/02	C	○	次学年前半BSL						○	○	X	○
	07/05 ~ 07/09	B	○	○	○	○	○	○	○	次学年前半BSL			
	07/12 ~ 07/16	B	○	次学年前半BSL						○	○	X	○
	07/19 ~ 07/23	B	○	○	○	○	X	○	○	次学年前半BSL			
	07/26 ~ 07/30	B	○	○	○	○	X	○	○	○	○	X	○
	08/02 ~ 08/06	休み											
08/09 ~ 08/13													
08/16 ~ 08/20													
08/23 ~ 08/27													
08/30 ~ 09/03	A	○	○	○	○	X	○	○	次学年前半BSL				
09/06 ~ 09/10	A	○	次学年前半BSL						○	○	X	○	
09/13 ~ 09/17	A	○	○	○	○	○	○	○	次学年前半BSL				
09/20 ~ 09/24	A	○	次学年前半BSL						○	○	X	○	

麻酔科選択制学外臨床実習マニュアル

A. 臨床実習の目的

- 1) 麻酔管理は術前、術中、術後を通じた周術期の全身管理であることを理解する。
- 2) 集中治療室（ICU）における重症患者管理の意義を理解し、実際の治療を理解する。
- 3) 地域における各病院の救急部門の役割と救命救急医療における麻酔科医の役割を理解し、救急初期治療の実際を理解する。

B. 実習のガイドライン

- 1) 実習の受け入れ人数：同一時期に1名のみ、1施設1週間
- 2) 実習にあたって
手術、集中治療、救急医療を受ける患者やその家族の不安や恐れは日常医療の場にいる医療従事者の想像を越える場合が多い。医師となる者として節度ある態度で、患者、患者家族との接遇を円滑におこなうように努力する。各科医師、看護師、メディカルスタッフとの協調と連携の重要性を理解し、患者に対して最高の医療を提供する義務があることを認識する。
- 3) 実習すべき分野（各自能動的に選択のこと）
 - ・術前診察時の基本的診察法
 - ・手術・麻酔に関連する一般検査と解釈
 - ・手術室における患者の麻酔・全身管理
 - ・集中治療室（ICU）における重症患者管理
 - ・救急部門（救命救急センターなど）における救命救急処置

●周術期麻酔管理

術前診察

医師とともに病棟に往診し、担当患者の既往等の聴取、検査データの把握を行う。患者の了解を得て、診察を行う。診察後に指導医の指導を受け、麻酔計画を立てる。

手術室での麻酔管理：

モニターの装着・測定、静脈路確保、バッグ&マスク換気、気道の評価・観察、輸液の選択、輸液速度の調節、麻酔深度調節などを指導医の指導下で学ぶ。

術後診察

呼吸・循環・疼痛などの状態についての診察を指導医の指導下で行う。

●集中治療部（ICU）

重症患者の診察、状態把握、評価・治療方針決定を指導医とともに行う。

- ・意識：意識レベルの評価、神経系の診察
- ・呼吸：呼吸系の診察（聴・打・視診など）を行う。胸部エックス線写真の読影、ベンチレータの設定などを指導医の指導下で行う。呼吸系パラメータを理解する。動脈血液の採血を動脈留置ラインから行う。血液ガス分析を行い、結果を評価する。
- ・循環：循環系の診察を行う。循環系パラメータを理解する。循環を維持するための輸液剤の選択・速度調節、循環薬剤の選択・投与量の調節を指導医の指導下で行う。
- ・栄養：栄養状態の診察、評価を行う。投与カロリー量、成分（糖、アミノ酸、脂肪）、電解質などを考慮して中心静脈栄養や経管栄養の設計を指導医の指導下で行う。
- ・その他：電解質の急速補正、感染コントロールなどを学ぶ。様々な処置の介助を行う。

●救急部門（救命救急センター） ※下記補足事項参照

メディカルコントロールを含めた救急医療システムを学ぶ。

指導医の指導下で実際の救急診療に参加する。

C. 学外臨床実習について

麻酔科選択制臨床実習では、希望する学生に対して学外実習を提供する。学外実習の運用は名古屋市立大学医学部の学外実習要項に基づいて行う。

選択可能な施設は、愛知県医療療育総合センター、あいち小児保健医療総合センター、名古屋第二赤十字病院である。

D. 学外実習内容

各実習病院の特徴をいかした実習内容となっている。学内で経験できない疾患患者の周術期管理、救急患者の初期治療、患者・患者家族との面接などを通じて、将来の医師としての基本的知識および態度を養成する。

E. 学外実習病院の基本情報

以下の順序に従って学外実習病院を紹介する。

- 1) 病院名、診療科名
- 2) 病院長、学外実習指導責任者
- 3) 受け入れ学生人数
- 4) 病院の特徴
- 5) 実習方法の方針
- 6) 病院情報、集合時間・場所

1) 愛知県医療療育総合センター 麻酔科

2) 院長：石黒直樹 学外実習指導責任者（麻酔科医長）：伊藤秀和

3) 1名

4) 愛知障害者医療の中核施設

5) 小児麻酔および障害者麻酔の実際を学習する。

6) 〒480-0392 愛知県春日井市神屋町 713-8 TEL:0568-88-0811

JR 中央線「高蔵寺」駅下車、高蔵寺駅北口 3 番乗り場から名鉄バス乗車

「県医療療育総合センター行」又は「内々神社行」に乗車（所要時間約 19 分）

実習期間 1 日～1 週間（水曜日を除く）、実習時間：9 時～業務終了まで

午前 9 時に療育医療センター 1 階総合受付で「麻酔科 伊藤」を呼び出し

1) あいち小児保健医療総合センター 麻酔科

2) 院長：伊藤浩明、学外実習指導責任者（麻酔科科長）：宮津光範

3) 1名

4) すべての外科系診療科がそろっている、東海北陸地方唯一の小児病院である。手術室は 8 室であり、心臓外科、泌尿器科、眼科の手術が豊富である。MRI の鎮静や心臓カテーテル検査の麻酔も麻酔科管理で実施している。小児救命救急センターを併設し、ドクターカーを使用した小児重症患者専門の搬送チームを有する。PICU は 16 床で、東海地方最大規模であり、愛知県内のみならず他県からの重症患者搬送やヘリ搬送も多い。小児膜型人工肺（ECMO）の実施件数は日本有数であり、治療成績は大変良好である。

5) 術前診察、保育士によるプレパレーション（オペラちゃんツアー）の見学、麻酔カンファでの検討を経て、実際に小児麻酔に入る。学習態度やモチベーション、事前学習による知識の程度によっては、シミュレーターによる実習ののちに次に示す手技を実際に経験させる。

経験できる手技；超音波ガイド下末梢静脈路確保、マスク換気、気管挿管、声門上器具挿入等。

余裕があれば手術室以外の部署にも案内可能であり、小児病院独特の空気感を感じたい小児科志望の学生に特に推奨できる。

6) 〒474-8710 愛知県大府市森岡町7丁目426番地

最寄り駅；JR東海道線・武豊線・大府駅下車。駅から知多バス利用可。

大府駅からは徒歩も可能だが登り坂で25分。大府駅からのバスは1時間に2本と少ないので（大学の実習として禁止していないなら）自家用車利用が便利。

自家用車；名古屋市内から名古屋高速と知多半島道路（大府東海IC）を利用して車で35分。

集合時刻は8:00、8:15からPICU回診、8:30から麻酔カンファ

実習終了時刻は17:30

集合場所；救急棟1階救急受付または本館1階防災センター

（宮津へのPHSコール、不在時は麻酔科控室への電話を依頼してください）

スーツ不要、ネクタイ不要、白衣不要、履物不要、院内コンビニあり。宿泊施設無し。

1) 名古屋第二赤十字病院 麻酔・集中治療部（麻酔、集中治療、救急）

2) 院長：佐藤公治、学外実習指導責任者（第1麻酔・集中治療部長）：高須宏江

3) 1名

4) 救急医療に力を入れている。

5) 麻酔・集中治療など幅広く研修する。積極的な心がけを望む。

6) 〒466-8650 名古屋市昭和区妙見町2-9 TEL:832-1121

地下鉄名城線八事日赤駅より徒歩0分。駐車場なし・食堂使用可・宿泊施設あり。

実習期間1週、実習時間：8時～業務終了時。

午前8時までに管理棟1階、教育研修推進室に集合。

F. 補足

1) 実習施設の選択の仕方

原則として1週間ずつ別の施設を選択すること（2週間連続での同施設の実習は不可）。

各期間1施設1名となるように学生同士で要調整。

※東部医療センター、西部医療センターでの実習は、「名古屋市立病院複合選択制臨床実習」（東部西部専属コース）の中で選択すること。

※救急実習のみを希望する場合は、救急科実習の選択を検討すること。

※学会期間中は実習内容・実習施設に制限が出る可能性がある。

2) 担当者連絡先

9時00分～17時00分：TEL 052-853-8281（麻酔科秘書が出ます）

※上記時間以外の緊急時は麻酔科ICU当直医（3049）へ連絡のこと。

形成外科選択制臨床実習マニュアル

臨床実習の目的

- 1) 乳幼児から高齢者まで、年齢の幅の広い患者さんと「あいさつ」をして良好なコミュニケーションをとる。
- 2) 創傷治癒を理解して、創傷被覆材・サージカルテープ・局所陰圧閉鎖装置などの使い方を習得する。
- 3) 臨床写真・3D写真の撮り方を習得する。
- 4) 糸結びの原則を理解して、基本的な結び方から真皮縫合までを習得する。さらに、顕微鏡下で微小血管吻合にチャレンジする。

基本的実習内容のガイドライン

- 1) 選択制実習の受け入れ人数
 - ・同一時期に1人まで。
 - ・学内実習を原則とする。
- 2) 基本的医師としての心構え
 - ・乳幼児から高齢者まで、年齢の幅の広い患者さんと「あいさつ」を交わして、意思疎通を図る。また、他の医療スタッフと協力して診療に当たる。
- 3) 外来診察
 - ・創傷治癒を理解して、創傷被覆材・サージカルテープなどの貼り方、交換のしかた、交換の時期など、創の管理を習得する。また、局所陰圧閉鎖装置について学び、局所陰圧閉鎖処置を行う。
 - ・形成外科の臨床記録で臨床写真は必須である。iPhone・一眼レフカメラの写真機能を十分に理解して、上手な臨床写真の撮り方を取得する。また、3D写真の撮影法および3D構築解析法に理解し活用する。
 - ・糸結びの原則を理解して、糸結び、器械縫合（授針器を利用した縫合）を習得する。次に、真皮縫合の手順を覚えて習得する。さらに、手術用顕微鏡下で縫合練習を行う（マイクロサージャリーの体験）。
 - ・体表面の超音波検査の方法を理解して、自分の四肢を使って細かい血管や腱を描出する。
 - ・レーザー治療の手順を見学してモデルを使って照射してみる。
 - ・顔面外傷や鼻骨骨折など、急患の診察と治療の手順を学ぶ。固定用のギブスやスプリントを加工する。
- 4) 病棟管理
 - ・副主治医として患者を受け持つ。
 - ・症例検討会に参加して、受け持ち患者を提示する。
 - ・回診時に指導医のもとに処置を行う。
- 5) 手術
 - ・体位の取り方など術前準備の手順を学ぶ。
 - ・手洗いをし、手術助手として参加する。
 - ・局所麻酔の手順を学ぶ。
 - ・簡単な縫合糸の結紮や皮膚縫合を行う。
 - ・手術時のポイントについて理解して、記録する。

臨床スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝	カンファレンス	乳腺外科とカンファレンス		カンファレンス	
午前	外来	外来	全身麻酔手術	局所麻酔手術	外来
午後	局所麻酔手術 乳房再建 頭頸部再建	乳房再建 外科再建	全身麻酔手術	頭頸部再建	病棟回診
夕			月1回 頭頸部 カンファレンス		

選択制臨床実習評価項目
形成外科一般 評価項目

	自己評価			指導医評価		
	A	B	C	A	B	C
【外来】						
あいさつができる						
創傷被覆材の使い方を理解して有効に利用する						
局所陰圧閉鎖装置を理解して処置ができる						
臨床写真が上手に撮影できる						
糸結びの原則を理解して皮膚縫合を取得する						
体表面の超音波検査の手順を利用できる						
レーザー治療の手順を理解している						
急患の診察と治療の手順を理解している						
【手術】						
体位の取り方など術前準備の手順を理解している						
手洗いをして手術に参加できる						
局所麻酔の手順を理解している						
適切に皮膚縫合ができる						
図を加えて手術記録が書ける						

学外臨床実習について

学外実習内容

あいち小児保健医療総合センター 形成外科で1週間実習を行う。

- センター内の施設を見学して小児医療の現場を理解する。
- 形成外科は外科共通スペースで診療を行っており、医療者と患者・患者家族の接し方を見学して身につける。
- あいち小児保健医療総合センターの形成外科は、あざの患者さんが非常に多く、レーザー治療の適応、治療の進め方を見学して理解する。
- 手術前に行われる病棟での「プリパレーション」に参加して小児での手術治療の取り組みを理解する。
- 手術は皮膚腫瘍、先天異常が多く、手術に参加して小児における配慮（傷あとや出血を最小限に抑えるていねいな手技）を理解する。
- 外来では長期術後の経過を主治医とともに観察するとともに、急患の対応のしかたを学習する。

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	回診 レーザー治療	自科全麻手術	外来	自科局麻手術	外来/自科全麻手術
午後	外来	自科全麻手術	他科との全麻手術	回診	外来

注意：当センターは火曜日から土曜日が通常勤務となっています。

学外実習病院の基本情報

- あいち小児保健医療総合センター 形成外科
- 病院長：服部 義 学外実習指導医責任者：形成外科部長 森下 剛
- 受け入れ人数 1人 / 週
- 病院の特徴:2001年11月に14科42床で一部オープンして2004年4月22科200床での稼働を開始し、2016年2月へリポートを備えた地下1階地上3階の救急棟が新設され、同年3月全国で11番目の小児救命救急センターとなった。
- 実習方法の方針：小児センターの一員として行動して小児医療の現場を体感する

救急科選択制臨床実習マニュアル(令和2年11月～3年9月)

臨床実習の目的

救急診療の現場に参加し救急医療への理解を深める

実習内容のガイドライン

1. 実習は学内もしくは関連施設で 4週間とする
2. 実習の受け入れ人数は同一タームに 1施設1名まで(大学病院および関連施設)
*なるべく希望に沿う様に調整するが、受け入れ施設の都合で実習が不可の期間がある(その場合は通達する)
3. 心構え
指導医の下、礼節をわきまえ診療に参加する。
医学部生として患者及び患者家族に対して節度ある真摯な態度で接する。看護師など他のメディカルスタッフとの協調・連携の重要性を認識し真摯な態度で接する。
白衣、名札、聴診器を持参する。
4. 実習内容
指導医の下、ER 初期診療、ドクターカー現場出動(学外実習のみ)、集中治療に参加する。
希望により夜間の救急当直を行う(各施設の指導医と相談する)
実習中に印象深かった症例および実習中の感想について資料を作成する
5. ターム最終日に、症例・感想の資料についてプレゼンテーション及び総括・まとめを大学で行う。

学外臨床実習について

当科としては、他施設での救急医療現場を体験することは重要であると考えている。関連施設の ER 及び救急病棟、集中治療室において、担当指導医の下で4週間の実習を行う。
学外実習の運用は名古屋市立大学医学部の学外実習要項に基づいて行う。

D. 学外実習内容

ドクターカー出動、ER 初期診療、病棟管理に参加する。

E. 学外実習病院の基本情報

以下の順序に従って学外実習病院を紹介する。

1. 病院名、診療科名
2. 病院長、学外実習指導責任者
3. 受け入れ学生人数
4. 実習方法の方針
5. 病院情報

1) 海南病院 救命救急センター

2) 病院長：奥村明彦、学外実習指導責任者(救命救急センター長)：谷内仁

3) 1名 実習期間；4週間

4) ER での初期診療を見学・学習する。年間 7000 台の救急車を受け入れている。ドクターカー出動も行っている。外傷患者も多く多彩な症例が経験できる。ER には救急専門医が専従しており、レベルの高い指導を受けられる。

5) 〒498-8502 愛知県弥富市前ヶ須町南本田 396

① TEL: 0567-65-2511 FAX: 0567-67-3697

② 近鉄名古屋駅より急行で 15 分、近鉄弥富駅下車、南に徒歩約 10 分。

③ 原則公共交通機関で来院のこと。食堂使用可・宿泊施設あり(宿泊は要相談)。

初日は、8時30分に救命救急センターに集合。

1) 中津川市民病院 病院前救急診療科

2) 院長：安藤秀雄、学外実習指導責任者(病院前救急診療科部長)：間淵則文

3) 1名 実習期間；4週間

4) 日本初の病院前救急診療科を創設し、ドクターカーによる現場出動を主な業務としている。ドクタ

ーカーに同乗し病院前の救急診療の現場を体験する。

5) 〒508-8502 岐阜県中津川市駒場 1522-1 TEL:0573-66-1251 内線 4182 or 4183

駐車場(一般病院駐車場に駐車)あり。宿泊施設あり。

初日は、自家用車利用なら、8時30分に病院前救急診療科医師控室に集合
(公共交通機関を利用の場合; JR 中央線中津川駅 8:06 着、8:30 発 北恵那交通バスにて 8:50 中津川市民病院着なのでそれで可)

1) **江南厚生病院** 救命救急センター

2) 院長: 斎藤二三夫、学外実習指導責任者(救命救急センター長): 竹内昭憲

3) 1名 実習期間; 4週間

4) ERでの初期診療を見学・学習する。H27年4月より救命救急センターに認可された。

5) 〒483-8704 江南市高屋大松原 137 TEL:0587-51-3333

名鉄犬山線江南駅から名鉄バスで約10分。

駐車場あり・食堂使用可・宿泊施設あり(宿泊は要相談)。初日は、8時00分に救命救急センターに集合。

1) **堺市立総合医療センター** 救命救急センター

2) 院長: 花房俊昭、学外実習指導責任者(救命救急センター長): 中田康城

3) 1名 実習期間; 4週間

4) 平成27年7月に新設された。救急科は3次救急に特化し、あらゆる分野の重症救急患者の診療を行っている。ER・救命救急センターICUを見学・学習する

5) 〒593-8304 堺市西区家原寺町 1-1-1 TEL:072-272-1199

JR 阪和線津久野駅から徒歩5分。(場所、交通についての詳細は病院ホームページを参照)

駐車場なし・食堂使用可・宿泊施設あり(宿泊は要相談)。初日は、8時30分に救命救急センターに集合。

1) **トヨタ記念病院** 集中治療科

2) 院長: 岩瀬三紀、学外実習指導責任者(集中治療科 医長): 南 仁哲

3) 1名 実習期間; 4週間

4) ERおよび集中治療室での患者診療に参加する。主にICUでの実習が主となり、指導医の密な指導を受けられる

5) 〒471-8513 愛知県豊田市平和町 1丁目 1番地 TEL:0565-28-0100

豊田市駅から名鉄バス利用トヨタ記念病院行 約25分。初日は、8時30分にICU前に集合。

F. 補足

1) 実習施設の選択の仕方(1施設1名となるように学生内で要調整)

各施設1人となるように学生内で調整する事

2) 実習の総括・まとめ及び資料プレゼンテーションについて

日時: 各タームの最終金曜日 9時から

場所: 大学病院 1階救命救急センター医師控室

発表内容: 印象に残った症例および実習を通じた感想についてパワーポイントなどによりスライド形式で資料を作成し、プレゼンテーションする。

・発表形式は自由だが、スライド資料の1枚目は題名、実習先病院と期間、名前を記載する

・当日は発表用にパソコンを持参する

3) レポートについて

・プレゼンテーション用資料の提出(救急科公用PCの専用ファイルに保存)

4) 担当者連絡先: thattori@med.nagoya-cu.ac.jp

実習内容については適宜変更することがある。

選択制臨床実習評価表

救急科として、特に書面では準備しないが、院内実習中の態度、知識など評価し、学外実習では各施設責任者と連絡し、最終日の総括時に評価を告げる

実験病態病理学（第一病理学） 選択制臨床実習マニュアル

【臨床実習の目的】

- 臨床科目を履修し学内臨床実習を修了した上で、改めて病理学を総合的に学習する。
- 病理診断業務の基本的な過程を理解する。
- 診療における病理医の役割や使命を理解する。
- 他科医師や臨床検査技師など、関連する医療従事者との協調性を学ぶ。
- 病理解剖が医療に果たす意義を理解する。
- 疾患の病態生理を学び、解き明かす上での病理学の重要性を理解する。

【基本的実習内容のガイドライン】

- 1) 受け入れ人数：同時期に2名を超えない
- 2) 医師としての心構え：医師としての心構えを理解し、節度ある身なり、態度をとることができる。病理学教室のスタッフおよび病理検査室の技師との協調・協力の重要性を理解する。
- 3) 病理診断：大学病院病理診断部および教室関連病院（東部医療センター、西部医療センター、名古屋市厚生院附属病院）における病理診断業務に参画し、手術検体の切り出し、標本作製、病理診断に至る過程を理解する。
- 4) 症例検討：講座内で定期的に行われている解剖症例検討会および大学病院における各臨床科との臨床病理検討会にも参加する。
- 5) 病理解剖：病理解剖に助手として参加し、病理肉眼的所見を理解するとともに、病理解剖が果たす医療における役割を理解する。
- 6) 研究補助：希望がある場合、講座内で行われている研究に参画できる。その際は当コースを選択する前に、事前に相談にされることが望ましい。

【選択性臨床実習評価項目】

- 実験病態病理学教室の臨床実習に休みなく参加したか。
- 実験病態病理学教室が主催するカンファレンス等に積極的に参加したか。
- 病理学の知識を習得するため積極的に自学自習したか。
- 病理医の業務を学び、医療における病理診断の重要性を理解したか。
- 病理診断、標本作製、病理解剖などの病理学に関連する業務を、機会を見つけて積極的に学習したか。
- 医学研究における病理学の重要性を理解したか。

臨床病態病理学（第二病理）選択制臨床実習マニュアル

【実習の目的】臨床医学としての病理学（診断病理学）を理解する。

- 1) 臨床医学の知識を習得した後でなければ理解できない診断病理学の重要性を学ぶ。
- 2) 生検および手術検体の病理診断を体験し、適切な病理診断には正確な臨床情報の提供が重要であることを学ぶ。
- 3) 病理解剖症例をまとめることで疾病の全経過を追った検討や、問題臓器のみならず、全身諸臓器との関連の上に立った検討が可能であることを学ぶ。
- 4) 診断病理医とのディスカッションが臨床能力の向上に重要であることを学ぶ。
- 5) 臨床検査技師・細胞検査士などとの多職種との協調が重要であることを学ぶ。

【基本的実習内容のガイドライン】

- 1) 受け入れ人数 同時期に2名を超えないこと。
- 2) 生検や手術検体の病理診断を病理医とともに行う。

実際に診断を体験することで、適切な病理診断には、正確な臨床情報の提供が極めて重要であることを理解する。また、病理診断の限界も理解する。診断補助技術として行われている免疫染色や分子病理学の現状を理解する。
- 3) 病理医とともに手術検体の切り出しに参加する。

切り出し（臓器を肉眼的に検索し、顕微鏡標本を作製する部位を特定する作業）に参加し、病変の肉眼所見について学び、画像所見と結び付け、画像診断の向上につなげる。
- 4) 病理医と臨床医との間で行われている症例検討会に参加する。

大学内で行われている症例検討会に参加し、診断、治療などに関する意思決定のプロセスを理解する。
- 6) 病理解剖に参加し、医療における病理解剖の意義を学ぶ。
- 7) 病理解剖症例検討会で発表する。

病理医とともに最低1例の病理解剖症例をまとめ、担当臨床医も参加する教室内剖検症例検討会にて発表する。同時に医学プレゼンテーション技法なども学ぶ。
- 8) 研究に参加する。

学生の希望があれば、当教室で行われている研究プロジェクトに参加できる。

【達成できる技能】

- 1) 基本的な病変（腺腫や腺癌など）の症例を病理診断できる。
- 2) 病変の画像所見と肉眼所見を関連付けることができる。
- 3) 病理診断、病理解剖の全体像が理解できる。
- 4) 診断、治療などに関する意思決定のプロセスを理解できる。
- 5) 臨床に進んでからも病理医と気軽に話することができる。

細胞生理学（第一生理学） 選択制臨床実習マニュアル

【実習の目的】

臨床科目を履修し学内臨床実習を修了した上で、臨床医学および病態の視点から改めて生理学を学習し、生体の正常機能維持とその破綻について考察する。

【基本的実習内容のガイドライン】

- 受け入れ人数：同時期には1名のみ。原則としてMD-PhDコース在籍者に限定。
- 医師（社会人）としての態度：社会人として節度ある言葉遣いや態度をもって実習に臨むことが必須条件である。加えて医師（研究者）としての心構えを理解し、受け身ではなく自主的に実習に取り組むことが重要である。
- 実習期間中の生活：生理学教室のスタッフおよび大学院生・研究員との研究協力体制の中から、立場やバックグラウンドの異なる者により構成される集団における協調性を理解し、医療現場での円滑な業務遂行に役立てる。

【評価項目】

- 生理学は生体の機能を統合的に研究・理解する学問分野であり、医学全般の基礎となる。いずれの臨床医学の領域においても、生理学を深く理解して応用できることはスペシャリストとして不可欠である。
- 欠席や遅刻をせず、謙虚な態度と良好な対人関係を維持して実習を完遂できたか。
- 自主的に研究を遂行し、原著論文抄読会、論文作成に積極的に参加できたか。
- 生理学と臨床医学のつながりの重要性を体得できたか。

尚、当コースを選択にあたっては事前に研究内容を相談した上で許可が必要となります。

自己点検・評価委員会 委員名簿

	職名	氏名
委員長	医学研究科長	高橋 智
委員	医学研究科副研究科長（教務担当）	青木 康博
委員	医学研究科副研究科長（公開講座・留学生・国際交流担当）	大石 久史
委員	医学研究科副研究科長（入試担当）	加藤 洋一
委員	医学研究科副研究科長（広報・産学官・研究科間連携担当）	飛田 秀樹
委員	医学研究科副研究科長（研究・共研担当）	片岡 洋望
委員	医学研究科副研究科長（大学院担当）	安井 孝周
委員	病院長	間瀬 光人
委員	副病院長（戦略企画・経営管理担当）	森田 明理